

基本計画書

基 本 計 画										
事 項		記 入 欄							備 考	
計 画 の 区 分		研究科の設置								
フ リ ガ ナ 設 置 者		コリウガクイカクシヨウ ニホウタダイガク 国立大学法人 新潟大学								
フ リ ガ ナ 大 学 の 名 称		ニホウタダイガク 新潟大学 (Niigata University)								
大 学 本 部 の 位 置		新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地								
大 学 の 目 的		新潟大学は、高志の大地に育まれた敬虔質実の伝統と世界に開かれた海港都市の進取の精神に基づいて、自律と創生を全学の理念とし、教育と研究を通じて地域や世界の着実な発展に貢献することを全学の目的とする。								
新設研究科等の目的		本学の理念「自律と創生」に基づき、地域や世界の着実な発展に貢献することを目的とし、複数の領域を横断する広い学識と高度な専門的知識・スキル及び態度・姿勢を基礎に、単一の専門知だけでは解決できない人間や社会の課題解決、すなわち「総合知」を創出する場で課題解決に主体的・協働的に取り組み活躍する人材を養成する。								
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
	総合学術研究科 [Graduate School of Integrated Arts and Sciences]	年	人	年次人	人			年 月 第 年次		
	人文社会科学専攻 (修士課程) [Master's Program of Humanities and Social Sciences]	2	60	－	120	修士 (文学) 修士 (法学) 修士 (行政学) 修士 (経済学) 修士 (経営学) 修士 (学術)	文学関係、 法学関係、 経済学関係	令和8年4月 第1年次	新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地	【基礎となる学部】 人文学部人文学科 教育学部学校教員養成課程 法学部法学科 経済科学部総合経済学科 創生学部創生学修課程 14条特例の実施
	自然科学専攻 (修士課程) [Master's Program of Sciences and Technologies]	2	507	－	1,014	修士 (理学) 修士 (工学) 修士 (農学) 修士 (学術)	理学関係、工学関係、農学関係	令和8年4月 第1年次	新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地	【基礎となる学部】 理学部理学科 工学部工学科 農学部農学科 創生学部創生学修課程 14条特例の実施
	計		567		1,134					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		大学院現代社会文化研究科 博士課程（前期2年の課程）（廃止） 現代文化専攻（△10） ※令和8年4月学生募集停止 社会文化専攻（△20） ※令和8年4月学生募集停止 法政社会専攻（△10） ※令和8年4月学生募集停止 経済経営専攻（△20） ※令和8年4月学生募集停止 大学院自然科学研究科 博士課程（前期2年の課程）（廃止） 数理解物質科学専攻（△63） ※令和8年4月学生募集停止 材料生産システム専攻（△143） ※令和8年4月学生募集停止 電気情報工学専攻（△137） ※令和8年4月学生募集停止 生命・食料科学専攻（△70） ※令和8年4月学生募集停止 環境科学専攻（△89） ※令和8年4月学生募集停止								

同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		大学院医歯学総合研究科 (廃止) 修士課程 医科学専攻 (△20) ※令和8年4月学生募集停止 博士課程 (前期2年の課程) 口腔生命福祉学専攻 (△6) ※令和8年4月学生募集停止 博士課程 (後期3年の課程) 口腔生命福祉学専攻 (△3) ※令和8年4月学生募集停止 博士課程 (4年一貫制の課程) 分子細胞医学専攻 (△22) ※令和8年4月学生募集停止 生体機能調節医学専攻 (△37) ※令和8年4月学生募集停止 地域疾病制御医学専攻 (△14) ※令和8年4月学生募集停止 口腔生命科学専攻 (△28) ※令和8年4月学生募集停止 大学院保健学研究科 (廃止) 博士課程 (前期2年の課程) 保健学専攻 (△20) ※令和8年4月学生募集停止 博士課程 (後期3年の課程) 保健学専攻 (△6) ※令和8年4月学生募集停止 大学院医歯保健学研究科 (仮称) 博士課程 (前期2年の課程) 健康科学専攻 (40) ※令和7年4月事前相談 博士課程 (後期3年の課程) 健康科学専攻 (10) ※令和7年4月事前相談 博士課程 (4年一貫制の課程) 医歯学専攻 (101) ※令和7年4月事前相談								
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数				
	講義	演習	実験・実習	計						
	総合学術研究科 人文社会科学専攻 (修士課程)	234科目	248科目	10科目	492科目	30単位				
	総合学術研究科 自然科学専攻 (修士課程)	348科目	207科目	30科目	585科目	30単位				
研 究 科 等 の 名 称		専任教員					助手	専任教員以外の教員 (助手を除く)		
		教授	准教授	講師	助教	計				
新設分	総合学術研究科 人文社会科学専攻 (修士課程)	54 人 (54)	84 人 (84)	8 人 (8)	0 人 (0)	146 人 (146)	0 人 (0)	129 人 (129)	※令和7年4月 事前相談 ※令和7年4月 事前相談 ※令和7年4月 事前相談	
	総合学術研究科 自然科学専攻 (修士課程)	95 (95)	121 (121)	4 (4)	36 (36)	256 (256)	0 (0)	174 (174)		
	医歯保健学研究科 健康科学専攻 (前期2年の課程)	88 (95)	70 (72)	33 (34)	66 (67)	257 (268)	0 (0)	32 (29)		
	医歯保健学研究科 健康科学専攻 (後期3年の課程)	18 (24)	22 (22)	0 (0)	2 (2)	42 (48)	0 (0)	16 (10)		
	医歯保健学研究科 医歯学専攻 (博士課程)	48 (63)	59 (64)	45 (48)	86 (86)	238 (261)	0 (0)	10 (10)		
	計	236 (257)	291 (296)	58 (61)	132 (133)	717 (747)	0 (0)	— (—)		
既設分	教育実践学研究科 教育実践開発専攻 (専門職学位課程)	6 (6)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	22 (22)		
	現代社会文化研究科 人間形成研究専攻 (後期3年の課程)	29 (29)	24 (24)	0 (0)	0 (0)	53 (53)	0 (0)	0 (0)		
		共生文化研究専攻 (後期3年の課程)	21 (21)	20 (20)	0 (0)	0 (0)	41 (41)	0 (0)		0 (0)
		共生社会研究専攻 (後期3年の課程)	23 (23)	22 (22)	0 (0)	0 (0)	45 (45)	0 (0)		1 (1)
		自然科学研究科 数理物質科学専攻 (後期3年の課程)	20 (20)	16 (16)	0 (0)	3 (3)	39 (39)	0 (0)		14 (14)
	材料生産システム専攻 (後期3年の課程)		16 (16)	26 (26)	0 (0)	3 (3)	45 (45)	0 (0)		3 (3)
			電子情報工学専攻 (後期3年の課程)	17 (17)	20 (20)	0 (0)	2 (2)	39 (39)		0 (0)
	生命・食料科学専攻 (後期3年の課程)		21 (21)	22 (22)	0 (0)	2 (2)	45 (45)	0 (0)		1 (1)
	環境科学専攻 (後期3年の課程)		27 (27)	31 (31)	1 (1)	5 (5)	64 (64)	0 (0)		11 (11)
	計	174 (174)	186 (186)	3 (3)	15 (15)	385 (385)	0 (0)	— (—)		
	合 計		267 (282)	318 (323)	60 (63)	134 (134)	779 (802)	0 (0)		— (—)

職 種		専 属		その他		計				
事 務 職 員		403 (403)		19 (19)		422 (422)				
技 術 職 員		104 (104)		9 (9)		113 (113)				
図 書 館 職 員		15 (15)		0 (0)		15 (15)				
そ の 他 の 職 員		857 (857)		622 (622)		1,479 (1,479)				
指 導 補 助 者		－ (－)		－ (－)		－ (－)				
計		1,379 (1,379)		650 (650)		2,029 (2,029)				
校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地		733,800 m ²	0 m ²	0 m ²		733,800 m ²			
	そ の 他		5,474,933 m ²	0 m ²	0 m ²		5,474,933 m ²			
	合 計		6,208,733 m ²	0 m ²	0 m ²		6,208,733 m ²			
校 舎			専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計			
			264,484 m ² (264,484 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)		264,484 m ² (264,484 m ²)			
講義室等・新設研究科等の 専任教員研究室			講義室	実験・実習室	演習室		新設研究科等の 専任教員研究室			
			112室	749室	159室		447室			
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称		図 書 〔うち外国書〕冊		学術雑誌 〔うち外国書〕種		機械・器具 点	研究科単位での特定不能なため、大学全体の数		
			電子図書 〔うち外国書〕冊		電子ジャーナル 〔うち外国書〕種		点			
	大学全体		1,306,801〔478,745〕 (1,306,801〔478,745〕)	23,815〔21,098〕 (23,815〔21,098〕)	46,669〔26,289〕 (46,669〔26,289〕)	16,798〔15,206〕 (16,798〔15,206〕)	10,310 (10,310)		182 (182)	
	計		1,306,801〔478,745〕 (1,306,801〔478,745〕)	24,192〔21,098〕 (24,192〔21,098〕)	46,669〔26,289〕 (46,669〔26,289〕)	16,798〔15,206〕 (16,798〔15,206〕)	10,310 (10,310)		182 (182)	
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	
		教員1人当り研究費等			－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	
		共同研究費等			－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	
		図書購入費		－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	
		設備購入費		－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	
	学生1人当り 納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次		
			－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要				運営費交付金、寄付金等						
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 等 の 名 称		新潟大学							
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収 容 定 員 充 足 率	開 設 年 度	所 在 地
	(学部) 人文学部 人文学科		年	人	年次 人	人		倍		
			4	210	(3年次) 6	852	学士（文学）	1.07 《1.04》	平成22年度	新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地
	教育学部 学校教員養成課程		4	180	－	720	学士（教育学）	1.07	平成20年度	新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地
	法学部 法学科		4	170	(3年次) 5	690	学士（法学）	1.08 《1.04》	平成16年度	新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地
	経済科学部 総合経済学科		4	350	(3年次) 10	1,420	学士（経済学）、学士（経営学）、学士（学術）	1.03 《1.00》	令和2年度	新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地
	理学部 理学科		4	200	(3年次) 10	820	学士（理学）	1.09 《1.03》	平成29年度	新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地
	医学部 医学科		6	140	－	807	学士（医学）	1.01	昭和24年度	新潟県新潟市中央区旭町通1番町757番地
	保健学科		4	160	(3年次) 20	680	学士（看護学）、学士（保健学）	0.98	平成11年度	新潟県新潟市中央区旭町通2番町746番地

既設大学等の状況	歯学部 歯学科	6	40	(2年次) 5	265	学士（歯学）	1. 00	昭和40年度	新潟県新潟市中央区 学校町通 2 番町5274 番地	
	口腔生命福祉学科	4	20	(3年次) 6	92	学士（口腔保健福祉学）	0. 94	平成16年度		
	工学部 工学科	4	535	(3年次) 20	2, 165	学士（工学）	1. 06 《1. 02》	平成29年度	新潟県新潟市西区五十嵐 2 の町8050番地	令和7年度入学 定員増（5人）
	農学部 農学科	4	175	(3年次) 10	720	学士（農学）	1. 05 《1. 01》	平成29年度	新潟県新潟市西区五十嵐 2 の町8050番地	
	創生学部 創生学修課程	4	70	—	265	学士（学術）	1. 07 《1. 04》	平成29年度	新潟県新潟市西区五十嵐 2 の町8050番地	令和7年度入学 定員増（5人）
	(研究科) 教育実践学研究科 専門職学位課程 教育実践開発専攻	2	20	—	40	教職修士（専門職）	0. 92 0. 92	平成31年度	新潟県新潟市西区五十嵐 2 の町8050番地	
	現代社会文化研究科 博士課程（前期2年の課程） 現代文化専攻	2	10	—	20	修士（文学）、修士（学術）	0. 92 2. 15	平成24年度	新潟県新潟市西区五十嵐 2 の町8050番地	
	社会文化専攻	2	20	—	40	修士（文学）、修士（学術）	0. 75	平成24年度		
	法政社会専攻	2	10	—	20	修士（法学）、修士（行政学）、修士（学術）	0. 40	平成24年度		
	経済経営専攻	2	20	—	40	修士（経済学）、修士（経営学）、修士（公共経営学）、修士（学術）	0. 75	平成24年度		
	博士課程（後期3年の課程） 人間形成研究専攻	3	6	—	18	博士（学術）、博士（文学）、博士（教育学）	1. 18 2. 16	平成24年度		
	共生文化研究専攻	3	7	—	21	博士（学術）、博士（文学）	0. 57	平成24年度		
	共生社会研究専攻	3	7	—	21	博士（学術）、博士（法学）、博士（経済学）	0. 95	平成24年度		
	自然科学研究科 博士課程（前期2年の課程） 数理物質科学専攻	2	63	—	126	修士（学術）、修士（理学）	1. 16 1. 09	平成22年度	新潟県新潟市西区五十嵐 2 の町8050番地	
	材料生産システム専攻	2	143	—	286	修士（学術）、修士（工学）	1. 16	平成16年度		
	電気情報工学専攻	2	137	—	259	修士（学術）、修士（工学）	1. 19	平成22年度		
	生命・食料科学専攻	2	70	—	140	修士（学術）、修士（理学）、修士（農学）	1. 07	平成16年度		
	環境科学専攻	2	89	—	178	修士（学術）、修士（理学）、修士（工学）、修士（農学）	1. 24	平成22年度		
	博士課程（後期3年の課程） 数理物質科学専攻	3	13	—	39	博士（学術）、博士（理学）	0. 95 0. 71	平成22年度		
	材料生産システム専攻	3	16	—	48	博士（学術）、博士（工学）	0. 64	平成16年度		
	電気情報工学専攻	3	13	—	39	博士（学術）、博士（工学）	1. 07	平成22年度		
	生命・食料科学専攻	3	13	—	39	博士（学術）、博士（理学）、博士（農学）	1. 00	平成16年度		
	環境科学専攻	3	15	—	45	博士（学術）、博士（理学）、博士（工学）、博士（農学）	1. 33	平成22年度		
	保健学研究科 博士課程（前期2年の課程） 保健学専攻	2	20	—	40	修士（保健学）	1. 22 1. 22	平成16年度	新潟県新潟市中央区 旭町通 2 番町746番地	令和7年度入学 定員増（15人）
	博士課程（後期3年の課程） 保健学専攻	3	6	—	18	博士（保健学）	2. 61 2. 61	平成19年度		

既設大学等の状況	医歯学総合研究科 修士課程 医科学専攻	2	20	—	40	修士（医科学）	0.90 0.90	平成15年度 平成20年度 平成22年度	新潟県新潟市中央区 旭町通 1 番町757番地
	博士課程（前期2年の課程） 口腔生命福祉学専攻	2	6	—	12	修士（口腔保健福祉学）	0.75 0.75		新潟県新潟市中央区 学校町通 2 番町5274番地
	博士課程（後期3年の課程） 口腔生命福祉学専攻	3	3	—	9	博士（口腔保健福祉学）	1.66 1.66		新潟県新潟市中央区 学校町通 2 番町5274番地
	博士課程 分子細胞医学専攻	4	22	—	88	博士（医学）、博士（学術）	1.12 1.35		新潟県新潟市中央区 旭町通 1 番町757番地
	生体機能調節医学専攻	4	37	—	148	博士（医学）、博士（学術）	1.21		
	地域疾病制御医学専攻	4	14	—	56	博士（医学）、博士（学術）	0.57		
	口腔生命科学専攻	4	28	—	112	博士（歯学）、博士（学術）	1.08		
	附属施設の概要								
	（附属学校） 名 称：附属学校（小学校・中学校・幼稚園・特別支援学校） 目 的：教育基本法及び学校教育法に定める保育又は教育を行うとともに、新潟大学における幼児の保育並びに児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、学生の実習を行うこと 所在地：（附属新潟小学校・中学校・特別支援学校）新潟県新潟市中央区西大畑町5214番地 （附属長岡小学校・中学校・幼稚園）新潟県長岡市学校町1丁目1番1号 設置年月：（附属新潟小学校・中学校）昭和26年4月 （附属特別支援学校）昭和52年4月 （附属長岡小学校・中学校・幼稚園）昭和26年4月 規模等：（附属新潟小学校・中学校）建物：12,151㎡ } 土地：56,381㎡ （附属特別支援学校）建物：4,320㎡ （附属長岡小学校・長岡中学校・幼稚園）土地：47,214㎡ 建物：10,587㎡								
	（附属病院） 名 称：医歯学総合病院 目 的：医学及び歯学の臨床教育及び臨床研究並びに診療を行い、もって社会に貢献すること 所在地：新潟県新潟市中央区旭町通 1 番町754番地 設置年月：昭和24年5月（平成15年10月に医学部附属病院と歯学部附属病院を統合） 規模等：土地：68,696㎡ 建物：110,062㎡								
（学部等の附属施設） 名 称：工学部附属工学力教育センター 目 的：地域社会及び企業との連携を図り、工学力教育プログラムの体系化を目指した研究開発を推進するとともに、リメディアル教育の充実・強化を進め、学生のものづくり活動を奨励すること 所在地：新潟県新潟市西区五十嵐 2 の町8050番地 設置年月：平成17年4月 規模等：建物：611㎡ 名 称：農学部附属フィールド科学教育研究センター 目 的：フィールドにおける生物生産技術及び環境管理技術に関する教育研究並びに社会教育を行うこと 所在地：（農場：村松）新潟県五泉市石曽根6934 （農場：新通）新潟県新潟市西区新通2156-1 設置年月：平成13年4月 規模等：（農場：村松）土地：264,248㎡ 建物：2,748㎡ （農場：新通）土地：28,926㎡ 建物：665㎡ 名 称：医歯学総合研究科附属腎研究センター 目 的：腎及び腎臓病の基礎・臨床並びに応用研究を推進し、もって医学医療の発展に貢献すること 所在地：新潟県新潟市中央区旭町通 1 番町757番地 設置年月：平成14年4月 （平成28年 4 月に医歯学総合研究科附属腎研究施設を同附属腎研究センターに再編） 規模等：建物：851㎡									

附属施設の概要	(附置研究所) 名 称 : 脳研究所 目 的 : 脳及び脳疾患に関する学理及びその応用の研究を行うこと 所在地 : 新潟県新潟市中央区旭町通 1 番町757番地 設置年月 : 昭和42年6月 規模等 : 建物 : 18,369㎡	
	名 称 : 災害・復興科学研究所 目 的 : 日本海側地域をはじめとする国内外における自然災害科学及び復興に関する研究を行うこと 所在地 : 新潟県新潟市西区五十嵐 2 の町8050番地 設置年月 : 平成23年4月 規模等 : 建物 : 1,361㎡	
	(全学共同教育研究組織) 名 称 : アジア連携研究センター 目 的 : アジア地域の発展と平和に寄与する学術研究機関として機能するため、アジア地域の社会的ニーズに直結し、近未来の社会の構築に資する融合的研究活動を行うとともに、研究活動に密接に関連する人材育成への支援及び広報活動を行うこと 所在地 : 新潟県新潟市西区五十嵐 2 の町8050番地 設置年月 : 平成30年4月 規模等 : 建物 : 437㎡	
	名 称 : 佐渡自然共生科学センター 目 的 : 自然共生科学拠点として、自然共生科学に関する融合的な教育研究活動を行うこと 所在地 : (演習林) 新潟県佐渡市小田94-2 (朱鷺・自然再生学研究施設) 新潟県佐渡市新穂湯上1101-1 (臨海実験所) 新潟県佐渡市達者87 設置年月 : 平成31年4月 規模等 : (演習林) 土地 : 5,042,106㎡ 建物 : 944㎡ (朱鷺・自然再生学研究施設) 建物 : 596㎡ (臨海実験所) 土地 : 4,270㎡ 建物 : 1,557㎡	
	名 称 : 日本酒学センター 目 的 : 日本酒学に関する学問体系を構築し、国際的な日本酒学の拠点形成とその発展に寄与すること 所在地 : 新潟県新潟市西区五十嵐 2 の町8050番地 設置年月 : 令和2年2月 規模等 : 建物 : 535㎡	
	名 称 : ビッグデータアクティベーション研究センター 目 的 : ビッグデータ関連の科学技術に関する学問体系を構築し、国際的なビッグデータ関連の科学技術の拠点形成とその発展に寄与すること 所在地 : 新潟県新潟市西区五十嵐 2 の町8050番地 設置年月 : 令和5年4月 規模等 : 建物 : 80㎡	
	(附属図書館) 名 称 : 附属図書館 目 的 : 教育研究上必要な図書館資料の収集、整理及び提供並びに学術情報を提供し、新潟大学の学生及び職員の教育、研究、調査及び学習に資すること 所在地 : (中央図書館) 新潟県新潟市西区五十嵐 2 の町8050番地 (医歯学図書館) 新潟県新潟市中央区旭町通 1 番町754番地 設置年月 : 昭和24年5月 (昭和47年に中央図書館を五十嵐地区新施設に移転。旭町地区は医歯学図書館へ) 規模等 : (中央図書館) 建物 : 14,212㎡ (医歯学図書館) 建物 : 4,449㎡	

新潟大学 設置申請に関わる組織の移行表

令和7年度

学部・研究科	入学定員	編入学	収容定員
人文学部		(3年次)	
人文学科	210	6	852
教育学部			
学校教員養成課程	180	—	720
法学部		(3年次)	
法学科	170	5	690
経済科学部		(3年次)	
総合経済学科	350	10	1,420
理学部		(3年次)	
理学科	200	10	820
医学部			
医学科	140	—	640
保健学科	160	(3年次) 20	680
歯学部		(2年次)	
歯学科	40	5	265
口腔生命福祉学科	20	(3年次) 6	92
工学部		(3年次)	
工学科	535	20	2,180
農学部		(3年次)	
農学科	175	10	720
創生学部			
創生学修課程	70	—	280
計	2,250	(2年次) 5 (3年次) 87	9,359

令和8年度

学部・研究科	入学定員	編入学	収容定員	変更の事由
人文学部		(3年次)		
人文学科	210	6	852	
教育学部				
学校教員養成課程	180	—	720	
法学部		(3年次)		
法学科	170	5	690	
経済科学部		(3年次)		
総合経済学科	350	10	1,420	
理学部		(3年次)		
理学科	200	10	820	
医学部				
医学科	<u>100</u>	—	<u>600</u>	医学部医学科臨時定員増期間終了のため
保健学科	160	(3年次) 20	680	
歯学部		(2年次)		
歯学科	40	5	265	
口腔生命福祉学科	20	(3年次) 6	92	
工学部		(3年次)		
工学科	535	20	2,180	
農学部		(3年次)		
農学科	175	10	720	
創生学部				
創生学修課程	70	—	280	
計	<u>2,210</u>	(2年次) 5 (3年次) 87	<u>9,319</u>	

令和7年度

学部・研究科	入学定員	編入学	収容定員
教育実践学研究科 専門職学位課程 教育実践開発専攻	20	—	40
現代社会文化研究科 博士課程（前期2年の課程） 現代文化専攻 社会文化専攻 法政社会専攻 経済経営専攻 博士課程（後期3年の課程） 人間形成研究専攻 共生文化研究専攻 共生社会研究専攻	10 20 10 20 6 7 7	— — — — — — —	20 40 20 40 18 21 21
自然科学研究科 博士課程（前期2年の課程） 数理物質科学専攻 材料生産システム専攻 電気情報工学専攻 生命・食料科学専攻 環境科学専攻 博士課程（後期3年の課程） 数理物質科学専攻 材料生産システム専攻 電気情報工学専攻 生命・食料科学専攻 環境科学専攻	63 143 137 70 89 13 16 13 13 15	— — — — — — — — — —	126 286 274 140 178 39 48 39 39 45
保健学研究科 博士課程（前期2年の課程） 保健学専攻 博士課程（後期3年の課程） 保健学専攻	20 6	— —	40 18
医歯学総合研究科 修士課程 医科学専攻 博士課程（前期2年の課程） 口腔生命福祉学専攻 博士課程（後期3年の課程） 口腔生命福祉学専攻 博士課程 分子細胞医学専攻 生体機能調節医学専攻 地域疾病制御医学専攻 口腔生命科学専攻	20 6 3 22 37 14 28	— — — — — — —	40 12 9 88 148 56 112
計	828	—	1,957

令和8年度

学部・研究科	入学定員	編入学	収容定員	変更の事由
教育実践学研究科 専門職学位課程 教育実践開発専攻	20	—	40	
現代社会文化研究科 博士課程（前期2年の課程） 現代文化専攻 社会文化専攻 法政社会専攻 経済経営専攻 博士課程（後期3年の課程） 人間形成研究専攻 共生文化研究専攻 共生社会研究専攻	0 0 0 0 6 7 7	— — — — — — —	0 0 0 0 18 21 21	令和8年4月学生募集停止
自然科学研究科 博士課程（前期2年の課程） 数理物質科学専攻 材料生産システム専攻 電気情報工学専攻 生命・食料科学専攻 環境科学専攻 博士課程（後期3年の課程） 数理物質科学専攻 材料生産システム専攻 電気情報工学専攻 生命・食料科学専攻 環境科学専攻	0 0 0 0 0 13 16 13 13 15	— — — — — — — — — —	0 0 0 0 0 39 48 39 39 45	令和8年4月学生募集停止
総合学術研究科 修士課程 人文社会科学専攻 自然科学専攻	60 507	— —	120 1,014	研究科の設置（事前相談）
保健学研究科 博士課程（前期2年の課程） 保健学専攻 博士課程（後期3年の課程） 保健学専攻	0 0	— —	0 0	令和8年4月学生募集停止
医歯学総合研究科 修士課程 医科学専攻 博士課程（前期2年の課程） 口腔生命福祉学専攻 博士課程（後期3年の課程） 口腔生命福祉学専攻 博士課程 分子細胞医学専攻 生体機能調節医学専攻 地域疾病制御医学専攻 口腔生命科学専攻	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	— — — — — — — — — —	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	令和8年4月学生募集停止
医歯保健学研究科 博士課程（前期2年の課程） 健康科学専攻 博士課程（後期3年の課程） 健康科学専攻 博士課程 医歯学専攻	40 10 101	— — —	80 30 404	研究科の設置（事前相談）
計	828	—	1,958	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(総合学術研究科 人文社会科学専攻)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（＝助手以外を除く教員）		
学際的 基盤科目群	学際的科学総論ⅠA	1前			1		○			4						オムニバス ※演習	
	学際的科学総論ⅠB	1前			1		○			3	1					オムニバス ※演習	
	学際的科学総論ⅠC	1前			1		○								4	オムニバス ※演習	
	学際的科学総論ⅠD	1前			1		○								4	オムニバス ※演習	
	学際的科学総論ⅠE	1前			1		○								4	オムニバス ※演習	
	学際的科学総論Ⅱ	1前		1			○			7	1				8	※演習	
	ライフ・イノベーション研究入門	1後		1			○				2				5	オムニバス、共同（一部）	
	ライフ・イノベーション研究演習	1後		1			○			4	5				8	※演習	
	ライフ・イノベーションPBL(M)	1後			2			○			1				10	共同	
	修士のためのキャリアマネジメントセミナー	1前			2			○							3	共同	
	修士のためのアカデミックライティング	1前			2			○							1		
	海外英語研修	1・2通			2				○	1					1	標準外	
	大型機器分析技術	1・2前			2			○							4	オムニバス、標準外	
	データサイエンス概論	1・2前			2			○							8	オムニバス	
	修士のためのインターンシップ	1・2通			1				○						1	標準外 ※講義	
	ワーク・ライフ・バランス	1・2前			1			○							2	オムニバス、標準外	
	小計（16科目）	—		3	19	0	—			10	8	1	0	0	60		
学位 共通科目群 (人間文化科学プログラム)	メディア文化分野科目群	映像文化I	1前		2		○			1							
		映像文化II	1後		2		○				1						
		表象文化	1前		2		○										
		大衆文化	1前		2		○					1					
		機能造形	1後		2		○									1	
		日本画表現	1前		2		○					1					
		西洋音楽文化	1前		2		○									1	
		音楽表現論	1前		2		○			1							
		音楽演奏論	1前		2		○				1						
		音楽教育学	1前		2			○			1						
			小計（10科目）	—		0	20	0	—			3	5	0	0	0	2
	情報社会文化分野科	情報メディア論	1前			2		○			1						
		理論社会学	1後			2		○				1					
		ジェンダー論	1前			2		○				1					
		保健医療社会学	1前			2		○				1					
		文化人類学	1後			2		○				1					
		科学技術と社会	1前			2		○			1						
		小計（6科目）	—		0	12	0	—			2	4	0	0	0	0	
	科思想群科学分野	宗教思想	1後			2		○			1						
		哲学特論I	1前			2		○				1					
		哲学特論II	1前			2		○				1					
		哲学特論III	1後			2		○				1					
			小計（4科目）	—		0	8	0	—			1	3	0	0	0	0
	基礎心理学分野科目群	認知科学特論	1前			2		○				1					
		発達心理学特論	1後			2		○				1					
		社会心理学特論	1前			2		○			1						
		障害児心理学I特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	1前			2		○			1						
		障害児心理学II特論	1後			2		○				1					
		障害児言語学特論	1前			2		○				1					
		パーソナリティ心理学特論	1後			2		○				1					
		応用実験心理学特論	1前			2		○				1					
			小計（8科目）	—		0	16	0	—			2	6	0	0	0	0

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(総合学術研究科 人文社会科学専攻)																		
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員(助手を除く) 以外の教員		
学位 共通 科目 群	(人間文化科学プログラム)	臨床心理学特論Ⅰ	1前			2		○			1						隔年	
		臨床心理学特論Ⅱ	1後			2		○				1						
		心理療法特論Ⅰ	1前			2		○				1						
		心理療法特論Ⅱ	2後			2		○								1		
		精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1後			2		○			1							
		投影法特論	1前			2		○								1		
		人格心理学特論	2前			2		○								1		
		犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	1後			2		○								1		
		学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	1前			2		○				1						
		産業心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2後			2		○								1		
		家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	1前			2		○								1		
		メンタルヘルス教育特論（心の健康教育に関する理論と実践）	1後			2		○								1		
		小計（12科目）	—			0	24	0	—	—	2	3	0	0	0	7		
	人間形成環境科学分野科目群	コミュニティヘルス	1前			2		○				1						隔年
		ヘルスケア論	1後			2		○					1					
		運動心理学	1前			2		○			1							
		運動生理学	1後			2		○				1						
		応用健康科学	1前			2		○				1						
		健康運動論	1後			2		○				1						
		衣環境評価学	1前			2		○				1						
		衣環境材料学	1後			2		○			1							
		生活経営学	1後			2		○					1					
		教育哲学	1前			2		○				1						
		教育社会学	1前			2		○				1						
		現代リテラシー論Ⅰ	1前			2		○			1							
		現代リテラシー論Ⅱ	1後			2		○					1					
		教育工学	1前			2		○				1						
		高等教育論	1前			2		○				1						
		社会認識教育学	1前			2		○				1						
		小計（16科目）	—			0	32	0	—	—	3	11	2	0	0	0		
	日本社会・言語文化分野科目群	日本語文化Ⅰ	1前			2		○				1						隔年
		日本語文化Ⅱ	1後			2		○					1					
		日本古代言語文化	1前			2		○			1							
		日本古典文芸文化各論	1前			2		○				1						
		日本古典文芸文化特論	1前			2		○					1					
		日本文芸文化	1後			2		○			1							
		日本書道文化	1前			2		○			1							
		日本社会形成論Ⅰ	1前			2		○				1						
		日本社会形成論Ⅱ	1後			2		○			1							
		日本社会形成論Ⅲ	1前			2		○					1					
		環日本海社会形成論	1後			2		○			1							
		形態資料学	1後			2		○				1						
		地域文化資源アーカイブ	1後			2		○				1						
		日本民俗学	1前			2		○				1						
		伝統芸能論	1前			2		○				1						
		地理空間学特論	1前			2		○			1							
		人文地理学特論	1後			2		○				1						
		環境地理学特論	1後			2		○								1		
		小計（18科目）	—			0	36	0	—	—	6	9	2	0	0	1		

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(総合学術研究科 人文社会科学専攻)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員	
学位共通科目群	(人間文化科学プログラム)	日本語教育Ⅰ	1前			2		○					1				
		日本語教育Ⅱ	1前			2		○					1				
		日本語教育Ⅲ	1後			2		○					1				
		日本語教育Ⅳ	1後			2		○					1				
		日本語教育Ⅴ	2前			2		○					1				
		日本語教育Ⅵ	2前			2		○					1				
		日本語教育Ⅶ	2後			2		○					1				
		日本語教育史	1後			2		○					1				
		小計 (8科目)	—		0	16	0	—			0	4	0	0	0	0	
	東アジア社会・言語文化分野科目群	中国言語文化Ⅰ	1前			2		○					1				
		中国言語文化Ⅱ	1後			2		○					1				
		中国古典文化	1前			2		○					1				
		中国文芸文化Ⅰ	1後			2		○					1				
		中国文芸文化Ⅱ	1前			2		○					1				
		中国書道文化	1前			2		○			1						
		朝鮮文芸文化	1後			2		○				1					
		東アジア歴史文化	1前			2		○				1					
		朝鮮歴史文化	1後			2		○			1						
		比較考古学	1前			2		○			1						
		東アジア言語文化	1前			2		○				1					
		環日本海歴史文化	1後			2		○			1						
		小計 (12科目)	—		0	24	0	—			4	8	0	0	0	0	
	欧米社会・言語文化分野科目群	英米言語文化論Ⅰ	1前			2		○					1				
		英米言語文化論Ⅱ	1前			2		○				1					
		英米言語文化論Ⅲ	1後			2		○					1				
		英米言語文化論Ⅳ	1前			2		○				1					
		英米文芸文化論Ⅰ	1後			2		○				1					
		英米文芸文化論Ⅱ	1前			2		○					1				
		英米文芸文化論Ⅲ	1後			2		○					1				
		言語学	1後			2		○				1					
		フランス言語文化	1前			2		○				1					
		フランス思想史	1後			2		○				1					
		英米歴史文化	1前			2		○					1				
		ヨーロッパ歴史文化Ⅰ	1前			2		○					1				
		ヨーロッパ歴史文化Ⅱ	1後			2		○				1					
		環地中海歴史文化	1前			2		○				1					
		西洋美術史	1後			2		○				1					
	小計 (15科目)	—		0	30	0	—			9	6	0	0	0	0		
	(現代社会科学プログラム)	行政学Ⅰ	1前			2		○				1					
		行政学Ⅱ	2前			2		○					1				
		法社会学Ⅰ	2前			2		○				1					
		政治学Ⅰ	1前			2		○				1					
		政治学Ⅱ	2前			2		○					1				
		国際政治史	1前			2		○				1					
		政治思想	2前			2		○				1					
		行政学Ⅱ	2前			2		○				1					
		国際法	2後			2		○				1					
		租税法	1前			2		○				1					
		情報法	1前			2		○				1					
		社会保障法	1後			2		○				1					
		小計 (12科目)	—		0	24	0	—			10	2	0	0	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(総合学術研究科 人文社会科学専攻)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く)教員	
学位 共通科目群	(現代社会科学プログラム)	民法Ⅰ	1前			2		○				1					
		民法Ⅱ	1前			2		○				1					
		民法Ⅲ	1後			2		○									
		刑法Ⅰ	1前			2		○									
		刑事訴訟法Ⅰ	1前			2		○				1					
		刑事訴訟法Ⅱ	1前			2		○					1				
		労働法	1前			2		○					1				
		商法Ⅰ	1前			2		○					1				
		損害賠償法	2前			2		○					1				
		金融取引法	2前			2		○				1					
		憲法Ⅰ	1前			2		○				1					
		小計 (11科目)	—			0	22	0	—			5	5	1	0	0	0
	国際 社会 分野	Japanese Family Law and Society	1後			2		○				1					
		International Law	2前			2		○				1					
		Politics in Contemporary Japan	1後			2		○				1					
		Political Economy	1前			2		○					1				
		小計 (4科目)	—			0	8	0	—			3	1	0	0	0	0
	理論・計量経済分野 共通科目	ミクロ経済学	1前			2		○				1					
		組織の経済学	1前			2		○				1					
		計量経済分析	1前			2		○					1				
		環境経済学	1前			2		○				1					
		労働経済学	1前			2		○					1				
		ゲーム理論	1前			2		○					1				
		マクロ経済学	1前			2		○					1				
		国際マクロ経済学	1前			2		○					1				
		経済統計学	1前			2		○					1				
		応用ミクロ経済学	1前			2		○					1				
		小計 (10科目)	—			0	20	0	—			3	7	0	0	0	0
	グローバル 社会 経済 ネットワー	財政学	1前			2		○					1				
		世界経済史	1前			2		○					1				
		比較経済思想史	1前			2		○				1					
		アメリカ経済	1前			2		○					1				
		ロシア・東欧経済	1前			2		○					1				
		EU経済	1前			2		○					1				
		中国経済	1前			2		○				1					
		開発途上国経済	1前			2		○					1				
		政治経済学	1前			2		○				1					
		ゲーム理論	1前			2		○					1				
		小計 (10科目)	—			0	20	0	—			3	7	0	0	0	0
	マネジ メント 分野 科目群	公共経済学	1前			2		○					1				
		公共選択論	1前			2		○					1				
		中小企業論	1前			2		○						1			
		地方財政	1前			2		○				1					
		経営戦略論	1前			2		○					1				
		経営組織	1前			2		○						1			
		組織行動論	1前			2		○				1					
		医療経営	1前			2		○					1				
		マーケティング論	1前			2		○					1				
		行政学	2前			2		○				1					
		行政法	2前			2		○					1				
		組織の経済学	1前			2		○				1					
		マクロ経済学	1前			2		○					1				
		技術経営	1前			2		○					1				
		小計 (14科目)	—			0	28	0	—			4	8	2	0	0	0
	ア カ ウ ン テ ィ ン グ 分 野 科目群	財務会計	1前			2		○						1			
		管理会計	1前			2		○					1				
		国際会計	1前			2		○					1				
		経営税務	1前			2		○				1					
		租税法	1前			2		○				1					
		小計 (5科目)	—			0	10	0	—			2	2	1	0	0	0

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(総合学術研究科 人文社会科学専攻)																		
科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員(助手を除く)以外の教員	
学位 共通 科目 群	(日本酒学プログラム)	日本酒 群 経済 経営 分野	日本酒と自治体政策	1・2通			2		○			1					※演習	
			日本酒アントレプレナーシップ論	1・2通			2		○				1					
			日本酒酒蔵の中小企業論	1・2通			2		○					1				
			日本酒とブランディング	1・2通			2		○				1					
			酒蔵組織の企業行動論	1・2通			2		○									
			酒類行政論	1・2通			2		○							2		
			小計 (6科目)	—		—	0	12	0	—			2	2	1	0		0
プログラム 専門 科目 群	人間文化 科学 プログラム 専門 科目 群	映像文化I演習	1後			2			○			1					オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス	
		表象文化演習	1後			2			○			1						
		大衆文化演習	1後			2			○				1					
		アニメ文化解析演習	2前			2			○				1					
		機能造形演習	1後			2			○							1		
		日本画表現演習	2前			2			○				1					
		西洋音楽文化演習	1後			2			○							1		
		音楽表現論演習	1後			2			○			1						
		音楽演奏論演習	2前			2			○				1					
		音楽教育学演習	2前			2			○				1					
		情報メディア論演習	1後			2			○			1						
		理論社会学演習	2前			2			○				1					
		ジェンダー論演習	1後			2			○				1					
		保健医療社会学演習	1後			2			○				1					
		文化人類学演習	2前			2			○				1					
		科学技術と社会演習	1後			2			○			1						
		宗教思想演習	2前			2			○			1						
		哲学演習I	1後			2			○					1				
		哲学演習II	1後			2			○					1				
		哲学演習III	2前			2			○					1				
		発達心理学演習	1後			2			○					1				
		社会心理学演習	1後			2			○				1					
		障害児心理学I演習	1後			2			○				1					
		障害児心理学II演習	2前			2			○					1				
		障害児言語学演習	1後			2			○					1				
		パーソナリティ心理学演習	2前			2			○					1				
		応用実験心理学演習	1後			2			○					1				
		臨床心理面接特論I (心理支援に関する理論と実践)	1前			2			○				1					
		臨床心理面接特論II	2前			2			○					1				
		臨床心理基礎実習I	1後			1						○	1	2				
		臨床心理基礎実習II	2前			1						○	1	2				
		臨床心理実習I (心理実践実習)	1後			1						○	1	2				
		臨床心理実習II	2前			1						○	1	2				
		臨床心理実習III (心理実践実習)	2前			1						○	1	2				
		臨床心理査定演習I (心理的アセスメントに関する理論と実践)	1後			2					○			1				
		臨床心理査定演習II	2前			2					○			1				
		コミュニティヘルス演習	2前			2					○			1				
		ヘルスケア論演習	1後			2					○			1				
		運動心理学演習	2前			2					○		1					
		運動生理学演習	1後			2					○			1				
		応用健康科学演習	2前			2					○			1				
		健康運動論演習	1後			2					○			1				
		衣環境評価学演習	2前			2					○			1				
		衣環境材料学演習	1後			2					○		1					
		生活経営学演習	2前			2					○				1			

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(総合学術研究科 人文社会科学専攻)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 以 外 の 教 員 (助手を除く)	
プログラム 専門科目群	人間文化科学 プログラム専門科目群	教育哲学演習	2前			2			○	○		1					1
		教育社会学演習	2前			2			○			1					
		現代リテラシー論Ⅰ 演習	1後			2			○		1						
		現代リテラシー論Ⅱ 演習	2前			2			○			1					
		教育工学演習	1後			2			○			1					
		社会認識教育学演習	1後			2			○			1					
		日本語文化Ⅰ 演習	1後			2			○			1					
		日本語文化Ⅱ 演習	2前			2			○			1					
		日本古代言語文化演習	1後			2			○		1						
		日本古典文芸文化各論演習	1後			2			○			1					
		日本古典文芸文化特論演習	1後			2			○				1				
		日本文芸文化演習	1後			2			○		1						
		日本書道文化演習	2前			2			○		1						
		日本社会形成論Ⅰ 演習	1後			2			○			1					
		日本社会形成論Ⅱ 演習	1後			2			○		1						
		日本社会形成論Ⅲ 演習	2前			2			○				1				
		環日本海社会形成論演習	1後			2			○		1						
		形態質科学演習	1後			2			○				1				
		地域文化資源アーカイブ演習	2前			2			○				1				
		日本民俗学演習	2前			2			○				1				
		伝統芸能論演習	1後			2			○				1				
		地理空間学演習	2前			2			○		1						
		人文地理学演習	1後			2			○				1				
		環境地理学演習	2前			2			○								
		日本語教育実習	1後			2					○	3					
		日本語教育実践研究	2前			2			○			3					
		中国言語文化Ⅰ 演習	1後			2			○			1					
		中国言語文化Ⅱ 演習	2前			2			○			1					
		中国古典文化演習	1後			2			○			1					
		中国文芸文化Ⅰ 演習	2前			2			○			1					
		中国文芸文化Ⅱ 演習	1後			2			○			1					
		中国書道文化演習	1後			2			○		1						
		朝鮮文芸文化演習	2前			2			○			1					
		東アジア歴史文化演習	1後			2			○			1					
		朝鮮歴史文化演習	2前			2			○		1						
		比較考古学演習	1後			2			○		1						
		東アジア比較文化演習	1後			2			○			1					
		環日本海歴史文化演習	2前			2			○		1						
		英米言語文化論Ⅰ 演習	1後			2			○			1					
		英米言語文化論Ⅱ 演習	1後			2			○		1						
		英米言語文化論Ⅲ 演習	2前			2			○			1					
		英米言語文化論Ⅳ 演習	1後			2			○		1						
		英米文芸文化論Ⅰ 演習	2前			2			○			1					
		英米文芸文化論Ⅱ 演習	1後			2			○			1					
		英米文芸文化論Ⅲ 演習	2前			2			○			1					
		言語学演習	2前			2			○		1						
		フランス言語文化演習	1後			2			○		1						
フランス思想史演習	2前		2			○	1										
英米歴史文化演習	2前		2			○		1									
ヨーロッパ歴史文化Ⅰ 演習	1後		2			○		1									
ヨーロッパ歴史文化Ⅱ 演習	2前		2			○	1										
環地中海歴史文化演習	1後		2			○	1										
西洋美術史演習	2前		2			○	1										
小計 (98科目)		—		0	191	0	—			34	54	4	0	0	3		

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(総合学術研究科 人文社会科学専攻)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員 以外 の 教員 (助手を除く)	
プログラム 専門科目群	現代社会科学 プログラム専門科目群	憲法Ⅰ 演習	1後			2			○		1					標準外	
		行政法演習	1後			2			○			1					
		法社会学Ⅰ 演習	1後			2			○		1						
		政治学演習	1後			2			○		1						
		政治学Ⅱ 演習	1後			2			○			1					
		国際政治史演習	1後			2			○		1						
		政治思想演習	1後			2			○		1						
		行政学演習	2前			2			○		1						
		国際法演習	2前			2			○		1						
		租税法演習	2前			2			○		1						
		情報法演習	1後			2			○		1						
		社会保障法演習	2前			2			○		1						
		民法Ⅰ 演習	1後			2			○				1				
		民法Ⅱ 演習	1後			2			○		1						
		民法Ⅲ 演習	1後			2			○		1						
		刑法Ⅰ 演習	1後			2			○			1					
		刑事訴訟法Ⅰ 演習	1後			2			○		1						
		刑事訴訟法Ⅱ 演習	1後			2			○			1					
		労働法演習	1後			2			○			1					
		商法Ⅰ 演習	1後			2			○			1					
		損害賠償法演習	1後			2			○			1					
		金融取引法演習	1後			2			○		1						
		ミクロ経済学演習	1後			2			○		1						
		組織の経済学演習	2前			2			○		1						
		計量経済分析演習	1後			2			○			1					
		環境経済学演習	1後			2			○		1						
		労働経済学演習	1後・2前			2			○			1					
		ゲーム理論演習	1後			2			○			1					
		マクロ経済学演習	1後			2			○			1					
		国際マクロ経済学演習	1後			2			○			1					
		応用ミクロ経済学演習	1後			2			○			1					
		財政学演習	1後			2			○			1					
		世界経済史演習	1後			2			○			1					
		比較経済思想史演習	1後			2			○		1						
		アメリカ経済演習	2前			2			○			1					
		ロシア東欧経済演習	1後			2			○			1					
		EU経済演習	1後			2			○			1					
		中国经济演習	2前			2			○		1						
		開発途上国経済演習	1後			2			○			1					
		政治経済学演習	1後			2			○		1						
		公共経済学演習	1後			2			○			1					
		公共選択論演習	1後			2			○			1					
		中小企業論演習	1後			2			○				1				
		地方財政演習	1後			2			○		1						
		経営戦略論演習	1後			2			○			1					
		経営組織演習	1後			2			○				1				
		組織行動論演習	1後			2			○		1						
		医療経営演習	1後			2			○			1					
		マーケティング論演習	1後			2			○			1					
		技術経営演習	1後			2			○			1					
		財務会計演習	1後			2			○				1				
		管理会計演習	1後			2			○			1					
		国際会計演習	1後			2			○			1					
		経営税務演習	1後			2			○		1						
		小計 (54科目)			—			0	108	0	—			23	27		4

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(総合学術研究科 人文社会科学専攻)																		
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員		
プログラム専門科目群	アニメ・映像資源科学 プログラム専門科目群	知的財産論	1後			2		○								1	標準外 標準外 オムニバス、標準外 オムニバス、標準外 オムニバス、標準外 オムニバス、標準外 共同、標準外 ※講義 標準外 標準外	
		アニメ文化解析演習	2前			2			○			1						
		デジタル映像資源演習	2前			2			○			1						
		地域文化資源アーカイブ演習	2前			2			○									
		映像資源科学演習Ⅰ	1前			1			○							3		
		映像資源科学演習Ⅱ	1後			1			○							3		
		映像資源科学演習Ⅲ	2前			1			○							3		
		映像資源科学演習Ⅳ	2後			1			○							3		
	小計（8科目）	—		0	12	0	—			0	2	0	0	0	4			
	日本酒学プログラム 専門科目群	日本酒学演習Ⅰ	1前			1			○			2	2	1				14
		日本酒学演習Ⅱ	1後			1			○			2	2	1				14
		日本酒学演習Ⅲ	2前			1			○			2	2	1				14
		日本酒学演習Ⅳ	2後			1			○			2	2	1				14
		研究発表演習（中間発表）	1後			1			○			2	2	1				14
		研究発表演習（学外発表）	1・2通			1			○			2	2	1				14
		日本酒学概論Ⅰ（自然科学）	1・2前			1		○								9		
		日本酒学概論Ⅱ（人文社会科学）	1・2通			1		○			2	2	1			3		
		日本酒学概論Ⅲ（医学・保健学）	1・2前			1		○								8		
		日本酒学概論Ⅳ（総合実践学）	1・2通			1		○			1					5		
		基礎日本酒学実習	1前			2				○						2		
		発展日本酒学実習	1通			1				○						5		
		日本酒学セミナー	1通			1			○		2					1		
		小計（13科目）	—	—	0	14	0	—			2	2	1	0	0	25		
課題研究		課題研究Ⅰ-A（メディア文化）	1前			2			○			3	5					
	課題研究Ⅱ-A（メディア文化）	1後			2			○			3	5						
	課題研究Ⅲ-A（メディア文化）	2前			2			○			3	5						
	課題研究Ⅳ-A（メディア文化）	2後			2			○			3	5						
	課題研究Ⅰ-A（情報社会文化）	1前			2			○			2	4						
	課題研究Ⅱ-A（情報社会文化）	1後			2			○			2	4						
	課題研究Ⅲ-A（情報社会文化）	2前			2			○			2	4						
	課題研究Ⅳ-A（情報社会文化）	2後			2			○			2	4						
	課題研究Ⅰ-A（思想科学）	1前			2			○			1	3						
	課題研究Ⅱ-A（思想科学）	1後			2			○			1	3						
	課題研究Ⅲ-A（思想科学）	2前			2			○			1	3						
	課題研究Ⅳ-A（思想科学）	2後			2			○			1	3						
	課題研究Ⅰ-A（基礎心理学）	1前			2			○			2	6						
	課題研究Ⅱ-A（基礎心理学）	1後			2			○			2	6						
	課題研究Ⅲ-A（基礎心理学）	2前			2			○			2	6						
	課題研究Ⅳ-A（基礎心理学）	2後			2			○			2	6						
	課題研究Ⅰ-A（臨床心理学）	1前			2			○			1	2						
	課題研究Ⅱ-A（臨床心理学）	1後			2			○			1	2						
	課題研究Ⅲ-A（臨床心理学）	2前			2			○			1	2						
	課題研究Ⅳ-A（臨床心理学）	2後			2			○			1	2						
	課題研究Ⅰ-A（人間形成環境科学）	1前			2			○			3	11	2					
	課題研究Ⅱ-A（人間形成環境科学）	1後			2			○			3	11	2					
	課題研究Ⅲ-A（人間形成環境科学）	2前			2			○			3	11	2					
	課題研究Ⅳ-A（人間形成環境科学）	2後			2			○			3	11	2					
	課題研究Ⅰ-A（日本社会・言語文化）	1前			2			○			6	9	2					
	課題研究Ⅱ-A（日本社会文化）	1後			2			○			3	6	1					
	課題研究Ⅲ-A（日本社会文化）	2前			2			○			3	6	1					
	課題研究Ⅳ-A（日本社会文化）	2後			2			○			3	6	1					
	課題研究Ⅱ-A（日本語文化）	1後			2			○			3	3	1					
	課題研究Ⅲ-A（日本語文化）	2前			2			○			3	3	1					
課題研究Ⅳ-A（日本語文化）	2後			2			○			3	3	1						
課題研究Ⅰ-A（日本語教育）	1前			2			○				4							
課題研究Ⅱ-A（日本語教育）	1後			2			○				4							
課題研究Ⅲ-A（日本語教育）	2前			2			○				4							
課題研究Ⅳ-A（日本語教育）	2後			2			○				4							

教 育 課 程 等 の 概 要																
(総合学術研究科 人文社会科学専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員 (助手を 除く)	
課 題 研 究	課題研究Ⅰ-A (東アジア社会・言語文化)	1前			2				○		4	7				
	課題研究Ⅱ-A (東アジア社会文化)	1後			2				○		3	2				
	課題研究Ⅲ-A (東アジア社会文化)	2前			2				○		3	2				
	課題研究Ⅳ-A (東アジア社会文化)	2後			2				○		3	2				
	課題研究Ⅱ-A (東アジア言語文化)	1後			2				○		1	6				
	課題研究Ⅲ-A (東アジア言語文化)	2前			2				○		1	6				
	課題研究Ⅳ-A (東アジア言語文化)	2後			2				○		1	6				
	課題研究Ⅰ-A (欧米社会・言語文化)	1前			2				○		9	6				
	課題研究Ⅱ-A (欧米社会文化)	1後			2				○		3	2				
	課題研究Ⅲ-A (欧米社会文化)	2前			2				○		3	2				
	課題研究Ⅳ-A (欧米社会文化)	2後			2				○		3	2				
	課題研究Ⅱ-A (英米言語文化)	1後			2				○		4	4				
	課題研究Ⅲ-A (英米言語文化)	2前			2				○		4	4				
	課題研究Ⅳ-A (英米言語文化)	2後			2				○		4	4				
	課題研究Ⅱ-A (ヨーロッパ言語文化)	1後			2				○		2					
	課題研究Ⅲ-A (ヨーロッパ言語文化)	2前			2				○		2					
	課題研究Ⅳ-A (ヨーロッパ言語文化)	2後			2				○		2					
	課題研究Ⅰ-B (行政ネットワーク)	1前			2				○		10	2				
	課題研究Ⅱ-B (行政ネットワーク)	1後			2				○		10	2				
	課題研究Ⅲ-B (行政ネットワーク)	2前			2				○		10	2				
	課題研究Ⅳ-B (行政ネットワーク)	2後			2				○		10	2				
	課題研究Ⅰ-B (法制ネットワーク)	1前			2				○		4	5	1			
	課題研究Ⅱ-B (法制ネットワーク)	1後			2				○		4	5	1			
	課題研究Ⅲ-B (法制ネットワーク)	2前			2				○		4	5	1			
	課題研究Ⅳ-B (法制ネットワーク)	2後			2				○		4	5	1			
	課題研究Ⅰ-B (国際社会)	1前			2				○		4	1				
	課題研究Ⅱ-B (国際社会)	1後			2				○		4	1				
	課題研究Ⅲ-B (国際社会)	2前			2				○		4	1				
	課題研究Ⅳ-B (国際社会)	2後			2				○		4	1				
	課題研究Ⅰ-B (理論・計量経済)	1前			2				○		3	6				
	課題研究Ⅱ-B (理論・計量経済)	1後			2				○		3	6				
	課題研究Ⅲ-B (理論・計量経済)	2前			2				○		3	6				
	課題研究Ⅳ-B (理論・計量経済)	2後			2				○		3	6				
	課題研究Ⅰ-B (グローバル社会経済ネット ワーク)	1前			2				○		3	6				
	課題研究Ⅱ-B (グローバル社会経済ネット ワーク)	1後			2				○		3	6				
	課題研究Ⅲ-B (グローバル社会経済ネット ワーク)	2前			2				○		3	6				
	課題研究Ⅳ-B (グローバル社会経済ネット ワーク)	2後			2				○		3	6				
	課題研究Ⅰ-B (マネジメント)	1前			2				○		4	8	2			
	課題研究Ⅱ-B (マネジメント)	1後			2				○		4	8	2			
	課題研究Ⅲ-B (マネジメント)	2前			2				○		4	8	2			
	課題研究Ⅳ-B (マネジメント)	2後			2				○		4	8	2			
	課題研究Ⅰ-B (アカウンティング)	1前			2				○		2	2	1			
	課題研究Ⅱ-B (アカウンティング)	1後			2				○		2	2	1			
	課題研究Ⅲ-B (アカウンティング)	2前			2				○		2	2	1			
	課題研究Ⅳ-B (アカウンティング)	2後			2				○		2	2	1			
	課題研究Ⅰ-F (映像資源文化)	1前			2				○		4	8	1			
	課題研究Ⅱ-F (映像資源文化)	1後			2				○		4	8	1			
	課題研究Ⅲ-F (映像資源文化)	2前			2				○		4	8	1			
	課題研究Ⅳ-F (映像資源文化)	2後			2				○		4	8	1			
課題研究Ⅰ-G (日本酒学・経済学)	1前			2				○		2	2	1				
課題研究Ⅱ-G (日本酒学・経済学)	1後			2				○		2	2	1				
課題研究Ⅲ-G (日本酒学・経済学)	2前			2				○		2	2	1				
課題研究Ⅳ-G (日本酒学・経済学)	2後			2				○		2	2	1				
	小計 (88科目)	—		0	176	0		—		54	84	8	0	0	0	
合計 (492科目)		—		3	998	0		—		54	84	8	0	0	129	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(総合学術研究科 人文社会科学専攻)																	
科目 区分	授業科目の名称		配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（ 助手を除く） 教員以外の教員	
学位又は称号		修士（学術）、修士（文学）、修士（法学）、修士（行政学）、修士（経済学）、修士（経営学）		学位又は学科の分野				文学関係、法学関係、経済学関係									
卒 業 ・ 修 了 要 件 及 び 履 修 方 法								授業期間等									
〈修了要件〉 学際的基盤科目から6単位以上、学位共通科目群から8単位以上、プログラム専門科目群から6単位以上、課題研究から8単位を含む、合計30単位以上を修得すること。 〈履修方法〉 1. 人間文化科学プログラム 1. 学際的分野科目群においては、必修4単位、選択必修2単位（「ライフ・イノベーションPBL(M)」ないしは「修士のためのキャリアマネジメントセミナー」）、計6単位を修得すること。 2. 学位共通科目群においては、以下に列挙する各分野科目群のうち、自らの研究課題（学位分野）に見合った1つないし2つの分野科目群から8単位を修得すること。なお、1つの分野科目群から修得した4単位をもって1モジュールとし、計2モジュールの修得を必要とする（2モジュールと同じ分野科目群でも良いし、異なる分野科目群からでも良い）。 「メディア文化分野科目群（文学）」 「情報社会文化分野科目群（文学）」 「思想文化分野科目群（文学）」 「基礎心理学分野科目群（文学）」 「臨床心理学分野科目群（文学）」 「人間形成環境科学分野科目群（文学）」 「日本社会・言語文化分野科目群（文学）」 「日本語教育分野科目群（文学）」 「東アジア社会・言語文化分野科目群（文学）」 「欧米社会・言語文化分野科目群（文学）」 その他、研究課題に関して研究指導委員会が履修を認める分野科目群 なお、2つの分野科目群にまたがって履修する場合、同一の学位分野が付されたものである場合は学位の名称が学位分野のものとなり、異なる学位分野が付された分野科目群を選択した場合の学位の名称は「学術」とすることが基本となる。 3. プログラム専門科目群においては、人間文化科学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。 4. 課題研究は、プログラムが指定する課題研究Ⅰ～Ⅳを履修し、必修8単位を修得すること。 5. その他、学際的基盤科目群、学位共通科目群、プログラム専門科目群、特別履修コース科目群から2単位を修得すること（上記の1. ～4. で修得した単位を含まない）。 2. 現代社会科学プログラム 1. 学際的分野科目群においては、必修4単位、選択必修2単位（「ライフ・イノベーションPBL(M)」ないしは「修士のためのキャリアマネジメントセミナー」）、計6単位を修得すること。 2. 学位共通科目群においては、以下に列挙する各分野科目群のうち、自らの研究課題（学位分野）に見合った1つないし2つの分野科目群から8単位を修得すること。なお、1つの分野科目群から修得した4単位をもって1モジュールとし、計2モジュールの修得を必要とする（2モジュールと同じ分野科目群でも良いし、異なる分野科目群からでも良い）。 「行政ネットワーク分野科目群（行政学）」 「法制ネットワーク分野科目群（法学）」 「国際社会分野科目群（法学）」 「理論・計量経済分野科目群（経済学）」 「グローバル社会経済ネットワーク分野科目群（経済学）」 「マネジメント分野科目群（経営学）」 「アカウンティング分野科目群（経営学）」 その他、研究課題に関して研究指導委員会が履修を認める分野科目群 なお、2つの分野科目群にまたがって履修する場合、同一の学位分野が付されたものである場合は学位の名称が学位分野のものとなり、異なる学位分野が付された分野科目群を選択した場合の学位の名称は「学術」とすることが基本となる。 3. プログラム専門科目群においては、現代社会科学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。 4. 課題研究は、プログラムが指定する課題研究Ⅰ～Ⅳを履修し、必修8単位を修得すること。 5. その他、学際的基盤科目群、学位共通科目群、プログラム専門科目群、特別履修コース科目群から2単位を修得すること（上記の1. ～4. で修得した単位を含まない）。								1 学年の学期区分								2期	
								1 学期の授業期間								15週	
								1 時限の授業の標準時間								90分	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(総合学術研究科 人文社会科学専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員	
3. アニメ・映像資源科学プログラム 1. 学際的分野科目群においては、必修4単位、選択必修2単位（「ライフ・イノベーションPBL(M)」ないしは「修士のためのキャリアマネジメントセミナー」）、計6単位を修得すること。 2. 学位共通科目群においては、以下に列挙する各分野科目群のうち、自らの研究課題（学位分野）に見合った1つないし2つの分野科目群から8単位を修得すること。なお、1つの分野科目群から修得した4単位をもって1モジュールとし、計2モジュールの修得を必要とする（2モジュールとも同じ分野科目群でも良いし、異なる分野科目群からでも良い）。 「映像資源文化分野科目群（文学）」 「映像資源科学分野科目群（工学）」 その他、研究課題に関して研究指導委員会が履修を認める分野科目群 ただし、「映像資源文化分野科目群（文学）」から1モジュール以上修得すること。 なお、2つの分野科目群にまたがって履修する場合、同一の学位分野が付されたものである場合は学位の名称が学位分野のものとなり、異なる学位分野が付された分野科目群を選択した場合の学位の名称は「学術」とすることが基本となる。 3. プログラム専門科目群においては、アニメ・映像資源科学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。 4. 課題研究は、プログラムが指定する課題研究I～IVを履修し、必修8単位を修得すること。 5. その他、学際的基盤科目群、学位共通科目群、プログラム専門科目群、特別履修コース科目群から2単位を修得すること（上記の1. ～4. で修得した単位を含まない）。 4. 日本酒学プログラム 1. 学際的分野科目群においては、必修4単位、選択必修2単位（「ライフ・イノベーションPBL(M)」ないしは「修士のためのキャリアマネジメントセミナー」）、計6単位を修得すること。 2. 学位共通科目群においては、以下に列挙する各分野科目群のうち、自らの研究課題（学位分野）に見合った1つないし2つの分野科目群から8単位を修得すること。なお、1つの分野科目群から修得した4単位をもって1モジュールとし、計2モジュールの修得を必要とする（2モジュールとも同じ分野科目群でも良いし、異なる分野科目群からでも良い）。 「日本酒生命食料科学分野科目群（農学）」 「日本酒経済経営分野科目群（経営学）」 その他、研究課題に関して研究指導委員会が履修を認める分野科目群 ただし、「日本酒経済経営分野科目群（経営学）」から1モジュール以上修得すること。 なお、2つの分野科目群にまたがって履修する場合、同一の学位分野が付されたものである場合は学位の名称が学位分野のものとなり、異なる学位分野が付された分野科目群を選択した場合の学位の名称は「学術」とすることが基本となる。 3. プログラム専門科目群においては、日本酒学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。 4. 課題研究は、プログラムが指定する課題研究I～IVを履修し、必修8単位を修得すること。 5. その他、学際的基盤科目群、学位共通科目群、プログラム専門科目群、特別履修コース科目群から2単位を修得すること（上記の1. ～4. で修得した単位を含まない）。																

教 育 課 程 等 の 概 要																
（総合学術研究科 自然科学専攻）																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を 除く） 教員	
学 際 的 基 盤 科 目 群	学際的科学総論ⅠA	1前			1		○								4	オムニバス ※演習
	学際的科学総論ⅠB	1前			1		○								4	オムニバス ※演習
	学際的科学総論ⅠC	1前			1		○			3	1					オムニバス ※演習
	学際的科学総論ⅠD	1前			1		○			4						オムニバス ※演習
	学際的科学総論ⅠE	1前			1		○			1	3					オムニバス ※演習
	学際的科学総論Ⅱ	1前		1			○			8					8	※演習
	ライフ・イノベーション研究入門	1後		1			○								7	オムニバス、共同（一部）
	ライフ・イノベーション研究演習	1後		1			○			3	5				9	※演習
	ライフ・イノベーションPBL(M)	1後			2			○			4	1	2		4	共同
	修士のためのキャリアマネジメントセミナー	1前			2		○			1					2	共同
	修士のためのアカデミックライティング	1前			2		○								1	
	海外英語研修	1・2通			2				○						2	標準外
	大型機器分析技術	1・2前			2		○			1	3				1	オムニバス、標準外
	データサイエンス概論	1・2前			2		○			3	2	1	2			オムニバス
	修士のためのインターンシップ	1・2通			1				○						1	標準外 ※講義
	ワーク・ライフ・バランス	1・2前			1		○								2	オムニバス、標準外
	小計（16科目）	—		3	19	0	—	—	—	22	17	1	4	0	33	
学 位 共 通 科 目 群	（物質創成・基礎科学プログラム）															
	物質宇宙基礎科学科目群															
	実験素粒子物理学Ⅰ	1・2後			2		○							1		隔年
	実験素粒子物理学Ⅱ	1・2後			2		○							1		隔年
	理論素粒子物理学Ⅰ	1・2前			2		○			1						隔年
	理論素粒子物理学Ⅱ	1・2前			2		○				1					隔年
	理論素粒子物理学Ⅲ	1・2後			2		○									隔年
	宇宙素粒子物理学概論	1・2後			2		○						1			隔年
	原子核実験特論	1・2前			2		○				1					隔年
	原子核理論特論Ⅰ	1・2前			2		○									隔年
	宇宙物理学特論Ⅰ	1・2前			2		○				1					隔年
	宇宙物理学特論Ⅱ	1・2前			2		○				1					隔年
	宇宙物理学特論Ⅲ	1・2前			2		○						1			隔年
	固体物性物理学Ⅰ	1・2前			2		○				1					隔年
	固体物性物理学Ⅱ	1・2前			2		○			1						隔年
	固体物性物理学Ⅲ	1・2後			2		○				1		1			オムニバス、隔年
	固体物性物理学Ⅳ	1・2前			2		○				1					隔年
	物性理論特論Ⅰ	1・2前			2		○			1						隔年
	物性理論特論Ⅱ	1・2前			2		○			1						隔年
	原子分子物理学	1・2前			2		○			1						隔年
	原子核量子多体論概論	1・2通			2		○								1	隔年、標準外
	不安定核物理学概論	1・2通			2		○								1	隔年
	実験核物理学概論	1・2通			2		○								1	隔年、標準外
	医学物理学総論	1・2後			2		○			1	1		1		4	オムニバス
	放射線物理学特論	1・2後			2		○				1		1			オムニバス、隔年
	放射線計測学特論	1・2後			2		○				1		1			オムニバス、隔年
	放射線防護学特論	1・2後			2		○								1	隔年
	放射線関連法規	1・2後			2		○				1				1	オムニバス、隔年
	原子力規制学総論	1・2後			1		○				1				5	オムニバス
	原子力規制キャリア教育	1・2通			1			○							1	
	放射線計測実習	1・2前			1				○		1				2	オムニバス
	原子力エネルギー特論	1・2後			2		○								1	
	小計（30科目）	—		0	57	0	—	—	—	6	10	0	5	0	13	
数 理 科 学 分 野 科 目 群	代数構造特論	1・2後			2		○			1						
	整数論	1・2前			2		○			1						
	代数的整数論	1・2後			2		○					1				
	代数多様体論	1・2後			2		○						1			
	位相幾何学特論	1・2前			2		○			1						
	微分位相幾何学特論	1・2前			2		○				1					
	微分幾何学特論	1・2前			2		○					1				
	複素解析特論	1・2前			2		○			1						
	関数解析特論	1・2後			2		○			1						
	偏微分方程式論	1・2後			2		○				1					
	関数空間特論	1・2前			2		○				1					
	最適化概論	1・2前			2		○			1						
	ベイズ統計学概論	1・2後			2		○				1					
	小計（13科目）	—		0	28	0	—	—	—	6	4	2	1	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(総合学術研究科 自然科学専攻)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員(助手を除く)	
学位 共通科目群	(物質創成・基礎科学プログラム)	溶液化学特論	1・2前			2		○			1					隔年 ※演習	
		核化学特論	1・2前			2		○				1				隔年	
		有機合成方法論Ⅰ	1・2後			2		○				1				隔年、標準外	
		有機合成方法論Ⅱ	1・2後			2		○			1					隔年、標準外	
		構造有機化学特論	1・2後			2		○				1				隔年、標準外	
		分子生理化学	1・2前			2		○			1					隔年、標準外	
		凝縮相物性論	1・2前			2		○			1					隔年	
		反応化学概論	1・2前			2		○				1				隔年	
		化学反応計測学	1・2後			2		○			1					隔年	
		量子反応速度論	1・2後			2		○				1				隔年	
		電気化学要論	1・2後			2		○				1				隔年	
		小計 (11科目)	—			0	22	0	—			5	6	0	0	0	0
	(物質材料科学分野科目群)	固体電子材料論	1・2前			2		○				1					隔年
		金属材料物性論	1・2前			2		○			1						隔年
		電子移動反応論	1・2前			2		○			1						隔年、標準外
		表面光化学	1・2前			2		○				1					隔年
		応用無機材料化学	1・2後			2		○				1					
		複合材料設計化学	1・2前			2		○			1						隔年
		生物機能工学	1・2後			2		○				1					隔年
		機能性材料評価学特論	1・2後			2		○				1					標準外
		生物機能材料科学	1・2後			2		○			1						隔年
		ソフトマテリアル特論	1・2後			2		○				1					
		エネルギー変換材料論	1・2前			2		○				1					隔年、標準外
		小計 (11科目)	—			0	22	0	—			4	7	0	0	0	0
	(素材創成化学分野科目群)	表面計測化学	1・2後			2		○				1					隔年
		機能性高分子材料化学	1・2前			2		○			1						隔年、標準外
		エネルギー化学特論	1・2後			2		○			1						隔年、標準外
		精密高分子合成化学	1・2後			2		○				1					隔年、標準外
		無機物性化学	1・2前			2		○				1					隔年
		環境計測化学	1・2後			2		○				1					隔年
		無機材料物性化学	1・2前			2		○			1						隔年、標準外
		エネルギー材料解析化学	1・2後			2		○				1					隔年、標準外
		エネルギー転換プロセス特論	1・2後			2		○				1					隔年、標準外
		精密反応設計化学	1・2前			2		○				1					隔年
		粉体工学特論	1・2前			2		○				1					
		乳化分散系化学特論	1・2後			2		○				1					標準外
		拡散操作特論	1・2後			2		○				1					※演習。実習
		小計 (13科目)	—			0	26	0	—			3	10	0	0	0	0
	(システム創成科学プログラム)	エネルギー変換論	1・2後			2		○			1						※演習
		先端機器・機械論	1・2前			2		○			1						
		光エネルギー工学	1・2前			2		○				1					
		連続体力学特論	1・2前			2		○				1					
		機械情報可視化論	1・2前			2		○				1					
		振動解析・制御特論	1・2後			2		○			1						
		機械音響工学論	1・2後			2		○				1					
		マイクロロボティクス論	1・2後			2		○				1					
		生産加工学特論	1・2前			2		○				1					
		宇宙探査ロボティクス特論	1・2後			2		○						1			
		マイクロマシン工学特論	1・2前			2		○			1						
		機械材料学特論	1・2前			2		○			1						
		機能性表面特論	1・2後			2		○				1					
		小計 (13科目)	—			0	26	0	—			5	7	0	1	0	0

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(総合学術研究科 自然科学専攻)																			
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く）教員			
学位 共通科目群	(システム創成科学プログラム)	電子情報通信システム分野科目群	デジタル無線伝送工学	1・2前		2		○			1								
		デバイス・センサ特論	1・2後	2		○			1										
		有機エレクトロニクス特論	1・2前	2		○			1										
		応用超伝導工学	1・2後	2		○			1										
		電子光デバイス特論	1・2前	2		○			1										
		画像処理特論	1・2前	2		○			1										
		光エレクトロニクス特論	1・2後	2		○				1									
		電子機器特論	1・2後	2		○				1									
		電子情報通信特論	1・2前	2		○				1									
		電子材料分析評価法特論	1・2後	2		○				1									
		薄膜工学特論	1・2前	2		○				1									
		電子・光機能性材料特論	1・2後	2		○				1									
		高電圧大電流工学特論	1・2後	2		○				1									
		光コヒーレンス工学	1・2前	2		○				1									
		プラズマ物性特論	1・2後	2		○				1									
	小計（15科目）	—	—	0	30	0	—	6	9	0	0	0	0						
	人間情報システム分野専門科目群	人間情報システム分野専門科目群	生体情報工学特論	1・2後		2		○			1							※実習	
		神経生理工学特論	1・2前	2		○				1									
		支援システム特論	1・2前	2		○				1									
		コミュニケーション支援特論	1・2後	2		○				1								※演習	
		デザイン表現特論	1・2前	2		○				1									
		演奏表現特論	1・2後	2		○				1									
		音声聴覚情報処理特論	1・2前	2		○					1								
		分子生体機能工学特論	1・2後	2		○					1								
		立体造形特論	1・2後	2		○					1							※実習	
		運動生理学特論	1・2前	2		○										1			
		視覚情報処理特論	1・2後	2		○							1						
		液体物理学特論	1・2後	2		○							1						
	保健理工学概論	1・2前	2		○			2	1								オムニバス、共同（一部）、標準外 ※実習		
	人間情報学特別講義（心理）	1・2通	2		○										1		標準外		
	人間情報学特別講義（感性）	1・2前	2		○										2		オムニバス		
	小計（15科目）	—	—	0	30	0	—	8	4	0	2	0	4						
	(生命環境・食料科学プログラム)	基礎生命科学分野科目群	基礎生命科学分野科目群	免疫細胞生物学	1・2前		2		○			1							標準外
遺伝子工学概論			1・2前	2		○				1		1						隔年、標準外	
糖鎖生物学			1・2後	2		○												標準外	
構造生物学特論			1・2前	2		○					1							隔年、標準外 ※実習	
分子細胞生理学特論			1・2後	2		○					1							隔年、標準外	
バイオイノベーション特論			1・2前	2		○					1							隔年、標準外	
細胞生物学特論			1・2前	2		○			1									隔年、標準外 ※演習	
植物生理学特論			1・2後	2		○				1								隔年、標準外	
神経内分泌学			1・2後	2		○			1									標準外	
植物分子遺伝学特論Ⅰ			1・2前	2		○			1									隔年、標準外	
動物ゲノム多様性概論			1・2後	2		○							1					標準外	
比較認知生態学			1・2後	2		○					1							標準外	
先端臨海実習			1・2通	2						○	1			1				標準外 ※講義	
生物形態機能論			1・2後	2		○					1								
共生生物学特論			1・2後	2		○					1								
動物進化発生学特論Ⅰ			1・2後	2		○								1				標準外	
小計（16科目）		—	—	0	32	0	—	6	8	0	3	0	0						
応用生命・食品科学分野科目群		応用生命・食品科学分野科目群	食品加工技術論	1・2通		1		○									1		標準外
		食の安全・安心論	1・2後	1		○											1		標準外
		植物分子生物学	1・2前	2		○				1								標準外	
		植物環境応答学概論	1・2後	2		○				1								標準外	
	植物細胞工学特論	1・2前	2		○				1	1							隔年、共同、標準外		
	微生物機能学	1・2後	2		○					1									
	微生物分子遺伝学	1・2前	2		○				1										
	微生物天然物化学	1・2前	2		○				1				1				共同、標準外		
	動物栄養生理学	1・2通	2		○				1								標準外		
	米利用科学論	1・2後	2		○					1							隔年、標準外		
	食品評価学	1・2後	2		○				1				1				標準外		
	食品生化学	1・2前	2		○				1										

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(総合学術研究科 自然科学専攻)																		
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く）教員		
学位 共通 科目 群	（生命環境・食料科学プログラム）	応用生命・食品科学分野	食品分子機能学	1・2前			2		○			1 1	1					隔年、標準外 隔年、標準外 標準外 ※講義 標準外 隔年、標準外 隔年、標準外 標準外
			食品工学概論	1・2後			2		○									
			醸造学特論	1・2前			2		○									
			食品・農業情報工学特論	1・2後			2			○				1				
			食品品質管理学	1・2後			2			○				1				
			環境土壌学	1・2前			2		○					1				
			環境分子生態学	1・2前			2		○					1				
			木質成分化学	1・2前			2		○					1				
			小計（20科目）	—		—	0	38	0	—	10		8	0	2	0	2	
		生物資源科学分野科目群	食料流通論	1・2通			2		○			1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1	1		1		標準外 隔年、共同、標準外 隔年、標準外 隔年、標準外 隔年、標準外 隔年、標準外 標準外 標準外 標準外 標準外 標準外
			植物細胞工学特論	1・2前			2		○									
			植物病理学特論	1・2通			2		○									
	植物病原学特論		1・2通		2		○											
	植物エビジェネティクス概論		1・2通		2		○											
	農作物学特論		1・2通		2		○											
	作物生理学特論		1・2通		2		○				1							
	動物・植物相互関係論		1・2通		2		○				1							
	動物量の遺伝学		1・2通		2		○				1							
	動物機能形態論		1・2通		2		○				1							
	動物生殖細胞利用論		1・2通		2		○				1							
	小計（11科目）	—	—	0	22	0	—	5	5	0	2	0	0					
	流域環境学分野科目群	野生植物生態学特論	1・2通		2		○			1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1					標準外 ※実習 標準外 標準外 ※実習 メディア、標準外 標準外 標準外 ※演習 標準外 ※実習 標準外 標準外 標準外 オムニバス、標準外 オムニバス、標準外		
		森林遺伝育種学特論	1・2通		2		○											
		島嶼生態学特論	1・2通		2		○											
		森林保全工学特論	1・2前		2		○											
		森林空間計測学特論	1・2後		2		○											
		農村計画学特論	1・2後		2		○											
		農地工学特論	1・2前		2		○							1				
		基盤施設工学特論	1・2前		2		○					1						
		生産機械利用学特論	1・2前		2		○						1					
		食品・農業情報工学特論	1・2後		2		○						1					
		生物機械工学特論	1・2前		2		○					1						
		精密農業概論	1・2後		2		○						1					
		水文学特論	1・2後		2		○						1					
		農業水利調整論	1・2後		2		○					1						
		流域環境思想論	1・2通		2		○											
		陸域環境動態特論	1・2後		2		○							1				
		昆虫生態学特論	1・2前		2		○						1					
		大気影響評価学特論	1・2通		2		○								3			
		大気環境科学特論	1・2通		2		○								3			
	生物センシング工学特論	1・2後		2		○						1						
	小計（20科目）	—	—	0	40	0	—	6	9	0	3	0	6					
	都市・環境デザイン分野科目群	計算力学特論	1・2前		2		○			1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1					1 1 ※演習 隔年、標準外 隔年、標準外 オムニバス ※演習		
		コンクリート工学特論	1・2前		2		○											
		維持管理工学特論	1・2後		2		○						1					
		海岸環境工学特論	1・2後		2		○						1					
		環境地盤学特論	1・2後		2		○						1					
		建築構造設計特論	1・2前		2		○								1			
		建築構造設計演習	1・2前		2			○							1			
		建築振動学特論	1・2前		2		○					1						
		建築計画・設計学特論	1・2前		2		○						1					
		住居建築計画特論	1・2前		2		○							1				
		建築環境工学特論	1・2前		2		○						1					
		建築環境計画特論	1・2後		2		○							1				
		建築環境計画演習	1・2後		2			○						1				
		建築設備設計特論	1・2通		2			○							1			
		建築設備設計演習	1・2通		2				○						1			
		建築環境解析学演習	1・2通		2				○				1					
風景計画特論		1・2後		2			○					1						
都市デザイン特論		1・2前		2			○											
景観まちづくり演習		1・2後		2				○										
小計（19科目）	—	—	0	38	0	—	4	6	0	2	0	3						

教 育 課 程 等 の 概 要																
(総合学術研究科 自然科学専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 (助 手 を 除 く の 教 員	
学位 共通 科目 群	(生命環境・食料科学プログラム)	地質学分野科目群	岩石学Ⅰ		2		○			1						標準外
			岩石学Ⅱ		2		○				1					標準外
			鉱物学		2		○			1						標準外 ※実習
			構造岩石学		2			○				1				標準外 ※実習
			地質調査法特論		2		○				1					標準外
			マントル・地殻ダイナミクス		2		○			1						標準外
			ダイナミック層序学		2		○				1					標準外
			地球表層の物質循環と資源		2		○			1						標準外 ※実習
			進化形態学		2		○				1					標準外
			古環境解析特論		2		○				1					標準外 ※実習
			小計(10科目)	—	0	20	0	—		4	5	1	0	0	0	
	群自然災害科学分野科目	自然災害科学分野科目	気象災害特論		2		○			1						標準外 ※実習
			水災害特論		2		○				1					標準外
			雪氷環境特論		2		○				1					標準外
			第四紀・地盤災害特論		2		○			1						標準外
			応用地形学特論		2		○				1					標準外 ※実習
			災害地球化学特論		2		○				1					標準外
			火山災害特論		2		○			1						標準外
			小計(7科目)	—	0	14	0	—		3	4	0	0	0	0	
	(アニメ・映像資源科学プログラム)	映像資源文化分野科目群	映像文化Ⅰ		2		○								1	
			映像文化Ⅱ		2		○								1	
			表象文化		2		○								1	
			大衆文化		2		○								1	
			情報メディア論		2		○								1	
			西洋美術史		2		○								1	
			日本社会形成論Ⅰ		2		○								1	
			日本社会形成論Ⅲ		2		○								1	
			環日本海社会形成論		2		○								1	
			形態資料学		2		○								1	
			地域文化資源アーカイブ		2		○								1	
			日本民俗学		2		○								1	
			文化人類学		2		○								1	
			伝統芸能論		2		○								1	※実習
			地理空間学特論		2		○								1	
			人文地理学特論		2		○								1	※実習
			小計(16科目)	—	0	32	0	—		0	0	0	0	0	16	
		映像資源科学分野科目群	画像処理特論		2		○			1						
			デバイス・センサ特論		2		○			1						
			有機エレクトロニクス特論		2		○			1						
			視覚情報処理特論		2		○					1				
			ソフトマテリアル特論		2		○				1					
			複合材料設計化学		2		○			1						
			機能性材料評価学特論		2		○				1					
			デザイン表現特論		2		○			1						
			計算知能特論		2		○						1			
			建築計画・設計学特論		2		○				1					
			風景計画特論		2		○			1						
			都市デザイン特論		2		○				1					
			小計(12科目)	—	0	24	0	—		6	4	0	2	0	0	隔年 標準外 ※実習

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(総合学術研究科 自然科学専攻)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員(助手を除く)以外の教員	
学位 共通 科目 目 群	(日本酒学プログラム)	日本酒生命科学分野科目目群	糖鎖生物学	1・2後		2		○			1					標準外	
		バイオイノベーション特論	1・2前	2		○				1	1				隔年、標準外		
		細胞生物学特論	1・2前	2		○				1					隔年、標準外 ※演習		
		植物生理学特論	1・2後	2		○				1	1				隔年、標準外		
		植物分子遺伝学特論Ⅰ	1・2前	2		○				1					隔年、標準外		
		植物分子生物学	1・2前	2		○				1					標準外		
		植物環境応答学概論	1・2後	2		○				1					標準外		
		植物細胞工学特論	1・2前	2		○				1	1				隔年、共同、標準外		
		微生物機能学	1・2後	2		○				1	1						
		微生物分子遺伝学	1・2前	2		○				1							
		微生物天然物化学	1・2前	2		○				1			1		共同、標準外		
		動物栄養生理学	1・2通	2		○				1					標準外		
		米利用科学論	1・2後	2		○					1				隔年、標準外		
		食品評価学	1・2後	2		○				1			1		標準外		
		食品生化学	1・2前	2		○				1							
		食品分子機能学	1・2前	2		○					1						
		食品工学概論	1・2後	2		○				1					隔年、標準外		
		醸造学特論	1・2前	2		○				1					隔年、標準外		
		食品・農業情報工学特論	1・2後	2		○					1				標準外 ※演習		
		食品品質管理学	1・2後	2		○					1				標準外		
		環境土壌学	1・2前	2		○					1				隔年、標準外		
		環境分子生態学	1・2前	2		○					1				隔年、標準外		
		木質成分化学	1・2前	2		○					1				標準外		
		食料流通論	1・2通	2		○							1		標準外		
		植物病理学特論	1・2通	2		○						1			隔年、標準外		
		植物エビジェネティクス概論	1・2通	2		○						1			隔年、標準外		
		動物・植物相互関係論	1・2通	2		○						1			標準外		
		動物量の遺伝学	1・2通	2		○					1				標準外		
		動物機能形態論	1・2通	2		○					1				標準外		
		動物生殖細胞利用論	1・2通	2		○					1				標準外		
	小計 (30科目)			—	—	0	60	0	—			16	13	0	3	0	0
	科目 目 群	日本酒 経済 経営 分野	日本酒と自治体政策	1・2通		2		○									1
			日本酒アントレプレナーシップ論	1・2通	2		○									1	
			日本酒酒蔵の中小企業論	1・2通	2		○									1	
			日本酒とブランディング	1・2通	2		○									1	
			酒蔵組織の企業行動論	1・2通	2		○									1	
酒類行政論			1・2通	2		○									2		
小計 (6科目)			—	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	7	
(情報社会デザイン科学プログラム)	情報工 学分 野 科 目 目 群	ネットワーク・セキュリティ特論	1前	2		○					1	1				※演習	
		移動体ネットワーク特論	1・2後	2		○				1							
		電磁波工学特論	1・2後	2		○				1							
		計算論： 計算可能性の理論	1・2前	2		○				1							
		プログラミング方法論	1・2後	2		○					1						
		電磁環境計測特論	1・2前	2		○					1						
		リモートセンシング概論	1・2後	2		○				1							
		情報セキュリティ特論	1・2後	2		○							1				
小計 (8科目)			—	—	0	16	0	—			4	3	0	1	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(総合学術研究科 自然科学専攻)																		
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く)教員		
学位 共通科目群	(情報社会デザイン科学プログラム)	データサイエンス分野科目群	データマネジメント工学	1前			2		○				1				オムニバス ※演習	
			人工知能特論	1・2前			2		○			1						
			ゲノム情報解析概論	1・2後			2		○				1					
			計算知能特論	1・2前			2		○				1					
			応用解析学特論	1・2前			2		○				1					
			応用代数学特論	1・2前			2		○				1					
			情報数理特論	1・2前			2		○			1						
			数理最適化概論	1・2前			2		○				1					
			数値計算特論	1・2前			2		○				1	1				
		システム工学特論	1・2前			2		○				1						
		小計 (10科目)	—	—	0	20	0	—			3	5	1	2	0	0		
		分野科学システム工学	プロジェクトマネジメント特論	1前			2		○			1						オムニバス 標準外
			リスクマネジメント特論	1・2前			2		○				1				1	
			生産マネジメント特論	1・2前			2		○									
			プロジェクトマネジメント演習	1・2前			2			○		1						
	デザイン思考特論		1・2後			2		○				1						
	小計 (5科目)		—	—	0	10	0	—			1	2	0	0	0	2		
	経営学分野科目群	技術経営戦略特論	1・2前			2		○									1	
		会計管理特論	1・2前			2		○									1	
		ブランディング特論	1・2後			2		○									1	
		産業技術政策特論	1・2通			2		○			1	1					2	
		ビジネス実務概論	1・2後			2		○			1	1					2	
		小計 (5科目)	—	—	0	10	0	—			2	3	0	0	0	7		
	(カーボンニュートラル融合科学プログラム)	電気エネルギー総合理工学分野科目群	高電圧大電流工学特論	1・2後			2		○					1				隔年 隔年 隔年
			応用超伝導工学	1・2後			2		○				1					
			有機エレクトロニクス特論	1・2前			2		○				1					
			デバイス・センサ特論	1・2後			2		○				1					
			電子光デバイス特論	1・2前			2		○				1					
			電子・光機能性材料特論	1・2後			2		○					1				
			電子材料分析評価法特論	1・2後			2		○					1				
機械情報可視化論			1・2前			2		○					1					
固体物性物理学Ⅰ			1・2前			2		○					1					
固体物性物理学Ⅱ			1・2前			2		○				1						
化学反応計測学			1・2後			2		○				1						
小計 (11科目)			—	—	0	22	0	—			6	5	0	0	0	0		
熱・化学エネルギー総合理工学分野科目群		エネルギー関連国際学会コミュニケーション法	1・2通			2		○					1				隔年、標準外 隔年、標準外 オムニバス、標準外 オムニバス、標準外 標準外 隔年、標準外 隔年、標準外 隔年 ※演習 標準外 ※演習 オムニバス 隔年、標準外	
		エネルギー化学特論	1・2後			2		○				1						
		水素エネルギー・製造輸送論	1・2通			2		○				1				2		
		再生可能エネルギー概論	1・2通			2		○								2		
		エネルギー変換論	1・2後			2		○				1						
		光エネルギー工学	1・2前			2		○					1					
		電子移動反応論	1・2前			2		○				1						
		エネルギー変換材料論	1・2前			2		○					1					
		エネルギー材料解析化学	1・2後			2		○					1					
		溶液化学特論	1・2前			2		○				1						
		地球表層の物質循環と資源	1・2通			2		○				1						
		水素制御管理特論	1・2前			2		○				1						
		エネルギー転換プロセス特論	1・2後			2		○					1			1		
		小計 (13科目)	—	—	0	26	0	—			6	4	0	0	0	5		

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(総合学術研究科 自然科学専攻)																		
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く)教員		
学位 共通 科目 群	(フィールド科学プログラム)	地球惑星科学分野科目群	森林保全工学特論	1・2前		2		○			1						標準外 標準外 ※演習 標準外 標準外 ※演習 標準外 標準外 標準外 ※実習 標準外 ※演習 標準外 標準外 ※演習 オムニバス、標準外 オムニバス、標準外	
		地圏環境論I	1・2通	2		○			1									
		フィールド惑星科学特論	1・2後	2				○		1								
		環境化学要論II	1・2後	2		○				1								
		大気物理学特論I	1・2前	2		○			1									
		環境化学要論I	1・2前	2		○			1									
		第四紀・地盤災害特論	1・2前	2		○			1									
		気象災害特論	1・2前	2		○			1									
		水災害特論	1・2後	2		○				1								
		災害地球化学特論	1・2前	2		○				1								
		水文学特論	1・2後	2		○				1								
		地球表層の物質循環と資源	1・2通	2		○			1									
		進化形態学	1・2通	2		○				1								
		応用地形学特論	1・2前	2		○				1								
		火山噴火史調査法	1・2前	2		○			1									
		気候物理学特論	1・2後	2		○						1						
		大気影響評価学特論	1・2通	2		○								3				
		大気環境科学特論	1・2通	2		○								3				
		小計 (18科目)	—	—	0	36	0	—	8	7	0	1	0	6				
	自然共生科学分野科目群	自然共生科学分野科目群	希少生物学特論	1・2通	2		○				1	1					標準外 標準外 標準外 ※実習 標準外 標準外 標準外 ※講義 標準外 標準外 ※実習 ※実習 ※実習	
		流域環境思想論	1・2通	2		○					1							
		野生植物生態学特論	1・2通	2		○					1							
		島嶼生態学特論	1・2通	2		○					1							
		進化生物学特論IV	1・2後	2		○					1							
		神経内分泌学	1・2後	2		○				1								
		先端臨海実習	1・2通	2				○					1					
		進化生物学特論II	1・2後	2		○				1								
		SDGs入門演習	1・2前	2			○									1		
		森林遺伝育種学特論	1・2通	2		○					1							
		都市デザイン特論	1・2前	2		○					1							
		農業水利調整論	1・2後	2		○				1								
		森林空間計測学特論	1・2後	2		○				1								
		生態学特論	1・2前	2		○				1								
		進化生物学特論I	1・2前	2		○					1							
		生物形態機能論	1・2後	2		○					1							
		人文地理学特論	1後	2		○										1		
		地理空間学特論	1前	2		○										1		
		小計 (18科目)	—	—	0	36	0	—	6	8	0	1	0	3				
	(ひと脳・健康科学プログラム)	目ひと脳・健康科学I分野科	神経科学概論	1前		2		○					1				7	標準外、オムニバス 標準外 標準外 隔年、標準外 隔年、標準外 ※実習 隔年、標準外 隔年、標準外 標準外
			ニューロテック特論	1後	2		○				1							
免疫細胞生物学			1・2前	2		○				1								
遺伝子工学概論			1・2前	2		○					1							
構造生物学特論			1・2前	2		○					1							
分子細胞生理学特論			1・2後	2		○					1							
バイオイノベーション特論			1・2前	2		○					1							
神経内分泌学			1・2後	2		○				1								
小計 (8科目)			—	0	16	0	—	3	5	0	0	0	7					
科ひと脳・健康科学II分野			先端脳病態学	1前	2		○				1	1					6	
		老化と不老不死	1前	2		○					1					7		
		進化生物学特論I	1・2前	2		○					1							
		進化生物学特論II	1・2通	2		○				1								
		進化生物学特論IV	1・2後	2		○					1							
		生物形態機能論	1・2後	2		○					1							
		進化形態学	1・2通	2		○					1							
		小計 (7科目)	—	0	14	0	—	2	6	0	1	0	12					

教 育 課 程 等 の 概 要																
(総合学術研究科 自然科学専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員	
プログラム 専門科目群	物質 創成・基礎科学 プログラム 専門科目群	物質創成・基礎科学演習Ⅰ-C（物質宇宙基礎科学）	1前		1			○		6	9		6			
		物質創成・基礎科学演習Ⅱ-C（物質宇宙基礎科学）	1後		1			○		6	9		6			
		物質創成・基礎科学演習Ⅲ-C（物質宇宙基礎科学）	2前		1			○		6	9		6			
		物質創成・基礎科学演習Ⅳ-C（物質宇宙基礎科学）	2後		1			○		6	9		6			
		物質創成・基礎科学演習Ⅰ-C（数理科学）	1前		1			○		6	4	2	1			
		物質創成・基礎科学演習Ⅱ-C（数理科学）	1後		1			○		6	4	2	1			
		物質創成・基礎科学演習Ⅲ-C（数理科学）	2前		1			○		6	4	2	1			
		物質創成・基礎科学演習Ⅳ-C（数理科学）	2後		1			○		6	4	2	1			
		物質創成・基礎科学演習Ⅰ-C（基礎化学）	1前		1			○		5	6		1			
		物質創成・基礎科学演習Ⅱ-C（基礎化学）	1後		1			○		5	6		1			
		物質創成・基礎科学演習Ⅲ-C（基礎化学）	2前		1			○		5	6		1			
		物質創成・基礎科学演習Ⅳ-C（基礎化学）	2後		1			○		5	6		1			
		物質創成・基礎科学演習Ⅰ-C（物質材料科学）	1前		1			○		4	7		1			
		物質創成・基礎科学演習Ⅱ-C（物質材料科学）	1後		1			○		4	7		1			
		物質創成・基礎科学演習Ⅲ-C（物質材料科学）	2前		1			○		4	7		1			
		物質創成・基礎科学演習Ⅳ-C（物質材料科学）	2後		1			○		4	7		1			
		物質創成・基礎科学演習Ⅰ-C（素材創成化学）	1前		1			○		3	9		2			
		物質創成・基礎科学演習Ⅱ-C（素材創成化学）	1後		1			○		3	9		2			
		物質創成・基礎科学演習Ⅲ-C（素材創成化学）	2前		1			○		3	9		2			
		物質創成・基礎科学演習Ⅳ-C（素材創成化学）	2後		1			○		3	9		2			
		研究発表演習（中間発表）	1後		1			○		24	35	2	11			
		研究発表演習（学外発表）	1・2通		1			○		24	35	2	11			
		先端科学技術総論（物質宇宙基礎科学）Ⅰ	1・2通		1		○								2	標準外
		先端科学技術総論（物質宇宙基礎科学）Ⅱ	1・2通		1		○								2	標準外
		Physics Today Ⅰ	1・2通		1		○								2	標準外
		Physics Today Ⅱ	1・2通		1		○								2	標準外
		物質科学の最前線	1・2通		1		○								2	標準外
		代数学の最前線	1・2通		1		○								2	標準外
		幾何学の最前線	1・2通		1		○								2	標準外
		解析学の最前線	1・2通		1		○								2	標準外
		応用数学の最前線	1・2通		1		○								2	標準外
		Mathematical Sciences Today	1・2通		1		○								2	標準外
		先端科学技術総論（化学）Ⅰ	1・2前		1		○								1	標準外
		先端科学技術総論（化学）Ⅱ	1・2前		1		○								1	標準外
		Chemistry Today Ⅰ	1・2後		1		○								1	標準外
		Chemistry Today Ⅱ	1・2後		1		○								1	標準外
		物質材料科学文献詳読Ⅰ	1・2通		1		○			4	7					標準外
		物質材料科学文献詳読Ⅱ	1・2通		1		○			4	7					標準外
		小計（38科目）	—		0	38	0	—		34	36	1	11	0	24	
システム 創成科学 プログラム 専門科目群	システム 創成科学 プログラム 専門科目群	システム創成科学演習Ⅰ-D（先進機械システム）	1前		1			○		5	7		2			
		システム創成科学演習Ⅱ-D（先進機械システム）	1後		1			○		5	7		2			
		システム創成科学演習Ⅲ-D（先進機械システム）	2前		1			○		5	7		2			
		システム創成科学演習Ⅳ-D（先進機械システム）	2後		1			○		5	7		2			
		システム創成科学演習Ⅰ-D（電子情報通信システム）	1前		1			○		7	9					
		システム創成科学演習Ⅱ-D（電子情報通信システム）	1後		1			○		7	9					
		システム創成科学演習Ⅲ-D（電子情報通信システム）	2前		1			○		7	9					
		システム創成科学演習Ⅳ-D（電子情報通信システム）	2後		1			○		7	9					
		システム創成科学演習Ⅰ-D（人間情報システム）	1前		1			○		6	3		2		1	
		システム創成科学演習Ⅱ-D（人間情報システム）	1後		1			○		6	3		2		1	
		システム創成科学演習Ⅲ-D（人間情報システム）	2前		1			○		6	3		2		1	
		システム創成科学演習Ⅳ-D（人間情報システム）	2後		1			○		6	3		2		1	
		研究発表演習（中間発表）	1後		1			○		18	19		4		1	
		研究発表演習（学外発表）	1・2通		1			○		18	19		4		1	
		技術英語・プレゼンテーション	1・2前		2		○								1	
		アドバンスドテクノロジー	1・2通		2		○			1						標準外
		小計（16科目）	—		0	18	0	—		18	19	0	1	0	2	

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(総合学術研究科 自然科学専攻)																		
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手以外の教員）		
プログラム専門科目群	生命環境・食料科学プログラム専門科目群	生命環境・食料科学演習Ⅰ-E（基礎生命科学）	1前			1				○		5	8		3			
		生命環境・食料科学演習Ⅱ-E（基礎生命科学）	1後			1				○		5	8		3			
		生命環境・食料科学演習Ⅲ-E（基礎生命科学）	2前			1				○		5	8		3			
		生命環境・食料科学演習Ⅳ-E（基礎生命科学）	2後			1				○		5	8		3			
		生命環境・食料科学演習Ⅰ-E（応用生命・食品科学）	1前			1				○		11	7		3			
		生命環境・食料科学演習Ⅱ-E（応用生命・食品科学）	1後			1				○		11	7		3			
		生命環境・食料科学演習Ⅲ-E（応用生命・食品科学）	2前			1				○		11	7		3			
		生命環境・食料科学演習Ⅳ-E（応用生命・食品科学）	2後			1				○		11	7		3			
		生命環境・食料科学演習Ⅰ-E（生物資源科学）	1前			1				○		4	6		4			
		生命環境・食料科学演習Ⅱ-E（生物資源科学）	1後			1				○		4	6		4			
		生命環境・食料科学演習Ⅲ-E（生物資源科学）	2前			1				○		4	6		4			
		生命環境・食料科学演習Ⅳ-E（生物資源科学）	2後			1				○		4	6		4			
		生命環境・食料科学演習Ⅰ-E（流域環境学）	1前			1				○		5	7		3			
		生命環境・食料科学演習Ⅱ-E（流域環境学）	1後			1				○		5	7		3			
		生命環境・食料科学演習Ⅲ-E（流域環境学）	2前			1				○		5	7		3			
		生命環境・食料科学演習Ⅳ-E（流域環境学）	2後			1				○		5	7		3			
		生命環境・食料科学演習Ⅰ-E（都市・環境デザイン）	1前			1				○		4	6		2			
		生命環境・食料科学演習Ⅱ-E（都市・環境デザイン）	1後			1				○		4	6		2			
		生命環境・食料科学演習Ⅲ-E（都市・環境デザイン）	2前			1				○		4	6		2			
		生命環境・食料科学演習Ⅳ-E（都市・環境デザイン）	2後			1				○		4	6		2			
		生命環境・食料科学演習Ⅰ-E（地質学）	1前			1				○		4	5	1				
		生命環境・食料科学演習Ⅱ-E（地質学）	1後			1				○		4	5	1				
		生命環境・食料科学演習Ⅲ-E（地質学）	2前			1				○		4	5	1				
		生命環境・食料科学演習Ⅳ-E（地質学）	2後			1				○		4	5	1				
		生命環境・食料科学演習Ⅰ-E（自然災害科学）	1前			1				○		3	4					
		生命環境・食料科学演習Ⅱ-E（自然災害科学）	1後			1				○		3	4					
		生命環境・食料科学演習Ⅲ-E（自然災害科学）	2前			1				○		3	4					
		生命環境・食料科学演習Ⅳ-E（自然災害科学）	2後			1				○		3	4					
		研究発表演習（中間発表）	1後			1				○		36	43	1	15			
		研究発表演習（学外発表）	1・2通			1				○		36	43	1	15			
		基礎生命科学セミナー	1・2後			1				○							1	標準外
		応用生命・食品科学セミナーⅠ	1・2通			1				○							1	標準外
		応用生命・食品科学セミナーⅡ	1・2通			1				○							1	標準外
		応用生命・食品科学セミナーⅢ	1・2通			1				○							1	標準外
		応用生命・食品科学セミナーⅣ	1・2通			1				○							1	標準外
		生物資源科学概論Ⅰ	1・2通			1				○							1	標準外
		生物資源科学概論Ⅱ	1・2通			1				○							1	標準外
		建築倫理	1・2前			2				○							1	標準外
		建築プロジェクトマネジメント	1・2後			2				○							1	標準外
		建築設計製図	1・2通			4					○	4	6		2			標準外
		インターンシップ	1・2通			4					○	4	6		2			標準外
		建築インターンシップA	1・2通			2					○	4	6		2			標準外
		建築インターンシップB	1・2通			4					○	4	6		2			標準外
		建築インターンシップC	1・2通			4					○	4	6		2			標準外
		建築設計実習	1・2通			4					○	4	6		2			標準外
		Earth Science todayⅠ	1・2通			1				○							1	隔年、標準外
		Earth Science todayⅡ	1・2通			1				○							1	隔年、標準外
		自然災害環境論	1・2通			1				○							1	隔年、標準外
		突発災害特論	1・2通			1				○							1	隔年、標準外
小計（49科目）	—			0	67	0		—		36	43	1	13	0	13			

教 育 課 程 等 の 概 要																
(総合学術研究科 自然科学専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く)の教員	
プログラム専門科目群	アニメーション・映像資源科学プログラム専門科目群	知的財産論			2		○								1	
		アニメ文化解析演習			2			○							1	
		デジタル映像資源演習			2			○							1	
		地域文化資源アーカイブ演習			2			○							1	
		映像資源科学演習Ⅰ			1			○		1	2					
		映像資源科学演習Ⅱ			1			○		1	2					
		映像資源科学演習Ⅲ			1			○		1	2					
		映像資源科学演習Ⅳ			1			○		1	2					
		小計(8科目)	—	0	12	0		—		1	2	0	0	0	3	
	日本酒学プログラム専門科目群	日本酒学演習Ⅰ			1			○		6	7		1		5	
		日本酒学演習Ⅱ			1			○		6	7		1		5	
		日本酒学演習Ⅲ			1			○		6	7		1		5	
		日本酒学演習Ⅳ			1			○		6	7		1		5	
		研究発表演習(中間発表)			1			○		6	7		1		5	
		研究発表演習(学外発表)			1			○		6	7		1		5	
		日本酒学概論Ⅰ(自然科学)			1		○			3	2		1		3	標準外
		日本酒学概論Ⅱ(人文社会科学)			1		○								8	オムニバス、標準外
		日本酒学概論Ⅲ(医学・保健学)			1		○								8	オムニバス、標準外
		日本酒学概論Ⅳ(総合実践学)			1		○			1					5	オムニバス、標準外
		基礎日本酒学実習			2				○	1	1					共同、標準外
		発展日本酒学実習			1				○	1	2				2	標準外
		日本酒学セミナー			1			○		1					2	標準外
情報社会デザイン科学プログラム専門科目群	情報社会デザイン科学プログラム専門科目群	小計(13科目)	—	0	14	0		—		6	7	1	2	0	0	
		研究発表演習(中間発表)			1			○		9	13	1	3			
		研究発表演習(学外発表)			1			○		9	13	1	3			
		価値創造プロジェクト			2			○			1					
		ソフトウェア工学概論			2		○						1			
		技術・社会システム工学総論			1		○				1					
		情報社会デザインプロジェクト			2			○		2	4				2	
		英語コミュニケーションA			2		○			1	2		1			
		英語コミュニケーションB			2		○				1					
		異分野理解			2				○	1						
		X-informatics概論			2		○			2	4	1	1			
		情報社会工学概論			2		○			3	3		2			
		小計(11科目)	—	0	19	0		—		9	13	1	3	0	2	
	融合科学プログラム専門科目群	カーボンニュートラル融合科学演習Ⅰ-J			1			○		10	9					
		カーボンニュートラル融合科学演習Ⅱ-J			1			○		10	9					
		カーボンニュートラル融合科学演習Ⅲ-J			1			○		10	9					
		カーボンニュートラル融合科学演習Ⅳ-J			1			○		10	9					
		研究発表演習(中間発表)			1			○		10	9					
		研究発表演習(学外発表)			1			○		10	9					
		カーボンニュートラル科学概論			2		○			5	1					
		小計(7科目)	—	0	8	0		—		10	9	0	0	0	0	
フィールド科学プログラム専門科目群	フィールド科学プログラム専門科目群	フィールド科学演習Ⅰ(理)			1			○		10	8		2		3	
		フィールド科学演習Ⅱ(理)			1			○		10	8		2		3	
		フィールド科学演習Ⅲ(理)			1			○		10	8		2		3	
		フィールド科学演習Ⅳ(理)			1			○		10	8		2		3	
		フィールド科学演習Ⅰ(農)			1			○		5	5		2			
		フィールド科学演習Ⅱ(農)			1			○		5	5		2			
		フィールド科学演習Ⅲ(農)			1			○		5	5		2			
		フィールド科学演習Ⅳ(農)			1			○		5	5		2			
		研究発表演習(中間発表)			1			○		15	13		4		3	
		研究発表演習(学外発表)			1			○		15	13		4		3	
		フィールド科学特論			1		○			14	11		3		2	オムニバス ※実習
		地球惑星科学特論			1		○								2	標準外
		自然共生科学特論			1		○								1	標準外
		小計(13科目)	—	0	13	0		—		14	14	0	4	0	6	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(総合学術研究科 自然科学専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(教員以外を除く)教員	
プログラム専門科目群	ひと脳・健康科学実習	1前			2				○	1						標準外 標準外 標準外 標準外 標準外
	研究発表演習 (内部)	1後			1				○	1						
	研究発表演習 (外部)	2前			1				○	1						
	ひと脳・健康科学演習	1後			2				○	1						
	先端ひと脳・健康科学セミナー1	1前			1				○	1						
	先端ひと脳・健康科学セミナー2	2後			1				○	1						
	小計 (6科目)	—		0	8	0		—		1	0	0	0	0	0	
課題研究	課題研究Ⅰ-C (物質宇宙基礎科学)	1前			2				○	6	9		6			
	課題研究Ⅱ-C (物質宇宙基礎科学)	1後			2				○	6	9		6			
	課題研究Ⅲ-C (物質宇宙基礎科学)	2前			2				○	6	9		6			
	課題研究Ⅳ-C (物質宇宙基礎科学)	2後			2				○	6	9		6			
	課題研究Ⅰ-C (数理科学)	1前			2				○	6	4	2	1			
	課題研究Ⅱ-C (数理科学)	1後			2				○	6	4	2	1			
	課題研究Ⅲ-C (数理科学)	2前			2				○	6	4	2	1			
	課題研究Ⅳ-C (数理科学)	2後			2				○	6	4	2	1			
	課題研究Ⅰ-C (基礎化学)	1前			2				○	5	6		1			
	課題研究Ⅱ-C (基礎化学)	1後			2				○	5	6		1			
	課題研究Ⅲ-C (基礎化学)	2前			2				○	5	6		1			
	課題研究Ⅳ-C (基礎化学)	2後			2				○	5	6		1			
	課題研究Ⅰ-C (物質材料科学)	1前			2				○	4	7		1			
	課題研究Ⅱ-C (物質材料科学)	1後			2				○	4	7		1			
	課題研究Ⅲ-C (物質材料科学)	2前			2				○	4	7		1			
	課題研究Ⅳ-C (物質材料科学)	2後			2				○	4	7		1			
	課題研究Ⅰ-C (素材創成化学)	1前			2				○	3	9		2			
	課題研究Ⅱ-C (素材創成化学)	1後			2				○	3	9		2			
	課題研究Ⅲ-C (素材創成化学)	2前			2				○	3	9		2			
	課題研究Ⅳ-C (素材創成化学)	2後			2				○	3	9		2			
	課題研究Ⅰ-D (先進機械システム)	1前			2				○	5	7		2			
	課題研究Ⅱ-D (先進機械システム)	1後			2				○	5	7		2			
	課題研究Ⅲ-D (先進機械システム)	2前			2				○	5	7		2			
	課題研究Ⅳ-D (先進機械システム)	2後			2				○	5	7		2			
	課題研究Ⅰ-D (電子情報通信システム)	1前			2				○	7	9					
	課題研究Ⅱ-D (電子情報通信システム)	1後			2				○	7	9					
	課題研究Ⅲ-D (電子情報通信システム)	2前			2				○	7	9					
	課題研究Ⅳ-D (電子情報通信システム)	2後			2				○	7	9					
	課題研究Ⅰ-D (人間情報システム)	1前			2				○	6	3		2			
	課題研究Ⅱ-D (人間情報システム)	1後			2				○	6	3		2			
	課題研究Ⅲ-D (人間情報システム)	2前			2				○	6	3		2			
	課題研究Ⅳ-D (人間情報システム)	2後			2				○	6	3		2			
	課題研究Ⅰ-E (基礎生命科学)	1前			2				○	5	8		3			
	課題研究Ⅱ-E (基礎生命科学)	1後			2				○	5	8		3			
	課題研究Ⅲ-E (基礎生命科学)	2前			2				○	5	8		3			
	課題研究Ⅳ-E (基礎生命科学)	2後			2				○	5	8		3			
	課題研究Ⅰ-E (応用生命・食品科学)	1前			2				○	11	7		3			
	課題研究Ⅱ-E (応用生命・食品科学)	1後			2				○	11	7		3			
	課題研究Ⅲ-E (応用生命・食品科学)	2前			2				○	11	7		3			
	課題研究Ⅳ-E (応用生命・食品科学)	2後			2				○	11	7		3			
	課題研究Ⅰ-E (生物資源科学)	1前			2				○	4	6		5			
	課題研究Ⅱ-E (生物資源科学)	1後			2				○	4	6		5			
	課題研究Ⅲ-E (生物資源科学)	2前			2				○	4	6		5			
	課題研究Ⅳ-E (生物資源科学)	2後			2				○	4	6		5			
	課題研究Ⅰ-E (流域環境学)	1前			2				○	5	7		3			
	課題研究Ⅱ-E (流域環境学)	1後			2				○	5	7		3			
	課題研究Ⅲ-E (流域環境学)	2前			2				○	5	7		3			
	課題研究Ⅳ-E (流域環境学)	2後			2				○	5	7		3			
	課題研究Ⅰ-E (都市・環境デザイン)	1前			2				○	4	6		2			
	課題研究Ⅱ-E (都市・環境デザイン)	1後			2				○	4	6		2			
	課題研究Ⅲ-E (都市・環境デザイン)	2前			2				○	4	6		2			
	課題研究Ⅳ-E (都市・環境デザイン)	2後			2				○	4	6		2			

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(総合学術研究科 自然科学専攻)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く教員）	
課題研究		課題研究Ⅰ-E（地質学）	1前			2				○		4	5	1			
		課題研究Ⅱ-E（地質学）	1後			2				○		4	5	1			
		課題研究Ⅲ-E（地質学）	2前			2				○		4	5	1			
		課題研究Ⅳ-E（地質学）	2後			2				○		4	5	1			
		課題研究Ⅰ-E（自然災害科学）	1前			2				○		3	4				
		課題研究Ⅱ-E（自然災害科学）	1後			2				○		3	4				
		課題研究Ⅲ-E（自然災害科学）	2前			2				○		3	4				
		課題研究Ⅳ-E（自然災害科学）	2後			2				○		3	4				
		課題研究Ⅰ-F（映像資源科学）	1前			2				○		1	2				
		課題研究Ⅱ-F（映像資源科学）	1後			2				○		1	2				
		課題研究Ⅲ-F（映像資源科学）	2前			2				○		1	2				
		課題研究Ⅳ-F（映像資源科学）	2後			2				○		1	2				
		課題研究Ⅰ-G（日本酒学・農学）	1前			2				○		6	7			1	
		課題研究Ⅱ-G（日本酒学・農学）	1後			2				○		6	7			1	
		課題研究Ⅲ-G（日本酒学・農学）	2前			2				○		6	7			1	
		課題研究Ⅳ-G（日本酒学・農学）	2後			2				○		6	7			1	
		課題研究Ⅰ-H（情報社会デザイン科学）	1前			2				○		9	13	1		3	
		課題研究Ⅱ-H（情報社会デザイン科学）	1後			2				○		9	13	1		3	
		課題研究Ⅲ-H（情報社会デザイン科学）	2前			2				○		9	13	1		3	
		課題研究Ⅳ-H（情報社会デザイン科学）	2後			2				○		9	13	1		3	
		課題研究Ⅰ-J（カーボンニュートラル融合科学）	1前			2				○		10	9				
		課題研究Ⅱ-J（カーボンニュートラル融合科学）	1後			2				○		10	9				
		課題研究Ⅲ-J（カーボンニュートラル融合科学）	2前			2				○		10	9				
		課題研究Ⅳ-J（カーボンニュートラル融合科学）	2後			2				○		10	9				
		課題研究Ⅰ-K（フィールド科学・理）	1前			2				○		10	8			2	
		課題研究Ⅱ-K（フィールド科学・理）	1後			2				○		10	8			2	
		課題研究Ⅲ-K（フィールド科学・理）	2前			2				○		10	8			2	
		課題研究Ⅳ-K（フィールド科学・理）	2後			2				○		10	8			2	
		課題研究Ⅰ-K（フィールド科学・農）	1前			2				○		5	5			2	
		課題研究Ⅱ-K（フィールド科学・農）	1後			2				○		5	5			2	
		課題研究Ⅲ-K（フィールド科学・農）	2前			2				○		5	5			2	
		課題研究Ⅳ-K（フィールド科学・農）	2後			2				○		5	5			2	
		課題研究Ⅰ-L（ひと脳・健康科学）	1前			2				○		1	2				
		課題研究Ⅱ-L（ひと脳・健康科学）	1後			2				○		1	2				
		課題研究Ⅲ-L（ひと脳・健康科学）	2前			2				○		1	2				
		課題研究Ⅳ-L（ひと脳・健康科学）	2後			2				○		1	2				
		小計（88科目）	—			0	176	0		—		95	121	4	36	0	0
特別履修 コース科目群	農と食の スペシャリスト	実践型食づくりプロジェクト（日本酒）	1・2通				2			○		1					標準外
		実践型食づくりプロジェクト（ライス）	1・2通				2			○		1					標準外
		実践型食づくりプロジェクト（バイテク）	1・2通				2			○		1					標準外
		実践型食づくりプロジェクト（いもジェンヌ）	1・2通				2			○		1	2				標準外
		企画実践型インターンシップ	1・2通				1				○	1					標準外
		食づくり国際インターンシップ	1・2通				1				○	1					標準外
		英語論文作成・発表演習	1・2前				1		○							1	※演習
		先端的農業技術論	1・2後				1		○							2	オムニバス、標準外
		地域食品産業論	1・2後				2		○							1	標準外
		小計（9科目）	—			0	0	14		—		6	2	0	0	0	4

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(総合学術研究科 自然科学専攻)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹 (助手を 除く) 教員		
特別履修 コース科目群	グローバル 農力	グローバル農力(短期)	1・2通			2		○		1			1				標準外 標準外 標準外 標準外 標準外
		グローバル農力国際キャリア実習(中期)	1・2通			1			○	1			1				
		グローバル農力国際特別研究(中期)	1・2通			2		○		1			1				
		グローバル農力国際キャリア実習(長期)	1・2通			2			○	1			1				
		グローバル農力国際特別研究(長期)	1・2通			4		○		1			1				
		小計(5科目)	—		0	0	11	—			1	0	0	1	0	0	
	グローバル・ ドミトリー	先端的国際工学概論	1・2通			1	○			5	5		1			1	オムニバス、共同(一部)、標準外
		先端的国際工学事情	1・2通			1	○				1						
		先端的国際工学特論Ⅰ	1・2通			2	○				2						
		先端的国際工学特論Ⅱ	1・2通			2	○				2						
		先端的国際技術協力	1・2通			1	○				1						
		実践的PBLファシリテーション工学演習	1・2通			2		○			1						
		先端的国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップS	1・2通			2			○		1						
		先端的国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップA	1・2通			3			○		1						
		先端的国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップB	1・2通			4			○		1						
		先端的国際マーケット・グループワーク・インターンシップS	1・2通			2			○		1						
		先端的国際マーケット・グループワーク・インターンシップA	1・2通			3			○		1						
		先端的国際マーケット・グループワーク・インターンシップB	1・2通			4			○		1						
		先端的国際リサーチ・インターンシップ	1・2通			2			○	1							
		理工系グローバルドミトリー特別研究A	1・2通			1		○			1						
		理工系グローバルドミトリー特別研究B	1・2通			2		○			1						
		理工系グローバルドミトリー特別研究C	1・2通			4		○			1						
		理工系グローバルドミトリー・セミナーA	1・2通			1		○			1						
		理工系グローバルドミトリー・セミナーB	1・2通			2		○			1						
		理工系グローバルドミトリー発表演習・発表	1・2通			1		○			1						
		小計(19科目)	—		0	0	40	—			1	2	0	0	0	0	
	ドグ 科学 人バ ル育 成イ ール	地球環境科学特論	1・2通			1	○			3	1						標準外 標準外 標準外 標準外 標準外 標準外
		地球環境フィールド科学演習	1・2通			2		○		3	1						
		海外フィールド体験実習	1・2通			2			○	3	1						
		フィールド産業インターンシップ	1・2通			1			○	3	1						
		海外フィールド科学実習A	1・2通			2			○	3	1						
		海外フィールド科学実習B	1・2通			4			○	3	1						
		小計(6科目)	—		0	0	12	—			3	1	0	0	0	0	
合計(585科目)		—		3	1,169	77	—			95	121	4	36	0	174		
学位又は称号		修士(学術)、修士(理学)、 修士(工学)、修士(農学)			学位又は学科の分野				理学関係、工学関係、農学関係								

教 育 課 程 等 の 概 要																
(総合学術研究科 自然科学専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を 除く） 教員	
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等									
〈修了要件〉 学際的基盤科目から6単位以上、学位共通科目群から8単位以上、プログラム専門科目群から6単位以上、課題研究から8単位を含む、合計30単位以上を修得すること。 〈履修方法〉 1. 物質創成・基礎科学プログラム 1. 学際的分野科目群においては、必修4単位、選択必修2単位（「ライフ・イノベーションPBL(M)」ないしは「修士のためのキャリアマネジメントセミナー」）、計6単位を修得すること。 2. 学位共通科目群においては、以下に列挙する各分野科目群のうち、自らの研究課題（学位分野）に見合った1つないし2つの分野科目群から8単位を修得すること。なお、1つの分野科目群から修得した4単位をもって1モジュールとし、計2モジュールの修得を必要とする（2モジュールとも同じ分野科目群でも良いし、異なる分野科目群からでも良い）。 「物質宇宙基礎科学分野科目群（理学）」 「数理科学分野科目群（理学）」 「基礎化学分野科目群（理学）」 「物質材料科学分野科目群（工学）」 「素材創成化学分野科目群（工学）」 その他、研究課題に関して研究指導委員会が履修を認める分野科目群 なお、2つの分野科目群にまたがって履修する場合、同一の学位分野が付されたものである場合は学位の名称が学位分野のものとなり、異なる学位分野が付された分野科目群を選択した場合の学位の名称は「学術」とすることが基本となる。 3. プログラム専門科目群においては、物質創成・基礎科学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。 4. 課題研究は、プログラムが指定する課題研究Ⅰ～Ⅳを履修し、必修8単位を修得すること。 5. その他、学際的基盤科目群、学位共通科目群、プログラム専門科目群、特別履修コース科目群から2単位を修得すること（上記の1. ～4. で修得した単位を含まない）。 2. システム創成科学プログラム 1. 学際的分野科目群においては、必修4単位、選択必修2単位（「ライフ・イノベーションPBL(M)」ないしは「修士のためのキャリアマネジメントセミナー」）、計6単位を修得すること。 2. 学位共通科目群においては、以下に列挙する各分野科目群のうち、自らの研究課題（学位分野）に見合った1つないし2つの分野科目群から8単位を修得すること。なお、1つの分野科目群から修得した4単位をもって1モジュールとし、計2モジュールの修得を必要とする（2モジュールとも同じ分野科目群でも良いし、異なる分野科目群からでも良い）。 「先進機械システム分野科目群（工学）」 「電子情報通信システム分野科目群（工学）」 「人間情報システム分野科目群（工学）」 その他、研究課題に関して研究指導委員会が履修を認める分野科目群 なお、2つの分野科目群にまたがって履修する場合、同一の学位分野が付されたものである場合は学位の名称が学位分野のものとなり、異なる学位分野が付された分野科目群を選択した場合の学位の名称は「学術」とすることが基本となる。 3. プログラム専門科目群においては、システム創成科学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。 4. 課題研究は、プログラムが指定する課題研究Ⅰ～Ⅳを履修し、必修8単位を修得すること。 5. その他、学際的基盤科目群、学位共通科目群、プログラム専門科目群、特別履修コース科目群から2単位を修得すること（上記の1. ～4. で修得した単位を含まない）。 3. 生命環境・食料科学プログラム 1. 学際的分野科目群においては、必修4単位、選択必修2単位（「ライフ・イノベーションPBL(M)」ないしは「修士のためのキャリアマネジメントセミナー」）、計6単位を修得すること。 2. 学位共通科目群においては、以下に列挙する各分野科目群のうち、自らの研究課題（学位分野）に見合った1つないし2つの分野科目群から8単位を修得すること。なお、1つの分野科目群から修得した4単位をもって1モジュールとし、計2モジュールの修得を必要とする（2モジュールとも同じ分野科目群でも良いし、異なる分野科目群からでも良い）。 「基礎生命科学分野科目群（理学）」 「応用生命・食品科学分野科目群（農学）」 「生物資源科学分野科目群（農学）」 「流域環境学分野科目群（農学）」 「都市・環境デザイン分野科目群（工学）」 「地質学分野科目群（理学）」 「自然災害科学分野科目群（理学）」 その他、研究課題に関して研究指導委員会が履修を認める分野科目群 なお、2つの分野科目群にまたがって履修する場合、同一の学位分野が付されたものである場合は学位の名称が学位分野のものとなり、異なる学位分野が付された分野科目群を選択した場合の学位の名称は「学術」とすることが基本となる。 3. プログラム専門科目群においては、生命環境・食料科学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。 4. 課題研究は、プログラムが指定する課題研究Ⅰ～Ⅳを履修し、必修8単位を修得すること。 5. その他、学際的基盤科目群、学位共通科目群、プログラム専門科目群、特別履修コース科目群から2単位を修得すること（上記の1. ～4. で修得した単位を含まない）。							1 学年の学期区分					2期				
							1 学期の授業期間					15週				
							1 時限の授業の標準時間					90分				

教 育 課 程 等 の 概 要																
(総合学術研究科 自然科学専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く）教員	
4. アニメ・映像資源科学プログラム 1. 学際的分野科目群においては、必修4単位、選択必修2単位（「ライフ・イノベーションPBL(M)」ないしは「修士のためのキャリアマネジメントセミナー」）、計6単位を修得すること。 2. 学位共通科目群においては、以下に列挙する各分野科目群のうち、自らの研究課題（学位分野）に見合った1つないし2つの分野科目群から8単位を修得すること。なお、1つの分野科目群から修得した4単位をもって1モジュールとし、計2モジュールの修得を必要とする（2モジュールとも同じ分野科目群でも良いし、異なる分野科目群からでも良い）。 「映像資源文化分野科目群（文学）」 「映像資源科学分野科目群（工学）」 その他、研究課題に関して研究指導委員会が履修を認める分野科目群 ただし、「映像資源科学分野科目群（工学）」から1モジュール以上修得すること。 なお、2つの分野科目群にまたがって履修する場合、同一の学位分野が付されたものである場合は学位の名称が学位分野のものとなり、異なる学位分野が付された分野科目群を選択した場合の学位の名称は「学術」とすることが基本となる。 3. プログラム専門科目群においては、アニメ・映像資源科学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。 4. 課題研究は、プログラムが指定する課題研究Ⅰ～Ⅳを履修し、必修8単位を修得すること。 5. その他、学際的基盤科目群、学位共通科目群、プログラム専門科目群、特別履修コース科目群から2単位を修得すること（上記の1. ～4. で修得した単位を含まない）。 5. 日本酒学プログラム 1. 学際的分野科目群においては、必修4単位、選択必修2単位（「ライフ・イノベーションPBL(M)」ないしは「修士のためのキャリアマネジメントセミナー」）、計6単位を修得すること。 2. 学位共通科目群においては、以下に列挙する各分野科目群のうち、自らの研究課題（学位分野）に見合った1つないし2つの分野科目群から8単位を修得すること。なお、1つの分野科目群から修得した4単位をもって1モジュールとし、計2モジュールの修得を必要とする（2モジュールとも同じ分野科目群でも良いし、異なる分野科目群からでも良い）。 「日本酒生命食料科学分野科目群（農学）」 「日本酒経済経営分野科目群（経営学）」 その他、研究課題に関して研究指導委員会が履修を認める分野科目群 ただし、「日本酒生命食料科学分野科目群（農学）」から1モジュール以上修得すること。 なお、2つの分野科目群にまたがって履修する場合、同一の学位分野が付されたものである場合は学位の名称が学位分野のものとなり、異なる学位分野が付された分野科目群を選択した場合の学位の名称は「学術」とすることが基本となる。 3. プログラム専門科目群においては、日本酒学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。 4. 課題研究は、プログラムが指定する課題研究Ⅰ～Ⅳを履修し、必修8単位を修得すること。 5. その他、学際的基盤科目群、学位共通科目群、プログラム専門科目群、特別履修コース科目群から2単位を修得すること（上記の1. ～4. で修得した単位を含まない）。 6. 情報社会デザイン科学プログラム 1. 学際的分野科目群においては、必修4単位、選択必修2単位（「ライフ・イノベーションPBL(M)」ないしは「修士のためのキャリアマネジメントセミナー」）、計6単位を修得すること。 2. 学位共通科目群においては、以下に列挙する各分野科目群のうち、自らの研究課題（学位分野）に見合った1つないし2つの分野科目群から8単位を修得すること。なお、1つの分野科目群から修得した4単位をもって1モジュールとし、計2モジュールの修得を必要とする（2モジュールとも同じ分野科目群でも良いし、異なる分野科目群からでも良い）。 「情報工学分野科目群（工学）」 □データサイエンス分野科目群（工学）」 「社会システム工学分野科目群（工学）」 □経営学分野科目群（経営学）」 その他、研究課題に関して研究指導委員会が履修を認める分野科目群 なお、2つの分野科目群にまたがって履修する場合、同一の学位分野が付されたものである場合は学位の名称が学位分野のものとなり、異なる学位分野が付された分野科目群を選択した場合の学位の名称は「学術」とすることが基本となる。 3. プログラム専門科目群においては、情報社会デザイン科学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。 4. 課題研究は、プログラムが指定する課題研究Ⅰ～Ⅳを履修し、必修8単位を修得すること。 5. その他、学際的基盤科目群、学位共通科目群、プログラム専門科目群、特別履修コース科目群から2単位を修得すること（上記の1. ～4. で修得した単位を含まない）。																

教 育 課 程 等 の 概 要																
(総合学術研究科 自然科学専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員	
7. カーボンニュートラル融合科学プログラム 1. 学際的分野科目群においては、必修4単位、選択必修2単位（「ライフ・イノベーションPBL(M)」ないしは「修士のためのキャリアマネジメントセミナー」）、計6単位を修得すること。 2. 学位共通科目群においては、以下に列挙する各分野科目群のうち、自らの研究課題（学位分野）に見合った1つないし2つの分野科目群から8単位を修得すること。なお、1つの分野科目群から修得した4単位をもって1モジュールとし、計2モジュールの修得を必要とする（2モジュールとも同じ分野科目群でも良いし、異なる分野科目群からでも良い）。 「電気エネルギー総合理工学」 「熱・化学エネルギー総合理工学」 その他、研究課題に関して研究指導委員会が履修を認める分野科目群 なお、2つの分野科目群にまたがって履修する場合、同一の学位分野が付されたものである場合は学位の名称が学位分野のものとなり、異なる学位分野が付された分野科目群を選択した場合の学位の名称は「学術」とすることが基本となる。 3. プログラム専門科目群においては、カーボンニュートラル融合科学専門科目群から6単位を修得すること。 4. 課題研究は、プログラムが指定する課題研究Ⅰ～Ⅳを履修し、必修8単位を修得すること。 5. その他、学際的基盤科目群、学位共通科目群、プログラム専門科目群、特別履修コース科目群から2単位を修得すること（上記の1. ～4. で修得した単位を含まない）。 8. フィールド科学プログラム 1. 学際的分野科目群においては、必修4単位、選択必修2単位（「ライフ・イノベーションPBL(M)」ないしは「修士のためのキャリアマネジメントセミナー」）、計6単位を修得すること。 2. 学位共通科目群においては、以下に列挙する各分野科目群のうち、自らの研究課題（学位分野）に見合った1つないし2つの分野科目群から8単位を修得すること。なお、1つの分野科目群から修得した4単位をもって1モジュールとし、計2モジュールの修得を必要とする（2モジュールとも同じ分野科目群でも良いし、異なる分野科目群からでも良い）。 「地球惑星科学分野科目群」 「自然共生科学分野科目群」 その他、研究課題に関して研究指導委員会が履修を認める分野科目群 なお、2つの分野科目群にまたがって履修する場合、同一の学位分野が付されたものである場合は学位の名称が学位分野のものとなり、異なる学位分野が付された分野科目群を選択した場合の学位の名称は「学術」とすることが基本となる。 3. プログラム専門科目群においては、フィールド科学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。 4. 課題研究は、プログラムが指定する課題研究Ⅰ～Ⅳを履修し、必修8単位を修得すること。 5. その他、学際的基盤科目群、学位共通科目群、プログラム専門科目群、特別履修コース科目群から2単位を修得すること（上記の1. ～4. で修得した単位を含まない）。 9. ヒト脳・健康科学プログラム 1. 学際的分野科目群においては、必修4単位、選択必修2単位（「ライフ・イノベーションPBL(M)」ないしは「修士のためのキャリアマネジメントセミナー」）、計6単位を修得すること。 2. 学位共通科目群においては、以下に列挙する各分野科目群のうち、自らの研究課題（学位分野）に見合った1つないし2つの分野科目群から8単位を修得すること。なお、1つの分野科目群から修得した4単位をもって1モジュールとし、計2モジュールの修得を必要とする（2モジュールとも同じ分野科目群でも良いし、異なる分野科目群からでも良い）。 「ヒト脳・健康科学Ⅰ分野科目群（理学）」 「ヒト脳・健康科学Ⅱ分野科目群（理学）」 その他、研究課題に関して研究指導委員会が履修を認める分野科目群 なお、2つの分野科目群にまたがって履修する場合、同一の学位分野が付されたものである場合は学位の名称が学位分野のものとなり、異なる学位分野が付された分野科目群を選択した場合の学位の名称は「学術」とすることが基本となる。 3. プログラム専門科目群においては、ヒト脳・健康科学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。 4. 課題研究は、プログラムが指定する課題研究Ⅰ～Ⅳを履修し、必修8単位を修得すること。 5. その他、学際的基盤科目群、学位共通科目群、プログラム専門科目群、特別履修コース科目群から2単位を修得すること（上記の1. ～4. で修得した単位を含まない）。																

教 育 課 程 等 の 概 要																
（人文学部人文学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
教養教育に関する授業科目	英語	アカデミック英語入門R	1①～②③～④		1		○			2	5				20	
		実践コミュニケーション英語 I	1①～②		1			○							5	
		アカデミック英語入門R	1①～②③～④		1			○		2	4				21	
		アカデミック英語入門L	1①～②③～④		1			○							13	
		中級コミュニケーション英語	1.2.3.4①～②③～④		2			○							10	メディア
		上級コミュニケーション英語	1.2.3.4①～②③～④		2			○							6	メディア
		TOEFL iBT Preparation I	1.2.3.4①～②③～④		2			○							2	
		TOEFL iBT Preparation II	1.2.3.4①～②		2			○		1					1	メディア
		IELTS Preparation I	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		IELTS Preparation II	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		実践コミュニケーション英語 II	1③～④		1			○							5	
		中級CALL（留学準備）	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	メディア
		中級EAP（Listening & Speaking）	2.3.4①～②③～④		2			○							2	
		中級EAP（Writing）	2.3.4①③④①～②③～④		2			○							2	
		上級EAP（Writing）	2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		中級EAP（Reading: Term Course）	2.3.4①		1			○							1	
		中級EAP（Listening & Speaking: Term Course）	2.3.4①②		1			○							1	
		上級EAP（Reading）	2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		中級EAP（Reading）	2.3.4①～②③～④		2			○							2	
		上級EAP（Listening & Speaking）	2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		iStep Extension: Academic Writing	1.2③～④		2			○							1	
		iStep Extension: Basic Pronunciation	1.2③～④		2			○							1	
		iStep Academic Writing	1.2②		0.5			○							1	
		iStep Extension: Academic Listening & Speaking	1.2③～④		2			○							2	
		iStep Extension: Academic Reading	1.2③～④		2			○							1	
		iStep Extension: Presentation	1.2③～④		2			○							1	
		iStep Presentations	1.2②		0.5			○							1	
		iStep Extension: Oral Communication	1.2③～④		2			○							1	
		iStep Academic Reading	1.2②		0.5			○							1	
		iStep Listening and Speaking	1.2②		0.5			○							1	
		英語表現セミナーA	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		英語表現セミナーB	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		英語表現セミナーC	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		実践英語セミナー	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		医療英語（看護）	1.2.3.4①～②		2			○							4	オムニバス
		医療英語（放射）	1.2.3.4①～②		2			○							14	オムニバス
		医療英語（検査）	1.2.3.4①～②		2			○							15	オムニバス
		医療英語ベーシック（放射）	1.2.3.4③～④		2			○							7	オムニバス
		P.A.C.E.（Academic Listening & Speaking）	1.2.3.4①		0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Academic Reading I）	1.2.3.4①		0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Academic Writing I）	1.2.3.4①		0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Oral Communication）	1.2.3.4①		0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Academic Writing II）	1.2.3.4②		0.5			○							2	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（人文学部人文学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
教養教育に関する授業科目	英語 P.A.C.E. (Academic Reading II)	1.2.3.4②			0.5			○							2	
	P.A.C.E. (Research Writing)	1.2.3.4③～④			1			○							2	
	P.A.C.E. (Academic Communication Skills)	1.2.3.4③～④			1			○							1	
	P.A.C.E. (Presentation Skills)	1.2.3.4③～④			1			○							1	
	小計 (47科目)	—	—	0	69	0	—			3	5	0	0	0	73	
初修外国語	ドイツ語圏グローバル理解 1 (スイス学入門)	1.2①②			1		○								1	メディア
	ドイツ語圏グローバル理解 2 (ドイツ語文化圏研究入門)	1.2①②			1		○								1	メディア
	ドイツ語圏グローバル理解 3 (ドイツ語圏で暮らしてみれば)	1.2①②			1		○								1	
	ドイツ語圏グローバル理解 4 (東西ドイツの分断と統一って?)	1.2①②			1		○								1	
	ドイツ語圏グローバル理解 5 (映像で見る日独文化比較)	1.2①②			1		○								1	
	フランス語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	
	フランス語圏グローバル理解 2	1.2①②			1		○								1	
	フランス語圏グローバル理解 3	1.2①②			1		○								1	
	ロシア語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	メディア
	中国語圏グローバル理解 1 (日中韓比較文化)	1.2①②			1		○								1	
	中国語圏グローバル理解 2 (映像で探る中国文化)	1.2①②			1		○								1	
	中国語圏グローバル理解 3 (多民族国家中国)	1.2①②			1		○								1	
	中国語圏グローバル理解 4 (漢文と中国語)	1.2③④			1		○								1	メディア
	中国語圏グローバル理解 5 (中国の生活と経済)	1.2①②			1		○								1	
	中国語圏グローバル理解 6 (中国滞在事情)	1.2①②			1		○								1	
	中国語圏グローバル理解 7 (エリアスタディーズ北京)	1.2①②			1		○								1	メディア
	中国語圏グローバル理解 8 (エリアスタディーズ上海)	1.2①②			1		○								1	メディア
	中国語圏グローバル理解 9 (エリアスタディーズ東北)	1.2①②			1		○								1	メディア
	中国語圏グローバル理解 10 (中国語の基礎知識)	1.2①②			1		○								1	
	中国語圏グローバル理解 11 (中国語の基礎知識)	1.2①②			1		○								1	
	中国語圏グローバル理解 12 (中国語の基礎知識)	1.2③④			1		○								1	
	朝鮮語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	メディア
	朝鮮語圏グローバル理解 2	1.2①②			1		○				1				1	メディア
	スペイン語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	
	イタリア語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○				1					メディア
	古代ローマ帝国ラテン語	1.2.3.4①			1		○			1						メディア
	古典古代ギリシア語	1.2.3.4②			1		○			1						メディア
	西洋古典文芸 A	1.2.3.4①			1		○			1						
	西洋古典文芸 B	1.2.3.4②			1		○			1						
	フィリピン語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	
	ドイツ語インテンシブ IA	1.2①			2			○			2				2	オムニバス
	ドイツ語インテンシブ IB	1.2②			2			○			2				2	オムニバス
	ドイツ語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							5	オムニバス
	ドイツ語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							5	オムニバス
	コミュニケーション・ドイツ語A	1.2.3.4①～②			2			○							1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（人文学部人文学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （ 助 手 を 除 く ） の 教 員	
教養教育に関する授業科目	初修外国語	コミュニケーション・ドイツ語B	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語C	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		ドイツ語セミナーA	1.2.3.4①～②		2			○			1					
		ドイツ語セミナーB	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		ドイツ語インテンシブ II	1.2③～④		4			○			2				2	オムニバス
		ドイツ語スタンダード II	1.2③～④		3			○							5	オムニバス
		ドイツ語エッセンシャル A	1.2③～④		2			○							2	
		ドイツ語エッセンシャル B1	1.2③～④		1			○							2	
		コミュニケーション・ドイツ語D	1.2.3.4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語E	1.2.3.4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語F	1.2.3.4③～④		2			○							1	
		ドイツ語セミナーC	1.2.3.4③～④		2			○			1					
		ドイツ語セミナーD	1.2.3.4③～④		2			○							1	
		フランス語インテンシブ IA	1.2①		2			○		2					1	オムニバス
		フランス語インテンシブ IB	1.2②		2			○		2					1	オムニバス
		フランス語スタンダード IA	1.2①		1.5			○							5	メディア、オムニバス
		フランス語スタンダード IB	1.2②		1.5			○							5	メディア、オムニバス
		コミュニケーション・フランス語B	1.2.3.4①～②		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・フランス語C	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語D	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語E	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語J	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		フランス語セミナーA	1.2.3.4①～②		2			○							1	メディア
		フランス語インテンシブ II	1.2③～④		4			○		2					1	オムニバス
		フランス語スタンダード II	1.2③～④		3			○							5	メディア、オムニバス
		フランス語エッセンシャル A	1.2③～④		2			○							2	
		フランス語エッセンシャル B	1.2③～④		1			○							2	
		フランス学アクティブ	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語G	1.2.3.4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語H	1.2.3.4③～④		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・フランス語K	1.2.3.4③～④		2			○							1	
		フランス語セミナーB	1.2.3.4③～④		2			○							1	メディア
		ロシア語インテンシブ IA	1.2①		2			○							2	オムニバス
		ロシア語インテンシブ IB	1.2②		2			○							2	オムニバス
		ロシア語スタンダード IA	1.2①		1.5			○							2	オムニバス
		ロシア語スタンダード IB	1.2②		1.5			○							2	オムニバス
		コミュニケーション・ロシア語A	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・ロシア語B	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		ロシア語セミナーA	1.2.3.4①～②		2			○		1						
		ロシア語ベーシックプラスA	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		ロシア語インテンシブ II	1.2③～④		4			○		1					1	オムニバス
		ロシア語スタンダード II	1.2③～④		3			○							2	オムニバス
		ロシア語エッセンシャル A	1.2③～④		2			○							2	オムニバス
		ロシア語エッセンシャル B	1.2④		1			○							1	メディア
		コミュニケーション・ロシア語C	1.2.3.4③～④		2			○							1	メディア
		ロシア語セミナーB	1.2.3.4③～④		2			○							1	メディア
		中国語インテンシブ IA	1.2①		2			○			2				4	メディア、オムニバス
		中国語インテンシブ IB	1.2②		2			○			2				4	メディア、オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要																
（人文学部人文学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
教養教育に関する授業科目	初修外国語	中国語スタンダード IA			1.5			○							11	メディア
		中国語スタンダード IB			1.5			○							11	
		コミュニケーション・中国語A			2			○							1	
		コミュニケーション・中国語B			2			○							1	
		コミュニケーション・中国語C			2			○							1	
		コミュニケーション・中国語J			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・中国語M			2			○							1	
		中国語セミナーE			2			○							1	
		中国語セミナーF			2			○							1	
		中国語セミナーQ			2			○							1	
		中国語インテンシブ II			4			○			2				4	オムニバス
		中国語スタンダード II			3			○							11	メディア、オムニバス
		中国語エッセンシャル A（発音・文法）			2			○							4	オムニバス
		中国語エッセンシャル B（練習・会話）			1			○							1	
		コミュニケーション・中国語D			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・中国語E			2			○							1	
		コミュニケーション・中国語F			2			○							1	
		コミュニケーション・中国語K			2			○							1	メディア
		上海語演習			2			○							1	
		中国語セミナーG			2			○							1	
		中国語セミナーH			2			○							1	
		中国語セミナーN			2			○							1	
		朝鮮語インテンシブ IA			2			○			1				1	オムニバス
		朝鮮語インテンシブ IB			2			○			1				1	オムニバス
		朝鮮語スタンダード IA			1.5			○							2	メディア、オムニバス
		朝鮮語スタンダード IB			1.5			○							2	メディア、オムニバス
		コミュニケーション・朝鮮語I			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語J			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語K			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語H			2			○							1	メディア
		朝鮮語セミナーA			2			○							1	メディア
		朝鮮語インテンシブ II			4			○		1	1				1	オムニバス
		朝鮮語スタンダード II			3			○							2	メディア、オムニバス
		朝鮮語エッセンシャル A			2			○							1	
		朝鮮語エッセンシャル B			1			○							1	
		コミュニケーション・朝鮮語L			2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語X			2			○							1	
		朝鮮語セミナーB			2			○							1	メディア
		スペイン語スタンダード IA			1.5			○							1	
		スペイン語スタンダード IB			1.5			○							1	
		スペイン語スタンダード III			1			○							1	
		コミュニケーション・スペイン語A			2			○							1	
		スペイン語セミナーA			2			○							1	
		スペイン語スタンダード II			3			○							1	
		スペイン語スタンダード IV			1			○							1	
		スペイン語エッセンシャル A			2			○							1	
		スペイン語エッセンシャル B			1			○							1	
		コミュニケーション・スペイン語B			2			○							1	

教 育 課 程 等 の 概 要

（人文学部人文学科）【基礎学部】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
教養教育に関する授業科目	初修外国語	イタリア語スタンダード IA	1.2①		1.5			○			1				1	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード IB	1.2②		1.5			○			1				1	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード III	1.2①～②		1			○							1	メディア
		コミュニケーション・イタリア語A	1.2.3.4①～②		2			○							1	メディア
		イタリア語スタンダード II	1.2③～④		3			○			1				1	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード IV	1.2③～④		1			○							1	メディア
		コミュニケーション・イタリア語B	1.2.3.4③～④		2			○							1	メディア
		古代エジプト神聖文字文A	1.2.3.4③		1			○		1						メディア
		古代エジプト神聖文字文B	1.2.3.4④		1			○		1						メディア
		フィリピン語エッセンシャル A	1.2③～④		2			○							1	
		フィリピン語エッセンシャル B	1.2③～④		1			○							1	
		小計（142科目）	—	—	0	251	0	—		5	7	0	0	0	43	
健康・スポーツ	健康スポーツ科学実習 Ia	1.2.3.4①			0.5				○						2	
	健康スポーツ科学実習 Ib	1.2.3.4②			0.5				○						2	
	健康スポーツ科学実習 I	1.2.3.4①～②③～④			1				○						16	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II（ゴルフ）	1.2.3.4①～②			1				○						3	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II（ソフトボール）	1.2.3.4①～②			1				○						1	
	健康スポーツ科学実習 II（スキー I）	1.2.3.4③～④			1				○						8	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II（スキー II）	1.2.3.4③～④			1				○						8	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II（卓球 II）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
	健康スポーツ科学実習 II（卓球 I）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
	健康スポーツ科学実習 II（剣道）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
	健康スポーツ科学実習 II（トレーニング）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
	健康スポーツ科学実習 II（野外活動）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
	健康スポーツ科学講義a	1.2.3.4①③			1		○								4	オムニバス
	健康スポーツ科学講義b	1.2.3.4②④			1		○								4	オムニバス
	健康スポーツ科学講義	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
	小計（15科目）	—	—	0	15	0	—			0	0	0	0	0	26	
情報リテラシー	データサイエンス基礎演習	1.2.3.4①②③④			2			○							10	
	データサイエンス総論 I	1.2.3.4①③			1		○								7	オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門（力学分野）	1.2.3.4①			2		○								2	※演習、オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門（化学材料分野）	1.2.3.4①			2		○								2	※演習、オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門（融合領域分野）	1.2.3.4①			2		○								2	※演習、オムニバス
	情報リテラシー概論	1.2.3.4①			2		○								6	オムニバス
	データサイエンス総論 II	1.2.3.4②④			1		○								7	オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門（情報電子分野）	1.2.3.4②			2		○								3	※演習、オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門（建築分野）	1.2.3.4②			2		○								2	※演習、オムニバス
	情報リテラシー	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	情報処理概論A I	1.2.3.4①～②			2		○								1	
	人工知能入門	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
	データサイエンス・インターンシップ（事前・事後指導）	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	データサイエンス・インターンシップ	1.2.3.4①～②			6			○							1	
	情報処理概論A II	1.2.3.4③～④			2		○								1	
	データサイエンス発表	1.2.3.4③～④			2			○							1	
	サイバーセキュリティと情報倫理	1.2.3.4①			2		○								1	
	小計（17科目）	—	—	0	36	0	—			0	0	0	0	0	33	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（人文学部人文学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
教養教育に関する授業科目	新潟大学個性化科目															
	日本酒学C	1. 2. 3. 4②			1		○								5	オムニバス
	日本酒学A	1. 2. 3. 4①～②			2		○							1	3	オムニバス
	キャリアデザイン	1. 2. 3. 4①～②			2		○				1				2	オムニバス
	SDGs入門演習	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	メディア
	新潟産業フィールドワーク	1. 2. 3. 4①～②			4		○				1				1	※演習、オムニバス
	新潟の農林業	1. 2. 3. 4③			2		○								11	メディア、オムニバス
	食と健康の科学	1. 2. 3. 4④			2		○								13	オムニバス
	土と水	1. 2. 3. 4④			2		○								14	オムニバス
	近世越後諸地域の歴史と社会	1. 2. 3. 4③～④			2		○			1					4	オムニバス
	SDGs入門	1. 2. 3. 4③～④			2		○								5	オムニバス
	地域を探究	1. 2. 3. 4③～④			2		○			4	6			1	3	オムニバス
	日本酒学B	1. 2. 3. 4①～④			1		○							1	8	オムニバス
	ダブルホーム活動入門Ⅰ	1. 2. 3. 4①			1		○								3	※演習、オムニバス
	生まれ変わる地方小都市一人とまちの未来図を描くー	1. 2. 3. 4①			2			○							1	メディア
	自己・他者理解から始まるキャリア自律	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	※演習、オムニバス
	仕事・業界理解から働く意味を探究する	1. 2. 3. 4③			2		○								2	※演習、オムニバス
	ダブルホーム活動入門Ⅱ	1. 2. 3. 4②			1			○							3	メディア、オムニバス
	ボランティア開発論Ⅰ	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	オムニバス
	コミュニティ開発論Ⅰ	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	オムニバス
	地域から文化を考える	1. 2. 3. 4①～②			2		○				1				4	※実験・実習、オムニバス
	学校支援フィールドワークA（小学校）	1. 2. 3. 4①～②			2			○							3	オムニバス
	学校支援フィールドワークA（中学校）	1. 2. 3. 4①～②			2			○							3	オムニバス
	学校支援フィールドワークA（高等学校）	1. 2. 3. 4①～②			2			○							3	オムニバス
	学校支援フィールドワークB（小学校）	1. 2. 3. 4①～②			4			○							3	オムニバス
	学校支援フィールドワークB（中学校）	1. 2. 3. 4①～②			4			○							3	オムニバス
	授業フィールドワーク	1. 2. 3. 4①～②			2				○						2	オムニバス
	現場訪問とデータから読み解く新潟の今ー新潟地域産業の可能性を探究ーⅠ	1. 2. 3. 4①～②			2			○							2	※実験・実習、オムニバス
	生涯学習社会とメディア	1. 2. 3. 4③			2		○								1	
	私のローカルキャリア論ー地域とかわる多様な働きかた・暮らしかたー	1. 2. 3. 4③			2		○								1	※演習、メディア
	ボランティア開発論Ⅱ	1. 2. 3. 4③～④			2		○								2	オムニバス
	コミュニティ開発論Ⅱ	1. 2. 3. 4③～④			2		○								2	オムニバス
	現場訪問とデータから読み解く新潟の今ー新潟地域産業の可能性を探究ーⅡ	1. 2. 3. 4③～④			2			○							2	※実験・実習、オムニバス
	地域共創演習Ⅲb	1. 2. 3. 4③～④			1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
	地方小都市の未来創造-市民と学生による地域づくりの実践	1. 2. 3. 4①～④			4			○							2	※実験・実習、オムニバス
	地域共創演習Ⅰ	1. 2. 3. 4①～④			1			○							4	※講義、実験・実習、オムニバス
	地域共創演習Ⅱa	1. 2. 3. 4①～④			1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要																
（人文学部人文学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員	
教養教育に関する授業科目	新潟大学個性化科目															
	地域共創演習Ⅱb	1.2.3.4①～④			1			○							5	※講義、実験・実習 メディア、オムニバス
	地域共創演習Ⅰb	1.2.3.4①～④			1			○							2	※実験・実習、オムニバス
	地域共創演習Ⅲa	1.2.3.4①～②			1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
	コミュニティインターンシップ実践	1.2.3.4①～④			4			○							1	※実験・実習
	日本手話A	1.2.3.4①			2		○				1				3	オムニバス
	アクティブラーニングA	1.2.3.4①②③④			1		○								1	
	アクティブラーニングC	1.2.3.4①②③④			1		○								1	
	日本と外国人	1.2.3.4①②③④			1		○								1	メディア
	ユーザのための数学Ⅰ	1.2.3.4①			2			○							1	
	教員志望者のための日本語教育入門 A	1.2.3.4①			1		○								1	
	分野横断デザイン	1.2.3.4①②③④			1		○								5	※演習、オムニバス
	分野横断リフレクション	1.2.3.4①②③④			1		○								5	※演習、オムニバス
	多文化間共修A1	1.2.3.4①③			1		○								1	
	多文化間共修B1	1.2.3.4①③			1		○								1	
	多文化間共修C1	1.2.3.4①③			1		○								1	メディア
	多文化間共修D1	1.2.3.4①③			1		○								1	
	リーダーシップ演習Ⅱ1	1.2.3.4①			1			○							3	オムニバス
	リーダーシップ演習Ⅲ1	1.2.3.4①			1			○							3	オムニバス
	アクティブラーニングB	1.2.3.4②④			1		○								1	
	日本手話B	1.2.3.4②			2		○				1				3	オムニバス
	1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムⅠ	1.2.3.4②			2			○							2	オムニバス
	税のしくみから社会を考える	1.2.3.4②			2		○								7	オムニバス
	教員志望者のための日本語教育入門 B	1.2.3.4②			1		○								1	
	地域災害環境システム学入門	1.2.3.4②			1		○								6	オムニバス
	中国留学準備講座 サマーセミナー中国入門	1.2.3.4②			1		○				1				1	オムニバス
	多文化間共修A2	1.2.3.4②④			1		○								1	
	多文化間共修B2	1.2.3.4②④			1		○								1	
	多文化間共修C2	1.2.3.4②④			1		○								1	メディア
	多文化間共修D2	1.2.3.4②④			1		○								1	
	リーダーシップ演習Ⅱ2	1.2.3.4②			1			○							3	オムニバス
	リーダーシップ演習Ⅲ2	1.2.3.4②			1			○							3	オムニバス
	新聞を体験するー新潟日報との連携授業ー	1.2.3.4①～②			2		○						1		1	オムニバス
	平和を考えるA	1.2.3.4①～②			2		○			1	1				3	オムニバス
	パフォーマンスの外国語	1.2.3.4①～②			2		○								1	
	国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションA	1.2.3.4①～②			2		○								1	
	国際共修：留学生との協働学習を通じた異文化理解A	1.2.3.4①～②			2		○								1	
	International Relations in the Asia-Pacific	1.2.3.4①～②			2		○								1	※演習
	Regionalism in the Asia-Pacific Region	1.2.3.4①～②			2		○								1	※演習
	Chinese Politics and Diplomacy	1.2.3.4①～②			2		○								1	
	生命保険を考える	1.2.3.4①～②			2		○								8	オムニバス
	ストレスマネジメント	1.2.3.4①～②			2		○								1	※演習
	パーソナルファイナンス論	1.2.3.4①～②			2		○								1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（人文学部人文学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年度	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員	
教養教育に関する授業科目	新潟大学個性化科目 学生がデザインする働き方の未来ー人生100年時代のワークスタイルを創造するー	1. 2. 3. 4②～③			2		○								1	※演習
	学問の扉 知と方法の最前線	1. 2. 3. 4③～④			1		○								12	メディア、オムニバス
	平和と現代のグローバル安全保障論	1. 2. 3. 4①～②			2		○							1		
	中東イスラーム言語文化入門	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	大学生のための役に立つ育児学	1. 2. 3. 4①～②			1		○								7	オムニバス
	朱鷺・自然再生フィールドワーク	1. 2. 3. 4①～②			1				○						4	オムニバス
	1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムⅡ	1. 2. 3. 4①～②			4				○						2	オムニバス
	表現プロジェクト演習Q	1. 2. 3. 4①～②			2			○			1				1	オムニバス
	異文化と技術	1. 2. 3. 4①～②③～④			1		○								7	オムニバス
	研究者の仕事と生活	1. 2. 3. 4①～②			1		○								6	メディア、オムニバス
	地理情報システム（GIS）概論・演習	1. 2. 3. 4①～②			2			○		1					2	オムニバス
	森・里・海フィールド実習	1. 2. 3. 4①～②			1				○						8	オムニバス
	開発・環境と平和	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	西シドニー大学国際交流プログラムA	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	
	韓国サマースクールⅠ	1. 2. 3. 4①～②			2			○			1					
	西シドニー大学国際交流プログラムB	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	
	多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-W	1. 2. 3. 4①～②			4		○								1	
	カナダ・サマーセミナー	1. 2. 3. 4①～②			4			○							1	
	オタゴ大学英語研修	1. 2. 3. 4①～②			4			○							1	
	新潟の企業の魅力を探る	1. 2. 3. 4①～②③～④			1				○						1	
	1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムⅠ（集中・短縮版）	1. 2. 3. 4①～②			1			○							2	オムニバス
	1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムⅡ（短縮版）	1. 2. 3. 4①～②			2				○						2	オムニバス
	オンライン国際共修型プロジェクト	1. 2. 3. 4①～②			1		○								6	※演習、メディア、オムニバス
	韓国サマーセミナーⅠ	1. 2. 3. 4①～②			2			○			1					
	平和学概論	1. 2. 3. 4③			2		○								1	
	表現プロジェクト演習T	1. 2. 3. 4③			2			○			1					
	地域災害環境システム学演習	1. 2. 3. 4③			1			○							6	オムニバス
	トキをシンボルとした自然再生	1. 2. 3. 4③			2		○								9	オムニバス
	キャリア形成と法制度	1. 2. 3. 4③			2		○								1	
	表現プロジェクト演習G	1. 2. 3. 4③			2			○			1					
	ユーザのための数学Ⅱ	1. 2. 3. 4③			2			○							1	
	教員志望者のための日本語教育入門 C	1. 2. 3. 4③			1		○								1	
	国際共修：留学生と考える日中言語文	1. 2. 3. 4③			1		○								1	
	西洋カリグラフィーA	1. 2. 3. 4③			1		○			1						メディア
	リーダーシップ演習Ⅱ3	1. 2. 3. 4③			1			○							3	オムニバス
	教員志望者のための日本語教育入門 D	1. 2. 3. 4④			1		○								1	
	大学生活戦略論ーキャンパス内外を「越境」する学び・経験ー	1. 2. 3. 4④			2		○								1	
	シンガポール・スプリングセミナー留学プログラムの準備講座：グローバル対応力育成・強化	1. 2. 3. 4④			1		○								2	※演習、オムニバス
	オックスフォード大学英語研修（OSS留学プログラム）の準備講座：グローバル対応力育成・強化	1. 2. 3. 4④			1			○							3	オムニバス
	西洋カリグラフィーB	1. 2. 3. 4④			1		○			1						メディア
	佐渡学概論：佐渡島の自然と人々の営	1. 2. 3. 4④			2		○								4	オムニバス
	リーダーシップ演習Ⅰ	1. 2. 3. 4④			1			○							3	オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要																
（人文学部人文学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員	
教養教育に関する授業科目	新潟大学個性化科目	リーダーシップ演習Ⅱ4	1. 2. 3. 4④		1			○		1					3	オムニバス
		ピアサポート入門	1. 2. 3. 4③～④		2		○								2	※演習、オムニバス
		表現プロジェクト演習H	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	オムニバス
		平和を考えるB	1. 2. 3. 4③～④		2		○							1	9	オムニバス
		国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションB	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
		国際共修：留学生との協働学習を通じた異文化理解B	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
		The China-Japan-US Trilateral Relations	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	※演習
		グローバル課題を理解する対応力の基礎講座	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	※演習
		現代社会と差別	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	※演習
		地理情報システム（GIS）概論・応用演習	1. 2. 3. 4③～④		2			○							2	オムニバス
		オックスフォード大学英語研修	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		台湾スプリングセミナーⅠ	1. 2. 3. 4③～④		2		○								5	オムニバス
		台湾スプリングセミナーⅡ	1. 2. 3. 4③～④		2		○								5	オムニバス
		シンガポール・スプリングセミナー	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-S	1. 2. 3. 4③～④		4		○								1	
		フィリピンALLC英語研修	1. 2. 3. 4③～④		4			○		1						
		佐渡自然共生国際実習	1. 2. 3. 4①～④		2				○						5	オムニバス
		地域共創特別演習（岩室）	1. 2. 3. 4①～④		2			○		1						
		地域共創特別演習ⅠA（刈羽&東京）	1. 2. 3. 4①～②		2			○							3	オムニバス
		地域共創特別演習ⅠB（刈羽&東京）	1. 2. 3. 4③～④		2			○							3	オムニバス
小計（140科目）		—	—	0	250	0	—			7	13	0	1	1	181	
留学生基本科目		英語による日本語文法解説a	1. 2. 3. 4①		1		○								1	
		中国語による日本語文法解説a	1. 2. 3. 4①		1		○								1	
		日本語Ⅰ	1. 2. 3. 4①③		2			○							2	メディア、オムニバス
		日本語Ⅲ	1. 2. 3. 4①③		2			○							1	
		英語による日本語文法解説b	1. 2. 3. 4②		1		○								1	
		中国語による日本語文法解説b	1. 2. 3. 4②		1		○								1	
		日本語Ⅱ	1. 2. 3. 4②④		2			○							1	メディア
		日本語Ⅳ	1. 2. 3. 4②④		2			○							1	
		JLPT-N1 A	1. 2. 3. 4①～②		1			○							1	メディア
		JLPT-N2 A	1. 2. 3. 4①～②		1			○							1	
		日本語作文Ⅰ	1. 2. 3. 4①～②③～④		1			○							1	
		日本語作文Ⅱ	1. 2. 3. 4①～②③～④		1			○							1	
		日本語作文Ⅲ	1. 2. 3. 4①～②③～④		1			○							1	
		日本語作文Ⅳ	1. 2. 3. 4①～②③～④		1			○							1	
		日本語読解Ⅰ	1. 2. 3. 4①～②③～④		1			○							1	
		日本語読解Ⅱ	1. 2. 3. 4①～②③～④		1			○							1	
		日本語読解Ⅲ	1. 2. 3. 4①～②③～④		1			○							1	
		日本語読解Ⅳ	1. 2. 3. 4①～②③～④		1			○							1	
		日本語読解Ⅴ	1. 2. 3. 4①～②③～④		1			○							1	
		日本語読解Ⅵ	1. 2. 3. 4①～②③～④		1			○							1	
		日本語入門	1. 2. 3. 4①～②③～④		3			○							2	
		日本語Ⅴ	1. 2. 3. 4①～②③～④		4			○							1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（人文学部人文学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
教養教育に関する授業科目	留学生基本科目	日本語Ⅵ	1. 2. 3. 4①～②		5			○							1	
		英語による日本語文法解説 c	1. 2. 3. 4③		1		○								1	
		中国語による日本語文法解説 c	1. 2. 3. 4③		1		○								1	
		英語による日本語文法解説 d	1. 2. 3. 4④		1		○								1	
		中国語による日本語文法解説 d	1. 2. 3. 4④		1		○								1	
		JLPT-N1 C	1. 2. 3. 4③～④		1			○							1	
		集中日本語 O F	1. 2. 3. 4③～④		5			○							3	オムニバス
		集中日本語 O G	1. 2. 3. 4③～④		5			○							3	オムニバス
		集中日本語 O H	1. 2. 3. 4③～④		5			○							3	オムニバス
		日本語Ⅶ	1. 2. 3. 4③～④		5			○							1	
		日本文化入門Ⅰ	1. 2. 3. 4①②③④		1			○							1	メディア
		日本文化入門Ⅱ	1. 2. 3. 4①②③④		1			○							1	
		日本事情自然系A	1. 2. 3. 4①～②		2		○								9	オムニバス
		課題研究Ⅱ	1. 2. 3. 4①～②		2			○							4	オムニバス
		ビジネス日本語	1. 2. 3. 4①～②③～④		2		○								1	
		日本で働く	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
		日本事情社会系A	1. 2. 3. 4③～④		2		○								4	メディア、オムニバス
		日本事情自然系B	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
		課題研究Ⅰ	1. 2. 3. 4③～④		2			○							4	オムニバス
	小計（41科目）	—	—	0	77	0	—			0	0	0	0	0	28	
大学学習法	人文初年次演習	1①	○	2				○			4	6		1		オムニバス
	スタディ・スキルズA	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	
	スタディ・スキルズB	1. 2. 3. 4①			2			○							8	オムニバス
	スタディ・スキルズC	1. 2. 3. 4①～②			2			○							3	オムニバス
	スタディ・スキルズE	1. 2. 3. 4①～②			2			○							5	オムニバス
	スタディ・スキルズF	1. 2. 3. 4①～②			2			○							5	オムニバス
	スタディ・スキルズG	1. 2. 3. 4①～②			2			○							6	オムニバス
	スタディ・スキルズH	1. 2. 3. 4①～②			2			○							4	オムニバス
	スタディ・スキルズI	1. 2. 3. 4①			2			○							3	オムニバス
	スタディ・スキルズK	1. 2. 3. 4①～②			2			○							5	オムニバス
	スタディ・スキルズL	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	
	スタディ・スキルズM	1. 2. 3. 4①			2			○							6	オムニバス
	スタディ・スキルズN	1. 2. 3. 4①～②			2			○		1					5	オムニバス
	スタディ・スキルズP	1. 2. 3. 4①～②			2			○							7	オムニバス
	スタディ・スキルズ	1. 2. 3. 4①			2			○							13	オムニバス
	スタディスキルズⅠ	1. 2. 3. 4①			1			○							10	オムニバス
	スタディスキルズⅡ	1. 2. 3. 4③			1			○							18	オムニバス
	スタディスキルズⅢ	1. 2. 3. 4④			1			○							2	オムニバス
	スタディスキルズ（看護）	1. 2. 3. 4①			2			○							5	オムニバス
	スタディスキルズ（放射）	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	
	スタディスキルズ（検査）	1. 2. 3. 4①～②			2			○							14	オムニバス
	歯学スタディ・スキルズ	1. 2. 3. 4①～②			2			○							8	オムニバス
	歯学スタディ・スキルズⅡ	1. 2. 3. 4①～②			2			○							6	オムニバス
	工学リテラシー入門（力学分野）	1. 2. 3. 4①			2			○							20	オムニバス
	工学リテラシー入門（情報電子分野）	1. 2. 3. 4①			2		○								20	※演習、オムニバス
	工学リテラシー入門（化学材料分野）	1. 2. 3. 4①			2			○							20	オムニバス
	工学リテラシー入門（建築分野）	1. 2. 3. 4①			2			○							12	オムニバス
	工学リテラシー入門（融合領域分野）	1. 2. 3. 4①			2			○							8	オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要																
（人文学部人文学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
教養教育に関する授業科目	大学 学習法	スタディ・スキルズAⅠa	1.2.3.4①		1			○							8	
		スタディ・スキルズAⅡa	1.2.3.4③		1			○							8	
		スタディ・スキルズAⅠb	1.2.3.4①		1			○							8	
		スタディ・スキルズAⅡb	1.2.3.4③		1			○							8	
		スタディ・スキルズAⅠc	1.2.3.4①		1			○							8	
		スタディ・スキルズAⅡc	1.2.3.4③		1			○							8	
	小計（34科目）	—	—	2	57	0	—			5	6	0	1	0	211	
自然科学系共通専門基礎	自然科学	解析学基礎1	1.2.3.4①		1		○								1	
		解析学基礎2	1.2.3.4②		1		○								1	
		数学基礎A1	1.2.3.4①③		1		○								3	オムニバス
		数学基礎A2	1.2.3.4②④		1		○								3	オムニバス
		数学基礎B1	1.2.3.4①③		1		○								4	オムニバス
		数学基礎B2	1.2.3.4②④		1		○								4	オムニバス
		統計学基礎1	1.2.3.4①③		1		○								3	オムニバス
		統計学基礎2	1.2.3.4②④		1		○								3	オムニバス
		物理学基礎AⅠ	1.2.3.4①①～②		2		○								2	オムニバス
		物理学基礎BⅠ	1.2.3.4①②①～②		2		○								6	オムニバス
		物理学基礎CⅠ	1.2.3.4①～②		2		○								1	
		物理学概論	1.2.3.4①～②③～④		2		○								2	オムニバス
		化学基礎A	1.2.3.4①②③		2		○								5	オムニバス
		化学基礎B	1.2.3.4①②④		2		○								3	オムニバス
		生物学基礎A	1.2.3.4①②①～②③		2		○								5	オムニバス
		生物学基礎B	1.2.3.4①②③③～④		2		○								5	オムニバス
		地学基礎A	1.2.3.4①③		2		○								2	オムニバス
		地学基礎B	1.2.3.4①		2		○								2	オムニバス
		物理学基礎AⅡ	1.2.3.4③～④		2		○								1	
		物理学基礎BⅡ	1.2.3.4④		2		○								4	オムニバス
		物理学基礎CⅡ	1.2.3.4③～④		2		○								1	
		地学基礎C	1.2.3.4④		2		○								1	
	小計（22科目）	—	—	0	36	0	—			0	0	0	0	0	49	
自然科学	リメディアル数学I	1.2.3.4①			1		○								4	オムニバス
	基礎数理AⅠ	1.2.3.4②④			2		○								5	オムニバス
	物理学への招待A	1.2.3.4②			2		○								1	
	生物学実験	1.2.3.4②			1				○						7	オムニバス
	基礎雪氷学	1.2.3.4②			2		○								5	オムニバス
	リメディアル数学IⅡ	1.2.3.4②			1		○								4	オムニバス
	生物学－植物A－	1.2.3.4②			2		○								2	オムニバス
	物理学基礎実験	1.2.3.4①～②			2				○						3	オムニバス
	地学実験A	1.2.3.4①～②			2				○						1	
	自然科学基礎実験	1.2.3.4①～②			2				○						20	オムニバス
	量子研究の最前線	1.2.3.4①～②			2		○								14	オムニバス
	数学の世界	1.2.3.4③			2		○								4	オムニバス
	基礎数理B	1.2.3.4③			2		○								5	オムニバス
	化学とSDGs	1.2.3.4③			2		○								3	オムニバス
	社会を支える有機化学	1.2.3.4③			2		○								1	
	生物学－動物A－	1.2.3.4③			2		○								1	
	地学E（地球理解の諸相）	1.2.3.4③			1		○								1	メディア
	地質学の基礎	1.2.3.4③			2		○								1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（人文学部人文学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （ 助 手 を 除 く ） の 教 員	
教養教育に関する授業科目	自然科学	地学実験B	1.2.3.4③		1				○						1	
		基礎数理A II	1.2.3.4④		2		○								5	オムニバス
		生物学－生物多様性A－	1.2.3.4④		2		○								2	オムニバス
		地学概論A	1.2.3.4①④		2		○								2	
		地球と気象	1.2.3.4④		2		○								1	
		地学C（マグマと火山）	1.2.3.4④		1		○								2	オムニバス
		物理学への招待B	1.2.3.4③～④		2		○								1	
		生活の化学	1.2.3.4③～④		2		○								1	
		地学概論	1.2.3.4③～④		2		○								1	
		最先端技術を支える化学 I	1.2.3.4①		2		○								9	メディア、オムニバス
		都市インフラを考える	1.2.3.4①		2			○							1	
		原子力・放射線物理学入門	1.2.3.4①		1		○								1	
		原子力・放射線防護学入門	1.2.3.4①		1		○								2	オムニバス
		生活を支える化学技術－化学工学への招待	1.2.3.4②		2		○								2	オムニバス
		原子力入門	1.2.3.4②		1		○								1	
		原子力・放射線関連法規入門	1.2.3.4②		1		○								2	オムニバス
		暮らしを支える機械システム工学	1.2.3.4③		2		○								13	オムニバス
		材料科学概論	1.2.3.4③		2		○								15	オムニバス
		放射性廃棄物処理法	1.2.3.4①		1		○								1	
		安全工学基礎	1.2.3.4④		2		○								1	オムニバス
		化学実験	1.2.3.4③～④		2				○						6	オムニバス
		特許・経営および製品開発入門	1.2.3.4①		2		○								8	オムニバス
		放射線入門と実習	1.2.3.4①～④		1				○						2	オムニバス
		原子力の未来と災害を考える	1.2.3.4①～④		1		○								3	オムニバス
		特許と技術経営I	1.2.3.4①～②		1		○								2	オムニバス
		特許と技術経営II	1.2.3.4③～④		1		○								3	オムニバス
		農業資源を知る	1.2.3.4①		2		○								8	オムニバス
		生命を知る	1.2.3.4①		2		○								13	メディア、オムニバス
		生態系を知る	1.2.3.4②		2		○								9	オムニバス
		農業DXを知る	1.2.3.4①～②		1		○								1	
		医学物理学入門	1.2.3.4③		1		○								8	オムニバス
		小計（49科目）	—	—	0	81	0	—	—	0	0	0	0	0	154	
人文社会・教育科学	歴史学I	1.2.3.4①			2		○								1	
	メディアの記号論	1.2.3.4①③			2		○								1	
	実験心理学と応用	1.2.3.4①			2		○									
	英語基礎 L	1.2.3.4①①～②			1			○					1		16	オムニバス
	技術日本語演習	1.2.3.4②			2			○							1	
	人文系フロンティア	1.2.3.4②			4		○			9	9		1		1	オムニバス
	現代日本と伝統文化	1.2.3.4②③④			2		○								1	
	歴史学Q	1.2.3.4②			2		○			1						
	英語基礎 R	1.2.3.4②①～②			1			○							14	オムニバス
	心理学	1.2.3.4①～②			2		○								1	
	日本語教育I－A	1.2.3.4①～②			2		○								1	
	少数民族の言語と文化	1.2.3.4①～②			2		○			1						
	教養の心理学	1.2.3.4①～②			2		○								1	
	音と音楽をめぐる科学と教養	1.2.3.4①～②			2		○								1	
	心と社会	1.2.3.4①～②			2		○			1						メディア
	哲学	1.2.3.4①～②			2			○			1					

教 育 課 程 等 の 概 要																
（人文学部人文学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
教養教育に関する授業科目	生涯学習概論	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	歴史学H	1. 2. 3. 4③			2		○								1	
	文学E	1. 2. 3. 4③			2		○				1					
	心理学概論	1. 2. 3. 4③			2		○								1	
	心と脳の科学リテラシー	1. 2. 3. 4③			2		○				1					
	現代社会論	1. 2. 3. 4③			2		○			1						
	人間関係論	1. 2. 3. 4③			2		○								1	
	現代社会と科学技術	1. 2. 3. 4③			2		○								1	
	文化人類学の方法―他者へのまなざし	1. 2. 3. 4③			2		○				1					
	アクターネットワークの社会学	1. 2. 3. 4③～④			2		○				1					
	歴史学0	1. 2. 3. 4③			2		○			1						
	中国語オプションA	1. 2. 3. 4③			2			○							1	
	意思決定のコミュニケーション論	1. 2. 3. 4④			2		○								1	
	つながりと絆の社会学	1. 2. 3. 4④			2		○				1					
	朝鮮語オプションB	1. 2. 3. 4③～④			2			○							1	
	音楽R	1. 2. 3. 4③～④			2		○				1				1	オムニバス
	対人行動の心理学	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	セクシュアリティ・スタディーズ	1. 2. 3. 4③～④			2		○				4				4	オムニバス
	人文系展開科目D	1. 2. 3. 4③～④			2		○			4	5			1	3	オムニバス
	日本古典文学N	1. 2. 3. 4③～④			2		○				1					
	日本古典文学0	1. 2. 3. 4①			2		○								1	
	文学D	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	西洋哲学演習	1. 2. 3. 4③～④			2			○			1					
	演劇入門	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	現代思想論	1. 2. 3. 4③～④			2		○				1					
	人文系展開科目I	1. 2. 3. 4③～④			2		○			1						
	日本語教育I－B	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	教養教育としての教育学入門	1. 2. 3. 4③			2			○							1	
	精神疾患とその治療	1. 2. 3. 4②			2		○								1	メディア
	公認心理師の職責	1. 2. 3. 4②			1		○						1		2	オムニバス
	ビジネス書道入門	1. 2. 3. 4①～②③～④			2		○								1	
	音楽(ピアノ)	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	
	水彩画表現入門	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	メディア
	美術史	1. 2. 3. 4①～②			2		○			1						メディア
	人体の構造と機能及び疾病	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	オムニバス
	福祉心理学	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	オムニバス
	教養を考える	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	※演習、オムニバス
	司法・犯罪心理学	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	臨床心理学概論	1. 2. 3. 4④			2		○								1	メディア
	音楽E	1. 2. 3. 4③～④			2			○							1	
	日本文化論	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	音楽（作曲）	1. 2. 3. 4③～④			2			○							1	
	心理演習	1. 2. 3. 4③～④			2			○							4	オムニバス
	心理的アセスメント	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	関係行政論	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	健康生活環境論	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	メディア
	心理実習	1. 2. 3. 4①～④			2				○						3	オムニバス
	人文社会科学入門（法学）	1. 2. 3. 4①			2		○								3	オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要																
（人文学部人文学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
教養教育に関する授業科目	人文社会・教育科学	リーガル・システムA	1. 2. 3. 4①		2		○								3	オムニバス
		日本国憲法	1. 2. 3. 4①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿		2		○								5	オムニバス
		リーガル・システム	1. 2. 3. 4②		2		○								3	オムニバス
		リーガル・システムB	1. 2. 3. 4②		2		○								3	オムニバス
		死因究明と法	1. 2. 3. 4③		2		○								5	オムニバス
		組織マネジメント論	1. 2. 3. 4①		2		○								1	
		マーケティングプロモーション入門	1. 2. 3. 4②		1		○								1	
		小計（71科目）	—	—	0	140	0	—	—	11	20	0	2	1	77	
	医歯学	はじめての医学	1. 2. 3. 4②		1		○								2	オムニバス
		先端医科学研究概説	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
		医学序説 I	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
		医学論文を読む（ジャーナルクラブ）A	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		原子力と倫理	1. 2. 3. 4④		1		○								4	オムニバス
		医学序説 II	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
		医学論文を読む（ジャーナルクラブ）B	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		健康と医学	1. 2. 3. 4③～④		2		○								5	オムニバス
		災害医療概論	1. 2. 3. 4①～④		1		○								1	
		原子力災害医療体制	1. 2. 3. 4①～④		1		○								1	※実験・実習
		災害医療ロジスティクス	1. 2. 3. 4①～④		1		○								1	
		「食べる」	1. 2. 3. 4①		2		○								14	オムニバス
		PBL入門	1. 2. 3. 4②		1		○								4	※演習、オムニバス
		健康福祉学入門	1. 2. 3. 4②		2		○								13	メディアオムニバス
		新潟発福祉学	1. 2. 3. 4③		2		○								10	オムニバス
		顔	1. 2. 3. 4③～④		2		○								12	オムニバス
		小計（16科目）	—	—	0	26	0	—	—	0	0	0	0	0	58	
専門教育に関する授業科目	入門講義	人文入門	1①	○	2		○			1	1					オムニバス
		心理・人間学入門	1③～④	○	2		○			3	6		1			オムニバス
		社会文化学入門A	1③～④	○	2		○			3	7		1			オムニバス
		社会文化学入門B	1③～④	○	2		○			6	3					オムニバス
		言語文化学入門A	1③～④	○	2		○			3	6					オムニバス
		言語文化学入門B	1④	○	2		○			6	4					オムニバス
		小計（6科目）	—	—	2	10	0	—	—	19	25	0	2	0	0	—
	基礎講義・実習・研究法	心理学概論A	2. 3①	○	2		○			1	1					隔年
		心理学概論B	2. 3②	○	2		○									
		知覚・認知心理学A	2. 3③～④	○	2		○				1	2				隔年
		学習・言語心理学	2. 3③	○	2		○									
		社会・集団・家族心理学	2. 3④	○	2		○			1						隔年
		産業・組織心理学	2. 3①～②	○	2		○				1					
		人間学概説	2. 3①	○	2		○								1	隔年
		哲学概説	2. 3①～②	○	2		○									
		倫理学概説	2. 3①②③④	○	2		○								1	標準外
		西洋哲学史概説	2. 3③～④	○	2		○				1					
		宗教学概説	2. 3②	○	2		○			1						標準外
		芸術学概説A	2. 3①～②	○	2		○			1						
		芸術学概説B	2. 3③	○	2		○				1					標準外
		古典語A	2. 3③～④	○	2		○			1						
		古典語B	2. 3③～④	○	2		○			1						標準外
		古典語C	2. 3③～④	○	2		○			1						
		社会学概説	2. 3①	○	2		○				1					標準外

基本計画書-52

教 育 課 程 等 の 概 要																
（人文学部人文学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
専門教育に関する授業科目	基礎講義・実習・研究法	Introduction to Transcultural Encounters B	2.3③～④	○	2		○			1						隔年
	心理学研究法	2.3③～④	○		2		○			1						隔年
	心理学統計法	2.3①～②	○		2		○				1					
	心理学実験A	2.3①～②	○		2				○	1	3		1			
	心理学実験B	2.3③～④	○		2				○	1	3		1			
	人間学研究法A	2.3①～②	○		2		○				1					
	人間学研究法B	2.3③～④	○		2		○				1					
	社会調査法A	2.3①	○		2		○				1					
	社会調査法B	2.3②	○		2		○				1					
	社会調査実習A	2.3①～②	○		1				○	1						
	社会調査実習B	2.3③～④	○		1				○	1						
	メディア論実習A	2.3①	○		1				○				1			
	メディア論実習B	2.3④	○		1				○						1	
	メディア論実習C	2.3③	○		1				○				1			
	メディア論実習D	2.3③～④	○		1				○		1					
	考古学実習A	2.3①～②	○		1				○		1		1			
	考古学実習B	2.3③～④	○		1				○		1					
	考古学実習C	2.3①②③④	○		1				○		1		1			標準外
	考古学実習D	2.3①②③④	○		1				○		1					標準外
	地理学実習A	2.3①～②	○		1				○	1						
	地理学実習B	2.3③～④	○		1				○	1						
	地理学実習C	2.3①～④	○		1				○	1						
	地理学実習D	2.3①～④	○		1				○	1						
	民俗学実習A	2.3①～②	○		1				○		1					
	民俗学実習B	2.3③～④	○		1				○		1					
	民俗学実習C	2.3①～②	○		1				○		1					
	民俗学実習D	2.3③～④	○		1				○		1					
	芸能論実習A	2.3①～④	○		1				○		1					
	芸能論実習B	2.3①～④	○		1				○		1					
	日本史実習A	2.3①～④	○		1				○	2	1					隔年
	日本史実習B	2.3①～②	○		1				○	1						隔年
	古文書実習A	2.3①～④	○		1				○	2	1					隔年
	古文書実習B	2.3①～②	○		1				○	1						隔年
	アジア史実習A	2.3①～②	○		1				○	1	1					隔年
	アジア史実習B	2.3③～④	○		1				○	1						隔年
	アジア史実習C	2.3①～②	○		1				○	1	1					隔年
	アジア史実習D	2.3③～④	○		1				○	1						隔年
	西洋歴史文化研究法A	2.3①～②	○		2		○			1						
	西洋歴史文化研究法B	2.3③～④	○		2		○			1						
	日本言語文化実習A	2.3①～②	○		1				○	1						
	日本言語文化実習B	2.3③～④	○		1				○	1						
	日本言語文化実習C	2.3①～②	○		1				○		1					
	日本言語文化実習D	2.3③～④	○		1				○		1					
	アジア言語文化研究法A	2.3①②③④	○		2		○								1	標準外、隔年
	アジア言語文化研究法B	2.3①～2.3④	○		2		○				1					隔年
	西洋言語文化研究法A	2.3①～②	○		2		○			1						隔年
	西洋言語文化研究法B	2.3③～④	○		2		○				1					隔年
	西洋言語文化研究法C	2.3①～②	○		2		○				2					隔年
	西洋言語文化研究法D	2.3③	○		2		○			1						隔年
	デジタル文献情報学研究法	2.3③～④	○		2		○								1	
	小計（116科目）	—	—	0	200	0	—	—	—	19	28	0	3	0	25	—

教 育 課 程 等 の 概 要																
（人文学部人文学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
専門教育に関する授業科目	心理学基礎演習	2.3①～②	○		2			○			2					
	人間学基礎演習A	2.3①～②	○		2			○			1					
	人間学基礎演習B	2.3①～②	○		2			○		1	2					
	人間学基礎演習C	2.3①～②	○		2			○		1						
	人間学基礎演習D	2.3③～④	○		2			○			1					
	社会文化学基礎演習A	2.3①～②	○		2			○			1					
	社会文化学基礎演習B	2.3④	○		2			○			1					
	情報メディア論基礎演習	2.3③	○		2			○		1						
	メディア社会文化論基礎演習	2.3①～②	○		2			○			1					
	歴史文化学基礎演習	2.3③～④	○		2			○			1					
	言語学基礎演習	2.3③～④	○		2			○		1						
	日本語文化基礎演習A	2.3①～②	○		2			○			1					
	日本語文化基礎演習B	2.3③～④	○		2			○			1					
	アジア言語文化基礎演習	2.3①～②	○		2			○			1					
	英米言語文化基礎演習A	2.3①～②	○		2			○			1					
	英米言語文化基礎演習B	2.3①～2.3～④	○		2			○		1						
	ドイツ言語文化基礎演習A	2.3①～②	○		2			○			1					
	ドイツ言語文化基礎演習B	2.3③～④	○		2			○			1					
	フランス言語文化基礎演習A	2.3①～②	○		2			○		1						
	フランス言語文化基礎演習B	2.3③～④	○		2			○		1						
	ロシア言語文化基礎演習A	2.3①～②	○		2			○							1	
	ロシア言語文化基礎演習B	2.3③～④	○		2			○			1					隔年
	小計（22科目）	—	—	0	44	0	—			7	16	0	0	0	1	—
発展講義	感情・人格心理学	3.4①～②	○		2		○			1						隔年
	知覚・認知心理学B	3.4②	○		2		○				1					隔年
	発達心理学	3.4③～④	○		2		○				1					隔年
	応用心理学	3.4③～④	○		2		○				1					隔年
	心理学特殊講義	3.4①②③④	○		2		○			1					2	標準外、隔年
	心理学特殊実験A	3.4①～②	○		2				○	1	3		1			
	心理学特殊実験B	3.4③～④	○		2				○	1	3		1			
	人間学特殊講義	3.4①	○		2		○								1	
	哲学研究A	3.4③～④	○		2		○				1					隔年
	哲学研究B	3.4③～④	○		2		○				1					隔年
	哲学研究C	3.4④	○		2		○				1				1	隔年
	西洋古代中世哲学史	3.4①②③④	○		2		○								1	標準外、隔年
	西洋近現代哲学史	3.4③～④	○		2		○				1					隔年
	倫理学研究A	3.4①②③④	○		2		○								1	標準外、隔年
	倫理学研究B	3.4①②③④	○		2		○								1	標準外、隔年
	哲学プラクティス	3.4②	○		2		○				1					隔年
	科学思想史	3.4③～④	○		2		○								1	
	宗教思想史A	3.4③～④	○		2		○			1						隔年
	宗教思想史B	3.4③	○		2		○			1						隔年
	比較文化史	3.4③～④	○		2		○				1					隔年
	視覚文化論	3.4①	○		2		○			1						隔年
	西洋美術史	3.4①～②	○		2		○									隔年
	比較芸術論	3.4③～④	○		2		○				1					隔年
	芸術表現論	3.4①	○		2		○				1					隔年
	造形芸術論	3.4①～②	○		2		○			1						隔年
	美学	3.4①②③④	○		2		○								1	標準外、隔年
	現代社会論A	3.4③	○		2		○								1	隔年
	現代社会論B	3.4①	○		2		○				1					隔年

教 育 課 程 等 の 概 要																
（人文学部人文学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
専門教育に関する授業科目	発展講義															
	家族社会学	3.4①	○		2		○				1					隔年
	社会意識論	3.4③	○		2		○				1					隔年
	地域社会学	3.4③	○		2		○					1				隔年
	社会福祉学	3.4①②③④	○		2		○								1	標準外、隔年
	情報メディア論A	3.4③～④	○		2		○				1					隔年
	情報メディア論B	3.4③～④	○		2		○				1					隔年
	メディア社会文化論A	3.4①～②	○		2		○					1				隔年
	メディア社会文化論B	3.4①～②	○		2		○					1				隔年
	メディア論特論A	3.44①②③④	○		2		○								1	標準外
	メディア論特論B	3.44①②③④	○		2		○								1	標準外
	文化人類学A	3.4③～④	○		2		○					1				隔年
	文化人類学B	3.44①②③④	○		2		○								1	標準外
	フィールドワーク	3.4③～④	○		2		○					2				隔年
	考古学A	3.44①②③④	○		2		○								1	標準外
	考古学B	3.4①	○		2		○					1				隔年
	地理学A	3.4②	○		2		○				1					標準外、隔年
	地理学B	3.44①②③④	○		2		○								1	隔年
	民俗文化論A	3.4③～④	○		2		○					1				標準外、隔年
	民俗文化論B	3.4①～②	○		2		○					1				隔年
	民俗文化論C	3.4③	○		2		○								1	隔年
	民俗文化論D	3.44①②③④	○		2		○								1	標準外、隔年
	芸能文化論A	3.4①	○		2		○					1				隔年
	芸能文化論B	3.4①	○		2		○					1				隔年
	博物館経営論	3.4③～④	○		2		○								1	標準外
	博物館資料論	3.4①～②	○		2		○								1	標準外
	博物館資料保存論	3.4③～④	○		2		○								1	標準外
	博物館展示論	3.44①②③④	○		2		○								1	標準外
	博物館実習	3.4①～④	○		3				○			1				標準外
	ミュージアム論	3.4③～④	○		2		○					1				標準外、隔年
	日本国家史A	3.44①②③④	○		2		○				1					標準外、隔年
	日本国家史B	3.4①～②	○		2		○					1				隔年
	日本社会史A	3.4③	○		2		○				1					標準外
	日本社会史B	3.4④	○		2		○				1					標準外
	日本地域史A	3.4④	○		2		○				1					隔年
	日本地域史B	3.4①～②	○		2		○					1				隔年
	環東アジア社会論	3.4②	○		2		○					1				隔年
	中国社会論	3.4①～②	○		2		○				1					隔年
	朝鮮社会論	3.4①	○		2		○				1					隔年
	アジア歴史文化論A	3.4①～②	○		2		○				1					隔年
	アジア歴史文化論B	3.4①	○		2		○				1					隔年
	アジア歴史文化論C	3.4②	○		2		○					1				標準外、隔年
	西洋地域史A	3.44①②③④	○		2		○					1			1	標準外、隔年
	西洋地域史B	3.44①②③④	○		2		○								1	標準外、隔年
	西洋社会史A	3.4②	○		2		○					1				隔年
	西洋社会史B	3.4③	○		2		○					1				隔年
	西洋文化史A	3.4①	○		2		○				1					隔年
	西洋文化史B	3.4①	○		2		○				1					隔年
	言語体系論	3.4③～④	○		2		○				1					隔年
	言語行動論	3.4③～④	○		2		○				1					隔年
	日本古典文学論A	3.4①～②	○		2		○					1				隔年
	日本古典文学論B	3.4③～④	○		2		○					1				隔年

教 育 課 程 等 の 概 要																
（人文学部人文学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
専門教育に関する授業科目	発展講義	日本伝統文芸論A	3.4①～②	○	2		○				1					隔年
		日本伝統文芸論B	3.4①～2.3～④	○	2		○				1					隔年
		日本近代文学論A	3.4③～④	○	2		○			1						隔年
		日本近代文学論B	3.4③～④	○	2		○			1						隔年
		古代日本語論A	3.4①～②	○	2		○			1						隔年
		古代日本語論B	3.4③～④	○	2		○			1						隔年
		近代日本語論A	3.4①～②	○	2		○				1					隔年
		近代日本語論B	3.4③～④	○	2		○				1					隔年
		アジア言語文化論A	3.4①～②	○	2		○				1					隔年
		アジア言語文化論B	3.4①②③④	○	2		○								1	標準外
		中国言語文化論A	3.4③～④	○	2		○				1					隔年
		中国言語文化論B	3.4③～④	○	2		○				1					隔年
		中国文芸文化論A	3.4③～④	○	2		○				1					隔年
		中国文芸文化論B	3.4③～④	○	2		○				1					隔年
		中国思想文化論	3.4①②③④	○	2		○								1	標準外、隔年
		朝鮮言語文化論	3.4③～④	○	2		○				1					
		環東アジア言語文化論	3.4①～②	○	2		○			1						隔年
		英米文芸論	3.4③～④	○	2		○				1					
		ドイツ文芸論	3.4③～④	○	2		○								1	隔年
		フランス文芸論	3.4①～②	○	2		○			1						隔年
		ロシア文芸論	3.4③～④	○	2		○				1					
		英米文化論A	3.4①～②	○	2		○				1					
		英米文化論B	3.4③～④	○	2		○			1						
		英米言語論A	3.4①～②	○	2		○				1					
		英米言語論B	3.4③～④	○	2		○			1						隔年
		ドイツ言語文化論A	3.4①～②	○	2		○				1					隔年
		ドイツ言語文化論B	3.4③～④	○	2		○				1					隔年
		ドイツ言語文化論C	3.4①～②	○	2		○				1					隔年
		フランス言語文化論A	3.4③～④	○	2		○			1						
		フランス言語文化論B	3.4③～④	○	2		○			1						隔年
		フランス言語文化論C	3.4①②③④	○	2		○			1						標準外、隔年
		ロシア言語文化論A	3.4①～②	○	2		○				1					隔年
		ロシア言語文化論B	3.4①②③④	○	2		○								1	標準外
		ロシア言語文化論C	3.4①～②	○	2		○				1					隔年
		Transcultural Encounters A	3.4①～②	○	2		○			1						隔年
		Transcultural Encounters B	3.4①～②	○	2		○			1						隔年
		小計（115科目）	—	—	0	231	0	—	—	18	30	0	2	0	27	—
発展演習	心理学発展演習	3.4①～④	○		2			○		1	3					隔年
	哲学思想演習	3.4①～④	○		2			○			2					
	倫理学演習	3.4①～④	○		2			○			1					
	宗教学演習	3.4①～④	○		2			○		1						
	芸術学演習	3.4①～④	○		2			○		1	2					
	社会学演習	3.4①～④	○		2			○		1	2					
	情報メディア論演習	3.4①～④	○		2			○		1	1					
	メディア社会文化論演習	3.4①～④	○		2			○		1	1					
	文化人類学演習	3.4①～④	○		2			○			1					
	民俗学演習	3.4①～④	○		2			○			1					
	考古学演習	3.4①～④	○		2			○		1	1					
	地理学演習	3.4①～④	○		2			○		1						
	芸能論演習	3.4①～④	○		2			○			1					
	日本史演習	3.4①～④	○		2			○		2	1					

教 育 課 程 等 の 概 要																
(人文学部人文学科) 【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員(助手を除く)以外の教員	
専門教育に関する授業科目	発展演習	アジア史演習	3.4①～④	○		2			○		2	1				
		西洋史演習	3.4①～④	○		2			○		2	1				
		言語学演習	3.4①～④	○		2			○		1					
		日本言語文化演習	3.4①～④	○		2			○		2	3				
		アジア言語文化演習	3.4①～④	○		2			○			3				
		英米言語文化演習	3.4①～④	○		2			○		2	3				
		ドイツ言語文化演習	3.4①～④	○		2			○			2			1	
		フランス言語文化演習	3.4①～④	○		2			○		1				1	
		ロシア言語文化演習	3.4①～④	○		2			○			1			1	
		小計 (23科目)	—	—	0	46	0		—		19	29	0	0	0	3
卒業論文	卒業論文	4①～④	○	10	0	0			○		20	29				
	小計 (1科目)	—	—	10	0	0		—		20	29	0	0	0	0	—
合計 (877科目)		—	—	14	1569	0		—		20	30	0	3	1	671	—
学位又は称号		学士 (文学)				学位又は学科の分野				文学関係						
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等							
【心理・人間学プログラム】 本学に通算4年以上在学し、かつ所定の単位を修得すること。 所定の単位 ○教養教育に関する授業科目 <41単位> ・「英語」及び「初修外国語」から12単位 (英語2単位及び一つの初修外国語8単位を含む) ・健康・スポーツから1単位 (体育実技の授業科目から1単位を取得) ・新潟大学個性化科目から2単位 (「キャリアデザイン」及び表現プロジェクト演習の中から1科目2単位を修得) ・大学学習法から2単位 (「人文初年次演習」1科目2単位を修得) ・「情報リテラシー」, 「自然系共通専門基礎」, 「自然科学」及び「医歯学」から4単位 (情報リテラシーのうち, 「データサイエンス総論Ⅰ」又は「データサイエンス基礎演習」から1単位以上を修得) ・人文社会・教育科学から8単位 ・「英語」, 「初修外国語」, 「健康・スポーツ」, 「情報リテラシー」, 「新潟大学個性化科目」, 「留学生基本科目」, 「大学学習法」, 「自然系共通専門基礎」, 「自然科学」, 「人文社会・教育科学」及び「医歯学」から12単位 ○専門教育に関する授業科目 <60単位> ・入門講義から6単位 (「人文入門」1科目2単位を含む。) ・「基礎講義・実習・研究法」及び「基礎演習」から18単位 (「基礎講義・実習・研究法」は, 実習 (「博物館実習」は除く。) 及び研究法の授業科目2単位を含む) (「基礎演習」は心理・人間学プログラムにおいて指定する授業科目2単位を含む) ・発展講義から14単位 (心理・人間学プログラムにおいて指定する授業科目6単位を含む) ・発展演習から12単位 (心理・人間学プログラムにおいて指定する授業科目8単位を含む) ・卒業論文10単位 ○教養教育に関する授業科目及び専門教育に関する授業科目<23単位> ○合計124単位以上 (履修科目の登録の上限: 44単位 (年間))									1 学年の学期区分		4ターム					
									1 学期の授業期間		8週					
									1 時限の授業の標準時間		90分					

教 育 課 程 等 の 概 要																
（人文学部人文学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
【社会文化学プログラム】 本学に通算４年以上在学し、かつ所定の単位を修得すること。 所定の単位 ○教養教育に関する授業科目　＜４１単位＞ ・「英語」及び「初修外国語」から１２単位 （英語２単位及び一つの初修外国語８単位を含む） ・健康・スポーツから１単位（体育実技の授業科目から１単位を取得） ・新潟大学個性化科目から２単位 （「キャリアデザイン」及び表現プロジェクト演習の中から１科目 ２単位を修得） ・大学学習法から２単位（「人文初年次演習」１科目２単位を修得） ・「情報リテラシー」，「自然系共通専門基礎」，「自然科学」及び「医歯学」から４単位 （情報リテラシーのうち，「データサイエンス総論Ⅰ」又は「データサイエンス基礎演習」から１単位以上を修得） ・人文社会・教育科学から８単位 ・「英語」，「初修外国語」，「健康・スポーツ」，「情報リテラシー」，「新潟大学個性化科目」，「留学生基本科目」，「大学学習法」，「自然系共通専門基礎」，「自然科学」，「人文社会・教育科学」及び「医歯学」から１２単位 ○専門教育に関する授業科目　＜６０単位＞ ・入門講義から６単位 （「人文入門」１科目２単位を含む。） ・「基礎講義・実習・研究法」及び「基礎演習」から１８単位 （「基礎講義・実習・研究法」は，実習（「博物館実習」は除く。）及び研究法の授業科目２単位を含む） （「基礎演習」は社会文化学プログラムにおいて指定する授業科目２単位を含む） ・発展講義から１４単位 （社会文化学プログラムにおいて指定する授業科目６単位を含む） ・発展演習から１２単位 （社会文化学プログラムにおいて指定する授業科目８単位を含む） ・卒業論文１０単位 ○教養教育に関する授業科目及び専門教育に関する授業科目＜２３単位＞ ○合計１２４単位以上 （履修科目の登録の上限：４４単位（年間）） 【言語文化学プログラム】 本学に通算４年以上在学し、かつ所定の単位を修得すること。 所定の単位 ○教養教育に関する授業科目　＜４１単位＞ ・「英語」及び「初修外国語」から１２単位 （英語２単位及び一つの初修外国語８単位を含む） ・健康・スポーツから１単位（体育実技の授業科目から１単位を取得）																

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(人文学部人文学科) 【基礎学部】																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員(助手を除く)以外の教員		
・新潟大学個性化科目から2単位 （「キャリアデザイン」及び表現プロジェクト演習の中から1科目2単位を修得） ・大学学習法から2単位（「人文初年次演習」1科目2単位を修得） ・「情報リテラシー」，「自然系共通専門基礎」，「自然科学」及び「医歯学」から4単位 （情報リテラシーのうち，「データサイエンス総論Ⅰ」又は「データサイエンス基礎演習」から1単位以上を修得） ・人文社会・教育科学から8単位 ・「英語」，「初修外国語」，「健康・スポーツ」，「情報リテラシー」，「新潟大学個性化科目」，「留学生基本科目」，「大学学習法」，「自然系共通専門基礎」，「自然科学」，「人文社会・教育科学」及び「医歯学」から12単位 ○専門教育に関する授業科目　＜60単位＞ ・入門講義から6単位 （「人文入門」1科目2単位を含む。） ・「基礎講義・実習・研究法」及び「基礎演習」から18単位 （「基礎講義・実習・研究法」は，実習（「博物館実習」は除く。）及び研究法の授業科目2単位を含む） （「基礎演習」は言語文化学プログラムにおいて指定する授業科目2単位を含む） ・発展講義から14単位 （言語文化学プログラムにおいて指定する授業科目6単位を含む） ・発展演習から12単位 （言語文化学プログラムにおいて指定する授業科目8単位を含む） ・卒業論文10単位 ○教養教育に関する授業科目及び専門教育に関する授業科目＜23単位＞ ○合計124単位以上 （履修科目の登録の上限：44単位（年間））																	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（教育学部教員養成課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員	
教養教育に関する授業科目	英語	アカデミック英語入門R	1①～②③～④		1		○			3	2				22	
		実践コミュニケーション英語Ⅰ	1①～②		1			○							5	
		アカデミック英語入門R	1①～②③～④		1			○		3	2				22	
		アカデミック英語入門L	1①～②③～④		1			○							13	
		中級コミュニケーション英語	1.2.3.4①～②③～④		2			○							10	メディア
		上級コミュニケーション英語	1.2.3.4①～②③～④		2			○							6	メディア
		TOEFL iBT PreparationⅠ	1.2.3.4①～②③～④		2			○							2	
		TOEFL iBT PreparationⅡ	1.2.3.4①～②		2			○							2	メディア
		IELTS PreparationⅠ	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		IELTS PreparationⅡ	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		実践コミュニケーション英語Ⅱ	1③～④		1			○							5	
		中級CALL（留学準備）	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	メディア
		中級EAP（Listening & Speaking）	2.3.4①～②③～④		2			○							2	
		中級EAP（Writing）	2.3.4①③④①～②③～④		2			○							2	
		上級EAP（Writing）	2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		中級EAP（Reading: Term Course）	2.3.4①		1			○							1	
		中級EAP（Listening & Speaking: Term Course）	2.3.4①②		1			○							1	
		上級EAP（Reading）	2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		中級EAP（Reading）	2.3.4①～②③～④		2			○							2	
		上級EAP（Listening & Speaking）	2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		iStep Extension: Academic Writing	1.2③～④		2			○							1	
		iStep Extension: Basic Pronunciation	1.2③～④		2			○							1	
		iStep Academic Writing	1.2②		0.5			○							1	
		iStep Extension: Academic Listening & Speaking	1.2③～④		2			○							2	
		iStep Extension: Academic Reading	1.2③～④		2			○							1	
		iStep Extension: Presentation	1.2③～④		2			○							1	
		iStep Presentations	1.2②		0.5			○							1	
		iStep Extension: Oral Communication	1.2③～④		2			○							1	
		iStep Academic Reading	1.2②		0.5			○							1	
		iStep Listening and Speaking	1.2②		0.5			○							1	
		英語表現セミナーA	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		英語表現セミナーB	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		英語表現セミナーC	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		実践英語セミナー	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		医療英語（看護）	1.2.3.4①～②		2			○							5	オムニバス
		医療英語（放射）	1.2.3.4①～②		2			○							14	オムニバス
		医療英語（検査）	1.2.3.4①～②		2			○							15	オムニバス
		医療英語ベーシック（放射）	1.2.3.4③～④		2			○							7	オムニバス
		P.A.C.E.（Academic Listening & Speaking）	1.2.3.4①		0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Academic ReadingⅠ）	1.2.3.4①		0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Academic WritingⅠ）	1.2.3.4①		0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Oral Communication）	1.2.3.4①		0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Academic WritingⅡ）	1.2.3.4②		0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Academic ReadingⅡ）	1.2.3.4②		0.5			○							2	
		P.A.C.E.（Research Writing）	1.2.3.4③～④		1			○							2	
		P.A.C.E.（Academic Communication Skills）	1.2.3.4③～④		1			○							1	
		P.A.C.E.（Presentation Skills）	1.2.3.4③～④		1			○							1	
		小計（47科目）	—	—	0	69	0	—	—	3	2	0	0	0	76	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（教育学部教員養成課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （ 助 手 を 除 く ） の 教 員	
教 養 教 育 に 関 す る 授 業 科 目	初修外国語	ドイツ語圏グローバル理解 1（スイス学入門）	1.2①②		1		○								1	メディア
		ドイツ語圏グローバル理解 2（ドイツ語文化圏研究入門）	1.2①②		1		○								1	メディア
		ドイツ語圏グローバル理解 3（ドイツ語圏で暮らしてみれば）	1.2①②		1		○								1	
		ドイツ語圏グローバル理解 4（東西ドイツの分断と統一って？）	1.2①②		1		○								1	
		ドイツ語圏グローバル理解 5（映像で見る日独文化比較）	1.2①②		1		○								1	
		フランス語圏グローバル理解 1	1.2①②		1		○								1	
		フランス語圏グローバル理解 2	1.2①②		1		○								1	
		フランス語圏グローバル理解 3	1.2①②		1		○								1	
		ロシア語圏グローバル理解 1	1.2①②		1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 1（日中韓比較文化）	1.2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 2（映像で探る中国文化）	1.2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 3（多民族国家中国）	1.2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 4（漢文と中国語）	1.2③④		1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 5（中国の生活と経済）	1.2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 6（中国滞在事情）	1.2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 7（エリアスタディーズ北京）	1.2①②		1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 8（エリアスタディーズ上海）	1.2①②		1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 9（エリアスタディーズ東北）	1.2①②		1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 10（中国語の基礎知識）	1.2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 11（中国語の基礎知識）	1.2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 12（中国語の基礎知識）	1.2③④		1		○								1	
		朝鮮語圏グローバル理解 1	1.2①②		1		○								1	メディア
		朝鮮語圏グローバル理解 2	1.2①②		1		○								1	メディア
		スペイン語圏グローバル理解 1	1.2①②		1		○								1	
		イタリア語圏グローバル理解 1	1.2①②		1		○								1	メディア
		古代ローマ帝国ラテン語	1.2.3.4①		1		○								1	メディア
		古典古代ギリシア語	1.2.3.4②		1		○								1	メディア
		西洋古典文芸 A	1.2.3.4①		1		○								1	
		西洋古典文芸 B	1.2.3.4②		1		○								1	
		フィリピン語圏グローバル理解 1	1.2①②		1		○								1	
		ドイツ語インテンシブ IA	1.2①		2			○							4	オムニバス
		ドイツ語インテンシブ IB	1.2②		2			○							4	オムニバス
		ドイツ語スタンダード IA	1.2①		1.5			○							5	オムニバス
		ドイツ語スタンダード IB	1.2②		1.5			○							5	オムニバス
		コミュニケーション・ドイツ語A	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語B	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語C	1.2.3.4①～②		2			○							1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（教育学部教員養成課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （ 助 手 を 除 く ） の 教 員	
教 養 教 育 に 関 す る 科 目	初修外国語	ドイツ語セミナーA	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		ドイツ語セミナーB	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		ドイツ語インテンシブ II	1.2③～④		4			○							4	オムニバス
		ドイツ語スタンダード II	1.2③～④		3			○							5	オムニバス
		ドイツ語エッセンシャル A	1.2③～④		2			○							2	
		ドイツ語エッセンシャル B1	1.2③～④		1			○							2	
		コミュニケーション・ドイツ語D	1.2.3.4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語E	1.2.3.4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語F	1.2.3.4③～④		2			○							1	
		ドイツ語セミナーC	1.2.3.4③～④		2			○							1	
		ドイツ語セミナーD	1.2.3.4③～④		2			○							1	
		フランス語インテンシブ IA	1.2①		2			○							3	オムニバス
		フランス語インテンシブ IB	1.2②		2			○							3	オムニバス
		フランス語スタンダード IA	1.2①		1.5			○							5	メディア、オムニバス
		フランス語スタンダード IB	1.2②		1.5			○							5	メディア、オムニバス
		コミュニケーション・フランス語B	1.2.3.4①～②		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・フランス語C	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語D	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語E	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語J	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		フランス語セミナーA	1.2.3.4①～②		2			○							1	メディア
		フランス語インテンシブ II	1.2③～④		4			○							3	オムニバス
		フランス語スタンダード II	1.2③～④		3			○							5	メディア、オムニバス
		フランス語エッセンシャル A	1.2③～④		2			○							2	
		フランス語エッセンシャル B	1.2③～④		1			○							2	
		フランス学アクティブ	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語G	1.2.3.4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語H	1.2.3.4③～④		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・フランス語K	1.2.3.4③～④		2			○							1	
		フランス語セミナーB	1.2.3.4③～④		2			○							1	メディア
		ロシア語インテンシブ IA	1.2①		2			○							2	オムニバス
		ロシア語インテンシブ IB	1.2②		2			○							2	オムニバス
		ロシア語スタンダード IA	1.2①		1.5			○							2	オムニバス
		ロシア語スタンダード IB	1.2②		1.5			○							2	オムニバス
		コミュニケーション・ロシア語A	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・ロシア語B	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		ロシア語セミナーA	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		ロシア語ベーシックプラスA	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		ロシア語インテンシブ II	1.2③～④		4			○							2	オムニバス
		ロシア語スタンダード II	1.2③～④		3			○							2	オムニバス
		ロシア語エッセンシャル A	1.2③～④		2			○							2	オムニバス
		ロシア語エッセンシャル B	1.2④		1			○							1	メディア
		コミュニケーション・ロシア語C	1.2.3.4③～④		2			○							1	メディア
		ロシア語セミナーB	1.2.3.4③～④		2			○							1	メディア
		中国語インテンシブ IA	1.2①		2			○							6	メディア、オムニバス
		中国語インテンシブ IB	1.2②		2			○							6	メディア、オムニバス
		中国語スタンダード IA	1.2①		1.5			○			1				10	メディア
		中国語スタンダード IB	1.2②		1.5			○			1				10	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（教育学部教員養成課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
教養教育に関する科目	初修外国語	コミュニケーション・中国語A	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・中国語B	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・中国語C	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・中国語J	1.2.3.4①～②		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・中国語M	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		中国語セミナーE	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		中国語セミナーF	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		中国語セミナーQ	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		中国語インテンシブ II	1.2③～④		4			○							6	オムニバス
		中国語スタンダード II	1.2③～④		3			○			1				10	メディア、オムニバス
		中国語エッセンシャル A（発音・文法）	1.2③～④		2			○							4	オムニバス
		中国語エッセンシャル B（練習・会話）	1.2③～④		1			○							1	
		コミュニケーション・中国語D	1.2.3.4③～④		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・中国語E	1.2.3.4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・中国語F	1.2.3.4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・中国語K	1.2.3.4③～④		2			○							1	メディア
		上海語演習	1.2.3.4③～④		2			○							1	
		中国語セミナーG	1.2.3.4③～④		2			○							1	
		中国語セミナーH	1.2.3.4③～④		2			○							1	
		中国語セミナーN	1.2.3.4③～④		2			○							1	
		朝鮮語インテンシブ IA	1.2①		2			○							2	オムニバス
		朝鮮語インテンシブ IB	1.2②		2			○							2	オムニバス
		朝鮮語スタンダード IA	1.2①		1.5			○							2	メディア、オムニバス
		朝鮮語スタンダード IB	1.2②		1.5			○							2	メディア、オムニバス
		コミュニケーション・朝鮮語I	1.2.3.4①～②		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語J	1.2.3.4①～②		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語K	1.2.3.4①～②		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語H	1.2.3.4①～②		2			○							1	メディア
		朝鮮語セミナーA	1.2.3.4①～②		2			○							1	メディア
		朝鮮語インテンシブ II	1.2③～④		4			○							3	オムニバス
		朝鮮語スタンダード II	1.2③～④		3			○							2	メディア、オムニバス
		朝鮮語エッセンシャル A	1.2③～④		2			○							1	
		朝鮮語エッセンシャル B	1.2③～④		1			○							1	
		コミュニケーション・朝鮮語L	1.2.3.4③～④		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語X	1.2.3.4③～④		2			○							1	
		朝鮮語セミナーB	1.2.3.4③～④		2			○							1	メディア
		スペイン語スタンダード IA	1.2①		1.5			○							1	
		スペイン語スタンダード IB	1.2②		1.5			○							1	
		スペイン語スタンダード III	1.2①～②		1			○							1	
		コミュニケーション・スペイン語A	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		スペイン語セミナーA	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		スペイン語スタンダード II	1.2③～④		3			○							1	
		スペイン語スタンダード IV	1.2③～④		1			○							1	
		スペイン語エッセンシャル A	1.2③～④		2			○							1	
		スペイン語エッセンシャル B	1.2③～④		1			○							1	
		コミュニケーション・スペイン語B	1.2.3.4③～④		2			○							1	
		イタリア語スタンダード IA	1.2①		1.5			○							2	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード IB	1.2②		1.5			○							2	メディア、オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要

（教育学部教員養成課程）【基礎学部】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （ 助 手 を 除 く の 教 員	
教 養 教 育 に 関 する 科 目	イタリア語スタンダード III	1.2①～②			1			○							1	メディア
	コミュニケーション・イタリア語A	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
	イタリア語スタンダード II	1.2③～④			3			○							2	メディア、オムニバス
	イタリア語スタンダード IV	1.2③～④			1			○							1	メディア
	コミュニケーション・イタリア語B	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
	古代エジプト神聖文字文A	1.2.3.4③			1			○							1	メディア
	古代エジプト神聖文字文B	1.2.3.4④			1			○							1	メディア
	フィリピン語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							1	
	フィリピン語エッセンシャル B	1.2③～④			1			○							1	
	小計（142科目）	—	—	0	251	0	—			0	1	0	0	0	53	
健 康 ・ ス ポ ー ツ	健康スポーツ科学実習 Ia	1.2.3.4①			0.5				○						2	
	健康スポーツ科学実習 Ib	1.2.3.4②			0.5				○						2	
	健康スポーツ科学実習 I	1.2.3.4①～②③～④			1				○	1	1				14	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II（ゴルフ）	1.2.3.4①～②			1				○		1				2	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II（ソフトボール）	1.2.3.4①～②			1				○		1					
	健康スポーツ科学実習 II（スキー I）	1.2.3.4③～④			1				○		1				7	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II（スキー II）	1.2.3.4③～④			1				○		1				7	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II（卓球 II）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
	健康スポーツ科学実習 II（卓球 I）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
	健康スポーツ科学実習 II（剣道）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
	健康スポーツ科学実習 II（トレーニング）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
	健康スポーツ科学実習 II（野外活動）	1.2.3.4③～④			1				○						1	
	健康スポーツ科学講義a	1.2.3.4①③			1		○			2	1				1	オムニバス
	健康スポーツ科学講義b	1.2.3.4②④			1		○			1	1				2	オムニバス
	健康スポーツ科学講義	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
	小計（15科目）	—	—	0	15	0	—			2	2	0	0	0	22	
情 報 リ テ ラ シー	データサイエンス基礎演習	1.2.3.4①②③④			2			○							10	
	データサイエンス総論 I	1.2.3.4①③			1		○					1			6	オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門（力学分野）	1.2.3.4①			2		○								2	※演習、オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門（化学材料分野）	1.2.3.4①			2		○								2	※演習、オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門（融合領域分野）	1.2.3.4①			2		○								2	※演習、オムニバス
	情報リテラシー概論	1.2.3.4①			2		○								6	オムニバス
	データサイエンス総論II	1.2.3.4②④			1		○					1			6	オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門（情報電子分野）	1.2.3.4②			2		○								3	※演習、オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門（建築分野）	1.2.3.4②			2		○								2	※演習、オムニバス
	情報リテラシー	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	情報処理概論A I	1.2.3.4①～②			2		○								1	
	人工知能入門	1.2.3.4①～②			2		○								2	オムニバス
	データサイエンス・インターンシップ（事前・事後指導）	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	データサイエンス・インターンシップ	1.2.3.4①～②			6			○							1	
	情報処理概論A II	1.2.3.4③～④			2		○								1	
	データサイエンス発表	1.2.3.4③～④			2			○							1	
	サイバーセキュリティと情報倫理	1.2.3.4①			2		○								1	
	小計（17科目）	—	—	0	36	0	—			0	0	1	0	0	32	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(教育学部教員養成課程)【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 (助 手 を 除 く) 教 員	
教 養 教 育 に 関 す る 科 目	新潟大学個性化科目	1. 2. 3. 4②			1		○							1	5	オムニバス
	日本酒学C	1. 2. 3. 4①～②			2		○								3	オムニバス
	日本酒学A	1. 2. 3. 4①～②			2		○								3	オムニバス
	キャリアデザイン	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	メディア
	SDGs入門演習	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	※演習、オムニバス
	新潟産業フィールドワーク	1. 2. 3. 4①～②			4		○								11	メディア、オムニバス
	新潟の農林業	1. 2. 3. 4③	○		2		○								12	オムニバス
	食と健康の科学	1. 2. 3. 4④	○		2		○			1					14	オムニバス
	土と水	1. 2. 3. 4④	○		2		○								5	オムニバス
	近世越後諸地域の歴史と社会	1. 2. 3. 4③～④			2		○								5	オムニバス
	SDGs入門	1. 2. 3. 4③～④			2		○								5	オムニバス
	地域を探究	1. 2. 3. 4③～④			2		○						1		13	オムニバス
	日本酒学B	1. 2. 3. 4①～④			1		○						1		8	オムニバス
	ダブルホーム活動入門Ⅰ	1. 2. 3. 4①			1		○								3	※演習、オムニバス
	生まれ変わる地方小都市一人とまちの未来図を描くー	1. 2. 3. 4①			2			○							1	メディア
	自己・他者理解から始まるキャリア自律	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	※演習、オムニバス
	仕事・業界理解から働く意味を探究する	1. 2. 3. 4③			2		○								2	※演習、オムニバス
	ダブルホーム活動入門Ⅱ	1. 2. 3. 4②			1			○							3	メディア、オムニバス
	ボランティア開発論Ⅰ	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	オムニバス
	コミュニティ開発論Ⅰ	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	オムニバス
	地域から文化を考える	1. 2. 3. 4①～②			2		○								5	※実験・実習、オムニバス
	学校支援フィールドワークA（小学校）	1. 2. 3. 4①～②			2			○		1					2	オムニバス
	学校支援フィールドワークA（中学校）	1. 2. 3. 4①～②			2			○		1					2	オムニバス
	学校支援フィールドワークA（高等学校）	1. 2. 3. 4①～②			2			○		1					2	オムニバス
	学校支援フィールドワークB（小学校）	1. 2. 3. 4①～②			4			○		1					2	オムニバス
	学校支援フィールドワークB（中学校）	1. 2. 3. 4①～②			4			○		1					2	オムニバス
	授業フィールドワーク	1. 2. 3. 4①～②			2				○						2	オムニバス
	現場訪問とデータから読み解く新潟の今ー新潟地域産業の可能性を探究ーⅠ	1. 2. 3. 4①～②			2			○							2	※実験・実習、オムニバス
	生涯学習社会とメディア	1. 2. 3. 4③			2		○								1	
	私のローカルキャリア論ー地域とかかわる多様な働きかた・暮らしかたー	1. 2. 3. 4③			2		○								1	※演習、メディア
	ボランティア開発論Ⅱ	1. 2. 3. 4③～④			2		○								2	オムニバス
	コミュニティ開発論Ⅱ	1. 2. 3. 4③～④			2		○								2	オムニバス
	現場訪問とデータから読み解く新潟の今ー新潟地域産業の可能性を探究ーⅡ	1. 2. 3. 4③～④			2			○							2	※実験・実習、オムニバス
	地域共創演習Ⅲb	1. 2. 3. 4③～④			1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
	地方小都市の未来創造-市民と学生による地域づくりの実践	1. 2. 3. 4①～④			4			○							2	※実験・実習、オムニバス
	地域共創演習Ⅰ	1. 2. 3. 4①～④			1			○							4	※講義、実験・実習、オムニバス
	地域共創演習Ⅱa	1. 2. 3. 4①～④			1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
	地域共創演習Ⅱb	1. 2. 3. 4①～④			1			○							5	※講義、実験・実習メディア、オムニバス
	地域共創演習Ⅰb	1. 2. 3. 4①～④			1			○							2	※実験・実習、オムニバス
	地域共創演習Ⅲa	1. 2. 3. 4①～②			1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
	コミュニティインターンシップ実践	1. 2. 3. 4①～④			4			○							1	※実験・実習
	日本手話A	1. 2. 3. 4①			2		○								4	オムニバス
	アクティブラーニングA	1. 2. 3. 4①②③④			1		○								1	
	アクティブラーニングC	1. 2. 3. 4①②③④			1		○								1	
	日本と外国人	1. 2. 3. 4①②③④			1		○								1	メディア

教 育 課 程 等 の 概 要																
（教育学部教員養成課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
教養教育に関する科目	新潟大学個性化科目	ユーザのための数学I	1. 2. 3. 4①		2			○							1	
		教員志望者のための日本語教育入門 A	1. 2. 3. 4①		1		○								1	
		分野横断デザイン	1. 2. 3. 4①②③④		1		○								5	※演習、オムニバス
		分野横断リフレクション	1. 2. 3. 4①②③④		1		○								5	※演習、オムニバス
		多文化間共修A1	1. 2. 3. 4①③		1		○								1	
		多文化間共修B1	1. 2. 3. 4①③		1		○								1	
		多文化間共修C1	1. 2. 3. 4①③		1		○								1	メディア
		多文化間共修D1	1. 2. 3. 4①③		1		○								1	
		リーダーシップ演習Ⅱ1	1. 2. 3. 4①		1			○							3	オムニバス
		リーダーシップ演習Ⅲ1	1. 2. 3. 4①		1			○							3	オムニバス
		アクティブラーニングB	1. 2. 3. 4②④		1		○								1	
		日本手話B	1. 2. 3. 4②		2		○								4	オムニバス
		1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムⅠ	1. 2. 3. 4②		2			○							2	オムニバス
		税のしくみから社会を考える	1. 2. 3. 4②		2		○				1				6	オムニバス
		教員志望者のための日本語教育入門 B	1. 2. 3. 4②		1		○								1	
		地域災害環境システム学入門	1. 2. 3. 4②		1		○								6	オムニバス
		中国留学準備講座 サマーセミナー中国入門	1. 2. 3. 4②		1		○								2	オムニバス
		多文化間共修A2	1. 2. 3. 4②④		1		○								1	
		多文化間共修B2	1. 2. 3. 4②④		1		○								1	
		多文化間共修C2	1. 2. 3. 4②④		1		○								1	メディア
		多文化間共修D2	1. 2. 3. 4②④		1		○								1	
		リーダーシップ演習Ⅱ2	1. 2. 3. 4②		1			○							3	オムニバス
		リーダーシップ演習Ⅲ2	1. 2. 3. 4②		1			○							3	オムニバス
		新聞を体験する－新潟日報との連携授業－	1. 2. 3. 4①～②		2		○								2	オムニバス
		平和を考えるA	1. 2. 3. 4①～②		2		○				1				4	オムニバス
		パフォーマンスの外国語	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
		国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションA	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
		国際共修：留学生との協働学習を通じた異文化理解A	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
		International Relations in the Asia-Pacific	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	※演習
		Regionalism in the Asia-Pacific	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	※演習
		Chinese Politics and Diplomacy	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
		生命保険を考える	1. 2. 3. 4①～②		2		○								8	オムニバス
		ストレスマネジメント	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	※演習
		パーソナルファイナンス論	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
		学生がデザインする働き方の未来－人生100年時代のワークスタイルを創造する－	1. 2. 3. 4②～③		2		○								1	※演習
		学問の扉 知と方法の最前線	1. 2. 3. 4③～④		1		○								13	メディア、オムニバス
		平和と現代のグローバル安全保障論	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
		中東イスラーム言語文化入門	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
		大学生のための役に立つ育児学	1. 2. 3. 4①～②		1		○								7	オムニバス
		朱鷺・自然再生フィールドワーク	1. 2. 3. 4①～②		1				○						4	オムニバス
		1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムⅡ	1. 2. 3. 4①～②		4				○						2	オムニバス
		表現プロジェクト演習Q	1. 2. 3. 4①～②		2			○							2	オムニバス
		異文化と技術	1. 2. 3. 4①～②③～④		1		○								7	オムニバス
		研究者の仕事と生活	1. 2. 3. 4①～②		1		○								6	メディア、オムニバス
		地理情報システム（GIS）概論・演習	1. 2. 3. 4①～②		2			○			1				2	オムニバス
		森・里・海フィールド実習	1. 2. 3. 4①～②		1				○						8	オムニバス
		開発・環境と平和	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
		西シドニー大学国際交流プログラムA	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（教育学部教員養成課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員	
教養教育に関する科目	新潟大学個性化科目															
	韓国サマースクールⅠ	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	西シドニー大学国際交流プログラムB	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-W	1.2.3.4①～②			4		○								1	
	カナダ・サマーセミナー	1.2.3.4①～②			4			○							1	
	オタゴ大学英語研修	1.2.3.4①～②			4			○							1	
	新潟の企業の魅力を探る	1.2.3.4①～②③～④			1				○						1	
	1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムⅠ（集中・短縮版）	1.2.3.4①～②			1			○							2	オムニバス
	1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムⅡ（短縮版）	1.2.3.4①～②			2				○						2	オムニバス
	オンライン国際共修型プロジェクトワーク	1.2.3.4①～②			1		○								6	※演習、メディア、オムニバス
	韓国サマーセミナーⅠ	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	平和学概論	1.2.3.4③			2		○								1	
	表現プロジェクト演習T	1.2.3.4③			2			○							1	
	地域災害環境システム学演習	1.2.3.4③			1			○							6	オムニバス
	トキをシンボルとした自然再生	1.2.3.4③			2		○								9	オムニバス
	キャリア形成と法制度	1.2.3.4③			2		○								1	
	表現プロジェクト演習G	1.2.3.4③			2			○							1	
	ユーザのための数学Ⅱ	1.2.3.4③			2			○							1	
	教員志望者のための日本語教育入門 C	1.2.3.4③			1		○								1	
	国際共修：留学生と考える日中言語文	1.2.3.4③			1		○								1	
	西洋カリグラフィーA	1.2.3.4③			1		○								1	メディア
	リーダーシップ演習Ⅱ3	1.2.3.4③			1			○							3	オムニバス
	教員志望者のための日本語教育入門 D	1.2.3.4④			1		○								1	
	大学生活戦略論 ―キャンパス内外を「越境」する学び・経験―	1.2.3.4④			2		○								1	
	シンガポール・スプリングセミナー留学プログラムの準備講座：グローバル対応力育成・強化	1.2.3.4④			1		○								2	※演習、オムニバス
	オックスフォード大学英語研修（OSS留学プログラムの準備講座：グローバル対応力育成・強化	1.2.3.4④			1			○							3	オムニバス
	西洋カリグラフィーB	1.2.3.4④			1		○								1	メディア
	佐渡学概論：佐渡島の自然と人々の営	1.2.3.4④			2		○								4	オムニバス
	リーダーシップ演習Ⅰ	1.2.3.4④			1			○							3	オムニバス
	リーダーシップ演習Ⅱ4	1.2.3.4④			1			○							3	オムニバス
	ピアサポート入門	1.2.3.4③～④			2		○								2	※演習、オムニバス
	表現プロジェクト演習H	1.2.3.4③～④			2			○							2	オムニバス
	平和を考えるB	1.2.3.4③～④			2		○			1				1	7	オムニバス
	国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションB	1.2.3.4③～④			2		○								1	
	国際共修：留学生との協働学習を通じた異文化理解B	1.2.3.4③～④			2		○								1	
	The China-Japan-US Trilateral Relations	1.2.3.4③～④			2		○								1	※演習
	グローバル課題を理解する対応力の基礎講座	1.2.3.4③～④			2		○								1	※演習
	現代社会と差別	1.2.3.4③～④			2		○								1	※演習
	地理情報システム（GIS）概論・応用演習	1.2.3.4③～④			2			○							2	オムニバス
	オックスフォード大学英語研修	1.2.3.4③～④			2			○							1	
	台湾スプリングセミナーⅠ	1.2.3.4③～④			2		○								6	オムニバス
	台湾スプリングセミナーⅡ	1.2.3.4③～④			2		○								6	オムニバス
	シンガポール・スプリングセミナー	1.2.3.4③～④			2			○							1	
	多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-S	1.2.3.4③～④			4		○								1	
	フィリピンALLC英語研修	1.2.3.4③～④			4			○							1	
	佐渡自然共生国際実習	1.2.3.4①～④			2				○						6	オムニバス
	地域共創特別演習（岩室）	1.2.3.4①～④			2			○							1	
	地域共創特別演習ⅠA（刈羽&東京）	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
	地域共創特別演習ⅠB（刈羽&東京）	1.2.3.4③～④			2			○							3	オムニバス
	小計（140科目）	—	—	0	250	0	—	—	—	1	5	0	0	1	196	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（教育学部教員養成課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
教養教育に関する科目	英語による日本語文法解説a	1. 2. 3. 4①			1		○								1	
	中国語による日本語文法解説a	1. 2. 3. 4①			1		○								1	
	日本語Ⅰ	1. 2. 3. 4①③			2			○							2	メディア、オムニバス
	日本語Ⅲ	1. 2. 3. 4①③			2			○							1	
	英語による日本語文法解説 b	1. 2. 3. 4②			1		○								1	
	中国語による日本語文法解説 b	1. 2. 3. 4②			1		○								1	
	日本語Ⅱ	1. 2. 3. 4②④			2			○							1	メディア
	日本語Ⅳ	1. 2. 3. 4②④			2			○							1	
	JLPT-N1 A	1. 2. 3. 4①～②			1			○							1	メディア
	JLPT-N2 A	1. 2. 3. 4①～②			1			○							1	
	日本語作文Ⅰ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語作文Ⅱ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語作文Ⅲ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語作文Ⅳ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅰ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅱ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅲ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅳ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅴ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅵ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語入門	1. 2. 3. 4①～②③～④			3			○							2	
	日本語Ⅴ	1. 2. 3. 4①～②③～④			4			○							1	
	日本語Ⅵ	1. 2. 3. 4①～②			5			○							1	
	英語による日本語文法解説 c	1. 2. 3. 4③			1		○								1	
	中国語による日本語文法解説 c	1. 2. 3. 4③			1		○								1	
	英語による日本語文法解説 d	1. 2. 3. 4④			1		○								1	
	中国語による日本語文法解説 d	1. 2. 3. 4④			1		○								1	
	JLPT-N1 C	1. 2. 3. 4③～④			1			○							1	
	集中日本語 O F	1. 2. 3. 4③～④			5			○							3	オムニバス
	集中日本語 O G	1. 2. 3. 4③～④			5			○							3	オムニバス
	集中日本語 O H	1. 2. 3. 4③～④			5			○							3	オムニバス
	日本語Ⅶ	1. 2. 3. 4③～④			5			○							1	
	日本文化入門Ⅰ	1. 2. 3. 4①②③④			1			○							1	メディア
	日本文化入門Ⅱ	1. 2. 3. 4①②③④			1			○							1	
	日本事情自然系A	1. 2. 3. 4①～②			2		○								9	オムニバス
	課題研究Ⅱ	1. 2. 3. 4①～②			2			○							4	オムニバス
	ビジネス日本語	1. 2. 3. 4①～②③～④			2		○								1	
	日本で働く	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	日本事情社会系A	1. 2. 3. 4③～④			2		○								4	メディア、オムニバス
	日本事情自然系B	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	課題研究Ⅰ	1. 2. 3. 4③～④			2			○							4	オムニバス
	小計（41科目）	—	—	0	77	0	—			0	0	0	0	0	28	
大学 学習 法	人文初年次演習	1. 2. 3. 4①～②			2			○							11	オムニバス
	スタディ・スキルズA	1. 2. 3. 4①～②	○		2			○			1					
	スタディ・スキルズB	1. 2. 3. 4①	○		2			○		1	2	1			4	オムニバス
	スタディ・スキルズC	1. 2. 3. 4①～②	○		2			○		1	2					オムニバス
	スタディ・スキルズE	1. 2. 3. 4①～②	○		2			○		1	3				1	オムニバス
	スタディ・スキルズF	1. 2. 3. 4①～②	○		2			○		1	4					オムニバス
	スタディ・スキルズG	1. 2. 3. 4①～②	○		2			○		3	3					オムニバス
	スタディ・スキルズH	1. 2. 3. 4①～②	○		2			○		1	2		1			オムニバス
	スタディ・スキルズI	1. 2. 3. 4①	○		2			○		1	2					オムニバス
	スタディ・スキルズK	1. 2. 3. 4①～②	○		2			○		2	2				1	オムニバス
	スタディ・スキルズL	1. 2. 3. 4①～②	○		2			○			1					
	スタディ・スキルズM	1. 2. 3. 4①	○		2			○		2	2				2	オムニバス
	スタディ・スキルズN	1. 2. 3. 4①～②	○		2			○		2	1				3	オムニバス
	スタディ・スキルズP	1. 2. 3. 4①～②	○		2			○		2	2				3	オムニバス
	スタディ・スキルズ	1. 2. 3. 4①			2			○							13	オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要																
（教育学部教員養成課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員	
教養教育に関する科目	大学学習法	1. 2. 3. 4①			1			○							10	オムニバス
	スタディスキルズⅡ	1. 2. 3. 4③			1			○							18	オムニバス
	スタディスキルズⅢ	1. 2. 3. 4④			1			○							2	オムニバス
	スタディスキルズ（看護）	1. 2. 3. 4①			2			○							5	オムニバス
	スタディスキルズ（放射）	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	
	スタディスキルズ（検査）	1. 2. 3. 4①～②			2			○							14	オムニバス
	歯学スタディ・スキルズ	1. 2. 3. 4①～②			2			○							8	オムニバス
	歯学スタディ・スキルズⅡ	1. 2. 3. 4①～②			2			○							6	オムニバス
	工学リテラシー入門（力学分野）	1. 2. 3. 4①			2			○							20	オムニバス
	工学リテラシー入門（情報電子分野）	1. 2. 3. 4①			2		○								20	※演習、オムニバス
	工学リテラシー入門（化学材料分野）	1. 2. 3. 4①			2			○							20	オムニバス
	工学リテラシー入門（建築分野）	1. 2. 3. 4①			2			○							12	オムニバス
	工学リテラシー入門（融合領域分野）	1. 2. 3. 4①			2			○							8	オムニバス
	スタディ・スキルズAⅠa	1. 2. 3. 4①			1			○							8	
	スタディ・スキルズAⅡa	1. 2. 3. 4③			1			○							8	
	スタディ・スキルズAⅠb	1. 2. 3. 4①			1			○							8	
	スタディ・スキルズAⅡb	1. 2. 3. 4③			1			○							8	
	スタディ・スキルズAⅠc	1. 2. 3. 4①			1			○							8	
	スタディ・スキルズAⅡc	1. 2. 3. 4③			1			○							8	
	小計（34科目）	—	—	0	59	0	—			17	27	1	1	0	177	
自然科学系共通専門基礎	解析学基礎1	1. 2. 3. 4①			1		○								1	
	解析学基礎2	1. 2. 3. 4②			1		○								1	
	数学基礎A1	1. 2. 3. 4①③			1		○								3	オムニバス
	数学基礎A2	1. 2. 3. 4②④			1		○								3	オムニバス
	数学基礎B1	1. 2. 3. 4①③			1		○								4	オムニバス
	数学基礎B2	1. 2. 3. 4②④			1		○								4	オムニバス
	統計学基礎1	1. 2. 3. 4①③			1		○								3	オムニバス
	統計学基礎2	1. 2. 3. 4②④			1		○								3	オムニバス
	物理学基礎AⅠ	1. 2. 3. 4①①～②			2		○								2	オムニバス
	物理学基礎BⅠ	1. 2. 3. 4①②①～②			2		○								6	オムニバス
	物理学基礎CⅠ	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	物理学概論	1. 2. 3. 4①②③～④			2		○								2	オムニバス
	化学基礎A	1. 2. 3. 4①②③			2		○								5	オムニバス
	化学基礎B	1. 2. 3. 4①②④			2		○								3	オムニバス
	生物学基礎A	1. 2. 3. 4①②①～②③			2		○								5	オムニバス
	生物学基礎B	1. 2. 3. 4①②③③～④			2		○								5	オムニバス
	地学基礎A	1. 2. 3. 4①③			2		○								2	オムニバス
	地学基礎B	1. 2. 3. 4①			2		○								2	オムニバス
	物理学基礎AⅡ	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	物理学基礎BⅡ	1. 2. 3. 4④			2		○								4	オムニバス
	物理学基礎CⅡ	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	地学基礎C	1. 2. 3. 4④			2		○								1	
	小計（22科目）	—	—	0	36	0	—			0	0	0	0	0	49	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（教育学部教員養成課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基幹 （助手 を除く） 教員	
教 養 教 育 に 関 す る 科 目	自然科学	リメディアル数学I	1. 2. 3. 4①		1		○								4	オムニバス
		基礎数理A I	1. 2. 3. 4②④		2		○								5	オムニバス
		物理学への招待A	1. 2. 3. 4②		2		○								1	
		生物学実験	1. 2. 3. 4②		1				○						7	オムニバス
		基礎雪氷学	1. 2. 3. 4②		2		○								5	オムニバス
		リメディアル数学II	1. 2. 3. 4②		1		○								4	オムニバス
		生物学－植物A－	1. 2. 3. 4②		2		○								2	オムニバス
		物理学基礎実験	1. 2. 3. 4①～②		2				○						3	オムニバス
		地学実験A	1. 2. 3. 4①～②		2				○						1	
		自然科学基礎実験	1. 2. 3. 4①～②		2				○						20	オムニバス
		量子研究の最前線	1. 2. 3. 4①～②		2		○								14	オムニバス
		数学の世界	1. 2. 3. 4③		2		○								4	オムニバス
		基礎数理B	1. 2. 3. 4③		2		○								5	オムニバス
		化学とSDGs	1. 2. 3. 4③		2		○								3	オムニバス
		社会を支える有機化学	1. 2. 3. 4③		2		○								1	
		生物学－動物A－	1. 2. 3. 4③		2		○								1	
		地学E（地球理解の諸相）	1. 2. 3. 4③		1		○								1	メディア
		地質学の基礎	1. 2. 3. 4③		2		○								1	
		地学実験B	1. 2. 3. 4③		1				○						1	
		基礎数理A II	1. 2. 3. 4④		2		○								5	オムニバス
		生物学－生物多様性A－	1. 2. 3. 4④		2		○								2	オムニバス
		地学概論A	1. 2. 3. 4①④		2		○								2	
		地球と気象	1. 2. 3. 4④		2		○								1	
		地学C（マグマと火山）	1. 2. 3. 4④		1		○			1					1	オムニバス
		物理学への招待B	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
		生活の化学	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
		地学概論	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
		最先端技術を支える化学 I	1. 2. 3. 4①		2		○								9	メディア、オムニバス
		都市インフラを考える	1. 2. 3. 4①		2			○							1	
		原子力・放射線物理学入門	1. 2. 3. 4①		1		○								1	
		原子力・放射線防護学入門	1. 2. 3. 4①		1		○								2	オムニバス
		生活を支える化学技術－化学工学への招待－	1. 2. 3. 4②		2		○								2	オムニバス
		原子力入門	1. 2. 3. 4②		1		○								1	
		原子力・放射線関連法規入門	1. 2. 3. 4②		1		○								2	オムニバス
		くらしを支える機械システム工学	1. 2. 3. 4③		2		○								13	オムニバス
		材料科学概論	1. 2. 3. 4③		2		○								15	オムニバス
		放射性廃棄物処理法	1. 2. 3. 4①		1		○								1	
		安全工学基礎	1. 2. 3. 4④		2		○								1	オムニバス
		化学実験	1. 2. 3. 4③～④		2				○						6	オムニバス
		特許・経営および製品開発入門	1. 2. 3. 4①		2		○								8	オムニバス
		放射線入門と実習	1. 2. 3. 4①～④		1				○						2	オムニバス
		原子力の未来と災害を考える	1. 2. 3. 4①～④		1		○								3	オムニバス
		特許と技術経営I	1. 2. 3. 4①～②		1		○								2	オムニバス
		特許と技術経営II	1. 2. 3. 4③～④		1		○								3	オムニバス
		農業資源を知る	1. 2. 3. 4①		2		○								8	オムニバス
		生命を知る	1. 2. 3. 4①		2		○								13	メディア、オムニバス
		生態系を知る	1. 2. 3. 4②		2		○								9	オムニバス
		農業DXを知る	1. 2. 3. 4①～②		1		○								1	
		医学物理学入門	1. 2. 3. 4③		1		○								8	オムニバス
		小計（49科目）	—	—	0	81	0	—	—	1	0	0	0	0	153	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（教育学部教員養成課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
教養教育に関する科目	人文社会科学・教育学	歴史学Ⅰ	1. 2. 3. 4①		2		○								1	
		メディアの記号論	1. 2. 3. 4①③		2		○								1	
		実験心理学と応用	1. 2. 3. 4①		2		○								1	
		英語基礎 L	1. 2. 3. 4①①～②		1			○							17	オムニバス
		技術日本語演習	1. 2. 3. 4②		2			○							1	
		人文系フロンティア	1. 2. 3. 4②		4		○								20	オムニバス
		現代日本と伝統文化	1. 2. 3. 4②③④		2		○								1	
		歴史学Q	1. 2. 3. 4②		2		○								1	
		英語基礎 R	1. 2. 3. 4②①～②		1			○							14	オムニバス
		心理学	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
		日本語教育Ⅰ－A	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
		少数民族の言語と文化	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
		教養の心理学	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
		音と音楽をめぐる科学と教養	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
		心と社会	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	メディア
		哲学	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		生涯学習概論	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
		歴史学H	1. 2. 3. 4③		2		○								1	
		文学E	1. 2. 3. 4③		2		○								1	
		心理学概論	1. 2. 3. 4③		2		○								1	
		心と脳の科学リテラシー	1. 2. 3. 4③		2		○								1	
		現代社会論	1. 2. 3. 4③		2		○								1	
		人間関係論	1. 2. 3. 4③		2		○								1	
		現代社会と科学技術	1. 2. 3. 4③		2		○								1	
		文化人類学の方法－他者へのまなざし	1. 2. 3. 4③		2		○								1	
		アクターネットワークの社会学	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
		歴史学0	1. 2. 3. 4③		2		○								1	
		中国語オプションA	1. 2. 3. 4③		2			○							1	
		意思決定のコミュニケーション論	1. 2. 3. 4④		2		○								1	
		つながりと絆の社会学	1. 2. 3. 4④		2		○								1	
		朝鮮語オプションB	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		音楽R	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
		対人行動の心理学	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
		セクシュアリティ・スタディーズ	1. 2. 3. 4③～④		2		○								8	オムニバス
		人文系展開科目D	1. 2. 3. 4③～④		2		○						1		13	オムニバス
		日本古典文学N	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
		日本古典文学0	1. 2. 3. 4①		2		○					1				
		文学D	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
		西洋哲学演習	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		演劇入門	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
		現代思想論	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
		人文系展開科目Ⅰ	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
		日本語教育Ⅰ－B	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
		教養教育としての教育学入門	1. 2. 3. 4③		2			○							1	
		精神疾患とその治療	1. 2. 3. 4②		2		○								1	メディア
		公認心理師の職責	1. 2. 3. 4②		1		○				2					オムニバス
		ビジネス書道入門	1. 2. 3. 4①～②③～④		2		○								1	
		音楽（ピアノ）	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		水彩画表現入門	1. 2. 3. 4①～②		2			○			1					メディア
		美術史	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	メディア

教 育 課 程 等 の 概 要																
（教育学部教員養成課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （ 助 手 を 除 く ） の 教 員	
教 養 教 育 に 関 す る 科 目	人文社会・教育科学	人体の構造と機能及び疾病	1. 2. 3. 4①～②		2		○								2	オムニバス
		福祉心理学	1. 2. 3. 4①～②		2		○				1				1	オムニバス
		教養を考える	1. 2. 3. 4①～②		2		○								2	※演習、オムニバス
		司法・犯罪心理学	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
		臨床心理学概論	1. 2. 3. 4④		2		○								1	メディア
		音楽E	1. 2. 3. 4③～④		2			○		1						
		日本文化論	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
		音楽（作曲）	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		心理演習	1. 2. 3. 4③～④		2			○			2					オムニバス
		心理的アセスメント	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
		関係行政論	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
		健康生活環境論	1. 2. 3. 4③～④		2		○				1					メディア
		心理実習	1. 2. 3. 4①～④		2				○		2				1	オムニバス
		人文社会科学入門（法学）	1. 2. 3. 4①		2		○								3	オムニバス
		リーガル・システムA	1. 2. 3. 4①		2		○								3	オムニバス
		日本国憲法	1. 2. 3. 4①②③④①～②③～④		2		○								5	オムニバス
		リーガル・システム	1. 2. 3. 4②		2		○								3	オムニバス
		リーガル・システムB	1. 2. 3. 4②		2		○								3	オムニバス
		死因究明と法	1. 2. 3. 4③		2		○								5	オムニバス
		組織マネジメント論	1. 2. 3. 4①		2		○								1	
		マーケティングプロモーション入門	1. 2. 3. 4②		1		○								1	
		小計（71科目）	—	—	0	140	0	—	—	1	4	1	0	1	104	
医 歯 学	はじめての医学	1. 2. 3. 4②			1		○								2	オムニバス
	先端医科学研究概説	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	医学序説 I	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	医学論文を読む（ジャーナルクラブ）A	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	
	原子力と倫理	1. 2. 3. 4④			1		○								4	オムニバス
	医学序説 II	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	医学論文を読む（ジャーナルクラブ）B	1. 2. 3. 4③～④			2			○							1	
	健康と医学	1. 2. 3. 4③～④			2		○								5	オムニバス
	災害医療概論	1. 2. 3. 4①～④			1		○								1	
	原子力災害医療体制	1. 2. 3. 4①～④			1		○								1	※実験・実習
	災害医療ロジスティクス	1. 2. 3. 4①～④			1		○								1	
	「食べる」	1. 2. 3. 4①			2		○								14	オムニバス
	PBL入門	1. 2. 3. 4②			1		○								4	※演習、オムニバス
	健康福祉学入門	1. 2. 3. 4②			2		○								13	メディア、オムニバス
	新潟発福祉学	1. 2. 3. 4③			2		○								10	オムニバス
	顔	1. 2. 3. 4③～④			2		○								12	オムニバス
	小計（16科目）	—	—	0	26	0	—	—	—	0	0	0	0	0	58	
専 門 教 育 に 関 す る 科 目	卒業研究	4①～④	○	6				○		36	36	7				標準外
	小計（1科目）	—	—	6	0	0	—	—	—	36	36	7	0	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（教育学部教員養成課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
専門 教育に 関する 科目	教育実践体験研究I	1. 2. 3. 4①②③④			2			○		1	1					標準外
	教育実践体験研究II	1①～④			2			○		2	1					標準外
	教育実践体験研究III	3. 4①～④			2			○		1	1					標準外
	教育実践体験研究IV	1①～④			2			○		1	1					標準外
	教育実践研究I	4①～②			2			○			1					
	教育実践研究II	3③～④			2			○			1					
	教育実践研究演習I	4①～②			2			○			1					
	教育実践研究演習II	4③～④			2			○			1					
	教育臨床研究演習	3. 4③～④			2			○		1						
	学校カウンセリング	2. 3. 4①～②			2		○			1						
	新聞活用教育（N I E）演習	2. 3. 4③～④			2			○		1	1					
	数学・数学教育学研究入門	3. 4③～④			2			○		1	2					標準外
	教職のための情報モラル	3. 4④			1		○	○		1					1	
	情報通信技術教育論 I	1①			1		○				1					
	情報通信技術教育論II	1②			1		○				1					
	プログラミング教育論I	2. 3. 4①			1		○					1				
	プログラミング教育論II	2. 3. 4②			1		○					1				
	小計（17科目）	—	—	0	29	0	—			5	5	1	0	0	1	
教職 専門 科目	教職概論	1①～②	○	2			○			1						
	現代教育学概論	2. 3. 4①～④	○	2			○				2					
	教育・学校心理学A	1③～④	○	2			○				1				1	
	発達心理学	2①～②	○	2			○				1					
	教育政策と法概論	2. 3. 4③～④	○	2			○								1	
	教育社会学概論	2. 3. 4③～④	○	2			○				1					
	教育方法及び特別活動の指導法A	2. 3. 4①～④	○	2			○			1					1	
	道德教育論	2. 3. 4①～④	○	2			○				2					
	教育課程及び総合的な学習の時間の指導法A	2. 3. 4①～④	○	2			○			1					1	
	教育評価論（教育課程、教育方法、特別活動の指導法の評価を含む）	2. 3. 4①～④	○	1			○								1	
	教育情報論	2. 3. 4④	○	1			○			2	1					
	特別支援教育概論	3①～④	○	2			○			1						
	生徒指導A	2①～④	○	2			○			1	1					
	教育相談・進路指導A	3①～④	○	2			○			1	1					
	初等教育実習I	3①～②	○		6				○	35	34	7				標準外
	中等教育実習I	3①～②	○		6				○	35	34	7				標準外
	特別支援教育実習	3①～②	○		3				○	1	2					標準外
	教職実践演習	4③～④	○	2				○		1	1					
	小計（18科目）	—	—	28	15	0	—			36	36	7	0	0	5	
教科 専門 科目	国語科教育法（初等）	2. 3. 4①～④	○		2		○			1					1	
	社会科教育法（初等）	2. 3. 4①～④	○		2		○				1					
	算数科教育法	3. 4①～④	○		2		○				1				1	オムニバス
	理科教育法（初等）	2. 3. 4①～④	○		2		○					1			1	
	生活科教育法	1. 2. 3. 4①～④	○		2		○					1				
	音楽科教育法（初等）	2. 3. 4①～④	○		2		○				1					
	美術科教育法（初等）	2. 3. 4①～④	○		2		○			1						
	体育科教育法	2. 3. 4①～④	○		2		○			1	2		1		1	オムニバス
	家庭科教育法（初等）	2. 3. 4①～④	○		2		○			2	1	1				オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要																
（教育学部教員養成課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員	
専 門 教 育 に 関 す る 科 目	英語科教育法（初等）	2. 3. 4①～④	○		2		○				1				1	
	小学校国語	1. 2. 3. 4①～④	○		2		○			2	2	1				オムニバス
	小学校社会	1. 2. 3. 4①～④	○		2		○			2	1					オムニバス
	小学校算数	1. 2. 3. 4①～④	○		2		○			1	2	1				オムニバス
	小学校理科	1. 2. 3. 4①～④	○		2		○			1	1	1			2	オムニバス
	小学校音楽	2. 3. 4①～④	○		2			○		2	1					オムニバス
	図画工作	1. 2. 3. 4①～④	○		2			○		3	2					
	小学校体育	1. 2. 3. 4①～④	○		2			○		2	3				1	
	小学校家庭	1. 2. 3. 4①～④	○		2		○			2	1	1				オムニバス
	小学校英語	1. 2. 3. 4①～④	○		2		○			2	3					オムニバス
	生活	2. 3. 4①～④			2		○								1	
	小計（20科目）	—	—	0	40	0	—	—	—	19	20	4	1	0	6	
専 修 専 門 科 目	授業論・学級指導論	3. 4③～④			2		○								1	
	教育内容・方法	3. 4①～②			2		○			1						
	教育哲学	3. 4③～④			2		○				1					
	教育史	2. 3. 4③～④			2		○				1					
	教育社会学	2. 3. 4③～④			2		○				1					
	教育政策と法	2. 3. 4①～②			2		○								1	
	授業論・学級指導論演習A	3. 4①～②			2			○							1	隔年
	授業論・学級指導論演習B	3. 4③～④			2			○							1	隔年
	授業論・学級指導論演習C	3. 4①～②			2			○							1	隔年
	授業論・学級指導論演習D	3. 4③～④			2			○							1	隔年
	教育内容・方法演習A	3. 4①～②			2			○		1						隔年
	教育内容・方法演習B	3. 4③～④			2			○		1						隔年
	教育内容・方法演習C	3. 4①～②			2			○		1						隔年
	教育内容・方法演習D	3. 4③～④			2			○		1						隔年
	教育哲学演習A	3. 4①～②			2			○			1					隔年
	教育哲学演習B	3. 4③～④			2			○			1					隔年
	教育哲学演習C	3. 4①～②			2			○			1					隔年
	教育哲学演習D	3. 4③～④			2			○			1					隔年
	教育史演習A	3. 4①～②			2			○			1					隔年
	教育史演習B	3. 4③～④			2			○			1					隔年
	教育史演習C	3. 4①～②			2			○			1					隔年
	教育史演習D	3. 4③～④			2			○			1					隔年
	教育社会学演習A	3. 4①～②			2			○			1					隔年
	教育社会学演習B	3. 4③～④			2			○			1					隔年
	教育社会学演習C	3. 4①～②			2			○			1					隔年
	教育社会学演習D	3. 4③～④			2			○			1					隔年
	教育政策と法演習A	3. 4①～②			2			○							1	隔年
	教育政策と法演習B	3. 4③～④			2			○							1	隔年
	教育政策と法演習C	3. 4①～②			2			○							1	隔年
	教育政策と法演習D	3. 4③～④			2			○							1	隔年
	教育心理学実験演習Ⅰ（心理学実験Ⅰ）	2①～②	○		2				○	3	1					
	教育心理学実験演習Ⅱ（心理学実験Ⅱ）	2③～④	○		2				○	3	1					
	教育統計学（心理学統計法）	2①～②	○		2		○								1	標準外
	教育心理学総合演習Ⅰ	3③～④			2			○		3	2	1				
	教育心理学総合演習Ⅱ	4①～②			2			○		3	2	1				
	教育心理学総合演習Ⅲ	4③～④			2			○		3	2	1				

教 育 課 程 等 の 概 要																
（教育学部教員養成課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
専門 教育に 関する 科目	応用心理統計学	3.4①～②			2		○								1	標準外
	健康・医療心理学	3.4①～②			2		○				1					
	発達心理学A	3.4③～④			2		○				1					
	発達臨床心理学実践演習（心理学的支援法）	3.4①～②			2			○							1	
	教育心理データ解析論（心理学研究法）	2③～④			2			○							1	標準外
	教科心理学	3.4①～②			2		○								1	標準外
	認知心理学	2.3.4①～②			2		○								1	
	発達障害心理学	2.3.4③～④			2		○				1					隔年
	障害児心理学演習	3.4③～④			2			○		1						
	障害児病理学演習	3.4③～④			2			○			1					標準外
	障害児指導学演習Ⅰ	3①～④			2			○		1	2					標準外
	障害児指導学演習Ⅱ	3①～④			2			○		1						標準外
	障害児指導学演習Ⅲ	3①～④			2			○			1					標準外
	障害児指導学演習Ⅳ	3①～④			2			○			1					標準外
	障害児指導法演習	3.4①～②			2			○			1					
	視覚障害教育論	2.3.4①～②			2		○								1	隔年、標準外
	聴覚障害教育論	2.3.4①～②			2		○								1	隔年、標準外
	聴覚障害言語指導	2.3.4③～④			2		○				1					隔年
	特別支援教育の本質と目標	2.3.4①～②	○		2		○								1	
	知的障害心理学	2.3.4③～④	○		2		○			1						
	障害児生理学	2.3.4③～④	○		2		○				1					
	肢体不自由児の心理・生理・病理	2.3.4③～④	○		2		○			1	1					標準外
	病弱児の心理・生理・病理	2.3.4①～②	○		2		○				1					
	知的障害指導論	2.3.4③～④	○		2		○			1						
	肢体不自由指導論	2.3.4③～④	○		2		○				1					
	病弱児の教育課程と指導論	2.3.4①～②	○		2		○				1					
	発達障害の心理・生理・病理	2.3.4①～②	○		2		○				1					
	特別支援教育総論	2.3.4③～④	○		2		○								1	
	発達障害の心理・指導論	2.3.4①～②	○		2		○			1						
	国語教育基礎演習	2①～②	○		2			○		2	2					
	国語科教育法（中等）Ⅰ	2.3.4①～②	○		2		○								1	
	国語科教育法（中等）Ⅱ	2.3.4③～④	○		2		○			1						
	国語科教育法（中等）Ⅲ	3.4①～②	○		2		○			1						
	国語科教育法（中等）Ⅳ	3.4③～④	○		2		○								1	
	国語学概論Ⅰ	1.2.3.4①～②			2		○								1	隔年
	国語学概論Ⅱ	1.2.3.4①～②			2		○				1					隔年
	国文学概論Ⅰ	1.2.3.4③～④			2		○					1				隔年
	国文学概論Ⅱ	1.2.3.4③～④			2		○						1			隔年
	漢文学講義Ⅰ	1.2.3.4③～④			2		○				1					隔年
	漢文学講義Ⅱ	1.2.3.4③～④			2		○				1					隔年
	漢文学講義Ⅲ	1.2.3.4①～②			2		○			1						隔年
	漢文学講義Ⅳ	1.2.3.4①～②			2		○			1						隔年
	書道講義及び実習Ⅰ	1.2.3.4①～②			2		○			2						
	書道講義及び実習Ⅱ	1.2.3.4③～④			2		○			2						
	文法及び文章表現Ⅰ	1.2.3.4③～④			2		○								1	隔年
	文法及び文章表現Ⅱ	1.2.3.4③～④			2		○				1					隔年
	音声言語Ⅰ	1.2.3.4①～②			2		○								1	隔年

教 育 課 程 等 の 概 要																
(教育学部教員養成課程)【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く) 教員以外の教員	
専門教育に関する科目	専修専門科目															
	音声言語II	1. 2. 3. 4①～②			2		○				1				1	隔年
	国語学講義 I	1. 2. 3. 4③～④			2		○									隔年
	国語学講義 II	1. 2. 3. 4③～④			2		○				1					隔年
	国語学演習 I	3. 4①～②			2			○			1					隔年
	国語学演習 II	3. 4③～④			2			○			1					隔年
	国語学演習 III	3. 4①～②			2			○			1					隔年
	国語学演習 IV	3. 4③～④			2			○			1					隔年
	国文学史 I	1. 2. 3. 4①～②			2		○					1				隔年
	国文学史 II	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	隔年
	国文学演習 I	3. 4①～②			2			○				1				隔年
	国文学演習 II	3. 4③～④			2			○				1				隔年
	国文学演習 III	3. 4①～②			2			○				1				隔年
	国文学演習 IV	3. 4③～④			2			○				1				隔年
	漢文学演習 I	3. 4①～②			2			○			1					隔年
	漢文学演習 II	3. 4③～④			2			○			1					隔年
	漢文学演習 III	3. 4①～②			2			○			1					隔年
	漢文学演習 IV	3. 4③～④			2			○			1					隔年
	書道特論 I	1. 2③～④			2		○			1						隔年
	書道特論 II	1. 2③～④			2		○			1						隔年
	書道演習 I	3. 4①～②			2			○		1						隔年
	書道演習 II	3. 4③～④			2			○		1						隔年
	書道演習 III	3. 4①～②			2			○		1						隔年
	書道演習 IV	3. 4③～④			2			○		1						隔年
	国語科教育学演習 I	3. 4①～②			2			○		1						隔年
	国語科教育学演習 II	3. 4③～④			2			○		1						隔年
	国語科教育学演習 III	3. 4①～②			2			○		1						隔年
	国語科教育学演習 IV	3. 4③～④			2			○		1						隔年
	国語学課題研究 I	3. 4①～②			2			○			1					隔年
	国語学課題研究 II	3. 4③～④			2			○			1					隔年
	国語学課題研究 III	3. 4①～②			2			○			1					隔年
	国語学課題研究 IV	3. 4③～④			2			○			1					隔年
	国文学課題研究 I	3. 4①～②			2			○				1				隔年
	国文学課題研究 II	3. 4③～④			2			○				1				隔年
	国文学課題研究 III	3. 4①～②			2			○				1				隔年
	国文学課題研究 IV	3. 4③～④			2			○				1				隔年
	漢文学課題研究 I	3. 4①～②			2			○			1					隔年
	漢文学課題研究 II	3. 4③～④			2			○			1					隔年
	漢文学課題研究 III	3. 4①～②			2			○			1					隔年
	漢文学課題研究 IV	3. 4③～④			2			○			1					隔年
	書道課題研究 I	3. 4①～②			2			○		1						隔年
	書道課題研究 II	3. 4③～④			2			○		1						隔年
	書道課題研究 III	3. 4①～②			2			○		1						隔年
	書道課題研究 IV	3. 4③～④			2			○		1						隔年
	国語科教育学課題研究 I	3. 4①～②			2			○		1						隔年
	国語科教育学課題研究 II	3. 4③～④			2			○		1						隔年
	国語科教育学課題研究 III	3. 4①～②			2			○		1						隔年
	国語科教育学課題研究 IV	3. 4③～④			2			○		1						隔年

教 育 課 程 等 の 概 要																
（教育学部教員養成課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
専門 教育に 関する 科目	社会科教育法（中等）Ⅰ	1. 2. 3①～②	○		2		○				1					オムニバス
	社会科教育法（中等）Ⅱ	2. 3③～④	○		2		○				1					
	社会科教育法（中等）Ⅲ	2. 3①～②	○		2		○				3					
	社会科教育法（中等）Ⅳ	3. 4③～④	○		2		○				1					
	日本史	1. 2. 3. 4①～②	○		2		○					1				1
	外国史A	1. 2. 3. 4①～②	○		2		○									
	外国史B	1. 2. 3. 4③～④	○		2		○				1					
	人文地理学	1. 2. 3. 4①～②	○		2		○				1					
	自然地理学	1. 2. 3. 4③～④	○		2		○			1						
	法律学Ⅰ	1. 2. 3. 4①～②	○		2		○				1					
	地誌A	1. 2. 3. 4①～②			2		○			1						
	地誌B	1. 2. 3. 4③～④			2		○				1					
	法律学Ⅱ	1. 2. 3. 4③～④			2		○				1					1
	政治学	1. 2. 3. 4①～②			2		○			1						
	社会学	2. 3. 4①～②			2		○				1					
	経済学	1. 2. 3. 4①～②			2		○			1						
	哲学	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	1
	倫理学	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	日本史特講Ⅰ	3. 4①～②			2		○								1	
	日本史特講Ⅱ	3. 4①～②			2		○					1				
	日本史特講Ⅲ	3. 4③～④			2		○								1	1
	日本史特講Ⅳ	3. 4③～④			2		○					1				
	歴史学研究法Ⅰ（日本史）	2①～②			2		○					1				
	歴史学研究法Ⅱ（日本史）	2③～④			2		○					1				
	日本史演習Ⅰ	3. 4①～②			2			○				1				隔年
	日本史演習Ⅱ	3. 4③～④			2			○				1				隔年
	日本史演習Ⅲ	3. 4①～②			2			○				1				隔年
	日本史演習Ⅳ	3. 4③～④			2			○				1				隔年
	日本史実習	3. 4①～④			2				○			1				
	外国史特講Ⅰ	3. 4①～②			2		○				1					
	外国史特講Ⅱ	3. 4③～④			2		○				1					
	外国史特講Ⅲ	3. 4①～②			2		○				1					
	外国史特講Ⅳ	3. 4③～④			2		○				1					隔年
	外国史演習Ⅰ	3. 4①～②			2			○			1					隔年
	外国史演習Ⅱ	3. 4③～④			2			○			1					隔年
	外国史演習Ⅲ	3. 4①～②			2			○			1					隔年
	外国史演習Ⅳ	3. 4③～④			2			○			1					隔年
	歴史学研究法Ⅰ（外国史）	2①～②			2		○				1					
	歴史学研究法Ⅱ（外国史）	2③～④			2		○				1					
	地理学特講Ⅰ	2. 3. 4③～④			2		○			1						
	地理学特講Ⅱ	2. 3. 4①～②			2		○			1						
	地理学特講Ⅲ	3. 4①～②			2		○				1					
	地理学特講Ⅳ	3. 4③～④			2		○				1					
	人文地理学研究法	2①～②			2			○			1					
	自然地理学研究法	2③～④			2			○		1						
	地理学演習Ⅰ	3①～②			2			○		1						
	地理学演習Ⅱ	3③～④			2			○		1						
	地理学演習Ⅲ	4①～②			2			○		1						

教 育 課 程 等 の 概 要																
（教育学部教員養成課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
専門 教育 に関する 科目	地理学演習Ⅳ	4③～④			2			○		1						標準外 隔年
	地理学実習Ⅰ	2. 3①～④			2				○	1						
	地理学実習Ⅱ	2. 3①～④			2				○	1						
	地理学実習Ⅲ	2. 3. 4①～②			2				○	1						
	法学特講Ⅰ	3. 4①～②			2		○					1				隔年
	法学特講Ⅱ	3. 4①～②			2		○					1				
	法学特講Ⅲ	3. 4③～④			2		○					1				
	法学特講Ⅳ	3. 4③～④			2		○					1				
	人文・社会科学研究法Ⅰ	2①～②			2			○				1				隔年
	人文・社会科学研究法Ⅱ	2③～④			2			○				1				
	法学・政治学演習Ⅰ	3①～②			2			○				1				
	法学・政治学演習Ⅱ	3③～④			2			○				1				
	法学・政治学演習Ⅲ	4①～②			2			○				1				隔年
	法学・政治学演習Ⅳ	4③～④			2			○				1				
	経済学特講Ⅰ	3. 4①～②			2		○			1						
	経済学特講Ⅱ	3. 4①～②			2		○			1						
	経済学特講Ⅲ	3. 4③～④			2		○			1						隔年
	経済学特講Ⅳ	3. 4③～④			2		○			1						
	経済学・社会学演習Ⅰ	3. 4①～②			2			○		1						
	経済学・社会学演習Ⅱ	3. 4③～④			2			○		1						
	経済学・社会学演習Ⅲ	3. 4①～②			2			○		1						隔年
	経済学・社会学演習Ⅳ	3. 4③～④			2			○		1						
	哲学・倫理学特講Ⅰ	3. 4①～②			2		○							1		
	哲学・倫理学特講Ⅱ	3. 4③～④			2		○							1		
	哲学・倫理学特講Ⅲ	3. 4①～②			2		○							1		隔年
	哲学・倫理学特講Ⅳ	3. 4③～④			2		○							1		
	社会科教材開発実習Ⅰ	3. 4①～②			2				○			1				
	社会科教材開発実習Ⅱ	3. 4③～④			2				○			1				
	人文・社会科学方法論特講（社会・公民）	3. 4①～②			2		○					1				隔年
	人文・社会科学方法論演習Ⅰ（社会・公民）	3. 4①～②			2			○				1				
	人文・社会科学方法論演習Ⅱ（社会・公民）	3. 4③～④			2			○				1				
	社会認識形成史特講（社会・地理歴史）	3. 4③～④			2		○					1				
	社会認識形成史演習Ⅰ（社会・地理歴史）	3. 4①～②			2			○				1				隔年
	社会認識形成史演習Ⅱ（社会・地理歴史）	3. 4③～④			2			○				1				
	社会認識教育方法論演習	3. 4①～②			2			○				1				
	授業研究法Ⅰ（生活・社会）	3. 4③～④			2			○				1				
	授業研究法Ⅱ（中等社会）	3. 4③～④			2			○				1				隔年
	数学科教育法Ⅰ	1. 2. 3. 4①～②	○		2		○								1	
	数学科教育法Ⅱ	2. 3. 4③～④	○		2		○								1	
	数学科教育法Ⅲ	3. 4①～②	○		2		○								1	
	数学科教育法Ⅳ	3. 4③～④	○		2		○								1	
	代数系の基礎Ⅰ	1. 2. 3. 4①～②	○		2		○			1						隔年
	線形代数Ⅰ	2. 3. 4①～②	○		2		○			1						
	幾何学序説	2. 3. 4③～④	○		2		○					1				
	微分積分Ⅰ	2. 3. 4①～②	○		2		○					1				
	統計Ⅰ	2. 3. 4①～②	○		2		○				1					隔年
	情報数学Ⅰ	2. 3. 4①～②	○		2		○				1					
	代数学序説	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（教育学部教員養成課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
専門 教育 に関する 科目	代数系の基礎II	1. 2. 3. 4③～④			2		○			1						隔年 隔年
	代数学講義I	3. 4①～②			2		○			1						
	代数学講義II	3. 4①～②			2		○			1						隔年、標準外
	応用代数学I	3. 4①～②			2		○								1	
	応用代数学II	3. 4③～④			2		○								1	隔年、標準外
	代数学特講	3. 4①～②			2		○			1						
	線形代数学II	2. 3. 4③～④			2		○			1						隔年、標準外
	幾何学講義I	3. 4①～②			2		○					1				
	幾何学講義II	3. 4③～④			2		○					1				隔年、標準外
	応用幾何学I	2. 3. 4①～②			2		○								1	
	応用幾何学II	2. 3. 4③～④			2		○								1	隔年、標準外
	幾何学特講	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	微分積分学II	2. 3. 4③～④			2		○					1				隔年、標準外
	解析学講義I	3. 4①～②			2		○								1	
	解析学講義II	3. 4③～④			2		○								1	隔年、標準外
	応用解析学I	3. 4①～②			2		○								1	
	応用解析学II	3. 4③～④			2		○								1	隔年、標準外
	解析学特講	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	統計学II	2. 3. 4③～④			2		○				1					隔年、標準外
	統計学特講	3. 4①～②			2		○				1					
	情報数学II	2. 3. 4③～④			2		○				1					隔年、標準外
	算数・数学教材研究入門	3. 4①～②			2		○			1	2	1				
	理科教育法（中等）I	2. 3. 4①～②	○		2		○								1	隔年、標準外
	理科教育法（中等）II	2. 3. 4③～④	○		2		○					1				
	理科教育法（中等）III	2. 3. 4①～②	○		2		○								1	隔年、標準外
	理科教育法（中等）IV	3. 4③～④	○		2		○					1				
	基礎物理学実験	2③～④	○		2				○				1			隔年、標準外
	基礎化学実験	2③～④	○		2				○		1					
	基礎生物学実験	2①～②	○		2				○	1	1					隔年、標準外
	地学基礎実習	2①～②	○		2			○		1	1					
	基礎地学	2①～②	○		2		○				1					隔年、標準外
	基礎物理学IA	1①～②			2		○								1	
	基礎物理学IB	2. 3. 4①～②			2		○								1	隔年、標準外
	基礎化学IA	2①～②			2		○				1					
	基礎化学IB	2③～④			2		○				1					隔年、標準外
	基礎化学IIA	3①～②			2		○				1					
	基礎化学IIB	3③～④			2		○				1					隔年、標準外
	無機化学	3①～②			2		○				1					
	基礎生物学A	2③～④			2		○				1					隔年、標準外
	基礎生物学B	2①～②			2		○			1						
	動物学	3. 4③～④			2		○			1						隔年、標準外
	植物学	3. 4①～②			2		○				1					
	地学セミナー	3. 4③～④			2			○			1					隔年、標準外
	地層学	3. 4①～②			2		○				1					
	自然科学基礎演習I	3. 4①～②			2			○				1				隔年、標準外
	自然科学基礎演習II	3. 4③～④			2			○				1				
	情報理科特論	3. 4①～②			2			○				1				隔年、標準外
	情報理科特講	3. 4③～④			2			○				1				

教 育 課 程 等 の 概 要																
（教育学部教員養成課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員	
専門 教育に 関する 科目	物理学実験	3. 4③～④			2				○						1	
	物理学セミナー	3①～②			2			○					1			
	基礎物理学II A	2. 3. 4③～④			2		○								1	
	基礎物理学II B	3. 4③～④			2		○								1	
	現代物理学IA	3. 4①～②			2		○								1	
	現代物理学IB	3. 4①～②			2		○								1	
	現代物理学II A	3. 4①～②			2		○								1	
	現代物理学II B	3. 4③～④			2		○								1	
	現代物理学III	1③～④			2		○								1	
	有機化学実験	3①～②			2				○		1					
	無機化学実験	3③～④			2				○		1					
	化学演習A I	4①～②			2			○			1					
	化学演習A II	4③～④			2			○			1					
	無機化学	3①～②			2		○				1					
	生物学演習A	4①～②			2			○		1	1					
	生物学演習B	4③～④			2			○		1	1					
	生物学実験I	3①～②			2				○	1	1					
	生物学実験II	3③～④			2				○	1	1					
	植物野外実習	3①～②			2				○		1					標準外
	昆虫学実習	3③～④			2				○	1						標準外
	地学演習A	4①～②			2			○			1					
	地学演習B	4①～②			2			○		1						
	地殻科学実習	3③～④			2				○	1	1					標準外
	地域地質実習	3①～②			2				○	1	1					
	音楽科教育法（中等）I	2①～②	○		2		○				1					
	音楽科教育法（中等）II	2③～④	○		2		○				1					
	音楽科教育法（中等）III	2③～④	○		2		○				1					
	音楽科教育法（中等）IV	3. 4①～②	○		2		○				1					
	音楽表現I	1①～②	○		2		○			2						
	音楽表現II	2. 3. 4①～②	○		2		○			1						
	音楽実践IA	1①～②	○		1				○		1					
	音楽実践IB	1③～④	○		1				○		1					
	音楽実践IIA	1①～②	○		1				○	2						
	音楽実践IIB	1③～④	○		1				○	2						
	音楽実践III	2. 3①～②	○		1				○						1	
	音楽実践IV	2. 3③～④	○		1				○						1	
	音楽理論	1①～②	○		2		○			1						
	音楽史	2③～④	○		2		○			1						
	多文化音楽論I	2. 3. 4③～④	○		2		○								1	
	合唱A	2. 3. 4①～②	○		1				○		1					
	合唱B	2. 3. 4③～④	○		1				○		1					
	合奏A	3. 4①～②	○		1				○	1						
	合奏B	3. 4③～④	○		1				○	1						
	音楽教育学演習I	3①～②			1			○			1					
	音楽教育学演習II	3③～④			1			○			1					
	音楽教育実践入門I	1. 2. 3. 4①～②			2			○		2	1					
	音楽教育実践入門II	2. 3. 4①～②			2			○		2	1					
	音楽教育実践I	2. 3. 4③～④			2			○		2	1					

教 育 課 程 等 の 概 要																
（教育学部教員養成課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
専門教育に関する科目	音楽教育実践II	3.4①～②			2			○		2	1					
	音楽教育実践III	3.4①～②			2			○		2	1					
	弦楽器メソッドI	3①～②			1				○	1					1	
	弦楽器メソッドII	3③～④			1				○	1					1	
	音楽実践V	2.3.4①～②			1				○	1					1	標準外
	音楽実践VI	2.3.4③～④			1				○	1					2	標準外
	音楽実践VII	2.3.4①～②			1				○	1					1	標準外
	音楽実践VIII	2.3.4①～④			1				○	1					1	
	声楽アンサンブルA	2.3.4①～②			1				○		1					
	声楽アンサンブルB	2.3.4③～④			1				○		1					
	演奏表現IA	2①～②			1				○		1					
	演奏表現IB	2③～④			1				○		1					
	声楽メソッドI	3.4①～②			1				○		1					
	声楽メソッドII	3.4③～④			1				○		1					
	演奏表現IIA	2①～②			1				○	2						
	演奏表現IIB	2③～④			1				○	2						
	ピアノメソッドI	3.4①～②			1				○	2						
	ピアノメソッドII	3.4③～④			1				○	2						
	作曲・理論入門I	1.2.3.4①～②			2				○	1						
	作曲・理論入門II	1.2.3.4③～④			2				○	1						
	演奏表現IIIA	2.3①～②			1				○	1					4	オムニバス、標準外
	演奏表現IIIB	2.3③～④			1				○	1					4	オムニバス、標準外
	弦楽器実践A	1①～②			1				○	1					1	
	弦楽器実践B	1③～④			1				○	1					1	
	美術科教育法（中等）I	2①～②	○		2		○			1						
	美術科教育法（中等）II	2①～②	○		2		○			1						
	美術科教育法（中等）III	3.4③～④	○		2		○			1						
	美術科教育法（中等）IV	3.4③～④	○		2		○			1						
	絵画基礎	1①～②	○		2				○	1	1					
	彫刻基礎	1③	○		2				○		1					
	工芸基礎	2.3①～②	○		2				○	1						
	デザイン基礎	1④	○		2				○	1						
	美術理論基礎	2①～②	○		2		○			1						
	美術教育実践研究	4①～②	○		2				○	4	2					オムニバス
	絵画制作	2①～②			2				○	1						
	日本画制作	2③～④			2				○		1					
	彫刻制作	2.3.4①～②			2				○		1					標準外
	デザイン制作	3①～②			2				○	1						
	美術教育課題研究	3①～④			2				○	1						
	造形芸術学課題研究	3.4①～②			2				○	1						
	西洋絵画	2.3.4③～④			2				○	1						
	現代日本画研究	2.3.4①～②			2				○		1					
	彫刻論	2.3.4③～④			2		○				1					
	美術史概論	2.3①～②			2		○			1						
	造形教育論	2.3.4①～②			2		○			1						
	空間表現	2.3.4③～④			2		○			1						
	版画実習	2.3.4①～②			2				○						1	
	立体造形論	2.3.4①～②			2		○				1					隔年、標準外

基本計画書-82

教 育 課 程 等 の 概 要																
（教育学部教員養成課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
専門 教育に 関する 科目	専修専門科目															
	体育測定評価論演習Ⅱ	3.4③～④			1			○			1					
	生理学・運動生理学演習Ⅰ	3.4①～②			1			○			1					
	生理学・運動生理学演習Ⅱ	3.4③～④			1			○			1					
	衛生学・公衆衛生学演習Ⅰ	3.4①～②			1			○			1					
	衛生学・公衆衛生学演習Ⅱ	3.4③～④			1			○			1					
	技術教育学Ⅰ	3①～②	○		2		○								1	
	技術教育学Ⅱ	3③～④	○		2		○								1	
	技術教育学Ⅲ	1①～②	○		2		○				1					
	技術教育学Ⅳ	1③～④	○		2		○			1						
	材料加工実習Ⅰ	2①～②	○		1				○		1				1	
	機械・電気実習Ⅰ	2③～④	○		1				○	1						
	生物育成実習Ⅰ	2①～②	○		1				○		1					
	情報実習Ⅰ	2.3.4③～④	○		1				○			1				
	生物育成Ⅰ	1.2.3.4③～④			2		○				1					
	生物育成Ⅱ	2.3.4①～②			2		○				1					
	生物育成Ⅲ	2.3.4③～④			2		○				1					
	材料加工Ⅰ	1③～④			2		○				1					
	材料加工Ⅱ	2①～②			2		○				1					
	材料加工Ⅲ	3.4③～④			2		○				1					
	機械・電気Ⅰ	1①～②			2		○			1						
	機械・電気Ⅱ	2①～②			2		○			1						
	機械・電気Ⅲ	2.3①～②			2		○			1						
	機械・電気Ⅳ	2.3③～④			2		○			1						
	生物育成Ⅳ	3.4③～④			2		○				1					
	情報科学Ⅰ	1.2.3.4①～②			2		○					1				
	情報科学Ⅱ	1.2.3.4③～④			2		○					1				
	情報科学Ⅲ	2.3.4①～②			2		○					1				
	情報科学Ⅳ	2.3.4③～④			2		○					1				
	生物育成実習Ⅱ	3.4①～②			1				○		1					
	材料加工Ⅳ	3.4③～④			2		○				1					
	材料加工実習Ⅱ	3.4③～④			1				○		1					
	機械・電気実習Ⅱ	3①～②			1				○	1						
	情報実習Ⅱ	2.3.4①～②			1				○			1				
	家庭科教育法（中等）Ⅰ	2①～②	○		2		○				1					
	家庭科教育法（中等）Ⅱ	2③～④	○		2		○			2	1					オムニバス
	家庭科教育法（中等）Ⅲ	3①～②	○		2		○			2		1				オムニバス
	家庭科教育法（中等）Ⅳ	3③～④	○		2		○			2		1				オムニバス
	家庭経営学Ⅰ	1.2①～②	○		2		○					1				
	家庭経営学Ⅱ	2.3③～④	○		2		○					1				
	被服学Ⅰ	1①～②	○		2		○				1					
	被服学Ⅱ	2③～④	○		2		○			1						
	被服学実験実習Ⅰ	2①～②	○		2				○	1	1					
	食物学Ⅰ	2①～②	○		2		○				1					
	食物学Ⅱ	2.3③～④	○		2		○				1					隔年
	食物学実験実習Ⅰ	2①～②	○		2				○		1					
	住居学Ⅰ	1①～②	○		2		○			1						
	住居学実験実習	2.3①～②	○		2				○	1						隔年
	保育学	2.3①～②	○		2		○				1				1	隔年、標準外

教 育 課 程 等 の 概 要																
（教育学部教員養成課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
専門 教育に 関する 科目	生活科学教育演習	3①～②			2			○				1				
	生活科学教育課題の分析	3③～④			2			○				1				
	被服学演習	3①～②			2			○		1	1					
	被服学課題の分析	3③～④			2			○		1	1					
	食物学演習	3①～②			2			○				1				
	食物学課題の分析	3③～④			2			○				1				
	住居学演習	3①～②			2			○		1						
	住居学課題の分析	3③～④			2			○		1						
	被服学III	3③～④			2		○				1					
	被服学IV	3①～②			2		○			1						
	被服学実験実習II	2①～②			2				○	1						
	被服学実験実習III	2.3.4③～④			2				○			1				隔年
	被服学実験実習IV	2.3.4③～④			2				○			1				隔年
	住居学II	2.3①～②			2		○			1						隔年
	住居学III	2.3①～②			2		○			1						隔年
	家庭看護学	3.4③～④			2		○								8	隔年、オムニバス
	英語科教育法（中等）I	2.3.4①～②	○		2		○			1						
	英語科教育法（中等）II	2.3.4③～④	○		2		○			1						
	英語科教育法（中等）III	3.4①～②	○		2		○			1						
	英語科教育法（中等）IV	3.4③～④	○		2		○			1						
	英語学概説	1.2①～②	○		2		○			1	1					
	英語文学概説	2③～④	○		2		○				1					
	英語教育リスニング演習I	2.3①～②	○		1			○			1					
	英語教育リーディング演習I	1①～②	○		1			○		1						
	英語教育スピーキング演習I	1.2.3①～②	○		1			○				1				
	英語教育ライティング演習I	2.3①～②	○		1			○		1						
	異文化理解概説	3①～②	○		2		○			1						
	英語教育と英文法I	2.3①～②			2		○			1						
	英語教育と英文法II	2.3③～④			2		○			1						
	英語教育と英文法研究法I	3.4①～②			2		○			1						
	英語教育と英文法研究法II	3.4③～④			2		○			1						
	英語教育と音声学I	1.2.3.4③～④			2		○			1						
	英語教育と音声学II	2.3③～④			2		○			1						
	英語教育とコミュニケーションI	2.3①～②			2		○				1					
	英語教育とコミュニケーションII	3.4①～②			2		○				1					
	英語教育と言語習得論	3.4③～④			2		○				1					
	英語教育と米文学I	2.3①～②			2		○				1					
	英語教育と米文学II	2.3③～④			2		○				1					
	米文学教材研究I	3.4①～②			2		○				1					
	米文学教材研究II	3.4③～④			2		○				1					
	英語教育スピーキング演習II	1.2.3③～④			1			○			1					
	英語教育スピーキング演習III	2.3.4①～②			1			○			1					
	英語教育スピーキング演習IV	2.3.4③～④			1			○			1					
	英語教育リスニング演習II	2.3③～④			1			○			1					
	英語教育リスニング演習III	3.4①～②			1			○							1	
	英語教育リスニング演習IV	3.4③～④			1			○							1	
	英語教育ライティング演習II	2.3③～④			1			○		1						
	英語教育ライティング演習III	3①～②			1			○			1					

教 育 課 程 等 の 概 要																
(教育学部教員養成課程) 【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員(助手を除く)以外の教員	
専門教育に関する科目	英語教育ライティング演習Ⅳ	3.4③～④			1			○			1					
	英語教育リーディング演習Ⅱ	1③～④			1			○			1					
	英語教育リーディング演習ⅢⅢ	3.4①～②			1			○			1					
	英語教育リーディング演習Ⅳ	3.4③～④			1			○			1					
	英語教育と異文化理解	3③～④			2		○				1					
	幼児と健康	2.3.4③			1		○				1					
	幼児と人間関係	2.3.4②			1		○				1					
	幼児と環境	2.3.4①			1		○								1	
	幼児と言葉	2.3.4③			1		○				1					
	幼児と表現	2.3.4①			1		○				1					
	保育内容指導法 (健康)	3.4③～④			2		○								1	隔年
	保育内容指導法 (人間関係)	3.4③～④			2		○				1					
	保育内容指導法 (環境)	3.4①～②			2		○				4	3				オムニバス
	保育内容指導法 (言葉)	3.4③～④			2		○				1					
	保育内容指導法 (表現Ⅰ)	3.4③～④			2		○					1			1	オムニバス
	保育内容指導法 (表現Ⅱ)	3.4①～②			2		○								1	隔年、標準外
	幼稚園教育課程論	3.4③～④			2		○								1	
	幼稚園教育指導法	3.4③～④			2		○								1	隔年
	幼児理解の心理学	1.2.3.4③～④			2		○				1					
	地理歴史科教育法Ⅰ	2.3.4①～②			2		○					1				
	地理歴史科教育法Ⅱ	2.3.4③～④			2		○					1				
	公民科教育法Ⅰ	2.3.4①～②			2		○					1				
	公民科教育法Ⅱ	2.3.4③～④			2		○								1	
小計 (537科目)		—	—	0	981	0	—			33	35	7	2	0	55	
合計 (1187科目)		—	—	34	2105	0	—			36	36	7	2	0	644	
学位又は称号		学士 (教育学)			学位又は学科の分野				教育学・保育学関係							
卒 業 ・ 修 了 要 件 及 び 履 修 方 法									授業期間等							
(卒業要件) ・在学4年以上 ・教養教育に関する授業科目区分から17単位以上、専門教育に関する授業科目区分から114単位以上、合計131単位以上の単位修得が必要。 (履修方法) ・教養教育に関する授業科目 「健康スポーツ」から3単位、「大学学習法」から2単位、「英語」から2単位、「初修外国語」から2単位、「情報リテラシー」から2単位、「人文社会・教育科学」から「日本国憲法」で2単位を修得し、17単位以上とすること。 ・専門教育に関する授業科目 「卒業研究」で6単位、「課程共通科目」から2単位、「教職専門科目」から36単位以上、「教科専門科目」、「専修専門科目」については所属する専修の定めに従って履修し、合計で114単位以上修得すること。									1 学年の学期区分				4ターム			
									1 学期の授業期間				8週			
									1 時限の授業の標準時間				90分			

基本計画書-86

教 育 課 程 等 の 概 要																
（法学部法学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員	
専門教育に関する授業科目	知的財産法Ⅱ	3.4②	○		2		○				1					
	民事訴訟法Ⅰ	1.2.3.4①	○		2		○				1					
	民事訴訟法Ⅱ	1.2.3.4③	○		2		○				1					
	倒産法	3.4②	○		2		○				1					
	刑事訴訟法Ⅰ	3.4①	○		2		○			1						
	刑事訴訟法Ⅱ	3.4②	○		2		○			1						
	行政法Ⅰ	1.2.3.4③	○		2		○			1						
	行政法Ⅱ	1.2.3.4④	○		2		○			1						
	行政法Ⅲ	1.2.3.4①	○		2		○				1					
	ジェンダー論	1.2.3.4③	○		2		○			1						
	現代社会と法	3.4①②③④	○		2		○			3	2				4	オムニバス
	租税法	3.4④	○		2		○			1						
	社会保障法Ⅰ	3.4①	○		2		○			1						
	社会保障法Ⅱ	3.4②	○		2		○			1						
	社会福祉法制	3.4③	○		2		○			1						
	自治体法	3.4②	○		2		○				1					
	外国研究基礎演習	1.2.3.4③④	○		2			○		1						
	国際法	2.3.4③	○		2		○			1						
	国際組織法	2.3.4③	○		2		○			1						
	法社会学	2.3.4②	○		2		○			1						
	国際人権法	2.3.4④	○		2		○			1						
	Introduction to Japanese Law I, Basic	1.2.3.4②	○		2		○			2						オムニバス
	Introduction to Japanese Law II, Basic	1.2.3.4④	○		2		○			2						オムニバス
	International Law, Basic	1.2.3.4②	○		2		○			2						オムニバス
	特殊講義	1.2.3.4①②③④	○		2		○									
	国際交流	1.2.3.4①②③④	○		1			○		2			3			オムニバス
	小計（43科目）	—	—	0	85	0	—	—	—	32	12	1	7	0	5	
選択科目F類	政治学Ⅰ	1.2.3.4①	○		2		○				1					
	政治学Ⅱ	1.2.3.4④	○		2		○				1					
	日本政治外交史Ⅰ	1.2.3.4①	○		2		○			1						
	日本政治外交史Ⅱ	1.2.3.4④	○		2		○			1						
	比較政治	1.2.3.4④	○		2		○			1						
	アジア政治外交史	1.2.3.4①②③④	○		2		○			1						
	国際関係論	1.2.3.4①②③④			2		○								1	
	国際政治史	1.2.3.4①②③④			2		○								1	
	政策科学概論	2.3.4①			2		○								1	
	自治体政策論	2.3.4④	○		2		○			1						
	行政学Ⅰ	2.3.4②	○		2		○			1						
	行政学Ⅱ	2.3.4③	○		2		○			1						
	公共政策	3.4④	○		2		○			1						
	中国政治入門	2.3.4①	○		2		○			1						
	Introduction to Japanese Politics and Diplomacy, Basic	2.3.4④	○		2		○			2						オムニバス
	社会学	3.4①②③④	○		2		○			1						
	インターンシップ	3.4①②③④	○		1				○		2					
	新潟市の行政	2.3.4③	○		2		○				1	1				オムニバス
	新潟を学ぶ	1.2.3.4③	○		2		○					1				
	領域関連特殊講義	3.4①②③④	○		2		○				1					
	領域関連演習	3.4①②③④	○		2			○		2	1				2	
	小計（21科目）	—	—	0	41	0	—	—	—	14	7	2	0	0	5	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（法学部法学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員	
専門教育に関する授業科目	憲法Ⅰ	1. 2. 3. 4③	○		2		○			1						
	憲法Ⅱ	1. 2. 3. 4①	○		2		○			1						
	憲法Ⅲ	1. 2. 3. 4③	○		2		○				1					
	民法Ⅰ	1. 2. 3. 4③	○		2		○			1						
	民法Ⅱ	1. 2. 3. 4②	○		2		○				1					
	民法Ⅲ	1. 2. 3. 4④	○		2		○				1					
	民法Ⅳ	1. 2. 3. 5②	○		2		○					1				
	民法Ⅴ	1. 2. 3. 4②	○		2		○			1						
	民法Ⅵ	1. 2. 3. 4③	○		2		○					1				
	民法Ⅶ	1. 2. 3. 4④	○		2		○			1						
	民法Ⅷ	1. 2. 3. 4①	○		2		○			1						
	民法Ⅸ	1. 2. 3. 4①②③④			2		○								1	
	刑法Ⅰ	1. 2. 3. 4②	○		2		○				1					
	刑法Ⅱ	1. 2. 3. 4③	○		2		○				1					
	刑法Ⅲ	1. 2. 3. 4①	○		2		○			1						
	会社法Ⅰ	1. 2. 3. 4④	○		2		○			1						
	会社法Ⅱ	1. 2. 3. 4①	○		2		○				1					
	会社法Ⅲ	1. 2. 3. 4②	○		2		○			1						
	民事訴訟法Ⅰ	1. 2. 3. 4①	○		2		○				1					
	民事訴訟法Ⅱ	1. 2. 3. 4③	○		2		○				1					
	刑事訴訟法Ⅰ	3. 4①	○		2		○				1					
	刑事訴訟法Ⅱ	3. 4②	○		2		○				1					
	行政法Ⅰ	1. 2. 3. 4③	○		2		○			1						
	行政法Ⅱ	1. 2. 3. 4④	○		2		○			1						
	行政法Ⅲ	1. 2. 3. 4①	○		2		○				1					
	小計（25科目）	—	—	0	50	0	—	—	—	11	11	2	0	0	1	
必修科目M類	憲法基礎演習	2. 3. 4①～②	○		2			○			1					
	民法基礎演習	2. 3. 4③～④	○		2			○		1						
	刑法基礎演習	2. 3. 4③～④	○		2			○							1	
	小計（3科目）	—	—	0	6	0	—	—	—	1	1	0	0	0	1	
必修科目N類	法文書作成Ⅰ	2. 3. 4①～②	○	2			○			1	2				1	共同
	法文書作成Ⅱ	2. 3. 4③～④	○	2			○			1	2				1	共同
	小計（2科目）	—	—	4	0	0	—	—	—	2	4	0	0	0	2	
選択科目F類（英語）	アカデミック英語入門R	1①～②③～④			1		○								27	
	実践コミュニケーション英語Ⅰ	1①～②			1			○							5	
	アカデミック英語入門R	1①～②③～④			1			○							27	
	アカデミック英語入門L	1①～②③～④			1			○							13	
	中級コミュニケーション英語	1. 2. 3. 4①～②③～④			2			○							10	メディア
	上級コミュニケーション英語	1. 2. 3. 4①～②③～④			2			○							6	メディア
	TOEFL iBT PreparationⅠ	1. 2. 3. 4①～②③～④			2			○							2	
	TOEFL iBT PreparationⅡ	1. 2. 3. 4①～②			2			○							2	メディア
	IELTS PreparationⅠ	1. 2. 3. 4①～②③～④			2			○							1	
	IELTS PreparationⅡ	1. 2. 3. 4①～②③～④			2			○							1	
	実践コミュニケーション英語Ⅱ	1③～④			1			○							5	
	中級CALL（留学準備）	1. 2. 3. 4①～②③～④			2			○							1	メディア
	中級EAP（Listening & Speaking）	2. 3. 4①～②③～④			2			○							2	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（法学部法学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員	
専門 教育 に 関 する 授 業 科 目	選択科目F類（英語）															
	中級EAP（Writing）	2.3.4①③④①～②③～④			2			○							2	
	上級EAP（Writing）	2.3.4①～②③～④			2			○							1	
	中級EAP（Reading: Term Course）	2.3.4①			1			○							1	
	中級EAP（Listening & Speaking: Term Course）	2.3.4①②			1			○							1	
	上級EAP（Reading）	2.3.4①～②③～④			2			○							1	
	中級EAP（Reading）	2.3.4①～②③～④			2			○							2	
	上級EAP（Listening & Speaking）	2.3.4①～②③～④			2			○							1	
	iStep Extension: Academic Writing	1.2③～④			2			○							1	
	iStep Extension: Basic Pronunciation	1.2③～④			2			○							1	
	iStep Academic Writing	1.2②			0.5			○							1	
	iStep Extension: Academic Listening & Speaking	1.2③～④			2			○							2	
	iStep Extension: Academic Reading	1.2③～④			2			○							1	
	iStep Extension: Presentation	1.2③～④			2			○							1	
	iStep Presentations	1.2②			0.5			○							1	
	iStep Extension: Oral Communication	1.2③～④			2			○							1	
	iStep Academic Reading	1.2②			0.5			○							1	
	iStep Listening and Speaking	1.2②			0.5			○							1	
	英語表現セミナーA	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
	英語表現セミナーB	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
	英語表現セミナーC	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
	実践英語セミナー	1.2.3.4①～②③～④			2			○							1	
	医療英語（看護）	1.2.3.4①～②			2			○							5	オムニバス
	医療英語（放射）	1.2.3.4①～②			2			○							14	オムニバス
	医療英語（検査）	1.2.3.4①～②			2			○							15	オムニバス
	医療英語ベーシック（放射）	1.2.3.4③～④			2			○							7	オムニバス
	P.A.C.E.（Academic Listening & Speaking）	1.2.3.4①			0.5			○							2	
	P.A.C.E.（Academic Reading I）	1.2.3.4①			0.5			○							2	
	P.A.C.E.（Academic Writing I）	1.2.3.4①			0.5			○							2	
	P.A.C.E.（Oral Communication）	1.2.3.4①			0.5			○							2	
	P.A.C.E.（Academic Writing II）	1.2.3.4②			0.5			○							2	
	P.A.C.E.（Academic Reading II）	1.2.3.4②			0.5			○							2	
	P.A.C.E.（Research Writing）	1.2.3.4③～④			1			○							2	
	P.A.C.E.（Academic Communication Skills）	1.2.3.4③～④			1			○							1	
	P.A.C.E.（Presentation Skills）	1.2.3.4③～④			1			○							1	
	小計（47科目）	—	—	0	69	0	—	—	—	0	0	0	0	0	81	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（法学部法学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外を除く	
専門教育に関する授業科目 選択科目F類（初修外国語）	ドイツ語圏グローバル理解 1（スイス学入門）	1.2①②			1		○								1	メディア
	ドイツ語圏グローバル理解 2（ドイツ語文化圏研究入門）	1.2①②			1		○								1	メディア
	ドイツ語圏グローバル理解 3（ドイツ語圏で暮らしてみれば）	1.2①②			1		○								1	
	ドイツ語圏グローバル理解 4（東西ドイツの分断と統一って？）	1.2①②			1		○								1	
	ドイツ語圏グローバル理解 5（映像で見る日独文化比較）	1.2①②			1		○								1	
	フランス語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	
	フランス語圏グローバル理解 2	1.2①②			1		○								1	
	フランス語圏グローバル理解 3	1.2①②			1		○								1	
	ロシア語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	メディア
	中国語圏グローバル理解 1（日中韓比較文化）	1.2①②			1		○								1	
	中国語圏グローバル理解 2（映像で探る中国文化）	1.2①②			1		○								1	
	中国語圏グローバル理解 3（多民族国家中国）	1.2①②			1		○								1	
	中国語圏グローバル理解 4（漢文と中国語）	1.2③④			1		○								1	メディア
	中国語圏グローバル理解 5（中国の生活と経済）	1.2①②			1		○								1	
	中国語圏グローバル理解 6（中国滞在事情）	1.2①②			1		○								1	
	中国語圏グローバル理解 7（エリアスタディーズ北京）	1.2①②			1		○								1	メディア
	中国語圏グローバル理解 8（エリアスタディーズ上海）	1.2①②			1		○								1	メディア
	中国語圏グローバル理解 9（エリアスタディーズ東北）	1.2①②			1		○								1	メディア
	中国語圏グローバル理解 10（中国語の基礎知識）	1.2①②			1		○								1	
	中国語圏グローバル理解 11（中国語の基礎知識）	1.2①②			1		○								1	
	中国語圏グローバル理解 12（中国語の基礎知識）	1.2③④			1		○								1	
	朝鮮語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	メディア
	朝鮮語圏グローバル理解 2	1.2①②			1		○								1	メディア
	スペイン語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	
	イタリア語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	メディア
	古代ローマ帝国ラテン語	1.2.3.4①			1		○								1	メディア
	古典古代ギリシア語	1.2.3.4②			1		○								1	メディア
	西洋古典文芸 A	1.2.3.4①			1		○								1	
	西洋古典文芸 B	1.2.3.4②			1		○								1	
	フィリピン語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○								1	
	ドイツ語インテンシブ IA	1.2①			2			○							4	オムニバス
	ドイツ語インテンシブ IB	1.2②			2			○							4	オムニバス
	ドイツ語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							5	オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要																
（法学部法学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
専門教育に関する授業科目 選択科目F類（初修外国語）	ドイツ語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							5	オムニバス
	コミュニケーション・ドイツ語A	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	コミュニケーション・ドイツ語B	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	コミュニケーション・ドイツ語C	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	ドイツ語セミナーA	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	ドイツ語セミナーB	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	ドイツ語インテンシブ II	1.2③～④			4			○							4	オムニバス
	ドイツ語スタンダード II	1.2③～④			3			○							5	オムニバス
	ドイツ語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							2	
	ドイツ語エッセンシャル B1	1.2③～④			1			○							2	
	コミュニケーション・ドイツ語D	1.2.3.4③～④			2			○							1	
	コミュニケーション・ドイツ語E	1.2.3.4③～④			2			○							1	
	コミュニケーション・ドイツ語F	1.2.3.4③～④			2			○							1	
	ドイツ語セミナーC	1.2.3.4③～④			2			○							1	
	ドイツ語セミナーD	1.2.3.4③～④			2			○							1	
	フランス語インテンシブ IA	1.2①			2			○							3	オムニバス
	フランス語インテンシブ IB	1.2②			2			○							3	オムニバス
	フランス語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							5	メディア、オムニバス
	フランス語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							5	メディア、オムニバス
	コミュニケーション・フランス語B	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
	コミュニケーション・フランス語C	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	コミュニケーション・フランス語D	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	コミュニケーション・フランス語E	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	コミュニケーション・フランス語J	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	フランス語セミナーA	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
	フランス語インテンシブ II	1.2③～④			4			○							3	オムニバス
	フランス語スタンダード II	1.2③～④			3			○							5	メディア、オムニバス
	フランス語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							2	
	フランス語エッセンシャル B	1.2③～④			1			○							2	
	フランス学アクティブ	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	コミュニケーション・フランス語G	1.2.3.4③～④			2			○							1	
	コミュニケーション・フランス語H	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
	コミュニケーション・フランス語K	1.2.3.4③～④			2			○							1	
	フランス語セミナーB	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
	ロシア語インテンシブ IA	1.2①			2			○							2	オムニバス
	ロシア語インテンシブ IB	1.2②			2			○							2	オムニバス
	ロシア語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							2	オムニバス
	ロシア語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							2	オムニバス
	コミュニケーション・ロシア語A	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	コミュニケーション・ロシア語B	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	ロシア語セミナーA	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	ロシア語ベーシックプラスA	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	ロシア語インテンシブ II	1.2③～④			4			○							2	オムニバス
	ロシア語スタンダード II	1.2③～④			3			○							2	オムニバス
	ロシア語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							2	オムニバス
	ロシア語エッセンシャル B	1.2④			1			○							1	メディア
	コミュニケーション・ロシア語C	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
	ロシア語セミナーB	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア

教 育 課 程 等 の 概 要																
（法学部法学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
専門教育に関する授業科目	選択科目F類（初修外国語）															
	中国語インテンシブ IA	1.2①			2			○							6	メディア、オムニバス
	中国語インテンシブ IB	1.2②			2			○							6	メディア、オムニバス
	中国語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							11	メディア
	中国語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							11	
	コミュニケーション・中国語A	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	コミュニケーション・中国語B	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	コミュニケーション・中国語C	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	コミュニケーション・中国語J	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
	コミュニケーション・中国語M	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	中国語セミナーE	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	中国語セミナーF	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	中国語セミナーQ	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	中国語インテンシブ II	1.2③～④			4			○							6	オムニバス
	中国語スタンダード II	1.2③～④			3			○							11	メディア、オムニバス
	中国語エッセンシャル A（発音・文法）	1.2③～④			2			○							4	オムニバス
	中国語エッセンシャル B（練習・会話）	1.2③～④			1			○							1	
	コミュニケーション・中国語D	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
	コミュニケーション・中国語E	1.2.3.4③～④			2			○							1	
	コミュニケーション・中国語F	1.2.3.4③～④			2			○							1	
	コミュニケーション・中国語K	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
	上海語演習	1.2.3.4③～④			2			○							1	
	中国語セミナーG	1.2.3.4③～④			2			○							1	
	中国語セミナーH	1.2.3.4③～④			2			○							1	
	中国語セミナーN	1.2.3.4③～④			2			○							1	
	朝鮮語インテンシブ IA	1.2①			2			○							2	オムニバス
	朝鮮語インテンシブ IB	1.2②			2			○							2	オムニバス
	朝鮮語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							2	メディア、オムニバス
	朝鮮語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							2	メディア、オムニバス
	コミュニケーション・朝鮮語I	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
	コミュニケーション・朝鮮語J	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
	コミュニケーション・朝鮮語K	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
	コミュニケーション・朝鮮語H	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
	朝鮮語セミナーA	1.2.3.4①～②			2			○							1	メディア
	朝鮮語インテンシブ II	1.2③～④			4			○							3	オムニバス
	朝鮮語スタンダード II	1.2③～④			3			○							2	メディア、オムニバス
	朝鮮語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							1	
	朝鮮語エッセンシャル B	1.2③～④			1			○							1	
	コミュニケーション・朝鮮語L	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
	コミュニケーション・朝鮮語X	1.2.3.4③～④			2			○							1	
	朝鮮語セミナーB	1.2.3.4③～④			2			○							1	メディア
	スペイン語スタンダード IA	1.2①			1.5			○							1	
	スペイン語スタンダード IB	1.2②			1.5			○							1	
	スペイン語スタンダード III	1.2①～②			1			○							1	
	コミュニケーション・スペイン語A	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	スペイン語セミナーA	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	スペイン語スタンダード II	1.2③～④			3			○							1	
	スペイン語スタンダード IV	1.2③～④			1			○							1	
	スペイン語エッセンシャル A	1.2③～④			2			○							1	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(法学部法学科) 【基礎学部】																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員(助手を除く)以外の教員		
専門教育に関する科目	選択科目F類(初修外国語)	スペイン語エッセンシャル B	1.2③～④		1				○							1	
		コミュニケーション・スペイン語B	1.2.3.4③～④		2				○							1	
		イタリア語スタンダード IA	1.2①		1.5				○							2	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード IB	1.2②		1.5				○							2	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード III	1.2①～②		1				○							1	メディア
		コミュニケーション・イタリア語A	1.2.3.4①～②		2				○							1	メディア
		イタリア語スタンダード II	1.2③～④		3				○							2	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード IV	1.2③～④		1				○							1	メディア
		コミュニケーション・イタリア語B	1.2.3.4③～④		2				○							1	メディア
		古代エジプト神聖文字文A	1.2.3.4③		1				○							1	メディア
		古代エジプト神聖文字文B	1.2.3.4④		1				○							1	メディア
		フィリピン語エッセンシャル A	1.2③～④		2				○							1	
		フィリピン語エッセンシャル B	1.2③～④		1				○							1	
		小計(142科目)	—	—	0	251	0	—			0	0	0	0	0	54	
選択科目F類(健康・スポーツ)	健康スポーツ科学実習 Ia	1.2.3.4①			0.5				○							2	
	健康スポーツ科学実習 Ib	1.2.3.4②			0.5				○							2	
	健康スポーツ科学実習 I	1.2.3.4①～②③～④			1				○							16	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II(ゴルフ)	1.2.3.4①～②			1				○							3	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II(ソフトボール)	1.2.3.4①～②			1				○							1	
	健康スポーツ科学実習 II(スキー I)	1.2.3.4③～④			1				○							8	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II(スキー II)	1.2.3.4③～④			1				○							8	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II(卓球 II)	1.2.3.4③～④			1				○							1	
	健康スポーツ科学実習 II(卓球 I)	1.2.3.4③～④			1				○							1	
	健康スポーツ科学実習 II(剣道)	1.2.3.4③～④			1				○							1	
	健康スポーツ科学実習 II(トレーニング)	1.2.3.4③～④			1				○							1	
	健康スポーツ科学実習 II(野外活動)	1.2.3.4③～④			1				○							1	
	健康スポーツ科学講義a	1.2.3.4①③			1		○									4	オムニバス
	健康スポーツ科学講義b	1.2.3.4②④			1		○									4	オムニバス
健康スポーツ科学講義	1.2.3.4①～②			2		○									2	オムニバス	
	小計(15科目)	—	—	0	15	0	—			0	0	0	0	0	26		
選択科目F類(情報リテラシー)	データサイエンス基礎演習	1.2.3.4①②③④			2				○							10	
	データサイエンス総論 I	1.2.3.4①③			1		○									7	オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門(力学分野)	1.2.3.4①			2		○									2	※演習、オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学材料分野)	1.2.3.4①			2		○									2	※演習、オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門(融合領域分野)	1.2.3.4①			2		○									2	※演習、オムニバス
	情報リテラシー概論	1.2.3.4①			2		○						1			5	オムニバス
	データサイエンス総論 II	1.2.3.4②④			1		○									7	オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門(情報電子分野)	1.2.3.4②			2		○									3	※演習、オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門(建築分野)	1.2.3.4②			2		○									2	※演習、オムニバス
	情報リテラシー	1.2.3.4①～②			2				○							1	
	情報処理概論 A I	1.2.3.4①～②			2		○									1	
	人工知能入門	1.2.3.4①～②			2		○									2	オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要																
（法学部法学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
専門教育に関する科目	データサイエンス・インターンシップ（事前・事後指導）	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	
	データサイエンス・インターンシップ	1. 2. 3. 4①～②			6			○							1	
	情報処理概論A II	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	データサイエンス発表	1. 2. 3. 4③～④			2			○							1	
	サイバーセキュリティと情報倫理	1. 2. 3. 4①			2		○								1	
	小計（17科目）	—	—	0	36	0	—			0	0	0	1	0	32	
	選択科目F類（新潟大学個性化科目）															
	日本酒学C	1. 2. 3. 4②			1		○								5	オムニバス
	日本酒学A	1. 2. 3. 4①～②			2		○							1	3	オムニバス
	キャリアデザイン	1. 2. 3. 4①～②			2		○								3	オムニバス
	SDGs入門演習	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	メディア
	新潟産業フィールドワーク	1. 2. 3. 4①～②			4		○								2	※演習、オムニバス
	新潟の農林業	1. 2. 3. 4③			2		○								11	メディア、オムニバス
	食と健康の科学	1. 2. 3. 4④			2		○								13	オムニバス
	土と水	1. 2. 3. 4④			2		○								14	オムニバス
	近世越後諸地域の歴史と社会	1. 2. 3. 4③～④			2		○								5	オムニバス
	SDGs入門	1. 2. 3. 4③～④			2		○								5	オムニバス
選択科目F類（新潟大学個性化科目）	地域を探究	1. 2. 3. 4③～④			2		○							1	13	オムニバス
	日本酒学B	1. 2. 3. 4①～②			1		○							1	8	オムニバス
	ダブルホーム活動入門Ⅰ	1. 2. 3. 4①			1		○								3	※演習、オムニバス
	生まれ変わる地方小都市一人とまちの未来図を描くー	1. 2. 3. 4①			2			○							1	メディア
	自己・他者理解から始まるキャリア自律	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	※演習、オムニバス
	仕事・業界理解から働く意味を探究する	1. 2. 3. 4③			2		○								2	※演習、オムニバス
	ダブルホーム活動入門Ⅱ	1. 2. 3. 4②			1			○							3	メディア、オムニバス
	ボランティア開発論Ⅰ	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	オムニバス
	コミュニティ開発論Ⅰ	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	オムニバス
	地域から文化を考える	1. 2. 3. 4①～②			2		○								5	※実験・実習、オムニバス
	学校支援フィールドワークA（小学校）	1. 2. 3. 4①～②			2			○							3	オムニバス
	学校支援フィールドワークA（中学校）	1. 2. 3. 4①～②			2			○							3	オムニバス
	学校支援フィールドワークA（高等学校）	1. 2. 3. 4①～②			2			○							3	オムニバス
	学校支援フィールドワークB（小学校）	1. 2. 3. 4①～②			4			○							3	オムニバス
	学校支援フィールドワークB（中学校）	1. 2. 3. 4①～②			4			○							3	オムニバス
	授業フィールドワーク	1. 2. 3. 4①～②			2				○						2	オムニバス
選択科目F類（新潟大学個性化科目）	現場訪問とデータから読み解く新潟の今ー新潟地域産業の可能性を探究ーⅠ	1. 2. 3. 4①～②			2			○							2	※実験・実習、オムニバス
	生涯学習社会とメディア	1. 2. 3. 4③			2		○								1	
	私のローカルキャリア論ー地域とかかわる多様な働きかた・暮らしかたー	1. 2. 3. 4③			2		○								1	※演習、メディア
	ボランティア開発論Ⅱ	1. 2. 3. 4③～④			2		○								2	オムニバス
	コミュニティ開発論Ⅱ	1. 2. 3. 4③～④			2		○								2	オムニバス
	現場訪問とデータから読み解く新潟の今ー新潟地域産業の可能性を探究ーⅡ	1. 2. 3. 4③～④			2			○							2	※実験・実習、オムニバス
	地域共創演習Ⅲb	1. 2. 3. 4③～④			1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要																
（法学部法学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
専門教育に関する科目 （新潟大学個性化科目）	地方小都市の未来創造-市民と学生による地域づくりの実践	1. 2. 3. 4①～④			4			○							2	※実験・実習、オムニバス
	地域共創演習Ⅰ	1. 2. 3. 4①～④			1			○							4	※講義、実験・実習、オムニバス
	地域共創演習Ⅱa	1. 2. 3. 4①～④			1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
	地域共創演習Ⅱb	1. 2. 3. 4①～④			1			○							5	※講義、実験・実習 メディア、オムニバス
	地域共創演習Ⅱb	1. 2. 3. 4①～④			1			○							2	※実験・実習、オムニバス
	地域共創演習Ⅱb	1. 2. 3. 4①～④			1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
	地域共創演習Ⅲa	1. 2. 3. 4①～②			1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
	コミュニティインターンシップ実践	1. 2. 3. 4①～④			4			○							1	※実験・実習
	日本手話A	1. 2. 3. 4①			2		○								4	オムニバス
	アクティブラーニングA	1. 2. 3. 4①②③④			1		○								1	
	アクティブラーニングC	1. 2. 3. 4①②③④			1		○								1	
	日本と外国人	1. 2. 3. 4①②③④			1		○								1	メディア
	ユーザのための数学Ⅰ	1. 2. 3. 4①			2			○							1	
	教員志望者のための日本語教育入門 A	1. 2. 3. 4①			1		○								1	
	分野横断デザイン	1. 2. 3. 4①②③④			1		○								5	※演習、オムニバス
	分野横断リフレクション	1. 2. 3. 4①②③④			1		○								5	※演習、オムニバス
	多文化間共修A1	1. 2. 3. 4①③			1		○								1	
	多文化間共修B1	1. 2. 3. 4①③			1		○								1	
	多文化間共修C1	1. 2. 3. 4①③			1		○								1	メディア
	多文化間共修D1	1. 2. 3. 4①③			1		○								1	
	リーダーシップ演習Ⅱ1	1. 2. 3. 4①			1			○							3	オムニバス
	リーダーシップ演習Ⅲ1	1. 2. 3. 4①			1			○							3	オムニバス
	アクティブラーニングB	1. 2. 3. 4②④			1		○								1	
	日本手話B	1. 2. 3. 4②			2		○								4	オムニバス
	1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムⅠ	1. 2. 3. 4②			2			○							2	オムニバス
	税のしくみから社会を考える	1. 2. 3. 4②			2		○								7	オムニバス
	教員志望者のための日本語教育入門 B	1. 2. 3. 4②			1		○								1	
	地域災害環境システム学入門	1. 2. 3. 4②			1		○								6	オムニバス
	中国留学準備講座 サマーセミナー中国入門	1. 2. 3. 4②			1		○			1					1	オムニバス
	多文化間共修A2	1. 2. 3. 4②④			1		○								1	
	多文化間共修B2	1. 2. 3. 4②④			1		○								1	
	多文化間共修C2	1. 2. 3. 4②④			1		○								1	メディア
	多文化間共修D2	1. 2. 3. 4②④			1		○								1	
	リーダーシップ演習Ⅱ2	1. 2. 3. 4②			1			○							3	オムニバス
	リーダーシップ演習Ⅲ2	1. 2. 3. 4②			1			○							3	オムニバス
	新聞を体験するー新潟日報との連携授業ー	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	オムニバス
	平和を考えるA	1. 2. 3. 4①～②			2		○								5	オムニバス
	パフォーマンスの外国語	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションA	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	国際共修：留学生との協働学習を通じた異文化理解A	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	International Relations in the Asia-Pacific	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	※演習
	Regionalism in the Asia-Pacific Region	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	※演習
	Chinese Politics and Diplomacy	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（法学部法学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
専門教育に関する科目 （新潟大学個性化科目）	選択科目F類（新潟大学個性化科目）															
	生命保険を考える	1.2.3.4①～②			2		○								8	オムニバス
	ストレスマネジメント	1.2.3.4①～②			2		○								1	※演習
	パーソナルファイナンス論	1.2.3.4①～②			2		○								1	
	学生がデザインする働き方の未来－人生100年時代のワークスタイルを創造する－	1.2.3.4②～③			2		○								1	※演習
	学問の扉 知と方法の最前線	1.2.3.4③～④			1		○								13	メディア、オムニバス
	平和と現代のグローバル安全保障論	1.2.3.4①～②			2		○								1	
	中東イスラーム言語文化入門	1.2.3.4①～②			2		○								1	
	大学生のための役に立つ育児学	1.2.3.4①～②			1		○								7	オムニバス
	朱鷺・自然再生フィールドワーク	1.2.3.4①～②			1				○						4	オムニバス
	1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムⅡ	1.2.3.4①～②			4				○						2	オムニバス
	表現プロジェクト演習Q	1.2.3.4①～②			2			○							2	オムニバス
	異文化と技術	1.2.3.4①～②③～④			1		○								7	オムニバス
	研究者の仕事と生活	1.2.3.4①～②			1		○								6	メディア、オムニバス
	地理情報システム（GIS）概論・演習	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
	森・里・海フィールド実習	1.2.3.4①～②			1				○						8	オムニバス
	開発・環境と平和	1.2.3.4①～②			2		○								1	
	西シドニー大学国際交流プログラムA	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	韓国サマースクールⅠ	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	西シドニー大学国際交流プログラムB	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-W	1.2.3.4①～②			4		○								1	
	カナダ・サマーセミナー	1.2.3.4①～②			4			○							1	
	オタゴ大学英語研修	1.2.3.4①～②			4			○							1	
	新潟の企業の魅力を探る	1.2.3.4①～②③～④			1				○						1	
	1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムⅠ（集中・短縮版）	1.2.3.4①～②			1			○							2	オムニバス
	1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムⅡ（短縮版）	1.2.3.4①～②			2				○						2	オムニバス
	オンライン国際共修型プロジェクトワーク	1.2.3.4①～②			1		○								6	※演習、メディア、オムニバス
	韓国サマーセミナーⅠ	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	平和学概論	1.2.3.4③			2		○								1	
	表現プロジェクト演習T	1.2.3.4③			2			○							1	
	地域災害環境システム学演習	1.2.3.4③			1			○							6	オムニバス
	トキをシンボルとした自然再生	1.2.3.4③			2		○								9	オムニバス
	キャリア形成と法制度	1.2.3.4③			2		○								1	
	表現プロジェクト演習G	1.2.3.4③			2			○							1	
	ユーザのための数学Ⅱ	1.2.3.4③			2			○							1	
	教員志望者のための日本語教育入門 C	1.2.3.4③			1		○								1	
	国際共修：留学生と考える日中言語文化A	1.2.3.4③			1		○								1	
	西洋カリグラフィーA	1.2.3.4③			1		○								1	メディア
	リーダーシップ演習Ⅱ3	1.2.3.4③			1			○							3	オムニバス
	教員志望者のための日本語教育入門 D	1.2.3.4④			1		○								1	
	大学生活戦略論－キャンパス内外を「越境」する学び・経験－	1.2.3.4④			2		○								1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（法学部法学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）	
専門教育に関する科目 （新潟大学個性化科目）	シンガポール・スプリングセミナー留学プログラムの準備講座：グローバル対応力育成・強化	1. 2. 3. 4④			1		○								2	※演習、オムニバス
	オックスフォード大学英語研修（OSS留学プログラム）の準備講座：グローバル対応力育成・強化	1. 2. 3. 4④			1			○							3	オムニバス
	西洋カリグラフィーB	1. 2. 3. 4④			1		○								1	メディア
	佐渡学概論：佐渡島の自然と人々の営み	1. 2. 3. 4④			2		○								4	オムニバス
	リーダーシップ演習Ⅰ	1. 2. 3. 4④			1			○							3	オムニバス
	リーダーシップ演習Ⅱ4	1. 2. 3. 4④			1			○							3	オムニバス
	ピアサポート入門	1. 2. 3. 4③～④			2		○								2	※演習、オムニバス
	表現プロジェクト演習H	1. 2. 3. 4③～④			2			○							2	オムニバス
	平和を考えるB	1. 2. 3. 4③～④			2		○							1	8	オムニバス
	国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションB	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	国際共修：留学生との協働学習を通じた異文化理解B	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	The China-Japan-US Trilateral Relations	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	※演習
	グローバル課題を理解する対応力の基礎講座	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	※演習
	現代社会と差別	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	※演習
	地理情報システム（GIS）概論・応用演習	1. 2. 3. 4③～④			2			○							2	オムニバス
	オックスフォード大学英語研修	1. 2. 3. 4③～④			2			○							1	
	台湾スプリングセミナーⅠ	1. 2. 3. 4③～④			2		○								6	オムニバス
	台湾スプリングセミナーⅡ	1. 2. 3. 4③～④			2		○								6	オムニバス
	シンガポール・スプリングセミナー	1. 2. 3. 4③～④			2			○							1	
	多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-S	1. 2. 3. 4③～④			4		○								1	
	フィリピンALLC英語研修	1. 2. 3. 4③～④			4			○							1	
	佐渡自然共生国際実習	1. 2. 3. 4①～④			2				○						6	オムニバス
	地域共創特別演習（岩室）	1. 2. 3. 4①～④			2			○							1	
	地域共創特別演習ⅠA（刈羽&東京）	1. 2. 3. 4①～②			2			○							3	オムニバス
	地域共創特別演習ⅠB（刈羽&東京）	1. 2. 3. 4③～④			2			○							3	オムニバス
	小計（140科目）	—	—	0	250	0	—			1	0	0	0	1	201	
選択科目F類 （留学生基本科目）	英語による日本語文法解説a	1. 2. 3. 4①			1		○								1	
	中国語による日本語文法解説a	1. 2. 3. 4①			1		○								1	
	日本語Ⅰ	1. 2. 3. 4①③			2			○			1				1	メディア、オムニバス
	日本語Ⅲ	1. 2. 3. 4①③			2			○							1	
	英語による日本語文法解説b	1. 2. 3. 4②			1		○								1	
	中国語による日本語文法解説b	1. 2. 3. 4②			1		○								1	
	日本語Ⅱ	1. 2. 3. 4②④			2			○							1	メディア
	日本語Ⅳ	1. 2. 3. 4②④			2			○							1	
	JLPT-N1 A	1. 2. 3. 4①～②			1			○							1	メディア
	JLPT-N2 A	1. 2. 3. 4①～②			1			○							1	
	日本語作文Ⅰ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語作文Ⅱ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（法学部法学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 （助 手 を 除 く） 以外の 教 員	
専 門 教 育 に 関 す る 科 目	選択科目F類（留学生基本科目）															
	日本語作文Ⅲ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
	日本語作文Ⅳ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅰ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅱ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅲ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅳ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅴ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅵ	1.2.3.4①～②③～④			1			○							1	
	日本語入門	1.2.3.4①～②③～④			3			○							2	
	日本語Ⅴ	1.2.3.4①～②③～④			4			○							1	
	日本語Ⅵ	1.2.3.4①～②			5			○							1	
	英語による日本語文法解説c	1.2.3.4③			1		○								1	
	中国語による日本語文法解説c	1.2.3.4③			1		○								1	
	英語による日本語文法解説d	1.2.3.4④			1		○								1	
	中国語による日本語文法解説d	1.2.3.4④			1		○								1	
	JLPT-N1 C	1.2.3.4③～④			1			○							1	
	集中日本語O F	1.2.3.4③～④			5			○							3	オムニバス
	集中日本語O G	1.2.3.4③～④			5			○							3	オムニバス
	集中日本語O H	1.2.3.4③～④			5			○							3	オムニバス
	日本語Ⅶ	1.2.3.4③～④			5			○							1	
	日本文化入門Ⅰ	1.2.3.4①②③④			1			○							1	メディア
	日本文化入門Ⅱ	1.2.3.4①②③④			1			○							1	
	日本事情自然系A	1.2.3.4①～②			2		○								9	オムニバス
	課題研究Ⅱ	1.2.3.4①～②			2			○							4	オムニバス
	ビジネス日本語	1.2.3.4①～②③～④			2		○								1	
	日本で働く	1.2.3.4①～②			2		○								1	
	日本事情社会系A	1.2.3.4③～④			2		○			1	2		1			メディア、オムニバス
	日本事情自然系B	1.2.3.4③～④			2		○								1	
	課題研究Ⅰ	1.2.3.4③～④			2			○							4	オムニバス
	小計（41科目）	—	—	0	77	0	—	—	—	1	3	0	1	0	23	
選 択 科 目 F 類 （大 学 学 習 法）	人文初年次演習	1.2.3.4①～②			2			○							11	オムニバス
	スタディ・スキルズA	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	スタディ・スキルズB	1.2.3.4①			2			○							8	オムニバス
	スタディ・スキルズC	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
	スタディ・スキルズE	1.2.3.4①～②			2			○							5	オムニバス
	スタディ・スキルズF	1.2.3.4①～②			2			○							5	オムニバス
	スタディ・スキルズG	1.2.3.4①～②			2			○							6	オムニバス
	スタディ・スキルズH	1.2.3.4①～②			2			○							4	オムニバス
	スタディ・スキルズI	1.2.3.4①			2			○							3	オムニバス
	スタディ・スキルズK	1.2.3.4①～②			2			○							5	オムニバス
	スタディ・スキルズL	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	スタディ・スキルズM	1.2.3.4①			2			○							6	オムニバス
	スタディ・スキルズN	1.2.3.4①～②			2			○							6	オムニバス
	スタディ・スキルズP	1.2.3.4①～②			2			○							7	オムニバス
	スタディ・スキルズ	1.2.3.4①			2			○		4	4	1	2		2	オムニバス
	スタディスキルズⅠ	1.2.3.4①			1			○							10	オムニバス
	スタディスキルズⅡ	1.2.3.4③			1			○							18	オムニバス
	スタディスキルズⅢ	1.2.3.4④			1			○							2	オムニバス
	スタディスキルズ（看護）	1.2.3.4①			2			○							5	オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(法学部法学科) 【基礎学部】																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 (助 手 を 除 く) 以 外 の 教 員		
専門 教育 に 関 する 科目	選択科目F類(大学学習法)	スタディスキルズ (放射)	1.2.3.4①～②		2			○								1	
		スタディスキルズ (検査)	1.2.3.4①～②		2			○								14	オムニバス
		歯学スタディ・スキルズ	1.2.3.4①～②		2			○								8	オムニバス
		歯学スタディ・スキルズⅡ	1.2.3.4①～②		2			○								6	オムニバス
		工学リテラシー入門 (力学分野)	1.2.3.4①		2			○								20	オムニバス
		工学リテラシー入門 (情報電子分野)	1.2.3.4①		2		○									20	※演習、オムニバス
		工学リテラシー入門 (化学材料分野)	1.2.3.4①		2			○								20	オムニバス
		工学リテラシー入門 (建築分野)	1.2.3.4①		2			○								12	オムニバス
		工学リテラシー入門 (融合領域分野)	1.2.3.4①		2			○								8	オムニバス
		スタディ・スキルズAⅠa	1.2.3.4①		1			○								8	
		スタディ・スキルズAⅡa	1.2.3.4③		1			○								8	
		スタディ・スキルズAⅠb	1.2.3.4①		1			○								8	
		スタディ・スキルズAⅡb	1.2.3.4③		1			○								8	
		スタディ・スキルズAⅠc	1.2.3.4①		1			○								8	
		スタディ・スキルズAⅡc	1.2.3.4③		1			○								8	
	小計 (34科目)	—	—	0	59	0	—			4	4	1	2	0	212		
選択 科目 F類 (自然 科学 系 共 通 専 門 基 礎)		解析学基礎1	1.2.3.4①		1		○									1	
		解析学基礎2	1.2.3.4②		1		○									1	
		数学基礎A1	1.2.3.4①③		1		○									3	オムニバス
		数学基礎A2	1.2.3.4②④		1		○									3	オムニバス
		数学基礎B1	1.2.3.4①③		1		○									4	オムニバス
		数学基礎B2	1.2.3.4②④		1		○									4	オムニバス
		統計学基礎1	1.2.3.4①③		1		○									3	オムニバス
		統計学基礎2	1.2.3.4②④		1		○									3	オムニバス
		物理学基礎AⅠ	1.2.3.4①①～②		2		○									2	オムニバス
		物理学基礎BⅠ	1.2.3.4①②①～②		2		○									6	オムニバス
		物理学基礎CⅠ	1.2.3.4①～②		2		○									1	
		物理学概論	1.2.3.4①～②③～④		2		○									2	オムニバス
		化学基礎A	1.2.3.4①②③		2		○									5	オムニバス
		化学基礎B	1.2.3.4①②④		2		○									3	オムニバス
		生物学基礎A	1.2.3.4①②①～②③		2		○									5	オムニバス
		生物学基礎B	1.2.3.4①②③③～④		2		○									5	オムニバス
		地学基礎A	1.2.3.4①③		2		○									2	オムニバス
		地学基礎B	1.2.3.4①		2		○									2	オムニバス
		物理学基礎AⅡ	1.2.3.4③～④		2		○									1	
		物理学基礎BⅡ	1.2.3.4④		2		○									4	オムニバス
		物理学基礎CⅡ	1.2.3.4③～④		2		○									1	
		地学基礎C	1.2.3.4④		2		○									1	
	小計 (22科目)	—	—	0	36	0	—			0	0	0	0	0	49		
選択 科目 F類 (自然 科学)		リメディアル数学I	1.2.3.4①		1		○									4	オムニバス
		基礎数理AⅠ	1.2.3.4②④		2		○									5	オムニバス
		物理学への招待A	1.2.3.4②		2		○									1	
		生物学実験	1.2.3.4②		1					○						7	オムニバス
		基礎雪氷学	1.2.3.4②		2		○									5	オムニバス
		リメディアル数学IⅠ	1.2.3.4②		1		○									4	オムニバス
		生物学ー植物Aー	1.2.3.4②		2		○									2	オムニバス
		物理学基礎実験	1.2.3.4①～②		2					○						3	オムニバス
		地学実験A	1.2.3.4①～②		2					○						1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（法学部法学科）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
専門 教育 に 関 する 科 目	選択科目F類（自然科学）															
	自然科学基礎実験	1. 2. 3. 4①～②			2				○						20	オムニバス
	量子研究の最前線	1. 2. 3. 4①～②			2		○								14	オムニバス
	数学の世界	1. 2. 3. 4③			2		○								4	オムニバス
	基礎数理B	1. 2. 3. 4③			2		○								5	オムニバス
	化学とSDGs	1. 2. 3. 4③			2		○								3	オムニバス
	社会を支える有機化学	1. 2. 3. 4③			2		○								1	
	生物学－動物A－	1. 2. 3. 4③			2		○								1	
	地学E（地球理解の諸相）	1. 2. 3. 4③			1		○								1	メディア
	地質学の基礎	1. 2. 3. 4③			2		○								1	
	地学実験B	1. 2. 3. 4③			1				○						1	
	基礎数理A II	1. 2. 3. 4④			2		○								5	オムニバス
	生物学－生物多様性A－	1. 2. 3. 4④			2		○								2	オムニバス
	地学概論A	1. 2. 3. 4①④			2		○								2	
	地球と気象	1. 2. 3. 4④			2		○								1	
	地学C（マagmaと火山）	1. 2. 3. 4④			1		○								2	オムニバス
	物理学への招待B	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	生活の化学	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	地学概論	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	最先端技術を支える化学 I	1. 2. 3. 4①			2		○								9	メディア、オムニバス
	都市インフラを考える	1. 2. 3. 4①			2			○							1	
	原子力・放射線物理学入門	1. 2. 3. 4①			1		○								1	
	原子力・放射線防護学入門	1. 2. 3. 4①			1		○								2	オムニバス
	生活を支える化学技術－化学工学への招待－	1. 2. 3. 4②			2		○								2	オムニバス
	原子力入門	1. 2. 3. 4②			1		○								1	
	原子力・放射線関連法規入門	1. 2. 3. 4②			1		○								2	オムニバス
	くらしを支える機械システム工学	1. 2. 3. 4③			2		○								13	オムニバス
	材料科学概論	1. 2. 3. 4③			2		○								15	オムニバス
	放射性廃棄物処理法	1. 2. 3. 4①			1		○								1	
	安全工学基礎	1. 2. 3. 4④			2		○								1	オムニバス
	化学実験	1. 2. 3. 4③～④			2				○						6	オムニバス
	特許・経営および製品開発入門	1. 2. 3. 4①			2		○								8	オムニバス
	放射線入門と実習	1. 2. 3. 4①～④			1				○						2	オムニバス
	原子力の未来と災害を考える	1. 2. 3. 4①～④			1		○								3	オムニバス
	特許と技術経営I	1. 2. 3. 4①～②			1		○								2	オムニバス
	特許と技術経営II	1. 2. 3. 4③～④			1		○								3	オムニバス
	農業資源を知る	1. 2. 3. 4①			2		○								8	オムニバス
	生命を知る	1. 2. 3. 4①			2		○								13	メディア、オムニバス
	生態系を知る	1. 2. 3. 4②			2		○								9	オムニバス
	農業DXを知る	1. 2. 3. 4①～②			1		○								1	
	医学物理学入門	1. 2. 3. 4③			1		○								8	オムニバス
	小計（49科目）	—	—	0	81	0	—			0	0	0	0	0	154	
選択科目F類（人文社会・教育科学）	歴史学 I	1. 2. 3. 4①			2		○								1	
	メディアの記号論	1. 2. 3. 4①③			2		○								1	
	実験心理学と応用	1. 2. 3. 4①			2		○								1	
	英語基礎 L	1. 2. 3. 4①①～②			1			○							17	オムニバス
	技術日本語演習	1. 2. 3. 4②			2			○							1	
	人文系フロンティア	1. 2. 3. 4②			4		○								20	オムニバス
	現代日本と伝統文化	1. 2. 3. 4②③④			2		○								1	

基本計画書-101

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(法学部法学科) 【基礎学部】																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員(助手を除く) 以外の教員		
専門教育に関する科目	選択科目F類(人文社会・教育学)	臨床心理学概論	1. 2. 3. 4④		2		○									1	メディア
		音楽E	1. 2. 3. 4③～④		2			○								1	
		日本文化論	1. 2. 3. 4③～④		2		○									1	
		音楽(作曲)	1. 2. 3. 4③～④		2			○								1	
		心理演習	1. 2. 3. 4③～④		2			○								4	オムニバス
		心理的アセスメント	1. 2. 3. 4③～④		2		○									1	
		関係行政論	1. 2. 3. 4③～④		2		○									1	
		健康生活環境論	1. 2. 3. 4③～④		2		○									1	メディア
		心理実習	1. 2. 3. 4①～④		2				○							3	オムニバス
		人文社会科学入門(法学)	1. 2. 3. 4①		2		○				2	1					オムニバス
		リーガル・システムA	1. 2. 3. 4①		2		○				2	1					オムニバス
		日本国憲法	1. 2. 3. 4②③④①～②③～④		2		○									5	オムニバス
		リーガル・システム	1. 2. 3. 4②		2		○				3						オムニバス
		リーガル・システムB	1. 2. 3. 4②		2		○				3						オムニバス
		死因究明と法	1. 2. 3. 4③		2		○				1	2				2	オムニバス
		組織マネジメント論	1. 2. 3. 4①		2		○									1	
		マーケティングプロモーション入門	1. 2. 3. 4②		1		○									1	
小計(71科目)		—	—	0	140	0	—			4	4	1	0	1	101		
選択科目F類(医歯学)	はじめての医学	1. 2. 3. 4②		1		○									2	オムニバス	
	先端医科学研究概説	1. 2. 3. 4①～②		2		○									1		
	医学序説 I	1. 2. 3. 4①～②		2		○									1		
	医学論文を読む(ジャーナルクラブ) A	1. 2. 3. 4①～②		2			○								1		
	原子力と倫理	1. 2. 3. 4④		1		○							1		3	オムニバス	
	医学序説 II	1. 2. 3. 4③～④		2		○									1		
	医学論文を読む(ジャーナルクラブ) B	1. 2. 3. 4③～④		2			○								1		
	健康と医学	1. 2. 3. 4③～④		2		○									5	オムニバス	
	災害医療概論	1. 2. 3. 4①～④		1		○									1		
	原子力災害医療体制	1. 2. 3. 4①～④		1		○									1	※実験・実習	
	災害医療ロジスティクス	1. 2. 3. 4①～④		1		○									1		
	「食べる」	1. 2. 3. 4①		2		○									14	オムニバス	
	PBL入門	1. 2. 3. 4②		1		○									4	※演習、オムニバス	
	健康福祉学入門	1. 2. 3. 4②		2		○									13	メディア、オムニバス	
	新潟発福祉学	1. 2. 3. 4③		2		○									10	オムニバス	
	顔	1. 2. 3. 4③～④		2		○									12	オムニバス	
	小計(16科目)		—	—	0	26	0	—			0	0	0	1	0	57	
合計(693科目)		—	—	22	1249	0	—			17	9	1	5	2	691		
学位又は称号		学士(法学)			学位又は学科の分野				法学関係								
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等								
以下の要件を含む、124単位以上を修得すること。 【法学プログラム】 (1)教養教育に関する授業科目:7単位以上(必修科目A類から7単位) (2)専門教育に関する授業科目:117単位以上(必修科目B類から4単位、必修科目C類から4単位、必修科目D類から8単位、選択科目E類・F類から101単位を含む。) 【法曹養成プログラム】 (1)教養教育に関する授業科目:7単位以上(必修科目A類から7単位) (2)専門教育に関する授業科目:117単位以上(必修科目L類から58単位、必修科目M類から2単位、必修科目N類から4単位、必修科目C類から4単位、必修科目D類から8単位、選択科目E類・F類から41単位を含む。)									1学年の学期区分				4ターム				
									1学期の授業期間				8週				
									1時限の授業の標準時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要																				
(経済科学部総合経済学科)【基礎学部】																				
			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外(助手を除く)の教員			
知識・理解科目	専門科目	学部共通科目	経済学入門	1①	○	2			○			2	5	1				メディア、オムニバス		
			経営学入門	1①	○	2			○				2					メディア、オムニバス		
			日本経済入門	1③	○	2			○				1					メディア		
			人文社会科学入門	1④	○	2			○			3	2					メディア、オムニバス		
			小計(4科目)	—	—	8	0	0	—			5	10	1	0	0	0			
	経済学プログラム基礎科目	入門ミクロ経済学	1③④	○		2			○			1						メディア		
		入門マクロ経済学	1③④	○		2			○				1					メディア		
		入門社会経済学	2①②	○		2			○				1					メディア		
		統計入門	1③④	○		2			○				1					メディア		
		小計(4科目)	—	—	0	8	0	—			1	3	0	0	0	0				
	経営学プログラム基礎科目	経営学概論Ⅰ	1③④	○		2			○						1			メディア		
		経営学概論Ⅱ	1③④	○		2			○						1			メディア		
		会計学概論Ⅰ	2①	○		2			○				1							
		会計学概論Ⅱ	2②	○		2			○				1							
		小計(4科目)	—	—	0	8	0	—			0	2	2	0	0	0				
	経済学プログラム中核科目	ミクロ経済学Ⅰ	2①②	○		2			○			1						オムニバス		
		マクロ経済学Ⅰ	2①②	○		2			○				1							
		経済数学Ⅰ	2①②	○		2			○				1		1					
		軽量経済学Ⅰ	2③④	○		2			○				1							
		アメリカ経済論Ⅰ	2③④	○		2			○				1							
		アジア経済論Ⅰ	2③④	○		2			○			1						メディア		
		EU経済論	2③④	○		2			○				1							
		世界経済史	2③④	○		2			○				1							
		財政学Ⅰ	2③④	○		2			○				1							
		金融論Ⅰ	2③④	○		2			○					1						
		ロシア経済論	3①②	○		2			○				1							
		小計(11科目)	—	—	0	22	0	—			2	8	1	1	0	0				
		経営学プログラム中核科目	経営組織論Ⅰ	2③④	○		2			○						1				
	人的資源管理論Ⅰ		2③④	○		2			○				1							
	経営戦略論Ⅰ		2③④	○		2			○				1							
	マーケティング論Ⅰ		2③④	○		2			○				1							
	財務会計論Ⅰ		2③④	○		2			○					1						
	財務会計論Ⅱ		3①②	○		2			○					1						
	管理会計論Ⅰ		3①②	○		2			○				1							
	租税理論Ⅰ		2③④	○		2			○			1								
	小計(8科目)		—	—	0	16	0	—			1	4	3	0	0	0				
	知識・理解科目	専門科目 専門展開科目	経済数学Ⅱ	3①②	○		2			○				1					メディア	
			ゲーム理論	3①②	○		2			○				1						
			ミクロ経済学Ⅱ	2③④	○		2			○					1					
			マクロ経済学Ⅱ	2③④	○		2			○					1					
			計量経済学Ⅱ	3③④	○		2			○					1					
			組織の経済学Ⅰ	3①②	○		2			○			1						メディア	
			組織の経済学Ⅱ	3③④	○		2			○					1					
			市場と組織の理論	4①②	○		2			○				1						
			応用ミクロ経済学	4①②	○		2			○				1						
			国際貿易論	4①②	○		2			○				1						
			環境経済システム論Ⅰ	3①②	○		2			○			1						メディア	
			環境経済システム論Ⅱ	3③④	○		2			○			1							
			金融論Ⅱ	3①②	○		2			○					1					
			国際マクロ経済学Ⅰ	3③④	○		2			○				1						
			国際マクロ経済学Ⅱ	4①②	○		2			○				1						
			社会思想史	3③④	○		2			○			1						メディア	
			経済学史	3③④	○		2			○				1					メディア	
			日本社会経済史	3③④	○		2			○			1							
			アメリカ経済論Ⅱ	3①②	○		2			○				1						
			比較経済体制論	3③④	○		2			○					1					
			アジア経済論Ⅱ	3①②	○		2			○			1							
			開発途上国経済論	3①②	○		2			○				1						
			国際開発論	3③④	○		2			○				1						

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(経済科学部総合経済学科)【基礎学部】																		
			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外(助手を除く)の教員	
知識・理解科目	専門科目 経済学プログラム 専門展開科目	行財政入門	2③④	○		2		○			1						メディア	
		財政学Ⅱ	3①②	○		2		○				1					メディア	
		公共経済学Ⅰ	2③④	○		2		○				1					メディア	
		公共経済学Ⅱ	3①②	○		2		○				1					メディア	
		公共選択論	3③④	○		2		○				1					メディア	
		NPO論	3③④	○		2		○			1							
		文化経済学	3③④	○		2		○			1							
		地方財政制度論	3①②	○		2		○			1						メディア	
		地方財政運用論	3③④	○		2		○			1						メディア	
		労働経済学Ⅰ	3①②	○		2		○				1						
		労働経済学Ⅱ	3③④	○		2		○				1						
		小計 (34科目)			—	—	0	68	0	—			13	20	1	0	0	0
	専門科目 経営学プログラム 専門展開科目	検定商業簿記2級Ⅰ	3①②	○		2		○									1	メディア
		検定商業簿記2級Ⅱ	3③④	○		2		○									1	メディア
		検定工業簿記2級	4①②	○		2		○									1	メディア
		租税理論Ⅱ	3①②	○		2		○			1							
		原価計算論	3①②	○		2		○				1						メディア
		管理会計論Ⅱ	3③④	○		2		○				1						
		会計情報論	3③④	○		2		○								1	メディア	
		国際会計論	4①②	○		2		○				1						
		経営税務論Ⅰ	3③④	○		2		○			1							
		経営税務論Ⅱ	4①②	○		2		○			1							
		経営組織論Ⅱ	3①②	○		2		○					1					
		人的資源管理論Ⅱ	3①②	○		2		○					1					
		経営戦略論Ⅱ	3①②	○		2		○					1					
		中小企業論	3③④	○		2		○					1					メディア
		マーケティング論Ⅱ	3①②	○		2		○					1					
		経営情報論	3③④	○		2		○							1			
		社会科学方法論	3①②	○		2		○							1			
	小計 (17科目)			—	—	0	34	0	—			3	6	2	2	0	4	
	経済学・経営学・学際日本学プログラム その他専門科目	暮らしと書文化 (ビジネス書文化)	2③④	○		2		○			1							
		新潟地域文化論	3①②	○		2		○			1							
		民法Ⅱ	4①②			2		○									1	
		民法Ⅲ	4③④			2		○									1	
		特殊講義	1.2.3.4①～④	○		2		○			3	2					4	オムニバス
		概略講義	1.2.3.4①～④	○		2		○			1	3		1				オムニバス
		小計 (6科目)			—	—	0	12	0	—			6	5	0	1	0	6
	学際日本学プログラム・地域リーダープログラム 基礎科目	Introduction to Interdisciplinary Japanese Studies	2①②	○		2		○			4	1					1	オムニバス
		文化社会論基礎	2③④	○		2		○					1					
		映像社会論基礎	2①②	○		2		○					1					
		経済社会論基礎	2①②	○		2		○			1							
		政治経済論基礎	2③④	○		2		○			1							
		文字文化史と表現	2①②	○		2		○			1							
		心理学概論A	2③④			2		○									1	
		心理学概論B	3①②			2		○									1	
		心理学研究法	3①②			2		○									1	
		心理学統計法	3①②			2		○									1	
		人間学研究法A	3①②			2				○							1	
		人間学研究法B	3③④			2				○							1	
		哲学概説	3①②			2		○									1	
		人間学概説	2③④			2		○									2	オムニバス
		西洋哲学史概説	3③④			2		○									1	
		宗教学概説	3①②			2		○									1	
		芸術学概説A	3①②			2		○									1	
		芸術学概説B	3③④			2		○									1	メディア
		史学概説	3①②			2		○									9	メディア、オムニバス
		日本史概説	3①②			2		○									3	オムニバス
		アジア史概説	3③④			2		○									3	オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(経済科学部総合経済学科) 【基礎学部】																		
			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員
知識・理解科目	専門科目	学際日本学プログラム・地域リーダープログラム基礎科目	西洋史概説	3③④			2		○								1	メディア
		文化人類学概説	3①②			2		○									1	
		民俗学概説	3①②			2		○									1	
		地誌学概説	3①②			2		○									1	
		地理学概説	3①②			2		○									1	
		考古学概説	3①②			2		○									1	
		芸能論概説	3①②			2		○									1	
		社会学概説	2③④			2		○									1	
		社会調査概説	3①②			2		○									1	
		メディア社会文化論概説A	2③④			2		○									1	
		メディア社会文化論概説B	3①②			2		○									1	
		メディア論実習A	2③④		1				○								1	
		メディア論実習B	3①②		1					○							1	
		メディア論実習C	3①②		1					○							1	
		メディア論実習D	3③④		1						○						1	
		博物館概論	3①②		2			○									1	
		博物館教育論	3③④		2			○									1	
		博物館情報・メディア論	3③④		2			○									1	
		言語学概説A	3①②		2			○									1	
		言語学概説B	3③④		2			○									1	
		古典語A	4①②		2			○									1	
		日本語学概説A	3①②		2			○									1	
		日本語学概説B	3③④		2			○									1	
		英米言語概説A	3①②		2			○									1	
		英米言語概説B	3③④		2			○									1	
		日本文学概説A	3③④		2			○									1	
		日本文学概説B	3③④		2			○									1	
		日本文学概説C	4①②		2			○									1	
		アジア言語文化概説A	3①②		2			○								2	オムニバス	
		アジア言語文化概説B	3①②		2			○								1	メディア	
		アジア言語文化概説C	3③④		2			○								1		
		アジア言語文化研究法A	3①②		2					○						1		
		アジア言語文化研究法B	3③④		2						○					1		
		中国語オプションA	3③・4③		2					○						1		
		朝鮮語オプションA	3③④・4③④		2						○					1		
		西洋言語概説	3③④		2			○								1		
		西洋文化概説	3①②		2			○								1		
		英米文化概説A	3①②		2			○								1		
		英米文化概説B	3③④		2			○								1		
		ドイツ言語文化概説A	3①②		2			○								1		
		ドイツ言語文化概説B	3③④		2			○								1		
		フランス言語文化概説A	3①②		2			○								1		
		フランス言語文化概説B	3③④		2			○								1		
		ロシア言語文化概説A	3①②		2			○								1		
		ロシア言語文化概説B	3③④		2			○								1		
		人文社会科学入門 (法学)	3①・4①		2			○								4	オムニバス	
		リーガル・システム	3②・4②		2			○								3	オムニバス	
	憲法Ⅰ	3③④		2			○								1			
	民法Ⅰ	3③④		2			○								1			
	刑法Ⅰ	3③④		2			○								1			
	小計 (71科目)	—	—	0	138	0	—				7	3	0	0	0		85	
	学際日本学プログラム中核科目	共修日本学主題講義(Japanese Studies in Global Context)	3・4①②③④	○		2		○									1	メディア
		表象文化論	3③④	○		2		○			1							
		比較宗教論	3①②	○		2		○				1						
		視覚社会論	3①②	○		2		○			1							
		視覚文化論	3①②			2		○							1			
		Anime History	3③④	○		2		○				1						
		日本社会経済史	3③④	○		2		○			1							

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(経済科学部総合経済学科) 【基礎学部】																			
		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 (助手を除く)			
知識・理解科目	専門科目	学際日本学プログラム中核科目	社会思想史	3③④	○		2		○			1							
		世界経済史	2③④	○		2		○				1							
		文化経済学	3③④	○		2		○				1							
		日本政治外交史Ⅰ	3①②	○		2		○				1							
		日本政治外交史Ⅱ	3③④	○		2		○				1							
		政治学Ⅰ	3①②			2		○									1		
		政治学Ⅱ	3③④			2		○									1		
		Politics in Contemporary Japan、Basic	3①②	○		2		○				1							
		伝統文化論	3③④	○		2		○				1							
		アートマネジメント	3①②	○		2		○									1		メディア
		Introduction to Japanese Politics and Diplomacy、Basic	3①②			2		○				1						1	
		家族社会学	3③④			2		○										1	
	ジェンダー論	3①②			2		○										1		
	セクシュアリティ・スタディーズ	3①②			2		○				1						7		
	小計 (21科目)			—	—	0	42	0	—			11	3	0	0	0	15		
	地域リーダープログラム中核科目	統計入門	3①②	○		2		○					1						メディア
		行財政入門	2③④	○		2		○				1							メディア
		財政学Ⅰ	2③④	○		2		○						1					
		財政学Ⅱ	3①②	○		2		○						1					
		公共経済学Ⅰ	2③④	○		2		○						1					メディア
		地方財政制度論	3①②	○		2		○				1							メディア
		経済数学Ⅱ	3①②	○		2		○						1					
		ゲーム理論	3①②	○		2		○						1					
		ミクロ経済学Ⅱ	2③④	○		2		○				1							
		マクロ経済学Ⅱ	2③④	○		2		○						1					
		計量経済学Ⅱ	3③④	○		2		○						1					
		組織の経済学Ⅰ	3①②	○		2		○				1							
		組織の経済学Ⅱ	3③④	○		2		○				1							
		市場と組織の理論	4①②	○		2		○						1					メディア
		国際貿易論	4①②	○		2		○						1					
		環境経済システム論Ⅰ	3①②	○		2		○				1							
		環境経済システム論Ⅱ	3③④	○		2		○				1							
		金融論Ⅰ	2③④	○		2		○							1				メディア
		金融論Ⅱ	3①②	○		2		○							1				メディア
		国際マクロ経済学Ⅰ	3③④	○		2		○						1					
		国際マクロ経済学Ⅱ	4①②	○		2		○						1					
		社会思想史	3③④	○		2		○				1							メディア
		経済学史	3③④	○		2		○						1					
		日本社会経済史	3③④	○		2		○				1							
		アメリカ経済論Ⅱ	3①②	○		2		○						1					メディア
		ロシア経済論	3①②	○		2		○						1					
		比較経済体制論	3③④	○		2		○						1					
アジア経済論Ⅱ		3①②	○		2		○				1								
開発途上国経済論		3①②	○		2		○						1						
労働経済学Ⅰ	3③④	○		2		○						1							
労働経済学Ⅱ	4①②	○		2		○						1							
小計 (31科目)			—	—	0	62	0	—			10	19	2	0	0	0			
地域リーダープログラムその他専門科目	応用ミクロ経済学	4①②	○		2		○						1						
	公共経済学Ⅱ	3①②	○		2		○						1					メディア	
	公共選択論	3③④	○		2		○						1					メディア	
	NPO論	3③④	○		2		○						1						
	文化経済学	3③④	○		2		○						1						
	地方財政運用論	3①②	○		2		○						1					メディア	
	国際開発論	3③④	○		2		○						1						
	共修日本学主題講義 (Japanese Studies in Global Context)	3・4①②③④	○		2		○									1			
	表象文化論	3③④	○		2		○						1						
	比較宗教論	3①②	○		2		○						1						
	視覚社会論	3①②	○		2		○						1						
	小計 (12科目)			—	—	0	24	0	—			10	19	2	0	0	0		

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(経済科学部総合経済学科) 【基礎学部】																			
			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹・助教員以外を除く教員	
知識・理解科目	専門科目	地域リーダープログラムその他専門科目	視覚文化論	3①②			2		○								1	メディア	
			Anime History	3③④	○		2		○				1						
			日本政治外交史Ⅰ	3①②	○		2		○			1							
			日本政治外交史Ⅱ	3③④	○		2		○			1							
			政治学Ⅰ	3①②			2		○								1		
			政治学Ⅱ	3③④			2		○								1		
			Politics in Contemporary Japan、Basic	3①②	○		2		○			1							
			伝統文化論	3③④	○		2		○			1							
			アートマネジメント	3①②	○		2		○								1	メディア	
			Introduction to Interdisciplinary Japanese Studies	2①②	○		2		○			4	1				1	オムニバス	
			家族社会学	3③④			2		○								1		
			ジェンダー論	3①②			2		○								1		
			セクシュアリティ・スタディーズ	3①②			2		○			1					7		
			暮らしと書文化（ビジネス書文化）	2③④	○		2		○			1							
			新潟地方文化論	3①②	○		2		○			1							
			民法Ⅱ	4①②			2		○								1		
			民法Ⅲ	4③④			2		○								1		
			特殊講義	1.2.3.4①～④	○		2		○			3	2				4	オムニバス	
			概略講義	1.2.3.4①～④	○		2		○			1	3		1			オムニバス	
小計 (30科目)			—	—	0	60	0	—			20	12	0	1	0	21			
教養教育に関する科目	健康・スポーツ	健康スポーツ科学実習Ⅰa	1.2.3.4①		0.5					○							2		
		健康スポーツ科学実習Ⅰb	1.2.3.4②		0.5					○							2		
		健康スポーツ科学実習Ⅰ	1.2.3.4①～②③～④		1					○							16	オムニバス	
		健康スポーツ科学実習Ⅱ（ゴルフ）	1.2.3.4①～②		1					○							3	オムニバス	
		健康スポーツ科学実習Ⅱ（ソフトボール）	1.2.3.4①～②		1					○							1		
		健康スポーツ科学実習Ⅱ（スキーⅠ）	1.2.3.4③～④		1					○							8	オムニバス	
		健康スポーツ科学実習Ⅱ（スキーⅡ）	1.2.3.4③～④		1					○							8	オムニバス	
		健康スポーツ科学実習Ⅱ（卓球Ⅱ）	1.2.3.4③～④		1					○							1		
		健康スポーツ科学実習Ⅱ（卓球Ⅰ）	1.2.3.4③～④		1					○							1		
		健康スポーツ科学実習Ⅱ（剣道）	1.2.3.4③～④		1					○							1		
		健康スポーツ科学実習Ⅱ（トレーニング）	1.2.3.4③～④		1					○							1		
		健康スポーツ科学実習Ⅱ（野外活動）	1.2.3.4③～④		1					○							1		
		健康スポーツ科学講義a	1.2.3.4①③		1				○								4	オムニバス	
		健康スポーツ科学講義b	1.2.3.4②④		1				○								4	オムニバス	
		健康スポーツ科学講義	1.2.3.4①～②		2				○								2	オムニバス	
		小計 (15科目)			—	—	0	15	0	—			0	0	0	0	0	26	
		情報リテラシー	データサイエンス基礎演習	1.2.3.4①②③④		2				○								10	
	データサイエンス総論Ⅰ		1.2.3.4①③		1			○			1.2.3.4①③						7	オムニバス	
	エンジニアのためのデータサイエンス入門（力学分野）		1.2.3.4①		2			○									2	※演習、オムニバス	
	エンジニアのためのデータサイエンス入門（化学材料分野）		1.2.3.4①		2			○									2	※演習、オムニバス	
	エンジニアのためのデータサイエンス入門（融合領域分野）		1.2.3.4①		2			○									2	※演習、オムニバス	
	情報リテラシー概論		1.2.3.4①		2			○									6	オムニバス	
	データサイエンス総論Ⅱ		1.2.3.4②④		1			○									7	オムニバス	
	エンジニアのためのデータサイエンス入門（情報電子分野）		1.2.3.4②		2			○									3	※演習、オムニバス	
	エンジニアのためのデータサイエンス入門（建築分野）		1.2.3.4②		2			○									2	※演習、オムニバス	
	情報リテラシー		1.2.3.4①～②		2				○								1		
	情報処理概論AⅠ	1.2.3.4①～②		2			○									1			
人工知能入門	1.2.3.4①～②		2			○									2	オムニバス			
データサイエンス・インターンシップ（事前・事後指導）	1.2.3.4①～②		2				○								1				
データサイエンス・インターンシップ	1.2.3.4①～②		6				○								1				
情報処理概論AⅡ	1.2.3.4③～④		2			○									1				
データサイエンス発表	1.2.3.4③～④		2				○								1				
サイバーセキュリティと情報倫理	1.2.3.4①		2			○									1				
小計 (17科目)			—	—	0	36	0	—			0	0	0	0	0	33			

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(経済科学部総合経済学科) 【基礎学部】																			
			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)教員	
知識・理解科目	教養教育に関する科目	新潟大学個性化科目	日本酒学C	1. 2. 3. 4②			1			○							5	オムニバス	
			日本酒学A	1. 2. 3. 4①～②			2			○			1				1	2	オムニバス
			キャリアデザイン	1. 2. 3. 4①～②			2			○								3	オムニバス
			SDGs入門演習	1. 2. 3. 4①～②			2			○								1	メディア
			新潟産業フィールドワーク	1. 2. 3. 4①～②			4			○								2	※演習、オムニバス
			新潟の農林業	1. 2. 3. 4③			2			○								11	メディア、オムニバス
			食と健康の科学	1. 2. 3. 4④			2			○								13	オムニバス
			土と水	1. 2. 3. 4④			2			○								14	オムニバス
			近世越後諸地域の歴史と社会	1. 2. 3. 4③～④			2			○								5	オムニバス
			SDGs入門	1. 2. 3. 4③～④			2			○								5	オムニバス
			地域を探索	1. 2. 3. 4③～④			2			○							1	13	オムニバス
			日本酒学B	1. 2. 3. 4①～④			1			○			1				1	7	オムニバス
			ダブルホーム活動入門Ⅰ	1. 2. 3. 4①			1			○								3	※演習、オムニバス
			生まれ変わる地方小都市ー人とまちの未来図を描くー	1. 2. 3. 4①			2					○						1	メディア
			自己・他者理解から始まるキャリア自律	1. 2. 3. 4①～②			2				○							2	※演習、オムニバス
			仕事・業界理解から働く意味を探究する	1. 2. 3. 4③			2				○							2	※演習、オムニバス
			ダブルホーム活動入門Ⅱ	1. 2. 3. 4②			1						○					3	メディア、オムニバス
			ボランティア開発論Ⅰ	1. 2. 3. 4①～②			2				○							2	オムニバス
			コミュニティ開発論Ⅰ	1. 2. 3. 4①～②			2				○							2	オムニバス
			地域から文化を考える	1. 2. 3. 4①～②			2				○							5	※実験・実習、オムニバス
			学校支援フィールドワークA (小学校)	1. 2. 3. 4①～②			2					○						3	オムニバス
			学校支援フィールドワークA (中学校)	1. 2. 3. 4①～②			2					○						3	オムニバス
			学校支援フィールドワークA (高等学校)	1. 2. 3. 4①～②			2					○						3	オムニバス
			学校支援フィールドワークB (小学校)	1. 2. 3. 4①～②			4					○						3	オムニバス
			学校支援フィールドワークB (中学校)	1. 2. 3. 4①～②			4					○						3	オムニバス
			授業フィールドワーク	1. 2. 3. 4①～②			2							○				2	オムニバス
			現場訪問とデータから読み解く新潟の今ー新潟地域産業の可能性を探索ーⅠ	1. 2. 3. 4①～②			2						○					2	※実験・実習、オムニバス
			生涯学習社会とメディア	1. 2. 3. 4③			2				○							1	
			私のローカルキャリア論ー地域とかかわる多様な働きかた・暮らしかたー	1. 2. 3. 4③			2				○							1	※演習、メディア
			ボランティア開発論Ⅱ	1. 2. 3. 4③～④			2				○							2	オムニバス
			コミュニティ開発論Ⅱ	1. 2. 3. 4③～④			2				○							2	オムニバス
			現場訪問とデータから読み解く新潟の今ー新潟地域産業の可能性を探索ーⅡ	1. 2. 3. 4③～④			2					○						2	※実験・実習、オムニバス
			地域共創演習Ⅲb	1. 2. 3. 4③～④			1					○						5	※講義、実験・実習、オムニバス
			地方小都市の未来創造-市民と学生による地域づくりの実践	1. 2. 3. 4①～④			4					○			1			1	※実験・実習、オムニバス
			地域共創演習Ⅰ	1. 2. 3. 4①～④			1					○						4	※講義、実験・実習、オムニバス
			地域共創演習Ⅱa	1. 2. 3. 4①～④			1					○						5	※講義、実験・実習、オムニバス
			地域共創演習Ⅱb	1. 2. 3. 4①～④			1					○						5	※講義、実験・実習、オムニバス
			地域共創演習Ⅱb	1. 2. 3. 4①～④			1					○						2	※実験・実習、オムニバス
			地域共創演習Ⅲa	1. 2. 3. 4①～②			1					○						5	※講義、実験・実習、オムニバス
			コミュニティーインターンシップ実践	1. 2. 3. 4①～④			4					○						1	※実験・実習
			日本手話A	1. 2. 3. 4①			2				○							4	オムニバス
			アクティブラーニングA	1. 2. 3. 4①②③④			1				○							1	
			アクティブラーニングC	1. 2. 3. 4①②③④			1				○							1	
			日本と外国人	1. 2. 3. 4①②③④			1				○							1	メディア
			ユーザのための数学Ⅰ	1. 2. 3. 4①			2						○					1	
			教員志望者のための日本語教育入門 A	1. 2. 3. 4①			1				○							1	
			分野横断デザイン	1. 2. 3. 4①②③④			1				○							5	※演習、オムニバス
			分野横断リフレクション	1. 2. 3. 4①②③④			1				○							5	※演習、オムニバス
			多文化間共修A1	1. 2. 3. 4①③			1				○							1	

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(経済科学部総合経済学科) 【基礎学部】																			
			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)教員	
知識・理解科目	教養教育に関する科目	新潟大学個性化科目	多文化間共修B1	1. 2. 3. 4①③			1		○								1		
			多文化間共修C1	1. 2. 3. 4①③			1		○									1	メディア
			多文化間共修D1	1. 2. 3. 4①③			1		○									1	
			リーダーシップ演習Ⅱ1	1. 2. 3. 4①			1			○								3	オムニバス
			リーダーシップ演習Ⅲ1	1. 2. 3. 4①			1			○								3	オムニバス
			アクティブラーニングB	1. 2. 3. 4②④			1		○									1	
			日本手話B	1. 2. 3. 4②			2		○									4	オムニバス
			1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムⅠ	1. 2. 3. 4②			2			○								2	オムニバス
			税のしくみから社会を考える	1. 2. 3. 4②			2		○									7	オムニバス
			教員志望者のための日本語教育入門 B	1. 2. 3. 4②			1		○									1	
			地域災害環境システム学入門	1. 2. 3. 4②			1		○									6	オムニバス
			中国留学準備講座 サマーセミナー中国入門	1. 2. 3. 4②			1		○									2	オムニバス
			多文化間共修A2	1. 2. 3. 4②④			1		○									1	
			多文化間共修B2	1. 2. 3. 4②④			1		○									1	
			多文化間共修C2	1. 2. 3. 4②④			1		○									1	メディア
			多文化間共修D2	1. 2. 3. 4②④			1		○									1	
			リーダーシップ演習Ⅱ2	1. 2. 3. 4②			1			○								3	オムニバス
			リーダーシップ演習Ⅲ2	1. 2. 3. 4②			1			○								3	オムニバス
			新聞を体験するー新潟日報との連携授業ー	1. 2. 3. 4①～②			2		○									2	オムニバス
			平和を考えるA	1. 2. 3. 4①～②			2		○									5	オムニバス
			パフォーマンスの外国語	1. 2. 3. 4①～②			2		○									1	
			国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションA	1. 2. 3. 4①～②			2		○									1	
			国際共修：留学生との協働学習を通じた異文化理解A	1. 2. 3. 4①～②			2		○									1	
			International Relations in the Asia-Pacific	1. 2. 3. 4①～②			2		○									1	※演習
			Regionalism in the Asia-Pacific Region	1. 2. 3. 4①～②			2		○									1	※演習
			Chinese Politics and Diplomacy	1. 2. 3. 4①～②			2		○									1	
			生命保険を考える	1. 2. 3. 4①～②			2		○									8	オムニバス
			ストレスマネジメント	1. 2. 3. 4①～②			2		○									1	※演習
			パーソナルファイナンス論	1. 2. 3. 4①～②			2		○									1	
			学生がデザインする働き方の未来ー人生100年時代のワークスタイルを創造するー	1. 2. 3. 4②～③			2		○									1	※演習
			学問の扉 知と方法の最前線	1. 2. 3. 4③～④			1		○									13	メディア、オムニバス
			平和と現代のグローバル安全保障論	1. 2. 3. 4①～②			2		○									1	
			中東イスラーム言語文化入門	1. 2. 3. 4①～②			2		○									1	
			大学生のための役に立つ育児学	1. 2. 3. 4①～②			1		○									7	オムニバス
			朱鷺・自然再生フィールドワーク	1. 2. 3. 4①～②			1					○						4	オムニバス
			1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムⅡ	1. 2. 3. 4①～②			4					○						2	オムニバス
			表現プロジェクト演習Q	1. 2. 3. 4①～②			2			○								2	オムニバス
			異文化と技術	1. 2. 3. 4①～②③～④			1		○									7	オムニバス
			研究者の仕事と生活	1. 2. 3. 4①～②			1		○									6	メディア、オムニバス
			地理情報システム (GIS) 概論・演習	1. 2. 3. 4①～②			2			○								3	オムニバス
森・里・海フィールド実習	1. 2. 3. 4①～②			1					○						8	オムニバス			
開発・環境と平和	1. 2. 3. 4①～②			2			○								1				
西シドニー大学国際交流プログラムA	1. 2. 3. 4①～②			2				○							1				
韓国サマースクールⅠ	1. 2. 3. 4①～②			2				○							1				
西シドニー大学国際交流プログラムB	1. 2. 3. 4①～②			2				○							1				
多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-W	1. 2. 3. 4①～②			4			○								1				
カナダ・サマーセミナー	1. 2. 3. 4①～②			4				○							1				
オタゴ大学英語研修	1. 2. 3. 4①～②			4				○							1				
新潟の企業の魅力を探る	1. 2. 3. 4①～②③～④			1					○						1				
1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムⅠ (集中・短縮版)	1. 2. 3. 4①～②			1				○							2	オムニバス			
1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムⅡ (短縮版)	1. 2. 3. 4①～②			2					○						2	オムニバス			

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(経済科学部総合経済学科) 【基礎学部】																		
			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除外の教員)	
知識・理解科目	教養教育に関する科目	新潟大学個性化科目	オンライン国際共修型プロジェクトワーク	1. 2. 3. 4①～②			1		○								6	※演習、メディア、オムニバス
		韓国サマーセミナーⅠ	1. 2. 3. 4①～②			2			○								1	
		平和学概論	1. 2. 3. 4③			2		○									1	
		表現プロジェクト演習T	1. 2. 3. 4③			2			○								1	
		地域災害環境システム学演習	1. 2. 3. 4③			1			○								6	オムニバス
		トキをシンボルとした自然再生	1. 2. 3. 4③			2		○									9	オムニバス
		キャリア形成と法制度	1. 2. 3. 4③			2		○									1	
		表現プロジェクト演習G	1. 2. 3. 4③			2			○								1	
		ユーザのための数学Ⅱ	1. 2. 3. 4③			2			○								1	
		教員志望者のための日本語教育入門 C	1. 2. 3. 4③			1		○									1	
		国際共修：留学生と考える日中言語文化A	1. 2. 3. 4③			1		○									1	
		西洋カリグラフィーA	1. 2. 3. 4③			1		○									1	メディア
		リーダーシップ演習Ⅱ3	1. 2. 3. 4③			1			○								3	オムニバス
		教員志望者のための日本語教育入門 D	1. 2. 3. 4④			1		○									1	
		大学生生活戦略論ーキャンパス内外を「越境」する学び・経験ー	1. 2. 3. 4④			2		○									1	
		シンガポール・スプリングセミナー留学プログラムの準備講座：グローバル対応力育成・強化	1. 2. 3. 4④			1		○									2	※演習、オムニバス
		オックスフォード大学英語研修 (OSS留学プログラム) の準備講座：グローバル対応力育成・強化	1. 2. 3. 4④			1			○								3	オムニバス
		西洋カリグラフィーB	1. 2. 3. 4④			1		○									1	メディア
		佐渡学概論：佐渡島の自然と人々の営み	1. 2. 3. 4④			2		○									4	オムニバス
		リーダーシップ演習Ⅰ	1. 2. 3. 4④			1			○								3	オムニバス
		リーダーシップ演習Ⅱ4	1. 2. 3. 4④			1			○								3	オムニバス
		ピアサポート入門	1. 2. 3. 4③～④			2		○									2	※演習、オムニバス
		表現プロジェクト演習H	1. 2. 3. 4③～④			2			○								2	オムニバス
		平和を考えるB	1. 2. 3. 4③～④			2		○				1				1	7	オムニバス
		国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションB	1. 2. 3. 4③～④			2		○									1	
		国際共修：留学生との協働学習を通じた異文化理解B	1. 2. 3. 4③～④			2		○									1	
		The China-Japan-US Trilateral Relations	1. 2. 3. 4③～④			2		○									1	※演習
		グローバル課題を理解する対応力の基礎講座	1. 2. 3. 4③～④			2		○									1	※演習
		現代社会と差別	1. 2. 3. 4③～④			2		○									1	※演習
		地理情報システム (GIS) 概論・応用演習	1. 2. 3. 4③～④			2			○								2	オムニバス
		オックスフォード大学英語研修	1. 2. 3. 4③～④			2			○								1	
		台湾スプリングセミナーⅠ	1. 2. 3. 4③～④			2		○									6	オムニバス
		台湾スプリングセミナーⅡ	1. 2. 3. 4③～④			2		○									6	オムニバス
		シンガポール・スプリングセミナー	1. 2. 3. 4③～④			2			○								1	
		多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-S	1. 2. 3. 4③～④			4		○									1	
		フィリピンALLC英語研修	1. 2. 3. 4③～④			4			○								1	
		佐渡自然共生国際実習	1. 2. 3. 4①～④			2				○							6	オムニバス
		地域共創特別演習(岩室)	1. 2. 3. 4①～④			2				○							1	
		地域共創特別演習ⅠA (刈羽&東京)	1. 2. 3. 4①～②			2				○							3	オムニバス
		地域共創特別演習ⅠB (刈羽&東京)	1. 2. 3. 4③～④			2				○							3	オムニバス
小計 (140科目)						0	250	0				0	3	0	0	1	199	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(経済科学部総合経済学科) 【基礎学部】																	
		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く)教員	
知識・理解科目	教養教育に関する科目	留学生基本科目	英語による日本語文法解説a	1. 2. 3. 4①		1		○								1	メディア、オムニバス
		中国語による日本語文法解説a	1. 2. 3. 4①		1		○								1		
		日本語Ⅰ	1. 2. 3. 4①③		2			○							2		
		日本語Ⅲ	1. 2. 3. 4①③		2			○							1		
		英語による日本語文法解説 b	1. 2. 3. 4②		1		○								1		
		中国語による日本語文法解説 b	1. 2. 3. 4②		1		○								1		
		日本語Ⅱ	1. 2. 3. 4②④		2			○							1		
		日本語Ⅳ	1. 2. 3. 4②④		2			○							1		
		JLPT-N1 A	1. 2. 3. 4①～②		1			○							1		
		JLPT-N2 A	1. 2. 3. 4①～②		1			○							1		
		日本語作文Ⅰ	1. 2. 3. 4①～②③～④		1			○							1		
		日本語作文Ⅱ	1. 2. 3. 4①～②③～④		1			○							1		
		日本語作文Ⅲ	1. 2. 3. 4①～②③～④		1			○							1		
		日本語作文Ⅳ	1. 2. 3. 4①～②③～④		1			○							1		
		日本語読解Ⅰ	1. 2. 3. 4①～②③～④		1			○							1		
		日本語読解Ⅱ	1. 2. 3. 4①～②③～④		1			○							1		
		日本語読解Ⅲ	1. 2. 3. 4①～②③～④		1			○							1		
		日本語読解Ⅳ	1. 2. 3. 4①～②③～④		1			○							1		
		日本語読解Ⅴ	1. 2. 3. 4①～②③～④		1			○							1		
		日本語読解Ⅵ	1. 2. 3. 4①～②③～④		1			○							1		
		日本語入門	1. 2. 3. 4①～②③～④		3			○							2		
		日本語Ⅴ	1. 2. 3. 4①～②③～④		4			○							1		
		日本語Ⅵ	1. 2. 3. 4①～②		5			○							1		
		英語による日本語文法解説 c	1. 2. 3. 4③		1		○								1		
		中国語による日本語文法解説 c	1. 2. 3. 4③		1		○								1		
		英語による日本語文法解説 d	1. 2. 3. 4④		1		○								1		
		中国語による日本語文法解説 d	1. 2. 3. 4④		1		○								1		
		JLPT-N1 C	1. 2. 3. 4③～④		1			○							1		
		集中日本語 O F	1. 2. 3. 4③～④		5			○							3		
		集中日本語 O G	1. 2. 3. 4③～④		5			○							3		
		集中日本語 O H	1. 2. 3. 4③～④		5			○							3		
		日本語Ⅶ	1. 2. 3. 4③～④		5			○							1		
		日本文化入門Ⅰ	1. 2. 3. 4①②③④		1			○							1		
		日本文化入門Ⅱ	1. 2. 3. 4①②③④		1			○							1		
		日本事情自然系 A	1. 2. 3. 4①～②		2		○								9		
		課題研究Ⅱ	1. 2. 3. 4①～②		2			○							4		
		ビジネス日本語	1. 2. 3. 4①～②③～④		2			○							1		
		日本で働く	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1		
		日本事情社会系 A	1. 2. 3. 4③～④		2			○							4		
		日本事情自然系 B	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1		
		課題研究Ⅰ	1. 2. 3. 4③～④		2			○							4		
		小計 (41科目)	—	—	0	77	0	—	—	—	0	0	0	0	0	28	
自然科学系共通専門基礎	自然科学系共通専門基礎	解析学基礎1	1. 2. 3. 4①			1		○							1	オムニバス	
		解析学基礎2	1. 2. 3. 4②			1		○							1		
		数学基礎A1	1. 2. 3. 4①③			1		○							3		
		数学基礎A2	1. 2. 3. 4②④			1		○							3		
		数学基礎B1	1. 2. 3. 4①③			1		○							4		
		数学基礎B2	1. 2. 3. 4②④			1		○							4		
		統計学基礎1	1. 2. 3. 4①③			1		○							3		
		統計学基礎2	1. 2. 3. 4②④			1		○							3		
		物理学基礎AⅠ	1. 2. 3. 4①①～②			2		○							2		
		物理学基礎BⅠ	1. 2. 3. 4①②①～②			2		○							6		
		物理学基礎CⅠ	1. 2. 3. 4①～②			2		○							1		
		物理学概論	1. 2. 3. 4①～②③～④			2		○							2		
		化学基礎A	1. 2. 3. 4①②③			2		○							5		
		化学基礎B	1. 2. 3. 4①②④			2		○							3		
		生物学基礎A	1. 2. 3. 4①②①～②③			2		○							5		
		生物学基礎B	1. 2. 3. 4①②③③～④			2		○							5		
		地学基礎A	1. 2. 3. 4①③			2		○							2		
		地学基礎B	1. 2. 3. 4①			2		○							2		
		物理学基礎AⅡ	1. 2. 3. 4③～④			2		○							1		
		物理学基礎BⅡ	1. 2. 3. 4④			2		○							4		
		物理学基礎CⅡ	1. 2. 3. 4③～④			2		○							1		
		地学基礎C	1. 2. 3. 4④			2		○							1		
		小計 (22科目)	—	—	0	36	0	—	—	—	0	0	0	0	0	49	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(経済科学部総合経済学科) 【基礎学部】																	
			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
知識・理解科目	教養教育に関する科目	自然科学	リメディアル数学I	1. 2. 3. 4①		1		○								4	オムニバス
			基礎数理A I	1. 2. 3. 4②④		2		○								5	オムニバス
			物理学への招待A	1. 2. 3. 4②		2		○								1	
			生物学実験	1. 2. 3. 4②		1				○						7	オムニバス
			基礎雪氷学	1. 2. 3. 4②		2			○							5	オムニバス
			リメディアル数学I I	1. 2. 3. 4②		1		○								4	オムニバス
			生物学－植物A－	1. 2. 3. 4②		2		○								2	オムニバス
			物理学基礎実験	1. 2. 3. 4①～②		2				○						3	オムニバス
			地学実験A	1. 2. 3. 4①～②		2				○						1	
			自然科学基礎実験	1. 2. 3. 4①～②		2				○						20	オムニバス
			量子研究の最前線	1. 2. 3. 4①～②		2			○							14	オムニバス
			数学の世界	1. 2. 3. 4③		2			○							4	オムニバス
			基礎数理B	1. 2. 3. 4③		2			○							5	オムニバス
			化学とSDGs	1. 2. 3. 4③		2			○							3	オムニバス
			社会を支える有機化学	1. 2. 3. 4③		2			○							1	
			生物学－動物A－	1. 2. 3. 4③		2			○							1	
			地学E (地球理解の諸相)	1. 2. 3. 4③		1			○							1	メディア
			地質学の基礎	1. 2. 3. 4③		2			○							1	
			地学実験B	1. 2. 3. 4③		1					○					1	
			基礎数理A II	1. 2. 3. 4④		2				○						5	オムニバス
			生物学－生物多様性A－	1. 2. 3. 4④		2				○						2	オムニバス
			地学概論A	1. 2. 3. 4①④		2				○						2	
			地球と気象	1. 2. 3. 4④		2				○						1	
			地学C (マグマと火山)	1. 2. 3. 4④		1				○						2	オムニバス
			物理学への招待B	1. 2. 3. 4③～④		2				○						1	
			生活の化学	1. 2. 3. 4③～④		2				○						1	
			地学概論	1. 2. 3. 4③～④		2				○						1	
			最先端技術を支える化学 I	1. 2. 3. 4①		2				○						9	メディア、オムニバス
			都市インフラを考える	1. 2. 3. 4①		2					○					1	
			原子力・放射線物理学入門	1. 2. 3. 4①		1					○					1	
			原子力・放射線防護学入門	1. 2. 3. 4①		1					○					2	オムニバス
			生活を支える化学技術－化学工学への招	1. 2. 3. 4②		2					○					2	オムニバス
			原子力入門	1. 2. 3. 4②		1					○					1	
			原子力・放射線関連法規入門	1. 2. 3. 4②		1					○					2	オムニバス
			暮らしを支える機械システム工学	1. 2. 3. 4③		2					○					13	オムニバス
			材料科学概論	1. 2. 3. 4③		2					○					15	オムニバス
			放射性廃棄物処理法	1. 2. 3. 4①		1					○					1	
			安全工学基礎	1. 2. 3. 4④		2					○					1	オムニバス
			化学実験	1. 2. 3. 4③～④		2						○				6	オムニバス
			特許・経営および製品開発入門	1. 2. 3. 4①		2					○					8	オムニバス
			放射線入門と実習	1. 2. 3. 4①～④		1						○				2	オムニバス
			原子力の未来と災害を考える	1. 2. 3. 4①～④		1					○					3	オムニバス
			特許と技術経営I	1. 2. 3. 4①～②		1					○					2	オムニバス
			特許と技術経営II	1. 2. 3. 4③～④		1					○					3	オムニバス
			農業資源を知る	1. 2. 3. 4①		2					○					8	オムニバス
			生命を知る	1. 2. 3. 4①		2					○					13	メディア、オムニバス
			生態系を知る	1. 2. 3. 4②		2					○					9	オムニバス
			農業DXを知る	1. 2. 3. 4①～②		1					○					1	
			医学物理学入門	1. 2. 3. 4③		1					○					8	オムニバス
小計 (49科目)			—	—	0	81	0	—			0	0	0	0	0	154	
教養教育に関する科目	人文社会・教育科学	歴史学 I	1. 2. 3. 4①		2			○								1	
		メディアの記号論	1. 2. 3. 4①③		2			○							1		
		実験心理学と応用	1. 2. 3. 4①		2			○							1		
		英語基礎 L	1. 2. 3. 4①①～②		1				○						17	オムニバス	
		技術日本語演習	1. 2. 3. 4②		2				○						1		
		人文系フロンティア	1. 2. 3. 4②		4				○						20	オムニバス	
		現代日本と伝統文化	1. 2. 3. 4②③④		2				○						1		
		歴史学Q	1. 2. 3. 4②		2				○						1		
		英語基礎 R	1. 2. 3. 4②①～②		1					○					14	オムニバス	
		心理学	1. 2. 3. 4①～②		2				○						1		
		日本語教育 I－A	1. 2. 3. 4①～②		2				○						1		
		少数民族の言語と文化	1. 2. 3. 4①～②		2				○						1		
		教養の心理学	1. 2. 3. 4①～②		2				○						1		
		音と音楽をめぐる科学と教養	1. 2. 3. 4①～②		2				○						1		
		心と社会	1. 2. 3. 4①～②		2				○						1	メディア	
		哲学	1. 2. 3. 4①～②		2					○					1		
		生涯学習概論	1. 2. 3. 4①～②		2					○					1		
		歴史学H	1. 2. 3. 4③		2					○					1		
		文学E	1. 2. 3. 4③		2					○					1		
		心理学概論	1. 2. 3. 4③		2					○					1		
		心と脳の科学リテラシー	1. 2. 3. 4③		2					○					1		
		現代社会論	1. 2. 3. 4③		2					○					1		
		人間関係論	1. 2. 3. 4③		2					○					1		
		現代社会と科学技術	1. 2. 3. 4③		2					○					1		
		文化人類学の方法－他者へのまなざし	1. 2. 3. 4③		2					○					1		

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(経済科学部総合経済学科) 【基礎学部】																	
			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
知識・理解科目	教養教育に関する科目	人文社会科学	アクターネットワークの社会学	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
			歴史学0	1. 2. 3. 4③		2		○								1	
			中国語オブショナルA	1. 2. 3. 4③		2			○							1	
			意思決定のコミュニケーション論	1. 2. 3. 4④		2		○								1	
			つながりと絆の社会学	1. 2. 3. 4④		2		○								1	
			朝鮮語オブショナルB	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
			音楽R	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
			対人行動の心理学	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
			セクシュアリティ・スタディーズ	1. 2. 3. 4③～④		2		○			1					7	オムニバス
			人文系展開科目D	1. 2. 3. 4③～④		2		○							1	12	オムニバス
			日本古典文学N	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
			日本古典文学0	1. 2. 3. 4①		2		○								1	
			文学D	1. 2. 3. 4③～④		2		○			1						
			西洋哲学演習	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
			演劇入門	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
			現代思想論	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
			人文系展開科目 I	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
			日本語教育 IーB	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
			教養教育としての教育学入門	1. 2. 3. 4③		2			○							1	
			精神疾患とその治療	1. 2. 3. 4②		2		○								1	メディア
			公認心理師の職責	1. 2. 3. 4②		1		○			1					3	オムニバス
			ビジネス書道入門	1. 2. 3. 4①～②③～④		2		○			1						
			音楽(ピアノ)	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
			水彩画表現入門	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア
			美術史	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア
			人体の構造と機能及び疾病	1. 2. 3. 4①～②		2		○								2	オムニバス
			福祉心理学	1. 2. 3. 4①～②		2		○								2	オムニバス
			教養を考える	1. 2. 3. 4①～②		2		○		※						2	※演習、オムニバス
			司法・犯罪心理学	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
			臨床心理学概論	1. 2. 3. 4④		2		○								1	メディア
			音楽E	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
			日本文化論	1. 2. 3. 4③～④		2			○		1						
			音楽(作曲)	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
			心理演習	1. 2. 3. 4③～④		2			○							4	オムニバス
			心理的アセスメント	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
			関係行政論	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
			健康生活環境論	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	メディア
			心理実習	1. 2. 3. 4①～④		2			○		○					3	オムニバス
			人文社会科学入門(法学)	1. 2. 3. 4①		2			○							3	オムニバス
			リーガル・システムA	1. 2. 3. 4①		2			○							3	オムニバス
			日本国憲法	1. 2. 3. 4①②③④①～②③～④		2			○							5	オムニバス
			リーガル・システム	1. 2. 3. 4②		2			○							3	オムニバス
			リーガル・システムB	1. 2. 3. 4②		2			○							3	オムニバス
			死因究明と法	1. 2. 3. 4③		2			○							5	オムニバス
			組織マネジメント論	1. 2. 3. 4①		2			○							1	
			マーケティングプロモーション入門	1. 2. 3. 4②		1			○				1				
			小計(71科目)	—	—	0	140	0	—		3	1	0	0	1	106	
	医歯学	はじめての医学	1. 2. 3. 4②		1			○								2	オムニバス
		先端医科学研究概説	1. 2. 3. 4①～②		2			○								1	
		医学序説 I	1. 2. 3. 4①～②		2			○								1	
		医学論文を読む(ジャーナルクラブ) A	1. 2. 3. 4①～②		2				○							1	
		原子力と倫理	1. 2. 3. 4④		1			○							4	オムニバス	
		医学序説 II	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1		
		医学論文を読む(ジャーナルクラブ) B	1. 2. 3. 4③～④		2				○						1		
		健康と医学	1. 2. 3. 4③～④		2			○							5	オムニバス	
		災害医療概論	1. 2. 3. 4①～④		1			○							1		
		原子力災害医療体制	1. 2. 3. 4①～④		1			○							1	※実験・実習	
		災害医療ロジスティクス	1. 2. 3. 4①～④		1			○							1		
		「食べる」	1. 2. 3. 4①		2			○							14	オムニバス	
		PBL入門	1. 2. 3. 4②		1			○							4	※演習、オムニバス	
		健康福祉学入門	1. 2. 3. 4②		2			○							13	メディア、オムニバス	
		新潟発福祉学	1. 2. 3. 4③		2			○							10	オムニバス	
		顔	1. 2. 3. 4③～④		2			○							12	オムニバス	
		小計(16科目)	—	—	0	26	0	—		0	0	0	0	0	58		

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(経済科学部総合経済学科) 【基礎学部】																			
		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(＝助手を 除く)教員			
アカデミックス スキル科目	専門科目	学際日本語プログラム・地域リーダープログラム アカデミックライティング	アカデミックライティング (学際日本語)	2①②	○	2				○		1	1				オムニバス		
			ライティングスキル (地域リーダー)	2①②	○	1				○			1				オムニバス		
			社会調査演習A (地域リーダー)	3①②	○		2			○									
			社会調査演習B (地域リーダー)	3①②	○		2			○				1					
			小計 (4科目)	—	—	3	4	0		—		1	3	0	1	1	0		
	学部共通 基礎科目		スタディスキルズⅠ	1.2.3.4①		1				○		1	5	3	1			オムニバス	
			スタディスキルズⅡ	1.2.3.4③		1				○		4	9	3	2			オムニバス	
			スタディスキルズⅢ	1.2.3.4④		1				○		1	1					オムニバス	
			データサイエンス総論Ⅰ	1③		1			○										
			小計 (4科目)	—	—	4	0	0		—		6	15	6	3	0	0		
	外国語	英語	アカデミック英語入門R	1①～②③～④			1			○								27	メディア メディア

教 育 課 程 等 の 概 要																				
(経済科学部総合経済学科)【基礎学部】																				
			授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
						必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教員 (助手を 除く) の 教員		
アカ デミ ック ス キ ル 科 目	外 国 語	初修 外国語	ドイツ語圏グローバル理解 1 (スイス学入門)	1.2①②			1		○								1	メディア		
			ドイツ語圏グローバル理解 2 (ドイツ語文化圏研究入門)	1.2①②			1		○									1	メディア	
			ドイツ語圏グローバル理解 3 (ドイツ語圏で暮らしてみれば)	1.2①②			1		○										1	
			ドイツ語圏グローバル理解 4 (東西ドイツの分断と統一って?)	1.2①②			1		○										1	
			ドイツ語圏グローバル理解 5 (映像で見る日独文化比較)	1.2①②			1		○										1	
			フランス語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○										1	
			フランス語圏グローバル理解 2	1.2①②			1		○										1	
			フランス語圏グローバル理解 3	1.2①②			1		○										1	
			ロシア語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○				1							メディア
			中国語圏グローバル理解 1 (日中韓比較文化)	1.2①②			1		○										1	
			中国語圏グローバル理解 2 (映像で探る中国文化)	1.2①②			1		○										1	
			中国語圏グローバル理解 3 (多民族国家中国)	1.2①②			1		○										1	
			中国語圏グローバル理解 4 (漢文と中国語)	1.2③④			1		○										1	メディア
			中国語圏グローバル理解 5 (中国の生活と経済)	1.2①②			1		○										1	
			中国語圏グローバル理解 6 (中国滞在事情)	1.2①②			1		○										1	
			中国語圏グローバル理解 7 (エリアスタディーズ北京)	1.2①②			1		○										1	メディア
			中国語圏グローバル理解 8 (エリアスタディーズ上海)	1.2①②			1		○										1	メディア
			中国語圏グローバル理解 9 (エリアスタディーズ東北)	1.2①②			1		○										1	メディア
			中国語圏グローバル理解 10 (中国語の基礎知識)	1.2①②			1		○										1	
			中国語圏グローバル理解 11 (中国語の基礎知識)	1.2①②			1		○										1	
			中国語圏グローバル理解 12 (中国語の基礎知識)	1.2③④			1		○										1	
			朝鮮語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○										1	メディア
			朝鮮語圏グローバル理解 2	1.2①②			1		○										1	メディア
			スペイン語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○										1	
			イタリア語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○										1	メディア
			古代ローマ帝国ラテン語	1.2.3.4①			1		○										1	メディア
			古典古代ギリシア語	1.2.3.4②			1		○										1	メディア
			西洋古典文芸 A	1.2.3.4①			1		○										1	
			西洋古典文芸 B	1.2.3.4②			1		○										1	
			フィリピン語圏グローバル理解 1	1.2①②			1		○										1	
			ドイツ語インテンシブ IA	1.2①			2					○							4	オムニバス
			ドイツ語インテンシブ IB	1.2②			2					○							4	オムニバス
			ドイツ語スタンダード IA	1.2①			1.5					○							5	オムニバス
			ドイツ語スタンダード IB	1.2②			1.5					○							5	オムニバス
			コミュニケーション・ドイツ語A	1.2.3.4①～②			2					○							1	
			コミュニケーション・ドイツ語B	1.2.3.4①～②			2					○							1	
			コミュニケーション・ドイツ語C	1.2.3.4①～②			2					○							1	
			ドイツ語セミナーA	1.2.3.4①～②			2					○							1	
			ドイツ語セミナーB	1.2.3.4①～②			2					○							1	
			ドイツ語インテンシブ II	1.2③～④			4					○							4	オムニバス
			ドイツ語スタンダード II	1.2③～④			3					○							5	オムニバス
			ドイツ語エッセンシャル A	1.2③～④			2					○							2	
			ドイツ語エッセンシャル B1	1.2③～④			1					○							2	
			コミュニケーション・ドイツ語D	1.2.3.4③～④			2					○							1	
			コミュニケーション・ドイツ語E	1.2.3.4③～④			2					○							1	
			コミュニケーション・ドイツ語F	1.2.3.4③～④			2					○							1	
			ドイツ語セミナーC	1.2.3.4③～④			2					○							1	
			ドイツ語セミナーD	1.2.3.4③～④			2					○							1	
			フランス語インテンシブ IA	1.2①			2					○							3	オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(経済科学部総合経済学科) 【基礎学部】																			
			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除外する)教員	
アカデミックス スキル科目	外国語	初修 外国語	フランス語インテンシブ IB	1.2②			2				○						3	オムニバス	
			フランス語スタンダード IA	1.2①			1.5				○							4	メディア、オムニバス
			フランス語スタンダード IB	1.2②			1.5				○							4	メディア、オムニバス
			コミュニケーション・フランス語B	1.2.3.4①～②			2				○							1	メディア
			コミュニケーション・フランス語C	1.2.3.4①～②			2				○							1	
			コミュニケーション・フランス語D	1.2.3.4①～②			2				○							1	
			コミュニケーション・フランス語E	1.2.3.4①～②			2				○							1	
			コミュニケーション・フランス語J	1.2.3.4①～②			2				○							1	
			フランス語セミナーA	1.2.3.4①～②			2				○							1	メディア
			フランス語インテンシブ II	1.2③～④			4				○							3	オムニバス
			フランス語スタンダード II	1.2③～④			3				○							4	メディア、オムニバス
			フランス語エッセンシャル A	1.2③～④			2				○							2	
			フランス語エッセンシャル B	1.2③～④			1				○							2	
			フランス学アクティブ	1.2.3.4①～②			2				○							1	
			コミュニケーション・フランス語G	1.2.3.4③～④			2				○							1	
			コミュニケーション・フランス語H	1.2.3.4③～④			2				○							1	メディア
			コミュニケーション・フランス語K	1.2.3.4③～④			2				○							1	
			フランス語セミナーB	1.2.3.4③～④			2				○							1	メディア
			ロシア語インテンシブ IA	1.2①			2				○							2	オムニバス
			ロシア語インテンシブ IB	1.2②			2				○							2	オムニバス
			ロシア語スタンダード IA	1.2①			1.5				○							2	オムニバス
			ロシア語スタンダード IB	1.2②			1.5				○							2	オムニバス
			コミュニケーション・ロシア語A	1.2.3.4①～②			2				○							1	
			コミュニケーション・ロシア語B	1.2.3.4①～②			2				○							1	
			ロシア語セミナーA	1.2.3.4①～②			2				○							1	
			ロシア語ベーシックプラスA	1.2.3.4①～②			2				○				1				
			ロシア語インテンシブ II	1.2③～④			4				○							2	オムニバス
			ロシア語スタンダード II	1.2③～④			3				○							2	オムニバス
			ロシア語エッセンシャル A	1.2③～④			2				○				1			1	オムニバス
			ロシア語エッセンシャル B	1.2④			1				○				1				メディア
			コミュニケーション・ロシア語C	1.2.3.4③～④			2				○							1	メディア
			ロシア語セミナーB	1.2.3.4③～④			2				○							1	メディア
			中国語インテンシブ IA	1.2①			2				○							6	メディア、オムニバス
			中国語インテンシブ IB	1.2②			2				○							6	メディア、オムニバス
			中国語スタンダード IA	1.2①			1.5				○							11	メディア
			中国語スタンダード IB	1.2②			1.5				○							11	
			コミュニケーション・中国語A	1.2.3.4①～②			2				○							1	
			コミュニケーション・中国語B	1.2.3.4①～②			2				○							1	
			コミュニケーション・中国語C	1.2.3.4①～②			2				○							1	
			コミュニケーション・中国語J	1.2.3.4①～②			2				○							1	メディア
コミュニケーション・中国語M	1.2.3.4①～②			2				○							1				
中国語セミナーE	1.2.3.4①～②			2				○							1				
中国語セミナーF	1.2.3.4①～②			2				○							1				
中国語セミナーQ	1.2.3.4①～②			2				○							1				
中国語インテンシブ II	1.2③～④			4				○							6	オムニバス			
中国語スタンダード II	1.2③～④			3				○							11	メディア、オムニバス			
中国語エッセンシャル A (発音・文法)	1.2③～④			2				○							4	オムニバス			
中国語エッセンシャル B (練習・会話)	1.2③～④			1				○							1				
コミュニケーション・中国語D	1.2.3.4③～④			2				○							1	メディア			
コミュニケーション・中国語E	1.2.3.4③～④			2				○							1				
コミュニケーション・中国語F	1.2.3.4③～④			2				○							1				
コミュニケーション・中国語K	1.2.3.4③～④			2				○							1	メディア			
上海語演習	1.2.3.4③～④			2				○							1				
中国語セミナーG	1.2.3.4③～④			2				○							1				
中国語セミナーH	1.2.3.4③～④			2				○							1				
中国語セミナーN	1.2.3.4③～④			2				○							1				
朝鮮語インテンシブ IA	1.2①			2				○							2	オムニバス			
朝鮮語インテンシブ IB	1.2②			2				○							2	オムニバス			
朝鮮語スタンダード IA	1.2①			1.5				○							2	メディア、オムニバス			

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(経済科学部総合経済学科) 【基礎学部】																	
			授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
						必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
アカ デミ ック ス キ ル 科 目	外 国 語	初修 外国語	朝鮮語スタンダード IB	1.2②		1.5			○							2	メディア、オムニバス
			コミュニケーション・朝鮮語I	1.2.3.4①～②		2			○							1	メディア
			コミュニケーション・朝鮮語J	1.2.3.4①～②		2			○							1	メディア
			コミュニケーション・朝鮮語K	1.2.3.4①～②		2			○							1	メディア
			コミュニケーション・朝鮮語H	1.2.3.4①～②		2			○							1	メディア
			朝鮮語セミナーA	1.2.3.4①～②		2			○							1	メディア
			朝鮮語インテンシブ II	1.2③～④		4			○							3	オムニバス
			朝鮮語スタンダード II	1.2③～④		3			○							2	メディア、オムニバス
			朝鮮語エッセンシャル A	1.2③～④		2			○							1	
			朝鮮語エッセンシャル B	1.2③～④		1			○							1	
			コミュニケーション・朝鮮語L	1.2.3.4③～④		2			○							1	メディア
			コミュニケーション・朝鮮語X	1.2.3.4③～④		2			○							1	
			朝鮮語セミナーB	1.2.3.4③～④		2			○							1	メディア
			スペイン語スタンダード IA	1.2①		1.5			○							1	
			スペイン語スタンダード IB	1.2②		1.5			○							1	
			スペイン語スタンダード III	1.2①～②		1			○							1	
			コミュニケーション・スペイン語A	1.2.3.4①～②		2			○							1	
			スペイン語セミナーA	1.2.3.4①～②		2			○							1	
			スペイン語スタンダード II	1.2③～④		3			○							1	
			スペイン語スタンダード IV	1.2③～④		1			○							1	
			スペイン語エッセンシャル A	1.2③～④		2			○							1	
			スペイン語エッセンシャル B	1.2③～④		1			○							1	
			コミュニケーション・スペイン語B	1.2.3.4③～④		2			○							1	
			イタリア語スタンダード IA	1.2①		1.5			○							2	メディア、オムニバス
			イタリア語スタンダード IB	1.2②		1.5			○							2	メディア、オムニバス
			イタリア語スタンダード III	1.2①～②		1			○							1	メディア
			コミュニケーション・イタリア語A	1.2.3.4①～②		2			○							1	メディア
			イタリア語スタンダード II	1.2③～④		3			○							2	メディア、オムニバス
			イタリア語スタンダード IV	1.2③～④		1			○							1	メディア
			コミュニケーション・イタリア語B	1.2.3.4③～④		2			○							1	メディア
			古代エジプト神聖文字文A	1.2.3.4③		1			○							1	メディア
			古代エジプト神聖文字文B	1.2.3.4④		1			○							1	メディア
			フィリピン語エッセンシャル A	1.2③～④		2			○							1	
			フィリピン語エッセンシャル B	1.2③～④		1			○							1	
			小計 (142科目)			—	—	0	251	0	—			4	0	0	3
実 践 学 修 科 目			演習 I	3①②③④・4①②③④	○		2			○		5	15	4			オムニバス
			演習 II	3①②③④・4①②③④	○		2			○		5	15	4			オムニバス
			演習Ⅲ	3①②③④・4①②③④	○	2				○		5	15	4			オムニバス
			演習Ⅳ	3①②③④・4①②③④	○	2				○		5	15	4			オムニバス
			企業分析入門	2④	○		2			○				1			
			インターンシップ	3②③	○		2			○		1	1				オムニバス
			会計税務インターンシップ	3②③・4②③	○		2			○			1				
			学際日本学演習	3①②③④・4①②③④	○		2			○		4	1				オムニバス
			共修日本学演習	3①②③④・4①②③④	○		2			○		1	2				オムニバス
			課題演習 A	2③④・3③④	○		2			○		1	1		2		オムニバス
			課題実習 B	3①②③④・4①②③④	○		2			○		1	2		1		オムニバス
			課題演習 D	3①②③④・4①②③④	○		2			○		1	1		2		オムニバス
			社会開放演習 A	2③④・3①②・3③④	○		2			○		2	1		2		オムニバス
			社会開放演習 B	3①②③④・4①②③④	○		2			○		2	1		2		オムニバス
			社会開放演習 D	3①②③④・4①②③④	○		2			○		1			2		オムニバス
			外国語文献講読 I	2①②	○		2			○		1	1		1		オムニバス
			外国語文献講読 II	2③④	○		2			○		1	2		2		オムニバス
			学修デザイン演習 I	2①	○	2				○		1					
			学修デザイン演習 II	2④	○	1				○		1					
			課題解決スキル I	2①②	○	2				○		1			1		オムニバス
			課題解決スキル II	3①	○	1				○			1		1		オムニバス
小計 (21科目)			—	—	10	30	0	—			39	75	17	15	1	2	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(経済科学部総合経済学科) 【基礎学部】																
	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外(助手を除く)の教員	
卒業論文	卒業論文	4①②③④	○	8				○		13	19	4				オムニバス
	小計 (1科目)	—	—	8	0	0	—			13	19	4	0	0	0	
科目自由選択	数学入門	1①			2		○								1	
	職業指導	2②③・3②③			2		○								1	
	小計 (2科目)	—	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	2	
合計 (829科目)		—	—	33	1489	0	—			12	21	4	5	3	680	
学位又は称号		学士 (経済学)、学士 (経営学)、学士 (学術)			学位又は学科の分野				経済学関係							
							授業期間等									
【経済学プログラム】 以下の要件を含む、124単位以上を修得すること。 (1) 知識・理解科目：78単位以上 (学部共通基礎8単位に加え、経済学プログラム基礎科目6単位を含むプログラム基礎科目から10単位、経済学プログラム中核科目8単位を含むプログラム中核科目から12単位、経済学プログラム専門展開科目16単位を含むその他専門科目から30単位、教養教育に関する科目から18単位を含む) (2) アカデミックスキル科目：14単位以上 (学部共通基礎4単位に加え、外国語からアカデミック英語入門L、アカデミック英語入門R、初修外国語6単位を含む10単位を含む) (3) 実践学修科目：8単位以上16単位以下 (演習Ⅲ・Ⅳを含む) (4) 卒業論文：8単位 (履修科目の登録の上限：44単位 (年間)) 【経営学プログラム】 以下の要件を含む、124単位以上を修得すること。 (1) 知識・理解科目：78単位以上 (学部共通基礎8単位に加え、経営学プログラム基礎科目6単位を含むプログラム基礎科目から10単位、経営学プログラム中核科目8単位を含むプログラム中核科目から12単位、経営学プログラム専門展開科目16単位を含むその他専門科目から30単位、教養教育に関する科目から18単位を含む) (2) アカデミックスキル科目：14単位以上 (学部共通基礎4単位に加え、外国語からアカデミック英語入門L、アカデミック英語入門R、初修外国語6単位を含む10単位を含む) (3) 実践学修科目：8単位以上16単位以下 (演習Ⅲ・Ⅳを含む) (4) 卒業論文：8単位 (履修科目の登録の上限：44単位 (年間)) 【学際日本学プログラム】 以下の要件を含む、124単位以上を修得すること。 (1) 知識・理解科目：60単位以上 (学部共通基礎8単位に加え、専門科目40単位以上 (プログラム基礎科目から日本学基礎モジュールを含む基礎モジュール2つ、プログラム中核科目から中核モジュール1つを含む))、教養教育に関する科目12単位以上を含む) (2) アカデミックスキル科目：18単位以上 (学部共通基礎4単位、アカデミックライティング2単位に加え、外国語12単位以上 (アカデミック英語入門L、アカデミック英語入門R、初修外国語6単位以上を含む)) (3) 実践学修科目：19単位以上 (必修科目に加え、学際日本学実習・学際日本学演習・共修日本学演習から8単位 (重複履修可) を含む) (4) 卒業論文：8単位 なお、科目区分「プログラム基礎科目」「プログラム中核科目」のモジュールの修了条件は以下のとおりである。 ＜プログラム基礎科目＞ 日本学基礎モジュール Introduction to Interdisciplinary Japanese Studiesを含む4科目の単位修得 経済学基礎モジュール 全ての授業科目の単位修得 企業経営・会計基礎モジュール 全ての授業科目の単位修得 心理学基礎モジュール 全ての授業科目の単位修得 人間学基礎モジュール 人間学研究法Aおよび人間学研究法Bを含む4科目の単位修得 歴史学基礎モジュール 全ての授業科目の単位修得 地域資料論基礎モジュール 3科目の単位修得 社会学基礎モジュール 全ての授業科目の単位修得 メディア論基礎モジュール 6単位分の授業科目の単位修得 博物館学基礎モジュール 全ての授業科目の単位修得 言語学基礎モジュール 3科目の単位修得							1 学年の学期区分				4ターム					
							1 学期の授業期間				8 週					
							1 時限の授業時間				90分					

教 育 課 程 等 の 概 要															
(経済科学部総合経済学科) 【基礎学部】															
授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く）教員	
日本語学・日本文学基礎モジュール 3科目の単位修得 中国言語文化学基礎モジュール 全ての授業科目の単位修得 朝鮮言語文化学基礎モジュール 全ての授業科目の単位修得 東アジア言語文化学基礎モジュール アジア言語文化概説Cの単位修得に加え、(A)中国語8単位既修者は朝鮮語オプショナルB、アジア言語文化概説A、アジア言語文化概説Bの3科目を、(B)朝鮮語8単位既修者は中国語オプショナルA、アジア言語文化研究法A、アジア言語文化研究法Bの3科目を、それぞれ単位修得 英語・英米文化学基礎モジュール 3科目の単位修得 ドイツ言語文化学基礎モジュール 全ての授業科目の単位修得 フランス言語文化学基礎モジュール 全ての授業科目の単位修得 ロシア言語文化学基礎モジュール 全ての授業科目の単位修得 法律学基礎モジュール 全ての授業科目の単位修得 ＜プログラム中核科目＞ 経済史・経済学史モジュール 全ての授業科目の単位修得 日本政治学モジュール 4科目の単位修得 アニメーション研究モジュール 4科目の単位修得 比較文化論モジュール 4科目の単位修得 日本社会とジェンダー研究モジュール 4科目の単位修得 (履修科目の登録の上限：44単位（年間）) 【地域リーダープログラム】 以下の要件を含む、124単位以上を修得すること。 (1)知識・理解科目：64単位以上（学部共通基礎8単位に加え、専門科目46単位以上（プログラム基礎科目から基礎モジュール1つ、プログラム中核科目から中核モジュール1つ、統計入門を含む）、教養教育に関する科目10単位以上を含む） (2)アカデミックスキル科目：17単位以上（学部共通基礎4単位に加え、外国語10単位以上（アカデミック英語入門L、アカデミック英語入門R、初修外国語6単位以上を含む）、アカデミックライティング3単位以上（必修科目を含む）） (3)実践学修科目：18単位以上（必修科目に加え、課題演習1科目、社会開放演習1科目を含む） (4)卒業論文：8単位 なお、科目区分「プログラム基礎科目」「プログラム中核科目」のモジュールの修了条件は以下のとおりである。 ＜プログラム基礎科目＞ 経済学基礎モジュール 全ての授業科目の単位修得 企業経営・会計基礎モジュール 全ての授業科目の単位修得 日本学基礎モジュール Introduction to Interdisciplinary Japanese Studiesを含む4科目の単位修得 心理学基礎モジュール 全ての授業科目の単位修得 人間学基礎モジュール 人間学研究法Aおよび人間学研究法Bを含む4科目の単位修得 歴史学基礎モジュール 全ての授業科目の単位修得 地域資料論基礎モジュール 3科目の単位修得 社会学基礎モジュール 全ての授業科目の単位修得 メディア論基礎モジュール 6単位分の授業科目の単位修得 博物館学基礎モジュール 全ての授業科目の単位修得 言語学基礎モジュール 3科目の単位修得 日本語学・日本文学基礎モジュール 3科目の単位修得 中国言語文化学基礎モジュール 全ての授業科目の単位修得 朝鮮言語文化学基礎モジュール 全ての授業科目の単位修得 東アジア言語文化学基礎モジュール アジア言語文化概説Cの単位修得に加え、(A)中国語8単位既修者は朝鮮語オプショナルB、アジア言語文化概説A、アジア言語文化概説Bの3科目を、(B)朝鮮語8単位既修者は中国語オプショナルA、アジア言語文化研究法A、アジア言語文化研究法Bの3科目を、それぞれ単位修得 英語・英米文化学基礎モジュール 3科目の単位修得 ドイツ言語文化学基礎モジュール 全ての授業科目の単位修得 フランス言語文化学基礎モジュール 全ての授業科目の単位修得 ロシア言語文化学基礎モジュール 全ての授業科目の単位修得 法律学基礎モジュール 全ての授業科目の単位修得															

教 育 課 程 等 の 概 要																
(経済科学部総合経済学科) 【基礎学部】																
	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
<プログラム中核科目> 経済数理モジュール 全ての授業科目の単位修得 理論経済学モジュール 全ての授業科目の単位修得 実証経済学モジュール 全ての授業科目の単位修得 組織の経済学モジュール 全ての授業科目の単位修得 国際経済学モジュール 全ての授業科目の単位修得 環境経済モジュール 全ての授業科目の単位修得 金融モジュール 全ての授業科目の単位修得 財政モジュール 全ての授業科目の単位修得 経済史・経済学史モジュール 全ての授業科目の単位修得 欧米経済論モジュール 全ての授業科目の単位修得 アジア・開発途上国経済論モジュール 全ての授業科目の単位修得 企業経営中核モジュール 全ての授業科目の単位修得 会計税務中核モジュール 全ての授業科目の単位修得 (履修科目の登録の上限：44単位（年間）)																

教 育 課 程 等 の 概 要																
(理学部理学科／教養教育に関する授業科目) 【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員(助手を除く)	
教養教育に関する授業科目	英語	アカデミック英語入門R	1①～②③～④		1		○								27	
		実践コミュニケーション英語Ⅰ	1①～②		1			○							5	
		アカデミック英語入門R	1①～②③～④		1			○							27	
		アカデミック英語入門L	1①～②③～④		1			○							13	
		中級コミュニケーション英語	1.2.3.4①～②③～④		2			○							10	メディア
		上級コミュニケーション英語	1.2.3.4①～②③～④		2			○							6	メディア
		TOEFL iBT PreparationⅠ	1.2.3.4①～②③～④		2			○							2	
		TOEFL iBT PreparationⅡ	1.2.3.4①～②		2			○							2	メディア
		IELTS PreparationⅠ	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		IELTS PreparationⅡ	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		実践コミュニケーション英語Ⅱ	1③～④		1			○							5	
		中級C A L L (留学準備)	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	メディア
		中級EAP (Listening & Speaking)	2.3.4①②③～④		2			○							2	
		中級EAP (Writing)	2.3.4①③④①～②③～④		2			○							2	
		上級EAP (Writing)	2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		中級EAP (Reading: Term Course)	2.3.4①		1			○							1	
		中級EAP (Listening & Speaking: Term Course)	2.3.4①②		1			○							1	
		上級EAP (Reading)	2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		中級EAP (Reading)	2.3.4①～②③～④		2			○							2	
		上級EAP (Listening & Speaking)	2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		iStep Extension: Academic Writing	1.2③～④		2			○							1	
		iStep Extension: Basic Pronunciation	1.2③～④		2			○							1	
		iStep Academic Writing	1.2②		0.5			○							1	
		iStep Extension: Academic Listening & Speaking	1.2③～④		2			○							2	
		iStep Extension: Academic Reading	1.2③～④		2			○							1	
		iStep Extension: Presentation	1.2③～④		2			○							1	
		iStep Presentations	1.2②		0.5			○							1	
		iStep Extension: Oral Communication	1.2③～④		2			○							1	
		iStep Academic Reading	1.2②		0.5			○							1	
		iStep Listening and Speaking	1.2②		0.5			○							1	
		英語表現セミナーA	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		英語表現セミナーB	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		英語表現セミナーC	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		実践英語セミナー	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		医療英語 (看護)	1.2.3.4①～②		2			○							5	オムニバス
		医療英語 (放射)	1.2.3.4①～②		2			○							14	オムニバス
		医療英語 (検査)	1.2.3.4①～②		2			○							15	オムニバス
		医療英語ベーシック (放射)	1.2.3.4③～④		2			○							7	オムニバス
		P.A.C.E. (Academic Listening & Speaking)	1.2.3.4①		0.5			○							2	
		P.A.C.E. (Academic ReadingⅠ)	1.2.3.4①		0.5			○							2	
		P.A.C.E. (Academic WritingⅠ)	1.2.3.4①		0.5			○							2	
		P.A.C.E. (Oral Communication)	1.2.3.4①		0.5			○							2	
		P.A.C.E. (Academic WritingⅡ)	1.2.3.4②		0.5			○							2	
		P.A.C.E. (Academic ReadingⅡ)	1.2.3.4②		0.5			○							2	
		P.A.C.E. (Research Writing)	1.2.3.4③～④		1			○							2	
		P.A.C.E. (Academic Communication Skills)	1.2.3.4③～④		1			○							1	
		P.A.C.E. (Presentation Skills)	1.2.3.4③～④		1			○							1	
	小計 (47科目)	—	—	0	69	0	—		0	0	0	0	0	81		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外を除く教員	
教養教育に関する授業科目	初修外国語	ドイツ語圏グローバル理解 1 (スイス学入門)	1. 2①②		1		○								1	メディア
		ドイツ語圏グローバル理解 2 (ドイツ語文化圏研究入門)	1. 2①②		1		○								1	メディア
		ドイツ語圏グローバル理解 3 (ドイツ語圏で暮らしてみれば)	1. 2①②		1		○								1	
		ドイツ語圏グローバル理解 4 (東西ドイツの分断と統一って?)	1. 2①②		1		○								1	
		ドイツ語圏グローバル理解 5 (映像で見る日独文化比較)	1. 2①②		1		○								1	
		フランス語圏グローバル理解 1	1. 2①②		1		○								1	
		フランス語圏グローバル理解 2	1. 2①②		1		○								1	
		フランス語圏グローバル理解 3	1. 2①②		1		○								1	
		ロシア語圏グローバル理解 1	1. 2①②		1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 1 (日中韓比較文化)	1. 2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 2 (映像で探る中国文化)	1. 2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 3 (多民族国家中国)	1. 2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 4 (漢文と中国語)	1. 2③④		1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 5 (中国の生活と経済)	1. 2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 6 (中国滞在事情)	1. 2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 7 (エリアスタディーズ北京)	1. 2①②		1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 8 (エリアスタディーズ上海)	1. 2①②		1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 9 (エリアスタディーズ東北)	1. 2①②		1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 10 (中国語の基礎知識)	1. 2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 11 (中国語の基礎知識)	1. 2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 12 (中国語の基礎知識)	1. 2③④		1		○								1	
		朝鮮語圏グローバル理解 1	1. 2①②		1		○								1	メディア
		朝鮮語圏グローバル理解 2	1. 2①②		1		○								1	メディア
		スペイン語圏グローバル理解 1	1. 2①②		1		○								1	
		イタリア語圏グローバル理解 1	1. 2①②		1		○								1	メディア
		古代ローマ帝国ラテン語	1. 2. 3. 4①		1		○								1	メディア
		古典古代ギリシア語	1. 2. 3. 4②		1		○								1	メディア
		西洋古典文芸 A	1. 2. 3. 4①		1		○								1	
		西洋古典文芸 B	1. 2. 3. 4②		1		○								1	
		フィリピン語圏グローバル理解 1	1. 2①②		1		○								1	
		ドイツ語インテンシブ IA	1. 2①		2			○							4	オムニバス
		ドイツ語インテンシブ IB	1. 2②		2			○							4	オムニバス
		ドイツ語スタンダード IA	1. 2①		1.5			○							5	オムニバス
		ドイツ語スタンダード IB	1. 2②		1.5			○							5	オムニバス
		コミュニケーション・ドイツ語A	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語B	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語C	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		ドイツ語セミナーA	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		ドイツ語セミナーB	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		ドイツ語インテンシブ II	1. 2③～④		4			○							4	オムニバス
		ドイツ語スタンダード II	1. 2③～④		3			○							5	オムニバス
		ドイツ語エッセンシャル A	1. 2③～④		2			○							2	
		ドイツ語エッセンシャル B1	1. 2③～④		1			○							2	
		コミュニケーション・ドイツ語D	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語E	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語F	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		ドイツ語セミナーC	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		ドイツ語セミナーD	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		フランス語インテンシブ IA	1. 2①		2			○							3	オムニバス
		フランス語インテンシブ IB	1. 2②		2			○							3	オムニバス
		フランス語スタンダード IA	1. 2①		1.5			○							5	メディア、オムニバス

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外を除く教員	
教養教育に関する授業科目	初修外国語	フランス語スタンダード IB	1. 2②		1. 5			○							5	メディア、オムニバス
		コミュニケーション・フランス語B	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・フランス語C	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語D	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語E	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語J	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		フランス語セミナーA	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア
		フランス語インテンシブ II	1. 2③～④		4			○							3	オムニバス
		フランス語スタンダード II	1. 2③～④		3			○							5	メディア、オムニバス
		フランス語エッセンシャル A	1. 2③～④		2			○							2	
		フランス語エッセンシャル B	1. 2③～④		1			○							2	
		フランス学アクティブ	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語G	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語H	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・フランス語K	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		フランス語セミナーB	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	メディア
		ロシア語インテンシブ IA	1. 2①		2			○							2	オムニバス
		ロシア語インテンシブ IB	1. 2②		2			○							2	オムニバス
		ロシア語スタンダード IA	1. 2①		1. 5			○							2	オムニバス
		ロシア語スタンダード IB	1. 2②		1. 5			○							2	オムニバス
		コミュニケーション・ロシア語A	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・ロシア語B	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		ロシア語セミナーA	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		ロシア語ベーシックプラスA	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		ロシア語インテンシブ II	1. 2③～④		4			○							2	オムニバス
		ロシア語スタンダード II	1. 2③～④		3			○							2	オムニバス
		ロシア語エッセンシャル A	1. 2③～④		2			○							2	オムニバス
		ロシア語エッセンシャル B	1. 2④		1			○							1	メディア
		コミュニケーション・ロシア語C	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	メディア
		ロシア語セミナーB	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	メディア
		中国語インテンシブ IA	1. 2①		2			○							6	メディア、オムニバス
		中国語インテンシブ IB	1. 2②		2			○							6	メディア、オムニバス
		中国語スタンダード IA	1. 2①		1. 5			○							11	メディア
		中国語スタンダード IB	1. 2②		1. 5			○							11	
		コミュニケーション・中国語A	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・中国語B	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・中国語C	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・中国語J	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・中国語M	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		中国語セミナーE	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		中国語セミナーF	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		中国語セミナーQ	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		中国語インテンシブ II	1. 2③～④		4			○							6	オムニバス
		中国語スタンダード II	1. 2③～④		3			○							11	メディア、オムニバス
		中国語エッセンシャル A (発音・文法)	1. 2③～④		2			○							4	オムニバス
		中国語エッセンシャル B (練習・会話)	1. 2③～④		1			○							1	
		コミュニケーション・中国語D	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・中国語E	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・中国語F	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・中国語K	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	メディア
		上海語演習	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		中国語セミナーG	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		中国語セミナーH	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		中国語セミナーN	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		朝鮮語インテンシブ IA	1. 2①		2			○							2	オムニバス
		朝鮮語インテンシブ IB	1. 2②		2			○							2	オムニバス
		朝鮮語スタンダード IA	1. 2①		1. 5			○							2	メディア、オムニバス
		朝鮮語スタンダード IB	1. 2②		1. 5			○							2	メディア、オムニバス
		コミュニケーション・朝鮮語I	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語J	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語K	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外を除く教員	
教養教育に関する授業科目	初修外国語	コミュニケーション・朝鮮語H	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア
		朝鮮語セミナーA	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア
		朝鮮語インテンシブ II	1. 2③～④		4			○							3	オムニバス
		朝鮮語スタンダード II	1. 2③～④		3			○							2	メディア、オムニバス
		朝鮮語エッセンシャル A	1. 2③～④		2			○							1	
		朝鮮語エッセンシャル B	1. 2③～④		1			○							1	
		コミュニケーション・朝鮮語L	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語X	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		朝鮮語セミナーB	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	メディア
		スペイン語スタンダード IA	1. 2①		1. 5			○							1	
		スペイン語スタンダード IB	1. 2②		1. 5			○							1	
		スペイン語スタンダード III	1. 2①～②		1			○							1	
		コミュニケーション・スペイン語A	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		スペイン語セミナーA	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		スペイン語スタンダード II	1. 2③～④		3			○							1	
		スペイン語スタンダード IV	1. 2③～④		1			○							1	
		スペイン語エッセンシャル A	1. 2③～④		2			○							1	
		スペイン語エッセンシャル B	1. 2③～④		1			○							1	
		コミュニケーション・スペイン語B	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		イタリア語スタンダード IA	1. 2①		1. 5			○							2	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード IB	1. 2②		1. 5			○							2	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード III	1. 2①～②		1			○							1	メディア
		コミュニケーション・イタリア語A	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア
		イタリア語スタンダード II	1. 2③～④		3			○							2	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード IV	1. 2③～④		1			○							1	メディア
		コミュニケーション・イタリア語B	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	メディア
		古代エジプト神聖文字文A	1. 2. 3. 4③		1			○							1	メディア
		古代エジプト神聖文字文B	1. 2. 3. 4④		1			○							1	メディア
		フィリピン語エッセンシャル A	1. 2③～④		2			○							1	
		フィリピン語エッセンシャル B	1. 2③～④		1			○							1	
		小計 (142科目)	—	—	0	251	0	—		0	0	0	0	0	54	
健康・スポーツ	健康スポーツ科学実習 Ia	1. 2. 3. 4①			0. 5				○						2	
	健康スポーツ科学実習 Ib	1. 2. 3. 4②			0. 5				○						2	
	健康スポーツ科学実習 I	1. 2. 3. 4①～②③～④			1				○						16	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II (ゴルフ)	1. 2. 3. 4①～②			1				○						3	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II (ソフトボール)	1. 2. 3. 4①～②			1				○						1	
	健康スポーツ科学実習 II (スキー I)	1. 2. 3. 4③～④			1				○						8	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II (スキー II)	1. 2. 3. 4③～④			1				○						8	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II (卓球 II)	1. 2. 3. 4③～④			1				○						1	
	健康スポーツ科学実習 II (卓球 I)	1. 2. 3. 4③～④			1				○						1	
	健康スポーツ科学実習 II (剣道)	1. 2. 3. 4③～④			1				○						1	
	健康スポーツ科学実習 II (トレーニング)	1. 2. 3. 4③～④			1				○						1	
	健康スポーツ科学実習 II (野外活動)	1. 2. 3. 4③～④			1				○						1	
	健康スポーツ科学講義a	1. 2. 3. 4①③			1		○								4	オムニバス
	健康スポーツ科学講義b	1. 2. 3. 4②④			1		○								4	オムニバス
	健康スポーツ科学講義	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	オムニバス
	小計 (15科目)	—	—	0	15	0	—	—		0	0	0	0	0	26	
情報リテラシー	データサイエンス基礎演習	1. 2. 3. 4①②③④			2			○							10	
	データサイエンス総論 I	1. 2. 3. 4①③			1		○			1					6	オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門 (力学分野)	1. 2. 3. 4①			2		○								2	※演習、オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門 (化学材料分野)	1. 2. 3. 4①			2		○								2	※演習、オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門 (融合領域分野)	1. 2. 3. 4①			2		○								2	※演習、オムニバス
	情報リテラシー概論	1. 2. 3. 4①			2		○								6	オムニバス
	データサイエンス総論 II	1. 2. 3. 4②④			1		○			1					6	オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門 (情報電子分野)	1. 2. 3. 4②			2		○								3	※演習、オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門 (建築分野)	1. 2. 3. 4②			2		○								2	※演習、オムニバス

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員		
教養教育に関する科目	情報リテラシー	1. 2. 3. 4①～②			2				○							1	オムニバス
	情報処理概論A I	1. 2. 3. 4①～②			2			○								1	
	人工知能入門	1. 2. 3. 4①～②			2			○								2	
	データサイエンス・インターンシップ （事前・事後指導）	1. 2. 3. 4①～②			2				○		1						
	データサイエンス・インターンシップ	1. 2. 3. 4①～②			6				○		1						
	情報処理概論A II	1. 2. 3. 4③～④			2			○								1	
	データサイエンス発表	1. 2. 3. 4③～④			2				○		1						
	サイバーセキュリティと情報倫理	1. 2. 3. 4①			2				○							1	
	小計（17科目）	—	—			36			—		1	0	0	0	0	32	
新潟大学個性化科目	日本酒学C	1. 2. 3. 4②			1			○								5	オムニバス
	日本酒学A	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	3	オムニバス
	キャリアデザイン	1. 2. 3. 4①～②			2			○								3	オムニバス
	SDGs入門演習	1. 2. 3. 4①～②			2			○								1	メディア
	新潟産業フィールドワーク	1. 2. 3. 4①～②			4			○								2	※演習、オムニバス
	新潟の農林業	1. 2. 3. 4③			2			○								11	メディア、オムニバス
	食と健康の科学	1. 2. 3. 4④			2			○								13	オムニバス
	土と水	1. 2. 3. 4④			2			○								14	オムニバス
	近世越後諸地域の歴史と社会	1. 2. 3. 4③～④			2			○								5	オムニバス
	SDGs入門	1. 2. 3. 4③～④			2			○			1					4	オムニバス
	地域を探索	1. 2. 3. 4③～④			2			○					1	13		オムニバス	
	日本酒学B	1. 2. 3. 4①～④			1			○					1	8		オムニバス	
	ダブルホーム活動入門 I	1. 2. 3. 4①			1			○						3		※演習、オムニバス	
	生まれ変わる地方小都市ー人とまちの未来図を描くー	1. 2. 3. 4①			2				○					1		メディア	
	自己・他者理解から始まるキャリア自律	1. 2. 3. 4①～②			2			○						2		※演習、オムニバス	
	仕事・業界理解から働く意味を探究する	1. 2. 3. 4③			2			○						2		※演習、オムニバス	
	ダブルホーム活動入門Ⅱ	1. 2. 3. 4②			1				○					3		メディア、オムニバス	
	ボランティア開発論Ⅰ	1. 2. 3. 4①～②			2			○						2		オムニバス	
	コミュニティ開発論Ⅰ	1. 2. 3. 4①～②			2			○						2		オムニバス	
	地域から文化を考える	1. 2. 3. 4①～②			2			○						5		※実験・実習、オムニバス	
	学校支援フィールドワークA（小学校）	1. 2. 3. 4①～②			2				○					3		オムニバス	
	学校支援フィールドワークA（中学校）	1. 2. 3. 4①～②			2				○					3		オムニバス	
	学校支援フィールドワークA（高等学校）	1. 2. 3. 4①～②			2				○					3		オムニバス	
	学校支援フィールドワークB（小学校）	1. 2. 3. 4①～②			4				○					3		オムニバス	
	学校支援フィールドワークB（中学校）	1. 2. 3. 4①～②			4				○					3		オムニバス	
	授業フィールドワーク	1. 2. 3. 4①～②			2					○				2		オムニバス	
	現場訪問とデータから読み解く新潟の今ー新潟地域産業の可能性を探索ーⅠ	1. 2. 3. 4①～②			2					○				2		※実験・実習、オムニバス	
	生涯学習社会とメディア	1. 2. 3. 4③			2			○						1			
	私のローカルキャリア論ー地域とかわる多様な働きかた・暮らしかたー	1. 2. 3. 4③			2			○						1		※演習、メディア	
	ボランティア開発論Ⅱ	1. 2. 3. 4③～④			2			○						2		オムニバス	
	コミュニティ開発論Ⅱ	1. 2. 3. 4③～④			2			○						2		オムニバス	
	現場訪問とデータから読み解く新潟の今ー新潟地域産業の可能性を探索ーⅡ	1. 2. 3. 4③～④			2				○					2		※実験・実習、オムニバス	
	地域共創演習Ⅲb	1. 2. 3. 4③～④			1				○					5		※講義、実験・実習、オムニバス	
	地方小都市の未来創造-市民と学生による地域づくりの実践	1. 2. 3. 4①～④			4				○					2		※実験・実習、オムニバス	
	地域共創演習Ⅰ	1. 2. 3. 4①～④			1				○					4		※講義、実験・実習、オムニバス	
	地域共創演習Ⅱa	1. 2. 3. 4①～④			1				○					5		※講義、実験・実習、オムニバス	
	地域共創演習Ⅱb	1. 2. 3. 4①～④			1				○					5		※講義、実験・実習 メディア、オムニバス	
	地域共創演習Ⅰb	1. 2. 3. 4①～④			1				○					2		※実験・実習、オムニバス	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 (助手を除く) の教員	
教養教育に関する科目	新潟大学個性化科目	地域共創演習Ⅲa	1. 2. 3. 4①～②		1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
		コミュニティインターンシップ実践	1. 2. 3. 4①～④		4			○							1	※実験・実習
		日本手話A	1. 2. 3. 4①		2		○								4	オムニバス
		アクティブラーニングA	1. 2. 3. 4①②③④		1		○								1	
		アクティブラーニングC	1. 2. 3. 4①②③④		1		○								1	
		日本と外国人	1. 2. 3. 4①②③④		1		○								1	メディア
		ユウザのための数学I	1. 2. 3. 4①		2			○							1	
		教員志望者のための日本語教育入門 A	1. 2. 3. 4①		1		○								1	
		分野横断デザイン	1. 2. 3. 4①②③④		1		○								5	※演習、オムニバス
		分野横断リフレクション	1. 2. 3. 4①②③④		1		○								5	※演習、オムニバス
		多文化間共修A1	1. 2. 3. 4①③		1		○								1	
		多文化間共修B1	1. 2. 3. 4①③		1		○								1	
		多文化間共修C1	1. 2. 3. 4①③		1		○								1	メディア
		多文化間共修D1	1. 2. 3. 4①③		1		○								1	
		リーダーシップ演習Ⅱ1	1. 2. 3. 4①		1			○							3	オムニバス
		リーダーシップ演習Ⅲ1	1. 2. 3. 4①		1			○							3	オムニバス
		アクティブラーニングB	1. 2. 3. 4②④		1		○								1	
		日本手話B	1. 2. 3. 4②		2		○								4	オムニバス
		1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムⅠ	1. 2. 3. 4②		2			○							2	オムニバス
		税のしくみから社会を考える	1. 2. 3. 4②		2		○								7	オムニバス
		教員志望者のための日本語教育入門 B	1. 2. 3. 4②		1		○								1	
		地域災害環境システム学入門	1. 2. 3. 4②		1		○			1					5	オムニバス
		中国留学準備講座 サマーセミナー中国入門	1. 2. 3. 4②		1		○								2	オムニバス
		多文化間共修A2	1. 2. 3. 4②④		1		○								1	
		多文化間共修B2	1. 2. 3. 4②④		1		○								1	
		多文化間共修C2	1. 2. 3. 4②④		1		○								1	メディア
		多文化間共修D2	1. 2. 3. 4②④		1		○								1	
		リーダーシップ演習Ⅱ2	1. 2. 3. 4②		1			○							3	オムニバス
		リーダーシップ演習Ⅲ2	1. 2. 3. 4②		1			○							3	オムニバス
		新聞を体験するー新潟日報との連携授業ー	1. 2. 3. 4①～②		2		○								2	オムニバス
		平和を考えるA	1. 2. 3. 4①～②		2		○								5	オムニバス
		パフォーマンスの外国語	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
		国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションA	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
		国際共修：留学生との協働学習を通じた異文化理解A	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
		International Relations in the Asia-Pacific	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	※演習
		Regionalism in the Asia-Pacific Region	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	※演習
		Chinese Politics and Diplomacy	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
		生命保険を考える	1. 2. 3. 4①～②		2		○								8	オムニバス
		ストレスマネジメント	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	※演習
		パーソナルファイナンス論	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
		学生がデザインする働き方の未来ー人生100年時代のワークスタイルを創造するー	1. 2. 3. 4②～③		2		○								1	※演習
		学問の扉 知と方法の最前線	1. 2. 3. 4③～④		1		○						1		12	メディア、オムニバス
		平和と現代のグローバル安全保障論	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
		中東イスラーム言語文化入門	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
		大学生のための役に立つ育児学	1. 2. 3. 4①～②		1		○								7	オムニバス
		朱鷺・自然再生フィールドワーク	1. 2. 3. 4①～②		1				○	1					3	オムニバス
		1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムⅡ	1. 2. 3. 4①～②		4				○						2	オムニバス
		表現プロジェクト演習Q	1. 2. 3. 4①～②		2			○							2	オムニバス
		異文化と技術	1. 2. 3. 4①～②③～④		1		○								7	オムニバス
		研究者の仕事と生活	1. 2. 3. 4①～②		1		○				1				5	メディア、オムニバス
		地理情報システム（GIS）概論・演習	1. 2. 3. 4①～②		2			○							3	オムニバス
		森・里・海フィールド実習	1. 2. 3. 4①～②		1				○	2	1		1		4	オムニバス
		開発・環境と平和	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員	
教養教育に関する科目	新潟大学個性化科目															
	西シドニー大学国際交流プログラムA	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	韓国サマースクール I	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	西シドニー大学国際交流プログラムB	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-W	1.2.3.4①～②			4		○								1	
	カナダ・サマーセミナー	1.2.3.4①～②			4			○							1	
	オタゴ大学英語研修	1.2.3.4①～②			4			○							1	
	新潟の企業の魅力を探る	1.2.3.4①～②③～④			1				○						1	
	1・2年生対象 長期・企業実践型プログラム I (集中・短縮版)	1.2.3.4①～②			1			○							2	オムニバス
	1・2年生対象 長期・企業実践型プログラム II (短縮版)	1.2.3.4①～②			2				○						2	オムニバス
	オンライン国際共修型プロジェクトワーク	1.2.3.4①～②			1		○								6	※演習、メディア、オムニバス
	韓国サマーセミナー I	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	平和学概論	1.2.3.4③			2		○								1	
	表現プロジェクト演習T	1.2.3.4③			2			○							1	
	地域災害環境システム学演習	1.2.3.4③			1			○		1					5	オムニバス
	トキをシンボルとした自然再生	1.2.3.4③			2		○			1					8	オムニバス
	キャリア形成と法制度	1.2.3.4③			2		○								1	
	表現プロジェクト演習G	1.2.3.4③			2			○							1	
	ユーザのための数学II	1.2.3.4③			2			○							1	
	教員志望者のための日本語教育入門 C	1.2.3.4③			1		○								1	
	国際共修：留学生と考える日中言語文化A	1.2.3.4③			1		○								1	
	西洋カリグラフィーA	1.2.3.4③			1		○								1	メディア
	リーダーシップ演習Ⅱ3	1.2.3.4③			1			○							3	オムニバス
	教員志望者のための日本語教育入門 D	1.2.3.4④			1		○								1	
	大学生生活戦略論ーキャンパス内外を「越境」する学び・経験ー	1.2.3.4④			2		○								1	
	シンガポール・スプリングセミナー留学プログラムの準備講座：グローバル対応力育成・強化	1.2.3.4④			1		○								2	※演習、オムニバス
	オックスフォード大学英語研修 (OSS 留学プログラム) の準備講座：グローバル対応力育成・強化	1.2.3.4④			1			○							3	オムニバス
	西洋カリグラフィーB	1.2.3.4④			1		○								1	メディア
	佐渡学概論：佐渡島の自然と人々の営み	1.2.3.4④			2		○			2					2	オムニバス
	リーダーシップ演習 I	1.2.3.4④			1			○							3	オムニバス
	リーダーシップ演習Ⅱ4	1.2.3.4④			1			○							3	オムニバス
	ピアサポート入門	1.2.3.4③～④			2		○								2	※演習、オムニバス
	表現プロジェクト演習H	1.2.3.4③～④			2			○							2	オムニバス
	平和を考えるB	1.2.3.4③～④			2		○				2			1	6	オムニバス
	国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションB	1.2.3.4③～④			2		○								1	
	国際共修：留学生との協働学習を通じた異文化理解B	1.2.3.4③～④			2		○								1	
	The China-Japan-US Trilateral Relations	1.2.3.4③～④			2		○								1	※演習
	グローバル課題を理解する対応力の基礎講座	1.2.3.4③～④			2		○								1	※演習
	現代社会と差別	1.2.3.4③～④			2		○								1	※演習
	地理情報システム (GIS) 概論・応用演習	1.2.3.4③～④			2			○		1					1	オムニバス
	オックスフォード大学英語研修	1.2.3.4③～④			2			○							1	
	台湾スプリングセミナー I	1.2.3.4③～④			2		○			3	3					オムニバス
	台湾スプリングセミナー II	1.2.3.4③～④			2		○			3	3					オムニバス
	シンガポール・スプリングセミナー	1.2.3.4③～④			2			○							1	
	多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-S	1.2.3.4③～④			4		○								1	
	フィリピンALLC英語研修	1.2.3.4③～④			4			○							1	
	佐渡自然共生国際実習	1.2.3.4①～④			2				○	1	1		1		3	オムニバス
	地域共創特別演習(岩室)	1.2.3.4①～④			2			○							1	
	地域共創特別演習 IA (刈羽&東京)	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
	地域共創特別演習 IB (刈羽&東京)	1.2.3.4③～④			2			○							3	オムニバス
	小計 (140科目)	—	—	0	250	0	—	—	—	7	6	0	2	1	187	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員	
教養教育に関する科目	英語による日本語文法解説a	1. 2. 3. 4①			1		○								1	メディア、オムニバス
	中国語による日本語文法解説a	1. 2. 3. 4①			1		○								1	
	日本語Ⅰ	1. 2. 3. 4①③			2			○							2	
	日本語Ⅲ	1. 2. 3. 4①③			2			○							1	
	英語による日本語文法解説b	1. 2. 3. 4②			1		○								1	メディア
	中国語による日本語文法解説b	1. 2. 3. 4②			1		○								1	
	日本語Ⅱ	1. 2. 3. 4②④			2			○							1	
	日本語Ⅳ	1. 2. 3. 4②④			2			○							1	
	JLPT-N1 A	1. 2. 3. 4①～②			1			○							1	メディア
	JLPT-N2 A	1. 2. 3. 4①～②			1			○							1	
	日本語作文Ⅰ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語作文Ⅱ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語作文Ⅲ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語作文Ⅳ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅰ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅱ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅲ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅳ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅴ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅵ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語入門	1. 2. 3. 4①～②③～④			3			○							2	
	日本語Ⅴ	1. 2. 3. 4①～②③～④			4			○							1	
	日本語Ⅵ	1. 2. 3. 4①～②			5			○							1	
	英語による日本語文法解説c	1. 2. 3. 4③			1		○								1	
	中国語による日本語文法解説c	1. 2. 3. 4③			1		○								1	
	英語による日本語文法解説d	1. 2. 3. 4④			1		○								1	
	中国語による日本語文法解説d	1. 2. 3. 4④			1		○								1	
	JLPT-N1 C	1. 2. 3. 4③～④			1			○							1	オムニバス
	集中日本語O F	1. 2. 3. 4③～④			5			○							3	
	集中日本語O G	1. 2. 3. 4③～④			5			○							3	
	集中日本語O H	1. 2. 3. 4③～④			5			○							3	
	日本語Ⅶ	1. 2. 3. 4③～④			5			○							1	メディア
	日本文化入門Ⅰ	1. 2. 3. 4①②③④			1			○							1	
	日本文化入門Ⅱ	1. 2. 3. 4①②③④			1			○							1	
	日本事情自然系A	1. 2. 3. 4①～②			2		○			3	3	1	2			
	課題研究Ⅱ	1. 2. 3. 4①～②			2			○							4	オムニバス
	ビジネス日本語	1. 2. 3. 4①～②③～④			2		○								1	
	日本で働く	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	日本事情社会系A	1. 2. 3. 4③～④			2		○								3	
	日本事情自然系B	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	メディア、オムニバス
	課題研究Ⅰ	1. 2. 3. 4③～④			2			○							4	
	小計（41科目）	—	—	0	77	0	—	—	—	3	3	1	2	0	19	
大学 学習 法	人文初年次演習	1. 2. 3. 4①～②			2			○							11	オムニバス
	スタディ・スキルズA	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	
	スタディ・スキルズB	1. 2. 3. 4①			2			○							8	
	スタディ・スキルズC	1. 2. 3. 4①～②			2			○							3	
	スタディ・スキルズE	1. 2. 3. 4①～②			2			○							5	オムニバス
	スタディ・スキルズF	1. 2. 3. 4①～②			2			○							5	
	スタディ・スキルズG	1. 2. 3. 4①～②			2			○							6	
	スタディ・スキルズH	1. 2. 3. 4①～②			2			○							4	
	スタディ・スキルズI	1. 2. 3. 4①			2			○							3	オムニバス
	スタディ・スキルズK	1. 2. 3. 4①～②			2			○							5	
	スタディ・スキルズL	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	
	スタディ・スキルズM	1. 2. 3. 4①			2			○							6	
	スタディ・スキルズN	1. 2. 3. 4①～②			2			○							6	オムニバス
	スタディ・スキルズP	1. 2. 3. 4①～②			2			○							7	
	スタディ・スキルズ	1. 2. 3. 4①			2			○							13	
	スタディスキルズⅠ	1. 2. 3. 4①			1			○							10	
	スタディスキルズⅡ	1. 2. 3. 4③			1			○							18	オムニバス
	スタディスキルズⅢ	1. 2. 3. 4④			1			○							2	
	スタディスキルズ（看護）	1. 2. 3. 4①			2			○							5	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外を除く教員	
教養教育に関する科目	スタディスキルズ（放射）	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	スタディスキルズ（検査）	1.2.3.4①～②			2			○							14	オムニバス
	歯学スタディ・スキルズ	1.2.3.4①～②			2			○							8	オムニバス
	歯学スタディ・スキルズⅡ	1.2.3.4①～②			2			○							6	オムニバス
	工学リテラシー入門（力学分野）	1.2.3.4①			2			○							20	オムニバス
	工学リテラシー入門（情報電子分野）	1.2.3.4①			2		○								20	※演習、オムニバス
	工学リテラシー入門（化学材料分野）	1.2.3.4①			2			○							20	オムニバス
	工学リテラシー入門（建築分野）	1.2.3.4①			2			○							12	オムニバス
	工学リテラシー入門（融合領域分野）	1.2.3.4①			2			○							8	オムニバス
	スタディ・スキルズAⅠa	1.2.3.4①			1			○							8	
	スタディ・スキルズAⅡa	1.2.3.4③			1			○							8	
	スタディ・スキルズAⅠb	1.2.3.4①			1			○							8	
	スタディ・スキルズAⅡb	1.2.3.4③			1			○							8	
	スタディ・スキルズAⅠc	1.2.3.4①			1			○							8	
	スタディ・スキルズAⅡc	1.2.3.4③			1			○							8	
	小計（34科目）	—	—	0	59	0	—			0	0	0	0	0	223	
自然科学系共通専門基礎	解析学基礎1	1.2.3.4①			1		○						1			
	解析学基礎2	1.2.3.4②			1		○						1			
	数学基礎A1	1.2.3.4①③			1		○			1			1		1	オムニバス
	数学基礎A2	1.2.3.4②④			1		○			1			1		1	オムニバス
	数学基礎B1	1.2.3.4①③			1		○			3			1			オムニバス
	数学基礎B2	1.2.3.4②④			1		○			3			1			オムニバス
	統計学基礎1	1.2.3.4①③			1		○				1				2	オムニバス
	統計学基礎2	1.2.3.4②④			1		○				1				2	オムニバス
	物理学基礎AⅠ	1.2.3.4①①～②			2		○			2						オムニバス
	物理学基礎BⅠ	1.2.3.4①②①～②			2		○			2	1				3	オムニバス
	物理学基礎CⅠ	1.2.3.4①～②			2		○				1					
	物理学概論	1.2.3.4①～②③～④			2		○				1				1	オムニバス
	化学基礎A	1.2.3.4①②③			2		○			4	1					オムニバス
	化学基礎B	1.2.3.4①②④			2		○			3						オムニバス
	生物学基礎A	1.2.3.4①②①～②③			2		○			2	3					オムニバス
	生物学基礎B	1.2.3.4①②③③～④			2		○			1	4					オムニバス
	地学基礎A	1.2.3.4①③			2		○				1	1				オムニバス
	地学基礎B	1.2.3.4①			2		○				2					オムニバス
	物理学基礎AⅡ	1.2.3.4③～④			2		○				1					
	物理学基礎BⅡ	1.2.3.4④			2		○			2	1				1	オムニバス
	物理学基礎CⅡ	1.2.3.4③～④			2		○				1					
	地学基礎C	1.2.3.4④			2		○			1						
	小計（22科目）	—	—	0	36	0	—			20	19	1	2	0	6	
自然科学	リメディアル数学I	1.2.3.4①			1		○								4	オムニバス
	基礎数理AⅠ	1.2.3.4②④			2		○								5	オムニバス
	物理学への招待A	1.2.3.4②			2		○				1					
	生物学実験	1.2.3.4②			1				○	4	3					オムニバス
	基礎雪氷学	1.2.3.4②			2		○			3					2	オムニバス
	リメディアル数学IⅡ	1.2.3.4②			1		○								4	オムニバス
	生物学－植物A－	1.2.3.4②			2		○			1	1					オムニバス
	物理学基礎実験	1.2.3.4①～②			2				○						3	オムニバス
	地学実験A	1.2.3.4①～②			2				○		1					
	自然科学基礎実験	1.2.3.4①～②			2				○	10	4		6			オムニバス
	量子研究の最前線	1.2.3.4①～②			2		○			4	5			3	2	オムニバス
	数学の世界	1.2.3.4③			2		○			1	3					オムニバス
	基礎数理B	1.2.3.4③			2		○								5	オムニバス
	化学とSDGs	1.2.3.4③			2		○			2	1					オムニバス
	社会を支える有機化学	1.2.3.4③			2		○			1						
	生物学－動物A－	1.2.3.4③			2		○			1						
	地学E（地球理解の諸相）	1.2.3.4③			1		○				1					メディア
	地質学の基礎	1.2.3.4③			2		○			1						
	地学実験B	1.2.3.4③			1				○	1						
	基礎数理AⅡ	1.2.3.4④			2		○								5	オムニバス
	生物学－生物多様性A－	1.2.3.4④			2		○						2			オムニバス
	地学概論A	1.2.3.4①④			2		○			1	1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員		
教養教育に関する科目	自然科学	地球と気象	1. 2. 3. 4④		2		○			1						2	オムニバス
	地学C（マグマと火山）	1. 2. 3. 4④		1		○											
	物理学への招待B	1. 2. 3. 4③～④		2		○			1								
	生活の化学	1. 2. 3. 4③～④		2		○			1								
	地学概論	1. 2. 3. 4③～④		2		○			1								
	最先端技術を支える化学 I	1. 2. 3. 4①		2		○									9	メディア、オムニバス	
	都市インフラを考える	1. 2. 3. 4①		2				○							1		
	原子力・放射線物理学入門	1. 2. 3. 4①		1			○			1							
	原子力・放射線防護学入門	1. 2. 3. 4①		1			○			1					1	オムニバス	
	生活を支える化学技術－化学工学への招待－	1. 2. 3. 4②		2			○								2	オムニバス	
	原子力入門	1. 2. 3. 4②		1			○								1		
	原子力・放射線関連法規入門	1. 2. 3. 4②		1			○			1					1	オムニバス	
	くらしを支える機械システム工学	1. 2. 3. 4③		2			○								13	オムニバス	
	材料科学概論	1. 2. 3. 4③		2			○								15	オムニバス	
	放射性廃棄物処理法	1. 2. 3. 4①		1			○								1		
	安全工学基礎	1. 2. 3. 4④					○			1							オムニバス
	化学実験	1. 2. 3. 4③～④		2					○						6	オムニバス	
	特許・経営および製品開発入門	1. 2. 3. 4①		2			○								8	オムニバス	
	放射線入門と実習	1. 2. 3. 4①～④		1					○						2	オムニバス	
	原子力の未来と災害を考える	1. 2. 3. 4①～④		1			○			1					2	オムニバス	
	特許と技術経営I	1. 2. 3. 4①～②		1			○								2	オムニバス	
	特許と技術経営Ⅱ	1. 2. 3. 4③～④		1			○								3	オムニバス	
	農業資源を知る	1. 2. 3. 4①		2			○								18	オムニバス	
	生命を知る	1. 2. 3. 4①		2			○								13	メディア、オムニバス	
	生態系を知る	1. 2. 3. 4②		2			○								9	オムニバス	
農業DXを知る	1. 2. 3. 4①～②		1			○								1			
医学物理学入門	1. 2. 3. 4③		1			○				1		1		6	オムニバス		
	小計（49科目）	－	－	0	81	0		－		23	23	0	6	0	102		
人文社会・教育科学	歴史学Ⅰ	1. 2. 3. 4①		2			○								1		
	メディアの記号論	1. 2. 3. 4①③		2			○								1		
	実験心理学と応用	1. 2. 3. 4①		2			○								1		
	英語基礎 L	1. 2. 3. 4①①～②		1					○						17	オムニバス	
	技術日本語演習	1. 2. 3. 4②		2					○						1		
	人文系フロンティア	1. 2. 3. 4②		4			○								20	オムニバス	
	現代日本と伝統文化	1. 2. 3. 4②③④		2			○								1		
	歴史学Q	1. 2. 3. 4②		2			○								1		
	英語基礎 R	1. 2. 3. 4②①～②		1					○						14	オムニバス	
	心理学	1. 2. 3. 4①～②		2			○								1		
	日本語教育Ⅰ－A	1. 2. 3. 4①～②		2			○								1		
	少数民族の言語と文化	1. 2. 3. 4①～②		2			○								1		
	教養の心理学	1. 2. 3. 4①～②		2			○								1		
	音と音楽をめぐる科学と教養	1. 2. 3. 4①～②		2			○								1		
	心と社会	1. 2. 3. 4①～②		2			○								1	メディア	
	哲学	1. 2. 3. 4①～②		2					○						1		
	生涯学習概論	1. 2. 3. 4①～②		2			○								1		
	歴史学H	1. 2. 3. 4③		2			○								1		
	文学E	1. 2. 3. 4③		2			○								1		
	心理学概論	1. 2. 3. 4③		2			○								1		
	心と脳の科学リテラシー	1. 2. 3. 4③		2			○								1		
	現代社会論	1. 2. 3. 4③		2			○								1		
	人間関係論	1. 2. 3. 4③		2			○								1		
	現代社会と科学技術	1. 2. 3. 4③		2			○								1		
	文化人類学の方法－他者へのまなざし	1. 2. 3. 4③		2			○								1		
	アクターネットワークの社会学	1. 2. 3. 4③～④		2			○								1		
	歴史学O	1. 2. 3. 4③		2			○								1		
	中国語オプショナルA	1. 2. 3. 4③		2					○						1		
	意思決定のコミュニケーション論	1. 2. 3. 4④		2			○								1		
つながりと絆の社会学	1. 2. 3. 4④		2			○								1			
朝鮮語オプショナルB	1. 2. 3. 4③～④		2					○						1			
音楽R	1. 2. 3. 4③～④		2			○								1			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員	
教養教育に関する科目	対人行動の心理学	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	セクシュアリティ・スタディーズ	1. 2. 3. 4③～④			2		○								8	オムニバス
	人文系展開科目D	1. 2. 3. 4③～④			2		○							1	13	オムニバス
	日本古典文学N	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	日本古典文学O	1. 2. 3. 4①			2		○								1	
	文学D	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	西洋哲学演習	1. 2. 3. 4③～④			2			○							1	
	演劇入門	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	現代思想論	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	人文系展開科目 I	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	日本語教育 I－B	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	教養教育としての教育学入門	1. 2. 3. 4③			2			○							1	
	精神疾患とその治療	1. 2. 3. 4②			2		○								1	メディア
	公認心理師の職責	1. 2. 3. 4②			1		○								3	オムニバス
	ビジネス書道入門	1. 2. 3. 4①～②③～④			2		○								1	
	音楽(ピアノ)	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	
	水彩画表現入門	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	メディア
	美術史	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	メディア
	人体の構造と機能及び疾病	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	オムニバス
	福祉心理学	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	オムニバス
	教養を考える	1. 2. 3. 4①～②			2		○	※							2	※演習、オムニバス
	司法・犯罪心理学	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	臨床心理学概論	1. 2. 3. 4④			2		○								1	メディア
	音楽E	1. 2. 3. 4③～④			2			○							1	
	日本文化論	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	音楽(作曲)	1. 2. 3. 4③～④			2			○							1	
	心理演習	1. 2. 3. 4③～④			2			○							4	オムニバス
	心理的アセスメント	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	関係行政論	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	健康生活環境論	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	メディア
	心理実習	1. 2. 3. 4①～④			2				○						3	オムニバス
	人文社会科学入門(法学)	1. 2. 3. 4①			2		○								3	オムニバス
	リーガル・システムA	1. 2. 3. 4①			2		○								3	オムニバス
	日本国憲法	1. 2. 3. 4②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿			2		○								5	オムニバス
	リーガル・システム	1. 2. 3. 4②			2		○								3	オムニバス
	リーガル・システムB	1. 2. 3. 4②			2		○								3	オムニバス
	死因究明と法	1. 2. 3. 4③			2		○								5	オムニバス
	組織マネジメント論	1. 2. 3. 4①			2		○								1	
	マーケティングプロモーション入門	1. 2. 3. 4②			1		○								1	
	小計(71科目)	—	—	0	140	0	—	—	—	0	0	0	0	1	110	
医歯学	はじめての医学	1. 2. 3. 4②			1		○								2	オムニバス
	先端医科学研究概説	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	医学序説 I	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	医学論文を読む(ジャーナルクラブ)	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	
	原子力と倫理	1. 2. 3. 4④			1		○								4	オムニバス
	医学序説 II	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	医学論文を読む(ジャーナルクラブ)	1. 2. 3. 4③～④			2			○							1	
	健康と医学	1. 2. 3. 4③～④			2		○								5	オムニバス
	災害医療概論	1. 2. 3. 4①～④			1		○								1	
	原子力災害医療体制	1. 2. 3. 4①～④			1		○								1	※実験・実習
	災害医療ロジスティクス	1. 2. 3. 4①～④			1		○								1	
	「食べる」	1. 2. 3. 4①			2		○								14	オムニバス
	PBL入門	1. 2. 3. 4②			1		○								4	※演習、オムニバス
	健康福祉学入門	1. 2. 3. 4②			2		○								13	メディア、オムニバス
	新潟発福祉学	1. 2. 3. 4③			2		○								10	オムニバス
	顔	1. 2. 3. 4③～④			2		○								12	オムニバス
	小計(16科目)	—	—	0	26	0	—	—	—	0	0	0	0	0	58	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（理学部理学科／数学プログラム）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基幹（助 手を除く） 教員以外 の教員	
教養教育に関する授業科目	「理学部理学科／教養教育に関する授業科目」のとお															
専門 教育 に 関 する 授 業 科 目	理学スタディ・スキルズ	1, 2, 3, 4, ①	○	2						20	13		5			
	小計（1科目）	—	—	2	0	0	—	—	—	20	13	0	5	0	0	—
	自然系共通専門基礎科目	解析学基礎1	1, 2, 3, 4①	○	1		○				1					
		解析学基礎2	1, 2, 3, 4②	○	1		○				1					
		数学基礎A1	1, 2, 3, 4①③	○	1		○			1			1		1	
		数学基礎A2	1, 2, 3, 4②④	○	1		○			1			1		1	
		数学基礎B1	1, 2, 3, 4①③	○	1		○			3			1			
		数学基礎B2	1, 2, 3, 4②④	○	1		○			3			1			
		統計学基礎1	1, 2, 3, 4①③	○	1		○				1				2	
		統計学基礎2	1, 2, 3, 4②④	○	1		○				1				2	
		物理学基礎AI	1, 2, 3, 4①②	○	2		○			2						
		物理学基礎AII	1, 2, 3, 4③④	○	2		○				1					
		物理学基礎BI	1, 2, 3, 4①②	○	2		○			2	1					
		物理学基礎BII	1, 2, 3, 4③④	○	2		○			2	1					
		物理学概論	1, 2, 3, 4①②③④	○	2		○				1				1	
		物理学基礎CI	1, 2, 3, 4①②	○	2		○				1					
		物理学基礎CII	1, 2, 3, 4③④	○	1		○				1					
		化学基礎A	1, 2, 3, 4①②③	○	2		○			3	2					
		化学基礎B	1, 2, 3, 4①②④	○	2		○			3						
		生物学基礎A	1, 2, 3, 4①②③	○	2		○			2	3					
		生物学基礎B	1, 2, 3, 4①②③④	○	2		○			1	4					
		地学基礎A	1, 2, 3, 4①③	○	2		○				1	1			1	
		地学基礎B	1, 2, 3, 4①	○	2		○			1	1					
		地学基礎C	1, 2, 3, 4④	○	2		○			1						
	小計（22科目）	—	—	0	35	0	—	—	—	20	19	1	1	0	5	—
	理学基礎演習	理学基礎演習	1, 2, 3, 4②	○	2			○		17	19		2			講義、実習
	共通 実習 科目	数学基礎演習a	1, 2, 3, 4①	○	1			○		1	2		1			
		数学基礎演習b	1, 2, 3, 4②	○	1			○			3		1			
		物理学基礎実習a	1, 2, 3, 4①③	○	1				○		1		3		1	
		物理学基礎実習b	1, 2, 3, 4④	○	1				○				3		1	
		化学基礎実習a	1, 2, 3, 4②③	○	1			○		1	4					オムニバス
		化学基礎実習b	1, 2, 3, 4④	○	1			○		1	4					オムニバス
		生物学基礎実習a	1, 2, 3, 4①③	○	1			○		2	6		1			オムニバス
		生物学基礎実習b	1④	○	1			○		3	4					オムニバス
		地学基礎実習a	1, 2, 3, 4①②	○	1			○		3	1					
		地学基礎実習b	1, 2, 3, 4②③	○	1			○		2		1				
		基礎英語コミュニケーション	1, 2, 3, 4①②	○	1			○		2						
		実践英語コミュニケーション	1, 2, 3, 4③④	○	1			○		2						
		海外研修	1, 2, 3, 4①②③④	○	2				○	1						標準外
		海外英語研修	1・2・3②	○	4				○	1						標準外
		安全教育	1, 2, 3, 4②	○	1		○			1	6					標準外、オムニバス
		科学・技術と社会	1, 2, 3, 4①②	○	2		○			4	2					
		科学史	1, 2, 3, 4①～④	○	2		○			1					1	標準外
		新素材の物性	2, 3, 4①②	○	2		○			1					1	
		情報産業論	1, 2, 3, 4③④	○	2		○			1					1	
		情報社会論	1, 2, 3, 4②	○	2		○			1						
		SDGsを支える科学	1, 2, 3, 4①～④	○	1		○			3	3					標準外
		インターンシップ特別演習a	2, 3, 4①～④	○	2			○		1						標準外
		インターンシップ特別演習b	2, 3, 4①～④	○	2			○		1						標準外
		地球環境の多様性と歴史	1, 2, 3, 4①～④	○	1		○			1	1					標準外
		国際フィールド科学演習	1, 2, 3, 4①～④	○	2			○		1	1					標準外
		フィールド企業インターンシップ	1, 2, 3, 4①～④	○	1			○		1	1					標準外
		海外フィールド実習A	1, 2, 3, 4①～④	○	2			○		1	1					標準外
		海外フィールド実習B	1, 2, 3, 4①～④	○	4			○		1	1					標準外
	小計（29科目）	—	—	2	44	0	—	—	—	25	27	1	8	0	5	—

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員 （助手を除く） 以外の教員	
専 門 教 育 に 関 す る 授 業 科 目	理 学 部 開 設 科 目	理 学 部 開 設 科 目	微分積分学IA	1, 2, 3, 4③	○	1			○			1						
			線形代数IA	1, 2, 3, 4③	○	1			○			1						
			数学演習A	1, 2, 3, 4③	○	1				○		1	2		1			
			集合と写像	1, 2, 3, 4③	○		1		○				1					
			微分積分学IB	1, 2, 3, 4④	○							1						
			線形代数IB	1, 2, 3, 4④	○	1			○			1						
			数学演習B	1, 2, 3, 4④	○	1				○		1	2		1			
			オペレーションズ・リサーチ	1, 2, 3, 4④	○		2			○		1						
			微分積分学IIA	2, 3, 4①	○	2			○			1						
			線形代数IIA	2, 3, 4①	○	2			○			1						
			計算機演習A	2, 3, 4①	○		1				○			1				
			微分積分学IIB	2, 3, 4②	○	2				○		1						
			線形代数IIB	2, 3, 4②	○	2				○		1						
			計算機演習B	2, 3, 4②	○		1				○			1				
			解析力学	2, 3, 4①②	○		2				○			1				
			基礎物理数学	1, 2, 3, 4③	○		2				○			1				
			基礎ベクトル解析	1, 2, 3, 4④	○		2				○			1				
			分析化学I	1, 2, 3, 4④	○		2				○		2					
			無機化学I	1, 2, 3, 4③	○		2				○		1	2				
			有機化学I	1, 2, 3, 4④	○		2				○		1	1				
			化学熱力学	1, 2, 3, 4③	○		2				○		1					
			生体分子化学I	2, 3, 4①②	○		2				○		1					
			基礎細胞遺伝学	1, 2, 3, 4③	○		2				○			1				
			基礎細胞生物学	1, 2, 3, 4④	○		2				○		1	1				
			基礎植物学	2, 3, 4①	○		2				○		1					
			基礎生物化学	2, 3, 4①	○		2				○		1					
			地質学入門a	1, 2, 3, 4②	○		1				○		2	2	1		1	
			地質学入門b	1, 2, 3, 4②	○		1				○		3	3				
			フィールド体験実習	1, 2, 3, 4	○		1					○		3	1			標準外
			構造地質学入門	2, 3, 4①	○		1				○				1			
			地層・古生物学入門	2, 3, 4①	○		2				○		1	2				
			鉱物・岩石学入門	2, 3, 4②	○		2				○		3	2				
			環境地質学入門	2, 3, 4②	○		1				○		1	1			1	オムニバス
			地学英語	2, 3, 4③④	○		1				○		1					
			物質反応化学	2, 3, 4①	○		2				○			1				
			環境気象学	2, 3, 4①	○		2				○		1					
			基礎量子力学	2, 3, 4②	○		2				○		1					
			機能形態学	2, 3, 4①②	○		2				○			1				
			多様性生物学B	2, 3, 4②	○		2				○		1					
	農学部 開設科目	農学部 開設科目	農学部 開設科目	環境砂防学	2, 3, 4①	○		2		○							1	
				野生植物生態学	2, 3, 4①	○		2		○							2	
				フィールド安全論	2, 3, 4①	○		2		○		2					2	
小計（42科目）			—	—	13	55	0	—			21	19	1	1	0	5	—	
数 学 プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	理 学 部 開 設 科 目	理 学 部 開 設 科 目	解析学序論A	2, 3, 4③	○	1			○				1					
			代数・幾何学序論A	2, 3, 4③	○	1			○			1						
			集合と位相入門A	2, 3, 4③	○	1			○			1						
			微分方程式論A	2, 3, 4③	○		1		○				1					
			代数入門A	2, 3, 4③	○		2		○			1						
			プログラミング概論A	2, 3, 4③	○		1		○			1						
			解析学序論B	2, 3, 4④	○	1			○				1					
			代数・幾何学序論B	2, 3, 4④	○	1			○			1						
			集合と位相入門B	2, 3, 4④	○	1			○			1						
			微分方程式論B	2, 3, 4④	○		1		○				1					
			代数入門B	2, 3, 4④	○		2		○			1						
			プログラミング概論B	2, 3, 4④	○		1		○			1						
			実解析学A	3, 4①	○		2		○			1						
			位相空間論A	3, 4①	○		1		○				1					
			複素解析学IA	3, 4①	○		1		○			1						
			代数系IA	3, 4①	○		1		○			1						
			幾何学IA	3, 4①	○		2		○				1					
			最適化数学A	3, 4①	○		1		○			1						
			数理統計学IA	3, 4①	○		1		○				1					
			数値解析A	3, 4①	○		1		○			1					1	

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
						必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員 （助手を除く） 以外の 教員			
専門 教育 に 関 する 授 業 科 目	数 学 部 開 設 科 目	理 学 部 専 門 科 目	プログラミング演習A	3,4①	○		1			○								1		
			実解析学B	3,4②	○		2		○			1								
			位相空間論B	3,4②	○		1		○				1							
			複素解析学IB	3,4②	○		1		○				1							
			代数系IB	3,4②	○		1		○				1							
			幾何学IB	3,4②	○		2		○					1						
			最適化数学B	3,4②	○		1		○				1							
			数理統計学IB	3,4②	○		1		○					1						
			数値解析B	3,4②	○		1		○				1						1	
			プログラミング演習B	3,4②	○		1				○								1	
			複素解析学IIA	3,4③	○		1		○				1							
			関数解析学A	3,4③	○		1		○				1							
			代数系IIA	3,4③	○		1		○				1							
			幾何学IIA	3,4③	○		1		○					1						
			離散数学A	3,4③	○		1		○				1							
			凸解析学A	3,4③	○		1		○				1							
			数理統計学IIA	3,4③	○		1		○					1						
			複素解析学IIB	3,4④	○		1		○				1							
			関数解析学B	3,4④	○		1		○				1							
			代数系IIB	3,4④	○		1		○				1							
			幾何学IIB	3,4④	○		1		○					1						
			離散数学B	3,4④	○		1		○				1							
			凸解析学B	3,4④	○		1		○				1							
			数理統計学IIB	3,4④	○		1		○					1						
			オペレーションズ・リサーチ実習	3,4④	○		1				○		1							
			数理解析特別講義	3,4①～④	○		2		○				1						1	標準外
			代数・幾何特別講義	3,4①～④	○		2		○				1						1	標準外
			応用数理特別講義	3,4①～④	○		2		○					1					1	標準外
			数学講究	3,4①～④	○		8				○		7	4						
小計（49科目）			—	—	14	51	0	—	—	7	4	0	0	0	5	—				
合計（141科目）			—	—	31	192	0	—	—	34	35	1	9	0	15	—				
学位又は称号			学士（理学）			学位又は学科の分野			理学関係											
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等										
（卒業要件） 教養教育に関する授業科目から21単位以上、専門教育に関する授業科目から84単位以上、合計124単位以上修得すること。 （専門力プログラム履修方法） 1. 教養教育に関する授業科目は英語から4単位以上、初修外国語から2単位以上、健康・スポーツの体育実技から1単位以上、人文社会・教育科学科目及び新潟大学個性化科目から8単位以上、前述のほかに英語、初修外国語を除く教養教育に関する授業科目から6単位以上修得する。 2. 専門教育に関する授業科目は大学学習法から2単位、自然系共通専門基礎科目から12単位以上、理学部共通ベーシック科目から8単位以上を修得する。数学主専攻共通コア科目及び数学主専攻専門科目から58単位以上、他主専攻共通コア科目から2単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：第1学期[第1, 2ターム]、第2学期[第3, 4ターム]それぞれで28単位） （総合力プログラム履修方法） 1. 教養教育に関する授業科目は英語から4単位以上、初修外国語から2単位以上、健康・スポーツの体育実技から1単位以上、人文社会・教育科学科目及び新潟大学個性化科目から8単位以上、前述のほかに英語、初修外国語を除く教養教育に関する授業科目から6単位以上修得する。 2. 専門教育に関する授業科目は大学学習法から2単位、自然系共通専門基礎科目から12単位以上、理学部共通ベーシック科目から8単位以上を修得する。数学主専攻共通コア科目及び数学主専攻専門科目から48単位以上、他主専攻共通コア科目及び他主専攻専門科目から12単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：第1学期[第1, 2ターム]、第2学期[第3, 4ターム]それぞれで28単位）										1 学年の学期区分			4 ターム							
										1 学期の授業期間			8 週							
										1 時限の授業の標準時間			90 分							

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(理学部理学科／物理学プログラム) 【基礎学部】																		
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （ 助 手 を 除 く） の 教 員			
教養教育に関する授業科目	「理学部理学科／教養教育に関する授業科目」のとお																	
専門教育に関する授業科目	大学学習法	理学スタディ・スキルズ 小計（1科目）	1, 2, 3, 4, ① —	○ —	2 —	0 0			—	20 20	13 13		5 0		0 0	—		
	自然系共通専門基礎科目	解析学基礎1	1, 2, 3, 4①	○		1		○				1						
		解析学基礎2	1, 2, 3, 4②	○		1		○				1						
		数学基礎A1	1, 2, 3, 4①③	○		1		○			1			1		1		
		数学基礎A2	1, 2, 3, 4②④	○		1		○			1			1		1		
		数学基礎B1	1, 2, 3, 4①③	○		1		○			3			1				
		数学基礎B2	1, 2, 3, 4②④	○		1		○			3			1				
		統計学基礎1	1, 2, 3, 4①③	○		1		○				1				2		
		統計学基礎2	1, 2, 3, 4②④	○		1		○				1				2		
		物理学基礎AI	1, 2, 3, 4①②	○		2		○			2							
		物理学基礎AII	1, 2, 3, 4③④	○		2		○				1						
		物理学基礎BI	1, 2, 3, 4①②	○		2		○			2	1						
		物理学基礎BII	1, 2, 3, 4③④	○		2		○			2	1						
		物理学概論	1, 2, 3, 4①②③④	○		2		○				1				1		
		物理学基礎CI	1, 2, 3, 4①②	○		2		○				1						
		物理学基礎CII	1, 2, 3, 4③④	○		1		○				1						
		化学基礎A	1, 2, 3, 4①②③	○		2		○			3	2						
		化学基礎B	1, 2, 3, 4①②④	○		2		○			3							
		生物学基礎A	1, 2, 3, 4①②③	○		2		○			2	3						
		生物学基礎B	1, 2, 3, 4①②③④	○		2		○			1	4						
		地学基礎A	1, 2, 3, 4①③	○		2		○				1	1			1		
		地学基礎B	1, 2, 3, 4①	○		2		○			1	1						
		地学基礎C	1, 2, 3, 4④	○		2		○			1							
	小計（22科目）	—	—	0	35	0			—	20	19	1	1	0	5	—		
	理学部共通ベーシック科目	理学基礎演習	理学基礎演習	1, 2, 3, 4②	○	2			○		17	19		2			講義、実習	
		共通実習科目	数学基礎演習a	1, 2, 3, 4①	○		1		○		1	2		1				
			数学基礎演習b	1, 2, 3, 4②	○		1		○			3		1				
			物理学基礎実習a	1, 2, 3, 4①③	○		1			○		1		3		1		
			物理学基礎実習b	1, 2, 3, 4④	○		1			○				3		1		
化学基礎実習a			1, 2, 3, 4②③	○		1		○		1	4						オムニバス	
化学基礎実習b			1, 2, 3, 4④	○		1		○		1	4						オムニバス	
生物学基礎実習a			1, 2, 3, 4①③	○		1		○		2	6		1				オムニバス	
生物学基礎実習b			1④	○		1		○		3	4						オムニバス	
地学基礎実習a			1, 2, 3, 4①②	○		1		○		3	1							
地学基礎実習b			1, 2, 3, 4②③	○		1		○			2	1						
基礎英語コミュニケーション		1, 2, 3, 4①②	○		1			○		2								
実践英語コミュニケーション		1, 2, 3, 4③④	○		1			○		2								
海外研修		1, 2, 3, 4①②③④	○		2				○	1						標準外		
海外英語研修		1・2・3②	○		4				○	1						標準外		
安全教育		1, 2, 3, 4②	○		1		○			1	6					標準外、オムニバス		
科学・技術と社会		1, 2, 3, 4①②	○		2		○			4	2							
科学史		1, 2, 3, 4①～④	○		2		○			1					1	標準外		
新素材の物性		2, 3, 4①②	○		2		○			1					1			
情報産業論		1, 2, 3, 4③④	○		2		○			1					1			
情報社会論		1, 2, 3, 4②	○		2		○			1								
SDGsを支える科学		1, 2, 3, 4①～④	○		1		○			3	3					標準外		
インターンシップ特別演習a		2, 3, 4①～④	○		2				○	1						標準外		
インターンシップ特別演習b		2, 3, 4①～④	○		2				○	1						標準外		
地球環境の多様性と歴史		1, 2, 3, 4①～④	○		1		○			1	1					標準外		
国際フィールド科学演習		1, 2, 3, 4①～④	○		2			○		1	1					標準外		
フィールド企業インターンシップ		1, 2, 3, 4①～④	○		1				○	1	1					標準外		
海外フィールド実習A		1, 2, 3, 4①～④	○		2				○	1	1					標準外		
海外フィールド実習B		1, 2, 3, 4①～④	○		4				○	1	1					標準外		
小計（29科目）	—	—	2	44	0			—	25	27	1	8			—			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員	
専門教育に関する授業科目	理学部開設科目	微分積分学IA	1, 2, 3, 4③	○	1		○			1						標準外 オムニバス
		線形代数IA	1, 2, 3, 4③	○	1		○			1						
		数学演習A	1, 2, 3, 4③	○	1			○		1	2		1			
		集合と写像	1, 2, 3, 4③	○	1		○				1					
		微分積分学IB	1, 2, 3, 4④	○						1						
		線形代数IB	1, 2, 3, 4④	○	1		○			1						
		数学演習B	1, 2, 3, 4④	○	1			○		1	2		1			
		オペレーションズ・リサーチ	1, 2, 3, 4④	○	2		○			1						
		微分積分学IIA	2, 3, 4①	○	2		○			1						
		線形代数IIA	2, 3, 4①	○	2		○			1						
		計算機演習A	2, 3, 4①	○	1			○			1					
		微分積分学IIB	2, 3, 4②	○	2		○			1						
		線形代数IIB	2, 3, 4②	○	2		○			1						
		計算機演習B	2, 3, 4②	○	1			○			1					
		解析力学	2, 3, 4①②	○	2		○				1					
		基礎物理数学	1, 2, 3, 4③	○	2		○				1					
		基礎ベクトル解析	1, 2, 3, 4④	○	2		○				1					
		分析化学I	1, 2, 3, 4④	○	2		○			2						
		無機化学I	1, 2, 3, 4③	○	2		○			1	2					
		有機化学I	1, 2, 3, 4④	○	2		○			1	1					
		化学熱力学	1, 2, 3, 4③	○	2		○			1						
		生体分子化学I	2, 3, 4①②	○	2		○			1						
		基礎細胞遺伝学	1, 2, 3, 4③	○	2		○				1					
		基礎細胞生物学	1, 2, 3, 4④	○	2		○			1	1					
		基礎植物学	2, 3, 4①	○	2		○			1						
		基礎生物化学	2, 3, 4①	○	2		○			1						
		地質学入門a	1, 2, 3, 4②	○	1		○			2	2	1			1	
		地質学入門b	1, 2, 3, 4②	○	1		○			3	3					
		フィールド体験実習	1, 2, 3, 4	○	1				○		3	1				
		構造地質学入門	2, 3, 4①	○	1		○					1				
		地層・古生物学入門	2, 3, 4①	○	2		○			1	2					
		鉱物・岩石学入門	2, 3, 4②	○	2		○			3	2					
		環境地質学入門	2, 3, 4②	○	1		○			1	1				1	
		地学英語	2, 3, 4③④	○	1		○			1						
		物質反応化学	2, 3, 4①	○	2		○				1					
		環境気象学	2, 3, 4①	○	2		○			1						
		基礎量子力学	2, 3, 4②	○	2		○			1						
		機能形態学	2, 3, 4①②	○	2		○				1					
		多様性生物学B	2, 3, 4②	○	2		○			1						
	農学部開設科目	環境砂防学	2, 3, 4①	○	2		○								1	
		野生植物生態学	2, 3, 4①	○	2		○								2	
		フィールド安全論	2, 3, 4①	○	2		○			2					2	
		小計（42科目）	—	—	13	55	0	—		21	19	1	1	0	5	—
物理学プログラム専門科目	理学部開設科目	課題研究I	4①～②	○	2			○		7	9		4			※実験・実習
		課題研究II	4③～④	○	2			○		7	9		4			※実験・実習
		基礎物理学演習A	1, 2, 3, 4③	○	1			○					1			
		基礎物理学演習B	1, 2, 3, 4④	○	1			○					1			
		電磁気学I	2, 3, 4①②	○	1		○				1					
		電磁気学II	2, 3, 4③④	○	1		○				1					
		物理学演習A	2, 3, 4①	○	1				○		1					
		物理学演習B	2, 3, 4②	○	1						1					
		物理学演習C	2, 3, 4③	○	1						1					
		物理学演習D	2, 3, 4④	○	1				○		1					
		量子力学序論A	2, 3, 4③	○	1		○			1						※演習
		量子力学序論B	2, 3, 4④	○	1		○			1						※演習
		振動論と微分方程式	2, 3, 4①	○	2		○			1						※演習
		複素解析	2, 3, 4③④	○	2		○				1					※演習
		波動とフーリエ解析	2, 3, 4③④	○	2		○			1						※演習
		熱力学A	2, 3, 4③	○	1		○			1						※演習
		熱力学B	2, 3, 4④	○	1		○			1						※演習
		量子力学IA	3, 4①	○	2		○			1	1					※演習
		量子力学IB	3, 4②	○	2		○			1	1					※演習
		量子力学IIA	3, 4③	○	2		○			1						※演習
		量子力学IIB	3, 4④	○	2		○			1						※演習

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （助 手を除く） 教員	
専門 教育に 関する 授業科 目	理 学 部 開 設 科 目	統計力学IA	3, 4①	○		2		○				1					※演習	
		統計力学IB	3, 4②	○		2		○			1						※演習	
		統計力学IIA	3, 4③	○		2		○			1						※演習	
		統計力学IIB	3, 4④	○		2		○			1						※演習	
		物理学実験A	3, 4①	○		2			○		2	4		3		1	※講義	
		物理学実験B	3, 4②	○		2			○		2	4		3		1	※講義	
		物理学実験C	3, 4③	○		2			○		2	4		3		1	※講義	
		物理学実験D	3, 4④	○		2			○		2	4		3		1	※講義	
		計算物理学A	3, 4③④	○		2		○			1						※演習	
		計算物理学B	3, 4③④	○		2		○				1					※演習	
		電気力学	3, 4①②	○		1		○				1						
		特殊相対論A	3, 4①	○		1		○				1						
		特殊相対論B	3, 4②	○		1		○				1						
		現代物理学セミナーA	3, 4③④	○		2		○			7	9		4				
		現代物理学セミナーB	3, 4③④	○		2		○			7	9		4				
		量子力学IIIA	4①	○		1		○			1							
		量子力学IIIB	4②	○		1		○			1							
		統計力学IIIA	4①	○		1		○			1							
		統計力学IIIB	4②	○		1		○			1							
		原子核物理学	4①②	○		2		○			1	2						
		物性物理学	4①②	○		2		○			2	4		1		1		
		一般相対論A	4①	○		1		○						1				
		一般相対論B	4②	○		1		○						1				
		素粒子物理学	4③	○		2		○			2	2		2				
		宇宙物理学	4①②	○		2		○				1						
		物理学特論I	4①～④	○		1		○				1				1	標準外	
		物理学特論II	4①～④	○		1		○				1				1	標準外	
		物理学特論III	4①～④	○		1		○			1					1	標準外	
		物理学特論IV	4①～④	○		1		○			1					1	標準外	
		物理学特論V	4①～④	○		1		○				1				1	標準外	
		物理学特論VI	4①～④	○		1		○				1				1	標準外	
	工 学 部 開 設 科 目	電気回路	2, 3, 4①②			2		○								1		
		基礎電子回路	2, 3, 4④			2		○								1		
		電子回路	2, 3, 4④			2		○								2		
		計測工学	3, 4②			2		○								2		
		光応用光学	3, 4④			2		○								1		
		流体工学I	2, 3, 4②			2		○								2	※演習	
小計（58科目）			—	—	4	85	0	—	—	—	7	9	0	4	0	16	—	
合計（152科目）			—	—	21	219	0	—	—	—	34	36	1	9	0	30	—	
学位又は称号		学士（理学）			学位又は学科の分野			理学関係										
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等									
（卒業要件） 教養教育に関する授業科目から21単位以上、専門教育に関する授業科目から84単位以上、合計124単位以上修得すること。 （専門力プログラム履修方法） 1. 教養教育に関する授業科目は英語から4単位以上、初修外国語から2単位以上、健康・スポーツの体育実技から1単位以上、人文社会・教育科学科目及び新潟大学個性化科目から8単位以上、前述のほかに英語、初修外国語を除く教養教育に関する授業科目から6単位以上を修得する。 2. 専門教育に関する授業科目は大学学習法から2単位、自然系共通専門基礎科目から12単位以上、理学部共通ベーシック科目から8単位以上を修得する。物理学主専攻共通コア科目及び物理学主専攻専門科目から58単位以上、他主専攻共通コア科目から2単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：第1学期[第1, 2ターム]、第2学期[第3, 4ターム]それぞれで28単位） （総合力プログラム履修方法） 1. 教養教育に関する授業科目は英語から4単位以上、初修外国語から2単位以上、健康・スポーツの体育実技から1単位以上、人文社会・教育科学科目及び新潟大学個性化科目から8単位以上、前述のほかに英語、初修外国語を除く教養教育に関する授業科目から6単位以上を修得する。 2. 専門教育に関する授業科目は大学学習法から2単位、自然系共通専門基礎科目から12単位以上、理学部共通ベーシック科目から8単位以上を修得する。物理学主専攻共通コア科目及び物理学主専攻専門科目から40単位以上、他主専攻共通コア科目及び他主専攻専門科目から12単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：第1学期[第1, 2ターム]、第2学期[第3, 4ターム]それぞれで28単位）									1 学年の学期区分			4 ターム						
									1 学期の授業期間			8 週						
									1 時限の授業の標準時間			9 0 分						

教 育 課 程 等 の 概 要																
（理学部理学科／化学プログラム）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基幹（助 手を除く） 教員以外 の教員	
教養教育に関する授業科目	「理学部理学科／教養教育に関する授業科目」のとお															
専門 教育 に 関 する 授 業 科 目	理学スタディ・スキルズ	1, 2, 3, 4, ①	○	2						20	13		5			
	小計（1科目）	—	—	2	0	0	—	—	—	20	13	0	5	0	0	—
	自然系共通専門基礎科目	解析学基礎1	1, 2, 3, 4①	○	1		○				1					
		解析学基礎2	1, 2, 3, 4②	○	1		○				1					
		数学基礎A1	1, 2, 3, 4①③	○	1		○			1			1		1	
		数学基礎A2	1, 2, 3, 4②④	○	1		○			1			1		1	
		数学基礎B1	1, 2, 3, 4①③	○	1		○			3			1			
		数学基礎B2	1, 2, 3, 4②④	○	1		○			3			1			
		統計学基礎1	1, 2, 3, 4①③	○	1		○				1				2	
		統計学基礎2	1, 2, 3, 4②④	○	1		○				1				2	
		物理学基礎AI	1, 2, 3, 4①②	○	2		○			2						
		物理学基礎AII	1, 2, 3, 4③④	○	2		○				1					
		物理学基礎BI	1, 2, 3, 4①②	○	2		○			2	1					
		物理学基礎BII	1, 2, 3, 4③④	○	2		○			2	1					
		物理学概論	1, 2, 3, 4①②③④	○	2		○				1				1	
		物理学基礎CI	1, 2, 3, 4①②	○	2		○				1					
		物理学基礎CII	1, 2, 3, 4③④	○	1		○				1					
		化学基礎A	1, 2, 3, 4①②③	○	2		○			3	2					
		化学基礎B	1, 2, 3, 4①②④	○	2		○			3						
		生物学基礎A	1, 2, 3, 4①②③	○	2		○			2	3					
		生物学基礎B	1, 2, 3, 4①②③④	○	2		○			1	4					
		地学基礎A	1, 2, 3, 4①③	○	2		○				1	1			1	
		地学基礎B	1, 2, 3, 4①	○	2		○			1	1					
		地学基礎C	1, 2, 3, 4④	○	2		○			1						
	小計（22科目）	—	—	0	35	0	—	—	—	20	19	1	1	0	5	—
	理学基礎演習	理学基礎演習	1, 2, 3, 4②	○	2			○		17	19		2			講義、実習
	共通 実習 科目	数学基礎演習a	1, 2, 3, 4①	○	1			○		1	2		1			
		数学基礎演習b	1, 2, 3, 4②	○	1			○			3		1			
		物理学基礎実習a	1, 2, 3, 4①③	○	1				○		1		3		1	
		物理学基礎実習b	1, 2, 3, 4④	○	1				○				3		1	
		化学基礎実習a	1, 2, 3, 4②③	○	1				○	1	4					オムニバス
		化学基礎実習b	1, 2, 3, 4④	○	1				○	1	4					オムニバス
		生物学基礎実習a	1, 2, 3, 4①③	○	1				○	2	6		1			オムニバス
		生物学基礎実習b	1④	○	1				○	3	4					オムニバス
		地学基礎実習a	1, 2, 3, 4①②	○	1				○	3	1					
		地学基礎実習b	1, 2, 3, 4②③	○	1				○	2		1				
		基礎英語コミュニケーション	1, 2, 3, 4①②	○	1			○		2						
		実践英語コミュニケーション	1, 2, 3, 4③④	○	1			○		2						
		海外研修	1, 2, 3, 4①②③④	○	2				○	1						標準外
		海外英語研修	1・2・3②	○	4				○	1						標準外
		安全教育	1, 2, 3, 4②	○	1		○			1	6					標準外、オムニバス
		科学・技術と社会	1, 2, 3, 4①②	○	2		○			4	2					
		科学史	1, 2, 3, 4①～④	○	2		○			1					1	標準外
		新素材の物性	2, 3, 4①②	○	2		○			1					1	
		情報産業論	1, 2, 3, 4③④	○	2		○			1					1	
		情報社会論	1, 2, 3, 4②	○	2		○			1						
		SDGsを支える科学	1, 2, 3, 4①～④	○	1		○			3	3					標準外
		インターンシップ特別演習a	2, 3, 4①～④	○	2				○	1						標準外
		インターンシップ特別演習b	2, 3, 4①～④	○	2				○	1						標準外
		地球環境の多様性と歴史	1, 2, 3, 4①～④	○	1		○			1	1					標準外
		国際フィールド科学演習	1, 2, 3, 4①～④	○	2			○		1	1					標準外
		フィールド企業インターンシップ	1, 2, 3, 4①～④	○	1				○	1	1					標準外
		海外フィールド実習A	1, 2, 3, 4①～④	○	2				○	1	1					標準外
		海外フィールド実習B	1, 2, 3, 4①～④	○	4				○	1	1					標準外
	小計（29科目）	—	—	2	44	0	—	—	—	25	27	1	8	0	5	—

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員 （助手を除く）		
専 門 教 育 に 関 する 授 業 科 目	理学部開設科目 化学プログラム科目	化学反応論	3, 4①②	○	2		○			2							
		化学統計力学Ⅱ	3, 4①	○	2		○			1							
		生体分子化学Ⅱ	2, 3, 4④	○	2		○			1							
		生体分子化学Ⅲ	3, 4③④	○	2		○			1							
		基礎機器分析	3, 4①	○	2		○			1							
		有機機器分析	3, 4①②	○	2		○			1							
		化学英語	3, 4③④	○	2		○			3							
		化学コロキウム	3, 4③	○	1		○			7	6		1				
		小計（30科目）	—	—	8	69	0	—	—	7	6	0	1	0	0	—	—
合計（124科目）		—	—	25	203	0	—	—	34	36	1	9	0	5	—	—	
学位又は称号		学士（理学）		学位又は学科の分野			理学関係										
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等								
（卒業要件） 教養教育に関する授業科目から21単位以上、専門教育に関する授業科目から84単位以上、合計124単位以上修得すること。 （専門力プログラム履修方法） 1. 教養教育に関する授業科目は英語から4単位以上、初修外国語から2単位以上、健康・スポーツの体育実技から1単位以上、人文社会・教育科学科目及び新潟大学個性化科目から8単位以上、前述のほかに英語、初修外国語を除く教養教育に関する授業科目から6単位以上を修得する。 2. 専門教育に関する授業科目は大学学習法から2単位、自然系共通専門基礎科目から12単位以上、理学部共通ベーシック科目から8単位以上を修得する。化学主専攻共通コア科目及び化学主専攻専門科目から54単位以上、他主専攻共通コア科目から2単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：第1学期[第1, 2ターム]、第2学期[第3, 4ターム]それぞれで28単位） （総合力プログラム履修方法） 1. 教養教育に関する授業科目は英語から4単位以上、初修外国語から2単位以上、健康・スポーツの体育実技から1単位以上、人文社会・教育科学科目及び新潟大学個性化科目から8単位以上、前述のほかに英語、初修外国語を除く教養教育に関する授業科目から6単位以上を修得する。 2. 専門教育に関する授業科目は大学学習法から2単位、自然系共通専門基礎科目から12単位以上、理学部共通ベーシック科目から8単位以上を修得する。化学主専攻共通コア科目及び化学主専攻専門科目から38単位以上、他主専攻共通コア科目及び他主専攻専門科目から12単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：第1学期[第1, 2ターム]、第2学期[第3, 4ターム]それぞれで28単位）									1 学年の学期区分				4ターム				
									1 学期の授業期間				8週				
									1 時限の授業の標準時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(理学部理学科／生物学プログラム) 【基礎学部】																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （助手 以外 の教員		
教養教育に関する授業科目	「理学部理学科／教養教育に関する授業科目」のとお																
専門 教育 に 関 する 授 業 科 目	大学学習法	理学スタディ・スキルズ 小計（1科目）	1, 2, 3, 4, ① —	○ —	2 —	2 0	0 0	— —	— —	20 20	13 13	— 0	5 5	— 0	0 0	—	
	自然系 共通 専門 基礎 科目	解析学基礎1	1, 2, 3, 4①	○		1		○				1					
		解析学基礎2	1, 2, 3, 4②	○		1		○				1					
		数学基礎A1	1, 2, 3, 4①③	○		1		○			1			1		1	
		数学基礎A2	1, 2, 3, 4②④	○		1		○			1			1		1	
		数学基礎B1	1, 2, 3, 4①③	○		1		○			3			1			
		数学基礎B2	1, 2, 3, 4②④	○		1		○			3			1			
		統計学基礎1	1, 2, 3, 4①③	○		1		○				1				2	
		統計学基礎2	1, 2, 3, 4②④	○		1		○				1				2	
		物理学基礎AI	1, 2, 3, 4①②	○		2		○			2						
		物理学基礎AII	1, 2, 3, 4③④	○		2		○				1					
		物理学基礎BI	1, 2, 3, 4①②	○		2		○			2	1					
		物理学基礎BII	1, 2, 3, 4③④	○		2		○			2	1					
		物理学概論	1, 2, 3, 4①②③④	○		2		○				1				1	
		物理学基礎CI	1, 2, 3, 4①②	○		2		○				1					
		物理学基礎CII	1, 2, 3, 4③④	○		1		○				1					
		化学基礎A	1, 2, 3, 4①②③	○		2		○			3	2					
		化学基礎B	1, 2, 3, 4①②④	○		2		○			3						
		生物学基礎A	1, 2, 3, 4①②③	○		2		○			2	3					
		生物学基礎B	1, 2, 3, 4①②③④	○		2		○			1	4					
		地学基礎A	1, 2, 3, 4①③	○		2		○				1	1			1	
		地学基礎B	1, 2, 3, 4①	○		2		○			1	1					
		地学基礎C	1, 2, 3, 4④	○		2		○			1						
	小計（22科目）	—	—	0	35	0	—	—	—	20	19	1	1	0	5	—	
	理 学 部 共 通 ベ ー シ ッ ク 科 目	理学基礎 演習	理学基礎演習	1, 2, 3, 4②	○	2			○		17	19		2			講義、実習
		共 通 実 習 科 目	数学基礎演習a	1, 2, 3, 4①	○		1		○		1	2		1			
			数学基礎演習b	1, 2, 3, 4②	○		1		○			3		1			
			物理学基礎実習a	1, 2, 3, 4①③	○		1			○		1		3		1	
			物理学基礎実習b	1, 2, 3, 4④	○		1			○				3		1	
			化学基礎実習a	1, 2, 3, 4②③	○		1			○	1	4					オムニバス
			化学基礎実習b	1, 2, 3, 4④	○		1			○	1	4					オムニバス
			生物学基礎実習a	1, 2, 3, 4①③	○		1			○	2	6		1			オムニバス
			生物学基礎実習b	1④	○		1			○	3	4					オムニバス
地学基礎実習a			1, 2, 3, 4①②	○		1			○	3	1						
地学基礎実習b			1, 2, 3, 4②③	○		1			○		2	1					
基礎英語コミュニケーション		1, 2, 3, 4①②	○		1			○		2							
実践英語コミュニケーション		1, 2, 3, 4③④	○		1			○		2							
海外研修		1, 2, 3, 4①②③④	○		2				○	1						標準外	
海外英語研修		1・2・3②	○		4				○	1						標準外	
安全教育		1, 2, 3, 4②	○		1		○			1	6					標準外、オムニバス	
科学・技術と社会		1, 2, 3, 4①②	○		2		○			4	2						
科学史		1, 2, 3, 4	○		2		○			1					1	標準外	
新素材の物性		2, 3, 4①②	○		2		○			1					1		
情報産業論		1, 2, 3, 4③④	○		2		○			1					1		
情報社会論		1, 2, 3, 4②	○		2		○			1							
SDGsを支える科学		1, 2, 3, 4①～④	○		1		○			3	3					標準外	
インターンシップ特別演習a		2, 3, 4①～④	○		2			○		1						標準外	
インターンシップ特別演習b		2, 3, 4①～④	○		2			○		1						標準外	
地球環境の多様性と歴史		1, 2, 3, 4①～④	○		1		○			1	1					標準外	
国際フィールド科学演習		1, 2, 3, 4①～④	○		2			○		1	1					標準外	
フィールド企業インターンシップ		1, 2, 3, 4①～④	○		1				○	1	1					標準外	
海外フィールド実習A	1, 2, 3, 4①～④	○		2			○		1	1					標準外		
海外フィールド実習B	1, 2, 3, 4①～④	○		4			○		1	1					標準外		
小計（29科目）	—	—	2	44	0	—	—	—	25	27	1	8	0	0	—		

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員以外 の教員	
専 門 教 育 に 関 する 授 業 科 目	生 物 学 部 開 設 科 目	理 学 部 専 門 科 目	生物学特論I	3, 4②	○		1		○								1	標準外
			生物学特論II	2, 3, 4①～④	○		1		○								1	標準外
			生物学特論 III	2, 3, 4①～④	○		1		○				1				1	標準外
			生物学特論 IV	2, 3, 4①～④	○		1		○			1					1	標準外
			生物学特論 V	3, 4②	○		1		○								1	標準外
			生物学特論 VI	3, 4③	○		1		○								1	標準外
			生物化学演習	4①～④	○		4			○		1	1					
			細胞生物学演習	4①～④	○		4			○			1					
			発生生物学演習	4①～④	○		4			○		1						
			植物生理学演習	4①～④	○		4			○		2	3					
			内分泌学演習	4①～④	○		4			○		1			1		1	
			分子生物学演習	4①～④	○		4			○			2					
			課題研究I(生物学)	4①～④	○		8				○	5	7			1	1	
			課題研究II(生物学)	4①～④	○		4				○	5	7			1	1	
		小計 (36科目)	—	—	17	73	0		—		6	4	0	5	0	3	—	
合計 (130科目)			—	—	34	207	0		—		34	36	1	9	0	8	—	
学位又は称号		学士 (理学)			学位又は学科の分野			理学関係										
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等									
(卒業要件) 教養教育に関する授業科目から21単位以上、専門教育に関する授業科目から84単位以上、合計124単位以上修得すること。 (専門力プログラム履修方法) 1. 教養教育に (専門力プログラム履修方法) 1. 教養教育に関する授業科目は英語から4単位以上、初修外国語から2単位以上、健康・スポーツの体育実技から1単位以上、人文社会・教育科学科目及び新潟大学個性化科目から8単位以上、前述のほかに英語、初修外国語を除く教養教育に関する授業科目から6単位以上を修得する。 2. 専門教育に関する授業科目は大学学習法から2単位、自然系共通専門基礎科目から12単位以上、理学部共通ベーシック科目から8単位以上を修得する。生物学主専攻共通コア科目及び生物学主専攻専門科目から58単位以上、他主専攻共通コア科目から2単位以上修得する。 (履修科目の登録の上限：第1学期[第1, 2ターム]、第2学期[第3, 4ターム]それぞれで28単位) (総合力プログラム履修方法) 1. 教養教育に関する授業科目は英語から4単位以上、初修外国語から2単位以上、健康・スポーツの体育実技から1単位以上、人文社会・教育科学科目及び新潟大学個性化科目から8単位以上、前述のほかに英語、初修外国語を除く教養教育に関する授業科目から6単位以上を修得する。 2. 専門教育に関する授業科目は大学学習法から2単位、自然系共通専門基礎科目から12単位以上、理学部共通ベーシック科目から8単位以上を修得する。生物学主専攻共通コア科目及び生物学主専攻専門科目から38単位以上または42単位以上、他主専攻共通コア科目及び他主専攻専門科目から12単位以上修得する。 (履修科目の登録の上限：第1学期[第1, 2ターム]、第2学期[第3, 4ターム]それぞれで28単位)									1 学年の学期区分			4 ターム						
									1 学期の授業期間			8 週						
									1 時限の授業の標準時間			90分						

教 育 課 程 等 の 概 要																
(理学部理学科/地質科学プログラム) 【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基幹 (助手を 除く) 教員	
教養教育に関する授業科目	「理学部理学科/教養教育に関する授業科目」のとお															
専門 教育 に 関 する 授 業 科 目	理学スタディ・スキルズ	1, 2, 3, 4, ①	○	2						20	13		5			
	小計 (1科目)	—	—	2	0	0	—	—	—	20	13	0	5	0	0	—
	自然系共通専門基礎科目	解析学基礎1	1, 2, 3, 4①	○	1		○				1					
		解析学基礎2	1, 2, 3, 4②	○	1		○				1					
		数学基礎A1	1, 2, 3, 4①③	○	1		○			1			1		1	
		数学基礎A2	1, 2, 3, 4②④	○	1		○			1			1		1	
		数学基礎B1	1, 2, 3, 4①③	○	1		○			3			1			
		数学基礎B2	1, 2, 3, 4②④	○	1		○			3			1			
		統計学基礎1	1, 2, 3, 4①③	○	1		○				1				2	
		統計学基礎2	1, 2, 3, 4②④	○	1		○				1				2	
		物理学基礎AI	1, 2, 3, 4①②	○	2		○			2						
		物理学基礎AII	1, 2, 3, 4③④	○	2		○				1					
		物理学基礎BI	1, 2, 3, 4①②	○	2		○			2	1					
		物理学基礎BII	1, 2, 3, 4③④	○	2		○			2	1					
		物理学概論	1, 2, 3, 4①②③④	○	2						1				1	
		物理学基礎CI	1, 2, 3, 4①②	○	2		○				1					
		物理学基礎CII	1, 2, 3, 4③④	○	1		○				1					
		化学基礎A	1, 2, 3, 4①②③	○	2		○			3	2					
		化学基礎B	1, 2, 3, 4①②④	○	2		○			3						
		生物学基礎A	1, 2, 3, 4①②③	○	2		○			2	3					
		生物学基礎B	1, 2, 3, 4①②③④	○	2		○			1	4					
		地学基礎A	1, 2, 3, 4①③	○	2		○				1	1			1	
		地学基礎B	1, 2, 3, 4①	○	2		○			1	1					
		地学基礎C	1, 2, 3, 4④	○	2		○			1						
	小計 (22科目)	—	—	0	35	0	—	—	—	20	19	1	1	0	5	—
	理学基礎演習	理学基礎演習	1, 2, 3, 4②	○	2			○		17	19		2			講義、実習
	共通 実習 科目	数学基礎演習a	1, 2, 3, 4①	○	1			○		1	2		1			
		数学基礎演習b	1, 2, 3, 4②	○	1			○			3		1			
		物理学基礎実習a	1, 2, 3, 4①③	○	1				○		1		3		1	
		物理学基礎実習b	1, 2, 3, 4④	○	1				○				3		1	
		化学基礎実習a	1, 2, 3, 4②③	○	1			○		1	4					オムニバス
		化学基礎実習b	1, 2, 3, 4④	○	1			○		1	4					オムニバス
		生物学基礎実習a	1, 2, 3, 4①③	○	1			○		2	6		1			オムニバス
		生物学基礎実習b	1④	○	1			○		3	4					オムニバス
		地学基礎実習a	1, 2, 3, 4①②	○	1			○		3	1					
		地学基礎実習b	1, 2, 3, 4②③	○	1			○		2		1				
		基礎英語コミュニケーション	1, 2, 3, 4①②	○	1			○		2						
		実践英語コミュニケーション	1, 2, 3, 4③④	○	1			○		2						
		海外研修	1, 2, 3, 4①②③④	○	2				○	1						標準外
		海外英語研修	1・2・3②	○	4				○	1						標準外
		安全教育	1, 2, 3, 4②	○	1		○			1	6					標準外、オムニバス
		科学・技術と社会	1, 2, 3, 4①②	○	2		○			4	2					
		科学史	1, 2, 3, 4①～④	○	2		○			1					1	標準外
		新素材の物性	2, 3, 4①②	○	2		○			1					1	
		情報産業論	1, 2, 3, 4③④	○	2		○			1					1	
		情報社会論	1, 2, 3, 4②	○	2		○			1						
		SDGsを支える科学	1, 2, 3, 4①～④	○	1		○			3	3					標準外
		インターンシップ特別演習a	2, 3, 4①～④	○	2			○		1						標準外
		インターンシップ特別演習b	2, 3, 4①～④	○	2			○		1						標準外
		地球環境の多様性と歴史	1, 2, 3, 4①～④	○	1		○			1	1					標準外
		国際フィールド科学演習	1, 2, 3, 4①～④	○	2			○		1	1					標準外
		フィールド企業インターンシップ	1, 2, 3, 4①～④	○	1			○		1	1					標準外
		海外フィールド実習A	1, 2, 3, 4①～④	○	2			○		1	1					標準外
		海外フィールド実習B	1, 2, 3, 4①～④	○	4			○		1	1					標準外
	小計 (29科目)	—	—	2	45	0	—	—	—	25	27	1	8	0	5	—

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
						必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （ 助手 以外 の教 員			
専門 教育 に 関 する 授 業 科目	地 質 学 部 開 設 科 目	理 学 部 専 門 科 目	固体地球化学A	3, 4③	○		1		○			1	1							
			固体地球化学B	3, 4④	○		1		○			1	1							
			地球化学分析法	4①～④	○		1		○			1	1					1		
			構造地質学	3, 4①～②	○		2		○			1								
			地質構造解析法	3, 4①～②	○		1				○			1						
			地球物理学	3, 4③～④	○		2		○			2	1	1						
			地層学B	3, 4①	○		1		○				1							
			古生物学B	3, 4①～④	○		1		○			1	1							標準外
			古生物学実験	3, 4①～④	○		1				○	1	1							標準外
			海洋生物学実験	2, 3, 4①～④	○		1				○	2	1		1		1		1	標準外
			地史学A	3, 4①	○		1		○			2	1							
			地史学B	3, 4②	○		1		○				1							
			海洋地質学A	3, 4①	○		1		○				1							
			海洋地質学B	3, 4①	○		1		○				1							
			東アジアの地質形成史	3, 4①～④	○		2		○			1								標準外
			第四紀環境学	3, 4②	○		2		○			1								
			環境地質学	3, 4①	○		2		○			1								
			水文地質学	3, 4④	○		2		○				1							
			環境地質学実習	3, 4①～④	○		1				○									標準外
			石油地質学	3, 4①～④	○		1		○				1						1	標準外
			土地地質学	3, 4①～④	○		1		○				1						1	標準外
			応用地質学実習	3, 4①～④	○		1				○	1	1							標準外
			水質化学分析法	4①～④	○		1				○		1							標準外
			地球科学特別講義I	3, 4①～④	○		1		○			1							1	標準外
			地球科学特別講義II	3, 4①～④	○		1		○										1	標準外
			地球科学特別講義III	3, 4①～④	○		1		○				1						1	標準外
			小計（48科目）			—	—		24	45	0	—			5	6	1	0	0	6
合計（142科目）			—	—		41	180	0	—			35	37	1	9	0	13	—		
学位又は称号			学士（理学）			学位又は学科の分野			理学関係											
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等										
（卒業要件） 教養教育に関する授業科目から21単位以上、専門教育に関する授業科目から84単位以上、合計124単位以上修得すること。 （専門力プログラム履修方法） 1. 教養教育に関する授業科目は英語から4単位以上、初修外国語から2単位以上、健康・スポーツの体育実技から1単位以上、人文社会・教育科学科目及び新潟大学個性化科目から8単位以上、前述のほかに英語、初修外国語を除く教養教育に関する授業科目から6単位以上を修得する。 2. 専門教育に関する授業科目は大学学習法から2単位、自然系共通専門基礎科目から12単位以上、理学部共通ベーシック科目から8単位以上を修得する。地質科学主専攻共通コア科目及び地質科学主専攻専門科目から58単位以上、他主専攻共通コア科目から2単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：第1学期[第1, 2ターム]、第2学期[第3, 4ターム]それぞれで28単位） （総合力プログラム履修方法） 1. 教養教育に関する授業科目は英語から4単位以上、初修外国語から2単位以上、健康・スポーツの体育実技から1単位以上、人文社会・教育科学科目及び新潟大学個性化科目から8単位以上、前述のほかに英語、初修外国語を除く教養教育に関する授業科目から6単位以上を修得する。 2. 専門教育に関する授業科目は大学学習法から2単位、自然系共通専門基礎科目から12単位以上、理学部共通ベーシック科目から8単位以上を修得する。地質科学主専攻共通コア科目及び地質科学主専攻専門科目から33単位以上、他主専攻共通コア科目及び他主専攻専門科目から12単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：第1学期[第1, 2ターム]、第2学期[第3, 4ターム]それぞれで28単位）										1 学年の学期区分			4 ターム							
										1 学期の授業期間			8 週							
										1 時限の授業の標準時間			9 0 分							

教 育 課 程 等 の 概 要																
（理学部理学科／自然環境科学プログラム）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
教養教育に関する授業科目	「理学部理学科／教養教育に関する授業科目」のとお															
専門教育に関する授業科目	理学スタディ・スキルズ	1, 2, 3, 4①	○	2						20	13		5			
	小計（1科目）	—	—	2	0	0	—	—	—	20	13	0	5	0	0	—
	自然系共通専門基礎科目	解析学基礎1	○		1		○				1					
		解析学基礎2	○		1		○				1					
		数学基礎A1	○		1		○			1			1		1	
		数学基礎A2	○		1		○			1			1		1	
		数学基礎B1	○		1		○			3			1			
		数学基礎B2	○		1		○			3			1			
		統計学基礎1	○		1		○				1				2	
		統計学基礎2	○		1		○				1				2	
		物理学基礎AI	○		2		○			2						
		物理学基礎AII	○		2		○				1					
		物理学基礎BI	○		2		○			2	1					
		物理学基礎BII	○		2		○			2	1					
		物理学概論	○		2		○				1				1	
		物理学基礎CI	○		2		○				1					
		物理学基礎CII	○		1		○				1					
		化学基礎A	○		2		○			3	2					
		化学基礎B	○		2		○			3						
		生物学基礎A	○		2		○			2	3					
		生物学基礎B	○		2		○			1	4					
		地学基礎A	○		2		○				1	1			1	
		地学基礎B	○		2		○			1	1					
		地学基礎C	○		2		○			1						
	小計（22科目）	—	—	0	35	0	—	—	—	20	19	1	1	0	5	—
	理学基礎演習	理学基礎演習	○	2				○		17	19		2			講義、実習
	共通実習科目	数学基礎演習a	○		1			○		1	2		1			
		数学基礎演習b	○		1			○			3		1			
		物理学基礎実習a	○		1				○		1		3		1	
		物理学基礎実習b	○		1				○				3		1	
		化学基礎実習a	○		1			○	○	1	4					オムニバス
		化学基礎実習b	○		1			○	○	1	4					オムニバス
		生物学基礎実習a	○		1			○	○	2	6		1			オムニバス
		生物学基礎実習b	○		1			○	○	3	4					オムニバス
		地学基礎実習a	○		1			○	○	3	1					
		地学基礎実習b	○		1			○	○		2	1				
		基礎英語コミュニケーション	○		1			○		2						
		実践英語コミュニケーション	○		1			○		2						
		海外研修	○		2				○	1						標準外
		海外英語研修	○		4				○	1						標準外
		安全教育	○		1		○			1	6					標準外、オムニバス
		科学・技術と社会	○		2		○			4	2					
		科学史	○		2		○			1					1	標準外
		新素材の物性	○		2		○			1					1	
		情報産業論	○		2		○			1					1	
		情報社会論	○		2		○			1						
		SDGsを支える科学	○		1		○			3	3					標準外
		インターンシップ特別演習a	○		2				○	1						標準外
		インターンシップ特別演習b	○		2				○	1						標準外
		地球環境の多様性と歴史	○		1		○			1	1					標準外
		国際フィールド科学演習	○		2			○		1	1					標準外
		フィールド企業インターンシップ	○		1				○	1	1					標準外
		海外フィールド実習A	○		2				○	1	1					標準外
		海外フィールド実習B	○		4				○	1	1					標準外
	小計（29科目）	—	—	2	44	0	—	—	—	25	27	1	8	0	0	—

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹 教員 （助手を除く） 以外の 教員	
専門 教育に 関する 授業科目	理学部 共通コア 科目 理学部 開設科目	微分積分学IA	1, 2, 3, 4③	○	1			○			1							
		線形代数IA	1, 2, 3, 4③	○	1			○			1							
		数学演習A	1, 2, 3, 4③	○	1				○		1	2		1				
		集合と写像	1, 2, 3, 4③	○		1		○				1						
		微分積分学IB	1, 2, 3, 4④	○							1							
		線形代数IB	1, 2, 3, 4④	○	1			○			1							
		数学演習B	1, 2, 3, 4④	○	1				○		1	2		1				
		オペレーションズ・リサーチ	1, 2, 3, 4④	○		2		○			1							
		微分積分学IIA	2, 3, 4①	○	2			○			1							
		線形代数IIA	2, 3, 4①	○	2			○			1							
		計算機演習A	2, 3, 4①	○		1			○			1						
		微分積分学IIB	2, 3, 4②	○	2			○			1							
		線形代数IIB	2, 3, 4②	○	2			○			1							
		計算機演習B	2, 3, 4②	○		1			○			1						
		解析力学	2, 3, 4①②	○		2		○				1						
		基礎物理数学	1, 2, 3, 4③	○		2		○				1						
		基礎ベクトル解析	1, 2, 3, 4④	○		2		○				1						
		分析化学I	1, 2, 3, 4④	○		2		○			2							
		無機化学I	1, 2, 3, 4③	○		2		○			1	2						
		有機化学I	1, 2, 3, 4④	○		2		○			1	1						
		化学熱力学	1, 2, 3, 4③	○		2		○			1							
		生体分子化学I	2, 3, 4①②	○		2		○			1							
		基礎細胞遺伝学	1, 2, 3, 4③	○		2		○				1						
		基礎細胞生物学	1, 2, 3, 4④	○		2		○			1	1						
		基礎植物学	2, 3, 4①	○		2		○			1							
		基礎生物化学	2, 3, 4①	○		2		○			1							
		地質学入門a	1, 2, 3, 4②	○		1		○			2	2	1			1		
		地質学入門b	1, 2, 3, 4②	○		1		○			3	3						
		フィールド体験実習	1, 2, 3, 4①～④	○		1			○			3	1				標準外	
		構造地質学入門	2, 3, 4①	○		1		○					1					
		地層・古生物学入門	2, 3, 4①	○		2		○			1	2						
		鉱物・岩石学入門	2, 3, 4②	○		2		○			3	2						
		環境地質学入門	2, 3, 4②	○		1		○			1	1				1	オムニバス	
		地学英語	2, 3, 4③④	○		1		○			1							
		物質反応化学	2, 3, 4①	○		2		○				1						
		環境気象学	2, 3, 4①	○		2		○			1							
		基礎量子力学	2, 3, 4②	○		2		○			1							
		機能形態学	2, 3, 4①②	○		2		○				1						
		多様性生物学B	2, 3, 4②	○		2		○			1							
	農学部 開設科目	環境砂防学	2, 3, 4①	○		2		○								1		
		野生植物生態学	2, 3, 4①	○		2		○								2		
		フィールド安全論	2, 3, 4①	○		2		○		2			1			1		
小計（42科目）			—	—	13	55	0	—			21	19	1	1	0	5	—	
自然 環境 科学 プログラム	理学部 開設科目	自然環境科学総論	2, 3, 4③	○	2			○			6	8		3				
		地形学	2, 3, 4④	○		2		○			1							
		地球流体力学	3, 4①	○		2		○			1					1		
		海洋化学	3, 4④	○		2		○				1						
		物質科学B	2, 3, 4④	○		2		○				1						
		フィールド惑星科学概論	3, 4③	○		2		○				1						
		生態学	2, 3, 4③	○		2		○				1						
		多様性生物学a	2, 3①～④	○		1										1	標準外	
		多様性生物学b	2, 3, 4②	○		1					1							
		寒冷地形学	3, 4③	○		2		○			1							
		物質科学A	3, 4③④	○		2		○			1							
		地球環境化学	3, 4①②	○		2		○			1	1						
		エネルギー物質科学	3, 4④	○		2		○			2	1						
		環境汚染論	3, 4③④	○		2		○			1	1				1		
		進化生物学a	3, 4②	○		2		○						1				
		進化生物学b	3, 4④	○		1		○				1						
		適応生物学	3, 4③	○		2		○			1	1						
		古環境学	3, 4③④	○		2		○			1	3						
		環境経済システム論I	3, 4①～④	○		2		○				1				2	標準外	
		環境政策論a	2, 3, 4①②	○		1		○				1				3	オムニバス	
		環境政策論b	2, 3, 4	○		1		○			1					1	標準外	
		自然環境科学実験A1	3, 4①	○		2			○		1	1						

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考				
						必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 (助 手 を 除 く) 以 外 の 教 員					
専 門 教 育 に 関 す る 授 業 科 目	自 然 環 境 科 学 ブ ロ グ ラ ム	理 学 部 開 設 科 目	自然環境科学実験A2	3, 4①②	○		2				○	1				1						
			自然環境科学実験B1	2, 3, 4③	○		2				○	1	4		1							
			自然環境科学実験B2	3, 4②	○		2					○	1	3		1						
			自然環境科学実験C1	2, 3, 4③	○		2					○	2	2								
			自然環境科学実験C2	2, 3, 4④	○		2					○	2	2								
			自然環境科学特論A	2, 3, 4①～④	○		1			○			1						1		標準外	
			自然環境科学特論B	2, 3, 4①～④	○		1			○				1					1		標準外	
			自然環境科学特論C	2, 3, 4①～④	○		1			○			1	1							標準外	
			自然環境科学特論D	3, 4③	○		1			○			1	4		2					標準外	
			数理演習	2, 3, 4③	○		2					○	1	1								
			環境生物学演習	3, 4③	○		2					○	1	4		2						
			自然環境科学研究演習	3, 4③	○		1					○		1								
			環境生物学野外実習A	3, 4①～④	○		1					○		1								
			環境生物学野外実習B	2, 3, 4①～④	○		1					○	2			1			1			
			環境生物学野外実習C	2, 3, 4④	○		1					○	1			1			1			
			地形フィールド実習	2, 3, 4①～④	○		1					○	1								標準外	
			地質フィールド実習	2, 3, 4①～④	○									3							標準外	
			課題研究(自然環境)A	4①～④	○		8					○	2	3								
			課題研究(自然環境)B	4①～④	○		8					○	2	4		1						
			課題研究(自然環境)C	4①～④	○		8					○	3	1								
小計(42科目)			—	—		2	84	0	—			6	8	0	3	0	10	—				
合計(136科目)			—	—		19	218	0	—			35	38	1	9	0	19	—				
学位又は称号			学士(理学)			学位又は学科の分野			理学関係													
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等												
(卒業要件) 教養教育に関する授業科目から21単位以上、専門教育に関する授業科目から84単位以上、合計124単位以上を修得すること。										1学年の学期区分					4ターム							
(履修方法) 1. 教養教育に関する授業科目は英語から4単位以上、初修外国語から2単位以上、健康・スポーツの体育実技から1単位以上、人文社会・教育科学科目及び新潟大学個性化科目から8単位以上、前述のほか英語、初修外国語を除く教養教育に関する授業科目から6単位以上を修得する。 2. 専門教育に関する授業科目は大学学習法から2単位、自然系共通専門基礎科目から12単位以上、理学部共通ベーシック科目から8単位以上を修得する。自然環境科学主専攻共通コア科目及び自然環境科学主専攻専門科目から58単位以上、他主専攻共通コア科目から2単位以上を修得する。 (履修科目の登録の上限：第1学期[第1, 2ターム]、第2学期[第3, 4ターム]それぞれで28単位)										1学期の授業期間					8週							
										1時限の授業の標準時間					90分							

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(理学部理学科／フィールド科学人材育成プログラム) 【基礎学部】																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 (助手 以外 の教 員)		
教養教育に関する授業科目	「理学部理学科／教養教育に関する授業科目」のとお																
専門 教育 に 関 する 授 業 科 目	理学スタディ・スキルズ	1, 2, 3, 4, ①	○	2						20	13		5				
	小計 (1科目)	—	—	2	0	0	—			20	13	0	5	0	0	—	
	自然系共通専門基礎科目	解析学基礎1	1, 2, 3, 4①	○		1		○			1						
		解析学基礎2	1, 2, 3, 4②	○		1		○			1						
		数学基礎A1	1, 2, 3, 4①③	○		1		○		1			1		1		
		数学基礎A2	1, 2, 3, 4②④	○		1		○		1			1		1		
		数学基礎B1	1, 2, 3, 4①③	○		1		○		3			1				
		数学基礎B2	1, 2, 3, 4②④	○		1		○		3			1				
		統計学基礎1	1, 2, 3, 4①③	○		1		○			1				2		
		統計学基礎2	1, 2, 3, 4②④	○		1		○			1				2		
		物理学基礎AI	1, 2, 3, 4①②	○		2		○		2							
		物理学基礎AII	1, 2, 3, 4③④	○		2		○			1						
		物理学基礎BI	1, 2, 3, 4①②	○		2		○		2	1						
		物理学基礎BII	1, 2, 3, 4③④	○		2		○		2	1						
		物理学概論	1, 2, 3, 4①②③④	○		2					1				1		
		物理学基礎CI	1, 2, 3, 4①②	○		2		○			1						
		物理学基礎CII	1, 2, 3, 4③④	○		1		○			1						
		化学基礎A	1, 2, 3, 4①②③	○		2		○		3	2						
		化学基礎B	1, 2, 3, 4①②④	○		2		○		3							
		生物学基礎A	1, 2, 3, 4①②③	○		2		○		2	3						
		生物学基礎B	1, 2, 3, 4①②③④	○		2		○		1	4						
		地学基礎A	1, 2, 3, 4①③	○		2		○			1	1			1		
		地学基礎B	1, 2, 3, 4①	○		2		○		1	1						
		地学基礎C	1, 2, 3, 4④	○		2		○		1							
		小計 (22科目)	—	—	0	35	0	—			20	19	1	1	0	5	—
	理 学 部 共 通 ベ ー シ ッ ク 科 目	理学基礎演習	1, 2, 3, 4②	○	2				○		17	19		2			講義、実習
		共通実習科目	数学基礎演習a	1, 2, 3, 4①	○		1		○		1	2		1			
			数学基礎演習b	1, 2, 3, 4②	○		1		○			3		1			
			物理学基礎実習a	1, 2, 3, 4①③	○		1			○		1		3		1	
			物理学基礎実習b	1, 2, 3, 4④	○		1			○				3		1	
			化学基礎実習a	1, 2, 3, 4②③	○		1			○	1	4					オムニバス
			化学基礎実習b	1, 2, 3, 4④	○		1			○	1	4					オムニバス
			生物学基礎実習a	1, 2, 3, 4①③	○		1			○	2	6		1			オムニバス
		生物学基礎実習b	1④	○		1			○	3	4					オムニバス	
		地学基礎実習a	1, 2, 3, 4①②	○		1			○	3	1						
		地学基礎実習b	1, 2, 3, 4②③	○		1			○		2	1					
		基礎英語コミュニケーション	1, 2, 3, 4①②	○		1			○	2							
		実践英語コミュニケーション	1, 2, 3, 4③④	○		1			○	2							
		海外研修	1, 2, 3, 4①②③④	○		2				1						標準外	
		海外英語研修	1・2・3②	○		4				1						標準外	
		安全教育	1, 2, 3, 4②	○		1		○		1	6					標準外、オムニバス	
		科学・技術と社会	1, 2, 3, 4①②	○		2		○		4	2						
		科学史	1, 2, 3, 4①～④	○		2		○		1					1	標準外	
		新素材の物性	2, 3, 4①②	○		2		○		1					1		
		情報産業論	1, 2, 3, 4③④	○		2		○		1					1		
		情報社会論	1, 2, 3, 4②	○		2		○		1							
		SDGsを支える科学	1, 2, 3, 4①～④	○		1		○		3	3					標準外	
		インターンシップ特別演習a	2, 3, 4①～④	○		2			○	1						標準外	
		インターンシップ特別演習b	2, 3, 4①～④	○		2			○	1						標準外	
		地球環境の多様性と歴史	1, 2, 3, 4①～④	○		1		○		1	1					標準外	
		国際フィールド科学演習	1, 2, 3, 4①～④	○		2			○	1	1					標準外	
		フィールド企業インターンシップ	1, 2, 3, 4①～④	○		1			○	1	1					標準外	
		海外フィールド実習A	1, 2, 3, 4①～④	○		2			○	1	1					標準外	
		海外フィールド実習B	1, 2, 3, 4①～④	○		4			○	1	1					標準外	
	小計 (29科目)	—	—	2	44	0	—			25	27	1	8	0	5	—	

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （ 助手 を除く ） の 教 員	
専門 教育に 関する 授業科目	フイ ー ル ド 科 学 人 材 育 成 プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	理学部開設科目	地形解析実習	3, 4①	○		2			○	1						標準外 標準外
		気象解析実習	3, 4①②	○		2			○	1							
		地形フィールド実習	2, 3, 4①～④	○		1			○	1			1				
		地質フィールド実習	2, 3, 4①～④	○		1			○		3						
		環境生物学野外実習A	3, 4①～④	○		1			○	1							
	農学 部 開 設 科 目	フィールドワーカーのためのリスクマネジ メント実習	2, 3, 4①～④		2					○	2				3		標準外
		科学英語演習	3, 4④	2					○	2	2					5	
		野生動物生態学	2, 3, 4①			2			○	1						2	
		流域環境GIS	2, 3, 4③			2			○							1	
		森林環境論	2, 3, 4④			2			○							2	
		森林再生学	2, 3, 4③			2			○							1	
		森林保護学	2, 3, 4④			2			○							1	
		環境リモートセンシング	3, 4②			1			○							2	
		測量学(農)	2, 3, 4①			2			○							1	
		流域水文学	2, 3, 4③			2			○							1	
		水環境工学	2, 3, 4②			2			○							1	
		土環境工学	2, 3, 4④			2			○							2	
		構造デザイン工学	2, 3, 4④			2			○							1	
		環境統計学	2, 3, 4③			2			○							5	
		生態遺伝学	3, 4③			2			○		1					1	
		温暖化メカニズム・影響学	3, 4③			2			○		1					1	
		斜面災害論	3, 4②			2			○							2	
		雪氷防災学	3, 4②			2			○		1						
		里地里山再生学	3, 4①			2			○		1					4	
		希少生物保全学	3, 4③			2			○		1					2	
		フォレスト入門	2, 3, 4②			2			○		1					2	
		林木育種学	3, 4②			1										1	
		野生植物生態学実習	3, 4①②			2				○						6	
		野生動物生態学実習	3, 4①②			2				○						1	
		測量学実習(農)	2, 3, 4②			2				○						4	
		GIS・リモートセンシング演習	3, 4④			2				○						1	
		防災系演習及び実習	2, 3, 4③			3				○						1	※演習
		生態系管理演習及び実習	3, 4③④			4				○						2	
		フィールド科学インターンシップ	3, 4②			2				○						5	標準外
		自然再生学実習	3, 4①～④			2				○	1					3	
		災害・復興科学演習及び実習	3, 4①～④			2				○	1	1				4	
		公開森林演習	1, 2, 3, 4①～④			1				○						1	
		持続可能な森林管理演習及び実習	3, 4①②			4				○						8	
		グローバル防災・復興学	3, 4①			2				○						1	
	工学部開設科目	河川工学	2, 3, 4①			2			○							1	
		小計（58科目）	—	—	4	68	0	—			5	8	0	2	0	27	—
地学 位 ブ ロ グ ラ ム 専 門 科 目 （ 共 通 ）	工学 部 開 設 科 目	無機化学	2, 3, 4①			2		○								1	
		基礎無機化学	1, 2, 3, 4④			2		○								2	
		無機工業化学	3, 4①			2		○								1	
		無機合成化学	2, 3, 4③			2		○								1	
		分析化学(工)	2, 3, 4②			2		○								1	
		材料分析化学	2, 3, 4③			2		○								1	
		高分子化学	2, 3, 4②④			2										1	
	物質構造論	3, 4④			2		○								1		
教育学部開設科目	無機化学	3, 4①②			2		○								1		
	小計（9科目）	—	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	7	—	
その他	臨海実習II	1, 2, 3, 4①～④								1	0	0	1	0	1	標準外	
	小計（1科目）	—	—	0	0	0	—			1	0	0	1	0	1	—	
合計（160科目）		—	—	21	220	0	—			38	37	1	10	0	40	—	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （ 助 手 以 外 の 教 員	
学位又は称号		学士（理学）		学位又は学科の分野			理学関係									
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等									
（卒業要件） 教養教育に関する授業科目から２１単位以上，専門教育に関する授業科目から８４単位以上，合計１２４単位以上修得すること。 （履修方法） １．教養教育に関する授業科目は英語から４単位以上，初修外国語から２単位以上，健康・スポーツの体育実技から１単位以上，人文社会・教育科学科目及び新潟大学個性化科目から８単位以上，前述のほかに英語，初修外国語を除く教養教育に関する授業科目から６単位以上を修得する。 ２．専門教育に関する授業科目は大学学習法から２単位，自然系共通専門基礎科目から１２単位以上，理学部共通ベーシック科目から８単位以上を修得する。理学部共通コア科目から６単位以上，フィールド科学人材育成主専攻専門科目から５４単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：第１学期[第１，２ターム]，第２学期[第３，４ターム]それぞれで２８単位）							１学年の学期区分				４ターム					
							１学期の授業期間				８週					
							１時限の授業の標準時間				９０分					

教 育 課 程 等 の 概 要																
(工学部工学科／教養教育に関する授業科目) 【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員(助手を除く)	
教養教育に関する授業科目	英語	アカデミック英語入門R	1①～②③～④		1		○								27	
		実践コミュニケーション英語 I	1①～②		1			○							5	
		アカデミック英語入門R	1①～②③～④		1			○							27	
		アカデミック英語入門L	1①～②③～④		1			○							13	
		中級コミュニケーション英語	1.2.3.4①～②③～④		2			○							10	メディア
		上級コミュニケーション英語	1.2.3.4①～②③～④		2			○							6	メディア
		TOEFL iBT Preparation I	1.2.3.4①～②③～④		2			○							2	
		TOEFL iBT Preparation II	1.2.3.4①～②		2			○							2	メディア
		IELTS Preparation I	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		IELTS Preparation II	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		実践コミュニケーション英語 II	1③～④		1			○							5	
		中級C A L L (留学準備)	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	メディア
		中級EAP (Listening & Speaking)	2.3.4①～②③～④		2			○							2	
		中級EAP (Writing)	2.3.4①②③～④		2			○							2	
		上級EAP (Writing)	2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		中級EAP (Reading: Term Course)	2.3.4①		1			○							1	
		中級EAP (Listening & Speaking: Term Course)	2.3.4①②		1			○							1	
		上級EAP (Reading)	2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		中級EAP (Reading)	2.3.4①～②③～④		2			○							2	
		上級EAP (Listening & Speaking)	2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		iStep Extension: Academic Writing	1.2③～④		2			○							1	
		iStep Extension: Basic Pronunciation	1.2③～④		2			○							1	
		iStep Academic Writing	1.2②		0.5			○							1	
		iStep Extension: Academic Listening & Speaking	1.2③～④		2			○							2	
		iStep Extension: Academic Reading	1.2③～④		2			○							1	
		iStep Extension: Presentation	1.2③～④		2			○							1	
		iStep Presentations	1.2②		0.5			○							1	
		iStep Extension: Oral Communication	1.2③～④		2			○							1	
		iStep Academic Reading	1.2②		0.5			○							1	
		iStep Listening and Speaking	1.2②		0.5			○							1	
		英語表現セミナーA	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		英語表現セミナーB	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		英語表現セミナーC	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		実践英語セミナー	1.2.3.4①～②③～④		2			○							1	
		医療英語 (看護)	1.2.3.4①～②		2			○							5	オムニバス
		医療英語 (放射)	1.2.3.4①～②		2			○							14	オムニバス
		医療英語 (検査)	1.2.3.4①～②		2			○							15	オムニバス
		医療英語ベーシック (放射)	1.2.3.4③～④		2			○							7	オムニバス
		P.A.C.E. (Academic Listening & Speaking)	1.2.3.4①		0.5			○							2	
		P.A.C.E. (Academic Reading I)	1.2.3.4①		0.5			○							2	
		P.A.C.E. (Academic Writing I)	1.2.3.4①		0.5			○							2	
		P.A.C.E. (Oral Communication)	1.2.3.4①		0.5			○							2	
		P.A.C.E. (Academic Writing II)	1.2.3.4②		0.5			○							2	
		P.A.C.E. (Academic Reading II)	1.2.3.4②		0.5			○							2	
		P.A.C.E. (Research Writing)	1.2.3.4③～④		1			○							2	
		P.A.C.E. (Academic Communication Skills)	1.2.3.4③～④		1			○							1	
		P.A.C.E. (Presentation Skills)	1.2.3.4③～④		1			○							1	
	小計 (47科目)	—	—	0	69	0	—		0	0	0	0	0	81		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員	
教養教育に関する授業科目	初修外国語	ドイツ語圏グローバル理解 1 (スイス学入門)	1. 2①②		1		○								1	メディア
		ドイツ語圏グローバル理解 2 (ドイツ語文化圏研究入門)	1. 2①②		1		○								1	メディア
		ドイツ語圏グローバル理解 3 (ドイツ語圏で暮らしてみれば)	1. 2①②		1		○								1	
		ドイツ語圏グローバル理解 4 (東西ドイツの分断と統一って?)	1. 2①②		1		○								1	
		ドイツ語圏グローバル理解 5 (映像で見る日独文化比較)	1. 2①②		1		○								1	
		フランス語圏グローバル理解 1	1. 2①②		1		○								1	
		フランス語圏グローバル理解 2	1. 2①②		1		○								1	
		フランス語圏グローバル理解 3	1. 2①②		1		○								1	
		ロシア語圏グローバル理解 1	1. 2①②		1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 1 (日中韓比較文化)	1. 2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 2 (映像で探る中国文化)	1. 2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 3 (多民族国家中国)	1. 2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 4 (漢文と中国語)	1. 2③④		1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 5 (中国の生活と経済)	1. 2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 6 (中国滞在事情)	1. 2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 7 (エリアスタディーズ北京)	1. 2①②		1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 8 (エリアスタディーズ上海)	1. 2①②		1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 9 (エリアスタディーズ東北)	1. 2①②		1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 10 (中国語の基礎知識)	1. 2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 11 (中国語の基礎知識)	1. 2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 12 (中国語の基礎知識)	1. 2③④		1		○								1	
		朝鮮語圏グローバル理解 1	1. 2①②		1		○								1	メディア
		朝鮮語圏グローバル理解 2	1. 2①②		1		○								1	メディア
		スペイン語圏グローバル理解 1	1. 2①②		1		○								1	
		イタリア語圏グローバル理解 1	1. 2①②		1		○								1	メディア
		古代ローマ帝国ラテン語	1. 2. 3. 4①		1		○								1	メディア
		古典古代ギリシア語	1. 2. 3. 4②		1		○								1	メディア
		西洋古典文芸 A	1. 2. 3. 4①		1		○								1	
		西洋古典文芸 B	1. 2. 3. 4②		1		○								1	
		フィリピン語圏グローバル理解 1	1. 2①②		1		○								1	
		ドイツ語インテンシブ IA	1. 2①		2			○							4	オムニバス
		ドイツ語インテンシブ IB	1. 2②		2			○							4	オムニバス
		ドイツ語スタンダード IA	1. 2①	1. 5				○							5	オムニバス
		ドイツ語スタンダード IB	1. 2②	1. 5				○							5	オムニバス
		コミュニケーション・ドイツ語A	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語B	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語C	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		ドイツ語セミナーA	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		ドイツ語セミナーB	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		ドイツ語インテンシブ II	1. 2③～④		4			○							4	オムニバス
		ドイツ語スタンダード II	1. 2③～④		3			○							5	オムニバス
		ドイツ語エッセンシャル A	1. 2③～④		2			○							2	
		ドイツ語エッセンシャル B1	1. 2③～④		1			○							2	
		コミュニケーション・ドイツ語D	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語E	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語F	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		ドイツ語セミナーC	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		ドイツ語セミナーD	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		フランス語インテンシブ IA	1. 2①		2			○							3	オムニバス
		フランス語インテンシブ IB	1. 2②		2			○							3	オムニバス
		フランス語スタンダード IA	1. 2①		1. 5			○							5	メディア、オムニバス
		フランス語スタンダード IB	1. 2②		1. 5			○							5	メディア、オムニバス

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員	
教養教育に関する授業科目	初修外国語	コミュニケーション・フランス語B	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・フランス語C	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語D	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語E	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語J	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		フランス語セミナーA	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア
		フランス語インテンシブ II	1. 2③～④		4			○							3	オムニバス
		フランス語スタンダード II	1. 2③～④		3			○							5	メディア、オムニバス
		フランス語エッセンシャル A	1. 2③～④		2			○							2	
		フランス語エッセンシャル B	1. 2③～④		1			○							2	
		フランス学アクティブ	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語G	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語H	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・フランス語K	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		フランス語セミナーB	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	メディア
		ロシア語インテンシブ IA	1. 2①		2			○							2	オムニバス
		ロシア語インテンシブ IB	1. 2②		2			○							2	オムニバス
		ロシア語スタンダード IA	1. 2①		1. 5			○							2	オムニバス
		ロシア語スタンダード IB	1. 2②		1. 5			○							2	オムニバス
		コミュニケーション・ロシア語A	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・ロシア語B	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		ロシア語セミナーA	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		ロシア語ベーシックプラスA	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		ロシア語インテンシブ II	1. 2③～④		4			○							2	オムニバス
		ロシア語スタンダード II	1. 2③～④		3			○							2	オムニバス
		ロシア語エッセンシャル A	1. 2③～④		2			○							2	オムニバス
		ロシア語エッセンシャル B	1. 2④		1			○							1	メディア
		コミュニケーション・ロシア語C	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	メディア
		ロシア語セミナーB	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	メディア
		中国語インテンシブ IA	1. 2①		2			○							6	メディア、オムニバス
		中国語インテンシブ IB	1. 2②		2			○							6	メディア、オムニバス
		中国語スタンダード IA	1. 2①		1. 5			○							11	メディア
		中国語スタンダード IB	1. 2②		1. 5			○							11	
		コミュニケーション・中国語A	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・中国語B	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・中国語C	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・中国語J	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・中国語M	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		中国語セミナーE	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		中国語セミナーF	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		中国語セミナーQ	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		中国語インテンシブ II	1. 2③～④		4			○							6	オムニバス
		中国語スタンダード II	1. 2③～④		3			○							11	メディア、オムニバス
		中国語エッセンシャル A (発音・文法)	1. 2③～④		2			○							4	オムニバス
		中国語エッセンシャル B (練習・会話)	1. 2③～④		1			○							1	
		コミュニケーション・中国語D	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・中国語E	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・中国語F	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・中国語K	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	メディア
		上海語演習	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		中国語セミナーG	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		中国語セミナーH	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		中国語セミナーN	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		朝鮮語インテンシブ IA	1. 2①		2			○							2	オムニバス
		朝鮮語インテンシブ IB	1. 2②		2			○							2	オムニバス
		朝鮮語スタンダード IA	1. 2①		1. 5			○							2	メディア、オムニバス
		朝鮮語スタンダード IB	1. 2②		1. 5			○							2	メディア、オムニバス
		コミュニケーション・朝鮮語I	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語J	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語K	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語H	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員	
教養教育に関する授業科目	朝鮮語セミナーA	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	メディア
	朝鮮語インテンシブ II	1. 2③～④			4			○							3	オムニバス
	朝鮮語スタンダード II	1. 2③～④			3			○							2	メディア、オムニバス
	朝鮮語エッセンシャル A	1. 2③～④			2			○							1	
	朝鮮語エッセンシャル B	1. 2③～④			1			○							1	
	コミュニケーション・朝鮮語L	1. 2. 3. 4③～④			2			○							1	メディア
	コミュニケーション・朝鮮語X	1. 2. 3. 4③～④			2			○							1	
	朝鮮語セミナーB	1. 2. 3. 4③～④			2			○							1	メディア
	スペイン語スタンダード IA	1. 2①			1.5			○							1	
	スペイン語スタンダード IB	1. 2②			1.5			○							1	
	スペイン語スタンダード III	1. 2①～②			1			○							1	
	コミュニケーション・スペイン語A	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	
	スペイン語セミナーA	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	
	スペイン語スタンダード II	1. 2③～④			3			○							1	
	スペイン語スタンダード IV	1. 2③～④			1			○							1	
	スペイン語エッセンシャル A	1. 2③～④			2			○							1	
	スペイン語エッセンシャル B	1. 2③～④			1			○							1	
	コミュニケーション・スペイン語B	1. 2. 3. 4③～④			2			○							1	
	イタリア語スタンダード IA	1. 2①			1.5			○							2	メディア、オムニバス
	イタリア語スタンダード IB	1. 2②			1.5			○							2	メディア、オムニバス
	イタリア語スタンダード III	1. 2①～②			1			○							1	メディア
	コミュニケーション・イタリア語A	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	メディア
	イタリア語スタンダード II	1. 2③～④			3			○							2	メディア、オムニバス
	イタリア語スタンダード IV	1. 2③～④			1			○							1	メディア
	コミュニケーション・イタリア語B	1. 2. 3. 4③～④			2			○							1	メディア
	古代エジプト神聖文字A	1. 2. 3. 4③			1			○							1	メディア
	古代エジプト神聖文字B	1. 2. 3. 4④			1			○							1	メディア
	フィリピン語エッセンシャル A	1. 2③～④			2			○							1	
	フィリピン語エッセンシャル B	1. 2③～④			1			○							1	
	小計 (142科目)	—	—	0	251	0	—			0	0	0	0	0	54	
健康・スポーツ	健康スポーツ科学実習 Ia	1. 2. 3. 4①			0.5				○						2	
	健康スポーツ科学実習 Ib	1. 2. 3. 4②			0.5				○						2	
	健康スポーツ科学実習 I	1. 2. 3. 4①～②③～④			1				○						16	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II (ゴルフ)	1. 2. 3. 4①～②			1				○						3	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II (ソフトボール)	1. 2. 3. 4①～②			1				○						1	
	健康スポーツ科学実習 II (スキー I)	1. 2. 3. 4③～④			1				○						8	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II (スキー II)	1. 2. 3. 4③～④			1				○						8	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II (卓球 II)	1. 2. 3. 4③～④			1				○						1	
	健康スポーツ科学実習 II (卓球 I)	1. 2. 3. 4③～④			1				○						1	
	健康スポーツ科学実習 II (剣道)	1. 2. 3. 4③～④			1				○						1	
	健康スポーツ科学実習 II (トレーニング)	1. 2. 3. 4③～④			1				○						1	
	健康スポーツ科学実習 II (野外活動)	1. 2. 3. 4③～④			1				○						1	
	健康スポーツ科学講義a	1. 2. 3. 4①③			1		○								4	オムニバス
	健康スポーツ科学講義b	1. 2. 3. 4②④			1		○								4	オムニバス
	健康スポーツ科学講義	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	オムニバス
	小計 (15科目)	—	—	0	15	0	—			0	0	0	0	0	26	
情報リテラシー	データサイエンス基礎演習	1. 2. 3. 4①②③④			2			○							10	
	データサイエンス総論 I	1. 2. 3. 4①③			1		○			1					6	オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門 (力学分野)	1. 2. 3. 4①			2		○								2	※演習、オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門 (化学材料分野)	1. 2. 3. 4①			2		○								2	※演習、オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門 (融合領域分野)	1. 2. 3. 4①			2		○								2	※演習、オムニバス
	情報リテラシー概論	1. 2. 3. 4①			2		○								6	オムニバス
	データサイエンス総論 II	1. 2. 3. 4②④			1		○			1					6	オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門 (情報電子分野)	1. 2. 3. 4②			2		○								3	※演習、オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門 (建築分野)	1. 2. 3. 4②			2		○								2	※演習、オムニバス
	情報リテラシー	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員		
教養教育に関する科目	情報リテラシー	情報処理概論AⅠ	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	オムニバス	
		人工知能入門	1. 2. 3. 4①～②		2		○								2		
		データサイエンス・インターンシップ （事前・事後指導）	1. 2. 3. 4①～②		2			○		1							
		データサイエンス・インターンシップ	1. 2. 3. 4①～②		6			○		1							
		情報処理概論AⅡ	1. 2. 3. 4③～④		2		○							1			
		データサイエンス発表	1. 2. 3. 4③～④		2			○		1							
		サイバーセキュリティと情報倫理	1. 2. 3. 4①		2		○							1			
		小計（17科目）	—	—	0	36	0	—		1	0	0	0	0	32		
	新潟大学個性化科目	日本酒学C	1. 2. 3. 4②			1		○								5	オムニバス
		日本酒学A	1. 2. 3. 4①～②			2		○							1	3	オムニバス
		キャリアデザイン	1. 2. 3. 4①～②			2		○								3	オムニバス
		SDGs入門演習	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	メディア
		新潟産業フィールドワーク	1. 2. 3. 4①～②			4		○								2	※演習、オムニバス
		新潟の農林業	1. 2. 3. 4③			2		○								11	メディア、オムニバス
		食と健康の科学	1. 2. 3. 4④			2		○								13	オムニバス
		土と水	1. 2. 3. 4④			2		○								14	オムニバス
		近世越後諸地域の歴史と社会	1. 2. 3. 4③～④			2		○								5	オムニバス
SDGs入門		1. 2. 3. 4③～④			2		○			1					4	オムニバス	
地域を探索		1. 2. 3. 4③～④			2		○					1	13		13	オムニバス	
日本酒学B		1. 2. 3. 4①～④			1		○						1	8		8	オムニバス
ダブルホーム活動入門Ⅰ		1. 2. 3. 4①			1		○							3		3	※演習、オムニバス
生まれ変わる地方小都市ー人とまちの未来図を描くー		1. 2. 3. 4①			2			○						1		1	メディア
自己・他者理解から始まるキャリア自律		1. 2. 3. 4①～②			2		○							2		2	※演習、オムニバス
仕事・業界理解から働く意味を探究する		1. 2. 3. 4③			2		○							2		2	※演習、オムニバス
ダブルホーム活動入門Ⅱ		1. 2. 3. 4②			1			○						3		3	メディア、オムニバス
ボランティア開発論Ⅰ		1. 2. 3. 4①～②			2		○							2		2	オムニバス
コミュニティ開発論Ⅰ		1. 2. 3. 4①～②			2		○							2		2	オムニバス
地域から文化を考える		1. 2. 3. 4①～②			2		○							5		5	※実験・実習、オムニバス
学校支援フィールドワークA（小学校）		1. 2. 3. 4①～②			2			○						3		3	オムニバス
学校支援フィールドワークA（中学校）		1. 2. 3. 4①～②			2			○						3		3	オムニバス
学校支援フィールドワークA（高等学校）		1. 2. 3. 4①～②			2			○						3		3	オムニバス
学校支援フィールドワークB（小学校）		1. 2. 3. 4①～②			4			○						3		3	オムニバス
学校支援フィールドワークB（中学校）		1. 2. 3. 4①～②			4			○						3		3	オムニバス
授業フィールドワーク		1. 2. 3. 4①～②			2				○					2		2	オムニバス
現場訪問とデータから読み解く新潟の今ー新潟地域産業の可能性を探索ーⅠ		1. 2. 3. 4①～②			2				○					2		2	※実験・実習、オムニバス
生涯学習社会とメディア		1. 2. 3. 4③			2		○							1		1	
私のローカルキャリア論ー地域とかわる多様な働きかた・暮らしかたー		1. 2. 3. 4③			2		○							1		1	※演習、メディア
ボランティア開発論Ⅱ		1. 2. 3. 4③～④			2		○							2		2	オムニバス
コミュニティ開発論Ⅱ		1. 2. 3. 4③～④			2		○							2		2	オムニバス
現場訪問とデータから読み解く新潟の今ー新潟地域産業の可能性を探索ーⅡ		1. 2. 3. 4③～④			2				○					2		2	※実験・実習、オムニバス
地域共創演習Ⅲb		1. 2. 3. 4③～④			1			○						5		5	※講義、実験・実習、オムニバス
地方小都市の未来創造-市民と学生による地域づくりの実践		1. 2. 3. 4①～④			4			○						2		2	※実験・実習、オムニバス
地域共創演習Ⅰ		1. 2. 3. 4①～④			1			○						4		4	※講義、実験・実習、オムニバス
地域共創演習Ⅱa		1. 2. 3. 4①～④			1			○						5		5	※講義、実験・実習、オムニバス
地域共創演習Ⅱb		1. 2. 3. 4①～④			1			○						5		5	※講義、実験・実習 メディア、オムニバス
地域共創演習Ⅰb		1. 2. 3. 4①～④			1			○						2		2	※実験・実習、オムニバス
地域共創演習Ⅲa		1. 2. 3. 4①～②			1			○						5		5	※講義、実験・実習、オムニバス

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 (助手を除く) の教員	
教養教育に関する科目	新潟大学個性化科目															
	コミュニティインターンシップ実践	1. 2. 3. 4①～④			4			○							1	※実験・実習
	日本手話 A	1. 2. 3. 4①			2		○								4	オムニバス
	アクティブラーニング A	1. 2. 3. 4①②③④			1		○								1	
	アクティブラーニング C	1. 2. 3. 4①②③④			1		○								1	
	日本と外国人	1. 2. 3. 4①②③④			1		○								1	メディア
	ユーザのための数学 I	1. 2. 3. 4①			2			○							1	
	教員志望者のための日本語教育入門 A	1. 2. 3. 4①			1		○								1	
	分野横断デザイン	1. 2. 3. 4①②③④			1		○								5	※演習、オムニバス
	分野横断リフレクション	1. 2. 3. 4①②③④			1		○								5	※演習、オムニバス
	多文化間共修 A1	1. 2. 3. 4①③			1		○								1	
	多文化間共修 B1	1. 2. 3. 4①③			1		○								1	
	多文化間共修 C1	1. 2. 3. 4①③			1		○								1	メディア
	多文化間共修 D1	1. 2. 3. 4①③			1		○								1	
	リーダーシップ演習 II 1	1. 2. 3. 4①			1			○							3	オムニバス
	リーダーシップ演習 III 1	1. 2. 3. 4①			1			○							3	オムニバス
	アクティブラーニング B	1. 2. 3. 4②④			1		○								1	
	日本手話 B	1. 2. 3. 4②			2		○								4	オムニバス
	1・2 年生対象 長期・企業実践型プログラム I	1. 2. 3. 4②			2			○							2	オムニバス
	税のしくみから社会を考える	1. 2. 3. 4②			2		○								7	オムニバス
	教員志望者のための日本語教育入門 B	1. 2. 3. 4②			1		○								1	
	地域災害環境システム学入門	1. 2. 3. 4②			1		○			1					5	オムニバス
	中国留学準備講座 サマーセミナー中国入門	1. 2. 3. 4②			1		○								2	オムニバス
	多文化間共修 A2	1. 2. 3. 4②④			1		○								1	
	多文化間共修 B2	1. 2. 3. 4②④			1		○								1	
	多文化間共修 C2	1. 2. 3. 4②④			1		○								1	メディア
	多文化間共修 D2	1. 2. 3. 4②④			1		○								1	
	リーダーシップ演習 II 2	1. 2. 3. 4②			1			○							3	オムニバス
	リーダーシップ演習 III 2	1. 2. 3. 4②			1			○							3	オムニバス
	新聞を体験するー新潟日報との連携授業ー	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	オムニバス
	平和を考える A	1. 2. 3. 4①～②			2		○								5	オムニバス
	パフォーマンスの外国語	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーション A	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	国際共修：留学生との協働学習を通じた異文化理解 A	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	International Relations in the Asia-Pacific	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	※演習
	Regionalism in the Asia-Pacific Region	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	※演習
	Chinese Politics and Diplomacy	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	生命保険を考える	1. 2. 3. 4①～②			2		○								8	オムニバス
	ストレスマネジメント	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	※演習
	パーソナルファイナンス論	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	学生がデザインする働き方の未来ー人生100年時代のワークスタイルを創造するー	1. 2. 3. 4②～③			2		○								1	※演習
	学問の扉 知と方法の最前線	1. 2. 3. 4③～④			1		○						1		12	メディア、オムニバス
	平和と現代のグローバル安全保障論	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	中東イスラーム言語文化入門	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	大学生のための役に立つ育児学	1. 2. 3. 4①～②			1		○								7	オムニバス
	朱鷺・自然再生フィールドワーク	1. 2. 3. 4①～②			1				○	1					3	オムニバス
	1・2 年生対象 長期・企業実践型プログラム II	1. 2. 3. 4①～②			4				○						2	オムニバス
	表現プロジェクト演習 Q	1. 2. 3. 4①～②			2			○							2	オムニバス
	異文化と技術	1. 2. 3. 4①～②③～④			1		○								7	オムニバス
	研究者の仕事と生活	1. 2. 3. 4①～②			1		○				1				5	メディア、オムニバス
	地理情報システム (GIS) 概論・演習	1. 2. 3. 4①～②			2			○							3	オムニバス
	森・里・海フィールド実習	1. 2. 3. 4①～②			1				○	2	1		1		4	オムニバス
	開発・環境と平和	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員	
教養教育に関する科目	新潟大学個性化科目															
	西シドニー大学国際交流プログラムA	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	韓国サマースクール I	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	西シドニー大学国際交流プログラムB	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-W	1.2.3.4①～②			4		○								1	
	カナダ・サマーセミナー	1.2.3.4①～②			4			○							1	
	オタゴ大学英語研修	1.2.3.4①～②			4			○							1	
	新潟の企業の魅力を探る	1.2.3.4①～②③～④			1				○						1	
	1・2年生対象 長期・企業実践型プログラム I (集中・短縮版)	1.2.3.4①～②			1			○							2	オムニバス
	1・2年生対象 長期・企業実践型プログラム II (短縮版)	1.2.3.4①～②			2				○						2	オムニバス
	オンライン国際共修型プロジェクトワーク	1.2.3.4①～②			1		○								6	※演習、メディア、オムニバス
	韓国サマーセミナー I	1.2.3.4①～②			2			○							1	
	平和学概論	1.2.3.4③			2		○								1	
	表現プロジェクト演習T	1.2.3.4③			2			○							1	
	地域災害環境システム学演習	1.2.3.4③			1			○		1					5	オムニバス
	トキをシンボルとした自然再生	1.2.3.4③			2		○			1					8	オムニバス
	キャリア形成と法制度	1.2.3.4③			2		○								1	
	表現プロジェクト演習G	1.2.3.4③			2			○							1	
	ユーザのための数学II	1.2.3.4③			2			○							1	
	教員志望者のための日本語教育入門 C	1.2.3.4③			1		○								1	
	国際共修：留学生と考える日中言語文化A	1.2.3.4③			1		○								1	
	西洋カリグラフィーA	1.2.3.4③			1		○								1	メディア
	リーダーシップ演習II3	1.2.3.4③			1			○							3	オムニバス
	教員志望者のための日本語教育入門 D	1.2.3.4④			1		○								1	
	大学生生活戦略論ーキャンパス内外を「越境」する学び・経験ー	1.2.3.4④			2		○								1	
	シンガポール・スプリングセミナー留学プログラムの準備講座：グローバル対応力育成・強化	1.2.3.4④			1		○								2	※演習、オムニバス
	オックスフォード大学英語研修 (OSS 留学プログラム) の準備講座：グローバル対応力育成・強化	1.2.3.4④			1			○							3	オムニバス
	西洋カリグラフィーB	1.2.3.4④			1		○								1	メディア
	佐渡学概論：佐渡島の自然と人々の営み	1.2.3.4④			2		○			2					2	オムニバス
	リーダーシップ演習 I	1.2.3.4④			1			○							3	オムニバス
	リーダーシップ演習II4	1.2.3.4④			1			○							3	オムニバス
	ピアサポート入門	1.2.3.4③～④			2		○								2	※演習、オムニバス
	表現プロジェクト演習H	1.2.3.4③～④			2			○							2	オムニバス
	平和を考えるB	1.2.3.4③～④			2		○				2			1	6	オムニバス
	国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションB	1.2.3.4③～④			2		○								1	
	国際共修：留学生との協働学習を通じた異文化理解B	1.2.3.4③～④			2		○								1	
	The China-Japan-US Trilateral Relations	1.2.3.4③～④			2		○								1	※演習
	グローバル課題を理解する対応力の基礎講座	1.2.3.4③～④			2		○								1	※演習
	現代社会と差別	1.2.3.4③～④			2		○								1	※演習
	地理情報システム (GIS) 概論・応用演習	1.2.3.4③～④			2			○		1					1	オムニバス
	オックスフォード大学英語研修	1.2.3.4③～④			2			○							1	
	台湾スプリングセミナー I	1.2.3.4③～④			2		○			3	3					オムニバス
	台湾スプリングセミナー II	1.2.3.4③～④			2		○			3	3					オムニバス
	シンガポール・スプリングセミナー	1.2.3.4③～④			2			○							1	
	多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-S	1.2.3.4③～④			4		○								1	
	フィリピンALLC英語研修	1.2.3.4③～④			4			○							1	
	佐渡自然共生国際実習	1.2.3.4①～④			2				○	1	1		1		3	オムニバス
	地域共創特別演習(岩室)	1.2.3.4①～④			2			○							1	
	地域共創特別演習IA (刈羽&東京)	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
	地域共創特別演習IB (刈羽&東京)	1.2.3.4③～④			2			○							3	オムニバス
	小計 (140科目)	—	—	0	250	0	—	—	—	7	6	0	2	1	187	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外を除く教員	
教養教育に関する科目	英語による日本語文法解説a	1. 2. 3. 4①			1		○								1	メディア、オムニバス
	中国語による日本語文法解説a	1. 2. 3. 4①			1		○								1	
	日本語Ⅰ	1. 2. 3. 4①③			2			○							2	
	日本語Ⅲ	1. 2. 3. 4①③			2			○							1	
	英語による日本語文法解説b	1. 2. 3. 4②			1		○								1	メディア
	中国語による日本語文法解説b	1. 2. 3. 4②			1		○								1	
	日本語Ⅱ	1. 2. 3. 4②④			2			○							1	
	日本語Ⅳ	1. 2. 3. 4②④			2			○							1	
	JLPT-N1 A	1. 2. 3. 4①～②			1			○							1	メディア
	JLPT-N2 A	1. 2. 3. 4①～②			1			○							1	
	日本語作文Ⅰ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語作文Ⅱ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語作文Ⅲ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語作文Ⅳ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅰ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅱ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅲ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅳ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅴ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅵ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語入門	1. 2. 3. 4①～②③～④			3			○							2	
	日本語Ⅴ	1. 2. 3. 4①～②③～④			4			○							1	
	日本語Ⅵ	1. 2. 3. 4①～②			5			○							1	
	英語による日本語文法解説c	1. 2. 3. 4③			1		○								1	
	中国語による日本語文法解説c	1. 2. 3. 4③			1		○								1	
	英語による日本語文法解説d	1. 2. 3. 4④			1		○								1	
	中国語による日本語文法解説d	1. 2. 3. 4④			1		○								1	
	JLPT-N1 C	1. 2. 3. 4③～④			1			○							1	オムニバス
	集中日本語O F	1. 2. 3. 4③～④			5			○							3	
	集中日本語O G	1. 2. 3. 4③～④			5			○							3	
	集中日本語O H	1. 2. 3. 4③～④			5			○							3	
	日本語Ⅶ	1. 2. 3. 4③～④			5			○							1	メディア
	日本文化入門Ⅰ	1. 2. 3. 4①②③④			1			○							1	
	日本文化入門Ⅱ	1. 2. 3. 4①②③④			1			○							1	
	日本事情自然系A	1. 2. 3. 4①～②			2		○			3	3	1	2			
	課題研究Ⅱ	1. 2. 3. 4①～②			2			○							4	オムニバス
	ビジネス日本語	1. 2. 3. 4①～②③～④			2		○								1	
	日本で働く	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	日本事情社会系A	1. 2. 3. 4③～④			2		○								3	
	日本事情自然系B	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	メディア、オムニバス
	課題研究Ⅰ	1. 2. 3. 4③～④			2			○							4	
	小計（41科目）	—	—	0	77	0	—	—	—	3	3	1	2	0	19	
大学 学習 法	人文初年次演習	1. 2. 3. 4①～②			2			○							11	オムニバス
	スタディ・スキルズA	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	
	スタディ・スキルズB	1. 2. 3. 4①			2			○							8	
	スタディ・スキルズC	1. 2. 3. 4①～②			2			○							3	
	スタディ・スキルズE	1. 2. 3. 4①～②			2			○							5	
	スタディ・スキルズF	1. 2. 3. 4①～②			2			○							5	
	スタディ・スキルズG	1. 2. 3. 4①～②			2			○							6	
	スタディ・スキルズH	1. 2. 3. 4①～②			2			○							4	
	スタディ・スキルズI	1. 2. 3. 4①			2			○							3	
	スタディ・スキルズK	1. 2. 3. 4①～②			2			○							5	
	スタディ・スキルズL	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	
	スタディ・スキルズM	1. 2. 3. 4①			2			○							6	
	スタディ・スキルズN	1. 2. 3. 4①～②			2			○							6	
	スタディ・スキルズP	1. 2. 3. 4①～②			2			○							7	
	スタディ・スキルズ	1. 2. 3. 4①			2			○							13	
	スタディスキルズⅠ	1. 2. 3. 4①			1			○							10	
	スタディスキルズⅡ	1. 2. 3. 4③			1			○							18	
	スタディスキルズⅢ	1. 2. 3. 4④			1			○							2	
	スタディスキルズ（看護）	1. 2. 3. 4①			2			○							5	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 (助手を除く) の教員	
教養教育に関する科目	大学学習法	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	
	スタディスキルズ（放射）	1. 2. 3. 4①～②			2			○							14	オムニバス
	スタディスキルズ（検査）	1. 2. 3. 4①～②			2			○							8	オムニバス
	歯学スタディ・スキルズ	1. 2. 3. 4①～②			2			○							6	オムニバス
	歯学スタディ・スキルズⅡ	1. 2. 3. 4①～②			2			○							20	オムニバス
	工学リテラシー入門（力学分野）	1. 2. 3. 4①	○		2			○							20	※演習、オムニバス
	工学リテラシー入門（情報電子分野）	1. 2. 3. 4①	○		2		○								20	オムニバス
	工学リテラシー入門（化学材料分野）	1. 2. 3. 4①	○		2			○							12	オムニバス
	工学リテラシー入門（建築分野）	1. 2. 3. 4①	○		2			○							8	オムニバス
	工学リテラシー入門（融合領域分野）	1. 2. 3. 4①	○		2			○							8	オムニバス
	スタディ・スキルズAⅠa	1. 2. 3. 4①			1			○							8	
	スタディ・スキルズAⅡa	1. 2. 3. 4③			1			○							8	
	スタディ・スキルズAⅠb	1. 2. 3. 4①			1			○							8	
	スタディ・スキルズAⅡb	1. 2. 3. 4③			1			○							8	
	スタディ・スキルズAⅠc	1. 2. 3. 4①			1			○							8	
	スタディ・スキルズAⅡc	1. 2. 3. 4③			1			○							8	
	小計（34科目）	—	—	0	59	0	—			0	0	0	0	0	223	
自然科学系共通専門基礎	解析学基礎1	1. 2. 3. 4①			1		○						1			
	解析学基礎2	1. 2. 3. 4②			1		○						1			
	数学基礎A1	1. 2. 3. 4①③			1		○			1			1		1	オムニバス
	数学基礎A2	1. 2. 3. 4②④			1		○			1			1		1	オムニバス
	数学基礎B1	1. 2. 3. 4①③			1		○			3			1			オムニバス
	数学基礎B2	1. 2. 3. 4②④			1		○			3			1			オムニバス
	統計学基礎1	1. 2. 3. 4①③			1		○				1				2	オムニバス
	統計学基礎2	1. 2. 3. 4②④			1		○				1				2	オムニバス
	物理学基礎AⅠ	1. 2. 3. 4①①～②			2		○			2						オムニバス
	物理学基礎BⅠ	1. 2. 3. 4①②①～②			2		○			2	1				3	オムニバス
	物理学基礎CⅠ	1. 2. 3. 4①～②			2		○				1					
	物理学概論	1. 2. 3. 4①～②③～④			2		○				1				1	オムニバス
	化学基礎A	1. 2. 3. 4①②③			2		○			4	1					オムニバス
	化学基礎B	1. 2. 3. 4①②④			2		○			3						オムニバス
	生物学基礎A	1. 2. 3. 4①②①～②③			2		○			2	3					オムニバス
	生物学基礎B	1. 2. 3. 4①②③③～④			2		○			1	4					オムニバス
	地学基礎A	1. 2. 3. 4①③			2		○				1	1				オムニバス
	地学基礎B	1. 2. 3. 4①			2		○				2					オムニバス
	物理学基礎AⅡ	1. 2. 3. 4③～④			2		○				1					
	物理学基礎BⅡ	1. 2. 3. 4④			2		○			2	1				1	オムニバス
	物理学基礎CⅡ	1. 2. 3. 4③～④			2		○				1					
	地学基礎C	1. 2. 3. 4④			2		○			1						
	小計（22科目）	—	—	0	36	0	—			20	19	1	2	0	6	
自然科学	リメディアル数学I	1. 2. 3. 4①			1		○								4	オムニバス
	基礎数理AⅠ	1. 2. 3. 4②④			2		○								5	オムニバス
	物理学への招待A	1. 2. 3. 4②			2		○				1					
	生物学実験	1. 2. 3. 4②			1				○	4	3					オムニバス
	基礎雪氷学	1. 2. 3. 4②			2		○			3					2	オムニバス
	リメディアル数学IⅡ	1. 2. 3. 4②			1		○								4	オムニバス
	生物学－植物A－	1. 2. 3. 4②			2		○			1	1					オムニバス
	物理学基礎実験	1. 2. 3. 4①～②			2				○						3	オムニバス
	地学実験A	1. 2. 3. 4①～②			2				○		1					
	自然科学基礎実験	1. 2. 3. 4①～②			2				○	10	4		6			オムニバス
	量子研究の最前線	1. 2. 3. 4①～②			2		○			4	5			3	2	オムニバス
	数学の世界	1. 2. 3. 4③			2		○			1	3					オムニバス
	基礎数理B	1. 2. 3. 4③			2		○								5	オムニバス
	化学とSDGs	1. 2. 3. 4③			2		○			2	1					オムニバス
	社会を支える有機化学	1. 2. 3. 4③			2		○			1						
	生物学－動物A－	1. 2. 3. 4③			2		○			1						
	地学E（地球理解の諸相）	1. 2. 3. 4③			1		○				1					メディア
	地質学の基礎	1. 2. 3. 4③			2		○			1						
	地学実験B	1. 2. 3. 4③			1				○	1						
	基礎数理AⅡ	1. 2. 3. 4④			2		○								5	オムニバス
	生物学－生物多様性A－	1. 2. 3. 4④			2		○						2			オムニバス
	地学概論A	1. 2. 3. 4①④			2		○			1	1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員	
教養教育に関する科目	自然科学	地球と気象	1. 2. 3. 4④		2		○			1						オムニバス
		地学C（マグマと火山）	1. 2. 3. 4④		1		○								2	
		物理学への招待B	1. 2. 3. 4③～④		2		○			1						
		生活の化学	1. 2. 3. 4③～④		2		○			1						
		地学概論	1. 2. 3. 4③～④		2		○			1						
		最先端技術を支える化学 I	1. 2. 3. 4①		2		○								9	
		都市インフラを考える	1. 2. 3. 4①		2			○							1	
		原子力・放射線物理学入門	1. 2. 3. 4①		1		○				1					
		原子力・放射線防護学入門	1. 2. 3. 4①		1		○				1				1	
		生活を支える化学技術－化学工学への招待－	1. 2. 3. 4②		2		○								2	
		原子力入門	1. 2. 3. 4②		1		○								1	
		原子力・放射線関連法規入門	1. 2. 3. 4②		1		○				1				1	
		くらしを支える機械システム工学	1. 2. 3. 4③		2		○								13	
		材料科学概論	1. 2. 3. 4③		2		○								15	
		放射性廃棄物処理法	1. 2. 3. 4①		1		○								1	
		安全工学基礎	1. 2. 3. 4④		2		○			1						
		化学実験	1. 2. 3. 4③～④		2				○						6	
		特許・経営および製品開発入門	1. 2. 3. 4①		2		○								8	
		放射線入門と実習	1. 2. 3. 4①～④		1				○						2	
		原子力の未来と災害を考える	1. 2. 3. 4①～④		1		○			1					2	
		特許と技術経営I	1. 2. 3. 4①～②		1		○								2	
		特許と技術経営II	1. 2. 3. 4③～④		1		○								3	
		農業資源を知る	1. 2. 3. 4①		2		○								8	
		生命を知る	1. 2. 3. 4①		2		○								13	
		生態系を知る	1. 2. 3. 4②		2		○								9	
		農業DXを知る	1. 2. 3. 4①～②		1		○								1	
		医学物理学入門	1. 2. 3. 4③		1		○				1		1		6	
		小計（49科目）	—	—	0	81	0	—	—	23	23	0	6	0	102	
人文社会・教育科学	歴史学 I	1. 2. 3. 4①			2		○								1	オムニバス
	メディアの記号論	1. 2. 3. 4①③			2		○								1	
	実験心理学と応用	1. 2. 3. 4①			2		○								1	
	英語基礎 L	1. 2. 3. 4①①～②			1			○							17	
	技術日本語演習	1. 2. 3. 4②			2			○							1	
	人文系フロンティア	1. 2. 3. 4②			4		○								20	
	現代日本と伝統文化	1. 2. 3. 4②③④			2		○								1	
	歴史学Q	1. 2. 3. 4②			2		○								1	
	英語基礎 R	1. 2. 3. 4②①～②			1			○							14	
	心理学	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	日本語教育 I－A	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	少数民族の言語と文化	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	教養の心理学	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	音と音楽をめぐる科学と教養	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	心と社会	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	哲学	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	
	生涯学習概論	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	歴史学H	1. 2. 3. 4③			2		○								1	
	文学E	1. 2. 3. 4③			2		○								1	
	心理学概論	1. 2. 3. 4③			2		○								1	
	心と脳の科学リテラシー	1. 2. 3. 4③			2		○								1	
	現代社会論	1. 2. 3. 4③			2		○								1	
	人間関係論	1. 2. 3. 4③			2		○								1	
	現代社会と科学技術	1. 2. 3. 4③			2		○								1	
	文化人類学の方法－他者へのまなざし	1. 2. 3. 4③			2		○								1	
	アクターネットワークの社会学	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	歴史学O	1. 2. 3. 4③			2		○								1	
	中国語オブショナルA	1. 2. 3. 4③			2			○							1	
	意思決定のコミュニケーション論	1. 2. 3. 4④			2		○								1	
	つながりと絆の社会学	1. 2. 3. 4④			2		○								1	
	朝鮮語オブショナルB	1. 2. 3. 4③～④			2			○							1	
	音楽R	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員	
教養教育に関する科目	対人行動の心理学	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	セクシュアリティ・スタディーズ	1. 2. 3. 4③～④			2		○								8	オムニバス
	人文系展開科目D	1. 2. 3. 4③～④			2		○							1	13	オムニバス
	日本古典文学N	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	日本古典文学O	1. 2. 3. 4①			2		○								1	
	文学D	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	西洋哲学演習	1. 2. 3. 4③～④			2			○							1	
	演劇入門	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	現代思想論	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	人文系展開科目 I	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	日本語教育 I－B	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	教養教育としての教育学入門	1. 2. 3. 4③			2			○							1	
	精神疾患とその治療	1. 2. 3. 4②			2		○								1	メディア
	公認心理師の職責	1. 2. 3. 4②			1		○								3	オムニバス
	ビジネス書道入門	1. 2. 3. 4①～②③～④			2		○								1	
	音楽(ピアノ)	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	
	水彩画表現入門	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	メディア
	美術史	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	メディア
	人体の構造と機能及び疾病	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	オムニバス
	福祉心理学	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	オムニバス
	教養を考える	1. 2. 3. 4①～②			2		○	※							2	※演習、オムニバス
	司法・犯罪心理学	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	臨床心理学概論	1. 2. 3. 4④			2		○								1	メディア
	音楽E	1. 2. 3. 4③～④			2			○							1	
	日本文化論	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	音楽(作曲)	1. 2. 3. 4③～④			2			○							1	
	心理演習	1. 2. 3. 4③～④			2			○							4	オムニバス
	心理的アセスメント	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	関係行政論	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	健康生活環境論	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	メディア
	心理実習	1. 2. 3. 4①～④			2				○						3	オムニバス
	人文社会科学入門(法学)	1. 2. 3. 4①			2		○								3	オムニバス
	リーガル・システムA	1. 2. 3. 4①			2		○								3	オムニバス
	日本国憲法	1. 2. 3. 4①②③④			2		○								5	オムニバス
	リーガル・システム	1. 2. 3. 4②			2		○								3	オムニバス
	リーガル・システムB	1. 2. 3. 4②			2		○								3	オムニバス
	死因究明と法	1. 2. 3. 4③			2		○								5	オムニバス
	組織マネジメント論	1. 2. 3. 4①			2		○								1	
	マーケティングプロモーション入門	1. 2. 3. 4②			1		○								1	
	小計(71科目)	—	—	0	140	0	—	—	—	0	0	0	0	1	110	
医歯学	はじめての医学	1. 2. 3. 4②			1		○								2	オムニバス
	先端医科学研究概説	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	医学序説 I	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	医学論文を読む(ジャーナルクラブ) A	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	
	原子力と倫理	1. 2. 3. 4④			1		○								4	オムニバス
	医学序説 II	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	医学論文を読む(ジャーナルクラブ) B	1. 2. 3. 4③～④			2			○							1	
	健康と医学	1. 2. 3. 4③～④			2		○								5	オムニバス
	災害医療概論	1. 2. 3. 4①～④			1		○								1	
	原子力災害医療体制	1. 2. 3. 4①～④			1		○								1	※実験・実習
	災害医療ロジスティクス	1. 2. 3. 4①～④			1		○								1	
	「食べる」	1. 2. 3. 4①			2		○								14	オムニバス
	PBL入門	1. 2. 3. 4②			1		○								4	※演習、オムニバス
	健康福祉学入門	1. 2. 3. 4②			2		○								13	メディア、オムニバス
	新潟発福祉学	1. 2. 3. 4③			2		○								10	オムニバス
	顔	1. 2. 3. 4③～④			2		○								12	オムニバス
	小計(16科目)	—	—	0	26	0	—	—	—	0	0	0	0	0	58	

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(工学部工学科／機械システム工学プログラム) 【基礎学部】																		
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 (助手を除く) 教員以外の教員			
教養教育に 関する授業 科目	「工学部工学科／教養教育に 関する授業科目」のとお																	
専門教育に 関する授業科目	専 門 工 学 科 導 入 専 門 応 用 科 目 群	必修科目	総合工学概論	1①	○	2			○			12	2				オムニバス	
		総合技術科学演習	1②	○	2				○		7	10		4			オムニバス	
		技術者の心がまえ	1④	○	2				○			1					オムニバス	
		知的財産概論	1③	○	1				○			1				1	オムニバス	
		情報セキュリティ概論	1③	○	1				○		1	2				1	オムニバス	
		国際工学概論	2①②	○	1				○		1	3		1			オムニバス、標準外	
	特殊 選択科目		リメディアル演習	1①			1				○		1	3			オムニバス・共同 (一部)	
		小計 (7 科目)		—	—	9	1	0	—			16	17	0	5	0	2	—
	分野 導入	専 門 基 礎 科 目 群	選択必修科目	数物演習	1③	○		2				○		1	2			オムニバス
			物理工学実験	1④	○		1					○		4	7		2	共同
専 門 応 用 科 目 群		選択必修科目	機械工学概論	1③	○		2			○			4	7		2	共同	
		社会基盤工学概論	1④			2			○			3	3		1		オムニバス	
		材料力学入門	1④	○		2			○			2					オムニバス	
小計 (5 科目)		—	—	0	9	0	—			7	12	0	2	0	0	—		
機 械 シ ス テ ム 工 学 プ ロ グ ラ ム	専 門 基 礎 科 目 群	選択必修科目	応用数理A (ベクトル解析)	2①	○		2			○			1					
		応用数理B (常微分方程式)	2①			2			○			1						
		複素・フーリエ解析	2③			2			○				1					
	専 門 応 用 科 目 群	必修科目	材料力学Ⅰ	2①	○	2				○			1					
		流体工学Ⅰ	2②	○	2					○				1				
		工業力学	2①	○	2					○			1			1		オムニバス
		機械工作実習Ⅰ	2①	○	1							○		2				共同
		機械工作実習Ⅱ	2②	○	1							○		2				共同
		機械工作実習Ⅲ	2③	○	1							○		2				共同
		熱工学Ⅰ	2④	○	2					○			1					
		機械力学Ⅰ	2④	○	2					○			1					
		製図基礎	2④	○	2					○				1				
		設計製図Ⅰ	3①	○	1							○		1				
		機械工学実験Ⅰ	3①	○	1							○	4	7		2		共同
		設計製図Ⅱ	3②	○	1							○		1				
		機械工学実験Ⅱ	3②	○	1							○	4	7		2		共同
		設計製図Ⅲ	3③	○	1							○		2				オムニバス
		機械工学実験Ⅲ	3③	○	1							○	4	7		2		共同
		設計製図Ⅳ	3④	○	1							○		2				オムニバス
		機械工学実験Ⅳ	3④	○	1							○	4	7		2		共同
		卒業研修	4①～②	○	2							○	4	7		2		共同
		卒業研究	4③～④	○	6							○	4	7		2		共同

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
専門教育に関する授業	機械システム工学プログラム	機械設計Ⅰ	2①	○	2		○				1					共同
	選択必修科目	加工学	2②	○	2		○				1					
		材料力学Ⅱ	2③	○	2		○			1						
		流体工学Ⅱ	2③	○	2		○				1					
		機械設計Ⅱ	2③	○	2		○				1					
		熱工学Ⅱ	3①	○	2		○			1	1					
		機械材料	3②	○	2		○				1					
		機械力学Ⅱ	3①	○	2		○			1						
		システム制御Ⅰ	3③	○	2		○				1					
		機械工学演習	3③	○	2			○		4	4					オムニバス
		システム制御Ⅱ	3④	○	2		○				1					共同
		英文輪読Ⅰ	4①	○	2		○			4	7		2			
		英文輪読Ⅱ	4③	○	2		○			4	7		2			共同
	選択科目	エネルギー変換工学	3②		2		○			1						2
		マイクロマシン	3②		2		○			1						
		機械音響工学	3③		2		○				1					
		バイオメカニクス	3③		2		○									
		伝熱工学	3③		2		○			1	1					
		ロボット工学	3④		2		○				1		1			
		ソフトウェア工学	3④		2		○				1					
		先端研究入門	3④		2			○		4	7		2			
		技術英会話	4②		2		○				1					
		職業指導（工）	4②	○	2		○									1 標準外
		創造プロジェクト基礎	1③～④	○	2				○	1						※演習 標準外
		創造プロジェクトⅠ	2①～②	○	2				○	1						※演習 標準外
		創造プロジェクトⅡ	2③～④	○	2				○	1						※演習 標準外
		創造研究プロジェクトⅠ	3①～②	○	2				○	1						※演習 標準外
		創造研究プロジェクトⅡ	3③～④	○	2				○	1						※演習 標準外
		マーケット・インターンシップ	1・2・3・4①②③④	○	2				○	1						※演習 標準外
		テクノロジー・インターンシップ	1・2・3・4①②③④	○	2				○	1						※演習 標準外
		国際工学事情	1・2・3・4①②③④	○	1		○				1					※演習 標準外
		国際工学特論	1・2・3・4①②③④	○	2		○				1					標準外
		国際技術協力	1・2・3・4①②③④	○	1		○				1					1 オムニバス、標準外
		国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップA	1・2・3・4①②③④	○	2				○	1	1					オムニバス、標準外
		国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップB	1・2・3・4①②③④	○	3				○	1	1					オムニバス、標準外
		国際マーケット・グループワーク・インターンシップA	1・2・3・4①②③④	○	2				○	1	1					オムニバス、標準外
		国際マーケット・グループワーク・インターンシップB	1・2・3・4①②③④	○	3				○	1	1					オムニバス、標準外
	特殊選択科目	工場実習	1・2・3・4①②③④		2				○	1						標準外
		工場見学	1・2・3・4①②③④		1				○	1						標準外
		特別講義	1・2・3・4①②③④		1		○			1						標準外
		海外英語研修	1・2・3・4①②③④		4			○		1						標準外
		国際研修	1・2・3・4①②③④		1～4				○	1						標準外
	自由科目	単位互換協定に基づき修得した他大学開設科目							○	1						当該科目について定められている単位数
		特設講義							○	1						
小計（ 66 科目）		—	—	31	89～92	0	—	—	—	6	10	0	2	0	5	—
合計（ 78 科目）		—	—	40	99～102	0	—	—	—	20	18	0	5	0	7	—

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員 （助手を除く）	
学位又は称号		学士（工学）		学位又は学科の分野			工学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
（卒業要件） 教養系科目42単位以上（必修科目13単位、選択必修科目12単位以上、選択科目11単位以上。うち6単位は学部専門系科目でも可）、学部専門系科目82単位以上、合計124単位以上を修得すること。 （履修方法） 1．教養教育に関する科目として、大学学習法科目2単位、英語科目2単位、初修外国語科目2単位、健康・スポーツ科目1単位、情報リテラシー2単位、人文社会・教育科学科目4単位を必修として修得する。選択必修として情報リテラシー科目、自然系共通専門科目、自然科学科目のいずれかから10単位、人文社会・教育科学科目、新潟大学個性化科目のいずれかから2単位を修得する。選択科目として教養系科目全体の中から11単位を修得し、教養系科目で合計36単位を修得する。 2．専門教育に関する科目として、専門基礎科目群から5単位以上、専門応用科目群の必修科目40単位、選択必修科目22単位以上を含む合計82単位を履修する。 3．学部専門系科目または教養系科目（6単位以上）を修得し、1～3の合計で124単位以上を修得する。 （履修科目の登録の上限：56単位（年間） ※集中講義、副専攻、教職科目等については例外あり）							1 学年の学期区分			4ターム						
							1 学期の授業期間			8 週						
							1 時限の授業時間			9 0 分						

教 育 課 程 等 の 概 要																				
(工学部工学科／社会基盤工学プログラム) 【基礎学部】																				
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考				
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		基幹 教員(助手 を除く)			
教養教育に 関する授業 科目		「工学部工学科／教養教育に 関する授業科目」のとお																		
専 門 教 育 に 関 す る 授 業 科 目	工 学 科 導 入	必修科目 専門応用科目群	総合工学概論	1①	○	2			○			12	2				オムニバス			
			総合技術科学演習	1②	○	2					○		7	10		4		オムニバス		
			技術者の心がまえ	1④	○	2				○				1						
			知的財産概論	1③	○	1				○				1			1	オムニバス		
			情報セキュリティ概論	1③	○	1				○			1	2			1	オムニバス		
			国際工学概論	2①②	○	1				○			1	3		1		オムニバス、標準外		
		特殊選択科目		リメディアル演習	1①			1				○						オムニバス・共同 (一部)		
	小計 (7 科目)		—	—	9	1	0	—			16	17	0	5	0	2	—			
	分 野 導 入	選択必修科目 専門応用科目群	数物演習	1③	○		2			○			2	1				オムニバス		
			物理工学実験	1④	○		1			○			4	7		2		共同		
機械工学概論			1③	○		2			○			3	7		1		共同			
社会基盤工学概論			1④	○		2			○			3	3		1		オムニバス			
材料力学入門			1④	○		2			○			2					オムニバス			
小計 (5 科目)		—	—	0	9	0	—			7	10	0	2	0	0	—				
専 門 基 礎 工 学 プ ロ グ ラ ム	選択必修科目 専門基礎科目群	社会基盤応用数理及び演習Ⅰ	2①	○		2			○			1					オムニバス			
		社会基盤応用数理及び演習Ⅱ	2④	○		2			○			1								
		応用数理E (確率・統計学)	3②	○		2			○			1								
		社会基盤数理工学	3①	○		2			○			2								
		動力学	3③	○		2			○			1								
	必修科目 専門応用科目群	応用力学Ⅰ	2②	○	2				○			1					オムニバス オムニバス・共同 オムニバス・共同 オムニバス・共同 オムニバス 共同 共同 共同			
		コンクリート工学Ⅰ	2④	○	2				○			1								
		地盤工学Ⅰ	2③	○	2				○				1		1					
		基礎水理学	2②	○	2				○				1							
		社会基盤工学実験Ⅰ	3②	○	2					○		3								
		社会基盤工学実験Ⅱ	3③	○	2					○			2		1					
		社会基盤設計基礎	2①	○	2					○		3	3		1					
		土木技術者倫理	4①	○	2				○							2				
		技術英語Ⅱ	4③	○	2				○			3	3		1					
		卒業研修	4①～②	○	2					○		3	3		1					
		卒業研究	4③～④	○	6					○		3	3		1					
		選択必修科目	応用力学演習Ⅰ	2③	○		2				○			2						オムニバス
			応用力学Ⅱ	2③	○		2				○			2						オムニバス
	応用力学演習Ⅱ		2③	○		2					○		2					オムニバス		
	建設材料科学		2②	○		2				○			1							
	コンクリート工学Ⅱ		3①	○		2				○			1							
	コンクリート構造工学		3③	○		2				○			1							
	地盤工学Ⅱ		2④	○		2				○				1		1		オムニバス		
	地盤工学Ⅲ		3②	○		2				○				1		1		オムニバス		
	水理学及び演習Ⅰ		2③	○		2				○				1						
	水理学及び演習Ⅱ		3④	○		2				○				1						
	社会基盤製図		2①	○		2				○			1							
	社会基盤プロジェクト・マネジメント		3③④	○		4				○			3	2		1		3	オムニバス・共同 (一部)	
	測量学 (工)		2④	○		2				○				1						
	測量学実習 (工)		3①②	○		2				○				1						
	都市計画学Ⅱ		2④	○		2				○				1						
	技術英語Ⅰ		4②	○		2				○				1						

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(工学部工学科／電子情報通信プログラム) 【基礎学部】																			
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員				
教養教育に関する授業科目	「工学部工学科／教養教育に関する授業科目」のとお																		
専門教育に関する授業科目	工学部導入科目群	総合工学概論	1①	○	2		○			12	2						オムニバス		
		総合技術科学演習	1②	○	2			○		7	10		4				オムニバス		
		技術者の心がまえ	1④	○	2			○				1							
		知的財産概論	1③	○	1			○				1				1	オムニバス		
		情報セキュリティ概論	1③	○	1			○		1	2					1	オムニバス		
	国際工学概論	2①②	○	1			○		1	3		1					オムニバス、標準外		
	物理選択科目群	リメディアル演習	1①			1			○		2	1						オムニバス・共同（一部）	
		小計（ 7 科目）		—	—	9	1	0	—			16	17	0	5	0	2	—	
	分野導入科目群	専門必修科目群	電子情報通信概論	1③	○		1		○			4	3						オムニバス
			知能情報システム概論	1③	○		1		○			6	2						オムニバス
コンピュータ基礎			1①		2		○			1	1			1				オムニバス	
プログラミング基礎Ⅰ			1③	○	2		○			1	2			1				オムニバス	
プログラミング基礎Ⅱ			1④	○	2		○			2	3			1				オムニバス	
小計（ 5 科目）		—	—	0	8	0	—			10	8	0	2	0	0	—			
電子情報通信プログラム	専門基礎科目群	応用数理B（常微分方程式）	2②		2		○				1								
		応用数理C（複素解析）	2③	○	2		○									1			
		応用数理E（確率・統計学）	2①	○	2		○									1			
		電気数理Ⅰ（ベクトル解析）	2②	○	2		○					1					オムニバス		
		電気数理Ⅱ（フーリエ解析）	2④	○	2		○			1	1								
		物理学Ⅱ（解析力学）	2②	○	2		○				1						オムニバス		
		物理学Ⅲ（量子物理学）	2③	○	2		○			1	1								
		物理学Ⅳ（熱・統計力学）	2④	○	2		○			1									
		専門応用科目群	電気回路Ⅰ	2①	○	3			○				2						オムニバス ※演習
			電磁気学Ⅰ	2④	○	3			○			1	1						オムニバス
	電子情報通信実験Ⅰ		2③④	○	2				○		1	6						共同	
	電子情報通信実験Ⅱ		3①②	○	2				○		6	4						共同	
	電子情報通信実験Ⅲ		3③④	○	2				○		2	4					1	共同	
	電子情報通信実験Ⅳ		4①②	○	2				○		2	3						共同	
	電子情報通信設計製図		3③④	○	2				○		7	9						共同 ※演習	
	論文輪講		4①②	○	2				○		8	9						標準外	
	卒業研修		4①②	○	2				○		8	9							
	卒業研究		4③④	○	6				○		8	9							
	選択必修科目群	プログラミングBⅠ	2①	○	2		○				1	1						共同 ※演習、実習	
		プログラミングBⅡ	2②	○	2		○				1	1						共同 ※演習、実習	
		ディジタル回路	2②	○	2		○				1								
		電気回路Ⅱ	2③	○	3		○				1	1						オムニバス ※演習	
		電気回路Ⅲ	3①	○	2		○					1							
		電気計測	2③	○	2		○				2							オムニバス	
		電子回路	2④	○	2		○				1								
		電磁気学Ⅱ	3②	○	3		○					2						オムニバス	
		ディジタル信号処理	3①	○	2		○				1								
		システム制御工学	3②	○	2		○				1								
		技術英語	3②	○	2		○				1								
		電子デバイスⅠ	2④	○	2		○				1								
		電子デバイスⅡ	3②	○	2		○				1								
		電子物性工学Ⅰ	3③	○	2		○					1							
		電子物性工学Ⅱ	4①	○	2		○				1								
		通信方式基礎	3④	○	2		○				1								
		情報理論	3②	○	2		○				1								
画像情報工学		3③	○	2		○				1									
情報システムとセキュリティ		3④	○	2		○					1								
光量子電子工学		3③	○	2		○					1								
光応用工学		3④	○	2		○					1								
電気機器		3①	○	2		○				1									
送配電工学		3①	○	2		○				1									

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(工学部工学科／知能情報システムプログラム)【基礎学部】																		
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数		授業形態			基幹教員等の配置						備考		
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員 (助 手 を 除 く)	
教養教育に 関する授業 科目		「工学部工学科／教養教育に 関する授業科目」のとお																
専 門 教 育 に 関 する 授 業 科 目	工 学 科 導 入	必修科目	総合工学概論	1①	○	2			○			12	2				オムニバス	
		総合技術科学演習	1①	○	2				○		7	10		4			オムニバス	
		技術者の心がまえ	1④	○	2				○			1						
		知的財産概論	1③	○	1				○			1				1	オムニバス	
		情報セキュリティ概論	1③	○	1				○		1	2				1	オムニバス	
		国際工学概論	2①②		1				○		1	3		1			オムニバス、標準外	
	情報選択科目	リメディアル演習	1①			1				○		2	1				オムニバス・共同（一部）	
		小計（ 7 科目）		—	—	9	1	0	—			16	17	0	5	0	2	—
	分 野 導 入	選択必修科目	電子情報通信概論	1③	○		1			○			4	3				オムニバス
		知能情報システム概論	1③	○		1				○			6	2				オムニバス
		コンピュータ基礎	1①	○		2				○			1	1		1		オムニバス
		プログラミング基礎Ⅰ	1③	○		2				○			1	2		1		オムニバス
		プログラミング基礎Ⅱ	1④	○		2				○			2	3		1		オムニバス
		小計（ 5 科目）		—	—	0	8	0	—			10	8	0	2	0	0	—
知 能 情 報 シ ス テ ム プ ロ グ ラ ム	専門基礎科目群	選択必修科目	応用数理E（確率・統計学）	2①	○		2			○			1					
		電気数理Ⅰ（ベクトル解析）	2②	○		2				○			1				1	オムニバス
		応用数理B（常微分方程式）	2②	○		2				○				1				
		電磁気学	2③	○		2				○				1				
		応用数理C（複素解析）	2③	○		2				○				1				
		電気数理Ⅱ（フーリエ解析）	2④	○		2				○			1					
		物理学Ⅱ（解析力学）	3①	○		2				○			1					
		物理学Ⅲ（量子物理学）	3③	○		2				○			1	1			オムニバス	
	物理学Ⅳ（熱・統計力学）	3④	○		2				○			1						
	専門応用科目群	必修科目	プログラミングAⅠ	2①	○	2				○				1				オムニバス
プログラミングAⅡ		2②	○	2					○				1				オムニバス	
情報システム基礎実習		2③	○	1							○	1	3		2			
知能情報システム実験Ⅰ		3①	○	1						○	2	1		1		1	オムニバス	
知能情報システム実験Ⅱ		3②	○	1						○	2	1		1		1	オムニバス	
知能情報システム実験Ⅲ		3③	○	1						○	1	2		1		1	オムニバス	
知能情報システム実験Ⅳ		3④	○	1						○	1	2		1		1	オムニバス	
研究室体験実習		3③④	○	1						○	2	1						
卒業研修		4①～②	○	2						○	1							
卒業研究		4③～④	○	6						○	1							
選択必修科目		情報数学	2①	○		2				○			1					
		離散数学	2①	○		2				○				1				
	技術英語	2①	○		2				○			1						
	電気回路	2②	○		2				○				1					
	データ構造とアルゴリズム	2②	○		2				○				1					
	コンピュータネットワーク	2②	○		2				○			1						
	人工知能基礎	2①	○		2				○			1						
	論理回路	2③	○		2				○				1					
	形式言語とオートマトン	2③	○		2				○			1						
	オペレーティングシステム	2④	○		2				○					1				
	コンピュータアーキテクチャ	2④			2				○							1		
	信号処理	3①	○		2				○			1						
	データ工学	3①	○		2				○			1						
	情報理論	3②	○		2				○			1						
機械学習	3②	○		2				○			1	1				オムニバス		
情報システムとセキュリティ	3③	○		2				○				1						

科目 区分				授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
							必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員 （助手を除く）	
専門教育に関する授業科目	知能情報システムプログラム	専門応用科目群	選択科目	数理論理学	2④	○		2		○			1						オムニバス
				ネットワーク工学	2④	○		2		○			1						
				基礎電子回路	2④	○		2		○			1						
				数値計算プログラミング	3①	○		2		○				1					
				人間工学	3①	○		2		○					1				
				ロボティクス・メカトロニクス	3①	○		2		○				1					
				コンパイラ	3②	○		2		○				1					
				制御工学	3②	○		2		○			1						
				マルチメディアコンピューティング	3③	○		2		○				1					
				生体計測	3③	○		2		○			1						
				電子デバイス	3③	○		2		○			1						
				プログラミングAⅢ	3③	○		2		○			1	1					
				アシスティブ・テクノロジー	3④	○		2		○				1					
				データベース	3④	○		2		○			1						
				電波・電気通信法規	4①			2		○							1		
				職業指導（工）	4②	○		2		○							1		
				創造プロジェクト基礎	1③～④	○		2				○	1					標準外	
				創造プロジェクトⅠ	2①～②	○		2				○	1					※演習 標準外	
				創造プロジェクトⅡ	2③～④	○		2				○	1					※演習 標準外	
				創造研究プロジェクトⅠ	3①～②	○		2				○	1					※演習 標準外	
				創造研究プロジェクトⅡ	3③～④	○		2				○	1					※演習 標準外	
				マーケット・インターンシップ	1・2・3・4 ①②③④	○		2				○	1					※演習 標準外	
				テクノロジー・インターンシップ	1・2・3・4 ①②③④	○		2				○	1					※演習 標準外	
				国際工学事情	1・2・3・4 ①②③④	○		1		○				1				標準外	
				国際工学特論	1・2・3・4 ①②③④	○		2		○				1				標準外	
				国際技術協力	1・2・3・4 ①②③④	○		1		○				1			1	オムニバス、標準外	
				国際マーケット・グループワーク・インターンシップA	1・2・3・4 ①②③④	○		2				○	1	1				オムニバス、標準外	
				国際マーケット・グループワーク・インターンシップB	1・2・3・4 ①②③④	○		3				○	1	1				オムニバス、標準外	
				国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップA	1・2・3・4 ①②③④	○		2				○	1	1				オムニバス、標準外	
				国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップB	1・2・3・4 ①②③④	○		3				○	1	1				オムニバス、標準外	
	特殊選択科目			インターンシップ	1・2・3・4 ①②③④			2				○	1					標準外	
				施設見学	1・2・3・4 ①②③④			1				○	1					標準外	
				特別講義	1・2・3・4 ①②③④			1		○			1					標準外	
				海外英語研修	1・2・3・4 ①②③④			4			○		1					標準外	
				国際研修	1・2・3・4 ①②③④			1～4				○	1					標準外	
	自由科目			単位互換協定に基づき修得した他 大学開設科目								○	1					当該科目について定め られている単位数	
				特設講義									○	1					
小計（ 74 科目）				—	—	18	119～122	0	—			13	11	0	3	0	4	—	
合計（ 86 科目）				—	—	27	128～131	0	—			25	28	0	6	0	6	—	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 以 外 の 教 員 (助 手 を 除 く)	
学位又は称号		学士（工学）		学位又は学科の分野				工学関係								
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法							授業期間等									
（卒業要件） 教養系科目42単位以上（必修科目13単位、選択必修科目12単位以上、選択科目11単位以上。うち6単位は学部専門系科目でも可）、学部専門系科目82単位以上、合計124単位以上を修得すること。 （履修方法） 1．教養教育に関する科目として、大学学習法科目2単位、英語科目2単位、初修外国語科目2単位、健康・スポーツ科目1単位、情報リテラシー2単位、人文社会・教育科学科目4単位を必修として修得する。選択必修として情報リテラシー科目、自然系共通専門科目、自然科学科目のいずれかから10単位、人文社会・教育科学科目、新潟大学個性化科目のいずれかから2単位を修得する。選択科目として教養系科目全体の中から11単位を修得し、教養系科目で合計36単位を修得する。 2．専門教育に関する科目として、専門基礎科目群から10単位以上、専門応用科目群の必修科目27単位、選択必修科目28単位以上を含む合計82単位を履修する。 3．学部専門系科目または教養系科目（6単位以上）を修得し、1～3の合計で124単位以上を修得する。 （履修科目の登録の上限：56単位（年間）※集中講義、副専攻、教職科目等については例外あり）							1 学年の学期区分				4ターム					
							1 学期の授業期間				8 週					
							1 時限の授業時間				9 0 分					

教 育 課 程 等 の 概 要																
〔工学部工学科／化学システム工学プログラム〕【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員	
教養教育に関する授業科目	「工学部工学科／教養教育に関する授業科目」のとお															
専門教育に関する授業科目	専門導入 工学科導入 専門応用科目群	必修科目	総合工学概論	1①	○	2		○		12	2					オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス、標準外
			総合技術科学演習	1②	○	2			○	7	10		4			
			技術者の心がまえ	1④	○	2			○		1					
			知的財産概論	1③	○	1			○		1				1	
			情報セキュリティ概論	1③	○	1			○	1	2				1	
			国際工学概論	2①②	○	1			○	1	3		1			
	専門導入 化学システム工学プログラム 専門基礎科目群	選択必修科目	リメディアル演習	1①	○	1			○				1		2	オムニバス・共同 (一部)
			小計（7科目）	—	—	9	1	0	—	16	16	0	6	0	4	
	分野導入	選択必修科目	基礎無機化学	1④	○	2		○		1	1					オムニバス オムニバス
			基礎有機化学	1③	○	2		○		2						
			化学工学基礎	1③	○	2		○		1						
			小計（3科目）	—	—	0	6	0	—	4	1	0	0	0	0	
	専門基礎科目群	選択必修科目	高分子化学概論	2①	○	2		○							1	
			基礎物理化学	2②	○	2		○					1			
			化学システム応用数理	2④	○	2		○							1	
			応用数理B(常微分方程式)	2③	○	2		○			1					
			基礎物理工学	3①	○	2		○							1	
	専門応用科目群	必修科目	技術文献リサーチA	4①	○	1			○	4	7		3		1	
			技術文献リサーチB	4②	○	1			○	4	7		3		1	
			技術文献リサーチC	4③	○	1			○	4	7		3		1	
			技術文献リサーチD	4④	○	1			○	4	7		3		1	
			卒業研修	4①～②	○	2			○	4	7		3		1	
			卒業研究	4③～④	○	6			○	4	7		3		1	
	選択必修科目		有機化学（工）	2①	○	2		○			1					共同
			反応工学Ⅰ	2①	○	2		○			1					
			拡散操作Ⅰ	2②	○	2		○			1					
			分析化学（工）	2②	○	2		○			1					
			無機化学	2①	○	2		○			1					
			無機化学実験（工）	2④	○	2			○		1		1			
			分析化学実験（工）	2③	○	2			○		1					
			拡散操作Ⅱ	2③	○	2		○			1					
			化学工学計算演習	2③	○	1			○				1			
			反応工学演習	2③	○	1			○		1					
	選択必修科目		物理化学Ⅰ	2③	○	2		○		1						共同 共同 共同
			移動論基礎	2②	○	2		○					1			
			物理化学実験（工）	3②	○	2			○	1	1					
			有機化学実験（工）	3②	○	2			○	1	1					
			プロセス伝熱工学	2④	○	2		○		1						
			移動現象演習	2④	○	1			○				1			
			化学実験Ⅰ	2④	○	1			○		1		2			
			計測化学Ⅰ	2③	○	2		○			1					
			高分子化学A	2④	○	2		○		1						
			反応速度論	3①	○	2		○			1					
	選択必修科目		高分子化学実験	3①	○	2			○	1					1	共同 オムニバス
			化学技術英語	2④	○	2			○	3	3		1		1	
			反応工学Ⅱ	3①	○	2		○			1					
			粉体工学	3①	○	2		○			1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
専門教育に関する授業科目	専攻システム工学プログラム	選択必修科目	化学実験2	3①	○				○		1		2			共同
			設計製図	3①	○			○			1					共同
			計測化学Ⅱ	3①	○		○				1					共同
			有機反応化学	3①	○		○			1						共同
			化学工学実験	3②～③	○				○	1	3		2			共同
			物理化学Ⅱ	2④	○		○				1					共同
			高分子化学B	3②	○		○			1						共同
			無機工業化学	3①	○		○				1					共同
			応用化学演習Ⅰ	3③	○			○					1			共同
			応用化学演習Ⅱ	3③	○			○				1				共同
			応用化学演習Ⅲ	3③	○			○				2				共同
			分離工学演習	3③	○			○				1				共同
			プロセス制御	3③	○		○			1						共同
			有機合成化学	3④	○		○			1						共同
			応用化学演習Ⅳ	3④	○			○			1					共同
			応用化学演習Ⅴ	3④	○			○		1						共同
			機械的分離工学	3④	○			○				1				共同
			化学工学英語	3④	○			○								共同
	選択科目		無機合成化学	2③			○				1					オムニバス
			分子設計化学	2③			○				1					オムニバス
			反応工学Ⅲ	3②			○				1					オムニバス
			拡散操作Ⅲ	3②			○				1					オムニバス
			物理化学Ⅲ	3②			○			1	1					オムニバス
			反応装置工学	3④			○				1					オムニバス
			工程解析	3③④			○									標準外
			職業指導（工）	4②	○		○									標準外
			創造プロジェクト基礎	1③～④	○				○	1						※演習 標準外
			創造プロジェクトⅠ	2①～②	○				○	1						※演習 標準外
			創造プロジェクトⅡ	2③～④	○				○	1						※演習 標準外
			創造研究プロジェクトⅠ	3①～②	○				○	1						※演習 標準外
			創造研究プロジェクトⅡ	3③～④	○				○	1						※演習 標準外
			マーケットインターンシップ	1・2・3・4①234	○				○	1						※演習 標準外
			テクノロジーインターンシップ	1・2・3・4①234	○				○	1						※演習 標準外
			国際工学事情	1・2・3・4①234	○		○				1					標準外
			国際工学特論	1・2・3・4①234	○		○				1					標準外
			国際技術協力	1・2・3・4①234	○		○				1					標準外
			国際マーケット・グループワーク・インターンシップA	1・2・3・4①234	○				○	1	1					オムニバス、標準外
			国際マーケット・グループワーク・インターンシップB	1・2・3・4①234	○				○	1	1					オムニバス、標準外
			国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップA	1・2・3・4①234	○				○	1	1					オムニバス、標準外
			国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップB	1・2・3・4①234	○				○	1	1					オムニバス、標準外
	特殊選択科目		工場見学	1・2・3・4①234					○	1						標準外
			工場実習	1・2・3・4①234					○	1						標準外
			特別講義	1・2・3・4①234			○			1						標準外
			海外英語研修	1・2・3・4①234				○		1						標準外
			国際研修	1・2・3・4①234					○	1						標準外
	自由科目		単位互換協定に基づき修得した他大 開設科目						○	1						当該科目について定められている単位数
			特設講義						○	1						
小計（ 82 科目）				—	—	12	136～139	0	—	8	10	0	3	0	7	—
合計（ 92 科目）				—	—	21	142～145	0	—	22	25	0	8	0	11	—
学位又は称号		学士（工学）		学位又は学科の分野			工学関係									

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置							備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く）教員		
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等							
（卒業要件） 教養系科目42単位以上（必修科目13単位、選択必修科目12単位以上、選択科目11単位以上。うち6単位は学部専門系科目でも可）、学部専門系科目82単位以上、合計124単位以上を修得すること。 （履修方法） 1．教養教育に関する科目として、大学学習法科目2単位、英語科目2単位、初修外国語科目2単位、健康・スポーツ科目1単位、情報リテラシー2単位、人文社会・教育科学科目4単位を必修として修得する。選択必修として情報リテラシー科目、自然系共通専門科目、自然科学科目のいずれかから10単位、人文社会・教育科学科目、新潟大学個性化科目のいずれかから2単位を修得する。選択科目として教養系科目全体の中から11単位を修得し、教養系科目で合計36単位を修得する。 2．専門教育に関する科目として、専門基礎科目群から10単位以上、専門応用科目群の必修科目21単位、選択必修科目44単位以上を含む合計82単位を履修する。 3．学部専門系科目または教養系科目（6単位以上）を修得し、1～3の合計で124単位以上を修得する。 （履修科目の登録の上限：56単位（年間）※集中講義、副専攻、教職科目等については例外あり）										1 学年の学期区分			4 ターム				
										1 学期の授業期間			8 週				
										1 時限の授業の標準時間			9 0 分				

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(工学部工学科／材料科学プログラム) 【基礎学部】																			
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員				
教養教育に関する授業科目	「工学部工学科／教養教育に関する授業科目」のとお																		
専門教育に関する授業科目	工学科導入	必修科目	総合工学概論	1①	○	2			○			12	2				オムニバス		
			総合技術科学演習	1②	○	2				○		7	10		4		オムニバス		
			技術者の心がまえ	1④	○	2			○				1						
			知的財産概論	1③	○	1			○				1						
			情報セキュリティ概論	1③	○	1			○			1	2			1	オムニバス		
		国際工学概論	2①②	○	1			○			1	3		1			オムニバス、標準外		
	特殊選択科目	リメディアル演習	1①	○		1				○				1		2	オムニバス・共同（一部）		
		小計（ 7 科目）			—	—	9	1	0	—			16	16	0	6	0	4	—
	分野導入	選択必修科目	基礎無機化学	1④	○		2			○			1	1				オムニバス	
			基礎有機化学	1③	○		2			○			2					オムニバス	
			化学工学基礎	1③			2			○			1						
	小計（ 3 科目）			—	—	0	6	0	—			4	1	0	0	0	0	—	
	材料科学プログラム	専門基礎科目群	選択必修科目	応用数理A（ベクトル解析）	2②	○		2			○			1			1		オムニバス
				応用数理E（確率・統計学）	2②	○		2			○			1					
				物理数学	2③	○		2			○						1		オムニバス
				基礎電磁気学	2①	○		2			○				1				
				基礎解析力学	2①	○		2			○			1					
基礎量子力学（工）				2③	○		2			○			1						
基礎統計物理				2④	○		2			○			1						
基礎材料物理化学				2②	○		2			○				1					
基礎材料組織学				2②	○		2			○				1					
専門応用科目群				必修科目	材料科学実験Ⅰ	3①②	○	2					○	2	2		2		
		材料科学実験Ⅱ	3①②		○	2					○	2	4					オムニバス	
		材料科学PBL	3③		○	2					○	2	2		1			オムニバス	
		卒業研修	4①～②		○	2					○	6	8		2				
		卒業研究	4③～④		○	6					○	6	8		2				
		選択必修科目	受動電気回路素子論	2③	○		2			○			1						
			応用電磁気学	2④	○		2			○				1					
			応用量子力学	3②	○		2			○			1						
			応用統計物理	3①	○		2			○			1						
			物質構造論	3④	○		2			○					1				
			磁性・超伝導	3③	○		2			○			1						
			半導体物性・デバイス	3④	○		2			○			1						
			材料分析化学	2③	○		2			○					1				
			電気化学	3②	○		2			○			1	1				オムニバス	
			光化学	3④	○		2			○				1					
選択必修科目		高分子科学	2④	○		2			○			1							
	高分子材料化学	3①	○		2			○				1							
	機能性高分子材料	3③	○		2			○			1								
	工業生化学	2④	○		2			○				1							
	生体分子工学	3①	○		2			○				1							
	生物材料工学	3②	○		2			○			1								
	材料評価学	3①	○		2			○				1							
	計測工学	3②	○		2			○			1	1				オムニバス			
	技術英語	4①②	○		4			○			6	8		2					
	論文輪講	4③④	○		4			○			6	8		2					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員		
専門教育に関する授業科目	職業指導（工）	4②	○		2		○								1	標準外	
	インターンシップ	3②	○		2				○	1						標準外	
	創造プロジェクト基礎	1③～④	○		2				○	1						※演習 標準外	
	創造プロジェクトⅠ	2①～②	○		2				○	1						※演習 標準外	
	創造プロジェクトⅡ	2③～④	○		2				○	1						※演習 標準外	
	創造研究プロジェクトⅠ	3①～②	○		2				○	1						※演習 標準外	
	創造研究プロジェクトⅡ	3③～④	○		2				○	1						※演習 標準外	
	マーケット・インターンシップ	1・2・3・4①②③④	○		2				○	1						※演習 標準外	
	テクノロジー・インターンシップ	1・2・3・4①②③④	○		2				○	1						※演習 標準外	
	国際工学事情	1・2・3・4①②③④	○		1			○			1					標準外	
	国際工学特論	1・2・3・4①②③④	○		2			○			1					標準外	
	国際技術協力	1・2・3・4①②③④	○		1			○			1				1	オムニバス、標準外	
	国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップA	1・2・3・4①②③④	○		2				○	1	1					オムニバス、標準外	
	国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップB	1・2・3・4①②③④	○		3				○	1	1					オムニバス、標準外	
	国際マーケット・グループワーク・インターンシップA	1・2・3・4①②③④	○		2				○	1	1					オムニバス、標準外	
	国際マーケット・グループワーク・インターンシップB	1・2・3・4①②③④	○		3				○	1	1					オムニバス、標準外	
	工場見学	1・2・3・4①②③④				1				○	1						標準外
	特別講義	1・2・3・4①②③④				1			○		1						標準外
	海外英語研修	1・2・3・4①②③④				4				○	1						標準外
	国際研修	1・2・3・4①②③④				1～4				○	1						標準外
	単位互換協定に基づき修得した他大学開設科目										○	1					当該科目について定められている単位数
	特設講義										○	1					
	小計（ 57 科目）		—	—	14	103～106	0	—			9	10	0	2	0	2	—
合計（ 67 科目）		—	—	23	110～113	0	—			23	24	0	7	0	6	—	
学位又は称号		学士（工学）			学位又は学科の分野				工学関係								
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等								
（卒業要件） 教養系科目42単位以上（必修科目13単位、選択必修科目12単位以上、選択科目11単位以上。うち6単位は学部専門系科目でも可）、学部専門系科目82単位以上、合計124単位以上を修得すること。 （履修方法） 1．教養教育に関する科目として、大学学習法科目2単位、英語科目2単位、初修外国語科目2単位、健康・スポーツ科目1単位、情報リテラシー2単位、人文社会・教育科学科目4単位を必修として修得する。選択必修として情報リテラシー科目、自然系共通専門科目、自然科学科目のいずれかから10単位、人文社会・教育科学科目、新潟大学個性化科目のいずれかから2単位を修得する。選択科目として教養系科目全体の中から11単位を修得し、教養系科目で合計36単位を修得する。 2．専門教育に関する科目として、専門基礎科目群から10単位以上、専門応用科目群の必修科目23単位、選択必修科目40単位以上を含む合計82単位を履修する。 3．学部専門系科目または教養系科目（6単位以上）を修得し、1～3の合計で124単位以上を修得する。 （履修科目の登録の上限：56単位（年間））※集中講義、副専攻、教職科目等については例外あり）									1 学年の学期区分				4ターム				
									1 学期の授業期間				8 週				
									1 時限の授業の標準時間				9 0 分				

教 育 課 程 等 の 概 要																
（工学部工学科／建築学プログラム）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
教養教育に関する授業科目	「工学部工学科／教養教育に関する授業科目」のとおり															
専門教育に関する授業科目	工学部導入科目群															
	必修科目	総合工学概論	1①	○	2		○			12	2					オムニバス
		総合技術科学演習	1①	○	2			○		7	10		4			オムニバス
		技術者の心がまえ	1④	○	2		○				1					
		知的財産概論	1③	○	1		○				1				1	オムニバス
		情報セキュリティ概論	1③	○	1		○			1	2				1	オムニバス
		国際工学概論	2①②	○	1		○			1	3		1			オムニバス、標準外
	特選選択科目	リメディアル演習	1①	○		1		○			2		1			オムニバス・共同（一部）
	小計（7科目）		—	—	9	1	0	—		16	16	0	6	0	2	—
	分野導入															
	選択必修科目	建築学概論	1③	○		2	○			2	4		3			オムニバス
建築学プログラム		建築図学Ⅰ	1③	○		1			○		2					オムニバス・共同（一部）
		建築図学Ⅱ	1④	○		1			○		2		1			オムニバス・共同（一部）
	小計（3科目）		—	—	0	4	0	—		2	4	0	3	0	0	—
	専門応用科目群	卒業研修又は基礎設計	4①②	○	2			○		2	4		3			
		卒業研究又は設計	4③④	○	6			○		2	4		3			
	選択必修科目	建築製図基礎Ⅰ	2①	○		1			○		2					オムニバス・共同（一部）
		建築製図基礎Ⅱ	2②	○		1			○		2					オムニバス・共同（一部）
		建築設計製図Ⅰ	2③	○		2			○	2	4		3			オムニバス・共同
		建築設計製図Ⅱ	2④	○		2			○	2	4		3			オムニバス・共同（一部）
		建築設計製図Ⅲ	3①	○		2			○	2	4		3	1		共同
		建築設計製図Ⅳ	3②	○		2			○	2	4		3	1		共同
		建築設計製図Ⅴ	3③	○		2			○	2	4		3			オムニバス・共同（一部）
		建築計画学Ⅰ	2③	○		2		○			1		1			オムニバス
		設計方法論	3③	○		2		○			1					
		建築構造解析学・演習Ⅰ	2①	○		2		○							1	
		建築構造解析学・演習Ⅱ	2②	○		2		○	※	1						
		建築構造解析学・演習Ⅲ	2③	○		2		○	※	1			1			オムニバス・共同
		建築構造設計Ⅰ	3①	○		2		○		1						
		建築構造設計Ⅱ	3②	○		2		○		1			1			オムニバス
		建築構造設計演習Ⅰ	3③	○		1			○	1						
		建築構造設計演習Ⅱ	3④	○		1			○	1						
		建築材料・構造実験Ⅰ	3③	○		2			○	1			1			オムニバス
		建築材料・構造実験Ⅱ	3④	○		2			○	1			1			オムニバス
		建築材料	2④	○		2		○		1			1			オムニバス
		建築環境工学Ⅰ	2③	○		2		○			1		1			オムニバス
		建築環境工学Ⅱ	3①	○		2		○			1		1			オムニバス
		建築環境工学演習Ⅰ	3②	○		1			○	1			1			オムニバス・共同
		建築環境工学演習Ⅱ	3②	○		1			○	1			1			オムニバス・共同
		建築環境制御学演習Ⅰ	3④	○		1			○	1			1			オムニバス・共同
		建築環境制御学演習Ⅱ	3④	○		1			○	1			1			オムニバス・共同
		都市計画学Ⅰ	2②	○		2		○		1						
		都市計画学Ⅱ	2④	○		2		○			1					
		都市デザイン論	3①	○		2		○		1						
		都市計画・デザイン演習	3③	○		2			○	1	1					オムニバス・共同

科目 区分				授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考															
							必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員（助手 を除く） 以外の 教員																
専門 教育 に 関 す る 授 業 科 目	建 築 学 プ ロ グ ラ ム	専 門 応 用 科 目 群	選択科目	建築計画演習Ⅰ	3①	○		1				○			1		1														オムニバス・共同			
			建築計画演習Ⅱ	3②	○		1				○			1		1																オムニバス・共同		
			建築設計製図Ⅵ	3④	○		2						○	2	4	3																共同		
			建築計画学Ⅱ	3①	○		2				○				1																			
			日本建築史	2①	○		2				○				1																			
			近代建築史	2④	○		2				○				1																			
			建築構造解析学・演習Ⅳ	2④	○		2				○	※																				1		
			建築構造設計演習Ⅲ	3③	○		1							1						1													オムニバス・共同	
			建築構造設計演習Ⅳ	3④	○		1							1						1													オムニバス・共同	
			建築施工	4①	○		2					○																					1	
			建築法規	3③	○		2					○																					1	
			建築環境制御学Ⅰ	3①	○		2					○								1														オムニバス
			建築環境制御学Ⅱ	3③	○		2					○								1														オムニバス
			職業指導（工）	4②			2					○																					1	標準外
			インターンシップ	3②	○		2							○	1																			標準外
			創造プロジェクト基礎	1③～④	○		2							○	1																			※演習 標準外
			創造プロジェクトⅠ	2①～②	○		2							○	1																			※演習 標準外
			創造プロジェクトⅡ	2③～④	○		2							○	1																			※演習 標準外
			創造研究プロジェクトⅠ	3①～②	○		2							○	1																			※演習 標準外
			創造研究プロジェクトⅡ	3③～④	○		2							○	1																			※演習 標準外
			マーケット・インターンシップ	1・2・3・4①②③④			2							○	1																			※演習 標準外
			テクノロジー・インターンシップ	1・2・3・4①②③④	○		2							○	1																			※演習 標準外
			国際工学事情	1・2・3・4①②③④	○		1						○							1														標準外
			国際工学特論	1・2・3・4①②③④	○		2						○							1														標準外
			国際技術協力	1・2・3・4①②③④	○		1						○							1														1 オムニバス、標準外
			国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップA	1・2・3・4①②③④	○		2							○	1	1																		オムニバス、標準外
			国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップB	1・2・3・4①②③④	○		3							○	1	1																		オムニバス、標準外
			国際マーケット・グループワーク・インターンシップA	1・2・3・4①②③④	○		2							○	1	1																		オムニバス、標準外
			国際マーケット・グループワーク・インターンシップB	1・2・3・4①②③④	○		3							○	1	1																		オムニバス、標準外
			特殊 選択 科目	特殊 選択 科目	施設見学	1・2・3・4①②③④					1				○	1																		標準外
					特別講義	1・2・3・4①②③④					1			○		1																		標準外
					海外英語研修	1・2・3・4①②③④					4				○	1																		標準外
					国際研修	1・2・3・4①②③④					1～4				○	1																		標準外
			自由 科目	自由 科目	単位互換協定に基づき修得した他 大学開設科目									○	1																			当該科目について定 められている単位数
					特設講義									○	1																			
			小計（ 66 科目）				—	—			8	111～114	0		—			4	6	0	3	0			8									—
合計（ 77 科目）				—	—			17	116～119	0		—			17	18	0	8	0			10									—			
学位又は称号				学士（工学）				学位又は学科の分野				工学関係																						
卒業・修了要件及び履修方法												授業期間等																						
（卒業要件） 教養系科目42単位以上（必修科目13単位、選択必修科目12単位以上、選択科目11 単位以上。うち6単位は学部専門系科目でも可）、学部専門系科目82単位以上、合 計124単位以上を修得すること。 （履修方法） 1．教養教育に関する科目として、大学学習法科目2単位、英語科目2単位、初修外 国語科目2単位、健康・スポーツ科目1単位、情報リテラシー2単位、人文社会・教 育科学科目4単位を必修として修得する。選択必修として情報リテラシー科目、自 然系共通専門科目、自然科学科目のいずれかから10単位、人文社会・教育科学科 目、新潟大学個性化科目のいずれかから2単位を修得する。選択科目として教養系 科目全体の中から11単位を修得し、教養系科目で合計36単位を修得する。 2．専門教育に関する科目として、専門応用科目群の必修科目17単位、選択必修科 目42単位以上を含む合計82単位を履修する。 3．学部専門系科目または教養系科目（6単位以上）を修得し、1～3の合計で124単 位以上を修得する。 （履修科目の登録の上限：56単位（年間）※集中講義、副専攻、教職科目等につい ては例外あり）												1 学年の学期区分						4ターム																
												1 学期の授業期間						8週																
												1 時限の授業の標準時間						90分																

教育課程等の概要																
(工学部工学科/人間支援感性科学プログラム)【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 等 (助 手 を 除 く 以 外 の 教 員	
教養教育に關する授業科目	「工学部工学科/教養教育に關する授業科目」のとお															
専門教育に關する授業科目	工学部導入 専門応用科目群	必修科目	総合工学概論	1①	○	2		○		12	2					オムニバス
			総合技術科学演習	1①	○	2			○	7	10		4			オムニバス
			技術者の心がまえ	1④	○	2			○		1					
			知的財産概論	1③	○	1			○		1				1	オムニバス
			情報セキュリティ概論	1③	○	1			○	1	2				1	オムニバス
			国際工学概論	2①②	○	1			○	1	3		1			オムニバス、標準外
	特殊選択科目		リメディアル演習	1①	○		1			2	1		1			オムニバス・共同 (一部)
			小計 (7 科目)	—	—	9	1	0	—	17	16	0	5	0	2	—
	分野導入 専門応用科目群	選択必修科目	コンピュータ基礎	1①	○		2		○	1	1					オムニバス
			プログラミング基礎I	1③	○		2		○	1	1					共同
			プログラミング基礎II	1④	○		2		○	1	1					共同
			人間支援感性科学概論	1②	○		2		○	8	4		2		1	オムニバス
			協創経営概論	1②	○		2		○	2	4				1	オムニバス
			ビジネス統計学	1④	○		2		○		1					
			アントレプレナーシップ	1①	○		2		○		1					
			小計 (7 科目)	—	—	0	14	0	—	10	13	0	2	0	2	—
人間支援感性科学	専門基礎科目群	選択必修科目	電気回路	2①②	○		2		○	1						
			応用数理E (確率・統計学)	2①	○		2		○	1						
			電気数理II (フーリエ解析)	2④	○		2		○	1						
			音楽工学入門	2①②	○		2		○	3	1		1			オムニバス
			コミュニケーションツールとしての視覚造形	2③	○		2		○	1	1		1			共同
			健康スポーツシステム論	2③	○		2		○		1					
	専門応用科目群	必修科目	実践プログラミングI	2①	○		2		○	1	1		1			共同
			実践プログラミングII	2②	○		2		○	1	1					共同
			人間支援感性科学実験I	2③	○	1			○	2			1		1	共同
			人間支援感性科学実験II	2④	○	1			○	4	3					共同
			人間支援感性科学実験III	3①	○	1			○	3						共同
			人間支援感性科学実験IV	3②	○	1			○	2	2		1			共同
			卒業研修I	3①②	○	2			○	7	4		2		1	共同
			卒業研修II	3③④	○	2			○	7	4		2		1	共同
			卒業研究I	4①②	○	2			○	7	4		2			共同
			卒業研究II	4③④	○	6			○	7	4		2			共同
			論文輪講	4①②	○	2			○	6	4		2		1	共同
	選択必修科目		生体医工学	2①	○		2		○						1	
			人間工学	2①	○		2		○							
			社会福祉論	2①	○		2		○						1	
			表現素材演習I	2①	○		2			1						
			デザイン基礎	2①	○		2		○							
			フィジカルコンディショニング	2①	○		2		○		1					
			アウトドアサイエンス	2①	○		2		○		1					標準外
			スポーツ生理学	2①②	○		2		○						1	
			空間造形演習	2①②	○		2		○		1					
			ラケットスポーツ	2①②	○		2		○	1						
			音創造演習I	2①②	○		2		○	2						共同
			フィジカルコンピューティング	2②	○		2		○	2						オムニバス
			パフォーマンスコミュニケーション	2②	○		2		○						3	共同

科目区分				授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
							必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を 除く） 教員																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
専門教育に関する授業科目	人間支援感性科学	専門応用科目群	選択必修科目	コンピュータネットワーク	2②	○		2	○			1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				</

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （助 手 を 除 く） 教員	
学位又は称号		学士（工学）		学位又は学科の分野				工学関係								
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等								
（卒業要件） 教養系科目42単位以上（必修科目13単位、選択必修科目12単位以上、選択科目11単位以上。うち6単位は学部専門系科目でも可）、学部専門系科目82単位以上、合計124単位以上を修得すること。 （履修方法） 1. 教養教育に関する科目として、大学学習法科目2単位、英語科目2単位、初修外国語科目2単位、健康・スポーツ科目1単位、情報リテラシー2単位、人文社会・教育科学科目4単位を必修として修得する。選択必修として情報リテラシー科目、自然系共通専門科目、自然科学科目のいずれかから10単位、人文社会・教育科学科目、新潟大学個性化科目のいずれかから2単位を修得する。選択科目として教養系科目全体の中から11単位を修得し、教養系科目で合計36単位を修得する。 2. 専門教育に関する科目として、専門基礎科目群から6単位以上、専門応用科目群の必修科目31単位、選択必修科目38単位以上を含む合計82単位を履修する。 3. 学部専門系科目または教養系科目（6単位以上）を修得し、1～3の合計で124単位以上を修得する。 （履修科目の登録の上限：56単位（年間）※集中講義、副専攻、教職科目等については例外あり）								1 学年の学期区分				4ターム				
								1 学期の授業期間				8週				
								1 時限の授業の標準時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要																
(工学部工学科／協創経営プログラム)【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く) 教員以外の教員	
教養教育に関する授業科目	「工学部工学科／教養教育に関する授業科目」とおり															
専門教育に関する授業科目	工学部導入科目群															
	必修科目	総合工学概論	1①	○	2		○			12	2					オムニバス
		総合技術科学演習	1②	○	2			○		7	10		4			オムニバス
		技術者の心がまえ	1④	○	2		○				1					オムニバス
		知的財産概論	1③	○	1		○				1				1	オムニバス
		情報セキュリティ概論	1③	○	1		○			1	2				1	オムニバス
		国際工学概論	2①②	○	1		○			1	3		1			オムニバス、標準外
	特殊選択科目	リメディアル演習	1①		1			○		2	1		1			オムニバス・共同(一部)
	小計(7科目)		—	—	9	1	0	—	—	17	16	0	5	0	2	—
	分野導入科目群															
協創経営プログラム	選択必修科目	人間支援感性科学概論	1②	○	2		○			8	4		2		1	オムニバス
		協創経営概論	1②	○	2		○			2	4				1	オムニバス
		ビジネス統計学	1④	○	2		○				1					
		アントレプレナーシップ	1①	○	2		○				1					
		コンピュータ基礎	1①	○	2		○	○	○	1	1					オムニバス
		プログラミング基礎Ⅰ	1③	○	2		○	○	○	1	1					共同
		プログラミング基礎Ⅱ	1④	○	2		○	○	○	1	1					共同
	小計(7科目)		—	—	0	14	0	—	—	10	8	0	2	0	2	
	必修科目	産業・地域実習基礎	2①	○	1		○								1	
	選択必修科目	産業・地域実習	2・3①②③④	○		1～5		○	○		1				1	共同、標準外
協創経営プログラム		応用数理A(ベクトル解析)	2①②	○	2		○			2			1			
		電気数理Ⅰ(ベクトル解析)	2②	○	2		○				1					
		応用数理B(常微分方程式)	2①②③	○	2		○				2					
		化学システム応用数理	2④	○	2		○								1	
		応用数理C(複素解析)	2③	○	2		○				1				1	
		応用数理E(確率・統計学)	2①②③②	○	2		○			1					1	
		電気数理Ⅱ(フーリエ解析)	2④	○	2		○			1						
		物理数学	2③	○	2		○			1			1			オムニバス
		複素・フーリエ解析	2④		2		○				1					
		社会基盤応用数理及び演習Ⅰ	2①	○	2		○			1						
		社会基盤応用数理及び演習Ⅱ	2④	○	2		○			1						
		社会基盤数理工学	3①	○	2			○		2						オムニバス
		数物演習	1③	○	2			○		2	1					オムニバス
		物理学Ⅱ(解析力学)	2②③①	○	2		○				1					
		基礎解析力学	2①	○	2		○			1						
		動力学	3③	○	2		○			1						
		電磁気学	2③	○	2		○				1					
		基礎電磁気学	2①	○	2		○				1					
		基礎物理工学	3①		2		○								1	
		物理学Ⅲ(量子物理学)	3③	○	2		○			1	1					オムニバス
		基礎量子力学(工)	2③	○	2		○			1						
		物理学Ⅳ(熱・統計力学)	3④	○	2		○			1						
		基礎統計物理	2④	○	2		○			1						
		物理学実験	2④	○	1		○			4	7		2			共同
		基礎無機化学	1④	○	2		○			1						オムニバス
		基礎有機化学	1③	○	2		○			2						オムニバス
		化学工学基礎	1③	○	2		○			1	1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （ 助 手 以 外 の 教 員	
専門教育に関する授業科	協創経営プログラム	選択必修科目	高分子化学概論	2①			○								1	
			基礎物理化学	2②	○		○						1			
			基礎材料物理化学	2②	○		○				1					
			基礎材料組織学	2②	○		○				1					
	専門応用科目群	必修科目	経営管理入門	2②	○	2	○	○			1					
			課題解決プロジェクトⅠ	4①②	○	2			○	2	4				1	共同
			課題解決プロジェクトⅡ	4③④	○	2			○	2	4				1	共同
			卒業研修	4①②	○	2			○	2	4				1	
			卒業研究	4③④	○	6			○	2	4				1	
		選択必修科目	技術英語	3③	○	2	○				2					オムニバス
			科学技術表現法	2②	○	2	○			1						
			組織マネジメント基礎	3①	○	2	○				1					
			プロジェクト・マネジメント基礎	3②	○	2	○			1						
			マーケティング基礎	3③	○	2	○				1					
			生産・品質管理基礎	3③	○	2	○			1						
			企業会計基礎	2③	○	2	○								1	
			社会システム工学演習	3①②③	○	6	○	○			2				6	共同
			課題発見プロジェクト	3③④	○	2	○			2	4				1	共同
	先端融合材料パッケージ	先導	電子情報通信概論	2③	○	1	○			4	3					オムニバス
			電磁気学Ⅰ	2④	○	3	○				1					
			電磁気学Ⅱ	3②	○	3	○				1					
			応用電磁気学	2④	○	2	○				1					
			応用量子力学	2②	○	2	○			1						
			応用統計物理	2①	○	2	○			1						
			電気回路Ⅰ	3①	○	3	○				1					
			電気回路Ⅱ	3③	○	3	○				1					
			電気回路Ⅲ	3④	○	2	○				1					
			電気回路（知能情報システムプログラム開講）	2②	○	2	○				1					
			受動電気回路素子論	2③	○	2	○			1						
			電子回路	2④	○	2	○			1						
			基礎電子回路	2④	○	2	○			1						
			電気計測	2③	○	2	○			2						オムニバス
			計測工学	2②	○	2	○			1						
			電子デバイスⅠ	2④	○	2	○			1						
			電子デバイスⅡ	3②	○	2	○			1						
			電子デバイス	3②	○	2	○			1						
			電子物性工学Ⅰ	3④	○	2	○				1					
			電子物性工学Ⅱ	4①	○	2	○			1						
			半導体物性・デバイス	3④	○	2	○			1						
			材料力学入門	2④	○	2	○			2						オムニバス
			材料力学Ⅰ	2①	○	2	○			1						
			材料力学Ⅱ	2③	○	2	○			1						
			材料評価学	3①	○	2	○				1					
			物質構造論	3④	○	2	○				1					
			電気化学	3②	○	2	○			1	1					オムニバス
			磁性・超伝導	3③	○	2	○			1						
			光量子電子工学	3③	○	2	○				1					
			光応用工学	3④	○	2	○				1					
			光化学	3②	○	2	○				1					
			電気機器	3①	○	2	○			1						
			パワーエレクトロニクス	3④	○	2	○				1					
			無機化学	2①	○	2	○				1					
			有機化学（工）	2①	○	2	○								1	
			有機反応化学	3①	○	2	○			1						
			有機合成化学	3④	○	2	○			1						
			高分子化学A	2④	○	2	○			1						
			高分子化学B	3②	○	2	○			1						
			高分子科学	2④	○	2	○			1						

科目 区分				授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
							必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹 （助手を除く） 教員	
専門教育に関する授業科 協創経営プログラム 専門応用科目群 先端融合材料パッケージ	高分子材料化学	3①	○		2		○				1					オムニバス			
	機能性高分子材料	3②	○		2		○												
	分子設計化学	2③	○		2		○				1								
	物理化学Ⅰ	2③	○		2		○				1								
	物理化学Ⅱ	2④	○		2		○				1								
	物理化学Ⅲ	3①	○		2		○			1	1								
	分析化学（工）	2②	○		2		○				1								
	材料分析化学	2③	○		2		○				1								
	計測化学Ⅰ	2③	○		2		○				1								
	計測化学Ⅱ	3②	○		2		○				1								
	反応工学Ⅰ	2①	○		2		○				1								
	反応工学Ⅱ	3①	○		2		○				1								
	反応工学Ⅲ	3②	○		2		○				1								
	反応速度論	3①	○		2		○				1								
	反応装置工学	3②	○		2		○				1								
	触媒化学	3④	○		2		○				1								
	拡散操作Ⅰ	2②	○		2		○				1								
	拡散操作Ⅱ	2③	○		2		○				1								
	拡散操作Ⅲ	3②	○		2		○				1								
	移動論基礎	2②	○		2		○						1						
	プロセス伝熱工学	2②	○		2		○			1									
	プロセス制御	3②	○		2		○			1									
	粉体工学	3①	○		2		○				1								
	無機工業化学	3①	○		2		○				1								
	無機合成化学	2②	○		2		○				1								
	機械的分離工学	3④	○		2		○				1								
	工業生化学	2④	○		2		○				1								
	生体分子工学	3①	○		2		○				1								
	生物材料工学	3②	○		2		○			1									
	【パッケージ指定の実習・演習・実験系科目】																		
	電子情報通信設計製図	3③④	○		2			○		7	9					共同			
	化学工学計算演習	2③	○		1			○					1						
	反応工学演習	2①	○		1			○			1								
	移動現象演習	2④	○		1			○					1						
	設計製図	3①	○		1			○			1					オムニバス			
	応用化学演習Ⅰ	3③	○		1			○					1						
	応用化学演習Ⅱ	3③	○		1			○			1								
	応用化学演習Ⅲ	3③	○		1			○			2								
	応用化学演習Ⅳ	3④	○		1			○			1					共同			
	応用化学演習Ⅴ	3④	○		1			○		1					1				
分離工学演習	3③	○		1			○			1					オムニバス				
材料科学PBL	3③	○		1			○		2	2		1							
電子情報通信実験Ⅰ	2③④	○		2				○	1	6					共同				
電子情報通信実験Ⅱ	3①②	○		2				○	6	4									
電子情報通信実験Ⅲ	3③④	○		2				○	2	4				1	共同				
電子情報通信実験Ⅳ	4①②	○		2				○	2	3									
化学実験Ⅰ	2④	○		1				○		1			2		共同				
化学実験Ⅱ	3①	○		1				○		1			2						
無機化学実験（工）	2④	○		2				○		1			1		共同				
有機化学実験（工）	3②	○		2				○	1	1									
高分子化学実験	3①	○		2				○	1					1	共同				
物理化学実験（工）	3②	○		2				○	1	1									
分析化学実験（工）	2②	○		2				○		1					共同				
化学工学実験	3②③	○		4				○	1	3			2						
材料科学実験Ⅰ	3①	○		2				○	2	2			2		オムニバス				
材料科学実験Ⅱ	3②	○		2				○	2	4									

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員	
専門教育に関する授業科目	機械工学概論	2③	○		2		○			3	7		1			共同
	電子情報通信概論	2③	○		1		○			4	3					オムニバス
	知能情報システム概論	2③	○		1		○			6	2					オムニバス
	材料力学入門	2④	○		2		○			2						オムニバス
	材料力学Ⅰ	2①	○		2		○			1						
	材料力学Ⅱ	2③	○		2		○			1						
	流体工学Ⅰ	2②	○		2		○				1					
	流体工学Ⅱ	2③	○		2		○				1					
	工業力学	2①	○		2		○			1			1			オムニバス
	熱工学Ⅰ	2④	○		2		○			1						
	熱工学Ⅱ	3①	○		2		○			1	1					共同
	機械力学Ⅰ	2④	○		2		○			1						
	機械力学Ⅱ	3①	○		2		○			1						
	製図基礎	2④	○		2				○		1					
	機械設計Ⅰ	2①	○		2		○				1					
	機械設計Ⅱ	2②	○		2		○				1					
	加工学	2②	○		2		○				1					
	機械材料	3②	○		2		○			1						
	システム制御Ⅰ	3②	○		2		○				1					
	システム制御Ⅱ	3④	○		2		○				1					
	システム制御工学	3②	○		2		○			1						
	制御工学	3②	○		2		○			1						
	エネルギー変換工学	3②	○		2		○			1						
	マイクロマシン	3②	○		2		○			1						
	バイオメカニクス	3③	○		2		○								2	オムニバス
	伝熱工学	3③	○		2		○			1	1					オムニバス
	機械音響工学	3③	○		2		○				1					
	ロボット工学	3④	○		2		○				1		1			オムニバス
	ソフトウェア工学	3④	○		2		○				1					
	プログラミングⅠ	2①	○		2				○		1		1			オムニバス
	プログラミングⅡ	2②	○		2				○		1		1			オムニバス
	プログラミングⅢ	3③	○		2				○	1	1					オムニバス
	プログラミングⅠ	2①	○		2				○	1	1					共同
	プログラミングⅡ	2②	○		2				○	1	1					共同
	電磁気Ⅰ	2④	○		3		○				1					
	電磁気Ⅱ	3②	○		3		○				1					
	応用電磁気学	2④	○		2		○				1					
	電気回路Ⅰ	3①	○		3		○				1					
	電気回路Ⅱ	3③	○		3		○				1					
	電気回路Ⅲ	3④	○		2		○				1					
	電気回路（知能情報システムプログラム開講）	2②	○		2		○				1					
	受動電気回路素子論	2②	○		2		○			1						
	電子回路	2④	○		2		○			1						
	基礎電子回路	2④	○		2		○			1						
	デジタル回路	2②	○		2		○			1						
	デジタル信号処理	3①	○		2		○			1						
	電気計測	2③	○		2		○			2						オムニバス
	計測工学	2②	○		2		○			1						
	通信方式基礎	3④	○		2		○			1						
	画像情報工学	3③	○		2		○			1						
	電気機器	3①	○		2		○			1						
	パワーエレクトロニクス	3④	○		2		○				1					
	送配電工学	3①	○		2		○			1						
	発電電工学	4①②	○		2		○								1	
	高電圧工学	4②	○		2		○				1					
	ネットワーク工学	2④	○		2		○			1						
	電波・電気通信法規	4①②	○		2		○								1	
	電気法規・施設管理	4③④	○		1		○								1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員	
専門 教育に 関する 授業科目	情報数学	2①	○		2		○			1						オムニバス
	データ構造とアルゴリズム	2②	○		2		○				1					
	離散数学	2③	○		2		○				1					
	人工知能基礎	2③	○		2		○			1						
	論理回路	2④	○		2		○				1					
	コンピュータネットワーク	2②	○		2		○			1						
	形式言語とオートマトン	2③	○		2		○			1						
	オペレーティングシステム	2④	○		2		○						1			
	コンピュータアーキテクチャ	2④	○		2		○								1	
	信号処理	3①	○		2		○			1						
	情報理論	3②	○		2		○			1						
	データ工学	3①	○		2		○			1						
	情報システムとセキュリティ	3④	○		2		○				1					
	機械学習	3②	○		2		○	○		1	1					
	数理論理学	2④	○		2		○			1						
	数値計算プログラミング	3①	○		2		○				1					
	ロボティクス・メカトロニクス	3①	○		2		○				1					
	コンパイラ	3②	○		2		○				1					
	マルチメディアコンピューティング	3③	○		2		○				1					
	生体計測	3③	○		2		○			1						
	アシスティブ・テクノロジー	3④	○		2		○				1					
	データベース	3④	○		2		○			1						
	【パッケージ指定の実習・演習・実験系科目】															
	設計製図Ⅰ	3①	○		1				○		1					
	設計製図Ⅱ	3②	○		1				○		1					
	設計製図Ⅲ	3③	○		1				○		2					
	設計製図Ⅳ	3④	○		1				○		2					
	機械工学演習	3③	○		2			○		4	7		2			
	機械工学実験Ⅰ	3①	○		1			○		4	7		2			
	機械工学実験Ⅱ	3②	○		1			○		4	7		2			
	機械工学実験Ⅲ	3③	○		1			○		4	7		2			
	機械工学実験Ⅳ	3④	○		1			○		4	7		2			
	電子情報通信実験Ⅰ	2③④	○		2			○		1	6					
	電子情報通信実験Ⅱ	3①②	○		2			○		6	4					
	電子情報通信実験Ⅲ	3③④	○		2			○		2	4				1	
	電子情報通信実験Ⅳ	4①②	○		2			○		2	3					
	知能情報システム実験Ⅰ	3①	○		1			○		2	1		1		1	
	知能情報システム実験Ⅱ	3②	○		1			○		2	1		1		1	
	知能情報システム実験Ⅲ	3③	○		1			○		1	2		1		1	
	知能情報システム実験Ⅳ	3④	○		1			○		1	2		1		1	
次 世 代 社 会 文 化 環 境 シ ス テ ム デ ザ イ ン パ ッ ケ ー ジ	社会基盤工学概論	2④	○		2		○			3	3		1			オムニバス
	建築学概論	2③	○		2		○			2	4		3			
	材料力学入門	2④	○		2		○			2						
	応用力学Ⅰ	2②	○		2		○			1						
	応用力学Ⅱ	2③	○		2		○			2						
	コンクリート工学Ⅰ	2④	○		2		○			1						
	コンクリート工学Ⅱ	3①	○		2		○			1						
	コンクリート構造工学	3③	○		2		○			1						
	地盤工学Ⅰ	2②	○		2		○				1		1			
	地盤工学Ⅱ	2④	○		2		○				1		1			
	地盤工学Ⅲ	3②	○		2		○				1		1			
	基礎水理学	2②	○		2		○				1					
	土木技術者倫理	4③④	○		2		○								1	
	建設材料学	2②	○		2		○			1						
	測量学（工）	2④	○		2		○				1					
	河川工学（工）	3②	○		2		○				1					
	海岸工学	3①	○		2		○				1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員	
専門教育に関する授業科 協創経営プログラム 専門応用科目群	地形学	2④	○		2		○								1	
	土木計画学	2・3①②			2		○								5	オムニバス
	交通工学	2・3①②			2		○								1	
	建築計画学Ⅰ	2③	○		2		○				1		1			オムニバス
	建築計画学Ⅱ	3②	○		2		○				1					
	設計方法論	3③	○		2		○				1					
	建築構造設計Ⅰ	3①	○		2		○			1						
	建築構造設計Ⅱ	3②	○		2		○			1			1			オムニバス
	建築材料	2②	○		2		○			1			1			オムニバス
	建築環境工学Ⅰ	2③	○		2		○				1		1			オムニバス
	建築環境工学Ⅱ	3①	○		2		○				1		1			オムニバス
	都市計画学Ⅰ	2②	○		2		○			1						
	都市計画学Ⅱ	2④	○		2		○				1					
	都市デザイン論	3②	○		2		○			1						
	日本建築史	2①	○		2		○				1					
	近代建築史	2④	○		2		○				1					
	建築施工	4①②	○		2		○								1	
	建築法規	3①	○		2		○								1	
	建築環境制御学Ⅰ	3①	○		2		○				1		1			オムニバス
	建築環境制御学Ⅱ	3③	○		2		○				1		1			オムニバス
	【パッケージ指定の実習・演習・実験系科目】															
	社会基盤設計基礎	2①	○		2			○		3	3		1			オムニバス
	応用力学演習Ⅰ	2②	○		2			○		2						オムニバス
	応用力学演習Ⅱ	2③	○		2			○		2						オムニバス
	水理学及び演習Ⅰ	2③	○		2		○				1					
	水理学及び演習Ⅱ	3④	○		2		○				1					
	社会基盤製図	2①	○		2		○			1						
	社会基盤プロジェクト・マネジメント	3③④	○		4		○			3	2		1		3	オムニバス・共同（一部）
	測量学実習（工）	3①②	○		2		○				1					
	建築図学Ⅰ	2③	○		1		○				2					オムニバス・共同（一部）
	建築図学Ⅱ	2④	○		1		○				2					オムニバス・共同（一部）
	建築製図基礎Ⅰ	2①	○		1				○		2					オムニバス・共同（一部）
	建築製図基礎Ⅱ	2②	○		1				○		2					オムニバス・共同（一部）
	建築設計製図Ⅰ	2③	○		2				○	2	4		3			オムニバス・共同
	建築設計製図Ⅱ	2④	○		2				○	2	4		3			オムニバス・共同（一部）
	建築設計製図Ⅲ	3①	○		2				○	2	4		3	1		共同
	建築設計製図Ⅳ	3②	○		2				○	2	4		3	1		共同
	建築設計製図Ⅴ	3③	○		2				○	2	4		3			オムニバス・共同（一部）
	建築設計製図Ⅵ	3④	○		2				○	2	4		3			共同
	建築計画演習Ⅰ	3①	○		1			○			1		1			オムニバス・共同
	建築計画演習Ⅱ	3②	○		1			○			1		1			オムニバス・共同
	建築構造解析学・演習Ⅰ	2①	○		2			○							1	
	建築構造解析学・演習Ⅱ	2②	○		2			○		1						
	建築構造解析学・演習Ⅲ	2③	○		2			○		1	1					オムニバス・共同
	建築構造解析学・演習Ⅳ	2④	○		2			○							1	
	建築構造設計演習Ⅰ	3③	○		1			○		1						
	建築構造設計演習Ⅱ	3④	○		1			○		1						
	建築構造設計演習Ⅲ	3③	○		1			○		1	1					オムニバス・共同
	建築構造設計演習Ⅳ	3④	○		1			○		1	1					オムニバス・共同
	建築環境工学演習Ⅰ	3②	○		1			○			1		1			オムニバス・共同
	建築環境工学演習Ⅱ	3②	○		1			○			1		1			オムニバス・共同
	建築環境制御学演習Ⅰ	3④	○		1			○			1		1			オムニバス・共同
	建築環境制御学演習Ⅱ	3④	○		1			○			1		1			オムニバス・共同
	都市計画・デザイン演習	3③	○		2			○		1	1					オムニバス・共同
	社会基盤工学実験Ⅰ	3②	○		2				○							オムニバス・共同
	社会基盤工学実験Ⅱ	3③	○		2				○		2		1			オムニバス・共同
	建築材料・構造実験Ⅰ	3③	○		2				○	1			1			オムニバス
	建築材料・構造実験Ⅱ	3④	○		2				○	1			1			オムニバス

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く）教員	
専門教育に関する授業科目	電子情報通信概論	2③	○		1		○			4	3					オムニバス
	電磁気学Ⅰ	2④	○		3		○				1					
	電磁気学Ⅱ	3②	○		3		○				1					
	応用電磁気学	2④	○		2		○				1					
	電気回路Ⅰ	3①	○		3		○				1					
	電気回路Ⅱ	3③	○		3		○				1					
	電気回路Ⅲ	3④	○		2		○				1					
	電気回路（知能情報システムプログラム開講）	2②	○		2		○				1					
	受動電気回路素子論	2③	○		2		○			1						
	電子回路	2④	○		2		○			1						
	基礎電子回路	2④	○		2		○			1						
	電子デバイスⅠ	2②	○		2		○			1						
	電子デバイスⅡ	3②	○		2		○			1						
	電子デバイス	3②	○		2		○			1						
	電子物性工学Ⅰ	3④	○		2		○				1					
	電子物性工学Ⅱ	4①	○		2		○			1						
	半導体物性・デバイス	3④	○		2		○			1						
	電気化学	3②	○		2		○			1	1					オムニバス
	磁性・超伝導	3③	○		2		○			1						
	パワーエレクトロニクス	3④	○		2		○				1					
	物理化学Ⅰ	2③	○		2		○			1						
	物理化学Ⅱ	2④	○		2		○				1					
	物理化学Ⅲ	3①	○		2		○			1	1					オムニバス
	エネルギー変換工学	3②	○		2		○			1						
	伝熱工学	3③	○		2		○			1	1					オムニバス
	電気機器	3①	○		2		○			1						
	送配電工学	3①	○		2		○			1						
	発電工学	4①②	○		2		○								1	
	高電圧工学	4②	○		2		○				1					
	建築環境工学Ⅰ	2③	○		2		○				1		1			オムニバス
	建築環境工学Ⅱ	3①	○		2		○				1		1			オムニバス
	建築環境制御学Ⅰ	3①	○		2		○				1		1			オムニバス
	建築環境制御学Ⅱ	3③	○		2		○				1		1			オムニバス
	【パッケージ指定の実習・演習・実験系科目】															
	建築環境工学演習Ⅰ	3②	○		1			○			1		1			オムニバス・共同
	建築環境工学演習Ⅱ	3②	○		1			○			1		1			オムニバス・共同
	建築環境制御学演習Ⅰ	3④	○		1			○			1		1			オムニバス・共同
	建築環境制御学演習Ⅱ	3④	○		1			○			1		1			オムニバス・共同
	電子情報通信実験Ⅰ	2③④	○		2				○	1	6					共同
	電子情報通信実験Ⅱ	3①②	○		2				○	6	4					共同
	電子情報通信実験Ⅲ	3③④	○		2				○	2	4				1	共同
	電子情報通信実験Ⅳ	4①②	○		2				○	2	3					共同
	材料科学実験Ⅰ	3①	○		2				○	2	2		2			オムニバス
	材料科学実験Ⅱ	3②	○		2				○	2	4					オムニバス
	化学実験1	2④	○		1				○		1		2			共同
	化学実験2	3①	○		1				○		1		2			共同
	分析化学実験（工）	2②	○		2				○		1					
選択科目	職業指導（工）	4②	○		2		○								1	標準外
	創造プロジェクト基礎	1③～④	○		2				○	1						※演習 標準外
	創造プロジェクトⅠ	2①～②	○		2				○	1						※演習 標準外
	創造プロジェクトⅡ	2③～④	○		2				○	1						※演習 標準外
	創造研究プロジェクトⅠ	3①～②	○		2				○	1						※演習 標準外
	創造研究プロジェクトⅡ	3③～④	○		2				○	1						※演習 標準外
	マーケット・インターンシップ	1・2・3・4②③④	○		2				○	1						※演習 標準外
	テクノロジー・インターンシップ	1・2・3・4②③④	○		2				○	1						※演習 標準外
	国際工学事情	1・2・3・4②③④	○		1		○				1					標準外
	国際工学特論	1・2・3・4②③④	○		2		○				1					標準外
	国際技術協力	1・2・3・4②③④	○		1		○				1				1	オムニバス、標準外

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考			
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 等 の 配 置 (助 手 以 外 の 教 員)				
専門 教育 に 関 す る 授 業 科 目	協創 経 営 ブ ロ グ ラ ム	選 択 科 目	国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップA	1・2・3・4①②③④	○		2				○	1	1					オムニバス、標準外	
			国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップB	1・2・3・4①②③④	○		3				○	1	1					オムニバス、標準外	
			国際マーケット・グループワーク・インターンシップA	1・2・3・4①②③④	○		2				○	1	1					オムニバス、標準外	
			国際マーケット・グループワーク・インターンシップB	1・2・3・4①②③④	○		3				○	1	1					オムニバス、標準外	
		特 殊 選 択 科 目	工場実習	1・2・3・4①②③④			2				○	1							標準外
			工場見学	1・2・3・4①②③④			1				○	1							標準外
			特別講義	1・2・3・4①②③④			1		○			1							標準外
			海外英語研修	1・2・3・4①②③④			4			○		1							標準外
		自 由 科 目	国際研修	1・2・3・4①②③④			1～4				○	1							標準外
			単位互換協定に基づき修得した他大学開設科目								○	1							当該科目について定められている単位数
	特設講義								○	1									
小計（ 316 科目）		—	—	14	713～720	0	—	—	—	37	53	0	13	0	45	—			
合計（ 330 科目）		—	—	23	728～735	0	—	—	—	43	57	0	15	0	50	—			
学位又は称号		学士（工学）			学位又は学科の分野				工学関係										
卒 業 ・ 修 了 要 件 及 び 履 修 方 法										授業期間等									
（卒業要件） 教養系科目42単位以上（必修科目13単位、選択必修科目12単位以上、選択科目11単位以上。うち6単位は学部専門系科目でも可）、学部専門系科目82単位以上、合計124単位以上を修得すること。 （履修方法） 1．教養教育に関する科目として、大学学習法科目2単位、英語科目2単位、初修外国語科目2単位、健康・スポーツ科目1単位、情報リテラシー2単位、人文社会・教育科学科目4単位を必修として修得する。選択必修として情報リテラシー科目、自然系共通専門科目、自然科学科目のいずれかから10単位、人文社会・教育科学科目、新潟大学個性化科目のいずれかから2単位を修得する。選択科目として教養系科目全体の中から11単位を修得し、教養系科目で合計36単位を修得する。 2．専門教育に関する科目として、専門基礎科目群から10単位以上、専門応用科目群の必修科目23単位、選択必修科目38単位以上を含む合計82単位を履修する。 3．学部専門系科目または教養系科目（6単位以上）を修得し、1～3の合計で124単位以上を修得する。 （履修科目の登録の上限：56単位（年間）※集中講義、副専攻、教職科目等については例外あり）										1 学年の学期区分				4ターム					
										1 学期の授業期間				8週					
										1 時限の授業の標準時間				90分					

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(農学部農学科／教養教育に関する科目) 【基礎学部】																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く) 教員以外の教員		
教養教育に関する授業科目	英語	アカデミック英語入門R	1①～②③～④		1		○									27	
		実践コミュニケーション英語Ⅰ	1①～②		1			○								5	
		アカデミック英語入門R	1①～②③～④		1			○								27	
		アカデミック英語入門L	1①～②③～④		1			○								13	
		中級コミュニケーション英語	1.2.3.4①～②③～④		2			○								10	メディア
		上級コミュニケーション英語	1.2.3.4①～②③～④		2			○								6	メディア
		TOEFL iBT PreparationⅠ	1.2.3.4①～②③～④		2			○								2	
		TOEFL iBT PreparationⅡ	1.2.3.4①～②		2			○								2	メディア
		IELTS PreparationⅠ	1.2.3.4①～②③～④		2			○								1	
		IELTS PreparationⅡ	1.2.3.4①～②③～④		2			○								1	
		実践コミュニケーション英語Ⅱ	1③～④		1			○								5	
		中級C A L L (留学準備)	1.2.3.4①～②③～④		2			○								1	メディア
		中級EAP (Listening & Speaking)	2.3.4①～②③～④		2			○								2	
		中級EAP (Writing)	2.3.4①②③④①～②③～④		2			○								2	
		上級EAP (Writing)	2.3.4①～②③～④		2			○								1	
		中級EAP (Reading: Term Course)	2.3.4①		1			○								1	
		中級EAP (Listening & Speaking: Term Course)	2.3.4①②		1			○								1	
		上級EAP (Reading)	2.3.4①～②③～④		2			○								1	
		中級EAP (Reading)	2.3.4①～②③～④		2			○								2	
		上級EAP (Listening & Speaking)	2.3.4①～②③～④		2			○								1	
		iStep Extension: Academic Writing	1.2③～④		2			○								1	
		iStep Extension: Basic Pronunciation	1.2③～④		2			○								1	
		iStep Academic Writing	1.2②		0.5			○								1	
		iStep Extension: Academic Listening & Speaking	1.2③～④		2			○								2	
		iStep Extension: Academic Reading	1.2③～④		2			○								1	
		iStep Extension: Presentation	1.2③～④		2			○								1	
		iStep Presentations	1.2②		0.5			○								1	
		iStep Extension: Oral Communication	1.2③～④		2			○								1	
		iStep Academic Reading	1.2②		0.5			○								1	
		iStep Listening and Speaking	1.2②		0.5			○								1	
		英語表現セミナーA	1.2.3.4①～②③～④		2			○								1	
		英語表現セミナーB	1.2.3.4①～②③～④		2			○								1	
		英語表現セミナーC	1.2.3.4①～②③～④		2			○								1	
		実践英語セミナー	1.2.3.4①～②③～④		2			○								1	
		医療英語(看護)	1.2.3.4①～②		2			○								5	オムニバス
		医療英語(放射)	1.2.3.4①～②		2			○								14	オムニバス
		医療英語(検査)	1.2.3.4①～②		2			○								15	オムニバス
		医療英語ベーシック(放射)	1.2.3.4③～④		2			○								7	オムニバス
		P.A.C.E. (Academic Listening & Speaking)	1.2.3.4①		0.5			○								2	
		P.A.C.E. (Academic ReadingⅠ)	1.2.3.4①		0.5			○								2	
		P.A.C.E. (Academic WritingⅠ)	1.2.3.4①		0.5			○								2	
		P.A.C.E. (Oral Communication)	1.2.3.4①		0.5			○								2	
		P.A.C.E. (Academic WritingⅡ)	1.2.3.4②		0.5			○								2	
		P.A.C.E. (Academic ReadingⅡ)	1.2.3.4②		0.5			○								2	
		P.A.C.E. (Research Writing)	1.2.3.4③～④		1			○								2	
		P.A.C.E. (Academic Communication Skills)	1.2.3.4③～④		1			○								1	
		P.A.C.E. (Presentation Skills)	1.2.3.4③～④		1			○								1	
	小計(47科目)	—	—	0	69	0	—	—	0	0	0	0	0	0	81		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外を除く教員	
教養教育に関する授業科目	初修外国語	ドイツ語圏グローバル理解 1 (スイス学入門)	1. 2①②		1		○								1	メディア
		ドイツ語圏グローバル理解 2 (ドイツ語文化圏研究入門)	1. 2①②		1		○								1	メディア
		ドイツ語圏グローバル理解 3 (ドイツ語圏で暮らしてみれば)	1. 2①②		1		○								1	
		ドイツ語圏グローバル理解 4 (東西ドイツの分断と統一って?)	1. 2①②		1		○								1	
		ドイツ語圏グローバル理解 5 (映像で見る日独文化比較)	1. 2①②		1		○								1	
		フランス語圏グローバル理解 1	1. 2①②		1		○								1	
		フランス語圏グローバル理解 2	1. 2①②		1		○								1	
		フランス語圏グローバル理解 3	1. 2①②		1		○								1	
		ロシア語圏グローバル理解 1	1. 2①②		1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 1 (日中韓比較文化)	1. 2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 2 (映像で探る中国文化)	1. 2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 3 (多民族国家中国)	1. 2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 4 (漢文と中国語)	1. 2③④		1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 5 (中国の生活と経済)	1. 2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 6 (中国滞在事情)	1. 2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 7 (エリアスタディーズ北京)	1. 2①②		1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 8 (エリアスタディーズ上海)	1. 2①②		1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 9 (エリアスタディーズ東北)	1. 2①②		1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 10 (中国語の基礎知識)	1. 2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 11 (中国語の基礎知識)	1. 2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 12 (中国語の基礎知識)	1. 2③④		1		○								1	
		朝鮮語圏グローバル理解 1	1. 2①②		1		○								1	メディア
		朝鮮語圏グローバル理解 2	1. 2①②		1		○								1	メディア
		スペイン語圏グローバル理解 1	1. 2①②		1		○								1	
		イタリア語圏グローバル理解 1	1. 2①②		1		○								1	メディア
		古代ローマ帝国ラテン語	1. 2. 3. 4①		1		○								1	メディア
		古典古代ギリシア語	1. 2. 3. 4②		1		○								1	メディア
		西洋古典文芸 A	1. 2. 3. 4①		1		○								1	
		西洋古典文芸 B	1. 2. 3. 4②		1		○								1	
		フィリピン語圏グローバル理解 1	1. 2①②		1		○								1	
		ドイツ語インテンシブ IA	1. 2①		2			○							4	オムニバス
		ドイツ語インテンシブ IB	1. 2②		2			○							4	オムニバス
		ドイツ語スタンダード IA	1. 2①	1. 5				○							5	オムニバス
		ドイツ語スタンダード IB	1. 2②	1. 5				○							5	オムニバス
		コミュニケーション・ドイツ語A	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語B	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語C	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		ドイツ語セミナーA	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		ドイツ語セミナーB	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		ドイツ語インテンシブ II	1. 2③～④		4			○							4	オムニバス
		ドイツ語スタンダード II	1. 2③～④		3			○							5	オムニバス
		ドイツ語エッセンシャル A	1. 2③～④		2			○							2	
		ドイツ語エッセンシャル B1	1. 2③～④		1			○							2	
		コミュニケーション・ドイツ語D	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語E	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語F	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		ドイツ語セミナーC	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		ドイツ語セミナーD	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		フランス語インテンシブ IA	1. 2①		2			○							3	オムニバス
		フランス語インテンシブ IB	1. 2②		2			○							3	オムニバス
		フランス語スタンダード IA	1. 2①		1. 5			○							5	メディア、オムニバス

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外を除く教員	
教養教育に関する授業科目	初修外国語	フランス語スタンダード IB	1. 2②		1. 5			○							5	メディア、オムニバス
		コミュニケーション・フランス語B	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・フランス語C	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語D	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語E	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語J	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		フランス語セミナーA	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア
		フランス語インテンシブ II	1. 2③～④		4			○							3	オムニバス
		フランス語スタンダード II	1. 2③～④		3			○							5	メディア、オムニバス
		フランス語エッセンシャル A	1. 2③～④		2			○							2	
		フランス語エッセンシャル B	1. 2③～④		1			○							2	
		フランス学アクティブ	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語G	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語H	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・フランス語K	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		フランス語セミナーB	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	メディア
		ロシア語インテンシブ IA	1. 2①		2			○							2	オムニバス
		ロシア語インテンシブ IB	1. 2②		2			○							2	オムニバス
		ロシア語スタンダード IA	1. 2①		1. 5			○							2	オムニバス
		ロシア語スタンダード IB	1. 2②		1. 5			○							2	オムニバス
		コミュニケーション・ロシア語A	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・ロシア語B	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		ロシア語セミナーA	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		ロシア語ベーシックプラスA	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		ロシア語インテンシブ II	1. 2③～④		4			○							2	オムニバス
		ロシア語スタンダード II	1. 2③～④		3			○							2	オムニバス
		ロシア語エッセンシャル A	1. 2③～④		2			○							2	オムニバス
		ロシア語エッセンシャル B	1. 2④		1			○							1	メディア
		コミュニケーション・ロシア語C	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	メディア
		ロシア語セミナーB	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	メディア
		中国語インテンシブ IA	1. 2①		2			○							6	メディア、オムニバス
		中国語インテンシブ IB	1. 2②		2			○							6	メディア、オムニバス
		中国語スタンダード IA	1. 2①		1. 5			○							11	メディア
		中国語スタンダード IB	1. 2②		1. 5			○							11	
		コミュニケーション・中国語A	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・中国語B	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・中国語C	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・中国語J	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・中国語M	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		中国語セミナーE	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		中国語セミナーF	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		中国語セミナーQ	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		中国語インテンシブ II	1. 2③～④		4			○							6	オムニバス
		中国語スタンダード II	1. 2③～④		3			○							11	メディア、オムニバス
		中国語エッセンシャル A (発音・文法)	1. 2③～④		2			○							4	オムニバス
		中国語エッセンシャル B (練習・会話)	1. 2③～④		1			○							1	
		コミュニケーション・中国語D	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・中国語E	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・中国語F	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・中国語K	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	メディア
		上海語演習	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		中国語セミナーG	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		中国語セミナーH	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		中国語セミナーN	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		朝鮮語インテンシブ IA	1. 2①		2			○							2	オムニバス
		朝鮮語インテンシブ IB	1. 2②		2			○							2	オムニバス
		朝鮮語スタンダード IA	1. 2①		1. 5			○							2	メディア、オムニバス
		朝鮮語スタンダード IB	1. 2②		1. 5			○							2	メディア、オムニバス
		コミュニケーション・朝鮮語I	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語J	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語K	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外を除く教員	
教養教育に関する授業科目	初修外国語	コミュニケーション・朝鮮語H	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア
		朝鮮語セミナーA	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア
		朝鮮語インテンシブ II	1. 2③～④		4			○							3	オムニバス
		朝鮮語スタンダード II	1. 2③～④		3			○							2	メディア、オムニバス
		朝鮮語エッセンシャル A	1. 2③～④		2			○							1	
		朝鮮語エッセンシャル B	1. 2③～④		1			○							1	
		コミュニケーション・朝鮮語L	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語X	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		朝鮮語セミナーB	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	メディア
		スペイン語スタンダード IA	1. 2①		1. 5			○							1	
		スペイン語スタンダード IB	1. 2②		1. 5			○							1	
		スペイン語スタンダード III	1. 2①～②		1			○							1	
		コミュニケーション・スペイン語A	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		スペイン語セミナーA	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		スペイン語スタンダード II	1. 2③～④		3			○							1	
		スペイン語スタンダード IV	1. 2③～④		1			○							1	
		スペイン語エッセンシャル A	1. 2③～④		2			○							1	
		スペイン語エッセンシャル B	1. 2③～④		1			○							1	
		コミュニケーション・スペイン語B	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		イタリア語スタンダード IA	1. 2①		1. 5			○							2	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード IB	1. 2②		1. 5			○							2	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード III	1. 2①～②		1			○							1	メディア
		コミュニケーション・イタリア語A	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	メディア
		イタリア語スタンダード II	1. 2③～④		3			○							2	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード IV	1. 2③～④		1			○							1	メディア
		コミュニケーション・イタリア語B	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	メディア
		古代エジプト神聖文字文A	1. 2. 3. 4③		1			○							1	メディア
		古代エジプト神聖文字文B	1. 2. 3. 4④		1			○							1	メディア
		フィリピン語エッセンシャル A	1. 2③～④		2			○							1	
		フィリピン語エッセンシャル B	1. 2③～④		1			○							1	
		小計 (142科目)	—	—	0	251	0	—		0	0	0	0	0	54	
健康・スポーツ	健康スポーツ科学実習 Ia	1. 2. 3. 4①			0. 5				○						2	
	健康スポーツ科学実習 Ib	1. 2. 3. 4②			0. 5				○						2	
	健康スポーツ科学実習 I	1. 2. 3. 4①～②③～④			1				○						16	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II (ゴルフ)	1. 2. 3. 4①～②			1				○						3	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II (ソフトボール)	1. 2. 3. 4①～②			1				○						1	
	健康スポーツ科学実習 II (スキー I)	1. 2. 3. 4③～④			1				○						8	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II (スキー II)	1. 2. 3. 4③～④			1				○						8	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II (卓球 II)	1. 2. 3. 4③～④			1				○						1	
	健康スポーツ科学実習 II (卓球 I)	1. 2. 3. 4③～④			1				○						1	
	健康スポーツ科学実習 II (剣道)	1. 2. 3. 4③～④			1				○						1	
	健康スポーツ科学実習 II (トレーニング)	1. 2. 3. 4③～④			1				○						1	
	健康スポーツ科学実習 II (野外活動)	1. 2. 3. 4③～④			1				○						1	
	健康スポーツ科学講義a	1. 2. 3. 4①③			1		○								4	オムニバス
	健康スポーツ科学講義b	1. 2. 3. 4②④			1		○								4	オムニバス
	健康スポーツ科学講義	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	オムニバス
	小計 (15科目)	—	—	0	15	0	—	—		0	0	0	0	0	26	
情報リテラシー	データサイエンス基礎演習	1. 2. 3. 4①②③④			2			○							10	
	データサイエンス総論 I	1. 2. 3. 4①③			1		○			1					6	オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門 (力学分野)	1. 2. 3. 4①			2		○								2	※演習、オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門 (化学材料分野)	1. 2. 3. 4①			2		○								2	※演習、オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門 (融合領域分野)	1. 2. 3. 4①			2		○								2	※演習、オムニバス
	情報リテラシー概論	1. 2. 3. 4①			2		○								6	オムニバス
	データサイエンス総論 II	1. 2. 3. 4②④			1		○			1					6	オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門 (情報電子分野)	1. 2. 3. 4②			2		○								3	※演習、オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門 (建築分野)	1. 2. 3. 4②			2		○								2	※演習、オムニバス

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外を除く教員	
教養教育に関する科目	情報リテラシー	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	オムニバス
	情報処理概論 A I	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	人工知能入門	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	
	データサイエンス・インターンシップ (事前・事後指導)	1. 2. 3. 4①～②			2			○		1						
	データサイエンス・インターンシップ	1. 2. 3. 4①～②			6			○		1						
	情報処理概論 A II	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	データサイエンス発表	1. 2. 3. 4③～④			2			○		1						
	サイバーセキュリティと情報倫理	1. 2. 3. 4①			2		○								1	
	小計 (17科目)	—	—		36		—			1	0	0	0	0	32	
新潟大学個性化科目	日本酒学C	1. 2. 3. 4②			1		○								5	オムニバス
	日本酒学A	1. 2. 3. 4①～②			2		○							1	3	オムニバス
	キャリアデザイン	1. 2. 3. 4①～②			2		○								3	オムニバス
	SDGs入門演習	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	メディア
	新潟産業フィールドワーク	1. 2. 3. 4①～②			4		○								2	※演習、オムニバス
	新潟の農林業	1. 2. 3. 4③	○		2		○								11	メディア、オムニバス
	食と健康の科学	1. 2. 3. 4④	○		2		○								13	オムニバス
	土と水	1. 2. 3. 4④	○		2		○								14	オムニバス
	近世越後諸地域の歴史と社会	1. 2. 3. 4③～④			2		○								5	オムニバス
	SDGs入門	1. 2. 3. 4③～④			2		○			1					4	オムニバス
	地域を探索	1. 2. 3. 4③～④			2		○						1		13	オムニバス
	日本酒学B	1. 2. 3. 4①～④			1		○						1		8	オムニバス
	ダブルホーム活動入門 I	1. 2. 3. 4①			1		○								3	※演習、オムニバス
	生まれ変わる地方小都市ー人とまちの未来図を描くー	1. 2. 3. 4①			2			○							1	メディア
	自己・他者理解から始まるキャリア自律	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	※演習、オムニバス
	仕事・業界理解から働く意味を探究する	1. 2. 3. 4③			2		○								2	※演習、オムニバス
	ダブルホーム活動入門 II	1. 2. 3. 4②			1			○							3	メディア、オムニバス
	ボランティア開発論 I	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	オムニバス
	コミュニティ開発論 I	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	オムニバス
	地域から文化を考える	1. 2. 3. 4①～②			2		○								5	※実験・実習、オムニバス
	学校支援フィールドワークA (小学校)	1. 2. 3. 4①～②			2			○							3	オムニバス
	学校支援フィールドワークA (中学校)	1. 2. 3. 4①～②			2			○							3	オムニバス
	学校支援フィールドワークA (高等学校)	1. 2. 3. 4①～②			2			○							3	オムニバス
	学校支援フィールドワークB (小学校)	1. 2. 3. 4①～②			4			○							3	オムニバス
	学校支援フィールドワークB (中学校)	1. 2. 3. 4①～②			4			○							3	オムニバス
	授業フィールドワーク	1. 2. 3. 4①～②			2				○						2	オムニバス
	現場訪問とデータから読み解く新潟の今ー新潟地域産業の可能性を探索ー I	1. 2. 3. 4①～②			2			○							2	※実験・実習、オムニバス
	生涯学習社会とメディア	1. 2. 3. 4③			2		○								1	
	私のローカルキャリア論ー地域とかわる多様な働きかた・暮らしかたー	1. 2. 3. 4③			2		○								1	※演習、メディア
	ボランティア開発論 II	1. 2. 3. 4③～④			2		○								2	オムニバス
	コミュニティ開発論 II	1. 2. 3. 4③～④			2		○								2	オムニバス
	現場訪問とデータから読み解く新潟の今ー新潟地域産業の可能性を探索ー II	1. 2. 3. 4③～④			2			○							2	※実験・実習、オムニバス
	地域共創演習 IIIb	1. 2. 3. 4③～④			1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
	地方小都市の未来創造-市民と学生による地域づくりの実践	1. 2. 3. 4①～④			4			○							2	※実験・実習、オムニバス
	地域共創演習 I	1. 2. 3. 4①～④			1			○							4	※講義、実験・実習、オムニバス
	地域共創演習 II a	1. 2. 3. 4①～④			1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
	地域共創演習 II b	1. 2. 3. 4①～④			1			○							5	※講義、実験・実習、メディア、オムニバス
	地域共創演習 Ib	1. 2. 3. 4①～④			1			○							2	※実験・実習、オムニバス

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外を除く教員	
教養教育に関する科目 新潟大学個性化科目	地域共創演習Ⅲa	1. 2. 3. 4①～②			1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
	コミュニティインターンシップ実践	1. 2. 3. 4①～④			4			○							1	※実験・実習
	日本手話A	1. 2. 3. 4①			2		○								4	オムニバス
	アクティブラーニングA	1. 2. 3. 4①②③④			1		○								1	
	アクティブラーニングC	1. 2. 3. 4①②③④			1		○								1	
	日本と外国人	1. 2. 3. 4①②③④			1		○								1	メディア
	ユーザのための数学I	1. 2. 3. 4①			2			○							1	
	教員志望者のための日本語教育入門 A	1. 2. 3. 4①			1		○								1	
	分野横断デザイン	1. 2. 3. 4①②③④			1		○								5	※演習、オムニバス
	分野横断リフレクション	1. 2. 3. 4①②③④			1		○								5	※演習、オムニバス
	多文化間共修A1	1. 2. 3. 4①③			1		○								1	
	多文化間共修B1	1. 2. 3. 4①③			1		○								1	
	多文化間共修C1	1. 2. 3. 4①③			1		○								1	メディア
	多文化間共修D1	1. 2. 3. 4①③			1		○								1	
	リーダーシップ演習Ⅱ1	1. 2. 3. 4①			1			○							3	オムニバス
	リーダーシップ演習Ⅲ1	1. 2. 3. 4①			1			○							3	オムニバス
	アクティブラーニングB	1. 2. 3. 4②④			1		○								1	
	日本手話B	1. 2. 3. 4②			2		○								4	オムニバス
	1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムⅠ	1. 2. 3. 4②			2			○							2	オムニバス
	税のしくみから社会を考える	1. 2. 3. 4②			2		○								7	オムニバス
	教員志望者のための日本語教育入門 B	1. 2. 3. 4②			1		○								1	
	地域災害環境システム学入門	1. 2. 3. 4②			1		○			1					5	オムニバス
	中国留学準備講座 サマーセミナー中国入門	1. 2. 3. 4②			1		○								2	オムニバス
	多文化間共修A2	1. 2. 3. 4②④			1		○								1	
	多文化間共修B2	1. 2. 3. 4②④			1		○								1	
	多文化間共修C2	1. 2. 3. 4②④			1		○								1	メディア
	多文化間共修D2	1. 2. 3. 4②④			1		○								1	
	リーダーシップ演習Ⅱ2	1. 2. 3. 4②			1			○							3	オムニバス
	リーダーシップ演習Ⅲ2	1. 2. 3. 4②			1			○							3	オムニバス
	新聞を体験するー新潟日報との連携授業ー	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	オムニバス
	平和を考えるA	1. 2. 3. 4①～②			2		○								5	オムニバス
	パフォーマンスの外国語	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションA	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	国際共修：留学生との協働学習を通じた異文化理解A	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	International Relations in the Asia-Pacific	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	※演習
	Regionalism in the Asia-Pacific Region	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	※演習
	Chinese Politics and Diplomacy	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	生命保険を考える	1. 2. 3. 4①～②			2		○								8	オムニバス
	ストレスマネジメント	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	※演習
	パーソナルファイナンス論	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	学生がデザインする働き方の未来ー人生100年時代のワークスタイルを創造するー	1. 2. 3. 4②～③			2		○								1	※演習
	学問の扉 知と方法の最前線	1. 2. 3. 4③～④			1		○						1		12	メディア、オムニバス
	平和と現代のグローバル安全保障論	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	中東イスラーム言語文化入門	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	大学生のための役に立つ育児学	1. 2. 3. 4①～②			1		○								7	オムニバス
	朱鷺・自然再生フィールドワーク	1. 2. 3. 4①～②			1				○	1					3	オムニバス
	1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムⅡ	1. 2. 3. 4①～②			4				○						2	オムニバス
	表現プロジェクト演習Q	1. 2. 3. 4①～②			2			○							2	オムニバス
	異文化と技術	1. 2. 3. 4①～②③～④			1		○								7	オムニバス
	研究者の仕事と生活	1. 2. 3. 4①～②			1		○				1				5	メディア、オムニバス
	地理情報システム（GIS）概論・演習	1. 2. 3. 4①～②			2			○							3	オムニバス
	森・里・海フィールド実習	1. 2. 3. 4①～②			1				○	2	1		1		4	オムニバス

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員	
教養教育に関する科目	新潟大学個性化科目	開発・環境と平和	1. 2. 3. 4①～②		2		○								1	
		西シドニー大学国際交流プログラムA	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		韓国サマースクール I	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		西シドニー大学国際交流プログラムB	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-W	1. 2. 3. 4①～②		4		○								1	
		カナダ・サマーセミナー	1. 2. 3. 4①～②		4			○							1	
		オタゴ大学英語研修	1. 2. 3. 4①～②		4			○							1	
		新潟の企業の魅力を探る	1. 2. 3. 4①～②③～④		1				○						1	
		1・2年生対象 長期・企業実践型プログラム I (集中・短縮版)	1. 2. 3. 4①～②		1			○							2	オムニバス
		1・2年生対象 長期・企業実践型プログラム II (短縮版)	1. 2. 3. 4①～②		2				○						2	オムニバス
		オンライン国際共修型プロジェクトワーク	1. 2. 3. 4①～②		1		○								6	※演習、メディア、オムニバス
		韓国サマーセミナー I	1. 2. 3. 4①～②		2			○							1	
		平和学概論	1. 2. 3. 4③		2		○								1	
		表現プロジェクト演習T	1. 2. 3. 4③		2			○							1	
		地域災害環境システム学演習	1. 2. 3. 4③		1			○		1					5	オムニバス
		トキをシンボルとした自然再生	1. 2. 3. 4③		2		○			1					8	オムニバス
		キャリア形成と法制度	1. 2. 3. 4③		2		○								1	
		表現プロジェクト演習G	1. 2. 3. 4③		2			○							1	
		ユーザのための数学II	1. 2. 3. 4③		2			○							1	
		教員志望者のための日本語教育入門 C	1. 2. 3. 4③		1		○								1	
		国際共修：留学生と考える日中言語文化A	1. 2. 3. 4③		1		○								1	
		西洋カリグラフィーA	1. 2. 3. 4③		1		○								1	メディア
		リーダーシップ演習Ⅱ3	1. 2. 3. 4③		1			○							3	オムニバス
		教員志望者のための日本語教育入門 D	1. 2. 3. 4④		1		○								1	
		大学生活戦略論ーキャンパス内外を「越境」する学び・経験ー	1. 2. 3. 4④		2		○								1	
		シンガポール・スプリングセミナー留学プログラムの準備講座：グローバル	1. 2. 3. 4④		1		○								2	※演習、オムニバス
		対応力育成・強化														
		オックスフォード大学英語研修 (OSS 留学プログラム) の準備講座：グロー	1. 2. 3. 4④		1			○							3	オムニバス
		バル対応力育成・強化														
		西洋カリグラフィーB	1. 2. 3. 4④		1		○								1	メディア
		佐渡学概論：佐渡島の自然と人々の営み	1. 2. 3. 4④		2		○			2					2	オムニバス
		リーダーシップ演習 I	1. 2. 3. 4④		1			○							3	オムニバス
		リーダーシップ演習Ⅱ4	1. 2. 3. 4④		1			○							3	オムニバス
		ピアサポート入門	1. 2. 3. 4③～④		2		○								2	※演習、オムニバス
		表現プロジェクト演習H	1. 2. 3. 4③～④		2			○							2	オムニバス
		平和を考えるB	1. 2. 3. 4③～④		2		○			2				1	6	オムニバス
		国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションB	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
		国際共修：留学生との協働学習を通じた異文化理解B	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	
		The China-Japan-US Trilateral Relations	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	※演習
		グローバル課題を理解する対応力の基礎講座	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	※演習
		現代社会と差別	1. 2. 3. 4③～④		2		○								1	※演習
		地理情報システム (GIS) 概論・応用演習	1. 2. 3. 4③～④		2			○		1					1	オムニバス
		オックスフォード大学英語研修	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		台湾スプリングセミナー I	1. 2. 3. 4③～④		2		○			3	3					オムニバス
		台湾スプリングセミナー II	1. 2. 3. 4③～④		2		○			3	3					オムニバス
		シンガポール・スプリングセミナー	1. 2. 3. 4③～④		2			○							1	
		多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-S	1. 2. 3. 4③～④		4		○								1	
		フィリピンALLC英語研修	1. 2. 3. 4③～④		4			○							1	
		佐渡自然共生国際実習	1. 2. 3. 4①～④		2				○	1	1		1		3	オムニバス
		地域共創特別演習 (岩室)	1. 2. 3. 4①～④		2			○							1	
		地域共創特別演習 IA (刈羽&東京)	1. 2. 3. 4①～②		2			○							3	オムニバス
		地域共創特別演習 IB (刈羽&東京)	1. 2. 3. 4③～④		2			○							3	オムニバス
		小計 (140科目)	—	—	0	250	0	—	—	7	6	0	2	1	187	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員	
教養教育に関する科目	英語による日本語文法解説a	1. 2. 3. 4①			1		○								1	
	中国語による日本語文法解説a	1. 2. 3. 4①			1		○								1	
	日本語Ⅰ	1. 2. 3. 4①③			2			○							2	メディア、オムニバス
	日本語Ⅲ	1. 2. 3. 4①③			2			○							1	
	英語による日本語文法解説b	1. 2. 3. 4②			1		○								1	
	中国語による日本語文法解説b	1. 2. 3. 4②			1		○								1	
	日本語Ⅱ	1. 2. 3. 4②④			2			○							1	メディア
	日本語Ⅳ	1. 2. 3. 4②④			2			○							1	
	JLPT-N1 A	1. 2. 3. 4①～②			1			○							1	メディア
	JLPT-N2 A	1. 2. 3. 4①～②			1			○							1	
	日本語作文Ⅰ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語作文Ⅱ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語作文Ⅲ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語作文Ⅳ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅰ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅱ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅲ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅳ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅴ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅵ	1. 2. 3. 4①～②③～④			1			○							1	
	日本語入門	1. 2. 3. 4①～②③～④			3			○							2	
	日本語Ⅴ	1. 2. 3. 4①～②③～④			4			○							1	
	日本語Ⅵ	1. 2. 3. 4①～②			5			○							1	
	英語による日本語文法解説c	1. 2. 3. 4③			1		○								1	
	中国語による日本語文法解説c	1. 2. 3. 4③			1		○								1	
	英語による日本語文法解説d	1. 2. 3. 4④			1		○								1	
	中国語による日本語文法解説d	1. 2. 3. 4④			1		○								1	
	JLPT-N1 C	1. 2. 3. 4③～④			1			○							1	
	集中日本語O F	1. 2. 3. 4③～④			5			○							3	オムニバス
	集中日本語O G	1. 2. 3. 4③～④			5			○							3	オムニバス
	集中日本語O H	1. 2. 3. 4③～④			5			○							3	オムニバス
	日本語Ⅶ	1. 2. 3. 4③～④			5			○							1	
	日本文化入門Ⅰ	1. 2. 3. 4①②③④			1			○							1	メディア
	日本文化入門Ⅱ	1. 2. 3. 4①②③④			1			○							1	
	日本事情自然系A	1. 2. 3. 4①～②			2		○			3	3	1	2			オムニバス
	課題研究Ⅱ	1. 2. 3. 4①～②			2			○							4	オムニバス
	ビジネス日本語	1. 2. 3. 4①～②③～④			2		○								1	
	日本で働く	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	日本事情社会系A	1. 2. 3. 4③～④			2		○								3	メディア、オムニバス
	日本事情自然系B	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	課題研究Ⅰ	1. 2. 3. 4③～④			2			○							4	オムニバス
	小計（41科目）	—	—	0	77	0	—	—	—	3	3	1	2	0	19	
大学 学習 法	人文初年次演習	1. 2. 3. 4①～②			2			○							11	オムニバス
	スタディ・スキルズA	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	
	スタディ・スキルズB	1. 2. 3. 4①			2			○							8	オムニバス
	スタディ・スキルズC	1. 2. 3. 4①～②			2			○							3	オムニバス
	スタディ・スキルズE	1. 2. 3. 4①～②			2			○							5	オムニバス
	スタディ・スキルズF	1. 2. 3. 4①～②			2			○							5	オムニバス
	スタディ・スキルズG	1. 2. 3. 4①～②			2			○							6	オムニバス
	スタディ・スキルズH	1. 2. 3. 4①～②			2			○							4	オムニバス
	スタディ・スキルズI	1. 2. 3. 4①			2			○							3	オムニバス
	スタディ・スキルズK	1. 2. 3. 4①～②			2			○							5	オムニバス
	スタディ・スキルズL	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	
	スタディ・スキルズM	1. 2. 3. 4①			2			○							6	オムニバス
	スタディ・スキルズN	1. 2. 3. 4①～②			2			○							6	オムニバス
	スタディ・スキルズP	1. 2. 3. 4①～②			2			○							7	オムニバス
	スタディ・スキルズ	1. 2. 3. 4①			2			○							13	オムニバス
	スタディスキルズⅠ	1. 2. 3. 4①			1			○							10	オムニバス
	スタディスキルズⅡ	1. 2. 3. 4③			1			○							18	オムニバス
	スタディスキルズⅢ	1. 2. 3. 4④			1			○							2	オムニバス
	スタディスキルズ（看護）	1. 2. 3. 4①			2			○							5	オムニバス

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外を除く教員	
教養教育に関する科目	大学学習法	スタディスキルズ（放射）	1.2.3.4①～②		2			○							1	
		スタディスキルズ（検査）	1.2.3.4①～②		2			○							14	オムニバス
		歯学スタディ・スキルズ	1.2.3.4①～②		2			○							8	オムニバス
		歯学スタディ・スキルズⅡ	1.2.3.4①～②		2			○							6	オムニバス
		工学リテラシー入門（力学分野）	1.2.3.4①		2			○							20	オムニバス
		工学リテラシー入門（情報電子分野）	1.2.3.4①		2		○								20	※演習、オムニバス
		工学リテラシー入門（化学材料分野）	1.2.3.4①		2			○							20	オムニバス
		工学リテラシー入門（建築分野）	1.2.3.4①		2			○							12	オムニバス
		工学リテラシー入門（融合領域分野）	1.2.3.4①		2			○							8	オムニバス
		スタディ・スキルズAⅠa	1.2.3.4①		1			○							8	
		スタディ・スキルズAⅡa	1.2.3.4③		1			○							8	
		スタディ・スキルズAⅠb	1.2.3.4①		1			○							8	
		スタディ・スキルズAⅡb	1.2.3.4③		1			○							8	
		スタディ・スキルズAⅠc	1.2.3.4①		1			○							8	
		スタディ・スキルズAⅡc	1.2.3.4③		1			○							8	
		小計（34科目）	—	—	0	59	0	—		0	0	0	0	0	223	
自然科学系共通専門基礎		解析学基礎1	1.2.3.4①		1		○						1			
		解析学基礎2	1.2.3.4②		1		○						1			
		数学基礎A1	1.2.3.4①③		1		○			1			1		1	オムニバス
		数学基礎A2	1.2.3.4②④		1		○			1			1		1	オムニバス
		数学基礎B1	1.2.3.4①③		1		○			3			1			オムニバス
		数学基礎B2	1.2.3.4②④		1		○			3			1			オムニバス
		統計学基礎1	1.2.3.4①③		1		○				1				2	オムニバス
		統計学基礎2	1.2.3.4②④		1		○				1				2	オムニバス
		物理学基礎AⅠ	1.2.3.4①①～②		2		○			2						オムニバス
		物理学基礎BⅠ	1.2.3.4①②①～②		2		○			2	1				3	オムニバス
		物理学基礎CⅠ	1.2.3.4①～②		2		○				1					
		物理学概論	1.2.3.4①～②③～④		2		○				1				1	オムニバス
		化学基礎A	1.2.3.4①②③		2		○			4	1					オムニバス
		化学基礎B	1.2.3.4①②④		2		○			3						オムニバス
		生物学基礎A	1.2.3.4①②①～②③		2		○			2	3					オムニバス
		生物学基礎B	1.2.3.4①②③③～④		2		○			1	4					オムニバス
		地学基礎A	1.2.3.4①③		2		○				1	1				オムニバス
		地学基礎B	1.2.3.4①		2		○				2					オムニバス
		物理学基礎AⅡ	1.2.3.4③～④		2		○				1					
		物理学基礎BⅡ	1.2.3.4④		2		○			2	1				1	オムニバス
		物理学基礎CⅡ	1.2.3.4③～④		2		○				1					
		地学基礎C	1.2.3.4④		2		○			1						
		小計（22科目）	—	—	0	36	0	—		20	19	1	2	0	6	
自然科学		リメディアル数学I	1.2.3.4①		1		○								4	オムニバス
		基礎数理AⅠ	1.2.3.4②④		2		○								5	オムニバス
		物理学への招待A	1.2.3.4②		2		○				1					
		生物学実験	1.2.3.4②		1				○	4	3					オムニバス
		基礎雪氷学	1.2.3.4②		2		○			3					2	オムニバス
		リメディアル数学IⅡ	1.2.3.4②		1		○								4	オムニバス
		生物学－植物A－	1.2.3.4②		2		○			1	1					オムニバス
		物理学基礎実験	1.2.3.4①～②		2				○						3	オムニバス
		地学実験A	1.2.3.4①～②		2				○		1					
		自然科学基礎実験	1.2.3.4①～②		2				○	10	4		6			オムニバス
		量子研究の最前線	1.2.3.4①～②		2		○			4	5			3	2	オムニバス
		数学の世界	1.2.3.4③		2		○			1	3					オムニバス
		基礎数理B	1.2.3.4③		2		○								5	オムニバス
		化学とSDGs	1.2.3.4③		2		○			2	1					オムニバス
		社会を支える有機化学	1.2.3.4③		2		○			1						
		生物学－動物A－	1.2.3.4③		2		○			1						
		地学E（地球理解の諸相）	1.2.3.4③		1		○				1					メディア
		地質学の基礎	1.2.3.4③		2		○			1						
		地学実験B	1.2.3.4③		1				○	1						
		基礎数理AⅡ	1.2.3.4④		2		○								5	オムニバス
		生物学－生物多様性A－	1.2.3.4④		2		○						2			オムニバス
		地学概論A	1.2.3.4①④		2		○			1	1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員	
教養教育に関する科目	対人行動の心理学	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	セクシュアリティ・スタディーズ	1. 2. 3. 4③～④			2		○								8	オムニバス
	人文系展開科目D	1. 2. 3. 4③～④			2		○							1	13	オムニバス
	日本古典文学N	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	日本古典文学0	1. 2. 3. 4①			2		○								1	
	文学D	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	西洋哲学演習	1. 2. 3. 4③～④			2			○							1	
	演劇入門	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	現代思想論	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	人文系展開科目 I	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	日本語教育 I－B	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	教養教育としての教育学入門	1. 2. 3. 4③			2			○							1	
	精神疾患とその治療	1. 2. 3. 4②			2		○								1	メディア
	公認心理師の職責	1. 2. 3. 4②			1		○								3	オムニバス
	ビジネス書道入門	1. 2. 3. 4①～②③～④			2		○								1	
	音楽(ピアノ)	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	
	水彩画表現入門	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	メディア
	美術史	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	メディア
	人体の構造と機能及び疾病	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	オムニバス
	福祉心理学	1. 2. 3. 4①～②			2		○								2	オムニバス
	教養を考える	1. 2. 3. 4①～②			2		○	※							2	※演習、オムニバス
	司法・犯罪心理学	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	臨床心理学概論	1. 2. 3. 4④			2		○								1	メディア
	音楽E	1. 2. 3. 4③～④			2			○							1	
	日本文化論	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	音楽(作曲)	1. 2. 3. 4③～④			2			○							1	
	心理演習	1. 2. 3. 4③～④			2			○							4	オムニバス
	心理的アセスメント	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	関係行政論	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	健康生活環境論	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	メディア
	心理実習	1. 2. 3. 4①～④			2				○						3	オムニバス
	人文社会科学入門(法学)	1. 2. 3. 4①			2		○								3	オムニバス
	リーガル・システムA	1. 2. 3. 4①			2		○								3	オムニバス
	日本国憲法	1. 2. 3. 4①②③④			2		○								5	オムニバス
	リーガル・システム	1. 2. 3. 4②			2		○								3	オムニバス
	リーガル・システムB	1. 2. 3. 4②			2		○								3	オムニバス
	死因究明と法	1. 2. 3. 4③			2		○								5	オムニバス
	組織マネジメント論	1. 2. 3. 4①			2		○								1	
	マーケティングプロモーション入門	1. 2. 3. 4②			1		○								1	
	小計(71科目)	—	—	0	140	0	—	—	—	0	0	0	0	1	110	
医 歯 学	はじめての医学	1. 2. 3. 4②			1		○								2	オムニバス
	先端医学研究概説	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	医学序説 I	1. 2. 3. 4①～②			2		○								1	
	医学論文を読む(ジャーナルクラブ)	1. 2. 3. 4①～②			2			○							1	
	原子力と倫理	1. 2. 3. 4④			1		○								4	オムニバス
	医学序説 II	1. 2. 3. 4③～④			2		○								1	
	医学論文を読む(ジャーナルクラブ)	1. 2. 3. 4③～④			2			○							1	
	健康と医学	1. 2. 3. 4③～④			2		○								5	オムニバス
	災害医療概論	1. 2. 3. 4①～④			1		○								1	
	原子力災害医療体制	1. 2. 3. 4①～④			1		○								1	※実験・実習
	災害医療ロジスティクス	1. 2. 3. 4①～④			1		○								1	
	「食べる」	1. 2. 3. 4①			2		○								14	オムニバス
	PBL入門	1. 2. 3. 4②			1		○								4	※演習、オムニバス
	健康福祉学入門	1. 2. 3. 4②			2		○								13	メディア、オムニバス
	新潟発福祉学	1. 2. 3. 4③			2		○								10	オムニバス
	顔	1. 2. 3. 4③～④			2		○								12	オムニバス
	小計(16科目)	—	—	0	26	0	—	—	—	0	0	0	0	0	58	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（農学部農学科／応用生命科学プログラム）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外（助手を除く）の教員	
教養教育に関する授業科目	「農学部農学科／教養教育に関する授業科目」のとおりに															
専門教育に関する授業科目	農学部共通基礎科目															
	農学入門Ⅰ	1,2,3,4①	○	2			○			9	7		4		1	オムニバス
	農学入門Ⅱ	1,2,3,4①	○	2			○			9	7		4		1	オムニバス
	基礎農林学実習	2,3,4①～④	○	1					○	3	3		0			オムニバス、標準外
	小計(3科目)	—	—	5	0	0	—	—	—	12	10	0	4	0	1	—
	主題科目															
	新潟の農林業	1,2,3,4③	○		2		○			4	5		2		1	オムニバス
	食と健康の科学	1,2,3,4④	○		2		○			5	4		2		2	オムニバス
	土と水	1,2,3,4④	○		2		○			7	4		2		1	オムニバス
	農業資源を知る	1,2,3,4①	○		2		○			5	4		2			オムニバス
	生命を知る	1,2,3,4①	○		2		○			8	4				1	オムニバス
	生態系を知る	1,2,3,4②	○		2		○			3	4		2			オムニバス
	小計(6科目)	—	—	0	12	0	—	—	—	23	23	0	8	0	4	—
	就業力育成科目															
	地域交流サテライト実習	1,2,3,4①～④	○		1				○	1			1			標準外
	基礎農力	2,3,4①～④	○		1		○			1			1			標準外
	学科学インターンシップ	3,4①～④	○		2				○				1			標準外
	応用農力	4①～④	○		1		○			1			1			標準外
	小計(4科目)	—	—	0	5	0	—	—	—	1	0	0	1	0	0	—
	グローバル科目															
	科学英語演習	3,4①～④	○	2					○		1					標準外
	技術コミュニケーション入門	3,4④	○		2				○		1					標準外
	海外語学研修	1,2,3,4①～④	○		4				○							標準外
	グローバル農力	2,3,4①～④	○		2				○	3	1		1			隔年、標準外
	グローバル防災・復興学	2,3,4①～④	○		2				○	3	1		1			隔年、標準外
	小計(5科目)	—	—	2	10	0	—	—	—	3	3	0	1	0	0	—
	卒業論文															
	卒業論文Ⅰ	4①～④	○	3					○		1					標準外
	卒業論文Ⅱ	4①～④	○	3					○		1					標準外
	小計(2科目)	—	—	6	0	0	—	—	—	0	1	0	0	0	0	—
	学位プログラム別科目（応用生命科学プログラム）															
	専門基礎科目															
	生物化学Ⅰ	2,3,4②	○	2			○			1					1	オムニバス
	微生物学	2,3,4②	○	2			○			1						オムニバス
	土壌学概論	2,3,4②	○	2			○			1						オムニバス
	有機化学(農)	2,3,4③	○	2			○			1			1			オムニバス
	食品化学	2,3,4②	○	2			○			1						オムニバス
	分析化学(農)	2,3,4①	○	2			○			1					1	オムニバス
	生物化学Ⅱ	2,3,4③	○	2			○			1						オムニバス
	植物栄養生理学	2,3,4①	○	2			○								1	オムニバス
	植物成分化学	2,3,4④	○	2			○				1					オムニバス
	分析化学実験(農)	2,3,4③	○	2					○	1	1					オムニバス
	生物学実験	3,4①	○	2					○	1	1		1		1	オムニバス
	生物化学実験	3,4①/3,4①～④	○	2					○	1						オムニバス
	遺伝子工学	3,4②	○	2			○				1					オムニバス
	微生物学実験	2,3,4③	○	2					○	1	1					オムニバス
	有機化学実験(農)	3,4①	○	2					○	1	1		1			オムニバス
	小計(15科目)	—	—	30	0	0	—	—	—	6	4	0	2	0	3	—
	専門科目															
	応用生命科学実験	3,4①～④	○	2					○		1					標準外
	応用生命科学演習Ⅰ	4①～④	○	2					○		1					標準外
	応用生命科学演習Ⅱ	4①～④	○	2					○		1					標準外
	植物遺伝学	2,3,4③	○		2		○						1			標準外
	動物遺伝学	2,3,4②	○		2		○			1						標準外
	応用微生物学	2,3,4③	○		2		○				1					標準外
	植物環境応答学	3,4④	○		2		○								1	標準外
	生物有機化学	3,4①	○		2		○			1						標準外
	肥料学	2,3,4③	○		2		○								1	標準外
	分子微生物学	3,4①	○		2		○			1						標準外
	植物ウイルス学	2,3,4①	○		2		○				1					標準外

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員		
専門教育に 関する授業科目	細胞分子生物学	3,4②	○		2		○			1						標準外 オムニバス オムニバス オムニバス 標準外	
	土壌生化学	2,3,4④	○		2		○			1	1		1				
	植物バイオマス利用科学	3,4②	○		2		○				1						
	植物細胞工学	3,4②	○		2		○			1							
	動物発生生殖学	2,3,4④	○		2		○			1							
	応用生命科学セミナー	2,3,4①～④	○		1		○								1		
	植物育種学	2,3,4②	○		2		○				1						
	動物遺伝増殖学	3,4③	○		2		○			2							
	免疫学概論	3,4③	○		2		○				1						
	生物統計学	2,3,4②	○		2		○			1	2				1		
	醸造学	3,4③	○		2		○			1	1				2		
	花卉園芸学	2,3,4③	○		2		○			1							
	香粧品科学	3,4①～④	○		2										2		
	機器分析学	3,4②	○		2					2	1				1		
小計(25科目)		—	—	6	43	0	—			10	8	0	2	0	6	—	
教職・基礎科目	職業指導(農)	2,3,4			2	○									1	標準外	
	基礎物理学	1,2,3,4①			1	○				4						隔年、オムニバス	
	基礎化学	1,2,3,4①			1	○				4	4					オムニバス	
	基礎生物学	1,2,3,4①			1	○				4	3					オムニバス	
	基礎地学	1,2,3,4①			1	○				1	1		1			隔年、オムニバス	
小計(5科目)		—	0	0	0	6	—			13	8	0	1	0	1		
合計(65科目)		—	—	49	70	6	—			23	23	0	12	0	11	—	
学位又は称号		学士(農学)			学位又は学科の分野			農学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
(卒業要件) 教養教育科目35単位以上、専門教育科目85単位以上、合計124単位以上を修得すること。 (履修方法) 1. 教養教育に関する科目として、大学学習法(2単位)、英語(4単位以上)、初修外国語(4単位以上)、健康・スポーツ(1単位以上)、情報リテラシー(2単位以上)、新潟大学個性化科目/人文社会・教育科学(10単位以上)、自然系共通専門基礎/自然科学/医歯学(10単位以上)を履修する。 2. 専門教育に関する科目として、農学部共通基礎科目の必修科目である入門科目(5単位)を修得し、主題科目6単位以上、専門基礎科目から講義科目20単位、専門科目から講義科目24単位以上、専門基礎科目及び専門科目から演習、実験・実習科目16単位、就業力育成科目1単位以上、グローバル科目2単位以上、卒業論文6単位を履修する(必修科目49単位、選択必修科目31単位、選択科目5単位以上)。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))							1学年の学期区分				4ターム						
							1学期の授業期間				8週						
							1時限の授業時間				90分						

教 育 課 程 等 の 概 要																
（農学部農学科／食品科学プログラム）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員 （助手を除く）	
教養教育に関する授業科目	「農学部農学科／教養教育に関する授業科目」のとおりに															
専門教育に関する授業科目	農学入門Ⅰ	1,2,3,4①	○	2			○			9	7		4		1	オムニバス
	農学入門Ⅱ	1,2,3,4①	○	2			○			9	7		4		1	オムニバス
	基礎農林学実習	2,3,4①～④	○	1					○	3	3		0			オムニバス、標準外
	小計(3科目)	—	—	5	0	0	—	—	—	12	10	0	4	0	1	—
	主題科目 新潟の農林業	1,2,3,4③	○		2		○			4	5		2		1	オムニバス
	食と健康の科学	1,2,3,4④	○		2		○			5	4		2		2	オムニバス
	土と水	1,2,3,4④	○		2		○			7	4		2		1	オムニバス
	農業資源を知る	1,2,3,4①	○		2		○			5	4		2			オムニバス
	生命を知る	1,2,3,4①	○		2		○			8	4				1	オムニバス
	生態系を知る	1,2,3,4②	○		2		○			3	4		2			オムニバス
	小計(6科目)	—	—	0	12	0	—	—	—	23	23	0	8	0	4	—
	就業力育成科目 地域交流サテライト実習	1,2,3,4①～④	○		1				○	1			1			標準外
	基礎農力	2,3,4①～④	○		1		○			1			1			標準外
	学科インターンシップ	3,4①～④	○		2				○				1			標準外
	応用農力	4①～④	○		1		○			1			1			標準外
	小計(4科目)	—	—	0	5	0	—	—	—	1	0	0	1	0	0	—
	グローバル科目 科学英語演習	3,4①～④	○	2				○			1					標準外
	技術コミュニケーション入門	3,4④			2			○			1					標準外
	海外語学研修	1,2,3,4①～④	○		4			○								標準外
	グローバル農力	2,3,4①～④	○		2			○		3	1		1			標準外
	グローバル防災・復興学	2,3,4①～④	○		2			○		3	1		1			隔年、標準外
	小計(5科目)	—	—	2	10	0	—	—	—	3	3	0	1	0	0	—
	卒業論文 卒業論文Ⅰ	4①～④	○	3				○			1					標準外
	卒業論文Ⅱ	4①～④	○	3				○			1					標準外
	小計(2科目)	—	—	6	0	0	—	—	—	0	1	0	0	0	0	—
専門教育に関する授業科目	専門基礎科目 生物化学Ⅰ	2,3,4②	○	2			○			1					1	
	微生物学	2,3,4②	○	2			○			1						
	有機化学(農)	2,3,4③	○	2			○			1			1			
	食品化学	2,3,4②	○	2			○			1						
	食品工学	2,3,4①	○	2			○			1						オムニバス
	分析化学(農)	2,3,4①	○	2			○			1					1	オムニバス
	動物栄養学	2,3,4③	○	2			○			1						
	食品マーケティング論	2,3,4①～④	○	2			○								1	標準外
	食品衛生学	3,4①	○	2			○			1	1					
	分析化学実験(農)	2,3,4④	○	2					○	1	1					オムニバス
	農産食品学	2,3,4③	○	2			○			1	1				1	オムニバス
	食品安全学	3,4②	○	2			○			1	2				1	
	畜産食品学	2,3,4④	○	2			○			1						
	生物学実験	3,4②	○	2					○	1	1					オムニバス
	生物化学実験	3,4②	○	2					○	1	1					オムニバス
	遺伝子工学	3,4②	○	2			○				1					
	食品機能学	2,3,4②	○	2			○				1					
	微生物学実験	2,3,4④	○	2					○	1	1				1	
	有機化学実験(農)	3,4②	○	2					○	1	1					オムニバス
	小計(19科目)	—	—	38	0	0	—	—	—	8	5	0	1	0	6	—
	専門科目 食品科学演習Ⅰ	4①～④	○	2				○			1					標準外
	食品科学演習Ⅱ	4①～④	○	2				○			1					標準外
	生物化学Ⅱ	2,3,4③	○		2		○			1						
	応用微生物学	2,3,4③	○		2		○				1					
	食品・農業情報工学	2,3,4③	○		2		○				1					
	生物有機化学	3,4①	○		2		○			1						
	栄養生化学	3,4①	○		2		○			1						

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考						
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹 (＝助手を除く) 教員以外 の教員							
専門教育に関する授業科目	学位プログラム別科目（食品科学プログラム）	専門科目	畜産食品製造学	3,4②	○		2		○			1						オムニバス						
			調理科学	3・4②	○		2		○								1							
			食品科学概論	3,4③	○		1		○				1											
			免疫学概論	3,4③	○		2		○				1											
			生物統計学	2,3,4②	○		2		○			1	2				1							
			公衆衛生学Ⅰ	2,3,4④	○		2		○								1							
			醸造学	3,4③	○		2		○			1	1				2							
			公衆衛生学Ⅱ	3,4④	○		2		○								1							
			水産食品学	3,4①～④	○		2		○								1							
			食品科学セミナー	3,4①～④	○		2										1							
			機器分析学	3,4②	○		2					2	1				1							
			食品科学プログラム実地見学	3,4②	○		1						1											
調理実習	4①②	○		2										1										
小計(21科目)			—	—	4	34	0	—			6	6	0	0	0	7	—							
教職・基礎科目			職業指導(農)	2,3,4①～④			2	○									1	標準外						
			基礎物理学	1,2,3,4①			1	○			3						1	隔年、オムニバス						
			基礎化学	1,2,3,4①			1	○			4	4						オムニバス						
			基礎生物学	1,2,3,4①			1	○			4	3						オムニバス						
			基礎地学	1,2,3,4①			1	○			1	1		1				隔年、オムニバス						
			小計(5科目)	—	—	0	0	6	—			13	8	0	1	0	2							
合計(64科目)			—	—	55	61	6	—			23	23	0	11	0	13	—							
学位又は称号		学士(農学)			学位又は学科の分野		農学関係																	
卒業要件及び履修方法															授業期間等									
(卒業要件) 教養教育科目35単位以上、専門教育科目85単位以上、合計124単位以上を修得すること。 (履修方法) 1. 教養教育に関する科目として、大学学習法(2単位)、英語(4単位以上)、初修外国語(4単位以上)、健康・スポーツ(1単位以上)、情報リテラシー(2単位以上)、新潟大学個性化科目/人文社会・教育科学(10単位以上)、自然系共通専門基礎/自然科学/医学(10単位以上)を履修する。 2. 専門教育に関する科目として、農学部共通基礎科目の必修科目である入門科目(5単位)を修得し、主題科目6単位以上、専門基礎科目から講義科目28単位、専門科目から講義科目18単位以上、専門基礎科目及び専門科目から演習、実験・実習科目15単位以上、就業力育成科目1単位以上、グローバル科目2単位以上、卒業論文6単位を履修する。 (必修科目55単位、選択必修科目25単位、選択科目5単位以上) (履修科目の登録の上限:48単位(年間))								1学年の学期区分					4ターム											
								1学期の授業期間					8週											
								1時限の授業時間					90分											

教 育 課 程 等 の 概 要																
（農学部農学科／生物資源学プログラム）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外（助手を除く）の教員	
教養教育に関する授業科目	「農学部農学科／教養教育に関する授業科目」のとお															
専門教育に関する授業科目	農学部共通基礎科目															
	農学入門Ⅰ	1,2,3,4①	○	2			○			6	7		4		1	オムニバス
	農学入門Ⅱ	1,2,3,4①	○	2			○			5	7		4		1	オムニバス
	基礎農林学実習	2,3,4①～④	○	1					○	2	3		0			オムニバス、標準外
	小計(3科目)	—	—	5	0	0	—	—	—	13	10	0	4	0	1	—
	主題科目															
	新潟の農林業	1,2,3,4③	○		2		○			3	5		2		1	オムニバス
	食と健康の科学	1,2,3,4④	○		2		○			3	4		2		2	オムニバス
	土と水	1,2,3,4④	○		2		○			4	4		2		1	オムニバス
	農業資源を知る	1,2,3,4①	○		2		○			5	4		2			オムニバス
	生命を知る	1,2,3,4①	○		2		○			4	4				1	オムニバス
	生態系を知る	1,2,3,4②	○		2		○			2	4		2			オムニバス
	小計(6科目)	—	—	0	12	0	—	—	—	19	23	0	8	0	4	—
	就業力育成科目															
	地域交流サテライト実習	1,2,3,4①～④	○		1				○	8			1			標準外
	基礎農力	2,3,4①～④	○		1		○			1			1			標準外
	学科インターンシップ	3,4①～④	○		2				○				1			標準外
	応用農力	4①～④	○		1		○			1			1			標準外
	小計(4科目)	—	—	0	5	0	—	—	—	8	0	0	1	0	0	—
	グローバル科目															
	科学英語演習	3,4④	○	2				○		3						
	技術コミュニケーション入門	3,4④	○		2			○			1					
	海外語学研修	1,2,3,4①～④	○		4			○		2						
	グローバル農力	2,3,4①～④	○		2			○		4	1		1			
	グローバル防災・復興学	2,3,4①～④	○		2			○		3	1		1			隔年、標準外
	小計(5科目)	—	—	2	10	0	—	—	—	7	2	0	1	0	0	—
	卒業論文															
	卒業論文Ⅰ	4①～④	○	3				○		3						標準外
	卒業論文Ⅱ	4①～④	○	3				○		3						標準外
	小計(2科目)	—	—	6	0	0	—	—	—	3	0	0	0	0	0	—
	学位プログラム別科目（生物資源学プログラム）															
	資源植物生産学概論	2,3,4①	○	2			○			3	1					オムニバス
	資源動物科学概論	2,3,4①	○	2			○									
	食料資源経済学	2,3,4①	○	2			○						1			
	植物病理学	2,3,4③	○		2		○				1					
	植物育種学	2,3,4②	○								1					
	果樹・蔬菜園芸学	2,3,4④	○								1					
	作物学	2,3,4④	○							1						
	動物遺伝学	2,3,4②	○		2		○			1						
	動物解剖生理学	2,3,4②	○		2		○			1						
	動物栄養学	2,3,4③	○		2		○			1						
	国際フードシステム論	2,3,4②	○		2		○			1						
	農業農村開発論	3,4④	○		2		○			1						
	小計(12科目)	—	—	6	12	0	—	—	—	6	5	0	1	0	0	—
	専門科目															
	生物資源科学演習Ⅰ	4	○	2				○		1						標準外
	生物資源科学演習Ⅱ	4	○	2				○		1						標準外
	乳牛生産管理学	3,4	○		2		○								1	標準外
	食料環境工学	2,3,4③	○		2		○				1					オムニバス
	土壌学概論	2,3,4②	○		2		○			1						
	野生動物生態学	2,3,4①	○		2		○			1						
	農産物流通論	2,3,4④	○		2		○						1			
	農業統計学	2,3,4④	○		1		○			1	1		1			オムニバス
	植物栄養生理学	2,3,4①	○		2		○								1	
	農村空間デザイン学	2,3,4③	○		2		○			1						
	精密農業工学	2,3,4④	○		2		○			1						
	食品・農業情報工学	2,3,4③	○		2		○				1					
	畜産食品学	2,3,4④	○		2		○			1						
	農業経営学	2,3,4④	○		2		○						1			

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
						必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基幹 （助 手 を 除 く） の 教 員			
専門 教育 に 関 する 授 業 科 目	学 位 ブ ロ グ ラ ム 別 科 目 （生物資源学 プログラム）	専 門 科 目	動物衛生福祉学	3,4①	○		2		○			3	1				1	オムニバス		
			肥科学	2,3,4③	○		2		○										オムニバス	
			植物ウイルス学	2,3,4①	○		2		○				1							
			作物生理学	3,4①	○		2		○				1							
			遺伝子工学	3,4②	○		2		○				1							
			バイオマスエネルギー論	2,3,4②	○		2		○			1	1						オムニバス	
			応用昆虫学	3,4④	○		2		○									1		
			植物細胞工学	3,4②	○		2		○			1								
			動物発生生殖学	2,3,4④	○		2		○			1								
			草地生態学	3,4②	○		2		○				1							
			動物遺伝増殖学	3,4③	○		2		○			2							オムニバス	
			農業協同組合論	3,4③	○		2		○						1					
			花卉園芸学	2,3,4③	○		2		○			1								
			植物遺伝学	2,3,4③	○		2		○						1					
			細胞分子生物学	3,4②	○		2		○			1								
			植物環境応答学	3,4④	○		2		○									1		
			分析化学（農）	2,3,4①	○		2		○			1						1		
			生物統計学	2,3,4②	○		2		○			1	2					1	オムニバス	
			生態学	2,3,4③	○		2		○									1		
			土壌生化学	2,3,4④	○		2		○			1	1			1				
			植物生産実地見学	3,4①～④	○		1				○	1	6			1				オムニバス,標準外
			牧場実習	3,4②	○		1				○	3	1							オムニバス
			植物生産学実験実習Ⅰ	3,4①	○		2				○	1	6			1				オムニバス
			植物生産学実験実習Ⅱ	3,4②	○		2				○	1	6			1				オムニバス
			植物生産学実験実習Ⅲ	3,4③	○		2				○	1	6			1				オムニバス
			植物生産学実験実習Ⅳ	3,4④	○		2				○	1	6			1				オムニバス
			動物生産学実験実習Ⅰ	3,4①	○		2				○	2	2							オムニバス
			動物生産学実験実習Ⅱ	3,4②	○		2				○	2	2							オムニバス
			動物生産学実験実習Ⅲ	3,4③	○		2				○	2	2							オムニバス
			動物生産学実験実習Ⅳ	3,4④	○		2				○	2	2							オムニバス
			農業経済学演習Ⅰ	3,4②	○		2				○					2				
			農業経済学演習Ⅱ	3,4①	○		2				○					2				オムニバス
			農業経済学演習Ⅲ	3,4③	○		2				○	1				1				
			農業経済学演習Ⅳ	3,4④	○		2				○	1				3				
			小計(48科目)			—	—	4	91	0	—			13	11	0	5	0	5	—
教 職 ・ 基 礎 科 目			職業指導（農）	2,3,4①～④			2	○								1	標準外			
			基礎物理学	1,2,3,4①			1	○			4							隔年、オムニバス		
			基礎化学	1,2,3,4①			1	○			4	4						オムニバス		
			基礎生物学	1,2,3,4①			1	○			4	3						オムニバス		
			基礎地学	1,2,3,4①			1	○			1	1		1				隔年、オムニバス		
			小計(5科目)	—	0	0	0	6	—			13	8	0	1	0	1			
合計(85科目)			—	—	23	130	6	—			23	23	0	11	0	8	—			
学位又は称号			学士（農学）			学位又は学科の分野			農学関係											
卒業要件及び履修方法								授業期間等												
(卒業要件) 教養教育科目35単位以上、専門教育科目85単位以上、合計124単位以上を修得すること。 (履修方法) 1. 教養教育に関する科目として、大学学習法(2単位)、英語(4単位以上)、初修外国語(4単位以上)、健康・スポーツ(1単位以上)、情報リテラシー(2単位以上)、新潟大学個性化科目/人文社会・教育科学(10単位以上)、自然系共通専門基礎/自然科学/医学(10単位以上)を履修する。 2. 専門教育に関する科目として、農学部共通基礎科目の必修科目である入門科目(5単位)を修得し、主題科目6単位以上、専門基礎科目から講義科目16単位以上、専門科目から講義科目24単位以上、専門基礎科目及び専門科目から演習、実験・実習科目14単位以上、就業力育成科目1単位以上、グローバル科目2単位以上、卒業論文6単位を履修する(必修科目25単位、選択必修科目49単位、選択科目11単位以上)。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))								1学年の学期区分				4ターム								
								1学期の授業期間				8週								
								1時限の授業時間				90分								

教 育 課 程 等 の 概 要																
（農学部農学科／流域環境学プログラム）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 （助手を除く） の教員	
教養教育に関する授業科目	「農学部農学科／教養教育に関する授業科目」のとおりに															
専門教育に関する授業科目	農学部共通基礎科目	農学入門Ⅰ	1,2,3,4①	○	2		○			9	7		4		1	オムニバス
		農学入門Ⅱ	1,2,3,4①	○	2		○			9	7		4		1	オムニバス
		基礎農林学実習	2,3,4①～④	○	1				○	3	3		0			オムニバス、標準外
		小計(3科目)	—	—	5	0	0	—		12	10	0	4	0	1	—
	主題科目	新潟の農林業	1,2,3,4③	○		2	○			4	5		2		1	オムニバス
		食と健康の科学	1,2,3,4④	○		2	○			5	4		2		2	オムニバス
		土と水	1,2,3,4④	○		2	○			7	4		2		1	オムニバス
		農業資源を知る	1,2,3,4①	○		2	○			5	4		2			オムニバス
		生命を知る	1,2,3,4①	○		2	○			8	4				1	オムニバス
		生態系を知る	1,2,3,4②	○		2	○			3	4		2			オムニバス
		小計(6科目)	—	—	0	12	0	—		23	23	0	8	0	4	—
	就業力育成科目	地域交流サテライト実習	1,2,3,4①～④	○		1			○	1			1			標準外
		基礎農力	2,3,4①～④	○		1	○			1			1			標準外
		学科インターンシップ	3,4①～④	○		2			○	2	2					標準外
		応用農力	4①～④	○		1	○			1			1			標準外
		小計(4科目)	—	—	0	5	0	—		3	2	0	1	0	0	—
	グローバル科目	科学英語演習	3,4④	○	2			○			1					
		技術コミュニケーション入門	3,4④	○		2		○			1					
		海外語学研修	1,2,3,4①～④	○		4		○								
		グローバル農力	2,3,4①～④	○		2		○		3	1		1			
		グローバル防災・復興学	2,3,4①～④	○		2			○	3	1		1			隔年、標準外
		小計(5科目)	—	—	2	10	0	—		3	2	0	1	0	0	—
	卒業論文	卒業論文Ⅰ	4①～④	○	3			○		6	9		4			標準外
		卒業論文Ⅱ	4①～④	○	3			○		6	9		4			標準外
		小計(2科目)	—	—	6	0	0	—		6	9	0	4	0	0	—
	学位プログラム別科目（流域環境学プログラム）	測量学（農）	2,3,4①	○	2		○			1	1					オムニバス
		測量学実習（農）	2,3,4②	○	2				○	1	3					オムニバス
		フォレスト入門	2,3,4②	○	2			○		1	1					
		農環境デザイン入門	2,3,4③	○		2	○			4	4		2			オムニバス
		農地と水利用	2,3,4①	○		2	○				1					オムニバス
		環境砂防学	2,3,4①	○		2	○			1						
		野生動物生態学	2,3,4①	○		2	○			1						
		野生植物生態学	2,3,4①	○		2	○				2					
		流域環境GIS	2,3,4③	○		2	○				2		1			オムニバス
		食料環境工学	2,3,4③	○		2	○				1					オムニバス
		防災系演習及び実習	2,3,4③	○		4			○	1						
		野生動物生態学実習	3,4①②	○		4			○	1						オムニバス
		野生植物生態学実習	3,4①②	○		4			○	1			2			オムニバス
		農村空間デザイン演習	3,4②	○		2		○		1	1				1	オムニバス
		フィールドワーカーのためのリスクマネジメント実習	2,3,4①～④	○		2			○		1				1	標準外
		公開森林実習	1,2,3,4①～④	○		2			○		1					オムニバス
		小計(16科目)	—	—	6	32	0	—		7	8	0	4	0	2	—
	専門科目	流域環境学演習Ⅰ	4①～④	○	2			○		2	1					標準外
		流域環境学演習Ⅱ	4①～④	○	2			○		2	1					標準外
		水環境工学	2,3,4②	○		2		○		1						
		フィールド安全論	2,3,4①	○		2		○			1				3	オムニバス
		森林環境論	2,3,4④	○		2		○					1			
		構造デザイン工学	2,3,4④	○		2		○		1						
		農村空間デザイン学	2,3,4③	○		2		○								
		土環境工学	2,3,4④	○		2		○			1		1			
		精密農業工学	2,3,4④	○		2		○		1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員 (助手を除く)		
専門教育に関する授業科目	環境材料工学	3,4①	○		2		○			1							オムニバス
	森林保護学	3,4④	○		2		○						1				
	流域水文学	2,3,4③	○		2		○				1						
	食品・農業情報工学	2,3,4③	○		2		○				1						
	バイオマスエネルギー論	2,3,4②	○		2		○			1		1					
	環境リモートセンシング	3,4②	○		1		○								1		
	雪氷防災学	3,4②	○		2		○								1		
	草地生態学	3,4②	○		2		○				1						
	植物バイオマス利用科学	3,4②	○		2		○				1						
	造園学	2,3①～④	○		2		○								1	標準外	
	温暖化メカニズム・影響学	3,4③	○		2		○						1		1	オムニバス	
	斜面災害論	3,4②	○		2		○			1	1						
	森林再生学	2,3,4③	○		2		○			1			1				
	環境統計学	2,3,4③	○		2		○			3			2			オムニバス	
	植物成分化学	2,3,4④	○		2		○				1						
	数値モデリング入門	3,4②	○		2		○			1							
	水士環境工学実験	3,4③	○		2				○	2	2		1			オムニバス	
	生物生産工学実験	3,4①	○		2				○	1	1					オムニバス	
	持続可能な森林管理演習及び実習	3,4①②	○		4				○	1	4		3				
	水士環境工学演習	3,4①	○		2				○	2	2		1			オムニバス	
	生物生産工学演習	3,4③	○		2				○	1	1					オムニバス	
生態系管理演習及び実習	3,4③④	○		4				○	1	1					オムニバス,※演習		
GIS・リモートセンシング演習	3,4④	○		2				○		1				1			
小計(32科目)	—	—		4	63	0	—		6	12	0	4	0	4	—		
教職・基礎科目	職業指導(農)	2,3,4①～④			2		○								1	標準外	
	基礎物理学	1,2,3,4①			1		○		4							隔年、オムニバス	
	基礎化学	1,2,3,4①			1		○		4	4						オムニバス	
	基礎生物学	1,2,3,4①			1		○		4	3						オムニバス	
	基礎地学	1,2,3,4①			1		○		1	1		1				隔年、オムニバス	
小計(5科目)	—	—		0	0	6	—		13	8	0	1	0	1			
合計(73科目)		—		23	122	6	—		23	23	0	12	0	9	—		
学位又は称号		学士(農学)			学位又は学科の分野				農学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等									
(卒業要件) 教養教育科目35単位以上、専門教育科目85単位以上、合計124単位以上を修得すること。 (履修方法) 1. 教養教育に関する科目として、大学学習法(2単位)、英語(4単位以上)、初修外国語(4単位以上)、健康・スポーツ(1単位以上)、情報リテラシー(2単位以上)、新潟大学個性化科目/人文社会・教育科学(10単位以上)、自然系共通専門基礎/自然科学/医学(10単位以上)を履修する。 2. 専門教育に関する科目として、農学部共通基礎科目の必修科目である入門科目(5単位)を修得し、主題科目6単位以上、専門基礎科目から講義科目16単位以上、専門科目から講義科目18単位以上、専門基礎科目及び専門科目から演習、実験・実習科目16単位以上、就業力育成科目1単位以上、グローバル科目2単位以上、卒業論文6単位を履修する(必修科目23単位、選択必修科目47単位、選択科目15単位以上)。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))								1学年の学期区分				4ターム					
								1学期の授業期間				8週					
								1時限の授業時間				90分					

教 育 課 程 等 の 概 要																
（農学部農学科／フィールド科学人材育成プログラム）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員	
教養教育に関する授業科目	「農学部農学科／教養教育に関する授業科目」のとお															
専門教育に関する授業科目	農学入門Ⅰ	1,2,3,4①	○	2			○			9	7		4		1	オムニバス
	農学入門Ⅱ	1,2,3,4①	○	2			○			9	7		4		1	オムニバス
	基礎農林学実習	2,3,4①～④	○	1					○	3	3		0			オムニバス,標準外
	小計(3科目)	—	—	5	0	0	—	—	—	12	10	0	4	0	1	—
	主題科目															
	新潟の農林業	1,2,3,4③	○		2		○			4	5		2		1	オムニバス
	食と健康の科学	1,2,3,4④	○		2		○			5	4		2		2	オムニバス
	土と水	1,2,3,4④	○		2		○			7	4		2		1	オムニバス
	農業資源を知る	1,2,3,4①	○		2		○			5	4		2			オムニバス
	生命を知る	1,2,3,4①	○		2		○			8	4				1	オムニバス
	生態系を知る	1,2,3,4②	○		2		○			3	4		2			オムニバス
	小計(6科目)	—	—	0	12	0	—	—	—	23	23	0	8	0	4	—
	就業力育成科目															
	地域交流サテライト実習	1,2,3,4①～④	○		1				○	1			1			標準外
	基礎農力	2,3,4①～④	○		1		○			1			1			標準外
	学科インターンシップ	3,4②	○		2				○	2	2					
	応用農力	4①～④	○		1		○			1			1			標準外
	小計(4科目)	—	—	0	5	0	—	—	—	3	2	0	1	0	0	—
	グローバル科目															
	科学英語演習	3,4④	○	2				○		2	2		1		3	
	技術コミュニケーション入門	3,4④	○		2			○			1					
	海外語学研修	1,2,3,4①～④	○		4			○								
	グローバル農力	2,3,4①～④	○		2			○		3	1		1			
	グローバル防災・復興学	2,3,4①～④	○		2				○	3	1		1			隔年、標準外
	小計(5科目)	—	—	2	10	0	—	—	—	4	4	0	2	0	3	—
	卒業論文															
	卒業論文Ⅰ	4①～④	○	3				○		5	7		2		19	標準外
	卒業論文Ⅱ	4①～④	○	3				○		5	7		2		19	標準外
	小計(2科目)	—	—	6	0	0	—	—	—	5	7		2		19	—
	学位プログラム別科目（フィールド科学人材育成プログラム）															
	フィールドワーカーのためのリスクマネジメント実習	2,3,4①～④	○	2					○		1				1	オムニバス,標準外
	環境砂防学	2,3,4①	○		2			○		1						
	野生植物生態学	2,3,4①	○		2			○			2					
	生態学	2,3,4③	○		2			○							1	
	系統動物学	2,3,4①～④	○		2			○							3	オムニバス,標準外
	分析化学Ⅰ	1,2,3,4④	○		2			○							2	
	野生動物生態学	2,3,4①	○		2			○		1						
	流域環境GIS	2,3,4③	○		2			○			2		1			オムニバス
	地形学	2,3,4④	○		2			○							1	
	防災系演習及び実習	2,3,4③	○		3						1					※演習
	地形解析実習	3,4①	○		2				○						1	
	測量学実習(農)	2,3,4②	○		2				○	1	3					オムニバス
	野生動物生態学実習	3,4①②	○		4				○	1						オムニバス
	野生植物生態学実習	3,4①②	○		4				○	1	3		2			オムニバス
	公開森林実習	1,2,3,4①～④	○		4				○	1						オムニバス
	小計(15科目)	—	—	2	35	0	—	—	—	4	7	0	2	0	8	—
	専門科目															
	フィールド安全論	2,3,4①	○	2				○			1				3	オムニバス
	フィールド科学演習Ⅰ	4①～④	○	2						1						標準外
	フィールド科学演習Ⅱ	4①～④	○	2						1						標準外
	水環境工学	2,3,4②	○		2			○		1						
	環境物理学	2,3,4③	○		2			○							1	
	測量学(農)	2,3,4①	○		2			○		1	1					オムニバス
	森林環境論	2,3,4④	○		2			○					1			
	構造デザイン工学	2,3,4④	○		2			○		1						
	土環境工学	2,3,4④	○		2			○			1					
	森林保護学	3,4④	○		2			○					1			
	流域水文学	2,3,4③	○		2			○			1					

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 (助 手 を 除 く) の 教 員		
専門 教育 に 関 する 授 業 科 目	学位 ブ ロ グ ラ ム 別 科 目 (フ ィ ー ル ド 科 学 人 材 育 成 ブ ロ グ ラ ム)	里地里山再生学	3,4①	○		2		○			1	2				1	オムニバス	
		環境政策論a	2,3,4①②	○		2		○					1				2	オムニバス
		環境政策論b	2,3,4①～④	○		2		○							1		2	オムニバス,標準外
		地球環境化学	3,4①②	○		2		○									2	オムニバス
		古環境学	3,4③④	○		2		○									4	オムニバス
		環境地質学	3,4①	○		2		○									1	
		フォレスター入門	2,3,4②	○		2		○			1	1						
		環境リモートセンシング	3,4②	○		1		○									1	
		環境経済システム論Ⅰ	3,4①～④	○		2		○									3	オムニバス,標準外
		河川工学	3,4①	○		2		○									1	
		雪氷防災学	3,4②	○		2		○									1	
		温暖化メカニズム・影響学	3,4③	○		2		○							1		1	オムニバス
		斜面災害論	3,4②	○		2		○			1	1						
		森林再生学	2,3,4③	○		2		○			1				1			
		希少生物保全学	3,4③	○		2		○					1				2	オムニバス
		海洋化学	3,4④	○		2		○									1	
		寒冷地地形学	3,4③	○		2		○									1	
		水文地質学	3,4④	○		2		○									1	
		環境統計学	2,3,4③	○		2		○				3			2			オムニバス
		水圏生態学	3,4④	○		2		○									3	オムニバス
		多様性生物学a	2,3,4①～④	○		2		○									1	標準外
		多様性生物学c	2,3,4①～④	○		2		○									1	標準外
		フィールド惑星科学概論	3,4③	○		2		○									1	
		進化生物学b	3,4④	○		2		○									1	
		生態系管理演習及び実習	3,4③④	○		4				○		1	1					オムニバス,※演習
		臨海実習Ⅰ	3,4①～④	○		2				○							3	標準外
		気象解析実習	3,4①②	○		2				○							1	
		地質フィールド実習	2,3,4①～④	○		1				○							3	標準外
		地形フィールド実習	2,3,4①～④	○		1				○							1	標準外
		自然再生学実習	3,4①～④	○		2				○		1	1				2	標準外
		災害・復興科学演習及び実習	3,4①～④	○		2				○		1	1				4	オムニバス,※演習
		GIS・リモートセンシング演習	3,4④	○		2				○			1					
		環境生物学野外実習A	3,4①～④	○		2				○							1	
		持続可能な森林管理演習及び実習	3,4①②	○		2		○				1	4		3			
		小計(45科目)		—	—	6	83	0	—			6	8	0	5	0	23	—
教 職 ・ 基 礎 科 目	職業指導(農)	2,3,4①～④				2	○									1	標準外	
	基礎物理学	1,2,3,4①				1	○			4							隔年、オムニバス	
	基礎化学	1,2,3,4①				1	○			4	4						オムニバス	
	基礎生物学	1,2,3,4①				1	○			4	3						オムニバス	
	基礎地学	1,2,3,4①				1	○			1	1		1				隔年、オムニバス	
	小計(5科目)	—	—	0	0	6	—			13	8	0	1	0	1			
合計(85科目)		—	—	21	145	6	—			23	23	0	11	0	29	—		
学位又は称号		学士(農学)			学位又は学科の分野			農学関係										
卒業要件及び履修方法							授業期間等											
(卒業要件) 教養教育科目35単位以上、専門教育科目85単位以上、合計124単位以上を修得すること。 (履修方法) 1. 教養教育に関する科目として、大学学習法(2単位)、英語(4単位以上)、初修外国語(4単位以上)、健康・スポーツ(1単位以上)、情報リテラシー(2単位以上)、新潟大学個性化科目/人文社会・教育科学(10単位以上)、自然系共通専門基礎/自然科学/医学(10単位以上)を履修する。 2. 専門教育に関する科目として、農学部共通基礎科目の必修科目である入門科目(5単位)を修得し、主修科目6単位以上、専門基礎科目から講義科目10単位以上、専門科目から講義科目32単位以上、専門基礎科目及び専門科目から演習、実験・実習科目17単位以上、就業力育成科目1単位以上、グローバル科目2単位以上、卒業論文6単位を履修する(必修科目23単位、選択必修科目56単位、選択科目6単位以上)。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))							1学年の学期区分				4ターム							
							1学期の授業期間				8週							
							1時限の授業時間				90分							

教 育 課 程 等 の 概 要																
（創生学部創生学修課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
導入・ 転換教育 科目	課題解決リテラシー	1①	○	2			○			2	1					※演習 ※演習 ※実習 ※演習 ※実習 ※実習
	スタディスキルズ	1①	○	2			○			2	2					
	フィールドスタディーズ	1②	○		6			○		2	6		2			
	DXスタディーズ	1②	○		6		○			2	1		1			
	アソシエーションゼミⅠ	1①～②	○	2				○		4	6					
	アソシエーションゼミⅡ	1③～④	○	2				○		4	6					
	小計（6科目）	—	—	8	12	0		—		5	7	0	3	0	0	
基礎 科目	英語															
	アカデミック英語入門R	1①～②③～④		1				○								
基礎 科目	英語							○								
	アカデミック英語入門L	1①～②③～④		1				○								
	小計（2科目）	—	—	2	0	0		—		0	0	0	0	0	0	
初修 外国語	ドイツ語圏グローバル理解 1（スイス学入門）	1・2①②			1		○								1	メディア
	ドイツ語圏グローバル理解 2（ドイツ語文化圏研究入門）	1・2①②			1		○								1	メディア
	ドイツ語圏グローバル理解 3（ドイツ語圏で暮らしてみれば）	1・2①②			1		○								1	
	ドイツ語圏グローバル理解 4（東西ドイツの分断と統一って？）	1・2①②			1		○								1	
	ドイツ語圏グローバル理解 5（映像で見る日独文化比較）	1・2①②			1		○								1	
	フランス語圏グローバル理解 1	1・2①②			1		○								1	メディア
	フランス語圏グローバル理解 2	1・2①②			1		○								1	
	フランス語圏グローバル理解 3	1・2①②			1		○								1	
	ロシア語圏グローバル理解 1	1・2①②			1		○								1	メディア
	中国語圏グローバル理解 1（日中韓比較文化）	1・2①②			1		○								1	メディア
	中国語圏グローバル理解 2（映像で探る中国文化）	1・2①②			1		○								1	
	中国語圏グローバル理解 3（多民族国家中国）	1・2①②			1		○								1	
	中国語圏グローバル理解 4（漢文と中国語）	1・2③④			1		○								1	メディア
	中国語圏グローバル理解 5（中国の生活と経済）	1・2①②			1		○								1	
	中国語圏グローバル理解 6（中国滞在事情）	1・2①②			1		○								1	
	中国語圏グローバル理解 7（エリアスタディーズ北京）	1・2①②			1		○								1	メディア
	中国語圏グローバル理解 8（エリアスタディーズ上海）	1・2①②			1		○								1	メディア
	中国語圏グローバル理解 9（エリアスタディーズ東北）	1・2①②			1		○								1	メディア
	中国語圏グローバル理解 10（中国語の基礎知識）	1・2①②			1		○								1	
	中国語圏グローバル理解 11（中国語の基礎知識）	1・2①②			1		○								1	メディア
	中国語圏グローバル理解 12（中国語の基礎知識）	1・2③④			1		○								1	
	朝鮮語圏グローバル理解 1	1・2①②			1		○								1	メディア
	朝鮮語圏グローバル理解 2	1・2①②			1		○								1	メディア
	スペイン語圏グローバル理解 1	1・2①②			1		○								1	
	イタリア語圏グローバル理解 1	1・2①②			1		○								1	メディア
	古代ローマ帝国ラテン語	1・2・3・4①			1		○								1	メディア
	古典古代ギリシア語	1・2・3・4②			1		○								1	メディア

教 育 課 程 等 の 概 要																
(創生学部創生学修課程) 【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く) 教員	
基礎 科目	初修外国語	西洋古典文芸 A	1・2・3・4①		1		○								1	
		西洋古典文芸 B	1・2・3・4②		1		○								1	
		フィリピン語圏グローバル理解 1	1・2①②		1		○								1	
		ドイツ語インテンシブ IA	1・2①		2			○							4	オムニバス
		ドイツ語インテンシブ IB	1・2②		2			○							4	オムニバス
		ドイツ語スタンダード IA	1・2①		1.5			○							5	オムニバス
		ドイツ語スタンダード IB	1・2②		1.5			○							5	オムニバス
		コミュニケーション・ドイツ語A	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語B	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語C	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		ドイツ語セミナーA	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		ドイツ語セミナーB	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		ドイツ語インテンシブ II	1・2③～④		4			○							4	オムニバス
		ドイツ語スタンダード II	1・2③～④		3			○							5	オムニバス
		ドイツ語エッセンシャル A	1・2③～④		2			○							2	
		ドイツ語エッセンシャル B1	1・2③～④		1			○							2	
		コミュニケーション・ドイツ語D	1・2・3・4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語E	1・2・3・4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語F	1・2・3・4③～④		2			○							1	
		ドイツ語セミナーC	1・2・3・4③～④		2			○							1	
		ドイツ語セミナーD	1・2・3・4③～④		2			○							1	
		フランス語インテンシブ IA	1・2①		2			○							3	オムニバス
		フランス語インテンシブ IB	1・2②		2			○							3	オムニバス
		フランス語スタンダード IA	1・2①		1.5			○							5	メディア、オムニバス
		フランス語スタンダード IB	1・2②		1.5			○							5	メディア、オムニバス
		コミュニケーション・フランス語B	1・2・3・4①～②		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・フランス語C	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語D	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語E	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語J	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		フランス語セミナーA	1・2・3・4①～②		2			○							1	メディア
		フランス語インテンシブ II	1・2③～④		4			○							3	オムニバス
		フランス語スタンダード II	1・2③～④		3			○							5	メディア、オムニバス
		フランス語エッセンシャル A	1・2③～④		2			○							2	
		フランス語エッセンシャル B	1・2③～④		1			○							2	
		フランス学アクティブ	1・2・3・4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語G	1・2・3・4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語H	1・2・3・4③～④		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・フランス語K	1・2・3・4③～④		2			○							1	
		フランス語セミナーB	1・2・3・4③～④		2			○							1	メディア
		ロシア語インテンシブ IA	1・2①		2			○							2	オムニバス
		ロシア語インテンシブ IB	1・2②		2			○							2	オムニバス
		ロシア語スタンダード IA	1・2①		1.5			○							2	オムニバス
		ロシア語スタンダード IB	1・2②		1.5			○							2	オムニバス
		コミュニケーション・ロシア語A	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・ロシア語B	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		ロシア語セミナーA	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		ロシア語ベシックプラスA	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		ロシア語インテンシブ II	1・2③～④		4			○							2	オムニバス
		ロシア語スタンダード II	1・2③～④		3			○							2	オムニバス
		ロシア語エッセンシャル A	1・2③～④		2			○							2	オムニバス
		ロシア語エッセンシャル B	1・2④		1			○							1	メディア
		コミュニケーション・ロシア語C	1・2・3・4③～④		2			○							1	メディア

教 育 課 程 等 の 概 要																
(創生学部創生学修課程) 【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く)教員	
基礎 科目	ロシア語セミナーB	1・2・3・4③～④			2			○							1	メディア
	中国語インテンシブ IA	1・2①			2			○							6	メディア、オムニバス
	中国語インテンシブ IB	1・2②			2			○							6	メディア、オムニバス
	中国語スタンダード IA	1・2①			1.5			○							11	メディア
	中国語スタンダード IB	1・2②			1.5			○							11	
	コミュニケーション・中国語A	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	コミュニケーション・中国語B	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	コミュニケーション・中国語C	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	コミュニケーション・中国語J	1・2・3・4①～②			2			○							1	メディア
	コミュニケーション・中国語M	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	中国語セミナーE	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	中国語セミナーF	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	中国語セミナーQ	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	中国語インテンシブ II	1・2③～④			4			○							6	オムニバス
	中国語スタンダード II	1・2③～④			3			○							11	メディア、オムニバス
	中国語エッセンシャル A (発音・文法)	1・2③～④			2			○							4	オムニバス
	中国語エッセンシャル B (練習・会話)	1・2③～④			1			○							1	
	コミュニケーション・中国語D	1・2・3・4③～④			2			○							1	メディア
	コミュニケーション・中国語E	1・2・3・4③～④			2			○							1	
	コミュニケーション・中国語F	1・2・3・4③～④			2			○							1	
	コミュニケーション・中国語K	1・2・3・4③～④			2			○							1	メディア
	上海語演習	1・2・3・4③～④			2			○							1	
	中国語セミナーG	1・2・3・4③～④			2			○							1	
	中国語セミナーH	1・2・3・4③～④			2			○							1	
	中国語セミナーN	1・2・3・4③～④			2			○							1	
	朝鮮語インテンシブ IA	1・2①			2			○							2	オムニバス
	朝鮮語インテンシブ IB	1・2②			2			○							2	オムニバス
	朝鮮語スタンダード IA	1・2①			1.5			○							2	メディア、オムニバス
	朝鮮語スタンダード IB	1・2②			1.5			○							2	メディア、オムニバス
	コミュニケーション・朝鮮語I	1・2・3・4①～②			2			○							1	メディア
	コミュニケーション・朝鮮語J	1・2・3・4①～②			2			○							1	メディア
	コミュニケーション・朝鮮語K	1・2・3・4①～②			2			○							1	メディア
	コミュニケーション・朝鮮語H	1・2・3・4①～②			2			○							1	メディア
	朝鮮語セミナーA	1・2・3・4①～②			2			○							1	メディア
	朝鮮語インテンシブ II	1・2③～④			4			○							3	オムニバス
	朝鮮語スタンダード II	1・2③～④			3			○							2	メディア、オムニバス
	朝鮮語エッセンシャル A	1・2③～④			2			○							1	
	朝鮮語エッセンシャル B	1・2③～④			1			○							1	
	コミュニケーション・朝鮮語L	1・2・3・4③～④			2			○							1	メディア
	コミュニケーション・朝鮮語X	1・2・3・4③～④			2			○							1	
	朝鮮語セミナーB	1・2・3・4③～④			2			○							1	メディア
	スペイン語スタンダード IA	1・2①			1.5			○							1	
	スペイン語スタンダード IB	1・2②			1.5			○							1	
	スペイン語スタンダード III	1・2①～②			1			○							1	
	コミュニケーション・スペイン語A	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	スペイン語セミナーA	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	スペイン語スタンダード II	1・2③～④			3			○							1	
	スペイン語スタンダード IV	1・2③～④			1			○							1	
	スペイン語エッセンシャル A	1・2③～④			2			○							1	
	スペイン語エッセンシャル B	1・2③～④			1			○							1	
	コミュニケーション・スペイン語B	1・2・3・4③～④			2			○							1	
	イタリア語スタンダード IA	1・2①			1.5			○							2	メディア、オムニバス
	イタリア語スタンダード IB	1・2②			1.5			○							2	メディア、オムニバス
	イタリア語スタンダード III	1・2①～②			1			○							1	メディア

教 育 課 程 等 の 概 要																
(創生学部創生学修課程) 【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く) 教員	
基礎 科目	初修外国語	コミュニケーション・イタリア語A	1・2・3・4①～②		2			○							1	メディア
		イタリア語スタンダード II	1・2③～④		3			○							2	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード IV	1・2③～④		1			○							1	メディア
		コミュニケーション・イタリア語B	1・2・3・4③～④		2			○							1	メディア
		古代エジプト神聖文字文A	1・2・3・4③		1			○							1	メディア
		古代エジプト神聖文字文B	1・2・3・4④		1			○							1	メディア
		フィリピン語エッセンシャル A	1・2③～④		2			○							1	
		フィリピン語エッセンシャル B	1・2③～④		1			○							1	
	データサイエンス概説		1③	○	2			○		1	1					
	デジタルスキルリテラシー		1②	○	2			○			2		1			※演習
	小計 (144科目)		—	—	4	251	0	—		1	3	0	1	0	96	
リテラシー コア・課題解決実践科目	スキル習得中心の科目	データサイエンス実践 A	1③	○	2			○		1						
		データサイエンス実践 B	1④	○	2			○		1			1			オムニバス
		データサイエンス実践 C	2①	○	2			○		2	3		1		1	オムニバス
		P.A.C.E. (Academic Listening & Speaking)	2①	○	0.5				○						2	
		P.A.C.E. (Academic Reading I)	2①	○	0.5				○						2	
		P.A.C.E. (Academic Writing I)	2①	○	0.5				○						2	
		P.A.C.E. (Oral Communication)	2①	○	0.5				○						2	
		P.A.C.E. (Academic Writing II)	2②	○	0.5				○						2	
		P.A.C.E. (Academic Reading II)	2②	○	0.5				○						2	
		P.A.C.E. (Research Writing)	2③～④	○	1				○						2	
		P.A.C.E. (Academic Communication Skills)	2③～④	○	1				○						1	
		P.A.C.E. (Presentation Skills)	2③～④	○	1				○						1	
	小計 (12科目)		—	—	0	12	0	—		3	3	0	2	0	5	
	課題解決中心の学習科目(P)	アソシエーションゼミⅢ	2①～②	○	2				○		4	6				※実験・実習
		アソシエーションゼミⅣ	2③～④	○	2				○		4	6				※実験・実習
		プロジェクトゼミⅠ	3①～②	○	2				○		4	6				※実験
		プロジェクトゼミⅡ	3③～④	○	2				○		4	6				※実験
		ソリューションラボⅠ	4①～②	○	4				○		4	6				※実習
		ソリューションラボⅡ	4③～④	○	4				○		4	6				※実習
	小計 (6科目)		—	—	16	0	0	—		4	6	0	0	0	0	
リテラシー・スキル 涵養科目	【人文社会・教育科学科目群】															
	リテラシー・スキル涵養科目	歴史学Ⅰ	1・2・3・4①		2			○							1	
		メディアの記号論	1・2・3・4①③		2			○							1	
		実験心理学と応用	1・2・3・4①		2			○							1	
		英語基礎Ⅰ	1・2・3・4①①～②		1				○						17	オムニバス
		技術日本語演習	1・2・3・4②		2				○						1	
		人文系フロンティア	1・2・3・4②		4			○							20	オムニバス
		現代日本と伝統文化	1・2・3・4②③④		2			○							1	
		歴史学Q	1・2・3・4②		2			○							1	
		英語基礎Ⅱ	1・2・3・4②①～②		1				○						15	オムニバス
		心理学	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		日本語教育ⅠーA	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		少数民族の言語と文化	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		教養の心理学	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		音と音楽をめぐる科学と教養	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		心と社会	1・2・3・4①～②		2			○							1	メディア
		哲学	1・2・3・4①～②		2				○						1	
		生涯学習概論	1・2・3・4①～②		2			○			1					
		歴史学H	1・2・3・4③		2			○							1	
		文学E	1・2・3・4③		2			○							1	
		心理学概論	1・2・3・4③		2			○			1					
		心と脳の科学リテラシー	1・2・3・4③		2			○							1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（創生学部創生学修課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
リテラシー・スキル 課題解決実践科目	現代社会論	1・2・3・4③			2		○								1	
	人間関係論	1・2・3・4③			2		○			1						
	現代社会と科学技術	1・2・3・4③			2		○			1						
	文化人類学の方法-他者へのまなざし	1・2・3・4③			2		○								1	
	アクターネットワークの社会学	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	歴史学0	1・2・3・4③			2		○								1	
	中国語オプショナルA	1・2・3・4③			2			○							1	
	意思決定のコミュニケーション論	1・2・3・4④			2		○								1	
	つながりと絆の社会学	1・2・3・4④			2		○								1	
	朝鮮語オプショナルB	1・2・3・4③～④			2			○							1	
	音楽R	1・2・3・4③～④			2		○								2	オムニバス
	対人行動の心理学	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	セクシュアリティ・スタディーズ	1・2・3・4③～④			2		○								8	オムニバス
	人文系展開科目D	1・2・3・4③～④			2		○								14	オムニバス
	日本古典文学N	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	日本古典文学O	1.2.3.4①			2		○								1	
	文学D	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	西洋哲学演習	1・2・3・4③～④			2			○							1	
	演劇入門	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	現代思想論	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	人文系展開科目I	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	日本語教育IーB	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	教養教育としての教育学入門	1・2・3・4①			2			○			1					
	精神疾患とその治療	1・2・3・4②			2		○								1	メディア
	公認心理師の職責	1・2・3・4②			1		○								4	オムニバス
	ビジネス書道入門	1・2・3・4①～②③～④			2		○								1	
	音楽（ピアノ）	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	水彩画表現入門	1・2・3・4①～②			2			○							1	メディア
	美術史	1・2・3・4①～②			2		○								1	メディア
	人体の構造と機能及び疾病	1・2・3・4①～②			2		○								2	オムニバス
	福祉心理学	1・2・3・4①～②			2		○								2	オムニバス
	教養を考える	1・2・3・4①～②			2		○								2	※演習、メディア、オムニバス
	司法・犯罪心理学	1・2・3・4①～②			2		○								1	
	臨床心理学概論	1・2・3・4④			2		○								1	メディア
	音楽E	1・2・3・4③～④			2			○							1	
	日本文化論	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	音楽（作曲）	1・2・3・4③～④			2			○							1	
	心理演習	1・2・3・4③～④			2			○							4	オムニバス
	心理的アセスメント	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	関係行政論	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	健康生活環境論	1・2・3・4③～④			2		○								1	メディア
	心理実習	1・2・3・4①～④			2				○						3	オムニバス
	人文社会科学入門（法学）	1・2・3・4①			2		○								3	オムニバス
	リーガル・システムA	1・2・3・4①			2		○								3	オムニバス
	日本国憲法	1・2・3・4②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿			2		○								5	オムニバス
	リーガル・システム	1・2・3・4②			2		○								3	オムニバス
	リーガル・システムB	1・2・3・4②			2		○								3	オムニバス
	死因究明と法	1・2・3・4③			2		○								5	オムニバス
	組織マネジメント論	1・2・3・4①			2		○				1					
	マーケティングプロモーション入門	1・2・3・4②			1		○								1	
	【自然科学科目群】															
	リメディアル数学I	1・2・3・4①			1		○								4	オムニバス
	基礎数理A I	1・2・3・4②④			2		○								5	オムニバス
	物理学への招待A	1・2・3・4②			2		○								1	
	生物学実験	1・2・3・4②			1				○						7	オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要																
（創生学部創生学修課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員	
リ テ ラ シ ー コ ア ・ 課 題 解 決 実 践 科 目	基礎雪氷学	1・2・3・4②			2		○								5	オムニバス
	リメディアル数学I I	1・2・3・4②			1		○								4	オムニバス
	生物学－植物A－	1・2・3・4②			2		○								2	オムニバス
	物理学基礎実験	1・2・3・4①～②			2				○						3	オムニバス
	地学実験A	1・2・3・4①～②			2				○						2	オムニバス
	自然科学基礎実験	1・2・3・4①～②			2				○						20	オムニバス
	量子研究の最前線	1・2・3・4①～②			2		○								14	オムニバス
	数学の世界	1・2・3・4③			2		○								4	オムニバス
	基礎数理B	1・2・3・4③			2		○								5	オムニバス
	化学とSDGs	1・2・3・4③			2		○								3	オムニバス
	社会を支える有機化学	1・2・3・4③			2		○								1	
	生物学－動物A－	1・2・3・4③			2		○								1	
	地学E（地球理解の諸相）	1・2・3・4③			1		○								1	メディア
	地質学の基礎	1・2・3・4③			2		○								1	
	地学実験B	1・2・3・4③			1				○						1	
	基礎数理A II	1・2・3・4④			2		○								5	オムニバス
	生物学－生物多様性A－	1・2・3・4④			2		○								2	オムニバス
	地学概論A	1・2・3・4④④			2		○								2	
	地球と気象	1・2・3・4④			2		○								1	
	地学C（マグマと火山）	1・2・3・4④			1		○								2	オムニバス
	物理学への招待B	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	生活の化学	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	地学概論	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	最先端技術を支える化学 I	1・2・3・4①			2		○								9	メディア、オムニバス
	都市インフラを考える	1・2・3・4①			2			○							1	
	原子力・放射線物理学入門	1・2・3・4①			1		○								1	
	原子力・放射線防護学入門	1・2・3・4①			1		○								2	オムニバス
	生活を支える化学技術－化学工学への招待－	1・2・3・4②			2		○								2	オムニバス
	原子力入門	1・2・3・4②			1		○								1	
	原子力・放射線関連法規入門	1・2・3・4②			1		○								2	オムニバス
	くらしを支える機械システム工学	1・2・3・4③			2		○								13	オムニバス
	材料科学概論	1・2・3・4③			2		○								15	オムニバス
	放射性廃棄物処理法	1・2・3・4①			1		○								1	
	安全工学基礎	1・2・3・4④			2		○								2	オムニバス
	化学実験	1・2・3・4③～④			2				○						6	オムニバス
	特許・経営および製品開発入門	1.2.3.4①			2		○								8	オムニバス
	放射線入門と実習	1・2・3・4①～④			1				○						2	オムニバス
	原子力の未来と災害を考える	1・2・3・4①～④			1		○								2	オムニバス
	特許と技術経営I	1.2.3.4①～②			1		○								2	オムニバス
	特許と技術経営II	1.2.3.4③～④			1		○								3	オムニバス
	農業資源を知る	1・2・3・4①			2		○								8	オムニバス
	生命を知る	1・2・3・4①			2		○								13	オムニバス
	生態系を知る	1・2・3・4②			2		○								9	オムニバス
	農業DXを知る	1・2・3・4①～②			1		○								1	
	医学物理学入門	1.2.3.4③			1		○								8	オムニバス
	データ活用実践	2①	○		2		○			1	1					※演習
	IoT&データ計測基礎	2③	○		2		○			1	1					※演習
	A I・統計科学実践I	3①	○		2			○		1	1					※講義
	A I・統計科学実践II	3③	○		2			○		1	1					※講義
	小計（124科目）	—	—	0	229	0	—	—	—	5	7	0	0	0	251	
学習成果 総括科目	創生学修総括	4①～④	○		2			○		6	8		1			※講義
	D X 共創総括	4①～④	○		2			○		6	8		1			※講義
小計（2科目）		—	—	0	4	0	—	—	—	6	8	0	1	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（創生学部創生学修課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
領域学修科目	社会文化学入門A	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	芸能論概説	2・3・4②			2		○								1	
	民俗学概説	2・3・4①～②			2		○								1	
	文化人類学概説	2・3・4②			2		○								1	
	考古学概説	2・3・4①			2		○								1	
	社会学概説	2・3・4①			2		○								1	
	文化人類学の方法—他者へのまなざし	1・2・3・4③			2		○								1	
	アクターネットワークの社会学	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	つながりと絆の社会学	1・2・3・4④			2		○								1	
	現代社会論	1・2・3・4③			2		○								1	
	社会調査法A	2・3・4①			2		○								1	
	社会調査法B	2・3・4②			2		○								1	
	地理学概説	2・3・4①			2		○								1	
	地誌学概説	2・3・4③			2		○								1	
	社会文化学入門B	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	地域を探索	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	史学概説	2・3・4①～②			2		○								1	
	日本史概説	2・3・4①			2		○								1	
	アジア史概説	2・3・4③			2		○								1	
	西洋史概説	2・3・4①			2		○								1	
	古文書学概説A	2・3・4①～②			2		○								1	
	古文書学概説B	2・3・4③～④			2		○								1	
	アジア史実習A	2・3・4①～②			1				○						1	
	アジア史実習B	2・3・4③～④			1				○						1	
	西洋歴史文化研究法A	2・3・4①～②			2		○								1	
	西洋歴史文化研究法B	2・3・4③～④			2		○								1	
	歴史学H	1・2・3・4③			2		○								1	
	歴史学I	1・2・3・4①			2		○								1	
	歴史学O	1・2・3・4③			2		○								1	
	歴史学Q	1・2・3・4②			2		○								1	
	小計（30科目）	—	—	0	58	0	—	—	—	0	0	0	0	0	17	
領域科目（社会文化学）	民俗文化論A	3・4③～④			2		○								1	
	民俗文化論D	3・4③			2		○								1	
	考古学A	3・4①②③④			2		○								1	標準外
	考古学B	3・4①			2		○								1	
	芸能文化論B	3・4①			2		○								1	
	文化人類学A	3・4③～④			2		○								1	
	文化人類学B	3・4①②③④			2		○								1	標準外
	家族社会学	3・4①			2		○								1	
	地域社会学	3・4③			2		○								1	
	地理学A	3・4②			2		○								1	
	歴史文化学基礎演習	2・3・4③～④			2		○								1	
	日本国家史B	3・4①～②			2		○								1	
	日本社会史A	3・4②			2		○								1	
	日本社会史B	3・4①②③④			2		○								1	標準外
	日本地域史A	3・4④			2		○								1	
	アジア歴史文化論A	3・4①～②			2		○								1	
	アジア歴史文化論B	3・4①			2		○								1	
	アジア歴史文化論C	3・4②			2		○								1	
	西洋地域史A	3・4①②③④			2		○								1	標準外
	西洋社会史B	3・4③			2		○								1	
	西洋文化史B	3・4①			2		○								1	
	小計（21科目）	—	—	0	42	0	—	—	—	0	0	0	0	0	20	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（創生学部創生学修課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
領域学修科目	日本・アジア言語文化入門	4③			2		○								1	
	西洋言語文化入門	4④			2		○								1	
	言語文化学入門A	1・2・3・4③			2		○								1	
	言語文化学入門B	1・2・3・4④			2		○								1	
	日本・アジア言語文化概説	2・3・4①～②			2		○								1	
	日本文学概説B	2・3・4①～②			2		○								1	
	日本文学概説C	2・3・4①～②			2		○								1	
	日本語学概説A	2・3・4①～②			2		○								1	
	日本語学概説B	2・3・4③～④			2		○								1	
	アジア言語文化概説A	2・3・4③～④			2		○								1	
	アジア言語文化概説B	2・3・4③～④			2			○							1	
	アジア言語文化概説C	2・3・4①～②			2		○								1	
	西洋言語概説	2・3・4③～④			2		○								1	
	英米文化概説A	2・3・4①～②			2		○								1	
	英米文化概説B	2・3・4③～④			2		○								1	
	英米言語概説B	2・3・4①～②			2		○								1	
	ドイツ言語文化概説A	2・3・4①～②			2		○								1	
	ドイツ言語文化概説B	2・3・4①②③④			2		○								1	標準外
	フランス言語文化概説A	2・3・4①～②			2		○								1	
	ロシア言語文化概説B	2・3・4①②③④			2		○								1	標準外
	日本語文化実習A	2・3・4①～②			1				○						1	
	日本語文化実習B	2・3・4③～④			1				○						1	
	日本語文化実習C	2・3・4①～②			1				○						1	
	日本語文化実習D	2・3・4③～④			1		○								1	
	アジア言語文化研究法B	2・3・4①～②③～④			2		○								2	
	西洋言語文化研究法B	2・3・4③～④			2		○								1	
	西洋言語文化研究法E	4①～②			2		○								1	
	アジア言語文化基礎演習	2・3・4①～②			2			○							1	
	英米言語文化基礎演習A	2・3・4①～②			2			○							1	
	英米言語文化基礎演習B	2・3・4①～②			2			○							1	
	ドイツ言語文化基礎演習A	2・3・4①～②			2			○							1	
	ドイツ言語文化基礎演習B	2・3・4③～④			2			○							1	
	フランス言語文化基礎演習A	2・3・4①			2			○							1	
	フランス言語文化基礎演習B	2・3・4③～④			2			○							1	
	ロシア言語文化基礎演習A	2・3・4①～②			2			○							1	
	言語学概説B	2・3・4①～②			2		○								1	
	古典語A	2・3・4③～④			2		○								1	
	日本語文化論	2・3・4①②③④			2		○								1	標準外
	日本語文化基礎演習A	2・3・4①～②			2			○							1	
	日本語文化基礎演習B	2・3・4③～④			2			○							1	
	デジタル文献情報学研究法	2・3・4③～④			2		○								1	
	小計（41科目）	—	—	0	78	0	—	—	—	0	0	0	0	0	25	
領域科目（言語文化学）	日本古典文学論B	3・4③～④			2		○								1	
	日本古典文化論A	4③～④			2		○								1	
	日本近代文学論A	3・4③～④			2		○								1	
	古代日本語論A	3・4①～②			2		○								1	
	古代日本語論B	3・4③～④			2		○								1	
	アジア言語文化論A	3・4①～②			2		○								1	
	アジア言語文化論B	3・4①②③④			2		○								1	標準外
	中国言語文化論A	3・4③～④			2		○								1	
	中国文芸文化論A	3・4③～④			2		○								1	
	朝鮮言語文化論	3・4③～④			2		○								1	
	環東アジア言語文化論	3・4①～②			2		○								1	
	英米文芸論	3・4③～④			2		○								1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（創生学部創生学修課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
領域学 修科目	ドイツ文芸論	3・4③～④			2		○								1	標準外
	英米文化論A	3・4①～②			2		○								1	
	英米文化論B	3・4③～④			2		○								1	
	英米言語論A	3・4①～②			2		○								1	
	言語行動論	3・4③～④			2		○								1	
	ドイツ言語文化論C	3・4①～②			2		○								1	
	フランス言語文化論A	3・4③～④			2		○								1	
	フランス言語文化論C	3・4④			2		○								1	
	ロシア言語文化論B	3・4①②③④			2		○								1	
	ロシア言語文化論C	3・4①～②			2		○								1	
	小計（22科目）	—	—	0	44	0	—	—	—	0	0	0	0	0	20	
領域基 礎科目 （心理・人 間・メデ ィア表現 文化学）	心理・人間学入門	1・2・3・4③～④			2		○								1	標準外
	哲学概説	2・3・4①～②			2		○								1	
	西洋哲学史概説	2・3・4③～④			2		○								1	
	倫理学概説	2・3・4①②③④			2		○								1	
	宗教学概説	2・3・4②			2		○								1	
	心理学概論A	2・3・4①			2		○								1	
	心理学概論B	2・3・4②			2		○								1	
	文化社会論基礎	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	映像社会論基礎	1・2・3・4①～②			2		○								1	
	芸術学概説A	2・3・4①～②			2		○								1	
	芸術学概説B	2・3・4③			2		○								1	※実習 ※実習
	情報メディア論概説B	2・3・4①～②			2		○			1					1	
	知覚・認知心理学A	2・3・4③～④			2		○								1	
	社会・集団・家族心理学	2・3・4④			2		○								1	
	産業・組織心理学	2・3・4①～②			2		○								1	
	メディア社会文化論概説A	2・3・4③～④			2		○								1	
	小計（16科目）	—	—	0	32	0	—	—	—	1	0	0	0	0	12	
領域科 目 （心理・人 間・メデ ィア表現 文化学）	西洋近現代哲学史	3・4③～④			2		○								1	標準外 標準外
	哲学研究B	3・4①～②			2		○								1	
	人間学特殊講義	3・4①			2		○								1	
	科学思想史	3・4①～②			2		○								1	
	宗教思想史A	3・4③			2		○								1	
	メディア社会文化論A	4①～②			2		○								1	
	情報メディア論B	3・4③～④			2		○								1	
	メディア論特論A	3・4①②③④			2		○								1	
	メディア論特論B	3・4①②③④			2		○								1	
	芸術表現論	3・4①			2		○								1	
	Anime History	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	表象文化論	1・2・3・4①～②			2		○								1	
	視覚社会論	1・2・3・4②			2		○								1	
	感情・人格心理学	3・4②			2		○								1	
	発達心理学	3・4③			2		○								1	
	造形芸術論	3・4①～②			2		○								1	
	美学	3・4①②③④			2		○								1	標準外
	小計（17科目）	—	—	0	34	0	—	—	—	0	0	0	0	0	17	
領域基 礎科目 （法学）	人文社会科学入門（法学）	1・2・3・4①			2		○								1	
	リーガル・システム	1・2・3・4②			2		○								1	
	憲法Ⅲ	1・2・3・4②			2		○								1	
	憲法Ⅰ	1・2・3・4③			2		○								1	
	憲法Ⅱ	1・2・3・4①			2		○								1	
	民法Ⅰ	1・2・3・4③			2		○								1	
	民法Ⅱ	1・2・3・4②			2		○								1	
	民法Ⅲ	1・2・3・4④			2		○								1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（創生学部創生学修課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
領域学修科目	領域基礎科目（法学）	民法Ⅳ	1・2・3・4①		2		○								1	標準外
		民法Ⅴ	1・2・3・4②		2		○								1	
		民法Ⅵ	1・2・3・4③		2		○								1	
		民法Ⅶ	1・2・3・4④		2		○								1	
		民法Ⅷ	1・2・3・4①		2		○								1	
		民法Ⅸ	1・2・3・4①②③④		2		○								1	
		刑法Ⅰ	1・2・3・4②		2		○								1	
		刑法Ⅱ	1・2・3・4③		2		○								1	
		刑法Ⅲ	1・2・3・4①		2		○								1	
		特殊講義（刑法各論発展）	1・2・3・4④		2		○								1	
		政治学Ⅰ	1・2・3・4①		2		○								1	
		政治学Ⅱ	1・2・3・4④		2		○								1	
		会社法Ⅰ	1・2・3・4④		2		○								1	
		会社法Ⅱ	1・2・3・4①		2		○								1	
		会社法Ⅲ	1・2・3・4②		2		○								1	
		民事訴訟法Ⅰ	1・2・3・4①		2		○								1	
		民事訴訟法Ⅱ	1・2・3・4③		2		○								1	
		刑事訴訟法Ⅰ	1・2・3・4②		2		○								1	
		刑事訴訟法Ⅱ	1・2・3・4④		2		○								1	
		行政法Ⅰ	1・2・3・4③		2		○								1	
		行政法Ⅱ	1・2・3・4④		2		○								1	
		行政法Ⅲ	1・2・3・4①		2		○								1	
		行政学Ⅰ	2・3・4②		2		○								1	
		行政学Ⅱ	2・3・4③		2		○								1	
	小計（32科目）	—	—	0	64	0	—	—	—	0	0	0	0	0	19	
領域科目（法学）	政策科学概論	2・3・4①			2		○								1	
	租税法	3・4④			2		○								1	
	労働法Ⅰ	3・4②			2		○				1					
	労働法Ⅱ	3・4④			2		○				1					
	社会保障法Ⅰ（医療保障法）	3・4①			2		○								1	
	社会保障法Ⅱ（総論・所得保障法）	3・4②			2		○								1	
	社会福祉法制	3・4③			2		○								1	
	情報法Ⅰ	3・4①			2		○								1	
	情報法Ⅱ	3・4④			2		○								1	
	経済法Ⅰ	3・4①			2		○								1	
	経済法Ⅱ	3・4③			2		○								1	
	国際法	2・3・4③			2		○								1	
	国際人権法	2・3・4④			2		○								1	
	法社会学	2・3・4②			2		○								1	
	情報セキュリティと法Ⅰ	3・4②			2		○								1	
	情報セキュリティと法Ⅱ	3・4③			2		○								1	
	小計（16科目）	—	—	0	32	0	—	—	—	0	1	0	0	0	8	
領域基礎科目（経済学）	経済学入門	1・2・3・4①			2		○								1	
	入門ミクロ経済学	1・2・3・4①			2		○								1	
	入門マクロ経済学	1・2・3・4③～④			2		○								2	
	入門社会経済学	1・2・3・4②			2		○								1	
	ミクロ経済学Ⅰ	1・2・3・4④			2		○								1	
	マクロ経済学Ⅰ	1・2・3・4③			2		○								1	
	マクロ経済学Ⅱ	1・2・3・4④			2		○								1	
	日本経済入門	1・2・3・4①			2		○								1	
	日本経済史	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	世界経済史Ⅱ	1・2・3・4③			2		○								1	
	社会思想史	1・2・3・4①			2		○								1	
	行財政入門	1・2・3・4①			2		○								1	

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(創生学部創生学修課程) 【基礎学部】																		
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く)教員以外の教員		
領域学修科目	領域基礎科目 (経済学)	経済数学Ⅰ	1・2・3・4②			2		○									1	
		経済数学Ⅱ	1・2・3・4③			2		○									1	
		統計入門	1・2・3・4①			2		○									1	
		金融論Ⅰ	1・2・3・4②			2		○									1	
		金融論Ⅱ	1・2・3・4③			2		○									1	
		財政学Ⅰ	1・2・3・4①			2		○									1	
		財政学Ⅱ	1・2・3・4②			2		○									1	
		公共経済学Ⅰ	1・2・3・4②			2		○									1	
		公共経済学Ⅱ	1・2・3・4③			2		○									1	
		環境経済システム論Ⅰ	1・2・3・4②			2		○									1	
		計量経済学Ⅰ	1・2・3・4③			2		○									1	
		特殊講義 (社会科学方法論)	1・2・3・4③			2		○									1	
		経営学概論Ⅰ	1・2・3・4①			2		○									1	
		経営学概論Ⅱ	1・2・3・4③			2		○									1	
		簿記入門	1・2・3・4①～②			2		○									1	
		会計学概論Ⅰ	1・2・3・4②			2		○									1	
		会計学概論Ⅱ	1・2・3・4③			2		○									1	
小計 (29科目)		—	—	0	58	0	—			0	0	0	0	0	0	18		
領域科目 (経済学)	領域基礎科目 (経済学)	市場と組織の理論	1・2・3・4③～④			2		○									1	
		開発途上国経済論	1・2・3・4③			2		○									1	
		アジア経済論Ⅰ	1・2・3・4①			2		○									1	
		ロシア経済論	1・2・3・4④			2		○									1	
		比較経済体制論	1・2・3・4③			2		○									1	
		EU経済論	1・2・3・4③～④			2		○									1	
		経済学史	1・2・3・4①～②			2		○									1	
		地方財政制度論	1・2・3・4③			2		○									1	
		NPO論	1・2・3・4③～④			2		○									1	
		公共選択論	1・2・3・4①			2		○									1	
		組織の経済学Ⅰ	1・2・3・4①			2		○									1	
		組織の経済学Ⅱ	1・2・3・4③			2		○									1	
		経営情報論	1・2・3・4③			2		○									1	
		マーケティング論Ⅰ	1・2・3・4①			2		○									1	
		租税理論Ⅰ	1・2・3・4②			2		○									1	
		租税理論	1・2・3・4②			2		○									1	
		租税理論Ⅱ	1・2・3・4③			2		○									1	
		ゲーム理論	1・2・3・4①			2		○									1	
		環境経済システム論Ⅱ	1・2・3・4③			2		○									1	
		アメリカ経済論Ⅰ	1・2・3・4③～④			2		○									1	
		国際マクロ経済学Ⅰ	1・2・3・4①			2		○									1	
		国際マクロ経済学Ⅱ	1・2・3・4①～②			2		○									1	
		国際開発論	1・2・3・4①			2		○									1	
		経済社会論基礎	1・2・3・4①			2		○									1	
		特殊講義 (野村証券寄附講義)	1・2・3・4③～④			2		○									1	
		特殊講義 (新潟県の行財政)	1・2・3・4③～④			2		○									1	
小計 (26科目)		—	—	0	52	0	—			0	0	0	0	0	0	17		
領域基礎科目 (経営学)	領域基礎科目 (経営学)	経営学入門	1・2・3・4③			2		○									1	
		経営学概論Ⅰ	1・2・3・4①			2		○									1	
		経営学概論Ⅱ	1・2・3・4③			2		○									1	
		会計学概論Ⅰ	1・2・3・4②			2		○									1	
		会計学概論Ⅱ	1・2・3・4③			2		○									1	
		簿記入門	1・2・3・4①～②			2		○									1	
		企業分析入門	1・2・3・4④			2		○									1	
		財務会計論Ⅰ	1・2・3・4③			2		○									1	
		行財政入門	1・2・3・4①			2		○									1	

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(創生学部創生学修課程) 【基礎学部】																		
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員(助手を除く) 以外の教員		
領域学修科目	領域基礎科目 (経営学)	日本経済入門	1・2・3・4①			2		○									1	
		入門ミクロ経済学	1・2・3・4①			2		○									1	
		入門マクロ経済学	1・2・3・4③④～④			2		○									1	
		社会思想史	1・2・3・4①			2		○									1	
		日本経済史	1・2・3・4③～④			2		○									1	
		経営組織論Ⅰ	1・2・3・4②			2		○									1	
		経済数学Ⅰ	1・2・3・4②			2		○									1	
		人的資源管理論Ⅰ	1・2・3・4①			2		○									1	
		公共経済学Ⅰ	1・2・3・4②			2		○									1	
		組織の経済学Ⅰ	1・2・3・4①			2		○									1	
		経営情報論	1・2・3・4③			2		○									1	
		原価計算論	1・2・3・4④			2		○									1	
		租税理論Ⅰ	1・2・3・4②			2		○									1	
		租税理論	1・2・3・4②			2		○									1	
		経営税務論Ⅰ	1・2・3・4④			2		○									1	
		マーケティング論Ⅰ	1・2・3・4①			2		○									1	
		特殊講義(社会科学方法論)	1・2・3・4③			2		○									1	
小計(26科目)		—	—	0	52	0	—			0	0	0	0	0	0	21		
	領域科目 (経営学)	人的資源管理論Ⅱ	1・2・3・4②			2		○									1	
		財務会計論Ⅱ	1・2・3・4②			2		○									1	
		国際会計論	1・2・3・4①			2		○									1	
		地方財政制度論	1・2・3・4③			2		○									1	
		NPO論	1・2・3・4③～④			2		○									1	
		公共経済学Ⅱ	1・2・3・4③			2		○									1	
		ミクロ経済学Ⅰ	1・2・3・4④			2		○									1	
		マクロ経済学Ⅰ	1・2・3・4③			2		○									1	
		マクロ経済学Ⅱ	1・2・3・4④			2		○									1	
		組織の経済学Ⅱ	1・2・3・4③			2		○									1	
		租税理論Ⅱ	1・2・3・4③			2		○									1	
		経営戦略論Ⅱ	1・2・3・4④			2		○									1	
		管理会計論Ⅱ	1・2・3・4①			2		○									1	
		統計入門	1・2・3・4①			2		○									1	
		中小企業論	1・2・3・4①			2		○									1	
		会計情報論	1・2・3・4①～②			2		○									1	
		特殊講義(税理士会寄附講義)	1・2・3・4③			2		○									1	
特殊講義(野村証券寄附講義)	1・2・3・4③～④			2		○									1			
特殊講義(新潟県の行財政)	1・2・3・4③～④			2		○									1			
小計(19科目)		—	—	0	38	0	—			0	0	0	0	0	0	15		
	領域基礎科目 (数学)	微分積分学IA	1・2・3・4③			1		○									1	
		微分積分学IB	1・2・3・4④			1		○									1	
		数学演習A	1・2・3・4③			1			○								1	
		数学演習B	1・2・3・4④			1			○								1	
		集合と写像	1・2・3・4③			1		○									1	
		微分積分学IIA	2・3・4①			2		○									1	
		微分積分学IIB	2・3・4②			2		○									1	
		線形代数IIA	2・3・4①			2		○									1	
		線形代数IIB	2・3・4②			2		○									1	
		解析学序論A	2・3・4③			1		○									1	
		解析学序論B	2・3・4④			1		○									1	
		代数・幾何学序論A	2・3・4③			1		○									1	
		代数・幾何学序論B	2・3・4④			1		○									1	
		代数入門A	2・3・4③			2		○									1	
		代数入門B	2・3・4④			2		○									1	
		微分方程式論A	2・3・4③			1		○									1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（創生学部創生学修課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
領域学修科目	微分方程式論B	2・3・4④			1		○								1	
	数値解析A	3・4①			1		○								1	
	数値解析B	3・4②			1		○								1	
	複素解析学IA	3・4①			1		○								1	
	複素解析学IB	3・4②			1		○								1	
	離散数学A	3・4③			1		○								1	
	離散数学B	3・4④			1		○								1	
	オペレーションズ・リサーチ実習	3・4④			1				○						1	
	線形代数IA	1・2・3・4③			1		○								1	
	線形代数IB	1・2・3・4④			1		○								1	
	小計（26科目）	—	—	0	32	0	—			0	0	0	0	0	9	
領域科目（数学）	最適化数学A	3・4①			1		○								1	
	最適化数学B	3・4②			1		○								1	
	関数解析学A	3・4③			1		○								1	
	関数解析学B	3・4④			1		○								1	
	数理統計学IA	3・4①			1		○								1	
	数理統計学IB	3・4②			1		○								1	
	数理統計学IIA	3・4③			1		○								1	
	数理統計学IIB	3・4④			1		○								1	
	代数系IA	3・4①			1		○								1	
	代数系IB	3・4②			1		○								1	
	代数系IIA	3・4③			1		○								1	
	代数系IIB	3・4④			1		○								1	
	複素解析学IIA	3・4③			1		○								1	
	複素解析学IIB	3・4④			1		○								1	
	小計（14科目）	—	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	6	
領域基礎科目（物理学）	物理学基礎A I	1・2・3・4①～②			2		○								2	
	物理学基礎A II	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	基礎物理数学	1・2・3・4③			2		○								1	
	基礎ベクトル解析	1・2・3・4④			2		○								1	
	解析力学	2・3・4①～②			2		○								1	
	電磁気学IA	2・3・4①			1		○								1	
	電磁気学IB	2・3・4②			1		○								1	
	電磁気学IIA	2・3・4③			1		○								1	
	電磁気学IIB	2・3・4④			1		○								1	
	熱力学A	2・3・4③			1		○								1	
	熱力学B	2・3・4④			1		○								1	
	量子力学序論A	2・3・4③			1		○								1	
	量子力学序論B	2・3・4④			1		○								1	
	量子力学IA	3・4①			2		○								1	※演習
	量子力学IB	3・4②			2		○								1	※演習
	量子力学IIA	3・4③			2		○								1	※演習
	量子力学IIB	3・4④			2		○								1	※演習
	統計力学IA	3・4①			2		○								1	※演習
	統計力学IB	3・4②			2		○								1	※演習
	統計力学IIA	3・4③			2		○								1	※演習
	統計力学IIB	3・4④			2		○								1	※演習
	小計（21科目）	—	—	0	34	0	—			0	0	0	0	0	11	
領域科目（物理学）	特殊相対論A	3・4①			1		○								1	
	特殊相対論B	3・4②			1		○								1	
	計算物理学A	3・4③～④			2		○								1	※演習
	計算物理学B	3・4③～④			2		○								1	※演習
	物理学実験A	3・4①			2				○						1	
	物理学実験B	3・4②			2				○						1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（創生学部創生学修課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
領域学修科目	物理学実験C	3・4③			2				○						1	
	電気力学A	3・4①			1		○								1	
	電気力学B	3・4②			1		○								1	
	原子核物理学	4①～②			2		○								1	
	物性物理学	4①～②			2		○								1	
	素粒子物理学	4①～②			2		○								1	
	宇宙物理学	4①～②			2		○								1	
	一般相対論A	4①			1		○								1	
	一般相対論B	4②			1		○								1	
	小計（15科目）	—	—	0	24	0	—	—	—	0	0	0	0	0	9	
領域基礎科目（化学）	化学基礎A	1・2・3・4②			2		○								1	
	化学基礎B	1・2・3・4②			2		○								1	
	化学基礎実習a	2・3・4②			1				○						1	
	化学基礎実習b	1・2・3・4④			1				○						1	
	化学とSDGs	1・2・3・4③			2		○								1	
	SDGsを支える化学	1・2・3・4①②③④			1		○								1	
	化学コロキウム	3・4③			1		○								1	
	化学英語	3・4③～④			2		○								1	
	生活の化学	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	社会を支える有機化学	1・2・3・4③			2		○								1	
	分析化学I	1・2・3・4④			2		○								1	
	分析化学II	2・3・4③			2		○								1	
	無機化学I	1・2・3・4③			2		○								1	
	有機化学I	1・2・3・4④			2		○								1	
	化学熱力学	1・2・3・4③			2		○								1	
	生体分子化学I	2・3・4①～②			2		○								1	
	基礎機器分析	3・4①			2		○								1	
	小計（17科目）	—	—	0	30	0	—	—	—	0	0	0	0	0	7	
領域科目（化学）	生体分子化学II	2・3・4④			2		○								1	
	化学統計力学I	2・3・4②			2		○								1	
	化学統計力学II	3・4①			2		○								1	
	基礎量子力学	2・3・4②			2		○								1	
	量子化学	2・3・4③			2		○								1	
	無機化学II	2・3・4①			2		○								1	
	有機化学II	2・3・4①			2		○								1	
	有機化学III	2・3・4③～④			2		○								1	
	有機化学IV	3・4①			2		○								1	
	分析化学実験	2・3・4③			2				○						1	
	無機化学実験	2・3・4④			2				○						1	
	物理化学実験	3・4①～②			2				○						1	
	生化学実験	3・4①～②			2				○						1	
	有機化学実験	3・4①～②			2				○						1	
	小計（14科目）	—	—	0	28	0	—	—	—	0	0	0	0	0	10	
領域基礎科目（生物学）	生物学基礎A	1・2・3・4①②③			2		○								5	
	生物学基礎B	1・2・3・4①②③④			2		○								4	
	生物学－動物A－	1・2・3・4③			2		○								1	
	生物学－植物A－	1・2・3・4②			2		○								1	
	生物学－生物多様性A－	1・2・3・4④			2		○								1	
	生物学実験	1・2・3・4②			1				○						1	
	生物学基礎実習a	1・2・3・4①③			1				○						2	
	生物学基礎実習b	1・2・3・4④			1				○						1	
	基礎細胞遺伝学	1・2・3・4③			2		○								1	
	基礎細胞生物学	1・2・3・4④			2		○								1	
	基礎植物学	2・3・4①			2		○								1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（創生学部創生学修課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
領域学修科目	基礎生物化学	2・3・4①			2		○								1	標準外
	植物生理学	2・3・4④			2		○								1	
	動物生理学I	2・3・4②			2		○								1	
	発生生物学I	2・3・4③			2		○								1	
	生物化学I（理）	3・4②			2		○								1	
	生物英語	2・3・4④			2		○								1	
	小計（17科目）	—	—	0	31	0	—	—	—	0	0	0	0	0	13	
	植物生理学III	3・4②			2		○								1	
	動物生理学II	3・4③			2		○								1	
	動物生理学III	3・4③			2		○								1	
	生体情報学I	2・3・4③			2		○								1	
	発生生物学II	2・3・4③			2		○								1	
	分子生物学	3・4①			2		○								1	
	細胞生物学I	3・4①			2		○								1	
	細胞生物学II	3・4③			2		○								1	
	生物化学II（理）	3・4③			2		○								1	
	系統動物学	2・3・4①②③④			2		○								1	
	小計（10科目）	—	—	0	20	0	—	—	—	0	0	0	0	0	8	
領域基礎科目（地質科学）	地質調査法I	2・3・4①～②			2		○								1	標準外
	地質調査法II	2・3・4④			1		○								1	
	地質調査法実習I	2・3・4①②③④			2				○						1	
	地質調査法実習II	2・3・4③			1				○						1	
	古生物学A	2・3・4③			1		○								1	
	地層学A	2・3・4③			1		○								1	
	テクトニクス	2・3・4③～④			2		○								1	
	岩石学A	2・3・4③			1		○								1	
	岩石学実験I	2・3・4③～④			1				○						1	
	鉱物学A	2・3・4③			1		○								1	
	地学英語	2・3・4③～④			1		○								1	
	地学基礎実習a	1・2・3・4①②			1				○						3	
	地学基礎実習b	1・2・3・4②③			1				○						2	
	地質学入門a	1・2・3・4②			1		○								1	
	地質学入門b	1・2・3・4②			1		○								1	
	構造地質学入門	2・3・4①			1		○								1	
	地層・古生物学入門	2・3・4①			2		○								1	
	鉱物・岩石学入門	2・3・4②			2		○								1	
	環境地質学入門	2・3・4②			1		○								1	
	野外実習A	3・4①②③④			4				○						1	
	地質調査法実習III	2・3・4①②③④			1				○						1	
	小計（21科目）	—	—	0	29	0	—	—	—	0	0	0	0	0	9	
領域科目（地質科学）	固体地球化学A	3・4③			1		○								1	標準外 標準外 標準外 標準外
	固体地球化学B	3・4④			1		○								1	
	鉱物学B	3・4①			1		○								1	
	海洋地質学A	3・4①			1		○								1	
	海洋地質学B	3・4①			1		○								1	
	地層学B	3・4①			1		○								1	
	地球化学分析法	4①②③④			1		○								1	
	水質化学分析法	4①②③④			1				○						1	
	古生物学B	3・4①②③④			1		○								1	
	古生物学実験	3・4①②③④			1				○						1	
	海洋生物学実験	2・3・4①②③④			1				○						1	
	地質構造解析法	3・4①～②			1		○								1	
	構造地質学	3・4①～②			2		○								1	
	環境地質学	3・4①			2		○								1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（創生学部創生学修課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
領域学修科目	領域科目（地質科学）	第四紀環境学	3・4②		2		○								1	標準外 標準外 標準外 標準外 標準外 標準外 標準外 標準外 標準外 標準外 標準外 標準外 標準外 標準外 標準外 標準外
		環境地質学実習	3・4①②③④		1				○						1	
		応用地質学実習	3・4①②③④		1				○						1	
		フィールド体験実習	1・2・3・4①②③④		1				○						1	
		野外実習B	3・4①②③④		2				○						1	
		岩石学実験II	3・4①～②		1				○						1	
		鉱物学C	3・4②		1		○								1	
		鉱物結晶学実験	2・3・4③～④		1				○						1	
		岩石学B	2・3・4④		1		○								1	
		岩石学C	3・4①		1		○								1	
		地史学A	3・4①		1		○								1	
		地史学B	3・4②		1		○								1	
		地球物理学	3・4③～④		2		○								1	
		東アジアの地質形成史	3・4①②③④		2		○								1	
		水文地質学	3・4④		2		○								1	
		石油地質学	3・4①②③④		1		○								1	
		土木地質学	3・4①②③④		1		○								1	
		地球科学特別講義I	3・4①②③④		1		○								1	
		地球科学特別講義III	3・4①②③④		1		○								1	
		小計（33科目）	—	—	0	40	0	—	—	0	0	0	0	0	15	
領域基礎科目（自然環境科学）		多様性生物学B	2・3・4②		2		○								1	標準外
		物質反応化学	2・3・4①		2		○								1	
		基礎量子力学	2・3・4②		2		○								1	
		物質科学B	2・3・4④		2		○								1	
		地形学	2・3・4④		2		○								1	
		生態学	2・3・4③		2		○								1	
		環境気象学	2・3・4①		2		○								1	
		地球と気象	1・2・3・4④		2		○								1	
		物理学基礎A I	1・2・3・4①～②		2		○								2	
		物理学概論	1・2・3・4①～②③～④		2		○								2	
		地学基礎C	1・2・3・4④		2		○								1	
		統計学基礎1	1・2・3・4①③		1		○								3	
		統計学基礎2	1・2・3・4②④		1		○								3	
		小計（13科目）	—	—	0	24	0	—	—	0	0	0	0	0	15	
領域科目（自然環境科学）		古環境学	3・4③～④		2		○								1	標準外
		環境汚染論	3・4③～④		2		○								1	
		地球環境化学	3・4①～②		2		○								1	
		地球流体力学	3・4①		2		○								1	
		適応生物学	3・4③		2		○								1	
		エネルギー物質科学	3・4④		2		○								1	
		寒冷地地形学	3・4③		2		○								1	
		環境物理学	2・3・4③		2		○								1	
		海洋化学	3・4④		2		○								1	
		系統動物学	2・3・4①②③④		2		○								1	
		小計（10科目）	—	—	0	20	0	—	—	0	0	0	0	0	8	
領域基礎科目（機械システム工学）		機械工学概論	1・2・3・4③		2		○								1	※演習 ※演習 ※演習 ※演習 ※演習 ※演習 ※演習 ※演習
		材料力学入門	1・2・3・4④		2		○								1	
		材料力学I	2・3・4①		2		○								1	
		材料力学II	2・3・4③		2		○								1	
		流体工学I	2・3・4②		2		○								1	
		流体工学II	2・3・4③		2		○								1	
		熱工学I	2・3・4④		2		○								1	
		熱工学II	3・4①		2		○								1	
		機械力学I	2・3・4④		2		○								1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（創生学部創生学修課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
領域学修科目 （システム工学） （機械シ ステム工学） （機械シ ステム工学）	機械力学II	3・4①			2		○								1	※演習
	工業力学	2・3・4①			2		○								1	
	加工学	2・3・4②			2		○								1	
	機械設計I	2・3・4①			2		○								1	
	機械設計II	2・3・4②			2		○								1	
	小計（14科目）	—	—	0	28	0	—	—	—	0	0	0	0	0	8	※演習 ※演習 ※演習
	エネルギー変換工学	3・4②			2		○								1	
	パイオメカニクス	3・4③			2		○								1	
	機械音響工学	3・4③			2		○								1	
	マイクロマシン	3・4②			2		○								1	
	伝熱工学	3・4③			2		○								1	
	システム制御I	3・4③			2		○								1	
	システム制御II	3・4④			2		○								1	
	ロボット工学	3・4④			2		○								1	
	ソフトウェア工学	3・4④			2		○								1	
	先端研究入門	3・4④			2		○								1	
	機械工学演習	3・4③			2			○							1	
	技術英会話	4①～②			2		○								1	
	小計（12科目）	—	—	0	24	0	—	—	—	0	0	0	0	0	8	
	社会基盤工学概論	1・2・3・4④			2		○								1	※講義・実習 ※実習
	材料力学入門	1・2・3・4④			2		○								1	
	応用力学I	2・3・4②			2		○								1	
	応用力学II	2・3・4③			2		○								1	
	応用力学演習I	2・3・4②			2			○							1	
	応用力学演習II	2・3・4③			2			○							1	
	建設材料学	2・3・4②			2		○								1	
	コンクリート工学I	2・3・4④			2		○								1	
	コンクリート工学II	3・4①			2		○								1	
	地盤工学I	2・3・4③			2		○								1	
	地盤工学II	2・3・4④			2		○								1	
	基礎水理学	2・3・4②			2		○								1	
	水理学及び演習I	2・3・4③			2			○							1	
	測量学（工）	2・3・4④			2		○								1	
	社会基盤製図	2・3・4①			2		○								1	
	社会基盤設計基礎	2・3・4①			2			○							1	
	社会基盤応用数理及び演習I	2・3・4①			2			○							1	
	小計（17科目）	—	—	0	34	0	—	—	—	0	0	0	0	0	7	
	コンクリート構造工学	3・4③			2		○								1	※講義・実習 ※実習
	地盤工学III	3・4②			2		○								1	
	水理学及び演習II	3・4④			2			○							1	
	社会基盤工学実験I	3・4②			2				○						1	
	社会基盤工学実験II	3・4③			2				○						1	
	測量学実習（工）	3・4①～②			2				○						1	
	都市計画学II	2・3・4④			2		○								1	
	社会基盤数理工学	3・4①			2		○								1	
	動力学	3・4③			2		○								1	
	社会基盤応用数理及び演習II	2・3・4④			2			○							1	
	小計（10科目）	—	—	0	20	0	—	—	—	0	0	0	0	0	7	
領域基礎科目 （電気情 報通信）	電子情報通信概論	1・2・3・4③			1		○								1	※講義・実習 ※実習
	知能情報システム概論	1・2・3・4③			1		○								1	
	プログラミングBI	2・3・4①			2			○							1	
	プログラミングBII	2・3・4②			2			○							1	
	電気回路I	2・3・4①			3		○								1	
	電気回路II	2・3・4③			3		○								1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（創生学部創生学修課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
領域学修科目 （電気情報通信）	電気回路III	3・4①			2		○								1	
	電気数理I	2・3・4②			2		○								1	
	電気数理II	2・3・4④			2		○								1	
	電磁気学I	2・3・4④			3		○								1	
	電磁気学II	3・4②			3		○								1	
	物理学II	2・3・4②			2		○								1	
	電気計測	2・3・4③			2		○								1	
	デジタル回路	2・3・4②			2		○								1	
	電子デバイスI	2・3・4④			2		○								1	
	物理学III	2・3・4③			2		○								1	
	物理学IV	2・3・4④			2		○								1	
	電子回路	2・3・4④			2		○								1	
	電子物性工学I	3・4③			2		○								1	
	小計（19科目）	—	—	0	40	0	—	—	—	0	0	0	0	0	15	
領域科目 （電気情報通信）	技術英語	3・4②			2		○								1	
	電子デバイスII	3・4②			2		○								1	
	システム制御工学	3・4②			2		○								1	
	デジタル信号処理	3・4①			2		○								1	
	画像情報工学	3・4③			2		○								1	
	通信方式基礎	3・4④			2		○								1	
	電子物性工学II	4①			2		○								1	
	光応用工学	3・4④			2		○								1	
	光量子電子工学	3・4③			2		○								1	
	電気機器	3・4①			2		○								1	
	送配電工学	3・4①			2		○								1	
	パワーエレクトロニクス	3・4④			2		○								1	
	電子情報通信設計製図	3・4③～④			2			○							1	※実習
	電波・電気通信法規	4①～②			2		○								1	
	発変電工学	4①～②			2		○								1	
	高電圧工学	4②			2		○								1	
	電気法規・施設管理	4③～④			1		○								1	
	小計（17科目）	—	—	0	33	0	—	—	—	0	0	0	0	0	13	
領域基礎科目 （知能情報システム）	電子情報通信概論	1・2・3・4③			1		○								1	
	知能情報システム概論	1・2・3・4③			1		○								1	
	データ構造とアルゴリズム	2・3・4②			2		○								1	
	離散数学	2・3・4①			2		○								1	
	プログラミングAI	2・3・4①			2			○							1	※講義・実習
	プログラミングAII	2・3・4②			2			○							1	※講義・実習
	論理回路	2・3・4③			2		○								1	
	コンピュータネットワーク	2・3・4②			2		○								1	
	形式言語とオートマトン	2・3・4③			2		○								1	
	コンピュータアーキテクチャ	2・3・4④			2		○								1	
	人工知能基礎	2・3・4③			2		○								1	
	信号処理	3・4①			2		○								1	
	情報理論	3・4②			2		○								1	
	制御工学	3・4②			2		○								1	
	データ工学	3・4①			2		○								1	
	オペレーティングシステム	2・3・4④			2		○								1	
	アシスティブ・テクノロジー	3・4④			2		○								1	
	マルチメディアコンピューティング	3・4③			2		○								1	
	エンジニアのためのデータサイエンス入門（情報電子分野）	1・2・3・4②			2		○								1	※演習
	小計（19科目）	—	—	0	36	0	—	—	—	0	0	0	0	0	13	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（創生学部創生学修課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
領域学修科目	電気回路	2・3・4②			2		○								1	※講義・実習
	数理論理学	2・3・4④			2		○								1	
	ネットワーク工学	2・3・4④			2		○								1	
	基礎電子回路	2・3・4④			2		○								1	
	数値計算プログラミング	3・4①			2		○								1	
	コンパイラ	3・4②			2		○								1	
	電子デバイス	3・4③			2		○								1	
	プログラミングAIII	3・4③			2			○							1	
	電気数理II	2・3・4④			2		○								1	
	機械学習	3・4②			2		○								1	
	ロボティクス・メカトロニクス	3・4①			2		○								1	
	小計（11科目）	—	—	0	22	0	—	—	—	0	0	0	0	0	9	
	領域基礎科目（化学システム工学）															
	無機化学	2・3・4①			2		○								1	
	有機化学（工）	2・3・4①			2		○								1	
	分析化学（工）	2・3・4②			2		○								1	
	物理化学II	2・3・4④			2		○								1	
	計測化学I	2・3・4③			2		○								1	
	高分子化学概論	2・3・4①			2		○								1	
	無機工業化学	3・4①			2		○								1	
	化学工学基礎	1・2・3・4③			2		○								1	
	反応工学I	2・3・4①			2		○								1	
	拡散操作I	2・3・4②			2		○								1	
	物理化学I	2・3・4③			2		○								1	
	プロセス制御	3・4③			2		○								1	
	移動論基礎	2・3・4②			2		○								1	
	基礎物理化学	2・3・4②			2		○								1	
	高分子化学A	2・3・4④			2		○								1	
	小計（15科目）	—	—	0	30	0	—	—	—	0	0	0	0	0	12	
領域基礎科目（化学システム工学）	計測化学II	3・4①			2		○								1	
	分子設計化学	2・3・4③			2		○								1	
	物理化学III	3・4①			2		○								1	
	無機合成化学	2・3・4③			2		○								1	
	有機反応化学	3・4①			2		○								1	
	拡散操作II	2・3・4③			2		○								1	
	拡散操作III	3・4②			2		○								1	
	反応工学II	3・4①			2		○								1	
	反応工学III	3・4②			2		○								1	
	プロセス伝熱工学	2・3・4④			2		○								1	
	機械的分離工学	3・4④			2		○								1	
	有機合成化学	3・4④			2		○								1	
	反応装置工学	3・4④			2		○								1	
	粉体工学	3・4①			2		○								1	
	高分子化学B	3・4②			2		○								1	
	小計（15科目）	—	—	0	30	0	—	—	—	0	0	0	0	0	10	
領域基礎科目（材料科学）	基礎無機化学	1・2・3・4④			2		○								1	
	基礎有機化学	1・2・3・4③			2		○								1	
	基礎電磁気学	2・3・4①			2		○								1	
	基礎量子力学（工）	2・3・4③			2		○								1	
	基礎統計物理	2・3・4④			2		○								1	
	基礎材料物理化学	2・3・4②			2		○								1	
	基礎材料組織学	2・3・4②			2		○								1	
	受動電気回路素子論	2・3・4③			2		○								1	
	材料分析化学	2・3・4③			2		○								1	
	高分子科学	2・3・4④			2		○								1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（創生学部創生学修課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
領域学修科目	工業生化学	2・3・4④			2		○								1	
	物理数学	2・3・4③			2		○								1	
	基礎解析力学	2・3・4①			2		○								1	
	計測工学	3・4②			2		○								1	
	小計（14科目）	—	—	0	28	0	—	—	—	0	0	0	0	0	11	
領域科目（材料科学）	磁性・超伝導	3・4③			2		○								1	
	半導体物性・デバイス	3・4④			2		○								1	
	量子物性論	3・4③			2		○								1	
	電気化学	3・4②			2		○								1	
	光化学	3・4④			2		○								1	
	触媒化学	3・4④			2		○								1	
	高分子材料化学	3・4①			2		○								1	
	機能性高分子材料	3・4③			2		○								1	
	生体分子工学	3・4①			2		○								1	
	生物材料工学	3・4②			2		○								1	
	材料評価学	3・4①			2		○								1	
	応用電磁気学	2・3・4④			2		○								1	
	応用量子力学	3・4②			2		○								1	
	応用統計物理	3・4①			2		○								1	
	物質構造論	3・4④			2		○								1	
	材料科学実験I	3・4①②			2				○						1	
	材料科学実験II	3・4①②			2				○						1	
	小計（17科目）	—	—	0	34	0	—	—	—	0	0	0	0	0	13	
領域基礎科目（建築学）	建築学概論	1・2・3・4③			2		○								1	
	建築構造解析学・演習I	2・3・4①			2			○							1	※講義
	建築構造解析学・演習II	2・3・4②			2			○							1	※講義
	建築材料	2・3・4②			2		○								1	
	建築環境工学I	2・3・4③			2		○								1	
	建築環境工学II	3・4①			2		○								1	
	建築環境制御学I	3・4①			2		○								1	
	日本建築史	2・3・4①			2		○								1	
	建築計画学I	2・3・4③			2		○								1	
	建築計画学II	3・4②			2		○								1	
	都市計画学I	2・3・4②			2		○								1	
	都市計画学II	2・3・4④			2		○								1	
	都市デザイン論	3・4①			2		○								1	
	小計（13科目）	—	—	0	26	0	—	—	—	0	0	0	0	0	8	
領域科目（建築学）	建築構造解析学・演習III	2・3・4③			2			○							1	※講義
	建築構造解析学・演習IV	2・3・4④			2			○							1	※講義
	建築構造設計I	3・4①			2		○								1	
	建築環境制御学II	3・4③			2		○								1	
	近代建築史	2・3・4④			2		○								1	
	設計方法論	3・4③			2		○								1	
	建築法規	3・4①			2		○								1	
	建築施工	4①～②			2		○								1	
	建築図学I	1・2・3・4③			1			○							1	
	建築図学II	1・2・3・4④			1			○							1	
	建築製図基礎I	2・3・4①			1				○						1	
	建築製図基礎II	2・3・4②			2				○						1	
	建築設計製図I	2・3・4③			2				○						1	
	建築設計製図II	2・3・4④			2				○						1	
	都市計画・デザイン演習	3・4③			2			○							1	
	小計（15科目）	—	—	0	27	0	—	—	—	0	0	0	0	0	9	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（創生学部創生学修課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
領域学修科目	地域交流ボランティア実習	1・2・3・4①②③④			1				○						1	標準外
	基礎農林学実習	2・3・4①②③④			1				○						1	
	食料資源経済学	2・3・4①			2		○								1	
	資源植物生産学概論	2・3・4①			2		○								1	
	資源動物科学概論	2・3・4①			2		○								1	
	国際フードシステム論	2・3・4②			2		○								1	
	作物学	2・3・4④			2		○								1	
	果樹・蔬菜園芸学	2・3・4④			2		○								1	
	植物育種学	2・3・4②			2		○								1	
	動物遺伝学	2・3・4②			2		○								1	
	農地と水利用	2・3・4①			2		○								1	
	食料環境工学	2・3・4③			2		○								1	
	精密農業工学	2・3・4④			2		○								1	
	森林環境論	2・3・4④			2		○								1	
	環境砂防学	2・3・4①			2		○								1	
	フォレスト入門	2・3・4②			2		○								1	
	流域環境GIS	2・3・4③			2		○								1	
	小計（17科目）	—	—	0	32	0	—			0	0	0	0	0	15	
領域科目（生物資源科学・流域環境学）	農業経営学	2・3・4④			2		○								1	
	植物遺伝学	2・3・4③			2		○								1	
	動物解剖生理学	2・3・4②			2		○								1	
	農業農村開発論	3・4④			2		○								1	
	植物病理学	2・3・4③			2		○								1	
	動物発生生殖学	2・3・4④			2		○								1	
	花卉園芸学	2・3・4③			2		○								1	
	植物細胞工学	3・4②			2		○								1	
	環境地水学	3・4③			2		○								1	
	農村空間デザイン学	2・3・4③			2		○								1	
	土環境工学	2・3・4④			2		○								1	
	構造デザイン工学	2・3・4④			2		○								1	
	水環境工学	2・3・4②			2		○								1	
	環境材料工学	3・4①			2		○								1	
	バイオマスエネルギー論	2・3・4②			2		○								1	
	野生植物生態学	2・3・4①			2		○								1	
	野生動物生態学	2・3・4①			2		○								1	
	森林遺伝育種学	3・4②			2		○								1	
	森林再生学	2・3・4③			2		○								1	
	森林保護学	3・4④			2		○								1	
	温暖化メカニズム・影響学	3・4③			2		○								1	
	リモートセンシング	3・4②			2		○								1	
	流域水文学	2・3・4③			2		○								1	
	小計（23科目）	—	—	0	46	0	—			0	0	0	0	0	21	
領域基礎科目（応用生命科学・食品科学）	地域交流ボランティア実習	1・2・3・4①②③④			1				○						1	標準外
	基礎農林学実習	2・3・4①②③④			1				○						1	
	生物化学Ⅰ	2・3・4②			2		○								1	
	微生物学	2・3・4②			2		○								1	
	分析化学（農）	2・3・4①			2		○			1					1	
	遺伝子工学	3・4②			2		○								1	
	食品機能学	2・3・4②			2		○								1	
	土壌学概論	2・3・4②			2		○								1	
	植物成分化学	2・3・4④			2		○								1	
	食品化学	2・3・4②			2		○								1	
	動物栄養学	2・3・4③			2		○								1	
	農産食品学	2・3・4③			2		○								1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（創生学部創生学修課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （助手を 除く） 教員	
領域学 修科目	畜産食品学	2・3・4④			2		○								1	標準外
	食品衛生学	3・4①			2		○								1	
	食品工学	2・3・4①			2		○								1	
	植物細胞工学	3・4②			2		○								1	
	小計（16科目）	—	—	0	30	0	—	—	—	1	0	0	0	0	15	
	細胞分子生物学	3・4②			2		○								1	
	植物環境応答学	3・4④			2		○			1						
	応用微生物学	2・3・4③			2		○								1	
	分子微生物学	3・4①			2		○								1	
	酵素化学	3・4			2		○								1	
	栄養生化学	3・4①			2		○								1	
	植物バイオマス利用科学	3・4②			2		○								1	
	花卉園芸学	2・3・4③			2		○								1	
	土壌生化学	2・3・4④			2		○								1	
	生物有機化学	3・4①			2		○								1	
	畜産食品製造学	3・4②			2		○								1	
	免疫学概論	3・4③			2		○								1	
	食品・農業情報工学	2・3・4③			2		○								1	
	生物化学Ⅱ	2・3・4③			2		○								1	
	有機化学（農）	2・3・4③			2		○								1	
	小計（15科目）	—	—	0	30	0	—	—	—	1	0	0	0	0	12	
領域学 修に 関 わ る 必 修 科 目	領域学修入門	1②	○		2		○			2	4		2		1	※演習
	領域概説A（経済科学）	1④	○		2		○				1				1	
	領域概説B（理学）	1④	○		2		○						1		1	
	領域概説C（人文科学）	1③	○		2		○			1					1	
	領域概説D（法学）	1③	○		2		○				1				1	
	領域概説E（工学）	1③	○		2		○				1				1	
	領域概説F（農学）	1④	○		2		○			1					1	
	小計（7科目）	—	—	0	14	0	—	—	—	2	4	0	2	0	1	
自由 科目	データサイエンス概説演習	1③	○		1			○		1			1		1	メディア メディア メディア メディア
	小計（1科目）	—	—	0	1	0	—	—	—	1	0	0	1	0	1	
	英語 アカデミック英語入門R	1①～②③～④			1		○								20	
	実践コミュニケーション英語Ⅰ	1①～②			1			○							5	
	アカデミック英語入門R	1①～②③～④	1					○							27	
	アカデミック英語入門L	1①～②③～④	1					○							14	
	中級コミュニケーション英語	1・2・3・4①～②③～④			2			○							10	
	上級コミュニケーション英語	1・2・3・4①～②③～④			2			○							6	
	TOEFL iBT PreparationⅠ	1・2・3・4①～②③～④			2			○							2	
	TOEFL iBT PreparationⅡ	1・2・3・4①～②			2			○							2	
	IELTS PreparationⅠ	1・2・3・4①～②③～④			2			○							1	
	IELTS PreparationⅡ	1・2・3・4①～②③～④			2			○							1	
	実践コミュニケーション英語Ⅱ	1③～④			1			○							5	
	中級CALL（留学準備）	1・2・3・4①～②③～④			2			○							1	
	中級EAP（Listening & Speaking）	2・3・4①～②③～④			2			○							2	
	中級EAP（Writing）	2・3・4①②③～④			2			○							2	
	上級EAP（Writing）	2・3・4①～②③～④			2			○							1	
	中級EAP（Reading: Term Course）	2・3・4①			1			○							1	
	中級EAP（Listening & Speaking: Term Course）	2・3・4①②			1			○							1	
	上級EAP（Reading）	2・3・4①～②③～④			2			○							1	
	中級EAP（Reading）	2・3・4①～②③～④			2			○							2	
	上級EAP（Listening & Speaking）	2・3・4①～②③～④			2			○							1	
	iStep Extension: Academic Writing	1・2③～④			2			○							1	

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(創生学部創生学修課程) 【基礎学部】																			
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員(助手を除く)以外の教員			
自由科目	英語	iStep Extension: Basic Pronunciation	1・2③～④			2				○							1		
		iStep Academic Writing	1・2②			0.5				○							1		
		iStep Extension: Academic Listening & Speaking	1・2③～④			2				○								2	
		iStep Extension: Academic Reading	1・2③～④			2				○								1	
		iStep Extension: Presentation	1・2③～④			2				○								1	
		iStep Presentations	1・2②			0.5				○								1	
		iStep Extension: Oral Communication	1・2③～④			2				○								1	
		iStep Academic Reading	1・2②			0.5				○								1	
		iStep Listening and Speaking	1・2②			0.5				○								1	
		英語表現セミナーA	1・2・3・4①～②③～④			2				○								1	
		英語表現セミナーB	1・2・3・4①～②③～④			2				○								1	
		英語表現セミナーC	1・2・3・4①～②③～④			2				○								1	
		実践英語セミナー	1・2・3・4①～②③～④			2				○								1	メディア
		医療英語(看護)	1・2・3・4①～②			2				○								5	オムニバス
		医療英語(放射)	1・2・3・4①～②			2				○								14	オムニバス
		医療英語(検査)	1・2・3・4①～②			2				○								17	オムニバス
		医療英語ベーシック(放射)	1・2・3・4③～④			2				○								7	オムニバス
		P.A.C.E. (Academic Listening & Speaking)	1・2・3・4①			0.5				○								2	
		P.A.C.E. (Academic Reading I)	1・2・3・4①			0.5				○								2	
		P.A.C.E. (Academic Writing I)	1・2・3・4①			0.5				○								2	
		P.A.C.E. (Oral Communication)	1・2・3・4①			0.5				○								2	
		P.A.C.E. (Academic Writing II)	1・2・3・4②			0.5				○								2	
		P.A.C.E. (Academic Reading II)	1・2・3・4②			0.5				○								2	
		P.A.C.E. (Research Writing)	1・2・3・4③～④			1				○								2	
		P.A.C.E. (Academic Communication Skills)	1・2・3・4③～④			1				○								1	
		P.A.C.E. (Presentation Skills)	1・2・3・4③～④			1				○								1	
		小計(47科目)			—	—	2	67	0	—				0	0	0	0	0	83
初修外国語	ドイツ語圏グローバル理解 1(スイス学入門)	1・2①②			1			○									1	メディア	
	ドイツ語圏グローバル理解 2(ドイツ語文化圏研究入門)	1・2①②			1			○									1	メディア	
	ドイツ語圏グローバル理解 3(ドイツ語圏で暮らしてみれば)	1・2①②			1			○									1		
	ドイツ語圏グローバル理解 4(東西ドイツの分断と統一って?)	1・2①②			1			○									1		
	ドイツ語圏グローバル理解 5(映像で見る日独文化比較)	1・2①②			1			○									1		
	フランス語圏グローバル理解 1	1・2①②			1			○									1	メディア	
	フランス語圏グローバル理解 2	1・2①②			1			○									1		
	フランス語圏グローバル理解 3	1・2①②			1			○									1		
	ロシア語圏グローバル理解 1	1・2①②			1			○									1	メディア	
	中国語圏グローバル理解 1(日中韓比較文化)	1・2①②			1			○									1	メディア	
	中国語圏グローバル理解 2(映像で探る中国文化)	1・2①②			1			○									1		
	中国語圏グローバル理解 3(多民族国家中国)	1・2①②			1			○									1		
	中国語圏グローバル理解 4(漢文と中国語)	1・2③④			1			○									1	メディア	
	中国語圏グローバル理解 5(中国の生活と経済)	1・2①②			1			○									1		

教 育 課 程 等 の 概 要																
（創生学部創生学修課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
自由 科目	初修外国語	中国語圏グローバル理解 6（中国滞在事情）	1・2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 7（エリアスタディーズ北京）	1・2①②		1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 8（エリアスタディーズ上海）	1・2①②		1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 9（エリアスタディーズ東北）	1・2①②		1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 10（中国語の基礎知識）	1・2①②		1		○								1	
		中国語圏グローバル理解 11（中国語の基礎知識）	1・2①②		1		○								1	メディア
		中国語圏グローバル理解 12（中国語の基礎知識）	1・2③④		1		○								1	
		朝鮮語圏グローバル理解 1	1・2①②		1		○								1	メディア
		朝鮮語圏グローバル理解 2	1・2①②		1		○								1	メディア
		スペイン語圏グローバル理解 1	1・2①②		1		○								1	
		イタリア語圏グローバル理解 1	1・2①②		1		○								1	メディア
		古代ローマ帝国ラテン語	1・2・3・4①		1		○								1	メディア
		古典古代ギリシア語	1・2・3・4②		1		○								1	メディア
		西洋古典文芸 A	1・2・3・4①		1		○								1	
		西洋古典文芸 B	1・2・3・4②		1		○								1	
		フィリピン語圏グローバル理解 1	1・2①②		1		○								1	
		ドイツ語インテンシブ IA	1・2①		2			○							4	オムニバス
		ドイツ語インテンシブ IB	1・2②		2			○							4	オムニバス
		ドイツ語スタンダード IA	1・2①		1.5			○							5	オムニバス
		ドイツ語スタンダード IB	1・2②		1.5			○							5	オムニバス
		コミュニケーション・ドイツ語A	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語B	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語C	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		ドイツ語セミナーA	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		ドイツ語セミナーB	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		ドイツ語インテンシブ II	1・2③～④		4			○							4	オムニバス
		ドイツ語スタンダード II	1・2③～④		3			○							5	オムニバス
		ドイツ語エッセンシャル A	1・2③～④		2			○							2	
		ドイツ語エッセンシャル B1	1・2③～④		1			○							2	
		コミュニケーション・ドイツ語D	1・2・3・4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語E	1・2・3・4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・ドイツ語F	1・2・3・4③～④		2			○							1	
		ドイツ語セミナーC	1・2・3・4③～④		2			○							1	
		ドイツ語セミナーD	1・2・3・4③～④		2			○							1	
		フランス語インテンシブ IA	1・2①		2			○							3	オムニバス
		フランス語インテンシブ IB	1・2②		2			○							3	オムニバス
		フランス語スタンダード IA	1・2①		1.5			○							5	メディア、オムニバス
		フランス語スタンダード IB	1・2②		1.5			○							5	メディア、オムニバス
		コミュニケーション・フランス語B	1・2・3・4①～②		2			○							1	メディア
		コミュニケーション・フランス語C	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語D	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語E	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		コミュニケーション・フランス語J	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		フランス語セミナーA	1・2・3・4①～②		2			○							1	メディア
		フランス語インテンシブ II	1・2③～④		4			○							3	オムニバス
		フランス語スタンダード II	1・2③～④		3			○							5	メディア、オムニバス
		フランス語エッセンシャル A	1・2③～④		2			○							2	
		フランス語エッセンシャル B	1・2③～④		1			○							2	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(創生学部創生学修課程) 【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く) 教員以外の教員	
自由 科目	初修外国語															
	フランス学アクティブ	1・2・3・4③～④			2			○							1	
	コミュニケーション・フランス語G	1・2・3・4③～④			2			○							1	
	コミュニケーション・フランス語H	1・2・3・4③～④			2			○							1	メディア
	コミュニケーション・フランス語K	1・2・3・4③～④			2			○							1	
	フランス語セミナーB	1・2・3・4③～④			2			○							1	メディア
	ロシア語インテンシブ IA	1・2①			2			○							2	オムニバス
	ロシア語インテンシブ IB	1・2②			2			○							2	オムニバス
	ロシア語スタンダード IA	1・2①			1.5			○							2	オムニバス
	ロシア語スタンダード IB	1・2②			1.5			○							2	オムニバス
	コミュニケーション・ロシア語A	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	コミュニケーション・ロシア語B	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	ロシア語セミナーA	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	ロシア語ベーシックプラスA	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	ロシア語インテンシブ II	1・2③～④			4			○							2	オムニバス
	ロシア語スタンダード II	1・2③～④			3			○							2	オムニバス
	ロシア語エッセンシャル A	1・2③～④			2			○							2	オムニバス
	ロシア語エッセンシャル B	1・2④			1			○							1	メディア
	コミュニケーション・ロシア語C	1・2・3・4③～④			2			○							1	メディア
	ロシア語セミナーB	1・2・3・4③～④			2			○							1	メディア
	中国語インテンシブ IA	1・2①			2			○							6	メディア、オムニバス
	中国語インテンシブ IB	1・2②			2			○							6	メディア、オムニバス
	中国語スタンダード IA	1・2①			1.5			○							11	メディア
	中国語スタンダード IB	1・2②			1.5			○							11	
	コミュニケーション・中国語A	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	コミュニケーション・中国語B	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	コミュニケーション・中国語C	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	コミュニケーション・中国語J	1・2・3・4①～②			2			○							1	メディア
	コミュニケーション・中国語M	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	中国語セミナーE	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	中国語セミナーF	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	中国語セミナーQ	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	中国語インテンシブ II	1・2③～④			4			○							6	オムニバス
	中国語スタンダード II	1・2③～④			3			○							11	メディア、オムニバス
	中国語エッセンシャル A (発音・文法)	1・2③～④			2			○							4	オムニバス
	中国語エッセンシャル B (練習・会話)	1・2③～④			1			○							1	
	コミュニケーション・中国語D	1・2・3・4③～④			2			○							1	メディア
	コミュニケーション・中国語E	1・2・3・4③～④			2			○							1	
	コミュニケーション・中国語F	1・2・3・4③～④			2			○							1	
	コミュニケーション・中国語K	1・2・3・4③～④			2			○							1	メディア
	上海語演習	1・2・3・4③～④			2			○							1	
	中国語セミナーG	1・2・3・4③～④			2			○							1	
	中国語セミナーH	1・2・3・4③～④			2			○							1	
	中国語セミナーN	1・2・3・4③～④			2			○							1	
	朝鮮語インテンシブ IA	1・2①			2			○							2	オムニバス
	朝鮮語インテンシブ IB	1・2②			2			○							2	オムニバス
	朝鮮語スタンダード IA	1・2①			1.5			○							2	メディア、オムニバス
	朝鮮語スタンダード IB	1・2②			1.5			○							2	メディア、オムニバス
	コミュニケーション・朝鮮語I	1・2・3・4①～②			2			○							1	メディア
	コミュニケーション・朝鮮語J	1・2・3・4①～②			2			○							1	メディア
	コミュニケーション・朝鮮語K	1・2・3・4①～②			2			○							1	メディア
	コミュニケーション・朝鮮語H	1・2・3・4①～②			2			○							1	メディア
	朝鮮語セミナーA	1・2・3・4①～②			2			○							1	メディア
	朝鮮語インテンシブ II	1・2③～④			4			○							3	オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要																
（創生学部創生学修課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （ 助 手 を 除 く ） の 教 員	
自由 科目	初修外国語	朝鮮語スタンダード II	1・2③～④		3			○							2	メディア、オムニバス
		朝鮮語エッセンシャル A	1・2③～④		2			○							1	
		朝鮮語エッセンシャル B	1・2③～④		1			○							1	メディア
		コミュニケーション・朝鮮語L	1・2・3・4③～④		2			○							1	
		コミュニケーション・朝鮮語X	1・2・3・4③～④		2			○							1	メディア
		朝鮮語セミナーB	1・2・3・4③～④		2			○							1	
		スペイン語スタンダード IA	1・2①		1.5			○							1	
		スペイン語スタンダード IB	1・2②		1.5			○							1	
		スペイン語スタンダード III	1・2①～②		1			○							1	
		コミュニケーション・スペイン語A	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		スペイン語セミナーA	1・2・3・4①～②		2			○							1	
		スペイン語スタンダード II	1・2③～④		3			○							1	
		スペイン語スタンダード IV	1・2③～④		1			○							1	
		スペイン語エッセンシャル A	1・2③～④		2			○							1	
		スペイン語エッセンシャル B	1・2③～④		1			○							1	
		コミュニケーション・スペイン語B	1・2・3・4③～④		2			○							1	
		イタリア語スタンダード IA	1・2①		1.5			○							2	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード IB	1・2②		1.5			○							2	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード III	1・2①～②		1			○							1	メディア
		コミュニケーション・イタリア語A	1・2・3・4①～②		2			○							1	メディア
		イタリア語スタンダード II	1・2③～④		3			○							2	メディア、オムニバス
		イタリア語スタンダード IV	1・2③～④		1			○							1	メディア
		コミュニケーション・イタリア語B	1・2・3・4③～④		2			○							1	メディア
		古代エジプト神聖文字A	1・2・3・4③		1			○							1	メディア
		古代エジプト神聖文字B	1・2・3・4④		1			○							1	メディア
		フィリピン語エッセンシャル A	1・2③～④		2			○							1	
		フィリピン語エッセンシャル B	1・2③～④		1			○							1	
	小計（142科目）	—	—	0	251	0	—	—	—	0	0	0	0	0	55	
健康・ スポ ーツ	健康スポーツ科学実習 Ia	1・2・3・4①			0.5			○							2	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 Ib	1・2・3・4②			0.5			○							2	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 I	1・2・3・4①～②③～④			1			○							16	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II（ゴルフ）	1・2・3・4①～②			1			○							3	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II（ソフトボール）	1・2・3・4①～②			1			○							1	
	健康スポーツ科学実習 II（スキー I）	1・2・3・4③～④			1			○							8	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II（スキー II）	1・2・3・4③～④			1			○							8	オムニバス
	健康スポーツ科学実習 II（卓球 II）	1・2・3・4③～④			1			○							1	
	健康スポーツ科学実習 II（卓球 I）	1・2・3・4③～④			1			○							1	
	健康スポーツ科学実習 II（剣道）	1・2・3・4③～④			1			○							1	
	健康スポーツ科学実習 II（トレーニング）	1・2・3・4③～④			1			○							1	
	健康スポーツ科学実習 II（野外活動）	1・2・3・4③～④			1			○							1	
	健康スポーツ科学講義a	1・2・3・4①③			1		○								4	オムニバス
	健康スポーツ科学講義b	1・2・3・4②④			1		○								4	オムニバス
	健康スポーツ科学講義	1・2・3・4①～②			2		○								3	オムニバス
	小計（15科目）	—	—	0	15	0	—	—	—	0	0	0	0	0	25	
情報 リテ ラシー	データサイエンス基礎演習	1・2・3・4①②③④			2			○							10	
	データサイエンス総論 I	1・2・3・4①③			1		○								7	オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門（力学分野）	1・2・3・4①			2		○								2	※演習、オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門（化学材料分野）	1・2・3・4①			2		○								2	※演習、オムニバス
	エンジニアのためのデータサイエンス入門（融合領域分野）	1・2・3・4①			2		○								2	※演習、オムニバス
	情報リテラシー概論	1・2・3・4①			2		○								6	オムニバス
	データサイエンス総論 II	1・2・3・4②④			1		○								7	オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(創生学部創生学修課程) 【基礎学部】																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外を除く		
自由科目	情報リテラシー	エンジニアのためのデータサイエンス入門 (情報電子分野)	1・2・3・4②			2		○								3	※演習、オムニバス
		エンジニアのためのデータサイエンス入門 (建築分野)	1・2・3・4②			2		○								2	※演習、オムニバス
		情報リテラシー	1・2・3・4①～②			2			○							1	
		情報処理概論 A I	1・2・3・4①～②			2		○								1	
		人工知能入門	1・2・3・4①～②			2		○								2	オムニバス
		データサイエンス・インターンシップ (事前・事後指導)	1・2・3・4①～②			2			○							1	
		データサイエンス・インターンシップ	1・2・3・4①～②			6			○							1	
		情報処理概論 A II	1・2・3・4③～④			2		○								1	
		データサイエンス発表	1・2・3・4③～④			2			○							1	
		サイバーセキュリティと情報倫理	1・2・3・4①			2		○								1	
	小計 (17科目)	—	—	0	36	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	33	
新潟大学個性化科目	日本酒学C	1・2・3・4②			1		○									5	オムニバス
	日本酒学A	1・2・3・4①～②			2		○									4	オムニバス
	キャリアデザイン	1・2・3・4①～②			2		○									3	オムニバス
	SDGs入門演習	1・2・3・4①～②			2		○									1	メディア
	新潟産業フィールドワーク	1・2・3・4①～②			4		○									2	※演習、オムニバス
	新潟の農林業	1・2・3・4③			2		○									11	メディア、オムニバス
	食と健康の科学	1・2・3・4④			2		○									13	オムニバス
	土と水	1・2・3・4④			2		○									14	オムニバス
	近世越後諸地域の歴史と社会	1・2・3・4③～④			2		○									5	オムニバス
	SDGs入門	1・2・3・4③～④			2		○									5	オムニバス
	地域を探索	1・2・3・4③～④			2		○									14	オムニバス
	日本酒学B	1・2・3・4①～④			1		○									9	オムニバス
	ダブルホーム活動入門 I	1・2・3・4①			1		○									3	※演習、オムニバス
	生まれ変わる地方小都市一人とまちの未来図を描くー	1・2・3・4①			2			○								1	メディア
	自己・他者理解から始まるキャリア自律	1.2.3.4①～②			2		○									2	※演習、オムニバス
	仕事・業界理解から働く意味を探究する	1.2.3.4③			2		○									2	※演習、オムニバス
	ダブルホーム活動入門 II	1・2・3・4②			1			○								3	メディア、オムニバス
	ボランティア開発論 I	1・2・3・4①～②			2		○									2	オムニバス
	コミュニティ開発論 I	1・2・3・4①～②			2		○									2	オムニバス
	地域から文化を考える	1・2・3・4①～②			2		○									5	※実験・実習、オムニバス
	学校支援フィールドワーク A (小学校)	1・2・3・4①～②			2			○								3	オムニバス
	学校支援フィールドワーク A (中学校)	1・2・3・4①～②			2			○								3	オムニバス
	学校支援フィールドワーク A (高等学校)	1・2・3・4①～②			2			○								3	オムニバス
	学校支援フィールドワーク B (小学校)	1・2・3・4①～②			4			○								3	オムニバス
	学校支援フィールドワーク B (中学校)	1・2・3・4①～②			4			○								3	オムニバス
	授業フィールドワーク	1・2・3・4①～②			2				○							2	オムニバス
	現場訪問とデータから読み解く新潟の今ー新潟地域産業の可能性を探索ー I	1・2・3・4①～②			2			○								2	※実験・実習、オムニバス
	生涯学習社会とメディア	1・2・3・4③			2		○									1	
	私のローカルキャリア論ー地域とかわる多様な働きかた・暮らしのかたー	1・2・3・4③			2		○									1	※演習、メディア
	ボランティア開発論 II	1・2・3・4③～④			2		○									2	オムニバス
	コミュニティ開発論 II	1・2・3・4③～④			2		○									2	オムニバス
	現場訪問とデータから読み解く新潟の今ー新潟地域産業の可能性を探索ー II	1・2・3・4③～④			2			○								2	※実験・実習、オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要																
（創生学部創生学修課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く）教員	
自由 科目	新 潟 大 学 個 性 化 科 目	地域共創演習Ⅲb	1・2・3・4③～④		1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
		地方小都市の未来創造-市民と学生による地域づくりの実践	1・2・3・4①～④		4			○							2	※実験・実習、オムニバス
		地域共創演習Ⅰ	1・2・3・4①～④		1			○							4	※講義、実験・実習、オムニバス
		地域共創演習Ⅱa	1・2・3・4①～④		1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
		地域共創演習Ⅱb	1・2・3・4①～④		1			○							5	※講義、実験・実習 メディア、オムニバス
		地域共創演習Ⅰb	1・2・3・4①～④		1			○							2	※実験・実習、オムニバス
		地域共創演習Ⅲa	1・2・3・4①～②		1			○							5	※講義、実験・実習、オムニバス
		コミュニティインターンシップ実践	1・2・3・4①～④		4			○			1					※実験・実習
		日本手話A	1・2・3・4①		2		○								4	オムニバス
		アクティブラーニングA	1・2・3・4①②③④		1		○								1	
		アクティブラーニングC	1・2・3・4①②③④		1		○								1	
		日本と外国人	1・2・3・4①②③④		1		○								1	メディア
		ユーザのための数学I	1・2・3・4①		2			○							1	
		教員志望者のための日本語教育入門 A	1・2・3・4①		1		○								1	
		分野横断デザイン	1・2・3・4①②③④		1		○								5	※演習、オムニバス
		分野横断リフレクション	1・2・3・4①②③④		1		○								5	※演習、オムニバス
		多文化間共修A1	1・2・3・4①③		1		○								1	
		多文化間共修B1	1・2・3・4①③		1		○								1	
		多文化間共修C1	1・2・3・4①③		1		○								1	メディア
		多文化間共修D1	1・2・3・4①③		1		○								1	
		リーダーシップ演習Ⅱ1	1・2・3・4①		1			○							3	オムニバス
		リーダーシップ演習Ⅲ1	1・2・3・4①		1			○							3	オムニバス
		アクティブラーニングB	1・2・3・4②④		1		○								1	
		日本手話B	1・2・3・4②		2		○								4	オムニバス
		1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムⅠ	1・2・3・4②		2			○							2	オムニバス
		税のしくみから社会を考える	1・2・3・4②		2		○								7	オムニバス
		教員志望者のための日本語教育入門 B	1・2・3・4②		1		○								1	
		地域災害環境システム学入門	1・2・3・4②		1		○								6	オムニバス
		中国留学準備講座 サマーセミナー 中国入門	1・2・3・4②		1		○								2	オムニバス
		多文化間共修A2	1・2・3・4②④		1		○								1	
		多文化間共修B2	1・2・3・4②④		1		○								1	
		多文化間共修C2	1・2・3・4②④		1		○								1	メディア
		多文化間共修D2	1・2・3・4②④		1		○								1	
		リーダーシップ演習Ⅱ2	1・2・3・4②		1			○							3	オムニバス
		リーダーシップ演習Ⅲ2	1・2・3・4②		1			○							3	オムニバス
		新聞を体験する－新潟日報との連携授業－	1・2・3・4①～②		2		○								2	オムニバス
		平和を考えるA	1・2・3・4①～②		2		○								5	オムニバス
		パフォーマンスの外国語	1・2・3・4①～②		2		○								1	
		国際共修：グローバル社会における ビジネス・コミュニケーションA	1・2・3・4①～②		2		○								1	
		国際共修：留学生との協働学習を通 じた異文化理解A	1・2・3・4①～②		2		○								1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(創生学部創生学修課程) 【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く) 教員	
自由 科目	新潟大学個性化科目															
	International Relations in the Asia-Pacific	1・2・3・4①～②			2		○								1	※演習
	Regionalism in the Asia-Pacific Region	1・2・3・4①～②			2		○								1	※演習
	Chinese Politics and Diplomacy	1・2・3・4①～②			2		○								1	
	生命保険を考える	1・2・3・4①～②			2		○								8	オムニバス
	ストレスマネジメント	1・2・3・4①～②			2		○								1	※演習
	パーソナルファイナンス論	1・2・3・4①～②			2		○								1	
	学生がデザインする働き方の未来ー人生100年時代のワークスタイルを創造するー	1・2・3・4②～③			2		○								1	※演習
	学問の扉 知と方法の最前線	1・2・3・4③～④			1		○								13	メディア、オムニバス
	平和と現代のグローバル安全保障論	1・2・3・4①～②			2		○								1	
	中東イスラーム言語文化入門	1・2・3・4①～②			2		○								1	
	大学生のための役に立つ育児学	1・2・3・4①～②			1		○								7	オムニバス
	朱鷺・自然再生フィールドワーク	1・2・3・4①～②			1				○						4	オムニバス
	1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムII	1・2・3・4①～②			4				○						2	オムニバス
	表現プロジェクト演習Q	1・2・3・4①～②			2			○							2	オムニバス
	異文化と技術	1・2・3・4①～②③～④			1		○								7	オムニバス
	研究者の仕事と生活	1・2・3・4①～②			1		○								6	メディア、オムニバス
	地理情報システム(GIS)概論・演習	1・2・3・4①～②			2			○							3	オムニバス
	森・里・海フィールド実習	1・2・3・4①～②			1				○						8	オムニバス
	開発・環境と平和	1・2・3・4①～②			2		○								1	
	西インドネシア大学国際交流プログラムA	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	韓国サマースクールI	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	西インドネシア大学国際交流プログラムB	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-W	1・2・3・4①～②			4		○								1	
	カナダ・サマーセミナー	1・2・3・4①～②			4			○							1	
	オタゴ大学英語研修	1・2・3・4①～②			4			○							1	
	新潟の企業の魅力を探る	1・2・3・4①～②③～④			1				○						1	
	1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムI(集中・短縮版)	1・2・3・4①～②			1			○							2	オムニバス
	1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムII(短縮版)	1・2・3・4①～②			2				○						2	オムニバス
	オンライン国際共修型プロジェクトワーク	1・2・3・4①～②			1		○								5	※演習、メディア、オムニバス
	韓国サマーセミナーI	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	平和学概論	1・2・3・4③			2		○								1	
	表現プロジェクト演習T	1・2・3・4③			2			○							1	
	地域災害環境システム学演習	1・2・3・4③			1			○							6	オムニバス
	トキをシンボルとした自然再生	1・2・3・4③			2		○								9	オムニバス
	キャリア形成と法制度	1・2・3・4③			2		○				1					
	表現プロジェクト演習G	1・2・3・4③			2			○							1	
	ユーザのための数学II	1・2・3・4③			2			○							1	
	教員志望者のための日本語教育入門 C	1・2・3・4③			1		○								1	
	国際共修：留学生と考える日中言語文化A	1・2・3・4③			1		○								1	
	西洋カリグラフィーA	1・2・3・4③			1		○								1	メディア

教 育 課 程 等 の 概 要																
（創生学部創生学修課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く）教員	
自由科目 新潟大学個性化科目	リーダーシップ演習Ⅱ3	1・2・3・4③			1			○							3	オムニバス
	教員志望者のための日本語教育入門 D	1・2・3・4④			1		○								1	
	大学生生活戦略論 ―キャンパス内外を「越境」する学び・経験―	1・2・3・4④			2		○								1	
	シンガポール・スプリングセミナー留学プログラムの準備講座：グローバル対応力育成・強化	1・2・3・4④			1		○								2	※演習、オムニバス
	オックスフォード大学英語研修（OSS留学プログラム）の準備講座：グローバル対応力育成・強化	1・2・3・4④			1			○							3	オムニバス
	西洋カリグラフィーB	1・2・3・4④			1		○								1	メディア
	佐渡学概論：佐渡島の自然と人々の営み	1・2・3・4④			2		○								4	オムニバス
	リーダーシップ演習Ⅰ	1・2・3・4④			1			○							3	オムニバス
	リーダーシップ演習Ⅱ4	1・2・3・4④			1			○							3	オムニバス
	ピアサポート入門	1・2・3・4③～④			2		○								2	※演習、オムニバス
	表現プロジェクト演習H	1・2・3・4③～④			2			○							2	オムニバス
	平和を考えるB	1・2・3・4③～④			2		○								9	オムニバス
	国際共修：グローバル社会におけるビジネス・コミュニケーションB	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	国際共修：留学生との協働学習を通じた異文化理解B	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	The China-Japan-US Trilateral Relations	1・2・3・4③～④			2		○								1	※演習
	グローバル課題を理解する対応力の基礎講座	1・2・3・4③～④			2		○								1	※演習
	現代社会と差別	1・2・3・4③～④			2		○								1	※演習
	地理情報システム（GIS）概論・応用演習	1・2・3・4③～④			2			○							2	オムニバス
	オックスフォード大学英語研修	1・2・3・4③～④			2			○							1	
	台湾スプリングセミナーⅠ	1・2・3・4③～④			2		○								6	オムニバス
	台湾スプリングセミナーⅡ	1・2・3・4③～④			2		○								6	オムニバス
	シンガポール・スプリングセミナー	1・2・3・4③～④			2			○							1	
	多文化共生社会体験 in AUSTRALIA-S	1・2・3・4③～④			4		○								1	
	フィリピンALLC英語研修	1・2・3・4③～④			4			○							1	
	佐渡自然共生国際実習	1・2・3・4①～④			2				○						6	オムニバス
	地域共創特別演習（岩室）	1.2.3.4①～④			2			○							1	
	地域共創特別演習ⅠA（刈羽&東京）	1.2.3.4①～②			2			○							3	オムニバス
	地域共創特別演習ⅠB（刈羽&東京）	1.2.3.4③～④			2			○							3	オムニバス
	小計（140科目）	—	—	0	250	0		—		0	2	0	0	0	201	
留学生基本科目	英語による日本語文法解説a	1・2・3・4④			1		○								1	
	中国語による日本語文法解説a	1・2・3・4④①			1		○								1	
	日本語Ⅰ	1・2・3・4①③			2			○							2	メディア、オムニバス
	日本語Ⅲ	1・2・3・4①③			2			○							1	
	英語による日本語文法解説b	1・2・3・4②			1		○								1	
	中国語による日本語文法解説b	1・2・3・4②			1		○								1	
	日本語Ⅱ	1・2・3・4②④			2			○							1	メディア
	日本語Ⅳ	1・2・3・4②④			2			○							1	
	JLPT-N1 A	1・2・3・4①～②			1			○							1	
	JLPT-N2 A	1・2・3・4①～②			1			○							1	
	日本語作文Ⅰ	1・2・3・4①～②③～④			1			○							1	
	日本語作文Ⅱ	1・2・3・4①～②③～④			1			○							1	
	日本語作文Ⅲ	1・2・3・4①～②③～④			1			○							1	
	日本語作文Ⅳ	1・2・3・4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅰ	1・2・3・4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅱ	1・2・3・4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅲ	1・2・3・4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解Ⅳ	1・2・3・4①～②③～④			1			○							1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（創生学部創生学修課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
自由 科目	留学生基本科目															
	日本語読解 V	1・2・3・4①～②③～④			1			○							1	
	日本語読解 VI	1・2・3・4①～②③～④			1			○							1	
	日本語入門	1・2・3・4①～②③～④			3			○							2	
	日本語V	1・2・3・4①～②③～④			4			○							1	
	日本語VI	1・2・3・4①～②			5			○							1	
	英語による日本語文法解説 c	1・2・3・4③			1		○								1	
	中国語による日本語文法解説 c	1・2・3・4③			1		○								1	
	英語による日本語文法解説 d	1・2・3・4④			1		○								1	
	中国語による日本語文法解説 d	1・2・3・4④			1		○								1	
	JLPT-N1 C	1・2・3・4③～④			1			○							1	
	集中日本語 O F	1・2・3・4③～④			5			○							3	オムニバス
	集中日本語 O G	1・2・3・4③～④			5			○							3	オムニバス
	集中日本語 O H	1・2・3・4③～④			5			○							3	オムニバス
	日本語VII	1・2・3・4③～④			5			○							1	
	日本文化入門 I	1・2・3・4①②③④			1			○							1	メディア
	日本文化入門 II	1・2・3・4①②③④			1			○							1	
	日本事情自然系 A	1・2・3・4①～②			2		○								9	オムニバス
	課題研究 II	1・2・3・4①～②			2			○							4	オムニバス
	ビジネス日本語	1・2・3・4①～②③～④			2		○								1	
	日本で働く	1・2・3・4①～②			2		○								1	
	日本事情社会系 A	1・2・3・4③～④			2		○								4	メディア、オムニバス
	日本事情自然系 B	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	課題研究 I	1・2・3・4③～④			2			○							4	オムニバス
	小計（41科目）	—	—	0	77	0	—	—	—	0	0	0	0	0	28	
大学 学 習 法	人文初年次演習	1・2・3・4①～②			2			○							11	オムニバス
	スタディ・スキルズA	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	スタディ・スキルズB	1・2・3・4①			2			○							8	オムニバス
	スタディ・スキルズC	1・2・3・4①～②			2			○							3	オムニバス
	スタディ・スキルズE	1・2・3・4①～②			2			○							5	オムニバス
	スタディ・スキルズF	1・2・3・4①～②			2			○							5	オムニバス
	スタディ・スキルズG	1・2・3・4①～②			2			○							6	オムニバス
	スタディ・スキルズH	1・2・3・4①～②			2			○							4	オムニバス
	スタディ・スキルズI	1・2・3・4①			2			○							3	オムニバス
	スタディ・スキルズK	1・2・3・4①～②			2			○							5	オムニバス
	スタディ・スキルズL	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	スタディ・スキルズM	1・2・3・4①			2			○							6	オムニバス
	スタディ・スキルズN	1・2・3・4①～②			2			○							7	オムニバス
	スタディ・スキルズP	1・2・3・4①～②			2			○							8	オムニバス
	スタディ・スキルズ	1・2・3・4①			2			○							14	オムニバス
	スタディスキルズ I	1・2・3・4①			1			○							10	オムニバス
	スタディスキルズ II	1・2・3・4③			1			○							18	オムニバス
	スタディスキルズ III	1・2・3・4④			1			○							10	オムニバス
	スタディスキルズ（看護）	1・2・3・4①			2			○							5	オムニバス
	スタディスキルズ（放射）	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	スタディスキルズ（検査）	1・2・3・4①～②			2			○							15	オムニバス
	歯学スタディ・スキルズ	1・2・3・4①～②			2			○							8	オムニバス
	歯学スタディ・スキルズ II	1・2・3・4①～②			2			○							6	オムニバス
	工学リテラシー入門（力学分野）	1・2・3・4①			2			○							20	オムニバス
	工学リテラシー入門（情報電子分野）	1・2・3・4①			2		○								20	※演習、オムニバス
	工学リテラシー入門（化学材料分野）	1・2・3・4①			2			○							20	オムニバス
	工学リテラシー入門（建築分野）	1・2・3・4①			2			○							12	オムニバス
	工学リテラシー入門（融合領域分野）	1・2・3・4①			2			○							8	オムニバス
	スタディ・スキルズA I a	1・2・3・4①			1			○							8	
	スタディ・スキルズA II a	1・2・3・4③			1			○							8	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（創生学部創生学修課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （助手 以外の 教員）	
自由 科目	大学 学習 法	スタディ・スキルズAⅠb スタディ・スキルズAⅡb スタディ・スキルズAⅠc スタディ・スキルズAⅡc	1・2・3・4① 1・2・3・4③ 1・2・3・4① 1・2・3・4③		1 1 1 1			○ ○ ○ ○							8 8 8 8	
	小計（34科目）	—	—	0	59	0	—	—	—	0	0	0	0	0	233	
自然 科学 系 共 通 専 門 基 礎	解析学基礎1	1・2・3・4①			1		○								1	
	解析学基礎2	1・2・3・4②			1		○								1	
	数学基礎A1	1・2・3・4①③			1		○								3	オムニバス
	数学基礎A2	1・2・3・4②④			1		○								3	オムニバス
	数学基礎B1	1・2・3・4①③			1		○								4	オムニバス
	数学基礎B2	1・2・3・4②④			1		○								4	オムニバス
	統計学基礎1	1・2・3・4①③			1		○								3	オムニバス
	統計学基礎2	1・2・3・4②④			1		○								3	オムニバス
	物理学基礎AⅠ	1・2・3・4①①～②			2		○								2	オムニバス
	物理学基礎BⅠ	1・2・3・4①②①～②			2		○								6	オムニバス
	物理学基礎CⅠ	1・2・3・4①～②			2		○								1	
	物理学概論	1・2・3・4①～②③～④			2		○								2	オムニバス
	化学基礎A	1・2・3・4①②③			2		○								5	オムニバス
	化学基礎B	1・2・3・4①②④			2		○								3	オムニバス
	生物学基礎A	1・2・3・4①②①～②③			2		○								5	オムニバス
	生物学基礎B	1・2・3・4①②③～④			2		○								5	オムニバス
	地学基礎A	1・2・3・4①③			2		○								2	オムニバス
	地学基礎B	1・2・3・4①			2		○								2	オムニバス
	物理学基礎AⅡ	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	物理学基礎BⅡ	1・2・3・4④			2		○								4	オムニバス
	物理学基礎CⅡ	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	地学基礎C	1・2・3・4④			2		○								1	
	小計（22科目）	—	—	0	36	0	—	—	—	0	0	0	0	0	42	
自然 科学	リメディアル数学I	1・2・3・4①			1		○								4	オムニバス
	基礎数理AⅠ	1・2・3・4②④			2		○								5	オムニバス
	物理学への招待A	1・2・3・4②			2		○								1	
	生物学実験	1・2・3・4②			1				○						7	オムニバス
	基礎雪氷学	1・2・3・4②			2		○								5	オムニバス
	リメディアル数学IⅡ	1・2・3・4②			1		○								4	オムニバス
	生物学－植物A－	1・2・3・4②			2		○								2	オムニバス
	物理学基礎実験	1・2・3・4①～②			2				○						3	オムニバス
	地学実験A	1・2・3・4①～②			2				○						2	オムニバス
	自然科学基礎実験	1・2・3・4①～②			2				○						20	オムニバス
	量子研究の最前線	1・2・3・4①～②			2		○								14	オムニバス
	数学の世界	1・2・3・4③			2		○								4	オムニバス
	基礎数理B	1・2・3・4③			2		○								5	オムニバス
	化学とSDGs	1・2・3・4③			2		○								3	オムニバス
	社会を支える有機化学	1・2・3・4③			2		○								1	
	生物学－動物A－	1・2・3・4③			2		○								1	
	地学E（地球理解の諸相）	1・2・3・4③			1		○								1	メディア
	地質学の基礎	1・2・3・4③			2		○								1	
	地学実験B	1・2・3・4③			1				○						1	
	基礎数理AⅡ	1・2・3・4④			2		○								5	オムニバス
	生物学－生物多様性A－	1・2・3・4④			2		○								2	オムニバス
	地学概論A	1・2・3・4①④			2		○								2	
	地球と気象	1・2・3・4④			2		○								1	
	地学C（マagmaと火山）	1・2・3・4④			1		○								2	オムニバス
	物理学への招待B	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	生活の化学	1・2・3・4③～④			2		○								1	

基本計画書-246

教 育 課 程 等 の 概 要																
（創生学部創生学修課程）【基礎学部】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
自由 科目	人文社会・教育科学	中国語オプショナルA	1・2・3・4③		2			○							1	オムニバス
	意思決定のコミュニケーション論	1・2・3・4④			2		○								1	
	つながりと絆の社会学	1・2・3・4④			2		○								1	
	朝鮮語オプショナルB	1・2・3・4③～④			2			○							1	
	音楽R	1・2・3・4③～④			2		○								2	オムニバス
	対人行動の心理学	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	セクシュアリティ・スタディーズ	1・2・3・4③～④			2		○								8	
	人文系展開科目D	1・2・3・4③～④			2		○								14	
	日本古典文学N	1・2・3・4③～④			2		○								1	オムニバス
	日本古典文学O	1・2・3・4①			2		○								1	
	文学D	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	西洋哲学演習	1・2・3・4③～④			2			○							1	
	演劇入門	1・2・3・4③～④			2		○								1	メディア
	現代思想論	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	人文系展開科目I	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	日本語教育IーB	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	教養教育としての教育学入門	1・2・3・4①			2			○		1						オムニバス
	精神疾患とその治療	1・2・3・4②			2		○								1	
	公認心理師の職責	1・2・3・4②			1		○								4	
	ビジネス書道入門	1・2・3・4①～②③～④			2		○								1	
	音楽（ピアノ）	1・2・3・4①～②			2			○							1	メディア
	水彩画表現入門	1・2・3・4①～②			2			○							1	
	美術史	1・2・3・4①～②			2		○								1	
	人体の構造と機能及び疾病	1・2・3・4①～②			2		○								2	
	福祉心理学	1・2・3・4①～②			2		○								2	オムニバス
	教養を考える	1・2・3・4①～②			2		○								2	
	司法・犯罪心理学	1・2・3・4①～②			2		○								1	
	臨床心理学概論	1・2・3・4④			2		○								1	
	音楽E	1・2・3・4③～④			2			○							1	メディア
	日本文化論	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	音楽（作曲）	1・2・3・4③～④			2			○							1	
	心理演習	1・2・3・4③～④			2			○							4	
	心理的アセスメント	1・2・3・4③～④			2		○								1	オムニバス
	関係行政論	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	健康生活環境論	1・2・3・4③～④			2		○								1	
	心理実習	1・2・3・4①～④			2				○						3	
	人文社会科学入門（法学）	1・2・3・4①			2		○								3	オムニバス
	リーガル・システムA	1・2・3・4①			2		○								3	
	日本国憲法	1・2・3・4②③④⑤～⑥⑦～⑧			2		○								5	
	リーガル・システム	1・2・3・4②			2		○								3	
	リーガル・システムB	1・2・3・4②			2		○								3	オムニバス
	死因究明と法	1・2・3・4③			2		○								5	
	組織マネジメント論	1・2・3・4①			2		○				1					
	マーケティングプロモーション入門	1・2・3・4②			1		○								1	
	小計（71科目）	—	—	0	140	0	—	—	—	2	4	0	0	0	105	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(創生学部創生学修課程) 【基礎学部】																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外を除く教員	
自由科目	医歯学	はじめての医学	1・2・3・4②			1		○								2	オムニバス
		先端医科学研究概説	1・2・3・4①～②			2		○								1	
		医学序説Ⅰ	1・2・3・4①～②			2		○								1	
		医学論文を読む(ジャーナルクラブ)	1・2・3・4①～②			2			○							1	
		原子力と倫理	1・2・3・4④			1		○								4	オムニバス
		医学序説Ⅱ	1・2・3・4③～④			2		○								1	
		医学論文を読む(ジャーナルクラブ)	1・2・3・4③～④			2			○							1	
		健康と医学	1・2・3・4③～④			2		○								5	オムニバス
		災害医療概論	1・2・3・4①～④			1		○								1	
		原子力災害医療体制	1・2・3・4①～④			1		○								1	※実験・実習
		災害医療ロジスティクス	1・2・3・4①～④			1		○								1	
		「食べる」	1・2・3・4①			2		○								14	オムニバス
		PBL入門	1・2・3・4②			1		○								4	※演習、オムニバス
		健康福祉学入門	1・2・3・4②			2		○								13	メディア、オムニバス
		新潟発福祉学	1・2・3・4③			2		○								10	オムニバス
		顔	1・2・3・4③～④			2		○								12	オムニバス
小計(16科目)			—	—	0	26	0	—			0	0	0	0	0	59	
合計(1331科目)			—	—	38	3021	0	—			8	8	0	3	0	706	
学位又は称号		学士(学術)			学位又は学科の分野					文学関係、法学関係、経済学関係、社会学・社会福祉学関係、理学関係、工学関係、農学関係							
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等								
本学に4年以上在学し、かつ所定の単位を修得すること。 (所定の単位) 【創生学修コース】 ○導入・転換教育科目 14単位 (スタディスキルズ 2単位、アソシエーションゼミⅠ・Ⅱ 各2単位、課題解決リテラシー 2単位、フィールドスタディーズ 6単位) ○基礎科目 8単位 ・英語 2単位 ・初修外国語 2単位 ・デジタルスキルリテラシー 2単位 ・データサイエンス概説 2単位 ○リテラシーコア・課題解決実践科目 28単位 ・スキル習得中心の科目 4単位 (データサイエンス実践A～C または P.A.C.E. 科目から4単位) ・課題解決学習(PBL) 中心の科目 16単位 (アソシエーションゼミⅢ・Ⅳ 各2単位、プロジェクトゼミⅠ・Ⅱ 各2単位、ソリューションラボⅠ・Ⅱ 各4単位) ・リテラシー・スキル涵養科目 8単位 (創生学修コースは、人文社会・教育科学科目群、自然科学科目群 各4単位) ○学修成果総括科目 2単位 (創生学修総括 2単位) ○領域学修科目 46単位 ・領域基礎科目から20単位 ・領域科目から20単位 ・領域学修に関わる必修科目 6単位 (領域学修入門 2単位、領域概説A～F から4単位) ○自由科目 28単位 ・全学共通科目、データサイエンス概説演習及び、所定の単位を超えて修得したリテラシーコア・課題解決実践科目、領域学修科目から28単位 合計126単位以上 (履修科目登録の上限は、1 学期の合計で24単位とする)									1 学年の学期区分				4ターム				
																	1 学期の授業期間

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(創生学部創生学修課程) 【基礎学部】																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外(助手を除く)の教員		
【DX共創コース】 ○導入・転換教育科目 14単位 (スタディスキルズ 2単位、アソシエーションゼミⅠ・Ⅱ 各2単位、 課題解決リテラシー 2単位、DXスタディーズ 6単位) ○基礎科目 8単位 ・英語 2単位 ・初修外国語 2単位 ・デジタルスキルリテラシー 2単位 ・データサイエンス概説 2単位 ○リテラシーコア・課題解決実践科目 28単位 ・スキル習得中心の科目 4単位 (データサイエンス実践A～Cから4単位) ・課題解決学習(PBL)中心の科目 16単位 (アソシエーションゼミⅢ・Ⅳ 各2単位、プロジェクトゼミⅠ・Ⅱ 各2 単位、ソリューションラボⅠ・Ⅱ 各4単位) ・リテラシー・スキル涵養科目 8単位 (データ活用実践、IoT&データ計測基礎、AⅠ・統計科学実践Ⅰ、 AⅠ・統計科学実践Ⅱ 各2単位) ○学修成果総括科目 2単位 (DX共創総括 2単位) ○領域学修科目 46単位 ・領域基礎科目から26単位 ・領域科目から20単位 ○自由科目 28単位 ・全学共通科目、データサイエンス概説演習及び、所定の単位を超えて修得 したリテラシーコア・課題解決実践科目、領域学修科目から28単位 合計126単位以上 (履修科目登録の上限は、1学期の合計で24単位とする)							1 時限の授業の標準時間						90 分				

教 育 課 程 等 の 概 要																
(大学院現代社会文化研究科博士前期課程 現代文化専攻) 【既設研究科】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員以外 の教員	
課程 共通 科目	研究入門	1前		2			○			9	3					標準外 標準外 オムニバス オムニバス
	課題研究Ⅰ	1前		2				○		24	32					
	課題研究Ⅱ	1後		2				○		24	32					
	課題研究Ⅲ	2前		2				○		24	32					
	インターンシップ	1・2通			2				○	2						
	教職実践学校インターンシップ	1・2通			2					2						
	東アジア社会研究基礎	1・2前			2		○		1	2						
	東アジア文化研究基礎	1・2後			2		○		2	3						
	小計（8科目）	—		8	8	0	—			24	32	0	0	0	0	—
専攻 必修	現代文化総合演習	2通		2				○		1	1					
	小計（1科目）	—		2	0	0	—			1	1	0	0	0	0	—
情報 社会 文化 分野	メディア文化コース															
	映像文化Ⅰ 特論	1・2前			2		○			1						
	映像文化Ⅰ 演習	1・2後			2			○		1						
	映像文化Ⅱ 特論	1・2前			2		○			1						
	映像文化Ⅱ 演習	1・2後			2			○		1						
	表象文化特論	1・2前			2		○			1						
	表象文化演習	1・2後			2			○		1						
	テキスト文化特論	1・2前			2		○				1					
	テキスト文化演習	1・2後			2			○			1					
	大衆文化特論	1・2前			2		○				1					
	大衆文化演習	1・2後			2			○			1					
	身体表現特論	1・2前			2		○			1						
	身体表現演習	1・2後			2			○		1						
	文化空間論特論	1・2前			2		○			1						
	文化空間論演習	1・2後			2			○		1						
	現代美術文化特論	1・2前			2		○			1						
	現代美術文化演習	1・2後			2			○		1						
	地域美術文化特論	1・2前			2		○			1						
	地域美術文化演習	1・2後			2			○		1						
	機能造形特論	1・2前			2		○			1						
	機能造形演習	1・2後			2			○		1						
	日本画表現特論	1・2前			2		○				1					
	日本画表現演習	1・2後			2			○			1					
	西洋音楽文化特論	1・2前			2		○			1						
	西洋音楽文化演習	1・2後			2			○		1						
	音楽創作論特論	1・2前			2			○		1						
	音楽創作論演習	1・2後			2		○			1						
	音楽表現論特論	1・2前			2			○		1						
	音楽表現論演習	1・2後			2		○			1						
	声楽演奏論特論	1・2前			2			○			1					
	声楽演奏論演習	1・2後			2				○		1					
	演奏表現論特論	1・2前			2		○		○		1					
	演奏表現論演習	1・2後			2			○			1					
	音楽教育学特論	1・2前			2		○		○		1					
	音楽教育学演習	1・2後			2			○			1					
	小計（34科目）	—		0	68	0	—			22	12	0	0	0	0	—

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(大学院現代社会文化研究科博士前期課程 現代文化専攻) 【既設研究科】																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年度	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任 教員 (助手を除く) 以外の 教員	
情報 社会 文化 分野	情報 社会 文化 コース	情報システム論特論	1・2前			2			○			1					
		情報システム論演習	1・2後			2				○		1					
		メディア論特論	1・2前			2			○				1				
		メディア論演習	1・2後			2				○			1				
		理論社会学Ⅰ特論	1・2前			2			○			1					
		理論社会学Ⅰ演習	1・2後			2				○		1					
		理論社会学Ⅱ特論	1・2前			2			○				1				
		理論社会学Ⅱ演習	1・2後			2				○			1				
		ジェンダー論特論	1・2前			2			○				1				
		ジェンダー論演習	1・2後			2				○			1				
		社会ネットワーク論特論	1・2前			2			○			1					
		社会ネットワーク論演習	1・2後			2				○		1					
		保健医療社会学特論	1・2前			2			○				1				
		保健医療社会学演習	1・2後			2				○			1				
		文化人類学特論	1・2前			2			○				1				
		文化人類学演習	1・2後			2				○			1				
		科学技術と社会特論	1・2前			2			○			1					
		科学技術と社会演習	1・2後			2				○		1					
				小計 (18科目)	—		0	36	0	—			8	10	0	0	0
人間 形成 科学 分野	思想・ 心理 科学 コース	宗教思想特論	1・2前			2			○			1					
		宗教思想演習	1・2後			2				○		1					
		西洋思想史特論	1・2前			2			○				1				
		西洋思想史演習	1・2後			2				○			1				
		現代倫理学特論	1・2前			2			○			1					
		現代倫理学演習	1・2後			2				○		1					
		比較哲学特論	1・2前			2			○				1				
		比較哲学演習	1・2後			2				○			1				
		認知哲学特論	1・2前			2			○			1					
		認知哲学演習	1・2後			2				○		1					
				小計 (10科目)	—		0	20	0	—			6	4	0	0	0
基礎 心理 領域		認知科学特論	1・2前			2			○				1				
		認知科学演習	1・2後			2				○			1				
		発達心理学特論	1・2前			2			○				1				
		発達心理学演習	1・2後			2				○			1				
		比較心理学特論	1・2前			2			○			1					
		比較心理学演習	1・2後			2				○		1					
		教育心理学特論 (教育分野に 関する理論と支援の展開)	1・2前			2			○			1					
		教育心理学演習	1・2後			2				○		1					
		環境心理学特論	1・2前			2			○			1					
		環境心理学演習	1・2前			2				○		1					
		社会心理学特論	1・2前			2			○			1					
		社会心理学演習	1・2後			2				○		1					
		生涯発達心理学特論	1・2前			2			○			1					
		生涯発達心理学演習	1・2後			2				○		1					
		障害児心理学Ⅰ特論 (福祉分 野に関する理論と支援の展 開)	1・2前			2			○			1					
		障害児心理学Ⅰ演習	1・2後			2				○		1					
		障害児心理学Ⅱ特論	1・2前			2			○				1				
		障害児心理学Ⅱ演習	1・2前			2				○			1				
		障害児言語学特論	1・2後			2			○				1				
		障害児言語学演習	1・2前			2				○			1				
		パーソナリティ心理学特論	1・2後			2			○				1				
		パーソナリティ心理学演習	1・2前			2				○			1				
		応用実験心理学特論	1・2前			2			○				1				
		応用実験心理学演習	1・2後			2				○			1				
		小計 (24科目)	—		0	48	0	—			12	12	0	0	0	0	—

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(大学院現代社会文化研究科博士前期課程 現代文化専攻) 【既設研究科】																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任 教員以外 の教員	
人間 形成 科学 分野	臨床 心理 領域	臨床心理学特論Ⅰ	1・2前			2		○				1					
		臨床心理学特論Ⅱ	1・2後			2			○			1					
		心理療法特論Ⅰ	1・2前			2		○				1					
		心理療法特論Ⅱ	1・2後			2			○			1					
		心理療法特論Ⅲ	1・2前			2		○			1						
		臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	1・2後			2			○		1						
		臨床心理面接特論Ⅱ	1・2前			2		○				1					
		臨床心理基礎実習Ⅰ	1・2後			1			○			1					
		臨床心理基礎実習Ⅱ	1・2前			1		○				1					
		臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）	1・2前			1		○				1					
		臨床心理実習Ⅱ	1・2前			1		○				1					
		臨床心理実習Ⅲ	1・2後			1			○			1					
		臨床心理査定演習Ⅰ	1・2前			2		○				1					
		臨床心理査定演習Ⅱ	1・2後			2			○			1					
		精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1・2前			2		○				1					
		投映法特論	1・2後			2			○			1					
		人格心理学特論	1・2前			2		○			1						
		犯罪心理学特論	1・2前			2		○			1						
		学校臨床心理学特論	1・2後			2		○			1						
		産業心理学特論	1・2前			2		○			1						
		家庭心理学特論	1・2後			2		○			1						
		メンタルヘルス教育特論	1・2前			2		○			1						
		小計（22科目）	—		0	39	0	—			8	14	0	0	0	0	—
人間 形成 環境 科学 コース		コミュニティヘルス特論	1・2前			2		○				1					
		コミュニティヘルス演習	1・2後			2			○			1					
		運動機能学特論	1・2前			2		○			1						
		運動機能学演習	1・2後			2			○		1						
		身体運動文化特論	1・2前			2		○			1						
		身体運動文化演習	1・2後			2			○		1						
		健康教育特論	1・2前			2		○			1						
		健康教育演習	1・2後			2			○		1						
		身体発達学特論	1・2前			2		○			1						
		身体発達学演習	1・2後			2			○		1						
		ヘルスケア論特論	1・2前			2		○				1					
		ヘルスケア論演習	1・2後			2			○			1					
		体育心理学特論	1・2前			2		○			1						
		体育心理学演習	1・2後			2			○		1						
		運動生理学特論	1・2前			2		○				1					
		運動生理学演習	1・2後			2			○			1					
		応用健康科学特論	1・2前			2		○				1					
		応用健康科学演習	1・2後			2			○			1					
		健康運動論特論	1・2前			2		○				1					
		健康運動論演習	1・2後			2			○			1					
		衣環境評価学特論	1・2前			2		○				1					
		衣環境評価学演習	1・2後			2			○			1					
		衣環境材料学特論	1・2前			2		○			1						
		衣環境材料学演習	1・2後			2			○		1						
		食環境科学特論	1・2前			2		○			1						
		食環境科学演習	1・2後			2			○		1						
		住環境学特論	1・2前			2		○			1						
		住環境学演習	1・2後			2			○		1						
		教育哲学特論	1・2前			2		○				1					
		教育哲学演習	1・2後			2			○			1					
		生涯教育学特論	1・2前			2		○			1						
		生涯教育学演習	1・2後			2			○		1						
		教育社会学特論	1・2前			2		○				1					
		教育社会学演習	1・2後			2			○			1					
		教育方法学特論	1・2前			2		○			1						
		教育方法学演習	1・2後			2			○		1						
		現代リテラシー論Ⅰ特論	1・2前			2		○			1						

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(大学院現代社会文化研究科博士前期課程 現代文化専攻) 【既設研究科】																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員以外 の教員	
人間 形成 科学 分野	人間 形成 環境 科学 コース	現代リテラシー論Ⅰ 演習	1・2後		2			○		1							
		現代リテラシー論Ⅱ 特論	1・2前		2			○				1					
		現代リテラシー論Ⅱ 演習	1・2後		2				○			1					
		教育学特論	1・2前		2			○			1						
		教育学演習	1・2後		2				○			1					
		教育史特論	1・2前		2			○			1						
		教育史演習	1・2後		2				○			1					
		社会認識論Ⅰ 特論	1・2前		2			○			1						
		社会認識論Ⅰ 演習	1・2後		2				○			1					
		社会認識論Ⅱ 特論	1・2前		2			○		1							
		社会認識論Ⅱ 演習	1・2後		2				○	1							
		小計 (48科目)		—		0	96	0	—			24	22	2	0	0	0
合計 (165科目)			—		10	315	0	—			24	32	2	0	0	0	—
学位又は称号		修士 (文学)、修士 (学術)			学位又は学科の分野					文学関係							
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等							
(修了要件) 2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。 (履修方法) 履修単位は、30単位以上修得する。 ①研究入門 2単位 ②課題研究 6単位 ③専攻必修科目 2単位 ④専攻するコース及び領域に関する科目 12単位以上 ⑤他コース及び領域に関する科目 8単位以上										1学期の学期区分					2期		
										1学期の授業期間					15週		
										1時限の授業の標準時間					90分		

教 育 課 程 等 の 概 要

(大学院現代社会文化研究科博士前期課程 社会文化専攻) 【既設研究科】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任 教員 (助手を除く) 以外の 教員	
課程 共通 科目	研究入門	1前		2			○			9	3					
	課題研究Ⅰ	1前		2				○		22	30					
	課題研究Ⅱ	1後		2				○		22	30					
	課題研究Ⅲ	2前		2				○		22	30					
	インターンシップ	1・2通			2				○	2						標準外
	教職実践学校インターンシップ	1・2通			2				○	2						標準外
	東アジア社会研究基礎	1・2前			2		○			1	2					オムニバス
	東アジア文化研究基礎	1・2後			2		○			2	3					オムニバス
	小計(8科目)	—		8	8	0		—		22	30	0	0	0	0	—
専攻 必修	社会文化総合演習	2通		2				○		24	26					
	小計(1科目)	—		2	2	0		—		24	26	0	0	0	0	—
環 東 ア ジ ア 社 会 文 化 分 野	日本言語文化Ⅰ特論	1・2前			2		○				1					
	日本言語文化Ⅰ演習	1・2後			2			○			1					
	日本言語文化Ⅱ特論	1・2前			2		○				1					
	日本言語文化Ⅱ演習	1・2後			2			○			1					
	日本古代言語文化Ⅰ特論	1・2前			2		○			1						
	日本古代言語文化Ⅰ演習	1・2後			2			○		1						
	日本古代言語文化Ⅱ特論	1・2前			2		○			1						
	日本古代言語文化Ⅱ演習	1・2後			2			○		1						
	日本古典文芸文化Ⅰ特論	1・2前			2		○				1					
	日本古典文芸文化Ⅰ演習	1・2後			2			○			1					
	日本古典文芸文化Ⅱ特論	1・2前			2		○				1					
	日本古典文芸文化Ⅱ演習	1・2後			2			○			1					
	日本古典文芸文化Ⅲ特論	1・2前			2		○					1				
	日本古典文芸文化Ⅲ演習	1・2後			2			○				1				
	中国文芸文化Ⅰ特論	1・2前			2		○				1					
	中国文芸文化Ⅰ演習	1・2後			2			○			1					
	中国文芸文化Ⅱ特論	1・2前			2		○				1					
	中国文芸文化Ⅱ演習	1・2後			2			○			1					
	日本書道文化Ⅰ特論	1・2前			2		○			1						
	日本書道文化Ⅰ演習	1・2後			2			○		1						
	日本書道文化Ⅱ特論	1・2前			2		○			1						
	日本書道文化Ⅱ演習	1・2後			2			○		1						
	日本社会形成論Ⅰ特論	1・2前			2		○				1					
	日本社会形成論Ⅰ演習	1・2後			2			○			1					
	日本社会形成論Ⅱ特論	1・2前			2		○			1						
	日本社会形成論Ⅱ演習	1・2後			2			○		1						
	日本社会形成論Ⅲ特論	1・2前			2		○					1				
	日本社会形成論Ⅲ演習	1・2後			2			○				1				
	環日本海社会形成論特論	1・2前			2		○			1						
	環日本海社会形成論演習	1・2後			2			○		1						
	文化財学特論	1・2前			2		○			1						
	文化財学演習	1・2後			2			○		1						
	形態資料学特論	1・2前			2		○				1					
	形態資料学演習	1・2後			2			○			1					
	比較民俗学特論	1・2前			2		○				1					
	比較民俗学演習	1・2後			2			○			1					
	伝統芸能論特論	1・2前			2		○				1					
	伝統芸能論演習	1・2後			2			○			1					
	地理空間学特論	1・2前			2		○			1						
	地理空間学演習	1・2後			2			○		1						
	人文地理学特論	1・2前			2		○				1					
	人文地理学演習	1・2後			2			○			1					
	小計(42科目)	—		0	84	0		—		16	22	4	0	0	0	—

教 育 課 程 等 の 概 要

(大学院現代社会文化研究科博士前期課程 社会文化専攻) 【既設研究科】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任 教員 (助手を除く) 以外の 教員	
環 東 ア ジ ア 社 会 文 化 分 野	日 本 語 教 育 領 域	日本語教育Ⅰ	1・2前		2		○				1					
		日本語教育Ⅱ	1・2後		2			○			1					
		日本語教育Ⅲ	1・2前		2		○				1					
		日本語教育Ⅳ	1・2後		2			○			1					
		日本語教育Ⅴ	1・2前		2		○				1					
		日本語教育史	1・2後		2			○			1					
		日本語教育実習	1・2前		2		○				1					
		日本語教育実践研究	1・2後		2			○			1					
	小計(8科目)		—	0	16	0	—			0	8	0	0	0	0	—
	東 ア ジ ア 社 会 文 化 コ ー ス	中国言語文化Ⅰ特論	1・2前		2		○				1					
		中国言語文化Ⅰ演習	1・2後		2			○			1					
		中国言語文化Ⅱ特論	1・2前		2		○				1					
		中国言語文化Ⅱ演習	1・2後		2			○			1					
		中国古典文化特論	1・2前		2		○				1					
		中国古典文化演習	1・2後		2			○			1					
		中国文芸文化Ⅰ特論	1・2前		2		○				1					
		中国文芸文化Ⅰ演習	1・2後		2			○			1					
		中国文芸文化Ⅱ特論	1・2前		2		○				1					
		中国文芸文化Ⅱ演習	1・2後		2			○			1					
		中国文芸文化Ⅲ特論	1・2前		2		○				1					
		中国文芸文化Ⅲ演習	1・2後		2			○			1					
		中国書道文化特論	1・2前		2		○			1						
		中国書道文化演習	1・2後		2			○		1						
		朝鮮文芸文化特論	1・2前		2		○				1					
		朝鮮文芸文化演習	1・2後		2			○			1					
		東アジア歴史文化特論	1・2前		2		○			1						
		東アジア歴史文化演習	1・2後		2			○		1						
		朝鮮歴史文化特論	1・2前		2		○			1						
		朝鮮歴史文化演習	1・2後		2			○		1						
		比較考古学特論	1・2前		2		○			1						
		比較考古学演習	1・2後		2			○		1						
		環境地理学特論	1・2前		2		○			1						
		環境地理学演習	1・2後		2			○		1						
		東アジア社会文化	1・2前		2		○				1					
		東アジア言語文化	1・2後		2			○			1					
		東アジア比較文化	1・2前		2		○				1					
		環日本海歴史文化特論	1・2後		2			○			1					
		環日本海歴史文化演習	1・2前		2		○				1					
		International Relations of East Asian Regional Integration	1・2前		2		○				1					
		Language Policy in Japan	1・2後		2			○			1					
	小計(31科目)		—	0	62	0	—			10	21	0	0	0	0	—
欧 米 社 会 文 化 部 分 野	欧 米 社 会 文 化 コ ー ス	英米言語文化Ⅰ特論	1・2前		2		○				1					
		英米言語文化Ⅰ演習	1・2後		2			○			1					
		英米言語文化Ⅱ特論	1・2前		2		○				1					
		英米言語文化Ⅱ演習	1・2後		2			○			1					
		英米言語文化Ⅲ特論	1・2前		2		○			1						
		英米言語文化Ⅲ演習	1・2後		2			○		1						
		英米言語文化Ⅳ特論	1・2前		2			○			1					
		英米言語文化Ⅳ演習	1・2後		2			○			1					
		英米言語文化Ⅴ特論	1・2前		2			○		1						
		英米言語文化Ⅴ演習	1・2後		2			○		1						
		英米古典文芸文化特論	1・2前		2		○			1						
		英米古典文芸文化演習	1・2後		2			○		1						
		英米文芸文化Ⅰ特論	1・2前		2		○			1						
		英米文芸文化Ⅰ演習	1・2後		2			○		1						
		英米文芸文化Ⅱ特論	1・2前		2		○			1						
		英米文芸文化Ⅱ演習	1・2後		2			○		1						

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(大学院現代社会文化研究科博士前期課程 社会文化専攻) 【既設研究科】																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任 教員以外 の教員 (助手を除く)		
欧米社会文化分野	英米文芸文化Ⅲ特論	1・2前			2		○				1						
	英米文芸文化Ⅲ演習	1・2後			2			○			1						
	英米文芸文化Ⅳ特論	1・2前			2		○				1						
	英米文芸文化Ⅳ演習	1・2後			2			○			1						
	英米文芸文化Ⅴ特論	1・2前			2		○				1						
	英米文芸文化Ⅴ演習	1・2後			2			○			1						
	ドイツ言語文化特論	1・2前			2		○				1						
	ドイツ言語文化演習	1・2後			2			○			1						
	ドイツ文芸文化特論	1・2前			2		○				1						
	ドイツ文芸文化演習	1・2後			2			○			1						
	比較言語特論	1・2前			2		○			1							
	比較言語演習	1・2後			2			○		1							
	フランス言語文化特論	1・2前			2		○			1							
	フランス言語文化演習	1・2後			2			○		1							
	フランス思想史特論	1・2前			2		○			1							
	フランス思想史演習	1・2後			2			○		1							
	ロシア文芸文化特論	1・2前			2		○			1							
	ロシア文芸文化演習	1・2後			2			○		1							
	英米歴史文化特論	1・2前			2		○				1						
	英米歴史文化演習	1・2後			2			○			1						
	ヨーロッパ歴史文化Ⅰ特論	1・2前			2		○				1						
	ヨーロッパ歴史文化Ⅰ演習	1・2後			2			○			1						
	ヨーロッパ歴史文化Ⅱ特論	1・2前			2		○			1							
	ヨーロッパ歴史文化Ⅱ演習	1・2後			2			○		1							
	環地中海歴史文化特論	1・2前			2		○			1							
	環地中海歴史文化演習	1・2後			2			○		1							
	西洋美術史特論	1・2前			2		○			1							
	西洋美術史演習	1・2後			2			○		1							
	自然地理学特論	1・2前			2		○			1							
	自然地理学演習	1・2後			2			○		1							
小計 (30科目)		—		0	92	0	—			26	20	0	0	0	0	—	
合計 (120科目)		—		10	264	0	—			24	26	4	0	0	0	—	
学位又は称号		修士 (文学)、修士 (学術)		学位又は学科の分野					文学関係								
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等								
(修了要件) 2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。 (履修方法) 履修単位は、30単位以上修得する。 ①研究入門 2単位 ②課題研究 6単位 ③専攻必修科目 2単位 ④専攻するコース及び領域に関する科目 12単位以上 ⑤他コース及び領域に関する科目 8単位以上									1学期の学期区分				2期				
									1学期の授業期間				15週				
									1時限の授業の標準時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要																
(大学院現代社会文化研究科博士前期課程 法政社会専攻) 【既設研究科】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任 教員 以外 の 教員 (助手を除く)	
課程 共通 科目	研究入門	1前		2			○			9	3					標準外 標準外 オムニバス オムニバス
	課題研究Ⅰ	1前		2				○		20	12					
	課題研究Ⅱ	1後		2				○		20	12					
	課題研究Ⅲ	2前		2				○		20	12					
	インターンシップ	1・2通			2				○	2						
	教職実践学校インターンシップ	1・2通			2				○	2						
	東アジア社会研究基礎	1・2前			2		○			1	2					
	東アジア文化研究基礎	1・2後			2		○			2	3					
	小計（8科目）	—		8	8	0	—			20	12	0	0	0	0	—
専攻 必修	法政社会総合演習	2通		2				○		6	9	3				
	小計（1科目）	—		2	0	0	—			6	9	3	0	0	0	—
法政社会分野	憲法Ⅰ特論	1・2前			2		○				1					隔年 隔年
	憲法Ⅰ演習	1・2後			2			○			1					
	憲法Ⅱ特論	1・2前			2		○			1						
	憲法Ⅱ演習	1・2後			2			○		1						
	憲法Ⅲ特論	1・2前			2		○			1						
	憲法Ⅲ演習	1・2後			2			○		1						
	行政法Ⅰ特論	1・2前			2		○				1					
	行政法Ⅰ演習	1・2後			2			○			1					
	行政法Ⅱ特論	1・2前			2		○			1						
	行政法Ⅱ演習	1・2後			2			○		1						
	法社会学Ⅰ特論	1・2前			2		○			1						
	法社会学Ⅰ演習	1・2後			2			○		1						
	法社会学Ⅱ特論	1・2前			2		○				1					
	法社会学Ⅱ演習	1・2後			2			○			1					
	西洋政治史特論	1・2前			2		○			1						
	西洋政治史演習	1・2後			2			○		1						
	政治学特論	1・2前			2		○			1						
	政治学演習	1・2後			2			○		1						
	政治学Ⅱ特論	1・2前			2		○				1					
	政治学Ⅱ演習	1・2後			2			○			1					
	国際政治史特論	1・2前			2		○			1						
	国際政治史演習	1・2後			2			○		1						
	政治思想特論	1・2前			2		○			1						
	政治思想演習	1・2後			2			○		1						
	国際関係論特論	1・2前			2		○				1					
	国際関係論演習	1・2後			2			○			1					
	中国政治特論	1・2前			2		○			1						
	中国政治演習	1・2後			2			○		1						
	政治学特論	1・2前			2		○			1						
	政治学演習	1・2後			2			○		1						
	政治学原論特論	1・2前			2		○			1						
	政治学原論演習	1・2後			2			○		1						
	中国政治特論	1・2前			2		○			1						
	中国政治演習	1・2後			2			○		1						
	現代中国政治特論	1・2前			2		○				1					
	現代中国政治演習	1・2後			2			○			1					
行政学Ⅰ特論	1・2前			2		○			1							
行政学Ⅰ演習	1・2後			2			○		1							
行政学Ⅱ特論	1・2前			2		○			1							
行政学Ⅱ演習	1・2後			2			○		1							
国際人権法特論	1・2前			2		○			1							

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(大学院現代社会文化研究科博士前期課程 法政社会専攻) 【既設研究科】																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任 教員 (助手を除く) 以外の 教員	
法政社会分野	行政ネットワークコース	国際人権法演習	1・2後			2			○		1						
		経済法特論	1・2前			2		○			1						
		経済法演習	1・2後			2			○		1						
		租税法特論	1・2前			2		○			1						
		租税法演習	1・2後			2			○		1						
		情報論特論	1・2前			2		○			1						
		情報論演習	1・2後			2			○		1						
		社会保障法特論	1・2前			2		○			1						
		社会保障法演習	1・2後			2			○		1						
		知的財産法特論	1・2前			2		○				1					
		知的財産法演習	1・2後			2			○			1					
		教育法・教育政策特論	1・2前			2		○			1						
		教育法・教育政策演習	1・2後			2			○		1						
		小計 (54科目)	—		0	108	0	—			40	14	0	0	0	0	—
法政社会分野	法制ネットワークコース	民法Ⅰ特論	1・2前			2		○					1				
		民法Ⅰ演習	1・2後			2			○				1				
		民法Ⅱ特論	1・2前			2		○			1						
		民法Ⅱ演習	1・2後			2			○		1						
		民法Ⅲ特論	1・2前			2		○			1						
		民法Ⅲ演習	1・2後			2			○		1						
		民法Ⅳ特論	1・2前			2		○			1						
		民法Ⅳ演習	1・2後			2			○		1						
		民法Ⅴ特論	1・2前			2		○			1						
		民法Ⅴ演習	1・2後			2			○		1						
		刑法Ⅰ特論	1・2前			2		○				1					
		刑法Ⅰ演習	1・2後			2			○			1					
		刑法Ⅱ特論	1・2前			2		○			1						
		刑法Ⅱ演習	1・2後			2			○		1						
		刑法Ⅲ特論	1・2前			2		○				1					
		刑法Ⅲ演習	1・2後			2			○			1					
		刑事訴訟法Ⅰ特論	1・2前			2		○			1						
		刑事訴訟法Ⅰ演習	1・2後			2			○		1						
		刑事訴訟法Ⅱ特論	1・2前			2		○				1					
		刑事訴訟法Ⅱ演習	1・2後			2			○			1					
		労働法特論	1・2前			2		○				1					
		労働法演習	1・2後			2			○			1					
		商法Ⅰ特論	1・2前			2		○				1					
		商法Ⅰ演習	1・2後			2			○			1					
		商法Ⅱ特論	1・2前			2		○			1						
		商法Ⅱ演習	1・2後			2			○		1						
		民事訴訟法特論	1・2前			2		○			1						
		民事訴訟法演習	1・2後			2			○		1						
		環境法特論	1・2前			2		○				1					
		環境法演習	1・2後			2			○			1					
		企業法特論	1・2前			2		○			1						
		企業法演習	1・2後			2			○		1						
		倒産法特論	1・2前			2		○				1					
		倒産法演習	1・2後			2			○			1					
		金融取引法特論	1・2前			2		○			1						
	金融取引法演習	1・2後			2			○		1							
	小計 (36科目)	—		0	72	0	—			20	14	2	0	0	0	—	

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(大学院現代社会文化研究科博士前期課程 法政社会専攻) 【既設研究科】																		
科目 区分		授業科目の名称	配当年度	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任 教員以外 の教員		
国際 社会 分野	国際 社会 コース	Japanese Family Law and Society International Law	1・2後			2		○					1					隔年開講
		Introduction to Japanese Politics	1・2後			2		○			1							隔年開講
		Politics in Contemporary Japan	1・2前			2		○			1							隔年開講
		Basic Theory of Income Taxation	1・2前			2		○			1							隔年開講
		Advanced Studies on Chinese Politics and Diplomacy	1・2前			2		○				1						隔年開講
		Advanced Studies on Asia-Pacific International Relations	1・2前			2		○				1						隔年開講
		Introduction to Japanese Law I	1・2前			2		○				2						隔年開講 オムニバス
		Introduction to Japanese Law II	1・2前			2		○				2						隔年開講 オムニバス
		Politiocal Economy	1・2前			2		○			1							
		Industrial Organization	1・2後			2		○			1							
		Japan's International Relations	1・2後			2		○			1							
		International Microeconomics	1・2後			2		○			1							隔年開講
小計 (12科目)		—			0	24	0	—	—	7	7	0	0	0	0	—		
合計 (111科目)			—		10	212	0	—	—	20	12	5	0	0	0	—		
学位又は称号		修士 (法学)、修士 (行政学)、修士 (学術)			学位又は学科の分野						法学関係							
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等								
(修了要件) 2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。 (履修方法) 履修単位は、30単位以上修得する。 ①研究入門 2単位 ②課題研究 6単位 ③専攻必修科目 2単位 ④専攻するコース及び領域に関する科目 12単位以上 ⑤他コース及び領域に関する科目 8単位以上										1学期の学期区分						2期		
										1学期の授業期間						15週		
										1時限の授業の標準時間						90分		

教 育 課 程 等 の 概 要

(大学院現代社会文化研究科博士前期課程 経済経営専攻) 【既設研究科】

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任 教員 以外 の 教員 (助手を除く)	
課程 共通 科目	研究入門	1前		2			○			9	3					標準外 標準外 オムニバス オムニバス
	課題研究Ⅰ	1前		2				○		10	20					
	課題研究Ⅱ	1後		2				○		10	20					
	課題研究Ⅲ	2前		2				○		10	20					
	インターンシップ	1・2通			2				○	2						
	教職実践学校インターンシップ	1・2通			2				○	2						
	東アジア社会研究基礎	1・2前			2		○			1	2					
	東アジア文化研究基礎	1・2後			2		○			2	3					
	小計 (8科目)	—		8	8	0		—		10	20	0	0	0	0	—
専攻 必修	経済経営総合演習	2通		2				○		14	24	3				
	小計 (1科目)	—		2	0	0		—		14	24	3	0	0	0	—
経済 社会 分野	理論・計量 経済 コース	1・2前			2		○			1						
	ミクロ経済学特論	1・2後			2			○		1						
	ミクロ経済学演習	1・2前			2		○			1						
	組織の経済学特論	1・2後			2			○		1						
	組織の経済学演習	1・2前			2		○				1					
	計量経済分析特論	1・2後			2			○			1					
	計量経済分析演習	1・2前			2		○					1				
	金融論特論	1・2後			2			○			1					
	金融論演習	1・2前			2		○			1						
	市場と組織の理論特論	1・2後			2			○				1				
	市場と組織の理論演習	1・2前			2		○				1					
	環境経済学特論	1・2後			2			○		1						
	環境経済学演習	1・2前			2		○			1						
	国際経済学特論	1・2後			2			○			1					
	国際経済学演習	1・2前			2		○				1					
	労働経済学特論	1・2後			2			○			1					
	労働経済学演習	1・2前			2		○				1					
	ゲーム理論特論	1・2後			2			○			1					
	ゲーム理論演習	1・2前			2		○				1					
	マクロ経済学特論	1・2後			2			○			1					
	マクロ経済学演習	1・2前			2		○				1					
	国際マクロ経済学特論	1・2後			2			○			1					
	国際マクロ経済学演習	1・2前			2		○				1					
	経済統計学	1・2後			2			○			1					
	小計 (23科目)	—		0	46	0		—		8	15	0	0	0	0	—
グ ロー バ ル 社 会 経 済 ネ ッ ト ワ ー ク コ ー ス	経済情報分析特論	1・2前			2		○			1						
	経済情報分析演習	1・2後			2			○		1						
	財政学特論	1・2前			2		○				1					
	財政学演習	1・2後			2			○				1				
	世界経済史特論	1・2前			2		○				1					
	世界経済史演習	1・2後			2			○				1				
	比較経済思想史特論	1・2前			2		○			1						
	比較経済思想史演習	1・2後			2			○		1						
	アメリカ経済特論	1・2前			2		○				1					
	アメリカ経済演習	1・2後			2			○				1				
	ロシア東欧経済特論	1・2前			2		○				1					
	ロシア東欧経済演習	1・2後			2			○				1				
	E U 経済特論	1・2前			2		○				1					
	E U 経済演習	1・2後			2			○				1				
	中国経済特論	1・2前			2		○			1						
	中国経済演習	1・2後			2			○		1						
	開発途上国経済学特論	1・2前			2		○			1						
	開発途上国経済学演習	1・2後			2			○		1						
	政治経済政策特論	1・2前			2		○			1						
	政治経済政策演習	1・2後			2			○		1						
	小計 (20科目)	—		0	40	0		—		10	10	0	0	0	0	—

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(大学院現代社会文化研究科博士前期課程 経済経営専攻) 【既設研究科】																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		専任 教員以外 の教員 (助手を除く)
経営 会計 分野	マネ ジ メ ン ト コ ー ス	公共経済学特論	1・2前			2		○				1					
		公共経済学演習	1・2後			2			○			1					
		公共選択論特論	1・2前			2		○				1					
		公共選択論演習	1・2後			2			○			1					
		NPO論特論	1・2前			2		○			1						
		NPO論演習	1・2後			2			○		1						
		中小企業論特論	1・2前			2		○				1					
		中小企業論演習	1・2後			2			○			1					
		地方財政特論	1・2前			2		○			1						
		地方財政演習	1・2後			2			○		1						
		経営情報特論	1・2前			2		○				1					
		経営情報演習	1・2後			2			○			1					
		経営戦略論特論	1・2前			2		○				1					
		経営戦略論演習	1・2後			2			○			1					
		経営組織特論	1・2前			2		○				1					
		経営組織演習	1・2後			2			○			1					
		組織行動特論	1・2前			2		○				1					
		組織行動演習	1・2後			2			○			1					
		医療経営特論	1・2前			2		○				1					
		医療経営演習	1・2後			2			○			1					
		マーケティング特論	1・2前			2		○			1						
		マーケティング演習	1・2後			2			○		1						
		技術経営特論	1・2前			2		○				1					
		技術経営演習	1・2後			2			○			1					
		小計 (24科目)		—			0	48	0	—			6	18	0	0	0
アカ ウ ン テ イ ン グ コ ー ス		財務会計特論	1・2前			2		○				1					
		財務会計演習	1・2後			2			○			1					
		管理会計特論	1・2前			2		○				1					
		管理会計演習	1・2後			2			○			1					
		国際会計特論	1・2前			2		○				1					
		国際会計演習	1・2後			2			○			1					
		経営税務特論	1・2前			2		○			1						
		経営税務演習	1・2後			2			○		1						
		租税理論特論	1・2前			2		○			1						
		租税理論演習	1・2後			2			○		1						
		小計 (10科目)		—			0	20	0				4	6	0	0	0
日本 酒 学 分 野	日本 酒 学 コ ー ス	基礎日本酒学実習	1・2前			2			○			1					
		発展日本酒学実習	1・2後			2			○			1					
		課題発掘・解決セミナーⅠ	1・2前			2			○			1					
		課題発掘・解決セミナーⅡ	1・2後			2			○			1					
		日本酒学概論Ⅰ	1・2前			1		○				1					
		日本酒学概論Ⅱ	1・2後			1		○				1					
		日本酒学概論Ⅲ	1・2前			1		○			1						
		日本酒学概論Ⅳ	1・2後			1		○			1						
		日本酒学概論Ⅴ	1・2前			1		○				1					
		日本酒と経済分析	1・2後			2		○				1					
		日本酒と自治体政策	1・2前			2		○				1					
		酒類行政論	1・2後			2		○				1					
		日本酒アントレプレナーシップ論	1・2前			2		○			1						
		日本酒酒蔵の中小企業論	1・2後			2		○			1						
		酒蔵組織の企業行動論	1・2前			2		○				1					
		日本酒とブランディング	1・2後			2		○				1					
		小計 (16科目)		—			0	27	0	—			4	12	0	0	0
合計 (102科目)		—			10	189	0	—			14	24	3	0	0	0	—

教 育 課 程 等 の 概 要																
(大学院現代社会文化研究科博士前期課程 経済経営専攻)【既設研究科】																
科目 区分	授業科目の名称		配当年度	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手 (助手を除く) 専任教員以外の教員	
学位又は称号		修士（経済学）、修士（経営学）、修士（公共経営学）、修士（学術）		学位又は学科の分野				経済学関係								
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等								
（修了要件） 2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。 （履修方法） 履修単位は、30単位以上修得する。 ①研究入門 2単位 ②課題研究 6単位 ③専攻必修科目 2単位 ④専攻するコース及び領域に関する科目 12単位以上 ⑤他コース及び領域に関する科目 8単位以上								1学期の学期区分				2期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業の標準時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要																
(大学院自然科学研究科博士前期課程 数理工学専攻) 【既設研究科】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	専任 (助手を 除く) 教員	
課程共 通科目	自然科学総論Ⅰ	1・2後			1		○			2	1					オムニバス
	自然科学総論Ⅱ	1・2前			1		○			3	3					オムニバス
	自然科学総論Ⅲ	1・2前			1		○			5	2					オムニバス
	自然科学総論Ⅳ	1・2後			1		○			2			1			オムニバス
	自然科学総論Ⅴ	1・2前			1		○			4	2					オムニバス
	先端科学技術総論 (物理①)	1・2前			1		○								1	標準外
	先端科学技術総論 (物理②)	1・2通			1		○								1	標準外
	先端科学技術総論 (化学①)	1・2前			1		○								1	標準外
	先端科学技術総論 (化学②)	1・2通			1		○								1	標準外
	先端科学技術総論 (数理学①)	1・2前			1		○								1	標準外
	先端科学技術総論 (数理学②)	1・2前			1		○								1	標準外
	先端科学技術総論 (数理学③)	1・2前			1		○								1	標準外
	先端科学技術総論 (数理学④)	1・2前			1		○								1	標準外
	先端科学技術総論 (機能材料科学物性系)	1・2通			1		○								1	標準外
	先端科学技術総論 (機能材料科学開発系)	1・2通			1		○								1	標準外
	先端科学技術総論 (情報工学)	1・2前			1		○								1	標準外
	先端科学技術総論 (電気電子工学)	1・2通			1		○								1	標準外
	先端科学技術総論 (地球科学)	1・2通			1		○								1	標準外
	プロジェクト研究特別概説	1・2前			1		○			5	3					オムニバス
	修士のためのインターンシップ	1・2通			1			○		1						標準外
	企業・研究機関の研修・見学	1・2通			1			○		1						標準外
	薬品安全管理技術	1・2前			2		○			1					2	標準外
	大型機器分析技術	1・2前			2		○			2	3					標準外 オムニバス
	企業における生産・開発Ⅰ	1・2通			1		○								2	標準外 オムニバス
	インターンシップ	1・2通			1				○	1						標準外
	ワーク・ライフ・バランス	1・2前			1		○								3	オムニバス
	データサイエンス概論	1・2前			2		○			2	3	1	2			オムニバス
	修士のためのキャリアマネジメントセミナー	1・2前			2		○			1						
	修士のためのアカデミックライティング	1・2通			2		○			1						標準外
	小計 (29科目)	—	—	0	34	0	—			31	17	1	3	0	20	—
専攻共 通科目	Advances in Physics and Chemistry	1・2通			2		○								2	標準外
	数理工学専攻の最前線	1・2通			2		○								2	標準外
	Physics Today Ⅰ	1・2後			1		○								1	隔年 標準外
	Physics Today Ⅱ	1・2通			1		○								1	隔年 標準外
	Chemistry Today Ⅰ	1・2前			1		○								1	隔年 標準外
	Chemistry Today Ⅱ	1・2通			1		○								1	隔年 標準外
	小計 (6科目)	—	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	8	—
物理 学 コ ー ス 科 目	数理工学専攻特定研究Ⅰ (物理学)	1通			8			○		7	9		6			標準外
	数理工学専攻特定研究ⅡA (物理学)	2前			4			○		7	9		6			標準外
	数理工学専攻特定研究ⅡB (物理学)	2後			4			○		7	9		6			標準外
	数理工学専攻演習Ⅰ (物理学)	1通			4			○		7	9		6			標準外
	数理工学専攻演習Ⅱ (物理学)	2通			4			○		7	9		6			標準外
	固体物性物理学Ⅰ	1・2前			2		○				1					隔年
	固体物性物理学Ⅱ	1・2前			2		○			1						隔年
	固体物性物理学Ⅲ	1・2前			2		○				1		1			隔年 オムニバス
	固体物性物理学Ⅳ	1・2後			2		○				1					隔年
	固体電子論	1・2後			2		○			1						隔年
	統計物理学Ⅰ	1・2前			2		○			1						隔年
	統計物理学Ⅱ	1・2通			2		○				1					隔年 標準外
	多体系物理学	1・2前			2		○				1					隔年
	コラボレーション演習	1・2通			1			○		7	9		6			標準外
	理論素粒子物理学Ⅰ	1・2前			2		○				1					

教 育 課 程 等 の 概 要																
(大学院自然科学研究科博士前期課程 数理工質科学専攻) 【既設研究科】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を除く) 教員以外の教員	
物理学 コース 科目	実験素粒子物理学Ⅰ	1・2後			2		○						1			隔年 標準外
	実験素粒子物理学Ⅱ	1・2後			2		○						1			隔年 標準外
	理論素粒子物理学Ⅱ	1・2後			2		○				1					隔年
	ハドロン物理学Ⅰ	1・2前			2		○			1						隔年
	ハドロン物理学Ⅱ	1・2前			2		○						1			隔年
	原子核物理特論Ⅰ	1・2前			2		○				1					隔年 標準外
	原子核物理特論Ⅱ	1・2通			2		○			1						隔年 標準外
	原子核物理特論Ⅲ	1・2前			2		○			1						隔年
	核物性学概論	1・2前			2		○				1					隔年
	宇宙物理学特論Ⅰ	1・2前			2		○						1			隔年
	宇宙物理学特論Ⅱ	1・2後			2		○				1					隔年
	宇宙物理学特論Ⅲ	1・2前			2		○				1					隔年
	理論素粒子物理学Ⅲ	1・2前			2		○			1						隔年
	医学物理学総論	1・2後			2		○			1	1		1		4	オムニバス
	放射線物理学特論	1・2後			2		○				1		1			隔年 共同
	放射線計測学特論	1・2後			2		○				1		1			隔年 共同
	放射線防護学特論	1・2後			2		○								1	隔年
	放射線関連法規	1・2後			2		○				1				1	隔年 共同
	原子力規制学総論	1・2後			1		○				1				2	オムニバス
	原子力規制キャリア教育	1・2通			1		○								2	標準外 オムニバス
	放射線計測実習	1・2前			1				○		1				2	標準外 共同
	原子力エネルギー特論	1・2後			2		○								1	標準外
	宇宙素粒子物理学概論	1・2前			2		○						1			標準外
	実験核物理学概論	1・2通			2		○								1	標準外
	原子核量子多体論概論	1・2通			2		○								1	標準外
	不安定核物理学概論	1・2通			2		○								1	標準外
	小計 (41科目)	—	—	0	92	0	—	—	—	7	9	0	6	0	16	
化学 コース 科目	数理工質科学特定研究Ⅰ (化学)	1通			8			○		7	6		1			標準外
	数理工質科学特定研究ⅡA (化学)	2前			4			○		7	6		1			標準外
	数理工質科学特定研究ⅡB (化学)	2後			4			○		7	6		1			標準外
	数理工質科学演習Ⅰ (化学)	1通			4			○		7	6		1			標準外
	科学技術英語	1・2前			2		○				1					標準外
	コミュニケーション演習	1・2通			2			○			1					標準外
	凝縮相物性論	1・2前			2		○			1						隔年
	分子動力学概論	1・2後			2		○			1						隔年
	反応化学概論	1・2前			2		○				1					隔年
	化学反応計測学	1・2後			2		○			1						隔年
	核化学特論	1・2前			2		○				1					隔年
	分析化学特論Ⅰ	1・2前			2		○			1						隔年
	有機合成方法論Ⅰ	1・2後			2		○				1					隔年 標準外
	有機合成方法論Ⅱ	1・2後			2		○			1						隔年 標準外
	構造有機化学特論	1・2後			2		○				1					隔年 標準外
	分子生理化学	1・2前			2		○			1						隔年 標準外
	分子細胞化学	1・2前			2		○			1						隔年 標準外
	量子反応速度論	1・2後			2		○				1					隔年
	小計 (18科目)	—	—	0	48	0	—	—	—	7	6	0	1	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(大学院自然科学研究科博士前期課程 数理物質科学専攻)【既設研究科】																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を除く) 教員以外の教員		
数理科学 コース 科目	数理物質科学特定研究Ⅰ (数学)	1通			8					8	5	1	1				
	数理物質科学特定研究Ⅱ (数学)	2通			8					8	5	1	1				
	数理物質科学特定研究Ⅰ (情報)	1通			8					8	5	1	1				
	数理物質科学特定研究Ⅱ (情報)	2通			8					8	5	1	1				
	数理科学セミナーⅠ (数学)	1通			3					8	5	1	1				
	数理科学セミナーⅡ (数学)	2通			3					8	5	1	1				
	数理科学セミナーⅠ (情報)	1通			3					8	5	1	1				
	数理科学セミナーⅡ (情報)	2通			3					8	5	1	1				
	数理科学文献詳読Ⅰ (数学)	1通			3					8	5	1	1				
	数理科学文献詳読Ⅱ (数学)	2通			3					8	5	1	1				
	数理科学文献詳読Ⅰ (情報)	1通			3					8	5	1	1				
	数理科学文献詳読Ⅱ (情報)	2通			3					8	5	1	1				
	数理科学研究発表演習〔中間発表〕 (数学)	1通			1					8	5	1	1				
	数理科学研究発表演習〔中間発表〕 (情報)	1通			1					8	5	1	1				
	数理科学研究発表〔外部発表〕 (数学)	1・2通			2					8	5	1	1				
	数理科学研究発表〔外部発表〕 (情報)	1・2通			2					8	5	1	1				
	関数解析特論	1・2前			2					1							
	複素解析特論	1・2前			2					1							
	関数空間特論	1・2前			2						1						
	偏微分方程式論	1・2後			2							1					
	代数構造特論	1・2前			2					1							
	代数的整数論	1・2前			2					1							
	位相幾何学特論	1・2前			2					1							
	微分幾何学特論	1・2前			2							1					
	代数多様体論	1・2前			2									1			
	応用統計学概論	1・2後			2							1					
	数理計画概論	1・2後			2					1							
	最適化概論	1・2前			2					1							
	可換環論	1・2後			2					1							
	ベイズ統計学概論	1・2後			2							1					
	微分位相幾何学特論	1・2前			2							1					標準外
	小計 (31科目)		—	—	0	92	0	—			8	5	1	1	0	0	—
合計 (125科目)		—	—	0	274	0	—			31	17	1	3	0	36	—	
学位又は称号		修士 (理学)、修士 (学術)			学位又は学科の分野				理学関係								
卒 業 ・ 修 了 要 件 及 び 履 修 方 法									授業期間等								
(修了要件) 2年以上在学し、38単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。 (履修方法) 履修単位は、38単位以上修得する。 <物理学コース, 化学コース> ①課程共通科目 (⑤を除く) ②専攻共通科目 ③自コースの科目 ①～③より、コース指定科目を含む24単位以上 ④同専攻他コースの科目 ⑤課程共通科目「自然科学総論Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ, Ⅴ」から 1単位以上 ⑥他専攻の科目 2単位以上 <数理科学コース> ①課程共通科目 (④を除く) ②専攻共通科目 ③自コースの科目 ①～③より、コース指定科目を含む35単位以上 ④課程共通科目「自然科学総論Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ, Ⅴ」から 1単位以上 ⑤他専攻の科目 2単位以上									1 学年の学期区分				2期				
									1 学期の授業期間				15週				
									1 時限の授業の標準時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要																
(大学院自然科学研究科博士前期課程 材料生産システム専攻) 【既設研究科】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員以外 の教員	
課程 共通 科目	自然科学総論Ⅰ	1・2後			1		○			2	1					オムニバス
	自然科学総論Ⅱ	1・2前			1		○			3	3					オムニバス
	自然科学総論Ⅲ	1・2前			1		○			5	2					オムニバス
	自然科学総論Ⅳ	1・2後			1		○			2		1				オムニバス
	自然科学総論Ⅴ	1・2前			1		○			4	2					オムニバス
	先端科学技術総論（物理①）	1・2前			1		○								1	標準外
	先端科学技術総論（物理②）	1・2通			1		○								1	標準外
	先端科学技術総論（化学①）	1・2前			1		○								1	標準外
	先端科学技術総論（化学②）	1・2通			1		○								1	標準外
	先端科学技術総論（数理科学①）	1・2前			1		○								1	標準外
	先端科学技術総論（数理科学②）	1・2前			1		○								1	標準外
	先端科学技術総論（数理科学③）	1・2前			1		○								1	標準外
	先端科学技術総論（数理科学④）	1・2前			1		○								1	標準外
	先端科学技術総論（機能材料科学物性系）	1・2通			1		○								1	標準外
	先端科学技術総論（機能材料科学開発系）	1・2通			1		○								1	標準外
	先端科学技術総論（情報工学）	1・2前			1		○								1	標準外
	先端科学技術総論（電気電子工学）	1・2通			1		○								1	標準外
	先端科学技術総論（地球科学）	1・2通			1		○								1	標準外
	プロジェクト研究特別概説	1・2前			1		○			5	3					オムニバス
	修士のためのインターンシップ	1・2通			1				○	1						標準外
	企業・研究機関の研修・見学	1・2通			1				○	1						標準外
	薬品安全管理技術	1・2前			2			○		1					2	標準外
	大型機器分析技術	1・2前			2			○		2	3					標準外 オムニバス
	企業における生産・開発Ⅰ	1・2通			1			○							2	標準外 オムニバス
	インターンシップ	1・2通			1				○	1						標準外
	ワーク・ライフ・バランス	1・2前			1			○							3	オムニバス
	データサイエンス概論	1・2前			2			○		2	3	1	2			オムニバス
	修士のためのキャリアマネジメントセミナー	1・2前			2			○		1						
	修士のためのアカデミックライティング	1・2通			2			○		1						標準外
	小計（29科目）	—	—	—	0	34	0	—	—	31	17	1	3	0	20	
専攻 共通 科目	材料生産システム特定研究Ⅰ	1通		8				○		15	26		3			標準外
	材料生産システム特定研究Ⅱ	2通		8				○		15	26		3			標準外
	機能材料科学総論Ⅰ	1・2前			1		○			3	2					オムニバス
	機能材料科学総論Ⅱ	1・2後			1		○			1						
	素材生産科学総論	1・2後			2		○								1	
	機械科学総論	1・2後			2		○				1				2	標準外 オムニバス
	機能材料科学セミナーⅠ	1通			3			○		6	8		1			標準外
	機能材料科学セミナーⅡ	2通			3			○		6	8		1			標準外
	素材生産科学セミナーⅠ	1前			2			○		5	9		2			標準外
	素材生産科学セミナーⅡ	2前			2			○		5	9		2			標準外
	機械科学セミナーⅠ	1前			2			○		4	9					標準外
	機械科学セミナーⅡ	2前			2			○		4	9					標準外
	機能材料科学文献詳読Ⅰ	1通			3			○		6	8		1			標準外
	機能材料科学文献詳読Ⅱ	2通			3			○		6	8		1			標準外
	素材生産科学文献詳読Ⅰ	1後			2			○		5	9		2			標準外
	素材生産科学文献詳読Ⅱ	2後			2			○		5	9		2			標準外
	機械科学文献詳読Ⅰ	1後			2			○		4	9					標準外
	機械科学文献詳読Ⅱ	2後			2			○		4	9					標準外
	機能材料科学演習	1後			2			○		6	8		1			標準外
	素材生産科学特別演習	1後			2			○		5	9		2			標準外
	機械科学特別演習	1後			2			○		4	9					標準外
	研究発表演習・発表	1・2通		1				○		15	26		3			標準外
	ソーラー水素エネルギー国際会議コミュニケーション	1・2通			2			○		15	26		3			標準外
	エネルギー関連国際学会コミュニケーション法	1・2通			2			○			1					標準外
	ソーラー水素エネルギー概論	1・2通			2			○		1						標準外 隔年
小計（25科目）	—	—	—	17	46	0	—	—	15	26	0	5	0	3		

教 育 課 程 等 の 概 要																
(大学院自然科学研究科博士前期課程 材料生産システム専攻) 【既設研究科】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を除く) 教員以外の教員	
機能材料科学コース科目	複合材料設計化学	1・2前			2		○			1						隔年
	電子物性論	1・2前			2		○			1						隔年
	金属材料物性論	1・2前			2		○			1						
	磁性材料物性論	1・2前			2		○				1					
	固体電子材料論	1・2前			2		○				1					隔年
	光物性特論	1・2後			2		○			1						
	電子移動反応論	1・2前			2		○			1						標準外
	表面光化学	1・2前			2		○				1					隔年
	生物機能工学	1・2後			2		○				1					隔年
	生物機能材料科学	1・2後			2		○			1						隔年
	機能性材料評価学特論	1・2後			2		○				1					標準外
	ソフトマテリアル特論	1・2前			2		○				1					
	水素制御管理特論	1・2前			2		○			1			1			オムニバス
	水素エネルギーシステムデザイン演習・実習Ⅲ	1・2前			2		○			1			1			標準外
応用無機材料化学	1・2後			2		○				1						
エネルギー変換材料論	1・2前			2		○				1					標準外	
小計 (16科目)		—	—	0	32	0	—			6	8	0	2	0	0	
素材生産科学コース科目	無機材料物性化学	1・2前			2		○			1						標準外 隔年
	精密分子設計化学	1・2前			2		○			1						隔年
	機能性高分子合成化学	1・2後			2		○			1						標準外 隔年
	機能性高分子材料化学	1・2前			2		○			1						標準外 隔年
	精密高分子合成化学	1・2後			2		○				1					標準外 隔年
	表面計測化学	1・2後			2		○				1					隔年
	環境計測化学	1・2後			2		○				1					隔年
	エネルギー化学特論	1・2後			2		○			1						標準外 隔年
	無機物性化学	1・2前			2		○				1					隔年
	乳化分散系化学特論	1・2後			2		○				1					
	拡散操作特論	1・2後			2		○				1					
	資源エネルギー工学	1・2前			2		○			1						
	粉体工学特論	1・2前			2		○				1					標準外
	水素エネルギー製造・輸送論	1・2通			2		○								2	標準外
	水素エネルギーシステムデザイン演習・実習Ⅰ	1・2通			2			○			1					標準外
	エネルギー材料解析化学	1・2後			2		○				1					標準外 隔年
精密反応設計化学	1・2前			2		○				1					隔年	
小計 (17科目)		—	—	0	34	0	—			5	9	0	0	0	2	
機械科学コース科目	先端機器・機械論	1・2前			2		○			1						
	エネルギー変換論	1・2後			2		○			1						
	機械情報可視化論	1・2前			2		○				1					
	振動解析・制御特論	1・2後			2		○			1						
	非線形システム制御論	1・2後			2		○				1					
	機械音響工学論	1・2後			2		○				1					
	生産加工学特論	1・2前			2		○				1					
	マイクロマシン工学特論	1・2前			2		○			1						
	機械材料科学特論	1・2前			2		○			1						
	光エネルギー工学	1・2前			2		○				1					
	集光・集熱技術論	1・2通			2		○									
	水素エネルギーシステムデザイン演習・実習Ⅱ	1・2通			2			○			3		1		1	標準外
	マイクロロボティクス論	1・2後			2		○				1					標準外
	機能性表面特論	1・2後			2		○				1					
	連続体力学特論	1・2前			2		○				1					
	技術英語・プレゼンテーション	1・2前			2			○							1	
宇宙探査ロボティクス特論	1・2後			2		○						1			標準外	
小計 (17科目)		—	—	0	34	0	—			5	9	0	2	0	2	
合計 (104科目)		—	—	17	180	0	—			15	26	1	5	0	27	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(大学院自然科学研究科博士前期課程 材料生産システム専攻) 【既設研究科】																	
科目 区分	授業科目の名称		配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員以外の教員 (助手を除く)	
学位又は称号		修士（工学）、修士（学術）			学位又は学科の分野				工学関係								
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等								
(修了要件) 2年以上在学し、42単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。 (履修方法) 履修単位は、42単位以上修得する。 <機能材料科学コース、素材生産科学コース、機械科学コース> ①課程共通科目（⑤を除く） ②専攻共通科目 ③自コースの科目 ④同専攻他コースの科目 ①～④より、コース指定科目を含む39単位以上 ⑤課程共通科目「自然科学総論Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ」から 1単位以上 ⑥他専攻の科目																	

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(大学院自然科学研究科博士前期課程 電気情報工学専攻) 【既設研究科】																		
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員以外の教員			
課程共通科目	自然科学総論Ⅰ	1・2後			1		○				2	1					オムニバス	
	自然科学総論Ⅱ	1・2前			1		○				3	3					オムニバス	
	自然科学総論Ⅲ	1・2前			1		○				5	2					オムニバス	
	自然科学総論Ⅳ	1・2後			1		○				2			1			オムニバス	
	自然科学総論Ⅴ	1・2前			1		○				4	2					オムニバス	
	先端科学技術総論 (物理①)	1・2前			1		○									1	標準外	
	先端科学技術総論 (物理②)	1・2通			1		○									1	標準外	
	先端科学技術総論 (化学①)	1・2前			1		○									1	標準外	
	先端科学技術総論 (化学②)	1・2通			1		○									1	標準外	
	先端科学技術総論 (数理科学①)	1・2前			1		○									1	標準外	
	先端科学技術総論 (数理科学②)	1・2前			1		○									1	標準外	
	先端科学技術総論 (数理科学③)	1・2前			1		○									1	標準外	
	先端科学技術総論 (数理科学④)	1・2前			1		○									1	標準外	
	先端科学技術総論 (機能材料科学物性系)	1・2通			1		○									1	標準外	
	先端科学技術総論 (機能材料科学開発系)	1・2通			1		○									1	標準外	
	先端科学技術総論 (情報工学)	1・2前			1		○									1	標準外	
	先端科学技術総論 (電気電子工学)	1・2通			1		○									1	標準外	
	先端科学技術総論 (地球科学)	1・2通			1		○									1	標準外	
	プロジェクト研究特別概説	1・2前			1		○				5	3						オムニバス
	修士のためのインターンシップ	1・2通			1				○		1							標準外
	企業・研究機関の研修・見学	1・2通			1				○		1							標準外
	薬品安全管理技術	1・2前			2			○			1						2	標準外
	大型機器分析技術	1・2前			2			○			2	3						標準外 オムニバス
	企業における生産・開発Ⅰ	1・2通			1			○									2	標準外 オムニバス
	インターンシップ	1・2通			1				○		1							標準外
	ワーク・ライフ・バランス	1・2前			1			○									3	オムニバス
	データサイエンス概論	1・2前			2			○			2	3		1	2			オムニバス
	修士のためのキャリアマネジメントセミナー	1・2前				2		○			1							
	修士のためのアカデミックライティング	1・2通				2		○			1							標準外
	小計 (29科目)	—	—	—	0	34	0	—	—	—	31	17	1	3	0	20		
専攻共通科目	電気電子工学特定研究Ⅰ	1通			6			○			7	9					標準外	
	電気電子工学特定研究Ⅱ	2通			6			○			7	9					標準外	
	人間支援科学特定研究Ⅰ	1通			6			○			7	3		2			標準外	
	人間支援科学特定研究Ⅱ	2通			6			○			7	3		2			標準外	
	電気電子工学セミナーⅠ	1通			2			○			7	9					標準外	
	電気電子工学セミナーⅡ	2通			2			○			7	9					標準外	
	人間支援科学セミナーⅠ	1通			2			○			7	3		2			標準外	
	人間支援科学セミナーⅡ	2通			2			○			7	3		2			標準外	
	アドバンステクノロジー	1・2通			2			○				1					標準外	
	電気電子工学文献詳読Ⅰ	1通			2			○			7	9					標準外	
	電気電子工学文献詳読Ⅱ	2通			2			○			7	9					標準外	
	人間支援科学文献詳読Ⅰ	1通			2			○			7	3		2			標準外	
	人間支援科学文献詳読Ⅱ	2通			2			○			7	3		2			標準外	
	電気電子工学研究発表演習 (中間発表)	1通			1			○			7	9					標準外	
	電気電子工学研究発表 (外部発表)	2通			2			○			7	9					標準外	
	人間支援科学研究発表演習 (中間発表)	1通			1			○			7	3		2			標準外	
	人間支援科学研究発表 (外部発表)	2通			2			○			7	3		2			標準外	
	情報社会デザイン科学特定研究・プロジェクトⅠ	1通			4			○			9	13		1	3		標準外	
	情報社会デザイン科学特定研究・プロジェクトⅡ	2通			4			○			9	13		1	3		標準外	
	情報社会デザイン科学研究発表 (外部発表)	1・2通			1			○			9	13		1	3		標準外	
小計 (20科目)	—	—	—	0	57	0	—	—	—	24	25	1	5	0	0			

教 育 課 程 等 の 概 要																
(大学院自然科学研究科博士前期課程 電気情報工学専攻)【既設研究科】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員以外 の教員	
電気電子工学 コース科目	ディジタル無線伝送工学	1・2前			2		○			1						
	画像処理特論	1・2前			2		○			1						
	電子材料物性特論	1・2前			2		○								1	
	電子機器特論	1・2後			2		○				1					
	高電圧大電流工学特論	1・2後			2		○				1					
	応用超伝導工学	1・2後			2		○			1						
	光エレクトロニクス特論	1・2後			2		○				1					
	薄膜工学特論	1・2前			2		○				1					
	有機エレクトロニクス特論	1・2前			2		○								1	
	電子情報通信特論	1・2前			2		○				1					
	デバイス・センサ特論	1・2後			2		○			1						
	光コヒーレンス工学	1・2前			2		○				1					
	電子光デバイス特論	1・2前			2		○			1						
	電子・光機能性材料特論	1・2後			2		○				1					
	電子材料分析評価法特論	1・2後			2		○				1					
小計 (15科目)	—	—		0	30	0	—			5	8	0	0	0	2	
人間支援科学 コース科目	人間支援科学特別講義Ⅰ	1・2前			2		○								1	標準外
	人間支援科学特別講義Ⅱ	1・2前			2		○								2	標準外 オムニバス
	人間支援科学特別講義Ⅲ	1・2前			1		○								1	標準外
	生体情報工学特論	1・2後			2		○			1						
	神経生理工学特論	1・2前			2		○			1						
	支援システム特論	1・2前			2		○			1						
	液体物理学特論	1・2後			2		○					1				
	運動生理学特論	1・2前			2		○				1					
	保健理工学概論	1・2前			2		○			1						標準外
	音声聴覚情報処理特論	1・2前			2		○				1					
	コミュニケーション支援特論	1・2後			2		○			1						
	視覚情報処理特論	1・2後			2		○						1			
	立体造形特論	1・2後			2		○				1					
	デザイン表現特論	1・2前			2		○			1						
	音楽制作特論	1・2後			2		○			1						
	演奏表現特論	1・2後			2		○			1						
	分子生体機能工学特論	1・2後			2		○				1					
小計 (17科目)	—	—		0	33	0	—			7	3	0	2	0	4	
情報社会デザイン 科学コース科目	価値創造プロジェクト	1・2前			2		○			4	5					分担 共同
	英語コミュニケーションA	1・2前			2		○			1	2		1			
	英語コミュニケーションB	1・2後			2		○				1					
	技術・社会システム工学総論	1・2後			1		○				1					
	情報社会デザインプロジェクト	1・2前			2		○			2	4				2	標準外 共同
	ソフトウェア工学概論	1・2前			2		○						1			
	情報社会工学概論	1・2前			2		○			3	3		2			オムニバス
	異分野理解	1・2通			2		○			4	5					標準外 分担
	ネットワーク・セキュリティ特論	1・2前			2		○				1					
	データマネジメント工学	1・2前			2		○				1					
	X-informatics概論	1・2前			2		○			2	5		1			オムニバス
	プロジェクトマネジメント特論	1・2前			2		○			1						
	移動体ネットワーク特論	1・2後			2		○			1						
	電磁波工学特論	1・2後			2		○			1						
	組合せアルゴリズム特論	1・2前			2		○				1					
	計算論：計算可能性の理論	1・2前			2		○			1						
	ソフトウェア構成論特論	1・2通			2		○						1			標準外
	プログラミング方法論	1・2後			2		○				1					
	環境センシング特論	1・2後			2		○			1						
	電磁環境計測特論	1・2前			2		○				1					
	リモートセンシング概論	1・2後			2		○			1						
情報セキュリティ特論	1・2後			2		○			1							

教 育 課 程 等 の 概 要																
(大学院自然科学研究科博士前期課程 電気情報工学専攻)【既設研究科】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員以外(助手を除く)の教員	
情報社会デザイン科学コース科目	人工知能特論	1・2後			2		○			1			1			オムニバス
	ゲノム情報解析概論	1・2後			2		○			1						
	計算知能特論	1・2前			2		○						1			
	応用解析学特論	1・2前			2		○				1					
	応用代数学特論	1・2前			2		○				1					
	情報数理特論	1・2前			2		○			1						
	数理最適化概論	1・2前			2		○				1					
	数値計算特論	1・2前			2		○					1				
	システム工学特論	1・2前			2		○					1				
	技術経営戦略特論	1・2前			2		○								1	
	リスクマネジメント特論	1・2前			2		○					1			1	オムニバス
	生産マネジメント特論	1・2前			2		○								1	標準外
	会計管理特論	1・2前			2		○								1	
	プロジェクトマネジメント演習	1・2後			2		○			1						
	ブランディング特論	1・2後			2		○					1				
	産業技術政策特論	1・2通			2		○			1	1		1		1	標準外 オムニバス
	デザイン思考特論	1・2後			2		○					1				
	ビジネス実務概論	1・2後			2		○			1	1					2
小計 (40科目)		—	—	0	79	0	—			9	13	1	6	0	9	
合計 (121科目)		—	—	0	233	0	—			24	25	1	6	0	35	
学位又は称号		修士 (工学)、修士 (学術)			学位又は学科の分野				工学関係							
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等								
(修了要件) 2年以上在学し、38単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。 (履修方法) 履修単位は、38単位以上修得する。 ＜電気電子工学コース、人間支援科学コース＞ ①課程共通科目 (⑤を除く) ②専攻共通科目 ③自コースの科目 ①～③より、コース指定科目を含む25単位以上 ④同専攻他コースの科目 ⑤課程共通科目「自然科学総論Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ」から 1単位以上 ⑥他専攻の科目 2単位以上 ＜情報社会デザイン科学コース＞ ①課程共通科目 (④を除く) ②専攻共通科目 ③自コースの科目 ①～③より、コース指定科目を含む35単位以上 ④課程共通科目「自然科学総論Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ」から 1単位以上 ⑤他専攻の科目 2単位以上								1学年の学期区分				2期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業の標準時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(大学院自然科学研究科博士前期課程 生命・食料科学専攻) 【既設研究科】																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員以外を除く 教員		
課程共通科目	自然科学総論Ⅰ	1・2後			1		○			2	1					オムニバス	
	自然科学総論Ⅱ	1・2前			1		○			3	3					オムニバス	
	自然科学総論Ⅲ	1・2前			1		○			5	2					オムニバス	
	自然科学総論Ⅳ	1・2後			1		○			2			1			オムニバス	
	自然科学総論Ⅴ	1・2前			1		○			4	2					オムニバス	
	先端科学技術総論（物理①）	1・2前			1		○								1	標準外	
	先端科学技術総論（物理②）	1・2通			1		○								1	標準外	
	先端科学技術総論（化学①）	1・2前			1		○								1	標準外	
	先端科学技術総論（化学②）	1・2通			1		○								1	標準外	
	先端科学技術総論（数理科学①）	1・2前			1		○								1	標準外	
	先端科学技術総論（数理科学②）	1・2前			1		○								1	標準外	
	先端科学技術総論（数理科学③）	1・2前			1		○								1	標準外	
	先端科学技術総論（数理科学④）	1・2前			1		○								1	標準外	
	先端科学技術総論（機能材料科学物性系）	1・2通			1		○								1	標準外	
	先端科学技術総論（機能材料科学開発系）	1・2通			1		○								1	標準外	
	先端科学技術総論（情報工学）	1・2前			1		○								1	標準外	
	先端科学技術総論（電気電子工学）	1・2通			1		○								1	標準外	
	先端科学技術総論（地球科学）	1・2通			1		○								1	標準外	
	プロジェクト研究特別概説	1・2前			1		○			5	3						オムニバス
	修士のためのインターンシップ	1・2通			1				○	1							標準外
	企業・研究機関の研修・見学	1・2通			1				○	1							標準外
	薬品安全管理技術	1・2前			2			○		1						2	標準外
	大型機器分析技術	1・2前			2			○		2	3						標準外 オムニバス
	企業における生産・開発Ⅰ	1・2通			1			○								2	標準外 オムニバス
	インターンシップ	1・2通			1				○	1							標準外
	ワーク・ライフ・バランス	1・2前			1			○								3	オムニバス
	データサイエンス概論	1・2前			2			○		2	3	1	2				オムニバス
	修士のためのキャリアマネジメントセミナー	1・2前			2			○		1							
	修士のためのアカデミックライティング	1・2通			2			○		1							標準外
	小計（29科目）	—	—	—		34			—	31	17	1	3	0	20		—
専攻共通科目	生命・食料科学セミナーAⅠ	1通			2			○		18	14		8			標準外	
	生命・食料科学セミナーAⅡ	2通			2			○		18	14		8			標準外	
	生命・食料科学セミナーBⅠ	1通			2			○		10	13		6			標準外	
	生命・食料科学セミナーBⅡ	2通			2			○		10	13		6			標準外	
	生命・食料科学特定研究AⅠ	1通			4			○		18	14		8			標準外	
	生命・食料科学特定研究AⅡ	2通			4			○		18	14		8			標準外	
	生命・食料科学特定研究BⅠ	1通			4			○		10	13		6			標準外	
	生命・食料科学特定研究BⅡ	2通			4			○		10	13		6			標準外	
	文献詳読Ⅰ	1通			3			○		22	21		10			標準外	
	文献詳読Ⅱ	2通			3			○		22	21		10			標準外	
	研究発表演習（中間発表）	1通			1			○		22	21		10			標準外	
	応用生命・食品科学概論	1・2後			2			○		1	3					標準外 オムニバス	
	生物資源科学概論	1・2通			2			○							2	標準外 オムニバス	
	先端的農業技術論	1・2通			1			○							2	標準外	
	食品加工技術論	1・2後			1			○							1	標準外	
	食の安全・安心論	1・2後			1			○							1	標準外	
	英語論文作成・発表演習	1・2前			1				○						1		
	実践型食づくりプロジェクト（日本酒）	1・2通			2				○	1						標準外	
	実践型食づくりプロジェクト（ライス）	1・2通			2				○	1						標準外	
	実践型食づくりプロジェクト（ミルク）	1・2通			2				○	1						標準外	
	実践型食づくりプロジェクト（バイオテク）	1・2通			2				○	1						標準外	
	実践型食づくりプロジェクト（いもジェンヌ）	1・2通			2				○	1	2					標準外 共同	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(大学院自然科学研究科博士前期課程 生命・食料科学専攻)【既設研究科】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を除く) 教員	
専攻共通科目	企画実践型インターンシップ	1・2通			1				○	1					1	標準外
	食づくり国際インターンシップ	1・2通		1			○	1						標準外		
	地域食品産業論	1・2後		2			○							標準外 隔年		
	グローバル農力(短期)	1・2通		2			○		2	1		1		標準外 共同		
	グローバル農力国際キャリア実習(中期)	1・2通		1				○				1		標準外 共同		
	グローバル農力国際特別研究(中期)	1・2通		2			○					1		標準外 共同		
	グローバル農力国際キャリア実習(長期)	1・2通		2				○				1		標準外 共同		
	グローバル農力国際特別研究(長期)	1・2通		4			○					1		標準外 共同		
	グローバル防災・復興学(短期)	1・2通		2			○		1					標準外		
	グローバル防災・復興国際キャリア実習(中期)	1・2通		1				○	1					標準外		
	グローバル防災・復興国際特別研究(中期)	1・2通		2			○		1					標準外		
	グローバル防災・復興国際キャリア実習(長期)	1・2通		2				○	1					標準外		
	グローバル防災・復興国際特別研究(長期)	1・2通		4			○		1					標準外		
	地球環境科学特論	1・2通		1			○		3	1				2	標準外 オムニバス	
	地球環境フィールド科学演習	1・2通		2			○		3	1					標準外 共同	
	海外フィールド体験実習	1・2通		2				○	3	1					標準外 共同	
	フィールド産業インターンシップ	1・2通		1				○	3	1					標準外 共同	
海外フィールド科学実習A	1・2通	2				○	3	1				標準外 共同				
海外フィールド科学実習B	1・2通		4				○	3	1				標準外 共同			
小計(41科目)	—	—	0	87	0	—			22	21	0	10	0	10	—	
基礎生命科学コース科目	基礎生命科学セミナー	1・2前			1		○								1	標準外
	研究発表	1・2通		1			○		5	7		2				標準外
	免疫細胞生物学	1・2前		2			○		1							標準外
	植物分子遺伝学特論Ⅰ	1・2前		2			○		1							標準外 隔年
	遺伝子工学概論	1・2後		2			○			1						標準外 隔年
	糖鎖生物学	1・2後		2			○		1							標準外
	構造生物学特論	1・2通		2			○			1						標準外 隔年
	植物生理学特論Ⅰ	1・2前		2			○		1							標準外 隔年
	植物生理学特論Ⅱ	1・2後		2			○			1						標準外 隔年
	植物生理学特論Ⅲ	1・2前		2			○			1						標準外
	神経内分泌学	1・2後		2			○		1							標準外
	分子細胞生理学特論	1・2後		2			○			1						標準外 隔年
	先端臨海実習	1・2通		2					1			1				標準外 共同
	バイオイノベーション特論	1・2前		2			○			1					標準外 隔年	
	比較認知生態学	1・2後		2			○			1					標準外	
	動物ゲノム多様性概論	1・2後		2			○					1			標準外 隔年	
	小計(16科目)	—		—	0	30	0	—			5	7	0	2	0	1
応用生命・食品科学コース科目	応用生命・食品科学セミナーⅠ	1・2通			1		○								1	標準外
	応用生命・食品科学セミナーⅡ	1・2前		1			○									標準外
	応用生命・食品科学セミナーⅢ	1・2通		1			○									標準外
	応用生命・食品科学セミナーⅣ	1・2後		1			○									標準外
	応用生命・食品科学演習(学会発表)	1・2通		1				○		12	8		4			標準外
	植物分子生物学	1・2前		2			○		1							標準外
	植物生化学	1・2前		2			○			1						標準外
	植物栄養生理化学	1・2前		2			○		1							標準外
	植物環境応答学特論Ⅰ	1・2後		2			○		1							標準外
	微生物機能学	1・2前		2			○			1						
	微生物分子遺伝学	1・2前		2			○		1							
	微生物天然物化学	1・2前		2			○		1			1				標準外 オムニバス
	動物栄養生理学	1・2通		2			○		1							標準外
	米利用科学論	1・2後		2			○			1					標準外 隔年	
	食品生化学	1・2前		2			○		1							
	食品評価学	1・2後		2			○		1						標準外	
	食品分子機能学	1・2前		2			○			1					標準外	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(大学院自然科学研究科博士前期課程 生命・食料科学専攻)【既設研究科】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を除く)教員	
応用生命・食品科学コース科目	食品品質管理学	1・2後			2		○				1					標準外
	環境土壌学	1・2前			2		○						1			標準外 オムニバス 隔年
	木質成分化学	1・2通			2		○				1					標準外
	食品工学概論	1・2後			2		○			1						標準外 隔年
	醸造学特論Ⅰ	1・2前			2		○			1						標準外 隔年
	植物細胞工学特論	1・2前			2		○			1	1					標準外 隔年
	食品・農業情報工学特論	1・2後			2		○				1					標準外
	環境分子生態学	1・2前			2		○				1					標準外 隔年
	小計 (25科目)	—	—	0	45	0	—			12	8	0	4	0	4	
生物資源科学コース科目	産業スペシャリスト育成特論	1・2後			1					1	2					オムニバス
	農業スペシャリスト指向特別演習	1・2後			1										1	標準外
	研究発表	1・2通			1					5	6		4			標準外
	農業資源開発論	1・2前			2					1						標準外 隔年
	食料流通論	1・2前			2								1			標準外
	植物細胞工学特論	1・2前			2					1	1					標準外 隔年
	植物組織培養学特論	1・2前			2					1	1					標準外
	動物・植物相互関係論	1・2前			2						1					標準外
	動物量の遺伝学	1・2前			2					1						標準外
	動物機能形態論	1・2前			2					1						標準外
	植物病理学特論	1・2前			2						1					標準外 隔年
	植物病原学特論	1・2前			2						1					標準外 隔年
	園芸植物繁殖特論	1・2前			2						1					標準外 隔年
	動物生殖細胞利用論	1・2前			2					1						標準外
	植物エビジェネティクス概論	1・2前			2						1					標準外 隔年
	農作物学特論	1・2後			2					1						標準外 隔年
	作物生理学特論	1・2前			2						1					標準外 隔年
小計 (17科目)	—	—	0	31	0	—			5	6	0	4	0	1		
日本酒学コース科目	課題発掘・解決セミナーⅠ	1・2通			2			○		1	1					標準外 共同
	課題発掘・解決セミナーⅡ	1・2通			2			○		1	1					標準外 共同
	日本酒学概論Ⅰ (自然科学)	1・2前			1		○			4					2	標準外 オムニバス
	日本酒学概論Ⅱ (自然科学)	1・2前			1		○			1					3	標準外 オムニバス
	日本酒学概論Ⅲ (人文社会科学)	1・2前			1		○			1	1					標準外 オムニバス
	日本酒学概論Ⅳ (人文社会科学)	1・2通			1		○			1					1	標準外 オムニバス
	日本酒学概論Ⅴ (医歯学・保健学)	1・2通			1		○								3	標準外 オムニバス
	基礎日本酒学実習	1・2前			2				○	1						1 標準外 共同
	発展日本酒学実習	1・2通			2				○	1						8 標準外 共同
	研究発表 (学会発表)	1・2通			1			○		7	3		1			標準外
小計 (10科目)	—	—	0	14	0	—			7	3	0	1	0	18	—	
合計 (138科目)		—	—	0	241	0	—			22	21	1	10	0	54	—
学位又は称号		修士 (理学)、修士 (農学)、修士 (学術)			学位又は学科の分野				理学関係、農学関係							
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等								
(修了要件) 2年以上在学し、38単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。								1学年の学期区分								2期
(履修方法) 履修単位は、38単位以上修得する。																

教 育 課 程 等 の 概 要	
(大学院自然科学研究科博士前期課程	生命・食料科学専攻) 【既設研究科】

[illegible]

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置							備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	専任（助手を除く） 教員以外の教員		
<基礎生命科学コース，応用生命・食品科学コース，生物資源科学コース>															1 学期の授業期間	15週	
①課程共通科目（⑤を除く）																	
②専攻共通科目																	
③自コースの科目 ①～③より、コース指定科目を含む29単位以上																	
④同専攻他コースの科目																	
⑤課程共通科目「自然科学総論Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅴ」から 1 単位以上 ⑥他専攻の科目 2 単位以上																	
<日本酒学コース>															1 時限の授業の標準時間	90分	
①課程共通科目（④を除く）																	
②専攻共通科目																	
③自コースの科目 ①～③より、コース指定科目を含む27単位以上																	
④同専攻他コースの科目																	
⑤課程共通科目「自然科学総論Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅴ」から 1 単位以上 ⑥他専攻の科目 2 単位以上																	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(大学院自然科学研究科博士前期課程 環境科学専攻) 【既設研究科】																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員以外を除く教員		
課程共通科目	自然科学総論Ⅰ	1・2後			1		○			2	1					オムニバス	
	自然科学総論Ⅱ	1・2前		1		○			3	3						オムニバス	
	自然科学総論Ⅲ	1・2前		1		○			5	2						オムニバス	
	自然科学総論Ⅳ	1・2後		1		○			2			1				オムニバス	
	自然科学総論Ⅴ	1・2前		1		○			4	2						オムニバス	
	先端科学技術総論 (物理①)	1・2前		1		○								1		標準外	
	先端科学技術総論 (物理②)	1・2通		1		○								1		標準外	
	先端科学技術総論 (化学①)	1・2前		1		○								1		標準外	
	先端科学技術総論 (化学②)	1・2通		1		○								1		標準外	
	先端科学技術総論 (数理科学①)	1・2前		1		○								1		標準外	
	先端科学技術総論 (数理科学②)	1・2前		1		○								1		標準外	
	先端科学技術総論 (数理科学③)	1・2前		1		○								1		標準外	
	先端科学技術総論 (数理科学④)	1・2前		1		○								1		標準外	
	先端科学技術総論 (機能材料科学物性系)	1・2通		1		○								1		標準外	
	先端科学技術総論 (機能材料科学開発系)	1・2通		1		○								1		標準外	
	先端科学技術総論 (情報工学)	1・2前		1		○								1		標準外	
	先端科学技術総論 (電気電子工学)	1・2通		1		○								1		標準外	
	先端科学技術総論 (地球科学)	1・2通		1		○								1		標準外	
	プロジェクト研究特別概説	1・2前		1		○				5	3						オムニバス
	修士のためのインターンシップ	1・2通		1				○		1							標準外
	企業・研究機関の研修・見学	1・2通		1				○		1							標準外
	薬品安全管理技術	1・2前		2			○			1					2		標準外
	大型機器分析技術	1・2前		2			○			2	3						標準外 オムニバス
	企業における生産・開発Ⅰ	1・2通		1			○								2		標準外 オムニバス
	インターンシップ	1・2通		1					○	1							標準外
	ワーク・ライフ・バランス	1・2前		1			○								3		オムニバス
	データサイエンス概論	1・2前		2			○			2	3	1	2				オムニバス
	修士のためのキャリアマネジメントセミナー	1・2前		2			○			1							
	修士のためのアカデミックライティング	1・2通		2			○			1							標準外
小計 (29科目)	—	—	—	0	34	0	—	—	—	31	17	1	3	0	20	—	
専攻共通科目	環境科学特定演習Ⅰ	2通			4			○		7	10		1			標準外	
	環境科学特定演習Ⅱ	2通			4			○		6	7		3			標準外	
	環境科学特定演習Ⅲ	2通			4			○		5	6		3			標準外	
	環境科学特定演習Ⅳ	2通			4			○		6	6		3			標準外	
	地球科学演習Ma	1通			4			○		5	5	1				標準外	
	地球科学演習Mb	2通			4			○		5	5	1				標準外	
	環境科学特定研究Ⅰ	1～2通			7			○		7	10		1			標準外	
	環境科学特定研究Ⅱ	1～2通			7			○		6	7		3			標準外	
	環境科学特定研究Ⅲ	1～2通			7			○		5	6		3			標準外	
	環境科学特定研究Ⅳ	1～2通			7			○		6	6		3			標準外	
	地球科学特定研究Ma	1通			8			○		5	5	1				標準外	
	地球科学特定研究Mb	2通			8			○		5	5	1				標準外	
	研究発表演習Ⅰ (中間発表)	1・2通			1			○		7	10		1			標準外	
	研究発表演習Ⅰ (学外発表)	1・2通			1			○		7	10		1			標準外	
	研究発表演習Ⅱ (中間発表)	1・2通			1			○		6	7		3			標準外	
	研究発表演習Ⅱ (学外発表)	1・2通			1			○		6	7		3			標準外	
	研究発表演習Ⅲ (中間発表)	1・2通			1			○		5	6		3			標準外	
	研究発表演習Ⅲ (学外発表)	1・2通			1			○		5	6		3			標準外	
	研究発表演習Ⅳ (中間発表)	1・2通			1			○		6	6		3			標準外	
	研究発表演習Ⅳ (学外発表)	1・2通			1			○		6	6		3			標準外	
	中間発表M	2通			1			○		5	5	1				標準外	
	学術発表演習M	1・2通			2			○		5	5	1				標準外	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(大学院自然科学研究科博士前期課程 環境科学専攻) 【既設研究科】																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任（助手を除く） 教員以外の教員		
専攻共通科目	論文作成演習M	1・2通			8			○			5	5	1				標準外
	自然環境科学Ⅰ	1・2通			1			○								1	標準外
	自然環境科学Ⅱ	1・2通			1			○								1	標準外
	自然環境科学Ⅲ	1・2通			1			○								1	標準外
	自然環境科学Ⅳ	1・2後			1			○								1	標準外
	流域環境学	1・2通			2			○			6	7		3			標準外
	都市人間環境学	1・2通			2			○			2	4		2			標準外
	Earth Science todayⅠ	1・2通			1			○								1	標準外
	Earth Science todayⅡ	1・2通			1			○								1	標準外
	自然災害環境論	1・2後			1			○								1	標準外
	突発災害特論	1・2前			1			○								1	標準外
	環境科学セミナーⅠ	1・2通			2				○		7	10		1			標準外
	環境科学セミナーⅡ	1・2通			2				○		6	7		3			標準外
	環境科学セミナーⅢ	1・2通			2				○		5	6		3			標準外
	環境科学セミナーⅣ	1・2通			2				○		6	6		3			標準外
	環境科学総合演習Ⅰ	1・2通			2				○		7	10		1			標準外
	環境科学総合演習Ⅱ	1・2通			2				○		6	7		3			標準外
	環境科学総合演習Ⅲ	1・2通			2				○		5	6		3			標準外
環境科学総合演習Ⅳ	1・2通			2				○		6	6		3			標準外	
小計（41科目）	—	—	—	0	115	0	—			29	34	1	10	0	8	—	
自然科学システム科学コース科目	原子分子物理学Ⅰ	1・2前			2			○				1					標準外 標準外
	原子分子物理学Ⅱ	1・2後			2			○			1						
	大気物理学特論Ⅰ	1・2前			2			○			1						
	環境化学要論Ⅰ	1・2前			2			○			1						
	環境化学要論Ⅱ	1・2後			2			○				1					
	環境化学要論Ⅲ	1・2後			2			○				1					
	環境化学要論Ⅳ	1・2通			2			○				1					
	地圏環境論Ⅰ	1・2通			2			○			1						
	生物形態機能論	1・2後			2			○				1					
	進化生物学特論Ⅰ	1・2後			2			○				1					
	進化生物学特論Ⅱ	1・2後			2			○			1						
	進化生物学特論Ⅲ	1・2後			2			○				1					
	進化生物学特論Ⅳ	1・2後			2			○				1					
	生態学特論Ⅱ	1・2前			2			○			1						
	生態学要論	1・2前			2			○				1					
	フィールド惑星科学特論	1・2後			2			○				1					
	気候物理学特論	1・2後			2			○						1			
	小計（17科目）	—	—	—	0	34	0	—			6	10	0	1	0	0	
流域環境学コース科目	水文学特論	1・2後			2			○				1					標準外
	農業水利調整論	1・2後			2			○			1						標準外 標準外
	動物生態学特論	1・2通			2			○			1						
	野生植物生態学特論	1・2通			2			○				1					
	森林保全工学特論	1・2前			2			○			1						標準外
	森林空間計測学特論	1・2後			2			○				1					
	農村計画学特論	1・2後			2			○			1						
	農地工学特論	1・2前			2			○					1				
	基盤施設工学特論	1・2前			2			○			1						
	生産機械利用学特論	1・2前			2			○				1					標準外
	食品・農業情報工学特論	1・2後			2			○				1					標準外
	生物機械工学特論	1・2前			2			○			1						標準外
	森林遺伝育種学特論	1・2通			2			○				1					
	精密農業概論	1・2後			2			○				1					
	島嶼生態学特論	1・2通			2			○				1					標準外
	流域環境思想論	1・2通			2			○			1						標準外
	昆虫生態学特論	1・2前			2			○				1					標準外
	森林生態学特論	1・2通			2			○			1						標準外
	陸域環境動態特論	1・2後			2			○						1			標準外
	生物センシング工学特論	1・2後			2			○						1			標準外
	小計（20科目）	—	—	—	0	40	0	—			8	9	0	3	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(大学院自然科学研究科博士前期課程 環境科学専攻) 【既設研究科】																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任(助手を除く)教員		
社会 基盤・ 建築学 コース 科目	インターンシップ	1・2通			4				○	2	4		2				標準外 標準外 標準外 標準外
	建築倫理	1・2前		2			○									1	
	建築プロジェクトマネジメント	1・2後		2			○									1	
	建築設備設計特論	1・2後		2			○									1	
	建築設備設計演習	1・2通		2				○								1	
	建築構造設計特論	1・2前		2			○									1	
	建築構造設計演習	1・2前		2				○								1	
	建築インターンシップA	1・2後		2					○	2	4		2				
	建築インターンシップB	1・2後		4					○	2	4		2				
	建築インターンシップC	1・2後		4					○	2	4		2				
	建築設計製図	1・2通		4			○			2	4		2				オムニバス
	建築設計実習	1・2後		4					○	2	4		2				
	計算力学特論	1・2前		2			○			1							
	コンクリート工学特論	1・2前		2			○			1							
	鉄筋コンクリート構造特論	1・2前		2			○			1							
	環境地盤学特論	1・2後		2			○				1						
	建築振動学特論	1・2前		2			○			1							
	建築計画・設計学特論	1・2前		2			○				1						
	住居建築計画特論	1・2前		2			○				1		1				
	建築環境工学特論	1・2前		2			○				1						
	建築環境計画特論	1・2後		2			○						1				共同
	建築環境解析学演習	1・2後		2				○				1		1			
	海岸環境工学特論	1・2後		2			○				1						
	風景計画特論	1・2後		2			○			1							
	環境シミュレーション学特論	1・2前		2			○			1							
	維持管理工学特論	1・2後		2			○				1						
	建築環境計画演習	1・2後		2				○					1				
	都市デザイン特論	1・2前		2			○				1						
	景観まちづくり演習	1・2後		2				○			1						
	小計 (29科目)	—	—	—	0	68	0	—			5	6	0	3	0	6	
地球科学 コース 科目	岩石学 I	1・2通			2		○			1							標準外
	岩石学 II	1・2通			2		○				1						標準外
	電子線結晶学	1・2通			2		○			1							標準外
	構造岩石学	1・2前			2		○					1					標準外
	マントル・地殻ダイナミクス	1・2前			2		○			1							標準外
	ダイナミック層序学	1・2通			2		○				1						標準外
	東アジアの地質	1・2通			2		○			1							標準外
	沈み込み帯のテクトニクス	1・2通			2		○				1						標準外
	進化形態学	1・2通			2		○				1						標準外
	フィールド惑星科学特論	1・2後			2		○				1						標準外
	小計 (10科目)	—	—	—	0	20	0	—			4	5	1	0	0	0	
災害 環境科学 コース 科目	気象災害特論	1・2前			2		○			1							標準外
	水災害特論	1・2後			2		○				1						標準外
	第四紀・地盤災害特論	1・2前			2		○			1							標準外
	環境保全学特論	1・2後			2		○				1						標準外
	災害地球化学特論	1・2前			2		○				1						標準外
	火山災害特論	1・2前			2		○			1							標準外
	雪氷環境特論	1・2前			2		○				1						標準外
	小計 (7科目)	—	—	—	0	14	0	—			3	4	0	0	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(大学院自然科学研究科博士前期課程 環境科学専攻) 【既設研究科】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任（ 教員以外を除く） 教員	
フ ィ ー ルド 科 学 コ ー ス 科 目	環境ガバナンス概論	1・2前			2		○			5	5		2		2	オムニバス
	希少生物学特論	1・2通			2		○				1					標準外
	フィールド惑星科学特論	1・2後			2		○				1					標準外
	陸域環境動態特論	1・2後			2		○						1			標準外
	神経内分泌学	1・2後			2		○			1						標準外
	大気物理学特論I	1・2前			2		○			1						
	環境化学要論I	1・2前			2		○			1						
	環境化学要論II	1・2後			2		○				1					
	地圏環境論I	1・2通			2		○			1						標準外
	進化生物学特論 IV	1・2後			2		○				1					
	水文学特論	1・2後			2		○				1					標準外
	農業水利調整論	1・2後			2		○			1						
	動物生態学特論	1・2通			2		○			1						標準外
	野生植物生態学特論	1・2通			2		○				1					標準外
	森林保全工学特論	1・2前			2		○			1						
	森林空間計測学特論	1・2後			2		○				1					
	森林遺伝育種学特論	1・2通			2		○				1					標準外
	島嶼生態学特論	1・2通			2		○				1					標準外
	流域環境思想論	1・2通			2		○			1						標準外
	気象災害特論	1・2前			2		○			1						標準外
	水災害特論	1・2後			2		○				1					標準外
	第四紀・地盤災害特論	1・2前			2		○			1						標準外
	環境保全学特論	1・2後			2		○				1					標準外
	災害地球化学特論	1・2前			2		○				1					標準外
	雪氷環境特論	1・2前			2		○				1					標準外
	気候物理学特論	1・2後			2		○						1			標準外
	小計 (26科目)	—	—	—	0	52	0	—	—	—	13	12	0	3	0	2
合計 (178科目)		—	—	0	377	0	—	—	—	29	34	1	10	0	36	—
学位又は称号		修士（理学）、修士（工学）、修士（農学）、修士（学術）				学位又は学科の分野				理学関係、工学関係、農学関係						
卒 業 ・ 修 了 要 件 及 び 履 修 方 法										授業期間等						
（修了要件） 2年以上在学し，38単位以上を修得し，かつ必要な研究指導を受けた上，修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし，在学期間に関しては，優れた研究業績を上げた者については，1年以上在学すれば足りるものとする。 （履修方法） 履修単位は，38単位以上修得する。 ＜自然システム科学コース，流域環境学コース，社会基盤・建築学コース，災害環境学コース，フィールド科学コース＞ ①課程共通科目（⑤を除く） ②専攻共通科目 ③自コースの科目 ①～③より，コース指定科目を含む28単位以上 ④同専攻他コースの科目 ⑤課程共通科目「自然科学総論Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ」から 1単位以上 ⑥他専攻の科目 2単位以上 ＜地球科学コース＞ ①課程共通科目（④を除く） ②専攻共通科目 ③自コースの科目 ①～③より，コース指定科目を含む31単位以上 ④同専攻他コースの科目 ⑤課程共通科目「自然科学総論Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅴ」から 1単位以上 ⑥他専攻の科目 2単位以上										1学年の学期区分				2期		
										1学期の授業期間				15週		
										1時限の授業の標準時間				90分		

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 際 的 基 盤 科 目 群	学際的科学総論ⅠA		本科目は、本研究科のディプロマ・ポリシーにおける、「[知識・理解]」の「複数の分野を横断する学際的知識を修得している。」及び「汎用的な能力（トランスファラブルスキル）」の「高度な言語（英語を含む）スキルを駆使し、専門的かつ多様な文脈で効果的に情報を伝達できる。（コミュニケーション）」「多様な情報に対し、必要であればデータサイエンススキルやICTスキルを駆使して論理的に分析し、批判的に検討することができる。（批判的思考）」「特定のテーマやイシューに関して、複数の視点から分析し、課題解決に活かすことができる。（学際的思考）」に対応するものである。本科目は、学際研究に必要な素地を形成するために、人間文化科学分野の特性を具体的な複数の研究内容を通して理解し、それらを統合して新しい知識や価値を生み出すためのアプローチを学ぶことを目的とする。また、自身の専門分野を深めると同時に、そののみにとらわれず、幅広く学修していくための学修計画と研究計画を考える。 （オムニバス方式／全8回） （42 番場 俊／5回） 科目のイントロダクション、学際的学修デザインの作成、新潟大学における異分野連携・融合研究の紹介、新潟大学の組織型連携研究の紹介、学際的学修デザインの立案及び成果物の作成指導を担当する。 （23 鈴木 賢太／1回） メディア文化・情報社会・人間形成環境科学分野の研究例の紹介を担当する。 （32 津森 圭一／1回） 思想科学・基礎心理学・臨床心理学・言語文化分野の研究例の紹介を担当する。 （79 片桐 昭彦／1回） 日本語教育、日本社会言語文化・東アジア社会言語分野の研究例の紹介を担当する。	オムニバス方式 講義14時間 演習2時間
	学際的科学総論ⅠB		本科目は、本研究科のディプロマ・ポリシーにおける、「[知識・理解]」の「複数の分野を横断する学際的知識を修得している。」及び「汎用的な能力（トランスファラブルスキル）」の「高度な言語（英語を含む）スキルを駆使し、専門的かつ多様な文脈で効果的に情報を伝達できる。（コミュニケーション）」「多様な情報に対し、必要であればデータサイエンススキルやICTスキルを駆使して論理的に分析し、批判的に検討することができる。（批判的思考）」「特定のテーマやイシューに関して、複数の視点から分析し、課題解決に活かすことができる。（学際的思考）」に対応するものである。本科目は、学際研究に必要な素地を形成するために、社会文化科学分野の特性を具体的な複数の研究内容を通して理解し、それらを統合して新しい知識や価値を生み出すためのアプローチを学ぶことを目的とする。また、自身の専門分野を深めると同時に、そののみにとらわれず、幅広く学修していくための学修計画と研究計画を考える。 （オムニバス方式／全8回） （15 神田 豊隆／5回） 科目のイントロダクション、学際的学修デザインの作成、新潟大学における異分野連携・融合研究の紹介、新潟大学の組織型連携研究の紹介、学際的学修デザインの立案及び成果物の作成指導を担当する。 （9 上村 都／1回） 行政ネットワーク・法制ネットワーク分野の研究例の紹介を担当する。 （49 溝口 由己／1回） 国際社会・理論計量経済・グローバル社会経済ネットワーク分野の研究例の紹介を担当する。 （65 伊藤 龍史／1回） マネジメント・アカウンティング分野の研究例の紹介を担当する。	オムニバス方式 講義14時間 演習2時間
	学際的科学総論ⅠC		本科目は、本研究科のディプロマ・ポリシーにおける、「[知識・理解]」の「複数の分野を横断する学際的知識を修得している。」及び「汎用的な能力（トランスファラブルスキル）」の「高度な言語（英語を含む）スキルを駆使し、専門的かつ多様な文脈で効果的に情報を伝達できる。（コミュニケーション）」「多様な情報に対し、必要であればデータサイエンススキルやICTスキルを駆使して論理的に分析し、批判的に検討することができる。（批判的思考）」「特定のテーマやイシューに関して、複数の視点から分析し、課題解決に活かすことができる。（学際的思考）」に対応するものである。本科目は、学際研究に必要な素地を形成するために、物質創成・基礎科学分野の特性を具体的な複数の研究内容を通して理解し、それらを統合して新しい知識や価値を生み出すためのアプローチを学ぶことを目的とする。また、自身の専門分野を深めると同時に、そののみにとらわれず、幅広く学修していくための学修計画と研究計画を考える。	オムニバス方式 講義14時間 演習2時間

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学際的 基盤 科目群	学際的科学総論ⅠC		（オムニバス方式／全8回） （195 吉森 明／5回） 科目のイントロダクション、学際的学修デザインの作成、新潟大学における異分野連携・融合研究の紹介、新潟大学の組織型連携研究の紹介、学際的学修デザインの立案及び成果物の作成指導を担当する。 （161 小島 秀雄／1回） 数理科学分野の研究例の紹介を担当する。 （200 岩本 啓／1回） 基礎化学分野の研究例の紹介を担当する。 （171 瀧本 哲也／1回） 物質材料科学分野の研究例の紹介を担当する。	
	学際的科学総論ⅠD		本科目は、本研究科のディプロマ・ポリシーにおける、「[知識・理解]」の「複数の分野を横断する学際的知識を修得している。」及び「汎用的な能力（トランスファラブルスキル）」の「高度な言語（英語を含む）スキルを駆使し、専門的かつ多様な文脈で効果的に情報を伝達できる。（コミュニケーション）」「多様な情報に対し、必要であればデータサイエンススキルやICTスキルを駆使して論理的に分析し、批判的に検討することができる。（批判的思考）」「特定のテーマやイシューに関して、複数の視点から分析し、課題解決に活かすことができる。（学際的思考）」に対応するものである。本科目は、学際研究に必要な素地を形成するために、システム創成科学分野の特性を具体的な複数の研究内容を通して理解し、それらを統合して新しい知識や価値を生み出すためのアプローチを学ぶことを目的とする。また、自身の専門分野を深めると同時に、それのみにとらわれず、幅広く学修していくための学修計画と研究計画を考える。 （オムニバス方式／全8回） （158 熊野 英和／5回） 科目のイントロダクション、学際的学修デザインの作成、新潟大学における異分野連携・融合研究の紹介、新潟大学の組織型連携研究の紹介、学際的学修デザインの立案及び成果物の作成指導を担当する。 （184 平元 和彦／1回） 先進機械システム分野の研究例の紹介を担当する。 （185 福井 聡／1回） 電子情報通信システム分野の研究例の紹介を担当する。 （187 堀 潤一／1回） 人間情報システム分野の研究例の紹介を担当する。	オムニバス方式 講義14時間 演習2時間
	学際的科学総論ⅠE		本科目は、本研究科のディプロマ・ポリシーにおける、「[知識・理解]」の「複数の分野を横断する学際的知識を修得している。」及び「汎用的な能力（トランスファラブルスキル）」の「高度な言語（英語を含む）スキルを駆使し、専門的かつ多様な文脈で効果的に情報を伝達できる。（コミュニケーション）」「多様な情報に対し、必要であればデータサイエンススキルやICTスキルを駆使して論理的に分析し、批判的に検討することができる。（批判的思考）」「特定のテーマやイシューに関して、複数の視点から分析し、課題解決に活かすことができる。（学際的思考）」に対応するものである。本科目は、学際研究に必要な素地を形成するために、生命環境・食料科学分野の特性を具体的な複数の研究内容を通して理解し、それらを統合して新しい知識や価値を生み出すためのアプローチを学ぶことを目的とする。また、自身の専門分野を深めると同時に、それのみにとらわれず、幅広く学修していくための学修計画と研究計画を考える。 （オムニバス方式／全8回） （163 佐藤 努／5回） 科目のイントロダクション、学際的学修デザインの作成、新潟大学における異分野連携・融合研究の紹介、新潟大学の組織型連携研究の紹介、学際的学修デザインの立案及び成果物の作成指導を担当する。 （208 加藤 朗／1回） 基礎生命科学分野の研究例の紹介を担当する。 （211 佐野 義孝／1回） 生物資源科学分野の研究例の紹介を担当する。 （198 稲葉 一成／1回） 流域環境学分野の研究例の紹介を担当する。	オムニバス方式 講義12時間 演習2時間
	学際的科学総論Ⅱ		学際的科学とは、特定の問題に対する多様な科学のおよび社会的視点を統合する方法で、コミュニティや社会的主体と協力して研究を共同設計し、知識を共同生産することを意味する。そのような研究を学際研究と呼び、昨今の多様化、複雑化する諸問題の解決のためにその必要性が世界的に指摘されている。この科目は「学際的科学総論Ⅰ」に続き、学際研究をテーマに扱い、学問分野をさらに拡大し、人文学、社会科学、自然科学の各分野が関わる学際研究を進めるための理論的背景を学び、それぞれの分野がどのように協働し、新しい価値を生み出すかを探究する。	講義12時間 演習4時間

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 際 的 基 盤 科 目 群	ライフ・イノベーション 研究入門		ライフ・イノベーションに関連する研究は、一つの学問分野や一つの方法論では取り組むことが困難である複雑な課題が設定される。この科目では、一つの研究手法にとらわれず、幅広く研究を行っていく方法を学ぶ。ライフ・イノベーションに関連するテーマを基に、オンデマンド動画による自主学習と課題提出を通じて混合研究法の素養を修得し、また、研究倫理や知的財産権に関する基礎知識も修得する。 （オムニバス方式／全8回） （88 斎藤 有吾／2回） 学際研究と混合研究法、研究倫理について講義する。 （224 樋口 健、88 斎藤 有吾／1回）（共同） 混合研究の方法論と量的データ・質的データについて講義する。 （177 成田 正見、88 斎藤 有吾／1回）（共同） 量的研究（実験研究、準実験研究）について講義する。 （155 神田 稯太、88 斎藤 有吾／1回）（共同） 量的研究（調査観察研究、シミュレーション）について講義する。 （202 上畠 洋佑、88 斎藤 有吾／1回）（共同） 質的研究（インタビュー、内容分析）について講義する。 （64 伊藤 嘉高、88 斎藤 有吾／1回）（共同） 質的研究（アクションリサーチ、フィールドワーク）について講義する。 （189 宮田 敦久、88 斎藤 有吾／1回）（共同） 知的財産権と研究について講義する。	オムニバス方式 共同（一部）
	ライフ・イノベーション 研究演習		この科目では、ライフ・イノベーションに関連するテーマを基に、複数の研究方法論を実践的に学ぶ。ヘルスケアや災害対策といった具体的な課題に対して、異なるアプローチを比較し、それぞれの利点や課題を浮き彫りにすることを通して、異分野共同の重要性を理解する。オンデマンド教材や演習を通じて問題設定や解決策の多様性を学び、グループワークでのディスカッションを通じて、共同研究の可能性を探る。	講義12時間 演習4時間
	ライフ・イノベーション PBL(M)		この科目では、異分野共同研究の知識とスキルを基に、実際に異分野共同研究をデザインし、問題解決に取り組む。グループワークを中心に、学生は主体的に研究計画を立案し、異分野の知識やアプローチを統合する。プロジェクトベースの学習（PBL）を通じて、批判的思考、創造性、協働、コミュニケーション（4C）を実践的に育成し、学際的思考力を高めることを目的とする。研究の進行はグループに委ねられるが、プロジェクトの進捗や課題を適宜サポートし、最終的な発表を目指す。	共同
	修士のためのキャリアマ ネジメントセミナー		本講義は15コマで構成され、アカデミアでも産業界でも必要なジェネリックスキルや、産学連携における実務の在り方を習得する。ジェネリックスキルとは専門知識や研究スキルに関係なく、どのような状況にでも対応できるように必要な能力であり、リーダーシップ、プレゼンテーション、コミュニケーション、ネゴシエーションなどの能力を指す。また、実際の産学連携や企業活動についても講義する。全回、企業や公的機関で該当する実務を統括しているゲストスピーカーを招いての講義である。	共同
	修士のためのアカデミッ クライティング		このクラスの目的は、学生が投稿論文（ジャーナル論文）を英語で書く能力を身につけることである。このクラスが教えるすべてのスキルは、その目的に基づいている。研究の進め方、実験の実施方法、実験結果の記録方法、そして研究を公の場で発表する方法について簡単に紹介する。このクラスでは、執筆プロセスを学生と一緒に進めていき、投稿論文の各セクションをそれぞれ1回の授業で取り扱う。最終的に、このクラスを終える時点で、学生は自ら実施した実験についての5～6ページの投稿論文を作成する。	
	海外英語研修		この科目では、学生は、英語を母国語としない学生向けの英語研修プログラムを実施している海外の教育機関・研修機関等において、4～6週間程度の短期英語研修プログラムに参加し研修を受ける。参加する英語研修プログラムが本科目に該当するかどうか、研究科学務委員会において事前に認定を受ける。参加学生は、認定の前にTOEFL英語試験を受験することが推奨され、研修前と研修後には主指導教員による事前指導と事後指導（TOEFLによる効果測定を含む）をそれぞれ受ける。受講プログラムによる成績評価と学生による報告書を基に、学務委員会が合格と認定できる水準であると認定した場合に、単位を授与する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学際的基盤科目群	大型機器分析技術		近年、研究機器を活用して研究を推進することが多く、研究機器が研究進展状況を左右すると言っても過言ではない。研究者個人で所有できない大型汎用研究機器は、大学などの研究組織で管理・運営し、学内外の研究者で共用することで効率的に利活用している。手元にない研究機器だが、利用の仕方での研究の進展もあり得る。設備を適切に、有効利用するためには、研究機器の原理から、解析方法、得られる情報についての知見が必要である。また、多くの利用者が共用するためのルールなども含めた利用方法の基礎を習得することが目的である。 （オムニバス方式／全15回） (226 古川 貢／3回) 本講義に関するガイダンス、および、電子スピン共鳴装置の基礎理論の解説 (209 後藤 淳／3回) 放射性同位元素を利用した実験に関する基礎 (217 田山 英治(R8年度)／3回、228 星 隆(R9年度)／3回) 核磁気共鳴(NMR)装置の基礎 (174 戸田 健司／3回) X線回折(XRD)装置の基礎 (206 落合 秋人／3回) 質量分析(MS)装置の基礎	オムニバス方式
	データサイエンス概論		近年、データサイエンスの知識・技術を習得した人材の需要があらゆる分野において急激に高まっている。一方で大学院での研究に取り組むにあたって無意識にデータサイエンスを活用している学生も多い。本講義では、現代では欠くことのできなくなったデータサイエンスについて、将来データサイエンスを自身の武器として活用することを目指し、基本的な事項から大学や企業での応用までを実例を交えながら大学研究者、企業関係者を招いてオムニバス形式で授業を実施する。 （オムニバス方式／全15回） (182 早坂 圭司／5回) 統計学、線形代数、情報数理、量子力学と量子情報の基礎について (196 飯田 佑輔／2回) PYTHONを用いた画像解析、画像分類の実践について (158 熊野 英和／1回) データサイエンスと量子情報について (199 今村 孝／2回) データサイエンスを利用したロボット制御について (266 小山 翔子／1回) データサイエンスとブラックホールの測定について (267 佐藤 優太郎／1回) 素粒子実験物理学でのデータサイエンスの活用について (245 金子 岳史／2回) 画像解析を用いたデータサイエンスの宇宙科学への応用について (192 山崎 達也／1回) データサイエンスの学術的な概要について	オムニバス方式
	修士のためのインターンシップ		学生の興味ある職種の機関で実務体験を行い、社会で必要なスキルや心構えを身に付けることを目標とする。実施前に事前授業として受け入れ機関の研究、マナー、安全教育を行う。受け入れ機関での研修は5日～10日間実施し、終了後に報告書の提出・報告会での発表が課される。受け入れ機関は学生の研究分野を考慮し教員との面談にて選定したのち、受入打診は教員が行う。受け入れ機関とのマッチングもあるので、面談は複数回行われることがある。新潟県内の機関への派遣を原則とするが、場合によっては県外の機関でも可とする。	講義1.5時間 実習43～83時間
	ワーク・ライフ・バランス		本科目は、自然科学系大学院出身の複数の講師によるオムニバス形式の講義とワークショップで構成する2日間の集中講義である。一日目の授業はオンライン、二日目の授業は対面で行う。本科目では、各講師の「ワーク」と「ライフ」に関する様々な経験談を聞く「先輩に学ぼう①～⑤」や、受講者同士のディスカッション「ワークショップ：みんなで話そう！なりたい自分」等を通じて、受講者が自らのキャリア形成とワーク・ライフ・バランスを具体的にイメージし、その実現方法を見つけ出すことを目標とする。 （オムニバス方式／全8回） (220 中野 享香／6回) ワーク・ライフ・バランスとは、先輩から学ぼう①・②・③・④、まとめ (257 三宅 恵子／2回) 先輩から学ぼう⑤、ワークショップ	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目	映像文化I		1990年代からハリウッド映画産業が実践してきた「政治的正しさ(Political Correctness)」の歴史と、2000年代に見られるジェンダーとセクシュアリティ表象を、特に以下の観点から理解することを目指す。 ①物語映画を形成する歴史的・政治的・経済的・技術的・社会的要件 ②物語映画における人種、階級、ジェンダー、セクシュアリティ表象を形成する歴史的・政治的・経済的・技術的・社会的要件 ③物語映画を受容する観客にとっての「政治的正しさ」を形成する歴史的・政治的・経済的・技術的・社会的要件	
	映像文化II		本講義では、日本のアニメおよびマンガにおける起源問題、ディズニーとアメリカニズム、キャラクターの身体性と成長、戦時下の科学主義、アメリカ占領期と手塚治虫など様々なテーマについて講義を行う。具体的には、日本のアニメおよびマンガにおける歴史上の諸問題、特に戦前および戦時下における展開を実証主義的に考察し、それらが置かれてきた文化的・社会的・政治的文脈を理解しつつ、両文化領域をめぐる様々な言説を批判的に評価する。	
	表象文化		「表象」は、狭義の文学・芸術にとどまらず、メディアやジェンダーといった現代の社会・文化的問題にもかかわると同時に、古典的な哲学や神学における論争の焦点にもなってきた概念である。この講義では、表象文化論の中心的争点の一つである「身体」について、「アーカイヴ」という社会・文化的制度のどのかわりに着目し、「顔」や「声」という問題にアプローチするための方法を考える。(1)「表象」という基本的概念の多義性とそれが孕む問題点を理解し、使うことができるようになること、(2)アートとメディアにおける「身体」(顔、声)の問題へのアプローチについて、自分なりの手がかりをもつことができるようになること、(3)映像と身体のアーカイヴ化という歴史的・理論的問題について、基礎的な事項を理解することをめざす。	
	大衆文化		本授業では、日本語および英語で書かれたイメージ論の文献を精読し、「イメージとは何か」という問いについて考察する。とりわけ、大衆文化としての視覚イメージについて理論的な思考を深めることを目指す。ハンス・ベルティンク、ジョン・バージャー、ロラン・バルト、W・J・T・ミッチェルらによる古典的なイメージ論の概要を振り返った後、履修者各自が自身の研究テーマと関連付けてイメージについて考えることができるように、履修者の研究テーマに合わせて、講読文献を選定する。	
	機能造形		本授業では、モノと人との関わりから開発された優れた道具を調査し、それらが開発された背景と、これまで開発されてきたグッドデザインの変遷と照らし合わせ、演習課題を加えながら、デザインとは何かについて論じてゆく。街に出て見て見ると、新たな生活スタイルに適応した様々な商品が開発され、新渇の地域産業に於いても次世代のスタンダードを目指した開発が行われている。このような領域の優れたモノを調査しながら、次世代の生活スタイルにあったモノを考えてゆくところに、本授業のねらいがある。	
	日本画表現		古典日本画による現状模写の制作を通して、表現方法の多様性について理解し、現状模写の制作過程について学ぶ。また、それらの制作方法を理解する上で必要な基礎知識を学び、文化財保存に対する基本的な研究について必要な知識も併せて学ぶ。材質や技法表現の観点から古典絵画に触れることで、その作品の画格の高さ、作品の高度な技術など身をもって体感し、それらの作品保護の重要性やそれに関わる研究の重要性を理解し、その表現方法について演習を通して理解を深める。	
	西洋音楽文化		西洋音楽文化は、主としてピアノの入門書を検討することによって、西洋の音楽文化について歴史的に概観していくものである。西洋音楽の中で鍵盤楽器の役割は基礎となるものである。その鍵盤楽器についての入門書を歴史的に検討することにより、西洋音楽への理解を深める講義であり、必要に応じて実際の演奏も行う。内容はクーブランのクラヴサン奏法、バッハの音楽帳、L. モーツァルトの音楽帳、クレメンティの練習曲、チェルニーの練習曲、バイエル教材、シューマンの教材、ショパンの指導法等、音楽史の中で重要とされる鍵盤楽器の指導書、入門書を中心とする。	
	音楽表現論		バロック・古典派・ロマン派・近現代において、様々な作曲家たちが多くのピアノ作品を残している。そのため今日多くのピアニストたちがそれらの作品を演奏することができ、音楽教育においても、多種多様な楽曲を取り上げることが可能となる。主要な作曲家によって創作された楽曲の内容を知り、その上で、過去の偉大な演奏家や現代において活躍しているピアニストたちの演奏を通じて知ること、その楽曲の表現方法や技術の特徴について考察する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	声楽演奏論		声楽作品の研究と演習を課題とする。曲調、作品の成り立ち、歴史的背景を踏まえた作品研究と、美しい発声法、日本歌曲や外国歌曲・オペラ（イタリア・ドイツ・フランス語）等、声楽曲歌唱演習までの研究指導を行う。目標として、各人の進度に合わせて、曲に使われている言語の発語法や、詩の内容、曲の時代背景の理解を深めると同時に、喉に負担のない美しい発声法を体得し、それに伴う豊かな音楽表現、歌唱技術を伴った演奏を目指す。	
	音楽教育学		本授業では、学校音楽教育の今日的課題を検討するために、教育思想、カリキュラム、授業実践に関する国内外の文献を講読する。主として国内の関連文献を扱いつつ、ドイツを中心に他国の学校音楽教育に関する文献も扱う。本授業の目標は、第一に教育思想、カリキュラム、授業実践を視点として学校音楽教育の変遷をふまえた上で今日の学校音楽教育の課題を捉えること、第二に他国の学校音楽教育への理解を深め、多角的にその在り方を検討できることである。授業は演習を中心とし、適宜解説を加える。	
情 報 社 会 文 化 分 野 科 目 群	情報メディア論		2020年代において、社会生活の多くの部分が、モバイルメディアであるスマートフォンを経由して成立している実態がある。これらの現代的実態を分析するため、A. コンピュータネットワークが出現する1980年代以降の主要なメディア社会論、メディア文化論（アンダーソン、ネグリ／ハート、ボードリヤール、ステイグラー、マノヴィッチ、ギャロウェイ、フータモ、パリッカ等）を予定しているが変更有り） B. モバイルメディア黎明期において汎空間性を論じたモバイルメディア論（カツ、ジャーゲン、リッチ・リン、カステル、キャンベル、シルバ、メイロウィッツ等を予定しているが変更有り）の2つの理論の流れを解説する。これら2つのメディア論の流れを踏み込んで理解するための基盤を呈示・解説すると共に、受講者には、2つの異なる流れのメディア論を融合する考察に尽力することを期待する。	
	理論社会学		この授業では、米国の社会学者 Howard S. Becker の著作を従来とは異なる角度から読みなおし、現代の社会学的記述に Becker の仕事を活用する方途をさぐっていく。Becker ラベリング論の先導者のひとりに数えられ、逸脱現象の研究者という扱いを受けることが多いが、そうした捉えかたは、彼が残した膨大な仕事のごく一部だけしか視野にいれていない。Becker が一貫して関心を寄せた「仕事と社会」というテーマにフォーカスしながら、ネットワーク論や集合的行為論の意味を再考してみたい。	
	ジェンダー論		本講義では、ジェンダーについての概念や議論について学び、日本社会におけるジェンダー秩序についてその現状と課題について検討する。21世紀に入り、日本の社会は大きく変動している。とくに、ジェンダー・家族をめぐるものも大きな変動が生じている。その現状を把握するとともに、なぜどのようにして変化が生じたのかという歴史的視点を取り入れ、今後の社会のあり方について考える視覚を身につける。教育、家族、労働などの領域を主な対象とする。	
	保健医療社会学		本講義では、社会学に関心を寄せる学生を対象に、現代の人文・社会科学の一大潮流をなすアクターネットワーク理論とその周辺の議論と実践を学ぶことで、社会学固有の研究視座と研究方法のいくつかを習得する。今年度は「人間と人間以外のものたちによるケアに根ざした地域社会学を構想する」をテーマとする。原則として対面で、ピア学習と反転学習によって行う。各回の反転授業の担当ペアは、ゼミの前に教員の助言のもとで発表資料の作成を行うことが必要となる。	
	文化人類学		文化人類学は、他者・人間理解のための実践学問である。本講義では、文化人類学における「社会化」「学習」「教育」をテーマに、狩猟採集社会をはじめとするさまざまな社会に見られる子どもと大人の関係性、文化・社会の特徴と学習内容との関連性、またそれらの関連性を描き出す分析手法を学ぶ。文化人類学とその周辺分野における分析手法や記述のあり方を見比べながら、相互の影響、また双方の相違点や類似点について理解することを通して、論文作法を身につける。	
	科学技術と社会		第二次世界大戦以降現在までの科学技術の歴史をめぐりいくつかのテーマについて議論を行う。特に、現代科学技術の形成において圧倒的に大きな位置を占めてきた米国における連邦政府と科学技術との関わりに焦点をあて、80年間にわたる歴史的な流れを追う。現代において、科学技術はそのパワーとリスクを著しく増してきた。特に2010年代以降は人間存在や社会秩序のあり方を揺るがしかねない新たな科学技術が現れ、社会的な議論が求められている。本科目では、現代科学技術がこれまでどのような歴史的過程を経て形成されてきたのかを学び、現在の科学技術をその流れのなかに位置づけることで、今後の科学技術の方向性と、科学技術に対する社会の向き合い方について考察する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	宗教思想		四十書から成るガザーリーの著『宗教諸学の再興（Ihya' 'Ulum al-Din）』第12番目の書「婚姻作法の書（Kitab al-Nikah）」英訳を読み、解説および議論を行う。この書は約900年前に書かれたものだが、現代のイスラーム社会における婚姻、家族、女性問題、ジェンダー、生命倫理等に大きな影響力を持っている。担当者による訳文作成、内容報告、解説、質疑応答を行う。また修士論文の中間発表の時間も多く設ける予定である。	
	哲学特論I		西洋哲学、哲学教育に関する研究文献（日本語、英語、ドイツ語）をいくつか選び、演習形式で講読する。毎回担当者を決めてレジュメ作成・内容解説をしてもらった上で、全体での議論をおこなう。文献の選定については、ある程度参加者の希望も取り入れる。次の能力を身に付けることを目標とする。①外国語で書かれた研究論文を精読し、主題やその背景等基本的な内容を理解し客観的に分析・批判をした上で、自らの見解を提示し、さらなる問題提起をおこなうことができる（以上のスキルをプレゼン、レポート両方において身につけることを目指す）。②既存の哲学理論や概念を、哲学を専門としない人、哲学を未習の人にも分かるように伝えるスキル（表現力や方法等）を身につける。	
	哲学特論II		英語・フランス語圏の哲学に関する著作・論文を演習形式で講読する。「時間」や「記憶」などを主題として想定するが、具体的なテキストは参加者の関心に応じて決定する。哲学・倫理学に関する優れた研究を原語で正確に理解する力を養うとともに、要約や議論を通じて論理的思考力を高め、文章・口頭の両面で適切に表現する力を身に付けることを目的とする。邦訳に頼らずに外国語の論文・著作を読解できるようになること、また論文作成や学会発表に必要な議論の構成力・表現力を身に付けることを到達目標とする。	
	哲学特論III		哲学史の学習のためには、古代哲学に関する基本的な知識が必要である。この授業では、古代哲学における主な哲学的問題の展開をテーマとする。範囲としては、初期ギリシア哲学からプラトンまでの時期を扱う。古代哲学についての基本的な知識を得ることを目標とする。具体的には、（1）各々の哲学者が取り組んだ問題を説明することができるようになる。（2）哲学的問題を歴史的なアプローチで考察するために必要な、歴史的観点をもつことができるようになる。15回にわたり文献講読、議論を行う。	
基 礎 心 理 学 分 野 科 目 群	認知科学特論		学士課程の心理学の概説的講義を受講済みまたは同等の基礎知識があることを前提として、認知心理学の知識を学ぶ。英語で執筆された認知心理学分野の定評のあるテキストおよび総説論文を用いて、講義と輪読・議論をあわせて行う。授業は日本語で行われるが、用いる文献は原則として英語文献とし、認知心理学の専門的英語文献を読みこなす訓練も行う。認知心理学が扱うテーマは知覚・認知、注意、意識、思考・推論、意思決定など幅広いが、これらの中から複数のテーマを、受講生の関心に合わせて決定する。実験手法や統計的解析手法などの方法論に関するテーマも対象となりうる。	
	発達心理学特論		発達心理学特論では、発達を取り扱った研究における幅広いトピックスを扱った英語文献を購読する演習形式の授業を行う。発達心理学は、ヒトの一生にわたる心身の変化やそのメカニズムを取り扱い、加齢や障がいとも深い関わりがある。本科目では特に、より高次な心的機能（社会性や実行機能など）の発達と密接な関係があるとされる、知覚や認知の発達に焦点を当てる。英語論文の購読を通して、心的機能の発達を捉える視点を養い、発達研究の主要かつ最新トピックスについて概観する。	
	社会心理学特論		社会心理学の諸領域について文献を通じて理解し、その報告をしながら、諸現象に対する社会心理学的な観点からの理解を深める。社会心理学が対象とする領域を理解し、現代の社会事象との関連について考える。新たな検討課題への社会心理学の応用可能性について議論を通して理解を深める。学習の到達目標は次のとおりである。①社会心理学が対象とする領域を理解できる。②社会心理学的な研究方法を理解できる。③特定の領域の代表的な研究について説明することができる。④社会的事象の心理学的理解の方法について説明することができる。	
	障害児心理学I特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）		応用行動分析学を基礎に、発達に課題のある子どもの行動観察や特別支援教育、障害児者の福祉について学ぶ。特に障害の社会モデルや、インクルーシブ教育システムやソーシャルインクルージョンを中心に、障害のある人たちの人権に配慮した具体的な支援のあり方について考察する。また行動アセスメントの観点から行動問題の原因分析を行い、将来の行動を予測したり、効果的な支援方法について検討を行ったり、個別支援計画、個別の支援計画などの作成につなげていく。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	障害児心理学II特論		本講義では、障害児への指導・支援に関する研究において欠かせない生理学的な基礎知識について講義する。特に、大脳生理学に着目し、運動・感覚に関わる中枢神経系と末梢神経系の構造と機能についてテキストを基に概説する。発達障害や肢体不自由など、様々な障害の発生メカニズムを神経科学的な視点から捉え直し、それぞれの障害特性の理解を深める。さらに、得られた生理学的な知識を教育現場でどのように活かせるのか、具体的な支援方法についても概説する。発達障害児や肢体不自由児への教育的支援を効果的に行うために、生理学的な知見に基づいた実態把握や、適切な教材・教具の選定方法などの考え方を理解する。本講義を通して、障害児の多様なニーズに応えるための専門性を高め、より効果的な教育支援についての理解を深めることを目指す。	
	障害児言語学特論		障害児言語学特論では、発達障害児の特性に関する基礎的な知識と研究動向について、主に文献や事例に基づき検討し、障害特性のある児童生徒の言語学的特性への理解を深めることを目的とする。現在、通常学級にも8.8%程度の何かしらの支援を必要とする児童生徒が在籍すると言われており、多様の実態を呈する児童生徒の障害特性の理解から整理し、第二段階としてそれぞれの領域で現在取り上げられている課題を文献等に基づき検討する。	
	パーソナリティ心理学特論		パーソナリティ心理学特論では、パーソナリティ心理学や周辺領域の研究に必要となる基本的な概念や代表的な理論について理解を深めるとともに、最新の研究知見について見識を広げることを目的に講義を行う。授業では、パーソナリティ、自己・他者、個人差、心理測定尺度などをキーワードにした研究をとりあげ、それらに関する概念・理論の詳細、研究の歴史・経緯、国内外の最新研究、測定・研究法などについてテキストをもとに議論を行う予定である。	
	応用実験心理学特論		ヒトの特性と消費、安全、技術などの応用場面との関係性について各自がテーマを定める。特に最近10年間程度の論文をテーマに取り上げ、その内容を熟読の上、発表資料を作成し報告する。また、取り上げた論文を総合的にレビューし問題提起としてまとめる。自身が興味を持った関連分野の知見も合わせて紹介しながら、議論を深める。こうした発表、議論を通して、ヒト単体としてだけでなく、ヒトとモノとの関係からヒトの特性の理解を深める。また、研究論文に対する読解力を身につけ、論文執筆のための基礎を養い、難解な内容をわかりやすく発表できるプレゼンテーション能力を身につける。	
臨 床 心 理 学 分 野 科 目 群	臨床心理学特論I		本授業では、臨床心理学の基礎から応用までを体系的に学び、複雑な社会問題に対処できる心理学研究者・実践家の育成を目指す。精神力動、認知行動、家族システムといった代表的理論を横断的に理解するとともに、異常心理学や心理支援法にも触れることで、行動理論・学習理論、認知理論、精神力動理論を総合的に運用できる力を養成する。また、エビデンスに基づく実践においてはRCTなどの研究法や臨床倫理、アセスメント、他職種協働を踏まえ、多元的かつ実証的な視点を重視する。授業は文献精読や発表を通じて進められ、最終的には理論的理解を深めるだけでなく、実際の臨床場面に適用し得る柔軟な思考力と実践力を身につけることを目指す。さらに、異常心理学や心理支援法の論点も確認しながら、受講者自身の視点を深める機会とする。また、「臨床心理学とは何か」や「実践科学としての臨床心理学」、「エビデンスに基づく実践」など各回のテーマを探究し、専門知識と批判的思考を磨く。なお、本授業はすべて対面で実施する。	
	臨床心理学特論II		本科目では、臨床心理学におけるケースマネジメント、システムマネジメントの基礎を学ぶ。具体的には、臨床心理学的アプローチの全体像を理解するとともに、面接受理から面接終結までに必要な知識、組織のマネジメントに関する知識について学ぶ。具体的な学習の到達目標としては、(a) 臨床心理学的アプローチの全体像を説明できること、(b) 面接受理から面接終結までに必要な知識を説明できること、(c) 臨床心理学的支援を進める上での組織のマネジメントに関する知識を説明できること、が挙げられる。	
	心理療法特論I		本講義では、臨床心理学を基盤に、トラウマケア、ストレスマネジメント、心の健康教育を中心とした心理療法の理論と実践を学ぶ。心理療法の基礎理論（認知行動療法、EMDR、マインドフルネス療法）を深く掘り下げ、トラウマやストレスが人間の心身に及ぼす影響について理解を深める。また、臨床場面での具体的なケースを用いた演習を通して、心理療法の実践技術を習得する。さらに、教育現場や支援者のメンタルヘルスへの応用可能性を検討し、学生自身が支援者としての実践力を養う。グループワークやディスカッションを通じて、倫理的課題や多職種連携の重要性についても考察する。本講義は、心理療法の理論と実践を統合的に学ぶことで、より効果的な支援技術を探求する機会を提供する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	臨床心理学分野科目群			
	心理療法特論II		本講義では、パーソナリティ障害を中心とした難治性精神障害の治療法として知られるスキーマ療法と、自閉スペクトラム症に対する認知行動療法の理論と実際について学んでいく。講義はテキストのみにならず、事例検討やロールプレイなどを適宜取り入れながら行う。認知行動療法はもともと行動主義や学習理論から着想を得た心理療法のひとつであり、現在までなお、その理論や対象とする症状や疾患、状態に対して発展を遂げつつある。本科目では、まず、①認知行動療法の歴史および理念を理解し、それを踏まえた上で、②比較的新しい、第三世代の流れを汲んだ認知行動療法であるスキーマ療法および自閉スペクトラム症（および発達障害）に対する認知行動療法についての理解や手法を深める。さらに③支援者（セラピスト）が持ちうる被支援者（クライアント）への偏見から生じる治療の壁を理解できるようになることを目的とする。	隔年
	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）		本講義では、精神医学の基礎から最新の臨床的課題までを網羅し、精神疾患の理解と治療法の習得を目指す。精神疾患の原因、症状、診断、治療、そして支援に至る一連のプロセスを体系的に学ぶとともに、うつ病や統合失調症、双極性障害など主要な疾患の診断基準や治療法を深く掘り下げる。また、児童・青年期精神医学や神経発達症、リエゾン精神医学といった専門的な分野も取り上げ、多職種連携や倫理的配慮の重要性についても考察する。講義だけでなく、症例を用いた演習を通じて、実践的な診断スキルや治療計画の立案能力を養う。さらに、精神保健福祉法や司法精神医学などの法的知識も学び、精神医学の社会的側面について理解を深める。本講義は、臨床心理士・公認心理師として精神医学領域で活躍を目指す学生にとって、基礎知識と応用力を養う重要な学びの機会を提供する。	
	投影法特論		おもに分析心理学を理論的背景とする投射法について、実際の臨床場面での活用を踏まえつつ学ぶ。具体的には、(a) 分析心理学の基本的事項について、理論とともに事例の断片を通じた臨床の実際を紹介しつつ学ぶ、(b) 言語連想試験の基本について学び、この検査を自らが経験してみる、(c) 分析心理学に基づく、描画法のアセスメントを行う、(d) 夢について、分析心理学に基づくアセスメントを行う、ことなどをねらいとする。	
	人格心理学特論		人格（パーソナリティ）は個人差の科学であり、臨床実践の基礎学として大きな意義を持っている。最近では実証的研究が進み、5つの次元で捉える5因子論（ビッグファイブ）に収束している。つまり、パーソナリティの個人差は5つの次元から成り立っており、それぞれの次元について、生物学的・心理学的・社会的・障害学的な面から研究が進み、パラダイムシフトが起こり、ひとつの総合科学として発展している。5因子の枠組の中で、これまでの理論（類型論、特性論）が統合的に理解できるようになった。本講義では、パーソナリティ心理学研究の科学的知見をまとめた上で、パーソナリティが臨床実践においてどのように扱われるかについて解説を行う。	隔年
	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）		本講義では、犯罪者の特性と犯罪を取り巻く環境要因を多角的に検討し、犯罪行動を科学的に理解することを目指す。なぜ犯罪が起こるのか、犯罪捜査へどのように心理学が活用されるのか、また更生・矯正の手法や制度についても、最新の知見や具体的事例をもとに学んでいく。さらに、こうした領域で活用されるアセスメントや介入技法、エビデンスに基づく臨床的意義と倫理にも焦点を当て、司法・犯罪分野に携わる公認心理師の具体的な実践を理解する。授業ではワークショップを通じて、実際の臨床場面での応用が可能な治療法を修得する機会も設ける。これらの学びは、犯罪・司法臨床に限らず、より広い臨床の場面においても役立つ知見となる。受講者は、犯罪の基礎的知識や心理学的アプローチ、研究法を理解し、司法・法執行の枠組みの中で心理学が担う役割を把握することで、専門家としての視点を高めることが期待される。なお、本講義はオンデマンド動画による講義とオンタイム講義によるハイブリット講義を予定している。	隔年
	学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）		本科目では、教育分野における児童生徒およびその関係者に生じる心理学的諸問題を解説するとともに、これらの理解や援助の方法も併せて解説する。また、これらの方法の基盤となる生徒指導、教育相談、臨床心理学の諸理論、教育分野における連携のあり方等についても解説する。科目のねらいとしては、(a) 教育分野で生じる児童生徒の心理学的諸問題を理解するとともに、その援助方法について理解すること、(b) 教育分野における心理学的諸問題の理解に不可欠である生徒指導、教育相談、臨床心理学の諸理論、教育分野における連携のあり方等について理解すること、が挙げられる。	
	産業心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）		本授業では、産業構造や働き方の変化に伴う労働関連法規、特にメンタルヘルス対策について理解を深め、その上で心理職に求められる役割を総合的に学ぶ。具体的には、ストレスチェックなどの心理アセスメント、長時間労働者・高ストレス者への心理面接、復職支援、教育研修（セルフケア・ラインケア研修）、組織分析、コーディネーションやコンサルテーションなど、多岐にわたる活動内容を取り上げる。さらに、他職種との連携や協働の重要性にも注目し、メンタルヘルス不調やパワハラ等の事例検討を通じて実践的な理解を深めることを目指す。最終的には、最新の労働関連法規や臨床現場の知識・技術を身につけ、産業・労働領域における心理職としての専門性を高めることが本授業の大きな目的である。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	臨床心理学分野科目群 家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）		本授業では、親面接・夫婦面接・集団面接における基本的治療プロトコルを示し、家族システム理論やナラティブ理論を踏まえた家族療法の基礎を解説する。具体的な事例を通じてケースフォーミュレーションの方法を学ぶことで、クライアント（CL）とその周囲の相互作用が心理的不調の改善や悪化にどのように関与するかを理解する。また、CLおよび周囲の人間が心理的不調に陥らないための「望ましい相互作用」を生む技法として、親面接、夫婦面接、集団面接の代表的手法を明示し、それぞれの根拠と基本的プロトコルを身につけることを目指す。授業では事例紹介や討議などのアクティブ・ラーニングを取り入れ、主体的な学修を通じて知識や技能の定着を図り、最終的には基本プロトコルを用いた面接を行えるようになることが学習目標となる。	隔年
	メンタルヘルス教育特論（心の健康教育に関する理論と実践）		本授業では、性とジェンダーに基づく暴力（Sexual and Gender Based Violence, SGBV）を主題とし、DV（ドメスティック・バイオレンス）や性暴力、ストーキングといった具体的事象の実態や背景にある固定的なジェンダー観・社会構造について考察する。被害者に生じやすいトラウマ反応やPTSDなどの症状を理解し、心理的支援や多職種連携、社会資源や関係法規についても学ぶことで、支援の具体的手法を身につけることを目指す。また、個人のこころと社会・文化との相互作用を踏まえ、受講生自身がもつ文化的背景や価値観を意識化し、多様な視点から事象を捉える重要性を探究する。身体を使ったワークやグループディスカッションを通じて、二次受傷への対処や自己ケアについての理解を深め、心の健康教育を担う専門家としての姿勢を養成する。	隔年
人 間 形 成 環 境 科 学 分 野 科 目 群	コミュニティヘルス		私たちの健康はいかにつくられ守られている（きた）のだろうか。本講義では、健康を個人の問題として限定的に考えるのではなく、社会・集団（人びと）の問題として捉え、環境や生活、保健医療の仕組みなどとの関係に着目して解説する。各種の保健統計をもとに、わが国の健康問題の変遷や近年の動向について理解した上で、疾病の予防や健康の保持増進に必要な組織的な取り組み（コミュニティ活動）とは何かを議論する。授業内では健康に関する複数のトピックを取り上げ、討論を通じて学びを深める。	
	ヘルスケア論		ヘルスケアをテーマにしながら社会課題の実装に向けた講義と実践を展開する。ここでの対象は幼児から高齢者までの幅広い年代の健康に焦点を当てながら、それを具体的にデザインすることを目的として演習を行う。身体活動量の重要性和健康について幅広い知識を養い、将来の人生を豊かに過ごしていくこの方法を理解する。本講義では、ヘルスケアと健康社会デザインを題材にしながら身体について解剖学且つ運動機能の理解を深め、自身で運動のプログラムを作成できる知識や技術を習得する事とする。特にぐ多恵的な実践に基づきながら、正しい運動とは何か、正しい歩行とは何か、生活習慣とは何かを考えることができるのがねらいである。	
	運動心理学		体育、スポーツ全般における心理学事象の中でも、特に動機づけに着目し、概念の理解とともに現象、行動の背後にある動機づけを理解することで、状況や行動の改善と進める方策を学ぶ。学校教育、地域スポーツ、競技スポーツなどの場面における現象や行動を、児童・生徒、スポーツ実施者、競技選手それぞれの立場から理解でき、改善の方策を示すことができる。聴講人数が少人数となることが想定され、一方的な講義ではなく、双方向的な演習に近い形式での授業となる可能性がある。また、授業に際して、事前に課題を課すこともある。授業実施形態は、オンラインによる非対面型授業・リアルタイム授業で行う。	
	運動生理学		本講義では、運動生理学の基礎として特に呼吸・循環・体温調節・体液調節に焦点をあて、その概要および運動時の応答について講義を行う。運動以外にも環境変化に対する各調節系についても学習する。また、一過性の調節に加えて、それらの刺激を繰り返した際に適応についても理解し、概説できるようになることを目指す。英語で記述された論文や教科書を使用することで、英語で読み、理解する力を養うとともに、理解した内容を発表する力も養い国際的な感覚を高めることも目標とする。	
	応用健康科学		授業形態は、対面またはZoom会議システムを用いたリアルタイム型オンライン授業と課題提示である。ディスカッションへの積極的な参加を通して、児童・生徒等の健康問題に対する解決策などについての理解を深めてほしい。本講義の目標は、以下に示す2つである。①健康上の諸問題をテーマとした研究に関して、主体的に調べ、検討し、理解を深めることができる。②エビデンスに基づく具体的な対策を提示することができる。本講義は、受講者の研究課題や学習の進度に応じて、課題を設定する。心と身体の健康に関わる生活行動や心理的要因に着目して、新時代に適した新しい健康支援策を模索する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	人間 形成 環境 科学 分野 科目 群	健康運動論	運動と健康には深い関係がある。そこで、その両者の相互作用について多面的・理論的に学ぶ。教室での講義・討論に加えて、実際に運動する機会を持ち、考えを深める。授業の目標は次のとおりである。①運動と健康についての理解を深めることができる。 ②自ら考えた運動内容を実践することで健康について学ぶ。③授業を通して考えられた健康と運動についての自らの考えをことを、プレゼンテーションで他者に伝えることができ、討論に応じることができるようになる。	
		衣環境評価学	衣環境評価学は、快適な着心地を与えるアパレルの本質と文化的・社会的媒体としてアパレルの機能を活かしつつ、安全・健康で豊かな衣生活を創造することを目的とする学問である。本講義では、衣生活環境に関する諸問題を多面的に捉え、生活科学の視点から問題解決に向けて望ましい方策を討論するとともに、環境形成の主体者となる力を養うための衣生活環境の意義や内容について学び、考究することを目的とする。授業形態としては、講義形式と演習形式とを適宜取り入れ、ディスカッション等を行う予定である。	
		衣環境材料学	衣服は身体表面に接しており、人間にとってもっとも身近な環境である。着装した被服は、人間と生活行動を共にすることで、その特性が発揮し、評価される。それゆえ私たちは、環境に適応した被服を選択できる知識を習得しなければならない。また、衣服のあるべき姿のもうひとつは、人間本来の生理的機能に照らした、健康で 快適な衣生活の実践をはかることである。この講義では被服を構成している繊維および糸の持つ性質が、衣服の性質にどう影響を与えているか、また衣服の選択の適否や着用 のしかたが、人間の健康とどのように関わっていくのかについて述べる。	
		生活経営学	本講義では、家計、収入労働、家事労働、家族関係、生活時間、ジェンダー、キャリアなどの多様な切り口から、人々が豊かに人間らしく生きるとはどのようなことなのかを考える。本講義での学びを通して、履修者がこれからの生活をどのように営んでいくのかという主体的な生活経営能力を身につけ、生活を最適な方向に導く具体的な方策を提案できるようになることを目標とする。なお、本講義内容には、男女共同参画の視点が含まれている。	
		教育哲学	教育や発達とは身近な事柄であるため、誰もがそれらについてそれなりの考えをもっているが、素朴な仕方ではなく根拠を明示しながら自らの考えを表現することはなかなか難しい。本授業では、広く教育や発達に関わる哲学文献を精読することで、この困難を幾分でも乗り越えることを目的とする。日本語文献を中心とするが、外国語文献（英・仏）を取り上げる場合もある。文献は受講希望者との協議のうえで決定する。一行一行丁寧に読み、現実即してその意味を解釈し、翻って現実を捉え直す。そのことで、いわゆる時流に即した考えや根拠不明な意見を相対化する。	
		教育社会学	教育社会学に関する基本的知識を習得していることを前提として、教育社会学に関する国内外の研究論文（日本語・英語）の講読を通して、教育社会学の研究で用いられる概念や方法について修得する。これにより、教育社会学分野の研究動向を把握し、教育と社会およびその関係についての現状理解を深めるとともに、教育現象を社会学的に検討する視点や方法を学習する。受講者は毎回報告することが求められる。	
		現代リテラシー論Ⅰ	この科目では、現代リテラシーの動向を把握するため、日本における書き言葉の成立、古代・中世の読み書き、近世以降のリテラシーの歴史、国語科教育の歴史、内外のリテラシー及びリテラシー教育についての文献を講読する。特に、我が国のリテラシー（読み書き教育）の歴史はどのようなものであったか、戦前・戦後の国語科教育においては、どのような読むことの教育が行われてきたか、現代の国語科教育はどのような方向に進もうとしているかなどを、内外の文献をもとに講義する。	
		現代リテラシー論Ⅱ	リテラシー及びリテラシー教育についての論文を講読する。現代社会における必要な科学的リテラシーとはいかなるものか、これまでの科学的リテラシーに関する国内外の議論を基に、今後の科学的リテラシーの育成を目指した教育はどのようにあるべきかを考察する。到達目標は次の3つである。 1. 科学的リテラシーに関する議論の変遷を理解する。 2. 科学教育におけるリテラシー教育の原理について論文を手掛かりに考察する。 3. 科学的リテラシーを育成することに関する現代的課題や今後の課題について考察する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	教育学		本科目では、文献輪読を通して様々な領域で展開される教育学研究の特徴を理解する。最近の教育課題をテーマとして取り上げ、複合科学としての教育学のアプローチの可能性と限界を議論する。指定する文献のみならず、受講生の個人的関心、問題意識に関連する文献なども取り上げながら、研究領域の枠組み理解を図る。本科目の目標は「教育の多様な領域で展開する教育学研究の特徴を理解できる」、「教育学に関する文献を批判的に読み、論点を明確化して他者と議論できる」、「教育学研究と自身の研究関心に関連付けて考えをまとめることができる」の3点である。	
	高等教育論		本科目は、高等教育（研究）の基礎知識を概説する。高等教育研究は学際的な領域であり、教育学、社会学、心理学、経済学など多様な学問的アプローチが交錯する場である。本科目では、このような学際的性格を持つ高等教育研究の基本的な理論や概念、研究方法を体系的に学ぶ。現代社会において大学は、知識基盤社会の中核的機関として、また次世代の人材育成の場として重要な役割を担っている。同時に、グローバル化、デジタル化、学生の多様化、財政的制約など様々な挑戦に直面している。このような状況の中で、高等教育の質を保証し、発展させていくための理論的・実践的知見が求められる。本科目では、大学教育学の基本的な枠組みから始まり、FD・ブレFDによる教員の専門性開発、大学実践研究の方法論、大学カリキュラムと授業デザイン、学習評価の理論と方法、学生の成長とエンゲージメント、ICTを活用した教育革新、質保証と大学評価のシステムに至るまで、高等教育研究の主要なテーマを網羅的に取り上げる。	
	社会認識教育学		生涯学習社会といわれて久しく社会の変化が急速な今日の日本では、社会認識の形成と成長が生涯を通じた課題になってきている。その社会認識形成の基盤として不可欠な機会となるのが、社会認識形成を意図的計画的に行なう初中等学校の社会系教科である。本授業は、こうした背景に基づいて社会科教育学研究の今日的動向をとらえた社会認識教育のカリキュラム論・内容編成論について議論を深める。そのうえで、受講者各自の課題意識に基づいて、社会系諸教科の理論的・実践的課題について考察していく。	
	日本言語文化Ⅰ		近代日本語および現代日本語がもつ語彙・文法の諸問題を、近年の研究成果を紹介しながら批判的に検討する。現代日本語は、古代から中世・近世・近代を経て徐々に形作られてきた。その様相を、近代及び現代に焦点を絞って、近代に至るまでの流れにも目を向けながら、具体的なデータに基づいて理解することを目的とした講義をおこなう。内容は、明治20年代の言文一致体の文章の他、近代文語文などを含むデータをとりあげて、そこにあらわれる語彙や、ヴォイス、アスペクトといった文法カテゴリーなどに存在する諸問題を学ぶ。	
日 本 社 会 ・ 言 語 文 化 分 野 科 目 群	日本言語文化Ⅱ		近年、国立国語研究所を中心に多くのコーパスが構築、公開され日本語研究に新たな知見をもたらしているが、各種コーパスの特徴や言語資料としての性格を理解していないと誤った（的外れの）結論を導く危険性もある。そのような問題意識のもと、本授業では、国立国語研究所が構築した各種コーパスの言語資料としての性格を検討しつつ、それらを利用した日本語研究の基礎知識を理解したうえで、受講生自身がそれらを利用した日本語研究を実践を行い、その結果を検討する。そのことを通し、日本語研究に関する新知見を見出すとともに、既存のコーパスを利用した日本語研究の可能性と限界について考える。	
	日本古代言語文化		本授業では、和化漢文資料を日本語史研究に用いるための資料読解・分析の方法を習得する。とくに日本語の書記様式の変遷過程において、和化漢文体が果たした役割について理解を深めることを目的とした講義を行う。具体的には、奈良時代から鎌倉時代にかけて成立した和化漢文資料を対象として、表記・語彙・文法等の観点からみた言語的な特徴を論ずる。また漢字伝来以降、日本語の書記様式が様々な展開していく中での和化漢文体と他の諸文体との交渉について、原資料の読解にもとづいて分析・考察を加える。	
	日本古典文芸文化各論		平安時代の文学作品なかでも『源氏物語』を中心として、これまでどのような研究がなされてきたか、問題点はどこにあるかを概説したうえで、全体で議論することで理解を深める。受講者全員に主要先行研究を割り当て、その精説を軸にして進めていく。実際に原文にふれつつ、従来何が論じられ、どのような見解が示されてきたかを把握することを通して、古典文学研究の方法の一端を学んでいく。また発表者として論理的に説明すること、参加者として論理的に問うことを経験することで、その能力を培うことも目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	日本古典文芸文化特論		本授業では、屋代本『平家物語』の本文の位置づけについて考える。『平家物語』はその成立・流布の事情は極めて複雑である。研究史も厚く、そのためか近年はあまり研究が盛んではない。しかし、日本中世文学の代表的傑作の一つであり、その本文が成立した背景や執筆された意図、さらに想定される読者や読者がその本文に寄せた期待（後出本文に至る改編の軌跡）など、諸側面からのアプローチを試みることで、中世という時代の文芸・文化の一部を解明できるだろう。特に、屋代本と呼ばれる伝本は所謂「語り本系」の一つでありながら、現代一般的に読まれている南北朝期成立の覚一本とも異なる本文・構成を持つ。他本と比較しながら該本を考察することは、『平家物語』ひいては中世文学の性格を知ることには有益である。本授業では、如上の問題について最新の研究を参照しながら講義を行い、新たな発見、問題点を受講生と共有することを目的とする。	
	日本文芸文化		夏目漱石『それから』を題材として、受講生自ら調査することにより、日本近代小説を読解するための研究方法を学ぶ授業である。受講者は、方法論を意識しながら、準備を行い発表し、発表をふまえて相互に意見交換をする。夏目漱石『それから』は、明治末年の日本社会を背景に持つ、恋愛をモチーフとした小説である。内容は、西洋の文化を受け入れ変化した日本社会を舞台として、過去の恋愛関係が蘇る話だ。授業では、①背景となる明治末年の日本社会、②恋愛をモチーフとした小説の構成および表現、について考える。これらを考えることで、日本近代文学研究の方法を学び、小説に対する分析に生かすことを目指す。	
	日本書道文化		日本における書道文化の多様性についての学びを第一の目標とする。日本では「書道」、中国では主に「書法」、韓国では「書芸」と一般に称する。漢字文化圏、東アジア圏における書に関わる文化は多彩である。本講義では名称に「書道」を用いながらも、「道」字をはずし、広く「書」に関わる「書文化」への興味関心を高める授業展開を予定する。主な流れとしては古代から現代までの書文化を通覧し、基本的な知見を理解する。次に身近な学修として新潟県ゆかりの書文化につき、「書画文芸」という他文化とのつながりを主眼として、テキストに基き学びを進めていく。キーワードとして良寛、會津八一等の人物、上中下越の各地域性、新潟県の歴史と書画文芸家との意外な関連性をあげる。	
	日本社会形成論Ⅰ		本授業では日本中世史の基本史料の一つである武家文書を輪読し、日本中世史の研究論文を読解する。授業は割り当てられた史料や研究論文を読解して報告し、履修者全員で討論を行う。中世の武家文書を解読することにより中世社会について理解を深めるとともに、日本中世史の研究論文が使用する史料や論文などを逐一検討しながら読み解き、その論文の意義と問題点を明確にし、研究の現状を理解することをめざす。なお、新潟県立歴史博物館で所蔵される中世武家文書の原本調査を一回実施し、文書の料紙・形状・筆跡および保存方法などを習得する。講義科目ではあるが履修者の報告を組み込み、双方向性を重視して進める特論となる。	
	日本社会形成論Ⅱ		日本近世史を扱う科目である。日本史における近世は、地球規模の「近代」に包摂される前夜の、伝統的な社会と文化が高度に成熟した時代として位置づけられる。本科目ではこうした観点にもとづき、日本近世史における諸論点を、履修者各自の研究テーマに応じて多面的に論じる。「前近代の総達成」としての日本近世社会の特質に留意しながら、具体的には日本近世史をめぐる諸論点を一次史料に基づいて多面的に論じることによって、古代から現代、さらには未来へとといった時間軸のなかで、日本社会を歴史的に把握する視点の獲得を目指す。講義科目ではあるが、履修者の研究テーマに応じた一次資料を教員と共に読み進める作業を通じて、インタラクティブに進めていく。	
	日本社会形成論Ⅲ		日本社会は、常に、東アジア、世界とのつながりのなか、形成されてきた。特に古代日本の時期における東アジアとの交流は、現在までの日本の社会的・文化的基礎として機能している。本講義ではこのような視座から、東アジア広域に伝播し、日本社会に大きな影響を与えた文化—漢字・律令・仏教・儒教—を手がかりに、それが東アジアでどのように展開し、また、日本独自とされる「国風文化」といかにかわるかにについて、世界と日本とのつながりという国際的視座からその特質と意義を学生とともに考え、位置づけることを目的としている。	
	環日本海社会形成論		19世紀末以降20世紀にかけて、日本海を取り巻く北東アジアの諸地域では近代化の進展に伴って大きな変化が生じ、地域間の関係も大きく変容する。本科目では、この日本海を取り巻く諸地域に生きる人々の関係の在り方（環日本海社会）の歴史的変容について考察を深めるための前提として、19世紀末以降20世紀にかけての日本における政治、社会、思想、文化に関する諸問題について、歴史学—日本近現代史研究の観点から検討をおこなう。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	形態資料学		弥生時代・文化に関する最近の研究動向の内容について、研究史をふまえながら正しく理解する。近年特に議論となっている研究のトピックについてその概要と問題点を学び、具体的に説明することができるようになる。研究上の課題を明らかにするための方法について論理的に考えることができる。採られる理論・方法論など、受講生自身の修士論文作成において参考となる点を学び取ってもらいたい。授業は対面による講義形式を予定している。講義を行った後、実際の考古資料の検討および議論を行う。	
	地域文化資源アーカイブ		国内外における博物館・図書館・文書館等のデジタル・コンテンツの集積・公開の進展とその可能性の拡大、公開資料を利用したデジタル・ヒューマニティーズの隆盛、そして深刻化する人口減少・高齢化がもたらす地域文化資源の保存・継承の危機を背景として、地域文化資源のデジタルアーカイブ化が日本各地で活発化している。しかし、過疎・高齢化地域など特に地域文化資源の保存・継承に困難を抱えた地域においては、今なおデジタルアーカイブ活動の開始・継続は容易ではない。こうした問題を念頭に本授業では、地域文化資源デジタルアーカイブという実践の背景と現状を整理し、関連するアーカイブ学や情報学の理論を確認することを目的とした講義を行う。また、学習を踏まえて、地方の事例を中心に地域文化資源デジタルアーカイブの実践を取り上げ、参加者とともにその可能性と課題の検討を行う。これにより、地域文化資源アーカイブ活動を実践・研究するうえで必要となる基本的知識を獲得するとともに、地域文化資源アーカイブ活動を批判的に検討する力を養う。	
	日本民俗学		民俗学の特定のテーマに関する学説整理と具体的な事例研究を通して、民俗学研究の展開と方法論の変遷についての理解を深めることを目的とする。民俗学研究の展開と方法に関する理解を深めるために、学史上重要と思われる研究概念とそれに関する論文を取り上げ、その検討を行う。そのプロセスを通じて、民俗学を学ぶ上で必要不可欠な基礎的知識を養う。授業は講義形式を取るが、少人数のため受講者と議論しながら進めていく。したがって、履修者が主体的に調べ、読み、それを報告する授業となる。	
	伝統芸能論		江戸時代から現代まで続く歌舞伎の世界を概観する。特に「仮名手本忠臣蔵」を取り上げ、日本の芸能文化の基盤を検討する。具体的には、歌舞伎のDVDを視聴しつつ、講義形式で進める。また、これらの演目から派生した芝居や、歌舞伎以外の芸能についても紹介する。目標は、①日本文化史における、特に近世から現代にかけての流れを理解している。②歌舞伎を通してみた日本の芸能文化に関する基礎的知識を身につける。③芸能のテキストを読解し、実演の内容が理解できる。	
	地理空間学特論		地理空間学特論では、人文地理学の幅広い領域のうち、歴史地理学におけるコンピュータやデジタルデータの利活用の可能性について検討を行う。近年、人文科学全般でもコンピュータを使用した研究の可能性が注目されているが、歴史的事象を地理学的な観点から取り扱う歴史地理学においても、GIS（地理情報システム）やデジタルアーカイブなど、これまで無かった新しい研究領域が拓かれつつある。この授業では、具体的な事例に則しつつ、歴史情報を活用した歴史GISの構築や絵図のデジタルアーカイブ作成とその利用などについて取り上げる予定であり、これらを通して人文科学におけるコンピュータ利用の新たな可能性についての理解をはかる。	
	人文地理学特論		本授業は、過疎・過密、郊外化、ジェントリフィケーション、「田園回帰」、コミュニティの維持・再編等、近代以降の国内外の都市や農村が経験してきた社会的・経済的・政治的諸現象や、グローバル化・産業構造の変容・金融化・人口移動等、その背景となる諸事象に関する人文地理学及び隣接分野の研究動向の理解を目標とするものである。本授業では、各トピックに関する研究内容について、重要文献の読解・議論・解説とともに、フィールドワーク等を通じ実践的にも修得することを目指す。取り上げるトピックについては、受講生の関心を踏まえて調整する。	
	環境地理学特論		身近な地形の中で、特に、火山地形を取り上げ、火山地形を形成するプロセス＝噴火と、噴火に伴う火山災害、および、その防災・減災について学ぶ。また、同時に、なぜ人間が火山災害を被るような地域に住み続けてきたか考える。こうしたことを考えるためには、火山地形の形成要因となる火山噴火を知る必要がある。また、火山噴火に伴う災害を理解するためには、自然現象としての火山噴火を熟知する必要がある。その一方で、火山地域は、その破壊的な自然現象の結果生じる豊かな自然の恵みを享受できる地域であることを学ぶ。	
	日本語教育 I		現在の日本語教育現場における、音声指導の問題点を知る。ここで言う音声とは、単に単音の発音を指すのではなく、現実の発話環境における連続した音声の発話であり、単語のアクセント、句のアクセント、文全体のイントネーション、文末のイントネーション、リズム、プロミネンス等と、多岐にわたっている。これらが現在の日本語教育の現場でどのような問題に直面しているかを整理し、それらを指導するにはどのような方策が必要、かつ可能かを探る。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	日本語教育Ⅱ		日本語の文法項目について、その全体像を概観する。ただし、単に日本語の文法項目について列挙し解説するのではなく、常に比較対象としての英文を紹介しながら、一般言語学的に見た場合に日本語の特徴が、できる限り具体的に浮かび上がるように議論を進めていく。特に注意する点は、日本語母語話者であれば通常気付かない、あるいは気付けないところに目を向けて、常に学習者としての視点を持って日本語を観察していくという姿勢を養う点にある。	
	日本語教育Ⅲ		本授業は語学教育の理論に基づき、第二言語と外国語としての日本語教育についてその教育内容と教育方法について概観し、考えることを目的とする。第二言語と外国語としての日本語教育は今まで日本語学の研究成果を中心に進められてきたが、最近、日本語教育学独自の内容や方法について問われるようになってきた。本授業ではこの変化についても述べ理論的な事項と教育実践を近づける方策について考えていく。さらに、ウィズコロナやポストコロナの時代において、従来の語学教育・日本語教育と新たな語学教育・日本語教育の形を共に学び、議論していく。	
	日本語教育Ⅳ		本授業は日本の社会と日本語教育の関係について考え、議論し、最後に学生が自分の関心を持っていることを実際に調べてその結果について発表し、「外国人と日本人にとって、より良い日本の社会を創るために、今後、日本語教育をどうすればいいのか」に向かって具体的な方策を提案する。まず日本の社会と日本語教育の関係・実態について学び、日本の社会に合う日本語教育を行うために必要な知識やスキルを身に付ける。次に、「日本の社会にとって必要な日本語教育とは？それを実現するにはどうすればいいのか」などを考えて議論する。最後に、現在の日本の社会と日本語教育の課題や問題の中、学生自身が興味・関心を持っていることについて実際に調べてその結果をまとめて発表・提案する力を身に付けることをねらいとする。	
	日本語教育Ⅴ		劇的に進行しているグローバル社会においては国や言語や文化の境を越えて様々な背景を持った人々が共に生きており、ことばの教育が社会に果たす役割はますます大きくなっている。本クラスにおいては、異文化コミュニケーションと社会、社会言語学、言語と文化といった視点から、言語教育／日本語教育が社会の発展のために何ができるのかについて考える。日本語教育学／言語文化教育領域の比較的新しい著書や論文を読み、その内容および構成や方法論について批判的に検討する。	
	日本語教育Ⅵ		従来の対面教室授業という方法に加え情報通信技術(ICT)を活用した授業も広まっている。オンラインによる双方向ビデオ通話型授業や一方向オンデマンド情報配信型授業などさまざまな授業方法・環境が整う中、どのような姿勢がこれからの日本語教育に望まれるのかを議論していく。そして、日本語教育の中でICTを活用するための実践的で具体的な知識・技能を身に付ける。授業は対面の講義形式を基本とし、ペアやグループでの教材作成も予定している。	
	日本語教育Ⅶ		学校教育現場における日本語教育の実態と課題を理解する。本授業は、日本語教員養成課程の必須50項目(2)日本の在留外国人施策、(3)多文化共生（地域社会における共生）、(9)言語政策と「ことば」、(10)コミュニケーションストラテジー、(13)多文化・多言語主義、(17)学習ストラテジー、(18)異文化受容・適応、(19)日本語の学習・教育の情意的側面、(48)社会文化能力、(49)対人関係能力、(50)異文化調整能力を含む。	
	日本語教育史		言語教育／日本語教育はその時代の政策に巻き込まれる性質がある。日本語教師として自分が「政策に巻き込まれていないか」を見極められるために日本語教育の過去を反省的に学ぶ必要がある。また、今行われている言語教育は先人の知恵や試行錯誤の上に成り立っている。それについて知ることはよりよい日本語教育を考えていくことを可能にする。本クラスでは日本語教育史研究の主要な課題について、学史上の主要文献を複数取り上げ購読し、批判的に検討する。そのうえで、受講者の研究テーマと直結する論点を見つけ、その論点について参加者全員で議論する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(総合学術研究科 人文社会科学専攻)				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	東 ア ジ ア 社 会 ・ 言 語 文 化 分 野 科 目 群	中国言語文化Ⅰ	本科目では、言語学および現代中国語文法、日中対照研究についてまとめられた書籍や論文を精読する。学生による発表と教員による解説により進める。中国語学分野における論文の体裁について確認する。術語の使い方や、論述の展開にも意識を向けながら読み進める。必要に応じて、言語学辞典や文学作品についても抜粋し、日中における用語の使い方も含めて考察する。文構造を理解したうえで、曖昧さを排除してテキスト解釈を進める。中国語文法についての理解を通じて、文法に関する記述を過不足なく正確に読み解く力を養う。文法項目の意味や文法機能についての知識を深める。論文の構造や執筆順について理解する。また、参考資料を通じて、語学論文における論述の進め方等、構造について理解する。	
	中国言語文化Ⅱ	現代漢語の基本的な語彙や文法は、近代漢語にその礎を見ることが出来る。ここでいう近代とは歴史分野での分類とは異なるもので、語彙や文法面からみると、唐代あたりまで遡ることが出来るため、かなり範囲は広いものを指す。つまり、現代漢語を理解するためには、唐代以降の近代の漢語について知る必要があると考えられるのである。そこで、本講座では、現代漢語、近代漢語に関する具体的な資料を解釈しながら、様々な言語現象について考察を進めていくこととする。また、必要に応じて受講生には研究発表を行ってもらい、討論を行う。ただし、学生の研究テーマを考慮し、論文作成の一助となるよう、講義、および討論の内容については、扱う時代や分野を適宜調整することがある。		
	中国古典文化	中国古典文化では、主として中国の古典文学作品に関する諸問題について、作品の精読を通して検討を加える。中国の古典文学作品は韻文と散文に大別され、この授業では特に散文の中でも唐代に成立した伝奇小説を主な検討対象とする。内容は、対象とする作品についての原文、漢文訓読文、現代日本語訳、語注等を掲載した資料を提示し、更に受講生全員で意見交換を行いながら、正確な内容理解を図る。その上で、各作品に内在する表現上や内容面での特質、および成立過程に対する検討を行い、唐代の伝奇小説が小説史において果たした役割を検証する。		
	中国文芸文化Ⅰ	中国古典や日本文学を研究する上で必要となる基本的な知識や漢文の読解方法、調査方法を前提とした上で、各自の問題意識に従いテーマを設定し、研究を遂行することを目指す。具体的には、中国のみならず日本でも広く受容されてきた『文選』所収作について、李善をはじめとする六臣注によるテキストを扱い、注釈の読解を中心に行う。配布資料にもとづき学生は分担し作成したレジュメにもとづき発表し、授業で検討を行う。		
	中国文芸文化Ⅱ	中国前近代の仏教、あるいはその他の思想史関連文献を会読する。テキストは基本的に中国唐宋時代の仏教関連の文献を選択するが、参加者の必要に応じて適宜変更する。会読はとくに文献学的な視点を重視して行い、各文献の状況の理解、テキスト内容の批判、また思想史的背景に注意しながら行う。これにより、当該文献を思想的な視野のもとで読解できるようになること、中国古典文献類の研究手法の概要を理解できるようになることを目指す。		
	中国書道文化	授業形態は対面を基本とし、到達目標としては日本と中国を中心としながら東アジアの書跡、あるいは特定の書や書人を検討対象としながら、それらの特質を実証的に分析できるようにする。研究論文として客観的な分析結果を示し、それが書の分野のみならず、他の分野の研究者が読んでも理解できる内容に仕上げたい。授業計画は全15回中の前半を中国の書跡、後半を日本および韓国朝鮮の書跡を検討対象として、それぞれの分析を進めたい。		
	朝鮮文芸文化	『菜食主義者』（2007年）でマン・ブッカー国際賞を受賞（2016年）したハン・ガン（1970-）氏が、2024年度のノーベル文学賞を受賞した。1980年5月の光州民主化抗争を描いた『少年が来る』（2014年、邦訳は2016年）、1948年4月の「済州4.3事件」を描いた最新作『別れを告げない』（2021年、邦訳は2024年）ともに、「ハン・ガン氏の力強く詩的な散文体の文章は歴史的な心の傷と向き合いつつ、人間のもろさをあらわにしている。」（ノーベル文学賞選考委員会による推薦理由）作品であり、日本の出版界のみならず全世界で韓国文学への関心・注目度が高まっている。このような現代韓国（朝鮮）文学の問題作・代表作を先行研究を検討しつつ読み、辞書の訳語に頼らず、場面・文脈にふさわしい日本語（もしくは母語）で訳せるようになること、当該作家・作品の最新の研究動向を把握することを目標とする。		
	東アジア歴史文化	この授業では、主として近世から近代にかけての東アジアの歴史に関する近年の代表的な研究を精読していく。特に中国と日本の関係の変化、海を越えた人の移動などに重点を置き、日本史、西洋史、東南アジア史の研究成果も積極的に参照しながら議論を深めていく予定である。東アジアにおける交流の諸相や中長期的な変化の過程を把握し、歴史への理解を深めていくとともに、対話を積み重ねることを通じて実証的に歴史を議論する能力を養うことを目指す。		

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	朝鮮歴史文化		この講義では、朝鮮・韓国に関する歴史研究の基礎として、朝鮮半島をめぐる東アジア史研究の主要な論点を整理・検討する。20世紀前半期から現在に至る研究の流れを追跡することによって、朝鮮・韓国史への理解を深めるとともに、歴史研究の方法を身につけ、自らテーマを設定し考える力を養う。取りあげる論点としては、古代朝鮮半島と日本・中国、モンゴル・高麗関係、朝鮮王朝社会の性格と東アジア小農社会、近代東アジアの変動と朝鮮半島などがある。	
	比較考古学		日本と周辺地域の比較考古学研究として、北方ユーラシア地域、とくにモンゴル高原を取り上げて講義を行う。モンゴル高原の遊牧民族の興亡史を、考古資料、文字資料などを使い再構成する方法を講義する。モンゴル高原の遊牧民族興亡史について、その概要と研究方法とを紹介し、そのうえでモンゴル高原の歴史における考古資料の特徴・重要性を解説する。とくに遺跡や遺跡出土の遊牧民特有の考古資料の消長に注目し、具体的な事例に言及しながら講義を進める。	
	東アジア言語文化		東アジアの言語の中でも、特に、中国語や日本語を主たる対象とし、それぞれの言語や文化的特徴について、現代漢語と現代日本語に関する具体的な資料や論文を解釈しながら、考察を進めていく。その過程で受講生には研究発表を行ってもらい、討論を行う。ただし、学生の研究テーマを考慮し、論文作成の一助となるよう、講義、および討論の内容については適宜調整する。	
	環日本海歴史文化		清末から現代までの、近現代東北アジア史、ならびに内陸アジア史の展開について、基礎的研究の把握を行う。その際関連分野に関する、基礎的文献や重要な論文の紹介なども行う予定である。また、書誌目録やインターネットの書誌を用いながら、東北アジア史・内陸アジア史の最新の研究成果（日本語、中国語、英語、各国語）をリサーチする能力を身につけることを目標とする。授業では、①地理的把握、②史的展開、③現代社会との関連などを軸に、受講者全員で共通のテキストを読解しながら、講義を進め、問題関心を深めてゆく。	
欧 米 社 会 ・ 言 語 文 化 分 野 科 目 群	英米言語文化論Ⅰ		本講義では、英語論文の精読を通して生成文法（generative grammar）理論と呼ばれる言語理論（統語論）の歴史の変遷を辿り、この理論が設定する研究課題および基礎仮説群を整理・概観する。生成文法理論は、言語一般を人間という種に固有（species-specific）の生得的な特性として位置づけ、この内在的な特性を自然科学一般の方法論を用いて科学的に解明することを目指す。こうした取り組みの理論的な背景知識および現行理論の基礎的な枠組みを学ぶ。	
	英米言語文化論Ⅱ		授業形態は、講義を中心としながらも演習（議論と発表）を取り入れる双方向の授業形態である。目標は言語学や言語教育に関するテキストと適宜配布される論文の精読を通して、最近の言語学の知見を検証し、英語と日本語、あるいは英語と他の言語の類似点と相違点を分析し、ことばとは何かを理解することを目指すことである。授業計画等の概要は次の通りである。英語の形式には事物や出来事に対する英語話者の知覚・認識の仕方がそのまま反映される。「形が違えば意味も違う（one form for one meaning）」をテーマに、語句・構文・談話の各レベルで、従来の説明を検証しながら、英語話者の文法を文化や思考パターンと関連付けて原理的に解明する。また、応用言語学的見地から、言語理論と言語教育との接点についても講義する。	
	英米言語文化論Ⅲ		本科目は、言語研究において重要な概念の一つである「主観性」に焦点をあて、言語研究において主観性がどのように捉えられてきているのか理解を深めることを目的とする。授業では、まず、英語学や日本語学など言語研究で「主観性」という概念がこれまでどのように論じられ、どのように捉えられてきたのかを概観する。その上で、英語の語彙レベルの言語現象についてのいくつかの先行研究をもとに、主観性が個々の言語現象にどのように現れているのか、主観性をどのように捉えると言語現象を説明することができるのかを検討する。授業は、担当者による担当部分についての説明と、クラス全体でのディスカッションを中心にすすめる。	
	英米言語文化論Ⅳ		本科目は、理論言語学・普遍文法理論の観点から英語の意味・構造に関する言語現象を考察し、日本語や中国語など他言語との比較も行う。英語の統語的・意味的性質について理解を深めること、英語とその他の言語との共通点・相違点について理解することをねらいとする。英語と日本語の諸言語現象の統語的・意味的性質、および英語と日本語の共通点・相違点について、(1)英語についての先行研究の分析を正確に理解すること、(2)先行研究で提出された仮説の妥当性を検証するために、英語や自分の母語の適切な例文を作ることができることを主な到達目標とする。このために、授業ではテキストの内容についての講義、内容についての議論、練習問題の検討を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	英米文芸文化論Ⅰ		この授業では、聖書を神聖なテキストであると同時に世界文学の一部として探求する。聖書が西洋思想や芸術表現に与えた影響を明らかにするため、様々なテーマや問題を取り上げる。聖書の重要な部分やテーマを選び出し、それらを西洋の芸術、文化、文学、ポピュラーメディアなどの解釈に応用する。授業終了時には、学院生は聖書が西洋の理想や創造的表現の形成に果たした役割について、より深い理解を得ることを目的とする。この授業は英語で行われ、TOEIC 800点またはTOEFL iBT 70点程度の中上級レベルの英語力があれば、授業を理解し参加することが可能である。	
	英米文芸文化論Ⅱ		19世紀のアメリカ作家Edgar Allan Poe（1809-49）の散文物語から1830年代末の代表的作品——“Ligeia”, “The Fall of the House of Usher”, “William Wilson”の3作品——を取り上げ、時代的・社会的背景に留意しながら精読することにより、19世紀アメリカ文学ひいては世界文学におけるPoeの位置づけを正しく理解・把握する一方、時代や地域を問わず適用可能な文学的知識及びテキスト分析技法を身につける。また考察結果の発表を通じて、修士課程の学生にふさわしい論理的思考力及びプレゼンテーション能力を実践的に涵養することを目指す。授業形態は講義及び演習の併用である。	
	英米文芸文化論Ⅲ		この講義では、イギリス文学史に関する概説書を精読することを通じて、イギリス文学全般にわたる基本的な知識を習得する。さらに、文学史の歴史的な流れを意識しながら、文学作品を分析・研究する姿勢を養う。具体的には、各時代の代表的な作家や作品を取り上げ、その背景や影響を考察することで、文学史の全体像を理解することを目指す。また、批評的な視点を持って作品を読み解く力を身につけることも重要な目標の一つとする。	
	言語学		本講義では、一般言語学の知識を前提とし、各自が専門とする言語学の諸分野（記述言語学、対照言語学、言語類型論、言語教育学、理論言語学、社会言語学など）に関する質の高い研究発表を行えるようトレーニングを行う。加えて、言語研究に関する専門性の高い文献を熟読し主要な論点や問題点をまとめる能力を養うとともに、言語研究の諸領域をカバーし任意の特定言語を研究対象とする様々な研究発表に対する建設的なコメントができるように研究指導を行う。	
	フランス言語文化		近代フランスの小説家マルセル・ブルーストMarcel Proust（1871 - 1922）の作品『失われた時を求めて』À la recherche du temps perdu（1913-1927年刊行）をフランス語原文で読む。まずは、第一篇『スワン家の方へ』Du côté de chez Swann（1913年刊行）のなかで、物語の理解のうえで重要な箇所を抜粋し、精読する。適宜、翻訳や関連書籍を参考とし、文章の構造を正確に把握しながら、原文で作品を読む訓練を行う。また、当該テキストに関わる批評文や研究書にも触れ、立体的な理解を目指す。	
	フランス思想史		本講義では、18世紀フランス啓蒙思想の主要な思想家とその著作を概観し、思想史の基礎的な知識と文獻学的手法を学ぶ。啓蒙思想は、理性と自由を重視し、伝統的な権威や迷信に挑戦した思想運動として知られており、その影響は現代社会にも深く根付いている。本講義では、ヴォルテール、モンテスキュー、ルソー、ディドロ、ダランベール、コンディヤックなどの思想家を取り上げ、彼らの思想と著作を詳細に分析する。また、文獻学的手法を用いて、テキストの読解と解釈の方法を習得する。これにより、学生は啓蒙思想の歴史的意義とその現代的な意義を理解し、思想史研究の基礎を築くことができる。さらに、講義ではディスカッションやレポート作成を通じて、批判的思考力と分析力を養うことを目指す。本講義は、今後の研究や学術活動において役立つ知識とスキルを提供することを目的としている。	
	英米歴史文化		この授業では、現代アメリカの宗教思想を背景に持ちながら国際平和実践に力を注いでいる人々の主張を学ぶ。その過程において英語を多読して、英語文献を多用する力を養い、問題の所在を明らかにする力を育む。国際的な感覚をもってアメリカの平和主義という問題を考える。この授業では、現代アメリカの宗教思想を背景に持ちながら国際平和実践に力を注いでいる人々の主張を学ぶ。その過程において英語を多読して、英語文献を多用する力を養い、問題の所在を明らかにする力を育む。国際的な感覚をもってアメリカの平和主義という問題を考える。	
	ヨーロッパ歴史文化Ⅰ		ルネサンス期人文主義者（地理学者でありヘブライ学者）セバスティアン・ミュンスターの作品『宇宙誌』を中心に、同時代の旅行記等の史料を比較検討し、中世後期から近世にかけての人文主義的知の拡大・受容、またヨーロッパ人の地理観（世界観）構築について知見を深める。同時に、英語文献を講読することで当該テーマの研究状況を把握し、英語文献を読みこなす力をつけることを目的とする。同時代の旅行記の翻訳を参照し、同時代人の記述を比較検討する。履修者は毎回のテキストを読むとともに、関連する人物・事象等について担当を決めてまとめ、報告する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学位 共通 科目 群	ヨーロッパ歴史文化Ⅱ		ヨーロッパ社会に通底する文化の一つ、キリスト教文化について、聖書や神話、伝承などの文献資料と、それらが視覚化された造形物資料を用いて理解を深めるための授業である。聖書やそれに関連する伝承資料をおさえたうえで、キリスト教的心性が、ヨーロッパにどのようにひろがっているのか、異文化理解を深める。異文化を理解することが、私たちが生きる現代の社会や文化を新しい視点でとらえなおすことにもつながることを理解する。	
	環地中海歴史文化		地中海沿岸域を中心とするヨーロッパ、アフリカ、アジアの古代史、中世史について史料に即した西洋史の研究方法を学ぶ。授業は対面の演習形式で実施することを原則とする。初回の授業時に履修者が関心を有する地域・時代について聴き取りを行い、それぞれの研究対象を尊重して授業を進める。なお、内容については、狭い意味での歴史学対象事象に限定することにはせず、古典、思想、音楽、美術、風俗等についても必要に応じて取り上げることにする。	
	西洋美術史		古代ギリシア美術をはじめとする西洋美術の歴史の中からいくつかのトピックを選び、それについて論じる。また、講義内容に対し、履修者が各自の問題意識に基づいて問いを立て、それについての調査報告とディスカッションを行う。西洋美術史の知識をつけるだけでなく、様式的、社会史的、あるいは感情史的など、造形芸術のさまざまな研究方法を身につけることを目標とする。	
行政 ネッ トワ ーク 分野 科目 群	憲法Ⅰ		基本的な人権の現代的課題を中心に扱う。憲法が保障する自由は、「国家からの自由」であると観念されてきた。しかし、現在では、生存権や国家による人権救済などの、「国家による自由」の必要性が強調されている。講義では、「ヘイトスピーチ規制」、「個人情報保護」などのいくつかの具体的テーマを設定して、現代人権論の二面性について考えることにしたい。本講義の目標は、日本国憲法の人権保障の概要について、基本的な理解を獲得することである。同時に、アメリカ・ドイツ・フランスなどの主要国家の法制度との比較についても、できるだけ詳しく触れることにしたい。	
	行政法		本授業では、各履修者の研究テーマに関連した行政法上の諸問題について検討を行う。授業で取り上げる具体的な内容は、各履修者と相談の上で決定するが、行政法に関連するものであれば、広く対象とすることを想定している。授業の方法としては、受講者による報告とそれに基づく質疑応答を中心とし、これらを通じて、文献や情報の収集、文献や判例の読解等、各自の研究遂行のために必要とされる基礎的事項などについて学ぶ。通常、法学部等における行政法関係科目は、行政法Ⅰ、行政法Ⅱ、行政法Ⅲなどという形で各分野に応じて開講されているのが通常であるが、本講義では、大学院で初めて行政法に触れる学生や、法学部等で行政法を学習したことのある学生で再度学習し直したい者を主たる対象として、行政法の全分野を視野に入れた講義を行う。	
	法社会学Ⅰ		本授業科目は、法社会学の入門的テキスト等を用いて、法社会学とはどのような学問であるか、どのような学問的アプローチが可能であるかについて、担当者を決めて章もしくはテーマごとにレジュメを用いた報告を行い、全員で討論を行うものである。本科目のねらいは、基礎法学の一分野としての法社会学という学問領域について全体的な知識を得ることであり、特に、体系的ではなく、さまざまな学問的アプローチをすることが可能であることや、具体的に身近なトピックを通じて社会と法のかかわり（＝法社会学の関心）をみることができることなど、法社会学の具体的なテーマについて知識と理解を深めることである。	
	政治学		本講義では、政治学の基礎知識と考え方を教授するものである。具体的には、近現代日本の政治過程を歴史的アプローチによって理解を深める。その際、狭義の政治過程のみに関心を限定するのではなく、政治と社会を総合的に捉える。これにより、修了後に職業政治家になる学生のみならず、市民社会の一員となる学生に対しても必要となる政治学の基礎的な素養を身につけ、同時に社会科学の学術論文を作成する際に必要な政治学の素養を身につけることを目標とする。	
	政治学Ⅱ		政治過程論とは、政治をめぐる一連のプロセスにおいて展開される、有権者、政治家、政党、官僚、利益団体、マスメディアなど多様な政治アクターの行動とその相互作用を客観的に記述し、政治現象の説明を試みる政治学の一分野である。20世紀初頭に誕生したこの分野では、市民の利益表出の手段とその経路、有権者の支持をめぐる政治家・政党の競合関係、政策形成における官僚の働き、諸集団間の利益調整メカニズム、マスメディアが世論に与える影響など、政治の諸局面に関する研究が幅広くなされてきた。本科目では、民主主義の根底をなす政治制度である「選挙」を主な題材とし、政治過程論の観点から、日本における選挙をめぐる政治について考察する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	行政 ネ ッ ト ワ ー ク 分 野 科 目 群	国際政治史	国際政治史・日本外交史、国際関係論の理論・思想、現代日本外交論、またそれらの周辺分野に関する研究書を講読する。これらの分野の方法論に関する文献や、一次史料を取り上げる場合もある。具体的には、参加者の関心を聞いた上で決定する。参加者は、どのような研究上の関心を持っているのか、初回参加時に詳しく説明する必要がある。どの分野や主題を選ぶかは参加者の希望によって変わるが、参加者の関心を踏まえて、その分野の最新の研究動向を理解することを目指すことになる。本科目は大学院科目であり、大学院生は、それその関心を追求するために必要なディシプリン・研究能力を身に付ける必要がある。本科目の目標は、まさにそうした力を身に付けることにある。	
		政治思想	古典古代から中世までの西洋では「政治的なもの」は「倫理的なもの」あるいは「宗教的なもの」に従属してきたが、近代は「政治的なもの」の自律性を促進し、政治それ自体に固有の論理を分節化することに成功した。しかし、それは他方で権力の無限大の拡大をとめない、「政治的なもの」をいかに抑制するかという課題を現代の政治思想家に突き付けてきた。この科目では、古典古代から現代までの西洋政治思想史を振り返りながら、そうした課題へのさまざまなアプローチを考察する。	
		行政学	本科目は、現代日本およびイギリスの事例を用いながら、都市問題に対して行政が実施した政策を、個々の政策の立案と実施の経過に即して検討し、その政策が都市行政の構造にどのような影響を及ぼしたのかを検討する講義形式の授業である。その中でも、NPM(New Public Management)の導入以降、政策サイクルにおけるフィードバック機能の問題を实地調査を踏まえながら考察し、政策情報と行政及び住民との関係、特に広報・広聴、情報公開や住民からの意見表明の問題点に焦点を当てる。本講義を通じて、政策サイクルと、サービス提供との関連を理解すると共に住民参加と政策過程との関係について、住民と対象者の準同一性、住民の管理可能性という視点から検討する視座を持つことができるようになることを達成目標とする。授業は、住民と地方自治、地方自治の組織、組織と公共サービス、財政と公共サービス、政策サイクル、公共サービスの提供形態、ガバメントとガバナンス、をテーマに、概ね2回ずつ講義をおこなう。	
		国際法	国際法の基本概念を理解できるようにすることを目的とし、講義形式で現代国際法の重要な論点について検討する。具体的には、外国語（英語・仏語）で執筆された国際法教科書の購読と並行して、国際司法裁判所の判決・勧告的意見を取り上げる。それにより、国際法の主要な論点についての理解を深めつつ、そのような論点についての議論を原典に当たりながら理解できるようにする。参加学生は、教科書の輪読及び判例の報告を分担して行う。	
		租税法	本授業では、修士論文の執筆に向けて必要な租税法学での考え方や法解釈の方法を身に付けることを目的とする。具体的には、租税法総論、租税手続法、所得税法、法人税法、相続税法、消費税法について、概略を講義することにより、租税法学の全体的な内容を理解して、修士論文におけるテーマ決めの一助となるようにすることを目的とする。	
		情報法	憲法上のプライバシーの権利と行政法としての個人情報保護法について現行法の解釈論中心に講義する。また、その前提として、（1）コンピュータの歴史とその脅威、監視国家とは何か。及び（2）OECDプライバシーガイドライン、GDPR、EHDS、次世代医療基盤法、番号法等「個人データ保護法制」、（2）公文書管理法、情報公開法等「文書管理法制」、（3）公務員の守秘義務、医療従事者等の守秘義務等「守秘法制」、（4）知的財産、営業秘密等「情報財産法制」についても概観する。その上で、（5）日本のあるべき個人情報保護法について立法政策的検討を行う。	
		社会保障法	社会保障法総論、所得保障法、医療保障法、社会福祉法制を扱う。所得保障に関する制度には、年金、就労支援と労働保険、生活保護が含まれる。医療保障法では、公的医療保険と医療提供体制を扱う。社会福祉法制では、介護保険、障害者雇用・自立支援、出産子育て支援・児童福祉、権利擁護を扱う。社会保障法の総論としては、社会保障法と憲法、社会保障の方式の2つの分野を取り上げる。各項目においては、法制度の内容と制度趣旨、歴史的展開や政策課題を中心に取り扱い、関連する重要な裁判例も検討する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	民法Ⅰ		本授業では、民法学における古典的著作を精読することを通じて、民法学の研究に必要な知識・技能・読解力を習得することを目的とする。対象としては、差し当たり、川島武宜『所有権法の理論』を想定しているが、履修者の希望に応じることでもある。履修者は、毎回の授業における講読箇所を要点、テキストを理解するために必要な背景情報、テキストを内面的に理解した上での外在的な批判、等をまとめた報告レジュメを作成していただくことが求められる。	
	民法Ⅱ		2020年に施行された民法改正法（いわゆる債権法改正の対象として具体的に改正がおこなわれた条文および制度を対象とする）について、主に法制審議会議事録や部会資料などの立法資料の調査と分析を通じて、特に立法過程において重要な争点となった諸論点について検討する。また、この検討を通じて、市民社会における民法の現代的な意義と社会の変化に対応した法改正のあり方について考察する。授業の進捗は履修者に担当テーマの報告をおこなってもらったうえで、この内容を踏まえて、担当教員を含めた履修者全員で討議をおこなう。加えて、期末レポート作成に向けた個別指導をおこなう。	
	民法Ⅲ		民事裁判の豊富な経験を有する教員により、民事要件事実論を通じ、民法の理論と実務の架橋を探究することを目的とする。講義は、民事要件事実論に関する論文・書籍、これに関する判例を基礎的なものから応用に至るまで幅広く収集して講読し、担当者に報告してもらい、教員・受講生を含めた討論を行い、その結果を踏まえて考察を深めていく。民事要件事実の論点の紛争解決上の意義を理解したうえで、民事要件事実の論点と実体法の解釈の関係についての理解を涵養する。	
	刑法Ⅰ		企業による経済活動の社会的重要性の著しい増大は、企業による不正行為に対する規制を不可欠すると共に、正当な企業活動を違法な攻撃から保護する必要性を拡大させた。経済刑法は、これらの要請を受けて、比較的近年確立した学術分野である。経済刑法は、企業活動と経済取引に関連する犯罪に対する刑罰法規一般を指すものとされており、経済刑法に含まれる刑罰法規は、例えば、①競争刑法（市場機能の保護）、②企業活動の保護、③消費者刑法（消費者や一般投資家の財産的利益の保護）、④租税刑法・補助金詐欺等に分類される。本科目では、これら各分類の事例に焦点を当て、経済犯罪についての知見を得ることを通じて、経済刑法の体系を理解し、経済活動に対する規制のあり方について合理的な判断ができるようになることを目的とする。	
	刑事訴訟法Ⅰ		受講者それぞれの問題関心に応じて各人の研究テーマを設定し、各回の個別研究報告を素材に受講者全員で議論を行う形式で授業を展開する。テーマの設定に際しては、刑事重要判例や犯罪に関する時事問題などを素材として、刑事手続上の諸論点・諸問題について研究することに留意する。この一連の作業を通じて、自力で論点を発見し、考察して、それを素材に周囲の者と議論する能力を身につけることを目指すとともに、刑事訴訟法の学力を固めつつ、法的思考方法の涵養を目的とする。	
	刑事訴訟法Ⅱ		本演習では、基本的な最高裁判例及び近時の論点に関連する裁判例について、報告者が文献等を調査した上でレジュメを作成し、その他の者と議論を行う形式で行う。刑事法に関しては、学説と判例・実務の乖離が著しいと指摘される。そこで、実際の事案を通じてこれを検討することで、判例・実務の考え方のポイントを掴むことを目的とする。なお、本演習では、刑事訴訟法を中心として、これに関連する法領域についても取り扱う予定である。	
	労働法		労働法上の諸問題について、報告及び討論を行う。具体的には、各受講生が、自らの研究計画に即し、興味関心がある諸問題について、講義において報告し、他の受講者はそれについて討論を行う。ただし、受講生が労働法の初学者である場合には、受講者は、労働法上の諸問題の問題提起のみを行い、講師がそれに対して講義する形式で行うことがある。労働法上の諸問題を研究し、論文作成につなげることを目的とする。また、労働法に関し幅広い素養を修得するために、受講生同士での討論を通じ理解を深めることも目的とする。	
	商法Ⅰ		本授業は会社法を取り扱うものである。授業の各回の報告者は、指定した会社法の教科書を参考にしながらレジュメを作成する。他の受講者も議論に参加する。また、本授業では近時の会社法のトピックスについても必要に応じて取り扱う。本授業は、会社法の基本的な知識を正確に習得し、会社法上の伝統的な論点および近時の議論動向に関する理解を深め、会社法上の論点について判例・学説の状況を説明できるようにすることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	損害賠償法		本講義では、各履修者の研究テーマに関連した損害賠償法に関する諸問題について検討を行う。授業で取り上げる具体的な内容は、各履修者と相談の上で決定するが、民法などの損害賠償法に関連するものであれば、広く対象とすることを想定している。授業の方法としては、受講者による報告とそれに基づく質疑応答を中心とし、これらを通じて、文献や情報の収集、文献や判例の読解等、各自の研究遂行のために必要とされる基礎的事項などについて学ぶ。	
	金融取引法		我が国における金融取引法について、銀行（メガバンク・地方銀行・地域金融機関等）、証券会社、貸金業者、資金決済法の適用業者（ビットコイン等の仮想通貨の取り扱い業者等含む）、割賦販売法の適用業者等、個々の金融の担い手の業務関連の銀行法・預金保険法・金融商品取引法等の特別法や一般法の枠組みと各主体の会社法・金融取引法に基づくコンプライアンス体制、グループ管理における実質支配基準に基づく連結自己資本比率規制や、内部統制の枠組みについて概観し、各種金融機関における実務とその前提となる民法の民事法分野における金融担保的取引に関する法律問題・DXによるデジタルデータの電子署名法・民事訴訟法上の取扱い等の研究の関連についての修士課程レベルでの研究の基礎を習得し、金融取引法の周辺領域・関連領域も含め、受講生の研究における修士論文作成に向けた方法論的な活用を可能とする研究指導を行う。	
	Japanese Family Law and Society		本講義は社会の基礎的な最小単位とされる家族を規定する法（民法等）について、現行法の仕組みや裁判所制度の紹介を交えながら、歴史的・法社会学的観点から概観するものである。新しい家族概念や論点についても取り上げる。特に日本の家族法制度の概要を把握し、家父長制的な旧家制度など家族法の歴史的背景や現行法の特徴を理解することをねらいとしている。また、クラスでのディスカッションを通じて、家族法と社会に関する様々なトピックを比較研究の観点から扱い、様々な国・地域の法制度や文化に関する知識や見解を交換することが期待される、双方向型の授業である。	
国 際 社 会 分 野 科 目 群	International Law		The course is designed to provide students with basic understanding of international law in English. It will be conducted by a mixture of lecture and tutorial (discussion), together with student's presentation. Through the class, students are encouraged to obtain a basic legal perspective of international relations. 本講義は国際法や法学の知識が無い学生を対象に、国際法の基本的知識を得ることで、国際社会の諸問題を法的観点から分析できるようにすることを目指す。講義形式により実施し、外国語（英語）で教授する。テキストに基づく講義と、講義内容を深めることを目的とする追加的議論や事例発表などのプレゼンテーションを交えた参加型の討論により行う。これにより、現在生じている様々な事象について法的な観点から理解できることを目指す。	
	Politics in Contemporary Japan		A seminar course covering various issues in contemporary Japan. We will discuss Funabashi and Kushner, eds., Examining Japan's Lost Decades (London and New York: Routledge, 2015). In this seminar course, students will read, discuss and present chapters in Funabashi Y. and Kushner B., eds., Examining Japan's Lost Decades (London and New York: Routledge, 2015), in which 19 leading experts on contemporary Japan argue about various issues that the nation is currently struggling to solve, such as those of demography, economy, labor, education, the Fukushima accident, political system, Asia policy, US-Japan alliance, historical memory, etc. This course is particularly aimed at international students who are not fluent in Japanese language but would like to learn what are the issues that the Japanese politics and society is facing right now. It is recommended that the students have the basic knowledge of Japanese politics before the beginning of the course. 現代日本の様々な課題を対象とする演習科目である。主に、次の文献について議論する：Funabashi and Kushner, eds., Examining Japan's Lost Decades (London and New York: Routledge, 2015)。この科目では、現代日本に関する19人の優れた専門家が記した当該文献を対象として、講読、討論、プレゼンテーションを行うものである。より具体的には、日本が直面している多くの課題、例えば少子高齢化、経済、労働、教育、福島原子力発電所事故、政治体制、アジア政策、日米同盟、歴史問題、などである。この科目の主たる対象学生は、日本語に必ずしも習熟していないが、日本政治や社会が今現在取り組んでいる問題は何なのかについて学びたいという、外国学生である。本授業の開始前に日本政治に関する基本知識を備えていることが推奨される。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	国際社会 分野科目群	Political Economy	本科目は、世界経済をめぐる時間的・空間的なメカニズムの動態を見据えるための基礎理論を体系的に学び、現代の複雑な社会の実相を生じさせている因果関係について鋭く見抜くための知的技術および技量を養うことを目標とする。授業形態は外国語のテキストを用いて外国語（英語）による演習形式で実施する。指定されたテキストの解説から論点・疑問点を探り出し、そこに解説や議論を加えると共に、各回に提示される課題レポートの作成を通じ、知見の習得を確認するというプロセスの下に授業を進めていく。	
	理論・計量経済 分野共通科目	ミクロ経済学	ミクロ経済学は様々な分野の経済学の基礎を成している。故に、経済学の分野に関わらず、ミクロ経済学の理論の知識を深めることは重要である。この科目（ミクロ経済学）とミクロ経済学演習では修士課程レベルのミクロ経済学を講義する。学部で学んだミクロ経済学の理論を復習し、より厳密にミクロ経済学の理論を解説し、理論の一般化の方向性及び応用方法について講義する。この科目（ミクロ経済学）では消費者の行動及び生産者の行動について厳密に解説する。	
		組織の経済学	我々が社会生活を営む上で不可欠な様々な経済活動を、統一的な視点から考察し深い認識を共有するために、近代経済学は発展を遂げてきた。近代経済学の基礎理論を修得することで、現実の経済問題を統一的な視点から認識する手掛かりが得られる。本講義では、ミクロとマクロに二分される近代経済学の中で、ミクロ経済学について基礎的な理論を修得することを目的とし、特に企業組織に関係する経済学について、基礎的な知識を身に付けることを目的とする。	
		計量経済分析	この講義では、消費者や企業、政府などの経済活動に関するデータを統計学的に分析する手法として開発された計量経済学の理論について学ぶ。授業は講義形式で行い、以下の内容について扱う：最小2乗法、単純回帰モデルと仮説検定、信頼区間、最良線型不偏推定量と一致性、重回帰モデルと推定値の解釈、モデルの関数形と特殊な変数、不均一分散と自己相関、説明変数の内生性と操作変数法、差の差の推定法、逆の因果関係と同時方程式、パネルデータ、条件付きロジットモデル	
		環境経済学	大学院における研究と学位論文の執筆には、専門的基礎の知識と調査研究の手法、研究内容の考察及びとりまとめ、発表及び論文執筆についての広範な知識が必要である。この講義では、環境経済学分野の研究の基礎となるテキストを用いて自然環境と経済社会の基礎的な関係性、環境経済学による分析手法、環境政策への応用等についての教科学習内容に関する講義を行う。また、履修者による自習内容の発表や討論も交えて、より効果的に専門的基礎の素養を習得する。	
		労働経済学	この授業では、労働市場の実証分析を深く学ぶ。具体的には、労働供給と需要の理論、最低賃金、失業、労働移動、人的資本理論、労働市場の不平等などが取り上げられる。授業では、賃金決定や雇用のダイナミクスを解析するために、計量経済学や統計学を活用する。加えて、労働市場の現象に関する最新の学術研究や政策分析を題材に議論を行い、実社会への応用も重視する。実証の側面から労働市場を理解する能力が養われる。	
		ゲーム理論	ゲーム理論の基礎を学ぶ。ゲーム理論は複数の意思決定主体の戦略的な依存関係を合理性の観点から分析する数理的理論である。ゲーム理論は産業組織理論、公共経済学、厚生経済学、国際経済学、マクロ経済学など経済学のあらゆる分野に応用されており、いまや経済理論の必須事項であると言って過言ではない。本科目においてはゲーム理論をその経済学および諸科学分野への応用を念頭に、その数学的・技術的な部分に十分配慮しつつ、全体的な理解を得ることを目指す。	
		マクロ経済学	学部でマクロ経済学を学んだ経験がない学生も受講することを考慮し、マクロ経済学を基礎から学ぶことが本講義の内容である。マクロ経済統計（国民経済計算、国際収支統計、労働統計）の見方を学び、主に閉鎖経済における基本的な短期モデルから、中期、長期モデルまで学ぶことによって、それらのモデルにおける価格調整や、期待形成についての仮定やその構造の違いを理解するとともに、政策効果等を分析するための理論的な枠組みを修得することを目的とする。	
		国際マクロ経済学	為替レートに関する実証研究、理論研究の最近までの流れを理解する。より具体的には、購買力平価、金利平価などの裁定条件に関する一連の実証研究を概観し、動学一般均衡モデルを用いて為替レート、貿易収支、財政・金融政策の国際的な波及について理論的に分析できるようにすることを目標とする。講義の進め方としては、国際マクロ経済学に関する論文・テキストを輪読する。大学院初級レベルのマクロ経済理論や計量経済学の基礎的な知識を事前に持ち合わせていなければならない。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	理論・計量経済分野共通科目 経済統計学		本講義では、消費者や企業の経済活動に関するデータを分析する上で重要となる統計的推論（推定と検定）の考え方について学ぶ。データに基づいた統計的な分析は、経済学の理論分析から得られた仮説を検証したり、実際に導入されている政策の効果を定量的に評価する際の客観的な証拠（evidence）となる。一方で、分析者が入手できるデータは全体（母集団）の一部分（標本）であり、標本から母集団について推測（統計的推論）しようとする、推測を誤る可能性が生じる。統計的推論では、このような標本から母集団について推測する方法と、推測の誤りが生じる可能性について理論的に考察する。統計的推論により例えば、確率的に定まる変数の平均や分散などの特性について仮説を立て、その真偽について統計的に判断することが可能となる。統計的推論の考え方を学ぶことで、「計量経済分析」や「計量経済分析演習」の受講に必要な知識の習得を目指す。	
	応用ミクロ経済学		マッチング理論とその応用について学ぶ。加えて、マッチングやオークションを学ぶ上で必要な単調比較静学についても扱う。マッチング理論、オークション理論そしてその関連分野を最近ではマーケットデザインと呼ぶ。マッチング市場で、誰と誰（何）が結びつくのが（誰にとって）良いのか、企業と労働者を結び付ける良い方法はあるのかを考察する。その過程で、オークション理論とマッチング理論が同時に議論されるべき理由が分かるはずである。海外ではそして一部日本でも、これらのマッチング理論は大学入学者選抜問題や腎臓移植ドナー交換プログラムなどの現実問題に応用されている。	
グ ロ ー バ ル 社 会 経 済 ネ ッ ト ワ ー ク 分 野 科 目 群	財政学		今日の財政システムを巡っては、経費構造の見直し、財政の持続可能性、グローバル経済下での税制改革、社会保障制度改革など、従来のものから新たなものまで、多数の改革の論点が提起されている。財政の現状と改革の動向、改革の論点を理解するためには、財政に関する理論・歴史・制度の深い知識が欠かせない。本講義では、財政学に関する基礎的・専門的文献を読み、財政理論や財政の歴史的展開を深く理解すると共に、日本財政を中心とする近年の財政制度についても理解を深める。	
	世界経済史		経済史に関するテキストの輪読（テキストは日本語または英語、発表は日本語）と受講生による研究発表（日本語）を行い、受講生全員で討論を行う。経済史だけでなく、文化交流・環境問題や資源問題と経済社会の関連・外国史・帝国史・世界史における日本など、グローバル・ヒストリーが対象とする内容も取り扱う。とくに西洋近世を中心的に扱うが、近代（産業革命以降の時代）以降も対象とする。また、西洋だけでなく、東洋や日本との接続の歴史も扱う。	
	比較経済思想史		本講義では、比較経済思想史研究にあたって基礎となるテキストを輪読し、議論をしてゆく。テキストは受講者の研究テーマを勘案し、その進展に資するようなものを総合的に選定する。今年度は『米欧回覧実記』をテキストにする予定である。選定したテキストをもとに、毎回テーマを設定し、各人に報告をしてもらう。その際、テキストの内容をただ祖述するだけでなく、批判的に読むことが求められる。比較経済思想史、とくに日本を中心とした東アジアの思想史に関する知識を身につける。受講者が外国人である場合には、古典的な日本語を解読する能力を身につけることも本科目の目標である。また、テキストの内容にもとづき、論理整合的に議論ができることをめざす。	
	アメリカ経済		当科目では、アメリカにおける経済の仕組みの発達と現状が世界の経済や秩序の変容にどのような働きを促してきたのかについて、演習による形式の下に学ぶことを目標とする。具体的には、産業・貿易・金融・通貨・政策・国際関係の各ポイントの動向や動態を景気の変動の内に体系的に包括させてその影響性を時空両面の角度から形視座から把握していくことを狙いとする。授業形態および作業計画については、演習形式を採用し、①テキストの解読、②論点・疑問点の創出と提示、③質疑応答に基づく解説のプロセスを経ながら知見の習得と探究を進めていく。	
	ロシア東欧経済		ロシアや東欧（中欧、東欧、南東欧）経済をめぐる体制転換論、比較経済論、移行経済論、経済現状分析、国際情勢についての先行研究や調査機関レポート、統計を読み解きながら、ロシアおよび東欧諸国の経済について、社会主義計画経済から資本主義市場経済への体制転換の歴史、経済発展、政治経済動向、BRICS等の国際経済秩序の新機軸など多面的に研究する。比較対象としてEU、アメリカや、中国やベトナムなどのアジアの移行諸国、ならびにその他の新興諸国も扱う。授業は講義と課題演習を組み合わせ実施する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	E U 経済		超国民国家的経済主体としてのEUが提示する欧州地域における経済統合の今日的意義（A.S. ミルワードによる「統合を通じたヨーロッパ国民国家の救済」テーゼ）について、1648年を起点とする「ウェストファリア体制」の時間的可変性と空間的多様性に着目しつつ、経済制度、経済政策、国際経済関係、ポストモダン時代の超国民国家的特色を反映した「サブカルチャー」などの多様な観点から考究する。(1)多様な属性を有する受講生諸氏の存在を前提に、教育効果の観点から、Zoomを用いたリアルタイム型授業と対面型授業を併用する。(2)囚人ゲームの精読・解説を中心とするが、適宜、受講生諸氏による研究（学修）成果発表を折り込み、「通説」に挑戦する強い意志を養う。積極的参加が望まれる。	
	中国経済		中国経済は計画経済から市場経済への移行経済という側面をもち、経済制度の大きな変革を伴いながら、高度経済成長を経て、こんにち資本蓄積過剰など多くの矛盾が露呈してきている。本講義は、受講生が中国経済を体系的に理解することを目標とし、中国経済の今日注目されているいくつかの側面（労働力市場、国有企業改革、金融制度改革、中央—地方政府間関係など）を、受講生の研究方向を勘案しながら文献の輪読とデータ分析を通じて研究していく。そのため受講生は毎回事前にテキストを熟読し、報告者はレジュメを準備すること。	
	開発途上国経済		開発経済学・アジア経済論（開発途上国経済論）に関わる大学院レベルの知識・理論を身につける。当該分野に関するできるだけ新しい文献・論文を知り、読解し、理解する。また、文献の探索方法を学び、論文の作成方法を身につけることも目標とする。担当者はレジュメ・パワーポイントスライドを作成し、文献の内容を発表する。後、参加者全員でディスカッションを行う。教員が指示した文献を探索し、読解しておくこと。担当者は、レジュメ・スライドを作成し、発表の準備を行う。	
	政治経済学		この授業では、政治経済学の概要について、新古典派経済学と対比しながら、理論的構造について講義する。授業形態としては、対面における演習形式で行う予定である。講義の範囲は、いわゆるミクロ経済学とマクロ経済学と呼ばれている領域を含んでいる。政治経済学とは、社会経済学などと呼ばれる、新古典派経済学ではない、歴史的・制度的な要因を重視した経済学の総称である。この講義では、現在主流派である新古典派経済学との対比において、政治経済学の理論構造を考察する。政治経済学ないしは社会経済学の理論的概要について、主流派である新古典派経済学との理論的相違点について最新の研究成果について、その理論体系に基づいて網羅的に学習してゆく計画である。	
	ゲーム理論		ゲーム理論の基礎を学ぶ。ゲーム理論は複数の意思決定主体の戦略的な依存関係を合理性の観点から分析する数理的理論である。ゲーム理論は産業組織理論、公共経済学、厚生経済学、国際経済学、マクロ経済学など経済学のあらゆる分野に応用されており、いまや経済理論の必須事項であると言って過言ではない。本科目においてはゲーム理論をその経済学および諸科学分野への応用を念頭に、その数学的・技術的な部分に十分配慮しつつ、全体的な理解を得ることを目指す。	
マ ネ ジ メ ン ト 分 野 科 目 群	公共経済学		公共経済学は、現代の公共政策の策定、実施および評価において必要不可欠な考え方の一つであり、経済学の応用分野の一領域である。本科目は、公共政策の分析、評価に不可欠な公共経済学を講義を通じて体系的に理解することを目指すものである。内容は、資源配分機構としての市場と政府の役割、租税制度に加え、外部性や公共財、情報、リスクなどの経済学の概念に基づいて現代の公共政策の中核を担っている社会保障、医療、教育を扱う。	
	公共選択論		本科目では、わが国の財政再建が常に頓挫し、財政赤字が拡大してきた理由について、「政府の責任と限界」という視点から捉える。本科目の目標は、「経済学的な理論を用いてわが国の政治経済の動きと課題を説明できること、その解決策を理論的に検討できること」である。授業は、動画配信を用いたオンデマンド型とZoom会議システムを用いたリアルタイム型オンライン授業のいずれかで実施するものとし、事前に学務情報システム等を用いて連絡する。主要なトピックは、市場の効率性と市場の失敗、民主主義と公共財、政治的競争と公共支出などである。	
	中小企業論		大企業との関係において規定されることの多い中小企業は、全体の企業数の99.7%を占めている。そのため、大企業よりも中小企業の方が日本の経済の基盤、地方経済の活性化の重要な担い手となっている。近年では、グローバルな市場における日本企業と海外企業との競争が激化し、その結果、今まで以上に海外に進展し、グローバルな視点で経営していくことが求められている。本科目では、中小企業の海外展開の理論的分析、従来の議論や海外展開の要因の整理、現代における課題などについて総合的に理解し、議論を重ねていく。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	地方財政		当該科目は、講義形式で行い、地方税財政制度を中心に地方自治体が実施する公共政策を題材として、地方自治体が地域の独自性を活かしながら分権型社会を踏まえた政策をどのように展開すべきかを考えていく。当該科目を通して、学生が地方自治体の実施する地方税財政及び関連する各種施策の現状、背景、課題について理解し、説明することができるようになることを目標とする。当該科目の授業は、毎回事前に配布するレジュメの予習を前提として、教員の講義に加えて教員から学生への質問を通して、レジュメの内容の理解を深める。なお当該科目は、政府や地方団体での行財政運営の経験を有する教員が、その実務経験を十分に活かして行う授業科目である。	
	経営戦略論		本科目では、経営戦略論を「研究」するにあたって必要な基礎的内容について、特に体系的かつ（可能な限り）網羅的な知識を身につけることを意識しながら学ぶ。具体的には、事業戦略と企業戦略の策定と実行にかかわる理論、概念、モデルについて、それらが構築された背景・前提・境界条件等までをも伴った形で、正確に理解できるようになること、および事業戦略と企業戦略の策定と実行に関して、多様な「問い」を立てられるようになることを目指す。	
	経営組織		組織理論の専門知識と、組織研究のメソッドロジー（方法論）について学ぶ。具体的には、機能主義的・法則定立的なアプローチの組織理論を中心に据えたテキストを初めに輪読する。そのうえで、機能主義に限らない様々なパラダイムと組織理論との関係を論じたテキストを輪読する。学修の到達目標は次のとおりである。・組織理論に関する文献を読み、内容を正確に把握することができる。・文献の内容について、適切かつ過不足なく要約して、他者に伝えることができる。・機能主義的組織論、解釈主義的組織論、ポストモダン組織論、クリティカル・マネジメント研究のそれぞれの特徴について理解する。	
	組織行動論		組織行動論の基礎を学習する。Stephen P. Robbinsの『組織行動のマネジメント』を輪読し、基礎的な知識を修得する。組織行動論の基礎を学習し、専門書の精読に精通するためのトレーニングをおこなう。専門書を読みこなし、自らの研究に活用できる力を養います。専門書を精読し、その内容をレジュメにまとめて発表できるようにする能力を養う。同時に、他者の発表を聞いて、的確な質問をしてグループ・ディスカッションができる素養を身につける。	
	医療経営		本科目は、「非営利性」と「効率性」の両立を探究する視点から、医療経営学の基本的な考え方とその重要性を学ぶ。具体的な目標は、1. 一般的な経営学と比較した場合の医療の特殊性を理解する、2. 医療経営に関する考察を深めるための医療経済学的フレームワークや理論を学ぶ、3. 日本の医療提供システムや保障制度（法・制度・システム）について理解する、4. 現代の医療問題を医療経営学的視点で考察し、解決策を導き出す、以上である。本科目では、医療経営学と一般的な経営学との違いを説明できるようになり、医療経営学・医療経済学のフレームワークを身につけ、また日本の医療制度についても理解を深める。さらに、現代の医療課題に対して、医療経営学のアプローチを用いて自分なりの考えを述べるができるようになることが期待される。	
	マーケティング論		マーケティングの中心概念である価値創造のために、マーケティング・マネジメント・プロセスをどのように行うべきかを理解する。また、マーケティングがどのように進化してきたかを理解し、現代のあるべき姿について考えがもてるようになることを目指す。毎回課される調査テーマにもとづき、各自が発表し、重要な諸概念について実社会で実走されている事例がどのようにかわっているのかを議論し理解していく。	
	行政学		本科目は、現代日本およびイギリスの事例を用いながら、都市問題に対して行政が実施した政策を、個々の政策の立案と実施の経過に即して検討し、その政策が都市行政の構造にどのような影響を及ぼしたのかを検討する講義形式の授業である。その中でも、N.P.M(New Public Management)の導入以降、政策サイクルにおけるフィードバック機能の問題を実地調査を踏まえながら考察し、政策情報と行政及び住民との関係、特に広報・広聴、情報公開や住民からの意見表明の問題点に焦点を当てる。本講義を通じて、政策サイクルと、サービス提供との関連を理解すると共に住民参加と政策過程との関係について、住民と対象者の準同一性、住民の管理可能性という視点から検討する視座を持つことができるようになることを達成目標とする。授業は、住民と地方自治、地方自治の組織、組織と公共サービス、財政と公共サービス、政策サイクル、公共サービスの提供形態、ガバメントとガバナンス、をテーマに、概ね2回ずつ講義をおこなう。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	行政法		本授業では、各履修者の研究テーマに関連した行政法上の諸問題について検討を行う。授業で取り上げる具体的な内容は、各履修者と相談の上で決定するが、行政法に関連するものであれば、広く対象とすることを想定している。授業の方法としては、受講者による報告とそれに基づく質疑応答を中心とし、これらを通じて、文献や情報の収集、文献や判例の読解等、各自の研究遂行のために必要とされる基礎的事項などについて学ぶ。通常、法学部等における行政法関係科目は、行政法Ⅰ、行政法Ⅱ、行政法Ⅲなどという形で各分野に応じて開講されているのが通常であるが、本講義では、大学院で初めて行政法に触れる学生や、法学部等で行政法を学習したことのある学生で再度学習し直したい者を主たる対象として、行政法の全分野を視野に入れた講義を行う。	
	組織の経済学		我々が社会生活を営む上で不可欠な様々な経済活動を、統一的な視点から考察し深い認識を共有するために、近代経済学は発展を遂げてきた。近代経済学の基礎理論を修得することで、現実の経済問題を統一的な視点から認識する手掛かりが得られる。本講義では、ミクロとマクロに二分される近代経済学の中で、ミクロ経済学について基礎的な理論を修得することを目的とし、特に企業組織に関係する経済学について、基礎的な知識を身に付けることを目的とする。	
	マクロ経済学		学部でマクロ経済学を学んだ経験がない学生も受講することを考慮し、マクロ経済学を基礎から学ぶことが本講義の内容である。マクロ経済統計（国民経済計算、国際収支統計、労働統計）の見方を学び、主に閉鎖経済における基本的な短期モデルから、中期、長期モデルまで学ぶことによって、それらのモデルにおける価格調整や、期待形成についての仮定やその構造の違いを理解するとともに、政策効果等を分析するための理論的な枠組みを修得することを目的とする。	
	技術経営		経営学の学際的な研究領域の、技術経営とイノベーション研究は、マネジメント研究の中で成長が著しい研究領域の一つである。また実務の上でも研究の面でも、様々な研究技法が提案・利用されてきた。こうした中で、技術経営戦略を構築する上での基礎として必要な理論や諸概念について、基礎的な概念及び知識を俯瞰的に習得することを第一の目標に、イノベーション論の最新のトピック・テーマについて学ぶ。具体的には、イノベーションのモデルとその測定、デジタル化などの最新の 이슈、技術競争力の蓄積、技術多角化戦略、技術ポートフォリオの管理、未来洞察など、技術経営に関わるツールや研究開発のマネジメント、研究開発評価手法、グローバル化、サービスイノベーション等について扱う。	
	財務会計		企業が行うモノ・サービスの生産・販売や、資金の調達・運用などの経済活動を記録し、外部の利害関係者に報告するシステムのことを財務会計と言う。財務会計は、①投資家に情報を提供することにより資本の適切な配分を促進する機能、②経営者の監視に寄与することにより経営者が責任をもって行動するよう動機づける機能の2つの機能を持つ。この科目では、学部レベルの財務会計論の知識を前提に、実際の社会における財務会計の役割とその分析方法について、テキストの輪読を通して学ぶ。輪読するテキストは第1回目の授業で履修者と相談した上で決定する。	
ア カ ウ ン テ ィ ン グ 分 野 科 目 群	管理会計		現代社会の企業は、ますます不確実性を増す経済環境において、様々な意思決定や組織管理手法を用いる必要がある。管理会計を学ぶことは、数字を産み出す単なる計算技法を理解することにとどまらない。企業が経営を行う上で直面する様々な問題への理解、国や地域ごとの企業観の変化の理解、周辺領域との学際的な理解など、多方面からの考察が不可欠である。本授業は、こうした高い意識のもと、管理会計を学ぶ。本授業は、受講生のプレゼンテーションおよびディスカッションを進めていく授業である。	
	国際会計		授業形態は、対面式を原則とし、学生による説明を中心とする。学習目標は、教科書（William R. Scott and Patricia C. O'Brien, "Financial Accounting Theory"）の本文を理解し、重要な論文の要点を把握し、各章末問題を独力で解けることである。例えば、経営者のインセンティブシステムの内容が財務諸表や経営者の行動に与える影響を理論と実証の両面について説明できるようにすることである。授業計画としては、毎回教科書の1つの章を学習することを予定している。	
	経営税務		この授業では、企業経営において最も重要な租税法である、法人税法及び消費税法について、その基本条文を解釈・適用するために必要な能力や知識を得ることをねらいとする講義である。内容としては、法人所得の計算、益金及び損金の計算、寄附金及び交際費等の損金不算入、消費税法における納税義務者及び課税対象、仕入れ税額控除の計算などが規定されている条文の解釈・適用について、我が国の裁判例や諸学説の紹介を交えながら講義形式で学んでいく。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	租税法		本授業では、修士論文の執筆に向けて必要な租税法学での考え方や法解釈の方法を身に着けることを目的とする。具体的には、租税法総論、租税手続法、所得税法、法人税法、相続税法、消費税法について、概略を講義することにより、租税法学の全体的な内容を理解して、修士論文におけるテーマ決めの一助となるようにすることを目的とする。	
	映像文化I		1990年代からハリウッド映画産業が実践してきた「政治的正しさ(Political Correctness)」の歴史と、2000年代に見られるジェンダーとセクシュアリティ表象を、特に以下の観点から理解することを目指す。 ①物語映画を形成する歴史的・政治的・経済的・技術的・社会的要件 ②物語映画における人種、階級、ジェンダー、セクシュアリティ表象を形成する歴史的・政治的・経済的・技術的・社会的要件 ③物語映画を受容する観客にとっての「政治的正しさ」を形成する歴史的・政治的・経済的・技術的・社会的要件	
	映像文化II		本講義では、日本のアニメおよびマンガにおける起源問題、ディズニーとアメリカニズム、キャラクターの身体性と成長、戦時下の科学主義、アメリカ占領期と手塚治虫など様々なテーマについて講義を行う。具体的には、日本のアニメおよびマンガにおける歴史上の諸問題、特に戦前および戦時下における展開を実証主義的に考察し、それらが置かれてきた文化的・社会的・政治的文脈を理解しつつ、両文化領域をめぐる様々な言説を批判的に評価する。	
	表象文化		「表象」は、狭義の文学・芸術にとどまらず、メディアやジェンダーといった現代の社会・文化的問題にもかかわると同時に、古典的な哲学や神学における論争の焦点にもなってきた概念である。この講義では、表象文化論の中心的争点の一つである「身体」について、「アーカイヴ」という社会・文化的制度のとのかわりに着目し、「顔」や「声」という問題にアプローチするための方法を考える。(1)「表象」という基本的概念の多義性とそれが孕む問題点を理解し、使うことができるようになること、(2)アートとメディアにおける「身体」(顔、声)の問題へのアプローチについて、自分なりの手がかりをもつことができるようになること、(3)映像と身体のアーカイヴ化という歴史的・理論的問題について、基礎的な事項を理解することをめざす。	
	大衆文化		本授業では、日本語および英語で書かれたイメージ論の文献を精読し、「イメージとは何か」という問いについて考察する。とりわけ、大衆文化としての視覚イメージについて理論的な思考を深めることを目指す。ハンス・ベルティンク、ジョン・バージャー、ロラン・バルト、W・J・T・ミッチェルらによる古典的なイメージ論の概要を振り返った後、履修者各自が自身の研究テーマと関連付けてイメージについて考えることができるように、履修者の研究テーマに合わせて、講読文献を選定する。	
	情報メディア論		2020年代において、社会生活の多くの部分が、モバイルメディアであるスマートフォンを経由して成立している実態がある。これらの現代的事象を分析するため、A. コンピュータネットワークが出現する1980年代以降の主要なメディア社会論、メディア文化論（アンダーソン、ネグリ／ハート、ボードリヤール、ステイグラー、マノヴィッチ、ギャロウェイ、フータモ、パリッカ等を予定しているが変更有り） B. モバイルメディア黎明期において汎空間性を論じたモバイルメディア論（カツ、ジャーゲン、リッチ・リン、カステル、キャンベル、シルバ、メイロウィッツ等を予定しているが変更有り）の2つの理論的流れを解説する。これら2つのメディア論の流れを踏み込んで理解するための基盤を呈示・解説すると共に、受講者には、2つの異なる流れのメディア論を融合する考察に尽力することを期待する。	
	西洋美術史		古代ギリシア美術をはじめとする西洋美術の歴史の中からいくつかのトピックを選び、それについて論じる。また、講義内容に対し、履修者が各自の問題意識に基づいて問いを立て、それについての調査報告とディスカッションを行う。西洋美術史の知識をつけるだけでなく、様式的、社会史的、あるいは感情史的など、造形芸術のさまざまな研究方法を身に着けることを目標とする。	
	日本社会形成論 I		本授業では日本中世史の基本史料の一つである武家文書を輪読し、日本中世史の研究論文を読解する。授業は割り当てられた史料や研究論文を読解して報告し、履修者全員で討論を行う。中世の武家文書を解読することにより中世社会について理解を深めるとともに、日本中世史の研究論文が使用する史料や論文などを逐一検討しながら読み解き、その論文の意義と問題点を明確にし、研究の現状を理解することをめざす。なお、新潟県立歴史博物館で所蔵される中世武家文書の原本調査を一回実施し、文書の料紙・形状・筆跡および保存方法などを習得する。講義科目ではあるが履修者の報告を組み込み、双方向性を重視して進める特論となる。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	日本社会形成論Ⅲ		日本社会は、常に、東アジア、世界とのつながりのなか、形成されてきた。特に古代日本の時期における東アジアとの交流は、現在までの日本の社会的・文化的基礎として機能している。本講義ではこのような視座から、東アジア広域に伝播し、日本社会に大きな影響を与えた文化―漢字・律令・仏教・儒教―を手がかりに、それが東アジアでどのように展開し、また、日本独自とされる「国風文化」といかにかわるかわるについて、世界と日本とのつながりという国際的視座からその特質と意義を学生とともに考え、位置づけることを目的としている。	
	環日本海社会形成論		19世紀末以降20世紀にかけて、日本海を取り巻く北東アジアの諸地域では近代化の進展に伴って大きな変化が生じ、地域間の関係も大きく変容する。本科目では、この日本海を取り巻く諸地域に生きる人々の関係の在り方（環日本海社会）の歴史の変容について考察を深めるための前提として、19世紀末以降20世紀にかけての日本における政治、社会、思想、文化に関する諸問題について、歴史学―日本近現代史研究の観点から検討をおこなう。	
	形態資料学		弥生時代・文化に関する最近の研究動向の内容について、研究史をふまえながら正しく理解する。近年特に議論となっている研究のトピックについてその概要と問題点を学び、具体的に説明することができるようになる。研究上の課題を明らかにするための方法について論理的に考えることができる。採られる理論・方法論など、受講生自身の修士論文作成において参考となる点を学び取ってもらいたい。授業は対面による講義形式を予定している。講義を行った後、実際の考古資料の検討および議論を行う。	
	地域文化資源アーカイブ		国内外における博物館・図書館・文書館等のデジタル・コンテンツの集積・公開の進展とその可能性の拡大、公開資料を利用したデジタル・ヒューマニティーズの隆盛、そして深刻化する人口減少・高齢化がもたらす地域文化資源の保存・継承の危機を背景として、地域文化資源のデジタルアーカイブ化が日本各地で活発化している。しかし、過疎・高齢化地域など特に地域文化資源の保存・継承に困難を抱えた地域においては、今なおデジタルアーカイブ活動の開始・継続は容易ではない。こうした問題を念頭に本授業では、地域文化資源デジタルアーカイブという実践の背景と現状を整理し、関連するアーカイブ学や情報学の理論を確認することを目的とした講義を行う。また、学習を踏まえて、地方の事例を中心に地域文化資源デジタルアーカイブの実践を取り上げ、参加者とともにその可能性と課題の検討を行う。これにより、地域文化資源アーカイブ活動を実践・研究するうえで必要となる基本的知識を獲得するとともに、地域文化資源アーカイブ活動を批判的に検討する力を養う。	
	日本民俗学		民俗学の特定のテーマに関する学説整理と具体的な事例研究を通して、民俗学研究の展開と方法論の変遷についての理解を深めることを目的とする。民俗学研究の展開と方法に関する理解を深めるために、学史上重要と思われる研究概念とそれに関する論文を取り上げ、その検討を行う。そのプロセスを通じて、民俗学を学ぶ上で必要不可欠な基礎的知識を養う。授業は講義形式を取るが、少人数のため受講者と議論しながら進めていく。したがって、履修者が主体的に調べ、読み、それを報告する授業となる。	
	文化人類学		文化人類学は、他者・人間理解のための実践学問である。本講義では、文化人類学における「社会化」「学習」「教育」をテーマに、狩猟採集社会をはじめとするさまざまな社会に見られる子どもと大人の関係性、文化・社会の特徴と学習内容との関連性、またそれらの関連性を描き出す分析手法を学ぶ。文化人類学とその周辺分野における分析手法や記述のあり方を見比べながら、相互の影響、また双方の相違点や類似点について理解することを通して、論文作法を身に付ける。	
	伝統芸能論		江戸時代から現代まで続く歌舞伎の世界を概観する。特に「仮名手本忠臣蔵」を取り上げ、日本の芸能文化の基盤を検討する。具体的には、歌舞伎のDVDを視聴しつつ、講義形式で進める。また、これらの演目から派生した芝居や、歌舞伎以外の芸能についても紹介する。目標は、①日本文化史における、特に近世から現代にかけての流れを理解している。②歌舞伎を通して日本の芸能文化に関する基礎的知識を身に付ける。③芸能のテキストを読解し、実演の内容が理解できる。	

授 業 科 目 の 概 要				
(総合学術研究科 人文社会科学専攻)				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	地理空間学特論		地理空間学特論では、人文地理学の幅広い領域のうち、歴史地理学におけるコンピュータやデジタルデータの利活用の可能性について検討を行う。近年、人文科学全般でもコンピュータを使用した研究の可能性が注目されているが、歴史的事象を地理学的な観点から取り扱う歴史地理学においても、GIS（地理情報システム）やデジタルアーカイブなど、これまで無かった新しい研究領域が拓かれつつある。この授業では、具体的な事例に則しつつ、歴史情報を活用した歴史GISの構築や絵図のデジタルアーカイブ作成とその利用などについて取り上げる予定であり、これらを通して人文科学におけるコンピュータ利用の新たな可能性についての理解をはかる。	
	人文地理学特論		本授業は、過疎・過密、郊外化、ジェントリフィケーション、「田園回帰」、コミュニティの維持・再編等、近代以降の国内外の都市や農村が経験してきた社会的・経済的・政治的諸現象や、グローバル化・産業構造の変容・金融化・人口移動等、その背景となる諸事象に関する人文地理学及び隣接分野の研究動向の理解を目標とするものである。本授業では、各トピックに関する研究内容について、重要文献の読解・議論・解説とともに、フィールドワーク等を通じ実践的にも修得することを目指す。取り上げるトピックについては、受講生の関心を踏まえて調整する。	
映 像 資 源 科 学 分 野 科 目 群	画像処理特論		本講義では、画像処理システム開発に必要な信号処理理論と画像処理技術を実践的に学ぶ。数値演算シミュレーションソフトを用いた演習を通じ、デジタル画像表現、フィルタリング、スペクトル解析、離散コサイン変換（DCT）、ウェーブレット変換（DWT）、スパース表現、ノイズ除去、画像復元などの理論と応用を習得する。授業は講義とオンデマンド演習を組み合わせ、MATLAB Graderを活用した課題への取り組みを通じて理解を深める。成績評価は課題報告（90%）と最終レポート（10%）で行う。これにより、画像処理技術の体系的な理解と応用能力を養成する。	
	デバイス・センサ特論		主に、デバイス・センサに関して重要である、p n接合ダイオードおよび電界効果トランジスタ（FET）について講義する。動作の基礎と、理想とのずれ、交流応答などについて学ぶ。さらに高周波デバイス、センサについても講義する。理想p n接合ダイオードと現実の素子との違い、p n接合の交流応答、スイッチング応答の基礎を理解する。また、接合型FET（JFET）、MIS構造および容量電圧特性、MISFETの動作特性、高周波デバイス、光センサについての基礎を身につける。	
	有機エレクトロニクス特論		有機エレクトロニクスにおける基礎的な内容から応用まで取り上げ、最新のエレクトロニクスを支える有機エレクトロニクスに関する知識の習得を目指す。基礎的な内容では、有機電子材料の基礎概念や電子物性・光物性について説明する。応用については、有機薄膜の作製・評価法から様々な有機デバイスの動作機構について学ぶ。さらに、受講生をいくつかのグループに分けて、与えられた有機エレクトロニクスのテーマについてプレゼンテーションを行う。	
	視覚情報処理特論		視覚情報処理特論では、主として人の視知覚特性を光学、心理物理学、神経生理学、大脳生理学や眼球運動の生理学を総合的に学習することで理解する。人が利用するプロダクトやシステムを開発する上で、人の視知覚特性を反映することは、人に対する親和性の高いモノづくりには欠かせない。人の視知覚特性を複数の学問分野を取り上げながら総合的に学習し、人が利用するプロダクトやシステムを開発につなげることを目的とした講義を行う。内容は、人の視知覚のメカニズムについて講義を行う。眼球の構造、視覚系整理の基礎、視覚の時空間特性、眼球運動の生理機構と眼球運動の種類、眼球運動と空間定位、近見反応、立体視、奥行き知覚、自己運動知覚、発達・加齢・障害について取り上げる。	
	ソフトマテリアル特論		ソフトマテリアルとは高分子、液晶、コロイド、ゲル、ゴム、DNAなどのやわらかい材料の総称である。前半では、高分子鎖の化学構造とコンフォメーション、および熱力学的性質などの物理化学について解説する。続いて、ソフトマテリアルの力学的性質で重要な「粘弾性」について解説する。後半では、三次元網目構造をもつゲルの膨潤理論を中心に説明する。最後に、ソフトマテリアルで構築されたアクチュエータをはじめとする応用例を紹介する。	
	複合材料設計化学		ナノ、マイクロオーダーの物質質量や化学物質を感知する化学センサの設計・開発に関して論じるとともに化学センサの評価法、測定システムについて解説する。ナノマテリアルなど材料科学の進歩、ナノ、マイクロ加工技術の確立により、ナノ、マイクロオーダーの物質を創製、集積して新システムを構築することが可能となっている。このような技術革新において、ナノ、マイクロオーダーの物質質量や化学物質を感知する化学センサの設計・開発の重要性について理解する。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	映像資源科学分野科目群			
	機能性材料評価学特論		本講義では、電子ファイルのスクリーン映写と印刷資料の併用で授業を進行する。対面型での授業実施を基本とするが、状況に応じて非対面型（Zoomによるリアルタイム型）授業を組み込む可能性がある。本講義では、先進機能材料の材料特性評価法として注目されている押込み試験の物理的意味およびその具体的方法、関連する国際規格の内容およびその変更経緯に関する理解を得ることを目標とする。	
	デザイン表現特論		本講義では、モノと人との関わりから開発された優れた道具を調査し、それらが開発された背景と、これまで開発されてきたグッドデザインの変遷と照らし合わせ、演習課題を加えながら、デザインとは何かについて論じてゆく。デザイン表現の領域は、様々な人間支援のカテゴリーに関わり広がりを見せている。また、時代背景と密接な繋がりを持って、日々変化し続ける実社会での生活環境を彩り成長を続けている。関わる学問領域は多種多様で、芸術的な感性を活かした表現が前に出てくることは勿論だが、現代社会学や自然科学領域を横断することが必要とされている。純粋芸術とは違った側面を持っており、個人の我を張った表現では無く、社会を見つめた中での着地点が必要とされる。また、行政や産業界からも地域創世やグローバル経済で活躍出来る人材育成が求められており、時代を示し文化を作り出し発信することが出来るデザインの領域は注目されている。街に出て観て見ると、新たな生活スタイルに適應した様々な商品が開発され、新潟の地域産業に於いても次世代のスタンダードを目指した開発が行われている。このような領域の優れたモノを調査しながら、次世代の生活スタイルにあったモノを考えてゆくところに、本講義のねらいがある。	講義20時間 演習10時間
	計算知能特論		本講義は全15回の講義形式で構成され、内容を4つのパートに分けて段階的に学ぶ形式で進行する。授業の目的は、進化計算、ファジィシステム、ニューラルネットワークについて、基礎から応用までを体系的に理解するとともに、これらの技術を統合した融合的アプローチの設計や応用を習得することにある。さらに、深層学習や生成モデルなど、最先端のAI技術を学び、最新の研究動向を把握することも目指している。授業計画として、第1回でガイダンスを行い、第2回から第4回にかけて進化計算、第5回から第7回にかけてファジィシステム、第8回から第10回にかけてニューラルネットワーク、第11回で融合化技術、第12回から第15回にかけて深層学習を取り上げ、各トピックについて体系的に学ぶ。	
	建築計画・設計学特論		新潟県にある実際の町（新潟市古町地区）を対象とし、グループでリサーチ・デザイン検討などに取り組み、古いまち並みの保全と住環境改善といった課題を探り、再開発・まちづくり計画を実施する。住民との協働を通して、都市内の計画提案を実施する授業である。	
	風景計画特論		良好な風景を実現するためのデザイン・コントロール（景観規制）や歴史的建造物保全の計画手法について、行政の制度や民間活動の実態・課題を把握する。具体的にはイギリス、フランス、イタリア、アメリカ等の先進諸国の景観計画や歴史的建造物の保存制度等について調べ、日本の現状と比較することで、今後の日本の課題を把握する。国内外における文化的成熟の推移や社会的制度の発展経緯を理解し、持続可能なまちづくりの一環としての景観計画の実態について学ぶ。	
	都市デザイン特論		都市の活力や快適性をもたらす都市デザインの重要性について、国内外の事例を通して理論と実践手法を論じる。前半は、国内外の都市デザインの理論を概観した後に、日本国内の各都市の都市デザインの実践例を学ぶ。後半は、前半で学んだ都市デザインの理論を活用して、新潟大学のキャンパス改善の計画案の作成に取り組む。キャンパスは小さな都市であり、キャンパス改善の計画案を作成する作業を通して、総合的に都市デザインに関わる計画・事業・施策を検討する知識と経験を定着させる。	講義16時間 演習14時間

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	糖鎖生物学		糖鎖生物学では、主として生体分子の中でも特に糖鎖に注目して、その構造、合成経路、内因性機能および外因性機能について解説する。糖鎖は、核酸とタンパク質に続く生命の第3鎖と呼ばれ、その構造機能相関は現代生物学において重要性が高い。具体的な内容は、分野の歴史的背景、合成経路、細胞内外での輸送タグ機能、細胞接着機能、系統発生と個体発生における位置づけ、細菌やウイルス感染における機能、癌などの疾患における機能、分析手法などを含む。	
	バイオイノベーション特論		バイオイノベーションに関連した学際研究のうち、生物の「老化」や「寿命制御」について論じる。近年、ヒトの高齢化が社会問題として生じている中、抗老化薬の探索など、その応用面が注目されている。まず、老化とは「何か」を考えるだけでなく、「なぜ」そして「どのように」生物は老化するのかについて考えていく。そして、生体分子の解析等を通じて、基礎生命科学の成果をいかに新規な産業応用に繋げるのかについて理解することを目的とした講義を行う。本講義は、集中講義形式で行う。	隔年
	細胞生物学特論		オルガネラとタンパク質の品質管理、および、植物の生殖について、分子・細胞レベルでのメカニズムに関する最新の知見を講義する。あわせて、その研究方法についてイメージング解析技術を中心に講義する。また、上記講義内容に関連する最新の論文の輪読を行う。これらによって植物生理学および細胞生物学の研究方法を考察し、自分の専門とする研究分野における的確な作業仮説の構築とその検証のための実験計画立案の方法を理解する。	隔年 講義20時間 演習10時間
	植物生理学特論		動物のような移動手段を持たない植物は、発芽したその場所において、様々な環境の変化（環境ストレス）を受容して成長、生存してゆかなければならない。そのため植物は様々なストレス応答および耐性機構を発達させている。本講義では植物にとって環境ストレスとは何か、植物は環境ストレスをどのように感知し、どのような対抗手段をもつのかについて解説する。特に、高温や低温、水分や乾燥などの非生物学的ストレス要因に対抗するしくみについて、個体、細胞、分子レベルでの理解を目指す。	隔年
	植物分子遺伝学特論Ⅰ		植物の環境応答について、突然変異体を用いた分子遺伝学的研究手法による解析方法を学ぶ。植物の環境応答機構についての分子遺伝学的研究手法論を、講義及び原著論文ゼミを通して理解する。 学習の到達目標：植物の分子遺伝学的研究手法論を理解できること。植物の環境応答機構について原著論文を読み、パワーポイント等のプレゼンテーションツールを用いて人に説明できること。	隔年
	植物分子生物学		高等植物の機能分子が、細胞レベルにおいてどのように細胞構造・機能・動態を制御し、その結果、個体レベルにおける機能発現に関与しているかを解説する。また、トランスクリプトミクス、プロテオミクス、メタボロミクスを利用した研究の方法と、得られたデータに基づく生命現象の理解についても解説する。本講義では、1. 高等植物の機能分子の発現、機能、修飾、調節についての説明できること、2. 高等植物における遺伝子操作と発現制御について理解できること、3. 高等植物を利用したバイオテクノロジーを理解するための知識を修得できることを目標とする。	
	植物環境応答学概論		高等植物は種子から発芽した後、ライフサイクルを同じ場所で過ごさなければならない。そのため、植物には様々な環境条件に対して応答し、適応する能力が要求される。植物はその外界環境に適応するため、細胞内成分やさらにその形作りを巧みに変える。この講義では、植物をとりまく光・温度・水あるいは栄養状態など様々な環境変化に対する植物の適応機構について、特にその情報伝達機構および遺伝子応答、さらに代謝変動に着目し解説する。	
	植物細胞工学特論		植物細胞工学は、植物バイオテクノロジーとほぼ同義である。現在、遺伝資源保存、優良個体のクローン増殖、無病個体の育成、新品種育成等、農業における様々な分野で植物バイオテクノロジーが利用されている。本講義では、植物バイオテクノロジーの中心技術である組織培養や遺伝子組換えの原理について、最新情報を交えながら解説する。また、組織培養技術や遺伝子組換え技術の農業分野への応用についても、最新情報を交えながら解説する。	共同 隔年
	微生物機能学		これまで微生物を対象とした研究は、分子生物学的手法によるものが主であった。昨今、微生物学分野でも生物物理学・物理化学の手法を活用して微生物の機能を理解しようとする新しい試み（例えば1細胞・1分子レベルでの解析など）が行われている。本講義では、「微生物」と「生物物理学・物理化学」をキーワードとして、微生物機能解明におけるユニークで先進的な研究や解析方法を紹介する。新しい学際的な研究や学問分野について学ぶとともに、学生自身でも自身の研究分野における学際的な新規の解析方法、研究についてプレゼンテーションを行い、受講生全員と教員でディスカッションを行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	微生物分子遺伝学		微生物分子遺伝学では、細菌の遺伝子発現制御機構及びグローバル制御機構について解説するとともに、いくつかの最新研究トピックスについて紹介する。また、細菌の遺伝実験に用いられる手法とその原理について解説する。授業は講義形態で行う。本講義では、細菌の遺伝子発現とその制御機構に関する知識、さらにはそれらの研究とその方法について理解を深め、さらにはSmall RNAなどの遺伝子発現制御機構の最新の研究について理解することを目的とする。	
	微生物天然物化学		天然有機化合物はホルモンやフェロモンなどとして生物内や生物間の生理機能に重要な機能を果たすとともに、医薬品・香粧品・機能性食品素材などとして人間生活に広く利用されてきている。天然有機化合物の化学構造、生合成、生理活性を理解することは、生命現象の理解などの基礎研究から生物を利用した有用物質の生産などの応用研究において重要である。本講義では、基礎から最新の天然物化学・生物有機化学・ケミカルバイオロジー研究までを説明する。	共同
	動物栄養生理学		動物栄養生理学では、講義形式により、栄養素の生理機能、栄養素による制御について教授し、吸収メカニズムの理解から、摂取窒素の制御による栄養学と食品科学の接点と応用について、代謝調節機構、品質を含めて論ずる。栄養学の各論および発展的な内容について理解を深め、吸収メカニズムの理解から、摂取窒素の制御による栄養学と食品科学の接点と応用について、代謝調節機構、品質を含めて解説する。栄養素の生理機能、栄養素による制御について、また吸収メカニズムの理解から、摂取窒素の制御による栄養学と食品科学の接点と応用について、代謝調節機構、品質に関して教授する。	
	米利用科学論		主要食料である米の利用に関する科学的基盤について解説する。精米や加工などの行程と、それにとりもなう成分変化や利用形態の違い、米の品種別利用法など、様々な視点から解説する。米の精米技術、加工技術、様々な行程における品質及びその成分変化、さらには食材としてだけではなく色々な食品原料としての利用方法などについて、科学的な理解を深める。 学習の到達目標：米の品種、品質、加工技術、利用方法に関する基礎的な知識を修得し、現在の米研究の進捗状況や各種課題を踏まえた科学的な視点で米利用に関して考察することができる。	隔年
	食品評価学		科学研究を遂行するためには、様々な科学の目(すなわち評価)が大切となる。それぞれの食品に関する課題について調べて考えをまとめ、それをプレゼン・討論することで、食品を科学的に評価(科学の目で見る)ことができるようになることを目的とした講義を行う。内容は、第1回（講義ガイダンス、各自の課題割り振り、課題調査及び課題発表のやり方についての講義）、第2回～第4回（課題調査、アドバイス）、第5回～第14回（課題発表(1回につき2名)及び討論(発表者以外は必ず質問)）、第15回（まとめと講評）である。	
	食品生化学		私たちは毎日いろんな食物を食べている。しかし、それらの食物がどのようなもので、どんな成分を含み、どのようにして作られているのかをほとんど理解していない。そこで本講義では『食物の不思議を探る』というテーマで“食物のなぜ？”を科学的に追求する。この授業では、調味料や動物性・植物性の各種食材、発酵食品、調理器具、加工・調理方法、食に関する制度や法令など、多岐にわたる内容を取り扱い、幅広い知識を習得する。	
	食品分子機能学		食品由来の機能性成分が三次機能を発揮するに至る分子の基盤について最新の知見や研究事例を交えて解説する。また、食品成分の機能性評価法、作用機構の解析手法についても解説する。	
	食品工学概論		食品素材の製造過程において、酵素が用いられる事例が多い。特に澱粉糖化産業においては多数の酵素により製品が製造されている。食品工学概論においては、食品産業に多く用いられる酵素について、その種類や用途・および反応解析の手法を学ぶ。特に澱粉糖化産業を中心に食品製造に良く用いられる酵素について、種類や使用法について解説する。さらに、酵素研究に重要な反応速度解析について解説を行うとともにその解析法の実習を行う。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	醸造学特論		日本酒学は、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する。本科目は日本酒学の中核的な講義の一つである。具体的には、日本酒（清酒）醸造に関する原料・微生物・製造技術等について概説する。なお、本科目は、清酒メーカーでの経験を有する教員が、それを活かした講義を行う。	隔年
	食品・農業情報工学特論		講義の形態は、講義形式と演習形式の複合形態とする。講義の目標は、食品・農業分野の情報通信技術の利活用および品質評価などの意思決定支援に必要な知識を身につけることである。講義では、食品・農業分野への情報通信技術利用の現状と問題点、様々なセンシング技術と情報通信技術、食品・農業分野への情報通信技術利用の先駆的な事例として、現場視察などを行うとともに、生産者の経験と勘を情報化する取り組みに関することなどを概説する。	講義12時間 演習18時間
	食品品質管理学		食品の製造において品質管理は必要不可欠であり、食の安全を守る上でも非常に重要である。食品の品質が守られる仕組みと食品工場や飲食店での衛生管理等について、全15回の講義を通して解説する。また、受講者自身が文献調査により最新の知見や研究事例について調べて紹介することで、理解を深める。食品の品質や微生物に関連する専門書を解説し、スライドの作成・発表の構成・実施を繰り返し行うことにより、能動的に学び、食品の品質管理の重要性について理解する。また、受講者同士で積極的に質疑応答を行い、質疑応答のスキルを磨いて学会発表等に役立てる。本講義は食品の品質管理に関する知識の習得とともに、研究発表を行う上での能力向上を図ることもねらいとする。	
	環境土壌学		土壌は、生物生産、物質循環、環境保全、生物多様性維持等の様々な生態系サービスを提供している。本科目ではこうした土壌の持つさまざまな機能と環境の調和に関連し、幅広い視点から生物生産環境および生物生存環境の保全や修復、適正化等に関して理解を深めることを目的とする。本科目は土壌の有する様々な機能と環境問題との関連を理解するために必要な講義である。	隔年
	環境分子生態学		環境分子生態学では、環境中の核酸やタンパク質などの生体分子を利用した生態系解析手法について解説する。本講義では、土壌や動植物組織中の微生物群集などの微小生態系から、陸域の動植物群集や水域の生物群集といった広域スケールに至るまで、環境分子を用いた多様な生態系解析手法を取り上げる。特に、微生物生態系の多様性や機能を解明するために利用されているDNAメタバーコーディングやメタゲノム解析、環境DNA（eDNA）を用いた解析手法について概説する。また、これらの手法が実際の研究でどのように活用されているかを具体的な事例を通じて紹介し、研究や環境モニタリングへの応用可能性について議論する。	隔年
	木質成分化学		最大の植物バイオマスである樹木を中心にセルロース、ヘミセルロース、リグニンなど様々な植物成分の生合成および化学構造、その植物体内における分布と機能、各素材の構造と反応性、生態系における機能について、光合成から土壌分解までをこれまでの一般的な知見に加え、最新知見に明らかになった事例を含め有機化学的に説明する。そして、その特性活かした将来の利用方法についても、最近の実用化や研究事例を含め説明し、循環型社会への貢献について考える。	
	食料流通論		食料・食品の流通経済に関して制度的な枠組みやシステム変化の方向について講義する。具体的には、まず流通経済についての基礎理論および我が国の食料流通体系の歴史的展開過程について概説した後、主食として食糧管理制度に基づき国の流通管理・流通規制が貫徹されていた時代から、近年、急速に自由化した米の流通システム、卸売市場制度を軸に、公設民営を基礎とした青果物や花卉などの生産園芸作物の流通システム、インテグレーション・加工資本の存在を特徴とした畜産物および牛乳乳製品流通システムについて整理し、水産物流通、加工食品などとの比較の資源も織り込み、食料流通問題の現段階的な課題を検討する。また、近年の政策的トピックスである「みどりの食料システム戦略」「種子・種苗問題の公的管理」「食料・資材価格高騰問題」などを取り上げ、その市場論的見地からの課題把握を試みる。	
	植物病理学特論		植物病原の生態を取りまとめたうえで、植物の病害抵抗性や微生物の拮抗作用に基づく環境保全型病害防除法について紹介する。さらに広く植物保護の視点から、虫害および雑草害についても化学的防除の必要性和殺菌剤・殺虫剤・除草剤をはじめとする各種防除資材の特性や作用機構を解説する。植物が持つ病害虫抵抗性の作用機構を分子レベルで説明できるようにするとともに、栽培の現場で利用されている種々の防除資材や病害防除法の基礎的知見を習得する。	隔年
	植物エピジェネティクス概論		塩基配列には表れない、DNAメチル化やヒストン修飾パターンなどの遺伝情報を扱う研究分野をエピジェネティクスという。エピジェネティックな遺伝子発現制御は、生物の発生や形質発現に大きな影響を及ぼしている。本講義では栽培植物を含む顕花植物において、エピジェネティクスが関与する生命現象にはどんなものがあるのかを解説する。また、エピゲノムの恒常性がどのように維持され、世代を超えて遺伝し、あるいは変化するのかを学ぶ。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	動物・植物相互関係論		植物・動物相互関係論では、主として草地生態系のシステム分析、モデリング、家畜と植物の相互作用解析法について解説する。草地生態系における、エネルギー流、物質循環、草地での家畜の生理反応、放牧の草地植生を制御することは、適正な動物生産を行う上で重要である。講義の内容は、これらの項目における基礎的な概念と知識を開示し、さらにこれらを制御するための草地生態系のシステム分析・モデリングの手法、家畜と環境の相互作用解析の手法を解説する。	
	動物量的遺伝学		資源動物の育種改良を図る上では、量的形質の遺伝現象を詳細に捉えていく必要がある。また、動物集団の遺伝的多様性と有効な大きさの維持や拡大を図る上でも、量的遺伝学的な解析が必要となる。つまり、動物の量的遺伝学的現象を集団レベルから分子レベルにわたって観察し、考察していく目を養うとともに、解析手法の知識を得る必要がある。そのために、資源動物および野生動物における様々な量的遺伝学的現象について、集団レベルから分子レベルにわたって講述する。	
	動物機能形態論		人間を含む動物の生命を維持する機構を理解する上で、体の成り立ちと構造を把握し、それぞれの働きによって統合される機能を理解することは必須である。本講義では、各種動物の器官が、どのような組織、そして細胞から構築されているかを、光学顕微鏡ならびに電子顕微鏡レベルで解説するとともに、関連した生理機能について分子レベルで説明する。加えて、これらを基礎として、動物の経済的形質に関わる泌乳、産卵、産肉などの生理的機構について解説する。	
	動物生殖細胞利用論		優良な形質を持つ動物や家畜の開発を目的として、生殖細胞である始原生殖細胞や胚性幹細胞の構造や機能、発生過程での役割について論じる。また、これらの細胞が持つエピジェネティクスの特徴や再プログラム化のメカニズムを解明することで、畜産学分野での新たな応用の可能性を探る。特に、遺伝子改変技術を活用し、疾病耐性を高めた家畜や生産効率の向上を実現するための技術開発に注目する。これにより、例えば、乳量の増加や肉質の改善といった家畜生産の具体的な改良が期待される。また、これらの技術が環境負荷低減に寄与し、持続可能な畜産を支える手段となる可能性についても考察する。さらに、家畜育種における遺伝子改変技術の導入に伴う倫理的課題や消費者の受容性、規制の問題にも触れ、畜産学と先端技術の融合がどのように未来の食料生産に貢献できるかを議論する。	
日 本 酒 経 済 経 営 分 野 科 目 群	日本酒と自治体政策		本科目では、地方自治体が実施する日本酒に関連する各種施策を題材として、地方自治体が地域の独自性を活かしながら分権型社会を踏まえた政策をどのように展開すべきかを考えていく。なお本科目は、政府や地方団体での行財政運営の経験を有する教員が、その実務経験を十分に活かして行う授業科目である。住民に身近な行政主体である地方自治体の諸活動の実際の理解を通じ、地域のことは地域で決定していく「地方自治」と、様々な公共政策がどのような背景・プロセスで立案されていくかの「政策過程」とを理解することをねらいとする。	
	日本酒アントレプレナーシップ論		本科目では、アントレプレナーシップ論の基礎を修得しながら、日本酒および酒造に関する事例も学ぶ。アントレプレナーシップ論の内容は幅が広いが、本科目では特に「ビジネスモデル」と「経営戦略」に焦点を絞る。これらにまつわる理論や概念を学ぶとともに、県内の日本酒や酒造の事例に適用しながら、知識の定着を図る。本科目では、以下の3つに関する基礎的な知識を学び、それらを事例に適用する力を身につけることを目指す。①アントレプレナーシップ論に関する理論や概念に関する知識。②ビジネスモデル論に関する理論や概念に関する知識。③経営戦略論に関する理論や概念に関する知識。	
	日本酒酒蔵の中小企業論		本講義「日本酒酒蔵の中小企業」では、日本酒メーカー・酒蔵を事例に取り上げ、日本の中小企業の特徴や経営の課題を学ぶ。授業では、限られた経営資源を有効活用し、存続・成長を遂げるためのマネジメントについて議論を深める。学生は指定された学術論文や専門書を輪読し、それを基にした発表やディスカッションを行う。発表者以外の学生も事前準備として資料を読み込み、積極的に議論に参加する。これにより、日本における中小企業の役割や経営戦略への理解を深めるとともに、実践的な分析力と議論力を養う。	
	日本酒とブランディング		新潟県には日本で最も多い90近い数の蔵元がある。一般的な消費者は、そのうちのどのくらい日本酒の銘柄や蔵元名をすぐに想起することができるだろうか。ブランドが確立するためには、好ましいイメージをもって、消費者に記憶してもらい必要がある。強いブランドになるためには、何をどのようにして他と差別化し、消費者の記憶に残していけばいいのだろうか。本科目では、聴講者は基本的なマーケティング、ブランディング、ブランドとはなにかを理解するための講義を前半におこない、後半では聴講者が日本酒（蔵元）を取り上げ、そのブランディングについて分析・考察を加えたものを発表することで理解を深めていく。	講義15時間 演習15時間

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	酒蔵組織の企業行動論		本講義では、伝統産業である日本酒酒蔵に関する経営学・社会学分野の論文を輪読し、伝統産業が伝統性を保持しながらどのように革新していくのかについて学ぶ。近年、日本酒酒蔵を研究対象とした経営学・社会学分野の研究が増えている。それらの研究の潮流に目配りしながら、最新の研究論文を読み、酒蔵組織の企業行動について理解を深める。本講義を履修し、以下のことを説明できるようになることを目指す。①近年の酒蔵組織の経営学的研究の潮流。②伝統産業がどのようにして伝統性を保持しながら革新をおこなっているか。	
	酒類行政論		酒類行政の基本となる酒税法、酒類業組合法等の関係法令の概要、酒類行政の最近のトピックについて講義を行う。また、講義内容についてのディスカッションを行い、酒類行政に関するレポートを作成する。担当教員の国税庁等の勤務経験を活かした実務的な内容を含む科目である。酒税法、酒類業組合法等の酒類関係法令の内容の学修を通して、酒類行政を取り巻く状況を把握し、当局の取組について理解を深める。酒税法、酒類業組合法等の関係法令の内容につき、説明することができること、酒類行政を取り巻く状況を踏まえ、現状の施策や今後すべき施策について自らの意見をまとめ、表明することができることを目標とする。	
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目 群	映像文化I演習		21世紀の映像文化を考察する上で無視できないデジタル技術、グローバル化を理解し、分析するための歴史的・理論的座標を構築することを目的とする。メディア史、映画史、ジェンダー・セクシュアリティ研究、美学、哲学を中心とした関連文献を講読する。文献は2000年代以降に発表されたものだけでなく、それぞれの分野の古典的著作も含む。文献講読から得た知識を出発点とし、参加者との討議を通して、現代における映像文化の問題点を理解する。	
	表象文化演習		「表象」は、狭義の文学・芸術にとどまらず、メディアやジェンダーといった現代の社会・文化的問題にもかかわると同時に、古典的な哲学や神学における論争の焦点にもなってきた概念である。この講義では、この基本的概念について、「モダニズム」や「ポストモダニズム」に関する基本的な文献を読みながら検討することで、(1)「表象」という基本的概念の多義性とそれが孕む問題点を理解し、使うことができるようになること、(2)「イメージ」の問題が孕む神学的次元を理解し、現代の映像理解に役立てることができるようになること、(3)「モダニズム」と「ポストモダニズム」（ポストモダン）という概念を理解し、自らの探究に役立てることができるようになることをめざす。	
	大衆文化演習		主要文献の講読を通じて、視覚文化論（Visual Culture Studies）の歴史と現状について学び、自身の研究に役立てる方法を探る。ジョン・A・ウォーカー、サラ・チャップリン『ヴィジュアル・カルチャー入門——美術史を超えるための方法論——』（岸文和ほか共訳、晃洋書房、2001年）に加え、履修者の研究テーマに合わせて、講読文献を選定する。演習の後半では、文献講読によって得られた知見を元に、履修者各自が視覚文化の具体的な対象を選んで発表を行う。	
	アニメ文化解析演習		本授業は、デジタル技術の発展に伴い台頭したデジタル・ヒューマニティーズの考え方や研究方法論を取り上げる。デジタル・ヒューマニティーズとは、人間の力だけでは難しかった膨大な文化データを網羅的に、なおかつ数値的に研究する理論である。アニメの制作過程で作成された絵コンテやセル画など「中間素材」にも同理論を応用し、コンピュータによるデータ解析を通して人間の認知能力を超えたところにある傾向やパターンが提示できる研究方法を学習する。	
	機能造形演習		生活空間を豊かにし、人間を支援する機能造形、プロダクトデザインは、時代と共に変化し様々なモノが生み出されて来た。本演習科目では、「人」と「道具」との関係性を論じながら、各自が身近な環境で探した問題を解決するプロダクトの立案を目指し授業を進めてゆく。手法や方法論としては、3Dソフト「Autodesk Fusion」を用いての設計や、プレゼン資料の作成を行なってゆく。	
	日本画表現演習		日本画制作を中心とした演習科目で、各自が表現研究の核としている日本画材の表現方法や材質技法について課題意識をもって研究を深化する。また、日本画の新しい絵画表現方法を模索し、新たな表現方法に努め、伝統素材における表現の多様性について理解を深める。その研究を通し、日本画材の扱い方を習得し、それらの画材の特徴について明確に他者に説明することができることが可能となり、独自の技法や表現方法について理解を深化させる。	
	西洋音楽文化演習		西洋音楽文化演習は、西洋音楽文化で考察した入門書による西洋音楽の歴史的な知識を、実際の演奏によって確認し、自身の演奏について西洋音楽文化という大きな視点から捉え直すものである。内容は、バロック、古典派、ロマン派、近現代という4期の区分の中で、各自のレベルに合った代表的な楽曲を演奏し、時代による演奏スタイルを把握していくことを中心とする。授業内で個々人の演奏について検討し、そのスタイルについて考察する。さらに、伴奏、室内楽、学校訪問演奏等、様々な場面での多様な演奏についても実際の演奏とともに論じていく。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	音楽表現論演習		時代ごとに生み出された子どものためのピアノ作品や比較的易しいピアノ曲を題材に取り上げ、それぞれの時代の様式感や作曲家の個性を理解する。特に比較的ピアノ演奏の初歩で演奏される楽曲は、音の数が多くない分、その作曲家の意図や個性が反映されやすい。その上で実際に演奏を体験することで、演奏行為を行うプロセスでの具体的な作業やその際の留意点などについて考察を行う。また、各時代の子どものためのピアノ曲を題材に、その内容に対する知見を得ることで、今後の音楽教育・ピアノ教育に対する見識を深めることを期待している。	
	声楽演奏論演習		声楽作品の研究と演習を課題とする。曲調、作品の成り立ち、歴史的背景を踏まえた作品研究と、美しい発声法、日本歌曲や外国歌曲・オペラ（イタリア・ドイツ・フランス語）等、声楽曲歌唱演習までの研究指導を行う。目標として、各人の進度に合わせて、曲に使われている言語の発語法や、詩の内容、曲の時代背景の理解を深めると同時に、喉に負担のない美しい発声法を体得し、それに伴う豊かな音楽表現、歌唱技術を伴った演奏を目指す。	
	音楽教育学演習		本授業では、音楽教育学分野の文献講読および音楽授業の観察・分析を通して、理論と実践の双方から音楽教育学研究への理解を深めるとともに、今日的課題を探究する。まずは、音楽教育学研究の中でも文献研究と実践研究に焦点をあて、それぞれの研究手法の基礎を理解するとともに、動向を把握する。文献研究では国内外の音楽教育に関するテキストを扱う。実践研究においては国内の音楽授業を対象とした事例を扱う。授業は、文献の講読を中心しつつ、実際の教育現場での音楽授業の観察と考察を取り入れることで、理論と実践の往還を図る。本授業の目標は、音楽教育学分野における文献研究と実践研究の手法を理解し、研究動向を把握した上で、音楽教育学研究の今日的課題を論じることである。	
	情報メディア論演習		モバイルメディアであるスマートフォンは、その操作に身体動作を伴うため、公共空間は当然のこと、親しい者と共にいる私的な空間においても、その利用行動は非言語コミュニケーションと不可分である。モバイルメディア利用を非言語行動、非言語コミュニケーションと見なす論考は、2000年代より徐々に現れ、2010年代においては、Phubbing（Phone＋snubbing）という概念の提示と共に、一定の研究領域を確立している。本演習では、Phubbing研究の主要な研究書と論文、とりわけ公共空間でのマナー形成、親子関係におけるスマートフォン利用の影響、あるいは視覚性を活用したプレゼンテーション効果についての各種業績を読解することにより、現代におけるスマートフォンの身体動作の観点から見た文化的浸透の様態を考察する材料とすることを試みてゆく。	
	理論社会学演習		この授業では、米国における都市研究の先駆けとなった「シカゴ学派」の方法意識を継承し、20世紀の後半以降、現代の社会生活の特質を詳細に描きだしてきた一群の社会学者の仕事―「第二のシカゴ学派」と呼ばれることもある―を丹念に解読し、それらを「現代」の社会学的記述に活かす方途をさぐっていく。Howard S. Becker, Arselm L. Strauss, Erving Goffman, Fred Davis, Joseph R. Gusfield のテキストから、履修者の関心領域に近接するものを適宜ピックアップして講読することとする。	
	ジェンダー論演習		本講義では、ジェンダーについての概念や議論をふまえ、日本社会におけるジェンダー秩序についてその現状と課題について検討する。1970年代以降のグローバル化の進展とともに、日本社会のジェンダー秩序がどのように変動してきたのか、第二波、第三波、第四波のさまざまなフェミニズムの論点について議論しながら現代社会の状況について考える。特にメディア、文化と表象、身体と心を中心にとりあげ、国際的な比較の視点をいれながら、現状と課題について討論を行う。	
	保健医療社会学演習		本講義では、社会学に関心を寄せる学生を対象に、現代の人文科学・社会科学の一大潮流をなすアクターネットワーク理論とその周辺の議論と実践を学ぶことで、社会学固有の研究視座と研究方法のいくつかを習得する。今年度は「人間と人間以外のものたちによるケアに根ざした地域社会学を構想する」をテーマとする。原則として対面で、ピア学習と反転学習によって行う。各回の反転授業の担当ペアは、ゼミの前に教員の助言のもとで発表資料の作成を行うことが必要となる。	
	文化人類学演習		文化人類学は、他者・人間理解のための実践学問である。では文化人類学はどのようにして他者理解の学問でありうるのか。文化人類学と相互に影響しあう周辺分野において蓄積されてきたさまざまな他者理解実践について学ぶ。他者理解の方法としてしばしば位置づけられる文化人類学の記述方法、またそれと相互に影響し合う相互行為分析やパフォーマンス研究といった別の記述方法や現象の捉え方について学び、文化人類学における他者をまなぐ実践について理解する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目群	科学技術と社会演習		現代における科学技術と政策形成との関わりについて、幅広い分野の事例研究を基に学ぶ。具体的には、気候変動、感染症、地震防災、原子力安全、化学物質管理、健康・医療、人口、学校教育、金融、エネルギー、インフラ、科学技術・イノベーションの各政策分野において、エビデンスがこれまで歴史的にどのように適用されてきて、現在どのような課題が生じているのかをみとうえて、エビデンスに基づく政策立案（EBPM）の一般的課題や、そうした課題へのアプローチについて議論する。	
	宗教思想演習		四十書から成るガザリーの主著『宗教諸学の再興（Ihya' 'Ulum al-Din）』第12番目の書「婚姻作法の書（Kitab al-Nikah）」英訳を読み、解説および議論を行う。この書は約900年前に書かれたものだが、現代のイスラーム社会における婚姻、家族、女性問題、ジェンダー、生命倫理等に大きな影響力を持っている。担当者に訳文作成、内容報告、解説、質疑応答を行う。また修士論文の中間発表の時間も多く設ける予定である。	
	哲学演習I		ヘーゲル『精神現象学』を演習形式で講読する。毎回担当者を決めて翻訳・内容解説をしてもらった上で、全体での議論をおこなう。基本はドイツ語原典を用いるが、邦訳・英訳・仏訳も適宜参照する。外国語文献を精読し、主題やその背景等基本的な内容を理解し客観的に分析・批判をした上で、自らの見解を提示し、さらなる問題提起をおこなうことができるようになることを目指す。（以上のスキルをプレゼン、レポート両方において身につけることを目指す）	
	哲学演習II		英語・フランス語圏の哲学に関する著作・論文を演習形式で講読する。「知性」や「空間」などを主題として想定するが、具体的なテキストは参加者の関心に応じて決定する。哲学・倫理学に関する優れた研究を原語で正確に理解する力を養うとともに、要約や議論を通じて論理的思考力を高め、文章・口頭の両面で適切に表現する力を身に付けることを目的とする。邦訳に頼らずに外国語の論文・著作を読解できるようになること、また論文作成や学会発表に必要な議論の構成力・表現力を身に付けることを到達目標とする。	
	哲学演習III		哲学史の学習のためには古代哲学史に関する基本的な知識が必要である。この授業では古代哲学の主たる問題の展開と、主たる哲学者および哲学派の教説が古代哲学史のながれのなかでもつ意義をテーマとする。範囲としては、アリストテレス以後の時代を扱う。古代哲学史の基礎的な知識をもつこと、ならびに授業でとりあげる哲学者たちの取り組む問題を理解することを目標とする。	
	発達心理学演習		発達心理学演習では、心理学および関連諸領域の英文雑誌に掲載された過去10年以内の学術論文の精読し議論を行う。知覚認知は、実験心理学や神経科学、乳児研究をはじめとした発達研究が制約を与え合う形で発展してきた。英語論文の精読を通して、近年の実験心理学の研究動向や最新トピックスの把握とともに、発達研究への応用を議論・検討する力を養う。各自論文を精読のち概要について資料を作成して発表する。事前に発表者を決め、演習形式で授業を行う。	
	社会心理学演習		本授業は、社会心理学の主要な理論と応用について深く理解することを目的としている。特に、個人と集団の相互作用、態度形成と変容、社会的影響、ステレオタイプと偏見、自己とアイデンティティの形成など、社会心理学の核心的なテーマに焦点を当てて、学生自身が文献購読とその報告を行う。これにより、受講者が現代社会の複雑な人間関係や集団ダイナミクスを理論的に分析し、実践的な課題に応用する能力を養うこと、またこれをもとに諸問題についてディスカッションする力の養成を目指す。	
	障害児心理学I演習		障害のある児童生徒の障害特性を理解した上で、応用行動分析学に基づき様々な「行動」について議論する。特に「行動」の定義、「行動」の前後の事象と「行動」出現、「行動」の消失、「行動」の維持のメカニズムを理解し、様々な事例を議論したり、実際に実験をしたりしながら深めていく。また教育実践における「行動問題」を機能的に分析し、その対応について検討する。さらに「概念」を形成していくメカニズムについて学び、特別支援教育の本質について考える。	
	障害児心理学II演習		本講義では、特別支援教育の対象となる児童生徒への支援に、生理心理学的なアプローチがどのように役立つのかを深掘りする。また、具体的な文献レビューを通じて、生理学的な視点から得られた知見を整理し、教育現場での支援に繋がるようなディスカッションを行う。講義内容については、特別支援教育における生理心理学的なアプローチの重要性、文献レビューに基づく知見の共有とディスカッション、生理心理学的な知見に基づいた支援の事例紹介、実際の教育現場での支援への応用方法を扱う。	
	障害児言語学演習		障害児言語学演習では、主に発達障害における言語・コミュニケーションの問題を理解し、その課題を評価する方法やそれぞれの障害特性に応じた支援の手法までを考察する。また、特に通常学級に在籍する可能性が高いと考えるdyslexia、読解障害、SLIについては事例も踏まえて理解を深め、言語・コミュニケーションの課題が生徒にわたり影響を及ぼすものであることを理解し、早期支援の重要性や専門職として可能な支援法の具体的な手続きを考察する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
ブ ロ グ ラ ム 専 門 科 目 群	パーソナリティ心理学演習		パーソナリティ心理学演習では、演習形式でパーソナリティ心理学やその周辺領域に関する近年の論文（もしくは書籍）を講読し、研究動向や基礎的な分析手法等についての理解を深める。特に、パーソナリティや個人差をどう測り、どう分析するかに焦点を当てる。授業では、心理測定尺度の作成や改善の手法を中心にし、項目反応理論などの測定・評価に関する議論や、因子分析などの心理統計等をテーマとして、それらに関連する近年の議論について理解を深める。	
	応用実験心理学演習		ヒトの知覚認知特性と身の回りの社会問題との関係について各自がテーマを定めて深く議論する。文献・論文の内容を精査した上で、要点をまとめた文献・論文紹介を行ない、履修者全員で議論する。また、論文内容と比較し、よりよい実験計画、よりよい研究テーマについて提案をする。こうした発表、議論を通して、ヒトの特性とモノとの関係を深く理解し、発表に必要な要約力を身につけ簡潔に内容を説明できることを目指す。また、文献・論文の問題点を指摘し、具体的な改善案を示すための能力を養う。	
	臨床心理面接特論I（心理支援に関する理論と実践）		本授業では、カウンセリングや心理面接の基礎理論を理解したうえで、認知行動療法（CBT）の理論と具体的な技法を中心に学びます。エクスポージャー療法や認知再構成法などの手法に加え、実存的心理療法や精神力動的な心理療法といった諸学派の異同を比較・検討することで、より多面的な面接の視点を養います。また、動機づけ面接に基づく面接技術を取り入れ、児童・青年期や周産期といったライフステージごとの課題や倫理的配慮、スーパービジョンの活用法なども考察し、臨床の場面で必要とされる包括的な対応力を身につけることを目指します。授業では、試行カウンセリングやロールプレイ、事例報告などの演習を随時取り入れ、学習内容を実践的に深めるとともに、逐語記録やディスカッションを通じて臨床心理面接に求められる専門性の土台を着実に形成していきます。	
	臨床心理面接特論II		臨床心理面接の理論と実際について、セラピストとクライアントの関係性に着目する諸学派について、それぞれの異同を検討しつつ学ぶ。科目のねらいとしては、（a）臨床心理面接の特徴を理解すること、（b）面接のセットアップの仕方について学ぶ、（c）面接記録作成の方法を学ぶこと、（d）見立てとそれに基づく援助仮説のたて方を学ぶこと、（e）面接初期のプロセスと、そこで生じがちな諸問題について検討すること、（f）面接中期以降のプロセスの捉え方について理解すること、が挙げられる。	
	臨床心理基礎実習I		本科目では、臨床心理学的支援を行なう際に必要な基礎的な技術の取得を目指す。具体的には、（a）面接における基本的技能（コミュニケーション技法）に関する知識、（b）精神医学的「診断」と臨床心理学的な「見立て」の視点、（c）心理査定（アセスメント技法）の基礎知識、（d）各領域での心理臨床活動の進め方の知識、などの獲得を目指す。本科目は、オムニバス方式での担当となっており、佐藤友哉が「面接における基本的技能（コミュニケーション技法）に関する知識」、田中恒彦が「各領域での心理臨床活動の進め方の知識」、瀧井美緒が「精神医学的「診断」と臨床心理学的な「見立て」の視点」を担当する。なお、場合によっては、ゲストスピーカーの講師に指導をお願いする場合がある。 （オムニバス方式／全15回） （90 佐藤 友哉／5回） 面接における基本的技能（コミュニケーション技法）に関する知識 （28 田中 恒彦／5回） 各領域での心理臨床活動の進め方の知識 （101 瀧井 美緒／5回） 精神医学的「診断」と臨床心理学的な「見立て」の視点	オムニバス方式
	臨床心理基礎実習II		本科目では、臨床心理学的支援を行なう際に必要な基礎的な技術の取得を目指す。具体的には、（a）面接における基本的技能（コミュニケーション技法）に関する知識（インテーク面接やコンサルテーションなど）、（b）DSM等の精神医学的「診断」の知識、（c）心理査定（アセスメント技法）に基づく心理療法の進め方に関する知識、（d）各領域での心理臨床活動の進め方の知識、などの獲得を目指す。本科目は、オムニバス方式での担当となっており、佐藤友哉が「面接における基本的技能（コミュニケーション技法）に関する知識（インテーク面接やコンサルテーションなど）」、田中恒彦が「各領域での心理臨床活動の進め方の知識」、瀧井美緒が「DSM等の精神医学的「診断」の知識」を担当する。なお、場合によっては、ゲストスピーカーの講師に指導をお願いする場合がある。 （オムニバス方式／全15回） （90 佐藤 友哉／5回） 面接における基本的技能（コミュニケーション技法）に関する知識（インテーク面接やコンサルテーションなど） （28 田中 恒彦／5回） 各領域での心理臨床活動の進め方の知識 （101 瀧井 美緒／5回） DSM等の精神医学的「診断」の知識	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目群	臨床心理実習I（心理実践実習）		臨床心理学および、その関連領域に関わる学外の施設にて、現場で働く心理職や職員より指導をうけつつ、体験的に学習する。福祉領域、教育領域、司法領域における臨床心理士・公認心理師の仕事を知るとともに、クライアントやその周囲の者に対する支援を行うためのノウハウについて理解する。また、福祉領域、教育領域、司法領域における多職種連携について学ぶ。本科目は、オムニバス担当の科目であり、主に教育領域を佐藤友哉・瀧井美緒、司法領域を田中恒彦、福祉領域を田中恒彦・瀧井美緒が担当する予定である。 （オムニバス方式／全15回） （90 佐藤 友哉／5回） 教育領域における公認心理師の働き方の解説と、実習内容のふり返り・総括 （28 田中 恒彦／5回） 司法・福祉領域における公認心理師の働き方の解説と、実習内容のふり返り・ （101 瀧井 美緒／5回） 教育・福祉領域における公認心理師の働き方の解説と、実習内容のふり返り・ 総括	オムニバス方式
	臨床心理実習II		実習施設において面接または査定を担当した事例について、臨床心理学コース全教員の出席のもと、事例検討を行う。具体的には、（a）保健医療、教育、福祉、司法、産業それぞれの領域における、臨床心理業務について知る、（b）他職種協働における臨床心理業務の役割について、体験的に学ぶ、（c）心理的困難を抱えたクライアントと関わる基本的姿勢について学ぶ、（d）心理的困難を抱えたクライアントのアセスメントについて理解を深める、（e）面接過程の捉え方について、事例を通じ学ぶ、ことをねらいとする。	
	臨床心理実習III（心理実践実習）		臨床心理学および、その関連領域に関わる学外の施設にて、現場で働く心理職や職員より指導をうけつつ、保健医療、福祉領域、教育領域、司法領域における臨床心理士・公認心理師の仕事を知るとともに、クライアントやその周囲の者に対する支援を行うためのノウハウについて理解する。また、保健医療、福祉領域、教育領域、司法領域における多職種連携について学ぶ。本科目は、オムニバス担当の科目であり、主に教育領域を佐藤友哉・瀧井美緒、医療領域を佐藤友哉・田中恒彦、福祉領域を田中恒彦・瀧井美緒が担当する予定である。 （オムニバス方式／全15回） （90 佐藤 友哉／5回） 教育・保健医療領域における公認心理師の働き方の解説と、実習内容のふり返 （28 田中 恒彦／5回） 保健医療・福祉領域における公認心理師の働き方の解説と、実習内容のふり返 （101 瀧井 美緒／5回） 教育・福祉領域における公認心理師の働き方の解説と、実習内容のふり返り・ 総括	オムニバス方式
	臨床心理査定演習I（心理的アセスメントに関する理論と実践）		心理テストは、病院臨床、教育臨床の場での査定や面接、さらには研究と様々な場において必要とされる。本講では、心理テストを行うに当たっての心構えやその歴史、テスト・バッテリーの組み方などを最初に学ぶ。その上で、代表的な質問紙法や投影法の心理検査の実施法と評価について学ぶ予定である。科目のねらいとしては、（1）心理テストの成り立ちを知ること、（2）心理テストを行う検査者としての基本的態度を学ぶ、（3）主要な心理テストの施行法および評価法を学ぶこと、（4）心理テスト結果の被検査者への返却の仕方、およびレポートのまとめ方を学ぶこと、（5）テスト・バッテリーの組み方を知ること、が挙げられる。	
	臨床心理査定演習II		本講義では、臨床心理学におけるアセスメント技法を体系的に学ぶ。異常心理学を基盤とし、心理的異常や精神疾患の基本的な理解を深めるとともに、質問紙法、作業検査法、知能検査、神経心理検査、簡便な投影法などの多様なアセスメント技法を習得する。特に、神経心理学的検査や描画法などの投影法に焦点を当て、実践的なスキルを身につけることを目指す。さらに、アセスメント結果の基礎的な解釈方法や報告書作成の技術を学び、臨床現場での実践に繋げる。演習形式で実際に検査を実施し、ケーススタディを通じて適切なアセスメント計画を立案し、結果を分析する。また、心理査定における倫理的配慮や課題解決の視点、多職種連携の重要性についても考察する。本講義を通じて、心理職として必要な心理アセスメントについての基本的スキルを養い、実践的な臨床能力を高めることを目指す。	
	コミュニティヘルス演習		戦後80年、わが国の健康水準は飛躍的に改善・向上した。医療技術の進歩や保健医療サービスの充実がこれに大きく寄与しているが、一方で、人びとによる多様な健康実践の蓄積がその礎となっていることもまた確かである。本演習では「コミュニティヘルス」に関する基本的な理解を深めた上で、これらに関係する文献や研究論文、史資料（統計資料含む）をもとに検討する。また、現代における健康づくり活動の課題や今後の可能性について議論する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目群	ヘルスケア論演習		ヘルスケアをテーマにしなが実践に近い形式で具体的な取り組みを行なう。ここでの対象は幼児から高齢者までの幅広い年代の健康に焦点を当てながら、それを具体的にデザインすることを目的として演習を行う。身体活動量の重要性と健康について幅広い知識を養い、将来の人生を豊かに過ごしていくことの方法を理解する。本演習では、ヘルスケアと健康社会デザインを題材にしなが身体について解剖学且つ運動機能の理解を深め、自身で運動のプログラムを作成できる知識や技術を習得する事とする。特に具体的な実践に基づきながら、正しい運動とは何か、正しい歩行とは何か、生活習慣とは何かを考えることができることがねらいである。ヘルスケアを授業展開の基礎としながスポーツなどの要素も含めて運動に関する科学的基礎を理解し、そこから創造的に身体動作の見識を深めていくことを目的とする。身体動きを理解するには、筋肉の名称や動きの特性、あるいは機能に対しての理解を深めることが必要であり、それを実践することで本当の意義を知る。本講義では、科学的な視点から健康やスポーツの課題をクローズアップし、様々な論点を自身で思考を深めることで身体について語れることのスキルを身につけることとする。	
	運動心理学演習		運動心理学演習では、体育、スポーツ、運動行動全般における心理学事象について、概念の理解とともに現象の理解、状況や行動の改善と進める方策を演習形式で学ぶ。発表と討論を対面での演習形式で授業をすすめる、双方向的な討論の中で、論理的な考えとともに、討論の方法についても学習する。また、発表のために専攻研究の調査、展望、提示資料準備などが事前が必要となるため、プレゼンテーション、コミュニケーションのトレーニングともなる。	
	運動生理学演習		本授業では、運動生理学の呼吸・循環・体温調節・体液調節について発展的内容を扱うとともに、関連する測定に関する演習を実施する。測定データはパワーポイント等で発表できるようにすることで、データを整理して伝える力を養う。また生理学研究に不可欠な研究倫理や統計学についても扱い、「運動生理学」とセットで考えた時に、生理学研究の文献レビュー、仮説の設定、倫理審査、実験、結果まとめ、考察、発表までを一通り経験し、できるようになる。	
	応用健康科学演習		授業形態は、状況に応じて、対面またはZoom会議システムを用いたリアルタイム型オンライン授業を実施する。本講義の目標は、以下に示す2つである。①疾病予防や健康増進を目的とした研究を立案、調査を実施し、得られたデータを解析することができる。②データの解析結果を基に、論理的な考察ができる。授業計画は、受講者の研究課題と学習準備段階に応じて設定する。基本的に①計画立案、方法（調査内容、分析デザイン、倫理的配慮等）の検討、調査の実施と解析、研究成果のプレゼンテーションとディスカッションの流れで実施する。	
	健康運動論演習		体操（Gym for All）分野で関心があることに焦点を当て、研究課題を設け、指導及び調査を通して得られた結果の考察を行う。さらに、研究内容を、発表へと繋げる。成果を得るために、研究方法を吟味し、得られた結果について考察を進める。その際、先行研究の調査にも取り組み、実験や調査方法の妥当性を確認した上で研究をすすめる。研究のオリジナリティや独自性についても議論をし、研究の意義について検討する。	
	衣環境評価学演習		衣環境評価学演習では、毎日着ている衣服が健康に与える影響について、アパレルと健康のかかわりを解明するために、アパレルと健康とのかかわりを多面的に捉えて、日常生活に活かせるアパレルの基礎及び進化する衣服について学び、心地よい衣服の圧迫や、心地よい着心地を実現するための生理的・心理的測定方法を学ぶ。授業形態は、主に対面型の演習形式で行う。場合によってはオンラインを活用することもある。日常生活に活かせるアパレルの基礎及び進化する衣服について基礎的及び応用的な知識を得、安全で健康で快適な衣生活を創造する能力を習得することを目標としているため、関連文献の調査研究を行い、自主的に勉強することが望ましい。	
	衣環境材料学演習		前期開講の「衣環境材料学」に関連する最近の文献を紹介し、輪講形式で考察を行う。すなわち、繊維製品（衣服）の材料となる糸や布（織物・編物・不織布など）、その他の材料について、その種類や製造方法、組織やマイクロ・マクロ的な構造、それらがもたらす特性や機能についての知識を学習する。また、衣服材料の各レベルでの性質が繊維製品の形態・着心地・耐久性などの消費性能にどのように影響するかを学び、さらに衣服の選択の適否や着用のしかたが、人間の健康とどのように係わっていくかについても考察を行う。	
	生活経営学演習		前期開講の「生活経営学」に関連する最近の国内外の文献を紹介し、輪講形式で考察を行う。本演習では、家計、収入労働、家事労働、家族関係、生活時間、ジェンダー、キャリアなどの多様な切り口から、人々が豊かに人間らしく生きるとはどのようなことなのかを考える。生活を客観的に分析し、生活の実態を理解でき、生活課題を社会的な脈絡の中で考察することができるようになることを目標とする。なお、本講義内容には、男女共同参画の視点が含まれている。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	教育哲学演習		身近な事柄であるため、誰もがそれらについてそれなりの考えをもっている教育や発達に関し、「教育哲学」などの学修をとおして、素朴な仕方ではなく根拠を明示しながら自らの考えを表現することがある程度できるようになったことを前提に、その表現能力をより一層伸長させることが本演習の目的である。そのために、教育や発達に関わる哲学文献を引き続き精読する。「教育哲学」における成果を前提として、英語もしくは仏語の文献を購読する。	
	教育社会学演習		教育社会学に関する基本的知識を習得していることを前提として、教育社会学に関する国内外の研究論文（日本語・英語）の講読を通して、教育社会学の研究で用いられる概念や方法について修得する。これにより、教育社会学分野の研究動向を把握し、教育と社会およびその関係についての現状理解を深めるとともに、教育現象を社会学的に検討する視点や方法を学習する。本演習では、とくに社会調査データを用いた計量的な分析に基づいた研究論文を検討することにより方法に関する理解を深める。なお、本授業は演習形式で行うため、受講者は毎回報告することが求められる。	
	現代リテラシー論Ⅰ演習		この科目では、現代リテラシーの中でも、ディシプリナリー・リテラシーの理論及びディシプリナリー・リテラシー教育についての論文を分析して考察する。ディシプリナリー・リテラシーとは、基礎リテラシー・中間リテラシーの上に位置づく、教科・領域固有のリテラシーのことである。グローバル社会であり情報社会である現代において、リテラシーの実態はどのようなものであるか、またディシプリナリー・リテラシー教育はどのようにあるべきか、研究論文を手掛かりに演習を行いながら考察する。	
	現代リテラシー論Ⅱ演習		リテラシー及びリテラシー教育についての論文を講読し、リテラシーの育成へ向けたカリキュラム構成、授業構成や方略について考察する。現代社会における必要な科学的リテラシーとはいかなるものか、これまでの科学的リテラシーに関する国内外の議論を基に、今後の科学的リテラシーの育成を目指した単元構成や授業はどのようにすることが可能か考察する。次に掲げる内容を到達目標とする。1. 科学的リテラシーに関する議論の変遷を理解する。2. 科学教育におけるリテラシー教育の内容と方法について論文を手掛かりに考察する。3. 科学的リテラシーの育成を目指した単元、授業について構想する。	
	教育工学演習		本科目では、教育工学に関する論文等の文献輪読を通じて、研究課題の収集・分析・解釈を議論する。指定文献や受講生の問題意識に基づいた文献を選択し、受講生の研究課題に関して多角的に解釈・検討し、研究構想デザインの基盤をつくる。そのために、教育工学研究の理論的、実践的な文献を通して、研究課題設定のための知識を獲得し、自らの研究を遂行するうえで必要なスキルを身につける。科目の目標は「教育工学研究の論文を批判的にとらえ、他者へ説明できる」、「先行研究を分析して自らの研究計画の方法論を選択・説明できる」の2点である。	
	社会認識教育学演習		生涯学習社会といわれて久しく社会の変化が急速な今日の日本では、社会認識の形成と成長を通して、主権者として必要な資質・能力の育成と更新が生涯を通じた課題になってきている。その基盤として不可欠な機会となるのが、社会認識形成と市民的資質育成を意図的計画的に行なう初中等学校の社会系教科である。本授業は、こうした背景に基づいて社会科教育学研究の今日的動向をとらえた社会認識教育論・主権者教育論に関わる基本文献の輪読により、主権者教育のカリキュラム論・内容編成論・学力評価論・教師教育論について議論を深める。そのうえで、受講者各自の課題意識に基づいて、社会系諸教科の理論的・実践的課題について考察していく。	
	日本語文化Ⅰ演習		近代日本語および現代日本語がもつ語彙・文法の諸問題を、先行研究の批判に基づいて受講者自らが考察・発表し、その内容の妥当性を演習参加者全員で批判的に検討する。具体的に検討の対象となるのは、発表者が提示した、発表テーマ、先行研究に対する批判の内容、データの取り上げ方および分析方法、論証方法等に関するそれぞれの妥当性である。また、プレゼンテーションの的確さ等についても対象とする。さらに加えて、発表者以外の出席者が発表者とおこなう質疑応答に関しても、その内容の妥当性を検討する。	
	日本語文化Ⅱ演習		近年、多くのコーパスが公開され日本語研究に新たな知見をもたらしているが、既存のコーパスは日本語の一側面しか捉えていない点に留意する必要がある。そのような問題意識のもと、本授業では、コーパス化されていない電子化資料を利用した日本語研究の模索と実践を行う。具体的には、各種データベースやインターネット上の文書の特徴や言語資料としての性格を踏まえつつ、それらを利用した日本語研究の基礎知識を理解したうえで、受講生自身がそれらを利用した日本語研究を実践を行い、その結果を検討する。そのことを通し、日本語研究に関する新知見を見出すとともに、コーパス化されていない電子化資料を利用した日本語研究の可能性と限界について考える。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目群	日本古代言語文化演習		日本漢文（和化漢文）資料である『東山往来』（高野山図書館蔵、応永11年写本）の資料読解・言語的特徴の把握を行う。本資料は平安時代後期に成立した古往来（消息文例集）の一つである。この授業では、言語資料読解の方法を習得し、日本語史研究の観点を獲得することを目指す。とくに日本および中国で成立した周辺諸資料を広く援用した読解行い、漢文和化の進展とともに形成された当該期の日本語の特色・研究上の問題点の発見を目指す。	
	日本古典文芸文化各論演習		平安時代の代表的な文学作品である『源氏物語』をとりあげる。現代語訳ではなく原文で読み進めて、担当範囲に関する問題を発見する。膨大な先行研究を読み、整理したうえで、発見・指摘した問題を研究史に位置づけるという、困難だが理解の深まりに繋がる作業に取り組む。そのうえで、とりあげた問題が作品のどのような特質に通ずるのか、伝わるように説明することを目指す。発表だけでなく毎回の受講者全員による活発な質問によって成り立つ授業である。	
	日本古典文芸文化特論演習		屋代本『平家物語』の原文を読みこむ。まずは原文の担当箇所を受講者で分担し、発表順を決める。受講者は分担箇所について、①正確な翻刻、②適切な注釈（施注するべき語句を見極め、適度な分量の説明を加え、場合によっては例証を加える）、③適切な注釈に基づいた的確な現代語訳、を載せた発表資料を作成して当日発表する。発表しない受講者は、発表者の提示した内容について質疑を行う（古文を読む上で建設的な議論を心掛ける）。次の分担者も上記作業を担当し、受講者全員で物語を前から順に解釈してゆく。	
	日本文芸文化演習		夏目漱石『夢十夜』を取り上げ、日本近代文学の研究理論をふまえて、その分析方法を実践する。受講者は、方法論を理解したうえで、自ら分析を行い発表し、また、発表をふまえて相互に意見交換をしながら実践の妥当性を確認する。夏目漱石『夢十夜』は、夢をモチーフとした短編連作小説である。内容は、説話や伝承をふまえ、日常を異化したものである。演習では、①物語に取り込まれた、種々の材料、モチーフ、②夢のように感じさせ表現の特徴、について考え、表現分析の方法を実践する。『夢十夜』は短編であるため、全体の構成を分析しやすく、方法論の実践し妥当性を確認するには、適している。日本近代文学研究の方法の実践を通して、自らの研究に生かすことを目指す。	
	日本書道文化演習		日本における書道文化の多様性についての学びを第一の目標とする。日本では「書道」、中国では主に「書法」、韓国では「書芸」と一般に称する。漢字文化圏、東アジア圏における書に関わる文化は多彩である。本講義では名称に「書道」を用いつつも、「道」字をはずし、広く「書」に関わる「書文化」への興味関心を高める授業展開を予定する。主な流れとしては古代から現代までの書文化を通覧し、基本的な知見を理解する。次に身近な学修として新潟県ゆかりの書文化につき、「書画文芸」という他文化とのつながりを主眼として、テキストに基き学びを進めていく。キーワードとして良寛、曾津ハル等の人物、上中下越の各地域性、新潟県の歴史と書画文芸家との意外な関連性をあげる。	
	日本社会形成論Ⅰ演習		本授業では日本中世史の基本史料の一つである日記（古記録）を輪読し、日本中世史の研究論文を読解する。授業は割り当てられた史料や研究論文を読解して報告し、履修者全員で討論を行う。中世の日記を解読することにより中世社会について理解を深めるとともに、日本中世史の研究論文が使用する史料や論文などを逐一検討しながら読み解き、その論文の意義と問題点を明確にし、研究の現状を理解することをめざす。なお、一回は博物館等で所蔵される中世文書の原本調査を実施し、文書の料紙・形状・筆跡および保存方法などを習得する。	
	日本社会形成論Ⅱ演習		日本近世史を扱う科目である。日本史における近世は、地球規模の「近代」に包摂される前夜の、伝統的な社会と文化が高度に成熟した時代として位置づけられる。本科目ではこうした観点にもとづき、日本近世史をめぐる諸論点を一次史料に基づいて多面的に共同研究する。「前近代の総達成」としての日本近世社会の特質に留意しながら、具体的には日本近世史をめぐる諸論点を一次史料に基づいて多面的に論じることによって、古代から現代、さらには未来へとという時間軸のなかで、日本社会を歴史的に把握する視点の獲得を目ざすよう共同研究を行う。	
	日本社会形成論Ⅲ演習		日本社会は、常に、東アジア、世界とのつながりのなか、形成されてきた。特に日本と中国、朝鮮半島とは、現在に至るまで歴史的に密接な関係を有している。また、古代日本の時期における東アジアとそこにおこった諸国家との交流は、古代の時期のみならず、今に至るまで、日本社会に大きな影響を与えている。本講義ではこのような視座から、東アジアにおける日本と、その理解に大きくかかわるテーマー東アジア・中国・朝鮮半島・渤海・国風文化一を手がかりに、学生主体で調査・討論を行い、これを通じて世界のなかで日本社会を考え、位置づけることを目的としている。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目群	環日本海社会形成論演習		19世紀末以降20世紀にかけて、日本海を取り巻く北東アジアの諸地域では近代化の進展に伴って大きな変化が生じ、地域間の関係も大きく変容する。本科目では、この日本海を取り巻く諸地域に生きる人々の関係の在り方（環日本海社会）の歴史的変容について考察を深めるため、演習形式により19世紀末以降20世紀にかけての日本における政治、社会、思想、文化に関する諸問題について検討し、歴史学・日本近現代史研究の視角から問題を深める視座を涵養する。	
	形態資料学演習		日本列島の弥生文化の出現と展開を議論する上で重要な、朝鮮半島の無文土器文化・初期鉄器文化について、その概要と最近の研状状況を理解し、具体的な研究事例を示しながら説明することができるようになる。弥生時代の開始期における渡来人と物質文化、文化受容・変容をめぐる諸問題について理解を深める。採られる理論・方法論など、受講生自身の修士論文作成において参考となる点を学び取ってもらいたい。演習形式である。外国語（韓国語・英語）で書かれたテキストの講義が中心となり、担当箇所について内容を報告し、議論を行う。実際の考古資料についての検討も行う。対面形式を予定している。	
	地域文化資源アーカイブ演習		国内外における博物館・図書館・文書館等のデジタル・コンテンツの集積・公開の進展とその可能性の拡大、公開資料を利用したデジタル・ヒューマニティーズの隆盛、そして深刻化する人口減少・高齢化がもたらす地域文化資源の保存・継承の危機を背景として、地域文化資源のデジタルアーカイブ化が日本各地で活発化している。しかし、過疎・高齢化地域など特に地域文化資源の保存・継承に困難を抱えた地域においては、今なおデジタルアーカイブ活動の開始・継続は容易ではない。こうした問題を念頭に本授業では、福島県奥会津地域をフィールドとして、地域文化資源のデジタル化作業の計画立案・計画実施・成果活用計画の策定を行う。地域住民や地域のアーカイブ機関・自治体との協働を通して、過疎高齢化地域の現状と課題・ニーズを知り、地域文化資源のデジタルアーカイブ化について、地に足のついた考察・実践を行う力を養う。	
	日本民俗学演習		民俗学上、重要な概念に関する文献を精読し、民俗学研究の課題と方法についての理解を深めることを目的とした共同研究を行う。民俗学の諸概念を、関係する研究論文の精読・議論を通じて検討を加え、より深い理解を目指すとともに、自らの問題意識を高める。演習形式の授業であるので、受講者には、発表・討論に積極的に参加することが要求される。報告担当者が、配布した論文について要旨をまとめた上で、批評を行い、それ以外の者が質問をして討論を行う。	
	伝統芸能論演習		江戸時代から現代まで続く人形浄瑠璃（文楽）の世界を概観する。特に「仮名手本忠臣蔵」を取り上げ、日本の芸能文化の基盤を検討する。具体的には、人形浄瑠璃（文楽）のDVDを視聴しつつ、講義形式で進める。また、これらの演目から派生した芝居や、人形浄瑠璃（文楽）以外の芸能についても紹介する。目標は、①日本文化史における、特に近世から現代にかけての流れを理解している。②人形浄瑠璃（文楽）を通して日本の芸能文化に関する基礎的知識を身につける。③芸能のテキストを読解し、実演の内容が理解できる。	
	地理空間学演習		学際的な研究を進めるに当たっての地理学の強みの一つとして、空間的な側面から対象に迫ることや対象の空間的な側面に注目することによって、新たな気づきをもたらすことがある。この授業では、少人数のゼミ形式で人文地理学の諸問題について、ディスカッションを行うことを通して、受講生各自の関心領域・テーマに対して、地理学的な観点からの省察を喚起することを目的とした授業を行う。なお、取り上げるテーマについては、教員が提示したいいくつかのテーマについて、第1回目のガイダンス時に受講生と相談した上で決定する。	
	人文地理学演習		本授業は、ジェントリフィケーション、「田園回帰」、公共サービスの再編、コミュニティの維持・再編等、現代の都市や農村が経験している社会的・経済的・政治的諸現象や、グローバル化・新自由主義化・人口移動等、その背景となる諸事象に関する人文地理学及び隣接分野の研究動向の理解を目標とするものである。本授業では、各トピックに関する研究内容について、国際学術誌を中心とした最近の国内外の文献の読解・議論・解説とともに、自身の（実証）研究へ応用できるよう、フィールドワーク等を通じ体験的にも内容を理解できることを目指す。取り上げるトピックについては、受講生の関心を踏まえて調整する。	
	環境地理学演習		地形発達史、第四紀学、火山、自然災害などに関する国内外の自然地理学及び隣接分野の（英語または日本語の）文献講義を通して、専門知識を深め、研究方法を学ぶ。演習を通して目標とするのは、①専門知識を幅広く学習する方法を身につけ、②研究方法をより具体的に見出し、③最近の研究動向を捉え、自身の研究を進められるようになることである。演習は、ゼミ形式での対面授業で、①毎回、事前に文献を読んできて、内容を紹介する。②必要に応じてレジュメを作成する。文献は受講生の関心に基づいて、教員と相談して選定する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	日本語教育実習		日本語教育の現場をまず見学する。見学に際しては、学習者の立場から見学する場合と、教授者の立場から見学する場合を設け、双方の立場を考慮した教授法とはどういったものかについて議論する。その議論を通して、自身が実際に日本語を指導する際の計画を教授者の下で立て、模擬授業として実践する。それを複数回繰り返し、これまで学んできた言語学的知識や社会学的知識といったものが、どう実践の場で応用することができるかを学ぶ。	
	日本語教育実践研究		日本語教育実習の経験をもとに、各自日本語の授業を専任教員指導の下に計画し、実践する。その際、学習者にとって有益な授業とは何かを常に意識し、彼らの日本語力を向上させることだけが目的であるという意識を醸成させるように進める。教授者として学習者に教えるという上下関係の姿勢よりむしろ、日本語学習者の歩みに寄り添う、あるいは歩みを促す対等な伴走者の立場で授業に挑むには、教室内では具体的には何が必要かを考えさせていく。	
	中国言語文化Ⅰ演習		本科目では、言語学や現代中国語文法および日中対照言語学についてまとめられた論文を精読する。学生による翻訳発表と教員による解説により進める。学生による発表を通じ、適切なレジュメの作り方、分かりやすい説明の方法についても考察する。中国語で書かれたものについては、正確な翻訳を目指す。術語の使い方や、論述の展開にも意識を向けながら読み進める。中国語文法についての理解を通じて、文法に関する記述を過不足なく正確に読み解く力を養う。文法項目の意味や文法機能についての知識を深める。また、参考資料を通じて、語学論文における論述の進め方等、構造について理解する。	
	中国言語文化Ⅱ演習		現代漢語の基本的な語彙や文法は、近代漢語にその礎を見ることが出来る。ここでいう近代とは歴史分野での分類とは異なるもので、語彙や文法面からみると、唐代あたりまで遡ることが出来るため、かなり範囲は広いものを指す。つまり、現代漢語を理解するためには、唐代以降の近代の漢語について知る必要があると考えられるのである。そこで、本講座では、現代漢語、近代漢語に関する具体的な資料を解釈しながら、様々な言語現象について考察を進めていくこととする。また、必要に応じて受講生には研究発表を行ってもらい、討論を行う。ただし、学生の研究テーマを考慮し、論文作成の一助となるよう、講義、および討論の内容については、扱う時代や分野を適宜調整することがある。	
	中国古典文化演習		中国古典文化では、主として中国の古典文学作品に関する諸問題について、作品の精読を通して検討を加える。中国の古典文学作品は韻文と散文に大別され、この授業では特に散文の中でも六朝時代に成立した志怪小説・志人小説を主な検討対象とする。内容は、対象とする作品についての原文、漢文訓読文、現代日本語訳、語注等を掲載した資料を受講生が輪番で作成し、更に受講生全員で質疑応答を重ねながら、正確な内容理解を図る。その上で、各作品に内在する表現上や内容面での特質、および成立過程に対する検討を行い、六朝時代の志怪小説・志人小説が小説史において果たした役割を検証する。	
	中国文芸文化Ⅰ演習		中国古典や日本文学を研究する上で必要となる基本的な知識や漢文の読解方法、調査方法を前提とした上で、各自の問題意識に従いテーマを設定し、研究を遂行することを目標とする。具体的には、中国のみならず日本でも広く受容されてきた『文選』所収作について、李善をはじめとする六臣注によるテキストを扱い、注釈の読解を中心に行う。配布資料にもとづき学生は分担し作成したレジュメにもとづき発表し、授業で検討を行う。	
	中国文芸文化Ⅱ演習		中国前近代の仏教、あるいはその他の思想史関連文献を会読する。テキストは基本的に中国唐宋代の仏教関連の文献を選択するが、参加者の必要に応じて適宜変更する。会読はとくに文献学的な視点を重視して行い、各文献の状況の理解、テキスト内容の批判、また思想史的背景に注意しながら行う。これにより、当該文献を思想史的な視野のものとで読解できるようになること、中国古典文献額の研究手法の概要を理解できるようになることを目指す。	
	中国書道文化演習		授業形態は対面を基本とし、到達目標としては、東アジアの書跡、あるいは特定の書や書人を検討対象とし、それらの特質を実証的に分析できるようにする。実証的に集めたデータを活用して、これまで言われてこなかった独自の見解を論文としてまとめる。その場合に論文として客観的な分析結果を示し、それが書の分野のみならず、他の分野の研究者が読んでも理解できる内容に仕上げる。授業計画としては、前半に日本の書跡をとりあげ、後半には中国と韓国、朝鮮などの東アジアの書を検討対象として分析を進めたい。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目群	朝鮮文芸文化演習		『菜食主義者』（2007年）でマン・ブッカー国際賞を受賞（2016年）したハン・ガン（1970－）氏が、ガザ（パレスチナ）－イスラエル、ウクライナ－ロシア戦争を世界が止めることができないなか、2024年度のノーベル文学賞を受賞した。1980年5月の光州民主化抗争を描いた『少年が来る』（2014年、邦訳は2016年）、1948年4月の「済州4.3事件」を描いた最新作『別れを告げない』（2021年、邦訳は2024年）など、「ハン・ガン氏の力強く詩的な散文体の文章は歴史的な心の傷と向き合いつつ、人間のもろさをあらわにしている。」（ノーベル文学賞選考委員会による推薦理由）作品であり、全世界で韓国文学への関心・注目度が高まっている。日本でも2018年12月に筑摩書房からチョ・ナムジュ『82年生まれ、キム・ジョン』（韓国では2016年刊）が翻訳・出版されると、2019年以降、かつてない「韓国文学ブーム」が訪れた。現在も続々と翻訳されている韓国の小説を、先行研究を参照しながら演習形式で精読する。	
	東アジア歴史文化演習		この授業では、主として近世から近代にかけての東アジアの歴史に関する近年の代表的な研究を精読していく。特に中国と日本の伝統的な社会の類似点や相違点を把握することに重点を置く。東南アジア、中央アジアなどアジア諸地域やヨーロッパに関する研究成果も積極的に参照しながら議論を深めていく。東アジア諸地域の社会の特徴や、そこに暮らす人々の生き方を把握し、歴史への理解を深めていくとともに、授業での対話を積み重ねることを通して実証的に歴史を議論する能力を養うことを目指す。	
	朝鮮歴史文化演習		この科目では、朝鮮半島をめぐる歴史研究の主要な論点について史料を読解しながら検討し、朝鮮・韓国史研究の基礎的な力を養う。朝鮮王朝時期の17世紀から20世紀初頭にかけての漢文史料を中心にとりあげ、朝鮮・韓国史への理解を深めるとともに、歴史研究の方法を身につける。取りあげる史料としては、朝鮮王朝実録、備辺司謄録、日省録、日記類などを予定している。授業は演習形式でおこない、テキストを分担して読解・議論する。	
	比較考古学演習		演習形式でテキストの輪読が中心となるが、実際の考古資料の検討、議論も重視する。アジア地域の技術発展史を、考古資料、文献史料を使い再構成する方法を議論することを通して、東アジア史について比較考古学的視点で広く学ぶ。外国考古学における資料収集法や論文作成法も合わせて理解することができる。今回は中国明代に書かれた『天工開物』を題材に、みずから調べたことを加味して発表形式で授業を進める。初回はガイダンス。第2～14回は参加者の発表と討論。第15回はまとめ。	
	東アジア比較文化演習		東アジアの言語文化は、中国の言語文化（漢文化）に色濃く影響を受けて形成された文化圏である。言語や文字一つ取ってみても、日本、韓国、古くは越南（ベトナム）では、長期間にわたり、語彙や漢字がそのまま用いられるなど、中国の文化は、東アジアの個々の文化の根幹に深く根付き、更にそれぞれの国で新たに融合した文化が育まれ、新たな言語や文化を生み出すに至っている。この講義は、東アジアの言語の中でも、特に、中国語や日本語を主たる対象とし、それぞれの言語や文化的特徴について、考察したり対照研究を行ったりするものである。また、必要に応じて受講生には研究発表を行ってもらい、討論を行う。ただし、学生の研究テーマを考慮し、論文作成の一助となるよう、講義、および討論の内容については、適宜調整することがある。	
	環日本海歴史文化演習		東北アジア史、内陸アジア史に関する最新、もしくは古典的研究書（日本語、洋書）や学術論文を輪読する。授業のなかで、参加者は報告と報告内容に対するコメントを求められる。課題図書に関しては受講者の専攻を考慮して決定する。講義の中で適宜関連する文献やその探索方法について連絡する。	
	英米言語文化論Ⅰ演習		本講義では、生成文法（generative grammar）理論と呼ばれる言語理論（統語論）の理論枠組みで、英語に観察される様々な文法現象に対する実証研究を行う。生成文法理論は、言語一般を人間という種に固有（species-specific）の生得的かつ普遍的な特性として位置づけ、この内在的な特性を自然科学一般の方法論を用いて科学的に解明することを目指す。こうした思考法の下で、英語に観察される各現象がどのように記述・説明されるのかを、具体的な経験的証拠に基づいて理解する。	
	英米言語文化論Ⅱ演習		演習（議論と発表）の授業形態である。目標は最近の意味論、語用論、日英語比較研究、言語教育に関するテキストと適宜配布される論文の精読と発表を通して、英語と日本語、あるいは英語と他の言語の類似点と相違点を原理的に分析し、ことばとは何かを理解する、また、受講生の修士論文の研究内容に関する発表と議論を通して、研究内容を深化させることも目指すことである。授業計画等の概要は次の通りである。「ことばは文化の乗り物、心の鏡」であると言われる。本演習では、最近の意味論、語用論、日英語比較などの研究成果を活用しながら、英語の諸構文の形式と意味・機能の対応関係を考察し、英語話者の発想や認知が英語の仕組みにどのように映し出されるのかを検証する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目群	英米言語文化論Ⅲ演習		本科目は、「英米言語文化論Ⅲ」に引き続き、言語研究において重要な概念の一つである「主観性」に焦点をあて、言語研究において主観性がどのように捉えられてきているのか理解をさらに深めることを目的とする。授業では、英語や日本語の文レベルの言語現象を中心に先行研究をいくつか読み解き、主観性が個々の言語現象にどのように現れているのか、また主観性をどのように捉えるとこれらの言語現象を説明することができるのか検討する。日本語の文レベルの言語現象については、英語の場合と比較しながら、検討する。授業は、担当者による担当部分についての説明と、クラス全体でのディスカッションを中心にすすめる。	
	英米言語文化論Ⅳ演習		本科目は、理論言語学・普遍文法理論の観点から英語の意味・構造に関する言語現象を考察し、日本語や中国語など他言語との比較も行う。英語の統語的・意味的性質について理解を深めること、英語とその他の言語との共通点・相違点について理解し、先行研究を批判的に検討できることをねらいとする。英語と日本語の諸言語現象の統語的・意味的性質、および英語と日本語の共通点・相違点について、(1)英語についての先行研究の分析を正確に理解すること、(2)先行研究で提出された仮説の妥当性を検証するために、英語や自分の母語の適切な例文を作ることができること、先行研究の分析を批判的に検討できることを主な到達目標とする。このために、授業では受講者による口頭報告、内容についての議論、練習問題の検討を行う。	
	英米文芸文化論Ⅰ演習		この大学院レベルの授業では、聖書を神聖なテキストであると同時に世界文学の一部として探求する学びをさらに深める。聖書が西洋思想や芸術表現に与えた影響を明らかにするため、聖書の主要な章やテーマを取り上げ、それらを西洋の芸術、文化、文学、ポピュラーメディアの解釈に応用する。具体的には、ダンテの『神曲』、ジェームズ・ジョイスやシェイクスピアの作品、ヒュームの思想などを、聖書がそれらに与えた影響を中心に考察する。本講義は全て英語で行われるが、TOEIC 800点以上またはTOEFL iBT 70点程度の英語力があれば理解し参加することが可能である。授業の終了時には、聖書が西洋の理想や創造的表現の形成に果たした役割についての深い理解を得ることを目指す。	
	英米文芸文化論Ⅱ演習		19世紀のアメリカ作家Edgar Allan Poe (1809-49) の作品を論じた現代の批評的エッセーを、議論の展開の仕方に留意しながら精読することにより、19世紀アメリカ文学ひいては世界文学におけるPoeの位置づけについての高度な理解を深める一方、テキスト分析技法を優れた実践例から修得する。また考察結果の発表を通じて、修士課程の学生にふさわしい論理的思考力及びプレゼンテーション能力を実践的に涵養することを目指す。授業形態は講義及び演習の併用である。	
	英米文芸文化論Ⅲ演習		この講義では、イギリス文学史に関する概説書を精読することを通じて、イギリス文学全般にわたる基本的な知識を習得する。具体的には、各時代の代表的な作家や作品を取り上げ、その背景や影響を考察することで、文学史の全体像を理解することを目指す。また、文学史の歴史的な流れを意識しながら、文学作品を分析・研究する姿勢を養う。さらに、批評的な視点を持って作品を読み解く力を身につけることも重要な目標の一つである。このようにして、イギリス文学の深い理解と分析力を培う。	
	言語学演習		本演習では、一般言語学の知識を前提とし、各自が専門とする言語学の諸分野（記述言語学、対照言語学、言語類型論、言語教育学、理論言語学、社会言語学など）に関する質の高い研究発表を行えるようトレーニングを行う。加えて、言語研究に関する専門性の高い文献を熟読し主要な論点や問題点をまとめる能力を養うとともに、言語研究の諸領域をカバーし任意の特定言語を研究対象とする様々な研究発表に対する建設的なコメントができるように研究指導を行う。	
	フランス言語文化演習		近代フランスの小説家マルセル・ブルーストMarcel Proust (1871-1922) は、英国の美術史家・社会思想家ジョン・ラスキン (1819-1900) のフランスへの紹介者・翻訳者としても知られる。本演習では、ブルーストによるラスキン『アミアンの聖書』（1904年仏訳刊行）、『ごまとゆり』（1906年仏訳刊行）の仏訳序文・本文・注釈のなかから重要な箇所を抜粋し、フランス語原文で読む。当該テキストに関わる批評文や研究書にも触れながら、1900年代のブルーストが宗教、教会芸術、読書、自然、戦争等についていかなる考えを抱いていたかを探る。	
	フランス思想史演習		本演習では、フランス語原典を用いて18世紀啓蒙思想を深く分析し、思想史研究の高度な手法を習得する。啓蒙思想は、理性と自由を重視し、伝統的な権威や迷信に挑戦した思想運動として知られており、その影響は現代社会にも深く根付いている。本演習では、ヴォルテール、モンテスキュー、ルソー、ディドロ、ダランペール、コンディヤックなどの思想家の原典を精読し、彼らの思想を詳細に分析する。原典講読を通じて、学生は思想史研究の専門的な分析力を養い、啓蒙思想の多面的な解釈とその現代的な意義を探索。また、演習ではディスカッションや研究発表を通じて、批判的思考力と研究能力を高めることを目指す。本演習は、修士論文執筆に向けた研究テーマの深化と学術的貢献を目指す学生にとって、重要な知識とスキルを提供することを目的としている。さらに、原典講読を通じて、学生はフランス語の読解力と文献分析力を向上させることができる。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目群	英米歴史文化演習		この授業では、現代アメリカの宗教思想を背景に持ちながら国際平和実践に力を注いでいる人々の主張を学ぶ。その過程において英語を多読して、英語文献を多用する力を養い、問題の所在を明らかにする力を育む。国際的な感覚をもってアメリカの平和主義という問題を考える。この授業では、現代アメリカの宗教思想を背景に持ちながら国際平和実践に力を注いでいる人々の主張を学ぶ。その過程において英語を多読して、英語文献を多用する力を養い、問題の所在を明らかにする力を育む。国際的な感覚をもってアメリカの平和主義という問題を考える。	
	ヨーロッパ歴史文化Ⅰ演習		マルク・ブロック『封建社会』、ノルベルト・エリ阿斯『文明化の過程』、ピーター・パーク『ヨーロッパの民衆文化』等、今日なお読み継がれ、解釈され続ける西洋史の重要著作を講読する。講読作品リストの中から参加者の興味関心に沿うものを選び、一作品につき3回をめどに講読を行う。報告者は各回レジュメを準備し、自分なりの解釈や自身の研究との関わり、議論の切り口を示す。参加者同士で議論することで理解を深め、今日的な研究状況に照らして批判的に検討する。4～5作品を取り上げる予定である。	
	ヨーロッパ歴史文化Ⅱ演習		歴史文化を研究するということの意義とは何かを理解し、さまざまな資料（文献や造形物など）を用いて考察してゆく能力を身につける。さまざまな資料を分析する際、どのようなアプローチで分析するか、研究方法についても修得する。演習における報告者は、レジュメを作成し、担当する箇所を正確に報告する能力を高める。参加者と討論し理解を深めるとともに、歴史の研究手法や資料分析を身につける。関心あるテーマについて先行研究を調べ、問題提起を行い、修士論文執筆のための準備を進める。	
	環地中海歴史文化演習		地中海沿岸域を中心とするヨーロッパ、アフリカ、アジアの古代史、中世史について史料に即した西洋史の研究方法を学ぶ。授業は対面の演習形式で実施することを原則とする。初回の授業時に履修者が関心を有する地域・時代について聴き取りを行い、それぞれの研究対象を尊重して授業を進める。なお、内容については、狭い意味での歴史学対象事象に限定することせず、古典、思想、音楽、美術、風俗等についても必要に応じて取り上げることとする。	
	西洋美術史演習		西洋文化史、特に西洋美術史の諸問題の中から、受講生の興味関心を取り入れつついくつかのトピックを取り上げ、それに関する文献の講読を行う。西洋文化史、特に西洋美術史の諸問題に関する文献の講読を通じて、文化史、美術史の方法論や専門知識を習得するとともに、客観的な批判力を身につける。対面形式を本授業の基本スタイルとする。取り上げた文献を理解するとともに、これに対して、客観的に批判できることや、自ら問題提起を行い、それに従って調査研究し、それを客観的・論理的に提示することができるようになることが目標である。	
	憲法Ⅰ演習		憲法Ⅰに続いて、本演習においても、基本的人権の現代的課題を中心に考察する。本演習では、「表現の自由」を共通テーマとして、「知る権利」、「アクセス権」、さらに教育現場においても今後生じるであろう「インターネット上における名誉毀損」などの今日的な問題について考えていく。本講義の目標は、一つの判例の焦点を当てて、日本国憲法の人権保障についての基本的な理解を獲得することである。併せて、諸外国の状況についても、必要な限りで触れることにしたい。	
現代社会科学 プログラム 専門科目群	行政法演習		本授業では、行政法に関する発展・応用科目を受講した学生に対して、修士論文を執筆するために必要となる基礎的な知識・素養を習得することを目的とした演習を行う。本講義では、大学院で初めて行政法に触れる学生、法学部等で行政法を学習したことのある学生の中でもこれを再度学習し直したい学生をも対象に、以上の分野を横断した演習を展開する。具体的に取り上げるテーマ等については、受講生の希望による。報告者は十分な準備をして臨むこと。	
	法社会学Ⅰ演習		本授業科目は、家族をめぐる法的問題を法社会学的観点から学習するものであり、日本語の文献を基礎資料として知識を補いながら、家族法に関するテーマで英語の論文（雑誌もしくは書籍の章など）を精読する。その際に当該テーマについて受講者間でディスカッションを行う。法社会学の観点から家族をめぐる法的問題について英語で書かれた論文を読むことにより、何が問題となっているのか、その問題を考える上で重要な視点や論点はなにか、各国に共通するものと地域や文化特性による違いがあるかなど、法や社会のかかわりについて比較法的な観点から探究することで得られる知識や理解を深めることをねらいとしている。	
	政治学演習		政治史の最小単位は、個人である。したがって、政治史を理解するためには、政治にかかわる個人々々を理解しなければならない。本科目では、個人に着目することで政治史を理解する。その際、もっとも有用な方法は伝記を読むことであるが、本科目では伝記を読むだけでなく、自らの研究関心に沿った人物の伝記を書いてみることで、近現代日本における政治指導について理解を深めるとともに、アカデミック・ライティングのトレーニングを行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	政治学Ⅱ演習		政治過程論とは、政治をめぐる一連のプロセスにおいて展開される、有権者、政治家、政党、官僚、利益団体、マスメディアなど多様な政治アクターの行動とその相互作用を客観的に記述し、政治現象の説明を試みる政治学の一分野である。20世紀初頭に誕生したこの分野では、市民の利益表出の手段とその経路、有権者の支持をめぐる政治家・政党の競合関係、政策形成における官僚の働き、諸集団間の利益調整メカニズム、マスメディアが世論に与える影響など、政治の諸局面に関する研究が幅広くなされてきた。本科目では、民主主義の根底をなす政治制度である「選挙」を主な題材とし、政治過程論の観点から、日本における選挙をめぐる政治について考察する。	
	国際政治史演習		国際政治史・日本外交史、国際関係論の理論・思想、現代日本外交論、またそれらの周辺分野に関する研究書を講読する。これらの分野の方法論に関する文献や、一次史料を取り上げる場合もある。具体的には、参加者の関心を聞いた上で決定する。参加者は、どのような研究上の関心を持っているのか、初回参加時に詳しく説明する必要がある。上記分野の文献・史料を検討することによって、この分野の専門的理解を深めるとともに、研究手法を習得する。どの分野や主題を選ぶかは参加者の希望によって変わるが、参加者の関心を踏まえて、その分野の最新の研究動向を理解することを目指すことになる。学界の発展に貢献出来るだけの成果を出すことが求められる。本科目も、そのために必要な能力・姿勢を身に付けることが目標である。	
	政治思想演習		本科目は、主に西洋の政治思想に関する古典を輪読し、政治現象に対する哲学的アプローチに習熟し、古典のもつアクチュアリティ（現在性）に対する理解を深めると同時に、われわれの現在性それ自体の起源をとらえることを課題とする。ガイダンスでは簡単な政治思想の歴史を紹介するが、その後は文献講読とディスカッション、中間および最終報告では受講者による報告を行ってもらう。したがって、本科目を受講する学生には、事前に文献等を読んで準備をし、積極的に議論に参加することが求められる。なお、講読する文献については初回の授業までにリストを送り、受講者との相談のうえで決定する。	
	行政学演習		本科目は、行政学の基礎的文献について、各回1冊ずつ取り上げて受講者の一人が報告し、その内容について討論により理解を深める輪読形式の演習科目である。さしあたりの参加者が初学者であることを考慮してテキスト欄に挙げた行政学の古典的教科書を輪読し、受講者の理解度をみて、随時テキストの変更を行う。本科目のねらいは、行政学を構成する制度、政策、管理という枠組みと、その枠組みに基づく個別の要素を、基礎的文献を講読することで習得できるようにすることであり、その内容を受講者間で深めることにある。また、自ら通読すべき書籍または論文を探すことができるようになることを達成目標とする。	
	国際法演習		国際人権法に関係する現代的課題について、日本語・外国語（英語、フランス語）文献を講読する。具体的には、本講義は演習形式で個々の学生が設定したテーマに関連する外国語文献及び国際判例の主要なものを集中的に読み込み、当該テーマを論ずるに際して知っておくべき周辺知識も含めた議論を行う。文献・事例に基づいた発表と議論により実施する。演習を通じて、受講者は国際人権法の諸側面に関する基本的な知識を習得し、かつ外国語の運用能力を向上させることを目指す。	
	租税法演習		本授業では、租税法の様々な問題を、各人の研究テーマに従って掘り下げ、発表・討論を通じて将来の修士論文の執筆に役立てることをねらいとする。具体的には、租税法総論、租税手続法、所得税法、法人税法、相続税法、消費税法について、租税法学の全体的な内容を理解して、修士論文におけるテーマ決めの一助となるようにすることを目的とする。	
	情報法演習		演習形式で行う。個人情報保護に関連する事件の分析と評価、政府・公務員視点及び国民（住民）視点での個人データ関連政策の評価、事業者視点・消費者・利用者視点での個人情報保護コンプライアンス・プログラムの策定と評価について、学生それぞれが分担した課題をレポートにまとめて報告、教員及び学生とディスカッションを行う。また、分担したプライバシー侵害に関連する憲法及び民法の判例についてその評釈をレポートにまとめ報告し、教員及び学生とディスカッションを行う。	
	社会保障法演習		社会保障法総論、所得保障法、医療保障法、社会福祉法制における課題を扱う。所得保障に関する制度には、年金、就労支援と労働保険、生活保護が含まれる。医療保障法では、公的医療保険と医療提供体制を扱う。社会福祉法制では、介護保険、障害者雇用・自立支援、出産子育て支援・児童福祉、権利擁護を扱う。社会保障法の総論としては、社会保障法と憲法、社会保障の方式の2つの分野を取り上げる。各項目においては、法制度の内容と制度趣旨、歴史的展開や政策課題を中心に受講者に報告を求める。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目群	民法Ⅰ演習		本授業では、民法学における古典的著作を精読することを通じて、民法学の研究に必要な知識・技能・読解力を習得することを目的とする。対象としては、差し当たり、平井宜雄『損害賠償法の理論』を想定しているが、履修者の希望に応じることも可能である。履修者は、毎回の授業における講義箇所の要点、テキストを理解するために必要な背景情報、テキストを内在的に理解した上での外在的な批判、等をまとめた報告レジュメを作成してることが求められる。	
	民法Ⅱ演習		「成年後見の社会化」によって生じた民法上の政策課題について、民法の基本原則との整合性という視点からの理論的分析と、現実の運用実態の分析を行い、適正な規制のあり方を考究する。併せて、広くわが国の社会福祉政策全体の観点を踏まえうえて、現代社会における判断能力不十分者のあるべき法的位置づけについて検討する。本年度は法制審議会民法（成年後見等関係）部会において審議されている民法及び任意後見契約法の改正の課題点に焦点を当てる。	
	民法Ⅲ演習		民事裁判の豊富な経験を有する教員により、民事要件事実論を通じ、民法の理論と実務の架橋を探究することを目的とする。講義は、民法Ⅲの履修を踏まえて、民事要件事実論に関する各自の研究テーマに関する論文・書籍、これに関する判例等を講読し、担当者に報告してもらい、教員・受講生を含めた討論を行い、その結果を踏まえて考察を深めていく。民事要件事実の論点の紛争解決上の意義と民事要件事実の論点と実体法の解釈の関係についての理解を前提として、各自の研究テーマについての意義や問題の所在を明らかにしていく。	
	刑法Ⅰ演習		経済刑法は、企業活動と経済取引に関連する犯罪に対する刑罰法規一般を指すものとされている。企業による経済活動の社会的重要性の著しい増大は、企業による不正行為に対する規制を不可欠とすると共に、正当な企業活動を違法な攻撃から保護する必要性を拡大させた。経済刑法は、これらの要請を受けて、比較的近年確立した学術分野である。本科目では、「刑法Ⅰ」の授業で得た我が国の経済刑法の知識を前提として、諸外国での経済刑法をめぐる状況を理解し、我が国との比較を行うことを目的とする。	
	刑事訴訟法Ⅰ演習		原則として、演習形式で授業を行う。受講者は、各自の研究関心に応じて研究テーマを設定する。研究テーマの設定にあたっては、刑事重要判例や犯罪に関する時事問題などを素材とすることが望ましい。このように各人が選択した刑事手続上の諸論点・諸問題について研究し、刑事訴訟法の応用学力を固めることを通じて、法的思考方法を養うことを目的とする。また、プレゼンおよび議論のスキルを深化し、他者との議論等を通じて得られた知見をもとに自らの主張を再構成する能力を涵養することを目指す。	
	刑事訴訟法Ⅱ演習		刑事訴訟法Ⅱで学んだ刑事法に関する判例・実務と学説との乖離を出発点として、修士論文執筆に向け、各自の研究テーマについて、その意義や問題の所在を明らかにすることを目的とする。また、刑事訴訟法Ⅱ特論の受講を踏まえて、修士論文の執筆に向けて、各自の研究テーマを決定し、かつ、個別報告による検討を行う。 学習の到達目標は、①各自の研究テーマの選定、②各自の研究テーマに関する先行研究を収集・要約すること、③先行研究に対して、各自の研究テーマの意義や独自性を明確にすることである。	
	労働法演習		労働法上の諸問題について、判例等を踏まえうえて、報告及び討論を行う。具体的には、各受講生が、自らの研究計画に即し、興味関心がある諸問題について、演習において報告し、他の受講者はそれについて討論を行う。報告は、判例等を踏まえて実践的な内容になるよう努めるものとする。ただし、受講生が労働法の初学者である場合には、受講者は、労働法上の諸問題の問題提起のみを行い、講師がそれに対して講義する形式で行うことがある。労働法上の諸問題を研究し、論文作成につなげることを目的とする。 また、労働法に関し幅広い素養を修得するために、受講生同士での討論を通じ理解を深めることも目的とする。	
	商法Ⅰ演習		本授業は会社法を取り扱うものであり、演習形式による。本授業は、会社法分野で近時どのような事件が問題となっているかを把握し、判決文・判例評釈・法学分野の論文を読むのに習熟し、判例研究の手法を習得し、論理的な文章を作成できるようにすることを目的とする。授業の各回の報告者は、判例百選等から関心のある会社法判例を選択し、判例評釈、論文等の関連文献を熟読した上でレジュメを作成する。他の受講者も議論に参加する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	損害賠償法演習		本講座では、各履修者が有する研究テーマに関連した損害賠償法上の諸問題についての検討が行われる。講座で取り上げる具体的な内容は、各履修者と相談の上で決定するが、損害賠償法に関連するものであれば取り扱うため、その検討対象を広く想定している。また、本講座では、修士論文の執筆のために必要とされる実践的な素養を中心に学ぶことになる。このため、履修者の研究テーマに関連する損害賠償法上の諸問題を取り上げ、損害賠償法に関する理解を深めるとともに、履修者の問題意識を掘り下げて、修士論文を執筆する際の素養を身に付けることをねらいとしている。すなわち、修士論文を執筆するために求められる損害賠償法に関する基本的知見とその理解を修得するとともに、各自の研究テーマに関連する損害賠償法上の問題について、基本的な論点を理解した上で、個別具体的な問題点につき事例分析を行うことができるようになることを到達目標とする。なお、授業実施形態としては、演習方式で、原則として対面とする。また、基本的に、報告と、質疑応答・議論を中心に授業を行う予定である。報告者はレジュメを事前にメールで提出し、それを履修者の予習材料とする。報告者に十分な準備が求められることは言うまでもないが、他の履修者にも積極的な議論への参加が求められる。	
	金融取引法演習		我が国における金融取引法分野での、①銀行、証券会社等、個々の金融の担い手による特別法や一般法の枠組みと各主体のコンプライアンス体制、②グループ管理における実質支配基準に基づく連結自己資本比率規制や、③内部統制の枠組みの理解と鳥瞰④いわゆるF i n t e c h関連のブロックチェーンやクラウドシステム⑤上場会社としての本体及び金融グループの有価証券報告書等の財務諸表・内部統制報告書との関連での監査法人の監査の枠組み・基準の在り方との関連⑥金融とA I（人工知能）システム、業務関連でのA Iの自動学習、A Iとロボットの定義との関連での今後の法規制の在り方との関連等の課題⑦「新たな地域における地方銀行・地域金融機関の合併や経営統合を通じた地域での金融機関の再編の動き」と関連する特別法の領域・民事再生法等の企業再生の法的枠組みの理解とその分析・サイバーセキュリティに関連した安全保障関連の通商法規制のリスクや各種危機管理関連のリスクの統合分析⑧民事法分野における金融担保的取引に関する法律問題の研究⑨DX関連でのデジタルデータの民事法・倒産法上の取扱いと民訴法・電子署名法でのデジタルデータの真正性の推定についての取り扱いと文書管理体制と内部統制の課題 等の受講生の研究領域・周辺領域・関連領域との関連で選択した課題の研究を通じて、金融機関における実務とその前提となる法的枠組みの関連についての修士課程レベルでの研究の基礎を習得し、ファイナンス法の周辺領域・関連領域も含め、受講生の研究における修士論文作成に向けた方法的な活用を可能とする研究指導を行う。	
	ミクロ経済学演習		ミクロ経済学は様々な分野の経済学の基礎を成している。故に、経済学の分野に関わらず、ミクロ経済学の理論の知識を深めることは重要である。この科目の前提科目であるミクロ経済学とこの科目（ミクロ経済学演習）では修士課程レベルのミクロ経済学を講義する。学部で学んだミクロ経済学の理論を復習し、より厳密にミクロ経済学の理論を解説し、理論の一般化の方向性と応用方法について講義する。この科目（ミクロ経済学演習）では一般均衡理論及び不完全競争などの市場の失敗について解説する。	
	組織の経済学演習		応用ミクロ経済学の理論的手法を学び、企業理論について理解する。具体的には、産業組織論、企業経済学、組織の経済学に関連する、書籍や論文等の主要先行文献を詳細に読んでいくことで、企業の経済分析の手法について学ぶと共に、経済理論から得られる諸命題や結論の持つ経済的意義について、受講者自身が論理的に考察できる理解力を身に付けることを目的とする。企業行動と企業組織の経済学的分析、企業内部の意思決定についての経済理論を学び、企業内部組織の効率的設計と意思決定の問題を考察する。	
	計量経済分析演習		計量経済学は、消費者や企業、政府などの経済活動に関するデータを統計学的に分析する手法を開発してきた学問分野である。この授業では、最小2乗法、操作変数法、差の差の推定法、固定効果モデルなどの計量モデルをデータを使って実際に推定する演習を行う。データの分析には統計ソフトウェアRを用いる。計量経済分析では、（1）計量モデルをどのように特定化するか、（2）モデルに含めるべき変数が観察できない（入手できない）場合にはどのように対処するか、（3）モデルには含まれていないが分析の対象としている経済活動に影響を与え得るさまざまな要因の影響にどのように対処するかといった問題に直面する。この授業では、特製の異なる様々なデータを使った演習を通じて、データの特性に応じた計量モデルの正しい使い分けができるようになることを目指す。	
	環境経済学演習		大学院における研究と学位論文の執筆には、専門的基礎の知識と調査研究の手法、研究内容の考察及びとりまとめ、発表及び論文執筆についての広範な知識が必要である。この演習では、環境経済システム分野の実践的な公共政策研究のテキストを用いながら、参加者による発表と討論による演習形式を通じて、環境経済システム分野の個別の応用的な研究テーマに対応した指導も交え、より効果的に大学院における学修、研究を行っていくための素養を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目群	労働経済学演習		労働経済学演習では、労働市場の理論と実証分析を実践的に学ぶことを目的とする。具体的には、賃金決定、失業、人的資本投資、労働移動、労働市場の不平等といったテーマに関連するデータ分析を中心に進められる。学生は実際のデータセットを用いて、STATAやRなどの計量経済学ツールを活用し、仮説検証や政策評価を行う。また、最新の学術論文を題材にしたディスカッションやプレゼンテーションを通じて、批判的思考や研究の構築能力を養う。演習は理論を実践に結び付け、政策分析や研究への応用力を高める内容となる。	
	ゲーム理論演習		ゲーム理論の基礎を学ぶ。ゲーム理論は複数の意思決定主体の戦略的な依存関係を合理性の観点から分析する数理的理論である。ゲーム理論は産業組織理論、公共経済学、厚生経済学、国際経済学、マクロ経済学など経済学のあらゆる分野に応用されており、今や経済理論の必須事項であると言っても過言ではない。本科目では「ゲーム理論」で学んだ内容を前提に、ゲーム理論の経済学・その他の諸科学への応用の仕方、または問題解決のための数学的な知識・技術を、問題演習を通じて向上することに力点が置かれる。	
	マクロ経済学演習		「マクロ経済学」を受講し、マクロ経済学の基礎理論を理解したうえで、政策的課題、発展的課題を学ぶことがこの講義の目的である。具体的には、安定化政策などのマクロ経済政策の効果を短期から中長期のモデルでどう評価できるかを学び、必要とされる数学的手法を修得したうえで、ミクロの基礎付けを持つマクロ経済学の面から、金融市場・貨幣市場や、消費・投資の理論を学ぶ。消費・投資に関してはラムゼー・モデルを導入することによって、マクロ動学を理解する。	
	国際マクロ経済学演習		国際マクロ経済学に関する論文を作成することを目指す。為替レートに関する実証研究、理論研究の最近までの流れを理解したうえで論文を書く。論文は、為替レート、貿易収支などを含んだ開放マクロ経済モデルあるいはそれに関連した理論モデルを用いた分析によるものとする。より具体的には、為替レートや貿易収支を明示的にモデル化したもとの財政政策、金融政策といった各政策の効果の分析、金融危機の国際間での伝播といったことを分析対象とする。大学院初級レベルのマクロ経済理論や計量経済学の基礎的な知識を事前に持ち合わせていなければならない。	
	応用ミクロ経済学演習		ゲーム理論やメカニズムデザインの一分野であるオークション理論を学ぶ。一財の場合のオークションは良く分かっている一方で、複数財のオークションの問題は、財が代替財で効率的なオークションについては割と分かっているが、それを超える範囲はまだ限定的にしか分かっていない。オークション理論では、どの財または財の組み合わせをいくらで誰に売るのが（誰にとって）良いのかを考える。日本を省く先進国では、これらのオークション理論は、周波数割り当て問題に応用されている。	
	財政学演習		今日の財政システムを巡っては、経費構造の見直し、財政の持続可能性、グローバル経済下での税制改革、社会保障制度改革など、従来のものから新たなもので、多数の改革の論点が提起されている。財政の現状と改革の動向、改革の論点を理解するためには、財政に関する理論・歴史・制度の深い知識が欠かせない。そこで本講義では、財政学に関する基礎的・専門的文献を読み、日本をはじめとする現代財政制度とその財政改革論について理解を深める。	
	世界経済史演習		経済史に関するテキストの輪読（テキストは日本語または英語、発表は日本語）と受講生による研究発表（日本語）を行い、受講生全員で討論を行う。経済史だけでなく、文化交流・環境問題や資源問題と経済社会の関連・外国史・帝国史・世界史における日本など、グローバル・ヒストリーが対象とする内容も取り扱う。とくに西洋近世を中心的に扱うが、近代（産業革命以降の時代）以降も対象とする。また、西洋だけでなく、東洋や日本との接続の歴史も扱う。	
	比較経済思想史演習		本講義では、比較経済思想史研究にあたって基礎となるテキストを読み、議論をしてゆく。本年度は『米欧回覧実記』をテキストとする予定である。テキストをもとに、毎回テーマを設定し、各人に報告をしてもらう。その際、テキストの内容をただ祖述するだけでなく、批判的に読むことが求められる。とくに日本を中心とした東アジアの思想史に関する知識をみにつけることをめざす。受講者が外国人である場合には、古典的な日本語を解説する能力をみにつけることも本科目の目標である。また、テキストの内容にもとづき、論理整合的に議論ができることをめざす。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目群	アメリカ経済演習		本科目は、アメリカ経済の発現と発達・発展が世界の秩序をどう揺るがしその質をどう改変させてきたうえで、今日に至っているのかについて、そのメカニズムに関する分析とそれに基づく知見の修得を目標とする。授業形態は演習形式で実施し、指定テキスト及び参考文献等の解に則した各回の課題の提示・提出を求め、その内容に伴う質疑応答を繰り返す形で議論を進めてゆく。授業計画・テーマに関しては、以下の通りである。①ガイダンス ②「内向きの世界をとがらせるアメリカ ③暮らしの不安を導く世界秩序 ④アメリカによる引導の衰微 ⑤捻じ曲げてでも貫く「一番」への固執 ⑥「初志貫徹」と「臨機応変」の両立 ⑦「モンロー主義」の拡大解釈に則った貫き ⑧「バックス・アメリカナ」の醸成と斜陽 ⑨「囲い」の変質への着目 ⑩封鎖を道行く「囲い」 ⑪「自由」を管理する「囲い」 ⑫「経済安全保障」の確保を求む「囲い」の交錯 ⑬アメリカ経済と世界秩序のいま ⑭命脈を育むことの尊厳を守るために ⑮まとめ	
	ロシア東欧経済演習		ロシア東欧経済の授業で培った知識や理解を踏まえ、ロシア及び東欧諸国（中欧、東欧、南東欧）経済の経済動向分析を行うために、より深く、継続して学術研究に必要な知識、文献サーベイ力を養う。国内外の先行研究や各種国際機関が発表する分析レポートの輪読、公式統計を利用した経済分析を試みながら、研究者レベルの深い理解と多角的かつ客観的な考察に取り組む。比較対象としてEU、アメリカや、中国やベトナムなどのアジアの移行諸国、ならびにその他の新興諸国も扱い、ロシア東欧経済の特殊性を理解する。授業は演習形式で行う。	
	EU経済演習		1999年1月にユーロ導入という国際金融史的分水嶺に到達しつつも、2009年10月のギリシャ財政債務危機発覚を契機とする「ユーロ危機」において、統合のさらなる深化を「余儀なくされる」EU加盟27カ国。長期の統合ヨーロッパ建設過程を経て、ローマ帝国を彷彿とさせるほどにまで拡大した「ひとつのヨーロッパ」が、いま未曾有の混沌に苦悩している。超国民国家的経済主体としてのEUが提示する欧州地域における経済統合の今日的意義（A. S. ミルワードによる「統合を通じたヨーロッパ国民国家の救済」テーゼ）について、1648年を起点とする「ウェストファリア体制」の時間的可変性と空間的多様性に着目しつつ、経済制度、経済政策、国際経済関係、ポストモダン時代の超国民国家的特色を反映した「サブカルチャー」などの多様な観点から考究する。グローバル化時代におけるリージョナリズムについて、おおいに議論しよう。（1）多様な属性を有する受講生諸氏の存在を前提に、教育効果の観点から、Zoomを用いたリアルタイム型授業と対面型授業を併用する。（2）演習形式でのテキスト輪読を中心とするが、適宜、受講生諸氏による研究（学修）成果発表を折り込み、「通説」に挑戦する強い意志を養う。積極的参加が望まれる。	
	中国経済演習		中国経済は計画経済から市場経済への移行経済という側面をもち、経済制度の大きな変革を伴いながら、高度経済成長を経て、こんにち資本蓄積過剰など多くの矛盾が露呈してきている。本講義は、受講生が中国経済を体系的に理解することを目標とし、中国経済の今日注目されているいくつかの側面（労働力市場、国有企業改革、金融制度改革、中央—地方政府間関係など）を、受講生の研究方向を勘案しながら文献の輪読とデータ分析を通じて研究していく。	
	開発途上国経済演習		開発経済学・アジア経済論（開発途上国経済論）に関わる大学院レベルの知識・理論を身につける。当該分野に関するできるだけ新しい文献・論文を知り、読解し、理解する。また、文献の探索方法を学び、論文の作成方法を身につけることも目標とする。開発経済学・アジア経済論（開発途上国経済論）に関わる大学院レベルの文献を読解し、担当者はレジュメ・パワーポイントスライドを作成し、文献の内容を発表する。後、参加者全員でディスカッションを行う。教員が指示した文献を探索し、読解しておくこと。担当者は、レジュメ・スライドを作成し、発表の準備を行う。	
	政治経済学演習		テーマを決めて、そのテーマに沿った政治経済学の著作をとりあげ、その文献を読みながら、討論によって内容の理解を深める。具体的には、毎回文献の読了をつうじて、政治経済学の視点から、設定したテーマについて討論を行う。テーマに応じた政治経済学の文献をとりあげ、研究の到達点の理解と問題の所在と解決の観点の学習することをねらいとする。文献の読了をつうじて、政治経済学という観点から、多面的な考察力を育成することをねらいとする。	
	公共経済学演習		公共政策の策定、実施および評価においては、経済学の考え方を基盤として構成されていることが多くっており、経済学およびその応用分野の一つである公共経済学に関する専門知識は必要不可欠になっている。本科目は、現代社会の構造と政府の役割を体系的に理解するために必要不可欠な専門知識の一つである公共経済学に関する主要文献を演習形式で輪読することにより、公共経済学特論で講義形式で習得した公共経済学に関する高度な専門知識を体系的に修得することを目指すものである。	
	公共選択論演習		本科目は、公共政策を扱った学術論文の輪読を行い、政策過程における利害関係者の行動を経済学的な理論によって分析しつつ、公共政策の帰結を探っていく。経済学的なアプローチで公共政策を分析しようとする者に必要な経済学の理論と分析方法を学び、実践する。本科目の目標は公共政策について経済学を用いた評価ができることとする。授業は対面もしくは、オンライン会議システム（Zoom）を用いたリアルタイム型オンライン授業とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	中小企業論演習		本講義では、中小企業の特長や課題について学術論文や専門書を通じて深く学ぶ。特に、日本国内の中小企業の特長を理解するだけでなく、世界における中小企業の歴史的背景や、日本と海外の中小企業の類似点や相違点を比較分析する。また、経営資源が限られている中で、中小企業がどのように課題を克服し、存続・成長を遂げるかに焦点を当てたマネジメント手法について議論を行う。学生は文献を精読し、発表や議論を通じて理論と実践を結びつける力を養う。特に双方向の授業を重視し、発表者だけでなく、参加者全員が議論に積極的に貢献することで、実践的な分析力と問題解決能力を向上させることを目的とする。授業では、地域経済やグローバル市場における中小企業の役割を理解し、より広い視野での課題解決を模索する。	
	地方財政演習		当該科目は、演習形式で行い、地方税財政に関する専門書や特定の公共政策に関するテキストを題材として、精読とそれに関する講義・議論を行う。当該講義を通して、地方税財政や特定の公共政策について、関連する制度も併せて調査し、まとめ、発表することができるようになることを目標とする。授業では、学生は専門書・テキストの担当箇所について予めレジュメをまとめて授業に臨み、担当箇所の要点をレジュメに基づいて報告する。教員は、レジュメのまとめ方（要点の取り方）を指導するとともに、レジュメ記載事項の考え方にについて当該学生に質問するとともに、講義を行う。	
	経営戦略論演習		本科目（経営戦略論演習）では、経営戦略論を「研究」するにあたって必要な基礎的内容について、特に「経営戦略論の研究手法論」を身につけることを意識しながら学ぶ。具体的には、経営戦略論の研究において使用されるさまざまな研究方法（たとえば、事例研究、実証分析、混合研究法等）について、それらが使用された論文などを読みながら理解を図り、さらには自身で使用する（たとえば、修士論文で活用する）ことのできる力をも身につけられるようになることを目指す。	
	経営組織演習		学術論文を読むことを通じて、経営組織論の専門知識を深く学ぶとともに、論文の書き方への理解を深める。また、アーカイバルデータ分析、質問票調査、実験、シミュレーション、質的比較分析（QCA）、インタビューによる企業事例分析など、様々な調査・分析手法について知る。学修到達目標は次のとおりである。①英語論文を読み、その内容を正確に把握することができる。②先行研究のレビューをどのように書くべきか理解する。③リサーチデザインや研究方法が選択された理由について考察できるようになる。④論文の優れている点が何か考察できるようになる。⑤論文の問題点・課題と改善の方向性について考察できるようになる。	
	組織行動演習		参加者の研究に関連する「組織行動論」の専門書あるいは論文を精読し、批判的な考察をおこなう。専門書あるいは論文を批判的に考察する力を身につけることで、自らの研究テーマの問題設定をより明確にしていけるためのトレーニングをおこなう。学修到達目標は次のとおりである。①専門書あるいは論文を読むことができ、内容をきちんと理解することができる。②先行研究に対して批判的な考察をすることができる。③先行研究との関連から自らの研究の問題設定を明確にすることができる。	
	医療経営演習		本科目では、いわゆる「精読」形式を通じて、「医療経営学」の専門的知識と社会科学領域における研究基礎を学ぶ。履修者は医療経営学に関連する専門書や論文を分担して読み、その内容を要約し、論点を発表・討論することで理解を深めていく。本科目の目的は、医療経営学の専門的な思考フレームワークを理解し、医療の特殊性を前提にした医療経営のあり方について自らの考えを整理しまとめること、また社会科学領域における基礎的な研究スキルを身につけることである。本科目の履修を通じて、専門的な文献や論文を読み、その要点を的確に把握する能力を養うとともに、批判的に考察し、その内容を自分なりに解釈できるようになる。さらに、先行研究の成果を自らの研究テーマにおける課題設定に活かす方法を学ぶ。この科目では、医療経営学の専門知識を深めると同時に、社会科学的な研究手法を実践的に習得することができる。	
	マーケティング論演習		グローバル化、デジタル技術の進展、そして社会課題の多様化に伴い、マーケティングは単なる販売促進の手法ではなく、価値創造や社会課題に向き合う視点が不可欠である。さらに、消費者が見知らぬ人ともSNSを通じて繋がり情報を共有し、ニーズがますます多様化する現代のマーケティングは、消費者心理を理解し、それに基づき商品やサービスの提供が不可欠である。本科目は近年の研究で明らかになっているいくつかの消費者心理について取り上げ理解を深める。	
	技術経営演習		本科目では、技術経営論を「研究」する上で必要な基礎および応用について、特に「技術経営論の研究手法論とその広がり」を学習するとともに自身の研究計画に反映させることを意識しながら学ぶ。本科目では受講生の研究スタイルに合わせながら、技術経営論およびその周辺領域（アントレプレナーシップ論・経営戦略論・科学技術社会論・産業組織論など）に関連する論文を精読することを通じて、研究方法論を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	財務会計演習		企業が行うモノ・サービスの生産・販売や、資金の調達・運用などの経済活動を記録し、外部の利害関係者に報告するシステムを財務会計と言う。財務会計は、①投資家に情報を提供することにより資本の適切な配分を促進する機能、②経営者の監視に寄与することにより経営者が責任をもって行動するよう動機づける機能の2つの機能を持つ。この科目では、履修者が自ら選択した会計学の学術論文を報告することで、会計情報が持つ性質や実際の社会の中で会計が果たす役割を学習する。論文の選択方法や入手方法については、第1回の授業で説明する。ただし、履修者の受講目的に応じて、テキストの輪読を行う場合がある。	
	管理会計演習		現代社会の企業は、ますます不確実性を増す経済環境において、様々な意思決定や組織管理手法を用いる必要がある。管理会計を学ぶことは、数字を生み出す単なる計算技法を理解することにとどまらない。企業が経営を行う上で直面する様々な問題への理解、国や地域ごとの企業観の変化の理解、周辺領域との学際的な理解など、多方面からの考察が不可欠である。本授業は、こうした高い意識のもと、管理会計を学ぶ。本授業は、受講生のプレゼンテーションおよびディスカッションを進めていく授業である。本授業は、管理会計のアドバンス的な内容であり、高度な管理会計について学修していくものである。	
	国際会計演習		授業形態は、原則として、対面式とし、演習を中心とする。分析的会計研究における主要な論点や結果を理解することを目標とする。基本的なプリンシパルとエージェントの問題を数理モデルで表現する方法や、分析で利用される契約理論の手法に習熟することを目指す。分析的会計研究分野における重要なサーベイ論文を2つ題材とし、それらを順番に丁寧に読み、履修学生がその内容を説明する。適宜、サーベイされている論文を実際に読み、基本的な研究力を養成する。	
	経営税務演習		この授業の前半では、法人税法及び消費税法における法的問題について、主要な訴訟事件判決を踏まえたうえで、履修生による発表及び議論を行う。内容としては、法人税法22条2項の「取引」の意義、法人税法における公正処理基準、消費税法における役務提供の内外判定、資産の譲渡の概念が争われた訴訟事件判決を取り上げて議論を行う。また、この授業の後半では、各履修生が興味を持った法的問題について、関連する裁判例、先行研究論文、その他の文献資料を基に発表し、質疑応答を行う。	
	知的財産論		近年の知的財産を用いたコンテンツビジネスの役割を把握しつつ、アニメ・映像分野にとって、非常に重要な著作権と関連する権利の基本を学ぶ。その際には、実際に問題となった作品や事件、アニメ・映像及びそれに関連したコンテンツを扱う各業界（アニメ、映像、ゲーム、マンガ、音楽など）のビジネス構造のほか、同人活動、ファンアート、人工知能、メタバース、アバターなど、話題の事象が、著作権法とどのように関わっているのかに触れることで、社会で使える知識の取得を図る。	
アニメ・映像資源科学プログラム専門科目群	アニメ文化解析演習		本授業は、デジタル技術の発展に伴い台頭したデジタル・ヒューマニティーズの考え方と研究方法論を取り上げる。デジタル・ヒューマニティーズとは、人間の力だけでは難しかった膨大な文化データを網羅的に、なおかつ数値的に研究する理論である。アニメの制作過程で作成された絵コンテやセル画など「中間素材」にも同理論を応用し、コンピュータによるデータ解析を通して人間の認知能力を超えたところにある傾向やパターンが提示できる研究方法を学習する。	
	デジタル映像資源演習		本演習は、デジタル環境を想定したうえで文化資源、映像資源、再媒体化といった概念を主軸にする。まず、文化資源という概念を映像文化に応用し、デジタル環境における映像資源について検討する。さらにアナログ時代のアニメ制作過程で作成された原画など「中間素材」の映像資源としての可能性について考察する。最後に、ニューメディア論において提唱される再媒体化という概念を理解し、デジタルテクノロジーを駆使した映像資源の再媒体化が実践できる能力を獲得する。	
	地域文化資源アーカイブ演習		国内外における博物館・図書館・文書館等のデジタル・コンテンツの集積・公開の進展とその可能性の拡大、公開資料を利用したデジタル・ヒューマニティーズの隆盛、そして深刻化する人口減少・高齢化がもたらす地域文化資源の保存・継承の危機を背景として、地域文化資源のデジタルアーカイブ化が日本各地で活発化している。しかし、過疎・高齢化地域など特に地域文化資源の保存・継承に困難を抱えた地域においては、今なおデジタルアーカイブ活動の開始・継続は容易ではない。こうした問題を念頭に本講義では、福島県奥会津地域をフィールドとして、地域文化資源のデジタル化作業の計画立案・計画実施・成果活用計画の策定を行う。地域住民や地域のアーカイブ機関・自治体との協働を通して、過疎高齢化地域の現状と課題・ニーズを知り、地域文化資源のデジタルアーカイブ化について、地に足のついた考察・実践を行う力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(総合学術研究科 人文社会科学専攻)				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	映像資源科学演習Ⅰ		映像資源科学に関する文献を詳読することを通し、自ら文献等を調べ、知識を深める能力を養う。本演習を履修することにより、修士論文研究に必要な知識を系統的に得ることができるとともに、最新の研究動向を把握できる。各研究テーマに関連する研究分野の国内外の文献に書かれた内容を理解できることを目標とする。	
	映像資源科学演習Ⅱ		映像資源科学に関する課題研究において、各研究テーマに関連するデータ分析、シミュレーション、設計などを行う。これらにより、研究を遂行する上で必要となる実践的なスキルを身につける。各研究テーマに応じて、適切な手法を選択し、研究の進展に貢献できるようになることを目標とする。	
	映像資源科学演習Ⅲ		映像資源科学に関する文献を詳読することを通し、自ら文献等を調べ、知識を深める能力を養う。本演習を履修することにより、修士論文研究に必要な知識を系統的に得ることができるとともに、最新の研究動向を把握できる。各研究テーマに関連する技術内容を、文章や図表などを用いて適切に表現できるようになることを目標とする。	
	映像資源科学演習Ⅳ		映像資源科学に関する基礎的な知識を学び、研究や実践に応用する力を養う。特に、映像アーカイブの保存技術、デジタル修復、機械学習による映像解析、メタデータ管理、コンテンツ認識などの分野を取り上げる。学んだ知識を活用し、実際の課題に取り組み解決できるようになることを目標とする。	
日本酒学プログラム専門科目群	日本酒学演習Ⅰ		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。本講義は指導教員により実施される演習である。そこで、具体的には、日本酒学に関する各自の専門分野の研究や調査、さらに分析した内容等について、各自が的確にまとめ、その内容を発表し、討論するものである。	
	日本酒学演習Ⅱ		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。本講義は指導教員により実施される演習である。そこで、具体的には、日本酒学演習Ⅰの進捗を踏まえ、日本酒学に関する各自の専門分野の研究や調査、さらに分析した内容等について、各自が的確にまとめ、その内容を発表し、討論するものである。	
	日本酒学演習Ⅲ		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。本講義は指導教員により実施される演習である。そこで、具体的には、日本酒学演習Ⅱの進捗を踏まえ、日本酒学に関する各自の専門分野の研究や調査、さらに分析した内容等について、各自が的確にまとめ、その内容を発表し、討論するものである。	
	日本酒学演習Ⅳ		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。本講義は指導教員により実施される演習である。そこで、具体的には、日本酒学演習Ⅲの進捗を踏まえ、日本酒学に関する各自の専門分野の研究や調査、さらに分析した内容等について、各自が的確にまとめ、その内容を発表し、討論するものである。	
	研究発表演習（中間発表）		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。本講義は指導教員により実施される研究発表演習である。そこで、具体的には、修士論文研究課題や指導教員より指示された課題について文献に基づき調査するとともに、それらを分析し内容をまとめる。まとめた内容について、プレゼンテーション形式で報告する。	
	研究発表演習（学外発表）		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。本講義は指導教員により実施される研究発表演習である。そこで、具体的には、自身の研究について、背景・目的を調査・整理し、必要な実験を計画・実施し、得られた結果を図表として表現し、それを元に論理的に思考・考察する。以上を学会や研究会等で発表し、専門家と議論する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目 群	日本酒学概論I（自然科学）		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。本講義は自然科学分野の専門家により実施される。具体的には、日本酒を軸とした幅広い知識の中で、日本酒に関連する自然科学の領域の基礎的な内容を、各分野の専門家によるオムニバス形式で講義する。なお、本科目の一部は、酒類メーカーの実務経験を有する教員が、それを活かした講義を行う。 （オムニバス方式／全9回） (183 平田 大／1回) ガイダンス・日本酒醸造 (186 藤村 忍／1回) 日本酒と食に関する講義を担当する。 (151 大竹 憲邦／1回) 日本酒と植物に関する講義を担当する。 (213 鈴木 一輝／1回) 日本酒と環境に関する講義を担当する。 (233 宮本 託志／1回) 日本酒と米に関する講義を担当する。 (221 西田 郁久／1回) 日本酒と醸造微生物に関する講義を担当する。 (237 赤尾 健／1回) 微生物研究の最前線に関する講義を担当する。 (240 岩下 和裕／1回) 醸造研究の最前線に関する講義を担当する。 (244 奥田 将生／1回) 原料研究の最前線に関する講義を担当する。	オムニバス方式
	日本酒学概論II（人文社会科学）		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。本講義は人文社会科学分野の専門家により実施される。具体的には、日本酒を軸とした幅広い知識と日本酒の基礎知識のうち、日本酒に関連する人文社会科学の領域の基礎的な内容を、各分野の専門家によるオムニバス形式で学ぶ。 （オムニバス方式／全8回） (16 岸 保行／1回) 酒類組織の組織行動論について講義する。 (20 宍戸 邦久／1回) 日本酒と自治体政策について講義する。 (65 伊藤 龍史／1回) 経営戦略・マーケティング・アントレプレナーシップについて講義する。 (141 ZHANG WENTING／1回) 中小企業の経営戦略、グローバル展開について講義する。 (61 石塚 千賀子／1回) 日本酒分野におけるブランディング・消費者行動について講義する。 (239 今田 周三／1回) 酒類分野のマーケティングについて講義する。 (248 佐藤 淳／1回) 酒類分野のグローバルブランド戦略について講義する。 (256 松崎 晴雄／1回) 海外輸出、国内外の市場に向けたマーケティングについて講義する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目群	日本酒学概論III（医歯学・保健学）		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。本講義は、医歯学・保健学分野の専門家により実施される。具体的には、本講義では、日本酒を中心に、アルコールが人体に及ぼす影響について概説する。 （オムニバス方式／全8回） （164 佐藤 英世／1回） 本講義の総括として課題を課す。 （264 柿原 嘉人／1回） 本講義のガイダンスおよびお酒と健康について概説する。 （173 池主 雅臣／1回） お酒が心臓に及ぼす影響について概説する。 （205 岡本 圭一郎／1回） 米発酵食品がストレスや痛み、歯に及ぼす影響について概説する。 （215 武井 延之／1回） お酒が脳に及ぼす影響について概説する。 （230 松田 康伸／1回） お酒が肝臓に及ぼす影響について概説する。 （207 柿原 奈保子／1回） 酒粕や酒麴などがスキンケアに及ぼす影響について概説する。 （273 山本 正彦／1回） お酒が生活習慣病に及ぼす影響について概説する。	オムニバス方式
	日本酒学概論IV（総合実践学）		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。具体的には、本概論は、酒類メーカーの実務経験を有する教員や経営者が、その経験を活かし、酒類の全般について、実社会での課題解決を念頭に、幅広い講義を行う。 （オムニバス方式／全8回） （183 平田 大／2回） ガイダンス・日本酒の醸造学に関する講義を担当する。 （16 岸 保行／2回） 日本酒の経済学に関する講義を担当する。 （242 大平 俊治／1回） 日本酒と組織に関する講義を担当する。 （255 平島 健／1回） 日本酒の需要開発に関する講義を担当する。 （251 田中 洋介／1回） 酒造の起業に関する講義を担当する。 （236 青木 俊夫／1回） 日本酒の地域性に関する講義を担当する。	オムニバス方式
	基礎日本酒学実習		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。そこで、本実習は、日本酒醸造の基礎の原理を学びながら、実験室レベルの日本酒醸造法と基本的な清酒分析法を学ぶ。なお、本科目の一部は、酒類メーカーの実務経験を有する教員が、それを活かした講義を行う。	共同 講義4時間 実習60時間
	発展日本酒学実習		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。そこで、本実習では、新潟県醸造試験場での実習を通して、日本酒の原料米分析や日本酒製造の全般（原料処理、製麹、仕込み、発酵管理、上槽等）を学ぶ。	
	日本酒学セミナー		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。そこで、本科目は、理系・文系の教員の指導を受けながら、各自の研究テーマを対象として、研究を展開し、課題発掘・解決のための分野横断型の研究手法を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅰ-A（メディア文化）		メディア文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第1学期に開講される課題研究Ⅰでは、研究指導委員会の指導と助言を受けながら研究課題を設定し、準備的な研究を開始して、課題解決のために必要な知識範囲を確認し、設定課題とその研究方法の妥当性を検討し、必要となる資料収集やフィールドワークなどの準備をすることで、学位取得までの2年間の研究計画を立てることを目的とする。 （4 石田 美紀） 視聴覚表現媒体である映像とオーディエンスとの関係を探求することを研究課題とし、美学、メディア史、ジェンダー史、技術史、産業史を横断する学際的観点からの映像文化分析について研究指導を行う。 （83 KIM JOON YANG） アニメーションおよび映像メディアを研究課題とし、映像テキスト分析、アニメーション／アニメ史、アニメ中間素材などの映像文化データ解析に関する研究指導を行う。 （42 番場 俊） 文学・芸術における「表象」「身体」「イメージ」「アーカイブ」といった問題の検討を研究課題とする。修士課程では、学生の関心にあわせて、広く、言語芸術、映像、メディアなどの分析に関する研究指導を行う。 （76 甲斐 義明） 大衆文化としての視覚文化を研究課題とし、大衆文化とイメージの関係に関する研究指導を行う。 （110 永吉 秀司） 絵画領域における古典日本画、現代日本画表現を研究課題とし、主にその表現に必要な描画材や道具、教育方法に関する研究指導を行う。 （23 鈴木 賢太） 演奏系（器楽）分野のピアノ演奏を主な研究課題とし、ピアノ演奏における楽曲解釈や演奏法に関する研究指導を行う。 （95 鈴木 愛美） 声楽楽曲を研究課題とし、声楽の発声法とイタリア・ドイツ・フランス歌曲、宗教曲、オペラアリア等の時代的背景を踏まえた演習と研究指導を行う。 （84 工藤 千晶） 音楽教育をめぐる諸課題について論じることを研究課題とし、音楽教育史、音楽教育思想、音楽科カリキュラム、授業分析に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅱ-A（メディア文化）		メディア文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを指導教員の指導のもとでおこなって、翌年度のはじめに予定されている研究中間発表の準備をすすめる。 （4 石田 美紀） 視聴覚表現媒体である映像とオーディエンスとの関係を探求することを研究課題とし、美学、メディア史、ジェンダー史、技術史、産業史を横断する学際的観点からの映像文化分析について研究指導を行う。 （83 KIM JOON YANG） アニメーションおよび映像メディアを研究課題とし、映像テキスト分析、アニメーション／アニメ史、アニメ中間素材などの映像文化データ解析に関する研究指導を行う。 （42 番場 俊） 文学・芸術における「表象」「身体」「イメージ」「アーカイブ」といった問題の検討を研究課題とする。修士課程では、学生の関心にあわせて、広く、言語芸術、映像、メディアなどの分析に関する研究指導を行う。 （76 甲斐 義明） 大衆文化としての視覚文化を研究課題とし、大衆文化とイメージの関係に関する研究指導を行う。 （110 永吉 秀司） 絵画領域における古典日本画、現代日本画表現を研究課題とし、主にその表現に必要な描画材や道具、教育方法に関する研究指導を行う。 （23 鈴木 賢太） 演奏系（器楽）分野のピアノ演奏を主な研究課題とし、ピアノ演奏における楽曲解釈や演奏法に関する研究指導を行う。 （95 鈴木 愛美） 声楽楽曲を研究課題とし、声楽の発声法とイタリア・ドイツ・フランス歌曲、宗教曲、オペラアリア等の時代的背景を踏まえた演習と研究指導を行う。 （84 工藤 千晶） 音楽教育をめぐる諸課題について論じることを研究課題とし、音楽教育史、音楽教育思想、音楽科カリキュラム、授業分析に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅲ-A（メディア文化）		メディア文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱでおこなった研究成果をまとめ、メディア文化領域と関連の深い教員が複数参加する中間発表会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性に関する確認をうけ、あわせて、他分野・学際的な視点から自らの研究を再検討する。 （4 石田 美紀） 視聴覚表現媒体である映像とオーディエンスとの関係を探求することを研究課題とし、美学、メディア史、ジェンダー史、技術史、産業史を横断する学際的観点からの映像文化分析について研究指導を行う。 （83 KIM JOON YANG） アニメーションおよび映像メディアを研究課題とし、映像テキスト分析、アニメーション／アニメ史、アニメ中間素材などの映像文化データ解析に関する研究指導を行う。 （42 番場 俊） 文学・芸術における「表象」「身体」「イメージ」「アーカイヴ」といった問題の検討を研究課題とする。修士課程では、学生の関心にあわせて、広く、言語芸術、映像、メディアなどの分析に関する研究指導を行う。 （76 甲斐 義明） 大衆文化としての視覚文化を研究課題とし、大衆文化とイメージの関係に関する研究指導を行う。 （110 永吉 秀司） 絵画領域における古典日本画、現代日本画表現を研究課題とし、主にその表現に必要な描画材や道具、教育方法に関する研究指導を行う。 （23 鈴木 賢太） 演奏系（器楽）分野のピアノ演奏を主な研究課題とし、ピアノ演奏における楽曲解釈や演奏法に関する研究指導を行う。 （95 鈴木 愛美） 声楽楽曲を研究課題とし、声楽の発声法とイタリア・ドイツ・フランス歌曲、宗教曲、オペラアリア等の時代的背景を踏まえた演習と研究指導を行う。 （84 工藤 千晶） 音楽教育をめぐる諸課題について論じることを研究課題とし、音楽教育史、音楽教育思想、音楽科カリキュラム、授業分析に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅳ-A（メディア文化）		メディア文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲで中間的な評価を受け、必要な微調整をおこなった研究を最後まで進め、修士論文を完成させる。修士論文完成後はただちに成果発表の準備にとりかかり、修士論文発表会において、2年間の研究成果を発表し、学際的な「総合知」の視点から、自らの研究の意義を再検討する。 （4 石田 美紀） 視聴覚表現媒体である映像とオーディエンスとの関係を探求することを研究課題とし、美学、メディア史、ジェンダー史、技術史、産業史を横断する学際的観点からの映像文化分析について研究指導を行う。 （83 KIM JOON YANG） アニメーションおよび映像メディアを研究課題とし、映像テキスト分析、アニメーション／アニメ史、アニメ中間素材などの映像文化データ解析に関する研究指導を行う。 （42 番場 俊） 文学・芸術における「表象」「身体」「イメージ」「アーカイヴ」といった問題の検討を研究課題とする。修士課程では、学生の関心にあわせて、広く、言語芸術、映像、メディアなどの分析に関する研究指導を行う。 （76 甲斐 義明） 大衆文化としての視覚文化を研究課題とし、大衆文化とイメージの関係に関する研究指導を行う。 （110 永吉 秀司） 絵画領域における古典日本画、現代日本画表現を研究課題とし、主にその表現に必要な描画材や道具、教育方法に関する研究指導を行う。 （23 鈴木 賢太） 演奏系（器楽）分野のピアノ演奏を主な研究課題とし、ピアノ演奏における楽曲解釈や演奏法に関する研究指導を行う。 （95 鈴木 愛美） 声楽楽曲を研究課題とし、声楽の発声法とイタリア・ドイツ・フランス歌曲、宗教曲、オペラアリア等の時代的背景を踏まえた演習と研究指導を行う。 （84 工藤 千晶） 音楽教育をめぐる諸課題について論じることを研究課題とし、音楽教育史、音楽教育思想、音楽科カリキュラム、授業分析に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅰ-A（情報社会文化）		情報社会文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第1学期に開講される課題研究Ⅰでは、研究指導委員会の指導と助言を受けながら研究課題を設定し、準備的な研究を開始して、課題解決のために必要な知識範囲を確認し、設定課題とその研究方法の妥当性を検討し、必要となる資料収集やフィールドワークなどの準備をすることで、学位取得までの2年間の研究計画を立てることを目的とする。 （36 中村 隆志） メディア論、身体論、非言語的コミュニケーション論に関する研究指導を行う。 （68 内田 健） 社会学の理論と学説史を研究課題とし、シカゴ学派社会学とその理論的・方法的展開としてのシンボリック相互行為論に関する研究指導をおこなう。 （93 杉原 名穂子） ジェンダーの社会学を研究課題とし、グローバル化する社会におけるジェンダー問題に関する研究指導を行う。 （64 伊藤 嘉高） 社会学を研究領域とし、地域社会に関する研究指導を行う。 （96 園田 浩司） 相互行為の文化人類学を研究課題とし、文化人類学の調査法に関する研究指導を行う。 （19 佐藤 靖） 科学技術・イノベーション政策に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅱ-A（情報社会文化）		情報社会文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを指導教員の指導のもとでおこなって、翌年度のはじめに予定されている研究中間発表の準備をすすめる。 （36 中村 隆志） メディア論、身体論、非言語的コミュニケーション論に関する研究指導を行う。 （68 内田 健） 社会学の理論と学説史を研究課題とし、シカゴ学派社会学とその理論的・方法的展開としてのシンボリック相互行為論に関する研究指導をおこなう。 （93 杉原 名穂子） ジェンダーの社会学を研究課題とし、グローバル化する社会におけるジェンダー問題に関する研究指導を行う。 （64 伊藤 嘉高） 社会学を研究領域とし、地域社会に関する研究指導を行う。 （96 園田 浩司） 相互行為の文化人類学を研究課題とし、文化人類学の調査法に関する研究指導を行う。 （19 佐藤 靖） 科学技術・イノベーション政策に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅲ-A（情報社会文化）		情報社会文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱでおこなった研究成果をまとめ、メディア文化領域と関連の深い教員が複数参加する中間発表会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性に関する確認をうけ、あわせて、他分野・学際的な視点から自らの研究を再検討する。 （36 中村 隆志） メディア論、身体論、非言語的コミュニケーション論に関する研究指導を行う。 （68 内田 健） 社会学の理論と学説史を研究課題とし、シカゴ学派社会学とその理論的・方法的展開としてのシンボリック相互行為論に関する研究指導をおこなう。 （93 杉原 名穂子） ジェンダーの社会学を研究課題とし、グローバル化する社会におけるジェンダー問題に関する研究指導を行う。 （64 伊藤 嘉高） 社会学を研究領域とし、地域社会に関する研究指導を行う。 （96 園田 浩司） 相互行為の文化人類学を研究課題とし、文化人類学の調査法に関する研究指導を行う。 （19 佐藤 靖） 科学技術・イノベーション政策に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅳ-A（情報社会文化）		情報社会文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲで中間的な評価を受け、必要な微調整をおこなった研究を最後まで進め、修士論文を完成させる。修士論文完成後はただちに成果発表の準備にとりかかり、修士論文発表会において、2年間の研究成果を発表し、学際的な「総合知」の視点から、自らの研究の意義を再検討する。 （36 中村 隆志） メディア論、身体論、非言語的コミュニケーション論に関する研究指導を行う。 （68 内田 健） 社会学の理論と学説史を研究課題とし、シカゴ学派社会学とその理論的・方法的展開としてのシンボリック相互行為論に関する研究指導をおこなう。 （93 杉原 名穂子） ジェンダーの社会学を研究課題とし、グローバル化する社会におけるジェンダー問題に関する研究指導を行う。 （64 伊藤 嘉高） 社会学を研究領域とし、地域社会に関する研究指導を行う。 （96 園田 浩司） 相互行為の文化人類学を研究課題とし、文化人類学の調査法に関する研究指導を行う。 （19 佐藤 靖） 科学技術・イノベーション政策をめぐる歴史と現状を研究課題とし、科学技術・イノベーション政策をめぐる歴史と現状に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅰ-A（思想科学）		思想科学に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第1学期に開講される課題研究Ⅰでは、研究指導委員会の指導と助言を受けながら研究課題を設定し、準備的な研究を開始して、課題解決のために必要な知識範囲を確認し、設定課題とその研究方法の妥当性を検討し、必要となる資料収集やフィールドワークなどの準備をすることで、学位取得までの2年間の研究計画を立てることを目的とする。 （1 青柳 かおる） イスラーム思想史を研究課題とし、とくに前近代のスーフィズム思想に関する指導を行う。 （56 阿部 ふく子） 西洋近現代哲学史あるいは哲学教育・哲学実践を研究課題として、修士論文の作成に必要な研究計画、文献調査、論文執筆に関する研究指導を行う。 （72 岡嶋 隆佑） 主に19世紀から現在に至るまでの哲学にかかわる諸問題を研究課題とし、それについての研究指導を行う。 （135 安田 将） 古代ギリシア・ローマの哲学、現代哲学の認識論を研究課題とし、修士論文の作成に必要なアカデミックスキルに関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅱ-A（思想科学）		思想科学に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを指導教員の指導のもとでおこなって、翌年度のはじめに予定されている研究中間発表の準備をすすめる。 （1 青柳 かおる） イスラーム思想史を研究課題とし、とくに前近代のスーフィズム思想に関する指導を行う。 （56 阿部 ふく子） 西洋近現代哲学史あるいは哲学教育・哲学実践を研究課題として、修士論文の作成に必要な研究計画、文献調査、論文執筆に関する研究指導を行う。 （72 岡嶋 隆佑） 主に19世紀から現在に至るまでの哲学にかかわる諸問題を研究課題とし、それについての研究指導を行う。 （135 安田 将） 古代ギリシア・ローマの哲学、現代哲学の認識論を研究課題とし、修士論文の作成に必要なアカデミックスキルに関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅲ-A（思想科学）		思想科学に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱでおこなった研究成果をまとめ、メディア文化領域と関連の深い教員が複数参加する中間発表会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性に関する確認をうけ、あわせて、他分野・学際的な視点から自らの研究を再検討する。 （1 青柳 かおる） イスラーム思想史を研究課題とし、とくに前近代のスーフィズム思想に関する指導を行う。 （56 阿部 ふく子） 西洋近現代哲学史あるいは哲学教育・哲学実践を研究課題として、修士論文の作成に必要な研究計画、文献調査、論文執筆に関する研究指導を行う。 （72 岡嶋 隆佑） 主に19世紀から現在に至るまでの哲学にかかわる諸問題を研究課題とし、それについての研究指導を行う。 （135 安田 将） 古代ギリシア・ローマの哲学、現代哲学の認識論を研究課題とし、修士論文の作成に必要なアカデミックスキルに関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅳ-A（思想科学）		思想科学に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲで中間的な評価を受け、必要な微調整をおこなった研究を最後まで進め、修士論文を完成させる。修士論文完成後はただちに成果発表の準備にとりかかり、修士論文発表会において、2年間の研究成果を発表し、学際的な「総合知」の視点から、自らの研究の意義を再検討する。 （1 青柳 かおる） イスラーム思想史を研究課題とし、とくに前近代のスーフィズム思想に関する指導を行う。 （56 阿部 ふく子） 西洋近現代哲学史あるいは哲学教育・哲学実践を研究課題として、修士論文の作成に必要な研究計画、文献調査、論文執筆に関する研究指導を行う。 （72 岡嶋 隆佑） 主に19世紀から現在に至るまでの哲学にかかわる諸問題を研究課題とし、それについての研究指導を行う。 （135 安田 将） 古代ギリシア・ローマの哲学、現代哲学の認識論を研究課題とし、修士論文の作成に必要なアカデミックスキルに関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(総合学術研究科 人文社会科学専攻)				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅰ-A（基礎心理学）		基礎心理学に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第1学期に開講される課題研究Ⅰでは、研究指導委員会の指導と助言を受けながら研究課題を設定し、準備的な研究を開始して、課題解決のために必要な知識範囲を確認し、設定課題とその研究方法の妥当性を検討し、必要となる資料収集やフィールドワークなどの準備をすることで、学位取得までの2年間の研究計画を立てることを目的とする。 （112 新美 亮輔） 視覚および多感覚の認知、注意、意識、記憶、言語認知、思考・推論、意思決定などに関して、認知心理学および隣接領域の手法を用いてヒトを対象とした修士論文研究を行うための研究指導を行う。 （87 小林 恵） 知覚・認知機能およびその発達に関する研究指導を行う。 （44 福島 治） 自己と対人関係を研究課題とし、自己特性の変動に関与する要因の検討と分析方法に関する研究指導を行う。 （3 有川 宏幸） 障害のある児童生徒の社会参加と共生社会の構築を研究課題とし、これらに関する研究指導を行う。 （138 渡邊 流理也） 障害児（特に肢体不自由児・病弱児・重症心身障害児）の支援を研究課題とし、肢体不自由児・病弱児・重症心身障害児のQOLの向上や社会参加を目的とした学習・コミュニケーション・発達の支援など研究指導を行う。 （66 入山 満恵子） ナラティブを用いた学習言語の評価と支援を研究課題とし、幼児期から学童期における子どもの言語発達をどのように評価するか、またその時期の具体的な指導方法に関する研究指導を行う。 （111 並川 努） 質問紙を用いたパーソナリティ・個人差に関する検討を研究課題とし、心理尺度の開発・活用に関する研究指導を行う。 （106 中嶋 豊） 実験心理学（主に運動視、運動形状統合、錯視）、工学応用的心理学（主にヒトと機械の相互作用効果、新技術への適応・受容）を研究課題とし、修士論文執筆の基礎となる、論文読解、研究計画立案、研究環境構築、研究手法・データ分析、議論の組み立てなど学術研究に必要な能力について研究指導を行う。	
	課題研究Ⅱ-A（基礎心理学）		基礎心理学に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを指導教員の指導のもとでこなって、翌年度のはじめに予定されている研究中間発表の準備をすすめる。 （112 新美 亮輔） 視覚および多感覚の認知、注意、意識、記憶、言語認知、思考・推論、意思決定などに関して、認知心理学および隣接領域の手法を用いてヒトを対象とした修士論文研究を行うための研究指導を行う。 （87 小林 恵） 知覚・認知機能およびその発達に関する研究指導を行う。 （44 福島 治） 自己と対人関係を研究課題とし、自己特性の変動に関与する要因の検討と分析方法に関する研究指導を行う。 （3 有川 宏幸） 障害のある児童生徒の社会参加と共生社会の構築を研究課題とし、これらに関する研究指導を行う。 （138 渡邊 流理也） 障害児（特に肢体不自由児・病弱児・重症心身障害児）の支援を研究課題とし、肢体不自由児・病弱児・重症心身障害児のQOLの向上や社会参加を目的とした学習・コミュニケーション・発達の支援など研究指導を行う。 （66 入山 満恵子） ナラティブを用いた学習言語の評価と支援を研究課題とし、幼児期から学童期における子どもの言語発達をどのように評価するか、またその時期の具体的な指導方法に関する研究指導を行う。 （111 並川 努） 質問紙を用いたパーソナリティ・個人差に関する検討を研究課題とし、心理尺度の開発・活用に関する研究指導を行う。 （106 中嶋 豊） 実験心理学（主に運動視、運動形状統合、錯視）、工学応用的心理学（主にヒトと機械の相互作用効果、新技術への適応・受容）を研究課題とし、修士論文執筆の基礎となる、論文読解、研究計画立案、研究環境構築、研究手法・データ分析、議論の組み立てなど学術研究に必要な能力について研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅲ-A（基礎心理学）		基礎心理学に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱでおこなった研究成果をまとめ、メディア文化領域と関連の深い教員が複数参加する中間発表会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性に関する確認をうけ、あわせて、他分野・学際的な視点から自らの研究を再検討する。 （112 新美 亮輔） 視覚および多感覚の認知、注意、意識、記憶、言語認知、思考・推論、意思決定などに関して、認知心理学および隣接領域の手法を用いてヒトを対象とした修士論文研究を行うための研究指導を行う。 （87 小林 恵） 知覚・認知機能およびその発達に関する研究指導を行う。 （44 福島 治） 自己と対人関係を研究課題とし、自己特性の変動に関与する要因の検討と分析方法に関する研究指導を行う。 （3 有川 宏幸） 障害のある児童生徒の社会参加と共生社会の構築を研究課題とし、これらに関する研究指導を行う。 （138 渡邊 流理也） 障害児（特に肢体不自由児・病弱児・重症心身障害児）の支援を研究課題とし、肢体不自由児・病弱児・重症心身障害児のQOLの向上や社会参加を目的とした学習・コミュニケーション・発達の支援など研究指導を行う。 （66 入山 満恵子） ナラティブを用いた学習言語の評価と支援を研究課題とし、幼児期から学童期における子どもの言語発達をどのように評価するか、またその時期の具体的な指導方法に関する研究指導を行う。 （111 並川 努） 質問紙を用いたパーソナリティ・個人差に関する検討を研究課題とし、心理尺度の開発・活用に関する研究指導を行う。 （106 中嶋 豊） 実験心理学（主に運動視、運動形状統合、錯視）、工学応用的心理学（主にヒトと機械の相互作用効果、新技術への適応・受容）を研究課題とし、修士論文執筆の基礎となる、論文読解、研究計画立案、研究環境構築、研究手法・データ分析、議論の組み立てなど学術研究に必要となる能力について研究指導を行なう。	
	課題研究Ⅳ-A（基礎心理学）		基礎心理学に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲで中間的な評価を受け、必要な微調整をおこなった研究を最後まで進め、修士論文を完成させる。修士論文完成後はただちに成果発表の準備にとりかかり、修士論文発表会において、2年間の研究成果を発表し、学際的な「総合知」の視点から、自らの研究の意義を再検討する。 （112 新美 亮輔） 視覚および多感覚の認知、注意、意識、記憶、言語認知、思考・推論、意思決定などに関して、認知心理学および隣接領域の手法を用いてヒトを対象とした修士論文研究を行うための研究指導を行う。 （87 小林 恵） 知覚・認知機能およびその発達に関する研究指導を行う。 （44 福島 治） 自己と対人関係を研究課題とし、自己特性の変動に関与する要因の検討と分析方法に関する研究指導を行う。 （3 有川 宏幸） 障害のある児童生徒の社会参加と共生社会の構築を研究課題とし、これらに関する研究指導を行う。 （138 渡邊 流理也） 障害児（特に肢体不自由児・病弱児・重症心身障害児）の支援を研究課題とし、肢体不自由児・病弱児・重症心身障害児のQOLの向上や社会参加を目的とした学習・コミュニケーション・発達の支援など研究指導を行う。 （66 入山 満恵子） ナラティブを用いた学習言語の評価と支援を研究課題とし、幼児期から学童期における子どもの言語発達をどのように評価するか、またその時期の具体的な指導方法に関する研究指導を行う。 （111 並川 努） 質問紙を用いたパーソナリティ・個人差に関する検討を研究課題とし、心理尺度の開発・活用に関する研究指導を行う。 （106 中嶋 豊） 実験心理学（主に運動視、運動形状統合、錯視）、工学応用的心理学（主にヒトと機械の相互作用効果、新技術への適応・受容）を研究課題とし、修士論文執筆の基礎となる、論文読解、研究計画立案、研究環境構築、研究手法・データ分析、議論の組み立てなど学術研究に必要となる能力について研究指導を行なう。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅰ-A（臨床心理学）		臨床心理学に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第1学期に開講される課題研究Ⅰでは、研究指導委員会の指導と助言を受けながら研究課題を設定し、準備的な研究を開始して、課題解決のために必要な知識範囲を確認し、設定課題とその研究方法の妥当性を検討し、学位取得までの2年間の研究計画を立てることを目的とする。 （28 田中 恒彦） 臨床心理学（主として異常心理学的研究と臨床介入研究）のなかでも精神疾患・身体疾患が生活の質の低下に与える影響を研究課題とし、臨床心理学における基礎的研究と臨床介入研究に関する研究指導を行う。 （90 佐藤 友哉） 臨床心理学における認知行動療法を研究課題とし、認知行動療法の効果を最適化するための基礎研究および応用研究に関する研究指導を行う。 （101 瀧井 美緒） 臨床心理学のなかでも主にトラウマやPTSD、うつや不安に対する支援を研究課題とし、精神疾患の予防や早期介入に関する基礎的研究および実践研究に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅱ-A（臨床心理学）		臨床心理学に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを指導教員の指導のもとでこなして、翌年度のはじめに予定されている研究中間発表の準備をすすめる。 （28 田中 恒彦） 臨床心理学（主として異常心理学的研究と臨床介入研究）のなかでも精神疾患・身体疾患が生活の質の低下に与える影響を研究課題とし、臨床心理学における基礎的研究と臨床介入研究に関する研究指導を行う。 （90 佐藤 友哉） 臨床心理学における認知行動療法を研究課題とし、認知行動療法の効果を最適化するための基礎研究および応用研究に関する研究指導を行う。 （101 瀧井 美緒） 臨床心理学のなかでも主にトラウマやPTSD、うつや不安に対する支援を研究課題とし、精神疾患の予防や早期介入に関する基礎的研究および実践研究に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅲ-A（臨床心理学）		臨床心理学に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱでおこなった研究成果をまとめ、メディア文化領域と関連の深い教員が複数参加する中間発表会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性に関する確認をうけ、他分野・学際的な視点から自らの研究を再検討する。 （28 田中 恒彦） 臨床心理学（主として異常心理学的研究と臨床介入研究）のなかでも精神疾患・身体疾患が生活の質の低下に与える影響を研究課題とし、臨床心理学における基礎的研究と臨床介入研究に関する研究指導を行う。 （90 佐藤 友哉） 臨床心理学における認知行動療法を研究課題とし、認知行動療法の効果を最適化するための基礎研究および応用研究に関する研究指導を行う。 （101 瀧井 美緒） 臨床心理学のなかでも主にトラウマやPTSD、うつや不安に対する支援を研究課題とし、精神疾患の予防や早期介入に関する基礎的研究および実践研究に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅳ-A（臨床心理学）		臨床心理学に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲで中間的な評価を受け、必要な微調整をおこなった研究を最後まで進め、修士論文を完成させる。修士論文完成後はただちに成果発表の準備にとりかかり、修士論文発表会において、2年間の研究成果を発表し、学際的な「総合知」の視点から、自らの研究の意義を再検討する。 （28 田中 恒彦） 臨床心理学（主として異常心理学的研究と臨床介入研究）のなかでも精神疾患・身体疾患が生活の質の低下に与える影響を研究課題とし、臨床心理学における基礎的研究と臨床介入研究に関する研究指導を行う。 （90 佐藤 友哉） 臨床心理学における認知行動療法を研究課題とし、認知行動療法の効果を最適化するための基礎研究および応用研究に関する研究指導を行う。 （101 瀧井 美緒） 臨床心理学のなかでも主にトラウマやPTSD、うつや不安に対する支援を研究課題とし、精神疾患の予防や早期介入に関する基礎的研究および実践研究に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅰ-A（人間形成 環境科学）		人間形成環境科学に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第1学期に開講される課題研究Ⅰでは、研究指導委員会の指導と助言を受けながら研究課題を設定し、準備的な研究を開始して、課題解決のために必要な知識範囲を確認し、設定課題とその研究方法の妥当性を検討し、必要となる資料収集やフィールドワークなどの準備をすることで、学位取得までの2年間の研究計画を立てることを目的とする。 （103 田中 誠二） コミュニティヘルスを研究課題とし、疾病の予防や健康の保持増進に必要な組織的活動（コミュニティ活動）に関する研究指導を行う。 （132 村山 敏夫） 応用健康科学を研究課題とし、生体情報や地域デザインに関する研究指導を行う。 （51 森 恭） 体育・スポーツに関わる心理事象を研究領域とし、特に動機づけ、対人関係、集団を研究課題とし、調査、実験、フィールド実験などを中心としたデータ収集と統計的処理に基づく探求に関する研究指導を行う。 （57 天野 達郎） ヒトの体温調節に関する研究を課題とし、運動時や暑熱暴露時の体温調節および熱放散の末梢機構（発汗や皮膚血管拡張）、体液変化などに関する研究指導を行う。 （78 笠巻 純一） 生活習慣病を始めとする疾病の制御及び健康増進を研究課題とし、多様で学際的なアプローチを用いて疾病の成因を明らかにするための研究指導を行う。 （117 檜皮 貴子） 運動及び健康に関する内容を研究課題とし、運動指導介入に関する研究指導を行う。 （94 杉村 桃子） 人が主観的に評価している布の触感を、機械で測定して得られる力学特性や表面特性、熱・水分・空気の移動特性等の物理特性を用いて客観的な数値に置き換える、すなわち布の触感・風合いを客観的に評価する研究を行う。被服材料の着心地、使い心地の良さと被服材料特性の関係について多面的な視点で見た衣環境評価学に関する研究指導を行う。 （35 中村 和吉） 繊維製品材料の界面科学的特性を研究課題とし、新規性を有する洗浄技術および表面加工に関する研究指導を行う。 （146 山本 咲子） 家庭生活、教育現場、職場等におけるジェンダー問題に関する研究指導を行う。 （118 福田 学） 教育哲学を研究課題とし、主に現象学的視座から教育や発達あるいは生命や死の理解を深めることをめざした研究指導を行う。 （122 古田 和久） 教育社会学分野を研究領域としており、社会階層と教育に関する研究指導を行う。 （2 足立 幸子） 国語科教育学を研究課題とし、リテラシー、読むこと、読書教育に関する研究指導を行う。 （142 中西 裕也） 理科教育における諸課題について、理論的研究と実証的研究に関する研究指導を行う。 （91 澤邊 潤） 学校教育、公民館、図書館等の教育機関全般における人材育成のシステムを研究課題として、教育機関の文脈に応じた教育プログラム設計・評価に関する研究指導を行う。 （88 斎藤 有吾） 高等教育の質保証と教育改善を研究課題とし、大学教育における学習成果の可視化と評価方法の開発、教授、学習環境のデザインと効果検証、効果的なFDプログラムや専門人材育成プログラムの設計・実施・評価およびその組織的支援システムの構築、教学マネジメントや教学IR等に関する研究指導を行う。 （80 釜本 健司） 社会科教育学を研究課題とし、社会系諸教科の基本的性格や歴史的展開、カリキュラムや授業構成、学習評価、教員養成の考え方に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅱ-A（人間形成 環境科学）		人間形成環境科学に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを指導教員の指導のもとでおこなって、翌年度のはじめに予定されている研究中間発表の準備をすすめる。 （103 田中 誠二） コミュニティヘルスを研究課題とし、疾病の予防や健康の保持増進に必要な組織的活動（コミュニティ活動）に関する研究指導を行う。 （132 村山 敏夫） 応用健康科学を研究課題とし、生体情報や地域デザインに関する研究指導を行う。 （51 森 恭） 体育・スポーツに関わる心理事象を研究領域とし、特に動機づけ、対人関係、集団を研究課題とし、調査、実験、フィールド実験などを中心としたデータ収集と統計的処理に基づく探求に関する研究指導を行う。 （57 天野 達郎） ヒトの体温調節に関する研究を課題とし、運動時や暑熱暴露時の体温調節および熱放散の末梢機構（発汗や皮膚血管拡張）、体液変化などに関する研究指導を行う。 （78 笠巻 純一） 生活習慣病を始めとする疾病の制御及び健康増進を研究課題とし、多様で学際的なアプローチを用いて疾病の成因を明らかにするための研究指導を行う。 （117 檜皮 貴子） 運動及び健康に関する内容を研究課題とし、運動指導介入に関する研究指導を行う。 （94 杉村 桃子） 人が主観的に評価している布の触感を、機械で測定して得られる力学特性や表面特性、熱・水分・空気の移動特性等の物理特性を用いて客観的な数値に置き換える、すなわち布の触感・風合いを客観的に評価する研究を行う。被服材料の着心地、使い心地の良さと被服材料特性の関係について多面的な視点で見た衣環境評価学に関する研究指導を行う。 （35 中村 和吉） 繊維製品材料の界面科学的特性を研究課題とし、新規性を有する洗浄技術および表面加工に関する研究指導を行う。 （146 山本 咲子） 家庭生活、教育現場、職場等におけるジェンダー問題に関する研究指導を行う。 （118 福田 学） 教育哲学を研究課題とし、主に現象学的視座から教育や発達あるいは生命や死の理解を深めることをめざした研究指導を行う。 （122 古田 和久） 教育社会学分野を研究領域としており、社会階層と教育に関する研究指導を行う。 （2 足立 幸子） 国語科教育学を研究課題とし、リテラシー、読むこと、読書教育に関する研究指導を行う。 （142 中西 裕也） 理科教育における諸課題について、理論的研究と実証的研究に関する研究指導を行う。 （91 澤邊 潤） 学校教育、公民館、図書館等の教育機関全般における人材育成のシステムを研究課題として、教育機関の文脈に応じた教育プログラム設計・評価に関する研究指導を行う。 （88 斎藤 有吾） 高等教育の質保証と教育改善を研究課題とし、大学教育における学習成果の可視化と評価方法の開発、教授、学習環境のデザインと効果検証、効果的なFDプログラムや専門人材育成プログラムの設計・実施・評価およびその組織的支援システムの構築、教学マネジメントや教学IR等に関する研究指導を行う。 （80 釜本 健司） 社会科教育学を研究課題とし、社会系諸教科の基本的性格や歴史的展開、カリキュラムや授業構成、学習評価、教員養成の考え方に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅲ-A（人間形成 環境科学）		人間形成環境科学に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱでおこなった研究成果をまとめ、メディア文化領域と関連の深い教員が複数参加する中間発表会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性に関する確認をうけ、あわせて、他分野・学際的な視点から自らの研究を再検討する。 （103 田中 誠二） コミュニティヘルスを研究課題とし、疾病の予防や健康の保持増進に必要な組織的活動（コミュニティ活動）に関する研究指導を行う。 （132 村山 敏夫） 応用健康科学を研究課題とし、生体情報や地域デザインに関する研究指導を行う。 （51 森 恭） 体育・スポーツに関わる心理事象を研究領域とし、特に動機づけ、対人関係、集団を研究課題とし、調査、実験、フィールド実験などを中心としたデータ収集と統計的処理に基づく探求に関する研究指導を行う。 （57 天野 達郎） ヒトの体温調節に関する研究を課題とし、運動時や暑熱暴露時の体温調節および熱放散の末梢機構（発汗や皮膚血管拡張）、体液変化などに関する研究指導を行う。 （78 笠巻 純一） 生活習慣病を始めとする疾病の制御及び健康増進を研究課題とし、多様で学際的なアプローチを用いて疾病の成因を明らかにするための研究指導を行う。 （117 檜皮 貴子） 運動及び健康に関する内容を研究課題とし、運動指導介入に関する研究指導を行う。 （94 杉村 桃子） 人が主観的に評価している布の触感を、機械で測定して得られる力学特性や表面特性、熱・水分・空気移動特性等の物理特性を用いて客観的な数値に置き換える、すなわち布の触感・風合いを客観的に評価する研究を行う。被服材料の着心地、使い心地の良さと被服材料特性の関係について多面的な視点で見た衣環境評価学に関する研究指導を行う。 （35 中村 和吉） 繊維製品材料の界面科学的特性を研究課題とし、新規性を有する洗浄技術および表面加工に関する研究指導を行う。 （146 山本 咲子） 家庭生活、教育現場、職場等におけるジェンダー問題に関する研究指導を行う。 （118 福田 学） 教育哲学を研究課題とし、主に現象学的視座から教育や発達あるいは生命や死の理解を深めることをめざした研究指導を行う。 （122 古田 和久） 教育社会学分野を研究領域としており、社会階層と教育に関する研究指導を行う。 （2 足立 幸子） 国語科教育学を研究課題とし、リテラシー、読むこと、読書教育に関する研究指導を行う。 （142 中西 裕也） 理科教育における諸課題について、理論的研究と実証的研究に関する研究指導を行う。 （91 澤邊 潤） 学校教育、公民館、図書館等の教育機関全般における人材育成のシステムを研究課題として、教育機関の文脈に応じた教育プログラム設計・評価に関する研究指導を行う。 （88 斎藤 有吾） 高等教育の質保証と教育改善を研究課題とし、大学教育における学習成果の可視化と評価方法の開発、教授、学習環境のデザインと効果検証、効果的なFDプログラムや専門人材育成プログラムの設計・実施・評価およびその組織的支援システムの構築、教学マネジメントや教学IR等に関する研究指導を行う。 （80 釜本 健司） 社会科教育学を研究課題とし、社会系諸教科の基本的性格や歴史的展開、カリキュラムや授業構成、学習評価、教員養成の考え方に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅳ-A（人間形成 環境科学）		人間形成環境科学に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲで中間的な評価を受け、必要な微調整をおこなった研究を最後まで進め、修士論文を完成させる。修士論文完成後はただちに成果発表の準備にとりかかり、修士論文発表会において、2年間の研究成果を発表し、学際的な「総合知」の視点から、自らの研究の意義を再検討する。 （103 田中 誠二） コミュニティヘルスを研究課題とし、疾病の予防や健康の保持増進に必要な組織的活動（コミュニティ活動）に関する研究指導を行う。 （132 村山 敏夫） 応用健康科学を研究課題とし、生体情報や地域デザインに関する研究指導を行う。 （51 森 恭） 体育・スポーツに関わる心理事象を研究領域とし、特に動機づけ、対人関係、集団を研究課題とし、調査、実験、フィールド実験などを中心としたデータ収集と統計的処理に基づく探求に関する研究指導を行う。 （57 天野 達郎） ヒトの体温調節に関する研究を課題とし、運動時や暑熱暴露時の体温調節および熱放散の末梢機構（発汗や皮膚血管拡張）、体液変化などに関する研究指導を行う。 （78 笠巻 純一） 生活習慣病を始めとする疾病の制御及び健康増進を研究課題とし、多様で学際的なアプローチを用いて疾病の成因を明らかにするための研究指導を行う。 （117 檜皮 貴子） 運動及び健康に関する内容を研究課題とし、運動指導介入に関する研究指導を行う。 （94 杉村 桃子） 人が主観的に評価している布の触感を、機械で測定して得られる力学特性や表面特性、熱・水分・空気の移動特性等の物理特性を用いて客観的な数値に置き換える、すなわち布の触感・風合いを客観的に評価する研究を行う。被服材料の着心地、使い心地の良さと被服材料特性の関係について多面的な視点で見た衣環境評価学に関する研究指導を行う。 （35 中村 和吉） 繊維製品材料の界面科学的特性を研究課題とし、新規性を有する洗浄技術および表面加工に関する研究指導を行う。 （146 山本 咲子） 家庭生活、教育現場、職場等におけるジェンダー問題に関する研究指導を行う。 （118 福田 学） 教育哲学を研究課題とし、主に現象学的視座から教育や発達あるいは生命や死の理解を深めることをめざした研究指導を行う。 （122 古田 和久） 教育社会学分野を研究領域としており、社会階層と教育に関する研究指導を行う。 （2 足立 幸子） 国語科教育学を研究課題とし、リテラシー、読むこと、読書教育に関する研究指導を行う。 （142 中西 裕也） 理科教育における諸課題について、理論的研究と実証的研究に関する研究指導を行う。 （91 澤邊 潤） 学校教育、公民館、図書館等の教育機関全般における人材育成のシステムを研究課題として、教育機関の文脈に応じた教育プログラム設計・評価に関する研究指導を行う。 （88 斎藤 有吾） 高等教育の質保証と教育改善を研究課題とし、大学教育における学習成果の可視化と評価方法の開発、教授、学習環境のデザインと効果検証、効果的なFDプログラムや専門人材育成プログラムの設計・実施・評価およびその組織的支援システムの構築、教学マネジメントや教学IR等に関する研究指導を行う。 （80 釜本 健司） 社会科教育学を研究課題とし、社会系諸教科の基本的性格や歴史的展開、カリキュラムや授業構成、学習評価、教員養成の考え方に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅰ-A（日本社会・言語文化）		日本社会・言語文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第1学期に開講される課題研究Ⅰでは、研究指導委員会の指導と助言を受けながら研究課題を設定し、準備的な研究を開始して、課題解決のために必要な知識範囲を確認し、設定課題とその研究方法の妥当性を検討し、必要となる資料収集やフィールドワークなどの準備をすることで、学位取得までの2年間の研究計画を立てることを目的とする。 （79 片桐 昭彦） 日本中世史を研究課題とし、日本中世の史料・権力・地域社会・災害等に関する研究指導を行う。 （41 原 直史） 日本史学を研究課題とし、特に日本近世史を中心とした研究指導を行う。 （140 篠崎 敦史） 東アジア国際交流を研究課題とし、日本史、特に古代史を中心とする文献史学に関する研究指導を行う。 （37 中村 元） 近現代日本社会の歴史学的研究を研究課題とし、歴史学—日本近現代史研究の学問分野に蓄積されている研究視点と研究方法を修得し、自らの具体的な研究対象に適用し独自の研究成果を挙げるための研究指導を行う。 （134 森 貴教） 弥生時代とその並行期における比較考古学的研究を研究課題とし、考古学に関する研究指導を行う。 （70 榎本 千賀子） 地域文化資源管理における情報通信技術の導入と活用を研究課題とし、地域デジタルアーカイブの企画・運営・活用に関する研究指導を行う。 （136 山田 祐紀） 文化人類学・民俗学分野の基本的知識と論文執筆方法を踏まえつつ、各自の研究テーマに関する研究指導を行う。 （109 中本 真人） 日本芸能史を研究課題とし、広く日本文化に関する研究指導を行う。 （47 堀 健彦） 前近代日本を対象とした歴史地理学研究を研究課題とし、前近代日本における領域形成、災害絵図分析、歴史GIS、絵図のデジタルアーカイブに関する研究指導を行う。 （126 前田 洋介） 人文地理学分野に関する研究指導を行う。 （129 三ツ井 正孝） 近現代日本語研究を研究課題とし、近代語および現代語に関する語彙・文法の体系および変遷に関する研究指導を行う。 （73 岡田 祥平） 現代日本語学、中でも現代日本語の動態・多様性の記述とそのための方法論を研究課題とし、現代日本語の言語変異や言語変化や、それらをとらえるための方法論に関する研究指導を行う。 （5 磯貝 淳一） 日本語史を研究課題とし、古代・中世を中心とした日本語の変化・変遷に関する研究指導を行う。 （98 高橋 早苗） 平安時代の文学作品を研究対象として、受容や仕掛けなど、多様な観点から作品を検討分析する指導を行う。 （139 阿部 亮太） 日本中世古典文学、特に軍記物語の成立と展開の実態究明を研究課題とし、各作品の成立論・諸本論・構想論等、またこれらの隣接分野に関する研究指導を行う。 （34 長沼 光彦） 日本近現代文学を研究課題とし、文学理論や同時代文化との比較研究に関する研究指導を行う。 （12 岡村 浩） 日本文芸史を大きな研究課題とし、良寛及び会津八一などのほか、新潟県ゆかりの文芸家に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅱ-A（日本社会文化）		日本社会文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを指導教員の指導のもとでおこなって、翌年度のはじめに予定されている研究中間発表の準備をすすめる。 （79 片桐 昭彦） 日本中世史を研究課題とし、日本中世の史料・権力・地域社会・災害等に関する研究指導を行う。 （41 原 直史） 日本史学を研究課題とし、特に日本近世史を中心とした研究指導を行う。 （140 篠崎 敦史） 東アジア国際交流を研究課題とし、日本史、特に古代史を中心とする文献史学に関する研究指導を行う。 （37 中村 元） 近現代日本社会の歴史学的研究を研究課題とし、歴史学—日本近現代史研究の学問分野に蓄積されている研究視点と研究方法を修得し、自らの具体的な研究対象に適用し独自の研究成果を挙げるための研究指導を行う。 （134 森 貴教） 弥生時代とその並行期における比較考古学的研究を研究課題とし、考古学に関する研究指導を行う。 （70 榎本 千賀子） 地域文化資源管理における情報通信技術の導入と活用を研究課題とし、地域デジタルアーカイブの企画・運営・活用に関する研究指導を行う。 （136 山田 祐紀） 文化人類学・民俗学分野の基本的知識と論文執筆方法を踏まえつつ、各自の研究テーマに関する研究指導を行う。 （109 中本 真人） 日本芸能史を研究課題とし、広く日本文化に関する研究指導を行う。 （47 堀 健彦） 前近代日本を対象とした歴史地理学研究を研究課題とし、前近代日本における領域形成、災害絵図分析、歴史GIS、絵図のデジタルアーカイブに関する研究指導を行う。 （126 前田 洋介） 人文地理学分野に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅲ-A（日本社会文化）		日本社会文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱでおこなった研究成果をまとめ、メディア文化領域と関連の深い教員が複数参加する中間発表会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性に関する確認をうけ、あわせて、他分野・学際的な視点から自らの研究を再検討する。 （79 片桐 昭彦） 日本中世史を研究課題とし、日本中世の史料・権力・地域社会・災害等に関する研究指導を行う。 （41 原 直史） 日本史学を研究課題とし、特に日本近世史を中心とした研究指導を行う。 （140 篠崎 敦史） 東アジア国際交流を研究課題とし、日本史、特に古代史を中心とする文献史学に関する研究指導を行う。 （37 中村 元） 近現代日本社会の歴史学的研究を研究課題とし、歴史学—日本近現代史研究の学問分野に蓄積されている研究視点と研究方法を修得し、自らの具体的な研究対象に適用し独自の研究成果を挙げるための研究指導を行う。 （134 森 貴教） 弥生時代とその並行期における比較考古学的研究を研究課題とし、考古学に関する研究指導を行う。 （70 榎本 千賀子） 地域文化資源管理における情報通信技術の導入と活用を研究課題とし、地域デジタルアーカイブの企画・運営・活用に関する研究指導を行う。 （136 山田 祐紀） 文化人類学・民俗学分野の基本的知識と論文執筆方法を踏まえつつ、各自の研究テーマに関する研究指導を行う。 （109 中本 真人） 日本芸能史を研究課題とし、広く日本文化に関する研究指導を行う。 （47 堀 健彦） 前近代日本を対象とした歴史地理学研究を研究課題とし、前近代日本における領域形成、災害絵図分析、歴史GIS、絵図のデジタルアーカイブに関する研究指導を行う。 （126 前田 洋介） 人文地理学分野に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅳ-A（日本社会文化）		日本社会文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲで中間的な評価を受け、必要な微調整をおこなった研究を最後まで進め、修士論文を完成させる。修士論文完成後はただちに成果発表の準備にとりかかり、修士論文発表会において、2年間の研究成果を発表し、学際的な「総合知」の視点から、自らの研究の意義を再検討する。 （79 片桐 昭彦） 日本中世史を研究課題とし、日本中世の史料・権力・地域社会・災害等に関する研究指導を行う。 （41 原 直史） 日本史学を研究課題とし、特に日本近世史を中心とした研究指導を行う。 （140 篠崎 敦史） 東アジア国際交流を研究課題とし、日本史、特に古代史を中心とする文献史学に関する研究指導を行う。 （37 中村 元） 近現代日本社会の歴史学的研究を研究課題とし、歴史学—日本近現代史研究の学問分野に蓄積されている研究視点と研究方法を修得し、自らの具体的な研究対象に適用し独自の研究成果を挙げるための研究指導を行う。 （134 森 貴教） 弥生時代とその並行期における比較考古学的研究を研究課題とし、考古学に関する研究指導を行う。 （70 榎本 千賀子） 地域文化資源管理における情報通信技術の導入と活用を研究課題とし、地域デジタルアーカイブの企画・運営・活用に関する研究指導を行う。 （136 山田 祐紀） 文化人類学・民俗学分野の基本的知識と論文執筆方法を踏まえつつ、各自の研究テーマに関する研究指導を行う。 （109 中本 真人） 日本芸能史を研究課題とし、広く日本文化に関する研究指導を行う。 （47 堀 健彦） 前近代日本を対象とした歴史地理学研究を研究課題とし、前近代日本における領域形成、災害絵図分析、歴史GIS、絵図のデジタルアーカイブに関する研究指導を行う。 （126 前田 洋介） 人文地理学分野に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅱ-A（日本語文化）		日本語文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを指導教員の指導のもとでおこなって、翌年度のはじめに予定されている研究中間発表の準備をすすめる。 （129 三ツ井 正孝） 近現代日本語研究を研究課題とし、近代語および現代語に関する語彙・文法の体系および変遷に関する研究指導を行う。 （73 岡田 祥平） 現代日本語学、中でも現代日本語の動態・多様性の記述とそのための方法論を研究課題とし、現代日本語の言語変異や言語変化や、それらをとらえるための方法論に関する研究指導を行う。 （5 磯貝 淳一） 日本語史を研究課題とし、古代・中世を中心とした日本語の変化・変遷に関する研究指導を行う。 （98 高橋 早苗） 平安時代の文学作品を研究対象として、受容や仕掛けなど、多様な観点から作品を検討分析する指導を行う。 （139 阿部 亮太） 日本中世古典文学、特に軍記物語の成立と展開の実態究明を研究課題とし、各作品の成立論・諸本論・構想論等、またこれらの隣接分野に関する研究指導を行う。 （34 長沼 光彦） 日本近現代文学を研究課題とし、文学理論や同時代文化との比較研究に関する研究指導を行う。 （12 岡村 浩） 日本文芸史を大きな研究課題とし、良寛及び会津八一などのほか、新潟県ゆかりの文芸家に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(総合学術研究科 人文社会科学専攻)				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅲ-A（日本語文化）		日本語文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱでおこなった研究成果をまとめ、メディア文化領域と関連の深い教員が複数参加する中間発表会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性に関する確認をうけ、あわせて、他分野・学際的な視点から自らの研究を再検討する。 (129 三ツ井 正孝) 近現代日本語研究を研究課題とし、近代語および現代語に関する語彙・文法の体系および変遷に関する研究指導を行う。 (73 岡田 祥平) 現代日本語学、中でも現代日本語の動態・多様性の記述とそのための方法論を研究課題とし、現代日本語の言語変異や言語変化や、それらをとらえるための方法論に関する研究指導を行う。 (5 磯貝 淳一) 日本語史を研究課題とし、古代・中世を中心とした日本語の変化・変遷に関する研究指導を行う。 (98 高橋 早苗) 平安時代の文学作品を研究対象として、受容や仕掛けなど、多様な観点から作品を検討分析する指導を行う。 (139 阿部 亮太) 日本中世古典文学、特に軍記物語の成立と展開の実態究明を研究課題とし、各作品の成立論・諸本論・構想論等、またこれらの隣接分野に関する研究指導を行う。 (34 長沼 光彦) 日本近現代文学を研究課題とし、文学理論や同時代文化との比較研究に関する研究指導を行う。 (12 岡村 浩) 日本文芸史を大きな研究課題とし、良寛及び会津八一などのほか、新潟県ゆかりの文芸家に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅳ-A（日本語文化）		日本語文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲで中間的な評価を受け、必要な微調整をおこなった研究を最後まで進め、修士論文を完成させる。修士論文完成後はただちに成果発表の準備にとりかかり、修士論文発表会において、2年間の研究成果を発表し、学際的な「総合知」の視点から、自らの研究の意義を再検討する。 (129 三ツ井 正孝) 近現代日本語研究を研究課題とし、近代語および現代語に関する語彙・文法の体系および変遷に関する研究指導を行う。 (73 岡田 祥平) 現代日本語学、中でも現代日本語の動態・多様性の記述とそのための方法論を研究課題とし、現代日本語の言語変異や言語変化や、それらをとらえるための方法論に関する研究指導を行う。 (5 磯貝 淳一) 日本語史を研究課題とし、古代・中世を中心とした日本語の変化・変遷に関する研究指導を行う。 (98 高橋 早苗) 平安時代の文学作品を研究対象として、受容や仕掛けなど、多様な観点から作品を検討分析する指導を行う。 (139 阿部 亮太) 日本中世古典文学、特に軍記物語の成立と展開の実態究明を研究課題とし、各作品の成立論・諸本論・構想論等、またこれらの隣接分野に関する研究指導を行う。 (34 長沼 光彦) 日本近現代文学を研究課題とし、文学理論や同時代文化との比較研究に関する研究指導を行う。 (12 岡村 浩) 日本文芸史を大きな研究課題とし、良寛及び会津八一などのほか、新潟県ゆかりの文芸家に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅰ-A（日本語教育）		日本語教育に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第1学期に開講される課題研究Ⅰでは、研究指導委員会の指導と助言を受けながら研究課題を設定し、準備的な研究を開始して、課題解決のために必要な知識範囲を確認し、設定課題とその研究方法の妥当性を検討し、必要となる資料収集やフィールドワークなどの準備をすることで、学位取得までの2年間の研究計画を立てることを目的とする。 （59 池田 英喜） 日本語教育を研究課題とし、日本語音韻論、日本語音声指導方法論、日本語文法論に関する研究指導を行う。 （133 MENG YUN） 以下のいずれか、あるいは、いくつかを研究課題とし、以下のいずれか、いくつかに関する研究指導を行う。日本語教育、外国語教育（中国語・英語教育）、国際コミュニケーション（語用論分野）、ビジネス・コミュニケーション、ビジネス日本語・英語関連、国際教育（COILや国際共修等）、産官学連携によるキャリア教育・ソーシャルインパクト（特にグローバル人材である日本人学生・外国人留学生のキャリア教育）、異文化間教育（異文化コミュニケーション、異文化理解・対応） （123 古田 梨乃） 日本語教育を研究課題とし、特に教育方法や地域日本語教育に関する研究指導を行う。 （116 廣川 智） 日本語教育を研究課題とし、日本語教育方法、分野別日本語、協働的学習、多文化共生に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅱ-A（日本語教育）		日本語教育に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを指導教員の指導のもとでこなって、翌年度のはじめに予定されている研究中間発表の準備をすすめる。 （59 池田 英喜） 日本語教育を研究課題とし、日本語音韻論、日本語音声指導方法論、日本語文法論に関する研究指導を行う。 （133 MENG YUN） 以下のいずれか、あるいは、いくつかを研究課題とし、以下のいずれか、いくつかに関する研究指導を行う。日本語教育、外国語教育（中国語・英語教育）、国際コミュニケーション（語用論分野）、ビジネス・コミュニケーション、ビジネス日本語・英語関連、国際教育（COILや国際共修等）、産官学連携によるキャリア教育・ソーシャルインパクト（特にグローバル人材である日本人学生・外国人留学生のキャリア教育）、異文化間教育（異文化コミュニケーション、異文化理解・対応） （123 古田 梨乃） 日本語教育を研究課題とし、特に教育方法や地域日本語教育に関する研究指導を行う。 （116 廣川 智） 日本語教育を研究課題とし、日本語教育方法、分野別日本語、協働的学習、多文化共生に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅲ-A（日本語教育）		日本語教育に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱでおこなった研究成果をまとめ、メディア文化領域と関連の深い教員が複数参加する中間発表会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性に関する確認をうけ、あわせて、他分野・学際的な視点から自らの研究を再検討する。 （59 池田 英喜） 日本語教育を研究課題とし、日本語音韻論、日本語音声指導方法論、日本語文法論に関する研究指導を行う。 （133 MENG YUN） 以下のいずれか、あるいは、いくつかを研究課題とし、以下のいずれか、いくつかに関する研究指導を行う。日本語教育、外国語教育（中国語・英語教育）、国際コミュニケーション（語用論分野）、ビジネス・コミュニケーション、ビジネス日本語・英語関連、国際教育（COILや国際共修等）、産官学連携によるキャリア教育・ソーシャルインパクト（特にグローバル人材である日本人学生・外国人留学生のキャリア教育）、異文化間教育（異文化コミュニケーション、異文化理解・対応） （123 古田 梨乃） 日本語教育を研究課題とし、特に教育方法や地域日本語教育に関する研究指導を行う。 （116 廣川 智） 日本語教育を研究課題とし、日本語教育方法、分野別日本語、協働的学習、多文化共生に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(総合学術研究科 人文社会科学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅳ-A（日本語教育）		日本語教育に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲで中間的な評価を受け、必要な微調整をおこなった研究を最後まで進め、修士論文を完成させる。修士論文完成後はただちに成果発表の準備にとりかかり、修士論文発表会において、2年間の研究成果を発表し、学際的な「総合知」の視点から、自らの研究の意義を再検討する。 (59 池田 英喜) 日本語教育を研究課題とし、日本語音韻論、日本語音声指導方法論、日本語文法論に関する研究指導を行う。 (133 MENG YUN) 以下のいずれか、あるいは、いくつかを研究課題とし、以下のいずれか、いくつかに関する研究指導を行う。日本語教育、外国語教育（中国語・英語教育）、国際コミュニケーション（語用論分野）、ビジネス・コミュニケーション、ビジネス日本語・英語関連、国際教育（COILや国際共修等）、産官学連携によるキャリア教育・ソーシャルインパクト（特にグローバル人材である日本人学生・外国人留学生のキャリア教育）、異文化間教育（異文化コミュニケーション、異文化理解・対応） (123 古田 梨乃) 日本語教育を研究課題とし、特に教育方法や地域日本語教育に関する研究指導を行う。 (116 廣川 智) 日本語教育を研究課題とし、日本語教育方法、分野別日本語、協働的学習、多文化共生に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅰ-A（東アジア社会・言語文化）		東アジア社会・言語文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第1学期に開講される課題研究Ⅰでは、研究指導委員会の指導と助言を受けながら研究課題を設定し、準備的な研究を開始して、課題解決のために必要な知識範囲を確認し、設定課題とその研究方法の妥当性を検討し、必要となる資料収集やフィールドワークなどの準備をすることで、学位取得までの2年間の研究計画を立てることを目的とする。 (131 村上 正和) 中国史を研究課題とし、前近代の東アジアの歴史に関する研究指導を行う。 (52 山内 民博) 朝鮮・韓国史および東アジア史に関わるテーマを研究課題とし、修士論文作成に必要なスキルおよび各自の研究テーマの深化に向けて研究指導を行う。 (22 白石 典之) 比較考古学、とくに日本と内陸アジア地域との歴史的文化交流の実態を明らかにすることを研究課題とし、モンゴル高原の考古資料に基づく文化変遷の影響が周辺地域、ことのほか日本を含む東アジア地域にどのような影響を与えたかという実証的分析を通して、比較考古学の方法論に関する研究指導をおこなう。 (120 藤田 益子) 日中対照言語研究、教学研究および中国歴史言語文化研究を研究課題とし、①中国語研究と日本語話者への中国語教育、②日本語研究と中国語話者への日本語教育、③歴史言語学の観点から、近代漢語から現代漢語における白話語彙及び文法に関する研究指導を行う。 (43 広川 佐保) 内陸アジア史に関する経済史、地域史研究を研究課題とし、東アジア、ならびに東北アジア近現代に関する研究指導を行う。 (124 千野 真一) 中国語文法（語彙・文法）、日中対照研究、中国語教育法を研究課題とし、文法・語彙研究、日本語と中国語の文法構造・語彙構造の異同についての考察、日本人中国語学習者を想定した中国語文法教授法に関する研究指導を行う。 (77 角谷 聡) 中国古典文学を研究課題とし、中国古典詩・六朝志怪小説・唐代伝奇小説・明清白話小説に関する研究指導を行う。 (85 小島 明子) 中国文学を主な研究課題とし、中国文学および周辺分野に関する研究指導を行う。 (105 土屋 太祐) 前近代中国の思想と文献を研究課題とし、論文執筆に向けた研究指導を行う。 (31 角田 勝久) 中国を中心とする日本や韓国の書跡の書風分析を研究課題とし、東アジアの書跡の特質に関する研究指導を行う。 (119 藤石 貴代) 朝鮮近現代文学および在日朝鮮人文学を研究課題とし、主指導を担当する学生の研究テーマに即して研究指導をおこなう。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅱ-A（東アジア社会文化）		東アジア社会文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを指導教員の指導のもとでおこなって、翌年度のはじめに予定されている研究中間発表の準備をすすめる。 （131 村上 正和） 中国史を研究課題とし、前近代の東アジアの歴史に関する研究指導を行う。 （52 山内 民博） 朝鮮・韓国史および東アジア史に関わるテーマを研究課題とし、修士論文作成に必要なスキルおよび各自の研究テーマの深化に向けて研究指導を行う。 （22 白石 典之） 比較考古学、とくに日本と内陸アジア地域との歴史的文化交流の実態を明らかにすることを研究課題とし、モンゴル高原の考古資料に基づく文化変遷の影響が周辺地域、ことのほか日本を含む東アジア地域にどのような影響を与えたかという実証的分析を通して、比較考古学の方法論に関する研究指導をおこなう。 （120 藤田 益子） 日中対照言語研究、教学研究および中国歴史言語文化研究を研究課題とし、①中国語研究と日本語話者への中国語教育、②日本語研究と中国語話者への日本語教育、③歴史言語学の観点から、近代漢語から現代漢語における白話語彙及び文法に関する研究指導を行う。 （43 広川 佐保） 内陸アジア史に関する経済史、地域史研究を研究課題とし、東アジア、ならびに東北アジア近現代に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅲ-A（東アジア社会文化）		東アジア社会文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱでおこなった研究成果をまとめ、メディア文化領域と関連の深い教員が複数参加する中間発表会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性に関する確認をうけ、あわせて、他分野・学際的な視点から自らの研究を再検討する。 （131 村上 正和） 中国史を研究課題とし、前近代の東アジアの歴史に関する研究指導を行う。 （52 山内 民博） 朝鮮・韓国史および東アジア史に関わるテーマを研究課題とし、修士論文作成に必要なスキルおよび各自の研究テーマの深化に向けて研究指導を行う。 （22 白石 典之） 比較考古学、とくに日本と内陸アジア地域との歴史的文化交流の実態を明らかにすることを研究課題とし、モンゴル高原の考古資料に基づく文化変遷の影響が周辺地域、ことのほか日本を含む東アジア地域にどのような影響を与えたかという実証的分析を通して、比較考古学の方法論に関する研究指導をおこなう。 （120 藤田 益子） 日中対照言語研究、教学研究および中国歴史言語文化研究を研究課題とし、①中国語研究と日本語話者への中国語教育、②日本語研究と中国語話者への日本語教育、③歴史言語学の観点から、近代漢語から現代漢語における白話語彙及び文法に関する研究指導を行う。 （43 広川 佐保） 内陸アジア史に関する経済史、地域史研究を研究課題とし、東アジア、ならびに東北アジア近現代に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅳ-A（東アジア社会文化）		東アジア社会文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲで中間的な評価を受け、必要な微調整をおこなった研究を最後まで進め、修士論文を完成させる。修士論文完成後はただちに成果発表の準備にとりかかり、修士論文発表会において、2年間の研究成果を発表し、学際的な「総合知」の視点から、自らの研究の意義を再検討する。 （131 村上 正和） 中国史を研究課題とし、前近代の東アジアの歴史に関する研究指導を行う。 （52 山内 民博） 朝鮮・韓国史および東アジア史に関わるテーマを研究課題とし、修士論文作成に必要なスキルおよび各自の研究テーマの深化に向けて研究指導を行う。 （22 白石 典之） 比較考古学、とくに日本と内陸アジア地域との歴史的文化交流の実態を明らかにすることを研究課題とし、モンゴル高原の考古資料に基づく文化変遷の影響が周辺地域、ことのほか日本を含む東アジア地域にどのような影響を与えたかという実証的分析を通して、比較考古学の方法論に関する研究指導をおこなう。 （120 藤田 益子） 日中対照言語研究、教学研究および中国歴史言語文化研究を研究課題とし、①中国語研究と日本語話者への中国語教育、②日本語研究と中国語話者への日本語教育、③歴史言語学の観点から、近代漢語から現代漢語における白話語彙及び文法に関する研究指導を行う。 （43 広川 佐保） 内陸アジア史に関する経済史、地域史研究を研究課題とし、東アジア、ならびに東北アジア近現代に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅱ-A（東アジア言語文化）		東アジア言語文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを指導教員の指導のもとでおこなって、翌年度のはじめに予定されている研究中間発表の準備をすすめる。 （124 干野 真一） 中国語文法（語彙・文法）、日中対照研究、中国語教育法を研究課題とし、文法・語彙研究、日本語と中国語の文法構造・語彙構造の異同についての考察、日本人中国語学習者を想定した中国語文法教授法に関する研究指導を行う。 （120 藤田 益子） 日中対照言語研究、教学研究および中国歴史言語文化研究を研究課題とし、①中国語研究と日本語話者への中国語教育、②日本語研究と中国語話者への日本語教育、③歴史言語学の観点から、近代漢語から現代漢語における白話語彙及び文法に関する研究指導を行う。 （77 角谷 聡） 中国古典文学を研究課題とし、中国古典詩・六朝志怪小説・唐代伝奇小説・明清白話小説に関する研究指導を行う。 （85 小島 明子） 中国文学を主な研究課題とし、中国文学および周辺分野に関する研究指導を行う。 （105 土屋 太祐） 前近代中国の思想と文献を研究課題とし、論文執筆に向けた研究指導を行う。 （31 角田 勝久） 中国を中心とする日本や韓国の書跡の書風分析を研究課題とし、東アジアの書跡の特質に関する研究指導を行う。 （119 藤石 貴代） 朝鮮近現代文学および在日朝鮮人文学を研究課題とし、主指導を担当する学生の研究テーマに即して研究指導をおこなう。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅲ-A（東アジア言語文化）		東アジア言語文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱでおこなった研究成果をまとめ、メディア文化領域と関連の深い教員が複数参加する中間発表会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性に関する確認をうけ、あわせて、他分野・学際的な視点から自らの研究を再検討する。 （124 干野 真一） 中国語文法（語彙・文法）、日中対照研究、中国語教育法を研究課題とし、文法・語彙研究、日本語と中国語の文法構造・語彙構造の異同についての考察、日本人中国語学習者を想定した中国語文法教授法に関する研究指導を行う。 （120 藤田 益子） 日中対照言語研究、教学研究および中国歴史言語文化研究を研究課題とし、①中国語研究と日本語話者への中国語教育、②日本語研究と中国語話者への日本語教育、③歴史言語学の観点から、近代漢語から現代漢語における白話語彙及び文法に関する研究指導を行う。 （77 角谷 聡） 中国古典文学を研究課題とし、中国古典詩・六朝志怪小説・唐代伝奇小説・明清白話小説に関する研究指導を行う。 （85 小島 明子） 中国文学を主な研究課題とし、中国文学および周辺分野に関する研究指導を行う。 （105 土屋 太祐） 前近代中国の思想と文献を研究課題とし、論文執筆に向けた研究指導を行う。 （31 角田 勝久） 中国を中心とする日本や韓国の書跡の書風分析を研究課題とし、東アジアの書跡の特質に関する研究指導を行う。 （119 藤石 貴代） 朝鮮近現代文学および在日朝鮮人文学を研究課題とし、主指導を担当する学生の研究テーマに即して研究指導をおこなう。	
	課題研究Ⅳ-A（東アジア言語文化）		東アジア言語文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲで中間的な評価を受け、必要な微調整をおこなった研究を最後まで進め、修士論文を完成させる。修士論文完成後はただちに成果発表の準備にとりかかり、修士論文発表会において、2年間の研究成果を発表し、学際的な「総合知」の視点から、自らの研究の意義を再検討する。 （124 干野 真一） 中国語文法（語彙・文法）、日中対照研究、中国語教育法を研究課題とし、文法・語彙研究、日本語と中国語の文法構造・語彙構造の異同についての考察、日本人中国語学習者を想定した中国語文法教授法に関する研究指導を行う。 （120 藤田 益子） 日中対照言語研究、教学研究および中国歴史言語文化研究を研究課題とし、①中国語研究と日本語話者への中国語教育、②日本語研究と中国語話者への日本語教育、③歴史言語学の観点から、近代漢語から現代漢語における白話語彙及び文法に関する研究指導を行う。 （77 角谷 聡） 中国古典文学を研究課題とし、中国古典詩・六朝志怪小説・唐代伝奇小説・明清白話小説に関する研究指導を行う。 （85 小島 明子） 中国文学を主な研究課題とし、中国文学および周辺分野に関する研究指導を行う。 （105 土屋 太祐） 前近代中国の思想と文献を研究課題とし、論文執筆に向けた研究指導を行う。 （31 角田 勝久） 中国を中心とする日本や韓国の書跡の書風分析を研究課題とし、東アジアの書跡の特質に関する研究指導を行う。 （119 藤石 貴代） 朝鮮近現代文学および在日朝鮮人文学を研究課題とし、主指導を担当する学生の研究テーマに即して研究指導をおこなう。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅰ-A（欧米社会・言語文化）		欧米社会・言語文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第1学期に開講される課題研究Ⅰでは、研究指導委員会の指導と助言を受けながら研究課題を設定し、準備的な研究を開始して、課題解決のために必要な知識範囲を確認し、設定課題とその研究方法の妥当性を検討し、必要となる資料収集やフィールドワークなどの準備をすることで、学位取得までの2年間の研究計画を立てることを目的とする。 （99 高橋 康浩） アメリカ史、西洋政治思想史と関係する研究分野における研究指導を行う。 （86 小林 繁子） ヨーロッパ史を研究課題とし、中世以降のヨーロッパ史、とくに国制史・法制史・文化史に関する研究指導を行う。 （46 細田 あや子） 西洋中世史、西洋中世文化史を研究課題とし、ヨーロッパのキリスト教美術やキリスト教文化史、死生学などに関する研究指導を行う。 （25 高橋 秀樹） 歴史学及び西洋古典学を研究課題とし、西洋古代及び中世の歴史と古典文化に関する研究指導を行う。 （26 田中 咲子） 美術史学全般を研究課題とし、造形芸術の自律的展開のみならず社会史および思想的観点を含めた研究の指導を行う。 （81 北田 伸一） 生成文法理論の統語論を研究課題として、英語を中心的な対象言語としながら、日本語や中国語等の様々な言語との統語特性の比較対照研究に関する研究指導を行う。 （11 大竹 芳夫） 最近の言語学の知見を検証しながら主に日英語を比較対照することを研究課題とし、英語と日本語、あるいは英語と他の言語の普遍性と個性を分析することでことばとは何かを究明する研究指導を行う。 （137 山田 陽子） 言語学のうち語用論を専門分野とし、話し手がどのように言語表現を的確に選択し、まとまりのある談話を構築しているのかという、談話の構築に関わる言語現象に関する研究の指導を行う。 （48 本間 伸輔） 英語学（英語や日本語の文法）を専門領域とし、英語や日本語などの言語の文構造と意味解釈、言語間の比較に関する研究指導を行う。 （38 HADLEY GREGORY STUART） 第二言語教育の教室における課題 - 動機づけの問題、クラスメートや外国人教師、日本人同僚とのコミュニケーションの問題、第二言語の学習や習得の困難さ、学習者の学習ダイナミクスの理解などが、本コースで学生が選択する主なテーマとなる。研究指導では、教室内の第二言語学習プロセスに影響を与える課題をより深く理解するための方法論的アプローチについて指導を行う。 （115 平野 幸彦） 19世紀のアメリカ作家Edgar Allan Poeを研究課題とし、Poeの作品（詩、散文物語、批評的エッセー等）の様々な解釈の仕方に関する研究指導を行う。 （62 市橋 孝道） 19世紀のイギリス（特にヴィクトリア朝時代、1837-1901）の小説や様々な文化事象を研究課題とし、イギリスの文学・文化に関する研究指導を行う。 （10 江畑 冬生） 広く言語学一般を研究課題とし、特に記述言語学や対照言語学に関する研究指導を行う。 （32 津森 圭一） フランス文学を研究課題とし、近代フランス小説、評論、視覚芸術に関する研究指導を行う。 （45 逸見 竜生） フランス思想史を研究課題とし、思想史研究の専門的な分析・解釈に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(総合学術研究科 人文社会科学専攻)				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅱ-A（欧米社会文化）		欧米社会文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを指導教員の指導のもとでおこなって、翌年度のはじめに予定されている研究中間発表の準備をすすめる。 （99 高橋 康浩） アメリカ史、西洋政治思想史と関係する研究分野における研究指導を行う。 （86 小林 繁子） ヨーロッパ史を研究課題とし、中世以降のヨーロッパ史、とくに国制史・法制史・文化史に関する研究指導を行う。 （46 細田 あや子） 西洋中世史、西洋中世文化史を研究課題とし、ヨーロッパのキリスト教美術やキリスト教文化史、死生学などに関する研究指導を行う。 （25 高橋 秀樹） 歴史学及び西洋古典学を研究課題とし、西洋古代及び中世の歴史と古典文化に関する研究指導を行う。 （26 田中 咲子） 美術史学全般を研究課題とし、造形芸術の自律的展開のみならず社会史および思想的観点を含めた研究の指導を行う。	
	課題研究Ⅲ-A（欧米社会文化）		欧米社会文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱでおこなった研究成果をまとめ、メディア文化領域と関連の深い教員が複数参加する中間発表会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性に関する確認をうけ、あわせて、他分野・学際的な視点から自らの研究を再検討する。 （99 高橋 康浩） アメリカ史、西洋政治思想史と関係する研究分野における研究指導を行う。 （86 小林 繁子） ヨーロッパ史を研究課題とし、中世以降のヨーロッパ史、とくに国制史・法制史・文化史に関する研究指導を行う。 （46 細田 あや子） 西洋中世史、西洋中世文化史を研究課題とし、ヨーロッパのキリスト教美術やキリスト教文化史、死生学などに関する研究指導を行う。 （25 高橋 秀樹） 歴史学及び西洋古典学を研究課題とし、西洋古代及び中世の歴史と古典文化に関する研究指導を行う。 （26 田中 咲子） 美術史学全般を研究課題とし、造形芸術の自律的展開のみならず社会史および思想的観点を含めた研究の指導を行う。	
	課題研究Ⅳ-A（欧米社会文化）		欧米社会文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲで中間的な評価を受け、必要な微調整をおこなった研究を最後まで進め、修士論文を完成させる。修士論文完成後はただちに成果発表の準備にとりかかり、修士論文発表会において、2年間の研究成果を発表し、学際的な「総合知」の視点から、自らの研究の意義を再検討する。 （99 高橋 康浩） アメリカ史、西洋政治思想史と関係する研究分野における研究指導を行う。 （86 小林 繁子） ヨーロッパ史を研究課題とし、中世以降のヨーロッパ史、とくに国制史・法制史・文化史に関する研究指導を行う。 （46 細田 あや子） 西洋中世史、西洋中世文化史を研究課題とし、ヨーロッパのキリスト教美術やキリスト教文化史、死生学などに関する研究指導を行う。 （25 高橋 秀樹） 歴史学及び西洋古典学を研究課題とし、西洋古代及び中世の歴史と古典文化に関する研究指導を行う。 （26 田中 咲子） 美術史学全般を研究課題とし、造形芸術の自律的展開のみならず社会史および思想的観点を含めた研究の指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅱ-A（英米言語文化）		英米言語文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを指導教員の指導のもとでおこなって、翌年度のはじめに予定されている研究中間発表の準備をすすめる。 （81 北田 伸一） 生成文法理論の統語論を研究課題として、英語を中心的な対象言語としながら、日本語や中国語等の様々な言語との統語特性の比較対照研究に関する研究指導を行う。 （11 大竹 芳夫） 最近の言語学の知見を検証しながら主に日英語を比較対照することを研究課題とし、英語と日本語、あるいは英語と他の言語の普遍性と個性を分析することでことばとは何かを究明する研究指導を行う。 （137 山田 陽子） 言語学のうち語用論を専門分野とし、話し手がどのように言語表現を的確に選択し、まともりのある談話を構築しているのかという、談話の構築に関わる言語現象に関する研究の指導を行う。 （48 本間 伸輔） 英語学（英語や日本語の文法）を専門領域とし、英語や日本語などの言語の文構造と意味解釈、言語間の比較に関する研究指導を行う。 （38 HADLEY GREGORY STUART） 第二言語教育の教室における課題 - 動機づけの問題、クラスメートや外国人教師、日本人同僚とのコミュニケーションの問題、第二言語の学習や習得の困難さ、学習者の学習ダイナミクスの理解などが、本コースで学生が選択する主なテーマとなる。研究指導では、教室内の第二言語学習プロセスに影響を与える課題をより深く理解するための方法論的アプローチについて指導を行う。 （115 平野 幸彦） 19世紀のアメリカ作家Edgar Allan Poeを研究課題とし、Poeの作品（詩、散文物語、批評的エッセイ等）の様々な解釈の仕方に関する研究指導を行う。 （62 市橋 孝道） 19世紀のイギリス（特にヴィクトリア朝時代、1837-1901）の小説や様々な文化事象を研究課題とし、イギリスの文学・文化に関する研究指導を行う。 （10 江畑 冬生） 広く言語学一般を研究課題とし、特に記述言語学や対照言語学に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅲ-A（英米言語文化）		英米言語文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱでおこなった研究成果をまとめ、メディア文化領域と関連の深い教員が複数参加する中間発表会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性に関する確認をうけ、あわせて、他分野・学際的な視点から自らの研究を再検討する。 （81 北田 伸一） 生成文法理論の統語論を研究課題として、英語を中心的な対象言語としながら、日本語や中国語等の様々な言語との統語特性の比較対照研究に関する研究指導を行う。 （11 大竹 芳夫） 最近の言語学の知見を検証しながら主に日英語を比較対照することを研究課題とし、英語と日本語、あるいは英語と他の言語の普遍性と個性を分析することでことばとは何かを究明する研究指導を行う。 （137 山田 陽子） 言語学のうち語用論を専門分野とし、話し手がどのように言語表現を的確に選択し、まともりのある談話を構築しているのかという、談話の構築に関わる言語現象に関する研究の指導を行う。 （48 本間 伸輔） 英語学（英語や日本語の文法）を専門領域とし、英語や日本語などの言語の文構造と意味解釈、言語間の比較に関する研究指導を行う。 （38 HADLEY GREGORY STUART） 第二言語教育の教室における課題 - 動機づけの問題、クラスメートや外国人教師、日本人同僚とのコミュニケーションの問題、第二言語の学習や習得の困難さ、学習者の学習ダイナミクスの理解などが、本コースで学生が選択する主なテーマとなる。研究指導では、教室内の第二言語学習プロセスに影響を与える課題をより深く理解するための方法論的アプローチについて指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅲ-A（英米言語文化）		（115 平野 幸彦） 19世紀のアメリカ作家Edgar Allan Poeを研究課題とし、Poeの作品（詩、散文物語、批評的エッセー等）の様々な解釈の仕方に関する研究指導を行う。 （62 市橋 孝道） 19世紀のイギリス（特にヴィクトリア朝時代、1837-1901）の小説や様々な文化事象を研究課題とし、イギリスの文学・文化に関する研究指導を行う。 （10 江畑 冬生） 広く言語学一般を研究課題とし、特に記述言語学や対照言語学に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅳ-A（英米言語文化）		英米言語文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲで中間的な評価を受け、必要な微調整をおこなった研究を最後まで進め、修士論文を完成させる。修士論文完成後はただちに成果発表の準備にとりかかり、修士論文発表会において、2年間の研究成果を発表し、学際的な「総合知」の視点から、自らの研究の意義を再検討する。 （81 北田 伸一） 生成文法理論の統語論を研究課題として、英語を中心的な対象言語としながら、日本語や中国語等の様々な言語との統語特性の比較対照研究に関する研究指導を行う。 （11 大竹 芳夫） 最近の言語学の知見を検証しながら主に日英語を比較対照することを研究課題とし、英語と日本語、あるいは英語と他の言語の普遍性と個性を分析することでことばとは何かを究明する研究指導を行う。 （137 山田 陽子） 言語学のうち語用論を専門分野とし、話し手がどのように言語表現を的確に選択し、まとまりのある談話を構築しているのかという、談話の構築に関わる言語現象に関する研究の指導を行う。 （48 本間 伸輔） 英語学（英語や日本語の文法）を専門領域とし、英語や日本語などの言語の文構造と意味解釈、言語間の比較に関する研究指導を行う。 （38 HADLEY GREGORY STUART） 第二言語教育の教室における課題 - 動機づけの問題、クラスメートや外国人教師、日本人同僚とのコミュニケーションの問題、第二言語の学習や習得の困難さ、学習者の学習ダイナミクスの理解などが、本コースで学生が選択する主なテーマとなる。研究指導では、教室内の第二言語学習プロセスに影響を与える課題をより深く理解するための方法論的アプローチについて指導を行う。 （115 平野 幸彦） 19世紀のアメリカ作家Edgar Allan Poeを研究課題とし、Poeの作品（詩、散文物語、批評的エッセー等）の様々な解釈の仕方に関する研究指導を行う。 （62 市橋 孝道） 19世紀のイギリス（特にヴィクトリア朝時代、1837-1901）の小説や様々な文化事象を研究課題とし、イギリスの文学・文化に関する研究指導を行う。 （10 江畑 冬生） 広く言語学一般を研究課題とし、特に記述言語学や対照言語学に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅱ-A（ヨーロッパ言語文化）		ヨーロッパ言語文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを指導教員の指導のもとでおこなって、翌年度のはじめに予定されている研究中間発表の準備をすすめる。 （32 津森 圭一） フランス文学を研究課題とし、近代フランス小説、評論、視覚芸術に関する研究指導を行う。 （45 逸見 竜生） フランス思想史を研究課題とし、思想史研究の専門的な分析・解釈に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅲ-A（ヨーロッパ言語文化）		ヨーロッパ言語文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱでおこなった研究成果をまとめ、メディア文化領域と関連の深い教員が複数参加する中間発表会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性に関する確認をうけ、あわせて、他分野・学際的な視点から自らの研究を再検討する。 （32 津森 圭一） フランス文学を研究課題とし、近代フランス小説、評論、視覚芸術に関する研究指導を行う。 （45 逸見 竜生） フランス思想史を研究課題とし、思想史研究の専門的な分析・解釈に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅳ-A（ヨーロッパ言語文化）		ヨーロッパ言語文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲで中間的な評価を受け、必要な微調整をおこなった研究を最後まで進め、修士論文を完成させる。修士論文完成後はただちに成果発表の準備にとりかかり、修士論文発表会において、2年間の研究成果を発表し、学際的な「総合知」の視点から、自らの研究の意義を再検討する。 （32 津森 圭一） フランス文学を研究課題とし、近代フランス小説、評論、視覚芸術に関する研究指導を行う。 （45 逸見 竜生） フランス思想史を研究課題とし、思想史研究の専門的な分析・解釈に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅰ-B（行政ネットワーク）		行政ネットワークに関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第1学期に開講される課題研究Ⅰでは、研究指導委員会の指導と助言を受けながら研究課題を設定し、準備的な研究を開始して、課題解決のために必要な知識範囲を確認し、設定課題とその研究方法の妥当性を検討し、必要となる資料収集やフィールドワークなどの準備をすることで、学位取得までの2年間の研究計画を立てることを目的とする。 （9 上村 都） 憲法学に関する研究指導を行う。 （130 宮森 征司） 行政法に関わる総論的課題ないし各論的課題を研究課題として、これにかかる指導を行う。 （30 田巻 帝子） 「個人と家族の法社会学」を研究課題とし、多様な個人と家族をめぐる諸問題の法社会学に関する研究指導を行う。 （7 稲吉 晃） 日本政治外交史を研究課題とし、主として日本の国内政治過程の分析・叙述に関する研究指導を行う。 （127 益田 高成） 日本の選挙ならびに選挙をめぐる政治過程を研究課題とし、選挙制度・選挙法・選挙データ分析等に関する研究指導を行う。 （15 神田 豊隆） 第二次世界大戦後の国際政治・日本外交を研究課題とし、国際政治史・外交史に関する研究指導を行う。 （18 向山 恭一） 政治思想全般を対象とし、とくに現代の政治状況の思想的来歴とその特質に関する研究指導を行う。 （39 馬場 健） 都市行政におけるマネジメントを研究課題とし、イギリスにおける都市形成の歴史に関する研究指導を行う。 （54 渡辺 豊） 現代国際法に関する諸課題を研究課題とし、現代国際社会における法的問題に関する研究指導を行う。 （8 今本 啓介） 租税法を研究課題とし、租税法総論および各種税法に関する研究指導を行う。 （24 鈴木 正朝） 情報法を研究課題とし、個人情報保護法制、プライバシーの権利などに関する研究指導を行う。 （27 田中 伸至） 社会保障法を研究課題とし、特に、日本とドイツの医療保険、医療提供体制、医療の質に関する制度など、医療保障法に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅱ-B（行政ネットワーク）		行政ネットワークに関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを指導教員の指導のもとでおこなって、翌年度のはじめに予定されている研究中間発表の準備をすすめる。 （9 上村 都） 憲法学に関する研究指導を行う。 （130 宮森 征司） 行政法に関わる総論的課題ないし各論的課題を研究課題として、これにかかる指導を行う。 （30 田巻 帝子） 「個人と家族の法社会学」を研究課題とし、多様な個人と家族をめぐる諸問題の法社会学に関する研究指導を行う。 （7 稲吉 晃） 日本政治外交史を研究課題とし、主として日本の国内政治過程の分析・叙述に関する研究指導を行う。 （127 益田 高成） 日本の選挙ならびに選挙をめぐる政治過程を研究課題とし、選挙制度・選挙法・選挙データ分析等に関する研究指導を行う。 （15 神田 豊隆） 第二次世界大戦後の国際政治・日本外交を研究課題とし、国際政治史・外交史に関する研究指導を行う。 （18 向山 恭一） 政治思想全般を対象とし、とくに現代の政治状況の思想的来歴とその特質に関する研究指導を行う。 （39 馬場 健） 都市行政におけるマネジメントを研究課題とし、イギリスにおける都市形成の歴史に関する研究指導を行う。 （54 渡辺 豊） 現代国際法に関する諸課題を研究課題とし、現代国際社会における法的問題に関する研究指導を行う。 （8 今本 啓介） 租税法を研究課題とし、租税法総論および各種税法に関する研究指導を行う。 （24 鈴木 正朝） 情報法を研究課題とし、個人情報保護法制、プライバシーの権利などに関する研究指導を行う。 （27 田中 伸至） 社会保障法を研究課題とし、特に、日本とドイツの医療保険、医療提供体制、医療の質に関する制度など、医療保障法に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅲ-B（行政ネットワーク）		行政ネットワークに関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱでおこなった研究成果をまとめ、メディア文化領域と関連の深い教員が複数参加する中間発表会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性に関する確認をうけ、あわせて、他分野・学際的な視点から自らの研究を再検討する。 （9 上村 都） 憲法学に関する研究指導を行う。 （130 宮森 征司） 行政法に関わる総論的課題ないし各論的課題を研究課題として、これにかかる指導を行う。 （30 田巻 帝子） 「個人と家族の法社会学」を研究課題とし、多様な個人と家族をめぐる諸問題の法社会学に関する研究指導を行う。 （7 稲吉 晃） 日本政治外交史を研究課題とし、主として日本の国内政治過程の分析・叙述に関する研究指導を行う。 （127 益田 高成） 日本の選挙ならびに選挙をめぐる政治過程を研究課題とし、選挙制度・選挙法・選挙データ分析等に関する研究指導を行う。 （15 神田 豊隆） 第二次世界大戦後の国際政治・日本外交を研究課題とし、国際政治史・外交史に関する研究指導を行う。 （18 向山 恭一） 政治思想全般を対象とし、とくに現代の政治状況の思想的来歴とその特質に関する研究指導を行う。 （39 馬場 健） 都市行政におけるマネジメントを研究課題とし、イギリスにおける都市形成の歴史に関する研究指導を行う。 （54 渡辺 豊） 現代国際法に関する諸課題を研究課題とし、現代国際社会における法的問題に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅲ-B（行政ネットワーク）		（8 今本 啓介） 租税法を研究課題とし、租税法総論および各種税法に関する研究指導を行う。 （24 鈴木 正朝） 情報法を研究課題とし、個人情報保護法制、プライバシーの権利などに関する研究指導を行う。 （27 田中 伸至） 社会保障法を研究課題とし、特に、日本とドイツの医療保険、医療提供体制、医療の質に関する制度など、医療保障法に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅳ-B（行政ネットワーク）		行政ネットワークに関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲで中間的な評価を受け、必要な微調整をおこなった研究を最後まで進め、修士論文を完成させる。修士論文完成後はただちに成果発表の準備にとりかかり、修士論文発表会において、2年間の研究成果を発表し、学際的な「総合知」の視点から、自らの研究の意義を再検討する。 （9 上村 都） 憲法学に関する研究指導を行う。 （130 宮森 征司） 行政法に関わる総論的課題ないし各論的課題を研究課題として、これにかかる指導を行う。 （30 田巻 帝子） 「個人と家族の法社会学」を研究課題とし、多様な個人と家族をめぐる諸問題の法社会学に関する研究指導を行う。 （7 稲吉 晃） 日本政治外交史を研究課題とし、主として日本の国内政治過程の分析・叙述に関する研究指導を行う。 （127 益田 高成） 日本の選挙ならびに選挙をめぐる政治過程を研究課題とし、選挙制度・選挙法・選挙データ分析等に関する研究指導を行う。 （15 神田 豊隆） 第二次世界大戦後の国際政治・日本外交を研究課題とし、国際政治史・外交史に関する研究指導を行う。 （18 向山 恭一） 政治思想全般を対象とし、とくに現代の政治状況の思想的来歴とその特質に関する研究指導を行う。 （39 馬場 健） 都市行政におけるマネジメントを研究課題とし、イギリスにおける都市形成の歴史に関する研究指導を行う。 （54 渡辺 豊） 現代国際法に関する諸課題を研究課題とし、現代国際社会における法的問題に関する研究指導を行う。 （8 今本 啓介） 租税法を研究課題とし、租税法総論および各種税法に関する研究指導を行う。 （24 鈴木 正朝） 情報法を研究課題とし、個人情報保護法制、プライバシーの権利などに関する研究指導を行う。 （27 田中 伸至） 社会保障法を研究課題とし、特に、日本とドイツの医療保険、医療提供体制、医療の質に関する制度など、医療保障法に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅰ-B（法制ネットワーク）		法制ネットワークに関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第1学期に開講される課題研究Ⅰでは、研究指導委員会の指導と助言を受けながら研究課題を設定し、準備的な研究を開始して、課題解決のために必要な知識範囲を確認し、設定課題とその研究方法の妥当性を検討し、必要となる資料収集やフィールドワークなどの準備をすることで、学位取得までの2年間の研究計画を立てることを目的とする。 （143 林 滉起） 民法学における財産法学を研究課題とし、先行研究や判例の調査・外国法との比較といった研究手法の修得に関する指導を行う。 （14 上山 泰） 成年後見法制を研究課題とし、意思決定支援の考え方を踏まえた成年後見法制の現代化に関する研究指導を行う。 （17 近藤 明彦） 民事要件事実論、具体的には、法曹としての実務経験を踏まえ、民法の実体法上の解釈を踏まえた民事要件事実の論点の解明を研究課題とし、要件事実の民事訴訟上の機能、要件事実の具体的な論点を持つ紛争解決上の意義、民事要件事実の論点と実体法の解釈の関係に関する研究指導を行う。 （102 田寺 さおり） 刑法を研究課題とし、特に、経済刑法領域に関する研究指導を行う。 （6 稲田 隆司） 刑事手続全般を研究課題とし、主に捜査法、証拠法および事実認定論などに関する研究指導を行う。 （89 櫻井 香子） 弁護士による犯罪被害者支援を研究課題とする。 （82 木南 直之） 広い意味における労働法全般を研究課題とし、受講生が選択した課題に関する研究指導を行う。 （69 内田 千秋） 会社の機関を研究課題とし、株主・株主総会、取締役・取締役会、監査役・会計監査人に関する研究指導を行う。 （67 岩崎 勝成） 本科目では、不法行為法、契約法、その他保険法、国家賠償法などで問題になる損害賠償法に関連した諸問題を研究課題の対象とし、その研究課題に関する修士論文の執筆のために必要とされる実践的な素養とが学術的な知見や分析力に関する研究指導を行う。 （29 田中 幸弘） 企業における民法の担保法における各種法的課題を研究課題とし、DXも踏まえた電子署名法等の特別法と民事法上のデジタルデータの取扱いと民法の各種課題に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅱ-B（法制ネットワーク）		法制ネットワークに関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを指導教員の指導のもとでおこなって、翌年度のはじめに予定されている研究中間発表の準備をすすめる。 （143 林 滉起） 民法学における財産法学を研究課題とし、先行研究や判例の調査・外国法との比較といった研究手法の修得に関する指導を行う。 （14 上山 泰） 成年後見法制を研究課題とし、意思決定支援の考え方を踏まえた成年後見法制の現代化に関する研究指導を行う。 （17 近藤 明彦） 民事要件事実論、具体的には、法曹としての実務経験を踏まえ、民法の実体法上の解釈を踏まえた民事要件事実の論点の解明を研究課題とし、要件事実の民事訴訟上の機能、要件事実の具体的な論点を持つ紛争解決上の意義、民事要件事実の論点と実体法の解釈の関係に関する研究指導を行う。 （102 田寺 さおり） 刑法を研究課題とし、特に、経済刑法領域に関する研究指導を行う。 （6 稲田 隆司） 刑事手続全般を研究課題とし、主に捜査法、証拠法および事実認定論などに関する研究指導を行う。 （89 櫻井 香子） 弁護士による犯罪被害者支援を研究課題とする。 （82 木南 直之） 広い意味における労働法全般を研究課題とし、受講生が選択した課題に関する研究指導を行う。 （69 内田 千秋） 会社の機関を研究課題とし、株主・株主総会、取締役・取締役会、監査役・会計監査人に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅱ-B（法制ネットワーク）		（67 岩寄 勝成） 本科目では、不法行為法、契約法、その他保険法、国家賠償法などで問題になる損害賠償法に関連した諸問題を研究課題の対象とし、その研究課題に関する修士論文の執筆のために必要とされる実践的な素養とが学術的な知見や分析力に関する研究指導を行う。 （29 田中 幸弘） 企業における民法の担保法における各種法的課題を研究課題とし、DXも踏まえた電子署名法等の特別法と民事法上のデジタルデータの取扱いと民法の各種課題に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅲ-B（法制ネットワーク）		法制ネットワークに関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱでおこなった研究成果をまとめ、メディア文化領域と関連の深い教員が複数参加する中間発表会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性に関する確認をうけ、あわせて、他分野・学際的な視点から自らの研究を再検討する。 （143 林 滉起） 民法学における財産法学を研究課題とし、先行研究や判例の調査・外国法との比較といった研究手法の修得に関する指導を行う。 （14 上山 泰） 成年後見法制を研究課題とし、意思決定支援の考え方を踏まえた成年後見法制の現代化に関する研究指導を行う。 （17 近藤 明彦） 民事要件事実論、具体的には、法曹としての実務経験を踏まえ、民法の実体法上の解釈を踏まえた民事要件事実の論点の解明を研究課題とし、要件事実の民事訴訟上の機能、要件事実の具体的な論点を持つ紛争解決上の意義、民事要件事実の論点と実体法の解釈の関係に関する研究指導を行う。 （102 田寺 さおり） 刑法を研究課題とし、特に、経済刑法領域に関する研究指導を行う。 （6 稲田 隆司） 刑事手続全般を研究課題とし、主に捜査法、証拠法および事実認定論などに関する研究指導を行う。 （89 櫻井 香子） 弁護士による犯罪被害者支援を研究課題とする。 （82 木南 直之） 広い意味における労働法全般を研究課題とし、受講生が選択した課題に関する研究指導を行う。 （69 内田 千秋） 会社の機関を研究課題とし、株主・株主総会、取締役・取締役会、監査役・会計監査人に関する研究指導を行う。 （67 岩寄 勝成） 本科目では、不法行為法、契約法、その他保険法、国家賠償法などで問題になる損害賠償法に関連した諸問題を研究課題の対象とし、その研究課題に関する修士論文の執筆のために必要とされる実践的な素養とが学術的な知見や分析力に関する研究指導を行う。 （29 田中 幸弘） 企業における民法の担保法における各種法的課題を研究課題とし、DXも踏まえた電子署名法等の特別法と民事法上のデジタルデータの取扱いと民法の各種課題に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅳ-B（法制ネットワーク）		法制ネットワークに関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲで中間的な評価を受け、必要な微調整をおこなった研究を最後まで進め、修士論文を完成させる。修士論文完成後はただちに成果発表の準備にとりかかり、修士論文発表会において、2年間の研究成果を発表し、学際的な「総合知」の視点から、自らの研究の意義を再検討する。 （143 林 滉起） 民法学における財産法学を研究課題とし、先行研究や判例の調査・外国法との比較といった研究手法の修得に関する指導を行う。 （14 上山 泰） 成年後見法制を研究課題とし、意思決定支援の考え方を踏まえた成年後見法制の現代化に関する研究指導を行う。 （17 近藤 明彦） 民事要件事実論、具体的には、法曹としての実務経験を踏まえ、民法の実体法上の解釈を踏まえた民事要件事実の論点の解明を研究課題とし、要件事実の民事訴訟上の機能、要件事実の具体的な論点を持つ紛争解決上の意義、民事要件事実の論点と実体法の解釈の関係に関する研究指導を行う。 （102 田寺 さおり） 刑法を研究課題とし、特に、経済刑法領域に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅳ-B（法制ネットワーク）		（6 稲田 隆司） 刑事手続全般を研究課題とし、主に捜査法、証拠法および事実認定論などに関する研究指導を行う。 （89 櫻井 香子） 弁護士による犯罪被害者支援を研究課題とする。 （82 木南 直之） 広い意味における労働法全般を研究課題とし、受講生が選択した課題に関する研究指導を行う。 （69 内田 千秋） 会社の機関を研究課題とし、株主・株主総会、取締役・取締役会、監査役・会計監査人に関する研究指導を行う。 （67 岩寄 勝成） 本科目では、不法行為法、契約法、その他保険法、国家賠償法などで問題になる損害賠償法に関連した諸問題を研究課題の対象とし、その研究課題に関する修士論文の執筆のために必要とされる実践的な素養とが学術的な知見や分析力に関する研究指導を行う。 （29 田中 幸弘） 企業における民法の担保法における各種法的課題を研究課題とし、DXも踏まえた電子署名法等の特別法と民事法上のデジタルデータの取扱いと民法の各種課題に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅰ-B（国際社会）		国際社会に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第1学期に開講される課題研究Ⅰでは、研究指導委員会の指導と助言を受けながら研究課題を設定し、準備的な研究を開始して、課題解決のために必要な知識範囲を確認し、設定課題とその研究方法の妥当性を検討し、必要となる資料収集やフィールドワークなどの準備をすることで、学位取得までの2年間の研究計画を立てることを目的とする。 （30 田巻 帝子） 「個人と家族の法社会学」を研究課題とし、多様な個人と家族をめぐる諸問題の法社会学に関する研究指導を行う。 （54 渡辺 豊） 現代国際法に関する諸課題を研究課題とし、現代国際社会における法的問題に関する研究指導を行う。 （15 神田 豊隆） 第二次世界大戦後の国際政治・日本外交を研究課題とし、国際政治史・外交史に関する研究指導を行う。 （71 大森 拓磨） アメリカ経済の仕組みの展開が世界各地の経済や秩序の変容に及ぼす影響についての科学的な分析を研究課題とし、その理路や派生の洞察に係る知見や技法の活用に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅱ-B（国際社会）		国際社会に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを指導教員の指導のもとでおこなって、翌年度のはじめに予定されている研究中間発表の準備をすすめる。 （30 田巻 帝子） 「個人と家族の法社会学」を研究課題とし、多様な個人と家族をめぐる諸問題の法社会学に関する研究指導を行う。 （54 渡辺 豊） 現代国際法に関する諸課題を研究課題とし、現代国際社会における法的問題に関する研究指導を行う。 （15 神田 豊隆） 第二次世界大戦後の国際政治・日本外交を研究課題とし、国際政治史・外交史に関する研究指導を行う。 （71 大森 拓磨） アメリカ経済の仕組みの展開が世界各地の経済や秩序の変容に及ぼす影響についての科学的な分析を研究課題とし、その理路や派生の洞察に係る知見や技法の活用に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
	課題研究Ⅲ-B（国際社会）		国際社会に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱでおこなった研究成果をまとめ、メディア文化領域と関連の深い教員が複数参加する中間発表会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性に関する確認をうけ、あわせて、他分野・学際的な視点から自らの研究を再検討する。 （30 田巻 帝子） 「個人と家族の法社会学」を研究課題とし、多様な個人と家族をめぐる諸問題の法社会学に関する研究指導を行う。 （54 渡辺 豊） 現代国際法に関する諸課題を研究課題とし、現代国際社会における法的問題に関する研究指導を行う。 （15 神田 豊隆） 第二次世界大戦後の国際政治・日本外交を研究課題とし、国際政治史・外交史に関する研究指導を行う。 （71 大森 拓磨） アメリカ経済の仕組みの展開が世界各地の経済や秩序の変容に及ぼす影響についての科学的な分析を研究課題とし、その理路や派生の洞察に係る知見や技法の活用に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅳ-B（国際社会）		国際社会に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲで中間的な評価を受け、必要な微調整をおこなった研究を最後まで進め、修士論文を完成させる。修士論文完成後はただちに成果発表の準備にとりかかり、修士論文発表会において、2年間の研究成果を発表し、学際的な「総合知」の視点から、自らの研究の意義を再検討する。 （30 田巻 帝子） 「個人と家族の法社会学」を研究課題とし、多様な個人と家族をめぐる諸問題の法社会学に関する研究指導を行う。 （54 渡辺 豊） 現代国際法に関する諸課題を研究課題とし、現代国際社会における法的問題に関する研究指導を行う。 （15 神田 豊隆） 第二次世界大戦後の国際政治・日本外交を研究課題とし、国際政治史・外交史に関する研究指導を行う。 （71 大森 拓磨） アメリカ経済の仕組みの展開が世界各地の経済や秩序の変容に及ぼす影響についての科学的な分析を研究課題とし、その理路や派生の洞察に係る知見や技法の活用に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅰ-B（理論・計 量経済）		理論・計量経済に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。 1年次第1学期に開講される課題研究Ⅰでは、研究指導委員会の指導と助言を受けながら研究課題を設定し、準備的な研究を開始して、課題解決のために必要な知識範囲を確認し、設定課題とその研究方法の妥当性を検討し、必要となる資料収集やフィールドワークなどの準備をすることで、学位取得までの2年間の研究計画を立てることを目的とする。 （53 山崎 剛志） 経済、社会の様々な事象がミクロ経済学の分析対象となっている。経済、社会の様々な事象に関するミクロ経済学的な分析の研究指導を行う。 （40 濱田 弘潤） 組織の経済学を研究課題とし、企業内部組織の効率的設計と意思決定の問題に関する研究指導を行う。 （63 伊藤 伸幸） 主に閉鎖性水域の水質汚染、持続可能な農業などに関する環境政策に関する実証研究を研究課題とし、応用計量経済学、環境経済学、実験経済学に関する研究指導を行う。 （33 藤堂 史明） 環境経済システム論を研究課題とし、環境経済学、環境政策と関連分野についての理論及び実証研究に関する研究指導を行う。 （104 ZHANG JUNCHAO） 労働経済学を研究課題とし、実証系の修士論文執筆に関する研究指導を行う。 （100 高宮 浩司） ゲーム理論を中心とする数理科学的手法にもとづいた経済社会についての理論分析に関する研究指導を行う。 （114 長谷川 雪子） 主に、内生的経済成長理論を研究課題とし、長期のマクロ経済の分析に関する研究指導を行う。 （107 中田 豪） 国際マクロ経済学を研究課題とし、国際マクロ経済学に関する理論・実証研究に関する研究指導を行う。 （55 安達 裕之） マーケットデザインと応用ミクロ経済学を研究課題とし、マッチング、サーチ、オークション等の理論と実践に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅱ-B（理論・計 量経済）		理論・計量経済に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。 1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを指導教員の指導のもとでおこなって、翌年度のはじめに予定されている研究中間発表の準備をすすめる。 （53 山崎 剛志） 経済、社会の様々な事象がミクロ経済学の分析対象となっている。経済、社会の様々な事象に関するミクロ経済学的な分析の研究指導を行う。 （40 濱田 弘潤） 組織の経済学を研究課題とし、企業内部組織の効率的設計と意思決定の問題に関する研究指導を行う。 （63 伊藤 伸幸） 主に閉鎖性水域の水質汚染、持続可能な農業などに関する環境政策に関する実証研究を研究課題とし、応用計量経済学、環境経済学、実験経済学に関する研究指導を行う。 （33 藤堂 史明） 環境経済システム論を研究課題とし、環境経済学、環境政策と関連分野についての理論及び実証研究に関する研究指導を行う。 （104 ZHANG JUNCHAO） 労働経済学を研究課題とし、実証系の修士論文執筆に関する研究指導を行う。 （100 高宮 浩司） ゲーム理論を中心とする数理科学的手法にもとづいた経済社会についての理論分析に関する研究指導を行う。 （114 長谷川 雪子） 主に、内生的経済成長理論を研究課題とし、長期のマクロ経済の分析に関する研究指導を行う。 （107 中田 豪） 国際マクロ経済学を研究課題とし、国際マクロ経済学に関する理論・実証研究に関する研究指導を行う。 （55 安達 裕之） マーケットデザインと応用ミクロ経済学を研究課題とし、マッチング、サーチ、オークション等の理論と実践に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅲ-B（理論・計 量経済）		理論・計量経済に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱでおこなった研究成果をまとめ、メディア文化領域と関連の深い教員が複数参加する中間発表会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性に関する確認をうけ、あわせて、他分野・学際的な視点から自らの研究を再検討する。 （53 山崎 剛志） 経済、社会の様々な事象がミクロ経済学の分析対象となっている。経済、社会の様々な事象に関するミクロ経済学的な分析の研究指導を行う。 （40 濱田 弘潤） 組織の経済学を研究課題とし、企業内部組織の効率的設計と意思決定の問題に関する研究指導を行う。 （63 伊藤 伸幸） 主に閉鎖性水域の水質汚染、持続可能な農業などに関する環境政策に関する実証研究を研究課題とし、応用計量経済学、環境経済学、実験経済学に関する研究指導を行う。 （33 藤堂 史明） 環境経済システム論を研究課題とし、環境経済学、環境政策と関連分野についての理論及び実証研究に関する研究指導を行う。 （104 ZHANG JUNCHAO） 労働経済学を研究課題とし、実証系の修士論文執筆に関する研究指導を行う。 （100 高宮 浩司） ゲーム理論を中心とする数理科学的手法にもとづいた経済社会についての理論分析に関する研究指導を行う。 （114 長谷川 雪子） 主に、内生的経済成長理論を研究課題とし、長期のマクロ経済の分析に関する研究指導を行う。 （107 中田 豪） 国際マクロ経済学を研究課題とし、国際マクロ経済学に関する理論・実証研究に関する研究指導を行う。 （55 安達 裕之） マーケットデザインと応用ミクロ経済学を研究課題とし、マッチング、サーチ、オークション等の理論と実践に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅳ-B（理論・計 量経済）		理論・計量経済に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲで中間的な評価を受け、必要な微調整をおこなった研究を最後まで進め、修士論文を完成させる。修士論文完成後はただちに成果発表の準備にとりかかり、修士論文発表会において、2年間の研究成果を発表し、学際的な「総合知」の視点から、自らの研究の意義を再検討する。 （53 山崎 剛志） 経済、社会の様々な事象がミクロ経済学の分析対象となっている。経済、社会の様々な事象に関するミクロ経済学的な分析の研究指導を行う。 （40 濱田 弘潤） 組織の経済学を研究課題とし、企業内部組織の効率的設計と意思決定の問題に関する研究指導を行う。 （63 伊藤 伸幸） 主に閉鎖性水域の水質汚染、持続可能な農業などに関する環境政策に関する実証研究を研究課題とし、応用計量経済学、環境経済学、実験経済学に関する研究指導を行う。 （33 藤堂 史明） 環境経済システム論を研究課題とし、環境経済学、環境政策と関連分野についての理論及び実証研究に関する研究指導を行う。 （104 ZHANG JUNCHAO） 労働経済学を研究課題とし、実証系の修士論文執筆に関する研究指導を行う。 （100 高宮 浩司） ゲーム理論を中心とする数理科学的手法にもとづいた経済社会についての理論分析に関する研究指導を行う。 （114 長谷川 雪子） 主に、内生的経済成長理論を研究課題とし、長期のマクロ経済の分析に関する研究指導を行う。 （107 中田 豪） 国際マクロ経済学を研究課題とし、国際マクロ経済学に関する理論・実証研究に関する研究指導を行う。 （55 安達 裕之） マーケットデザインと応用ミクロ経済学を研究課題とし、マッチング、サーチ、オークション等の理論と実践に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅰ-B（グローバル社会経済ネットワーク）		グローバル社会経済ネットワークに関わる領域において自ら課題を設定し、修士論文を完成させるための授業である。1年次第1学期に開講される課題研究Ⅰでは、研究指導委員会の指導と助言を受けながら研究課題を設定し、準備的な研究を開始して、課題解決のために必要な知識範囲を確認し、設定課題とその研究方法の妥当性を検討し、必要となる資料収集やフィールドワークなどの準備をすることで、学位取得までの2年間の研究計画を立てることを目的とする。 （113 根岸 睦人） 現代財政が抱える諸課題の分析を研究課題とし、特に税制や社会保障、政府間財政関係に関して歴史的アプローチを重視しつつ研究指導を行う。 （97 高垣 里衣） 西洋経済史または世界経済史を研究課題とし、とくに近世の外国経済史や商業史に関する研究指導を行う。 （50 武藤 秀太郎） 経済学説および経済思想関連を研究課題とし、東アジアにおける経済的学知受容に関する研究指導をおこなう。 （71 大森 拓磨） アメリカ経済の仕組みの展開が世界各地の経済や秩序の変容に及ぼす影響についての科学的な分析を研究課題とし、その理路や派生の洞察に係る知見や技法の活用に関する研究指導を行う。 （128 道上 真有） ロシア東欧経済や新興国の経済の現状や歴史分析を研究課題とし、経済の特殊性、経済発展、都市経済や住宅経済、経済の自生的秩序に関する研究指導を行う。 （121 藤田 憲） EU経済を研究課題とし、欧州通貨統合をめぐる経済史学的実証に関する研究指導を行う。 （49 溝口 由己） 中国経済を研究課題とし、学生の修士論文完成へ向けて研究指導を行う。 （60 石川 耕三） 開発経済学・東南アジア経済論（開発途上国経済論）が研究課題である。専門領域は、東南アジア特にインドネシアの金融史・開発金融論、東南アジア経済論、SDGsを中心とする国際開発、東南アジアの脱炭素経済の展開、である。 （21 柴田 透） 比較経済教育学および主流派経済学の批判的検討を研究課題とし、経済教育学および政治経済学に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅱ-B（グローバル社会経済ネットワーク）		グローバル社会経済ネットワークに関わる領域において自ら課題を設定し、修士論文を完成させるための授業である。1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを指導教員の指導のもとでおこなって、翌年度のはじめに予定されている研究中間発表の準備をすすめる。 （113 根岸 睦人） 現代財政が抱える諸課題の分析を研究課題とし、特に税制や社会保障、政府間財政関係に関して歴史的アプローチを重視しつつ研究指導を行う。 （97 高垣 里衣） 西洋経済史または世界経済史を研究課題とし、とくに近世の外国経済史や商業史に関する研究指導を行う。 （50 武藤 秀太郎） 経済学説および経済思想関連を研究課題とし、東アジアにおける経済的学知受容に関する研究指導をおこなう。 （71 大森 拓磨） アメリカ経済の仕組みの展開が世界各地の経済や秩序の変容に及ぼす影響についての科学的な分析を研究課題とし、その理路や派生の洞察に係る知見や技法の活用に関する研究指導を行う。 （128 道上 真有） ロシア東欧経済や新興国の経済の現状や歴史分析を研究課題とし、経済の特殊性、経済発展、都市経済や住宅経済、経済の自生的秩序に関する研究指導を行う。 （121 藤田 憲） EU経済を研究課題とし、欧州通貨統合をめぐる経済史学的実証に関する研究指導を行う。 （49 溝口 由己） 中国経済を研究課題とし、学生の修士論文完成へ向けて研究指導を行う。 （60 石川 耕三） 開発経済学・東南アジア経済論（開発途上国経済論）が研究課題である。専門領域は、東南アジア特にインドネシアの金融史・開発金融論、東南アジア経済論、SDGsを中心とする国際開発、東南アジアの脱炭素経済の展開、である。 （21 柴田 透） 比較経済教育学および主流派経済学の批判的検討を研究課題とし、経済教育学および政治経済学に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅲ-B（グローバル社会経済ネットワーク）		グローバル社会経済ネットワークに関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱでおこなった研究成果をまとめ、メディア文化領域と関連の深い教員が複数参加する中間発表会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性に関する確認をうけ、あわせて、他分野・学際的な視点から自らの研究を再検討する。 （113 根岸 睦人） 現代財政が抱える諸課題の分析を研究課題とし、特に税制や社会保障、政府間財政関係に関して歴史的アプローチを重視しつつ研究指導を行う。 （97 高垣 里衣） 西洋経済史または世界経済史を研究課題とし、とくに近世の外国経済史や商業史に関する研究指導を行う。 （50 武藤 秀太郎） 経済学説および経済思想関連を研究課題とし、東アジアにおける経済的学知受容に関する研究指導をおこなう。 （71 大森 拓磨） アメリカ経済の仕組みの展開が世界各地の経済や秩序の変容に及ぼす影響についての科学的な分析を研究課題とし、その理路や派生の洞察に係る知見や技法の活用に関する研究指導を行う。 （128 道上 真有） ロシア東欧経済や新興国の経済の現状や歴史分析を研究課題とし、経済の特殊性、経済発展、都市経済や住宅経済、経済の自生的秩序に関する研究指導を行う。 （121 藤田 憲） EU経済を研究課題とし、欧州通貨統合をめぐる経済史学的実証に関する研究指導を行う。 （49 溝口 由己） 中国経済を研究課題とし、学生の修士論文完成へ向けて研究指導を行う。 （60 石川 耕三） 開発経済学・東南アジア経済論（開発途上国経済論）が研究課題である。専門領域は、東南アジア特にインドネシアの金融史・開発金融論、東南アジア経済論、SDGsを中心とする国際開発、東南アジアの脱炭素経済の展開、である。 （21 柴田 透） 比較経済教育学および主流派経済学の批判的検討を研究課題とし、経済教育学および政治経済学に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅳ-B（グローバル社会経済ネットワーク）		グローバル社会経済ネットワークに関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲで中間的な評価を受け、必要な微調整をおこなった研究を最後まで進め、修士論文を完成させる。修士論文完成後はただちに成果発表の準備にとりかかり、修士論文発表会において、2年間の研究成果を発表し、学際的な「総合知」の視点から、自らの研究の意義を再検討する。 （113 根岸 睦人） 現代財政が抱える諸課題の分析を研究課題とし、特に税制や社会保障、政府間財政関係に関して歴史的アプローチを重視しつつ研究指導を行う。 （97 高垣 里衣） 西洋経済史または世界経済史を研究課題とし、とくに近世の外国経済史や商業史に関する研究指導を行う。 （50 武藤 秀太郎） 経済学説および経済思想関連を研究課題とし、東アジアにおける経済的学知受容に関する研究指導をおこなう。 （71 大森 拓磨） アメリカ経済の仕組みの展開が世界各地の経済や秩序の変容に及ぼす影響についての科学的な分析を研究課題とし、その理路や派生の洞察に係る知見や技法の活用に関する研究指導を行う。 （128 道上 真有） ロシア東欧経済や新興国の経済の現状や歴史分析を研究課題とし、経済の特殊性、経済発展、都市経済や住宅経済、経済の自生的秩序に関する研究指導を行う。 （121 藤田 憲） EU経済を研究課題とし、欧州通貨統合をめぐる経済史学的実証に関する研究指導を行う。 （49 溝口 由己） 中国経済を研究課題とし、学生の修士論文完成へ向けて研究指導を行う。 （60 石川 耕三） 開発経済学・東南アジア経済論（開発途上国経済論）が研究課題である。専門領域は、東南アジア特にインドネシアの金融史・開発金融論、東南アジア経済論、SDGsを中心とする国際開発、東南アジアの脱炭素経済の展開、である。 （21 柴田 透） 比較経済教育学および主流派経済学の批判的検討を研究課題とし、経済教育学および政治経済学に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅰ-B（マネジメント）		マネジメントに関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第1学期に開講される課題研究Ⅰでは、研究指導委員会の指導と助言を受けながら研究課題を設定し、準備的な研究を開始して、課題解決のために必要な知識範囲を確認し、設定課題とその研究方法の妥当性を検討し、必要となる資料収集やフィールドワークなどの準備をすることで、学位取得までの2年間の研究計画を立てることを目的とする。 （108 中東 雅樹） 政府の経済活動に関する分析、評価を研究課題とし、政府の経済活動を経済学的に分析した研究に関する研究指導を行う。 （74 小川 顕正） 公共政策の経済分析を研究課題とし、政府間財政関係や地方財政の実証分析に関する研究指導を行う。 （141 ZHANG WENTING） 中小企業の経営戦略、地域経済への貢献、及びグローバル市場への展開を研究課題とする。中小企業が直面する経営資源の限界を克服するためのマネジメント手法や、地域ブランドの活用、産業集積の役割に関する研究指導を行う。 （20 宍戸 邦久） 「地方財政」または「日本酒と自治体政策」を研究課題とし、具体的な地方自治体を念頭において持続可能な行財政運営のあり方または地域振興施策としての日本酒の活用方策に関する研究指導を行う。 （65 伊藤 龍史） 経営戦略論・マーケティング論・アントレプレナーシップ論・国際経営論に関する研究指導を行う。 （145 丸山 峻） 企業における障害者雇用や合理的配慮に関わる内容を中心に経営組織論にかかわるテーマを研究課題とし、組織理論(Organizational Theory)、組織行動論(Organizational Behavior)、人的資源管理論(Human Resource Management)などの理論に立脚した経営学領域の研究におけるリサーチクエスションの設定、リサーチデザインの設計、方法論に関する研究指導を行う。 （16 岸 保行） 経営学分野の組織論、人的資源管理論を研究課題とし、日本の企業の中での人の活用や海外に進出した日系企業での人的資源管理に関する研究指導を行う。 （125 堀籠 崇） マクロ的な医療システム・医療政策も視野に入れた広義の医療経営に関わる問題を研究課題とし、受講者各自の研究課題にかかる先行研究・資料・データの収集、調査・分析方法、当該分野における修士論文の執筆にかかる研究指導を行う。 （61 石塚 千賀子） 消費者行動を研究課題とし、忠誠行動、倫理的消費行動、価値共創、サービス知覚の影響などに関する研究指導を行う。 （39 馬場 健） 都市行政におけるマネジメントを研究課題とし、イギリスにおける都市形成の歴史に関する研究指導を行う。 （130 宮森 征司） 行政法に関わる総論的課題ないし各論的課題を研究課題として、これにかかる指導を行う。 （40 濱田 弘潤） 組織の経済学を研究課題とし、企業内部組織の効率的設計と意思決定の問題に関する研究指導を行う。 （114 長谷川 雪子） 主に、内生的経済成長理論を研究課題とし、長期のマクロ経済の分析に関する研究指導を行う。 （92 白川 展之） イノベーション・マネジメントを研究課題とし、技術革新のプロセスにおける組織能力の構築と戦略的活用、新興技術の事業化における意思決定メカニズム、およびオープンイノベーションにおける産学官の組織間協業・ガバナンスの成果決定要因に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅱ-B（マネジメント）		マネジメントに関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを指導教員の指導のもとでおこなって、翌年度のはじめに予定されている研究中間発表の準備をすすめる。 （108 中東 雅樹） 政府の経済活動に関する分析、評価を研究課題とし、政府の経済活動を経済学的に分析した研究に関する研究指導を行う。 （74 小川 顕正） 公共政策の経済分析を研究課題とし、政府間財政関係や地方財政の実証分析に関する研究指導を行う。 （141 ZHANG WENTING） 中小企業の経営戦略、地域経済への貢献、及びグローバル市場への展開を研究課題とする。中小企業が直面する経営資源の限界を克服するためのマネジメント手法や、地域ブランドの活用、産業集積の役割に関する研究指導を行う。 （20 宍戸 邦久） 「地方財政」または「日本酒と自治体政策」を研究課題とし、具体的な地方自治体を念頭において持続可能な行財政運営のあり方または地域振興施策としての日本酒の活用方策に関する研究指導を行う。 （65 伊藤 龍史） 経営戦略論・マーケティング論・アントレプレナーシップ論・国際経営論に関する研究指導を行う。 （145 丸山 峻） 企業における障害者雇用や合理的配慮に関わる内容を中心に経営組織論にかかわるテーマを研究課題とし、組織理論(Organizational Theory)、組織行動論(Organizational Behavior)、人的資源管理論(Human Resource Management)などの理論に立脚した経営学領域の研究におけるリサーチクエスションの設定、リサーチデザインの設計、方法論に関する研究指導を行う。 （16 岸 保行） 経営学分野の組織論、人的資源管理論を研究課題とし、日本の企業の中での人の活用や海外に進出した日系企業での人的資源管理に関する研究指導を行う。 （125 堀籠 崇） マクロ的な医療システム・医療政策も視野に入れた広義の医療経営に関わる問題を研究課題とし、受講者各自の研究課題にかかる先行研究・資料・データの収集、調査・分析方法、当該分野における修士論文の執筆にかかる研究指導を行う。 （61 石塚 千賀子） 消費者行動を研究課題とし、忠誠行動、倫理的消費行動、価値共創、サービス知覚の影響などに関する研究指導を行う。 （39 馬場 健） 都市行政におけるマネジメントを研究課題とし、イギリスにおける都市形成の歴史に関する研究指導を行う。 （130 宮森 征司） 行政法に関わる総論的課題ないし各論的課題を研究課題として、これにかかる指導を行う。 （40 濱田 弘潤） 組織の経済学を研究課題とし、企業内部組織の効率的設計と意思決定の問題に関する研究指導を行う。 （114 長谷川 雪子） 主に、内生的経済成長理論を研究課題とし、長期のマクロ経済の分析に関する研究指導を行う。 （92 白川 展之） イノベーション・マネジメントを研究課題とし、技術革新のプロセスにおける組織能力の構築と戦略的活用、新興技術の事業化における意思決定メカニズム、およびオープンイノベーションにおける産学官の組織間協業・ガバナンスの成果決定要因に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅲ-B（マネジメント）		マネジメントに関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱでおこなった研究成果をまとめ、メディア文化領域と関連の深い教員が複数参加する中間発表会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性に関する確認をうけ、あわせて、他分野・学際的な視点から自らの研究を再検討する。 （108 中東 雅樹） 政府の経済活動に関する分析、評価を研究課題とし、政府の経済活動を経済学的に分析した研究に関する研究指導を行う。 （74 小川 顕正） 公共政策の経済分析を研究課題とし、政府間財政関係や地方財政の実証分析に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅲ-B（マネジ メント）		（141 ZHANG WENTING） 中小企業の経営戦略、地域経済への貢献、及びグローバル市場への展開を研究課題とする。中小企業が直面する経営資源の限界を克服するためのマネジメント手法や、地域ブランドの活用、産業集積の役割に関する研究指導を行う。 （20 穴戸 邦久） 「地方財政」または「日本酒と自治体政策」を研究課題とし、具体的な地方自治体を念頭において持続可能な行財政運営のあり方または地域振興施策としての日本酒の活用方策に関する研究指導を行う。 （65 伊藤 龍史） 経営戦略論・マーケティング論・アントレプレナーシップ論・国際経営論に関する研究指導を行う。 （145 丸山 峻） 企業における障害者雇用や合理的配慮に関わる内容を中心に経営組織論にかかわるテーマを研究課題とし、組織理論(Organizational Theory)、組織行動論(Organizational Behavior)、人的資源管理論(Human Resource Management)などの理論に立脚した経営学領域の研究におけるリサーチエスションの設定、リサーチデザインの設計、方法論に関する研究指導を行う。 （16 岸 保行） 経営学分野の組織論、人的資源管理論を研究課題とし、日本の企業の中での人の活用や海外に進出した日系企業での人的資源管理に関する研究指導を行う。 （125 堀籠 崇） マクロ的な医療システム・医療政策も視野に入れた広義の医療経営に関わる問題を研究課題とし、受講者各自の研究課題にかかる先行研究・資料・データの収集、調査・分析方法、当該分野における修士論文の執筆にかかる研究指導を行う。 （61 石塚 千賀子） 消費者行動を研究課題とし、忠誠行動、倫理的消費行動、価値共創、サービス知覚の影響などに関する研究指導を行う。 （39 馬場 健） 都市行政におけるマネジメントを研究課題とし、イギリスにおける都市形成の歴史に関する研究指導を行う。 （130 宮森 征司） 行政法に関わる総論的課題ないし各論的課題を研究課題として、これにかかる指導を行う。 （40 濱田 弘潤） 組織の経済学を研究課題とし、企業内部組織の効率的設計と意思決定の問題に関する研究指導を行う。 （114 長谷川 雪子） 主に、内生的経済成長理論を研究課題とし、長期のマクロ経済の分析に関する研究指導を行う。 （92 白川 展之） イノベーション・マネジメントを研究課題とし、技術革新のプロセスにおける組織能力の構築と戦略的活用、新興技術の事業化における意思決定メカニズム、およびオープンイノベーションにおける産学官の組織間協業・ガバナンスの成果決定要因に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅳ-B（マネジ メント）		マネジメントに関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲで中間的な評価を受け、必要な微調整をおこなった研究を最後まで進め、修士論文を完成させる。修士論文完成後はただちに成果発表の準備にとりかかり、修士論文発表会において、2年間の研究成果を発表し、学際的な「総合知」の視点から、自らの研究の意義を再検討する。 （108 中東 雅樹） 政府の経済活動に関する分析、評価を研究課題とし、政府の経済活動を経済学的に分析した研究に関する研究指導を行う。 （74 小川 顕正） 公共政策の経済分析を研究課題とし、政府間財政関係や地方財政の実証分析に関する研究指導を行う。 （141 ZHANG WENTING） 中小企業の経営戦略、地域経済への貢献、及びグローバル市場への展開を研究課題とする。中小企業が直面する経営資源の限界を克服するためのマネジメント手法や、地域ブランドの活用、産業集積の役割に関する研究指導を行う。 （20 穴戸 邦久） 「地方財政」または「日本酒と自治体政策」を研究課題とし、具体的な地方自治体を念頭において持続可能な行財政運営のあり方または地域振興施策としての日本酒の活用方策に関する研究指導を行う。 （65 伊藤 龍史） 経営戦略論・マーケティング論・アントレプレナーシップ論・国際経営論に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅳ-B（マネジメント）		（145 丸山 峻） 企業における障害者雇用や合理的配慮に関わる内容を中心に経営組織論にかかわるテーマを研究課題とし、組織理論(Organizational Theory)、組織行動論(Organizational Behavior)、人的資源管理論(Human Resource Management)などの理論に立脚した経営学領域の研究におけるリサーチクエスションの設定、リサーチデザインの設計、方法論に関する研究指導を行う。 （16 岸 保行） 経営学分野の組織論、人的資源管理論を研究課題とし、日本の企業の中での人の活用や海外に進出した日系企業での人的資源管理に関する研究指導を行う。 （125 堀籠 崇） マクロ的な医療システム・医療政策も視野に入れた広義の医療経営に関わる問題を研究課題とし、受講者各自の研究課題にかかる先行研究・資料・データの収集、調査・分析方法、当該分野における修士論文の執筆にかかる研究指導を行う。 （61 石塚 千賀子） 消費者行動を研究課題とし、忠誠行動、倫理的消費行動、価値共創、サービス知覚の影響などに関する研究指導を行う。 （39 馬場 健） 都市行政におけるマネジメントを研究課題とし、イギリスにおける都市形成の歴史に関する研究指導を行う。 （130 宮森 征司） 行政法に関わる総論的課題ないし各論的課題を研究課題として、これにかかる指導を行う。 （40 濱田 弘潤） 組織の経済学を研究課題とし、企業内部組織の効率的設計と意思決定の問題に関する研究指導を行う。 （114 長谷川 雪子） 主に、内生的経済成長理論を研究課題とし、長期のマクロ経済の分析に関する研究指導を行う。 （92 白川 展之） イノベーション・マネジメントを研究課題とし、技術革新のプロセスにおける組織能力の構築と戦略的活用、新興技術の事業化における意思決定メカニズム、およびオープンイノベーションにおける産学官の組織間協業・ガバナンスの成果決定要因に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅰ-B（アカウンティング）		アカウンティングに関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第1学期に開講される課題研究Ⅰでは、研究指導委員会の指導と助言を受けながら研究課題を設定し、準備的な研究を開始して、課題解決のために必要な知識範囲を確認し、設定課題とその研究方法の妥当性を検討し、必要となる資料収集やフィールドワークなどの準備をすることで、学位取得までの2年間の研究計画を立てることを目的とする。 （144 藤田 健人） 会計に関連する様々な経済現象を研究課題とし、実証アプローチを用いた会計研究(特にアーカイバル研究)に関する研究指導を行う。 （58 有元 知史） 管理会計を研究課題とし、主として企業間・ネットワーク・中小企業などの管理会計やコストに関する研究指導を行う。 （75 加井 久雄） 日本における国際会計基準への対応を研究課題とし、国際会計基準のもと情報の非対称性に与える影響に関する研究指導を行う。 （13 角田 享介） 租税法を研究課題とし、租税法条文の解釈、判例研究、租税に関する文献資料の調査を行い、租税法に関する修士論文を執筆できるように研究指導を行う。 （8 今本 啓介） 租税法総論、各種税法を研究課題とし、租税法学での考え方や法解釈に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅱ-B（アカウンティング）		アカウンティングに関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを指導教員の指導のもとでおこなって、翌年度のはじめに予定されている研究中間発表の準備をすすめる。 （144 藤田 健人） 会計に関連する様々な経済現象を研究課題とし、実証アプローチを用いた会計研究(特にアーカイバル研究)に関する研究指導を行う。 （58 有元 知史） 管理会計を研究課題とし、主として企業間・ネットワーク・中小企業などの管理会計やコストに関する研究指導を行う。 （75 加井 久雄） 日本における国際会計基準への対応を研究課題とし、国際会計基準のもつ情報の非対称性に与える影響に関する研究指導を行う。 （13 角田 享介） 租税法を研究課題とし、租税法条文の解釈、判例研究、租税に関する文献資料の調査を行い、租税法に関する修士論文を執筆できるように研究指導を行う。 （8 今本 啓介） 租税法総論、各種税法を研究課題とし、租税法学での考え方や法解釈に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅲ-B（アカウンティング）		アカウンティングに関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱでおこなった研究成果をまとめ、メディア文化領域と関連の深い教員が複数参加する中間発表会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性に関する確認をうけ、あわせて、他分野・学際的な視点から自らの研究を再検討する。 （144 藤田 健人） 会計に関連する様々な経済現象を研究課題とし、実証アプローチを用いた会計研究(特にアーカイバル研究)に関する研究指導を行う。 （58 有元 知史） 管理会計を研究課題とし、主として企業間・ネットワーク・中小企業などの管理会計やコストに関する研究指導を行う。 （75 加井 久雄） 日本における国際会計基準への対応を研究課題とし、国際会計基準のもつ情報の非対称性に与える影響に関する研究指導を行う。 （13 角田 享介） 租税法を研究課題とし、租税法条文の解釈、判例研究、租税に関する文献資料の調査を行い、租税法に関する修士論文を執筆できるように研究指導を行う。 （8 今本 啓介） 租税法総論、各種税法を研究課題とし、租税法学での考え方や法解釈に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅳ-B（アカウンティング）		アカウンティングに関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲで中間的な評価を受け、必要な微調整をおこなった研究を最後まで進め、修士論文を完成させる。修士論文完成後はただちに成果発表の準備にとりかかり、修士論文発表会において、2年間の研究成果を発表し、学際的な「総合知」の視点から、自らの研究の意義を再検討する。 （144 藤田 健人） 会計に関連する様々な経済現象を研究課題とし、実証アプローチを用いた会計研究(特にアーカイバル研究)に関する研究指導を行う。 （58 有元 知史） 管理会計を研究課題とし、主として企業間・ネットワーク・中小企業などの管理会計やコストに関する研究指導を行う。 （75 加井 久雄） 日本における国際会計基準への対応を研究課題とし、国際会計基準のもつ情報の非対称性に与える影響に関する研究指導を行う。 （13 角田 享介） 租税法を研究課題とし、租税法条文の解釈、判例研究、租税に関する文献資料の調査を行い、租税法に関する修士論文を執筆できるように研究指導を行う。 （8 今本 啓介） 租税法総論、各種税法を研究課題とし、租税法学での考え方や法解釈に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅰ-F（映像資源文化）		映像資源文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第1学期に開講される課題研究Ⅰでは、研究指導委員会の指導と助言を受けながら研究課題を設定し、準備的な研究を開始して、課題解決のために必要な知識範囲を確認し、設定課題とその研究方法の妥当性を検討し、必要となる資料収集やフィールドワークなどの準備をすることで、学位取得までの2年間の研究計画を立てることを目的とする。 （83 KIM JOON YANG） アニメーションおよび映像メディアを研究課題とし、映像テキスト分析、アニメーション／アニメ史、アニメ中間素材などの映像文化データ解析に関する研究指導を行う。 （70 榎本 千賀子） 地域文化資源管理における情報通信技術の導入と活用を研究課題とし、地域デジタルアーカイブの企画・運営・活用に関する研究指導を行う。 （42 番場 俊） 文学・芸術における「表象」「身体」「イメージ」「アーカイブ」といった問題の検討を研究課題とする。修士課程では、学生の関心にあわせて、広く、言語芸術、映像、メディアなどの分析に関する研究指導を行う。 （76 甲斐 義明） 大衆文化としての視覚文化を研究課題とし、大衆文化とイメージの関係に関する研究指導を行う。 （36 中村 隆志） 非言語的コミュニケーション論に関する研究指導を行う。 （79 片桐 昭彦） 日本中世史に関する資料や研究論文等を研究課題とし、広く日本中世史に関する研究指導を行う。 （140 篠崎 敦史） 日本古代史を主な研究課題とし、日本社会の特質とそこで生きた人々の営為に関する研究指導を行う。 （37 中村 元） 近現代日本社会の歴史学的研究を研究課題とし、歴史学分野に蓄積されている研究視角と研究方法を修得し、独自の研究成果を挙げるための研究指導を行う。 （134 森 貴教） 弥生時代を研究課題として、石器から金属器への刃物の材質の移り変わりや弥生時代の文化に関する研究指導を行う。 （96 園田 浩司） 相互行為の文化人類学を研究課題とし、文化人類学と相互に影響しあう周辺分野において蓄積されてきたさまざまな他者理解実践の調査法に関する研究指導 （109 中本 真人） 日本芸能史を研究課題とし、広く日本文化に関する研究指導を行う。 （47 堀 健彦） 前近代日本を対象とした歴史地理学研究を研究課題とし、前近代日本における領域形成、災害絵図分析、歴史GIS、絵図のデジタルアーカイブに関する研究指導を行う。 （126 前田 洋介） 人文地理学分野に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅱ-F（映像資源文化）		映像資源文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを指導教員の指導のもとでおこなって、翌年度のはじめに予定されている研究中間発表の準備をすすめる。 （83 KIM JOON YANG） アニメーションおよび映像メディアを研究課題とし、映像テキスト分析、アニメーション／アニメ史、アニメ中間素材などの映像文化データ解析に関する研究指導を行う。 （70 榎本 千賀子） 地域文化資源管理における情報通信技術の導入と活用を研究課題とし、地域デジタルアーカイブの企画・運営・活用に関する研究指導を行う。 （42 番場 俊） 文学・芸術における「表象」「身体」「イメージ」「アーカイブ」といった問題の検討を研究課題とする。修士課程では、学生の関心にあわせて、広く、言語芸術、映像、メディアなどの分析に関する研究指導を行う。 （76 甲斐 義明） 大衆文化としての視覚文化を研究課題とし、大衆文化とイメージの関係に関する研究指導を行う。 （36 中村 隆志） 非言語的コミュニケーション論に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅱ-F（映像資源文化）		（79 片桐 昭彦） 日本中世史に関する資料や研究論文等を研究課題とし、広く日本中世史に関する研究指導を行う。 （140 篠崎 敦史） 日本古代史を主な研究課題とし、日本社会の特質とそこで生きた人々の営為に関する研究指導を行う。 （37 中村 元） 近現代日本社会の歴史学的研究を研究課題とし、歴史学分野に蓄積されている研究視角と研究方法を修得し、独自の研究成果を挙げるための研究指導を行う。 （134 森 貴教） 弥生時代を研究課題として、石器から金属器への刃物の材質の移り変わりや弥生時代の文化に関する研究指導を行う。 （96 園田 浩司） 相互行為の文化人類学を研究課題とし、文化人類学と相互に影響しあう周辺分野において蓄積されてきたさまざまな他者理解実践の調査法に関する研究指導 （109 中本 真人） 日本芸能史を研究課題とし、広く日本文化に関する研究指導を行う。 （47 堀 健彦） 前近代日本を対象とした歴史地理学研究を研究課題とし、前近代日本における領域形成、災害絵図分析、歴史GIS、絵図のデジタルアーカイブに関する研究指導を行う。 （126 前田 洋介） 人文地理学分野に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅲ-F（映像資源文化）		映像資源文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱでおこなった研究成果をまとめ、メディア文化領域と関連の深い教員が複数参加する中間発表会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性に関する確認をうけ、あわせて、他分野・学際的な視点から自らの研究を再検討する。 （83 KIM JOON YANG） アニメーションおよび映像メディアを研究課題とし、映像テキスト分析、アニメーション／アニメ史、アニメ中間素材などの映像文化データ解析に関する研究指導を行う。 （70 榎本 千賀子） 地域文化資源管理における情報通信技術の導入と活用を研究課題とし、地域デジタルアーカイブの企画・運営・活用に関する研究指導を行う。 （42 番場 俊） 文学・芸術における「表象」「身体」「イメージ」「アーカイヴ」といった問題の検討を研究課題とする。修士課程では、学生の関心にあわせて、広く、言語芸術、映像、メディアなどの分析に関する研究指導を行う。 （76 甲斐 義明） 大衆文化としての視覚文化を研究課題とし、大衆文化とイメージの関係に関する研究指導を行う。 （36 中村 隆志） 非言語的コミュニケーション論に関する研究指導を行う。 （79 片桐 昭彦） 日本中世史に関する資料や研究論文等を研究課題とし、広く日本中世史に関する研究指導を行う。 （140 篠崎 敦史） 日本古代史を主な研究課題とし、日本社会の特質とそこで生きた人々の営為に関する研究指導を行う。 （37 中村 元） 近現代日本社会の歴史学的研究を研究課題とし、歴史学分野に蓄積されている研究視角と研究方法を修得し、独自の研究成果を挙げるための研究指導を行う。 （134 森 貴教） 弥生時代を研究課題として、石器から金属器への刃物の材質の移り変わりや弥生時代の文化に関する研究指導を行う。 （96 園田 浩司） 相互行為の文化人類学を研究課題とし、文化人類学と相互に影響しあう周辺分野において蓄積されてきたさまざまな他者理解実践の調査法に関する研究指導を行う。 （109 中本 真人） 日本芸能史を研究課題とし、広く日本文化に関する研究指導を行う。 （47 堀 健彦） 前近代日本を対象とした歴史地理学研究を研究課題とし、前近代日本における領域形成、災害絵図分析、歴史GIS、絵図のデジタルアーカイブに関する研究指導を行う。 （126 前田 洋介） 人文地理学分野に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅳ-F（映像資源文化）		映像資源文化に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲで中間的な評価を受け、必要な微調整をおこなった研究を最後まで進め、修士論文を完成させる。修士論文完成後はただちに成果発表の準備にとりかかり、修士論文発表会において、2年間の研究成果を発表し、学際的な「総合知」の視点から、自らの研究の意義を再検討する。 （83 KIM JOON YANG） アニメーションおよび映像メディアを研究課題とし、映像テキスト分析、アニメーション／アニメ史、アニメ中間素材などの映像文化データ解析に関する研究指導を行う。 （70 榎本 千賀子） 地域文化資源管理における情報通信技術の導入と活用を研究課題とし、地域デジタルアーカイブの企画・運営・活用に関する研究指導を行う。 （42 番場 俊） 文学・芸術における「表象」「身体」「イメージ」「アーカイヴ」といった問題の検討を研究課題とする。修士課程では、学生の関心にあわせて、広く、言語芸術、映像、メディアなどの分析に関する研究指導を行う。 （76 甲斐 義明） 大衆文化としての視覚文化を研究課題とし、大衆文化とイメージの関係に関する研究指導を行う。 （36 中村 隆志） 非言語的コミュニケーション論に関する研究指導を行う。 （79 片桐 昭彦） 日本中世史に関する資料や研究論文等を研究課題とし、広く日本中世史に関する研究指導を行う。 （140 篠崎 敦史） 日本古代史を主な研究課題とし、日本社会の特質とそこで生きた人々の営為に関する研究指導を行う。 （37 中村 元） 近現代日本社会の歴史学的研究を研究課題とし、歴史学分野に蓄積されている研究視角と研究方法を修得し、独自の研究成果を挙げるための研究指導を行う。 （134 森 貴教） 弥生時代を研究課題として、石器から金属器への刃物の材質の移り変わりや弥生時代の文化に関する研究指導を行う。 （96 園田 浩司） 相互行為の文化人類学を研究課題とし、文化人類学と相互に影響しあう周辺分野において蓄積されてきたさまざまな他者理解実践の調査法に関する研究指導を行う。 （109 中本 真人） 日本芸能史を研究課題とし、広く日本文化に関する研究指導を行う。 （47 堀 健彦） 前近代日本を対象とした歴史地理学研究を研究課題とし、前近代日本における領域形成、災害絵図分析、歴史GIS、絵図のデジタルアーカイブに関する研究指導を行う。 （126 前田 洋介） 人文地理学分野に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅰ-G（日本酒学・経済学）		日本酒学・経済学に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第1学期に開講される課題研究Ⅰでは、研究指導委員会の指導と助言を受けながら研究課題を設定し、準備的な研究を開始して、課題解決のために必要な知識範囲を確認し、設定課題とその研究方法の妥当性を検討し、必要となる資料収集やフィールドワークなどの準備をすることで、学位取得までの2年間の研究計画を立てることを目的とする。 （20 宍戸 邦久） 「地方財政」または「日本酒と自治体政策」を研究課題とし、具体的な地方自治体を念頭において持続可能な行財政運営のあり方または地域振興施策としての日本酒の活用方策に関する研究指導を行う。 （16 岸 保行） 広く経済学および日本酒学分野を研究課題とし、各自の研究テーマに関連する専門的知識及び研究方法論に沿った研究指導を行う。 （65 伊藤 龍史） 広く経営戦略・マーケティング・アントレプレナーシップを研究課題とし、各自の研究テーマに関連する専門的知識及び研究方法論に沿った研究指導を行う。 （61 石塚 千賀子） 日本酒分野におけるブランディング・消費者行動を研究課題とし、忠誠行動、倫理的消費行動、価値共創、サービス知覚の影響などに関する研究指導を行う。 （141 ZHANG WENTING） 中小企業の経営戦略、地域経済への貢献、及びグローバル市場への展開を研究課題とする。中小企業が直面する経営資源の限界を克服するためのマネジメント手法や、地域ブランドの活用、産業集積の役割に関する研究指導を行う。また、企業間ネットワークや持続可能な経営、SDGs達成に向けた取り組みについても指導を行い、理論と実践の双方を重視した研究を支援する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅱ-G（日本酒学・経済学）		日本酒学・経済学に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを指導教員の指導のもとでおこなって、翌年度のはじめに予定されている研究中間発表の準備をすすめる。 （20 宍戸 邦久） 「地方財政」または「日本酒と自治体政策」を研究課題とし、具体的な地方自治体を念頭において持続可能な行財政運営のあり方または地域振興施策としての日本酒の活用方策に関する研究指導を行う。 （16 岸 保行） 広く経済学および日本酒学分野を研究課題とし、各自の研究テーマに関連する専門的知識及び研究方法論に沿った研究指導を行う。 （65 伊藤 龍史） 広く経営戦略・マーケティング・アントレプレナーシップを研究課題とし、各自の研究テーマに関連する専門的知識及び研究方法論に沿った研究指導を行う。 （61 石塚 千賀子） 日本酒分野におけるブランディング・消費者行動を研究課題とし、忠誠行動、倫理的消費行動、価値共創、サービス知覚の影響などに関する研究指導を行う。 （141 ZHANG WENTING） 中小企業の経営戦略、地域経済への貢献、及びグローバル市場への展開を研究課題とする。中小企業が直面する経営資源の限界を克服するためのマネジメント手法や、地域ブランドの活用、産業集積の役割に関する研究指導を行う。また、企業間ネットワークや持続可能な経営、SDGs達成に向けた取り組みについても指導を行い、理論と実践の双方を重視した研究を支援する。	
	課題研究Ⅲ-G（日本酒学・経済学）		日本酒学・経済学に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱでおこなった研究成果をまとめ、メディア文化領域と関連の深い教員が複数参加する中間発表会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性に関する確認をうけ、あわせて、他分野・学際的な視点から自らの研究を再検討する。 （20 宍戸 邦久） 「地方財政」または「日本酒と自治体政策」を研究課題とし、具体的な地方自治体を念頭において持続可能な行財政運営のあり方または地域振興施策としての日本酒の活用方策に関する研究指導を行う。 （16 岸 保行） 広く経済学および日本酒学分野を研究課題とし、各自の研究テーマに関連する専門的知識及び研究方法論に沿った研究指導を行う。 （65 伊藤 龍史） 広く経営戦略・マーケティング・アントレプレナーシップを研究課題とし、各自の研究テーマに関連する専門的知識及び研究方法論に沿った研究指導を行う。 （61 石塚 千賀子） 日本酒分野におけるブランディング・消費者行動を研究課題とし、忠誠行動、倫理的消費行動、価値共創、サービス知覚の影響などに関する研究指導を行う。 （141 ZHANG WENTING） 中小企業の経営戦略、地域経済への貢献、及びグローバル市場への展開を研究課題とする。中小企業が直面する経営資源の限界を克服するためのマネジメント手法や、地域ブランドの活用、産業集積の役割に関する研究指導を行う。また、企業間ネットワークや持続可能な経営、SDGs達成に向けた取り組みについても指導を行い、理論と実践の双方を重視した研究を支援する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 人文社会科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅳ-G（日本酒学・経済学）		日本酒学・経済学に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲで中間的な評価を受け、必要な微調整をおこなった研究を最後まで進め、修士論文を完成させる。修士論文完成後はただちに成果発表の準備にとりかかり、修士論文発表会において、2年間の研究成果を発表し、学際的な「総合知」の視点から、自らの研究の意義を再検討する。 （20 宍戸 邦久） 「地方財政」または「日本酒と自治体政策」を研究課題とし、具体的な地方自治体を念頭において持続可能な行財政運営のあり方または地域振興施策としての日本酒の活用方策に関する研究指導を行う。 （16 岸 保行） 広く経済学および日本酒学分野を研究課題とし、各自の研究テーマに関連する専門的知識及び研究方法論に沿った研究指導を行う。 （65 伊藤 龍史） 広く経営戦略・マーケティング・アントレプレナーシップを研究課題とし、各自の研究テーマに関連する専門的知識及び研究方法論に沿った研究指導を行う。 （61 石塚 千賀子） 日本酒分野におけるブランディング・消費者行動を研究課題とし、忠誠行動、倫理的消費行動、価値共創、サービス知覚の影響などに関する研究指導を行う。 （141 ZHANG WENTING） 中小企業の経営戦略、地域経済への貢献、及びグローバル市場への展開を研究課題とする。中小企業が直面する経営資源の限界を克服するためのマネジメント手法や、地域ブランドの活用、産業集積の役割に関する研究指導を行う。また、企業間ネットワークや持続可能な経営、SDGs達成に向けた取り組みについても指導を行い、理論と実践の双方を重視した研究を支援する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学 際 的 基 盤 科 目	学際的科学総論ⅠA		本科目は、本研究科のディプロマ・ポリシーにおける、「[知識・理解]」の「複数の分野を横断する学際的知識を修得している。」及び「汎用的な能力（トランスファブルスキル）」の「高度な言語（英語を含む）スキルを駆使し、専門的かつ多様な文脈で効果的に情報を伝達できる。（コミュニケーション）」「多様な情報に対し、必要であればデータサイエンススキルやICTスキルを駆使して論理的に分析し、批判的に検討することができる。（批判的思考）」「特定のテーマやイシューに関して、複数の視点から分析し、課題解決に活かすことができる。（学際的思考）」に対応するものである。本科目は、学際研究に必要な素地を形成するために、人間文化科学分野の特性を具体的な複数の研究内容を通して理解し、それらを統合して新しい知識や価値を生み出すためのアプローチを学ぶことを目的とする。また、自身の専門分野を深めると同時に、そののみにとらわれず、幅広く学修していくための学修計画と研究計画を考える。 （オムニバス方式／全8回） (277 番場 俊／5回) 科目のイントロダクション、学際的学修デザインの作成、新潟大学における異分野連携・融合研究の紹介、新潟大学の組織型連携研究の紹介、学際的学修デザインの立案及び成果物の作成指導を担当する。 (268 鈴木 賢太／1回) メディア文化・情報社会・人間形成環境科学分野の研究例の紹介を担当する。 (272 津森 圭一／1回) 思想科学・基礎心理学・臨床心理学・言語文化分野の研究例の紹介を担当する。 (296 片桐 昭彦／1回) 日本語教育、日本社会言語文化・東アジア社会言語分野の研究例の紹介を担当する。	オムニバス方式 講義14時間 演習2時間
	学際的科学総論ⅠB		本科目は、本研究科のディプロマ・ポリシーにおける、「[知識・理解]」の「複数の分野を横断する学際的知識を修得している。」及び「汎用的な能力（トランスファブルスキル）」の「高度な言語（英語を含む）スキルを駆使し、専門的かつ多様な文脈で効果的に情報を伝達できる。（コミュニケーション）」「多様な情報に対し、必要であればデータサイエンススキルやICTスキルを駆使して論理的に分析し、批判的に検討することができる。（批判的思考）」「特定のテーマやイシューに関して、複数の視点から分析し、課題解決に活かすことができる。（学際的思考）」に対応するものである。本科目は、学際研究に必要な素地を形成するために、社会文化科学分野の特性を具体的な複数の研究内容を通して理解し、それらを統合して新しい知識や価値を生み出すためのアプローチを学ぶことを目的とする。また、自身の専門分野を深めると同時に、そののみにとらわれず、幅広く学修していくための学修計画と研究計画を考える。 （オムニバス方式／全8回） (262 神田 豊隆／5回) 科目のイントロダクション、学際的学修デザインの作成、新潟大学における異分野連携・融合研究の紹介、新潟大学の組織型連携研究の紹介、学際的学修デザインの立案及び成果物の作成指導を担当する。 (259 上村 都／1回) 行政ネットワーク・法制ネットワーク分野の研究例の紹介を担当する。 (282 溝口 由己／1回) 国際社会・理論計量経済・グローバル社会経済ネットワーク分野の研究例の紹介を担当する。 (289 伊藤 龍史／1回) マネジメント・アカウンティング分野の研究例の紹介を担当する。	オムニバス方式 講義14時間 演習2時間
	学際的科学総論ⅠC		本科目は、本研究科のディプロマ・ポリシーにおける、「[知識・理解]」の「複数の分野を横断する学際的知識を修得している。」及び「汎用的な能力（トランスファブルスキル）」の「高度な言語（英語を含む）スキルを駆使し、専門的かつ多様な文脈で効果的に情報を伝達できる。（コミュニケーション）」「多様な情報に対し、必要であればデータサイエンススキルやICTスキルを駆使して論理的に分析し、批判的に検討することができる。（批判的思考）」「特定のテーマやイシューに関して、複数の視点から分析し、課題解決に活かすことができる。（学際的思考）」に対応するものである。本科目は、学際研究に必要な素地を形成するために、物質創成・基礎科学分野の特性を具体的な複数の研究内容を通して理解し、それらを統合して新しい知識や価値を生み出すためのアプローチを学ぶことを目的とする。また、自身の専門分野を深めると同時に、そののみにとらわれず、幅広く学修していくための学修計画と研究計画を考える。	オムニバス方式 講義14時間 演習2時間

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学際 的 基 盤 科 目	学際的科学総論ⅠC		（オムニバス方式／全8回） (93 吉森 明／5回) 科目のイントロダクション、学際的学修デザインの作成、新潟大学における異分野連携・融合研究の紹介、新潟大学の組織型連携研究の紹介、学際的学修デザインの立案及び成果物の作成指導を担当する。 （25 小島 秀雄／1回） 数理科学分野の研究例の紹介を担当する。 （108 岩本 啓／1回） 基礎化学分野の研究例の紹介を担当する。 （47 瀧本 哲也／1回） 物質材料科学分野の研究例の紹介を担当する。	
	学際的科学総論ⅠD		本科目は、本研究科のディプロマ・ポリシーにおける、「[知識・理解]の「複数の分野を横断する学際的知識を修得している。」及び「汎用的な能力（トランスファブルスキル）」の「高度な言語（英語を含む）スキルを駆使し、専門的かつ多様な文脈で効果的に情報を伝達できる。（コミュニケーション）」「多様な情報に対し、必要であればデータサイエンススキルやICTスキルを駆使して論理的に分析し、批判的に検討することができる。（批判的思考）」「特定のテーマやイシューに関して、複数の視点から分析し、課題解決に活かすことができる。（学際的思考）」に対応するものである。本科目は、学際研究に必要な素地を形成するために、システム創成科学分野の特性を具体的な複数の研究内容を通して理解し、それらを統合して新しい知識や価値を生み出すためのアプローチを学ぶことを目的とする。また、自身の専門分野を深めると同時に、そののみにとらわれず、幅広く学修していくための学修計画と研究計画を考える。 （オムニバス方式／全8回） (22 熊野 英和／5回) 科目のイントロダクション、学際的学修デザインの作成、新潟大学における異分野連携・融合研究の紹介、新潟大学の組織型連携研究の紹介、学際的学修デザインの立案及び成果物の作成指導を担当する。 （66 平元 和彦／1回） 先進機械システム分野の研究例の紹介を担当する。 （67 福井 聡／1回） 電子情報通信システム分野の研究例の紹介を担当する。 （70 堀 潤一／1回） 人間情報システム分野の研究例の紹介を担当する。	オムニバス方式 講義14時間 演習2時間
	学際的科学総論ⅠE		本科目は、本研究科のディプロマ・ポリシーにおける、「[知識・理解]の「複数の分野を横断する学際的知識を修得している。」及び「汎用的な能力（トランスファブルスキル）」の「高度な言語（英語を含む）スキルを駆使し、専門的かつ多様な文脈で効果的に情報を伝達できる。（コミュニケーション）」「多様な情報に対し、必要であればデータサイエンススキルやICTスキルを駆使して論理的に分析し、批判的に検討することができる。（批判的思考）」「特定のテーマやイシューに関して、複数の視点から分析し、課題解決に活かすことができる。（学際的思考）」に対応するものである。本科目は、学際研究に必要な素地を形成するために、生命環境・食料科学分野の特性を具体的な複数の研究内容を通して理解し、それらを統合して新しい知識や価値を生み出すためのアプローチを学ぶことを目的とする。また、自身の専門分野を深めると同時に、そののみにとらわれず、幅広く学修していくための学修計画と研究計画を考える。 （オムニバス方式／全8回） (34 佐藤 努／5回) 科目のイントロダクション、学際的学修デザインの作成、新潟大学における異分野連携・融合研究の紹介、新潟大学の組織型連携研究の紹介、学際的学修デザインの立案及び成果物の作成指導を担当する。 （128 加藤 朗／1回） 基礎生命科学分野の研究例の紹介を担当する。 （144 佐野 義孝／1回） 生物資源科学分野の研究例の紹介を担当する。 （105 稲葉 一成／1回） 流域環境学分野の研究例の紹介を担当する。	オムニバス方式 講義14時間 演習2時間
	学際的科学総論Ⅱ		学際的科学とは、特定の問題に対する多様な科学および社会的視点統合する方法で、コミュニティや社会的主体と協力して研究を共同設計し、知識を共同生産することを意味する。そのような研究を学際研究と呼び、昨今の多様化、複雑化する諸問題の解決のためにその必要性が世界的に指摘されている。この科目は「学際的科学総論Ⅰ」に続き、学際研究をテーマに扱い、学問分野をさらに拡大し、人文科学、社会科学、自然科学の各分野が関わる学際研究を進めるための理論的背景を学び、それぞれの分野がどのように協働し、新しい価値を生み出すかを探究する。	講義12時間 演習4時間

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学 際 的 基 盤 科 目	ライフ・イノベーション研究入門		ライフ・イノベーションに関連する研究は、一つの学問分野や一つの方法論では取り組むことが困難である複雑な課題が設定される。この科目では、一つの研究手法にとらわれず、幅広く研究を行っていく方法を学び、ライフ・イノベーションに関連するテーマを基に、オンデマンド動画による自主学習と課題提出を通じて混合研究法の素養を修得し、また、研究倫理や知的財産権に関する基礎知識も修得する。 （オムニバス方式／全8回） （300 斎藤 有吾／2回） 学際研究と混合研究法、研究倫理について講義する。 （309 樋口 健、300 斎藤 有吾／1回）（共同） 混合研究の方法論と量的データ・質的データについて講義する。 （275 成田 正見、300 斎藤 有吾／1回）（共同） 量的研究（実験研究、準実験研究）について講義する。 （261 神田 稯太、300 斎藤 有吾／1回）（共同） 量的研究（調査観察研究、シミュレーション）について講義する。 （290 上嶋 洋佑、300 斎藤 有吾／1回）（共同） 質的研究（インタビュー、内容分析）について講義する。 （288 伊藤 嘉高、300 斎藤 有吾／1回）（共同） 質的研究（アクションリサーチ、フィールドワーク）について講義する。 （283 宮田 敦久、300 斎藤 有吾／1回）（共同） 知的財産権と研究について講義する。	オムニバス方式 共同（一部）
	ライフ・イノベーション研究演習		この科目では、ライフ・イノベーションに関連するテーマを基に、複数の研究方法論を実践的に学ぶ。ヘルスケアや災害対策といった具体的な課題に対して、異なるアプローチを比較し、それぞれの利点や課題を浮き彫りにすることを通して、異分野共同の重要性を理解する。オンデマンド教材や演習を通じて問題設定や解決策の多様性を学び、グループワークでのディスカッションを通じて、共同研究の可能性を探る。	講義12時間 演習4時間
	ライフ・イノベーションPBL(M)		この科目では、異分野共同研究の知識とスキルを基に、実際に異分野共同研究をデザインし、問題解決に取り組む。グループワークを中心に、学生は主体的に研究計画を立案し、異分野の知識やアプローチを統合する。プロジェクトベースの学習（PBL）を通じて、批判的思考、創造性、協働、コミュニケーション（4C）を実践的に育成し、学際的思考力を高めることを目的とする。研究の進行はグループに委ねられるが、プロジェクトの進捗や課題を適宜サポートし、最終的な発表を目指す。	共同
	修士のためのキャリアマネジメントセミナー		本講義は15コマで構成され、アカデミアでも産業界でも必要なジェネリックスキルや、産学連携における実務の在り方を習得する。ジェネリックスキルとは専門知識や研究スキルに関係なく、どのような状況にでも対応できるように必要な能力であり、リーダーシップ、プレゼンテーション、コミュニケーション、ネゴシエーションなどの能力を指す。また、実際の産学連携や企業活動についても講義する。全回、企業や公的機関で該当する実務を統括しているゲストスピーカーを招いての講義である。	共同
	修士のためのアカデミックライティング		このクラスの目的は、学生が投稿論文（ジャーナル論文）を英語で書く能力を身につけることである。このクラスが教えるすべてのスキルは、その目的に基づいている。研究の進め方、実験の実施方法、実験結果の記録方法、そして研究を公の場で発表する方法について簡単に紹介する。このクラスでは、執筆プロセスを学生と一緒に進めていき、投稿論文の各セクションをそれぞれ1回の授業で取り扱う。最終的に、このクラスを終える時点で、学生は自ら実施した実験についての5～6ページの投稿論文を作成する。	
	海外英語研修		この科目では、学生は、英語を母国語としない学生向けの英語研修プログラムを実施している海外の教育機関・研修機関等において、4～6週間程度の短期英語研修プログラムに参加し研修を受ける。参加する英語研修プログラムが本科目に該当するかどうか、研究科学学務委員会において事前に認定を受ける。参加学生は、認定の前にTOEFL英語試験を受験することが推奨され、研修前と研修後には主指導教員による事前指導と事後指導（TOEFLによる効果測定を含む）をそれぞれ受ける。受講プログラムによる成績評価と学生による報告書を基に、学務委員会が合格と認定できる水準であると認定した場合に、単位を授与する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学 際 的 基 盤 科 目	大型機器分析技術		近年、研究機器を活用して研究を推進することが多く、研究機器が研究進展状況を左右すると言っても過言ではない。研究者個人で所有できない大型汎用研究機器は、大学などの研究組織で管理・運営し、学内外の研究者で共用することで効率的に活用している。手元にはない研究機器だが、利用の仕方次第で研究の進展もあり得る。設備を適切に、有効利用するためには、研究機器の原理から、解析方法、得られる情報についての知見が必要である。また、多くの利用者が共用するためのルールなども含めた利用方法の基礎を習得することが目的である。 （オムニバス方式／全15回） （192 古川 貢／3回） 本講義に関するガイダンス、および、電子スピン共鳴装置の基礎理論の解説 （299 後藤 淳／3回） 放射性同位元素を利用した実験に関する基礎 （165 田山 英治（R8年度）／3回、195 星 隆（R9年度）／3回） 核磁気共鳴（NMR）装置の基礎 （51 戸田 健司／3回） X線回折（XRD）装置の基礎 （126 落合 秋人／3回） 質量分析（MS）装置の基礎	オムニバス方式
	データサイエンス概論		近年、データサイエンスの知識・技術を習得した人材の需要があらゆる分野において急激に高まっている。一方で大学院での研究に取り組むにあたって無意識にデータサイエンスを活用している学生も多い。本講義では、現代では欠くことのできなくなったデータサイエンスについて、将来データサイエンスを自身の武器として活用することを目指し、基本的な事項から大学や企業での応用までを実例を交えながら大学研究者、企業関係者を招いてオムニバス形式で授業を実施する。 （オムニバス方式／全15回） （64 早坂 圭司／5回） 統計学、線形代数、情報数理、量子力学と量子情報の基礎について （97 飯田 佑輔／2回） PYTHONを用いた画像解析、画像分類の実践について （22 熊野 英和／1回） データサイエンスと量子情報について （106 今村 孝／2回） データサイエンスを利用したロボット制御について （235 小山 翔子／1回） データサイエンスとブラックホールの測定について （237 佐藤 優太郎／1回） 素粒子実験物理学でのデータサイエンスの活用について （218 金子 岳史／2回） 画像解析を用いたデータサイエンスの宇宙科学への応用について （86 山崎 達也／1回） データサイエンスの学術的な概要について	オムニバス方式
	修士のためのインターンシップ		学生の興味ある職種の機関で実務体験を行い、社会に必要なスキルや心構えを身に付けることを目標とする。実施前に事前授業として受け入れ機関の研究、マナー、安全教育を行う。受け入れ機関での研修は5日～10日間実施し、終了後に報告書の提出・報告会での発表が課される。受け入れ機関は学生の研究分野を考慮し教員との面談にて選定したのち、受入打診は教員が行う。受け入れ機関とのマッチングもあるので、面談は複数回行われることがある。新潟県内の機関への派遣を原則とするが、場合によっては県外の機関でも可とする。	講義1.5時間 実習43～83時間
	ワーク・ライフ・バランス		本科目は、自然科学系大学院出身の複数の講師によるオムニバス形式の講義とワークショップで構成する2日間の集中講義である。一日目の授業はオンライン、二日目の授業は対面で行う。本科目では、各講師の「ワーク」と「ライフ」に関する様々な経験談を聞く「先輩に学ぼう①～⑤」や、受講者同士のディスカッション「ワークショップ：みんなで話そう！なりたい自分」等を通じて、受講者が自らのキャリア形成とワーク・ライフ・バランスを具体的にイメージし、その実現方法を見つけて出すことを目標とする。 （オムニバス方式／全8回） （307 中野 享香／6回） ワーク・ライフ・バランスとは、先輩から学ぼう①・②・③・④、まとめ （400 三宅 恵子／2回） 先輩から学ぼう⑤、ワークショップ	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目	物質宇宙基礎科学科目群 実験素粒子物理学Ⅰ		授業はゼミ形式で行う。ゼミ担当者は発表の準備を充分に行うこと。オンラインで実施する予定であるが状況の変化があり対面で行う場合は後日通知する。素粒子の標準模型や粒子加速器、放射線検出器などについて学ぶ。高エネルギー物理学やその関連の研究を行うときに、実験室の現場において、学んだ知識を実際に役立てることができるような実践的知識として習得する。授業で学んだ素粒子の標準模型や粒子加速器、放射線検出器などについての知識は、実際に実験室等で研究を行う時に必要になる。授業内容を理解することで研究を遂行するときに実験室の現場において、学んだ知識を基に判断し、行動できるようになること。次のように素粒子物理学、加速器、放射線検出器等について学ぶが、テキストのどの部分に重点を置いて、どの様な順番で学ぶかは、授業を履修する学生の希望を取り入れて決める。	隔年
	実験素粒子物理学Ⅱ		素粒子物理学の基礎である「標準模型」を学び、物質の基本的な構成要素や相互作用について理解を深める。また、超対称性模型や陽子崩壊など、標準模型を越える理論・物理現象についても学ぶ。加えて、これらの理論を実験的に検証するために必要な、最先端の加速器技術や放射線検出器についても学ぶ。高エネルギー物理学実験の研究に携わる際には、実験の設計や結果の解釈において実際に役立つ知識が求められる。そのため、素粒子の基本的な性質を十分に理解し、実験における判断力を養うことを本講義の目標とする。授業は輪講ゼミ形式で行うことで、実践的な知識を身につける。	隔年
	理論素粒子物理学Ⅰ		「理論素粒子物理学Ⅰ」では、素粒子物理学における標準模型について対面式にて講義する。現代の物理学における理論基盤である標準模型を紹介し、標準模型に基づいた素粒子の性質を把握し、素粒子過程の反応率を計算する手法を理解することを目的として講義を行う。内容は、ゲージ対称性に基づく場の理論、物理系の持つ対称性と保存則の関係、場の量子化を導入として行い、標準模型の概要と予言について取り上げる。さらに、標準模型を基に、素粒子の崩壊率や散乱断面積を計算する手法を学ぶ。	隔年
	理論素粒子物理学Ⅱ		相対論的場の量子論における有効ポテンシャルの方法および摂動的な量子補正の計算例を示し、また、ミクロとマクロをつなぐ手法であるくりこみ群について、摂動級数の足しあげとの関連で概観する。それを踏まえて、素粒子標準模型の現状と課題を要約する。さらに、それらを解決できる候補の一つとして、大域的超対称性をもつ場の理論の基礎事項を、特に超場形式に基づいて解説する。超対称標準模型の極小模型および拡張模型や超対称大統一についても解説する予定である。	隔年
	理論素粒子物理学Ⅲ		素粒子間にはたらく相互作用はゲージ理論によって記述される。まず、素粒子論を理解するために必要な場の量子論の基本的な枠組みと、ゲージ不変性について説明する。さらに、ゲージ場の量子論、特に、電磁場の量子論である量子電磁力学と、原子核内部ではたらく強い相互作用の基礎理論である量子色力学について解説する。場の理論における標準的な計算方法である摂動論に加え、コンピューターによる非摂動論的計算方法についても説明する。	隔年
	宇宙素粒子物理学概論		宇宙素粒子物理学概論では、インフレーション宇宙に基づく標準宇宙論の基礎について講義を行う。特に、素粒子物理と宇宙物理の関係について注意を払いながら、現代的な宇宙描像の獲得を目指す。そのために、まず一般相対性理論の基礎を復習し、宇宙の熱史について、ボルツマン方程式に基づく描像を説明する。また、インフレーションと宇宙熱化の物理について取り上げ、密度揺らぎの生成と発展、および初期宇宙における重力波の生成について学ぶ。	隔年
	原子核実験特論		本講義では英語文献を通して、原子核の基本的な性質や、核力及び原子核の構造、核反応など、さらにはシュルモデルなど原子核模型についての理解を深める。このため、本講義では原子核についての英文の標準的なテキストを使用し、ゼミナール形式で行う。原子核の一般的性質や原子核の構造を表すシュルモデルを始めとする核模型について理解し、それらを用いて準位構造の性質を想定できるようにする。またさまざまな核反応機構について理解することをねらいとする。達成目標としては、原子核の一般的性質や原子核の構造を表すシュルモデルを始めとする、核模型について理解し、これらを用いて準位構造や電磁気モーメントの性質、および核反応の基本的な内容について説明できることを上げる。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学位 共通 科目	物質宇宙基礎科学科目群	原子核理論特論Ⅰ	強い相互作用で記述されるハドロンの性質について、対称性と場の量子論に基づいた理論的記述法を学ぶ。クォーク模型によるハドロンの分類、カイラル対称性とその自発的破れなどの発見から、強い相互作用の基礎理論が量子色力学(QCD)であることがどのようにしてわかってきたのかについて学ぶ。また、量子多体系の性質を調べるために有効な「対称性に基づいた場の理論の方法」について学ぶ。具体的には、以下の学習内容を到達することを目指す：(1) クォーク模型により、複合粒子としてのハドロンの性質を理解する、(2) QCDのカイラル対称性とその破れについて理解する、(3) 南部・ゴールドストーンの定理と有効場の理論の構築法について理解する、(4) 有限温度・有限密度のQCDを取り扱う理論的手法について理解する。	隔年
		宇宙物理学特論Ⅰ	宇宙物理学は、物理学を基盤として宇宙および天体についての研究を行う学問分野である。この講義においては、宇宙に存在する様々な天体の形成過程について、特に恒星の形成過程に重点を置きながら、基礎物理過程に重点を置きながら学んでいく。そして数値シミュレーションの結果や観測研究の結果などとも比較することによって、天体形成過程を理解することが目標である。その結果として恒星形成過程の理解は太陽の形成過程の理解につながり、惑星形成過程の理解は地球を含む太陽系の形成過程の理解につながり、これらによって我々のルーツについて理解することにつながる。	隔年
		宇宙物理学特論Ⅱ	本講義は、星間物質および星形成の物理・化学過程、その観測手法について深く理解することをねらいとする。このために、天文学分野の英文教科書を中心に、関連する文献の輪読を行なっていく。これらの学びを通して、(1)様々な天体・領域に付随する星間物質に関する知識、(2)星形成の基礎物理過程に関する知識、(3)星間物質・星間分子の赤外線および電波天文観測に関する知識、を獲得し、星間物質の観測研究を自ら立案できるようになることを学習の到達目標とする。講義では、英文教科書や文献の担当箇所の要約を毎回作成し、その内容について発表を行う。評価は、与えられた課題への取り組みの姿勢および授業における積極性（発言・質問など）に基づいて行う。	隔年
		宇宙物理学特論Ⅲ	電波天文学の発展により、活動銀河やその中心の大質量ブラックホール、星形成領域、さらにはビッグバン宇宙の証拠を観測することが可能となった。本講義では、電波望遠鏡の構造や機能を学んだのち、単一観測と干渉計観測の基本原則を学ぶ。特に、パラボラアンテナを用いて宇宙からの電磁波を受信し、それを物理量として解析する過程に焦点を当てる。また、アルマ望遠鏡やイベント・ホライズン・テレスコープを例に、干渉計観測データの取得方法と画像化、そこから得られる物理量について理解を深めることを目的とする。	隔年
		固体物性物理学Ⅰ	固体の結晶構造は物質の最も基礎的な要素であり、物性を理解する上で必要不可欠な情報である。本講義では結晶構造を読み解く上で必要となる基本的な情報、物性との関係、結晶構造解析法として主にX線を用いた回折法の基礎、および量子ビームをもちいた最新の構造物性研究の例を解説する。後半では、粉末X線回折パターンから各種構造パラメータを抽出するリートベルト解析法を解説し、具体的な実施方法として解析プログラムJANA2020を用いた実習をおこなう。	隔年
		固体物性物理学Ⅱ	強相関電子系の新物質探索や純良な単結晶育成および極低温・強磁場下での実験的研究に関する研究指導を行う。固体中で現れる様々な相の出現と共存状態や、固体の熱的・電気的・磁気的性質について学ぶ。相図の見方の理解は、単結晶育成を行う際に変重要となる。また、結晶の電子状態を知る上で重要となる比熱や電子状態を特徴づけるバンド構造やフェルミ面を記述する手法と観測方法を学ぶ。また、強相関電子系を中心とした最近のトピックスについて学ぶ。	隔年
		固体物性物理学Ⅲ	物質中での原子に局在した電子による磁性の基礎を講義する。結晶場や等価演算子を理解し、摂動外場による感受率を計算する。磁場に対する磁気双極子の応答である帯磁率（磁化率）に加え、応力場（歪み）に対する電気四極子の応答である四極子感受率（歪み感受率）を理解する。また、点群や既約表現などの群論の初歩を説明し、物理量と対称性について基礎的な講義をする。 (オムニバス方式／全15回) (182 根本 祐一／8回) 群論の基礎から、その適用法、感受率との関係および超音波実験の紹介を行う。 (223 赤津 光洋／7回) 磁性の基礎から結晶場理論、感受率計算について講義する。	オムニバス方式 隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目	物質宇宙基礎科学科目群 固体物性物理学IV		固体の磁気的性質は、物性物理を研究するにおいて重要な事項である。磁性に関する興味は基礎的な面から応用の面まで幅広く広がっている。本講義では、固体の磁気的性質の基礎について学び、物性に関して磁性の観点から議論していく。物性物理学分野の研究遂行する際、先行研究で明らかになっている磁気的性質を正しく理解できることを目的として、固体の磁気的性質に関する基本的な内容を広く講義する。具体的には次のような、固体の磁気的性質に関する基本的な能力を習得することを目的とする。①磁気的性質の実験結果を理解し説明できる。②磁気的性質の実験結果について基礎的な解析をすることができる。③論文に出ている磁気的性質に関する結果を理解することができる。	隔年
	物性理論特論Ⅰ		固体中では、1立方センチメートルあたり10の23乗個もの膨大な数の電子が、互いに働くクーロン相互作用や格子振動との相互作用を受けて運動している。このような相互作用する固体電子の理論を、磁性や超伝導を中心に講義する。また、この講義を通して、相互作用する電子系を取り扱うための第二量子化や場の量子論の方法を、磁性や超伝導などに応用しながら習得する。また、特に相互作用の効果が強い強相関電子系が、重い電子やモット転移、高温超伝導などの様々な異常な振る舞いを示すことを学ぶ。	隔年
	物性理論特論Ⅱ		非平衡物理学は、物理だけでなく化学や生物、最近では経済学などに応用され、大きな広がりを持っている。また、未解決な問題も多く、物理学の一つの最先端と考えられる。主に次の内容について、出来るだけ例を挙げて説明する。(1) ブラウン運動：ブラウン運動の数学的性質を中心に、その基礎を説明し、応用の足がかりを与える。(2) 線形応答と久保公式：授業では、ブラウン運動の理論を使って、線形応答とゆらぎを説明し、統一的に理解する。(3) 時間反転対称性とOnsagerの相反定理：授業では、時間反転対称性を詳しく説明し、Onsagerの相反定理を導く。	隔年
	原子分子物理学		原子や分子に軟X線領域の光を照射するとどうなるのか。この講義ではこの答えについて考える。光と物質の相互作用について、ミクロの視点から理解を進めることが本講義の目的である。そのため主に単純な系、すなわち孤立した少数多体系と電磁波との相互作用を扱い、光の吸収、散乱について学ぶ。放射光による原子・分子の光電子分光を例にとり、原子・分子が光と相互作用することで生じる電子からどのような情報が得られるのか、最新の研究成果も取り入れて解説する。	隔年
	原子核量子多体論概論		原子核の質量や励起状態に見られる殻効果やクラスター相関、形状変形など原子核構造を理解する上で重要な諸概念を概説した上で、理研など大型加速器実験により明らかになりつつある、不安定原子核やハイパー原子核などの特徴を解説し、原子核物理学における最近の研究発展、さらに、これらの研究で大きな役割を果たしている反対称化分子動力学モデルや核反応モデルを教授する。また、近年大きく注目されている量子計算について、その基礎と量子多体問題への応用を教授する。	隔年
	不安定核物理学概論		超重元素とよぶ人類が人工的につくり出した新元素の原子核特性、電子配置や化学的性質について解説する。また、理化学研究所RIビームファクトリーにおいて進められている超重元素の合成と化学実験の最前線について解説する。超重元素とよぶ人類が人工的につくり出した新しい元素の原子核の性質および化学的性質について理解を深め、重イオン加速器を用いた超重元素の合成と化学実験の手法を理解することを目標とする。はじめに化学元素の起源について解説し、超重元素の核的特性、自然界における超重元素の探索の歴史について紹介する。その後、超重元素の合成、化学について解説し、理研における超重元素研究の最前線を紹介する。	隔年
	実験核物理学概論		本講義では、原子核の性質を実験的に調べる手法について理解するとともに、理化学研究所加速器施設RIBFで実際に用いられている核分光実験とそれを実現する装置について理解を深める。原子核の性質は、理論と実験の双方の努力により継続的に調べられているが、実験で得られる観測量は、未知の状態の質量や、反応断面積の絶対値を決定したり、角度分布の情報から反応での移行角運動量を決定するなど、これらの実験手法は多岐にわたるが、その基礎を理解することを目的とする。達成目標としては原子核反応の一般的性質や運動学及び逆運動学的手法について理解し、核反応測定における実験手法の原理と実際の装置を説明できることである。	隔年
	医学物理学総論		本講義では医学物理学及び医学物理士についてその概要を学び、関連する物理学との関係性を理解する。そこで医学物理及び関連する物理に関して、物理及び放射線技術科学分野の各講師によるオムニバス形式の講義を行う。物理学と医学の境界領域である医学物理学と対応するキャリアである医学物理士は医療技術の高度化とともに社会的需要が高まりつつあり、物理系から医学物理分野へのキャリア形成の導入として、物理学との関連性を理解することを目的とする。達成目標としては、医学物理学及び医学物理士についての概要を説明でき、関連する物理学分野の内容について説明できることである。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	医学物理学総論		（オムニバス方式／全15回） （120 大坪 隆／7回） 概略、医学物理学と医学物理士、放射線検出器（2回）、加速器（2回）、まとめ （64 早坂 圭司／1回） コンピュータビジョンと医学物理 （252 遊佐 洋右／2回） 医学物理学とコンピュータシミュレーション（2回） （264 笹本 龍太／1回） 放射線治療概論 （291 宇都宮 悟／2回） 放射線治療における医学物理士の役割（2回） （287 泉川 卓司／1回） 放射線防護 （423 成田 啓廣／1回） 診断領域における医学物理学	
	放射線物理学特論		本講義では、医学物理学分野や原子力規制分野での基本となる放射線物理学について理解を深める。ここでは放射線と物質の相互作用を扱い、放射線の諸性質、物質相互作用を理解し、関連する現象を学び、しゃへい計算及び線量測定に必要な知識を得ることを目的とする。達成目標としては、放射線の諸性質や物質との相互作用を説明でき、放射性崩壊、エネルギー付与、核反応及び、しゃへい計算及び線量測定に必要な基本的事項について説明できることである。 （オムニバス方式／全15回） （120 大坪 隆／8回） 荷電粒子線、荷電粒子と物質の相互作用、中性子線、中性子線と物質の相互作用、放射性壊変、放射平衡、講義のまとめを担当する。 （252 遊佐 洋右／7回） 原子核の構造、原子の構造、放射線の分類、放射線場の量と単位、X線の発生、光子と物質の相互作用、光子線束の減衰について講義を担当する。	オムニバス方式 隔年
	放射線計測学特論		本講義では、医学物理学分野や原子力規制分野での基本となる放射線計測学について理解を深める。放射線計測の基礎となる線量計測定について、その原理から実際の測定手法について学び、また計測の基礎となる放射線と物質の相互作用について学び、様々な検出器の動作原理、解析法について理解し、さらに放射線計測の理解を通じ放射線安全管理について理解を深めることを目的とする。達成目標としては、線量計の種類原理と測定手法について説明でき、放射線と物質の相互作用を元に放射線計測で用いられる検出器の動作原理と解析方法について説明できることである。 （オムニバス方式／全15回） （120 大坪 隆／8回） 検出器各論Ⅱ、電離箱による線量測定、エネルギーの測定、放射能の測定、温度上昇に基づく熱量及びエネルギーの測定、講義のまとめを担当する。 （252 遊佐 洋右／7回） 関連する物理量の定義と単位、放射線と物質の相互作用、放射線検出器の一般的性質、統計、放射線測定システム、検出器各論Ⅰの講義を担当する。	オムニバス方式 隔年
	放射線防護学特論		本講義では、医学物理分野や原子力規制分野のみならず放射線の安全な利用に不可欠な放射線防護学についての理解を深める。医学物理学や原子力規制分野、放射線科学分野において放射線防護の知識は極めて重要な必須の知識であり。放射線治療及び原子力・放射線規制に関する放射線防護の原則やその方法、行動規範、記録保存、それに加えて一般人に対する放射線防護などを学ぶことは極めて重要である。ここでは防護教育に必要な放射線防護方法、行動規範、記録保存について学ぶことを目的とする。達成目標としては、放射線治療及び放射線利用に関する放射線防護、行動規範、記録保存について説明でき、一般人への放射線防護についても説明できることである。	隔年
	放射線関連法規		本講義では、医学物理分野や原子力規制分野のみならず放射線の安全な利用に不可欠な、医学物理士業務や原子力放射線規制分野に関わる放射線関連法規及び勧告について、また科学研究における研究倫理、医学分野での医療倫理について理解を深める。放射線に関する法規及び勧告について学び、それに加えて放射線利用の際に心得おかねばならない科学研究における心構えや研究・医学における倫理上の問題点について学ぶことを目的とする。達成目標としては、放射線に関する法規及び勧告、特に医学物理士の業務に関わるものについて説明でき、科学研究や医療における倫理上の問題について議論できることである。 （オムニバス方式／全15回） （287 泉川 卓司／12回） 法律の基礎、放射線に関する法律、ICRP勧告、放射性同位元素等規制法、研究倫理、医療法および施行規則、労働安全衛生法および電離放射線障害防止規則、人事院規則、講義のまとめを担当する。 （120 大坪 隆／3回） 研究倫理、医療倫理の講義を担当する。	オムニバス方式 隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	物質宇宙基礎科目群	原子力規制学総論	原子力や放射線に係る技術は、高度な総合技術であるとともに、制度の技術でもある。これらの技術を安全に利用するため、電気事業者等は原子力安全規制と呼ばれる様々なルールを適切かつ厳格に遵守することが重要である。それらのルールは、原子炉等規制法、放射線障害防止法、電気事業法等に規定されている。また、2011年の福島第一原子力発電所事故時の教訓を元にし、原子力発電所の敷地外の避難等に係る原子力防災関連法令等も整備された。本科目は、これらに関して国外の動向も含めて総合的に学習し、将来、原子力安全規制に積極的に関わることができる人材の育成を主目的とする。 （オムニバス方式／全8回） （310 日高 昭秀／3回） 原子力規制関係法令の概要・動向、原子炉等規制法の概要、原子炉の安全規則、核燃料サイクル関連事業の安全規則、確率論的リスク評価の概要、リスク情報を活用した安全規制、諸外国のシビアアクシデント規制、事故対応の措置、原子力安全文化、事業者の安全向上を目指す仕組みに関する講義と、講義のまとめを担当する。 （120 大坪 隆／1回） 放射線障害防止の基準、原子力活動に対する規制放射性同位元素の安全規則、核不拡散等の国際約束の担保の講義を担当する。 （406 山田 知穂／1回） 東京電力福島第一原子力発電所事故後、原子力安全規制はどう変わったかの講義を担当する。 （408 山本 哲也／1回） 原子力防災について、～福島第一原子力発電所の事故を踏まえて～ の講義を担当 （355 近藤 寛子／1回） 米国の原子炉監視プロセス(ROP)、日本の原子力規制検査、リスク情報の活用、透明性と社会との関わり等の講義を担当する。 （369 瀬下 拓也／1回） IAEA基準類、WENRA安全参照レベル、新型炉の審査基準、米国・欧州における新設炉審査、審査の国際協力の講義を担当する。	オムニバス方式 講義14時間 演習2時間
		原子力規制キャリア教育	本科目では、進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し、実現可能性について検討するため、進路に係る多様な選択肢の中から、自己の意志と責任で当面の進路や学習を主体的に選択する技能を育成することを主目的とする。具体的には、原子力規制行政に関心を持つ大学院の学生を、1～2週間程度、原子力規制庁、東京電力ホールディングス株式会社、新潟県防災局原子力安全対策課、大熊町、日本分析センター、日本原子力研究開発機構、量子科学技術研究開発機構、防災科学技術研究所、土木研究所等に派遣し、学習意欲の喚起、職業意識の涵養及び原子力規制行政についての理解の増進を図るとともに、キャリア教育派遣先との討論を通じ、原子力規制の観点から種々の問題解決を図ることのできる職業倫理を備えた人材を育成することを目的とする。	
		放射線計測実習	本科目では、原子力規制又はその関連分野での活躍を目指す学生にとって必須となる放射線の計測について、理論と実践の両面での学びを提供する。 （オムニバス方式／全15回） （310 日高 昭秀／5回） 放射線計測の理論について、統計や誤差、気体検出器、シンチレーション検出器、半導体検出器について座学で学ぶ。 （120 大坪 隆・299 後藤 淳／1回）（共同） RI施設を見学すると共に、VR（仮想現実）技術で可視化した放射線を観察し、その挙動を理解する。 （299 後藤 淳／9回） 放射線防護の3原則（時間、距離、遮蔽）、ガンマ線スペクトロメトリ、オートラジオグラフィなどの実習を行うと共に、福島第一原子力発電所事故被災地域での見学を行う。	オムニバス方式 共同（一部） 講義10時間 実習20時間
		原子力エネルギー特論	本科目では、原子炉物理学の入門的な内容（中性子反応断面積、中性子減衰、中性子束、散乱、1/v則、中性子共鳴、放射性捕獲、核分裂、連鎖反応、核分裂断面積、核分裂中性子、即発・遅発中性子、燃料の燃焼と燃焼度、核分裂連鎖反応、増倍係数、転換率、増殖率、中性子の輸送と拡散理論による近似、フィックの法則、中性子束と中性子流、拡散方程式の解、拡散距離、群拡散方程式、熱中性子、1群・2群原子炉拡散方程式、固有関数、ベッセル関数、バックリング、1群臨界計算、クラメールの法則、4因子公式、原子炉の臨界、臨界質量、臨界形状、熱中性子炉、反射体付き原子炉、多群計算、非均質原子炉、発中性子の6群データ、原子炉ペリオド、反応度に対する温度の効果、FP毒性）について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学位共通科目群 数理科学分野科目群	代数構造特論		代数幾何学は代数学における主要な分野の一つであり、20世紀以降劇的に研究が進展している。また、代数幾何学は数学のみならず工学等の様々な分野に応用されている。本講義では、代数幾何学の入門として、特に代数曲線論の基礎事項を説明する。具体的には平面代数曲線、平面代数曲線の非特異点とその接線、平面曲線の変曲点、次数の低い平面曲線の分類、平面3次曲線等について説明する。更に、楕円曲線の基本事項とその暗号理論への応用についても説明する。	
	整数論		整数論の基本的な事柄である、局所大域原理（ハッセ原理）について学ぶ。四元数環、ノルム群、被約ノルムの乗法性、分解型四元数環の特徴付け、 p 進数体、 p 進展開、 p 進整数環、 p 進付値、ヒルベルト記号の計算、ハッセ・ミンコウスキー定理、積公式などを学んでいく。ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・到達目標）における人材育成の目標に沿って、本プログラムで定める「知識・理解」「当該分野固有の能力」「汎用的な能力」「態度・姿勢」の資質・能力を修得することを目指す。	
	代数的整数論		Riemannゼータ関数やDirichlet L関数の基本事項、 p 進数体の基本事項、 p 進測度を用いた p 進L関数の構成について学ぶ。Riemannゼータ関数、Dirichlet L関数、Ostrowskiの定理、逆極限、 p 進数体、 p 進付値、 p 進測度、 p 進ゼータ関数、 p 進L関数などを学んでいく。ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・到達目標）における人材育成の目標に沿って、本プログラムで定める「知識・理解」「当該分野固有の能力」「汎用的な能力」「態度・姿勢」の資質・能力を修得することを目指す。	
	代数多様体論		代数幾何学では代数多様体を扱う。本講義では、ビカル数、オイラー標数、小平次元など、曲面の分類に必要な幾何学的不変量を理解する。ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）における人材育成目標に掲げている、高度な専門知識および学際的素養とトランスファラブルスキルを備え、自ら課題を発見し探求する能力を有した専門職業人・研究者を育成することを目指す。	
	位相幾何学特論		離散グラフとは点と線からなるとても単純な図形である。その離散グラフを曲面や空間に埋め込むことで表面化する幾何学的構造を研究対象とする「位相幾何学的グラフ理論」の概要を学ぶ。曲面上のグラフの組合せ的構造と幾何的構造を同時に学習し、その数学的議論を理解することを目的とする。自分の手を動かして離散グラフの絵を描き、言葉で考える数学の存在を知ることが科目のねらいである。授業の前半は講義形式で行い、後半はテキストを輪読し、他の参加者及び教員と議論することで内容の理解を深める。	講義10時間 演習20時間
	微分位相幾何学特論		授業は講義形式で実施する。シンプレクティック幾何学の入門的な講義を行う。シンプレクティック幾何学は解析力学の数学における一般化であり、数学の他の分野（代数幾何学、複素幾何学、位相幾何学）だけでなく現代物理学とも密接に関係する。授業ではシンプレクティックベクトル空間の導入からはじめ、最も基本的なシンプレクティック多様体である余接束を扱う。その後、一般のシンプレクティック多様体についてDarbouxの定理、シンプレクティック微分同相写像、ラグランジュ部分多様体、Moserの定理、Weinsteinの管状近傍定理などを紹介する。	
	微分幾何学特論		この授業では、ベクトル束の微分幾何に関連した内容について、講義形式で解説を行う。具体的には、ベクトル束の接続と曲率、Chern-Weil理論について解説する。それ以外にも、曲率の幾何学的な意味をより深く理解するための主束の接続の微分幾何的な意味合いや、指数定理の具体例としてのRiemann-Rochの定理およびその予備知識としてのRiemann面の基礎的な内容など、関連した内容を選択して解説する。いずれの内容を解説するにしても、ベクトル束の微分幾何的な扱いに習熟してもらうことを目標とする。	
	複素解析特論		関数環論や可換Banach環論の基礎を学ぶ。さらに最新の研究内容に触れることにより、関数環分野および可換Banach環分野の基礎概念が研究においてどのような役割を果たしているのかを知り、修得した専門的な知識を課題解決に活かす。特に等距離写像に関連する研究成果は関数環理論や可換Banach環理論において近年盛んな研究がなされている。当該分野の研究を理解する上で必要な基礎知識を獲得するために、双対空間の単位球とその端点集合と極大凸集合について修得する。	
	関数解析特論		A. A. Ungarによって創始されたジャイロ群、実内積ジャイロベクトル空間に関する基礎的文献の内容を紹介し説明する。ジャイロ群は弱められた結合法則をもつように群が一般化された代数系であり、特殊相対論の速度の和、複素平面の単位開円板に定義されるメビウスの和などに起源する極めて自然な研究対象である。実内積ジャイロベクトル空間は実内積空間の部分集合であるジャイロ可換ジャイロ群が実数による新奇なスカラー倍の構造をもつような実内積空間の一般化である。その中で、実内積空間の原点を中心とする開球がEinsteinジャイロベクトル空間、Moebiusジャイロベクトル空間と呼ばれ、詳細に研究されている。この授業科目では、これらの空間論およびその間の写像論を主として関数解析学の観点から講ずる。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	数理科学分野科目群	偏微分方程式論	この講義では、実解析学（微分積分、線形代数、ルベーグ積分、微分方程式論の初歩）を基本知識として、偏微分方程式の現代論について説明する。偏微分方程式は数学的な研究対象としてだけではなく、現象を数学の言葉で記述するための道具として自然科学や工学の様々な場面で数理モデルとして現れ、研究内容も多岐に渡る。この講義では、主に物理量の保存則から導かれる保存則方程式およびそれに関連する偏微分方程式を中心に扱い、最新の研究に関する話題にも触れながら解説する。	
		関数空間特論	授業形態は対面講義で行う。本講義では、Banach環の定義や基本的な事項またそれに関わる事項について、具体例をいくつか紹介しながら講義する。バナッハ環の基本的な事項を学習することを通して、関数解析学や解析学の基礎を理解し、論理的かつ明確に説明する力を習得することが目標である。授業計画としては、最初に連続関数からなるバナッハ環の性質や成り立つ定理を確認した後、可換バナッハ環の古典的な定理や古典的な問題を取り扱う。時間が許す限り最近の研究についても紹介する。	
		最適化概論	数理計画問題の最適化手法は、数理モデルを使用して最適解を求める数学的技法である。主要な手法には線形計画法（シンプレックス法など）、整数計画法（分枝限定法など）、および非線形計画法（勾配法など）があり、企業経営問題や都市計画問題など現実社会で広く活用されている。本講義では、非線形計画問題に対する最適化に必要な数学的基礎知識（凸解析学など）や最適性条件について学習する。さらに、最適化アルゴリズムのプログラミングを行い、現実問題への最適化手法の活用方法を身につける。	
		ベイズ統計学概論	ベイズ統計学概論では、近年の統計学において広く利用されるようになってきているベイズ法の基礎と応用について講義する。講義の序盤では、古典的な統計学の方法とベイズ法がどのように違うのかを説明し、ベイズ法を用いた場合の特徴を説明する。講義の中盤では、ベイズ法を実際に利用する場合の計算方法について説明する。講義の終盤では、ベイズ法が実際の問題にどのように利用されているのかをいくつかの応用場面を想定して説明する。授業は講義形式で行うが、適宜、演習を取り入れ理解と定着をはかる。	
基 礎 化 学 分 野 科 目 群	溶液化学特論		環境や生体など化学反応の多くは溶液を反応場としており、化学種の反応性は、分子自身の性質だけでなく、溶媒との分子間相互作用である溶媒和に強く依存する。また、水のような水素結合性液体では、溶媒自身の持つ強固な液体構造性が、エントロピー的に反応に影響を及ぼす。したがって、溶液内反応を理解するには、溶質-溶媒間相互作用に加え、溶媒間相互作用を理解する必要がある。また、分子構造や液体構造といった構造論は、反応を直感的に理解するには非常に有用であるものの、反応ポテンシャルの反映に過ぎず、反応をより深く理解するには、分子内および分子間ポテンシャルの立場から理解することが望ましい。この授業では、溶液内反応を理解することを目的として、受講者各自の修士学位論文研究に有用な、溶液内反応を理解するために必要な熱力学、(熱)統計力学、量子化学の基礎を固めるとともに、分析化学的な立場からより定量的な方法論を講義形式と演習形式のハイブリッド形式で学ぶ。	隔年 講義18時間 演習14時間
	核化学特論		超重元素合成の原理および超重元素の化学について詳細に解説し、実際の研究例等を紹介する。超重元素の合成について、原理、実際の実験手法について理解するとともに、超重元素の化学について、ディラック方程式の導出と軌道電子に対する相対論的効果について理解することを目的とする。はじめに元素の起源を解説し、超重元素の合成に関する理論および具体的な実験手法について説明する。その後、軌道電子に対する相対論的効果を理解するため、Dirac方程式の導出、水素原子に対する解、多電子系への拡張、実際の計算結果について照会する。単一原子による化学実験で化学的性質について議論するための基本原理を学習したのち、近年行われている超重元素の化学研究について紹介する。	隔年
	有機合成方法論Ⅰ		有機合成化学について、学部の「有機化学」授業では時間の制限から解説できなかった発展的内容について講義する。その内容の履修により、より実践的な有機合成化学の知識を身につける。前半は世界的に評価が高い大学院生向けの教科書を用い、主に研究室で行いやすい反応を解説する。後半は、講師の研究分野であるオニウムイリドの転位反応、Stevens転位とSommelet-Hauser転位について、初期の研究内容（歴史）と最近の研究例を解説する。	隔年
	有機合成方法論Ⅱ		本講義では、ホウ素、ケイ素、スズ、リン、アンチモン、ビスマス、硫黄、ヨウ素などの典型元素や遷移金属など元素の特徴を活かした有機機能性材料や有機合成反応の開発を指向した、有機元素化合物の合成法、構造、反応性、および物性について、対面形式で総括的に解説する。本講義を履修することにより、典型元素の基礎物性、ならびに、典型元素や遷移金属を含む有機化合物の基礎物性、構造、反応性を説明することができる。また、これらの化合物群がどのように利用されているのか解説することができる。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	基礎化学分野科目群			
	構造有機化学特論		本講義では、有機分子の構造を決定する結合、および相互作用の概念と原理を学ぶことで、有機化合物の物性、反応性を理解することを目的とした講義を行う。また包接錯体における分子会合の仕組みを学ぶことで、分子認識について理解を深めることを目的とした講義を行う。内容は、有機化合物の構造と、物理的および化学的性質との関連性について講義を行う。クラウンエーテル、シクロファン、シクロデキストリンなどを基盤とした包接錯体や超分子錯体による最近の研究動向を取り上げ、分子認識の基本となる分子間相互作用の基礎を学ぶ。	隔年
	分子生理化学		本講義では、生化学の化学の専門分野の教員が、自身が専門とする研究に関して、その背景を解説した上で、基礎化学的側面から研究内容を理解するために必要な化学、特にタンパク質の構造と機能に関する専門知識を提供する。また、最先端の研究成果について具体例を挙げて解説し、その内容について教員と受講生との間で討論を行う。タンパク質と核酸の構造・機能の基礎を理解するとともに将来高度汎用的職業人もしくは研究者となるために、生化学専門分野の高度な知識を身につけることがねらいである。	隔年
	凝縮相物性論		本講義では、対面形式で以下の内容で説明および討論を行う。主な内容は、長距離秩序を持たない非晶質および液体相の物質について構造解析の種々の方法を解説するとともに、構造や物性とのかかわりについて、実例をあげながら説明する。特に、X線や中性子散乱測定のための加速器施設での実験について概説する。この講義により、結晶の他に無秩序物質の構造解析の方法を理解する。特に粒子線回折法の基礎と応用について理解を深める。 各自のテーマとなる物質について、その構造解析法の糸口を掴むことを目標とする。	隔年
	反応化学概論		分子は原子の組み合わせで構成され、無限の組み合わせが考えられ、機能の種類、機能発生効率も多彩な可能性を秘めている。近年、伝導性、磁性、光物性などの機能を有する分子性物質を活用した分子性デバイス開発が進められている。一方で、実用化を考えた場合、機能性メカニズムを理解することは、物質開発において極めて重要である。そこで、本講義では、有機化合物の光誘起機能性を対象として、光化学反応のダイナミクスにおける基本原理を習得することが目的である。	隔年
	化学反応計測学		電子にはスピンと呼ばれる性質（自由度）がある。電子スピンは物質の磁性の源であるにも関わらず、多くの化合物の磁性は微弱である。その理由は、物質中のほとんどの電子は、磁性を打ち消すようなスピン対を形成するためである。しかしながら、ラジカルや遷移金属イオンと呼ばれる化合物は不対電子をもつため、電子スピンの由来する磁性が現れる。不対電子は物質の性質を決定する原子価軌道に存在するので、周囲に敏感である。不対電子を検出できる電子スピン共鳴（Electron Spin Resonance、 ESR）法を用いることで、化合物の種類や環境を明らかにすることができる。本科目では、ESR法の基本原理および応用例を解説する。	隔年
	量子反応速度論		エネルギー・環境・資源・医療など今後直面する諸問題の解決において、光と物質の相互作用に基づく光機能材料の機能発現機構の解明が重要となる。本講義では、光化学反応を中心とした反応の速度論とこれを支配する量子力学について学ぶ。まず、古典的な反応速度論の概説を行うとともに、コンピューターシミュレーションを用いて化学種濃度の時間変化を計算する方法を学ぶ。これにより、時間分解分光の測定結果を解析し速度定数を決定する方法を学ぶ。次に、光誘起電子移動で生じるラジカル対について、電子スピンの量子動力学が反応に及ぼす影響を学ぶ。まず、量子力学の基礎を学習し、ラジカル対のスピンハミルトニアン の定常解から時間分解ESRスペクトルやその時間変化をシミュレーションする方法を学ぶ。さらに、密度演算子の時間発展を計算することにより、時間分解ESRや磁場効果のシミュレーションを行う方法を学ぶ。ここから、ラジカル対の電子スピン依存的な反応過程を支配する因子について考察する。	隔年
	電気化学要論		電気化学は、電解質溶液論、熱力学的平衡論、反応速度論、電気化学測定法を主体として構成される境界領域の科学である。それらの基礎的事項（電気化学量論・電気化学熱力学・電気化学速度論・電極反応機構）を学ぶことを主目的とするが、電気化学の反応・現象（種々の酸化還元反応、電池反応、電極反応）を電解質溶液論、熱力学的平衡論、反応速度論の視点から理解することも目指した講義を行う。電気化学の基礎的事項（電気化学量論・電気化学熱力学・電気化学速度論・電極反応機構）と各種のボルタンメトリーの特徴について論ずる。また、グリーンエレクトロケミストリーについても取り上げる予定である。電気化学に関する基礎的な事項を学ぶとともに、種々の電気化学測定法の特徴についても学ぶ。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	固体電子材料論		固体物性の観点から見た基礎科目の再確認を行うとともに、固体中の電子の性質を決定づける条件を見だし、その電子の性質から固体の巨視的な性質を理解する。また、自ら固体物性の本質に迫るための能力を身につける。磁性体や伝導材料における電子間相互作用と外場に起因する様々な特性を理解することを目標として講義を行う。また、自ら教科書や参考文献、資料を読み、より広く、深い理解をするための能力を身につけることも目標とする。	隔年
	金属材料物性論		講義の目標は、固体が示す多様な物性は、主に結晶をなしている原子中の電子による多体電子状態によって決められる。これを系統的に学ぶためにまず第2量子化について学び、そこで導入された多電子に対するハミルトニアンに基づいて磁性状態や超伝導状態の性質について学ぶことである。講義の内容は、まず、第2量子化について説明し生成消滅演算子により多電子状態のみならずハミルトニアンなどの演算子を記述法を学ぶ。次に、多電子系を記述する第2量子化されたハバードモデルを紹介した後、サイト当たり1つの電子が占有された場合にその強相関極限でモット絶縁体を実現し、この系の低エネルギー状態がハイズンベルグ模型に帰着することを学ぶ。また、同じハバード模型の弱相関領域においてフェルミ液体の状態になることを学ぶ。最後に、ハバード模型を変形して得られるBCS模型を用いて、異方的超伝導の平均場理論について説明し、異方的超伝導と従来型超伝導の比較を行う。	隔年
	電子移動反応論		電子移動反応は、様々なデバイスから生体反応に至るまで、幅広い分野で重要な役割を果たしている。近年社会問題として取りざたされている、エネルギー・環境問題を背景に、人工光合成、太陽電池、燃料電池などのエネルギー変換デバイスに高い関心が寄せられている。本講義では電子移動反応の基礎を再確認するとともに、エネルギー変換デバイスに関連した光誘起電子移動反応、他電子移動反応、プロトン共役電子移動について解説する。さらに、電子移動反応を基盤としたエネルギー変換デバイス開発に関する最新情報を収集して、革新的なデバイス開発について議論する。	隔年
	表面光化学		光化学の各過程は、過渡的な励起状態から進行するため、励起状態となった分子の拡散がその反応に大きな影響を与える。特に固体を代表とする界面では、溶液中とは拡散過程が大きく異なるため、自ずと溶液中とは全く異なる光反応が進行する。本講義では、各種界面や表面における特異な光反応について解説し、その理解を深めてもらうことを目的としている。光反応の基礎を学ぶとともに、表面に特有の光反応について理解を深めることを狙いとする。	隔年
	応用無機材料化学		本講義の前半では、学生が英語で書かれた無機化学の教科書（Shriver & Atkins' "Inorganic Chemistry-5th Edition"）を和訳し、講義形式で説明を行う。無機化学に関連した専門英語の確認・習得に加え、既習単元についての習熟度を高めること、さらにはプレゼンテーション能力の向上を図ることを主な目的としている。後半では、無機材料開発を行う上で役立つ専門知識（sおよびpブロック元素の多様性と特徴）について講義する。	
	複合材料設計化学		ナノ、マイクロオーダーの物質質量や化学物質を感知する化学センサの設計・開発に関して論じるとともに化学センサの評価法、測定システムについて解説する。ナノマテリアルなど材料科学の進歩、ナノ、マイクロ加工技術の確立により、ナノ、マイクロオーダーの物質を創製、集積して新システムを構築することが可能となっている。このような技術革新において、ナノ、マイクロオーダーの物質質量や化学物質を感知する化学センサの設計・開発の重要性について理解する。	隔年
	生物機能工学		この講義は、医薬品の分類、開発プロセス、標的分子の理解に加え、バイオ医薬品の生産技術や応用、次世代医薬品の革新に関する知識に焦点を当てる。講義を通じて、「医薬品開発」、「バイオ医薬品」、「抗体・ワクチン」、「核酸医薬品」、「免疫細胞医薬品」、「バイオインダストリー」、「タンパク質工学」などを基盤とした実践的な研究や産業応用に役立つ技術について解説し、医薬品およびバイオ医薬品の基礎知識から最新の開発動向までを体系的に習得することを目的とする。	隔年
	機能性材料評価学特論		本講義では、電子ファイルのスクリーン映写と印刷資料の併用で授業を進行する。対面型での授業実施を基本とするが、状況に応じて非対面型（Zoomによるリアルタイム型）授業を組み込む可能性がある。本講義では、先進機能材料の材料特性評価法として注目されている押込み試験の物理的意味およびその具体的方法、関連する国際規格の内容およびその変更経緯に関する理解を得ることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	物質材料科学分野科目群	生物機能材料科学	多糖類・タンパク質・核酸などの生体分子は生物機能材料の重要な構成要素である。これらの機能を理解するために有機化学的な観点から分子構造や反応性を解説する。さらにこれらの生体分子を含む生物機能材料を工業的に生産するためにはプロセス工学的な基礎（移動現象、単位操作）と生物機能材料の生産プロセス特有のプロセス工学（雑菌のコンタミネーションを防ぐ滅菌プロセス、生体触媒である細胞の指数関数的な増加の制御、多段の分離精製プロセス）を解説する。	隔年
		ソフトマテリアル特論	ソフトマテリアルとは高分子、液晶、コロイド、ゲル、ゴム、DNAなどのやわらかい材料の総称である。前半では、高分子鎖の化学構造とコンフォメーション、および熱力学的性質などの物理化学について解説する。続いて、ソフトマテリアルの力学的性質で重要な「粘弾性」について解説する。後半では、三次元網目構造をもつゲルの膨潤理論を中心に説明する。最後に、ソフトマテリアルで構築されたアクチュエータをはじめとする応用例を紹介する。	
		エネルギー変換材料論	エネルギー変換材料論では、太陽光エネルギーの物質変換に関する材料を中心にエネルギー変換材料の基礎から応用までを解説する。持続可能な循環型社会の実現に向けて、高性能なエネルギー変換材料の開発は重要である。エネルギー変換材料の基礎と応用を習得し、関連分野の学術論文の内容を正しく理解して説明できるようになることとする。内容は主として光が関わる触媒化学について取り上げる。授業実施形態は、講義と論文発表形式で行う。	隔年
素 材 創 成 化 学 分 野 科 目 群		表面計測化学	授業形態は、聴講学生のプレゼンテーションを重視した「講義」である。目標は、聴講学生が、吸着技術をはじめ種々の分析法の基礎や概念を理解し、論理的に説明できるようになることである。さらに、試料の特性評価法について、適切な手法を選定して、関連課題についても解けるようになることである。授業計画は、前半は、基本的な吸着現象や吸着技術に関する動向や利用について概説する。また後半は、吸着剤を用いた水環境中における汚染物質の除去法について紹介する。さらに試料の前処理や試料作製、特性評価法についても解説する。	隔年
		機能性高分子材料化学	繊維・プラスチックなど構造物材としての汎用高分子に対し、高性能化・機能化を狙った機能性高分子の開発が進められている。機能性高分子の合成や物性を理解することは、新しい高分子材料開発に有用といえる。本講義では、種々の機能性高分子の合成と物性について学び、機能性高分子についての知識と考え方を修得し、実際の機能性高分子の開発実践に応用できる能力を修得する。調査する機能性高分子のテーマおよび構想について発表し、絞り込んで設定したテーマ、目標について、とりまとめた結果のレポートを作成し発表する。	隔年
		エネルギー化学特論	熱、電気、化学エネルギーは、我々が通常、エネルギーを貯蔵、輸送、利用するときの代表的な3形態である。これらの間の転換原理を理解することは、エネルギー・資源利用技術の理解に不可欠である。特に、エネルギー化学に携わるものにとっては、熱や電力を化学エネルギー（化学燃料）に転換の原理は重要である。近年の地球温暖化の問題から、太陽エネルギーなどの再生可能エネルギーを貯蔵・輸送が可能な化学エネルギーへ転換する技術の重要性が高まっている。本講義では、太陽集熱あるいはソーラー電力の化学エネルギー転換の例を学ぶことで、その基本的原理を修得する。	隔年
		精密高分子合成化学	本講義は対面ゼミ形式で実施する。あらかじめ課題について受講生各自が調査・学習し、プレゼン資料を作成し、発表・解説・討論を通じて学びを深める。本講義は、精密高分子とはどういったものか、また、精密高分子に期待されることとその理由について考え、説明できるようになること、また精密高分子の合成手法および評価方法について学び、説明できるようになることを目標とする。精密高分子の起こり、発展、合成技術の進歩についての概説も行う。	隔年
		無機物性化学	無機化合物には錯体やセラミックスが挙げられ、結晶構造設計により多様な物性を発現させることができる。結晶構造と物性が密接に関係していることから、望ましい物性を結晶構造設計により発現することが求められる。無機化合物が発現する物性への理解を深め、その物性を正しく解析するすべを身につけ、結晶構造設計により望ましい物性を発現するための研究手法を学ぶ。本講義の内容は、化学的・熱安定性に優れ、身近に使用されており、多様な機能を発現するセラミックスを中心として、具体的な例を用いて無機材料の電氣的・光学的物性やその解析手法について学び、自身の取り扱う材料において適切に物性を評価するための議論を行う。さらに、材料の物性発現や物性向上に重要な結晶構造の理解のために、結晶構造解析手法について学び、結晶構造と物性の相関性を議論する。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	環境計測化学		授業形態は、聴講学生のプレゼンテーションを重視した「講義」である。目標は、聴講学生が、現在の環境分析の実態ならびに有用性について、論理的に説明できるようになることである。さらに、資源環境問題の解明・対策について、適切な分析法を選定して、関連課題についても解けるようになることである。授業計画は、前半は、大気圏・水圏・地圏・生物圏を循環している物質の化学分析・同位体分析の手法について解説する。後半は、現在の環境問題の1つである放射性廃棄物の問題を取り上げ、実態把握ならびに解明・対策法について学ぶ。	隔年
	無機材料物性化学		無機材料に関する研究の歴史を多数の文献調査から調査し、研究活動への取り組み方を学ぶ。研究分野における重要性を考慮し、文献を選択する。単にそのデータをまとめるのではなく、当該研究分野がどのように発展してきたかを自ら学ぶ。研究活動は、受身で良かった学部での座学とは異なり、自ら能動的に取り組む必要がある。本講義では、無機材料に関する研究の歴史を多数の文献調査から調査し、その真價を見極め、戦略的な研究計画の建て方について学ぶ。	隔年
	エネルギー材料解析化学		本講義では、地球規模で進行する温暖化やエネルギー問題を理解し、再生可能エネルギー導入に係わる世界の動向、CO2フリーの水素エネルギーの研究開発動向に注目し、時間とともに変動する再生可能エネルギーとエネルギー貯蔵の必要性、再生可能エネルギーをエネルギー源とする水素製造技術の研究動向を学ぶ。エネルギー材料の果たす役割を理解し、その解析技術の理解と習得を目標とする。授業は対面講義形式で実施し、レポートによる成績評価を行う。	隔年
	エネルギー転換プロセス特論		エネルギー転換は、核、太陽、重力などの原始的なエネルギー形態を、電気、燃料などの、より有用なエネルギー形態に転換することであり、不可欠であるため、技術開発と現代生活にとって重要である。この目的のために、エネルギーをある形態から別の形態に転換するためのさまざまなデバイスとシステムが設計および開発されてきた。エネルギー転換プロセスは、2つの主要な段階で構成されている。1段階目は、主要なエネルギー源（太陽、熱、化学物質など）を収集して使用可能なエネルギー形態（電気または燃料）に転換することであり、2段階目は、家、車両、デバイスなどにおけるエネルギー消費である。この講義では、さまざまなエネルギー転換方法とデバイスについて解説する。	隔年
	精密反応設計化学		授業形態は対面講義である。学習目標は、有機合成反応に触媒として利用される様々な遷移金属錯体の構造、物性、反応性などの特徴を理解することである。また、有機合成化学的に重要な触媒反応の特徴、有能性、実験室レベルや工業規模での応用例などについても学ぶ。授業計画として、成書「ハートウィック 有機遷移金属化学」を参考書として使用し、その中の重要な部分についての解説を予定している。	隔年
	粉体工学特論		拡散操作の概念を粒子製造プロセスに適用することで、高度に品質制御された結晶粉体製品の生産が可能となる。拡散現象と粉体生成の双方を固液間で結ぶ工学に、晶析工学がある。本講では、晶析工学を基軸とした粉体製造と分離精製について、基礎と応用の両面から詳述する。また後半は、晶析周辺分野としての粉体工学、すなわち粉粒体ハンドリング（貯蔵、供給、輸送）に加えて、乾燥機や反応器として汎用の流動層について詳述する。	
	乳化分散系化学特論		分散系、コロイド化学における基礎理論とともに、最新の研究成果についても講義する。そして、分散系を利用した高付加価値素材製造プロセスの構築と新規機能性制御法について学習する。具体的には、分散系の基礎、DLVO理論、界面活性性を有する物質の吸着挙動、凝集・分散の動力学、ヘテロ凝集、非水系の分散挙動、緩速凝集、急速凝集の速度論、分散系を利用した製造プロセスと最終製品について解説を行う。なお、講義では、板書や動画をを用いて講義内容を解説する。各回の講義内容に関する課題も行う。授業時間外に動画により事前学習し、授業内でその事前学習にもとづく演習を行う場合もある。	
	拡散操作特論		拡散操作は、蒸留や抽出など平衡関係を利用して物質を分離する操作です。拡散操作は機械的操作とともに単位操作を構成し、化学製造プロセスで重要な役割を果たす。分離精製する技術を理解することは化学工業生産を始め、環境技術、医薬品、食品工業など様々なプロセスを構築する上で欠かせない。この講義では各種化学物質・材料の生産技術・プロセスで多用される分離技術の理論ならびに分離・精製装置の設計・操作法等について学習し、関連する演習と実習を行う。	講義18時間 演習6時間 実習6時間

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	エネルギー変換論		本講義では、化学熱力学について理論解説と問題演習を行う。化学熱力学の基本的な考え方として、反応熱と標準生成エンタルピー、ギブス自由エネルギー変化と燃料電池の最大仕事、標準生成ギブス自由エネルギーと化学平衡定数、燃焼のエネルギーバランスと理論火炎温度について講義する。問題演習では、反応熱の計算、メタン改質による水素製造の化学平衡、メタンの理論火炎温度、燃料からの炭素析出を取り上げて演習問題を受講生に解かせてから解説する。以上により、化学熱力学の分析の方法論を習得させ、それをを用いてエネルギー問題を分析できる応用力を身に付けさせる。	
	先端機器・機械論		本科目においては、先端機器を開発する上で必要不可欠な知的財産戦略や、それらの機器の安全性確保についてのみならず、概説する。それらを適用する社会的背景、例えば、少子高齢化等の現代社会において解決すべき課題をはじめ、国際生活機能分類（ICF）等のQOL計測の目的や、経済的価値についても講義題材として取り扱うことで、解決を要する課題とその具体的解決方法の因果関係について論ずる。特に、医療・福祉用機器などの先端機器について、医療機器開発の具体的例を示し理解を深める。	
	光エネルギー工学		本講義では、光エネルギーに関する基礎理論から最新の応用技術までを講義形式で取り扱う。前半では光（ふく射輸送）の基本法則を中心に扱い、地球温暖化問題の本質的な理解を目指す。後半ではナノテクノロジーを用いた光エネルギーの制御技術やその応用について学ぶ。輻射輸送方程式やマクスウェル方程式などの基本概念を習得し、関連する問題演習を通じて計算力を向上させることを目的とする。授業内容は、光の吸収と散乱、大気放射と地球温暖化、表面プラズモンやメタマテリアル、太陽エネルギーの有効利用などを含む。講義形式で進行し、成績は最終レポートにより評価する。エネルギー問題に関する理解を深め、ナノテクノロジーを活用した新たな技術への知見を養成することを目標とする。	講義20時間 演習10時間
	連続体力学特論		本講義では、機械工学における流体力学・流体工学の知識を基盤として、非ニュートン流体や複雑流体の流動現象を記述するために必要不可欠な連続体力学の学問体系や理論について講じる。内容としては、学部で学修した材料力学および流体力学の復習、連続体力学の概説（現象・事例の紹介）、非ニュートン流体を代表とする理論および現象のモデル化（構成方程式）、連続体力学における支配方程式、応力のテンソル表記、応力に関する基本法則である。	
	機械情報可視化論		熱流体のような不可視現象の可視化と理解は、工学上重要な課題である。特に、機械工学においては、熱流体が関わる現象が数多く存在する。本講義では、そのような熱流体計測の基礎についての理解、その実験技術、可視化計測手法、可視化イメージのコンピュータ処理について講義する。講義では熱流体の具体的な現象に対して、流れの可視化法を適用することで、物理現象の基礎的理解を進める。同時に、熱流体計測の基礎である流れの可視化技術、実験技術、画像のコンピュータ処理についての理解を深める。	
	振動解析・制御特論		本講義は、機械システムの振動制御系設計のために必要となる機械力学と制御工学分野にまたがった内容についてまとめて解説することによって、機械力学と制御工学での問題設定の類似点、相違点を学ぶとともに、振動制御を含む制御系設計手法について学ぶ。振動制御系設計問題と、種々の振動制御手法（パッシブ制御、アクティブ制御、セミアクティブ制御）の概要を学び、機械系の運動や振動制御問題を適切に定式化することができるようになることを目的とする。本講義は、講義形式で行う。授業では、機械力学において振動系モデルとして多用される運動方程式表現と、制御工学でのモデル表現で多く使用される伝達関数、状態方程式を同時並行的に使用する。	
	機械音響工学論		機械技術者に必要とされる騒音防止技術に関する応用的知識について扱う。具体的には、吸音・遮音材料とその原理、測定に関する機材、関連する信号処理、各種機械において頻出する問題と対策の事例などを概説する。さらに、機械技術者として必要な知見となる騒音公害について超低周波騒音なども扱う。また、音響や振動の信号処理、超音波探傷、AEをはじめとして、超音波エコー、人工内耳、補聴器、などの医用・生体など、音響の工学的応用に関しても概説する。	
	マイクロロボティクス論		未来の課題解決に必要とされる次世代のロボティクスやサイバーフィジカルシステムでは、実空間と情報空間を接続するセンサ・マイクロマシンデバイスがその発展のための重要な鍵を握っている。そこで、本講義では、それらの現状について概観した後、その検知原理を固体物理学の理論に基づいて理解し、デバイスの設計・動作解析に活用できるようにする。内容としては、古典力学・量子力学の理論を踏まえた導電性や誘電性などの固体中の電氣的現象と、デバイスの動作原理となる各種物理現象との相互作用について講義し、それらに基づいたデバイス設計とその作製プロセスおよび評価と計測システム構築について、実例も含めて学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	先進機械システム分野科目群	生産加工学特論	本講義では、生産加工学に関する内容を中心に講義を行う。生産加工とは、製品の設計から製造、加工、仕上げに至るまでの一連のプロセスを指し、本講義ではその基本的な理論と応用について説明する。具体的には、生産加工に従事する企業を例に挙げ、国内の製造業とのつながりやその役割を深く理解する。また、生産加工に関する研究内容を国際ジャーナル（特に特殊加工技術に関するもの）を通じて調査し、グローバルな視点から生産加工技術の最新の発展動向を理解する。	
		宇宙探査ロボティクス特論	本講義では、ロボット工学等の工学的知識をベースに宇宙探査の実例を紹介しながら技術を学ぶ。本講義を通して、学んだ工学技術と社会に実装された技術の繋がりを理解する。宇宙探査の歴史についても講義内で紹介し、技術の変遷についても学ぶ。宇宙探査を実現するための課題について紹介し、受講者が能動的に課題の解決方法を考える授業構成とする。アクティブラーニングとして、探査機の一部分を設計し、性能を評価する課題を実施する。	
		マイクロマシン工学特論	現在、世界では、機械や工場に取り付けられた多数のセンサ・デバイスがネットワークで連結され、人工知能で管理できる時代へ向けた取り組みが進みつつある。特に、実空間とバーチャル空間をつなぐために、人や機械がネットワークに繋がるインターフェースとなるMEMSを用いたセンシング技術が注目を集めている。本講義では、マイクロマシン、MEMSと呼ばれる機械工学の最新技術について、そのベースとなる半導体製造技術を含めて、学部で講義内容を復習するとともに、学んだ知識を使い、チームで連携し新製品や新しい応用を考案する試みを実施する。	
		機械材料学特論	機械設計においては、材料選定のための材料強度や機能特性に関する知識がきわめて重要である。本講義では、材料科学の基礎となるミクロ組織の熱力学について詳述するとともに、工業的に利用されている金属、非金属材料の特性や強化機構、およびそれらの加工技術について紹介する。また、後半では、X線回折や電子顕微鏡を用いた材料分析技術についても述べる。機械に使用される材料の表面特性や強度の発現機構について深く学び、機械設計における材料選定の指針を得る。また、材料の加工技術や構造解析手法に関する知識を習得することを目的とする。	
		機能性表面特論	さまざまな機械にとって、高付加価値化や高機能化は重要な課題であり、そのためにはバルク特性だけでなく機能性を有する表面の開発が重要である。しかし、機能性表面にしばしばトライボロジー現象が関わるが、複雑な多因子問題であり諸現象を深く理解しつつ、最適な機能性を検討する必要がある。そこで本講義では、機能性表面の役割やその作成技術について、主にトライボロジー分野に絞って事例を紹介し、関連するトライボロ時技術とともに解説する。	
電 子 情 報 通 信 シ ス テ ム 分 野 科 目 群		デジタル無線伝送工学	本科目では、現在普及しているデジタル通信システム、特に無線通信システムを理解するための基礎知識の習得を目標とする。デジタル通信システムの基本的な構成要素である2値及び多値デジタル変調及び復調、通信の信頼性向上のための通信路符号化、通信資源を有効活用するための多元接続の基本について学ぶ。また無線通信路における電波伝播のモデルについて解説すると共に、伝搬に伴う変動への対策であるダイバーシティ受信を含めた伝送技術について解説する。本科目は講義形式にて行う。	
		デバイス・センサ特論	主に、デバイス・センサに関して重要である、pn接合ダイオードおよび電界効果トランジスタ（FET）について講義する。動作の基礎と、理想とのずれ、交流応答などについて学ぶ。さらに高周波デバイス、センサについても講義する。理想pn接合ダイオードと現実の素子との違い、pn接合の交流応答、スイッチング応答の基礎を理解する。また、接合型FET（JFET）、MIS構造および容量電圧特性、MISFETの動作特性、高周波デバイス、光センサについての基礎を身につける。	
		有機エレクトロニクス特論	有機エレクトロニクスにおける基礎的な内容から応用まで取り上げ、最新のエレクトロニクスを支える有機エレクトロニクスに関する知識の習得を目指す。基礎的な内容では、有機電子材料の基礎概念や電子物性・光物性について説明する。応用については、有機薄膜の作製・評価法から様々な有機デバイスの動作機構について学ぶ。さらに、受講生をいくつかのグループに分けて、与えられた有機エレクトロニクスのテーマについてプレゼンテーションを行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	電子情報通信システム分野科目群			
	応用超伝導工学		超伝導現象の基礎理論から始まり、臨界状態モデルによるマクロスコピックな超伝導電磁気学、応用のための線材・導体・マグネットの基礎理論と設計方法、超伝導の各種応用に関する講義を行う。内容は、超伝導の量子的物理現象、超伝導の巨視的電磁現象及び超伝導の各種電力機器（超伝導回転機、超伝導送電ケーブル、超伝導変圧器、超伝導限流器、SMESなど）、輸送機器（磁気浮上列車など）、産業応用機器（NMR、MRI、磁気分離装置など）、加速器、核融合装置への応用の現状、技術課題について取り扱う。講義内容に関する期末レポートを課し、理解度を評価する。	
	電子光デバイス特論		本講義では、半導体や電子デバイスの基礎知識をもとに、発光ダイオード、半導体レーザー、太陽電池等の光電変換デバイスに加え、各種ディスプレイ等の動作原理と、デバイス作製に用いる半導体プロセス技術、各種材料等について解説する。以下の三点を到達目標とする。(1) 光電変換デバイスの動作原理について説明できる。(2) 光電変換デバイスに用いられる材料について説明できる。(3) 光電変換デバイスを作製するためのプロセス技術について説明できる。	
	画像処理特論		本講義では、画像処理システム開発に必要な信号処理理論と画像処理技術を実践的に学ぶ。数値演算シミュレーションソフトを用いた演習を通じ、デジタル画像表現、フィルタリング、スペクトル解析、離散コサイン変換（DCT）、ウェーブレット変換（DWT）、スパース表現、ノイズ除去、画像復元などの理論と応用を習得します。授業は講義とオンデマンド演習を組み合わせ、MATLAB Graderを活用した課題への取り組みを通じて理解を深める。成績評価は課題報告（90%）と最終レポート（10%）で行う。これにより、画像処理技術の体系的な理解と応用能力を養成する。	
	光エレクトロニクス特論		本講義では、光エレクトロニクスの技術開発や新規技術の創生に必要なナノフォトニクスと量子エレクトロニクスの基礎理論と応用技術について学ぶ。光の性質、光と物質の相互作用、および物質の光学応答の基礎理論について学ぶ。さらに、従来の伝搬光とは異なるナノメートル領域の近接場光や量子性の性質を用いるナノフォトニクスと量子エレクトロニクスについて解説する。また、これらに基づく最新の光科学の研究例について学ぶとともに、光エレクトロニクス技術への応用展開について考える。	
	電子機器特論		スマホ、ゲーム機など具体的な電子機器を例に挙げ、技術的な発展と電子機器の発展について関係性について明示し、開発の経緯及び歴史的背景と技術の発展について解説を行う。また電子機器を構成する電子部品、電子材料についての概説を行う。今後工学的なアプローチに必要であろう知識の習得のために必要な補完的な知識に関する解説を行う。これまで学習してきた内容が社会実装においてどのようにつながっており、経済との結びつきなどについて例を挙げて説明を行い、現在の社会課題と今後の展望について広範な知識、技術、理論について解説を行う。	
	電子情報通信特論		本講義では、無線通信の基本技術を紹介する。具体的には、無線伝搬メカニズム、無線チャネルモデル、チャネル容量、変調/復調、ダイバーシティ、MIMO（多入力多出力）技術を理解させることを目的とする。講義は以下の内容で実施する。 第1回：Introduction 第2-3回：Path Loss and Shadowing 第4-6回：Statistical Multipath Channel Models 第7-8回：Capacity of Wireless Channels 第9-11回：Digital Modulation and Demodulation 第12-13回：Diversity 第14-15回：Multiple Antennas and Space-Time Communications	
	電子材料分析評価法特論		半導体材料やデバイスの開発あるいは半導体プロセスにおいて、半導体材料とデバイスの評価を知識と実践が必要となる。本講義では、半導体材料の評価技術の知識を会得することを目的とした講義を行う。内容は半導体評価技術を理解するための半導体物性の基礎、半導体とプローブ粒子との相互作用、構造・光学・電気的特性評価を行うための装置の構造と原理とその応用を取り扱う。電子材料評価を実践するにあたり、適切な評価技術の選択に必要な知識を授ける。	
	薄膜工学特論		我々の身の回りにある携帯電話やコンピュータなどに用いられている半導体やハードディスクなどの電子素子には、「薄膜」が用いられている。また、この「薄膜」は、電子素子の高速化、小型化、軽量化などに貢献するとともに、新規電子素子の実現に大きく寄与している。そこで本科目では、物理的な方法による薄膜の作製に用いられる真空技術や、それを用いた真空蒸着法、スパッタ法、CVD法などの作製方法及び代表的な薄膜作製技術である、スパッタ法により作製される、薄膜の特徴について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学位共通科目群	電子・光機能性材料特論		電子物性・半導体工学などの基礎的知識を習得したうえで、今後身の回りで使える電子・光材料について学び、電子・光材料についての原理・基礎・応用について理解を深める。キャリア輸送・p-n接合について、体系的に理解できること、および、物質の光学特性や評価方法について説明できることを目標とする。	
	高電圧大電流工学特論		高電圧や大電流に関する知識、理論、技術などを概説する。また、高電圧や大電流の発生方法、計測方法について説明を行う。更に、高電圧や大電流技術の応用について概説する。高電圧・大電流工学は、主として多量の電気エネルギーを送るための送電・変電機器を対象に進展してきた。しかし、現在では送電電圧1000kV級のUHV(Ultra High Voltage)も可能な段階となり新たな局面を迎える一方、昨今は産業用や実験用に高電圧・大電流による注入パワーの増大、高電圧・大電流の作用を利用する機器の開発が目覚ましい。本講義では、高電圧・大電流の分野における電気電子工学技術の基本原理と基本技術を学ぶ。また、安全対策について内容を出来るだけわかりやすく、広い範囲で講述する。	
	光コヒーレンス工学		レーザなどのコヒーレント光の基本的な性質と応用技術について学ぶ。光エレクトロニクス、フーリエ光学、ホログラフィー技術、光ファイバー及び、光通信技術についてその基礎的理論から最新の応用技術までを網羅し概説する。後半はこれらコヒーレント光技術の応用として、光ファイバー、光通信、センサー、光干渉計測、光コヒーレンストモグラフィーなどの生体光計測技術、及びホログラム技術によって応用されるデバイスについて解説する。	
	プラズマ物性特論		本科目は講義形式により対面で行う。プラズマは、自然界に様々な種類が存在し、産業応用として半導体製造、光源、金属加工などに利用される。本科目では、プラズマ物性に関して、プラズマの特性、生成方法、測定方法などについて解説する。プラズマに関する基礎知識を身につけると共に、プラズマの特性、生成方法、測定方法などについて身につける。また、プラズマの物理を通して、古典物理との関係を理解する。学習達成目標として、1. プラズマの基本特性について理解する。2. プラズマ応用に用いられるプラズマの生成法及びプラズマの特性を理解する。3. プラズマの測定方法について理解する。	
人間情報システム分野専門科目群	生体情報工学特論		脳神経系の構造と機能、神経生理学の基礎から始まり、脳を中心とした情報の送受信の様式、運動と感覚の特性、生体のメカニズムを模した工学への応用について、英語教材を使い学習する。また、実験器具を用いて視覚系の特性、神経と筋、反射などについての実習する。さらに、英語での研究成果発表を目指した課題学習も行う。	講義26時間 実習4時間
	神経生理工学特論		脳神経生理現象を解明し理解するNeuroscienceを応用して、実際の生活への応用を目指すNeural Engineeringが目指されている。本講義では、脳機能イメージングやブレインコンピュータインタフェース、ニューロマーケティング、ロボティクスなどの神経工学に焦点を当て、実際の臨床応用や、自律運動やコミュニケーションを支援する技術への応用、マーケティングへの応用について講義する。神経生理工学の概要について理解し、脳神経生理機能の解明や支援技術、マーケティングなどに応用できるようになることを目指す。これまでの基礎知識を背景とし、文献等で専門知識を獲得し、内容をまとめプレゼンする技術も習得する。	
	支援システム特論		支援システム特論では、主として視聴覚障害者や肢体不自由者の生活を支援するシステム設計に関して講義する。高齢者になれば身体に障害をもつようになることが多く、超高齢社会を迎えた日本では、そのような視点から技術開発を行うことを検討しなければならない。講義内容では、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、ユーザビリティ、アクセシビリティ、エンパワメント、ノーマライゼーション、リハビリテーションなどを工学的に支援するために必要な数理工学的知識、電子情報工学的知識を取り上げる。	
	コミュニケーション支援特論		高齢者・障害者のコミュニケーション支援において、情報通信技術が欠かせない存在となっている。最新の情報通信技術とそれを応用したコミュニケーション支援技術について、障害の種別と利用者のニーズごとに概説する。コミュニケーション支援は、一般的な文字・音声を高齢者・障害者に伝えられる手段と、高齢者・障害者が入力できる/しやすい手段を考える学問である。一般的な文字・音声の符号化について幅広い知識を有していれば、様々な観点からコミュニケーション支援の方法を検討できるようになる。そこで符号化の例として、電信、古代文字、暗号などを取り上げ、これらの知識がコミュニケーション支援を考える上で役立つことを示す。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学位 共通 科目群	人間情報システム分野専門科目群			
	デザイン表現特論		本講義では、モノと人との関わりから開発された優れた道具を調査し、それらが開発された背景と、これまで開発されてきたグッドデザインの変遷と照らし合わせ、演習課題を加えながら、デザインとは何かについて論じてゆく。デザイン表現の領域は、様々な人間支援のカテゴリーに関わり広がりを見せている。また、時代背景と密接な繋がりを持って、日々変化し続ける実社会での生活環境を彩り成長を続けている。関わる学問領域は多種多様で、芸術的な感性を活かした表現が前に出てくることは勿論だが、現代社会学や自然科学領域を横断することが必要とされている。純粋芸術とは違った側面を持っており、個人の我を張った表現では無く、社会を見つめた中での着地点が必要とされる。また、行政や産業界からも地域創世やグローバル経済で活躍出来る人材育成が求められており、時代を示し文化を作り出し発信することが出来るデザインの領域は注目されている。街に出て観て見ると、新たな生活スタイルに適応した様々な商品が開発され、新潟の地域産業に於いても次世代のスタンダードを目指した開発が行われている。このような領域の優れたモノを調査しながら、次世代の生活スタイルにあったモノを考えてゆくところに、本講義のねらいがある。	講義20時間 演習10時間
	演奏表現特論		演奏表現特論では音楽演奏を実際に行いながら、主として自然科学との関連や工学との融合について検討していくものである。演奏とは楽器等を用いて自分自身の考えや感情を音で表現し、他者に伝えていくことである。また、演奏は時代や環境の中で変化していくものであり、楽器という道具をどのように現代の社会環境の中で活かしていくか、様々な考察が必要である。演奏する楽曲の創作者の意図を汲み取りながら、自由な発想で表現を考えていくことができるようになるために、演奏も含めた講義を行なう。内容は演奏に関する様々なトピックについて、話し合いながら演奏も含めた講義を行なっていく。演奏に関する方法や形態、道具としての楽器、音楽の伝達方法、役割など、演奏を中心に多角的に捉えていくことを学ぶ。	
	音声聴覚情報処理特論		音声と聴覚の情報処理について解説する。ヒトの発声器官の構造と機能、その特性、情報処理の内容やモデルを紹介する。また、ヒトの聴覚の構造と機能、その心理物理的な特性、情報処理の内容やモデルを紹介する。これらを通して、音声と聴覚の情報処理、システムとしての人間を理解する。音声の生成機構に関する生理学的なシステムを工学的に理解し応用できること、聴覚機構に関する生理学的なシステムを工学的に理解し応用できること、更にはこれらに関する工学技術を理解し応用できることをねらう。受講者は、次のことに関する知識が得られる：(1) 音声や聴覚の特性を通して情報を授受するシステムとしての人間の理解、(2) ヒトの発声と聴覚の機構の概要の理解、(3) それらの心理物理的特性の概要と情報処理モデルを説明できる。	
	分子生体機能工学特論		分子生体機能工学特論では、「生き物の仕組み」を俯瞰的に理解するために、「生体機能の根拠としての分子機構」と「分子現象の展開としての生体機能」の2つの視点から検討する。現代の医工学において、「分子メカニズムに基づく生体機能の理解」の重要性は非常に大きい。生理学・生物学・化学・物理学・情報学などの諸分野で個別に研究されてきた「生き物の仕組み」を、「分子」というキーワードのもとで統一的理解することを目的とした講義を行う。内容としては、生体機能を分子レベルで理解するために、生体組織のマクロな構造や現象と、分子スケールでの構造や法則を結びつけて考える方法について講義する。さらに、未知の生体機構を解明する技術を習得するために、理論的な基礎と最新の実験手法を取り上げる。これらを通じて、「分子生体機能」に基づいた新しい技術を創造する力を養う。	
	立体造形特論		芸術表現や製品開発において、形状や素材には無数の選択肢が存在する。本講義では、主に立体造形作品やインスタレーション作品を例に挙げながら、アイデアやコンセプトを造形化する際の形の導き方や、素材のもたらす効果と制作技法について講義と実材を用いた制作・実習を行う。各自の研究テーマと関連付けながら、「精密鋳造技法または石膏鋳型やシリコン型を用いた鋳合金鋳造による立体作品制作」または「製品製作時に発生する端材を用いたアート作品やプロダクト、ワークショップ等の考案」のどちらかを選択して行う。	講義10時間 実習20時間
	運動生理学特論		健康とスポーツをテーマにしながら幼児から高齢者までの幅広い年代の健康に焦点を当てながら授業を進める。運動生理学や機能解剖学などの難しい運動科学の話を初学の学生に分かりやすく解説する。また、より実践的に理解を深めるためにグループワークにより授業を展開する。具体的には、授業内容からグループの中で話しあって目標を設定し、自分たちで設定した目標に向けた生活習慣プログラムを立案して実践する。その効果検証や科学的根拠の収集を通して、実生活に生かした運動生理学を学ぶ。本講義は日常生活のあらゆる場面に健康とスポーツに関連させながら話題を提供し、運動生理学や機能解剖学など健康とスポーツの全般における知識の習得と理解を深めていくことを目的とする。また、本講義で得た知識や情報を自身で日常生活に活用し、また家族や友人に伝えることで広く健康社会が広まることをねらいとする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学位共通科目群	人間情報システム分野専門科目群			
	視覚情報処理特論		視覚情報処理特論では、主として人の視知覚特性を光学、心理物理学、神経生理学、大脳生理学や眼球運動の生理学を総合的に学習することで理解する。人が利用するプロダクトやシステムを開発する上で、人の視知覚特性を反映することは、人に対する親和性の高いモノづくりには欠かせない。人の視知覚特性を複数の学問分野を取り上げながら総合的に学習し、人が利用するプロダクトやシステムを開発につなげることを目的とした講義を行う。内容は、人の視知覚のメカニズムについて講義を行う。眼球の構造、視覚系整理の基礎、視覚の時空間特性、眼球運動の生理機構と眼球運動の種類、眼球運動と空間定位、近見反応、立体視、奥行き知覚、自己運動知覚、発達・加齢・障害について取り上げる。	
	液体物理学特論		水は生命現象において大きな役割を果たしている。例えば、タンパク質などの生体分子は水に囲まれることで機能している。この講義では生命現象を理解するために必要となる液体の物理的性質について統計力学を用いて学ぶ。まず、生命現象における水の役割を学び、液体の性質、固体・気体との違いを理解する。次に、分子の集団としての液体の性質を理解するために、統計力学の基礎を講義したのち、液体の統計力学である積分方程式理論を使い液体の構造を記述する。後半では、液体の輸送現象を取り扱い、特にブラウン運動について説明する。	
	保健理工学概論		保健理工学の目的、意義、保健学および自然科学分野における保健理工学の位置づけ、臨床応用、社会貢献、研究事例等について概説する。後半は、ものづくり体験ワークショップを開催し、問題設定から解決方法までを実践的に習得する。 （オムニバス方式／全8回） （6 飯島 淳彦／2回） 人間支援科学と保健理工学（生体医工学①・神経生理学の研究紹介） （70 堀 潤一／2回） 人間支援科学と保健理工学（生体医工学②・生体計測工学の研究紹介） （186 林 智彦／2回） 人間支援科学と保健理工学（生物物理学の研究紹介） （6 飯島 淳彦・70 堀 潤一・186 林 智彦／2回）（共同） ものづくり体験ワークショップ	オムニバス方式 共同（一部） 講義14時間 実習16時間
	人間情報学特別講義（心理）		人間情報学特別講義（心理）では、主として人の心の機能である「認知」を実験心理学や周辺基礎領域である脳神経科学を総合的に学習することで理解する。人が各感覚器から入力される情報を知覚、認知、意思決定に至るまでに関与する無意識の機能をモデル化し、さまざまな現象を統一的に議論できるようになることを目的とした講義を行う。内容は、人の認知に関する心理反応のモデルについて講義を行う。脳科学の基礎、錯覚、知覚の恒常性、注意、記憶と学習について取り上げる。	
	人間情報学特別講義（感性）		リアルタイムな情報処理を得意とするビジュアル・プログラミング言語（Max/PureData等）を使い、リアルタイムなコンピュータ処理を援用した表現の可能性について検討する。リアルタイムに変化する音処理の技法や発想についてデモンストレーションを交えながら紹介、解説する。科学的知性と芸術的感性の融合を目指したメディア表現領域の紹介から、自身の問題意識と繋げながらプロトタイプ制作を試みることで、どのような視点でプロトタイプモデルを考えたいかを説明できるようになることを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （389 福島 諭／8回） メディアアートなどの芸術表現のみならず、様々な場面で音というものを使った表現の可能性について講義をし、各自のプロトタイプを考えながら演習を行いながら理解を深めていく。 （367 鈴木 太朗／7回） メディアアートのためのプログラミングの技術を駆使して、実践的な作品制作のための技術とコンセプトメイキングについて学ぶことを目的とする。様々な場面で展開した実践例を紹介し、演習課題を用いて理解を深めてゆく。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	基礎生命科学分野科目群			
	免疫細胞生物学		授業形態は対面講義形式でおこなわれ、目標は自己・非自己など免疫学特有の概念を理解すること、および、免疫現象を生命科学の1つとして位置づけ、関連する生物の生理的な現象とそれにかかわるメカニズムを理解すること、生命現象を免疫学の観点から考え、理解し、科学的に解釈できることである。授業計画は、事前に配布された使用テキストと参考文献（原著論文のPDF）を予習しておき、ワークショップで解説を交えて議論する。	
	遺伝子工学概論		遺伝子工学概論では、現代の生命科学研究を支える遺伝子や細胞を扱う基礎的および応用技術について、パワーポイント資料を用いて講義を行う。講義内容は、核酸の抽出や解析技術、原核生物や動物の培養細胞を扱う技術、細胞への遺伝子の導入に必要なベクターの構築方法と発現制御、ゲノム編集技術、およびこれらの技術の応用に関する内容を含む。これらを通じて、遺伝子工学技術の基礎を学ぶとともに、社会における応用例を学び、大学院修了後の研究や技術開発に役立つ知識の習得を目指す。	隔年
	糖鎖生物学		糖鎖生物学では、主として生体分子の中でも特に糖鎖に注目して、その構造、生合成経路、内因性機能および外因性機能について解説する。糖鎖は、核酸とタンパク質に続く生命の第3鎖と呼ばれ、その構造機能相関は現代生物学において重要性が高い。具体的な内容は、分野の歴史的背景、生合成経路、細胞内外での輸送タグ機能、細胞接着機能、系統発生と個体発生における位置づけ、細菌やウイルス感染における機能、癌などの疾患における機能、分析手法などを含む。	
	構造生物学特論		本講義では、講義を聴講するとともに、自ら論文を読んで、また自らプログラムやデータベースを使用して、タンパク質や核酸の生体高分子が、どのような化学的性質や立体構造に基づいて機能発現し、生命現象を演出しているかを学ぶ。目標は、タンパク質や核酸の生体高分子が、どのような化学的性質や立体構造に基づいて機能発現し、生命現象を演出しているかを理解することである。また、生体高分子のデータベース、分子表示ソフト、立体構造の解析手法等の使用方法も理解することである。本講義は、講義および実習形式で行う。	隔年 講義20時間 実習10時間
	分子細胞生理学特論		この授業では、主に免疫細胞分化や細胞間相互作用、細胞内シグナル伝達の仕組みに関する研究の先端を学び、その意義や将来性について考える。本科目のねらいは、分子生物学、細胞生物学分野の先端研究に関する文献を読み、内容の理解に努め、他者に分かり易く説明できるようになること、および科学論文の内容や自身の研究内容について分かりやすくまとめ、他者とのディスカッションに積極的に参加できることである。授業は、教員による講義と受講生によるプレゼンによって行う。	隔年
	バイオイノベーション特論		バイオイノベーションに関連した学際研究のうち、生物の「老化」や「寿命制御」について論じる。近年、ヒトの高齢化が社会問題として生じている中、老抗老化薬の探索など、その応用面が注目されている。まず、老化とは「何か」を考えるだけでなく、「なぜ」そして「どのように」生物は老化するのかについて考えていく。そして、生体分子の解析等を通じて、基礎生命科学の成果をいかに新規な産業応用に繋げるのかについて理解することを目的とした講義を行う。本講義は、集中講義形式で行う。	隔年
	細胞生物学特論		オルガネラとタンパク質の品質管理、および、植物の生殖について、分子・細胞レベルでのメカニズムに関する最新の知見を講義する。あわせて、その研究方法についてイメージング解析技術を中心に講義する。また、上記講義内容に関連する最新の論文の輪読を行う。これらによって植物生理学および細胞生物学の研究方法を考察し、自分の専門とする研究分野における的確な作業仮説の構築とその検証のための実験計画立案の方法を理解する。	隔年 講義20時間 演習10時間
	植物生理学特論		動物のような移動手段を持たない植物は、発芽したその場所において、様々な環境の変化（環境ストレス）を受容して成長、生存してゆかなければならない。そのため植物は様々なストレス応答および耐性機構を発達させている。本講義では植物にとって環境ストレスとは何か、植物は環境ストレスをどのように感知し、どのような対抗手段をもつのかについて解説する。特に、高温や低温、水分や乾燥などの非生物学的ストレス要因に対抗するしくみについて、個体、細胞、分子レベルでの理解を目指す。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学位 共通 科目 群	基礎生命科学分野科目群	神経内分泌学	動物の行動と生理機能は、生まれながらに持っている環境適応のしくみであり、視床下部－下垂体系を中心とした神経内分泌系によって調節されている。本講義では、神経系、内分泌系、神経内分泌系を中心とした組織間・細胞間の化学情報伝達系の構造と機能についての基礎知識を解説するとともに、これらの化学情報伝達系が関わる生命現象の調節に関する先端的研究論文を精読する。また、ホルモンをはじめとした化学情報分子の定量的解析法と生物統計の基礎を解説する。授業は、第4タームに集中形式（五十嵐キャンパス）で行う。本講義の目標は、動物の行動と生理機能を統合的に調節している神経内分泌系の構造と機能、およびその中で働く化学情報分子の定量的解析法の理解を基に、動物の環境適応のしくみを理解することである。	
		植物分子遺伝学特論Ⅰ	植物の環境応答について、突然変異体を用いた分子遺伝学的研究手法による解析方法を学ぶ。植物の環境応答機構についての分子遺伝学的研究手法論を、講義及び原著論文ゼミを通して理解する。植物の分子遺伝学的研究手法論を理解できること。植物の環境応答機構について原著論文を読み、パワーポイント等のプレゼンテーションツールを用いて人に説明できることを学習の到達目標とする。	隔年
		動物ゲノム多様性概論	ゲノムとは生物のDNAに含まれる遺伝情報全体を意味する。本講義では、動物の多様性をゲノムレベルで理解することを目的とし、近年台頭している次世代シーケンサーの発展の歴史と原理を概説するとともに、大規模配列データから生物学的な意味を抽出するためのパイオインフォマティクス手法を概説する。また、最近の研究で明らかになってきた動物の多様性をもたらす進化メカニズムを含む進化生物学に関するトピックについても紹介する。	
		比較認知生態学	本講義では、ヒトのもつ認知・心理の基盤を理解することを目指して、動物の認知・心理の研究について生態学的な観点から概観する。授業では、教員・学生間で検討すべき認知・心理現象を挙げ、各自が注目する現象を担当していく。担当する現象について、関連の文献調査・文献紹介を行い、全体で議論を行うことで互いの理解を深めていく。最終的に、各担当が考案する研究計画を立てることに取り組み、専門分野とは異なる研究分野においても計画・考察できる能力を身につけることを目的とする。	
		先端臨海実習	本実習は、生物相豊かな佐渡島において、多様な海洋動物を採集し、それらを用いて動物の形態や機能、生態、進化に関する実習を行う。具体的な実習内容は、担当教員と相談して決定するが、実習生が自律的に課題を設定して研究に取り組むことも可能である。本実習は、佐渡臨海実験所において宿泊しながら対面形式で実施する。本実習の実習内容と日程は、担当教員と相談して決定するが、主に海洋生物の採集が可能な8月から10月、および3月に実施する。	共同 講義2時間 実習28時間
		生物形態機能論	植物の細胞は動物細胞と共通点を持ちながらも特有に進化している。そこで、最近の研究の手法の原理を理解して、得られたきたデータを正確に読み取り、解釈する能力を身につけながら、現在、どこまでが明らかにされており、どこからが不明であるのかを理解する。最近の植物細胞学、植物生理学、機能形態学などの知見を学び、解析するために用いられている最近の研究の手法を知り、それぞれの研究成果の示す意味を明確に理解して、生物の環境適応の仕組みや細胞の進化についての知識を深める。	
		共生生物学特論	本科目は担当教員および参加学生の総説や原著論文等の紹介を基本とした講義および演習方式で実施する。生物の進化の過程においては、オルガネラの獲得と進化に代表される、ほかの生物種との相互作用が引き起こす共進化が大きな要因のひとつになっている。本特論においては共進化のさまざまな例について学ぶとともに、共生に関連した最新の研究動向について概観する。本特論の目標は、生物学における共進化の位置づけについて理解すること、論文を読んで、その研究分野の背景や研究の流れを理解した上で、他の学生にもわかりやすくプレゼンテーションできることが目標である。	
		動物進化発生学特論Ⅰ	動物形態の進化・多様性は発生過程の遺伝子発現の変化によってもたらされる。そのため、発生生物学やゲノム生物学の観点から形態の進化・多様性を理解する必要がある。この科目では、英語で書かれた専門書を輪読する演習形式でおこなう。各回、履修学生は、事前に専門書の該当箇所を読み和訳しておき、授業時間内にディスカッションする。脊椎動物の進化と発生についての重要な基本的な知識・概念や解析方法について学び、最新の研究を理解できるようになることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	応用生命・食品科学分野科目群	食品加工技術論	食品加工技術論は実践型食づくりプロジェクト履修者を優先する科目である。講義形式により、食品の加工技術について解説する。食品素材の品質と保存性を向上させ、用途適性を高める目的で種々の加工が行われる。本講義では、主に米に関する食品加工を中心に、その他穀類、野菜、果実、畜肉などの素材を使用した乾燥食品から多水分食品の加工方法にとどまらず、介護食、治療食、災害食、機能性表示食品などの新分野、更には国際化及び宇宙食において共通する基本的な加工技術について、品質評価、品質変化、保管・貯蔵などの側面と消費者のニーズなど、様々な視点から、企業での実践経験を踏まえて解説する。	
		食の安全・安心論	この授業は「農と食のスペシャリスト養成プログラム」の必修科目として開講されている科目であり、この分野を専門とする非常勤講師が2日間の集中講義として対面で実施する。安全な食品を安心して食べたいと消費者は願っているが、実際には「安全とは何か」、「安心とは何か」について十分理解されていない。この授業では、食の安全について様々な危害要因のトピックスに対するリスクアナリシスの現状を解説する。また、安心について消費者等の気持ち・感情を含め社会科学の視点から理解する。	
		植物分子生物学	高等植物の機能分子が、細胞レベルにおいてどのように細胞構造・機能・動態を制御し、その結果、個体レベルにおける機能発現に関与しているかを解説する。また、トランスクリプトミクス、プロテオミクス、メタボロミクスを利用した研究の方法と、得られたデータに基づく生命現象の理解についても解説する。本講義では、1. 高等植物の機能分子の発現、機能、修飾、調節について説明できること、2. 高等植物における遺伝子操作と発現制御について理解できること、3. 高等植物を利用したバイオテクノロジーを理解するための知識を修得できることを目標とする。	
		植物環境応答学概論	高等植物は種子から発芽した後、ライフサイクルを同じ場所で過ごさなければならない。そのため、植物には様々な環境条件に対して応答し、適応する能力が要求される。植物はその外界環境に適応するため、細胞内成分やさらにその形作りを巧みに変える。この講義では、植物をとりまく光・温度・水あるいは栄養状態など様々な環境変化に対する植物の適応機構について、特にその情報伝達機構および遺伝子応答、さらに代謝変動に着目し解説する。	
		植物細胞工学特論	植物細胞工学は、植物バイオテクノロジーとほぼ同義である。現在、遺伝資源保存、優良個体のクローン増殖、無病個体の育成、新品種育成等、農業における様々な分野で植物バイオテクノロジーが利用されている。本講義では、植物バイオテクノロジーの中心技術である組織培養や遺伝子組換えの原理について、最新情報を交えながら解説する。また、組織培養技術や遺伝子組換え技術の農業分野への応用についても、最新情報を交えながら解説する。	共同 隔年
		微生物機能学	これまで微生物を対象とした研究は、分子生物学的手法によるものが主であった。昨今、微生物学分野でも生物物理学・物理化学の手法を活用して微生物の機能を理解しようとする新しい試み（例えば1細胞・1分子レベルでの解析など）が行われている。本講義では、「微生物」と「生物物理学・物理化学」をキーワードとして、微生物機能解明におけるユニークで先進的な研究や解析方法を紹介する。新しい学際的な研究や学問分野について学ぶとともに、学生自身でも自身の研究分野における学際的な新規の解析方法、研究についてプレゼンテーションを行い、受講生全員と教員でディスカッションを行う。	
		微生物分子遺伝学	微生物分子遺伝学では、細菌の遺伝子発現制御機構及びグローバル制御機構について解説するとともに、いくつかの最新研究トピックスについて紹介する。また、細菌の遺伝実験に用いられる手法とその原理について解説する。授業は講義形態で行う。本講義では、細菌の遺伝子発現とその制御機構に関する知識、さらにはそれらの研究とその方法について理解を深め、さらにはSmall RNAなどの遺伝子発現制御機構の最新の研究について理解することを目的とする。	
		微生物天然物化学	天然有機化合物はホルモンやフェロモンなどとして生物内や生物間の生理機能に重要な機能を果たすとともに、医薬品・化粧品・機能性食品素材などとして人間生活に広く利用されてきている。天然有機化合物の化学構造、生合成、生理活性を理解することは、生命現象の理解などの基礎研究から生物を利用した有用物質の生産などの応用研究において重要である。本講義では、基礎から最新の天然物化学・生物有機化学・ケミカルバイオロジー研究までを説明する。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学位共通科目群	応用生命・食品科学分野科目群	動物栄養生理学	動物栄養生理学では、講義形式により、栄養素の生理機能、栄養素による制御について教授し、吸収メカニズムの理解から、摂取窒素の制御による栄養学と食品科学の接点と応用について、代謝調節機構、品質を含めて論ずる。栄養学の各論および発展的な内容について理解を深め、吸収メカニズムの理解から、摂取窒素の制御による栄養学と食品科学の接点と応用について、代謝調節機構、品質を含めて解説する。栄養素の生理機能、栄養素による制御について、また吸収メカニズムの理解から、摂取窒素の制御による栄養学と食品科学の接点と応用について、代謝調節機構、品質に関して教授する。	
		米利用科学論	主要食料である米の利用に関する科学的基盤について解説する。精米や加工などの行程と、それにともなう成分変化や利用形態の違い、米の品種別利用法など、様々な視点から解説する。米の精米技術、加工技術、様々な行程における品質及びその成分変化、さらには食料としてだけではなく色々な食品原料としての利用方法などについて、科学的な理解を深める。 学習の到達目標：米の品種、品質、加工技術、利用方法に関する基礎的な知識を修得し、現在の米研究の進捗状況や各種課題を踏まえた科学的な視点で米利用に関して考察することができる。	隔年
		食品評価学	科学研究を遂行するためには、様々な科学の目(すなわち評価)が大切である。それぞれの食品に関する課題について調べて考えをまとめ、それをプレゼン・討論することで、食品を科学的に評価(科学の目で見る)ことができるようになることを目的とした講義を行う。内容は、第1回（講義ガイダンス、各自の課題割り振り、課題調査及び課題発表のやり方についての講義）、第2回～第4回（課題調査、アドバイス）、第5回～第14回（課題発表(1回につき2名)及び討論(発表者以外は必ず質問)）、第15回（まとめと講評）である。	
		食品生化学	私たちは毎日いろんな食物を食べている。しかし、それらの食物がどのようなもので、どんな成分を含み、どのようにして作られているのかをほとんど理解していない。そこで本講義では『食物の不思議を探る』というテーマで“食物のなぜ？”を科学的に追求する。この授業では、調味料や動物性・植物性の各種食材、発酵食品、調理器具、加工・調理方法、食に関する制度や法令など、多岐にわたる内容を取り扱い、幅広い知識を習得する。	
		食品分子機能学	食品由来の機能性成分が三次機能を発揮するに至る分子の基盤について最新の知見や研究事例を交えて解説する。また、食品成分の機能性評価法、作用機構の解析手法についても解説する。	
		食品工学概論	食品素材の製造過程において、酵素が用いられる事例が多い。特に澱粉糖化産業においては多数の酵素により製品が製造されている。食品工学概論においては、食品産業に多く用いられる酵素について、その種類や用途・および反応解析の手法を学ぶ。特に澱粉糖化産業を中心に食品製造に良く用いられる酵素について、種類や使用法について解説する。さらに、酵素研究に重要な反応速度解析について解説を行うとともにその解析法の実習を行う。	隔年
		醸造学特論	日本酒学は、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する。本科目は日本酒学の中核的な講義の一つである。具体的には、日本酒（清酒）醸造に関する原料・微生物・製造技術等について概説する。なお、本科目は、清酒メーカーでの経験を有する教員が、それを活かした講義を行う。	隔年
		食品・農業情報工学特論	講義の形態は、講義形式と演習形式の複合形態とする。講義の目標は、食品・農業分野の情報通信技術の利活用および品質評価などの意思決定支援に必要な知識を身につけることである。講義では、食品・農業分野への情報通信技術利用の現状と問題点、様々なセンシング技術と情報通信技術、食品・農業分野への情報通信技術利用の先駆的な事例として、現場視察などを行うとともに、生産者の経験と勘を情報化する取り組みに関することなどを概説する。	講義12時間 演習18時間

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学位共通科目群	食品品質管理学		食品の製造において品質管理は必要不可欠であり、食の安全を守る上でも非常に重要である。食品の品質が守られる仕組みと食品工場や飲食店での衛生管理等について、全15回の講義を通して解説する。また、受講者自身が文献調査により最新の知見や研究事例について調べて紹介することで、理解を深める。食品の品質や微生物に関連する専門書を解読し、スライドの作成・発表の構成・実施を繰り返し行うことにより、能動的に学び、食品の品質管理の重要性について理解する。また、受講者同士で積極的に質疑応答を行い、質疑応答のスキルを磨いて学会発表等に役立てる。本講義は食品の品質管理に関する知識の習得とともに、研究発表を行う上での能力向上を図ることもねらいとする。	
	環境土壌学		土壌は、生物生産、物質循環、環境保全、生物多様性維持等の様々な生態系サービスを提供している。本科目ではこうした土壌の持つさまざまな機能と環境の調和に関連し、幅広い視点から生物生産環境および生物生存環境の保全や修復、適正化等に関して理解を深めることを目的とする。生命環境・食料科学プログラムにおいて、土壌の有する様々な機能と環境問題との関連を理解するために必要な講義である。	隔年
	環境分子生態学		環境分子生態学では、環境中の核酸やタンパク質などの生体分子を利用した生態系解析手法について解説する。本講義では、土壌や動植物組織中の微生物群集などの微小生態系から、陸域の動植物群集や水域の生物群集といった広域スケールに至るまで、環境分子を用いた多様な生態系解析手法を取り上げる。特に、微生物生態系の多様性や機能を解明するために利用されているDNAメタバーコーディングやメタゲノム解析、環境DNA（eDNA）を用いた解析手法について概説する。また、これらの手法が実際の研究でどのように活用されているかを具体的な事例を通じて紹介し、研究や環境モニタリングへの応用可能性について議論する。	隔年
	木質成分化学		最大の植物バイオマスである樹木を中心にセルロース、ヘミセルロース、リグニンなど様々な植物成分の生合成および化学構造、その植物体内における分布と機能、各素材の構造と反応性、生態系における機能について、光合成から土壌分解までをこれまでの一般的な知見に加え、最近新たに明らかになった事例を含め有機化学的に説明する。そして、その特性活かした将来の利用方法についても、最近の実用化や研究事例を含め説明し、循環型社会への貢献について考える。	
	食料流通論		食料・食品の流通経済に関して制度的な枠組みやシステム変化の方向について講義する。具体的には、まず流通経済についての基礎理論および我が国の食料流通体系の歴史的展開過程について概説した後、主食として食糧管理制度に基づき国の流通管理・流通規制が貫徹されていた時代から、近年、急速に自由化した米の流通システム、卸売市場制度を軸に、公設民営を基礎とした青果物や花卉などの生産園芸作物の流通システム、インテグレーション・加工資本の在在を特徴とした畜産物および牛乳乳製品流通システムについて整理し、水産物流通、加工食品などとの比較の資源も織り込み、食料流通問題の現段階的な課題を検討する。また、近年の政策的トピックスである「みどりの食料システム戦略」「種子・種苗問題の公的管理」「食料・資材価格高騰問題」などを取り上げ、その市場論的見地からの課題把握を試みる。	
生物資源科学分野科目群	植物細胞工学特論		植物細胞工学は、植物バイオテクノロジーとほぼ同義である。現在、遺伝資源保存、優良個体のクローン増殖、無病個体の育成、新品種育成等、農業における様々な分野で植物バイオテクノロジーが利用されている。本講義では、植物バイオテクノロジーの中心技術である組織培養や遺伝子組換えの原理について、最新情報を交えながら解説する。また、組織培養技術や遺伝子組換え技術の農業分野への応用についても、最新情報を交えながら解説する。	共同 隔年
	植物病理学特論		植物病原の生態を取りまとめたうえで、植物の病害抵抗性や微生物の拮抗作用に基づく環境保全型病害防除法について紹介する。さらに広く植物保護の視点から、虫害および雑草害についても化学的防除の必要性和殺菌剤・殺虫剤・除草剤をはじめとする各種防除資材の特性や作用機構を解説する。植物が持つ病害虫抵抗性の作用機構を分子レベルで説明できるようにするとともに、栽培の現場で利用されている種々の防除資材や病害防除法の基礎的知見を習得する。	隔年
	植物病原学特論		植物に病気を引き起こすウイルスや細菌には生活環を宿主植物に依存しているために防除が難しいものも多く、新たな防除法の確立が期待されている。本講義では非対面・リアルタイム配信形式で、病原体と宿主植物の2つの観点から、農作物が発病するメカニズムに対し人類がどのようなアプローチで研究に挑んできたのかを概説する。なお本科目は、国際熱帯農業センター（CIAT）で勤務した経験を有する教員がそれを活かして植物病原体と植物の相互作用について授業を行う。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	生物資源科学分野科目群 植物エピジェネティクス概論		塩基配列には表れない、DNAメチル化やヒストン修飾パターンなどの遺伝情報を扱う研究分野をエピジェネティクスという。エピジェネティックな遺伝子発現制御は、生物の発生や形質発現に大きな影響を及ぼしている。本講義では栽培植物を含む顕花植物において、エピジェネティクスが関与する生命現象にはどんなものがあるのかを解説する。また、エピゲノムの恒常性がどのように維持され、世代を超えて遺伝し、あるいは変化するかを学ぶ。	隔年
	農作物学特論		農業を支える農作物とその遺伝資源について、各農作物の特性、国内外での用途や需給、栽培過程、遺伝的背景や遺伝的構造での最近の課題や問題点、関与する遺伝子などを解説して議論を深めていく。各農作物の特性や栽培方法、遺伝育種の特性を、具体的に論文などを読みながら把握する。対面による授業を基本とするが、場合によってはzoomによるオンライン形式による授業も行う。主な作物（イネ、ムギ類、マメ類など）の栽培ならびに生育環境、遺伝育種について説明できる。	隔年
	作物生理学特論		作物生理学特論では、作物における生命活動について、細胞間や器官間の情報伝達の視点から検証する。一度芽生えたとその場から逃れることのできない植物は、周囲の環境に適応しながらその生活環を全うしようとする。その過程では個体全体を最適な状態に保つ必要があり、そのためには細胞や器官同士で情報を共有することが重要である。これまでに植物ホルモンやペプチドをはじめとした様々な分子がその情報伝達に関わることが知られており、それらは作物の収量形成にも大きく影響する。この授業科目では、これらの情報伝達物質（植物ホルモン、ペプチド、タンパク、RNA、代謝物、イオン）について取り上げる。さらに、受講生が、自身の研究内容に関連の深い情報伝達物質についての文献を独自に調べ、そのプレゼンテーションを行う。	隔年
	動物・植物相互関係論		植物・動物相互関係論では、主として草地生態系のシステム分析、モデリング、家畜と植物の相互作用解析法について解説する。草地生態系における、エネルギー流、物質循環、草地での家畜の生理反応、放牧の草地植生を制御することは、適正な動物生産を行う上で重要である。講義の内容は、これらの項目における基礎的な概念と知識を開示し、さらにこれらを制御するための草地生態系のシステム分析・モデリングの手法、家畜と環境の相互作用解析の手法を解説する。	
	動物量的遺伝学		資源動物の育種改良を図る上では、量的形質の遺伝現象を詳細に捉えていく必要がある。また、動物集団の遺伝的多様性と有効な大きさの維持や拡大を図る上でも、量的遺伝学的な解析が必要となる。つまり、動物の量的遺伝学的現象を集団レベルから分子レベルにわたって観察し、考察していく目を養うとともに、解析手法の知識を得る必要がある。そのために、資源動物および野生動物における様々な量的遺伝学的現象について、集団レベルから分子レベルにわたって講述する。	
	動物機能形態論		人間を含む動物の生命を維持する機構を理解する上で、体の成り立ちと構造を把握し、それぞれの働きによって統合される機能を理解することは必須である。本講義では、各種動物の器官が、どのような組織、そして細胞から構築されているかを、光学顕微鏡ならびに電子顕微鏡レベルで解説するとともに、関連した生理機能について分子レベルで説明する。加えて、これらを基礎として、動物の経済的形質に関わる泌乳、産卵、産肉などの生理的機構について解説する。	
	動物生殖細胞利用論		優良な形質を持つ動物や家畜の開発を目的として、生殖細胞である始原生殖細胞や胚性幹細胞の構造や機能、発生過程での役割について論じる。また、これらの細胞が持つエピジェネティクスの特徴や再プログラム化のメカニズムを解明することで、畜産学分野での新たな応用の可能性を探る。特に、遺伝子改変技術を活用し、疾病耐性を高めた家畜や生産効率の向上を実現するための技術開発に注目する。これにより、例えば、乳量の増加や肉質の改善といった家畜生産の具体的な改良が期待される。また、これらの技術が環境負荷低減に寄与し、持続可能な畜産業を支える手段となる可能性についても考察する。さらに、家畜育種における遺伝子改変技術の導入に伴う倫理的課題や消費者の受容性、規制の問題にも触れ、畜産学と先端技術の融合がどのように未来の食料生産に貢献できるかを議論する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	野生植物生態学特論		教育関係共同利用拠点となっている新潟大学演習林・静岡大学演習林の相互の大学演習林において森林植生・樹木の生理特性を調べることで、太平洋型と日本海型の森林の特徴や生態学的差異を具体的に理解することを目標とする。新潟大学の学生は新潟大学佐渡演習林の多雪地冷温帯植生についての概要を整理した上で、静岡大学上阿多古・中川根・富士の3フィールドを巡り、太平洋側冷温帯林の樹種構成・種特性について学ぶ。	講義2時間 実習28時間
	森林遺伝育種学特論		DNA解析技術の進歩に伴い、遺伝情報を活用した分子育種が林木でも行われるようになり、森林資源の創出を目的とする人工林の育成に活用され始めている。一方、遺伝資源として重要な天然林では、遺伝的多様性や遺伝的地域性が明らかにされるようになり、これらの知見が管理や保全に活用されるようになった。本科目では、海外の文献あるいは英語で書かれた専門書の内容をまとめることにより、森林遺伝育種学に関する専門的知識を深める。遺伝情報に基づいて森林を育てる「森林の遺伝的管理」の重要性についての理解を深めるとともに、森林遺伝育種学に関わる諸問題について、知見を深め、論理構成力を養うことを目標とする。	
	島嶼生態学特論		本科目では、島嶼環境を例に挙げながら、生物生息場所の地理的な隔離が生物の進化にどのように結びつくのかを考える。また本州と島のように集団間を比較するための具体的な手法（写真撮影、形態比較等）を学ぶ。佐渡島での実習とオンラインでの島嶼生態学講義および写真を使った形態比較実習（ランドマーク法など）を行う。野外実習で行う佐渡島での実習に参加することが必要である。本科目を通じて生物進化のメカニズムについて学び、さらにその保全について考察できることがねらいである。	実習23時間 講義11時間
	森林保全工学特論		日本の森林の多くが分布する山地の河川では洪水等の自然災害が頻発し、人間の社会的な活動に悪影響を悪影響与えているが、一方で洪水等による攪乱は豊かな溪流生態系を形成・維持するために不可欠である。森林保全工学では、洪水等の自然災害を、山地河川の環境を保全しながら、災害を防ぐための技術を学ぶことを目的とした講義を行う。講義では、河川環境の動態、天道的な河川管理の手法、伝統的な河川管理が引き起こした問題、自然環境の保全と防災を両立を目指した新しい河川管理の手法を学ぶ。	
	森林空間計測学特論		発展途上国における森林減少・森林劣化に由来するCO2の排出量は、人為活動による排出量全体の約2割を占め、化石燃料の使用に次ぐ大きな排出源となっている。このため、森林減少と森林劣化からの排出を削減するための国際的な制度としてREDD+の構築が議論されている。REDD+は、途上国が行う森林減少・森林劣化を抑制する取組みによるCO2の排出削減、森林保全等（「プラス」活動）によるCO2の排出防止および炭素固定による大気中のCO2の削減に対して、何らかの経済的インセンティブ（資金やクレジット）を与えるというのが基本的な考え方である。このため、排出削減量の評価には科学的なアプローチによって森林炭素の変化量をモニタリングすることが求められている。森林炭素モニタリングでは森林調査とリモートセンシングの組み合わせが有望視されている。この科目の履修を通して、REDD+の枠組みを理解すると共に森林炭素モニタリングにおける系統的な地上調査ならびにリモートセンシングの役割について知識を深める。	
	農村計画学特論		授業形態は、メディア（zoomによるリアルタイムオンライン授業）である。授業の目標は、農村計画学・農地工学の考え方を深く理解するとともに、事例をもとに、今後のあり方について考えることにある。授業は、農地整備、環境との調和への配慮、生活環境整備、コミュニティをキーワードとして、講義および学生発表で構成される。講義では基本的事項の確認から研究トピックまで概説する。学生発表では講義内容を踏まえ、上記のキーワードに関する事例発表をおこなう。	
	農地工学特論		土壌はわれわれの生活基盤や農地ばかりでなく、生きもの（植物・動物）を支えている。今日、農地（畑、水田、果樹園など）には、食料生産と環境保全を両立させることが求められている。それは、世界的な土壌劣化と気候変動が背景にあるためである。そこで本講義では、気候や土壌の異なる世界の農地を俯瞰し、持続可能な営農のあり方を工学的な観点から解説する。具体的には、保全農業（最小耕起、地表面被覆、輪作）に着目し、成果や課題について最新情報にもとづいて議論する。	
	基盤施設工学特論		私たちの日々の生活や地域の農・産業はさまざまな基盤施設に支えられている。灌漑や洪水防止等の目的で建設される堤防、ダム、水路などの基盤水利施設を対象に、地球環境の危機的な状況と公共事業の縮減の中で取組まれるようになった新規材料の開発や施設の長寿命化対策などの取り組みを紹介する。これに伴い施設の設計の哲学も変わりつつある。現行の構造物設計の基本を学ぶとともに、構造物材料の非破壊検査法を紹介する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	生産機械利用学特論		農業・食料・農村における動向やこれからの政策について解説し、また生産機械として、農業機械および農業施設を構成する主要な機器と性能について論じ、農業機械を農業生産の場に導入・利用する上で必要となる作業性能や安全性の評価法、効率的な利用法について講義する。農業分野における生産機械として利用される機械・施設の種類、役割、機構について理解し、生産効率および安全性の向上、省エネ等生産コスト低減への技術を理解する。	
	食品・農業情報工学特論		講義の形態は、講義形式と演習形式の複合形態とする。講義の目標は、食品・農業分野の情報通信技術の利活用および品質評価などの意思決定支援に必要な知識を身につけることである。講義では、食品・農業分野への情報通信技術利用の現状と問題点、様々なセンシング技術と情報通信技術、食品・農業分野への情報通信技術利用の先駆的な事例として、現場視察などを行うとともに、生産者の経験と勘を情報化する取り組みに関することなどを概説する。	講義12時間 演習18時間
	生物機械工学特論		世界人口の増加に対応するために必要な農業生産技術の最新研究動向はどうなっているのか。また、農業生産の増大と環境への負荷低減を両立するにはどうすればよいのか。本科目では、Climate Smart Agricultureを取り上げる。各国が取り組むスマート農業の現状や農業分野から排出される温室効果ガスを削減する取り組みを実施することでカーボンクレジットを創出して資金調達を図る活動がある。本講義では、国際学術雑誌や最新の技術動向を通じて最先端の研究の現在を学ぶとともに、論文作成に必要な基本技能の習得にも配慮する。	
	精密農業概論		時間的、空間的に変動する環境要因に対し、農業の情報化により管理作業の最適化を試みる精密農業について扱う。農業の情報化がどのように発展してきたか、自動化やロボット化といった、スマート農業への発展について、精密農業の歴史とともに理解を深め、今後の農業のあり方について考える。さらに、精密農業が利用している代表的なセンシング技術や解析手法の仕組みについての理解を深め、その手法の利用条件や限界を理解し、情報収集や情報の可視化を効率的に行う能力を培う。	
	水文学特論		Outline: Seminar class that explores important 21st century issues facing humanity in hydrology and water resources management. Key topics for debate include the impacts of climate change and land use change on the hydrological cycle and water resources availability. Objectives: improvement of English skills, especially listening and discussion. Gain greater understanding of the most important challenges facing water resources managers in the 21st century. Preparation of a presentation on a chosen topic of interest, pitched at a level so that non-specialists can understand the issues. First hand experience of field survey to measure stream discharge and snowpack characteristics. 概要：人類が直面している水文学と水資源管理の重要な 21 世紀の問題を探究するセミナークラス。議論の主要トピックには、気候変動と土地利用の変化が水循環と水資源の利用可能性に与える影響が含まれる。 目標：英語力、特にリスニングとディスカッションの向上。21 世紀の水資源管理者が直面している最も重要な課題に対する理解を深める。専門家以外でも理解できるレベルで、興味のあるトピックに関するプレゼンテーションを準備する。河川流量と積雪特性を測定するための現地調査を直接体験する。	講義14時間 実習16時間
	農業水利調整論		水資源として理論上、最大限利用可能な水の量は限られている。この量を多数の利用者が一定のルールに従って使用している。我が国では「水利権」と呼ばれており、協議によって誰がどの程度取水するのが定められている。しかし、水利権量の決定は単純ではない。これまでの歴史的背景や地域特性などを踏まえて、多くが納得する結論を導く必要がある。本科目では、明治時代以降の産業構造の変化に伴う水利権取得における様々な葛藤や紛争について、名著「河川水利調整論」から学び、今後、水利を扱う土木技術者が計画立案する上で備えておくべき知識と考え方について理解を深める。	
	流域環境思想論		流域環境思想論では、近年環境保全や防災の文脈で重視されている「流域」というコンセプトに焦点を当て、流域をめぐる価値的・思想的論点について理解を深めることを目指す。「流域」とは何か、それは人間にどのような影響を及ぼしてきたのか。「流域」を舞台に繰り広げられる人と大地、あるいは人間社会の関わりやせめぎ合いを学び、この概念についての理解を深める。ジグソー法を用いた資料の読解やディスカッションを中心とした参加型の講義である。他者との対話を通して、自分の見方・考え方を広げ、掘り下げることを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学位共通科目群 流域環境学分野科目群	陸域環境動態特論		本科目では、陸域環境動態全般の概論、測定手法および関連する最新の研究について解説する。第1・2回は、陸域生態系で営まれる炭素循環や温室効果ガス動態の概観、第3・4回は、陸域環境動態の研究手法、第5～15回は、陸域環境動態研究の最前線について学ぶ。	
	昆虫生態学特論		地球上で最も繁栄した分類群の一つである昆虫を題材に、生態学の基礎的知見を習得する。また、群集データの分析演習を通じて数値データの扱いを身につける。昆虫と自然環境・人間活動との関わりを念頭におき、種間相互作用、個体群・群集生態学の理論と実証について習得する。また、データ分析演習を通じて生態学の分析スキルを身につける。これらを通じて、自然資源の持続的利用に関わる意思決定において不可欠な、生態学の諸概念を身に付ける。	講義16時間 演習14時間
	大気影響評価学特論		本科目では、大気中での汚染物質の挙動や陸域への沈着過程、大気由来の物質の森林生態系内での生物地球化学的な挙動・循環や樹木・土壌の応答、さらに人の健康への影響に関して疫学研究成果を用いた影響指標の導出やその経済評価について、我が国を含む東アジア酸性雨モニタリングネットワーク（EANET）による観測結果や関連研究、文献紹介も含めて基礎的な理論を解説する。大気汚染物質の沈着・暴露、それにより生じうる生態系及び健康への影響について、その基本的なプロセス、観測・調査方法、評価・解析手法を理解する。これらを通じて、大気・生態系・人間社会の繋がりについて考える能力を養う。 （オムニバス方式／全15回） （358 佐瀬 裕之／5回） 汚染物質の陸域への沈着過程と生態系への影響の可能性 （333 浦川 梨恵子／5回） 大気汚染物質の流入が森林の物質循環に与える影響 （364 ZHU MEIHUA／5回） 大気汚染や気候変動に関して社会・経済学の観点から論じる	オムニバス方式
	大気環境科学特論		本科目では、大気環境学全般の概論、オゾン・粒子生成を含めた大気化学、大気測定手法に関する概論、東アジアにおける大気汚染実態およびモニタリング結果の概観、排出量の推計手法の概論と東アジアにおける排出量の概観、大気シミュレーションの概要と科学をベースとした大気環境管理について解説する。大気に放出された人為起源・自然起源物質が移流・拡散および光化学反応等の物理・化学作用を経て大気汚染物質となるプロセスの全体像を理解するとともに、アジア大陸の東部に位置する日本および周辺諸国の現在と将来の状況の把握を促す。大気汚染物質のモニタリング方法、計算機を用いた数値解析の手法について理解する。 （オムニバス方式／全15回） （359 佐藤 啓市／5回） 大気環境学全般の概論と大気化学 （349 黒川 純一／5回） 大気測定手法と東アジアにおける大気汚染の状況 （388 HUO MINGQUN／5回） 大気汚染物質の排出、大気質モデリング、及び大気環境管理	オムニバス方式
	生物センシング工学特論		省ロス・高効率で高品質な食料生産を実現するためには、育種から生産、収穫、貯蔵・流通、加工までの各ステージにおいて対象物を高精度に計測する技術が必須となる。本講義では、複雑性と多様性を有する自然界の対象物に内在する法則、現象を解説すると同時に、その応答を「光」で計測するための手法や原理、構成などについて講義する。また、画像や分光データ等の光学データから生物に内在する現象の情報を取り出すための統計的解析手法や、各種予測モデルの構築と考察指標についても解説する。	
	都市・環境デザイン分野科目群		現代においては、自然・都市環境の評価・予測から土木構造物・建築物・工業製品の設計実務まで、対象とする現象のモデル化とシミュレーションが広く普及している。本科目では、モデル化・シミュレーション技法において広く用いられている有限要素法について、その基礎について学ぶ。特に、構造解析のための有限要素法の定式化および基礎理論、ソリッド要素、構造要素、混合法定式化のほか、振動・波動問題を含む動的解析の基礎について学ぶ。	
	コンクリート工学特論		コンクリート構造物の維持管理に必要な基礎的な知識、具体的には、コンクリート構造物の劣化メカニズム、コンクリート構造物の劣化抵抗性（耐久性）、劣化の程度と構造物あるいは部材の性能の関係、点検・劣化予測・性能の評価・対策の判定方法、補修・補強工法の概要と選定の考え方について学ぶ。また、劣化した実構造物を題材とし、各自が劣化の診断と対策を提案するケーススタディを行うことで、座学で学んだ知識の応用を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学位 共通 科目 群	都市・環境デザイン分野科目群	維持管理工学特論	わが国では、高度成長期以降に多数のコンクリート構造物が建設された結果、近年では経年によるコンクリート構造物の劣化が顕在化している。経年劣化したコンクリート構造物を適切に維持管理するためには、物理化学的な視点からコンクリートを捉える必要がある。本科目では、セメントの製造方法およびコンクリートの硬化プロセスやコンクリート構造物に生じる劣化現象を材料科学的な視点から学ぶ。特に、コンクリートを構成するセメント水和物の物理化学的な特性とその微細構造の形成過程について学ぶ。	
		海岸環境工学特論	波浪や津波・高潮などに対する合理的な対策を策定する際には、波浪や津波・高潮などの特性を理解し、設計に生かすことが必要となる。海岸保全施設の計画・設計等に必要な波浪の変形と外力の評価、調査・観測法および最新の沿岸域環境問題等について学ぶ。海岸における波浪・海浜流・地形変化などの物理過程を理解して、沿岸域で発生する災害のメカニズムや沿岸域の自然と社会環境との調和を考慮しつつ、海岸保全計画の立案や海岸構造物にかかる波力を求めることができるようになる。	
		環境地盤学特論	安全で安心な都市環境の創造には、地盤災害を適切に予測し、防災対策を講じることが不可欠である。特に近年では、数値解析を活用した高精度な予測手法が注目されており、地盤工学における新たな課題とされている。本講義では、数値解析の理論的背景と具体的な解析手法を体系的に学ぶとともに、それらを実際の地盤設計や施工に適用する技術について深く理解する。さらに、数値解析を活用して地盤の安定性を評価し、災害リスクを軽減するための実践的な手法についても取り扱う。このように、地盤工学の理論と実務の架け橋となる知識を習得することで、都市インフラの安全性向上や持続可能な環境づくりに寄与する技術者の育成を目指す。	
		建築構造設計特論	建築基準法に基づく許容応力度法および終局強度法による建物の安全性を確保するための各種構造設計法の概要を示す。本講義では、ディプロマ・ポリシーにおける人材育成目標および到達目標に基づき、都市・建築および人間の安全性を確保するための建築構造物を構築するための基礎理論・技術および応用する方法を学び、自ら課題を発見し、解決する能力や定められた期間で報告する能力を身に付ける。また、カリキュラム・ポリシーにおける学修内容・方法に基づき、建築材料・構造分野について高度かつ最先端の知識を学修し、自然・社会・人類に対する倫理的な判断能力、各種災害から都市・人間の安全性を確保する建築を構築する基礎理論を身に付ける。	
		建築構造設計演習	建築基準法に基づく許容応力度法および終局強度法による建物の安全性を確保するための各種構造設計法についての演習を行う。本講義では、ディプロマ・ポリシーにおける人材育成目標および到達目標に基づき、都市・建築および人間の安全性を確保するための建築構造物を構築するための基礎理論・技術および応用する方法を学び、自ら課題を発見し、解決する能力や定められた期間で報告する能力を身に付ける。また、カリキュラム・ポリシーにおける学修内容・方法に基づき、建築材料・構造分野について高度かつ最先端の知識を学修し、自然・社会・人類に対する倫理的な判断能力、各種災害から都市・人間の安全性を確保する建築を構築する基礎理論を身に付ける。	
		建築振動学特論	授業形態は講義形式である。目標と授業計画は以下の通りである。建築物の耐震設計においては、地震動に対する構造物の挙動を理解しておくことが重要となる。本講義では、振動学の基本や地震動に対する建物の応答などについて学ぶ。また、課題演習を通して解析プログラムを作成し、構造物のモデル化手法や地震応答解析手法を習得する。本講義では、ディプロマ・ポリシーにおける人材育成目標および到達目標に基づき、都市・建築および人間の安全性を確保するための建築構造物を構築するための基礎理論・技術および応用する方法を学び、自ら課題を発見し、解決する能力や定められた期間で報告する能力を身に付ける。また、カリキュラム・ポリシーにおける学修内容・方法に基づき、建築材料・構造分野について高度かつ最先端の知識を学修し、自然・社会・人類に対する倫理的な判断能力、各種災害から都市・人間の安全性を確保する建築を構築する基礎理論を身に付ける。	
		建築計画・設計学特論	新潟県にある実際の町（新潟市古町地区）を対象とし、グループでリサーチ・デザイン検討などに取り組み、古いまち並みの保全と住環境改善といった課題を探り、再開発・まちづくり計画を実施する。住民との協働を通して、都市内の計画提案を実施する授業である。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学位 共通 科目 群	都市・環境デザイン分野科目群	住居建築計画特論	本講義では、住居とその集合の計画において、持続可能な計画を進めるにあたり重要となる、周辺環境の歴史性や場所性の把握に関する諸理論を理解することを目的とした講義を行う。内容は、住居とその集合の計画理論について、1960年代のヴェナキュラーの概念提示から2010年代までの展開過程を講義形式で解説する。本講義は、建築設計実務の経験を有する教員が、建築計画・設計に先立って理解すべき諸概念について授業する。	
		建築環境工学特論	授業形態は講義である。目標は、建築環境工学の専門分野、特に、建物に関わる騒音振動の防止策や騒音制御、コンサートホールなどの良い響きを作る室内音響学に関わる専門知識や技術についての講義を行い、それらの修得を図る。授業計画は、1回～10回が建築物の界壁及び界床の遮音設計、並びに給排水設備の防振設計の理論、具体的技術、アカデミックスタンダード及びその評価手法である。11～15回は、室内音響設計等の理論及び具体的技術である。これらには、一級建築士の大学院実務認定のかかる関連科目として、将来建築関係の実務で活動することを目指す大学院生に必要な事項を含む。	
		建築環境計画特論	授業形態は講義及び演習である。目標は、都市や建物の空気環境、熱環境に関する応用的知識を習得し、海外の建築環境設計、建築環境計画に関する考え方を理解し、建築環境工学、建築設備工学に関する広範な知識を習得する。快適で安全な居住環境の計画・設計を行うための基礎理論・技術を習得する。講義計画の概要は、海外の建築環境工学の特に熱環境、空気環境に関する書籍を指定し、各自の分担を決める。次回以降、決定された分担に従い、分担部分を日本語に翻訳し、授業時間内に内容を発表、その後レポートとして提出する。	講義10時間 演習20時間
		建築環境計画演習	授業形態は演習である。目標は、都市や建物の熱環境、空気環境に関する応用的知識を習得するため、プログラミングの習得と熱・空気環境に関する知識、考え方を理解する。更に建築環境工学、建築設備工学に関する実務的知識を習得し、快適で安全な居住環境の計画・設計を行うための基礎理論・技術を修得する。授業計画の概要は、第1回は授業及び演習概要の説明を行う。第2～5回は表計算ソフトウェアを用いてプログラミングに関する基礎的な知識と構造、構文の概説を行う。第6～7回は配列を用いた計算方法の習得を行い、温熱・空気環境に関する計算を行う。第8～15回は温熱環境、空気環境に関する課題についてプログラムを作成することで計算を行い、建築環境を計画する上で有用な知識の習得を行う。	
		建築設備設計特論	授業形態は講義である。目標は、建築設備設計の実務訓練を目的とし、実際の建築空調設備の設計手法を講義する。それにより、実際の建築設備の設計が行えるような各種概念、設計手法、計算手法などの具体的知識を修得する。授業計画は、第1回は全体の流れ及び関連資格について、第2～5回は空調設備の熱負荷の算定、第6～7回は空気線図、第8～9回は空調システム及び熱源機器の概要、第10～11回は空調システムの系統図の設計作図、第12～13回はダクトの工場見学、第14～15回は空調システムの平面図の設計作図である。	隔年
		建築設備設計演習	授業形態は演習である。目標は、建築設備設計の実務訓練を目的とし、実際の給排水衛生建築設備の設計の演習を行う。実際の建築設備の設計が行えるような各種概念、設計手法、計算手法などの具体的技術を関連実務資格の取得に対応できるレベルで修得する。授業計画は、第1回は全体の流れ及び関連資格について、第2～5回は給水設備、第6～7回は給湯設備、第8～9回は排水設備、第10～11回は関連資格の試験の解説、第12～15回は給排水システムの設計作図である。	隔年
		建築環境解析学演習	授業形態は演習である。目標は、実際の研究開発および設計実務で使用されている専用のシミュレーションソフトウェアを使って、建築環境工学における数値流体力学（CFD）を題材として、実務的知識および技術の基礎を体験的に修得する。授業計画は、第1～4回はまず、データ可視化ソフトウェアの操作法に関する演習を行う。第5～8回は、ここから数値流体力学（CFD）ソフトウェアを用い、CFD分野で最もポピュラーなベンチマーク問題であるキャビティ流れを例題に、2次元の基本的な流れ場の解析を実施し、結果を理解し解析精度を把握する。第9～11回は、3次元のキャビティ流れ問題を例題に、3次元問題の2次元問題との物理的および解析上の違いを把握する。第12～15回は、空調・換気ダクトによる吹出しおよび吸込みを有する非等温流れ場を含む基礎的な流れ場の解析を行う。大嶋拓也が第1～8回、有波裕貴が第9～15回を担当する。 （オムニバス方式／全15回） （117 大嶋 拓也／8回） 第1～4回は、データ可視化ソフトウェアの操作法に関する演習を行う。第5～8回は、ここから数値流体力学（CFD）ソフトウェアを用い、CFD分野で最もポピュラーなベンチマーク問題であるキャビティ流れを例題に、2次元の基本的な流れ場の解析を実施し、結果を理解し解析精度を把握する。 （225 有波 裕貴／7回） 第9～11回は、3次元のキャビティ流れ問題を例題に、3次元問題の2次元問題との物理的および解析上の違いを把握する。第12～15回は、空調・換気ダクトによる吹出しおよび吸込みを有する非等温流れ場を含む基礎的な流れ場の解析を行う。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	都市・環境デザイン分野科目群	風景計画特論	良好な風景を実現するためのデザイン・コントロール(景観規制)や歴史的建造物保全の計画手法について、行政の制度や民間 活動の実態・課題を把握する。具体的にはイギリス、フランス、イタリア、アメリカ等の先進諸国の景観計画や歴史的建造物の保存制度等について調べ、日本の現状と比較することで、今後の日本の課題を把握する。国内外における文化的成熟の推移や社会的制度の発展経緯を理解し、持続可能なまちづくりの一環としての景観計画の実態について学ぶ。	
		都市デザイン特論	都市の活力や快適性をもたらす都市デザインの重要性について、国内外の事例を通して理論と実践手法を論じる。前半は、国内外の都市デザインの理論を概観した後、日本国内の各都市の都市デザインの実践例を学ぶ。後半は、前半で学んだ都市デザインの理論を活用して、新潟大学のキャンパス改善の計画案の作成に取り組む。キャンパスは小さな都市であり、キャンパス改善の計画案を作成する作業を通して、総合的に都市デザインに関わる計画・事業・施策を検討する知識と経験を定着させる。	講義16時間 演習14時間
		景観まちづくり演習	良好な都市景観を実現するためのデザイン・コントロール（景観規制）について、日本国内の法制度や民間活動の実態・課題を把握する。具体的に、演習の前半では各自治体の法定景観計画について実態を調査し、その特徴や課題に関する討論を行う。後半では新潟県内の自治体を対象に、建築物等のデザイン・コントロールの手法をはじめとした法定の景観計画の内容と、それに関連する施策の内容を提案し、課題解決のための検討を行う。	
地 質 学 分 野 科 目 群	岩石学Ⅰ		安定同位体と放射性同位体を用いた地殻・マントル相互作用を岩石学の観点から考え、地球化学の元素移動も考慮しながら授業を進める。プレートテクトニクスの概念図に基づき、沈み込み過程によるマグマ発生や変成作用に伴う物質循環、大陸衝突による造山運動の際の岩石の変形・変成作用などに関する具体例を紹介しながら、地球内部の様々なプロセスの理解を深める。さらに、岩石の組織観察や同位体の分析の技術に関する知識を高め、元素移動や物質移動を地球システム科学の大きなスケールで考える力を身につける。	
	岩石学Ⅱ		本講義では、マグマの発生とその起源物質、そしてマグマの分化過程について、記載岩石学的手法による研究例、および微量元素・放射性同位体を用いた地球化学的手法による研究例とともに解説する。日本列島のような、海洋地殻が大陸地殻の下に沈み込んでいる場所では、活発な火成活動が生じている。地球では、このような沈み込み帯における火成活動以外にも、中央海嶺における火成活動およびホットスポットにおける火成活動が生じているが、それぞれのテクトニックセッティングで生成したマグマの岩石学的・地球化学的特徴には違いがみられる。本講義では、それらマグマ組成の多様性がどのようにして形成されるかを解説する。	
	鉱物学		透過電子顕微鏡法による鉱物および無機結晶の観察・実験を通じて、透過電子顕微鏡法の基礎や原理、さらに実際的な活用法を学ぶことを科目の目的とする。受講者は、自身が研究している材料を試料として使用し、透過電子顕微鏡による観察の目的や、必要なデータ（電子線回折、低倍率像、高分解能像、EDXなど）について検討する。また、試料作製法についても受講者自身が考える必要がある。このプロセスを経て実験のプロトコルを作成し、最終的には実際の観察・実験を行い、得られたデータの考察を行う。	講義22時間 実習8時間
	構造岩石学		主に演習・実習であり、作業手順や解析結果についての講義を伴う。地球科学コースのディプロマ・ポリシーのうち、「当該分野固有の能力」に関する科目であり、次の能力を身につける。①変形岩、地震岩、断層岩の組織的特徴について理解できる。②面構造・線構造などの構造データを採取し、解析することができる。③身につけた手法を、各自の研究に活かす計画を説明することができる。第1回 ガイダンス 第2回 面・線構造(ステレオ投影の基礎) 第3回 面・線構造(構造解析への活用) 第4回 沈下方向・沈下角・レークの相互変換 第5回 野外実習についての事前概説 第6回 手作業での構造解析(断層:共軸変形) 第7回 手作業での構造解析(断層:非共軸変形) 第8回 手作業での構造解析(褶曲) 第9回 コンピュータによる構造解析(概説) 第10回 コンピュータによる構造解析(Mac) 第11回 コンピュータによる構造解析(Win) 第12回 三軸圧縮試験(概説) 第13回 三軸圧縮試験(試験機の見学) 第14回 各自の研究紹介(1回目) 第15回 各自の研究紹介(2回目)	演習20時間 実習26時間
	地質調査法特論		当科目では、野外で行う地質調査によるデータの取得と整理の方法について、学部で学んだスキルをさらに発展させるための講義を行う。とくに近年普及している衛星測位システム(GNSS)と地理情報システム(GIS)の仕組みや操作法、得られたデータの活用法や解析法を解説する。これらにより、伝統的な調査技術よりも高精度で再現性の高いデータの取得と活用が可能になり、現代社会における学術界および実業界の先進的な技術やニーズに対応できるスキルと知識、解析能力を備えた人材を育成する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学位共通科目群	マントル・地殻ダイナミクス		マントル・地殻ダイナミクスでは、マントルの部分融解とメルトの生成、マントルの不均質性に焦点を当てつつ地殻－マントル系のダイナミクスについて学ぶ。地球深部を構成するマントルは地殻への玄武岩マグマの供給源であると同時に、沈み込み帯での地殻物質のリサイクルによって影響を受けている。前半で、地球のマントルの部分融解と玄武岩質マグマの多様性、マントルの化学的不均質性について解説し、後半で、火成岩の化学組成の多様性とその成因、およびマントルの同位体的不均質性について解説する。	
	ダイナミック層序学		堆積物および堆積岩の特徴とその成因について考える。特に堆積地質学的な立場から流れる水の働きにより形成される堆積物の特徴を紹介し、大地の成立ちについての理解を深める。堆積物組織や堆積相に焦点を当てて最新の研究トピックを含めて紹介する。 碎屑物粒子の形状について研究史を紹介した上で、新しい円磨度パラメータRの原理の解説を行う。その上で、PCを用いて実際の画像解析の演習をする。このことにより、流れる水のはたらきによる堆積物の組織変化の深い理解に繋げる。	
	地球表層の物質循環と資源		本講義では、地球表層～内部における大きなスケールの物質循環プロセスのうち、主に日本と東アジアの地質の形成と生物が関わる資源を題材に、地球・資源の仕組みや歴史性、それらに人類生存の位置づけを絡めたトータルな理解の端緒となることを目指す。内容は、日本と東アジアの中・古生代地質体の形成史を例に、地球表層～内部の地質・生物が関わる物質循環についての講義を行う。これを踏まえ、新潟県内で地質学の社会的応用について、資源に関わる地層や施設にて演習を行う。	講義14時間 演習16時間
	進化形態学		生物の生態や行動は、「かたち」の機能に少なからず依存する。したがって形態の変化は、進化を促す原動力となる。本講義では、生物の形態に関わる生物学的な性質や物理的な環境条件などを踏まえ、生物の形がどのように進化してきたのか解説する。講義を通して、形を取り巻く内的および外的現象の階層性を区別する素養を身に付け、形が進化する原動力や諸生命現象と関連付けて考えられる能力を養成する。集中講義形式で、2日間かけて実施する。	
	古環境解析特論		本科目では、新生代を中心とした古環境解析をテーマに、講義と演習を通じて過去の地球の環境変動の理解を深め、古環境解析の基本的手法やその意義、古環境解析における多角的な視点を養うことを目指す。講義では、主に新生代における地球規模の環境変動を取り上げ、それらを支える陸域や海洋底の地層・岩石・鉱物・化石などを対象とした地質学・堆積学・地球化学・古生物学に基づく研究事例について学ぶ。演習では、それらの解析手法を実践し、日本列島やアジア他地域の具体的な研究事例と比較することで、地域的な環境変動の特性とそのグローバルな背景について理解を深める。	講義16時間 演習14時間
自然災害科学分野科目群	気象災害特論		日本は気象災害が多い国であり、毎年、集中豪雨による水害や土砂災害が引き起こされたり、台風や竜巻によって壊滅的な被害を受けたりしている。また、年によっては大雪が降り、広域的な雪害がもたらされている。本科目では、講義、現地見学、受講生とのディスカッションなどを通して、気象災害、異常気象、地球温暖化などの特徴を学ぶとともに、気象災害を防止・軽減するための方法について学ぶ。本科目の目標は、日本各地で発生する気象災害や異常気象について、その背景や原因を議論することができること、および気象災害を防止・軽減する上で必要な対策方法について考察することができることである。本講義は対面で実施し、講義および現地見学・議論に基づいてレポート作成と試験を行う。	講義20時間 演習10時間
	水災害特論		平常時と洪水時の河川における物理現象について紹介し、また、洪水時の洪水氾濫がもたらす水災害についての国内、国外における事例を紹介する。その上で、河川における平常時と洪水時における流水とそれを駆動源とした土砂輸送の物理法則と、これらのモデル駆動解析の原理について論じる。これに加え、近年注目されているデータ駆動解析とモデル駆動解析を融合した解析法の原理についても言及する。その上で、水災害の物理法則の理解を通して初めて可能となるハードとソフトのそれぞれの軽減策について論じる。	
	雪氷環境特論		雪氷環境特論では、主として国内で発生している雪氷災害の諸問題を雪氷現象のメカニズムを用いて検討する。日本の国土の半分は豪雪地帯であるため、雪氷災害の発生は平地や山地を問わず至る所で発生し、時として大規模な被害をもたらす。雪氷現象の基本的特徴を把握し、そのメカニズムから雪氷災害の原因について理解することを目的とした講義を行う。内容は、降雪から積雪、融雪に至るまで一連の雪氷現象について講義を行う。雪氷と降雪の特徴、積雪の時間変化、吹雪の時空間構造、雪崩のダイナミクスについて取り上げる予定である。雪氷災害の防減災に資する方策を模索するにあたり、習得すべき雪氷メカニズムを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学位共通科目群	自然災害科学分野科目群	第四紀・地盤災害特論	本講義では、平野・丘陵部における地盤災害の予測と軽減に関する問題を講義形式で解説する。特に地震に伴う災害、平野・丘陵部の伏在断層、地盤の液状化災害等の具体例（近代、歴史時代等）を述べるとともに地盤を構成する地層の基本的な堆積様式、空間分布、成因から発生が予測される災害の規模や質を予測することについても解説する。具体的には地震災害の概要と特徴、地盤災害の複合要因、液状化災害の発生と予測、活断層の概要、伏在活断層の調査法と新潟平野における実態、沖積層と地盤災害などの講義を行い、災害要因や災害環境を理解することを目的とする。	
	自然災害科学分野科目群	応用地形学特論	応用地形学特論では、多量の降水、活発な地殻変動の条件下にある湿潤変動帯における土砂移動現象の実態とそれらのメカニズムを解説する。また、今後の気候変動に伴う土砂移動の変化について論じる。本科目の履修を通して、地形変化の要因を理解するとともに、地形プロセスの基礎知識を基に、地形図の読図能力の向上を図る。そして、1）地形図の読図からその場の地形形成作用を類推できる、2）土砂災害の潜在的危険箇所を推察できる、知識・能力を身につける。授業形態は、講義、演習および受講者による発表・討論形式である。	講義16時間 演習14時間
		災害地球化学特論	本講義は、3部構成となっている。まず第1部では、天然水（地表水・地下水・地熱水）の溶液論、化学平衡論および安定同位体地球化学の基礎を習得する。次に第2部では、大気、水、陸、海洋を通じての物質循環に関する知識を習得する。最後に第3部では、これらの基礎知識を踏まえて、自然災害（地すべり・崩壊・土石流など）の事例に則して、地球化学的指標を利用した地下水流動や流出の解析、同手法を用いた現地調査・観測による変状現象の検出方法について解説する。	
		火山災害特論	火山災害特論では主として、火山の噴火現象や噴火後に発生する連鎖現象を論じ、それぞれの火山災害について解説する。とくに火山災害の種類やその影響の範囲は、噴火の様式・噴火の規模・火山地形などの周辺環境・気象条件との相互作用などに応じて、大きく変化する。また、被害を受ける可能性のある地域住民や観光客（登山客・スキー客など）の火山災害への認識が、被害の軽減へとつながることがある。講義は対面授業とし、国内・国外で発生する火山噴火や災害事例から学び、火山活動や災害の多様性を理解し、火山災害の防止・軽減に対する知識や自らの考えを持つことを目的とする。	
		映像文化I	1990年代からハリウッド映画産業が実践してきた「政治的正しさ(Political Correctness)」の歴史と、2000年代に見られるジェンダーとセクシュアリティ表象を、特に以下の観点から理解することを目指す。 ①物語映画を形成する歴史的・政治的・経済的・技術的・社会的要件 ②物語映画における人種、階級、ジェンダー、セクシュアリティ表象を形成する歴史的・政治的・経済的・技術的・社会的要件 ③物語映画を受容する観客にとっての「政治的正しさ」を形成する歴史的・政治的・経済的・技術的・社会的要件	
映像資源文化分野科目群	映像文化II	映像文化II	本講義では、日本のアニメおよびマンガにおける起源問題、ディズニーとアメリカニズム、キャラクターの身体性と成長、戦時下の科学主義、アメリカ占領期と手塚治虫など様々なテーマについて講義を行う。具体的には、日本のアニメおよびマンガにおける歴史上の諸問題、特に戦前および戦時下における展開を実証主義的に考察し、それらが置かれてきた文化的・社会的・政治的文脈を理解しつつ、両文化領域をめぐる様々な言説を批判的に評価する。	
		表象文化	「表象」は、狭義の文学・芸術にとどまらず、メディアやジェンダーといった現代の社会・文化的問題にもかかわると同時に、古典的な哲学や神学における論争の焦点にもなってきた概念である。この講義では、表象文化論の中心的争点の一つである「身体」について、「アーカイヴ」という社会・文化的制度のとのかわりに着目し、「顔」や「声」という問題にアプローチするための方法を考える。(1)「表象」という基本的概念の多義性とそれが孕む問題点を理解し、使うことができるようになること、(2)アートとメディアにおける「身体」（顔、声）の問題へのアプローチについて、自分なりの手がかりをもつことができるようになること、(3)映像と身体のアーカイヴ化という歴史的・理論的問題について、基礎的な事項を理解することを目指す。	
	大衆文化		本授業では、日本語および英語で書かれたイメージ論の文献を精読し、「イメージとは何か」という問いについて考察する。とりわけ、大衆文化としての視覚イメージについて理論的な思考を深めることを目指す。ハンス・ベルティンク、ジョン・バージャー、ロラン・バルト、W・J・T・ミッチェルらによる古典的なイメージ論の概要を振り返った後、履修者各自が自身の研究テーマと関連付けてイメージについて考えることができるように、履修者の研究テーマに合わせて、講読文献を選定する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	映像資源文化分野科目群 情報メディア論		2020年代において、社会生活の多くの部分が、モバイルメディアであるスマートフォンを経由して成立している実態がある。これらの現代的事象を分析するため、 A. コンピュータネットワークが出現する1980年代以降の主要なメディア社会論、メディア文化論（アンダーソン、ネグリ／ハート、ボードリヤール、ステイグラー、マノヴィッチ、ギャロウェイ、フータモ、バリッカ等を予定しているが変更有り） B. モバイルメディア黎明期において汎空間性を論じたモバイルメディア論（カツ、ジャーゲン、リッチ・リン、カステル、キャンベル、シルバ、メイロウィッツ等を予定しているが変更有り）の2つの理論の流れを解説する。これら2つのメディア論の流れを踏み込んで理解するための基盤を呈示・解説すると共に、受講者には、2つの異なる流れのメディア論を融合する考察に尽力することを期待する。	
	西洋美術史		古代ギリシア美術をはじめとする西洋美術の歴史の中からいくつかのトピックを選び、それについて論じる。また、講義内容に対し、履修者が各自の問題意識に基づいて問いを立て、それについての調査報告とディスカッションを行う。西洋美術史の知識をつけるだけでなく、様式的、社会史的、あるいは感情史的など、造形芸術のさまざまな研究方法を身につけることを目標とする。	
	日本社会形成論Ⅰ		本講義では日本中世史の基本史料の一つである武家文書を輪読し、日本中世史の研究論文を読解する。授業は割り当てられた史料や研究論文を読解して報告し、履修者全員で討論を行う。中世の武家文書を解読することにより中世社会について理解を深めるとともに、日本中世史の研究論文が使用する史料や論文などを逐一検討しながら読み解き、その論文の意義と問題点を明確にし、研究の現状を理解することをめざす。なお、新潟県立歴史博物館で所蔵される中世武家文書の原本調査を一回実施し、文書の料紙・形状・筆跡および保存方法などを習得する。講義科目ではあるが履修者の報告を組み込み、双方向性を重視して進める特論となる。	
	日本社会形成論Ⅲ		日本社会は、常に、東アジア、世界とのつながりのなか、形成されてきた。特に古代日本の時期における東アジアとの交流は、現在までの日本の社会的・文化的基礎として機能している。本講義ではこのような視座から、東アジア広域に伝播し、日本社会に大きな影響を与えた文化—漢字・律令・仏教・儒教—を手がかりに、それが東アジアでどのように展開し、また、日本独自とされる「国風文化」といかにかわるかにについて、世界と日本とのつながりという国際的視座からその特質と意義を学生とともに考え、位置づけることを目的としている。	
	環日本海社会形成論		19世紀末以降20世紀にかけて、日本海を取り巻く北東アジアの諸地域では近代化の進展に伴って大きな変化が生じ、地域間の関係も大きく変容する。本科目では、この日本海を取り巻く諸地域に生きる人々の関係の在り方（環日本海社会）の歴史の変容について考察を深めるための前提として、19世紀末以降20世紀にかけての日本における政治、社会、思想、文化に関する諸問題について、歴史学—日本近現代史研究の観点から検討をおこなう。	
	形態資料学		弥生時代・文化に関する最近の研究動向の内容について、研究史をふまえながら正しく理解する。近年特に議論となっている研究のトピックについてその概要と問題点を学び、具体的に説明することができるようになる。研究上の課題を明らかにするための方法について論理的に考えることができる。採られる理論・方法論など、受講生自身の修士論文作成において参考となる点を学び取ってもらいたい。授業は対面による講義形式を予定している。講義を行った後、実際の考古資料の検討および議論を行う。	
	地域文化資源アーカイブ		国内外における博物館・図書館・文書館等のデジタル・コンテンツの集積・公開の進展とその可能性の拡大、公開資料を利用したデジタル・ヒューマニティーズの隆盛、そして深刻化する人口減少・高齢化がもたらす地域文化資源の保存・継承の危機を背景として、地域文化資源のデジタルアーカイブ化が日本各地で活発化している。しかし、過疎・高齢化地域など特に地域文化資源の保存・継承に困難を抱えた地域においては、今なおデジタルアーカイブ活動の開始・継続は容易ではない。こうした問題を念頭に本講義では、地域文化資源デジタルアーカイブという実践の背景と現状を整理し、関連するアーカイブ学や情報学の理論を確認することを目的とした講義を行う。また、学習を踏まえて、地方の事例を中心に地域文化資源デジタルアーカイブの実践を取り上げ、参加者とともにその可能性と課題の検討を行う。これにより、地域文化資源アーカイブ活動を実践・研究するうえで必要となる基本的知識を獲得するとともに、地域文化資源アーカイブ活動を批判的に検討する力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	映 像 資 源 文 化 分 野 科 目 群	日本民俗学	民俗学の特定のテーマに関する学説整理と具体的な事例研究を通して、民俗学研究の展開と方法論の変遷についての理解を深めることを目的とする。民俗学研究の展開と方法に関する理解を深めるために、学史上重要と思われる研究概念とそれに関する論文を取り上げ、その検討を行う。そのプロセスを通じて、民俗学を学ぶ上で必要不可欠な基礎的知識を養う。授業は講義形式を取るが、少人数のため受講者と議論しながら進めていく。したがって、履修者が主体的に調べ、読み、それを報告する授業となる。	
		文化人類学	文化人類学は、他者・人間理解のための実践学問である。本講義では、文化人類学における「社会化」「学習」「教育」をテーマに、狩猟採集社会をはじめとするさまざまな社会に見られる子どもと大人の関係性、文化・社会の特徴と学習内容との関連性、またそれらの関連性を描き出す分析手法を学ぶ。文化人類学とその周辺分野における分析手法や記述のあり方を見比べながら、相互の影響、また双方の相違点や類似点について理解することを通して、論文作法を身に付ける。	
		伝統芸能論	江戸時代から現代まで続く歌舞伎の世界を概観する。特に「仮名手本忠臣蔵」を取り上げ、日本の芸能文化の基礎を検討する。具体的には、歌舞伎のDVDを視聴しつつ、講義形式で進める。また、これらの演目から派生した芝居や、歌舞伎以外の芸能についても紹介する。目標は、①日本文化史における、特に近世から現代にかけての流れを理解する。②歌舞伎を通して日本の芸能文化に関する基礎的知識を身につける。③芸能のテキストを読解し、実演の内容が理解できる。	講義20時間 演習10時間
		地理空間学特論	地理空間学では、人文地理学の幅広い領域のうち、歴史地理学におけるコンピュータやデジタルデータの活用可能性について検討を行う。近年、人文科学全般でもコンピュータを使用した研究の可能性が注目されているが、歴史的事象を地理学的な観点から取り扱う歴史地理学においても、GIS（地理情報システム）やデジタルアーカイブなど、これまで無かった新しい研究領域が拓かれつつある。この授業では、具体的な事例に則しつつ、歴史情報を活用した歴史GISの構築や絵図のデジタルアーカイブ作成とその利用などについて取り上げる予定であり、これらを通して人文科学におけるコンピュータ利用の新たな可能性についての理解をはかる。	
		人文地理学特論	本授業は、過疎・過密、郊外化、ジェントリフィケーション、「田園回帰」、コミュニティの維持・再編等、近代以降の国内外の都市や農村が経験してきた社会的・経済的・政治的諸現象や、グローバル化・産業構造の変容・金融化・人口移動等、その背景となる諸事象に関する人文地理学及び隣接分野の研究動向の理解を目標とするものである。本授業では、各トピックに関する研究内容について、重要文献の読解・議論・解説とともに、フィールドワーク等を通じ実践的にも修得することを目指す。取り上げるトピックについては、受講生の関心を踏まえて調整する。	講義26時間 実習4時間
映 像 資 源 科 学 分 野 科 目 群		画像処理特論	本講義では、画像処理システム開発に必要な信号処理理論と画像処理技術を実践的に学ぶ。数値演算シミュレーションソフトを用いた演習を通じ、デジタル画像表現、フィルタリング、スペクトル解析、離散コサイン変換（DCT）、ウェーブレット変換（DWT）、スパース表現、ノイズ除去、画像復元などの理論と応用を習得する。授業は講義とオンデマンド演習を組み合わせ、MATLAB Graderを活用した課題への取り組みを通じて理解を深める。成績評価は課題報告（90%）と最終レポート（10%）で行う。これにより、画像処理技術の体系的な理解と応用能力を養成する。	
		デバイス・センサ特論	主に、デバイス・センサに関して重要である、p n接合ダイオードおよび電界効果トランジスタ（FET）について講義する。動作の基礎と、理想とのずれ、交流応答などについて学ぶ。さらに高周波デバイス、センサについても講義する。理想p n接合ダイオードと現実の素子との違い、p n接合の交流応答、スイッチング応答の基礎を理解する。また、接合型FET（JFET）、MIS構造および容量電圧特性、MISFETの動作特性、高周波デバイス、光センサについての基礎を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	有機エレクトロニクス特論		有機エレクトロニクスにおける基礎的な内容から応用まで取り上げ、最新のエレクトロニクスを支える有機エレクトロニクスに関する知識の習得を目指す。基礎的な内容では、有機電子材料の基礎概念や電子物性・光物性について説明する。応用については、有機薄膜の作製・評価法から様々な有機デバイスの動作機構について学ぶ。さらに、受講生をいくつかのグループに分けて、与えられた有機エレクトロニクスのテーマについてプレゼンテーションを行う。	
	視覚情報処理特論		視覚情報処理特論では、主として人の視知覚特性を光学、心理物理学、神経生理学、大脳生理学や眼球運動の生理学を総合的に学習することで理解する。人が利用するプロダクトやシステムを開発する上で、人の視知覚特性を反映することは、人に対する親和性の高いモノづくりにには欠かせない。人の視知覚特性を複数の学問分野を取り上げながら総合的に学習し、人が利用するプロダクトやシステムを開発につなげることを目的とした講義を行う。内容は、人の視知覚のメカニズムについて講義を行う。眼球の構造、視覚系整理の基礎、視覚の時空間特性、眼球運動の生理機構と眼球運動の種類、眼球運動と空間定位、近見反応、立体視、奥行き知覚、自己運動知覚、発達・加齢・障害について取り上げる。	
	ソフトマテリアル特論		ソフトマテリアルとは高分子、液晶、コロイド、ゲル、ゴム、DNAなどのやわらかい材料の総称である。前半では、高分子鎖の化学構造とコンフォメーション、および熱力学的性質などの物理化学について解説する。続いて、ソフトマテリアルの力学的性質で重要な「粘弾性」について解説する。後半では、三次元網目構造をもつゲルの膨潤理論を中心に説明する。最後に、ソフトマテリアルで構築されたアクチュエータをはじめとする応用例を紹介する。	
	複合材料設計化学		ナノ、マイクロオーダーの物質質量や化学物質を感知する化学センサの設計・開発に関して論じるとともに化学センサの評価法、測定システムについて解説する。ナノマテリアルなど材料科学の進歩、ナノ、マイクロ加工技術の確立により、ナノ、マイクロオーダーの物質を創製、集積して新システムを構築することが可能となっている。このような技術革新において、ナノ、マイクロオーダーの物質質量や化学物質を感知する化学センサの設計・開発の重要性について理解する。	隔年
	機能性材料評価学特論		本講義では、電子ファイルのスクリーン映写と印刷資料の併用で授業を進行する。対面型での授業実施を基本とするが、状況に応じて非対面型（Zoomによるリアルタイム型）授業を組み込む可能性がある。本講義では、先進機能材料の材料特性評価法として注目されている押込み試験の物理的意味およびその具体的方法、関連する国際規格の内容およびその変更経緯に関する理解を得ることを目標とする。	
	デザイン表現特論		本講義では、モノと人との関わりから開発された優れた道具を調査し、それらが開発された背景と、これまで開発されてきたグッドデザインの変遷と照らし合わせ、演習課題を加えながら、デザインとは何かについて論じてゆく。デザイン表現の領域は、様々な人間支援のカテゴリーに関わり広がりを見せている。また、時代背景と密接な繋がりを持って、日々変化し続ける実社会での生活環境を彩り成長を続けている。関わる学問領域は多種多様で、芸術的な感性を活かした表現が前に出てくることは勿論だが、現代社会学や自然科学領域を横断することが必要とされている。純粋芸術とは違った側面を持っており、個人の我を張った表現では無く、社会を見つめた中での着地点が必要とされる。また、行政や産業界からも地域創世やグローバル経済で活躍出来る人材育成が求められており、時代を示し文化を作り出し発信することが出来るデザインの領域は注目されている。街に出て観て見ると、新たな生活スタイルに適応した様々な商品が開発され、新潟の地域産業に於いても次世代のスタンダードを目指した開発が行われている。このような領域の優れたモノを調査しながら、次世代の生活スタイルにあったモノを考えてゆくところに、本講義のねらいがある。	講義20時間 演習10時間
	計算知能特論		本講義は全15回の講義形式で構成され、内容を4つのパートに分けて段階的に学ぶ形式で進行する。授業の目的は、進化計算、ファジィシステム、ニューラルネットワークについて、基礎から応用までを体系的に理解するとともに、これらの技術を統合した融合的アプローチの設計や応用を習得することにある。さらに、深層学習や生成モデルなど、最先端のAI技術を学び、最新の研究動向を把握することも目指している。授業計画として、第1回でガイダンスを行い、第2回から第4回にかけて進化計算、第5回から第7回にかけてファジィシステム、第8回から第10回にかけてニューラルネットワーク、第11回で融合化技術、第12回から第15回にかけて深層学習を取り上げ、各トピックについて体系的に学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学位共通科目群	映像資源科学分野科目群 建築計画・設計学特論		新潟県にある実際の町（新潟市古町地区）を対象とし、グループでリサーチ・デザイン検討などに取り組み、古いまち並みの保全と住環境改善といった課題を探り、再開発・まちづくり計画を実施する。住民との協働を通して、都市内の計画提案を実施する授業である。	
	風景計画特論		良好な風景を実現するためのデザイン・コントロール(景観規制)や歴史的建造物保全の計画手法について、行政の制度や民間活動の実態・課題を把握する。具体的にはイギリス、フランス、イタリア、アメリカ等の先進諸国の景観計画や歴史的建造物の保存制度等について調べ、日本の現状と比較することで、今後の日本の課題を把握する。国内外における文化的成熟の推移や社会的制度の発展経緯を理解し、持続可能なまちづくりの一環としての景観計画の実態について学ぶ。	
	都市デザイン特論		都市の活力や快適性をもたらす都市デザインの重要性について、国内外の事例を通して理論と実践手法を論じる。前半は、国内外の都市デザインの理論を概観した後、日本国内の各都市の都市デザインの実践例を学ぶ。後半は、前半で学んだ都市デザインの理論を活用して、新潟大学のキャンパス改善の計画案の作成に取り組む。キャンパスは小さな都市であり、キャンパス改善の計画案を作成する作業を通して、総合的に都市デザインに関わる計画・事業・施策を検討する知識と経験を定着させる。	講義16時間 演習14時間
日本酒生命科学食料科学分野科目群	糖鎖生物学		糖鎖生物学では、主として生体分子の中でも特に糖鎖に注目して、その構造、生合成経路、内因性機能および外因性機能について解説する。糖鎖は、核酸とタンパク質に続く生命の第3鎖と呼ばれ、その構造機能相関は現代生物学において重要性が高い。具体的な内容は、分野の歴史的背景、生合成経路、細胞内外での輸送タグ機能、細胞接着機能、系統発生と個体発生における位置づけ、細菌やウイルス感染における機能、癌などの疾患における機能、分析手法などを含む。	
	バイオイノベーション特論		バイオイノベーションに関連した学際研究のうち、生物の「老化」や「寿命制御」について論じる。近年、ヒトの高齢化が社会問題として生じている中、老抗老化薬の探索など、その応用面が注目されている。まず、老化とは「何か」を考えるだけでなく、「なぜ」そして「どのように」生物は老化するのかについて考えていく。そして、生体分子の解析等を通じて、基礎生命科学の成果をいかに新規な産業応用に繋げるのかについて理解することを目的とした講義を行う。本講義は、集中講義形式で行う。	隔年
	細胞生物学特論		オルガネラとタンパク質の品質管理、および、植物の生殖について、分子・細胞レベルでのメカニズムに関する最新の知見を講義する。あわせて、その研究方法についてイメージング解析技術を中心に講義する。また、上記講義内容に関連する最新の論文の輪読を行う。これらによって植物生理学および細胞生物学の研究方法を考察し、自分の専門とする研究分野における的確な作業仮説の構築とその検証のための実験計画立案の方法を理解する。	隔年 講義20時間 演習10時間
	植物生理学特論		動物のような移動手段を持たない植物は、発芽したその場所において、様々な環境の変化（環境ストレス）を受容して成長、生存してゆかなければならない。そのため植物は様々なストレス応答および耐性機構を発達させている。本講義では植物にとって環境ストレスとは何か、植物は環境ストレスをどのように感知し、どのような対抗手段をもつのかについて解説する。特に、高温や低温、水分や乾燥などの非生物学的ストレス要因に対抗するしくみについて、個体、細胞、分子レベルでの理解を目指す。	隔年
	植物分子遺伝学特論Ⅰ		植物の環境応答について、突然変異体を用いた分子遺伝学的研究手法による解析方法を学ぶ。植物の環境応答機構についての分子遺伝学的研究手法論を、講義及び原著論文ゼミを通して理解する。植物の分子遺伝学的研究手法論を理解できること。植物の環境応答機構について原著論文を読み、パワーポイント等のプレゼンテーションツールを用いて人に説明できることを学習の到達目標とする。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学位 共通 科目 群	植物分子生物学		高等植物の機能分子が、細胞レベルにおいてどのように細胞構造・機能・動態を制御し、その結果、個体レベルにおける機能発現に関与しているかを解説する。また、トランスクリプトミクス、プロテオミクス、メタボロミクスを利用した研究の方法と、得られたデータに基づく生命現象の理解についても解説する。本講義では、1. 高等植物の機能分子の発現、機能、修飾、調節について説明できること、2. 高等植物における遺伝子操作と発現制御について理解できること、3. 高等植物を利用したバイオテクノロジーを理解するための知識を修得できることを目標とする。	
	植物環境応答学概論		高等植物は種子から発芽した後、ライフサイクルを同じ場所で過ごさなければならない。そのため、植物には様々な環境条件に対して応答し、適応する能力が要求される。植物はその外界環境に適応するため、細胞内成分やさらにその形作りを巧みに変える。この講義では、植物をとりまく光・温度・水あるいは栄養状態など様々な環境変化に対する植物の適応機構について、特にその情報伝達機構および遺伝子応答、さらに代謝変動に着目し解説する。	
	植物細胞工学特論		植物細胞工学は、植物バイオテクノロジーとほぼ同義である。現在、遺伝資源保存、優良個体のクローン増殖、無病個体の育成、新品種育成等、農業における様々な分野で植物バイオテクノロジーが利用されている。本講義では、植物バイオテクノロジーの中心技術である組織培養や遺伝子組換えの原理について、最新情報を交えながら解説する。また、組織培養技術や遺伝子組換え技術の農業分野への応用についても、最新情報を交えながら解説する。	共同 隔年
	微生物機能学		これまで微生物を対象とした研究は、分子生物学的手法によるものが主であった。昨今、微生物学分野でも生物物理学・物理化学の手法を活用して微生物の機能を理解しようとする新しい試み（例えば1細胞・1分子レベルでの解析など）が行われている。本講義では、「微生物」と「生物物理学・物理化学」をキーワードとして、微生物機能解明におけるユニークで先進的な研究や解析方法を紹介する。新しい学際的な研究や学問分野について学ぶとともに、学生自身でも自身の研究分野における学際的な新規の解析方法、研究についてプレゼンテーションを行い、受講生全員と教員でディスカッションを行う。	
	微生物分子遺伝学		微生物分子遺伝学では、細菌の遺伝子発現制御機構及びグローバル制御機構について解説するとともに、いくつかの最新研究トピックスについて紹介する。また、細菌の遺伝実験に用いられる手法とその原理について解説する。授業は講義形態で行う。本講義では、細菌の遺伝子発現とその制御機構に関する知識、さらにはそれらの研究とその方法について理解を深め、さらにはSmall RNAなどの遺伝子発現制御機構の最新の研究について理解することを目的とする。	
	微生物天然物化学		天然有機化合物はホルモンやフェロモンなどとして生物内や生物間の生理機能に重要な機能を果たすとともに、医薬品・化粧品・機能性食品素材などとして人間生活に広く利用されてきている。天然有機化合物の化学構造、生合成、生理活性を理解することは、生命現象の理解などの基礎研究から生物を利用した有用物質の生産などの応用研究において重要である。本講義では、基礎から最新の天然物化学・生物有機化学・ケミカルバイオロジー研究までを説明する。	共同
	動物栄養生理学		動物栄養生理学では、講義形式により、栄養素の生理機能、栄養素による制御について教授し、吸収メカニズムの理解から、摂取窒素の制御による栄養学と食品科学の接点と応用について、代謝調節機構、品質を含めて論ずる。栄養学の各論および発展的な内容について理解を深め、吸収メカニズムの理解から、摂取窒素の制御による栄養学と食品科学の接点と応用について、代謝調節機構、品質を含めて解説する。栄養素の生理機能、栄養素による制御について、また吸収メカニズムの理解から、摂取窒素の制御による栄養学と食品科学の接点と応用について、代謝調節機構、品質に関して教授する。	
	米利用科学論		主要食料である米の利用に関する科学的基盤について解説する。精米や加工などの行程と、それにともなう成分変化や利用形態の違い、米の品種別利用法など、様々な視点から解説する。米の精米技術、加工技術、様々な行程における品質及びその成分変化、さらには食材としてだけではなく色々な食品原料としての利用方法などについて、科学的な理解を深める。 学習の到達目標：米の品種、品質、加工技術、利用方法に関する基礎的な知識を修得し、現在の米研究の進捗状況や各種課題を踏まえた科学的な視点で米利用に関して考察することができる。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学位共通科目群	日本酒生命科学食料科学分野科目群			
	食品評価学		科学研究を遂行するためには、様々な科学の目(すなわち評価)が大切となる。それぞれの食品に関する課題について調べて考えをまとめ、それをプレゼン・討論することで、食品を科学的に評価(科学の目で見る事が)できるようになることを目的とした講義を行う。内容は、第1回（講義ガイダンス、各自の課題割り振り、課題調査及び課題発表のやり方についての講義）、第2回～第4回（課題調査、アドバイス）、第5回～第14回（課題発表(1回につき2名)及び討論(発表者以外は必ず質問)）、第15回（まとめと講評）である。	
	食品生化学		私たちは毎日いろんな食物を食べている。しかし、それらの食物がどのようなもので、どんな成分を含み、どのようにして作られているのかをほとんど理解していない。そこで本講義では『食物の不思議を探る』というテーマで“食物のなぜ？”を科学的に追求する。この授業では、調味料や動物性・植物性の各種食材、発酵食品、調理器具、加工・調理方法、食に関する制度や法令など、多岐にわたる内容を取り扱い、幅広い知識を習得する。	
	食品分子機能学		食品由来の機能性成分が三次機能を発揮するに至る分子の基盤について最新の知見や研究事例を交えて解説する。また、食品成分の機能性評価法、作用機構の解析手法についても解説する。	
	食品工学概論		食品素材の製造過程において、酵素が用いられる事例が多い。特に澱粉糖化産業においては多数の酵素により製品が製造されている。食品工学概論においては、食品産業に多く用いられる酵素について、その種類や用途・および反応解析の手法を学ぶ。特に澱粉糖化産業を中心に食品製造に良く用いられる酵素について、種類や使用法について解説する。さらに、酵素研究に重要な反応速度解析について解説を行うとともにその解析法の実習を行う。	隔年
	醸造学特論		日本酒学は、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する。本科目は日本酒学の中核的な講義の一つである。具体的には、日本酒（清酒）醸造に関する原料・微生物・製造技術等について概説する。なお、本科目は、清酒メーカーでの経験を有する教員が、それを活かした講義を行う。	隔年
	食品・農業情報工学特論		講義の形態は、講義形式と演習形式の複合形態とする。講義の目標は、食品・農業分野の情報通信技術の利活用および品質評価などの意思決定支援に必要な知識を身につけることである。講義では、食品・農業分野への情報通信技術利用の現状と問題点、様々なセンシング技術と情報通信技術、食品・農業分野への情報通信技術利用の先駆的な事例として、現場視察などを行うとともに、生産者の経験と勘を情報化する取り組みに関することなどを概説する。	講義12時間 演習18時間
	食品品質管理学		食品の製造において品質管理は必要不可欠であり、食の安全を守る上でも非常に重要である。食品の品質が守られる仕組みと食品工場や飲食店での衛生管理等について、全15回の講義を通して解説する。また、受講者自身が文献調査により最新の知見や研究事例について調べて紹介することで、理解を深める。食品の品質や微生物に関連する専門書を解説し、スライドの作成・発表の構成・実施を繰り返し行うことにより、能動的に学び、食品の品質管理の重要性について理解する。また、受講者同士で積極的に質疑応答を行い、質疑応答のスキルを磨いて学会発表等に役立てる。本講義は食品の品質管理に関する知識の習得とともに、研究発表を行う上での能力向上を図ることもねらいとする。	
	環境土壌学		土壌は、生物生産、物質循環、環境保全、生物多様性維持等の様々な生態系サービスを提供している。本科目ではこうした土壌の持つさまざまな機能と環境の調和に関連し、幅広い視点から生物生産環境および生物生存環境の保全や修復、適正化等に関して理解を深めることを目的とする。生命環境・食料科学プログラムにおいて、土壌の有する様々な機能と環境問題との関連を理解するために必要な講義である。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学位 共通 科目 群	日本 酒 生 命 食 料 科 学 分 野 科 目 群	環境分子生態学	環境分子生態学では、環境中の核酸やタンパク質などの生体分子を利用した生態系解析手法について解説する。本講義では、土壌や動植物組織中の微生物群集などの微小生態系から、陸域の動植物群集や水域の生物群集といった広域スケールに至るまで、環境分子を用いた多様な生態系解析手法を取り上げる。特に、微生物生態系の多様性や機能を解明するために利用されているDNAメタバーコーディングやメタゲノム解析、環境DNA（eDNA）を用いた解析手法について概説する。また、これらの手法が実際の研究でどのように活用されているかを具体的な事例を通じて紹介し、研究や環境モニタリングへの応用可能性について議論する。	隔年
		木質成分化学	最大の植物バイオマスである樹木を中心にセルロース、ヘミセルロース、リグニンなど様々な植物成分の生合成および化学構造、その植物体内における分布と機能、各素材の構造と反応性、生態系における機能について、光合成から土壌分解までをこれまでの一般的な知見に加え、最近新たに明らかになった事例を含め有機化学的に説明する。そして、その特性活かした将来の利用方法についても、最近の実用化や研究事例を含め説明し、循環型社会への貢献について考える。	
		食料流通論	食料・食品の流通経済に関して制度的な枠組みやシステム変化の方向について講義する。具体的には、まず流通経済についての基礎理論および我が国の食料流通体系の歴史的展開過程について概説した後、主食として食糧管理制度に基づき国の流通管理・流通規制が貫徹されていた時代から、近年、急速に自由化した米の流通システム、卸売市場制度を軸に、公設民営を基礎とした青果物や花卉などの生産園芸作物の流通システム、インテグレーション・加工資本の介在を特徴とした畜産物および牛乳乳製品流通システムについて整理し、水産物流通、加工食品などとの比較の資源も織り込み、食料流通問題の現段階的な課題を検討する。また、近年の政策的トピックスである「みどりの食料システム戦略」「種子・種苗問題の公的管理」「食料・資材価格高騰問題」などを取り上げ、その市場論的見地からの課題把握を試みる。	
		植物病理学特論	植物病原の生態を取りまとめたうえで、植物の病害抵抗性や微生物の拮抗作用に基づく環境保全型病害防除法について紹介する。さらに広く植物保護の視点から、虫害および雑草害についても化学的防除の必要性和殺菌剤・殺虫剤・除草剤をはじめとする各種防除資材の特性や作用機構を解説する。植物が持つ病害虫抵抗性の作用機構を分子レベルで説明できるようにするとともに、栽培の現場で利用されている種々の防除資材や病害防除法の基礎的知見を習得する。	隔年
		植物エビジェネティクス概論	塩基配列には表れない、DNAメチル化やヒストン修飾パターンなどの遺伝情報を扱う研究分野をエビジェネティクスという。エビジェネティックな遺伝子発現制御は、生物の発生や形質発現に大きな影響を及ぼしている。本講義では栽培植物を含む顕花植物において、エビジェネティクスが関与する生命現象にはどんなものがあるのかを解説する。また、エビゲノムの恒常性がどのように維持され、世代を超えて遺伝し、あるいは変化するのかを学ぶ。	隔年
		動物・植物相互関係論	植物・動物相互関係論では、主として草地生態系のシステム分析、モデリング、家畜と植物の相互作用解析法について解説する。草地生態系における、エネルギー流、物質循環、草地での家畜の生理反応、放牧の草地植生を制御することは、適正な動物生産を行う上で重要である。講義の内容は、これらの項目における基礎的な概念と知識を開示し、さらにこれらを制御するための草地生態系のシステム分析・モデリングの手法、家畜と環境の相互作用解析の手法を解説する。	
		動物量的遺伝学	資源動物の育種改良を図る上では、量的形質の遺伝現象を詳細に捉えていく必要がある。また、動物集団の遺伝的多様性と有効な大きさの維持や拡大を図る上でも、量的遺伝学的な解析が必要となる。つまり、動物の量的遺伝学的現象を集団レベルから分子レベルにわたって観察し、考察していく目を養うとともに、解析手法の知識を得る必要がある。そのために、資源動物および野生動物における様々な量的遺伝学的現象について、集団レベルから分子レベルにわたって講述する。	
		動物機能形態論	人間を含む動物の生命を維持する機構を理解する上で、体の成り立ちと構造を把握し、それぞれの働きによって統合される機能を理解することは必須である。本講義では、各種動物の器官が、どのような組織、そして細胞から構築されているかを、光学顕微鏡ならびに電子顕微鏡レベルで解説するとともに、関連した生理機能について分子レベルで説明する。加えて、これらを基礎として、動物の経済的形質に関わる泌乳、産卵、産肉などの生理的機構について解説する。	
		動物生殖細胞利用論	優良な形質を持つ動物や家畜の開発を目的として、生殖細胞である始原生殖細胞や胚性幹細胞の構造や機能、発生過程での役割について論じる。また、これらの細胞が持つエビジェネティクスの特徴や再プログラム化のメカニズムを解明することで、畜産学分野での新たな応用の可能性を探る。特に、遺伝子改変技術を活用し、疾病耐性を高めた家畜や生産効率の向上を実現するための技術開発に注目する。これにより、例えば、乳量の増加や肉質の改善といった家畜生産の具体的な改良が期待される。また、これらの技術が環境負荷低減に寄与し、持続可能な畜産業を支える手段となる可能性についても考察する。さらに、家畜育種における遺伝子改変技術の導入に伴う倫理的課題や消費者の受容性、規制の問題にも触れ、畜産学と先端技術の融合がどのように未来の食料生産に貢献できるかを議論する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学位共通科目群	日本酒と自治体政策		本科目では、地方自治体が実施する日本酒に関連する各種施策を題材として、地方自治体が地域の独自性を活かしながら分権型社会を踏まえた政策をどのように展開すべきかを考えていく。なお本科目は、政府や地方団体での行財政運営の経験を有する教員が、その実務経験を十分に活かして行う授業科目である。住民に身近な行政主体である地方自治体の諸活動の実際の理解を通じ、地域のことは地域で決定していく「地方自治」と、様々な公共政策がどのような背景・プロセスで立案されていくかの「政策過程」とを理解することをねらいとする。	
	日本酒アントレプレナーシップ論		本科目では、アントレプレナーシップ論の基礎を修得しながら、日本酒および酒造に関する事例も学ぶ。アントレプレナーシップ論の内容は幅が広いので、本科目では特に「ビジネスモデル」と「経営戦略」に焦点を絞る。これらにまつわる理論や概念を学ぶとともに、県内の日本酒や酒造の事例に適用しながら、知識の定着を図る。本科目では、以下の3つに関する基礎的な知識を学び、それらを事例に適用する力を身につけることを目指す。①アントレプレナーシップ論に関する理論や概念に関する知識。②ビジネスモデル論に関する理論や概念に関する知識。③経営戦略論に関する理論や概念に関する知識	
	日本酒酒蔵の中小企業論		本講義「日本酒酒蔵の中小企業」では、日本酒メーカー・酒蔵を事例に取り上げ、日本の中小企業の特徴や経営の課題を学ぶ。授業では、限られた経営資源を有効活用し、存続・成長を遂げるためのマネジメントについて議論を深める。学生は指定された学術論文や専門書を輪読し、それを基にした発表やディスカッションを行う。発表者以外の学生も事前準備として資料を読み込み、積極的に議論に参加する。これにより、日本における中小企業の役割や経営戦略への理解を深めるとともに、実践的な分析力と議論力を養う。	
	日本酒とブランディング		新潟県には日本でも多い90近い数の蔵元がある。一般的な消費者は、そのうちのどのくらい日本酒の銘柄や蔵元名をすぐに想起することができるだろうか。ブランドが確立するためには、好ましいイメージをもって、消費者に記憶してもらう必要がある。強いブランドになるためには、何をどのようにして他と差別化し、消費者の記憶に残していけばいいのだろうか。本科目では、聴講者は基本的なマーケティング、ブランディング、ブランドとはなにかを理解するための講義を前半におこない、後半では聴講者が日本酒（蔵元）を取り上げ、そのブランディングについて分析・考察を加えたものを発表することで理解を深めていく。	講義15時間 演習15時間
	酒蔵組織の企業行動論		本講義では、伝統産業である日本酒酒蔵に関する経営学・社会学分野の論文を輪読し、伝統産業が伝統性を保持しながらどのように革新していくのかについて学ぶ。近年、日本酒酒蔵を研究対象とした経営学・社会学分野の研究が増えている。それらの研究の潮流に目配りしながら、最新の研究論文を読み、酒蔵組織の企業行動について理解を深める。本講義を履修し、以下のことを説明できるようになることを目指す。①近年の酒蔵組織の経営学的研究の潮流。②伝統産業がどのようにして伝統性を保持しながら革新をおこなっているか。	
	酒類行政論		酒類行政の基本となる酒税法、酒類業組合法等の関係法令の概要、酒類行政の最近のトピックについて講義を行う。また、講義内容についてのディスカッションを行い、酒類行政に関するレポートを作成する。担当教員の国税庁等の勤務経験を活かした実務的な内容を含む科目である。酒税法、酒類業組合法等の酒類関係法令の内容の学修を通して、酒類行政を取り巻く状況を把握し、当局の取組について理解を深める。酒税法、酒類業組合法等の関係法令の内容につき、説明することができること、酒類行政を取り巻く状況を踏まえ、現状の施策や今後すべき施策について自らの意見をまとめ、表明することができることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	情報工学分野科目群 ネットワーク・セキュリティ特論		インターネットをはじめとするネットワーク技術は社会インフラとして欠かせない存在となっている。一方で、ネットワークを標的としたサイバー攻撃の増加により、セキュリティ対策の重要性も高まっている。本科目では、ネットワーク技術とセキュリティ技術の両面からその重要性を理解することを目的として、ネットワークおよびセキュリティに関するさまざまな話題について講義を行う。特に、有線・無線ネットワーク、ネットワーク認証、暗号技術、有線・無線ネットワークの情報セキュリティ対策、移動通信ネットワークに関する話題を取り上げる。また、学生持参のノートパソコンを用いて、実際にこれらの技術に関する演習を行い、理解を深める。	講義16時間 演習14時間
	移動体ネットワーク特論		移動体通信が広く普及し、様々な領域で重要な技術になっている。移動体ネットワークとして、基地局等のインフラを経由して通信するセルラ移動通信システムだけでなく、移動体同士が直接無線通信でネットワークを形成するマルチホップ無線ネットワークや、連結経路を必要としない遅延耐性ネットワーク（DTN）などもある。ネットワーク構成要素となる移動体としても人間、自動車、ドローン等様々なものが考えられる。応用も、通信だけでなく、ナビゲーション、社会課題解決など様々なものがある。本講義では、このような様々な移動体ネットワークのネットワーク制御、設計、応用について理解することを目的として講義し、議論する。	
	電磁波工学特論		電磁波工学特論では、主として高周波無線通信等における電磁波伝搬を題材に、電磁波の物理特性についての理解を深めるとともに、電磁波伝搬シミュレーションの基礎も学ぶことを目的とした講義を行う。内容は、高周波領域の電磁波伝搬に関する理論について講義を行う。幾何光学、幾何光学的回折理論、および幾何光学的回折理論等の高周波漸近解法を基とした理論を取り上げる予定である。さらに、有限差分時間領域法も含め、電磁波伝搬シミュレーションの理論も扱う予定である。	
	計算論：計算可能性の理論		計算論では、モデル化と抽象化によって、計算のさまざまな側面に理論的な焦点を当てる。この分野の専門基礎として重要なトピックである計算可能性の理論について講義する。計算可能性の理論は、(一般的な)計算機によって計算できることとは何か、計算できることの限界(計算できないこと)とは何か、それらをどのように数学的に扱うことが出来るか、また、そのような観点から発見された形式言語理論や数理論理学における重要な事実や、計算に関する重要な概念や特徴付けなどを対象とする。特に、チューリング機械、チャーチ・チューリングの提唱、判定可能性、停止問題の判定不能性、ポストの対応問題、再帰定理、ブレスブルガー算術の判定可能性、算術の判定不能性などについて講義する。	
	プログラミング方法論		本科目では、講義および演習により、プログラミング分野における高度な話題を取り扱う。本科目の目標は、情報技術による社会課題の解決を行うための基礎技術であるプログラミングの方法について、特定のプログラミング言語やパラダイムに囚われない、広く深い専門的な理解を与えることである。具体的な計画としては、関数型言語、オブジェクト指向型言語、および並列プログラミングにおける歴史および先進的な技術動向に関する話題を講義で紹介するとともに、講義内容に基づくプログラミング演習による実践を行う。	
	電磁環境計測特論		携帯電話の普及により、生体や住環境において電磁波が及ぼす影響について関心が増えている。このため、電波法ならびに無線設備規則などにより、放射電波に関連する諸量の測定が義務化されている。本講義では、電波放射量を測定するための基本的な技術について、その原理、測定手順、注意すべき点などを述べる。また、簡単な見学、実習を通して、実際の測定におけるノウハウについて紹介する。到達目標としては、高周波ケーブルの扱い方、インピーダンス測定、パターン測定において、手順通りに基本に忠実に測定を行うことにより、精度のよいアンテナ測定が実現されることを説明できることである。授業は講義形式で行い、毎回のレポートにより授業内容を確認する。	
	リモートセンシング概論		近年、人工衛星による地球環境計測が目覚ましく進展している。光のみならず電波を含めたさまざまな波長により観測されたデータから、地球上の陸域の植生や都市域の様子、海域の海水など多種多様な情報が得られる。この講義では、光・電波などさまざまな波長に対する地球上のターゲットの物理散乱特性から、それらを用いたイメージング技術を学ぶ。また、土地被覆分類、3次元映像化、地震や水害等の変位・被災状況把握などの例を挙げ、得られたデータの利活用を概説する。	
	情報セキュリティ特論		本科目では、現代社会においてますます重要性が高まっている情報セキュリティについて体系的に学ぶ。サイバー攻撃の脅威や最新動向を理解し、情報資産を保護するための技術や知識を習得する。暗号技術、ネットワークセキュリティ、アプリケーションセキュリティなど、具体的な技術的な側面だけでなく、リスクマネジメントやセキュリティ監査など、組織全体のセキュリティ対策に関する知識も深める。さらに、IoTセキュリティやクラウドセキュリティといった最新のトピックについても触れ、高度な情報セキュリティに必要な素養を身につける。本科目を通じて、情報セキュリティに関する問題を分析し、適切な対策を立案できるようになることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学位 共通 科目 群	データマネジメント工学		近年は社会のあらゆる場所でデータが取得され、データの利活用の重要性が社会的に認識されてきた。本講義では、そのようなデータをいかに処理して課題解決のための処理を実施するか、その基礎技術を学ぶ。データ分析のための統計理論や機械学習などに関する基礎理論とともに、演習課題を通して幅広いデータに対しての利活用のための基礎技術を身につける。実際のデータ処理の基幹技術として、プログラミング言語Pythonとデータベース言語SQLを用いる。	
	人工知能特論		授業形態は講義と演習である。人工知能技術の中で近年目覚ましい進歩を遂げている機械学習について基礎的な原理、基本的なメカニズム及びアルゴリズムを学び、演習を通じて実際に実装するためのスキルを修得する。前半は講義で説明を行い、その到達度を筆記試験で評価する。後半は2種類の演習を行い、それぞれに対するレポート課題により到達度を評価する。本講義では、機械学習の中でも特に教師あり学習を取り上げ、処理対象として画像と自然言語を扱う。 （オムニバス方式／全16回） （86 山崎 達也／8回） 機械学習の画像と自然言語に関する講義 （233 高下 大貴／8回） 機械学習の画像と自然言語に関する講義演習	オムニバス方式 講義24時間 演習24時間
	ゲノム情報解析概論		バイオインフォマティクスとは、生命科学と情報科学が融合した学問分野である。本講義では、ゲノム情報を中心に、生命現象を理解するために取得された大規模データの現状とそれらを活用するための情報学的手法について学ぶ。内容は、生命科学におけるオミックスデータ、バイオデータベース、ゲノム配列解読とアノテーション、比較ゲノム解析、メタゲノム解析、トランスクリプトーム解析、プロテオーム解析、メタボローム解析、フェノーム解析、医学や環境分野における活用事例を取り上げる。	
	計算知能特論		本講義は全15回の講義形式で構成され、内容を4つのパートに分けて段階的に学ぶ形式で進行する。授業の目的は、進化計算、ファジィシステム、ニューラルネットワークについて、基礎から応用までを体系的に理解するとともに、これらの技術を統合した融合的アプローチの設計や応用を習得することにある。さらに、深層学習や生成モデルなど、最先端のAI技術を学び、最新の研究動向を把握することも目指している。授業計画として、第1回でガイダンスを行い、第2回から第4回にかけて進化計算、第5回から第7回にかけてファジィシステム、第8回から第10回にかけてニューラルネットワーク、第11回で融合化技術、第12回から第15回にかけて深層学習を取り上げ、各トピックについて体系的に学ぶ。	
	応用解析学特論		量子情報工学の数学的な基礎付けについて重点的に学ぶ。量子ビットの物理学的な実装についても無視せずに、量子物理学的な知識も学ぶ。量子情報工学について、概括的な知識をえる一般啓蒙書は多いが、それを超えて緻密に理解するためには、数学的な知識や物理学的な知識の整備が不可欠である。理論面の整備をめざし、丁寧に解説していくので、意欲的に学習してほしい。とくにヒルベルト空間、そこに作用する自己共役作用素、密度作用素、ユニタリー作用素についても学ぶ。	
	応用代数学特論		講義形式の対面型授業を行う。テキストを使用して、その内容の理解を目指して進めていく。目標は線形代数学に関する以下のことを理解し計算できるようになることである。 ①行列のシュミットの直交化についてのアルゴリズム。②正方行列の固有値や固有ベクトル、対称行列のスペクトル分解。③正方行列とは限らない行列の特異値・特異値分解。④正方行列とは限らない行列の一般逆行列。⑤連立1次方程式の最小2乗解やベクトルの確率分布。⑥コンピュータを用いた、上記に関する計算。	
	情報数理特論		この授業は講義形式で行う。時間と共に変化する偶然現象の数学モデルは確率過程と呼ばれる。この中でも多くの分野で応用可能であるマルコフ過程を取り上げる。この授業の目標は以下の①②③を理解できるようにし、③④では具体的な例に対して対応する特性量を計算できる、もしくは（近似）計算をするプログラムを与えられるようにすることである。 ①マルコフ過程とはどのようなモデルであるか。②マルコフ過程と行列の関係。③マルコフ過程の性質である、再帰性、平均再帰時間。④情報工学分野への応用。授業計画としては上で挙げた①をはじめる2回、②を次の5回、③を5回、④を残りの3回で講義する。	
	数理最適化概論		近年、ものづくりにおいては、設計問題を最適化問題として定式化し、その最適化問題を解くことにより設計するということが広く行われている。設計問題を数理的にモデル化し、最適化問題として適切に記述することが涵養である。本講義では、まず線形計画法や2次計画法のような凸最適化問題を取り上げ、凸性・双対など最適化に現われる概念や基本的な解法を説明し、さらに非凸最適化問題や制約付き最適化問題の最適性条件などを説明する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学位 共通 科目 群	数値計算特論		物理学・工学分野では、現象やシステムを偏微分方程式を用いて表すことがあるが、これらを解析的に解くのは難しい場合が多い。本特論では、偏微分方程式をコンピュータを用いて数値的に解く方法論とその応用について論じる。講義と実習を通して、数値シミュレーションの基礎理論を理解し、実際の物理学・工学分野の諸課題へ適用する方法を検討する。また、得られた数値データを適切に処理・可視化し、結果を分かりやすく他者へ伝える技術を身につける。	講義20時間 実習10時間
	システム工学特論		近年の複雑化・複合化が進む社会構造において、多様なニーズに対応するシステムを構築・運用・保守するための設計・運用・構造理解の技術・知識の重要性が増している。このようなシステムの構築や運用を俯瞰的／微視的観点から支援する思考・手法がシステム工学である。本講義では、その基礎となる知識・技術の習得とともに、実社会の課題を対象とした試行を行い、実用的なスキルとして身に付けることを目的とする。そのため本講義は、座学による講義形式に加え、グループワーク等による演習形式を一部併用する。全15回の講義のうち、1～5回ではシステム工学とその基礎知識を学習しながら、試行対象とする社会課題の抽出を行う。6～10回では、システム工学の実践・実用事例から最新のシステム工学の実装手法を学ぶ。11～15回では、グループワークによりシステム工学の適用対象を定め、システムの改善・評価・最適化などに取り組み、実用方法を試行・検証する。	
社会 シス テム 工 学 分 野 科 目 群	プロジェクトマネジメント特論		プロジェクトとは、定められた目的を達成するために定の期間内や限られた資源を使用進める活動であり、プロジェクト・マネジメントはこのような活動を成功に導くための運営法である。プロジェクト・マネジメントの概念は近年になって確立されてきたもので、品質やコストや納期を管理するための効率的な法が開発されている。本講義では、これらの内容を講義するとともに、プロジェクト推進時における各ステージ間に設けるゲートにおいて、プロジェクトの改廃を検討するための評価手法を併せて学ぶことで、プロジェクト・マネジメントに対する理解を深める。	
	リスクマネジメント特論		様々な事故に代表される、産業災害の防止は企業のリスク・危機管理の中でも重要なテーマの1つである。本講義では、ISO31000に代表されるリスクマネジメントの体系について議論をすると同時に、各種リスクアセスメント手法の理解、産業における事故の原因を理解するための手法について講義と実践を行う。また、多くの事故は組織の不具合によってその原因が埋め込まれることから、組織事故と呼ばれる事故について解説をすると同時に、組織の安全文化を如何にして醸成するかについて議論を行う。なお本科目は、企業への安全・リスク管理に関するコンサルティングの経験及び企業との共同研究経験を持つ教員が、本講義で取り扱う各トピックにおいて実務上の取り扱い及び近年の課題を交えて授業を行う。なお、岡本正が「自然災害訴訟に学ぶ組織のリーガルリスクとレジリエンスな人材育成」を、東瀬朗がそれ以外の回を担当する。 （オムニバス方式／全15回） （171 東瀬 朗／14回） ISO31000に代表されるリスクマネジメントの体系について議論をすると同時に、各種リスクアセスメント手法の理解、産業における事故の原因を理解するための手法について講義と演習を行う。 （337 岡本 正／1回） 自然災害訴訟に学ぶ組織のリーガルリスクとレジリエンスな人材育成について講義する。	オムニバス方式
	生産マネジメント特論		本科目では、企業が付加価値を生み出す活動要素である、マーケティングと製品（サービス）戦略、調達・生産計画業務、原価・品質・設備についての管理や生産を動かす情報システム・サプライチェーンのマネジメントについて解説し、生産マネジメントにおける各課題への対応について、討論、演習を行う。なお、本科目は企業において生産マネジメントの実務経験を有する講師が、それを活かした実務的視点、実務上の課題も踏まえ授業を行う。	
	プロジェクトマネジメント演習		プロジェクトとは、定められた目的を達成するために定の期間内や限られた資源を使用進める活動であり、プロジェクト・マネジメントはこのような活動を成功に導くための運営法である。プロジェクト・マネジメントの概念は近年になって確立されてきたもので、品質やコストや納期を管理するための効率的な法が開発されている。本講義では、これらの内容をあらかじめ解説した上で、競争的研究開発資金応募資料を作成する演習等を通じ、プロジェクト・マネジメントに対する理解を深める。	
	デザイン思考特論		イノベーションを生み出すためには、多様なバックグラウンドを持つ人々との協働が必要とされる。産官学連携や異分野融合はイノベーション創出に向けた期待が持たれている。一方で、組織構造、文化や慣習などの違いから、各主体には溝があるとも言える。その溝を乗り越えるためには、他者を理解しオープンに話し合えるような手法を身に付け、対話の場を設計していかなければならない。本科目では対話を通じてイノベーション生成やサービス設計を行うための手法をレクチャーやワークショップを通じて習得し、それらを駆使することによって課題の分析と改善策の立案の深耕を図る。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	技術経営戦略特論		経営学の学際的な研究領域の、技術経営とイノベーション研究は、マネジメント研究の中で成長が著しい研究領域の一つである。また実務の上でも研究の面でも、様々な研究技法が提案・利用されてきた。こうした中で、技術経営戦略を構築する上での基礎として必要な理論や諸概念について、基礎的な概念及び知識を俯瞰的に習得することを第一の目標に、イノベーション論の最新のトピック・テーマについて学ぶ。具体的には、イノベーションのモデルとその測定、デジタル化などの最新の 이슈、技術競争力の蓄積、技術多角化戦略、技術ポートフォリオの管理、未来洞察など、技術経営に関わるツールや研究開発のマネジメント、研究開発評価手法、グローバル化、サービスイノベーション等について扱う。	
	会計管理特論		本科目は、技術経営分野で必要となる会計、特に管理会計について、講義・演習を通じ事例（ケース）の検討を行うことを内容とする。本科目では、将来技術経営に携わることになる受講生が、管理会計の事例（ケース）検討を通じ、各企業が抱える経営管理上の課題に対し、適切な提案力を身に付けることを主たる目的とする。また、管理会計の意義・手法・有用性を他者にわかりやすく説明できるようになることを副次的な目的とする。なお本科目は、税理士及び会計税務コンサルティング会社の経験を有する教員が、それを活かして企業への管理会計手法の適用について授業を行う。	
	ブランディング特論		ビジネス環境や市場、組織、個人などを取り巻く環境が変化し、将来の予測が困難になっている状況において、ブランディングのあり方も変化が求められている。ブランドやその価値は企業が単体で生成、維持するものでなく、ステイクホルダーとの共創・協創によってなされていくものとなった。本科目では最新の研究動向を確認しながら、その要諦について参加者と共有していく。さらにブランディングにかかる事例を討議し、協創の実務者としての素養を高めることを目指す。なお、本科目は企業等とのブランディングの共同研究、コンサルティングの経験を有する教員が、それを活かしてブランディングの実務的視点、実務上の課題も踏まえ授業を行う。	
	産業技術政策特論		本講義では、イノベーション創出に携わる人材育成を目的とし、これに繋がりうる産業政策について学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （15 尾田 雅文／3回） 講義全体の概要説明・ガイダンス、研究開発における不正行為・利益相反、人を対象としたデータを扱う上で留意すべき事柄を講義する。 （386 平賀 仁／8回） 企業支援の体制の基本、統計等の活用した施策立案の方法、補助金や人的支援など国、自治体による産業支援の仕組み、補助金や委託研究など技術開発のための資金調達の仕組みの理解と利用方法、クラスター形成やコンソーシアムなど企業間連携、産学連携の仕組み、欧米での地域産業支援政策等についてそれぞれ講義する。 （111 上田 和孝／1回） 災害による産業への影響と産業政策における災害対策事例について講義する。 （430 若林 悦子／3回） 地方都市が抱える課題と産業界が取り組んだ対応策及び政策、地域の商店街の現状と抱える課題とそれらに対する取り組み事例について講義する。	オムニバス方式
	ビジネス実務概論		授業形態は講義とグループワーク。実務における課題解決方法を学ぶことを目的に、企業人に対するヒアリングからスタートし、課題の発見と明確な定義を行った上で、課題解決のための方針と具体的な方策を立案する。数名で構成されるグループとして検討をする。経営的側面、技術的側面、社会的側面など、複数の観点で検討を進める力をグループ内のコミュニケーションを通じて養う。グループとしてプロジェクトを進める方法やプレゼンテーションの方法に関するスキルは講義で学んだ上で、毎回教員のアドバイスを受けながらプロジェクトを推進する。	共同 講義12時間 演習36時間

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学位 共通 科目 群	電気エネルギー総合理工学分野科目群	高電圧大電流工学特論	高電圧や大電流に関する知識、理論、技術などを概説する。また、高電圧や大電流の発生方法、計測方法について説明を行う。更に、高電圧や大電流技術の応用について概説する。高電圧・大電流工学は、主として多量の電気エネルギーを送るための送電・変電機器を対象に進展してきた。しかし、現在では送電電圧1000kV級のUHV(Ultra High Voltage)も可能な段階となり新たな局面を迎える一方、昨今は産業用や実験用に高電圧・大電流による注入パワーの増大、高電圧・大電流の作用を利用する機器の開発が目覚しい。本講義では、高電圧・大電流の分野における電気電子工学技術の基本原則と基本技術を学ぶ。また、安全対策について内容を出来るだけわかりやすく、広い範囲で講述する。	
		応用超伝導工学	超伝導現象の基礎理論から始まり、臨界状態モデルによるマクロスコピックな超伝導電磁気学、応用のための線材・導体・マグネットの基礎理論と設計方法、超伝導の各種応用に関する講義を行う。内容は、超伝導の量子的物理現象、超伝導の巨視的電磁現象及び超伝導の各種電力機器（超伝導回転機、超伝導送電ケーブル、超伝導変圧器、超伝導限流器、SMESなど）、輸送機器（磁気浮上列車など）、産業応用機器（NMR、MRI、磁気分離装置など）、加速器、核融合装置への応用の現状、技術課題について取り扱う。講義内容に関する期末レポートを課し、理解度を評価する。	
		有機エレクトロニクス特論	有機エレクトロニクスにおける基礎的な内容から応用まで取り上げ、最新のエレクトロニクスを支える有機エレクトロニクスに関する知識の習得を目指す。基礎的な内容では、有機電子材料の基礎概念や電子物性・光物性について説明する。応用については、有機薄膜の作製・評価法から様々な有機デバイスの動作機構について学ぶ。さらに、受講生をいくつかのグループに分けて、与えられた有機エレクトロニクスのテーマについてプレゼンテーションを行う。	
		デバイス・センサ特論	主に、デバイス・センサに関して重要である、p n接合ダイオードおよび電界効果トランジスタ（FET）について講義する。動作の基礎と、理想とのずれ、交流応答などについて学ぶ。さらに高周波デバイス、センサについても講義する。理想p n接合ダイオードと現実の素子との違い、p n接合の交流応答、スイッチング応答の基礎を理解する。また、接合型FET（JFET）、MIS構造および容量電圧特性、MISFETの動作特性、高周波デバイス、光センサについての基礎を身につける。	
		電子光デバイス特論	本講義では、半導体や電子デバイスの基礎知識をもとに、発光ダイオード、半導体レーザ、太陽電池等の光電変換デバイスに加え、各種ディスプレイ等の動作原理と、デバイス作製に用いる半導体プロセス技術、各種材料等について解説する。以下の三点を到達目標とする。(1) 光電変換デバイスの動作原理について説明できる。(2) 光電変換デバイスに用いられる材料について説明できる。(3) 光電変換デバイスを作製するためのプロセス技術について説明できる。	
		電子・光機能性材料特論	電子物性・半導体工学などの基礎的知識を習得したうえで、今後身の回りで使える電子・光材料について学び、電子・光材料についての原理・基礎・応用について理解を深める。キャリア輸送・p-n接合について、体系的に理解できること、および、物質の光学特性や評価方法について説明できることを目標とする。	
		電子材料分析評価法特論	半導体材料やデバイスの開発あるいは半導体プロセスにおいて、半導体材料とデバイスの評価を知識と実践が必要となる。本講義では、半導体材料の評価技術の知識を会得することを目的とした講義を行う。内容は半導体評価技術を理解するための半導体物性の基礎、半導体とプローブ粒子との相互作用、構造・光学・電気的特性評価を行うための装置の構造と原理とその応用を取り扱う。電子材料評価を実践するにあたり、適切な評価技術の選択に必要な知識を授ける。	
		機械情報可視化論	熱流体のような不可視現象の可視化と理解は、工学上重要な課題である。特に、機械工学においては、熱流体が関わる現象が数多く存在する。本講義では、そのような熱流体計測の基礎についての理解、その実験技術、可視化計測手法、可視化イメージのコンピュータ処理について講義する。講義では熱流体の具体的現象に対して、流れの可視化法を適用することで、物理現象の基礎的理解を進める。同時に、熱流体計測の基礎である流れの可視化技術、実験技術、画像のコンピュータ処理についての理解を深める。	
		固体物性物理学 I	固体の結晶構造は物質の最も基礎的な要素であり、物性を理解する上で必要不可欠な情報である。本講義では結晶構造を読み解く上で必要となる基本的な情報、物性との関係、結晶構造解析法として主にX線を用いた回折法の基礎、および量子ビームをもちいた最新の構造物性研究の例を解説する。後半では、粉末X線回折パターンから各種構造パラメータを抽出するリートベルト解析法を解説し、具体的な実施方法として解析プログラムJANA2020を用いた実習をおこなう。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学位共通科目群	電気エネルギー総合理工学分野科目群	固体物性物理学Ⅱ	強相関電子系の新物質探索や純良な単結晶育成および極低温・強磁場下での実験的研究に関する研究指導を行う。固体中で現れる様々な相の出現と共存状態や、固体の熱的・電氣的・磁氣的性質について学ぶ。相図の見方の理解は、単結晶育成を行う際に大変重要となる。また、結晶の電子状態を知る上で重要となる比熱や電子状態を特徴づけるバンド構造やフェルミ面を記述する手法と観測方法を学ぶ。また、強相関電子系を中心とした最近のトピックスについて学ぶ。	隔年
		化学反応計測学	電子にはスピンと呼ばれる性質（自由度）がある。電子スピンは物質の磁性の源であるにも関わらず、多くの化合物の磁性は微弱である。その理由は、物質中のほとんどの電子は、磁性を打ち消すようなスピン対を形成するためである。しかしながら、ラジカルや遷移金属イオンと呼ばれる化合物は不対電子をもつため、電子スピンに由来する磁性が現れる。不対電子は物質の性質を決定する原子軌道に存在するので、周囲に敏感である。不対電子を検出できる電子スピン共鳴（Electron Spin Resonance、ESR）法を用いることで、化合物の種類や環境を明らかにすることができる。本科目では、ESR法の基本原理および応用例を解説する。	隔年
	熱・化学エネルギー総合理工学分野科目群	エネルギー関連国際学会コミュニケーション法	エネルギーの分野、特に太陽集光システム、太陽熱利用、蓄熱、水電解や水熱分解による水素製造に関する講義とグループディスカッションを英語で行う。これにより、ソーラーおよび水素エネルギー関連の研究や開発等をすすめる者として必要な科学技術的トピックスに関する英語表現能力を身につける。これらを通して、化石燃料と二酸化炭素の排出量への依存を減らす再生可能エネルギーとクリーンな燃料の製造・利用技術についても学ぶ。	隔年
		エネルギー化学特論	熱、電気、化学エネルギーは、我々が通常、エネルギーを貯蔵、輸送、利用するときの代表的な3形態である。これらの間の転換原理を理解することは、エネルギー・資源利用技術の理解に不可欠である。特に、エネルギー化学に携わるものにとっては、熱や電力を化学エネルギー（化学燃料）に転換の原理は重要である。近年の地球温暖化の問題から、太陽エネルギーなどの再生可能エネルギーを貯蔵・輸送が可能な化学エネルギーへ転換する技術の重要性が高まっている。本講義では、太陽集熱あるいはソーラー電力の化学エネルギー転換の例を学ぶことで、その基本的原理を修得する。	隔年
		水素エネルギー・製造輸送論	水素は、これまで石炭・石油、天然ガスなどの化石資源から大量に製造され、石油の精製、アンモニア・メタノール合成に使用されている。他方で地球の地下資源の枯渇や大気中の炭酸ガス増加による地球温暖化の懸念が高まる中、欧米日を中心に将来のエネルギー資源としての水素に注目が集まり、太陽エネルギー、風力等の再生可能エネルギーを出発に水素を製造し、エネルギー源として利用しようとする水素社会の実現に向けた取り組みが活発になされている。本講義では、既存の水素製造法に加え、研究途中の方法について概説し、さらに水素の精製から貯蔵・輸送技術についても、現状を解説する。あわせて、水素に関連する技術開発の過程で当該技術の競争力を見積もる際に必要な、経済性評価の基礎についても説明する。講義の一環として水素ステーション等の実地設備見学を行う場合がある。 （オムニバス方式／全15回） （328 石本 祐樹／7.5回） 水素製造、経済性分析について講義する。 （324 飯田 重樹／7.5回） エネルギーシステムと水素、水素貯蔵輸送、水素利用（水素ステーション見学を含む）について講義する。	オムニバス方式
		再生可能エネルギー概論	太陽光や風力等の再生可能エネルギーの導入は世界の喫緊の課題であり、我が国を含む多く国々が目指すカーボンニュートラルの達成には、再生可能エネルギーの大量導入が必須である。再生可能エネルギーの大量導入に対する電力システムや輸送関連分野等での諸課題と、それらに対するカーボンニュートラル燃料（バイオマス）及び廃棄物、太陽熱発電技術、蓄熱を活用した発電技術等の取り組みについて、カーボンニュートラル関連の研究・開発等に取り組むために修得すべき基礎知識を概説する。 （オムニバス方式／全15回） （414 川村 太郎／8回） 電力システムでの諸課題、太陽熱発電技術、蓄熱を活用した発電技術について概説する。 （415 森山 亮／7回） 輸送関連分野等での諸課題、カーボンニュートラル燃料（バイオマス）及び廃棄物について概説する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	熱・化学エネルギー総合理工学分野科目群 エネルギー変換論		本講義では、化学熱力学について理論解説と問題演習を行う。化学熱力学の基本的な考え方として、反応熱と標準生成エンタルピー、ギブス自由エネルギー変化と燃料電池の最大仕事、標準生成ギブス自由エネルギーと化学平衡定数、燃焼のエネルギーバランスと理論火炎温度について講義する。問題演習では、反応熱の計算、メタン改質による水素製造の化学平衡、メタンの理論火炎温度、燃料からの炭素析出を取り上げて演習問題を受講生に解かせてから解説する。以上により、化学熱力学の分析の方法論を習得させ、それを用いてエネルギー問題を分析できる応用力を身に着けさせる。	
	光エネルギー工学		本講義では、光エネルギーに関する基礎理論から最新の応用技術までを講義形式で取り扱う。前半では光（ふく射輸送）の基本法則を中心に扱い、地球温暖化問題の本質的な理解を目指す。後半ではナノテクノロジーを用いた光エネルギーの制御技術やその応用について学ぶ。輻射輸送方程式やマクスウェル方程式などの基本概念を習得し、関連する問題演習を通じて計算力を向上させることを目的とする。授業内容は、光の吸収と散乱、大気放射と地球温暖化、表面プラズモンやメタマテリアル、太陽エネルギーの有効利用などを含む。講義形式で進行し、成績は最終レポートにより評価する。エネルギー問題に関する理解を深め、ナノテクノロジーを活用した新たな技術への知見を養成することを目標とする。	講義20時間 演習10時間
	電子移動反応論		電子移動反応は、様々なデバイスから生体反応に至るまで、幅広い分野で重要な役割を果たしている。近年社会問題として取りざたされている、エネルギー・環境問題を背景に、人工光合成、太陽電池、燃料電池などのエネルギー変換デバイスに高い関心が寄せられている。本講義では電子移動反応の基礎を再確認するとともに、エネルギー変換デバイスに関連した光誘起電子移動反応、他電子移動反応、プロトン共役電子移動について解説する。さらに、電子移動反応を基盤としたエネルギー変換デバイス開発に関する最新情報を収集して、革新的なデバイス開発について議論する。	
	エネルギー変換材料論		エネルギー変換材料論では、太陽光エネルギーの物質変換に関する材料を中心にエネルギー変換材料の基礎から応用までを解説する。持続可能な循環型社会の実現に向けて、高性能なエネルギー変換材料の開発は重要である。エネルギー変換材料の基礎と応用を習得し、関連分野の学術論文の内容を正しく理解して説明できるようになること目的とする。内容は主として光が関わる触媒化学について取り上げる。授業実施形態は、講義と論文発表形式で行う。	隔年
	エネルギー材料解析化学		本講義では、地球規模で進行する温暖化やエネルギー問題を理解し、再生可能エネルギー導入に係わる世界の動向、CO2フリーの水素エネルギーの研究開発動向に注目し、時間とともに変動する再生可能エネルギーとエネルギー貯蔵の必要性、再生可能エネルギーをエネルギー源とする水素製造技術の研究動向を学ぶ。エネルギー材料の果たす役割を理解し、その解析技術の理解と習得を目標とする。授業は対面講義形式で実施し、レポートによる成績評価を行う。	隔年
	溶液化学特論		環境や生体など化学反応の多くは溶液を反応場としており、化学種の反応性は、分子自身の性質だけでなく、溶媒との分子間相互作用である溶媒和に強く依存する。また、水のような水素結合性液体では、溶媒自身の持つ強固な液体構造性が、エントロピー的に反応に影響を及ぼす。したがって、溶液内反応を理解するには、溶質－溶媒間相互作用に加え、溶媒間相互作用を理解する必要がある。また、分子構造や液体構造といった構造論は、反応を直感的に理解するには非常に有用であるものの、反応ポテンシャルの反映に過ぎず、反応をより深く理解するには、分子内および分子間ポテンシャルの立場から理解することが望ましい。この授業では、溶液内反応を理解することを目的として、受講者各自の修士学位論文研究に有用な、溶液内反応を理解するのに必要な熱力学、(熱)統計力学、量子化学の基礎を固めるとともに、分析化学的な立場からより定量的な方法論を講義形式と演習形式のハイブリッド形式で学ぶ。	隔年
	地球表層の物質循環と資源		本講義では、地球表層～内部における大きなスケールの物質循環プロセスのうち、主に日本と東アジアの地質の形成と生物が関わる資源を題材に、地球・資源の仕組みや歴史性、それらに人類生存の位置づけを絡めたトータルな理解の端緒となることを目指す。内容は、日本と東アジアの中・古生代地質体の形成史を例に、地球表層～内部の地質・生物が関わる物質循環についての講義を行う。これを踏まえ、新潟県内で地質学の社会的応用について、資源に関わる地層や施設にて演習を行う。	講義14時間 演習16時間

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学位 共通 科目 群	熱・化学エネルギー総合理工学分野科目群	水素制御管理特論	将来の水素エネルギー社会に向けた技術開発として、水素エネルギーの製造の他に、水素エネルギーを安全かつ有効に使うための社会基盤の整備が必要である。つまり、爆発の危険性のある水素を瞬時に検出できるセンサーや制御系のセンサーも必要である。また、燃料電池自動車の場合、水素を安全かつ大量に貯蔵できる「水素吸蔵合金」がブレークスルーと考えられている。この授業では、水素エネルギー利用のために必要な貯蔵・安全・制御について、理論的な側面から講義する。 （オムニバス方式／全15回） （427 村上 貴洋／14回） 環境問題とエネルギー問題などの社会背景全般から、水素吸蔵合金における金属-水素系の物理学 （84 山内 健／1回） 有機電極を用いた、水素センサと燃料電池	オムニバス方式
	エネルギー転換プロセス特論		エネルギー転換は、核、太陽、重力などの原始的なエネルギー形態を、電気、燃料などの、より有用なエネルギー形態に転換することであり、不可欠であるため、技術開発と現代生活にとって重要である。この目的のために、エネルギーをある形態から別の形態に転換するためのさまざまなデバイスとシステムが設計および開発されてきた。エネルギー転換プロセスは、2つの主要な段階で構成されている。1段階目は、主要なエネルギー源（太陽、熱、化学物質など）を収集して使用可能なエネルギー形態（電気または燃料）に転換することであり、2段階目は、家、車両、デバイスなどにおけるエネルギー消費である。この講義では、さまざまなエネルギー転換方法とデバイスについて解説する。	隔年
地球惑星科学分野科目群	森林保全工学特論		日本の森林の多くが分布する山地の河川では洪水等の自然災害が頻発し、人間の社会的な活動に悪影響を悪影響与えているが、一方で洪水等による攪乱は豊かな溪流生態系を形成・維持するために不可欠である。森林保全工学では、洪水等の自然災害を、山地河川の環境を保全しながら、災害を防ぐための技術を学ぶことを目的とした講義を行う。講義では、河川環境の動態、天道的な河川管理の手法、伝統的な河川管理が引き起こした問題、自然環境の保全と防災を両立を目指した新しい河川管理の手法を学ぶ。	
	地圏環境論I		東日本大震災は、2011年3月11日14時46分に三陸沖の宮城県牡鹿半島の東南東130km付近で発生した東北地方太平洋沖地震（M9.0；海溝型プレート境界地震）による災害である。被害状況は、地震被害よりも、原発事故と津波による被害が深刻で2万人以上の死者・行方不明者がでた。福島県の被害の特徴は、津波地震被災と原子力被災との複合災害である。津波地震被災地は復興が進みつつあるが、原子力被災地は環境の回復に長い時間を要する。授業では、福島県いわき市～相馬周辺を訪れ、事前に決めたテーマについて調べてきたことを、現地で観察・議論して、東日本大震災後の被害と復興の現状を学ぶ。	
	フィールド惑星科学特論		太陽系には無数の天体が存在しており、それぞれの天体は個別の表層地形や地質を持っている。これらの天体には固有の特徴が現れる一方、共通する特徴を持つものも多く見られる。本科目では、太陽系の天体の表層における地質や地形の特徴について、地球上でのフィールドワークや実験を通じて、これらの天体がどのような条件や過程で現在の形態を形成したのかを学ぶ。また、他の天体の地質学的な構造や成り立ちを理解することで、地球外の天体における地質学的な探査の重要性も認識できるようになる。	
	環境化学要論II		現在の海洋環境が抱える諸問題の解決には、海洋化学分野の基礎知識・考え方を獲得することが不可欠である。そのためには、海洋水の動態にアプローチする方法論・その知見体系（化学海洋学）および現在の海洋物質循環の精密理解（海洋生物地球化学）が重要となる。また、絶えず変化する地球・海洋環境の理解の高度化には新規分析手法の開発と適用や古海洋や地球の変遷の歴史の理解が不可欠であり、これらの題材も当該科目では扱う。	講義15時間 演習15時間
	大気物理学特論I		この科目では、地球大気におけるさまざまな現象、さらには地球温暖化をはじめとする気候変動を理解する上で基礎となる大気物理学に関して、地球流体力学、放射を中心に、最近の研究動向も含めて学ぶ。特に金星や火星など他の地球型惑星の大気の特徴と比較することで地球大気の特徴を理論的に理解する。具体的には、大気組成、大気鉛直構造、大気の安定度、水平・鉛直対流、放射平衡、温室効果、熱輸送における地球大気の特徴性を詳しく学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	地球惑星科学分野科目群 環境化学要論I		天然水中の超微量成分は環境中の物質循環を解明する指標となり得るので、超微量成分を分析できる信頼性の高い分析法の開発は重要である。しかし分析法の感度や正確性がどれほど優れていても、測定する試料の取り扱い方や定量操作に不備があった場合には、微量分析を行う場合の定量値の信頼性は非常に低いものとなる。本講義では、環境試料中に存在する成分の定量を行う前段階として、データの取り扱いやサンプルの調製法、データの質の保証、検出限界の意味や求め方、試料の採取法や保存法を中心に講義する。その中では、超微量成分の計測法、目的成分の選択的分離、濃縮法についてもできるだけ紹介する。	
	第四紀・地盤災害特論		本講義では、平野・丘陵部における地盤災害の予測と軽減に関する問題を講義形式で解説する。特に地震に伴う災害、平野・丘陵部の伏在断層、地盤の液状化災害等の具体例（近代、歴史時代等）を述べるとともに地盤を構成する地層の基本的な堆積様式、空間分布、成因から発生が予測される災害の規模や質を予測することについても解説する。具体的には地震災害の概要と特徴、地盤災害の複合要因、液状化災害の発生と予測、活断層の概要、伏在活断層の調査法と新潟平野における実態、沖積層と地盤災害などの講義を行い、災害要因や災害環境を理解することを目的とする。	
	気象災害特論		日本は気象災害が多い国であり、毎年、集中豪雨による水害や土砂災害が引き起こされたり、台風や竜巻によって壊滅的な被害を受けたりしている。また、年によっては大雪が降り、広域的な雪害がもたらされている。本科目では、講義、現地見学、受講生とのディスカッションなどを通して、気象災害、異常気象、地球温暖化などの特徴を学ぶとともに、気象災害を防止・軽減するための方法について学ぶ。本科目の目標は、日本各地で発生する気象災害や異常気象について、その背景や原因を議論することができること、および気象災害を防止・軽減する上で必要な対策方法について考察することができることである。本講義は対面で実施し、講義および現地見学・議論に基づいてレポート作成と試験を行う。	講義20時間 演習10時間
	水災害特論		平常時と洪水時の河川における物理現象について紹介し、また、洪水時の洪水氾濫がもたらす水災害についての国内、国外における事例を紹介する。その上で、河川における平常時と洪水時における流水とそれを駆動源とした土砂輸送の物理法則と、これらのモデル駆動解析の原理について論じる。これに加え、近年注目されているデータ駆動解析とモデル駆動解析を融合した解析法の原理についても言及する。その上で、水災害の物理法則の理解を通して初めて可能となるハードとソフトのそれぞれの軽減策について論じる。	
	災害地球化学特論		本講義は、3部構成となっている。まず第1部では、天然水（地表水・地下水・地熱水）の溶液論、化学平衡論および安定同位体地球化学の基礎を習得する。次に第2部では、大気、水、陸、海洋を通じての物質循環に関する知識を習得する。最後に第3部では、これらの基礎知識を踏まえて、自然災害（地すべり・崩壊・土石流など）の事例に則して、地球化学的指標を利用した地下水流動や流出の解析、同手法を用いた現地調査・観測による変状現象の検出方法について解説する。	
	水文学特論		Outline: Seminar class that explores important 21st century issues facing humanity in hydrology and water resources management. Key topics for debate include the impacts of climate change and land use change on the hydrological cycle and water resources availability. Objectives: improvement of English skills, especially listening and discussion. Gain greater understanding of the most important challenges facing water resources managers in the 21st century. Preparation of a presentation on a chosen topic of interest, pitched at a level so that non-specialists can understand the issues. First hand experience of field survey to measure stream discharge and snowpack characteristics. 概要：人類が直面している水文学と水資源管理の重要な21世紀の問題を探究するセミナークラス。議論の主要トピックには、気候変動と土地利用の変化が水循環と水資源の利用可能性に与える影響が含まれる。 目標：英語力、特にリスニングとディスカッションの向上。21世紀の水資源管理者が直面している最も重要な課題に対する理解を深める。専門家以外でも理解できるレベルで、興味のあるトピックに関するプレゼンテーションを準備する。河川流量と積雪特性を測定するための現地調査を直接体験する。	講義14時間 実習16時間
	地球表層の物質循環と資源		本講義では、地球表層～内部における大きなスケールの物質循環プロセスのうち、主に日本と東アジアの地質の形成と生物が関わる資源を題材に、地球・資源の仕組みや歴史性、それらに人類生存の位置づけを絡めたトータルな理解の端緒となることを目指す。内容は、日本と東アジアの中・古生代地質体の形成史を例に、地球表層～内部の地質・生物が関わる物質循環についての講義を行う。これを踏まえ、新潟県内で地質学の社会的応用について、資源に関わる地層や施設にて演習を行う。	講義14時間 演習16時間

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	進化形態学		生物の生態や行動は、「かたち」の機能に少なからず依存する。したがって形態の変化は、進化を促す原動力となる。本講義では、生物の形態に関わる生物学的な性質や物理的な環境条件などを踏まえ、生物の形がどのように進化してきたのか解説する。講義を通して、形を取り巻く内的および外的現象の階層性を区別する素養を身につけ、形が進化する原動力や諸生命現象と関連付けて考えられる能力を養成する。集中講義形式で、2日間かけて実施する。	
	応用地形学特論		応用地形学特論では、多量の降水、活発な地殻変動の条件下にある湿潤変動帯における土砂移動現象の実態とそれらのメカニズムを解説する。また、今後の気候変動に伴う土砂移動の変化について論じる。本科目の履修を通して、地形変化の要因を理解するとともに、地形プロセスの基礎知識を基に、地形図の読図能力の向上を図る。そして、1) 地形図の読図からその場の地形形成作用を類推できる、2) 土砂災害の潜在的危険箇所を推察できる、知識・能力を身につける。授業形態は、講義、演習および受講者による発表・討論形式である。	講義16時間 演習14時間
	火山噴火史調査法		過去は未来を予見する鍵であり、破壊的な火山噴火の履歴を知ることは、将来の噴火災害の予測に極めて有益である。過去の噴火の痕跡は、噴火によってもたらされた堆積物、特に火山砕屑物は堆積構造などに噴火の特徴を記録しており、野外での観察を通じて、それを読み取ることが可能である。また、多数の地点の情報をつなぎ合わせることで、噴火の規模や噴火地点を知ることが出来る。本講では、火山砕屑物の特徴から噴火現象を読み取る方法を学ぶ。	
	気候物理学特論		本講義では、主として大気海洋の相互作用および気候変動に関する諸問題を、地球物理学の視点を持って検討する。現代の地球環境問題において、気候システムの理解は極めて重要である。過去・現在・未来の気候状態を把握し、気候変動のメカニズムを理論的・定量的に理解することを目的とする。内容は、大気海洋相互作用の基本的性質、エネルギー収支、ENSOやモンスーンといった気候変動の主要な現象、さらに気候モデルや「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」レポートに基づく未来予測について発表形式で、互いに議論しながら進める。これらを通じて、気候変動における大気と海洋の役割を深く学び、他分野との関連も意識し新たな問題の発見にも取り組んでもらう予定である。気候システムの理解を深化させ、科学的根拠に基づいた議論と発信ができる能力を養う。	
	大気影響評価学特論		本科目では、大気中での汚染物質の挙動や陸域への沈着過程、大気由来の物質の森林生態系内での生物地球化学的な挙動・循環や樹木・土壌の応答、さらに人の健康への影響に関して疫学研究成果を用いた影響指標の導出やその経済評価について、我が国を含む東アジア酸性雨モニタリングネットワーク（EANET）による観測結果や関連研究、文献紹介も含めて基礎的な理論を解説する。大気汚染物質の沈着・暴露、それにより生じうる生態系及び健康への影響について、その基本的なプロセス、観測・調査方法、評価・解析手法を理解する。これらを通じて、大気・生態系・人間社会の繋がりについて考える能力を養う。 （オムニバス方式／全15回） （358 佐瀬 裕之／5回） 汚染物質の陸域への沈着過程と生態系への影響の可能性 （333 浦川 梨恵子／5回） 大気汚染物質の流入が森林の物質循環に与える影響 （364 ZHU MEIHUA／5回） 大気汚染や気候変動に関して社会・経済学の観点から論じる	オムニバス方式
	大気環境科学特論		本科目では、大気環境学全般の概論、オゾン・粒子生成を含めた大気化学、大気測定手法に関する概論、東アジアにおける大気汚染実態およびモニタリング結果の概観、排出量の推計手法の概論と東アジアにおける排出量の概観、大気シミュレーションの概要と科学をベースとした大気環境管理について解説する。大気に放出された人為起源・自然起源物質が移流・拡散および光化学反応等の物理・化学作用を経て大気汚染物質となるプロセスの全体像を理解するとともに、アジア大陸の東部に位置する日本および周辺諸国の現在と将来の状況の把握を促す。大気汚染物質のモニタリング方法、計算機を用いた数値解析の手法について理解する。 （オムニバス方式／全15回） （359 佐藤 啓市／5回） 大気環境学全般の概論と大気化学 （349 黒川 純一／5回） 大気測定手法と東アジアにおける大気汚染の状況 （388 HUO MINGQUN／5回） 大気汚染物質の排出、大気質モデリング、及び大気環境管理	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	希少生物学特論		希少生物学特論は、希少生物の基本的な生物学的特性について知識を深め、希少生物に関する問題（特に、希少種の保全）に対処できる能力を養うことを目標とする。この目標を達成するために、本科目では、希少種とはなにか、希少種の時空間的な特性・進化、希少種の小集団に起因する問題や生物学的特性、保全などに関する講義を実施し、また、受講生による関連論文の紹介をもとに議論を行う。前半（1-8回を予定）は講義、後半は（9-15回を予定）学生によるプレゼンを元にした議論を行う。	
	流域環境思想論		流域環境思想論では、近年環境保全や防災の文脈で重視されている「流域」というコンセプトに焦点を当て、流域をめぐる価値的・思想的論点について理解を深めることを目指す。「流域」とは何か、それは人間にどのような影響を及ぼしてきたのか。「流域」を舞台に繰り上げられる人と大地、あるいは人間社会の関わりやせめぎ合いを学び、この概念についての理解を深める。ジグソー法を用いた資料の読解やディスカッションを中心とした参加型の講義である。他者との対話を通して、自分の見方・考え方を広げ、掘り下げることを学ぶ。	
	野生植物生態学特論		教育関係共同利用拠点となっている新潟大学演習林・静岡大学演習林の相互の大学演習林において森林植生・樹木の生理特性を調べることで、太平洋型と日本海型の森林の特徴や生態学的差異を具体的に理解することを目指す。新潟大学の学生は新潟大学佐渡演習林の多雪地冷温帯植生についての概要を整理した上で、静岡大学上阿多古・中川根・富士の3フィールドを巡り、太平洋側冷温帯林の樹種構成・種特性について学ぶ。	講義2時間 実習28時間
	島嶼生態学特論		本科目では、島嶼環境を例に挙げながら、生物生息場所の地理的な隔離が生物の進化にどのように結びつくのかを考える。また本州と島のように集団間を比較するための具体的な手法（写真撮影、形態比較等）を学ぶ。佐渡島での実習とオンラインでの島嶼生態学講義および写真を使った形態比較実習（ランドマーク法など）を行う。野外実習で行う佐渡島での実習に参加することが必要である。本科目を通じて生物進化のメカニズムについて学び、さらにその保全について考察できることがねらいである。	実習23時間 講義11時間
	進化生物学特論Ⅳ		本科目のねらいは、遺伝的多様性の解析方法を理解し、遺伝的多様性を把握すること、生物の進化、多様化をもたらす背景や要因が解明できることを学ぶことである。生物の集団内、集団間、種間には様々な遺伝的多様性があり、これらは生物の進化を促す原動力でもある。生物の進化や多様化をもたらす要因を理解するためには、集団内、集団間、種間といった様々なレベルの遺伝的多様性を把握する必要がある。本科目では、英語の教科書を用いて、遺伝的多様性を測定・解析する手法とその解析例を学ぶ。授業では英文講読を行う。	
	神経内分泌学		動物の行動と生理機能は、生まれながらに持っている環境適応のしくみであり、視床下部－下垂体系を中心とした神経内分泌系によって調節されている。本講義では、神経系、内分泌系、神経内分泌系を中心とした組織間・細胞間の化学情報伝達系の構造と機能についての基礎知識を解説するとともに、これらの化学情報伝達系が関わる生命現象の調節に関する先端的研究論文を精読する。また、ホルモンをはじめとした化学情報分子の定量的解析法と生物統計の基礎を解説する。授業は、第4タームに集中形式（五十嵐キャンパス）で行う。本講義の目標は、動物の行動と生理機能を統合的に調節している神経内分泌系の構造と機能、およびその中で働く化学情報分子の定量的解析法の理解を基に、動物の環境適応のしくみを理解することである。	
	先端臨海実習		本実習は、生物相豊かな佐渡島において、多様な海洋動物を採集し、それらを用いて動物の形態や機能、生態、進化に関する実習を行う。具体的な実習内容は、担当教員と相談して決定するが、実習生が自律的に課題を設定して研究に取り組むことも可能である。本実習は、佐渡臨海実験所において宿泊しながら対面型形式で実施する。本実習の実習内容と日程は、担当教員と相談して決定するが、主に海洋生物の採集が可能な8月から10月、および3月に実施する。	共同 講義2時間 実習28時間
	進化生物学特論Ⅱ		本講義では、英語の教科書の輪読により、系統樹に基づく系統学の基本を学んでいく。選定した教科書について担当章及び担当回を決め、各自の担当回にスライドもしくはレジメを使って担当章の内容を解説し、全員でその内容について検討する。「系統樹」について、その内容及び関連する用語を正しく理解し説明できる。また生物の系統や進化に関して、現在理解されている内容について正しく説明できることを目標とすると共に、英語の教科書を読むことにより、英語読解力の向上を狙う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	SDGs入門演習		「SDGs入門」では、2015年9月、第70回国連総会において採択された「持続可能な開発のためのアジェンダ2030」に含まれるSDGs（Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標）の内容を学習する。SDGsは17の目標で構成されており、目標1は貧困の克服を目指し「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」ことを目標としている。以下、「飢餓」「保健」「教育」「ジェンダー」「水と衛生」「エネルギー」「経済成長と雇用」「インフラ、産業化、イノベーション」「不平等」「持続可能な都市」「持続可能な生産と消費」「気候変動」「海洋資源」「陸上資源」「平和」「実現手段」に焦点を当てて目標を定めている。見方が広範囲にわたるため、すべての学部・研究科での学び・研究が何らかの目標に関連している。日本には豊かな自然環境の恩恵を受ける一方自然災害も多く、豊かさとは災害は表裏一体の関係にある。世界の自然災害は過去20年間で倍増しており、防災・減災や災害レジリエンスの高度化・精緻化が進む一方、人口減・高齢化による地域力の低下など地域の実情に合わせた方策・施策の集約化も必須である。また企業においても環境や社会等に配慮したESG（環境、社会、ガバナンス）経営が求められており、SDGsの達成に向けこの分野への備えは欠かせない。本科目では「持続可能な地域社会」の構築に向けた実践的な取り組みを学ぶ。	
	森林遺伝育種学特論		DNA解析技術の進歩に伴い、遺伝情報を活用した分子育種が林木でも行われるようになり、森林資源の創出を目的とする人工林の育成に活用され始めている。一方、遺伝資源として重要な天然林では、遺伝的多様性や遺伝的地域性が明らかにされるようになり、これらの知見が管理や保全に活用されるようになった。本科目では、海外の文献あるいは英語で書かれた専門書の内容をまとめることにより、森林遺伝育種学に関する専門的知識を深めます遺伝情報に基づいて森林を育てる「森林の遺伝的管理」の重要性についての理解を深めるとともに、森林遺伝育種学に関わる諸問題について、知見を深め、論理構成力を養うことを目標とする。	
	都市デザイン特論		都市の活力や快適性をもたらす都市デザインの重要性について、国内外の事例を通して理論と実践手法を論じる。前半は、国内外の都市デザインの理論を概観した後、日本国内の各都市の都市デザインの実践例を学ぶ。後半は、前半で学んだ都市デザインの理論を活用して、新潟大学のキャンパス改善の計画案の作成に取り組む。キャンパスは小さな都市であり、キャンパス改善の計画案を作成する作業を通して、総合的に都市デザインに関わる計画・事業・施策を検討する知識と経験を定着させる。	講義16時間 演習14時間
	農業水利調整論		水資源として理論上、最大限利用可能な水の量は限られている。この量を多数の利用者が一定のルールに従って使用している。我が国では「水利権」と呼ばれており、協議によって誰がどの程度取水するのかが定められている。しかし、水利権量の決定は単純ではない。これまでの歴史的背景や地域特性などを踏まえて、多くが納得する結論を導く必要がある。本科目では、明治時代以降の産業構造の変化に伴う水利権取得における様々な葛藤や紛争について、名著「河川水利調整論」から学び、今後、水利を扱う土木技術者が計画立案する上で備えておくべき知識と考え方について理解を深める。	
	森林空間計測学特論		発展途上国における森林減少・森林劣化に由来するCO2の排出量は、人為活動による排出量全体の約2割を占め、化石燃料の使用に次ぐ大きな排出源となっている。このため、森林減少と森林劣化からの排出を削減するための国際的な制度としてREDD+の構築が議論されている。REDD+は、途上国が行う森林減少・森林劣化を抑制する取り組みによるCO2の排出削減、森林保全等（「プラス」活動）によるCO2の排出防止および炭素固定による大気中のCO2の削減に対して、何らかの経済的インセンティブ（資金やクレジット）を与えるというのが基本的な考え方である。このため、排出削減量の評価には科学的なアプローチによって森林炭素の変化量をモニタリングすることが求められている。森林炭素モニタリングでは森林調査とリモートセンシングの組み合わせが有望視されている。この科目の履修を通して、REDD+の枠組みを理解すると共に森林炭素モニタリングにおける系統的な地上調査ならびにリモートセンシングの役割について知識を深める。	
	生態学特論		最初に、講義を実施する。昆虫類の進化や系統関係、多様性、体節構造ばかりでなく、配偶システムや生殖の仕組みなどについて解説する。また、陸上昆虫の採集法や標本作成法、各分類群の同定方法についても解説する。これらの講義を終えた後、実際に野外に出て、昆虫類をトラップや捕虫網により捕獲し、標本作製する技法を説明し、生態調査の実施方法を実演する。講義と実習形式を合わせることで、生態学の知識のみならず、野外調査のノウハウを学び、身の周りの生物の存在について理解を深める。	講義6時間 実習24時間

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学位 共通 科目 群	進化生物学特論I		系統分類学、進化生物学、系統地理学、保全生態学分野の論文講読を行うとともに、野外で実際に維管束植物の絶滅危惧種を含む野生植物の生育状況を観察し、当該分野の知識を深める。また、論文講読に加えて、日本語の専門書について章ごとを聴講者が担当して紹介する輪読も適宜行う。論文講読や専門書の輪読と野外での観察を合わせて行うことにより、当該学問分野の基礎と野外での現状の両方を理解することを旨とする。また、進化生物学、系統分類学、集団遺伝学、系統地理学、保全生態学は相互に深く関連しており、これら学問分野の広範な知識を得ることが大きな目的である。	講義20時間 実習10時間
	生物形態機能論		植物の細胞は動物細胞と共通点を持ちながらも特有に進化している。そこで、最近の研究の手法の原理を理解して、得られたきたデータを正確に読み取り、解釈する能力を身につけながら、現在、どこまでが明らかにされており、どこからが不明であるのかを理解する。最近の植物細胞学、植物生理学、機能形態学などの知見を学び、解析するために用いられている最近の研究の手法を知り、それぞれの研究成果の示す意味を明確に理解して、生物の環境適応の仕組みや細胞の進化についての知識を深める。	
	人文地理学特論		本講義は、過疎・過密、郊外化、ジェントリフィケーション、「田園回帰」、コミュニティの維持・再編等、近代以降の国内外の都市や農村が経験してきた社会的・経済的・政治的諸現象や、グローバル化・産業構造の変容・金融化・人口移動等、その背景となる諸事象に関する人文地理学及び隣接分野の研究動向の理解を目標とするものである。本講義では、各トピックに関する研究内容について、重要文献の読解・議論・解説とともに、フィールドワーク等を通じ実践的にも修得することを目指す。取り上げるトピックについては、受講生の関心を踏まえて調整する。	講義26時間 実習4時間
	地理空間学特論		地理空間学では、人文地理学の幅広い領域のうち、歴史地理学におけるコンピュータやデジタルデータの利活用の可能性について検討を行う。近年、人文科学全般でもコンピュータを使用した研究の可能性が注目されているが、歴史的事象を地理学的な観点から取り扱う歴史地理学においても、GIS（地理情報システム）やデジタルアーカイブなど、これまで無かった新しい研究領域が拓かれつつある。この授業では、具体的な事例に則しつつ、歴史情報を活用した歴史GISの構築や絵図のデジタルアーカイブ作成とその利用などについて取り上げる予定であり、これらを通して人文科学におけるコンピュータ利用の新たな可能性についての理解をはかる。	
ひと 脳・ 健康 科学 I 分野 科目 群	神経科学概論		神経科学概論では、脳の構造と機能、神経系の基本的なメカニズムについて体系的に学ぶことを目的とする。神経科学の基礎を理解することは、脳の健康や疾患に関するさらなる学びの基盤を築く上で重要であり、神経系の働きを知ることが求められる。本講義では、脳全体の構造や神経細胞、グリア細胞の役割を把握し、神経科学の基本原則を習得することを目指す。内容は、脳の構造、神経細胞とグリア細胞、運動と体性感覚の調整、視覚・聴覚・味覚・嗅覚などの感覚系のメカニズム、記憶と学習のプロセス、脳の発生と発達、動機づけや報酬系の神経メカニズム、脳の循環系について取り上げる予定である。神経系の基本メカニズムを学ぶことで、脳の働きについて総合的な理解を深める。 （オムニバス方式／全16回） (258 上野 将紀／2回) 総論・脳の構造と機能について講義する。 (417 岩倉 百合子／2回) 脳を動かす神経とグリア細胞について講義する。 (418 内田 仁司／2回) 体を動かす・感じる脳の仕組み（運動・体性感覚）について講義する。 (104 伊藤 浩介／2回) 見る・聞く・味と匂いを感じる脳の仕組み（感覚系）について講義する。 (281 三國 貴康／2回) 記憶、学習、シナプス可塑性について講義する。 (419 岡田 正康／2回) 脳が作られる仕組み（発生、発達）について講義する。 (312 福田 七穂／2回) 動機、報酬、摂食について講義する。 (297 加藤 泰介／2回) 脳の循環系（血管、脳脊髄液、脈絡叢）について講義する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学位 共通 科目 群	ひと脳・健康科学Ⅰ分野 科目群	ニューロテック特論	ニューロテック特論では、脳神経科学の最新技術や研究動向を幅広く学び、それらが社会に与える影響や倫理的な課題について検討することを目的とする。脳科学の発展がもたらす可能性やリスクを理解し、現代社会における脳神経科学の役割を考察することが求められる。本講義では、脳科学技術の応用がどのように未来社会を形成し得るかを探求し、脳科学の社会的意義を考える。内容は、脳神経科学における最新の研究とテクノロジー、ニューロテックの社会的影響、デジタルヘルス技術の応用、脳科学技術の倫理的課題、脳機能の増強技術やその危険性について取り上げる予定である。これにより、脳神経科学の知識を社会や産業にどのように実装するかを理解し、その社会的影響を多角的に考察する。	
		免疫細胞生物学	授業形態は対面講義形式でおこなわれ、目標は自己・非自己など免疫学特有の概念を理解すること、および、免疫現象を生命科学の1つとして位置づけ、関連する生物の生理的な現象とそれにかかわるメカニズムを理解すること、生命現象を免疫学の観点から考え、理解し、科学的に解釈できることである。授業計画は、事前に配布された使用テキストと参考文献（原著論文のPDF）を予習しておき、ワークショップで解説を交えて議論する。	
		遺伝子工学概論	遺伝子工学概論では、現代の生命科学研究を支える遺伝子や細胞を扱う基礎的および応用技術について、パワーポイント資料を用いて講義を行う。講義内容は、核酸の抽出や解析技術、原核生物や動物の培養細胞を扱う技術、細胞への遺伝子の導入に必要なベクターの構築方法と発現制御、ゲノム編集技術、およびこれらの技術の応用に関する内容を含む。これらを通じて、遺伝子工学技術の基礎を学ぶとともに、社会における応用例を学び、大学院修了後の研究や技術開発に役立つ知識の習得を目指す。	隔年
		構造生物学特論	本講義では、講義を聴講するとともに、自ら論文を読んで、また自らプログラムやデータベースを使用して、タンパク質や核酸の生体高分子が、どのような化学的性質や立体構造に基づいて機能発現し、生命現象を演出しているかを学ぶ。目標は、タンパク質や核酸の生体高分子が、どのような化学的性質や立体構造に基づいて機能発現し、生命現象を演出しているかを理解することである。また、生体高分子のデータベース、分子表示ソフト、立体構造の解析手法等の使用方法も理解することである。本講義は、講義および実習形式で行う。	隔年 講義20時間 実習10時間
		分子細胞生理学特論	この授業では、主に免疫細胞分化や細胞間相互作用、細胞内シグナル伝達の仕組みに関する研究の先端を学び、その意義や将来性について考える。本科目のねらいは、分子生物学、細胞生物学分野の先端研究に関する文献を読み、内容の理解に努め、他者に分かり易く説明できるようになること、および科学論文の内容や自身の研究内容について分かりやすくまとめ、他者とのディスカッションに積極的に参加できることである。授業は、教員による講義と受講生によるプレゼンによって行う。	隔年
		バイオイノベーション特論	バイオイノベーションに関連した学際研究のうち、生物の「老化」や「寿命制御」について論じる。近年、ヒトの高齢化が社会問題として生じている中、老抗老化薬の探索など、その応用面が注目されている。まず、老化とは「何か」を考えるだけでなく、「なぜ」そして「どのように」生物は老化するのかについて考えていく。そして、生体分子の解析等を通じて、基礎生命科学の成果をいかに新規な産業応用に繋げるのかについて理解することを目的とした講義を行う。本講義は、集中講義形式で行う。	隔年
		神経内分泌学	動物の行動と生理機能は、生まれながらに持っている環境適応のしくみであり、視床下部－下垂体系を中心とした神経内分泌系によって調節されている。本講義では、神経系、内分泌系、神経内分泌系を中心とした組織間・細胞間の化学情報伝達系の構造と機能についての基礎知識を解説するとともに、これらの化学情報伝達系が関わる生命現象の調節に関する先端的研究論文を精読する。また、ホルモンをはじめとした化学情報分子の定量的解析法と生物統計の基礎を解説する。授業は、第4タームに集中形式（五十嵐キャンパス）で行う。本講義の目標は、動物の行動と生理機能を統合的に調節している神経内分泌系の構造と機能、およびその中で働く化学情報分子の定量的解析法の理解を基に、動物の環境適応のしくみを理解することである。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	先端脳病態学		先端脳病態学では、認知症をはじめとする脳疾患に関する最新の研究や技術を学び、それらを予防・治療に応用するための知識を深めることを目的とする。講義では、脳疾患のメカニズムや病態の理解を通じて、神経科学に基づいた包括的な対策を探り、脳の健康を維持するための新しいアプローチを考察する。内容は、脳疾患の病態解明に関する最新の研究動向、遺伝子解析や脳イメージング技術の応用、脳の透明化技術による病態の可視化、認知症のリスク評価と診断技術、脳の修復や神経再生の可能性に関する研究、臨床神経病理学の実践的知識などを取り上げる予定である。これにより、脳疾患の予防・治療に向けた最新の科学的アプローチを理解し、脳の健康寿命を延ばすための知見を深める。 （オムニバス方式／全16回） (45 田井中 一貴／2回) 脳構造解剖学について講義する。 (258 上野 将紀／2回) 脳機能回復学について講義する。 (280 松井 秀彰／2回) 加齢性神経変性疾患学について講義する。 (267 島田 斉／2回) 臨床脳神経病態学について講義する。 (269 他田 真理／2回) 脳神経病理学について講義する。 (281 三國 貴康／2回) 脳細胞病態学について講義する。 (104 伊藤 浩介／2回) 脳機能解析学について講義する。 (312 福田 七穂／2回) 動物資源開発学について講義する。	オムニバス方式
	老化と不老不死		老化と不老不死では、老化の生物学的メカニズムから最新の抗老化療法まで、老化現象に関する幅広い知識を体系的に学ぶことを目的とする。現代社会における健康寿命の延伸を目指し、老化や関連疾患の予防・治療に関する科学的理解を深めるとともに、不老不死の夢と現実について考察する。内容は、老化の分子生物学（DNA、RNA、タンパク質の変化）、細胞レベルから全身に至る老化のメカニズム、長寿遺伝子や老化モデル動物を用いた研究、神経系の老化とアルツハイマー病などの神経変性疾患、遺伝と環境が老化に及ぼす影響、進化的視点からの老化の考察、最新の抗老化療法の研究などを取り上げる予定である。これにより、老化に対する包括的な理解を深め、健康寿命を延ばすための実践的な知見を提供する。 （オムニバス方式／全16回） (280 松井 秀彰／2回) 不老不死の夢と現実について講義する。 (316 宮下 哲典／2回) 老化の分子生物学：DNA、RNA、タンパク質の基本的な知識について講義する。 (426 三橋 佑佳／2回) 老化のメカニズム：細胞から全身までについて講義する。 (303 杉江 淳／2回) 老化モデル動物：長寿遺伝子と寿命延長について講義する。 (267 島田 斉／2回) 神経の老化：アルツハイマー病等について講義する。 (421 春日 健作／2回) ヒトの老化：遺伝子と環境の相互作用について講義する。 (284 吉田 恒太／2回) 老化と進化について講義する。 (208 村上 佳裕／2回) 抗老化療法：最新の研究と治療法について講義する。	オムニバス方式
	進化生物学特論I		系統分類学、進化生物学、系統地理学、保全生態学分野の論文講義を行うとともに、野外で実際に維管束植物の絶滅危惧種を含む野生植物の生育状況を観察し、当該分野の知識を深める。また、論文講義に加えて、日本語の専門書について章ごとを聴講者が担当して紹介する輪読も適宜行う。論文講義や専門書の輪読と野外での観察を合わせて行うことにより、当該学問分野の基礎と野外での現状の両方を理解することを目指す。また、進化生物学、系統分類学、集団遺伝学、系統地理学、保全生態学は相互に深く関連しており、これら学問分野の広範な知識を得ることが大きな目的である。	講義20時間 実習10時間

授 業 科 目 の 概 要					
(総合学術研究科 自然科学専攻)					
科目 区分		授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
学 位 共 通 科 目 群	ひと 脳 ・ 健 康 科 学 Ⅱ 分 野 科 目 群	進化生物学特論Ⅱ		本講義では、英語の教科書の輪読により、系統樹に基づく系統学の基本を学んでいく。選定した教科書について担当章及び担当回を決め、各自の担当回にスライドもしくはレジメを使って担当章の内容を解説し、全員でその内容について検討する。「系統樹」について、その内容及び関連する用語を正しく理解し説明できる。また生物の系統や進化に関して、現在理解されている内容について正しく説明できることを目標とすると共に、英語の教科書を読むことにより、英語読解力の向上を狙う。	
		進化生物学特論Ⅳ		本科目のねらいは、遺伝的多様性の解析方法を理解し、遺伝的多様性を把握することで、生物の進化、多様化をもたらす背景や要因が解明できることを学ぶことである。生物の集団内、集団間、種間には様々な遺伝的多様性があり、これらは生物の進化を促す原動力でもある。生物の進化や多様化をもたらす要因を理解するためには、集団内、集団間、種間といった様々なレベルの遺伝的多様性を把握する必要がある。本科目では、英語の教科書を用いて、遺伝的多様性を測定・解析する手法とその解析例を学ぶ。授業では英文購読を行う。	
		生物形態機能論		植物の細胞は動物細胞と共通点を持ちながらも特有に進化している。そこで、最近の研究の手法の原理を理解して、得られたきたデータを正確に読み取り、解釈する能力を身につけながら、現在、どこまでが明らかにされており、どこからが不明であるのかを理解する。最近の植物細胞学、植物生理学、機能形態学などの知見を学び、解析するために用いられている最近の研究の手法を知り、それぞれの研究成果の示す意味を明確に理解して、生物の環境適応の仕組みや細胞の進化についての知識を深める。	
		進化形態学		生物の生態や行動は、「かたち」の機能に少なからず依存する。したがって形態の変化は、進化を促す原動力となる。本講義では、生物の形態に関わる生物学的な性質や物理的な環境条件などを踏まえ、生物の形がどのように進化してきたのかを解説する。講義を通して、形を取り巻く内的小および外的現象の階層性を区別する素養を身につけ、形が進化する原動力や諸生命現象と関連付けて考えられる能力を養成する。集中講義形式で、2日間かけて実施する。	
		物質創成・基礎科学演習Ⅰ-C (物質宇宙基礎科学)		物質創成・基礎科学プログラムの物質宇宙基礎科学 (物理学) を教える各指導教員の指導の下、修士課程の学生 (主に1年次・前期) を対象とした演習 (文献調査、情報収集、理論計算・分析、発表、議論など) を行う。高度汎用的職業人もしくは研究者となるために、各専門分野の基礎的知識の習得と、研究背景を理解する能力を身につける。それぞれの専門分野の研究内容に関わる標準的なテキストを精読するとともに、内容の理解に必要な文献を調査する。各自、理解・調査した内容を資料にまとめ、発表する。また、他の発表者の発表内容について、質疑・応答など議論を行い、専門分野の基礎的・背景の理解できるようにする。	
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目 群	物質 創 成 ・ 基 礎 科 学 プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目 群	物質創成・基礎科学演習Ⅱ-C (物質宇宙基礎科学)		物質創成・基礎科学プログラムの物質宇宙基礎科学 (物理学) を教える各指導教員の指導の下、修士課程の学生 (主に1年次・後期) を対象とした演習 (文献調査、情報収集、理論計算・分析、発表、議論など) を行う。高度汎用的職業人もしくは研究者となるために、各専門分野の高度な知識の習得と、研究課題を発見する能力を身につける。それぞれの専門分野の研究内容に関わる高度な文献や、その内容に関連した論文を調査する。各自理解・調査した内容を資料にまとめ、発表する。また、他の発表者の発表内容について、質疑・応答など議論を行い、専門分野の課題を理解をできるようにする。	
		物質創成・基礎科学演習Ⅲ-C (物質宇宙基礎科学)		物質創成・基礎科学プログラムの物質宇宙基礎科学 (物理学) を教える各指導教員の指導の下、修士課程の学生 (主に2年次・前期) を対象とした演習 (文献調査、情報収集、理論計算・分析、発表、議論など) を行う。高度汎用的職業人もしくは研究者となるために、各専門分野の研究課題を解決する能力を身につける。それぞれの専門分野における各自の研究課題に密接に関わる論文を調査する。各自理解した知識を資料にまとめ、発表する。また、他の発表者の発表内容について、質疑・応答など議論を行い、各自の研究課題の理解を深める。	
		物質創成・基礎科学演習Ⅳ-C (物質宇宙基礎科学)		物質創成・基礎科学プログラムの物質宇宙基礎科学 (物理学) を教える各指導教員の指導の下、修士課程の学生 (主に2年次・後期) を対象とした演習 (文献調査、情報収集、理論計算・分析、発表、議論など) を行う。高度汎用的職業人もしくは研究者となるために、各専門分野の研究課題を解決する能力を身につける。それぞれの専門分野における各自の研究課題に密接に関わる論文を調査する。さらに、各自の研究課題の解決に向けた資料としてまとめ、発表する。また、他の発表者の発表内容について、質疑・応答など議論を行い、各自の研究課題の解決に繋げる。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	物質創成・基礎科学演習Ⅰ-C（数理学）		物質創成・基礎科学演習Ⅰ-C（数理学）では、各指導教員の指導の下、数理学の諸分野、特に代数学、幾何学、解析学、応用数学の演習（セミナー）を行う。ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・到達目標）における人材育成の目標に沿って、本プログラムで定める「知識・理解」「当該分野固有の能力」「汎用的な能力」「態度・姿勢」の資質・能力を修得することを目指す： ・数理学、物理・宇宙科学、化学分野などの専門的知識を修得している。 ・数理学、物理・宇宙科学、化学分野の基礎科学から技術開発までの幅広い対象から研究課題を主体的に設定し、その解明に向けた研究計画を立案、実施、評価することができる。 ・高度な言語（英語を含む）スキルを駆使し、専門的かつ多様な文脈で効果的に情報を伝達できる。 ・科学技術の進展に寄与するための倫理観を備えている。など	
	物質創成・基礎科学演習Ⅱ-C（数理学）		物質創成・基礎科学演習Ⅰ-C（数理学）に引き続き、各指導教員の指導の下、数理学の諸分野、特に代数学、幾何学、解析学、応用数学の演習（セミナー）を行う。ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・到達目標）における人材育成の目標に沿って、本プログラムで定める「知識・理解」「当該分野固有の能力」「汎用的な能力」「態度・姿勢」の資質・能力を修得することを目指す： ・数理学、物理・宇宙科学、化学分野などの専門的知識を修得している。 ・数理学、物理・宇宙科学、化学分野の基礎科学から技術開発までの幅広い対象から研究課題を主体的に設定し、その解明に向けた研究計画を立案、実施、評価することができる。 ・高度な言語（英語を含む）スキルを駆使し、専門的かつ多様な文脈で効果的に情報を伝達できる。 ・科学技術の進展に寄与するための倫理観を備えている。など	
	物質創成・基礎科学演習Ⅲ-C（数理学）		物質創成・基礎科学演習Ⅱ-C（数理学）に引き続き、各指導教員の指導の下、数理学の諸分野、特に代数学、幾何学、解析学、応用数学の演習（セミナー）を行う。ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・到達目標）における人材育成の目標に沿って、本プログラムで定める「知識・理解」「当該分野固有の能力」「汎用的な能力」「態度・姿勢」の資質・能力を修得することを目指す： ・数理学、物理・宇宙科学、化学分野などの専門的知識を修得している。 ・数理学、物理・宇宙科学、化学分野の基礎科学から技術開発までの幅広い対象から研究課題を主体的に設定し、その解明に向けた研究計画を立案、実施、評価することができる。 ・高度な言語（英語を含む）スキルを駆使し、専門的かつ多様な文脈で効果的に情報を伝達できる。 ・科学技術の進展に寄与するための倫理観を備えている。など	
	物質創成・基礎科学演習Ⅳ-C（数理学）		物質創成・基礎科学演習Ⅲ-C（数理学）に引き続き、各指導教員の指導の下、数理学の諸分野、特に代数学、幾何学、解析学、応用数学の演習（セミナー）を行う。ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・到達目標）における人材育成の目標に沿って、本プログラムで定める「知識・理解」「当該分野固有の能力」「汎用的な能力」「態度・姿勢」の資質・能力を修得することを目指す： ・数理学、物理・宇宙科学、化学分野などの専門的知識を修得している。 ・数理学、物理・宇宙科学、化学分野の基礎科学から技術開発までの幅広い対象から研究課題を主体的に設定し、その解明に向けた研究計画を立案、実施、評価することができる。 ・高度な言語（英語を含む）スキルを駆使し、専門的かつ多様な文脈で効果的に情報を伝達できる。 ・科学技術の進展に寄与するための倫理観を備えている。など	
	物質創成・基礎科学演習Ⅰ-C（基礎化学）		本講義では、物理化学、無機化学、分析化学、生化学、有機化学といった化学の各専門分野の教員の指導の下、修士学生（主に1年次）を対象とした演習を行う。研究背景や研究動向等について各自が的確にまとめ、その内容を理解して発表し、討論することにより、化学の各専門分野における課題を見つけ出すこと、および基礎となる理論や研究の手法について理解することを目標とする。将来高度汎用的職業人もしくは研究者となるために、各専門分野の高度な知識と、討論をするために必要な基礎的能力を身につけることがねらいである。	
	物質創成・基礎科学演習Ⅱ-C（基礎化学）		本講義では、物理化学、無機化学、分析化学、生化学、有機化学といった化学の各専門分野の教員の指導の下、修士学生（主に1年次）を対象とした演習を行う。研究背景や研究動向等について各自が的確にまとめ、その内容を理解して発表し、討論することにより、化学の各専門分野における課題を見つけ出すこと、基礎となる理論や研究の手法について理解すること、および発表に必要な技術を取得することを目標とする。将来高度汎用的職業人もしくは研究者となるために、各専門分野の高度な知識と、討論をするために必要な基礎的能力を身につけることがねらいである。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	物質創成・基礎科学 演習Ⅲ-C（基礎化学）		本講義では、物理化学、無機化学、分析化学、生化学、有機化学といった化学の各専門分野の教員の指導の下、修士学生（主に2年次）を対象とした演習を行う。研究背景や研究動向等について各自が的確にまとめ、その内容を理解して発表し、討論することにより、化学の各専門分野における課題を見つけ出すこと、基礎となる理論や研究の手法について理解すること、および発表に必要な技術と語学力を取得することを目標とする。将来高度汎用的職業人もしくは研究者となるために、各専門分野の高度な知識と、高いレベルで討論をするために必要な能力を身につけることがねらいである。	
	物質創成・基礎科学 演習Ⅳ-C（基礎化学）		本講義では、物理化学、無機化学、分析化学、生化学、有機化学といった化学の各専門分野の教員の指導の下、修士学生（主に2年次）を対象とした演習を行う。研究背景や研究動向等について各自が的確にまとめ、その内容を理解して発表し、討論することにより、化学の各専門分野における課題を見つけ出すこと、基礎となる理論や研究の手法についてより深く理解すること、および発表に必要な技術と語学力を高めることを目標とする。将来高度汎用的職業人もしくは研究者となるために、各専門分野の高度な知識と、高いレベルで討論をするために必要な能力を身につけることがねらいである。	
	物質創成・基礎科学 演習Ⅰ-C（物質材料科学）		指導教員のもとで機能材料科学の係わるテーマを設定し、それに関連した分野に関する国内外の研究調査を行い、内容の理解と要約の説明及び議論を行う。機能材料科学の係わる研究を推進するために必要となる、機能材料創製に関する研究分野の基礎的な理論・技術を学ぶ。機能材料科学に係わる基礎研究を推進するための能力を涵養するために必要となる、機能材料創製に関する研究分野の基礎的な理論・技術を身につける。演習形式で機能性材料の基礎的な国際研究についての知見も深める。	
	物質創成・基礎科学 演習Ⅱ-C（物質材料科学）		指導教員のもとで機能材料科学の係わるテーマを設定し、それに関連した分野に関する国内外の研究調査を行い、内容の理解と要約の説明及び議論を行う。機能材料科学の係わる研究を推進するために必要となる、機能材料創製に関する研究分野の応用的理論・技術を学ぶ。機能材料科学に係わる応用研究を推進するための能力を涵養するために必要となる、機能材料創製に関する研究分野の応用的理論・技術を身につける。さらには機能材料科学に関する応用的な国際研究の知見を深める。	
	物質創成・基礎科学 演習Ⅲ-C（物質材料科学）		指導教員のもとで機能材料科学の係わるテーマを設定し、それに関連した分野に関する国内外の研究調査を行い、内容の理解と要約の説明及び議論を行う。機能材料科学の係わる研究を推進するために必要となる、機能材料創製に関する研究分野の先端理論・技術を学ぶ。機能材料科学に係わる先端研究を推進するために必要となる、機能材料創製に関する研究分野の先端的な理論・技術を身につける。さらには機能材料科学に関する国際研究に関する知識も身につける。	
	物質創成・基礎科学 演習Ⅳ-C（物質材料科学）		指導教員のもとで機能材料科学の係わるテーマを設定し、それに関連した分野に関する国内外の研究調査を行い、内容の理解と要約の説明及び議論を行う。機能材料科学の係わる研究を推進するために必要となる、機能材料創製に関する研究分野における最先端の理論・技術を学ぶ。機能材料科学に係わる最先端の研究を推進するために必要となる、機能材料創製に関する研究分野の最先端の理論・技術を身につける。さらには機能材料科学に関する最先端の国際研究の知識を深める。	
	物質創成・基礎科学 演習Ⅰ-C（素材創成化学）		素材創成化学に関係するテーマを設定し、関連する分野での国内外の文献の調査・収集を行い、論文を詳読する。内容を理解し、要約の説明などを行い、具体的事例に基づいて基礎的な問題解決の方法を討論する。また、結果をまとめて発表と討論を行うことで、素材創成化学における文献を調査・収集し、内容を要約して説明する能力を身につける。指導教員によって詳細な内容は異なるが、一例を示すと、第1週でテーマの設定。第2～6週で関連する分野を対象とした文献の調査・収集を行う。併せて、論文を詳読し、要約する。第7～9週で調査・収集の結果をまとめるとともに論文の内容などを整理する。第10～14週で発表と討論を行う。第15週で全体を総括してレポートの作成を行う。	
	物質創成・基礎科学 演習Ⅱ-C（素材創成化学）		素材創成化学に関係するテーマを設定し、関連する分野での国内外の文献の調査・収集を行い、論文を詳読する。より多くのテーマについて、内容を理解し、要約の説明などを行い、具体的事例に基づいて基礎的な問題解決の方法を討論する。また、結果をまとめて発表と討論を行うことで、素材創成化学における文献を調査・収集し、内容を要約して説明する能力を身につける。指導教員によって詳細な内容は異なるが、一例を示すと、第1週でテーマの設定。第2～6週で関連する分野を対象とした文献の調査・収集を行う。併せて、論文を詳読し、要約する。第7～9週で調査・収集の結果をまとめるとともに論文の内容などを整理する。第10～14週で発表と討論を行う。第15週で全体を総括してレポートの作成を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	物質創成・基礎科学演習Ⅲ-C（素材創成化学）		素材創成化学に関係するテーマを設定し、関連する分野での国内外の文献の調査・収集を行い、論文を詳読する。より高度な内容を理解し、要約の説明などを行い、具体的事例に基づいて基礎的な問題解決の方法を討論する。また、結果をまとめてより高いレベルで発表と討論を行うことで、素材創成化学における文献を調査・収集し、内容を要約して説明する高い能力を身につける。指導教員によって詳細な内容は異なるが、一例を示すと、第1週でテーマの設定。第2～6週で関連する分野を対象とした文献の調査・収集を行う。併せて、論文を詳読し、要約する。第7～9週で調査・収集の結果をまとめるとともに論文の内容などを整理する。第10～14週で発表と討論を行う。第15週で全体を総括してレポートの作成を行う。	
	物質創成・基礎科学演習Ⅳ-C（素材創成化学）		素材創成化学に関係するテーマを設定し、関連する分野での国内外の文献の調査・収集を行い、論文を詳読する。より多くのテーマについて、高度な内容を理解し、要約の説明などを行い、具体的事例に基づいて基礎的な問題解決の方法を討論する。また、結果をまとめて高いレベルで発表と討論を行うことで、素材創成化学における文献を調査・収集し、内容を要約して説明する、より高い能力を身につける。指導教員によって詳細な内容は異なるが、一例を示すと、第1週でテーマの設定。第2～6週で関連する分野を対象とした文献の調査・収集を行う。併せて、論文を詳読し、要約する。第7～9週で調査・収集の結果をまとめるとともに論文の内容などを整理する。第10～14週で発表と討論を行う。第15週で全体を総括してレポートの作成を行う。	
	研究発表演習（中間発表）		1年次の課題研究において各自が取り組んできた修士学位取得のための研究活動に関し、物質宇宙基礎科学、数理科学、基礎化学、物質材料科学、素材創成化学の専門部会毎に設定された発表会において、研究課題の設定、研究活動状況や成果の現状、今後の研究計画等をまとめ、発表資料を作成して報告する。スライドやポスター作成、発表や質疑応答等を通じてプレゼンテーション技術とコミュニケーションスキルを習得するとともに、研究活動における目標設定能力や企画力を身につける。	
	研究発表演習（学外発表）		課題研究において各自が取り組んできた修士学位取得のための研究活動で得られた研究成果を、学外の学術的機関や組織が主催した関係分野の学会や討論会、講演会等の学術的集会において発表する。主指導教員の指導の下、研究成果の取りまとめをおこない、予稿、スライドやポスター等の発表資料を作成する。専門家が多数参加する環境のもと発表を行うことで、プレゼンテーション技術を身につけ、参加者との質疑応答を通して、専門知識とコミュニケーションスキルを身につける。	
	先端科学技術総論（物質宇宙基礎科学）Ⅰ		高エネルギーQCDでは漸近的自由性によりパートン描像の摂動計算が有効だが、Bjorken極限やRegge-Gribov極限では高次項の再和が必須となる。この講義では特に後者の再和について、散乱理論の歴史的背景から始めて、グルーオン飽和の有効理論に至るまで、高エネルギーで解き明かされるハドロンの微視的構造について講義を行う。物質の微視的な構成要素であるクォークとグルーオンの量子的な性質と、高エネルギー散乱実験で測定される物理量について、それらを繋ぐ理論と課題について理解する。	
	先端科学技術総論（物質宇宙基礎科学）Ⅱ		宇宙物理学は物理学を基盤として宇宙や天体について研究する学問分野である。この授業では、宇宙に存在する主要天体の一つである銀河および銀河の集団である銀河団について、その形成過程および進化過程を詳しく学ぶ。銀河や銀河団の形成およびその初期進化は100億年以上前に起きたが、近年の観測装置の発展により100億年以上離れた宇宙を観測することが可能になり、形成期および初期進化期の銀河や銀河団を観測し理論モデルと比較することでその理解が飛躍的に進んできた。この授業では銀河や銀河団の形成・進化について理論研究と観測による検証について基礎から最先端の研究状況まで学ぶ。	
	Physics Today I		化学物理は化学現象や生命現象を物理学の視点で研究する物理学の一分野をなす。生命現象においても近年、その知見を応用し様々なことが理解されてきた。講義では主に統計力学を使い、液体や溶液の観点から生命現象を研究する手法を学ぶ。特に液体の平衡構造を研究する積分方程式の理論を解説し、それを化学現象や生命現象に応用する例を説明する。そう転移現象などの応用についても触れる。動径分布関数の近似的な計算方法のいくつか代表的なものを学び、応用におけるその重要性を説明する。	
	Physics Today II		暗黒物質の正体解明は現代物理学の最重要課題の1つである。素粒子実験物理学の手法による暗黒物質探索は様々なアイディアに基づき計画・実施されている。暗黒物質探索実験を主導している専門家が講義を担当し、現代の暗黒物質探索の状況と最新技術に基づいた暗黒物質検出技術に関する知見を得ることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	物質科学の最前線		物質中での局在電子による磁性や秩序の基礎を講義する。J多重項のつくる結晶場準位や等価演算子を用いた摂動計算を行い、磁場や歪み場など外場による多極子感受率を計算する。磁場に対する磁気双極子の応答である帯磁率に加え、歪みに対する電気四極子の応答である四極子感受率を講義する。また、必要な群論の基礎である点群や既約表現などを説明し、観測対象である物理量と、その対称性について基礎的な講義を行う。特に、超音波計測を用いた強相関電子系のもたらす秩序相とその臨界現象について理解を深めることを目的とする。	
	代数学の最前線		ハッセ・ノルム原理について学ぶ。まず、不変体の有理性問題について、その基礎から入門的な解説を行う。次に、数論及び代数幾何を相互に用いて、代数的トーラス、特に、ノルム1トーラスに対する種々の性質を考察する。その際に必要となる群の整数表現、G格子、(Tate)コホモロジー群、Flabby resolution、Schur cover、等の道具を準備し、ハッセ・ノルム原理とその具体例を学ぶための準備を行う。さらに、コンピュータ代数計算システムGAPを用いた、具体例の計算法についても説明する。応用として、R-equivalentや玉河数との関連についても述べる。	
	幾何学の最前線		情報幾何学における重要な対象である双対平坦多様体は、その接束に自然なケーラー構造が入ることがDombrowski(あるいはHsu)の定理として知られている。この事実のある変種として、トーリック多様体のケーラー幾何とその運動量写像の像であるデルツァント多面体の双対平坦構造について議論する。板書をを用いた解説を中心とし、トーリックケーラー幾何と双対平坦多様体の幾何の関係を特にダイバージェンスの観点から理解することを目標とする。	
	解析学の最前線		授業形態は対面講義で行う。本講義では、有限次元作用素である行列からなる作用素環やその部分集合上の問題を重点的に取り扱う。作用素環論は、1930年代にマレーやフォン・ノイマンによりフォンノイマン環の研究が始められて以来、盛んに研究が続けられている分野である。行列環は線形代数で学ぶ行列を集めその上に数学的な構造を入れることで、作用素環の一つの例である。一方行列環やエルミート行列全体の構造やその間の写像は、近年でも盛んに研究されている。行列やその順序に関する基礎事項を学ぶとともに、それをもとに現代における数学的研究の一端に触れることが本講義の目的である。授業計画としては、Loewner 順序に関する基礎事項から、古典的な定理、さらに最近の研究の一端に関する講義を行う。	
	応用数学の最前線		微分方程式は解析学の一分野で、自然科学や社会科学等の様々な学問分野で現れる問題を数学的に定式化している。本講義では微分方程式が社会生活において活用されている場面や身近な事象を扱い、各事象を数学的に考察することを目的とする。はじめに、日常の事象を数学的にモデル化する過程を学ぶ。その後成長と減衰のモデル、変数分離形、線形1階微分方程式、線形2階微分方程式等のいくつかの微分方程式のモデルとそれぞれに対応する日常の事象を学ぶ。	
	Mathematical Sciences Today		多項式環は代数幾何学や可換環論において基本的な対象だが、意外なことに、その深い性質はまだ十分に解明されていない。多項式環の本質を明らかにするための研究は、現在でも国内外の数学者たちによって活発に行われている。多項式環の自己同型は、多項式環にまつわる様々な重要な問題と関係するため、多項式環の研究において特に重要である。基礎体の標数が0か正かによって、多項式環の性質は大きく異なるが、正標数の体上の多項式環の自己同型については不明な点が多い。この講義では、最近の進展も交えながら、主に基礎体が正標数の場合の多項式環の自己同型や関連する話題を扱う。	
	先端科学技術総論（化学）Ⅰ		現代化学は、専門分野が細分化されながら各分野で目覚ましい学問の深化を遂げている。学問の深化は他分野に大きな影響を与えている可能性を秘めているが、その神髄を掴むためには高度な専門知識が要求される。そこで本講義では、基礎化学の礎である物理化学、無機化学、分析化学が構築してきた機能物質や化学反応の原理・法則の理解を深めるとともに、当該分野の先端研究で取り上げられている課題や最新の潮流について学ぶ。当該分野を専門とする教員が、他分野の受講生にもわかるように先端研究の理解に必要な専門的な概念を解説する。本学教員では網羅できない研究トピックスを事例に、新物質や新現象から導き出される重要な専門的概念を学ぶことで、新規な物質設計・反応開発・分析手法を習得する。受講生がそれぞれの専門分野の課題を取り組むための知識を広げ、自身の研究や課題解決に応用できる能力の獲得を目指す。	
	先端科学技術総論（化学）Ⅱ		本講義では、物理化学、無機化学、分析化学といった化学の各専門分野において、基礎的な理論や歴史的背景の理解を深めるとともに、最先端の研究トピックやその応用例、具体的な分析手法を学ぶことを目的とする。講義は、教員自身の最先端研究を基盤とし、最新の話題や実例を交えながら進行することで、修士学生が専門分野の課題を発見する能力や理論・手法に関する理解を深め、自身の研究や課題解決に応用できる知見の獲得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	Chemistry Today I		本講義では、生化学、有機化学など化学の専門分野の教員が、自身が専門とする研究に関して、その背景を解説した上で、基礎化学的側面から研究内容を理解するために必要な化学の専門知識を提供する。また、最先端の研究成果について具体例を挙げて解説し、その内容について教員と受講生との間で討論を行う。将来高度汎用的職業人もしくは研究者となるために、生化学、有機化学など化学の専門分野の高度な知識を身につけることがねらいである。	
	Chemistry Today II		本講義では、有機化学、生化学など化学の専門分野の教員が、自身が専門とする研究に関して、その背景を解説した上で、基礎化学的側面から研究内容を理解するために必要な化学の専門知識を提供する。また、最先端の研究成果について具体例を挙げて解説し、その内容について教員と受講生との間で討論を行う。将来高度汎用的職業人もしくは研究者となるために、有機化学、生化学など化学の専門分野の高度な知識を身につけることがねらいである。	
	物質材料科学文献詳読I		指導教員のもとで機能材料に関連する英文等のテキストや学術論文をゼミナール形式で精読する。機能材料創製に関する研究を進めるために必要な英文文献等を精読する能力を身につけると同時に、研究推進に必要な理論・技術を理解する。さらには材料科学に関する国際的先端研究を理解し、地球規模の課題を解決するための知識を身につける。この講義を通じて先端物質材料の合成、物性評価、機能評価などに関する様々な方法についての知識を深める。	
	物質材料科学文献詳読II		指導教員のもとで機能材料に関連する英文等のテキストや学術論文をゼミナール形式で精読する。機能材料創製に関する研究を進めるために必要な英文文献等を精読する能力を身につけると同時に、研究推進に必要な理論・技術を理解する。さらには材料科学に関する先端研究を学び、地球規模での課題を解決するための知識を深める。また、先端材料の物質合成、物性評価、機能評価、システム構築などに関する様々な手法に関して修得する。	
シ ス テ ム 創 成 科 学 プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目 群	システム創成科学演習Ⅰ-D（先進機械システム）		人間情報システム分野の学術論文、最新科学技術の記事、その周辺分野のニュースなどを十分に読み込み、発表資料を作成し、これにもとづいて発表し、参加者と討議する。文献の探し方を学び、自身の研究テーマに関連した文献についての知識を増やし、（外国語の）論文を読解する能力を身に付ける、研究を推進するのに必要な最新の科学技術に関する知識を最新に保つ、社会課題に関心を寄せる、発表の技術を身に付ける、討議できる能力を身に付けることが目標である。研究室ごとのゼミ形式で行う。すなわち、個別、もしくは少人数で報告、発表、討論を行う。研究室ごとにその頻度や内容は異なるが、概ね週に1回以上のミーティングを持ち、発表担当は順番制とする。 演習Ⅰでは、自身の研究テーマ選定にかかる論文等を読むことを勧める。	
	システム創成科学演習Ⅱ-D（先進機械システム）		人間情報システム分野の学術論文、最新科学技術の記事、その周辺分野のニュースなどを十分に読み込み、発表資料を作成し、これにもとづいて発表し、参加者と討議する。文献の探し方を学び、自身の研究テーマに関連した文献についての知識を増やし、（外国語の）論文を読解する能力を身に付ける、研究を推進するのに必要な最新の科学技術に関する知識を最新に保つ、社会課題に関心を寄せる、発表の技術を身に付ける、討議できる能力を身に付けることが目標である。研究室ごとのゼミ形式で行う。すなわち、個別、もしくは少人数で報告、発表、討論を行う。研究室ごとにその頻度や内容は異なるが、概ね週に1回以上のミーティングを持ち、発表担当は順番制とする。 演習Ⅱでは、自身の研究テーマと同様な内容の論文等を読み、研究遂行の参考とすることを勧める。	
	システム創成科学演習Ⅲ-D（先進機械システム）		人間情報システム分野の学術論文、最新科学技術の記事、その周辺分野のニュースなどを十分に読み込み、発表資料を作成し、これにもとづいて発表し、参加者と討議する。文献の探し方を学び、自身の研究テーマに関連した文献についての知識を増やし、（外国語の）論文を読解する能力を身に付ける、研究を推進するのに必要な最新の科学技術に関する知識を最新に保つ、社会課題に関心を寄せる、発表の技術を身に付ける、討議できる能力を身に付けることが目標である。研究室ごとのゼミ形式で行う。すなわち、個別、もしくは少人数で報告、発表、討論を行う。研究室ごとにその頻度や内容は異なるが、概ね週に1回以上のミーティングを持ち、発表担当は順番制とする。 演習Ⅲでは、自身の研究テーマと同様な内容の論文等を読み、研究発表の参考とすることを勧める。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目 群	システム創成科学演習Ⅳ-D（先進機械システム）		人間情報システム分野の学術論文、最新科学技術の記事、その周辺分野のニュースなどを十分に読み込み、発表資料を作成し、これにもとづいて発表し、参加者と討議する。文献の探し方を学び、自身の研究テーマに関連した文献についての知識を増やし、（外国語の）論文を読解する能力を身に付ける、研究を推進するのに必要な最新の科学技術に関する知識を最新に保つ、社会課題に関心を寄せる、発表の技術を身に付ける、討議できる能力を身に付けることが目標である。研究室ごとのゼミ形式で行う。すなわち、個別、もしくは少人数で報告、発表、討論を行う。研究室ごとにその頻度や内容は異なるが、概ね週に1回以上のミーティングを持ち、発表担当は順番制とする。 演習Ⅳでは、自身の研究テーマの発展的な内容の論文等を読むことを勧める。	
	システム創成科学演習Ⅰ-D（電子情報通信システム）		電子情報通信工学の課題研究に関わる実験を行うとともに、学部学生の実験・演習等の科目に対する指導補助を行うことで、指導者の立場を体験する。それによって、技術者や研究者に必要なコミュニケーション能力や指導力を習得する。実施にあたっては、実験の方法、分担及び結果の解析等についてグループ内で十分に打ち合わせをさせる。また、電子情報工学に関する学部レベルの専門科目の知識において不足している部分があった場合には、適宜アドバイスをし、自主的な学習を促す。各実施回に実施報告書を提出させる。提出された実施報告書に基づいて、達成度を評価する。	
	システム創成科学演習Ⅱ-D（電子情報通信システム）		電子情報通信工学の課題研究に関わる実験を行うとともに、研究室4年生などの学部学生の実験・演習等の科目に対する指導補助を行うことで、指導者の立場を体験する。それによって、技術者や研究者に必要なコミュニケーション能力や指導力を習得する。実施にあたっては、実験の方法、分担及び結果の解析等についてグループ内で十分に打ち合わせをさせる。また、電子情報工学に関する学部レベルの専門科目の知識において不足している部分があった場合には、適宜アドバイスをし、自主的な学習を促す。各実施回に実施報告書を提出させる。提出された実施報告書に基づいて、達成度を評価する。	
	システム創成科学演習Ⅲ-D（電子情報通信システム）		電子情報通信工学の課題研究に関わる文献等を詳読し、自ら必要な調査を実施し、内容の分析と纏めを行うことを通じて、電子情報通信工学の知識を深め、研究分野における研究開発課題や最新の研究動向を理解する。また、各研究テーマに関連する技術内容を日本語または英語で表現する能力を養う。実施方法は、研究室単位でのゼミ形式とし、各指導教員が必要に応じて適宜アドバイスをし、自主的な学習を促す。実施内容に関する報告資料を提出させる。提出された資料に基づいて、達成度を評価する。	
	システム創成科学演習Ⅳ-D（電子情報通信システム）		電子情報通信工学の課題研究に関わる文献等を詳読し、自ら必要な調査を実施し、内容の分析と纏めを行うことを通じて、電子情報通信工学の知識を深め、研究分野における研究開発課題や最新の研究動向を理解する。また、各研究テーマに関連する技術内容を日本語または英語で表現する能力を養う。実施方法は、研究室単位でのゼミ形式とし、各指導教員が必要に応じて適宜アドバイスをし、自主的な学習を促す。各実施回に報告資料を提出させる。提出された資料に基づいて、達成度を評価する。	
	システム創成科学演習Ⅰ-D（人間情報システム）		人間情報システム分野の学術論文、最新科学技術の記事、その周辺分野のニュースなどを十分に読み込み、発表資料を作成し、これにもとづいて発表し、参加者と討議する。文献の探し方を学び、自身の研究テーマに関連した文献についての知識を増やし、（外国語の）論文を読解する能力を身に付ける、研究を推進するのに必要な最新の科学技術に関する知識を最新に保つ、社会課題に関心を寄せる、発表の技術を身に付ける、討議できる能力を身に付けることが目標である。研究室ごとのゼミ形式で行う。すなわち、個別、もしくは少人数で報告、発表、討論を行う。研究室ごとにその頻度や内容は異なるが、概ね週に1回以上のミーティングを持ち、発表担当は順番制とする。	
	システム創成科学演習Ⅱ-D（人間情報システム）		人間情報システム分野の学術論文、最新科学技術の記事、その周辺分野のニュースなどを十分に読み込み、発表資料を作成し、これにもとづいて発表し、参加者と討議する。文献の探し方を学び、自身の研究テーマに関連した文献についての知識を増やし、（外国語の）論文を読解する能力を身に付ける、研究を推進するのに必要な最新の科学技術に関する知識を最新に保つ、社会課題に関心を寄せる、発表の技術を身に付ける、討議できる能力を身に付けることが目標である。研究室ごとのゼミ形式で行う。すなわち、個別、もしくは少人数で報告、発表、討論を行う。研究室ごとにその頻度や内容は異なるが、概ね週に1回以上のミーティングを持ち、発表担当は順番制とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	システム創成科学演習Ⅲ-D（人間情報システム）		人間情報システム分野の学術論文、最新科学技術の記事、その周辺分野のニュースなどを十分に読み込み、発表資料を作成し、これにもとづいて発表し、参加者と討議する。文献の探し方を学び、自身の研究テーマに関連した文献についての知識を増やし、（外国語の）論文を読解する能力を身に付ける、研究を推進するのに必要な最新の科学技術に関する知識を最新に保つ、社会課題に関心を寄せる、発表の技術を身に付ける、討議できる能力を身に付けることが目標である。研究室ごとのゼミ形式で行う。すなわち、個別、もしくは少人数で報告、発表、討論を行う。研究室ごとにその頻度や内容は異なるが、概ね週に1回以上のミーティングを持ち、発表担当は順番制とする。	
	システム創成科学演習Ⅳ-D（人間情報システム）		人間情報システム分野の学術論文、最新科学技術の記事、その周辺分野のニュースなどを十分に読み込み、発表資料を作成し、これにもとづいて発表し、参加者と討議する。文献の探し方を学び、自身の研究テーマに関連した文献についての知識を増やし、（外国語の）論文を読解する能力を身に付ける、研究を推進するのに必要な最新の科学技術に関する知識を最新に保つ、社会課題に関心を寄せる、発表の技術を身に付ける、討議できる能力を身に付けることが目標である。研究室ごとのゼミ形式で行う。すなわち、個別、もしくは少人数で報告、発表、討論を行う。研究室ごとにその頻度や内容は異なるが、概ね週に1回以上のミーティングを持ち、発表担当は順番制とする。	
	研究発表演習（中間発表）		修士学位申請に関わる各々の専門分野の研究課題について調査・分析を行い、プレゼンテーション形式で報告する。このための研究成果の整理、プレゼンテーション技術の習得を行い、専門分野の知識を身につける。自身の研究課題について研究背景を把握し、研究の進捗状況を自己評価するとともに、今後の研究計画に役立てること、および発表を通じてプレゼンテーション能力を養うことをねらいとする。教員の指導を受け、毎日、着実に研究を進める。中間発表会における発表、配布資料、質疑応答により、研究に対する理解度と取り組み状況（70点）とプレゼンテーション・質疑応答（30点）に基づき、合計100点満点をもって評価し、60点以上を合格とする。	
	研究発表演習（学外発表）		研究成果を国内外の学会等で発表し、社会に対して研究成果を還元するとともに、国内外の専門家との質疑を通じ研究を発展させる。研究室のゼミなどでの進捗の報告や議論を通じ、該当専門分野の知識をさらに深めるとともに、研究の取りまとめ、プレゼンテーションの技術を習得する。研究成果の国内外の学会等での発表を通じ該当専門分野の知識を深め、研究倫理を遵守し、責任をもって研究成果を報告するための能力を養うことをねらいとする。指導教員の指導を受け、毎日、着実に研究を進める。本人による学会での発表の実施（配点50点）研究に対する取り組み状況（配点50点）を総合的に評価し、100点満点中60点以上を合格とする。	
	技術英語・プレゼンテーション		英語でも日本語であっても、中級から上級レベルのプレゼンテーションスキル及び専門的な会話術を習得することを目標とし、プレゼンテーションの概念、テクニック、および実践的な技術英会話のポイントを学ぶ。また、全ての学生は、クラスでプレゼンテーション（質疑応答を含む）の練習を行い、教員が改善に向けて評価・コメントする。その他、毎回異なる学生とペアになって、会話の実践練習を行う。	
	アドバンステクノロジー		電子情報通信分野の先端技術に関わる研究者、実務経験者の講演を聞く。電子情報通信分野の技術者として、専門技術の持つ意味やその適用方法や分野を学習する。それぞれの講師から得た知識を全体として総括し、電子情報通信分野をその全体像としてイメージし、実社会での位置づけを明確につかむ。そのために、実際の応用技術の分野からの講師によって技術の実践的な内容を学ぶ。各回でレポート提出を課し、提出されたレポートに基づいて、達成度を評価する。	
生 命 環 境 ・ 食 料 科 学 プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	生命環境・食料科学演習Ⅰ-E（基礎生命科学）		授業形態は各指導教員によって対面講義形式でおこなわれる。概要は、生命環境・食料科学プログラムの各専門分野における研究や調査、さらに分析した内容等について、各自が的確にまとめ、その内容を発表し、討論するものである。目標は、修士論文課題の研究を遂行する上で必要となる基礎的能力を養うことにある。専門に関連する文献を詳細に読み、その内容を理解するとともに他者にわかりやすく紹介することを演習として行う。	
	生命環境・食料科学演習Ⅱ-E（基礎生命科学）		授業形態は各指導教員によって対面講義形式でおこなわれる。概要は、生命環境・食料科学プログラムの各専門分野における研究や調査、さらに分析した内容等について、各自が的確にまとめ、その内容を発表し、討論するものである。目標は、修士論文課題の研究を遂行する上で必要となる基礎的能力を養うことにある。専門に関連する文献を詳細に読み、その内容を理解するとともに他者にわかりやすく紹介すること、および自身の行っている研究の内容を他者にわかりやすく説明することを演習として行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	生命環境・食料科学 演習Ⅲ-E（基礎生命 科学）		授業形態は各指導教員によって対面講義形式でおこなわれる。概要は、生命環境・食料科学プログラムの各専門分野における研究や調査、さらに分析した内容等について、各自が的確にまとめ、その内容を発表し、討論するものである。目標は、修士論文課題の研究を遂行する上で必要となる基礎的能力を養うことにある。専門に関連する文献を詳細に読み、その内容を理解するとともに他者にわかりやすく紹介すること、および自身の行っている研究の内容を他者にわかりやすく説明することを演習として行うことにより、当該分野の研究状況の理解を深める。	
	生命環境・食料科学 演習Ⅳ-E（基礎生命 科学）		授業形態は各指導教員によって対面講義形式でおこなわれる。概要は、生命環境・食料科学プログラムの各専門分野における研究や調査、さらに分析した内容等について、各自が的確にまとめ、その内容を発表し、討論するものである。目標は、修士論文課題の研究を遂行する上で必要となる基礎的能力を養うことにある。専門に関連する文献を詳細に読み、その内容を理解するとともに他者にわかりやすく紹介すること、および自身の行っている研究の内容を他者にわかりやすく説明することを演習として行うことにより、当該分野の専門家としての知見を深める。	
	生命環境・食料科学 演習Ⅰ-E（応用生 命・食品科学）		生命環境・食料科学演習Ⅰ-E（応用生命・食品科学）では、生命環境・食料科学プログラム中の応用生命・食品化学領域の各専門分野における研究や調査、さらに分析した内容等について、各自が的確にまとめ、その内容を発表し、討論することにより当該分野の理解を進めることを目的とする。専門に関連する文献を詳細に読み、その内容を理解するとともに他者にわかりやすく紹介することを演習として行う。	
	生命環境・食料科学 演習Ⅱ-E（応用生 命・食品科学）		生命環境・食料科学演習Ⅱ-E（応用生命・食品科学）では、生命環境・食料科学プログラム中の応用生命・食品化学領域の各専門分野における研究や調査、さらに分析した内容等について、各自が的確にまとめ、その内容を発表し、討論することにより当該分野の理解を進めることを目的とする。専門に関連する文献を詳細に読み、その内容を理解するとともに他者にわかりやすく紹介すること、および自身の行っている研究の内容を他者にわかりやすく説明することを演習として行う。	
	生命環境・食料科学 演習Ⅲ-E（応用生 命・食品科学）		生命環境・食料科学演習Ⅲ-E（応用生命・食品科学）では、生命環境・食料科学プログラム中の応用生命・食品化学領域の各専門分野における研究や調査、さらに分析した内容等について、各自が的確にまとめ、その内容を発表し、討論することにより当該分野の理解を進めることを目的とする。専門に関連する文献を詳細に読み、その内容を理解するとともに他者にわかりやすく紹介すること、および自身の行っている研究の内容を他者にわかりやすく説明することを演習として行うことにより、当該分野の研究状況の理解を深める。	
	生命環境・食料科学 演習Ⅳ-E（応用生 命・食品科学）		生命環境・食料科学演習Ⅳ-E（応用生命・食品科学）では、生命環境・食料科学プログラム中の応用生命・食品化学領域の各専門分野における研究や調査、さらに分析した内容等について、各自が的確にまとめ、その内容を発表し、討論することにより当該分野の理解を進めることを目的とする。専門に関連する文献を詳細に読み、その内容を理解するとともに他者にわかりやすく紹介すること、および自身の行っている研究の内容を他者にわかりやすく説明することを演習として行うことにより、当該分野の専門家としての知見を深める。	
	生命環境・食料科学 演習Ⅰ-E（生物資源 科学）		植物資源科学、動物資源科学、農業経済科学といった生物資源科学の各専門分野における研究や調査、さらに分析した内容等について、各自が的確にまとめ、その内容を発表し、討論することにより、生物資源科学の各専門分野における課題を見つけ出すこと、および基礎理論や研究の手法について理解することを目標とする。そのために、演習を通じて、修士論文課題の研究を遂行するにあたっての課題設定能力を身につけること、およびそのような研究を遂行する上で必要となる基礎的能力を養うことにある。	
	生命環境・食料科学 演習Ⅱ-E（生物資源 科学）		植物資源科学、動物資源科学、農業経済科学といった生物資源科学の各専門分野における研究や調査、さらに分析した内容等について、各自が的確にまとめ、その内容を発表し、討論することにより、生物資源科学の各専門分野における基礎理論や研究の手法について深く理解し、修士論文課題の研究遂行に必要なコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。そのために、演習を通じて、修士論文課題の研究を遂行する上で必要となる基礎的能力を深く養い、それらの内容を説明することができるとともに、専門家などと議論することにある。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	生命環境・食料科学 演習Ⅲ-E（生物資源 科学）		植物資源科学、動物資源科学、農業経済科学といった生物資源科学の各専門分野における研究や調査、さらに分析した内容等について、各自が的確にまとめ、その内容を発表し、討論することにより、生物資源科学の各専門分野における基礎理論を応用していく能力を身につけることを目標とする。そのために、演習を通じて、修士論文課題の研究を遂行する上で必要となる基礎理論に加え応用的に展開された理論、あるいは複合分野における研究手法を理解することにある。	
	生命環境・食料科学 演習Ⅳ-E（生物資源 科学）		植物資源科学、動物資源科学、農業経済科学といった生物資源科学の各専門分野における研究や調査、さらに分析した内容等について、各自が的確にまとめ、その内容を発表し、討論することにより、生物資源科学の各専門分野における基礎理論を応用していく能力を深く養い、修士論文課題の研究遂行に必要なコミュニケーション能力にぐわい、論理的な討論や議論する能力を身につけることを目標とする。そのために、演習を通じて、修士論文課題の研究を遂行する上で必要となる基礎理論に加え応用的に展開された理論、あるいは複合分野における研究手法を深く理解すること、それらの内容を論理的に説明、議論することにある。	
	生命環境・食料科学 演習Ⅰ-E（流域環境 学）		流域環境学における基礎的・応用的課題を解決するに当たって必要となる実験方法、分析方法、調査方法、解析方法などを実践的に修得し、仮説の設定と結果の検証を行う能力を養うとともに高度に専門的な課題に対する解決能力を養う。加えて、プレゼンテーションなど、研究成果の公表方法（口頭発表、論文作成・投稿）を熟知し、適切な科学的処理に基づくデータ処理方法（確率統計処理、シミュレーションなど）を考究する。修士課程1年次の前半に身につけるべき基本を習得する。	
	生命環境・食料科学 演習Ⅱ-E（流域環境 学）		流域環境学における基礎的・応用的課題を解決するに当たって必要となる実験方法、分析方法、調査方法、解析方法などを実践的に修得し、仮説の設定と結果の検証を行う能力を養うとともに高度に専門的な課題に対する解決能力を養う。加えて、プレゼンテーションなど、研究成果の公表方法（口頭発表、論文作成・投稿）を熟知し、適切な科学的処理に基づくデータ処理方法（確率統計処理、シミュレーションなど）を考究する。演習Ⅰ-Eで履修した内容を定着させる。	
	生命環境・食料科学 演習Ⅲ-E（流域環境 学）		流域環境学における基礎的・応用的課題を解決するに当たって必要となる実験方法、分析方法、調査方法、解析方法などを実践的に修得し、仮説の設定と結果の検証を行う能力を養うとともに高度に専門的な課題に対する解決能力を養う。加えて、プレゼンテーションなど、研究成果の公表方法（口頭発表、論文作成・投稿）を熟知し、適切な科学的処理に基づくデータ処理方法（確率統計処理、シミュレーションなど）を考究する。修士課程1年次を振り返りより高度な内容を定着させる。	
	生命環境・食料科学 演習Ⅳ-E（流域環境 学）		流域環境学における基礎的・応用的課題を解決するに当たって必要となる実験方法、分析方法、調査方法、解析方法などを実践的に修得し、仮説の設定と結果の検証を行う能力を養うとともに高度に専門的な課題に対する解決能力を養う。加えて、プレゼンテーションなど、研究成果の公表方法（口頭発表、論文作成・投稿）を熟知し、適切な科学的処理に基づくデータ処理方法（確率統計処理、シミュレーションなど）を考究する。演習Ⅰ-E～Ⅲ-Eで履修した内容を定着させる。	
	生命環境・食料科学 演習Ⅰ-E（都市・環 境デザイン）		主指導教員のもとで、都市・環境デザイン（社会基盤工学または建築学）に関わるテーマを設定し、これに関連した分野における国内外の研究を調査し、内容の理解と要約の説明及び論議を行う。自ら、修士論文の内容に関わるテーマを設定し、研究課題の把握・解決及び論議を行う。都市・環境デザイン（社会基盤工学または建築学）に関わる研究を行うために必要となる国内外の研究動向を理解するとともに、自らの理解を高め発表する能力を修得する。修士論文の内容に関わる研究課題を把握し解決する能力を修得する。本科目では、専門とする分野の基盤を形成しつつ、学際的知識や複数の研究方法論、トランスファラブルスキルを修得する。	
	生命環境・食料科学 演習Ⅱ-E（都市・環 境デザイン）		主指導教員のもとで、都市・環境デザイン（社会基盤工学または建築学）に関わるテーマを設定し、これに関連した分野における国内外の研究を調査し、内容の理解と要約の説明及び論議を行う。自ら、修士論文の内容に関わるテーマを設定し、研究課題の把握・解決及び論議を行う。都市・環境デザイン（社会基盤工学または建築学）に関わる研究を行うために必要となる国内外の研究動向を理解するとともに、自らの理解を高め発表する能力を修得する。修士論文の内容に関わる研究課題を把握し解決する能力を修得する。本科目では、専門性を深めつつ、当該分野における研究技法や作法を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	生命環境・食料科学 演習Ⅲ-E（都市・環 境デザイン）		主指導教員のもとで、都市・環境デザイン（社会基盤工学または建築学）に関わるテーマを設定し、これに関連した分野における国内外の研究を調査し、内容の理解と要約の説明及び論議を行う。自ら、修士論文の内容に関わるテーマを設定し、研究課題の把握・解決及び論議を行う。都市・環境デザイン（社会基盤工学または建築学）に関わる研究を行うために必要となる国内外の研究動向を理解するとともに、自らの理解を高め発表する能力を修得する。修士論文の内容に関わる研究課題を把握し解決する能力を修得する。本科目では、自身の探究課題を定めて研究に取り組みながら専門性を確立する。	
	生命環境・食料科学 演習Ⅳ-E（都市・環 境デザイン）		主指導教員のもとで、都市・環境デザイン（社会基盤工学または建築学）に関わるテーマを設定し、これに関連した分野における国内外の研究を調査し、内容の理解と要約の説明及び論議を行う。自ら、修士論文の内容に関わるテーマを設定し、研究課題の把握・解決及び論議を行う。都市・環境デザイン（社会基盤工学または建築学）に関わる研究を行うために必要となる国内外の研究動向を理解するとともに、自らの理解を高め発表する能力を修得する。修士論文の内容に関わる研究課題を把握し解決する能力を修得する。本科目では、集大成の成果物である修士論文に関わる演習を行う。	
	生命環境・食料科学 演習Ⅰ-E（地質学）		課題解決のための計画性・自発性を涵養し、情報収集から解決に至るプロセスを実践し、表現・発信する能力を身に付ける科目である。修士課程（1年1学期）の研究について、専門分野毎に開かれるセミナーで発表・討論を行う。受講生は、セミナーの運営に積極的に関わる。また、広く国内外の文献を読むとともに、他の大学院生・学部4年生の発表内容にも深い関心をもって、その内容を学ぶこと。本科目は課題研究Ⅰ-E（地質学）との有機的関連を伴う。	
	生命環境・食料科学 演習Ⅱ-E（地質学）		課題解決のための計画性・自発性を涵養し、情報収集から解決に至るプロセスを実践し、表現・発信する能力を身に付ける科目である。修士課程（1年2学期）の研究について、専門分野毎に開かれるセミナーで発表・討論を行う。受講生は、セミナーの運営に積極的に関わる。また、広く国内外の文献を読むとともに、他の大学院生・学部4年生の発表内容にも深い関心をもって、その内容を学ぶこと。本科目は課題研究Ⅱ-E（地質学）との有機的関連を伴う。	
	生命環境・食料科学 演習Ⅲ-E（地質学）		課題解決のための計画性・自発性を涵養し、情報収集から解決に至るプロセスを実践し、表現・発信する能力を身に付ける科目である。修士課程（2年1学期）の研究について、専門分野毎に開かれるセミナーで発表・討論を行う。受講生は、セミナーの運営に積極的に関わる。また、広く国内外の文献を読むとともに、他の大学院生・学部4年生の発表内容にも深い関心をもって、その内容を学ぶこと。本科目は課題研究Ⅲ-E（地質学）との有機的関連を伴う。	
	生命環境・食料科学 演習Ⅳ-E（地質学）		課題解決のための計画性・自発性を涵養し、情報収集から解決に至るプロセスを実践し、表現・発信する能力を身に付ける科目である。修士課程（2年2学期）の研究について、専門分野毎に開かれるセミナーで発表・討論を行う。受講生は、セミナーの運営に積極的に関わる。また、広く国内外の文献を読むとともに、他の大学院生・学部4年生の発表内容にも深い関心をもって、その内容を学ぶこと。本科目は課題研究Ⅳ-E（地質学）との有機的関連を伴う。	
	生命環境・食料科学 演習Ⅰ-E（自然災害 科学）		複雑化・多様化する自然災害のリスクに対応できる社会の創生は現代社会の大きな課題である。本演習では、防災・減災の課題解決に向けた研究力を養うため、主指導教員のもとで自然災害科学に関わるテーマを設定し、これに関連した分野における国内外の研究を調査する。本演習は、主指導教員との綿密な打合せに基づき、柔軟かつ適切な計画を設定して行う。本演習により、自然災害科学に関連した国内外の先行研究について、論文の検索やその内容の理解を効率的に行うことができるようになることを目標とする。	
	生命環境・食料科学 演習Ⅱ-E（自然災害 科学）		複雑化・多様化する自然災害のリスクに対応できる社会の創生は現代社会の大きな課題である。本演習では、防災・減災の課題解決に向けた研究力を養うため、主指導教員のもとで自然災害科学に関わるテーマを設定し、これに関連した分野における国内外の研究を調査し、内容の理解と要約の説明及び論議を行う。本演習は、主指導教員との綿密な打合せに基づき、柔軟かつ適切な計画を設定して行う。本演習により、自然災害科学に関連した国内外の研究動向を理解するとともに、自らの理解を高め論議できるようになることを目標とする。	
	生命環境・食料科学 演習Ⅲ-E（自然災害 科学）		複雑化・多様化する自然災害のリスクに対応できる社会の創生は現代社会の大きな課題である。本演習では、防災・減災の課題解決に向けた研究力を養うため、主指導教員のもとで設定された自然災害科学に関わるテーマに関する国内外の先行研究をレビューし、研究トピックに関する理解の現状を議論する。本演習は、主指導教員との綿密な打合せに基づき、柔軟かつ適切な計画を設定して行う。本演習により、自然災害科学に関連した研究領域のトレンドや課題、どこまでが既に明らかとなっていて何がまだ分かっていないのかを説明できるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	生命環境・食料科学演習Ⅳ-E（自然災害科学）		複雑化・多様化する自然災害のリスクに対応できる社会の創生は現代社会の大きな課題である。本演習では、防災・減災の課題解決に向けた研究力を養うため、設定された自然災害科学に関わるテーマに関する論文レビューを発表し、質疑応答を行う。本演習は、主指導教員との綿密な打合せに基づき、柔軟かつ適切な計画を設定して行う。本演習により、自然災害科学に関連した研究領域の論文レビューのプレゼンテーションと質疑応答ができるようになることを目標とする。	
	研究発表演習（中間発表）		1年次の課題研究において各自が取り組んできた修士学位取得のための研究活動に関し、研究課題の設定、研究活動状況や成果、今後の研究計画等をまとめ、プレゼンテーションを準備し、基礎生命科学、応用生命・食品科学、生物資源科学、流域環境学、都市・環境デザイン、地質学、自然災害科学の各専門部会毎に設定された発表会において報告する。スライドあるいはポスター作成や発表、質疑応答等を通じてプレゼンテーション技術とコミュニケーションスキルを習得するとともに、研究活動における目標設定能力や企画力を身につける。	
	研究発表演習（学外発表）		課題研究において各自が取り組んできた修士学位取得のための研究活動において得られた研究成果を、学外の学術的機関や組織が主催し関係分野の学会や討論会、講演会等の学術的集会において発表する。主指導教員の指導の下、研究成果の取りまとめ、予稿、スライドやポスター等の発表資料を作成する。専門家が多数参加する環境のもと発表を行い、プレゼンテーション技術を身につけ、参加者との質疑応答を通して、専門知識とコミュニケーションスキルを身につける。	
	基礎生命科学セミナー		授業は2日間の集中講義として開講し、対面で講義形式で行う。講義では、ヒトを含めた動物において、「記憶」が脳のどの部分に、いつ、どのような仕組みで保存され、それがどのような機構で呼び出されるのかについて、細胞レベル・分子レベルでどこまでに明らかになっているかを最新の知見を交えながら解説する。また、授業の最後には講師の専門分野における先端研究の紹介も行う。授業を通して、私たちの「記憶」の基本的なしくみを理解し、生命科学に対する興味を深めることを目標とする。	
	応用生命・食品科学セミナーⅠ		応用生命・食品科学セミナーⅠは、他大学の教員や最先端の研究者を非常勤講師として迎え、応用生命・食品科学分野の幅広い知識を習得させることを目的としている。講義形式とし、対面またはオンラインにより開講する。食品の一次機能、二次機能、三次機能に関する成分の解説を行う。また、最新の機器分析手法やIT法等の官能評価手法、感性工学等、二次機能を中心に最新の研究成果や、海外での状況について詳論する。	
	応用生命・食品科学セミナーⅡ		植物は地球における大きな利用資源であり、その人工的な制御と利用の最適化に係る研究は、地球温暖化／気候変動が誘引する様々な問題に対抗するための大きなチャレンジとなっている。植物を対象とし、メタボロミクス、リビドミクスを含めたトランスオミクスの手法により、環境ストレス応答とエネルギー代謝、膜脂質代謝の研究および教育の経験がある教員が講義を担当する。受講生の応用生命・食品科学に関する知識を深め、視野を広げさせ、最新の研究へ積極的にチャレンジする動機づけを行うことを目的とする。	
	応用生命・食品科学セミナーⅢ		応用生命・食品科学セミナーⅢは、他大学の教員や最先端の研究者を講師として、応用生命・食品科学分野の幅広い知識を習得することを目的としている。微生物学、毒性学の基礎から、フグ毒や貝毒等の毒、あるいは、食品の微生物学検査や昆虫食の衛生等の実際の研究の例について講義する。	
	応用生命・食品科学セミナーⅣ		応用生命・食品科学セミナーⅣは、他大学の教員や最先端の研究者を講師として、応用生命・食品科学分野の幅広い知識を習得させることを目的としている。本科目では、植物－微生物共生系の解析とその応用による耕作不適地における作物生産増強や新規レメディエーション技術の創出に関する最新の研究成果についてさまざまな観点から解説する。	
	生物資源科学概論Ⅰ		資源植物科学の観点から、生物資源科学とは何かを把握することを目的とする。動物細胞は細胞膜によって守られているが、その膜は常に傷つき秒単位のスピードで修復している。外皮はもちろん、食べ物で消化管上皮は傷つき、普段の動作によって骨格筋線維は損傷し瞬時に修復している。このような膜損傷修復をはじめ、植物育種に関する内容を講義形式で学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	生命環境・食料科学プログラム専門科目群			
	生物資源科学概論Ⅱ		植物資源科学、動物資源科学、農業経済科学といった生物資源科学のより専門的な知見について解説を行う。農業経済科学の分野では、今日の世界と日本が直面する食料・農業・農村をめぐる諸問題について、経済学、経営学、流通論、産業論、マーケティング論、貿易論、開発論などの社会科学的な視点からより専門的な知見について解説していく。具体的には、世界の食料と農業・農村問題、日本農業の経営・技術問題、農業・食料産業の特質と市場問題、食料と資源・環境問題に関する専門的な知識について解説する。	
	建築倫理		一級建築士資格の登録要件科目として、一級建築士資格を有する実務家教員による講義が要件となっている本講義では、一級建築士事務所を主宰する一級建築士資格を有する教員が実際に遭遇した案件とその対処例を交えて建築士の職能を支える倫理を講義する。建築士は、その職能が保証されているのと引換えに、設計・監理の面で建築主と社会に対する重い責任が課されている。本講義では、建築士の地位と責任について、実例を充分に交えながら解説する。目標は、建築士として 1) 法律上の地位と責任の概要を身につけること 2) 他分野の専門家と共同して建築設計実務に携わることができること 3) 建築法制の改革にあたり、主体的に取り組むことができる知識・思考法をもつことの3点である。内容は、建築基準法および建築士法を中心とする体系と建築設計実務の近年の実例について論ずる。	
	建築プロジェクトマネジメント		一級建築士資格の登録要件科目として、一級建築士資格を有する実務家教員による講義が要件となっている本講義では、総合建築設計事務所に所属し、設計および監理の経験と一級建築士資格を有する教員が最新の事例にもとづき、建築実務における企画、基本設計、実施設計、監理、施工の連携と業務管理を講義する。建築プロジェクトマネジメントとは、基本計画・設計から完成、開業後の運用・保守について、建築プロジェクト全体を通じたコストや工程、品質管理、法令遵守についての業務を行うことを指す。本講義では、大規模な建築プロジェクトにおいて、建物が完成するまでにどのような業務があり、どのような連携があり、どのような流れで進んでいくのかについて、実務の知識と経験に基づいた管理から運営に至るまでの業務全体の管理を理解することを目標とする。	
	建築設計製図		主指導教員のもとで、建築デザインの対象や手法の多様化を念頭に置き、より高度な建築デザイン手法を学ぶ。本科目は、ディプロマ・ポリシーにおける都市・環境デザインに関わる計画・設計を行うための基礎理論・技術の修得に関する諸項目に対応する。カリキュラム・ポリシーに対しては、都市・環境デザイン（工学）に対応する。本科目では、以下を目標とする。建築のデザインは、形態決定だけでなくその建物の維持運営のためのプログラムや、文化的価値の維持保存を念頭に置いたものなど多様化している。建築設計が抱える広範なテーマを深く探求し、より専門的な建築デザインを学ぶ。周辺環境の社会的・文化的側面を読み取り、建築や住宅地のデザインに適用する技術を身につける。	
	インターンシップ		一級建築士資格を有する建築実務家による一級建築士試験実務要件1年の科目である。受入先は一級建築士事務所登録をした建築設計実務を実施する行政機関・企業・NPOなどに限る。建築設備分野にあつては建築設備士事務所も含む。120時間以上の建築設計実務の実習を行う。本科目は、ディプロマ・ポリシーにおける自ら課題を発見し解決する能力、汎用的な能力に関する諸項目に対応する。カリキュラム・ポリシーに対しては、都市・環境デザイン（工学）に対応する。本科目では、以下をねらいとする。建築設計の実務体験を通じて建築設計業務の遂行に必要な知識を習得するととも大学院での研究・教育との関連性を理解する。建築設計実務の遂行プロセスを理解し、そこで必要とされる実践的な技術・知識を身につける。	
	建築インターンシップA		一級建築士登録に必要な実務2年に相当する追加要件3科目の一つである。建築設計実務を行っている行政機関・企業・NPOなど（一級建築士事務所登録済みの受け入れ先に限る。建築設備分野にあつては建築設備士事務所も含む）において60時間以上の実習を行う。本科目は、ディプロマ・ポリシーにおける自ら課題を発見し解決する能力、汎用的な能力に対応する。カリキュラム・ポリシーに対しては、都市・環境デザイン（工学）に対応する。本科目では、以下を目標とする。建築設計実務の遂行プロセスを理解し、そこで必要とされる実践的な技術・知識を身につける。建築設計実務の遂行プロセスを理解し、そこで必要とされる実践的な技術・知識を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	生命環境・食料科学プログラム専門科目群	建築インターンシップB	一級建築士登録に必要な実務経験2年に相当する追加要件3科目の一つである。建築設計実務を行っている行政機関・企業・NPOなど（一級建築士事務所登録済みの受け入れ先に限る。建築設備分野にあつては建築設備士事務所も含む）において120時間以上の実習を行う。本科目は、ディプロマ・ポリシーにおける自ら課題を発見し解決する能力、汎用的な能力に対応する。カリキュラム・ポリシーに対しては、都市・環境デザイン（工学）に対応する。本科目では、以下を目標とする。建築設計の実務体験を通じて建築設計業務の遂行に必要な知識を習得するとともに大学院博士後期課程での研究・教育との関連性を理解する。「建築設計実務の遂行プロセスを理解し、そこで必要とされる実践的な技術・知識を身につける。	
		建築インターンシップC	一級建築士登録に必要な実務経験2年に相当する追加要件3科目の一つである。建築設計実務を行っている行政機関・企業・NPOなど（一級建築士事務所登録済みの受け入れ先に限る。建築設備分野にあつては建築設備士事務所も含む）において120時間以上の実習を行う。本科目は、ディプロマ・ポリシーにおける自ら課題を発見し解決する能力、汎用的な能力に対応する。カリキュラム・ポリシーに対しては、都市・環境デザイン（工学）に対応する。本科目では、以下を目標とする。建築設計の実務体験を通じて建築設計業務の遂行に必要な知識を習得するとともに大学院博士後期課程での研究・教育との関連性を理解する。建築設計実務の遂行プロセスを理解し、そこで必要とされる実践的な技術・知識を身につける。	
		建築設計実習	一級建築士登録に必要な実務要件1年分に相当する実習科目である。一級建築士資格を有する主指導教員のもとで、実際の建築プロジェクトまたは現実的な設計課題を通じて建築設計実務に必要な計画・構造・設備を統合する力や素材やディテールに関する知識を身につける。本科目は、ディプロマ・ポリシーにおける都市・環境デザインに関わる計画・設計を行うための基礎理論・技術の修得に関する諸項目に対応する。カリキュラム・ポリシーに対しては、都市・環境デザイン（工学）に対応する。本科目では、以下を目標とする。実際の建築プロジェクトや現実に近い条件の設計課題に取り組むことにより建築設計実務に必要な知識・技術を実践的に学ぶ。建築設計実務に必要な意匠・構造・設備を統合する力や素材やディテールに関する知識を身につける。	
		Earth Science today I	自然科学の多様な分野の基礎および地質学の先端のトピックを題材に、理学研究の方法論や発展可能性について理解する科目である。地球システムを理解するためには、様々な階層で起こる諸現象とそれらの関係を時間軸に沿って正しく捉える必要がある。とくに、地球表層には、テクトニクス・古地形・古気候・生物活動など、様々な要素が重複しつつ、時間軸に沿った系統的な変化が記録されていることに留意したい。この科目では、現生を含む新生代の古生物学を題材とした分類・進化・生物地理・古環境解析を例に、過去と現在をつなげて生命と環境の関わりを捉え、地質学にとって必須となる俯瞰能力を身に付ける機会とするとともに、地球環境変動の研究の最前線に触れる。	隔年
		Earth Science today II	自然科学の多様な分野の基礎および地質学の先端のトピックを題材に、理学研究の方法論や発展可能性について理解する科目である。地球システムを理解するためには、様々な階層で起こる諸現象とそれらの関係を時間軸に沿って正しく捉える必要がある。とくに、地球表層には、テクトニクス・古地形・古気候・生物活動など、様々な要素が重複しつつ、時間軸に沿った系統的な変化が記録されていることに留意したい。この科目では、現生を含む新生代の古生物学を題材とした分類・進化・生物地理・古環境解析を例に、過去と現在をつなげて生命と環境の関わりを捉え、地質学にとって必須となる俯瞰能力を身に付ける機会とするとともに、地球環境変動の研究の最前線に触れる。	隔年
		自然災害環境論	山地域で生じる土砂生産・移動現象や流下土砂の挙動など、山地災害の原因となる表面侵食、崩壊、地すべり、土石流、落石などのメカニズムについて、国内外の災害事例（能登半島地震・豪雨による土砂災害、融雪型火山泥流、氷河湖決壊洪水など）を紹介しつつ、土質力学や土砂水理学の基礎的知識を用いて理論的に説明する。その上で、これらを予防あるいは復旧するための治山砂防事業と施工法、施設の機能及び配置、設計技術等について解説する。そして、災害対策の考え方、森林の公益的機能の維持増進方法、さらには自然環境の保全をも視野に入れた今後の治山・砂防事業のあり方を考察する。	隔年
		突発災害特論	本講義は、人の生活基盤である都市から中山間地において発生する自然災害について、それをもたらすバックグラウンドとしての自然環境や災害軽減に向けて必要な先端的技术を学ぶことを目的としている。今回の講義では特に津波のメカニズム、津波の実態、津波による堆積物の挙動、津波数値計算、津波堆積物による津波履歴調査などに関する講義を行い、地震災害における津波の実態や予測手法について国内外の事例研究等を通じて広く学ぶ。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	知的財産論		近年の知的財産を用いたコンテンツビジネスの役割を把握しつつ、アニメ・映像分野にとって、非常に重要な著作権と関連する権利の基本を学ぶ。 その際には、実際に問題となった作品や事件、アニメ・映像及びそれに関連したコンテンツを扱う各業界（アニメ、映像、ゲーム、マンガ、音楽など）のビジネス構造のほか、同人活動、ファンアート、人工知能、メタバース、アバターなど、話題の事象が、著作権法とどのように関わっているのかに触れることで、社会で使える知識の取得を図る。	
	アニメ文化解析演習		本授業は、デジタル技術の発展に伴い台頭したデジタル・ヒューマニティーズの考え方と研究方法論を取り上げる。デジタル・ヒューマニティーズとは、人間の力だけでは難しかった膨大な文化データを網羅的に、なおかつ数値的に研究する理論である。アニメの制作過程で作成された絵コンテやセル画など「中間素材」にも同理論を応用し、コンピュータによるデータ解析を通して人間の認知能力を超えたところにある傾向やパターンが提示できる研究方法を学習する。	
	デジタル映像資源演習		本演習は、デジタル環境を想定したうえで文化資源、映像資源、再媒体化といった概念を主軸にする。まず、文化資源という概念を映像文化に応用し、デジタル環境における映像資源について検討する。さらにアナログ時代のアニメ制作過程で作成された原画など「中間素材」の映像資源としての可能性について考察する。最後に、ニューメディア論において提唱される再媒体化という概念を理解し、デジタルテクノロジーを駆使した映像資源の再媒体化が実践できる能力を獲得する。	
	地域文化資源アーカイブ演習		国内外における博物館・図書館・文書館等のデジタル・コンテンツの集積・公開の進展とその可能性の拡大、公開資料を利用したデジタル・ヒューマニティーズの隆盛、そして深刻化する人口減少・高齢化がもたらす地域文化資源の保存・継承の危機を背景として、地域文化資源のデジタルアーカイブ化が日本各地で活発化している。しかし、過疎・高齢化地域など特に地域文化資源の保存・継承に困難を抱えた地域においては、今なおデジタルアーカイブ活動の開始・継続は容易ではない。こうした問題を念頭に本講義では、福島県奥会津地域をフィールドとして、地域文化資源のデジタル化作業の計画立案・計画実施・成果活用計画の策定を行う。地域住民や地域のアーカイブ機関・自治体との協働を通して、過疎高齢化地域の現状と課題・ニーズを知り、地域文化資源のデジタルアーカイブ化について、地に足のついた考察・実践を行う力を養う。	
	映像資源科学演習Ⅰ		映像資源科学に関する文献を詳読することを通し、自ら文献等を調べ、知識を深める能力を養う。本演習を履修することにより、修士論文研究に必要な知識を系統的に得ることができるとともに、最新の研究動向を把握できる。各研究テーマに関連する研究分野の国内外の文献に書かれた内容を理解できることを目標とする。	
	映像資源科学演習Ⅱ		映像資源科学に関する課題研究において、各研究テーマに関連するデータ分析、シミュレーション、設計などを行う。これらにより、研究を遂行する上で必要となる実践的なスキルを身につける。各研究テーマに応じて、適切な手法を選択し、研究の進展に貢献できるようになることを目標とする。	
	映像資源科学演習Ⅲ		映像資源科学に関する文献を詳読することを通し、自ら文献等を調べ、知識を深める能力を養う。本演習を履修することにより、修士論文研究に必要な知識を系統的に得ることができるとともに、最新の研究動向を把握できる。各研究テーマに関連する技術内容を、文章や図表などを用いて適切に表現できるようになることを目標とする。	
	映像資源科学演習Ⅳ		映像資源科学に関する基礎的な知識を学び、研究や実践に応用する力を養う。特に、映像アーカイブの保存技術、デジタル修復、機械学習による映像解析、メタデータ管理、コンテンツ認識などの分野を取り上げる。学んだ知識を活用し、実際の課題に取り組み解決できるようになることを目標とする。	
	日本酒学演習Ⅰ		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。本講義は指導教員により実施される演習である。そこで、具体的には、日本酒学に関する各自の専門分野の研究や調査、さらに分析した内容等について、各自が的確にまとめ、その内容を発表し、討論するものである。	
	日本酒学演習Ⅱ		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。本講義は指導教員により実施される演習である。そこで、具体的には、日本酒学演習Ⅰの進捗を踏まえ、日本酒学に関する各自の専門分野の研究や調査、さらに分析した内容等について、各自が的確にまとめ、その内容を発表し、討論するものである。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	日本酒学演習Ⅲ		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。本講義は指導教員により実施される演習である。そこで、具体的には、日本酒学演習IIの進捗を踏まえ、日本酒学に関する各自の専門分野の研究や調査、さらに分析した内容等について、各自が的確にまとめ、その内容を発表し、討論するものである。	
	日本酒学演習Ⅳ		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。本講義は指導教員により実施される演習である。そこで、具体的には、日本酒学演習IIIの進捗を踏まえ、日本酒学に関する各自の専門分野の研究や調査、さらに分析した内容等について、各自が的確にまとめ、その内容を発表し、討論するものである。	
	研究発表演習（中間発表）		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。本講義は指導教員により実施される研究発表演習である。そこで、具体的には、修士論文研究課題や指導教員より指示された課題について文献に基づき調査するとともに、それらを分析し内容をまとめる。まとめた内容について、プレゼンテーション形式で報告する。	
	研究発表演習（学外発表）		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。本講義は指導教員により実施される研究発表演習である。そこで、具体的には、自身の研究について、背景・目的を調査・整理し、必要な実験を計画・実施し、得られた結果を図表として表現し、それを元に論理的に思考・考察する。以上を学会や研究会等で発表し、専門家と議論する。	
	日本酒学概論I（自然科学）		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。本講義は自然科学分野の専門家により実施される。具体的には、日本酒を軸とした幅広い知識の中で、日本酒に関連する自然科学の領域の基礎的な内容を、各分野の専門家によるオムニバス形式で講義する。なお、本科目の一部は、酒類メーカーの実務経験を有する教員が、それを活かした講義を行う。 （オムニバス方式／全9回） （65 平田 大／1回） ガイダンス・日本酒醸造 （68 藤村 忍／1回） 日本酒と食 （12 大竹 憲邦／1回） 日本酒と植物 （153 鈴木 一輝／1回） 日本酒と環境 （207 宮本 託志／1回） 日本酒と米 （181 西田 郁久／1回） 日本酒と醸造微生物 （321 赤尾 健／1回） 微生物研究の最前線 （332 岩下 和裕／1回） 醸造研究の最前線 （338 奥田 将生／1回） 原料研究の最前線	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	日本酒学概論II（人文社会科学）		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。本講義は人文社会科学分野の専門家により実施される。具体的には、日本酒を軸とした幅広い知識と日本酒の基礎知識のうち、日本酒に関連する人文社会科学の領域の基礎的な内容を、各分野の専門家によるオムニバス形式で学ぶ。 （オムニバス方式／全8回） (263 岸 保行／1回) 酒類組織の組織行動論について講義する。 (266 穴戸 邦久／1回) 日本酒と自治体政策について講義する。 (289 伊藤 龍史／1回) 経営戦略・マーケティング・アントレプレナーシップについて講義する。 (374 ZHANG WENTING／1回) 中小企業の経営戦略、グローバル展開について講義する。 (286 石塚 千賀子／1回) 日本酒分野におけるブランディング・消費者行動について講義する。 (331 今田 周三／1回) 酒類分野のマーケティングについて講義する。 (361 佐藤 淳／1回) 酒類分野のグローバルブランド戦略について講義する。 (397 松崎 晴雄／1回) 海外輸出、国内外の市場に向けたマーケティングについて講義する。	オムニバス方式
	日本酒学概論III（医歯学・保健学）		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。本講義は、医歯学・保健学分野の専門家により実施される。具体的には、本講義では、日本酒を中心に、アルコールが人体に及ぼす影響について概説する。 （オムニバス方式／全8回） (265 佐藤 英世／1回) 本講義の総括として課題を課す。 (420 柿原 嘉人／1回) 本講義のガイダンスおよびお酒と健康について概説する。 (271 池主 雅臣／1回) お酒が心臓に及ぼす影響について概説する。 (293 岡本 圭一郎／1回) 米発酵食品がストレスや痛み、菌に及ぼす影響について概説する。 (305 武井 延之／1回) お酒が脳に及ぼす影響について概説する。 (315 松田 康伸／1回) お酒が肝臓に及ぼす影響について概説する。 (295 柿原 奈保子／1回) 酒粕や酒麴などがスキンケアに及ぼす影響について概説する。 (428 山本 正彦／1回) お酒が生活習慣病に及ぼす影響について概説する。	オムニバス方式
	日本酒学概論IV（総合実践学）		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。具体的には、本概論は、酒類メーカーの実務経験を有する教員や経営者が、その経験を活かし、酒類の全般について、実社会での課題解決を念頭に、幅広い講義を行う。 （オムニバス方式／全8回） (65 平田 大／2回) ガイダンス・日本酒の醸造学 (263 岸 保行／2回) 日本酒の経済学 (334 大平 俊治／1回) 日本酒と組織 (387 平島 健／1回) 日本酒の需要開発 (373 田中 洋介／1回) 酒造の起業 (320 青木 俊夫／1回) 日本酒の地域性	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	基礎日本酒学実習		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。そこで、本実習は、日本酒醸造の基礎の原理を学びながら、実験室レベルの日本酒醸造法と基本的な清酒分析法を学ぶ。なお、本科目の一部は、酒類メーカーの実務経験を有する教員が、それを活かした講義を行う。	共同 講義4時間 実習60時間
	発展日本酒学実習		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。そこで、本実習では、新潟県醸造試験場での実習を通して、日本酒の原料米分析や日本酒製造の全般（原料処理、製麹、仕込み、発酵管理、上槽等）を学ぶ。	
	日本酒学セミナー		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。そこで、本科目は、理系・文系の教員の指導を受けながら、各自の研究テーマを対象として、研究を展開し、課題発掘・解決のための分野横断型の研究手法を学ぶ。	
情報社会デザイン科学プログラム専門科目群	研究発表演習（中間発表）		修士学位申請に関わる情報工学、データサイエンス、社会システム工学、経営工学における情報社会デザイン科学に関する研究課題について調査・分析を行い、プレゼンテーション形式で各自の研究の進捗状況と今後の研究計画を報告する。このための研究計画の企画立案、研究成果の整理と分析および自己評価、スライド作成や発表を通じたプレゼンテーション技術、質疑応答を通じたコミュニケーションスキルを習得し、該当専門分野の知識を身につける。	
	研究発表演習（学外発表）		情報工学、データサイエンス、社会システム工学、経営学などの様々な情報社会デザイン科学の学問領域において各自が取り組んだ研究成果をまとめ、国内外の学会等で発表し、社会に対して研究成果を還元するとともに、国内外の専門家との質疑を通じ研究を発展させることを目的とした科目である。このため、研究の取りまとめ、プレゼンテーション技術および様々な研究者・聴衆とのコミュニケーション能力を習得し、該当専門分野の知識を身につける。	
	価値創造プロジェクト		情報社会デザイン科学、具体的には情報工学、データサイエンス、社会システム工学に関わる工学的、社会的な課題に対して、5人一組程度のグループでのブレインストーミングを通して、課題解決に取り組む。例えば、プロトタイプソフトウェア／プロトタイプソフトウェアシステムの設計および開発や対象とするユーザに対して何らかの価値を提供する最小限のプロダクト(MVP)の作成などを通して、プロジェクトの立案とそのマネジメントを含めた学修を行う。	
	ソフトウェア工学概論		本講義では、実践的なプログラミングの経験が浅い学生向けに、C言語でのプログラム開発を対象にして、C言語の基本的学習から始め、正しいCプログラム作成とそれらの検査のための技術までを、適宜演習を交えながら学習する。これには、基本的なデータ構造やアルゴリズムについての学習、およびソフトウェアシステムの設計とその実装・テストといったプログラム言語の学習から一歩進んだソフトウェア工学領域の入り口に関わる内容も含む。	講義20時間 演習10時間
	技術・社会システム工学総論		知識基盤型社会と呼ばれる現在において、多くのイノベーションは自然科学分野の科学・技術研究を母体として生まれることは間違いない。となく専門領域に特化する傾向の強い自然科学研究、エンジニアリング開発ではあるが、イノベーションは社会との関係性の中でその価値が定まるため、研究・開発者であっても文化、歴史、社会的慣習、法制度、倫理、経済・経営や人的・組織マネジメントの理解が欠かせない。本講義では、「科学、技術と社会」の関係性を学び、社会の発展に寄与するイノベーターに必須の素養と姿勢、態度の修得を図る。また、研究・開発が「最先端」であるほど、既存の規範やステークホルダーとの衝突、摩擦が生じうる。学生は自身の研究課題を想定し、他者との対話を通じてその研究成果が社会に与えるインパクト想像することで、対話による合意形成の大切さを「自分ごと」として理解することを期待する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	情報社会デザインプロジェクト		授業形態はグループワーク、集中講義で実施する。実データを用いた課題解決をグループで行う講義である。データ分析に用いる共通なツールを用意した上で、ツールに習熟するための講義を最初に受講する。その後データと課題分析の背景情報が与えられ、課題設定を自らで行い、課題解決のためにデータの前処理から特徴量抽出、分析を実施する。分析結果を理解し、まとめた上でプレゼンテーションの形式で発表する。結果をまとめて発表する前に、プレゼンテーションに関する講習を行う。以上を数名で構成されるグループで行うため、相互理解を深めるためのコミュニケーション力を涵養する。	共同
	英語コミュニケーションA		授業形態はグループワークである。インターネット上で公開されている各分野の第一人者による英語による講演の動画を題材にする。動画を一度視聴した後、用意された内容チェックシートに基づき、講演者の話した内容のチェックと理解の深化を、数人で構成されるグループごとに行う。グループ内で1名司会を決め、司会が議論を円滑に進めるように努める。基本的に毎回異なる動画に対し、司会を交代で務めながらグループワークを行う。最後に、関心が近い学生同士で興味をもった動画の内容について議論した結果を全員の前で発表する。講師も受講者も、講義は基本的に英語で行う。	共同
	英語コミュニケーションB		工学を含む自然科学系分野であっても、多様な背景を有するパートナーとの協力、協働が不可欠である。特に、エンジニアは研究成果を社会に還元し、イノベーションを創り出すために、ビジネス活動の中で自身の主張を誤解なく、かつパートナーの尊厳を傷つけることなく伝えなくてはならない。また時として、パートナーとの意見の相違を克服することも必要である。本講義では、コンフリクトを含む具体的ないくつかのビジネスシーンを取りあげ、国際的ビジネス環境における共通言語である英語により、ビジネスパートナーと円滑にコミュニケーションを取るための会話スキル、英語によるビジネス文書作成スキルを学ぶ。	
	異分野理解		この科目は価値創造プロジェクト終了後に受講する科目である。「異分野理解」としてインターンシップ、留学、他研究室参加（学内留学）など、主指導教員の研究室とは異なる環境における指導、コミュニケーションを通して、様々な考え方、多様な環境・状況に応じたコミュニケーション能力を育成し、自主的な研究能力の養成を図る。実施中は、定期的に研究指導委員会（主指導教員・副指導教員のいずれか）と面談などを行い、進行状況や支援を行う。	分担
	X-informatics概論		センサや計測機器の飛躍的な発展に伴い、膨大な情報量を取得できるようになり、それらを活用したデータサイエンス研究が主流となってきた。様々な分野で産出された情報を対象としたデータサイエンス研究を総称して「X-Informatics」と呼ばれている。例えば、生物学分野と融合したバイオインフォマティクスや天文学分野と融合したアストロインフォマティクスなどが挙げられる。本講義では、情報学との融合分野、および、データサイエンス分野の最新トピックスを複数教員のオムニバス形式で解説する。 （オムニバス方式／全16回） （4 阿部 貴志／2回） 生物分野でのデータの利活用の現状と今後、生物分野でのデータサイエンス研究の現状と今後について解説する。 （233 高下 大貴／2回） 化学分野でのデータの利活用の現状と今後、化学分野でのデータサイエンス研究の現状と今後について解説する。 （97 飯田 佑輔／2回） 天文学分野でのデータの利活用の現状と今後、天文学分野でのデータサイエンス研究の現状と今後について解説する。 （218 金子 岳史／2回） 計算流体物理学分野でのデータの利活用の現状と今後、計算流体物理学分野でのデータサイエンス研究の現状と今後について解説する。 （91 山田 寛喜／2回） リモートセンシング分野でのデータの利活用の現状と今後、リモートセンシング分野でのデータサイエンス研究の現状と今後について解説する。 （106 今村 孝／2回） 知能機械学分野でのデータの利活用の現状と今後、知能機械学分野でのデータサイエンス研究の現状と今後について解説する。 （205 宮北 和之／2回） ネットワーク・セキュリティ分野でのデータの利活用の現状と今後、及びデータサイエンス研究の現状と今後について解説する。 （180 西海 望／2回） 動物行動学分野でのデータの利活用の現状と今後、及びデータサイエンス研究の現状と今後について解説する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	情報社会工学概論		情報技術によるさまざまな社会課題の解決のためには、個々の情報技術に関する深い専門的な理解とともに、当該技術の社会実装について幅広い知見を持つことが重要である。このような趣旨に立って、本講義では、複数の教員によるオムニバス形式の講義により、情報分野のいくつかのトピックスについて概説する。特に、当該技術の歴史的経緯や近年の技術動向、実社会での応用事例やその課題、当該分野の応用可能性や社会実装に向けての課題、当該分野の社会的・科学的な意義について、幅広く議論する。 （オムニバス方式／全16回） (1 青戸 等人／2回) プログラム意味論の基礎およびプログラム理論分野の技術動向と応用について概説する。 (53 中野 敬介／2回) 様々なネットワーク・制御・設計の概要および社会課題解決のためのネットワーク問題について概説する。 (35 佐藤 亮一／2回) 電磁波工学の基礎およびリモートセンシング等における最新動向について概説する。 (99 石井 望／2回) アンテナの基本特性と応用およびその設計と電磁環境対策について概説する。 (112 上野 雄大／2回) コンパイラ構成法の基礎およびプログラミング言語開発の最新動向について概説する。 (245 萩原 威志／2回) インターネットの基礎およびウェブアプリケーションの最新動向について概説する。 (253 YU JUN／2回) 深層学習の基礎とその応用および深層学習の最新動向について概説する。 (140 齋藤 裕／2回) 自然言語処理の基礎および自然言語処理技術の応用について概説する。	オムニバス方式
	カーボンニュートラル融合科学演習Ⅰ-J		本演習では、カーボンニュートラル科学の課題研究に関わる実験を行う。以下の二点を到達目標とする。1) 各研究テーマに関連する実験等を遂行できる。2) 定められた期間内にレポートとしてまとめることができる。	
	カーボンニュートラル融合科学演習Ⅱ-J		カーボンニュートラル科学に関わる文献を詳読することを通し、自ら文献等を調べ、知識を深める能力を養う。本科目を履修することにより、修士論文研究に必要な知識を系統的に得ることもできるとともに、最新の研究動向を把握できる。各研究テーマに関連する研究分野の国内外の文献に書かれた内容を理解できることを到達目標とする。	
	カーボンニュートラル融合科学演習Ⅲ-J		本演習では、カーボンニュートラル科学の課題研究に関わる実験に加え、研究室4年生などの学部学生の実験・演習等の科目に対する指導補助を行うことで、指導者の立場を体験し、技術者や研究者に必要なコミュニケーション能力や指導力を習得する。以下の三点を到達目標とする。1) 各研究テーマに関連する実験等を遂行できる。2) 実験等の指導補助を適切に遂行できる。3) 定められた期間内にレポートとしてまとめることができる。	
	カーボンニュートラル融合科学演習Ⅳ-J		カーボンニュートラル科学に関わる文献を詳読することを通し、自ら文献等を調べ、知識を深める能力を養う。本科目を履修することにより、修士論文研究に必要な知識を系統的に得ることもできるとともに、最新の研究動向を把握できる。各研究テーマに関連する技術内容を日本語および英語で表現できることを到達目標とする。	
	研究発表演習（中間発表）		本演習では、修士学位申請に関わるカーボンニュートラル科学分野の研究課題について調査・分析を行い、プレゼンテーション形式で報告する。このための研究成果の整理、プレゼンテーション技術の習得を行い、該当専門分野の知識を身につける。これまでの研究成果を整理し、修士学位申請論文の作成に必要な以下の四点の能力を身につけることを到達目標とする。1) 該当専門分野に関する情報を収集、2) 研究倫理の学習、3) プレゼンテーション技術の習得、4) 適切な質疑応答	
	研究発表演習（学外発表）		本演習では、研究成果を国内外の学会等で発表し、社会に対して研究成果を還元するとともに、国内外の専門家との質疑を通し研究を発展させる。このため、研究の取りまとめ、プレゼンテーション技術を習得し、該当専門分野の知識を身につける。以下の二点を到達目標とする。1) 研究成果を自身で取りまとめ、習得したプレゼンテーション技術を駆使して国内外の学会等において研究成果を発表できること。2) 国内外の専門家との質疑を十分に行うための能力を身につけること。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目 群	カーボンニュートラル科学概論		カーボンニュートラルに関する研究や開発をすすめる研究者・技術者には、幅広い関連技術の概要を基礎知識として知っておく必要がある。本講義では、カーボンニュートラルに関する幅広い分野、すなわち、地球温暖化とエネルギー資源の問題、再生可能エネルギー政策、二酸化炭素の貯蔵・利用（CCS及びCCU）、石炭利用、熱発電、燃料電池、太陽光発電、風力、超電導、水電解、太陽熱利用、蓄熱などの基礎的な知識（原理、応用・開発状況）を概説する。 （オムニバス方式／全15回） （26 兒玉 竜也／6回） 地球温暖化とエネルギー資源の問題、再生可能エネルギー政策、二酸化炭素の貯蔵・利用、石炭利用、燃料電池、太陽熱による燃料製造について講義する。 （73 増田 淳／3回） 太陽子発電について講義する。 （67 福井 聡／2回） 風力、超電導について講義する。 （76 松原 幸治／1回） 太陽光熱発電について講義する。 （83 八木 政行／1回） 水電解について講義する。 （193 BELLAN SELVAN／2回） 熱発電、蓄熱について講義する。	オムニバス方式 隔年
	フィールド科学演習Ⅰ（理）		修士論文の内容にかかわる国内外の先行研究を調べ、課題や研究手法、研究分野の最新の知見や動向をまとめ、ゼミで発表する。先行研究のレビューを資料にまとめて発表することで、フィールドサイエンティストとして必要な課題を認識できる能力を養う。また、多様なメンバーに向けて発表・幅広く議論することでプレゼンテーション能力を身につける。	
	フィールド科学演習Ⅱ（理）		フィールド科学演習Ⅰ（理）から見出した課題を解決するために必要な調査・実験方法の計画を立案する。立案した内容を資料にまとめて発表することで、フィールドサイエンティストとして必要な研究計画を立案できる能力を養う。また、多様なメンバーに向けて発表・幅広く議論することでプレゼンテーション能力を高める。	
	フィールド科学演習Ⅲ（理）		フィールド科学演習Ⅱ（理）で検討した課題を解決するための調査や実験を実施する。得られたデータの分析と考察を行い、研究成果を資料にまとめて発表することで、フィールドサイエンティストとして必要な研究成果をまとめ議論できる能力を養う。また、多様なメンバーに向けて発表・幅広く議論することでプレゼンテーション能力をさらに高める。	
	フィールド科学演習Ⅳ（理）		フィールド科学演習Ⅲ（理）によって得られたデータの分析と考察をおこない、研究成果を資料にまとめて発表することで、課題の設定から問題解決、研究成果の議論に至るプロセスを実施できるフィールドサイエンティストとして必要な能力を養う。また、多様なメンバーに向けて発表・幅広く議論することでプレゼンテーション能力を最大限に高める。これらの研究活動を通して、自立したフィールドサイエンティストとしての素養を身につける。	
	フィールド科学演習Ⅰ（農）		修士論文の内容にかかわる国内外の先行研究を調べ、課題や研究手法、研究分野の最新の知見や動向をまとめ、ゼミで発表する。先行研究のレビューを資料にまとめて発表することで、フィールドサイエンティストとして必要な課題を認識できる能力を養う。また、多様なメンバーに向けて発表・幅広く議論することでプレゼンテーション能力を身につける。	
	フィールド科学演習Ⅱ（農）		フィールド科学演習Ⅰ（農）から見出した課題を解決するために必要な調査・実験方法の計画を立案する。立案した内容を資料にまとめて発表することで、フィールドサイエンティストとして必要な研究計画を立案できる能力を養う。また、多様なメンバーに向けて発表・幅広く議論することでプレゼンテーション能力を高める。	
	フィールド科学演習Ⅲ（農）		フィールド科学演習Ⅱ（農）で検討した課題を解決するための調査や実験を実施する。得られたデータの分析と考察を行い、研究成果を資料にまとめて発表することで、フィールドサイエンティストとして必要な研究成果をまとめ議論できる能力を養う。また、多様なメンバーに向けて発表・幅広く議論することでプレゼンテーション能力をさらに高める。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目 群	フィールド科学演習 Ⅳ（農）		フィールド科学演習Ⅲ（農）によって得られたデータの分析と考察をおこない、研究成果を資料にまとめて発表することで、課題の設定から問題解決、研究成果の議論に至るプロセスを実施できるフィールドサイエンティストとして必要な能力を養う。また、多様なメンバーに向けて発表・幅広く議論することでプレゼンテーション能力を最大限に高める。これらの研究活動を通して、自立したフィールドサイエンティストとしての素養を身につける。	
	研究発表演習（中間発表）		フィールド科学プログラム向け科目である「課題研究Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ」を進めるにあたり、1年間で取り組んだ現地調査やデータ解析などの研究成果を取りまとめ、進捗状況と今後の計画等についてプレゼンテーション形式で報告する。中間発表前に研究成果をまとめた要旨を作成して提出する。関連分野の教員等との質疑討論、中間発表資料の作成を通して得られた課題、研究成果の評価を次年度の研究計画に反映させ、研究の向上を目指す。	
	研究発表演習（学外発表）		フィールド科学プログラム向け科目である「課題研究Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ」を進めるにあたり、国内外の学会発表で口頭発表あるいはポスター発表に挑戦し、自身の研究成果に対する議論を学外の研究者を交えておこなう。学会発表の申し込みの際に研究成果をまとめた要旨を作成して提出する。学外の関連分野の研究者等との質疑討論、発表資料の作成を通して得られた課題、研究成果の評価を今後の研究計画に反映させ、研究の向上を目指す。	
	フィールド科学特論		我々を取り巻く自然は、多くの要素が幾多のプロセスによって絡み合う複雑世界である。これらを紐解き科学的に理解するためには、多角的な視点のみならず、多岐にわたる手法・技術の習得・習熟およびそれらを統合するための行動力・判断力・忍耐力が不可欠である。そのために本科目では、実フィールドでの調査実習を通して、新潟大学大学院フィールド科学プログラムで展開されている研究手法・技術を取得し、フィールドサイエンティストとしての能力を高めることを目指す。 （オムニバス方式／全15回） (183 野口 里奈／0.5回) 惑星火山学に関する講義・実習を行う (28 権田 豊／0.5回) 砂防に関する講義・実習を行う (58 奈良間 千之／0.5回) 山岳環境に関する講義・実習を行う (184 則末 和宏／0.5回) 海洋地球化学に関する講義・実習を行う (71 本田 明治／0.5回) 大気海洋システムに関する講義・実習を行う (75 松岡 史郎／0.5回) 環境分析化学に関する講義・実習を行う (11 ト部 厚志／0.5回) 地質・地盤災害に関する講義・実習を行う (18 河島 克久／0.5回) 雪氷学に関する講義・実習を行う (211 安田 浩保／0.5回) 河川工学に関する講義・実習を行う (215 渡部 直喜／0.5回) 水文地質学に関する講義・実習を行う (109 WHITAKER ANDREW／0.5回) 流域水文学に関する講義・実習を行う (20 北村 繁／0.5回) 火山防災に関する講義・実習を行う (239 高橋 直也／0.5回) 大気海洋システムに関する講義・実習を行う (42 関島 恒夫／0.5回) 野生動物生態学に関する講義・実習を行う (158 高津 邦夫／0.5回) 生物多様性・生態系復元に関する講義・実習を行う (52 豊田 光世／0.5回) 環境社会システムに関する講義・実習を行う (197 本間 航介／0.5回) 野生植物生態学に関する講義・実習を行う (96 阿部 晴恵／0.5回) 島嶼生態学に関する講義・実習を行う (101 石崎 智美／0.5回) 植物生態学に関する講義・実習を行う (5 安東 宏徳／0.5回) 海洋生物学に関する講義・実習を行う (229 大森 紹仁／0.5回) 海洋動物自然史学に関する講義・実習を行う (80 宮崎 勝己／0.5回) 無脊椎動物学、比較形態学に関する講義・実習を行う	オムニバス方式 講義10時間 実習20時間

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	フィールド科学特論		(317 村山 敏夫／0.5回) 応用健康科学などに関する講義・実習を行う (210 森口 喜成／0.5回) 森林遺伝育種学に関する講義・実習を行う (92 吉川 夏樹／0.5回) 農業水利学に関する講義・実習を行う (81 村上 拓彦／0.5回) 地理空間情報学に関する講義・実習を行う (21 工藤 起来／0.5回) 昆虫生態学、行動生態学に関する講義・実習を行う (146 志賀 隆／0.5回) 植物系統分類学、保全生物学に関する講義・実習を行う (238 柴田 嶺／0.5回) 森林生態学に関する講義・実習を行う (314 前田 洋介／0.5回) 人文地理学に関する講義・実習を行う	
	地球惑星科学特論		科目の概要／Course Outline 地球温暖化や気候変動などがもたらす地球規模課題が様々な形で我々の身近な生活にも影響を与える中、将来の状況を予測する上でも現在の地球の状態を知ることが重要である。これには、人工衛星（地球観測衛星）による地球全体や詳細な観測が有効な手段である。本講義では、地球観測衛星に代表されるような広域かつ詳細に観測する「リモートセンシング」と呼ばれる技術と応用利用について学ぶ。これらは「持続可能な開発目標」（SDGs）とも親和性が高い。	
	自然共生科学特論		現代社会の環境を理解するためには、自然システムに着目するのにとどまらず、自然環境に与える影響がますます増大している人間活動に着目することが必要となっている。また、急速に変動する自然環境が人間活動に対してどのように影響を与えるかといった、自然科学と人文・社会科学の境界領域の探求が求められている。講義では、アフリカ乾燥地における放牧活動と砂漠化の関わりや、日本の山間地域におけるトチノキの立地環境と人の利用等を事例として、自然環境に人間活動が与える影響について様々な事例をもとに学際的な視点から考察する。	
ひと脳・健康科学プログラム専門科目群	ひと脳・健康科学実習		この実習では、脳神経科学と健康科学を融合した視点を基盤に、実践的な研究体験を提供する。脳の健康と疾患に関する知識を深め、先端技術を用いた実験手法を習得し、理論と実践を結びつける力を養う。基礎的なスキルの習得、課題解決能力の育成、多領域的な視点の醸成、倫理的・社会的視点の涵養を目指し、研究室での実験を通じて各分野を学ぶ。具体的には、神経回路解析やシナプス可塑性の評価、動物モデルを用いた脳疾患研究、生理学的データ解析、AIを活用した健康データの予測や診断、MRI解析やウェアラブルデバイスによるデータ収集などを行う。これにより、多角的な研究能力と社会への応用力を高めることを目指す。	
	研究発表演習（内部）		この科目は、プログラム参加者が自身の研究進捗や課題を中間発表し、フィードバックを受ける演習である。プレゼンテーションや議論を通じて研究の整理や検討を行い、発表スキルや科学的思考力を磨くとともに、他分野の視点を取り入れることで研究の質を向上させることを目的とする。参加者は自身の研究内容や進捗をスライドやポスターで整理し、リハーサルを通じて発表を準備する。中間発表会では15～20分のプレゼンテーションを行い、質疑応答を通じて議論を深める。その後、受けたフィードバックを基に研究計画の見直しや改善を図る。これにより、研究を論理的に構築する力、発表スキル、批判的思考力、領域間での相互理解が深まることを目指す。	
	研究発表演習（外部）		この科目は、脳研究所主催の公開セミナーである脳研セミナーで研究発表を行うことで、発信力や議論力を高めることを目的とする。発表準備から本番までを通じて、研究内容を整理し、わかりやすく伝える力を養うとともに、他分野の視点を取り入れて研究の質を向上させる。発表では15～20分のプレゼンテーションを行い、専門家や多様な聴衆との質疑応答を通じて柔軟な思考や議論力を育む。準段階では模擬発表やフィードバックを重ね、聴衆に合わせた資料を作成する。セミナー後には意見や提案を基に研究課題を再検討し、改善案を立案する。これにより、研究発信の実践力や多角的な視点を備えた研究者としての成長を目指す。	
	ひと脳・健康科学演習		この科目は、学生が脳神経科学や健康科学に関連する最先端の研究文献を紹介し、議論を通じて批判的思考力や科学的理解を深めることを目的とする。学生は選定した文献について、背景、目的、方法、結果、結論を整理し、資料を作成して発表する。発表後は参加者全員で研究の意義や限界を議論し、講師や他の学生からのフィードバックを通じて新たな視点を得る。これにより、文献を正確に読み解く力、内容をわかりやすく伝える力、そして研究を多角的に分析する能力を養う。また、他分野の研究やアプローチに触れることで、広い視野を持った理解を促進する。学生同士の知識共有や議論を通じて、学際的な視点や科学的コミュニケーション能力を高め、研究者としての基盤を築くことを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
プログラム専門科目群	先端ひと脳・健康科学セミナー1		この科目は、脳研究所主催の公開セミナーである脳研セミナーに参加し、最新の研究知見に触れるとともに、積極的な議論を通じて科学的視野と対話力を高めることを目的とする。セミナーでは最先端の研究トピックを学び、講演後の質疑応答で積極的に質問や意見を交わす姿勢が求められる。受講者は、事前に発表内容や背景を調べ、効果的な質問を準備する。セミナー後は内容の振り返りや議論で得た学びをまとめ、研究への活用を考察するレポートを作成する。これにより、最新知識の習得、批判的思考力の向上、科学的対話スキルの強化が図られる。研究者として主体的に学び、交流する姿勢を養い、広い視野で科学を理解する力を育むことを目指す。	
	先端ひと脳・健康科学セミナー2		この科目は、脳研究所が主催する国際シンポジウムに参加し、脳や医学研究をテーマとする海外および国内の最先端研究者と交流することで、国際的な視野と科学的対話力を養う。参加者は事前に発表論文や関連資料を学習し、シンポジウム内容を深く理解する準備を行う。講演では最新の研究知見に触れ、質疑応答では積極的に質問や意見を述べる姿勢が求められる。終了後は発表内容や議論の振り返りを通じて、得られた学びをレポートにまとめ、自身の研究やキャリア形成への活用を考察する。この科目を通じて、国際的な研究知識の習得、批判的思考力の向上、国際的な議論への参加能力を高めるとともに、国内外の研究者とのネットワークを構築し、研究者としての主体性と視野を広げることを目指す。	
課題研究	課題研究Ⅰ-C（物質宇宙基礎科学）		物質創成・基礎科学プログラムの物質宇宙基礎科学（物理学）を教える各指導教員の指導の下、修士課程1年次1年前期の研究活動を行う。高度汎用的職業人もしくは研究者となるために、各専門分野の高度な知識と研究背景を理解する能力を身につけ、研究活動を行う。各指導教員は、研究室、もしくはそれぞれの学生に対して目標を設定し、学生は各専門分野にふさわしい知識と研究背景を理解し、研究活動を通して各専門分野における課題解決能力を身につける。 （2 浅賀 岳彦） 素粒子物理および初期宇宙物理の理論を研究課題とし、素粒子ニュートリノの質量起源を説明する新しい素粒子理論の構築、理論予言の実験的検証、そして宇宙暗黒物質やバリオン数非対称性の問題解決に関する研究指導を行う。 （13 大野 義章） 固体電子論を研究課題とし、第一原理計算を用いた超伝導や励起相などに関する研究指導を行う。 （43 摂待 力生） 強相関電子系物質の新物質探索を研究課題とし、結晶育成法や物性実験に関する研究指導を行う。 （44 副島 浩一） #軌道放射光を使った極低温表面吸着分子の光化学反応を研究課題とし、星間空間における宇宙塵アモルファス氷上での分子進化過程の解明に関する研究指導を行う。 （64 早坂 圭司） 素粒子実験物理学における技術開発を研究課題とし、素粒子実験で必要とされる検出器の開発研究、及びそれらの応用研究に関する研究指導を行う。 （93 吉森 明） 化学物理を研究課題とし、液体、溶液、あるいはそれらの研究を生命現象に応用した理論に関する研究指導を行う。 （100 石川 文洋） 物性物理学を研究課題として、高温超伝導体の高圧下における物性に関する研究指導を行う。 （114 江尻 信司） 素粒子物理学を研究課題とし、大規模数値シミュレーションによる高温高密度での量子色力学に関する研究指導を行う。 （120 大坪 隆） 原子核物理学の実験研究を研究課題とし、原子核物理研究及び関連する放射線検出技術開発や実験装置技術開発に関する研究指導を行う。 （122 大村 彩子） 高圧力を用いた実験研究（輸送特性・結晶構造解析）による高圧固体物性を研究課題として、主に超伝導物性に関する圧力効果や圧力誘起による相転移の実験研究および論文執筆に関する研究指導をおこなう。 （148 下西 隆） 赤外線・電波望遠鏡を用いた星間分子の天文観測を研究課題とし、宇宙における物質の化学進化に関する研究指導を行う。 （175 中野 博章） 素粒子の標準模型およびそれを超えるモデルの構築、超対称大統一理論、余剰次元模型に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅰ-C（物質宇宙基礎科学）		(178 西 亮一) 星形成における物理過程を研究課題とし、恒星形成の母体である星間分子雲での基礎物理過程および星形成過程とそのフィードバック効果を含めた集団的星形成過程に関する研究指導を行う。 (182 根本 祐一) 強相関電子系に関わる物性物理学を研究課題とし、超音波を用いた磁性や超伝導に関する研究指導を行う。 (223 赤津 光洋) 強相関電子系の物理を研究課題とし、超音波計測をもちいて磁性や超伝導に関する研究指導を行う。 (231 金田 邦雄) 素粒子物理と宇宙物理における諸問題を研究課題とし、初期宇宙および素粒子標準模型を超える物理に関する研究指導を行う。 (235 小山 翔子) ブラックホール天文学を研究課題とし、電波干渉計観測に基づく宇宙における高エネルギー現象の観測・画像化・解明に関する研究指導を行う。 (237 佐藤 優太郎) 高エネルギー物理学を研究課題とし、ミューオンを用いた新物理探索実験に関する研究指導を行う。 (196 本郷 優) 素粒子・原子核理論・物性理論を研究課題とし、場の理論の手法を用いた多体系の性質に関する研究指導を行う。 (252 遊佐 洋右) 高エネルギー物理学を研究課題とし、加速器を用いた実験とそこで用いられる機器の応用に関する研究指導を行う。 (255 渡辺 一也) 相対論的宇宙物理学を課題研究とし、一般相対論と宇宙物理学に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅱ-C（物質宇宙基礎科学）		物質創成・基礎科学プログラムの物質宇宙基礎科学（物理学）を教える各指導教員の指導の下、修士課程1年次後期の研究活動を行う。高度汎用的職業人もしくは研究者となるために、各専門分野の高度な知識と研究背景を理解する能力を身につけ、研究活動を行う。各指導教員は、研究室、もしくはそれぞれの学生に対して目標を設定し、学生は各専門分野にふさわしい知識と研究背景を理解し、研究活動を通して各専門分野における課題解決能力を身につける。 (2 浅賀 岳彦) 素粒子物理および初期宇宙物理の理論を研究課題とし、素粒子ニュートリノの質量起源を説明する新しい素粒子理論の構築、理論予言の実験的検証、そして宇宙暗黒物質やバリオン数非対称性の問題解決に関する研究指導を行う。 (13 大野 義章) 固体電子論を研究課題とし、第一原理計算を用いた超伝導や励起相などに関する研究指導を行う。 (43 摂待 力生) 強相関電子系物質の新物質探索を研究課題とし、結晶育成法や物性実験に関する研究指導を行う。 (44 副島 浩一) #軌道放射光を使った極低温表面吸着分子の光化学反応を研究課題とし、星間空間における宇宙塵アモルファス氷上での分子進化過程の解明に関する研究指導を行う。 (64 早坂 圭司) 素粒子実験物理学における技術開発を研究課題とし、素粒子実験で必要とされる検出器の開発研究、及びそれらの応用研究に関する研究指導を行う。 (93 吉森 明) 化学物理を研究課題とし、液体、溶液、あるいはそれらの研究を生命現象に応用した理論に関する研究指導を行う。 (100 石川 文洋) 物性物理学を研究課題として、高温超伝導体の高圧下における物性に関する研究指導を行う。 (114 江尻 信司) 素粒子物理学を研究課題とし、大規模数値シミュレーションによる高温高密度での量子色力学に関する研究指導を行う。 (120 大坪 隆) 原子核物理学の実験研究を研究課題とし、原子核物理研究及び関連する放射線検出技術開発や実験装置技術開発に関する研究指導を行う。 (122 大村 彩子) 高圧力を用いた実験研究（輸送特性・結晶構造解析）による高圧固体物性を研究課題として、主に超伝導物性に関する圧力効果や圧力誘起による相転移の実験研究および論文執筆に関する研究指導をおこなう。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅱ-C（物質 宇宙基礎科学）		（148 下西 隆） 赤外線・電波望遠鏡を用いた星間分子の天文観測を研究課題とし、宇宙における物質の化学進化に関する研究指導を行う。 （175 中野 博章） 素粒子の標準模型およびそれを超える模型の構築、超対称大統一理論、余剰次元模型に関する研究指導を行う。 （178 西 亮一） 星形成における物理過程を研究課題とし、恒星形成の母体である星間分子雲での基礎物理過程および星形成過程とそのフィードバック効果を含めた集团的星形成過程に関する研究指導を行う。 （182 根本 祐一） 強相関電子系に関わる物性物理学を研究課題とし、超音波を用いた磁性や超伝導に関する研究指導を行う。 （223 赤津 光洋） 強相関電子系の物理を研究課題とし、超音波計測をもちいて磁性や超伝導に関する研究指導を行う。 （231 金田 邦雄） 素粒子物理と宇宙物理における諸問題を研究課題とし、初期宇宙および素粒子標準模型を超える物理に関する研究指導を行う。 （235 小山 翔子） ブラックホール天文学を研究課題とし、電波干渉計観測に基づく宇宙における高エネルギー現象の観測・画像化・解明に関する研究指導を行う。 （237 佐藤 優太郎） 高エネルギー物理学を研究課題とし、ミューオンを用いた新物理探索実験に関する研究指導を行う。 （196 本郷 優） 素粒子・原子核理論・物性理論を研究課題とし、場の理論の手法を用いた多体系の性質に関する研究指導を行う。 （252 遊佐 洋右） 高エネルギー物理学を研究課題とし、加速器を用いた実験とそこで用いられる機器の応用に関する研究指導を行う。 （255 渡辺 一也） 相対論的宇宙物理学を課題研究とし、一般相対論と宇宙物理学に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅲ-C（物質 宇宙基礎科学）		物質創成・基礎科学プログラムの物質宇宙基礎科学（物理学）を教える各指導教員の指導の下、修士課程2年次前期の研究活動を行う。高度汎用的職業人もしくは研究者となるために、各専門分野の高度な知識と研究背景を理解する能力を身につけ、研究活動を行う。各指導教員は、研究室、もしくはそれぞれの学生に対して目標を設定し、学生は各専門分野にふさわしい知識と研究背景を理解し、研究活動を通して各専門分野における課題解決能力を身につける。 （2 浅賀 岳彦） 素粒子物理および初期宇宙物理の理論を研究課題とし、素粒子ニュートリノの質量起源を説明する新しい素粒子理論の構築、理論予言の実験的検証、そして宇宙暗黒物質やバリオン数非対称性の問題解決に関する研究指導を行う。 （13 大野 義章） 固体電子論を研究課題とし、第一原理計算を用いた超伝導や励起相などに関する研究指導を行う。 （43 摂待 力生） 強相関電子系物質の新物質探索を研究課題とし、結晶育成法や物性実験に関する研究指導を行う。 （44 副島 浩一） #軌道放射光を使った極低温表面吸着分子の光化学反応を研究課題とし、星間空間における宇宙塵アモルファス氷上での分子進化過程の解明に関する研究指導を行う。 （64 早坂 圭司） 素粒子実験物理学における技術開発を研究課題とし、素粒子実験で必要とされる検出器の開発研究、及びそれらの応用研究に関する研究指導を行う。 （93 吉森 明） 化学物理を研究課題とし、液体、溶液、あるいはそれらの研究を生命現象に応用した理論に関する研究指導を行う。 （100 石川 文洋） 物性物理学を研究課題として、高温超伝導体の高圧下における物性に関する研究指導を行う。 （114 江尻 信司） 素粒子物理学を研究課題とし、大規模数値シミュレーションによる高温高密度での量子色力学に関する研究指導を行う。 （120 大坪 隆） 原子核物理学の実験研究を研究課題とし、原子核物理研究及び関連する放射線検出技術開発や実験装置技術開発に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅲ-C（物質宇宙基礎科学）		(122 大村 彩子) 高圧力を用いた実験研究（輸送特性・結晶構造解析）による高圧固体物性を研究課題として、主に超伝導物性に関する圧力効果や圧力誘起による相転移の実験研究および論文執筆に関する研究指導をおこなう。 (148 下西 隆) 赤外線・電波望遠鏡を用いた星間分子の天文観測を研究課題とし、宇宙における物質の化学進化に関する研究指導を行う。 (175 中野 博章) 素粒子の標準模型およびそれを超える模型の構築、超対称大統一理論、余剰次元模型に関する研究指導を行う。 (178 西 亮一) 星形成における物理過程を研究課題とし、恒星形成の母体である星間分子雲での基礎物理過程および星形成過程とそのフィードバック効果を含めた集団的星形成過程に関する研究指導を行う。 (182 根本 祐一) 強相関電子系に関わる物性物理学を研究課題とし、超音波を用いた磁性や超伝導に関する研究指導を行う。 (223 赤津 光洋) 強相関電子系の物理を研究課題とし、超音波計測をもちいて磁性や超伝導に関する研究指導を行う。 (231 金田 邦雄) 素粒子物理と宇宙物理における諸問題を研究課題とし、初期宇宙および素粒子標準模型を超える物理に関する研究指導を行う。 (235 小山 翔子) ブラックホール天文学を研究課題とし、電波干渉計観測に基づく宇宙における高エネルギー現象の観測・画像化・解明に関する研究指導を行う。 (237 佐藤 優太郎) 高エネルギー物理学を研究課題とし、ミューオンを用いた新物理探索実験に関する研究指導を行う。 (196 本郷 優) 素粒子・原子核理論・物性理論を研究課題とし、場の理論の手法を用いた多体系の性質に関する研究指導を行う。 (252 遊佐 洋右) 高エネルギー物理学を研究課題とし、加速器を用いた実験とそこで用いられる機器の応用に関する研究指導を行う。 (255 渡辺 一也) 相対論的宇宙物理学を課題研究とし、一般相対論と宇宙物理学に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅳ-C（物質宇宙基礎科学）		物質創成・基礎科学プログラムの物質宇宙基礎科学（物理学）を教える各指導教員の指導の下、修士課程2年次後期の研究活動を行う。高度汎用的職業人もしくは研究者となるために、各専門分野の高度な知識と研究背景を理解する能力を身につけ、研究活動を行う。各指導教員は、研究室、もしくはそれぞれの学生に対して目標を設定し、学生は各専門分野にふさわしい知識と研究背景を理解し、研究活動を通して各専門分野における課題解決能力を身につける。 (2 浅賀 岳彦) 素粒子物理および初期宇宙物理の理論を研究課題とし、素粒子ニュートリノの質量起源を説明する新しい素粒子理論の構築、理論予言の実験的検証、そして宇宙暗黒物質やバリオン数非対称性の問題解決に関する研究指導を行う。 (13 大野 義章) 固体電子論を研究課題とし、第一原理計算を用いた超伝導や励起相などに関する研究指導を行う。 (43 撰待 力生) 強相関電子系物質の新物質探索を研究課題とし、結晶育成法や物性実験に関する研究指導を行う。 (44 副島 浩一) #軌道放射光を使った極低温表面吸着分子の光化学反応を研究課題とし、星間空間における宇宙塵アモルファス氷上での分子進化過程の解明に関する研究指導を行う。 (64 早坂 圭司) 素粒子実験物理学における技術開発を研究課題とし、素粒子実験で必要とされる検出器の開発研究、及びそれらの応用研究に関する研究指導を行う。 (93 吉森 明) 化学物理を研究課題とし、液体、溶液、あるいはそれらの研究を生命現象に応用した理論に関する研究指導を行う。 (100 石川 文洋) 物性物理学を研究課題として、高温超伝導体の高圧下における物性に関する研究指導を行う。 (114 江尻 信司) 素粒子物理学を研究課題とし、大規模数値シミュレーションによる高温高密度での量子色力学に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅳ-C（物質 宇宙基礎科学）		（120 大坪 隆） 原子核物理学の実験研究を研究課題とし、原子核物理研究及び関連する放射線検出技術開発や実験装置技術開発に関する研究指導を行う。 （122 大村 彩子） 高圧力を用いた実験研究（輸送特性・結晶構造解析）による高圧固体物性を研究課題として、主に超伝導物性に関する圧力効果や圧力誘起による相転移の実験研究および論文執筆に関する研究指導をおこなう。 （148 下西 隆） 赤外線・電波望遠鏡を用いた星間分子の天文観測を研究課題とし、宇宙における物質の化学進化に関する研究指導を行う。 （175 中野 博章） 素粒子の標準模型およびそれを超える模型の構築、超対称大統一理論、余剰次元模型に関する研究指導を行う。 （178 西 亮一） 星形成における物理過程を研究課題とし、恒星形成の母体である星間分子雲での基礎物理過程および星形成過程とそのフィードバック効果を含めた集団的星形成過程に関する研究指導を行う。 （182 根本 祐一） 強相関電子系に関わる物性物理学を研究課題とし、超音波を用いた磁性や超伝導に関する研究指導を行う。 （223 赤津 光洋） 強相関電子系の物理を研究課題とし、超音波計測をもちいて磁性や超伝導に関する研究指導を行う。 （231 金田 邦雄） 素粒子物理と宇宙物理における諸問題を研究課題とし、初期宇宙および素粒子標準模型を超える物理に関する研究指導を行う。 （235 小山 翔子） ブラックホール天文学を研究課題とし、電波干渉計観測に基づく宇宙における高エネルギー現象の観測・画像化・解明に関する研究指導を行う。 （237 佐藤 優太郎） 高エネルギー物理学を研究課題とし、ミューオンを用いた新物理探索実験に関する研究指導を行う。 （196 本郷 優） 素粒子・原子核理論・物性理論を研究課題とし、場の理論の手法を用いた多体系の性質に関する研究指導を行う。 （252 遊佐 洋右） 高エネルギー物理学を研究課題とし、加速器を用いた実験とそこで用いられる機器の応用に関する研究指導を行う。 （255 渡辺 一也） 相対論的宇宙物理学を課題研究とし、一般相対論と宇宙物理学に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅰ-C（数理学）		課題研究Ⅰ-C（数理学）では、各指導教員の指導の下、数理学の諸分野、特に代数学、幾何学、解析学、応用数学の課題研究を行う。ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・到達目標）における人材育成の目標に沿って、本プログラムで定める「知識・理解」「当該分野固有の能力」「汎用的な能力」「態度・姿勢」の資質・能力を修得することを目指す： ・数理学、物理・宇宙科学、化学分野などの専門的知識を修得している。 ・数理学、物理・宇宙科学、化学分野の基礎科学から技術開発までの幅広い対象から研究課題を主体的に設定し、その解明に向けた研究計画を立案、実施、評価することができる。 ・高度な言語（英語を含む）スキルを駆使し、専門的かつ多様な文脈で効果的に情報を伝達できる。 ・科学技術の進展に寄与するための倫理観を備えている。など （41 鈴木 有祐） 位相幾何学的グラフ理論を研究課題とし、閉曲面上のグラフの様々な性質に関する研究指導を行う。 （25 小島 秀雄） 「課題研究」では、学生の希望に応じて、可換環論あるいは代数幾何学を研究課題とする。可換環論では多項式環の部分代数や自己同型に関する研究指導を行う。代数幾何学では代数曲線論や代数曲面論に関する研究指導を行う。 （69 星 明考） 代数学を研究課題とし、数論・代数幾何・計算数学に関する研究指導を行う。 （79 三浦 毅） 関数環理論および可換Banach環理論を研究課題とし、その基礎理論に関する研究指導を行う。 （89 山田 修司） 非線形計画法を研究課題とし、制約付き大規模非線形計画問題に対する大域的最適化手法に関する研究指導を行う。 （94 渡邊 恵一） ジャイロベクトル空間の関数解析的研究を研究課題とする。ヒルベルト空間とその間の線型作用素に関する理論のよく知られた部分をモデルとして、ジャイロベクトル空間に関する空間論とその間の写像論に関する研究指導を行う。 （123 應和 宏樹） 偏微分方程式を研究課題とし、保存則方程式の初期値問題の一意可解性に関する研究指導を行う。 （127 折田 龍馬） 多様体や位相空間の分類を研究課題とし、代数的トポロジー、Morse理論、シンプレクティック多様体に関する研究指導を行う。 （191 伏木 忠義） 統計的予測問題や統計的欠測データ解析を研究課題とし、機械学習における統計的予測手法の開発や欠測データの基礎理論に関する研究指導を行う。 （217 伊東 良純） 数論的L関数の超幾何関数論的研究とその応用を研究課題とし、保形形式のL関数の特殊値の超幾何関数表示とBeilinson予想への応用に関する研究指導を行う。 （115 大井 志徳） バナッハ空間やヒルベルト空間上の距離構造や代数構造を保つ写像を研究課題とし、その写像の決定に関する研究指導を行う。 （220 高田 土満） 幾何学を研究課題とし、広い意味でAtiyah-Singerの指数定理に関連した数学（指数理論、幾何解析、K理論、非可換幾何、特性類、Riemann-Rochの定理、Riemann面、楕円型微分方程式）に関する研究指導を行う。 （246 橋詰 健太） 代数幾何学に関する研究を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅱ-C（数理科学）		課題研究Ⅰ-C（数理科学）に引き続き、各指導教員の指導の下、数理科学の諸分野、特に代数学、幾何学、解析学、応用数学の課題研究を行う。ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・到達目標）における人材育成の目標に沿って、本プログラムで定める「知識・理解」「当該分野固有の能力」「汎用的な能力」「態度・姿勢」の資質・能力を修得することを目指す： ・数理科学、物理・宇宙科学、化学分野などの専門的知識を修得している。 ・数理科学、物理・宇宙科学、化学分野の基礎科学から技術開発までの幅広い対象から研究課題を主体的に設定し、その解明に向けた研究計画を立案、実施、評価することができる。 ・高度な言語（英語を含む）スキルを駆使し、専門的かつ多様な文脈で効果的に情報を伝達できる。 ・科学技術の進展に寄与するための倫理観を備えている。など （41 鈴木 有祐） 位相幾何学的グラフ理論を研究課題とし、閉曲面上のグラフの様々な性質に関する研究指導を行う。 （25 小島 秀雄） 「課題研究」では、学生の希望に応じて、可換環論あるいは代数幾何学を研究課題とする。可換環論では多項式環の部分代数や自己同型に関する研究指導を行う。代数幾何学では代数曲線論や代数曲面論に関する研究指導を行う。 （69 星 明考） 代数学を研究課題とし、数論・代数幾何・計算数学に関する研究指導を行う。 （79 三浦 毅） 関数環理論および可換Banach環理論を研究課題とし、その基礎理論に関する研究指導を行う。 （89 山田 修司） 非線形計画法を研究課題とし、制約付き大規模非線形計画問題に対する大域的最適化手法に関する研究指導を行う。 （94 渡邊 恵一） ジャイロベクトル空間の関数解析的研究を研究課題とする。ヒルベルト空間とその間の線型作用素に関する理論のよく知られた部分をモデルとして、ジャイロベクトル空間に関する空間論とその間の写像論に関する研究指導を行う。 （123 應和 宏樹） 偏微分方程式を研究課題とし、保存則方程式の初期値問題の一意可解性に関する研究指導を行う。 （127 折田 龍馬） 多様体や位相空間の分類を研究課題とし、代数的トポロジー、Morse理論、シンプレクティック多様体に関する研究指導を行う。 （191 伏木 忠義） 統計的予測問題や統計的欠測データ解析を研究課題とし、機械学習における統計的予測手法の開発や欠測データの基礎理論に関する研究指導を行う。 （217 伊東 良純） 数論的L関数の超幾何関数論的研究とその応用を研究課題とし、保形形式のL関数の特殊値の超幾何関数表示とBeilinson予想への応用に関する研究指導を行う。 （115 大井 志徳） バナッハ空間やヒルベルト空間上の距離構造や代数構造を保つ写像を研究課題とし、その写像の決定に関する研究指導を行う。 （220 高田 土満） 幾何学を研究課題とし、広い意味でAtiyah-Singerの指数定理に関連した数学（指数理論、幾何解析、K理論、非可換幾何、特性類、Riemann-Rochの定理、Riemann面、楕円型微分方程式）に関する研究指導を行う。 （246 橋詰 健太） 代数幾何学に関する研究を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅲ-C（数理科学）		課題研究Ⅱ-C（数理科学）に引き続き、各指導教員の指導の下、数理科学の諸分野、特に代数学、幾何学、解析学、応用数学の課題研究を行う。ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・到達目標）における人材育成の目標に沿って、本プログラムで定める「知識・理解」「当該分野固有の能力」「汎用的な能力」「態度・姿勢」の資質・能力を修得することを目指す： ・数理科学、物理・宇宙科学、化学分野などの専門的知識を修得している。 ・数理科学、物理・宇宙科学、化学分野の基礎科学から技術開発までの幅広い対象から研究課題を主体的に設定し、その解明に向けた研究計画を立案、実施、評価することができる。 ・高度な言語（英語を含む）スキルを駆使し、専門的かつ多様な文脈で効果的に情報を伝達できる。 ・科学技術の進展に寄与するための倫理観を備えている。など （41 鈴木 有祐） 位相幾何学的グラフ理論を研究課題とし、閉曲面上のグラフの様々な性質に関する研究指導を行う。 （25 小島 秀雄） 「課題研究」では、学生の希望に応じて、可換環論あるいは代数幾何学を研究課題とする。可換環論では多項式環の部分代数や自己同型に関する研究指導を行う。代数幾何学では代数曲線論や代数曲面論に関する研究指導を行う。 （69 星 明考） 代数学を研究課題とし、数論・代数幾何・計算数学に関する研究指導を行う。 （79 三浦 毅） 関数環理論および可換Banach環理論を研究課題とし、その基礎理論に関する研究指導を行う。 （89 山田 修司） 非線形計画法を研究課題とし、制約付き大規模非線形計画問題に対する大域的最適化手法に関する研究指導を行う。 （94 渡邊 恵一） ジャイロベクトル空間の関数解析的研究を研究課題とする。ヒルベルト空間とその間の線型作用素に関する理論のよく知られた部分をモデルとして、ジャイロベクトル空間に関する空間論とその間の写像論に関する研究指導を行う。 （123 應和 宏樹） 偏微分方程式を研究課題とし、保存則方程式の初期値問題の一意可解性に関する研究指導を行う。 （127 折田 龍馬） 多様体や位相空間の分類を研究課題とし、代数的トポロジー、Morse理論、シンプレクティック多様体に関する研究指導を行う。 （191 伏木 忠義） 統計的予測問題や統計的欠測データ解析を研究課題とし、機械学習における統計的予測手法の開発や欠測データの基礎理論に関する研究指導を行う。 （217 伊東 良純） 数論的L関数の超幾何関数論的研究とその応用を研究課題とし、保形形式のL関数の特殊値の超幾何関数表示とBeilinson予想への応用に関する研究指導を行う。 （115 大井 志徳） バナッハ空間やヒルベルト空間上の距離構造や代数構造を保つ写像を研究課題とし、その写像の決定に関する研究指導を行う。 （220 高田 土満） 幾何学を研究課題とし、広い意味でAtiyah-Singerの指数定理に関連した数学（指数理論、幾何解析、K理論、非可換幾何、特性類、Riemann-Rochの定理、Riemann面、楕円型微分方程式）に関する研究指導を行う。 （246 橋詰 健太） 代数幾何学に関する研究を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅳ-C（数理学）		課題研究Ⅲ-C（数理学）に引き続き、各指導教員の指導の下、数理学の諸分野、特に代数学、幾何学、解析学、応用数学の課題研究を行う。ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・到達目標）における人材育成の目標に沿って、本プログラムで定める「知識・理解」「当該分野固有の能力」「汎用的な能力」「態度・姿勢」の資質・能力を修得することを目指す： ・数理学、物理・宇宙科学、化学分野などの専門的知識を修得している。 ・数理学、物理・宇宙科学、化学分野の基礎科学から技術開発までの幅広い対象から研究課題を主体的に設定し、その解明に向けた研究計画を立案、実施、評価することができる。 ・高度な言語（英語を含む）スキルを駆使し、専門的かつ多様な文脈で効果的に情報を伝達できる。 ・科学技術の進展に寄与するための倫理観を備えている。など （41 鈴木 有祐） 位相幾何学的グラフ理論を研究課題とし、閉曲面上のグラフの様々な性質に関する研究指導を行う。 （25 小島 秀雄） 「課題研究」では、学生の希望に応じて、可換環論あるいは代数幾何学を研究課題とする。可換環論では多項式環の部分代数や自己同型に関する研究指導を行う。代数幾何学では代数曲線論や代数曲面論に関する研究指導を行う。 （69 星 明考） 代数学を研究課題とし、数論・代数幾何・計算数学に関する研究指導を行う。 （79 三浦 毅） 関数環理論および可換Banach環理論を研究課題とし、その基礎理論に関する研究指導を行う。 （89 山田 修司） 非線形計画法を研究課題とし、制約付き大規模非線形計画問題に対する大域的最適化手法に関する研究指導を行う。 （94 渡邊 恵一） ジャイロベクトル空間の関数解析的研究を研究課題とする。ヒルベルト空間とその間の線型作用素に関する理論のよく知られた部分をモデルとして、ジャイロベクトル空間に関する空間論とその間の写像論に関する研究指導を行う。 （123 應和 宏樹） 偏微分方程式を研究課題とし、保存則方程式の初期値問題の一意可解性に関する研究指導を行う。 （127 折田 龍馬） 多様体や位相空間の分類を研究課題とし、代数的トポロジー、Morse理論、シンプレクティック多様体に関する研究指導を行う。 （191 伏木 忠義） 統計的予測問題や統計的欠測データ解析を研究課題とし、機械学習における統計的予測手法の開発や欠測データの基礎理論に関する研究指導を行う。 （217 伊東 良純） 数論的L関数の超幾何関数論的研究とその応用を研究課題とし、保形形式のL関数の特殊値の超幾何関数表示とBeilinson予想への応用に関する研究指導を行う。 （115 大井 志徳） バナッハ空間やヒルベルト空間上の距離構造や代数構造を保つ写像を研究課題とし、その写像の決定に関する研究指導を行う。 （220 高田 土満） 幾何学を研究課題とし、広い意味でAtiyah-Singerの指数定理に関連した数学（指数理論、幾何解析、K理論、非可換幾何、特性類、Riemann-Rochの定理、Riemann面、楕円型微分方程式）に関する研究指導を行う。 （246 橋詰 健太） 代数幾何学に関する研究を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅰ-C（基礎化学）		本講義では、物理化学、無機化学、分析化学、生化学、有機化学といった化学の各専門分野の教員の指導の下、修士論文を作成するため、教員との討論や議論を通じて各専門分野における課題を深く理解し、研究の目的や概要を明らかにした上で、研究計画を具体的に立案する能力を身につけること、および、修士課程1年次半年間の研究活動実績にふさわしい知識と実験技術を身につけることを目標とする。将来高度汎用的職業人もしくは研究者となるために、各専門分野の高度な知識と技術を身につけることがねらいである。 （7 生駒 忠昭） 有機太陽電池や有機電界発光素子を研究課題とし、有機半導体の励起子やキャリアの動力学に関する研究指導を行う。 （10 梅林 泰宏） 溶液化学・分析化学・電気化学に関する研究指導を行う。 （50 中馬 吉郎） 生命現象を化学的に理解することを念頭に、疾患メカニズムの解明、創薬開発、新規methodologyの開発を研究課題とし、生化学に関する研究指導を行う。 （74 俣野 善博） 元素の特徴を活かした機能性色素の創製と機能探索を研究課題とし、有機元素化学に関する研究を行う。 （78 丸山 健二） 液体の構造解析を研究課題とし、主に液体金属や半導体を対象とした回折実験と実験データの解析に関する研究指導を行う。 （98 五十嵐 智志） 希土類錯体を研究課題とし、発光性を示す新奇な希土類錯体の合成とその構造および発光特性に関する研究指導を行う （108 岩本 啓） 有機化合物の立体構造と、それらが示す様々な機能や反応性との相関を調べることを研究課題とし、構造有機化学・超分子化学に関する研究指導を行う。 （138 後藤 真一） 核化学に関連する内容を研究課題とし、超重元素の合成と化学またはRI製造にかかわる核反応と精製法に関する研究指導を行う。 （165 田山 英治） 第四級アンモニウムカチオンの化学を研究課題とし、その有機合成化学に関する研究指導を行う。 （192 古川 貢） 広い意味での機能性物質における機能性メカニズムを電子スピン共鳴法による解明研究を研究課題とし、物質の機能性の原理と電子スピンの相関について研究指導を行う。 （199 三浦 智明） 光スピン化学を研究課題とし、光機能材料における機能発現機構解明と磁氣的制御に関する研究指導を行う。 （247 HAN JIHAE） 溶液化学、電気化学、分析化学に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅱ-C（基礎化学）		本講義では、物理化学、無機化学、分析化学、生化学、有機化学といった化学の各専門分野の教員の指導の下、修士論文を作成するため、教員との討論や議論を通じて研究の目的や概要を明らかにした上で、研究計画に対する方法の妥当性を評価し、必要に応じて見直す能力を身につけること、および、修士課程1年次半年間の研究活動実績にふさわしい知識と実験技術を身につけることを目標とする。将来高度汎用的職業人もしくは研究者となるために、各専門分野の高度な知識と技術を身につけることがねらいである。 （7 生駒 忠昭） 有機太陽電池や有機電界発光素子を研究課題とし、有機半導体の励起子やキャリアの動力学に関する研究指導を行う。 （10 梅林 泰宏） 溶液化学・分析化学・電気化学に関する研究指導を行う。 （50 中馬 吉郎） 生命現象を化学的に理解することを念頭に、疾患メカニズムの解明、創薬開発、新規methodologyの開発を研究課題とし、生化学に関する研究指導を行う。 （74 俣野 善博） 元素の特徴を活かした機能性色素の創製と機能探索を研究課題とし、有機元素化学に関する研究を行う。 （78 丸山 健二） 液体の構造解析を研究課題とし、主に液体金属や半導体を対象とした回折実験と実験データの解析に関する研究指導を行う。 （98 五十嵐 智志） 希土類錯体を研究課題とし、発光性を示す新奇な希土類錯体の合成とその構造および発光特性に関する研究指導を行う （108 岩本 啓） 有機化合物の立体構造と、それらが示す様々な機能や反応性との相関を調べることを研究課題とし、構造有機化学・超分子化学に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅱ-C（基礎化学）		（138 後藤 真一） 核化学に関連する内容を研究課題とし、超重元素の合成と化学またはRI製造にかかわる核反応と精製法に関する研究指導を行う。 （165 田山 英治） 第四級アンモニウムカチオンの化学を研究課題とし、その有機合成化学に関する研究指導を行う。 （192 古川 貢） 広い意味での機能性物質における機能性メカニズムを電子スピン共鳴法による解明研究を研究課題とし、物質の機能性の原理と電子スピンの相関について研究指導を行う。 （199 三浦 智明） 光スピン化学を研究課題とし、光機能材料における機能発現機構解明と磁氣的制御に関する研究指導を行う。 （247 HAN JIHAE） 溶液化学、電気化学、分析化学に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅲ-C（基礎化学）		本講義では、物理化学、無機化学、分析化学、生化学、有機化学といった化学の各専門分野の教員の指導の下、修士論文を完成させるため、教員との討論や議論に加え関連論文の調査を通じて自身の研究の位置付けを明らかにするとともに、研究結果を的確に考察する能力を身につけること、および、修士課程2年次半年間の研究活動実績にふさわしい知識と実験技術を身につけることを目標とする。将来高度汎用的職業人もしくは研究者となるために、各専門分野の高度な知識と技術を身につけることがねらいである。 （7 生駒 忠昭） 有機太陽電池や有機電界発光素子を研究課題とし、有機半導体の励起子やキャリアの動力学に関する研究指導を行う。 （10 梅林 泰宏） 溶液化学・分析化学・電気化学に関する研究指導を行う。 （50 中馬 吉郎） 生命現象を化学的に理解することを念頭に、疾患メカニズムの解明、創薬開発、新規methodologyの開発を研究課題とし、生化学に関する研究指導を行う。 （74 俣野 善博） 元素の特徴を活かした機能性色素の創製と機能探索を研究課題とし、有機元素化学に関する研究を行う。 （78 丸山 健二） 液体の構造解析を研究課題とし、主に液体金属や半導体を対象とした回折実験と実験データの解析に関する研究指導を行う。 （98 五十嵐 智志） 希土類錯体を研究課題とし、発光性を示す新奇な希土類錯体の合成とその構造および発光特性に関する研究指導を行う （108 岩本 啓） 有機化合物の立体構造と、それらが示す様々な機能や反応性との相関を調べることを研究課題とし、構造有機化学・超分子化学に関する研究指導を行う。 （138 後藤 真一） 核化学に関連する内容を研究課題とし、超重元素の合成と化学またはRI製造にかかわる核反応と精製法に関する研究指導を行う。 （165 田山 英治） 第四級アンモニウムカチオンの化学を研究課題とし、その有機合成化学に関する研究指導を行う。 （192 古川 貢） 広い意味での機能性物質における機能性メカニズムを電子スピン共鳴法による解明研究を研究課題とし、物質の機能性の原理と電子スピンの相関について研究指導を行う。 （199 三浦 智明） 光スピン化学を研究課題とし、光機能材料における機能発現機構解明と磁氣的制御に関する研究指導を行う。 （247 HAN JIHAE） 溶液化学、電気化学、分析化学に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅳ-C（基礎化学）		本講義では、物理化学、無機化学、分析化学、生化学、有機化学といった化学の各専門分野の教員の指導の下、修士論文を完成させるため、教員との討論や議論に加え関連論文の調査を通じて自身の研究の位置付けを明らかにするとともに、研究結果を的確に考察する能力を身につけること、および、修士課程2年次半年間の研究活動実績にふさわしい知識と実験技術を身につけることを目標とする。将来高度汎用的職業人もしくは研究者となるために、各専門分野の高度な知識と技術に加え、研究成果を社会に向けて発信する能力を身につけることがねらいである。 （7 生駒 忠昭） 有機太陽電池や有機電界発光素子を研究課題とし、有機半導体の励起子やキャリアの動力学に関する研究指導を行う。 （10 梅林 泰宏） 溶液化学・分析化学・電気化学に関する研究指導を行う。 （50 中馬 吉郎） 生命現象を化学的に理解することを念頭に、疾患メカニズムの解明、創薬開発、新規methodologyの開発を研究課題とし、生化学に関する研究指導を行う。 （74 俣野 善博） 元素の特徴を活かした機能性色素の創製と機能探索を研究課題とし、有機元素化学に関する研究を行う。 （78 丸山 健二） 液体の構造解析を研究課題とし、主に液体金属や半導体を対象とした回折実験と実験データの解析に関する研究指導を行う。 （98 五十嵐 智志） 希土類錯体を研究課題とし、発光性を示す新奇な希土類錯体の合成とその構造および発光特性に関する研究指導を行う。 （108 岩本 啓） 有機化合物の立体構造と、それらが示す様々な機能や反応性との相関を調べることを研究課題とし、構造有機化学・超分子化学に関する研究指導を行う。 （138 後藤 真一） 核化学に関連する内容を研究課題とし、超重元素の合成と化学またはRI製造にかかわる核反応と精製法に関する研究指導を行う。 （165 田山 英治） 第四級アンモニウムカチオンの化学を研究課題とし、その有機合成化学に関する研究指導を行う。 （192 古川 貢） 広い意味での機能性物質における機能性メカニズムを電子スピン共鳴法による解明研究を研究課題とし、物質の機能性の原理と電子スピンの相関について研究指導を行う。 （199 三浦 智明） 光スピン化学を研究課題とし、光機能材料における機能発現機構解明と磁氣的制御に関する研究指導を行う。 （247 HAN JIHAЕ） 溶液化学、電気化学、分析化学に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅰ-C（物質材料科学）		材料科学に関わる諸問題について特定の課題を設け、その課題の解決について科学的手法を用いて自ら研究し、修士論文の作成および発表につなげる。材料科学分野に関する基礎知識を学ぶ。関連分野の基礎的素養を修得する。基礎理論・技術を理解する能力、課題を発見して解決する能力、定められた機関で報告する能力を含む修士相当の研究能力を修得する。さらには材料科学の国際的研究を理解するとともに、地球規模での課題解決に取り組む素養を育くむ。そして、社会貢献研究に取り組む。 （47 瀧本 哲也） 機能材料物性の理論的研究による解明や提案を研究課題とし、特に新規な磁性や超伝導やトポロジカル物性に関する基礎的研究の研究指導を行う。 （49 田中 孝明） 生物材料を研究課題とし、生物機能材料の開発ならびにバイオプロセスや生体材料への応用に関する研究指導を行う。 （83 八木 政行） 人工光合成システムの構築を研究課題として、材料開発および機能解析に関する研究指導を行う。 （84 山内 健） 機能性高分子の複合材料の作製と応用を研究課題とし、バイオミメティックセンサ・アクチュエータの開発に関する研究指導を行う。 （116 大木 基史） 材料工学における先進機能性材料の機械的特性評価を研究課題とし、主にWC-Ni硬質皮膜およびプラズマ溶射HA皮膜を対象材料とした機械的特性評価に関する研究指導を行う。 （126 落合 秋人） 医薬品や食品に応用可能な生物材料を研究課題とし、新しい生理活性分子の探索やその機能発現メカニズムの解明、これらを用いた新しい生理活性分子の設計に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅰ-C（物質材料科学）		(202 三保 哲) ソフトマテリアルの物理化学を研究課題とし、磁性エラストマーおよびバイオプラスチックに関する研究指導を行う。 (139 齊藤 健二) マテリアルズイノベーションを研究課題とし、社会問題の解決に貢献する革新的物質開発（主に酸化物・炭化物・炭酸塩結晶）に関する研究指導を行う。 (169 坪ノ内 優太) 光-物質変換系の開発を研究課題とし、分子性材料の合成やおよび機能評価に関する研究指導を行う。 (174 中野 智仁) 強相関電子系の物性を主な研究課題とし、超伝導・磁性・熱電材料の基礎物性と開発に関する研究指導を行う。 (214 由井 樹人) 不均一系の光化学を研究課題とし、色素合成・色素複合体・セラミックス構造体などに関する研究指導を行う。 (226 石塚 淳) 物質材料科学における磁性・超伝導・トポロジカル物性を研究課題とし、量子多体計算や第一原理電子状態計算に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅱ-C（物質材料科学）		材料科学に関わる諸問題について特定の課題を設け、その課題の解決について科学的手法を用いて自ら研究し、修士論文の作成および発表につなげる。材料科学分野に関する応用的知識を学ぶ。応用的理論・技術を理解して応用する能力、課題を発見して解決する能力、定められた機関で報告する能力を含む修士相当の研究能力を修得する。さらには材料科学に関する国際的な応用研究について理解を深めて、地球規模での課題解決に取り組む。 (47 瀧本 哲也) 機能材料物性の理論的研究による解明や提案を研究課題とし、特に新規な磁性や超伝導やトポロジカル物性に関する基礎的研究の研究指導を行う。 (49 田中 孝明) 生物材料を研究課題とし、生物機能材料の開発ならびにバイオプロセスや生体材料への応用に関する研究指導を行う。 (83 八木 政行) 人工光合成システムの構築を研究課題として、材料開発および機能解析に関する研究指導を行う。 (84 山内 健) 機能性高分子の複合材料の作製と応用を研究課題とし、バイオメディックセンサ・アクチュエータの開発に関する研究指導を行う。 (116 大木 基史) 材料工学における先進機能性材料の機械的特性評価を研究課題とし、主にWC-Ni硬質皮膜およびプラズマ溶射HA皮膜を対象材料とした機械的特性評価に関する研究指導を行う。 (126 落合 秋人) 医薬品や食品に応用可能な生物材料を研究課題とし、新しい生理活性分子の探索やその機能発現メカニズムの解明、これらに応用した新しい生理活性分子の設計に関する研究指導を行う。 (202 三保 哲) ソフトマテリアルの物理化学を研究課題とし、磁性エラストマーおよびバイオプラスチックに関する研究指導を行う。 (139 齊藤 健二) マテリアルズイノベーションを研究課題とし、社会問題の解決に貢献する革新的物質開発（主に酸化物・炭化物・炭酸塩結晶）に関する研究指導を行う。 (169 坪ノ内 優太) 光-物質変換系の開発を研究課題とし、分子性材料の合成やおよび機能評価に関する研究指導を行う。 (174 中野 智仁) 強相関電子系の物性を主な研究課題とし、超伝導・磁性・熱電材料の基礎物性と開発に関する研究指導を行う。 (214 由井 樹人) 不均一系の光化学を研究課題とし、色素合成・色素複合体・セラミックス構造体などに関する研究指導を行う。 (226 石塚 淳) 物質材料科学における磁性・超伝導・トポロジカル物性を研究課題とし、量子多体計算や第一原理電子状態計算に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅲ-C（物質材料科学）		材料科学に関わる諸問題について特定の課題を設け、その課題の解決について科学的手法を用いて自ら研究し、修士論文の作成および発表につなげる。材料科学分野に関する先端的知識を学ぶ。先端的な理論・技術を理解して応用する能力、課題を発見して解決する能力、定められた機関で報告する能力を含む修士相当の研究能力を修得する。さらには材料科学に関する国際的先端研究を理解して、地球規模の課題解決に取り組む。 （47 瀧本 哲也） 機能材料物性の理論的研究による解明や提案を研究課題とし、特に新規な磁性や超伝導やトポロジカル物性に関する基礎的研究の研究指導を行う。 （49 田中 孝明） 生物材料を研究課題とし、生物機能材料の開発ならびにバイオプロセスや生体材料への応用に関する研究指導を行う。 （83 八木 政行） 人工光合成システムの構築を研究課題として、材料開発および機能解析に関する研究指導を行う。 （84 山内 健） 機能性高分子の複合材料の作製と応用を研究課題とし、バイオメディックセンサ・アクチュエータの開発に関する研究指導を行う。 （116 大木 基史） 材料工学における先進機能性材料の機械的特性評価を研究課題とし、主にWC-Ni硬質皮膜およびプラズマ溶射HA皮膜を対象材料とした機械的特性評価に関する研究指導を行う。 （126 落合 秋人） 医薬品や食品に応用可能な生物材料を研究課題とし、新しい生理活性分子の探索やその機能発現メカニズムの解明、これらに応用した新しい生理活性分子の設計に関する研究指導を行う。 （202 三俣 哲） ソフトマテリアルの物理化学を研究課題とし、磁性エラストマーおよびバイオプラスチックに関する研究指導を行う。 （139 齊藤 健二） マテリアルズイノベーションを研究課題とし、社会問題の解決に貢献する革新的物質開発（主に酸化物・炭化物・炭酸塩結晶）に関する研究指導を行う。 （169 坪ノ内 優太） 光-物質変換系の開発を研究課題とし、分子性材料の合成やおよび機能評価に関する研究指導を行う。 （174 中野 智仁） 強相関電子系の物性を主な研究課題とし、超伝導・磁性・熱電材料の基礎物性と開発に関する研究指導を行う。 （214 由井 樹人） 不均一系の光化学を研究課題とし、色素合成・色素複合体・セラミックス構造体などに関する研究指導を行う。 （226 石塚 淳） 物質材料科学における磁性・超伝導・トポロジカル物性を研究課題とし、量子多体計算や第一原理電子状態計算に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅳ-C（物質材料科学）		材料科学に関わる諸問題について特定の課題を設け、その課題の解決について科学的手法を用いて自ら研究し、修士論文の作成および発表につなげる。材料科学分野に関する最先端の知識を学ぶ。最先端の理論・技術を理解して応用する能力、課題を発見して解決する能力、定められた機関で報告する能力を含む修士相当の研究能力を修得する。さらには材料科学の国際的な最先端研究を理解して、地球規模の課題解決に取り組む。 （47 瀧本 哲也） 機能材料物性の理論的研究による解明や提案を研究課題とし、特に新規な磁性や超伝導やトポロジカル物性に関する基礎的研究の研究指導を行う。 （49 田中 孝明） 生物材料を研究課題とし、生物機能材料の開発ならびにバイオプロセスや生体材料への応用に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅳ-C（物質材料科学）		(83 八木 政行) 人工光合成システムの構築を研究課題として、材料開発および機能解析に関する研究指導を行う。 (84 山内 健) 機能性高分子の複合材料の作製と応用を研究課題とし、バイオミメティックセンサ・アクチュエータの開発に関する研究指導を行う。 (116 大木 基史) 材料工学における先進機能性材料の機械的特性評価を研究課題とし、主にWC-Ni硬質皮膜およびプラズマ溶射HA皮膜を対象材料とした機械的特性評価に関する研究指導を行う。 (126 落合 秋人) 医薬品や食品に応用可能な生物材料を研究課題とし、新しい生理活性分子の探索やその機能発現メカニズムの解明、これらを応用した新しい生理活性分子の設計に関する研究指導を行う。 (202 三俣 哲) ソフトマテリアルの物理化学を研究課題とし、磁性エラストマーおよびパイオブラスタックに関する研究指導を行う。 (139 齊藤 健二) マテリアルズイノベーションを研究課題とし、社会問題の解決に貢献する革新的物質開発（主に酸化物・炭化物・炭酸塩結晶）に関する研究指導を行う。 (169 坪ノ内 優太) 光-物質変換系の開発を研究課題とし、分子性材料の合成やおよび機能評価に関する研究指導を行う。 (174 中野 智仁) 強相関電子系の物性を主な研究課題とし、超伝導・磁性・熱電材料の基礎物性と開発に関する研究指導を行う。 (214 由井 樹人) 不均一系の光化学を研究課題とし、色素合成・色素複合体・セラミックス構造体などに関する研究指導を行う。 (226 石塚 淳) 物質材料科学における磁性・超伝導・トポロジカル物性を研究課題とし、量子多体計算や第一原理電子状態計算に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅰ-C（素材創成化学）		素材創成化学に関わる諸問題について特定の課題を設け、その課題の解決について科学的手法を用いて自ら研究し、修士論文の作成および発表につなげる。素材創成化学に関する専門知識を学ぶ。関連分野の基礎的素養を修得する。基礎理論・技術を理解して応用する能力、課題を発見して解決する能力、定められた機関で報告する能力を含む修士1年半期相当の研究能力を修得する。研究課題によって授業計画は異なる。研究指導委員会、特に主指導教員と綿密な打ち合わせを行って、柔軟かつ適切な授業計画で取り組む。 (17 金子 隆司) 機能性高分子化学を研究課題とし、主に電子機能高分子の合成と機能測定に関する研究指導を行う。 (26 兒玉 竜也) 熱化学を研究課題とし、熱エネルギーの化学燃料等への転換に関する研究指導を行う。 (51 戸田 健司) 無機化学を研究課題とし、無機固体材料の設計、合成と評価に関する研究指導を行う。 (130 狩野 直樹) 環境浄化や資源回収を研究課題とし、環境にやさしい新規吸着剤による重金属除去法の開発、下水汚泥からのリン回収および肥料化技術等に関する研究指導を行う。 (134 郷右近 展之) 変動性再生可能エネルギー発電システムとエネルギー貯蔵材料とシステム化、次世代熱輸送媒体、不定比酸化物を利用したCO2および水の二段階熱化学プロセスを研究課題とし、次世代発電システムと高密度蓄熱技術、およびCO2フリー水素および合成ガス製造に関する研究指導を行う。 (162 田口 佳成) 複合微粒子およびマイクロカプセルといった各種素材を微粒化・複合化することにより新しい機能を備えた材料の調製とその用途開発に関する研究指導を行う。 (164 多島 秀男) 環境保全や環境材料開発に資する固液および気液固系反応を主とする分離プロセスでの現象解析を研究課題とし、分離プロセス工学的観点からの平衡論、拡散現象、機械的操作を踏まえた分離プロセス設計方法と性能評価に関する研究指導を行う。 (170 寺口 昌宏) 新規機能性高分子の合成および機能の開発と評価を研究課題とし、光学活性高分子、特殊構造高分子、共役高分子の合成と不斉認識能および気体分離膜としての機能に関する研究指導を行う。 (193 BELLAN SELVAN) 熱エネルギーの化学的利用を研究課題とし、化学蓄熱、熱化学プロセス、燃料製造、反応器、数値モデリングについて研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅰ-C（素材創成化学）		（195 星 隆） 有機合成化学を研究課題とし、遷移金属錯体触媒の開発および触媒を利用した効率的有機合成反応の開発に関する研究指導を行う。 （200 三上 貴司） 結晶粉粒体の工業生産に資する化学工学を研究課題とし、晶析技術を基盤とした結晶および粉体品質設計、環境浄化・資源回収など物質循環型プロセスの開発に関する研究指導を行う。 （216 渡邊 美寿貴） 無機材料と結晶構造の相関性を研究課題とし、セラミックスの光学および電気的特性の付与と結晶構造解析に関する研究指導を行う。 （234 小松 博幸） ハイドレートスラリーを利用したCO₂分離回収プロセスや高压CO₂を利用したリグニン分解物からの抽出プロセスを研究課題とし、ガス吸収、ガス分離、固体結晶の形成、スラリーの流動特性や凝集性、相平衡、抽出に関する研究指導を行う。 （254 LI LIUYUN） カーボンニュートラル達成に向けたエネルギー転換における排出削減の課題とし、可再生エネルギー資源であるバイオマスを利用したグリーンエネルギーの創出、基礎化学製品生産強化の技術開発を行い、加えて、廃棄物の転換によるケミカルリサイクルの実現、CO₂貯蔵や原料化に関する研究を取り込んでいる。	
	課題研究Ⅱ-C（素材創成化学）		素材創成化学に関わる諸問題について特定の課題を設け、その課題の解決について科学的手法を用いて自ら研究し、修士論文の作成および発表につなげる。素材創成化学に関するより幅広い専門知識を学ぶ。関連分野のより幅広い基礎的素養を修得する。基礎理論・技術を理解して応用する能力、課題を発見して解決する能力、定められた期間で報告する能力を含む修士1年相当の研究能力を修得する。研究課題によって授業計画は異なる。研究指導委員会、特に主指導教員と綿密な打ち合わせを行って、柔軟かつ適切な授業計画で取り組む。 （17 金子 隆司） 機能性高分子化学を研究課題とし、主に電子機能高分子の合成と機能測定に関する研究指導を行う。 （26 兒玉 竜也） 熱化学を研究課題とし、熱エネルギーの化学燃料等への転換に関する研究指導を行う。 （51 戸田 健司） 無機化学を研究課題とし、無機固体材料の設計、合成と評価に関する研究指導を行う。 （130 狩野 直樹） 環境浄化や資源回収を研究課題とし、環境にやさしい新規吸着剤による重金属除去法の開発、下水汚泥からのリン回収および肥料化技術等に関する研究指導を行う。 （134 郷右近 展之） 変動性再生可能エネルギー発電システムとエネルギー貯蔵材料とシステム化、次世代熱輸送媒体、不定比酸化物を利用したCO₂および水の二段階熱化学プロセスを研究課題とし、次世代発電システムと高密度蓄熱技術、およびCO₂フリー水素および合成ガス製造に関する研究指導を行う。 （162 田口 佳成） 複合微粒子およびマイクロカプセルといった各種素材を微粒化・複合化することにより新しい機能を備えた材料の調製とその用途開発に関する研究指導を行う。 （164 多島 秀男） 環境保全や環境材料開発に資する固液および気液固系反応を主とする分離プロセスでの現象解析を研究課題とし、分離プロセス工学的観点からの平衡論、拡散現象、機械的操作を踏まえた分離プロセス設計方法と性能評価に関する研究指導を行う。 （170 寺口 昌宏） 新規機能性高分子の合成および機能の開発と評価を研究課題とし、光学活性高分子、特殊構造高分子、共役高分子の合成と不斉認識能および気体分離膜としての機能に関する研究指導を行う。 （193 BELLAN SELVAN） 熱エネルギーの化学的利用を研究課題とし、化学蓄熱、熱化学プロセス、燃料製造、反応器、数値モデリングについて研究指導を行う。 （195 星 隆） 有機合成化学を研究課題とし、遷移金属錯体触媒の開発および触媒を利用した効率的有機合成反応の開発に関する研究指導を行う。 （200 三上 貴司） 結晶粉粒体の工業生産に資する化学工学を研究課題とし、晶析技術を基盤とした結晶および粉体品質設計、環境浄化・資源回収など物質循環型プロセスの開発に関する研究指導を行う。 （216 渡邊 美寿貴） 無機材料と結晶構造の相関性を研究課題とし、セラミックスの光学および電気的特性の付与と結晶構造解析に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅱ-C（素材 創成化学）		（234 小松 博幸） ハイドレートスラリーを利用したCO₂分離回収プロセスや高圧CO₂を利用したリグニン分解物からの抽出プロセスを研究課題とし、ガス吸収、ガス分離、固体結晶の形成、スラリーの流動特性や凝集性、相平衡、抽出に関する研究指導を行う。 （254 LI LIUYUN） カーボンニュートラル達成に向けたエネルギー転換における排出削減の課題とし、可再生エネルギー資源であるバイオマスを利用したグリーンエネルギーの創出、基礎化学製品生産強化の技術開発を行い、加えて、廃棄物の転換によるケミカルリサイクルの実現、CO₂貯蔵や原料化に関する研究を取り込んでいる。	
	課題研究Ⅲ-C（素材 創成化学）		素材創成化学に関わる諸問題について特定の課題を設け、その課題の解決について科学的手法を用いて自ら研究し、修士論文の作成および発表につなげる。素材創成化学に関するより深い専門知識を学ぶ。関連分野周辺も含む基礎的素養を修得する。基礎理論・技術を理解して応用する能力、課題を発見して解決する能力、定められた機関で報告する能力を含む修士2年半期相当の研究能力を修得する。研究課題によって授業計画は異なる。研究指導委員会、特に主指導教員と綿密な打ち合わせを行って、柔軟かつ適切な授業計画で取り組む。 （17 金子 隆司） 機能性高分子化学を研究課題とし、主に電子機能高分子の合成と機能測定に関する研究指導を行う。 （26 兒玉 竜也） 熱化学を研究課題とし、熱エネルギーの化学燃料等への転換に関する研究指導を行う。 （51 戸田 健司） 無機化学を研究課題とし、無機固体材料の設計、合成と評価に関する研究指導を行う。 （130 狩野 直樹） 環境浄化や資源回収を研究課題とし、環境にやさしい新規吸着剤による重金属除去法の開発、下水汚泥からのリン回収および肥料化技術等に関する研究指導を行う。 （134 郷右近 展之） 変動性再生可能エネルギー発電システムとエネルギー貯蔵材料とシステム化、次世代熱輸送媒体、不定比酸化物を利用したCO₂および水の二段階熱化学プロセスを研究課題とし、次世代発電システムと高密度蓄熱技術、およびCO₂フリー水素および合成ガス製造に関する研究指導を行う。 （162 田口 佳成） 複合微粒子およびマイクロカプセルといった各種素材を微粒化・複合化することにより新しい機能を備えた材料の調製とその用途開発に関する研究指導を行う。 （164 多島 秀男） 環境保全や環境材料開発に資する固液および気液固系反応を主とする分離プロセスでの現象解析を研究課題とし、分離プロセス工学的観点からの平衡論、拡散現象、機械的操作を踏まえた分離プロセス設計方法と性能評価に関する研究指導を行う。 （170 寺口 昌宏） 新規機能性高分子の合成および機能の開発と評価を研究課題とし、光学活性高分子、特殊構造高分子、共役高分子の合成と不斉認識能および気体分離膜としての機能に関する研究指導を行う。 （193 BELLAN SELVAN） 熱エネルギーの化学的利用を研究課題とし、化学蓄熱、熱化学プロセス、燃料製造、反応器、数値モデリングについて研究指導を行う。 （195 星 隆） 有機合成化学を研究課題とし、遷移金属錯体触媒の開発および触媒を利用した効率的有機合成反応の開発に関する研究指導を行う。 （200 三上 貴司） 結晶粉粒体の工業生産に資する化学工学を研究課題とし、晶析技術を基盤とした結晶および粉体品質設計、環境浄化・資源回収など物質循環型プロセスの開発に関する研究指導を行う。 （216 渡邊 美寿貴） 無機材料と結晶構造の相関性を研究課題とし、セラミックスの光学および電気的特性の付与と結晶構造解析に関する研究指導を行う。 （234小松 博幸） ハイドレートスラリーを利用したCO₂分離回収プロセスや高圧CO₂を利用したリグニン分解物からの抽出プロセスを研究課題とし、ガス吸収、ガス分離、固体結晶の形成、スラリーの流動特性や凝集性、相平衡、抽出に関する研究指導を行う。 （254 LI LIUYUN） カーボンニュートラル達成に向けたエネルギー転換における排出削減の課題とし、可再生エネルギー資源であるバイオマスを利用したグリーンエネルギーの創出、基礎化学製品生産強化の技術開発を行い、加えて、廃棄物の転換によるケミカルリサイクルの実現、CO₂貯蔵や原料化に関する研究を取り込んでいる。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅳ-C（素材 創成化学）		素材創成化学に関わる諸問題について特定の課題を設け、その課題の解決について科学的手法を用いて自ら研究し、修士論文の作成および発表につなげる。素材創成化学に関するより深く幅広い専門知識を学ぶ。関連分野周辺も含むより幅広い基礎的素養を修得する。基礎理論・技術を理解して応用する能力、課題を発見して解決する能力、定められた機関で報告する能力を含む修士2年相当の研究能力を修得する。研究課題によって授業計画は異なる。研究指導委員会、特に主指導教員と綿密な打ち合わせを行って、柔軟かつ適切な授業計画で取り組む。 （17 金子 隆司） 機能性高分子化学を研究課題とし、主に電子機能高分子の合成と機能測定に関する研究指導を行う。 （26 兒玉 竜也） 熱化学を研究課題とし、熱エネルギーの化学燃料等への転換に関する研究指導を行う。 （51 戸田 健司） 無機化学を研究課題とし、無機固体材料の設計、合成と評価に関する研究指導を行う。 （130 狩野 直樹） 環境浄化や資源回収を研究課題とし、環境にやさしい新規吸着剤による重金属除去法の開発、下水汚泥からのリン回収および肥料化技術等に関する研究指導を行う。 （134 郷右近 展之） 変動性再生可能エネルギー発電システムとエネルギー貯蔵材料とシステム化、次世代熱輸送媒体、不定比酸化物を利用したCO₂および水の二段階熱化学プロセスを研究課題とし、次世代発電システムと高密度蓄熱技術、およびCO₂フリー水素および合成ガス製造に関する研究指導を行う。 （162 田口 佳成） 複合微粒子およびマイクロカプセルといった各種素材を微粒化・複合化することにより新しい機能を備えた材料の調製とその用途開発に関する研究指導を行う。 （164 多島 秀男） 環境保全や環境材料開発に資する固液および気液固系反応を主とする分離プロセスでの現象解析を研究課題とし、分離プロセス工学的観点からの平衡論、拡散現象、機械的操作を踏まえた分離プロセス設計方法と性能評価に関する研究指導を行う。 （170 寺口 昌宏） 新規機能性高分子の合成および機能の開発と評価を研究課題とし、光学活性高分子、特殊構造高分子、共役高分子の合成と不斉認識能および気体分離膜としての機能に関する研究指導を行う。 （193 BELLAN SELVAN） 熱エネルギーの化学的利用を研究課題とし、化学蓄熱、熱化学プロセス、燃料製造、反応器、数値モデリングについて研究指導を行う。 （195 星 隆） 有機合成化学を研究課題とし、遷移金属錯体触媒の開発および触媒を利用した効率的有機合成反応の開発に関する研究指導を行う。 （200 三上 貴司） 結晶粉粒体の工業生産に資する化学工学を研究課題とし、晶析技術を基盤とした結晶および粉体品質設計、環境浄化・資源回収など物質循環型プロセスの開発に関する研究指導を行う。 （216 渡邊 美寿貴） 無機材料と結晶構造の相関性を研究課題とし、セラミックスの光学および電気的特性の付与と結晶構造解析に関する研究指導を行う。 （234 小松 博幸） ハイドレートスラリーを利用したCO₂分離回収プロセスや高圧CO₂を利用したリグニン分解物からの抽出プロセスを研究課題とし、ガス吸収、ガス分離、固体結晶の形成、スラリーの流動特性や凝集性、相平衡、抽出に関する研究指導を行う。 （254 LI LIUYUN） カーボンニュートラル達成に向けたエネルギー転換における排出削減の課題とし、可再生エネルギー資源であるバイオマスを利用したグリーンエネルギーの創出、基礎化学製品生産強化の技術開発を行い、加えて、廃棄物の転換によるケミカルサイクルの実現、CO₂貯蔵や原料化に関する研究を取り込んでいる。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅰ-D（先進 機械システム）		機械工学に関わる諸問題について特定の課題を設け、その課題の解決について科学的手法を用いて自ら研究し、修士論文の作成および発表につなげる。機械工学分野に関する専門知識、関連分野の基礎的素養、基礎理論・技術を理解して応用する能力、課題を発見して解決する能力、定められた期間で報告する能力を含む修士相当の研究能力を修得するとともに、その成果を学会等で発表・議論できるようになることも含むコミュニケーション能力の向上を目的とする。 （3 安部 隆） センサ・マイクロマシン分野の研究開発を研究課題とし、新しいセンサ・マイクロマシンの考案、作製技術や評価方法に関する研究指導を行う。 （15 尾田 雅文） 医療用デバイスに関わる臨床の場における技術的課題の解決を研究課題とし、現状の医用デバイスの課題の抽出、改善方法の検討、力学的検討等に関する研究指導を行う。 （33 佐々木 朋裕） マルチマテリアル化のための接合技術とその周辺の非破壊検査技術を研究課題とし、接合を中心とした材料学の基礎、および画像計測、振動計測、制御技術に関する研究指導を行う。 （66 平元 和彦） 機械システムにおける運動と振動の制御系設計を研究課題とし、地震外乱を受ける構造系の振動制御や、液体搬送系のスロッシング抑制制御に関する研究指導を行う。 （76 松原 幸治） 熱工学を研究課題とし、多孔体および充填層等の複雑熱流動とそのエネルギー応用に関する研究指導を行う。 （113 牛田 晃臣） 流体工学を研究課題とし、複雑流体および非ニュートン流体の流動現象・ファインバブルを用いた技術開発に関する研究指導を行う。 （141 坂本 秀一） 機械音響工学を研究課題とし、吸音材料、吸音構造、遮音材料、消音器などに関して実験的・理論的な研究指導を行う。 （142 櫻井 篤） サーマルフォトリクスを研究課題とし、光エネルギー制御技術や光起電力発電、放射冷却デバイスに関する研究指導を行う。 （156 寒川 雅之） マイクロマシン(MEMS)技術を用いたセンサやアクチュエータなどのマイクロデバイスの開発と応用を研究課題とし、それらの検知原理や設計・解析手法、作製プロセス、動作分析・評価、応用計測手法等に関する研究指導を行う。 （167 月山 陽介） 機械工学におけるトライボロジーを研究課題とし、機能性表面の創製および評価に関する研究指導を行う。 （189 平尾 篤利） 放電加工の加工特性および現象解明に関する研究指導を行う。 （212 山縣 貴幸） 機械システムにおける流れ関連現象の可視化、計測、制御を研究課題とし、流れ加速型腐食による配管減肉、歳差回転流れによる混合に関する研究指導を行う。 （241 中倉 満帆） 多孔体や充填層といった複雑構造内で起こる熱流動現象の解明と応用を研究課題とし、その数値シミュレーション法やモデリング。実験による検証法に関する研究指導を行う。 （256 渡邊 智洋） テラメカニクスおよびロボティクスを研究課題とし、不整地移動機構およびロボットに関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅱ-D（先進 機械システム）		機械工学に関わる諸問題について特定の課題を設け、その課題の解決について科学的手法を用いて自ら研究し、修士論文の作成および発表につなげる。機械工学分野や関連分野の発展的な専門知識、関連分野の素養、理論・技術を理解して応用する能力、定められた期間で報告する能力を含む修士相当の研究能力を修得するとともに、その成果を学会等で発表・議論できるようになることも含むコミュニケーション能力の向上を目的とする。 （3 安部 隆） センサ・マイクロマシン分野の研究開発を研究課題とし、新しいセンサ・マイクロマシンの考案、作製技術や評価方法に関する研究指導を行う。 （15 尾田 雅文） 医療用デバイスに関わる臨床の場における技術的課題の解決を研究課題とし、現状の医用デバイスの課題の抽出、改善方法の検討、力学的検討等に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅱ-D（先進機械システム）		(33 佐々木 朋裕) マルチマテリアル化のための接合技術とその周辺の非破壊検査技術を研究課題とし、接合を中心とした材料学の基礎、および画像計測、振動計測、制御技術に関する研究指導を行う。 (66 平元 和彦) 機械システムにおける運動と振動の制御系設計を研究課題とし、地震外乱を受ける構造系の振動制御や、液体搬送系のスロッシング抑制制御に関する研究指導を行う。 (76 松原 幸治) 熱工学を研究課題とし、多孔体および充填層等の複雑熱流動とそのエネルギー応用に関する研究指導を行う。 (113 牛田 晃臣) 流体工学を研究課題とし、複雑流体および非ニュートン流体の流動現象・ファインバブルを用いた技術開発に関する研究指導を行う。 (141 坂本 秀一) 機械音響工学を研究課題とし、吸音材料、吸音構造、遮音材料、消音器などに関して実験的・理論的な研究指導を行う。 (142 櫻井 篤) サーマルフォトリクスを研究課題とし、光エネルギー制御技術や光起電力発電、放射冷却デバイスに関する研究指導を行う。 (156 寒川 雅之) マイクロマシン(MEMS)技術を用いたセンサやアクチュエータなどのマイクロデバイスの開発と応用を研究課題とし、それらの検知原理や設計・解析手法、作製プロセス、動作分析・評価、応用計測手法等に関する研究指導を行う。 (167 月山 陽介) 機械工学におけるトライボロジーを研究課題とし、機能的表面の創製および評価に関する研究指導を行う。 (189 平尾 篤利) 放電加工の加工特性および現象解明に関する研究指導を行う。 (212 山縣 貴幸) 機械システムにおける流れ関連現象の可視化、計測、制御を研究課題とし、流れ加速型腐食による配管減肉、歳差回転流れによる混合に関する研究指導を行う。 (241 中倉 満帆) 多孔体や充填層といった複雑構造内で起こる熱流動現象の解明と応用を研究課題とし、その数値シミュレーション法やモデリング、実験による検証法に関する研究指導を行う。 (256 渡邊 智洋) テラメカニクスおよびロボティクスを研究課題とし、不整地移動機構およびロボットに関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅲ-D（先進機械システム）		修士の学位申請論文の一部もしくは主要部分を構成する研究成果を得るレベルにまで研究を推進し、その成果を学会等で発表・議論する。研究課題に関連分野の専門知識を理解・応用するとともに、発表や議論のためのコミュニケーション能力の向上を目的とする。 (3 安部 隆) センサ・マイクロマシン分野の研究開発を研究課題とし、新しいセンサ・マイクロマシンの考案、作製技術や評価方法に関する研究指導を行う。 (15 尾田 雅文) 医療用デバイスに関わる臨床の場における技術的課題の解決を研究課題とし、現状の医用デバイスの課題の抽出、改善方法の検討、力学的検討等に関する研究指導を行う。 (33 佐々木 朋裕) マルチマテリアル化のための接合技術とその周辺の非破壊検査技術を研究課題とし、接合を中心とした材料学の基礎、および画像計測、振動計測、制御技術に関する研究指導を行う。 (66 平元 和彦) 機械システムにおける運動と振動の制御系設計を研究課題とし、地震外乱を受ける構造系の振動制御や、液体搬送系のスロッシング抑制制御に関する研究指導を行う。 (76 松原 幸治) 熱工学を研究課題とし、多孔体および充填層等の複雑熱流動とそのエネルギー応用に関する研究指導を行う。 (113 牛田 晃臣) 流体工学を研究課題とし、複雑流体および非ニュートン流体の流動現象・ファインバブルを用いた技術開発に関する研究指導を行う。 (141 坂本 秀一) 機械音響工学を研究課題とし、吸音材料、吸音構造、遮音材料、消音器などに関して実験的・理論的な研究指導を行う。 (142 櫻井 篤) サーマルフォトリクスを研究課題とし、光エネルギー制御技術や光起電力発電、放射冷却デバイスに関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅲ-D（先進 機械システム）		（156 寒川 雅之） マイクロマシン(MEMS)技術を用いたセンサやアクチュエータなどのマイクロデバイスの開発と応用を研究課題とし、それらの検知原理や設計・解析手法、作製プロセス、動作分析・評価、応用計測手法等に関する研究指導を行う。 （167 月山 陽介） 機械工学におけるトライボロジーを研究課題とし、機能的表面の創製および評価に関する研究指導を行う。 （189 平尾 篤利） 放電加工の加工特性および現象解明に関する研究指導を行う。 （212 山縣 貴幸） 機械システムにおける流れ関連現象の可視化、計測、制御を研究課題とし、流れ加速型腐食による配管減肉、歳差回転流れによる混合に関する研究指導を行う。 （241 中倉 満帆） 多孔体や充填層といった複雑構造内で起こる熱流動現象の解明と応用を研究課題とし、その数値シミュレーション法やモデリング、実験による検証法に関する研究指導を行う。 （256 渡邊 智洋） テラメカニクスおよびロボティクスを研究課題とし、不整地移動機構およびロボットに関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅳ-D（先進 機械システム）		修士の学位申請論文が完成するレベルにまで研究を推進し、その成果を学会等で発表・議論する。そのために、研究課題に関連した機械工学や関連分野の専門知識を理解・応用するとともに、発表や議論のためのコミュニケーション能力の向上を目的とする。 （3 安部 隆） センサ・マイクロマシン分野の研究開発を研究課題とし、新しいセンサ・マイクロマシンの考案、作製技術や評価方法に関する研究指導を行う。 （15 尾田 雅文） 医療用デバイスに関わる臨床の場における技術的課題の解決を研究課題とし、現状の医用デバイスの課題の抽出、改善方法の検討、力学的検討等に関する研究指導を行う。 （33 佐々木 朋裕） マルチマテリアル化のための接合技術とその周辺の非破壊検査技術を研究課題とし、接合を中心とした材料学の基礎、および画像計測、振動計測、制御技術に関する研究指導を行う。 （66 平元 和彦） 機械システムにおける運動と振動の制御系設計を研究課題とし、地震外乱を受ける構造系の振動制御や、液体搬送系のスロッシング抑制制御に関する研究指導を行う。 （76 松原 幸治） 熱工学を研究課題とし、多孔体および充填層等の複雑熱流動とそのエネルギー応用に関する研究指導を行う。 （113 牛田 晃臣） 流体工学を研究課題とし、複雑流体および非ニュートン流体の流動現象・ファインバブルを用いた技術開発に関する研究指導を行う。 （141 坂本 秀一） 機械音響工学を研究課題とし、吸音材料、吸音構造、遮音材料、消音器などに関して実験的・理論的な研究指導を行う。 （142 櫻井 篤） サーマルフォトリクスを研究課題とし、光エネルギー制御技術や光起電力発電、放射冷却デバイスに関する研究指導を行う。 （156 寒川 雅之） マイクロマシン(MEMS)技術を用いたセンサやアクチュエータなどのマイクロデバイスの開発と応用を研究課題とし、それらの検知原理や設計・解析手法、作製プロセス、動作分析・評価、応用計測手法等に関する研究指導を行う。 （167 月山 陽介） 機械工学におけるトライボロジーを研究課題とし、機能的表面の創製および評価に関する研究指導を行う。 （189 平尾 篤利） 放電加工の加工特性および現象解明に関する研究指導を行う。 （212 山縣 貴幸） 機械システムにおける流れ関連現象の可視化、計測、制御を研究課題とし、流れ加速型腐食による配管減肉、歳差回転流れによる混合に関する研究指導を行う。 （241 中倉 満帆） 多孔体や充填層といった複雑構造内で起こる熱流動現象の解明と応用を研究課題とし、その数値シミュレーション法やモデリング、実験による検証法に関する研究指導を行う。 （256 渡邊 智洋） テラメカニクスおよびロボティクスを研究課題とし、不整地移動機構およびロボットに関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅰ-D（電子情報通信システム）		電子情報通信工学の最先端の内容にかかわる研究を行う。研究活動を通して、電子情報通信分野の課題を発見し、発見した課題を専門知識に基づいて解決するための方法を見出し、具体的に解析・検証する能力を習得する。実施において、各指導教員は必要に応じて適宜アドバイスをし、自主的な研究遂行を促進する。研究の進捗状況に関する報告資料を適宜提出させる。提出された資料に基づいて、達成度を評価する。 （22 熊野 英和） 文理融合視点で課題発見し、広く電子情報システム関連技術を用いた課題解決に向けた社会実装に関する研究指導を行う。 （32 佐々木 重信） デジタル無線通信ネットワークを研究課題とし、デジタル変復調及び符号化、コグニティブ無線技術、サステナブル無線センサネットワークに関する研究指導を行う。 （37 新保 一成） 電気電子材料を研究課題とし、特に有機薄膜デバイスの作製と特性評価に関する研究指導を行う。 （63 馬場 暁） 有機エレクトロニクスを研究課題とし、プラズモニック有機デバイス・バイオセンサに関する研究指導を行う。 （67 福井 聡） 超伝導材料のマイクロな電磁現象の解明・把握に立脚し、常伝導では実現困難なエネルギー効率が高く環境に優しくコンパクト・大容量な電気機器・産業機器の実現に向けた研究を行う。 （73 増田 淳） 太陽電池・太陽光発電を研究課題とし、太陽電池の高効率化・信頼性向上等に関する研究指導を行う。 （82 村松 正吾） 多次元信号および画像処理を研究課題とし、信号復元、画像解析、組込みビジョンシステムの技術開発およびその応用に関する研究指導を行う。 （118 大平 泰生） ソフトマターの光操作法の開発と光センシングへの応用を研究課題とし、近接場光と光応答性材料を用いたナノマイクロ構造の光形成、光信号制御および光情報処理などに関する研究指導を行う。 （125 小川 純） 高温超電導の交流損失の評価、低減を研究課題とし、超電導電力機器を構成する超電導コイル、超電導ケーブル、超電導共振器に関する研究指導を行う。 （133 KIM MINSEOK） 情報通信を研究課題とし、通信システム・アンテナ伝搬・信号処理に関する研究指導を行う。 （137 後藤 和泰） 太陽電池や摩擦発電デバイスなどを研究課題とし、半導体材料・デバイスおよびそれらの界面制御のプロセス・評価など電気電子材料工学に関する研究指導を行う。 （147 清水 英彦） デバイス用薄膜の作製を研究課題とし、機能性材料の薄膜化及び特性制御に関する研究指導を行う。 （149 城内 紗千子） 再生可能エネルギーを研究課題とし、有機デバイスに関する研究指導を行う。 （150 菅原 晃） 電力量工学、高電圧工学、および風力・太陽光等の再生可能エネルギーにおける諸問題や未解決課題を研究テーマとし、実験やシミュレーションを通じ課題の探求と解決手法について研究指導を行う。 （166 崔 森悦） 光エレクトロニクスを基盤とする光計測及び生体光計測技術の開発を研究課題とし、干渉計測、光コヒーレンストモグラフィーに関する研究指導を行う。 （213 山家 清之） プラズマ物理現象の解明を研究課題とし、プラズマエネルギー生成、プラズマ物性、プラズマ特性計測に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅱ-D（電子 情報通信システム）		課題研究Ⅰ-Dに引き続いて、電子情報通信工学の最先端の内容にかかわる研究を行う。研究活動を通して、電子情報通信分野の課題を発見し、発見した課題を専門知識に基づいて解決するための方法を見出し、具体的に解析・検証する能力を習得する。また、研究内容を他者と討論するなどのコミュニケーション能力や成果をプレゼンテーションする能力を磨く。実施において、各指導教員は必要に応じて適宜アドバイスをし、自主的な研究遂行を促進する。研究の進捗状況に関する報告資料を適宜提出させる。提出された資料に基づいて、達成度を評価する。 （22 熊野 英和） 文理融合視点で課題発見し、広く電子情報システム関連技術を用いた課題解決に向けた社会実装に関する研究指導を行う。 （32 佐々木 重信） デジタル無線通信ネットワークを研究課題とし、デジタル変復調及び符号化、コグニティブ無線技術、サステナブル無線センサネットワークに関する研究指導を行う。 （37 新保 一成） 電気電子材料を研究課題とし、特に有機薄膜デバイスの作製と特性評価に関する研究指導を行う。 （63 馬場 暁） 有機エレクトロニクスを研究課題とし、プラズモニック有機デバイス・バイオセンサに関する研究指導を行う。 （67 福井 聡） 超伝導材料のミクロな電磁現象の解明・把握に立脚し、常伝導では実現困難なエネルギー効率が高く環境に優しくコンパクト・大容量な電気機器・産業機器の実現に向けた研究を行う。 （73 増田 淳） 太陽電池・太陽光発電を研究課題とし、太陽電池の高効率化・信頼性向上等に関する研究指導を行う。 （82 村松 正吾） 多次元信号および画像処理を研究課題とし、信号復元、画像解析、組込みビジョンシステムの技術開発およびその応用に関する研究指導を行う。 （118 大平 泰生） ソフトマターの光操作法の開発と光センシングへの応用を研究課題とし、近接場光と光応答性材料を用いたナノマイクロ構造の光形成、光信号制御および光情報処理などに関する研究指導を行う。 （125 小川 純） 高温超電導の交流損失の評価、低減を研究課題とし、超電導電力機器を構成する超電導コイル、超電導ケーブル、超電導共振器に関する研究指導を行う。 （133 KIM MINSEOK） 情報通信を研究課題とし、通信システム・アンテナ伝搬・信号処理に関する研究指導を行う。 （137 後藤 和泰） 太陽電池や摩擦発電デバイスなどを研究課題とし、半導体材料・デバイスおよびそれらの界面制御のプロセス・評価など電気電子材料工学に関する研究指導を行う。 （147 清水 英彦） デバイス用薄膜の作製を研究課題とし、機能性材料の薄膜化及び特性制御に関する研究指導を行う。 （149 城内 紗千子） 再生可能エネルギーを研究課題とし、有機デバイスに関する研究指導を行う。 （150 菅原 晃） 電力工学、高電圧工学、および風力・太陽光等の再生可能エネルギーにおける諸問題や未解決課題を研究テーマとし、実験やシミュレーションを通し課題の探求と解決手法について研究指導を行う。 （166 崔 森悦） 光エレクトロニクスを基盤とする光計測及び生体光計測技術の開発を研究課題とし、干渉計測、光コヒーレンストモグラフィーに関する研究指導を行う。 （213 山家 清之） プラズマ物理現象の解明を研究課題とし、プラズマエネルギー生成、プラズマ物性、プラズマ特性計測に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅲ-D（電子情報通信システム）		課題研究Ⅱ-Dに引き続いて、電子情報通信工学の最先端の内容にかかわる研究を行う。研究活動を通して、電子情報通信分野の課題を発見し、発見した課題を専門知識に基づいて解決するための方法を見出し、具体的に解析・検証する能力を習得する。また、研究内容を学会等で発表することを視野に、プレゼンテーション能力を磨く。実施において、各指導教員は必要に応じて適宜アドバイスをし、自主的な研究遂行を促進する。研究の進捗状況に関する報告資料を適宜提出させる。提出された資料に基づいて、達成度を評価する。 （22 熊野 英和） 文理融合視点で課題発見し、広く電子情報システム関連技術を用いた課題解決に向けた社会実装に関する研究指導を行う。 （32 佐々木 重信） デジタル無線通信ネットワークを研究課題とし、デジタル変復調及び符号化、コグニティブ無線技術、サステナブル無線センサネットワークに関する研究指導を行う。 （37 新保 一成） 電気電子材料を研究課題とし、特に有機薄膜デバイスの作製と特性評価に関する研究指導を行う。 （63 馬場 暁） 有機エレクトロニクスを研究課題とし、プラズマ有機デバイス・バイオセンサに関する研究指導を行う。 （67 福井 聡） 超伝導材料のミクロな電磁現象の解明・把握に立脚し、常伝導では実現困難なエネルギー効率が高く環境に優しくコンパクト・大容量な電気機器・産業機器の実現に向けた研究を行う。 （73 増田 淳） 太陽電池・太陽光発電を研究課題とし、太陽電池の高効率化・信頼性向上等に関する研究指導を行う。 （82 村松 正吾） 多次元信号および画像処理を研究課題とし、信号復元、画像解析、組込みビジョンシステムの技術開発およびその応用に関する研究指導を行う。 （118 大平 泰生） ソフトマターの光操作法の開発と光センシングへの応用を研究課題とし、近接場光と光応答性材料を用いたナノマイクロ構造の光形成、光信号制御および光情報処理などに関する研究指導を行う。 （125 小川 純） 高温超電導の交流損失の評価、低減を研究課題とし、超電導電力機器を構成する超電導コイル、超電導ケーブル、超電導共振器に関する研究指導を行う。 （133 KIM MINSEOK） 情報通信を研究課題とし、通信システム・アンテナ伝搬・信号処理に関する研究指導を行う。 （137 後藤 和泰） 太陽電池や摩擦発電デバイスなどを研究課題とし、半導体材料・デバイスおよびそれらの界面制御のプロセス・評価など電気電子材料工学に関する研究指導を行う。 （147 清水 英彦） デバイス用薄膜の作製を研究課題とし、機能性材料の薄膜化及び特性制御に関する研究指導を行う。 （149 城内 紗千子） 再生可能エネルギーを研究課題とし、有機デバイスに関する研究指導を行う。 （150 菅原 晃） 電力工学、高電圧工学、および風力・太陽光等の再生可能エネルギーにおける諸問題や未解決課題を研究テーマとし、実験やシミュレーションを通し課題の探求と解決手法について研究指導を行う。 （166 崔 森悦） 光エレクトロニクスを基盤とする光計測及び生体光計測技術の開発を研究課題とし、干渉計測、光コヒーレンストモグラフィーに関する研究指導を行う。 （213 山家 清之） プラズマ物理現象の解明を研究課題とし、プラズマエネルギー生成、プラズマ物性、プラズマ特性計測に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅳ-D（電子情報通信システム）		電子情報通信工学の最先端の内容にかかわる研究を行う。研究活動を通して、電子情報通信分野の課題を発見し、発見した課題を専門知識に基づいて解決するための方法を見出し、具体的に解析・検証する能力を習得する。また、研究内容を他者と討論するなどのコミュニケーション能力や成果をプレゼンテーションする能力を磨く。実施において、各指導教員は必要に応じて適宜アドバイスをし、自主的な研究遂行を促進する。研究の進捗状況に関する報告資料を適宜提出させる。提出された資料に基づいて、達成度を評価する。 （22 熊野 英和） 文理融合視点で課題発見し、広く電子情報システム関連技術を用いた課題解決に向けた社会実装に関する研究指導を行う。 （32 佐々木 重信） ディジタル無線通信ネットワークを研究課題とし、ディジタル変復調及び符号化、コグニティブ無線技術、サステナブル無線センサネットワークに関する研究指導を行う。 （37 新保 一成） 電気電子材料を研究課題とし、特に有機薄膜デバイスの作製と特性評価に関する研究指導を行う。 （63 馬場 暁） 有機エレクトロニクスを研究課題とし、プラズモニク有機デバイス・バイオセンサに関する研究指導を行う。 （67 福井 聡） 超伝導材料のミクロな電磁現象の解明・把握に立脚し、常伝導では実現困難なエネルギー効率が高く環境に優しくコンパクト・大容量な電気機器・産業機器の実現に向けた研究を行う。 （73 増田 淳） 太陽電池・太陽光発電を研究課題とし、太陽電池の高効率化・信頼性向上等に関する研究指導を行う。 （82 村松 正吾） 多次元信号および画像処理を研究課題とし、信号復元、画像解析、組込みビジョンシステムの技術開発およびその応用に関する研究指導を行う。 （118 大平 泰生） ソフトマターの光操作法の開発と光センシングへの応用を研究課題とし、近接場光と光応答性材料を用いたナノマイクロ構造の光形成、光信号制御および光情報処理などに関する研究指導を行う。 （125 小川 純） 高温超電導の交流損失の評価、低減を研究課題とし、超電導電力機器を構成する超電導コイル、超電導ケーブル、超電導共振器に関する研究指導を行う。 （133 KIM MINSEOK） 情報通信を研究課題とし、通信システム・アンテナ伝搬・信号処理に関する研究指導を行う。 （137 後藤 和泰） 太陽電池や摩擦発電デバイスなどを研究課題とし、半導体材料・デバイスおよびそれらの界面制御のプロセス・評価など電気電子材料工学に関する研究指導を行う。 （147 清水 英彦） デバイス用薄膜の作製を研究課題とし、機能性材料の薄膜化及び特性制御に関する研究指導を行う。 （149 城内 紗千子） 再生可能エネルギーを研究課題とし、有機デバイスに関する研究指導を行う。 （150 菅原 晃） 電力工学、高電圧工学、および風力・太陽光等の再生可能エネルギーにおける諸問題や未解決課題を研究テーマとし、実験やシミュレーションを通し課題の探求と解決手法について研究指導を行う。 （166 崔 森悦） 光エレクトロニクスを基盤とする光計測及び生体光計測技術の開発を研究課題とし、干渉計測、光コヒーレンストモグラフィーに関する研究指導を行う。 （213 山家 清之） プラズマ物理現象の解明を研究課題とし、プラズマエネルギー生成、プラズマ物性、プラズマ特性計測に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅰ-D（人間情報システム）		本講義の目標は、国内外での学会発表とその予稿原稿の執筆、修士論文の執筆と発表ができるようになることである。この目標に向けて、学生は指導教員から人間情報システムに関する研究について指導を受ける。指導は研究室ごとのゼミ形式で行う。すなわち、個別、もしくは少人数で報告、発表、討論を行う。研究室ごとにその頻度や内容は異なるが、概ね週に1回以上のミーティングを持ち、一般的には研究進捗報告と今後の計画・目標の設定、論文の指導、発表の指導を行う。課題研究Ⅰでは、研究テーマの適切な選択を中心に指導を行う。 （6 飯島 淳彦） 生体医工学・神経生理学を研究課題とし、生体計測から得られる生体情報の解析から医療やヘルスケアに関する研究指導を行う。 （48 田中 幸治） 音楽における演奏を研究課題とし、音楽と自然科学との関わり、音楽と工学との融合に関する研究指導を行う。 （61 橋本 学） デザイン表現・環境芸術を研究課題とし、地域活性化を視野に入れた実践研究に関する研究指導を行う。 （70 堀 潤一） 生体医工学を研究課題とし、生体計測、生体信号処理・解析、神経工学等に関する研究指導を行う。 （72 前田 義信） 人間支援科学を研究課題とし、音楽演奏と運動を組み合わせた健康システム、急性内斜視の原因推定のための輻湊運動に関する注視点検出、学校いじめ問題解決のためのマルチエージェントシステム、マインドフルネス支援のための呼吸リズムに同期したランプシステム、に関する研究指導を行う。 （95 渡辺 哲也） 障害者を支援する技術開発を研究課題とし、課題発見、課題解決のための問題の設定、分析、解決の各手法に関する研究指導を行う。 （107 岩城 護） 音声聴覚の情報処理や信号処理を研究課題とし、音声や音楽の生成・加工・認識などの情報処理・分析の理解と応用に関する研究指導を行う。 （186 林 智彦） 生物物理学、計算科学、臨床バイオメカニクスを研究課題とし、バイオ医薬品の物理理論に基づく高速デザイン法の開発、生体内/外のイメージ同期による動作分析の医工学的応用、医療画像解析による臨床支援技術の開発に関する研究指導を行う。 （204 三村 友子） 工学と芸術の融合表現を研究課題とし、立体造形・空間構成表現・環境芸術に関する研究指導を行う。 （240 棚橋 重仁） 「人の視知覚・認知特性」を研究課題とし、空間知覚における多感覚統合、人の知覚特性を反映したXRプラットフォームの開発、災害時の人の行動特性や防災に強い都市開発、防災教育、アナログとデジタルの境界線の芸術表現、学習方略の最適化や学習の継続性に関する研究指導を行う。 （243 中村 有花） 物理学を用いた生命現象の解明を研究課題とし、タンパク質のダイナミクスに溶媒が及ぼす影響に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅱ-D（人間情報システム）		本講義の目標は、国内外での学会発表とその予稿原稿の執筆、修士論文の執筆と発表ができるようになることである。この目標に向けて、学生は指導教員から人間情報システムに関する研究について指導を受ける。指導は研究室ごとのゼミ形式で行う。すなわち、個別、もしくは少人数で報告、発表、討論を行う。研究室ごとにその頻度や内容は異なるが、概ね週に1回以上のミーティングを持ち、一般的には研究進捗報告と今後の計画・目標の設定、論文の指導、発表の指導を行う。課題研究Ⅱでは、研究（実験または開発）の推進を中心に指導を行う。 （6 飯島 淳彦） 生体医工学・神経生理学を研究課題とし、生体計測から得られる生体情報の解析から医療やヘルスケアに関する研究指導を行う。 （48 田中 幸治） 音楽における演奏を研究課題とし、音楽と自然科学との関わり、音楽と工学との融合に関する研究指導を行う。 （61 橋本 学） デザイン表現・環境芸術を研究課題とし、地域活性化を視野に入れた実践研究に関する研究指導を行う。 （70 堀 潤一） 生体医工学を研究課題とし、生体計測、生体信号処理・解析、神経工学等に関する研究指導を行う。 （72 前田 義信） 人間支援科学を研究課題とし、音楽演奏と運動を組み合わせた健康システム、急性内斜視の原因推定のための輻湊運動に関する注視点検出、学校いじめ問題解決のためのマルチエージェントシステム、マインドフルネス支援のための呼吸リズムに同期したランプシステム、に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅱ-D（人間 情報システム）		（95 渡辺 哲也） 障害者を支援する技術開発を研究課題とし、課題発見、課題解決のための問題の設定、分析、解決の各手法に関する研究指導を行う。 （107 岩城 護） 音声聴覚の情報処理や信号処理を研究課題とし、音声や音楽の生成・加工・認識などの情報処理・分析の理解と応用に関する研究指導を行う。 （186 林 智彦） 生物物理学、計算科学、臨床バイオメカニクスを研究課題とし、バイオ医薬品の物理理論に基づく高速デザイン法の開発、生体内/外のイメージ同期による動作分析の医工学的応用、医療画像解析による臨床支援技術の開発に関する研究指導を行う。 （204 三村 友子） 工学と芸術の融合表現を研究課題とし、立体造形・空間構成表現・環境芸術に関する研究指導を行う。 （240 棚橋 重仁） 「人の視知覚・認知特性」を研究課題とし、空間知覚における多感覚統合、人の知覚特性を反映したXRプラットフォームの開発、災害時の人の行動特性や防災に強い都市開発、防災教育、アナログとデジタルの境界線の芸術表現、学習方略の最適化や学習の継続性に関する研究指導を行う。 （243 中村 有花） 物理学を用いた生命現象の解明を研究課題とし、タンパク質のダイナミクスに溶媒が及ぼす影響に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅲ-D（人間 情報システム）		本講義の目標は、国内外での学会発表とその予稿原稿の執筆、修士論文の執筆と発表ができるようになることである。この目標に向けて、学生は指導教員から人間情報システムに関する研究について指導を受ける。指導は研究室ごとのゼミ形式で行う。すなわち、個別、もしくは少人数で報告、発表、討論を行う。研究室ごとにその頻度や内容は異なるが、概ね週に1回以上のミーティングを持ち、一般的には研究進捗報告と今後の計画・目標の設定、論文の指導、発表の指導を行う。 課題研究Ⅲでは、研究（実験または開発）の推進、学会発表とその予稿原稿の執筆を中心に指導を行う。 （6 飯島 淳彦） 生体医工学・神経生理学を研究課題とし、生体計測から得られる生体情報の解析から医療やヘルスケアに関する研究指導を行う。 （48 田中 幸治） 音楽における演奏を研究課題とし、音楽と自然科学との関わり、音楽と工学との融合に関する研究指導を行う。 （61 橋本 学） デザイン表現・環境芸術を研究課題とし、地域活性化を視野に入れた実践研究に関する研究指導を行う。 （70 堀 潤一） 生体医工学を研究課題とし、生体計測、生体信号処理・解析、神経工学等に関する研究指導を行う。 （72 前田 義信） 人間支援科学を研究課題とし、音楽演奏と運動を組み合わせさせた健康システム、急性内斜視の原因推定のための輻湊運動に関する注視点検出、学校いじめ問題解決のためのマルチエージェントシステム、マインドフルネス支援のための呼吸リズムに同期したランプシステム、に関する研究指導を行う。 （95 渡辺 哲也） 障害者を支援する技術開発を研究課題とし、課題発見、課題解決のための問題の設定、分析、解決の各手法に関する研究指導を行う。 （107 岩城 護） 音声聴覚の情報処理や信号処理を研究課題とし、音声や音楽の生成・加工・認識などの情報処理・分析の理解と応用に関する研究指導を行う。 （186 林 智彦） 生物物理学、計算科学、臨床バイオメカニクスを研究課題とし、バイオ医薬品の物理理論に基づく高速デザイン法の開発、生体内/外のイメージ同期による動作分析の医工学的応用、医療画像解析による臨床支援技術の開発に関する研究指導を行う。 （204 三村 友子） 工学と芸術の融合表現を研究課題とし、立体造形・空間構成表現・環境芸術に関する研究指導を行う。 （240 棚橋 重仁） 「人の視知覚・認知特性」を研究課題とし、空間知覚における多感覚統合、人の知覚特性を反映したXRプラットフォームの開発、災害時の人の行動特性や防災に強い都市開発、防災教育、アナログとデジタルの境界線の芸術表現、学習方略の最適化や学習の継続性に関する研究指導を行う。 （243 中村 有花） 物理学を用いた生命現象の解明を研究課題とし、タンパク質のダイナミクスに溶媒が及ぼす影響に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅳ-D（人間 情報システム）		本講義の目標は、国内外での学会発表とその予稿原稿の執筆、修士論文の執筆と発表ができるようになることである。この目標に向けて、学生は指導教員から人間情報システムに関する研究について指導を受ける。指導は研究室ごとのゼミ形式で行う。すなわち、個別、もしくは少人数で報告、発表、討論を行う。研究室ごとにその頻度や内容は異なるが、概ね週に1回以上のミーティングを持ち、一般的には研究進捗報告と今後の計画・目標の設定、論文の指導、発表の指導を行う。課題研究Ⅳでは、修士論文の執筆と発表を中心に指導を行う。 （6 飯島 淳彦） 生体医工学・神経生理学を研究課題とし、生体計測から得られる生体情報の解析から医療やヘルスケアに関する研究指導を行う。 （48 田中 幸治） 音楽における演奏を研究課題とし、音楽と自然科学との関わり、音楽と工学との融合に関する研究指導を行う。 （61 橋本 学） デザイン表現・環境芸術を研究課題とし、地域活性化を視野に入れた実践研究に関する研究指導を行う。 （70 堀 潤一） 生体医工学を研究課題とし、生体計測、生体信号処理・解析、神経工学等に関する研究指導を行う。 （72 前田 義信） 人間支援科学を研究課題とし、音楽演奏と運動を組み合わせた健康システム、急性内斜視の原因推定のための輻湊運動に関する注視点検出、学校いじめ問題解決のためのマルチエージェントシステム、マインドフルネス支援のための呼吸リズムに同期したランプシステム、に関する研究指導を行う。 （95 渡辺 哲也） 障害者を支援する技術開発を研究課題とし、課題発見、課題解決のための問題の設定、分析、解決の各手法に関する研究指導を行う。 （107 岩城 護） 音声聴覚の情報処理や信号処理を研究課題とし、音声や音楽の生成・加工・認識などの情報処理・分析の理解と応用に関する研究指導を行う。 （186 林 智彦） 生物物理学、計算科学、臨床バイオメカニクスを研究課題とし、バイオ医薬品の物理理論に基づく高速デザイン法の開発、生体内/外のイメージ同期による動作分析の医工学的応用、医療画像解析による臨床支援技術の開発に関する研究指導を行う。 （204 三村 友子） 工学と芸術の融合表現を研究課題とし、立体造形・空間構成表現・環境芸術に関する研究指導を行う。 （240 棚橋 重仁） 「人の視知覚・認知特性」を研究課題とし、空間知覚における多感覚統合、人の知覚特性を反映したXRプラットフォームの開発、災害時の人の行動特性や防災に強い都市開発、防災教育、アナログとデジタルの境界線の芸術表現、学習方略の最適化や学習の継続性に関する研究指導を行う。 （243 中村 有花） 物理学を用いた生命現象の解明を研究課題とし、タンパク質のダイナミクスに溶媒が及ぼす影響に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究 I-E（基礎 生命科学）		本科目の概要は、基礎生命科学（ライフサイエンス）の各専門分野の教員の指導のもと、修士論文を作成するため、①教員との議論②議論の中で必要となった予備的な調査③文献調査等を行うことにより、研究の目的や概要や背景を理解するとともに研究遂行のために必要な実験方法の検討およびその妥当性について議論し、研究を計画していく能力を身につけることである。基礎生命科学（ライフサイエンス）に関わる各専門分野における課題解決に向けた研究計画の立案、必要な研究遂行のための方法、計画通り進行しなかった場合に別の手段・方法に換えることの提案、条件検討について、的確に議論できる能力を身につける。 （5 安東 宏徳） 魚類の生殖神経内分泌学を研究課題として、魚類の月齢・潮汐同調産卵の調節に関する研究指導を行う。 （30 酒井 達也） 植物の環境応答機構について、分子遺伝学的手法による解析に関する研究指導を行う。 （8 井筒 ゆみ） 両生類の発生と免疫を研究課題とし、上皮組織リモデリングにおける自己抗原タンパク質を介したT細胞の分子認識機構に関する研究指導を行う。 （57 長束 俊治） 糖鎖分子の構造機能相関に関する研究、特に、個体発生初期において必須である糖鎖構造の生理的機能の解明、小型仔魚が外分泌する糖ペプチドの機能解明、癌や生活習慣病のバイオマーカーとなる糖鎖構造の探索研究、糖鎖の自動分析装置である糖鎖シーケンサーの研究開発などについて研究指導を行う。 （60 西川 周一） 植物細胞生物学を研究課題とし、陸上植物の有性生殖における細胞内構造の動態とその生理機能の解析に関する研究指導を行う。 （103 伊東 孝祐） 遺伝情報発現の構造・機能研究を研究課題として、分子生物学や構造生物学的手法および研究の推進方法に関する研究指導を行う。 （172 藤間 真紀） 免疫応答機序の解明を研究課題とし、免疫細胞の機能と作用機序に関する研究指導を行う。 （128 加藤 朗） 植物におけるペルオキシソームの形成および機能制御機構の解明を研究課題とし、シロイヌナズナやゼニゴケの突然変異体を用いたペルオキシソームタンパク質の生理機能解析に関する研究指導を行う。 （151 杉本 健吉） 造血制御機構の解明を研究課題とし、遺伝子工学、細胞工学、タンパク質工学に関する研究指導を行う。 （155 墨谷 暢子） 藻類を中心とした植物の進化細胞生物学を研究課題とし、細胞やオルガネラの分裂に関する研究指導を行う。 （159 高橋 宏司） 魚類を中心とした動物の行動から心理・認知を探ることを研究課題とし、比較認知科学・認知生態学に関する研究指導を行う。 （163 田崎 英祐） シロアリの王と女王の活動的長寿の分子基盤の解明を研究課題とし、彼らの多産かつ長寿を実現する生体分子および代謝システムの解析に関する研究指導を行う。 （187 林 八寿子） 細胞内オルガネラの進化と多様性を研究課題とし、藻類から陸上植物へと進化する過程での細胞内オルガネラの機能の進化や多様性や、さまざまな環境下でのオルガネラの相互関係に関する研究指導を行う。 （229 大森 紹仁） 海産無脊椎動物の進化発生学を研究課題とし、主に棘皮動物を用いて、発生過程における体軸や体組織の進化に関する研究指導を行う。 （232 神林 千晶） 動物の進化や多様性が生じた要因の解明に関するテーマを研究課題とし、その遂行に必要なフィールドでのサンプル採集、形態観察、分子実験、データ解析等の研究指導を行う。 （249 藤村 衡至） 脊椎動物の進化発生学を研究課題とし、淡水魚を用いた発生生物学とゲノム生物学の観点から生物進化・多様性に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅱ-E（基礎生命科学）		本科目の概要は、基礎生命科学（ライフサイエンス）の各専門分野の教員の指導のもと、修士論文を作成するため、教員との討論や議論を通じて、研究の目的や概要を明らかにし、研究遂行のために必要な実験方法を取得するとともに研究を遂行していく能力を養うことである。基礎生命科学（ライフサイエンス）に関わる各専門分野における課題を深く理解し、その問題解決に向けた分析を的確に遂行することを目的としている。本講義をとおして、専門分野における課題を深く理解し、その課題解決に向け、的確な研究計画の立案、研究遂行のための実行方法の検討、当性について理解し、さらには研究方法の変更や見直しについても議論する。学習の達成目標は、実験計画を立案し遂行するのみならず、計画通り進行しなかった場合の研究方法の変更や見直しなどの確に対応できる能力を養い、決められた期間内で結果をまとめることのできる能力を身につけることである。 （5 安東 宏徳） 魚類の生殖神経内分泌学を研究課題として、魚類の月齢・潮汐同調産卵の調節に関する研究指導を行う。 （30 酒井 達也） 植物の環境応答機構について、分子遺伝学的手法による解析に関する研究指導を行う。 （8 井筒 ゆみ） 両生類の発生と免疫を研究課題とし、上皮組織リモデリングにおける自己抗原タンパク質を介したT細胞の分子認識機構に関する研究指導を行う。 （57 長束 俊治） 糖鎖分子の構造機能相関に関する研究、特に、個体発生初期において必須である糖鎖構造の生理的機能の解明、小型仔魚が外分泌する糖ペプチドの機能解明、癌や生活習慣病のバイオマーカーとなる糖鎖構造の探索研究、糖鎖の自動分析装置である糖鎖シーケンサーの研究開発などについて研究指導を行う。 （60 西川 周一） 植物細胞生物学を研究課題とし、陸上植物の有性生殖における細胞内構造の動態とその生理機能の解析に関する研究指導を行う。 （103 伊東 孝祐） 遺伝情報発現の構造・機能研究を研究課題として、分子生物学や構造生物学的手法および研究の推進方法に関する研究指導を行う。 （172 藤間 真紀） 免疫応答機序の解明を研究課題とし、免疫細胞の機能と作用機序に関する研究指導を行う。 （128 加藤 朗） 植物におけるペロオキシソームの形成および機能制御機構の解明を研究課題とし、シロイヌナズナやゼニゴケの突然変異体を用いたペロオキシソームタンパク質の生理機能解析に関する研究指導を行う。 （151 杉本 健吉） 造血制御機構の解明を研究課題とし、遺伝子工学、細胞工学、タンパク質工学に関する研究指導を行う。 （155 墨谷 暢子） 藻類を中心とした植物の進化細胞生物学を研究課題とし、細胞やオルガネラの分裂に関する研究指導を行う。 （159 高橋 宏司） 魚類を中心とした動物の行動から心理・認知を探ることを研究課題とし、比較認知科学・認知生態学に関する研究指導を行う。 （163 田崎 英祐） シロアリの王と女王の活動的長寿の分子基盤の解明を研究課題とし、彼らの多産かつ長寿を実現する生体分子および代謝システムの解析に関する研究指導を行う。 （187 林 八寿子） 細胞内オルガネラの進化と多様性を研究課題とし、藻類から陸上植物へと進化する過程での細胞内オルガネラの機能の進化や多様性や、さまざまな環境下でのオルガネラの相互関係に関する研究指導を行う。 （229 大森 紹仁） 海産無脊椎動物の進化発生学を研究課題とし、主に棘皮動物を用いて、発生過程における体軸や体組織の進化に関する研究指導を行う。 （232 神林 千晶） 動物の進化や多様性が生じた要因の解明に関するテーマを研究課題とし、その遂行に必要なフィールドでのサンプル採集、形態観察、分子実験、データ解析等の研究指導を行う。 （249 藤村 衡至） 脊椎動物の進化発生学を研究課題とし、淡水魚を用い発生生物学とゲノム生物学の観点から生物進化・多様性に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅲ-E（基礎生命科学）		本科目の概要は、基礎生命科学（ライフサイエンス）の各専門分野の教員の指導のもと、修士論文を作成するために、教員との討論や議論を通じて、自身の研究の世界における位置付けを、関連の科学論文を中心に明らかにするとともに、実験方法や実験データから導き出された知見の妥当性を国内外に発表していく能力を養うことである。学習の達成目標は、修士論文を作成するため、立案した実験計画を遂行するだけでなく、計画通り進行しなかった場合に、研究方法の変更や見直しなどの確に対応できる能力を養い、決められた期間内で得られた知見を公表に向けてまとめることのできる能力を身につけることである。 （5 安東 宏徳） 魚類の生殖神経内分泌学を研究課題として、魚類の月齢・潮汐同調産卵の調節に関する研究指導を行う。 （30 酒井 達也） 植物の環境応答機構について、分子遺伝学的手法による解析に関する研究指導を行う。 （8 井筒 ゆみ） 両生類の発生と免疫を研究課題とし、上皮組織リモデリングにおける自己抗原タンパク質を介したT細胞の分子認識機構に関する研究指導を行う。 （57 長束 俊治） 糖鎖分子の構造機能相関に関する研究、特に、個体発生初期において必須である糖鎖構造の生理的機能の解明、小型仔魚が外分泌する糖ペプチドの機能解明、癌や生活習慣病のバイオマーカーとなる糖鎖構造の探索研究、糖鎖の自動分析装置である糖鎖シーケンサーの研究開発などについて研究指導を行う。 （60 西川 周一） 植物細胞生物学を研究課題とし、陸上植物の有性生殖における細胞内構造の動態とその生理機能の解析に関する研究指導を行う。 （103 伊東 孝祐） 遺伝情報発現の構造・機能研究を研究課題として、分子生物学や構造生物学的手法および研究の推進方法に関する研究指導を行う。 （172 藤間 真紀） 免疫応答機序の解明を研究課題とし、免疫細胞の機能と作用機序に関する研究指導を行う。 （128 加藤 朗） 植物におけるペルオキシソームの形成および機能制御機構の解明を研究課題とし、シロイヌナズナやゼニゴケの突然変異体を用いたペルオキシソームタンパク質の生理機能解析に関する研究指導を行う。 （151 杉本 健吉） 造血制御機構の解明を研究課題とし、遺伝子工学、細胞工学、タンパク質工学に関する研究指導を行う。 （155 墨谷 暢子） 藻類を中心とした植物の進化細胞生物学を研究課題とし、細胞やオルガネラの分裂に関する研究指導を行う。 （159 高橋 宏司） 魚類を中心とした動物の行動から心理・認知を探ることを研究課題とし、比較認知科学・認知生態学に関する研究指導を行う。 （163 田崎 英祐） シロアリの王と女王の活動的長寿の分子基盤の解明を研究課題とし、彼らの多産かつ長寿を実現する生体分子および代謝システムの解析に関する研究指導を行う。 （187 林 八寿子） 細胞内オルガネラの進化と多様性を研究課題とし、藻類から陸上植物へと進化する過程での細胞内オルガネラの機能の進化や多様性や、さまざまな環境下でのオルガネラの相互関係に関する研究指導を行う。 （229 大森 紹仁） 海産無脊椎動物の進化発生学を研究課題とし、主に棘皮動物を用いて、発生過程における体軸や体組織の進化に関する研究指導を行う。 （232 神林 千晶） 動物の進化や多様性が生じた要因の解明に関するテーマを研究課題とし、その遂行に必要なフィールドでのサンプル採集、形態観察、分子実験、データ解析等の研究指導を行う。 （249 藤村 衡至） 脊椎動物の進化発生学を研究課題とし、淡水魚を用い発生生物学とゲノム生物学の観点から生物進化・多様性に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅳ-E（基礎 生命科学）		本科目の概要は、基礎生命科学（ライフサイエンス）の各専門分野の教員の指導のもと、修士論文を完成させるために、教員との討論や議論を通じて、自身の研究の世界における位置付けを、関連の科学論文を中心に明らかにし、実験方法や実験データから導き出された知見の妥当性について、国内外で発表する能力を身につけることである。そのために、本講義では、基礎生命科学（ライフサイエンス）に関わる各分野における課題解決に向け、研究の立案、遂行、および調査項目の精査をし、得られたデータを的確に分析し考察していく。学習の達成目標は、決められた期間内で結果をまとめ、修士論文を完成させることのできる能力を身につけることである。 （5 安東 宏徳） 魚類の生殖神経内分泌学を研究課題として、魚類の月齢・潮汐同調産卵の調節に関する研究指導を行う。 （30 酒井 達也） 植物の環境応答機構について、分子遺伝学的手法による解析に関する研究指導を行う。 （8 井筒 ゆみ） 両生類の発生と免疫を研究課題とし、上皮組織リモデリングにおける自己抗原タンパク質を介したT細胞の分子認識機構に関する研究指導を行う。 （57 長束 俊治） 糖鎖分子の構造機能相関に関する研究、特に、個体発生初期において必須である糖鎖構造の生理的機能の解明、小型仔魚が外分泌する糖ペプチドの機能解明、癌や生活習慣病のバイオマーカーとなる糖鎖構造の探索研究、糖鎖の自動分析装置である糖鎖シーケンサーの研究開発などについて研究指導を行う。 （60 西川 周一） 植物細胞生物学を研究課題とし、陸上植物の有性生殖における細胞内構造の動態とその生理機能の解析に関する研究指導を行う。 （103 伊東 孝祐） 遺伝情報発現の構造・機能研究を研究課題として、分子生物学や構造生物学的手法および研究の推進方法に関する研究指導を行う。 （172 藤間 真紀） 免疫応答機序の解明を研究課題とし、免疫細胞の機能と作用機序に関する研究指導を行う。 （128 加藤 朗） 植物におけるペルオキシソームの形成および機能制御機構の解明を研究課題とし、シロイヌナズナやゼニゴケの突然変異体を用いたペルオキシソームタンパク質の生理機能解析に関する研究指導を行う。 （151 杉本 健吉） 造血制御機構の解明を研究課題とし、遺伝子工学、細胞工学、タンパク質工学に関する研究指導を行う。 （155 墨谷 暢子） 藻類を中心とした植物の進化細胞生物学を研究課題とし、細胞やオルガネラの分裂に関する研究指導を行う。 （159 高橋 宏司） 魚類を中心とした動物の行動から心理・認知を探ることを研究課題とし、比較認知科学・認知生態学に関する研究指導を行う。 （163 田崎 英祐） シロアリの王と女王の活動的長寿の分子基盤の解明を研究課題とし、彼らの多産かつ長寿を実現する生体分子および代謝システムの解析に関する研究指導を行う。 （187 林 八寿子） 細胞内オルガネラの進化と多様性を研究課題とし、藻類から陸上植物へと進化する過程での細胞内オルガネラの機能の進化や多様性や、さまざまな環境下でのオルガネラの相互関係に関する研究指導を行う。 （229 大森 紹仁） 海産無脊椎動物の進化発生学を研究課題とし、主に棘皮動物を用いて、発生過程における体軸や体組織の進化に関する研究指導を行う。 （232 神林 千晶） 動物の進化や多様性が生じた要因の解明に関するテーマを研究課題とし、その遂行に必要なフィールドでのサンプル採集、形態観察、分子実験、データ解析等の研究指導を行う。 （249 藤村 衡至） 脊椎動物の進化発生学を研究課題とし、淡水魚を用い発生生物学とゲノム生物学の観点から生物進化・多様性に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅰ-E（応用生命・食品科学）		課題研究Ⅰ-E（応用生命・食品科学）では、生命環境・食料科学プログラム中の応用生命・食品化学領域の各専門分野における研究を指導教員の指導の下に企画・立案・実施し、修士論文を完成するために、自身の研究の世界的な位置付けを関係論文を中心に明らかにするとともに、実験方法の妥当性を示し、得られた研究の結果について考察していく。最終的にライフサイエンス、フードサイエンス、農業に関わる分野における課題解決に向けた研究の立案、調査項目の精査ならびにデータを的確に分析できる能力を養うことを目的として、研究計画の立案を行うこと、および研究遂行のための実行方法の検討および妥当性について議論を行う。 （9 伊藤 紀美子） 気候変動の影響を回避する食料生産技術の開発を研究課題とし、主にイネのストレス応答と耐性発現に関する基礎研究および応用研究に関する研究指導を行う。 （12 大竹 憲邦） 土壌肥科学を研究課題とし、植物栄養学に関する研究指導を行う。 （19 北岡 本光） 糖質関連酵素の利活用を研究課題とし、糖質関連酵素の特性解析やそれらを利用した食品素材製造法に関する研究指導を行う。 （34 佐藤 努） 天然物化学、生物有機化学、ケミカルバイオロジーを研究課題とし、天然有機化合物の化学構造、生合成、生理活性に関する研究指導を行う。 （36 城 斗志夫） 食品のおいしさと機能性を研究課題とし、おいしさと機能性に関与する成分に関する研究指導を行う。 （39 鈴木 一史） 細菌の機能開発とその応用を研究課題とし、細菌の遺伝子発現調節機構、酵素の特性、バイオフィーム形成などに関する研究指導を行う。 （54 中野 優） 園芸学および植物細胞工学の分野で、植物バイオテクノロジーによる増殖・育種および園芸形質の決定に関する分子メカニズムの解明等について研究指導を行う。 （59 西海 理之） 食品製造学を研究課題とし、食品科学、水産化学および畜産物利用学に関する研究指導を行う。 （65 平田 大） 「応用生命・食品科学」的視点に立脚し、アルコール発酵に関わる醸造微生物を研究課題とし、酵母を用いた健康長寿・日本酒醸造に関する研究指導を行う。 （68 藤村 忍） 栄養制御学を研究課題とし、栄養素の消化・吸収、代謝、機能性の発現に関する研究指導を行う。また、食品の機能性を研究課題とし、食品の品質特性、また一から三次機能に関する研究指導を行う。 （152 杉本 華幸） 微生物タンパク質の構造安定化機構の解明と応用を研究課題として、主として微生物の糖質関連酵素を対象として物理化学的な手法を用いた安定性解析等に関する研究指導を行う。また、代謝熱測定による微生物活性の新規評価方法の開発を研究課題として、熱測定による細菌のキチン資化活性等の定量評価と比較解析に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅰ-E（応用生命・食品科学）		（153 鈴木 一輝） 主に土壌学、特に土壌微生物学や土壌化学を研究課題とし、土壌微生物や植物共生微生物の生態・機能、および環境分子を用いた生態系解析に関する研究指導を行う。 （168 筒浦 さとみ） 食中毒予防、食品保存中の腐敗抑制及び加工食品の品質向上、衛生環境向上を研究課題とし、食品衛生学・食品安全学に関する研究指導を行う。 （173 中井 博之） ヒトの健康保持増進に有用な新規糖質の創生を研究課題とし、新規糖質関連酵素の探索や機能及び構造解析に関する研究指導を行う。 （188 原 崇） 食品成分の体調節機能の解明を研究課題とし、機能性成分の探索および生理活性評価に関する研究指導を行う。 （201 三亀 啓吾） 植物成分を研究課題とし、植物高分子成分の高付加価値利用に関する研究指導を行う。 （209 元永 佳孝） 食品・農産物を研究対象とし、光センシング技術・画像処理技術を用いた品質評価・管理に関する研究指導を行う。 （85 山口 智子） 食品の栄養・機能性や物性、嗜好性について、調理加工および農産物の栽培環境等との関連性を解明することを研究課題とし、食品の健康機能やおいしさの向上に向けた調理科学および食品化学に関する研究指導を行う。 （222 赤澤 隆志） 食品の栄養・機能性や物性、嗜好性について、調理加工および農産物の栽培環境等との関連性を解明することを研究課題とし、食品の健康機能やおいしさの向上に向けた調理科学および食品化学に関する研究指導を行う。 （224 ASILOGLU MUHAMMET RASIT） 土壌微生物を研究課題とし、微生物生態学とバイオインフォマティクスに関する研究指導を行う。 （228 上田 大次郎） 新規天然物探索を研究課題とし、その生合成経路や生理活性に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅱ-E（応用生命・食品科学）		課題研究Ⅱ-E（応用生命・食品科学）では、生命環境・食料科学プログラム中の応用生命・食品化学領域の各専門分野における研究を指導教員の指導の下に企画・立案・実施し、修士論文を完成するために、自身の研究の世界的な位置付けを関係論文を中心に明らかにするとともに、実験方法の妥当性を示し、得られた研究の結果について考察していく。最終的にライフサイエンス、フードサイエンス、農業に関わる分野における課題解決に向けた研究の立案、調査項目の精査ならびにデータを的確に分析できる能力を養うことを目的として、研究計画の立案を的確に行うこと、および研究遂行のための実行方法の検討および妥当性さらには研究方法の変更や見直しについて議論を行う。 （9 伊藤 紀美子） 気候変動の影響を回避する食料生産技術の開発を研究課題とし、主にイネのストレス応答と耐性発現に関する基礎研究および応用研究に関する研究指導を行う。 （12 大竹 憲邦） 土壌肥料学を研究課題とし、植物栄養学に関する研究指導を行う。 （19 北岡 本光） 糖質関連酵素の利活用を研究課題とし、糖質関連酵素の特性解析やそれらを利用した食品素材製造法に関する研究指導を行う。 （34 佐藤 努） 天然物化学、生物有機化学、ケミカルバイオロジーを研究課題とし、天然有機化合物の化学構造、生合成、生理活性に関する研究指導を行う。 （36 城 斗志夫） 食品のおいしさと機能性を研究課題とし、おいしさと機能性に関与する成分に関する研究指導を行う。 （39 鈴木 一史） 細菌の機能開発とその応用を研究課題とし、細菌の遺伝子発現調節機構、酵素の特性、バイオフィルム形成などに関する研究指導を行う。 （54 中野 優） 園芸学および植物細胞工学の分野で、植物バイオテクノロジーによる増殖・育種および園芸形質の決定に関する分子メカニズムの解明等について研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅱ-E（応用生命・食品科学）		（59 西海 理之） 食品製造学を研究課題とし、食品科学、水産化学および畜産物利用学に関する研究指導を行う。 （65 平田 大） 「応用生命・食品科学」的視点に立脚し、アルコール発酵に関わる醸造微生物を研究課題とし、酵母を用いた健康長寿・日本酒醸造に関する研究指導を行う。 （68 藤村 忍） 栄養制御学を研究課題とし、栄養素の消化・吸収、代謝、機能性の発現に関する研究指導を行う。また、食品の機能性を研究課題とし、食品の品質特性、また一から三次機能に関する研究指導を行う。 （152 杉本 華幸） 微生物タンパク質の構造安定化機構の解明と応用を研究課題として、主として微生物の糖質関連酵素を対象として物理化学的な手法を用いた安定性解析等に関する研究指導を行う。また、代謝熱測定による微生物活性の新規評価方法の開発を研究課題として、熱測定による細菌のキチン質化活性等の定量評価と比較解析に関する研究指導を行う。 （153 鈴木 一輝） 主に土壌学、特に土壌微生物学や土壌化学を研究課題とし、土壌微生物や植物共生微生物の生態・機能、および環境分子を用いた生態系解析に関する研究指導を行う。 （168 筒浦 さとみ） 食中毒予防、食品保存中の腐敗抑制及び加工食品の品質向上、衛生環境向上を研究課題とし、食品衛生学・食品安全学的研究についての研究指導を行う。 （173 中井 博之） ヒトの健康保持増進に有用な新規糖質の創生を研究課題とし、新規糖質関連酵素の探索や機能及び構造解析に関する研究指導を行う。 （188 原 崇） 食品成分の体調節機能の解明を研究課題とし、機能性成分の探索および生理活性評価に関する研究指導を行う。 （201 三亀 啓吾） 植物成分を研究課題とし、植物高分子成分の高付加価値利用に関する研究指導を行う。 （209 元永 佳孝） 食品・農産物を研究対象とし、光センシング技術・画像処理技術を用いた品質評価・管理に関する研究指導を行う。 （85 山口 智子） 食品の栄養・機能性や物性、嗜好性について、調理加工および農産物の栽培環境等との関連性を解明することを研究課題とし、食品の健康機能やおいしさの向上に向けた調理科学および食品化学に関する研究指導を行う。 （222 赤澤 隆志） 食品の栄養・機能性や物性、嗜好性について、調理加工および農産物の栽培環境等との関連性を解明することを研究課題とし、食品の健康機能やおいしさの向上に向けた調理科学および食品化学に関する研究指導を行う。 （224 ASILOGLU MUHAMMET RASIT） 土壌微生物を研究課題とし、微生物生態学とバイオインフォマティクスに関する研究指導を行う。 （228 上田 大次郎） 新規天然物探索を研究課題とし、その生合成経路や生理活性に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅲ-E（応用生命・食品科学）		課題研究Ⅲ-E（応用生命・食品科学）では、生命環境・食料科学プログラム中の応用生命・食品化学領域の各専門分野における研究を指導教員の指導の下に企画・立案・実施し、修士論文を完成するために、自身の研究の世界的な位置付けを関係論文を中心に明らかにするとともに、実験方法の妥当性を示し、得られた研究の結果について考察していく。最終的にライフサイエンス、フードサイエンス、農業に関わる分野における課題解決に向けた研究の立案、調査項目の精査ならびにデータを的確に分析できる能力を養うことを目的として、関係論文から自身の研究の世界的な位置付けを明らかにし、実験方法の妥当性を的確に示すための議論を行う。 （9 伊藤 紀美子） 気候変動の影響を回避する食料生産技術の開発を研究課題とし、主にイネのストレス応答と耐性発現に関する基礎研究および応用研究に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅲ-E（応用生命・食品科学）		(12 大竹 憲邦) 土壌肥科学を研究課題とし、植物栄養学に関する研究指導を行う。 (19 北岡 本光) 糖質関連酵素の利活用を研究課題とし、糖質関連酵素の特性解析やそれらを利用した食品素材製造法に関する研究指導を行う。 (34 佐藤 努) 天然物化学、生物有機化学、ケミカルバイオロジーを研究課題とし、天然有機化合物の化学構造、生合成、生理活性に関する研究指導を行う。 (36 城 斗志夫) 食品のおいしさと機能性を研究課題とし、おいしさと機能性に関与する成分に関する研究指導を行う。 (39 鈴木 一史) 細菌の機能開発とその応用を研究課題とし、細菌の遺伝子発現調節機構、酵素の特性、バイオフィーム形成などに関する研究指導を行う。 (54 中野 優) 園芸学および植物細胞工学の分野で、植物バイオテクノロジーによる増殖・育種および園芸形質の決定に関する分子メカニズムの解明等について研究指導を行う。 (59 西海 理之) 食品製造学を研究課題とし、食品科学、水産化学および畜産物利用学に関する研究指導を行う。 (65 平田 大) 「応用生命・食品科学」的視点に立脚し、アルコール発酵に関わる醸造微生物を研究課題とし、酵母を用いた健康長寿・日本酒醸造に関する研究指導を行う。 (68 藤村 忍) 栄養制御学を研究課題とし、栄養素の消化・吸収、代謝、機能性の発現に関する研究指導を行う。また、食品の機能性を研究課題とし、食品の品質特性、また一から三次機能に関する研究指導を行う。 (152 杉本 華幸) 微生物タンパク質の構造安定化機構の解明と応用を研究課題として、主として微生物の糖質関連酵素を対象として物理化学的な手法を用いた安定性解析等に関する研究指導を行う。また、代謝熱測定による微生物活性の新規評価方法の開発を研究課題として、熱測定による細菌のキチン質化活性等の定量評価と比較解析に関する研究指導を行う。 (153 鈴木 一輝) 主に土壌学、特に土壌微生物学や土壌化学を研究課題とし、土壌微生物や植物共生微生物の生態・機能、および環境分子を用いた生態系解析に関する研究指導を行う。 (168 筒浦 さとみ) 食中毒予防、食品保存中の腐敗抑制及び加工食品の品質向上、衛生環境向上を研究課題とし、食品衛生学・食品安全学的研究についての研究指導を行う。 (173 中井 博之) ヒトの健康保持増進に有用な新規糖質の創生を研究課題とし、新規糖質関連酵素の探索や機能及び構造解析に関する研究指導を行う。 (188 原 崇) 食品成分の体調節機能の解明を研究課題とし、機能性成分の探索および生理活性評価に関する研究指導を行う。 (201 三亀 啓吾) 植物成分を研究課題とし、植物高分子成分の高付加価値利用に関する研究指導を行う。 (209 元永 佳孝) 食品・農産物を研究対象とし、光センシング技術・画像処理技術を用いた品質評価・管理に関する研究指導を行う。 (85 山口 智子) 食品の栄養・機能性や物性、嗜好性について、調理加工および農産物の栽培環境等との関連性を解明することを研究課題とし、食品の健康機能やおいしさの向上に向けた調理科学および食品化学に関する研究指導を行う。 (222 赤澤 隆志) 食品の栄養・機能性や物性、嗜好性について、調理加工および農産物の栽培環境等との関連性を解明することを研究課題とし、食品の健康機能やおいしさの向上に向けた調理科学および食品化学に関する研究指導を行う。 (224 ASILOGLU MUHAMMET RASIT) 土壌微生物を研究課題とし、微生物生態学とバイオインフォマティクスに関する研究指導を行う。 (228 上田 大次郎) 新規天然物探索を研究課題とし、その生合成経路や生理活性に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究IV-E（応用生命・食品科学）		課題研究IV-E（応用生命・食品科学）では、生命環境・食料科学プログラム中の応用生命・食品化学領域の各専門分野における研究を指導教員の指導の下に企画・立案・実施し、修士論文を完成するために、自身の研究の世界的な位置付けを関係論文を中心に明らかにするとともに、実験方法の妥当性を示し、得られた研究の結果について考察していく。議論を通じてライフサイエンス、フードサイエンス、農業に関わる分野における課題解決に向けた研究の立案、調査項目の精査ならびにデータを的確に分析できる能力を身に着ける。 （9 伊藤 紀美子） 気候変動の影響を回避する食料生産技術の開発を研究課題とし、主にイネのストレス応答と耐性発現に関する基礎研究および応用研究に関する研究指導を行う。 （12 大竹 憲邦） 土壌肥科学を研究課題とし、植物栄養学に関する研究指導を行う。 （19 北岡 本光） 糖質関連酵素の利活用を研究課題とし、糖質関連酵素の特性解析やそれらを利用した食品素材製造法に関する研究指導を行う。 （34 佐藤 努） 天然物化学、生物有機化学、ケミカルバイオロジーを研究課題とし、天然有機化合物の化学構造、生合成、生理活性に関する研究指導を行う。 （36 城 斗志夫） 食品のおいしさと機能性を研究課題とし、おいしさと機能性に関与する成分に関する研究指導を行う。 （39 鈴木 一史） 細菌の機能開発とその応用を研究課題とし、細菌の遺伝子発現調節機構、酵素の特性、バイオフィーム形成などに関する研究指導を行う。 （54 中野 優） 園芸学および植物細胞工学の分野で、植物バイオテクノロジーによる増殖・育種および園芸形質の決定に関する分子メカニズムの解明等について研究指導を行う。 （59 西海 理之） 食品製造学を研究課題とし、食品科学、水産化学および畜産物利用学に関する研究指導を行う。 （65 平田 大） 「応用生命・食品科学」的視点に立脚し、アルコール発酵に関わる醸造微生物を研究課題とし、酵母を用いた健康長寿・日本酒醸造に関する研究指導を行う。 （68 藤村 忍） 栄養制御学を研究課題とし、栄養素の消化・吸収、代謝、機能性の発現に関する研究指導を行う。また、食品の機能性を研究課題とし、食品の品質特性、また一から三次機能に関する研究指導を行う。 （152 杉本 華幸） 微生物タンパク質の構造安定化機構の解明と応用を研究課題として、主として微生物の糖質関連酵素を対象として物理化学的な手法を用いた安定性解析等に関する研究指導を行う。また、代謝熱測定による微生物活性の新規評価方法の開発を研究課題として、熱測定による細菌のキチン資化活性等の定量評価と比較解析に関する研究指導を行う。 （153 鈴木 一輝） 主に土壌学、特に土壌微生物学や土壌化学を研究課題とし、土壌微生物や植物共生微生物の生態・機能、および環境分子を用いた生態系解析に関する研究指導を行う。 （168 筒浦 さとみ） 食中毒予防、食品保存中の腐敗抑制及び加工食品の品質向上、衛生環境向上を研究課題とし、食品衛生学・食品安全学的研究についての研究指導を行う。 （173 中井 博之） ヒトの健康保持増進に有用な新規糖質の創生を研究課題とし、新規糖質関連酵素の探索や機能及び構造解析に関する研究指導を行う。 （188 原 崇） 食品成分の体調節機能の解明を研究課題とし、機能性成分の探索および生理活性評価に関する研究指導を行う。 （201 三亀 啓吾） 植物成分を研究課題とし、植物高分子成分の高付加価値利用に関する研究指導を行う。 （209 元永 佳孝） 食品・農産物を研究対象とし、光センシング技術・画像処理技術を用いた品質評価・管理に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅳ-E（応用生命・食品科学）		（85 山口 智子） 食品の栄養・機能性や物性、嗜好性について、調理加工および農産物の栽培環境等との関連性を解明することを研究課題とし、食品の健康機能やおいしさの向上に向けた調理科学および食品化学に関する研究指導を行う。 （222 赤澤 隆志） 食品の栄養・機能性や物性、嗜好性について、調理加工および農産物の栽培環境等との関連性を解明することを研究課題とし、食品の健康機能やおいしさの向上に向けた調理科学および食品化学に関する研究指導を行う。 （224 ASILOGLU MUHAMMET RASIT） 土壌微生物を研究課題とし、微生物生態学とバイオインフォマティクスに関する研究指導を行う。 （228 上田 大次郎） 新規天然物探索を研究課題とし、その生合成経路や生理活性に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅰ-E（生物資源科学）		植物資源科学、動物資源科学、農業経済科学といった生物資源科学の各専門分野の教員の指導の下、修士論文を作成するため、教員との討論や議論を通じて、研究の目的や概要を明らかにし、研究遂行のために必要な実験方法を計画していく能力を身につけることを目標とする。そのために、本講義を通じて、バイオテクノロジー、農業に関わる分野における課題を理解し、その課題解決に向け、研究計画の立案を行うこと、および研究遂行のための実行方法の検討および妥当性について議論することにある。 （38 杉山 稔恵） 動物における骨と関連した疾病の防止を研究課題とし、産卵鶏におけるカルシウム代謝と骨機能に関する研究指導を行う。 （87 山崎 将紀） イネを研究課題とし、作物栽培や遺伝育種に関する研究指導を行う。 （88 山城 秀昭） 「マウス体内における異種配偶子生産システムの開発とその家畜への応用」、「種の壁を越えた異種代理母出産技術の開発による次の超生体医学工学の開拓」、「インドの高自然放射線地域における被ばく線量測定と生殖機能評価」を研究課題とし、生殖機能、再生医療や放射線生殖機能評価に関する研究指導を行っている。 （90 山田 宜永） 家畜における量的形質の遺伝的制御機構の解明を研究課題とし、分子遺伝学的解析および統計遺伝学的解析の両面に関する研究指導を行う。 （102 板野 志郎） 草地生態系の構造と機能の解明を研究課題とし、生態系観測技術の開発、動物の行動生態、草地植生評価、草地環境評価、数理解析に関する研究指導を行う。 （124 岡本 暁） 植物（作物）における炭素栄養に関連する情報伝達を研究課題とし、光合成、光合成産物の代謝、植物-微生物相互作用、環境ストレス、無機栄養に関する情報伝達についての研究指導を行う。 （144 佐野 義孝） 植物病原ウイルスを研究課題とし、ウイルス病の疫学および病原ウイルスの分子生物学に関する研究指導を行う。 （190 深井 英吾） 主に栽培植物を含む顕花植物を研究材料として、特定形質の制御遺伝子の同定と機能解析、エピジェネティックな遺伝子発現制御、ゲノム動態などを研究課題とし、その遂行のための研究指導を行う。 （203 湊 菜未） 植物保護科学のうち植物病理学を専門領域とし、植物-ウイルス-媒介昆虫の三者間相互作用に関する研究指導を行う。 （119 大谷 真広） 植物バイオテクノロジーの利用および植物生理機構の解明を研究課題とし、各種の遺伝子解析技術、生化学的分析技術、植物の組織培養および形質転換技術に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅰ-E（生物 資源科学）		（230 岡田 萌子） コムギの遺伝学、育種学、ゲノム科学を研究課題とし、コムギやその近縁野生種の異質倍数性進化過程の解明と野生遺伝資源の育種利用に関する研究指導を行う。 （227 伊藤 亮司） 農業市場論を専門分野とした食料・農産物市場の経済構造に関する実証的・動態研究をライフワークとし、我が国内外における農産物流通に関する経済主体の市場行動・市場構造ならびに市場政策に関する研究指導を行う。 （248 氷見 理） 農業構造を研究課題とし、労働市場の観点に基づく農業構造分析に関する研究指導を行う。 （250 古澤 慎一） 農業経済学を専門領域とした研究課題とし、主として、農業農村開発とソーシャル・ビジネス（社会的企業）、農業の多面的機能発揮に向けた共有資源のガバナンスの実証分析に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅱ-E（生物 資源科学）		植物資源科学、動物資源科学、農業経済学といった生物資源科学の各専門分野の教員の指導の下、修士論文を作成するため、教員との討論や議論を通じて、研究の目的や概要を明らかにし、研究遂行のために必要な実験方法を計画していく能力を身につけることを目標とする。そのために、本講義を通じて、バイオテクノロジー、農業に関わる分野における課題を深く理解し、その課題解決に向け、研究計画の立案を的確に行うこと、および研究遂行のための実行方法の検討および妥当性さらには研究方法の変更や見直しについて議論することにある。 （38 杉山 稔恵） 動物における骨と関連した疾病の防止を研究課題とし、産卵鶏におけるカルシウム代謝と骨機能に関する研究指導を行う。 （87 山崎 将紀） イネを研究課題とし、作物栽培や遺伝育種に関する研究指導を行う。 （88 山城 秀昭） 「マウス体内における異種配偶子生産システムの開発とその家畜への応用」、「種の壁を越えた異種代理母出産技術の開発による次の超生体医学の開拓」、「インドの高自然放射線地域における被ばく線量測定と生殖機能評価」を研究課題とし、生殖機能、再生医療や放射線生殖機能評価に関する研究指導を行っている。 （90 山田 宜永） 家畜における量的形質の遺伝的制御機構の解明を研究課題とし、分子遺伝学的解析および統計遺伝学的解析の両面に関する研究指導を行う。 （102 板野 志郎） 草地生態系の構造と機能の解明を研究課題とし、生態系観測技術の開発、動物の行動生態、草地植生評価、草地環境評価、数理解析に関する研究指導を行う。 （124 岡本 暁） 植物（作物）における炭素栄養に関連する情報伝達を研究課題とし、光合成、光合成産物の代謝、植物-微生物相互作用、環境ストレス、無機栄養に関する情報伝達についての研究指導を行う。 （144 佐野 義孝） 植物病原ウイルスを研究課題とし、ウイルス病の疫学および病原ウイルスの分子生物学に関する研究指導を行う。 （190 深井 英吾） 主に栽培植物を含む顕花植物を研究材料として、特定形質の制御遺伝子の同定と機能解析、エビジェネティックな遺伝子発現制御、ゲノム動態などを研究課題とし、その遂行のための研究指導を行う。 （203 湊 菜未） 植物保護科学のうち植物病理学を専門領域とし、植物-ウイルス-媒介昆虫の三者間相互作用に関する研究指導を行う。 （119 大谷 真広） 植物バイオテクノロジーの利用および植物生理機構の解明を研究課題とし、各種の遺伝子解析技術、生化学的分析技術、植物の組織培養および形質転換技術に関する研究指導を行う。 （230 岡田 萌子） コムギの遺伝学、育種学、ゲノム科学を研究課題とし、コムギやその近縁野生種の異質倍数性進化過程の解明と野生遺伝資源の育種利用に関する研究指導を行う。 （227 伊藤 亮司） 農業市場論を専門分野とした食料・農産物市場の経済構造に関する実証的・動態研究をライフワークとし、我が国内外における農産物流通に関する経済主体の市場行動・市場構造ならびに市場政策に関する研究指導を行う。 （248 氷見 理） 農業構造を研究課題とし、労働市場の観点に基づく農業構造分析に関する研究指導を行う。 （250 古澤 慎一） 農業経済学を専門領域とした研究課題とし、主として、農業農村開発とソーシャル・ビジネス（社会的企業）、農業の多面的機能発揮に向けた共有資源のガバナンスの実証分析に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅲ-E（生物 資源科学）		植物資源科学、動物資源科学、農業経済科学といった生物資源科学の各専門分野の教員の指導の下、修士論文を完成させるため、教員との討論や議論を通じて、自身の研究の世界的な位置付けを関係論文を中心に明らかにするとともに、実験方法の妥当性を示していく能力を身につけることを目標とする。そのために、本講義を通じて、バイオテクノロジー、農業に関わる分野における課題を深く理解し、その課題解決に向け、関係論文から自身の研究の世界的な位置付けを明らかにし、実験方法の妥当性を的確に示していくことにある。 （38 杉山 稔恵） 動物における骨と関連した疾病の防止を研究課題とし、産卵鶏におけるカルシウム代謝と骨機能に関する研究指導を行う。 （87 山崎 将紀） イネを研究課題とし、作物栽培や遺伝育種に関する研究指導を行う。 （88 山城 秀昭） 「マウス体内における異種配偶子生産システムの開発とその家畜への応用」、「種の壁を越えた異種代理母出産技術の開発による次の超生体医工学の開拓」、「インドの高自然放射線地域における被ばく線量測定と生殖機能評価」を研究課題とし、生殖機能、再生医療や放射線生殖機能評価に関する研究指導を行っている。 （90 山田 宜永） 家畜における量的形質の遺伝的制御機構の解明を研究課題とし、分子遺伝学的解析および統計遺伝学的解析の両面に関する研究指導を行う。 （102 板野 志郎） 草地生態系の構造と機能の解明を研究課題とし、生態系観測技術の開発、動物の行動生態、草地植生評価、草地環境評価、数理解析に関する研究指導を行う。 （124 岡本 暁） 植物（作物）における炭素栄養に関連する情報伝達を研究課題とし、光合成、光合成産物の代謝、植物-微生物相互作用、環境ストレス、無機栄養に関する情報伝達についての研究指導を行う。 （144 佐野 義孝） 植物病原ウイルスを研究課題とし、ウイルス病の疫学および病原ウイルスの分子生物学に関する研究指導を行う。 （190 深井 英吾） 主に栽培植物を含む顕花植物を研究材料として、特定形質の制御遺伝子の同定と機能解析、エピジェネティックな遺伝子発現制御、ゲノム動態などを研究課題とし、その遂行のための研究指導を行う。 （203 湊 菜未） 植物保護科学のうち植物病理学を専門領域とし、植物-ウイルス-媒介昆虫の三者間相互作用に関する研究指導を行う。 （119 大谷 真広） 植物バイオテクノロジーの利用および植物生理機構の解明を研究課題とし、各種の遺伝子解析技術、生化学的分析技術、植物の組織培養および形質転換技術に関する研究指導を行う。 （230 岡田 萌子） コムギの遺伝学、育種学、ゲノム科学を研究課題とし、コムギやその近縁野生種の異質倍数性進化過程の解明と野生遺伝資源の育種利用に関する研究指導を行う。 （227 伊藤 亮司） 農業市場論を専門分野とした食料・農産物市場の経済構造に関する実証的・動態研究をライフワークとし、我が国内外における農産物流通に関する経済主体の市場行動・市場構造ならびに市場政策に関する研究指導を行う。 （248 氷見 理） 農業構造を研究課題とし、労働市場の観点に基づく農業構造分析に関する研究指導を行う。 （250 古澤 慎一） 農業経済学を専門領域とした研究課題とし、主として、農業農村開発とソーシャル・ビジネス（社会的企業）、農業の多面的機能発揮に向けた共有資源のガバナンスの実証分析に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅳ-E（生物資源科学）		植物資源科学、動物資源科学、農業経済科学といった生物資源科学の各専門分野の教員の指導の下、修士論文を完成させるため、教員との討論や議論を通じて、自身の研究の世界的な位置付けを関係論文を中心に明らかにし、実験方法の妥当性を示す能力に加えて、得られた研究の結果について考察していく能力を身につけることを目標とする。そのために、本講義を通じて、バイオテクノロジー、農業に関わる分野における課題を深く理解し、その課題解決に向け、関係論文から自身の研究の世界的な位置付けを明らかにし、実験方法の妥当性を示すとともに、さらに得られた研究の結果についての確に考察することにある。 （38 杉山 稔恵） 動物における骨と関連した疾病の防止を研究課題とし、産卵鶏におけるカルシウム代謝と骨機能に関する研究指導を行う。 （87 山崎 将紀） イネを研究課題とし、作物栽培や遺伝育種に関する研究指導を行う。 （88 山城 秀昭） 「マウス体内における異種配偶子生産システムの開発とその家畜への応用」、「種の壁を越えた異種代理母出産技術の開発による次の超生体医工学の開拓」、「インドの高自然放射線地域における被ばく線量測定と生殖機能評価」を研究課題とし、生殖機能、再生医療や放射線生殖機能評価に関する研究指導を行っている。 （90 山田 宜永） 家畜における量的形質の遺伝的制御機構の解明を研究課題とし、分子遺伝学的解析および統計遺伝学的解析の両面に関する研究指導を行う。 （102 板野 志郎） 草地生態系の構造と機能の解明を研究課題とし、生態系観測技術の開発、動物の行動生態、草地植生評価、草地環境評価、数理解析に関する研究指導を行う。 （124 岡本 暁） 植物（作物）における炭素栄養に関連する情報伝達を研究課題とし、光合成、光合成産物の代謝、植物-微生物相互作用、環境ストレス、無機栄養に関する情報伝達についての研究指導を行う。 （144 佐野 義孝） 植物病原ウイルスを研究課題とし、ウイルス病の疫学および病原ウイルスの分子生物学に関する研究指導を行う。 （190 深井 英吾） 主に栽培植物を含む顕花植物を研究材料として、特定形質の制御遺伝子の同定と機能解析、エピジェネティックな遺伝子発現制御、ゲノム動態などを研究課題とし、その遂行のための研究指導を行う。 （203 湊 菜未） 植物保護科学のうち植物病理学を専門領域とし、植物-ウイルス-媒介昆虫の三者間相互作用に関する研究指導を行う。 （119 大谷 真広） 植物バイオテクノロジーの利用および植物生理機構の解明を研究課題とし、各種の遺伝子解析技術、生化学的分析技術、植物の組織培養および形質転換技術に関する研究指導を行う。 （230 岡田 萌子） コムギの遺伝学、育種学、ゲノム科学を研究課題とし、コムギやその近縁野生種の異質倍数性進化過程の解明と野生遺伝資源の育種利用に関する研究指導を行う。 （227 伊藤 亮司） 農業市場論を専門分野とした食料・農産物市場の経済構造に関する実証的・動態研究をライフワークとし、我が国内外における農産物流通に関する経済主体の市場行動・市場構造ならびに市場政策に関する研究指導を行う。 （248 氷見 理） 農業構造を研究課題とし、労働市場の観点に基づく農業構造分析に関する研究指導を行う。 （250 古澤 慎一） 農業経済学を専門領域とした研究課題とし、主として、農業農村開発とソーシャル・ビジネス（社会的企業）、農業の多面的機能発揮に向けた共有資源のガバナンスの実証分析に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅰ-E（流域環境学）		流域環境学に関わる基礎的・応用的課題を見いだし、研究を行う。実験や計測の手法、科学的・数理的な解析手法、フィールドワークやアンケートによる調査方法等を修得し、それらの成果にもとづき修士論文を作成する。流域環境学に関わる高度な専門知識、理論、技術を理解し、他の講義科目（生命環境・食料科学演習Ⅰ-E（流域環境学）など）の経験や知識を駆使して、課題を探索し、分析方法を組み立て、解を見いだす能力（確率統計処理、シミュレーションなど）を養う。修士課程1年次前半に身に着けるべき基本を習得する。 （31 坂田 寧代） 農村計画学を研究課題とし、農地整備、生活環境整備、コミュニティなどに関する研究指導を行う。 （40 鈴木 哲也） 農工工学の中でも非破壊検査工学と材料工学に特化した研究課題とし、構造材料の損傷機構の解明とそれに基づく非破壊検査法の開発に関する研究指導を行う。 （62 長谷川 英夫） 農業生産の効率化を研究課題とし、国際的な視野を持ちながら地域でも活躍できる人材を育成するためにスマート農業とデータサイエンスに関する研究指導を行う。 （92 吉川 夏樹） 水理学・水文学を研究課題とし、農業用施設がもつ生態系サービスに関する研究指導を行う。 （96 阿部 晴恵） 島嶼を中心とする生態学を研究課題とし、生物の種間相互作用や保全に関する研究指導を行う。 （105 稲葉 一成） 地すべり災害を研究課題とし、地すべり地における地下水の挙動、地すべり防止施設の維持管理に関する研究指導を行う。 （109 WHITAKER ANDREW） 流域水文学を研究課題とし、水循環、水資源、積雪の役割、地球温暖化に関する研究指導を行う。 （121 大橋 慎太郎） 農業環境工学を専門分野として、施設栽培への地域資源の有効活用による地域活性化に関する研究指導を行う。 （131 下保 敏和） 農業環境工学を専門分野として、施設栽培への地域資源の有効活用による地域活性化に関する研究指導を行う。 （135 小路 晋作） 昆虫を対象とした群集生態学、保全生態学、応用昆虫学を研究課題とし、農地景観における害虫個体群の空間動態、有用節足動物類の生物多様性および生態系機能に関する研究指導を行う。 （81 村上 拓彦） 森林・林業分野における地理空間情報の高度利用を研究課題とし、リモートセンシング、地理情報システム（GIS）に関する研究指導を行う。 （221 粟生田 忠雄） 環境土壌物理学を研究課題とし、保全農業による土壌保全と食糧生産の向上に関する研究指導を行う。 （236 斎藤 嘉人） 生体情報の光学計測を研究課題とし、光センシングを活用した環境情報、農作物・食品の非破壊計測に関する研究指導を行う。 （244 夏川 遼生） 野生生物（特に頂点捕食者である猛禽類）の分布や個体数の時空間動態を研究課題とし、猛禽類の野外生態に関する研究指導を行う。 （206 宮津 進） 農業分野における持続可能な水利用手法に関する研究を研究課題とし、農地を活用した洪水リスク軽減手法の開発、水資源量の季節内予測情報を活用した渇水リスクへの対応策の開発に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅱ-E（流域環境学）		流域環境学に関わる基礎的・応用的課題を見いだし、研究を行う。実験や計測の手法、科学的・数理的な解析手法、フィールドワークやアンケートによる調査方法等を修得し、それらの成果にもとづき修士論文を作成する。流域環境学に関わる高度な専門知識、理論、技術を理解し、他の講義科目（生命環境・食料科学演習Ⅰ-E（流域環境学）など）の経験や知識を駆使して、課題を探索し、分析方法を組み立て、解を見いだす能力（確率統計処理、シミュレーションなど）を養う。課題研究Ⅰ-Eを履修した内容を定着させる。 （31 坂田 寧代） 農村計画学を研究課題とし、農地整備、生活環境整備、コミュニティなどに関する研究指導を行う。 （40 鈴木 哲也） 農業工学の中でも非破壊検査工学と材料工学に特化した研究課題とし、構造材料の損傷機構の解明とそれに基づく非破壊検査法の開発に関する研究指導を行う。 （62 長谷川 英夫） 農業生産の効率化を研究課題とし、国際的な視野を持ちながら地域でも活躍できる人材を育成するためにスマート農業とデータサイエンスに関する研究指導を行う。 （92 吉川 夏樹） 水理学・水文学を研究課題とし、農業用施設がもつ生態系サービスに関する研究指導を行う。 （96 阿部 晴恵） 島嶼を中心とする生態学を研究課題とし、生物の種間相互作用や保全に関する研究指導を行う。 （105 稲葉 一成） 地すべり災害を研究課題とし、地すべり地における地下水の挙動、地すべり防止施設の維持管理に関する研究指導を行う。 （109 WHITAKER ANDREW） 流域水文学を研究課題とし、水循環、水資源、積雪の役割、地球温暖化に関する研究指導を行う。 （121 大橋 慎太郎） 農業環境工学を専門分野として、施設栽培への地域資源の有効活用による地域活性化に関する研究指導を行う。 （131 下保 敏和） 農業環境工学を専門分野として、施設栽培への地域資源の有効活用による地域活性化に関する研究指導を行う。 （135 小路 晋作） 昆虫を対象とした群集生態学、保全生態学、応用昆虫学を研究課題とし、農地景観における害虫個体群の空間動態、有用節足動物類の生物多様性および生態系機能に関する研究指導を行う。 （81 村上 拓彦） 森林・林業分野における地理空間情報の高度利用を研究課題とし、リモートセンシング、地理情報システム（GIS）に関する研究指導を行う。 （221 栗生田 忠雄） 環境土壌物理学を研究課題とし、保全農業による土壌保全と食糧生産の向上に関する研究指導を行う。 （236 斎藤 嘉人） 生体情報の光学計測を研究課題とし、光センシングを活用した環境情報、農作物・食品の非破壊計測に関する研究指導を行う。 （244 夏川 遼生） 野生生物（特に頂点捕食者である猛禽類）の分布や個体数の時空間動態を研究課題とし、猛禽類の野外生態に関する研究指導を行う。 （206 宮津 進） 農業分野における持続可能な水利用手法に関する研究を研究課題とし、農地を活用した洪水リスク軽減手法の開発、水資源量の季節内予測情報を活用した渇水リスクへの対応策の開発に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅲ-E（流域環境学）		流域環境学に関わる基礎的・応用的課題を見いだし、研究を行う。実験や計測の手法、科学的・数理的な解析手法、フィールドワークやアンケートによる調査方法等を修得し、それらの成果にもとづき修士論文を作成する。流域環境学に関わる高度な専門知識、理論、技術を理解し、他の講義科目（生命環境・食料科学演習Ⅰ-E（流域環境学）など）の経験や知識を駆使して、課題を探索し、分析方法を組み立て、解を見いだす能力（確率統計処理、シミュレーションなど）を養う。修士課程1年次を振り返りより高度な内容を定着させる。 （31 坂田 寧代） 農村計画学を研究課題とし、農地整備、生活環境整備、コミュニティなどに関する研究指導を行う。 （40 鈴木 哲也） 農業工学の中でも非破壊検査工学と材料工学に特化した研究課題とし、構造材料の損傷機構の解明とそれに基づく非破壊検査法の開発に関する研究指導を行う。 （62 長谷川 英夫） 農業生産の効率化を研究課題とし、国際的な視野を持ちながら地域でも活躍できる人材を育成するためにスマート農業とデータサイエンスに関する研究指導を行う。 （92 吉川 夏樹） 水理学・水文学を研究課題とし、農業用施設がもつ生態系サービスに関する研究指導を行う。 （96 阿部 晴恵） 島嶼を中心とする生態学を研究課題とし、生物の種間相互作用や保全に関する研究指導を行う。 （105 稲葉 一成） 地すべり災害を研究課題とし、地すべり地における地下水の挙動、地すべり防止施設の維持管理に関する研究指導を行う。 （109 WHITAKER ANDREW） 流域水文学を研究課題とし、水循環、水資源、積雪の役割、地球温暖化に関する研究指導を行う。 （121 大橋 慎太郎） 農業環境工学を専門分野として、施設栽培への地域資源の有効活用による地域活性化に関する研究指導を行う。 （131 下保 敏和） 農業環境工学を専門分野として、施設栽培への地域資源の有効活用による地域活性化に関する研究指導を行う。 （135 小路 晋作） 昆虫を対象とした群集生態学、保全生態学、応用昆虫学を研究課題とし、農地景観における害虫個体群の空間動態、有用節足動物類の生物多様性および生態系機能に関する研究指導を行う。 （81 村上 拓彦） 森林・林業分野における地理空間情報の高度利用を研究課題とし、リモートセンシング、地理情報システム（GIS）に関する研究指導を行う。 （221 粟生田 忠雄） 環境土壌物理学を研究課題とし、保全農業による土壌保全と食糧生産の向上に関する研究指導を行う。 （236 斎藤 嘉人） 生体情報の光学計測を研究課題とし、光センシングを活用した環境情報、農作物・食品の非破壊計測に関する研究指導を行う。 （244 夏川 遼生） 野生生物（特に頂点捕食者である猛禽類）の分布や個体数の時空間動態を研究課題とし、猛禽類の野外生態に関する研究指導を行う。 （206 宮津 進） 農業分野における持続可能な水利手法に関する研究を研究課題とし、農地を活用した洪水リスク軽減手法の開発、水資源量の季節内予測情報を活用した洪水リスクへの対応策の開発に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅳ-E（流域環境学）		流域環境学に関わる基礎的・応用的課題を見いだし、研究を行う。実験や計測の手法、科学的・数理的な解析手法、フィールドワークやアンケートによる調査方法等を修得し、それらの成果にもとづき修士論文を作成する。流域環境学に関わる高度な専門知識、理論、技術を理解し、他の講義科目（生命環境・食料科学演習Ⅰ-E（流域環境学）など）の経験や知識を駆使して、課題を探究し、分析方法を組み立て、解を見いだす能力（確率統計処理、シミュレーションなど）を養う。課題研究Ⅰ-E～Ⅲ-Eで履修した内容を定着させる。 （31 坂田 寧代） 農村計画学を研究課題とし、農地整備、生活環境整備、コミュニティなどに関する研究指導を行う。 （40 鈴木 哲也） 農業工学の中でも非破壊検査工学と材料工学に特化した研究課題とし、構造材料の損傷機構の解明とそれに基づく非破壊検査法の開発に関する研究指導を行う。 （62 長谷川 英夫） 農業生産の効率化を研究課題とし、国際的な視野を持ちながら地域でも活躍できる人材を育成するためにスマート農業とデータサイエンスに関する研究指導を行う。 （92 吉川 夏樹） 水理学・水文学を研究課題とし、農業用施設がもつ生態系サービスに関する研究指導を行う。 （96 阿部 晴恵） 島嶼を中心とする生態学を研究課題とし、生物の種間相互作用や保全に関する研究指導を行う。 （105 稲葉 一成） 地すべり災害を研究課題とし、地すべり地における地下水の挙動、地すべり防止施設の維持管理に関する研究指導を行う。 （109 WHITAKER ANDREW） 流域水文学を研究課題とし、水循環、水資源、積雪の役割、地球温暖化に関する研究指導を行う。 （121 大橋 慎太郎） 農業環境工学を専門分野として、施設栽培への地域資源の有効活用による地域活性化に関する研究指導を行う。 （131 下保 敏和） 農業環境工学を専門分野として、施設栽培への地域資源の有効活用による地域活性化に関する研究指導を行う。 （135 小路 晋作） 昆虫を対象とした群集生態学、保全生態学、応用昆虫学を研究課題とし、農地景観における害虫個体群の空間動態、有用節足動物類の生物多様性および生態系機能に関する研究指導を行う。 （81 村上 拓彦） 森林・林業分野における地理空間情報の高度利用を研究課題とし、リモートセンシング、地理情報システム（GIS）に関する研究指導を行う。 （221 栗生田 忠雄） 環境土壌物理学を研究課題とし、保全農業による土壌保全と食糧生産の向上に関する研究指導を行う。 （236 斎藤 嘉人） 生体情報の光学計測を研究課題とし、光センシングを活用した環境情報、農作物・食品の非破壊計測に関する研究指導を行う。 （244 夏川 遼生） 野生生物（特に頂点捕食者である猛禽類）の分布や個体数の時空間動態を研究課題とし、猛禽類の野外生態に関する研究指導を行う。 （206 宮津 進） 農業分野における持続可能な水利用手法に関する研究を研究課題とし、農地を活用した洪水リスク軽減手法の開発、水資源量の季節内予測情報を活用した洪水リスクへの対応策の開発に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅰ-E（都市・環境デザイン）		都市・環境デザイン（社会基盤工学または建築学）に関わる諸問題について特定の課題を設定し、その課題の解決について科学的手法を用いて自ら研究し、修士論文に取り組む。都市・環境デザイン（社会基盤工学または建築学）に関わる専門知識を学び理解するとともに、関連分野の科学的な知見を修得する。自ら課題を発見・設定し解決する能力、仮説を構築し検証する能力、定められた期間で課題を解決してまとめ発表する能力を含む修士相当の研究能力を修得する。修士学位申請論文の一部もしくは主要部分を構成する内容の研究を行い、その成果を議論および発表できるようにする。このために必要な専門知識の修得を前提に、関連分野の基礎的な素養も修得し、自然・社会・環境などに対する論理的な判断能力を養う。また、課題発見、課題解決、発表等を含むコミュニケーション能力を養う。本科目では、専門とする分野の基盤を形成しつつ、学際的知識や複数の研究方法論、トランスフェラブルスキルを修得する。 （14 岡崎 篤行） 国内外における都市デザイン、景観保全、歴史的環境を課題とし、市街地およびそれを構成する建築物の実態、都市形成史、制度運用、組織活動等に関する研究指導を行う。 （24 紅露 一寛） 土木工学における応用力学、計算力学、鉄道工学を専門領域とし、有限要素法や境界要素法に代表される汎用数値解析手法の高度化、車両・軌道系の連成振動応答やバラスト軌道の繰り返し変形挙動の定量予測、材料物性値や形状特性値のばらつきを考慮した力学応答の定量予測などに関する研究に取り組み、研究指導を行う。 （29 佐伯 竜彦） コンクリートの耐久性、コンクリート構造物の維持管理を研究課題とし、コンクリートの劣化機構の解明・劣化予測、劣化作用の定量評価等に関する研究指導を行う。 （56 中村 孝也） 建築構造を研究課題とし、建築物の耐震性評価に関する研究指導を行う。 （117 大嶋 拓也） 建築環境工学における都市・建築環境音響学を研究課題とし、都市における環境騒音及び屋外拡声放送の広域伝搬予測及び検証に関する研究指導を行う。 （129 金澤 伸一） 地盤工学を研究課題とし、地盤工学における工学的諸問題に関する研究指導を行う。 （176 中村 亮太） 海岸工学を研究課題として、海岸工学を基軸とした土木工学、大気海洋物理学、機械学習の手法を用いた研究指導を行う。 （194 棒田 恵） 建築計画、建築デザインを研究課題とし、国内外の伝統的住居、学校建築、建築デザイン手法に関する研究指導を行う。 （198 松井 大輔） 都市計画・都市デザインを研究課題とし、歴史的な都市空間の実態とそれを保全するための制度や市民参加に関する研究指導を行う。 （154 須田 裕哉） セメント化学およびコンクリート工学を専門領域とし、熱力学的相平衡計算を用いたセメント系材料の水和反応の解析や、先進的な機器分析技術を活用したコンクリートの微細構造形成の評価を通じたコンクリートに関する諸現象の科学的知見の解明、コンクリート構造物における劣化因子の作用とその応答特性の定量評価・予測、さらには未利用資源を活用した新規材料の探索に関する研究指導も行う。 （225 有波 裕貴） 建築環境工学、特に温熱・空気環境と省エネルギーを研究課題とし、ゼロエネルギービルディング（ZEB）、高効率な換気空調方式、室内の気流測定手法・数値シミュレーション手法の開発、住宅の通風、建物の熱負荷解析に関する研究指導を行う。 （251 宮内 杏里） 生活文化や地域性に深く結びついた都市／建築／住居とその時間的変容を研究課題とし、歴史都市や伝統的集落をフィールドとして都市組織や生活行為から空間構成、形成過程、使われ方（住まい方）に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅱ-E（都市・環境デザイン）		都市・環境デザイン（社会基盤工学または建築学）に関わる諸問題について特定の課題を設定し、その課題の解決について科学的手法を用いて自ら研究し、修士論文に取り組む。都市・環境デザイン（社会基盤工学または建築学）に関わる専門知識を学び理解するとともに、関連分野の科学的な知見を修得する。自ら課題を発見・設定し解決する能力、仮説を構築し検証する能力、定められた期間で課題を解決してまとめ発表する能力を含む修士相当の研究能力を修得する。修士学位申請論文の一部もしくは主要部分を構成する内容の研究を行い、その成果を議論および発表できるようにする。このために必要な専門知識の修得を前提に、関連分野の基礎的な素養も修得し、自然・社会・環境などに対する論理的な判断能力を養う。また、課題発見、課題解決、発表等を含むコミュニケーション能力を養う。本科目では、専門性を深めつつ、当該分野における研究技法や作法を修得する。 （14 岡崎 篤行） 国内外における都市デザイン、景観保全、歴史的環境を課題とし、市街地およびそれを構成する建築物の実態、都市形成史、制度運用、組織活動等に関する研究指導を行う。 （24 紅露 一寛） 土木工学における応用力学、計算力学、鉄道工学を専門領域とし、有限要素法や境界要素法に代表される汎用数値解析手法の高度化、車両・軌道系の連成振動応答やバラスト軌道の繰り返し変形挙動の定量予測、材料物性値や形状特性値のばらつきを考慮した力学応答の定量予測などに関する研究に取り組み、研究指導を行う。 （29 佐伯 竜彦） コンクリートの耐久性、コンクリート構造物の維持管理を研究課題とし、コンクリートの劣化機構の解明・劣化予測、劣化作用の定量評価等に関する研究指導を行う。 （56 中村 孝也） 建築構造を研究課題とし、建築物の耐震性評価に関する研究指導を行う。 （117 大嶋 拓也） 建築環境工学における都市・建築環境音響学を研究課題とし、都市における環境騒音及び屋外拡声放送の広域伝搬予測及び検証に関する研究指導を行う。 （129 金澤 伸一） 地盤工学を研究課題とし、地盤工学における工学的諸問題に関する研究指導を行う。 （176 中村 亮太） 海岸工学を研究課題として、海岸工学を基軸とした土木工学、大気海洋物理学、機械学習の手法を用いた研究指導を行う。 （194 棒田 恵） 建築計画、建築デザインを研究課題とし、国内外の伝統的住居、学校建築、建築デザイン手法に関する研究指導を行う。 （198 松井 大輔） 都市計画・都市デザインを研究課題とし、歴史的な都市空間の実態とそれを保全するための制度や市民参加に関する研究指導を行う。 （154 須田 裕哉） セメント化学およびコンクリート工学を専門領域とし、熱力学的相平衡計算を用いたセメント系材料の水和反応の解析や、先進的な機器分析技術を活用したコンクリートの微細構造形成の評価を通じたコンクリートに関する諸現象の科学的知見の解明、コンクリート構造物における劣化因子の作用とその応答特性の定量評価・予測、さらには未利用資源を活用した新規材料の探索に関する研究指導も行う。 （225 有波 裕貴） 建築環境工学、特に温熱・空気環境と省エネルギーを研究課題とし、ゼロエネルギービルディング（ZEB）、高効率な換気空調方式、室内の気流測定手法・数値シミュレーション手法の開発、住宅の通風、建物の熱負荷解析に関する研究指導を行う。 （251 宮内 杏里） 生活文化や地域性に深く結びついた都市／建築／住居とその時間的変容を研究課題とし、歴史都市や伝統的集落をフィールドとして都市組織や生活行為から空間構成、形成過程、使われ方（住まい方）に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅲ-E（都 市・環境デザイン）		都市・環境デザイン（社会基盤工学または建築学）に関わる諸問題について特定の課題を設定し、その課題の解決について科学的手法を用いて自ら研究し、修士論文に取り組む。都市・環境デザイン（社会基盤工学または建築学）に関わる専門知識を学び理解するとともに、関連分野の科学的な知見を修得する。自ら課題を発見・設定し解決する能力、仮説を構築し検証する能力、定められた期間で課題を解決してまとめ発表する能力を含む修士相当の研究能力を修得する。修士学位申請論文の一部もしくは主要部分を構成する内容の研究を行い、その成果を議論および発表できるようにする。このために必要な専門知識の修得を前提に、関連分野の基礎的な素養も修得し、自然・社会・環境などに対する論理的な判断能力を養う。また、課題発見、課題解決、発表等を含むコミュニケーション能力を養う。本科目では、自身の探究課題を定めて研究に取り組みながら専門性を確立する。 （14 岡崎 篤行） 国内外における都市デザイン、景観保全、歴史的環境を課題とし、市街地およびそれを構成する建築物の実態、都市形成史、制度運用、組織活動等に関する研究指導を行う。 （24 紅露 一寛） 土木工学における応用力学、計算力学、鉄道工学を専門領域とし、有限要素法や境界要素法に代表される汎用数値解析手法の高度化、車両・軌道系の連成振動応答やバラスト軌道の繰返し変形挙動の定量予測、材料物性値や形状特性値のばらつきを考慮した力学応答の定量予測などに関する研究に取り組み、研究指導を行う。 （29 佐伯 竜彦） コンクリートの耐久性、コンクリート構造物の維持管理を研究課題とし、コンクリートの劣化機構の解明・劣化予測、劣化作用の定量評価等に関する研究指導を行う。 （56 中村 孝也） 建築構造を研究課題とし、建築物の耐震性評価に関する研究指導を行う。 （117 大嶋 拓也） 建築環境工学における都市・建築環境音響学を研究課題とし、都市における環境騒音及び屋外拡声放送の広域伝搬予測及び検証に関する研究指導を行う。 （129 金澤 伸一） 地盤工学を研究課題とし、地盤工学における工学的諸問題に関する研究指導を行う。 （176 中村 亮太） 海岸工学を研究課題として、海岸工学を基軸とした土木工学、大気海洋物理学、機械学習の手法を用いた研究指導を行う。 （194 棒田 恵） 建築計画、建築デザインを研究課題とし、国内外の伝統的住居、学校建築、建築デザイン手法に関する研究指導を行う。 （198 松井 大輔） 都市計画・都市デザインを研究課題とし、歴史的な都市空間の実態とそれを保全するための制度や市民参加に関する研究指導を行う。 （154 須田 裕哉） セメント化学およびコンクリート工学を専門領域とし、熱力学的相平衡計算を用いたセメント系材料の水和反応の解析や、先進的な機器分析技術を活用したコンクリートの微細構造形成の評価を通じたコンクリートに関する諸現象の科学的知見の解明、コンクリート構造物における劣化因子の作用とその応答特性の定量評価・予測、さらには未利用資源を活用した新規材料の探索に関する研究指導も行う。 （225 有波 裕貴） 建築環境工学、特に温熱・空気環境と省エネルギーを研究課題とし、ゼロエネルギービルディング（ZEB）、高効率な換気空調方式、室内の気流測定手法・数値シミュレーション手法の開発、住宅の通風、建物の熱負荷解析に関する研究指導を行う。 （251 宮内 杏里） 生活文化や地域性に深く結びついた都市／建築／住居とその時間的変容を研究課題とし、歴史都市や伝統的集落をフィールドとして都市組織や生活行為から空間構成、形成過程、使われ方（住まい方）に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅳ-E（都市・環境デザイン）		都市・環境デザイン（社会基盤工学または建築学）に関わる諸問題について特定の課題を設定し、その課題の解決について科学的手法を用いて自ら研究し、修士論文に取り組む。都市・環境デザイン（社会基盤工学または建築学）に関わる専門知識を学び理解するとともに、関連分野の科学的な知見を修得する。自ら課題を発見・設定し解決する能力、仮説を構築し検証する能力、定められた期間で課題を解決してまとめ発表する能力を含む修士相当の研究能力を修得する。修士学位申請論文の一部もしくは主要部分を構成する内容の研究を行い、その成果を議論および発表できるようにする。このために必要な専門知識の修得を前提に、関連分野の基礎的な素養も修得し、自然・社会・環境などに対する論理的な判断能力を養う。また、課題発見、課題解決、発表等を含むコミュニケーション能力を養う。本科目では、集大成の成果物である修士論文の作成および発表を行う。 （14 岡崎 篤行） 国内外における都市デザイン、景観保全、歴史的環境を課題とし、市街地およびそれを構成する建築物の実態、都市形成史、制度運用、組織活動等に関する研究指導を行う。 （24 紅露 一寛） 土木工学における応用力学、計算力学、鉄道工学を専門領域とし、有限要素法や境界要素法に代表される汎用数値解析手法の高度化、車両・軌道系の連成振動応答やバラスト軌道の繰り返し変形挙動の定量予測、材料物性値や形状特性値のばらつきを考慮した力学応答の定量予測などに関する研究に取り組み、研究指導を行う。 （29 佐伯 竜彦） コンクリートの耐久性、コンクリート構造物の維持管理を研究課題とし、コンクリートの劣化機構の解明・劣化予測、劣化作用の定量評価等に関する研究指導を行う。 （56 中村 孝也） 建築構造を研究課題とし、建築物の耐震性評価に関する研究指導を行う。 （117 大嶋 拓也） 建築環境工学における都市・建築環境音響学を研究課題とし、都市における環境騒音及び屋外拡声放送の広域伝搬予測及び検証に関する研究指導を行う。 （129 金澤 伸一） 地盤工学を研究課題とし、地盤工学における工学的諸問題に関する研究指導を行う。 （176 中村 亮太） 海岸工学を研究課題として、海岸工学を基軸とした土木工学、大気海洋物理学、機械学習の手法を用いた研究指導を行う。 （194 棒田 恵） 建築計画、建築デザインを研究課題とし、国内外の伝統的住居、学校建築、建築デザイン手法に関する研究指導を行う。 （198 松井 大輔） 都市計画・都市デザインを研究課題とし、歴史的な都市空間の実態とそれを保全するための制度や市民参加に関する研究指導を行う。 （154 須田 裕哉） セメント化学およびコンクリート工学を専門領域とし、熱力学的相平衡計算を用いたセメント系材料の水和反応の解析や、先進的な機器分析技術を活用したコンクリートの微細構造形成の評価を通じたコンクリートに関する諸現象の科学的知見の解明、コンクリート構造物における劣化因子の作用とその応答特性の定量評価・予測、さらには未利用資源を活用した新規材料の探索に関する研究指導も行う。 （225 有波 裕貴） 建築環境工学、特に温熱・空気環境と省エネルギーを研究課題とし、ゼロエネルギービルディング（ZEB）、高効率な換気空調方式、室内の気流測定手法・数値シミュレーション手法の開発、住宅の通風、建物の熱負荷解析に関する研究指導を行う。 （251 宮内 杏里） 生活文化や地域性に深く結びついた都市／建築／住居とその時間的変容を研究課題とし、歴史都市や伝統的集落をフィールドとして都市組織や生活行為から空間構成、形成過程、使われ方（住まい方）に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究 I-E（地質学）		課題解決のための計画性・自発性を涵養し、情報収集から解決に至るプロセスを実践し、表現・発信する能力を身に付ける科目である。修士課程（1年1学期）において、必要な研究指導を受け、研究活動を行う。地質学に関する研究テーマについて、問題点の抽出、研究方法・計画の立案、データの取得、データの総合解釈、成果全体の提示・説明という一連の流れにおいて、問題点の抽出と研究方法・計画の立案を主に実践し、基礎的な知識と技術を学んでいく。 （23 栗原 敏之） 地質学・古生物学を研究課題とし、日本と東アジアの中・古生界を対象とした地質形成史と微化石層序に関する研究指導を行う。 （27 小西 博巳） 微生物が関与する鉱物などナノ鉱物、鉱物結晶中の微細構造について研究課題として、主に透過電子顕微鏡法、電子線、X線回折による鉱物キャラクタリゼーションの方法とその結果に基づき鉱物現象を理解する方法について研究指導を行う。 （46 高澤 栄一） マントル岩石学を研究課題とし、オフィオライトや造山帯レルソライトに産する超苦鉄質岩の化学組成と岩石学的特徴に基づき、上部マントルにおける火成および変成史を解説することを目標とする研究指導を行う。 （77 MADHUSOODHAN SATISH KUMAR） Topic-1 Isotope geochemistry My attempt here is to relate the processes of isotope exchange in natural systems and compare it with experiments. To understand the link between Earth's interior and surface processes that controlled the chemical evolution of Earth, and to model the material circulation, especially in the early stages of Earth, during which the Earth was "hot" and "dynamic". Topic-2 Metamorphic petrology Using metamorphic rocks from orogenic belts from Antarctica, India and Sri Lanka, we try to understand the evolution of continental crust using mineral chemistry and pressure temperature conditions in which they were formed. 同位体地球化学および変成岩岩石学を研究課題とする。地球内部と表面のプロセス間のつながりを理解し、地球における物質循環をモデル化する研究指導、ならびに、変成岩を使用して、鉱物の化学組成とそれらが形成された圧力温度条件を使用して大陸地殻の進化を理解するための研究指導を行う。 （110 植田 勇人） 沈み込みに関連した、地層や岩石の形成プロセスや地史の復元に関する研究指導を行う。 （145 椎野 勇太） 進化古生物学を研究課題とし、腕足動物、三葉虫、放散虫などの無脊椎動物化石を題材とした研究指導を行う。 （157 高清水 康博） 堆積地質学を研究課題とし、現世・古津波堆積物、洪水堆積物、堆積相解析、古環境復元、および堆積組織学等に関する研究指導を行う。 （161 高橋 俊郎） 島弧マグマの成因と組成進化過程の解明を課題研究とし、火成岩について地質学的・岩石学的・地球化学的手法による研究指導を行う。 （185 葉田野 希） 地質学・堆積学・堆積岩岩石学を研究課題とし、日本と東アジアの新生界を対象とした地球表層環境の変動に関する研究指導を行う。 （219 小林 健太） 脆性断層・活断層・地震断層の構造地質学、断層岩の構造岩石学を主な研究手法とし、変動帯における地質構造の発達過程や、地震テクトニクスに関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅱ-E（地質学）		課題解決のための計画性・自発性を涵養し、情報収集から解決に至るプロセスを実践し、表現・発信する能力を身に付ける科目である。修士課程（1年2学期）において、必要な研究指導を受け、研究活動を行う。地質学に関する研究テーマについて、問題点の抽出、研究方法・計画の立案、データの取得、データの総合解釈、成果全体の提示・説明という一連の流れにおいて、立案した計画に基づきデータの取得を進め、修士課程1年の段階でのデータの解釈と成果の提示・説明を実践する。このような研究の実践を通じ、理学的考究における普遍的に必要な能力を培うとともに、創造的な成果を生み出す土台をつくる。 （23 栗原 敏之） 地質学・古生物学を研究課題とし、日本と東アジアの中・古生界を対象とした地質形成史と微化石層序に関する研究指導を行う。 （27 小西 博巳） 微生物が関与する鉱物などナノ鉱物、鉱物結晶中の微細構造について研究課題として、主に透過電子顕微鏡法、電子線、X線回折による鉱物キャラクタリゼーションの方法とその結果に基づき鉱物現象を理解する方法について研究指導を行う。 （46 高澤 栄一） マントル岩石学を研究課題とし、オフィオライトや造山帯レルゾライトに産する超苦鉄質岩の化学組成と岩石学的特徴に基づき、上部マントルにおける火成および変成史を解説することを目標とする研究指導を行う。 （77 MADHUSOODHAN SATISH KUMAR） Topic-1 Isotope geochemistry My attempt here is to relate the processes of isotope exchange in natural systems and compare it with experiments. To understand the link between Earth's interior and surface processes that controlled the chemical evolution of Earth, and to model the material circulation, especially in the early stages of Earth, during which the Earth was "hot" and "dynamic". Topic-2 Metamorphic petrology Using metamorphic rocks from orogenic belts from Antarctica, India and Sri Lanka, we try to understand the evolution of continental crust using mineral chemistry and pressure temperature conditions in which they were formed. 同位体地球化学および変成岩岩石学を研究課題とする。地球内部と表面のプロセス間のつながりを理解し、地球における物質循環をモデル化する研究指導、ならびに、変成岩を使用して、鉱物の化学組成とそれらが形成された圧力温度条件を使用して大陸地殻の進化を理解するための研究指導を行う。 （110 植田 勇人） 沈み込みに関連した、地層や岩石の形成プロセスや地史の復元に関する研究指導を行う。 （145 椎野 勇太） 進化古生物学を研究課題とし、腕足動物、三葉虫、放散虫などの無脊椎動物化石を題材とした研究指導を行う。 （157 高清水 康博） 堆積地質学を研究課題とし、現世・古津波堆積物、洪水堆積物、堆積相解析、古環境復元、および堆積組織学等に関する研究指導を行う。 （161 高橋 俊郎） 島弧マグマの成因と組成進化過程の解明を課題研究とし、火成岩について地質学的・岩石学的・地球化学的手法による研究指導を行う。 （185 葉田野 希） 地質学・堆積学・堆積岩岩石学を研究課題とし、日本と東アジアの新生界を対象とした地球表層環境の変動に関する研究指導を行う。 （219 小林 健太） 脆性断層・活断層・地震断層の構造地質学、断層岩の構造岩石学を主な研究手法とし、変動帯における地質構造の発達過程や、地震テクトニクスに関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅲ-E（地質学）		課題解決のための計画性・自発性を涵養し、情報収集から解決に至るプロセスを実践し、表現・発信する能力を身に付ける科目である。修士課程（2年1学期）において、必要な研究指導を受け、研究活動を行う。地質学に関する研究テーマについて、問題点の抽出、研究方法・計画の立案、データの取得、データの総合解釈、成果全体の提示・説明という一連の流れにおいて、立案した計画に基づきデータの取得を進め、修士課程1年の段階でのデータの解釈と成果の提示・説明を実践する。このような研究の実践を通じ、理学的考究における普遍的に必要な能力を培うとともに、創造的な成果を生み出す土台をつくる。 （23 栗原 敏之） 地質学・古生物学を研究課題とし、日本と東アジアの中・古生界を対象とした地質形成史と微化石層序に関する研究指導を行う。 （27 小西 博巳） 微生物が関与する鉱物などナノ鉱物、鉱物結晶中の微細構造について研究課題として、主に透過電子顕微鏡法、電子線、X線回折による鉱物キャラクタリゼーションの方法とその結果に基づき鉱物現象を理解する方法について研究指導を行う。 （46 高澤 栄一） マントル岩石学を研究課題とし、オフィオライトや造山帯レルゾライトに産する超苦鉄質岩の化学組成と岩石学的特徴に基づき、上部マントルにおける火成および変成史を解説することを目標とする研究指導を行う。 （77 MADHUSOODHAN SATISH KUMAR） Topic-1 Isotope geochemistry My attempt here is to relate the processes of isotope exchange in natural systems and compare it with experiments. To understand the link between Earth's interior and surface processes that controlled the chemical evolution of Earth, and to model the material circulation, especially in the early stages of Earth, during which the Earth was "hot" and "dynamic". Topic-2 Metamorphic petrology Using metamorphic rocks from orogenic belts from Antarctica, India and Sri Lanka, we try to understand the evolution of continental crust using mineral chemistry and pressure temperature conditions in which they were formed. 同位体地球化学および変成岩岩石学を研究課題とする。地球内部と表面のプロセス間のつながりを理解し、地球における物質循環をモデル化する研究指導、ならびに、変成岩を使用して、鉱物の化学組成とそれらが形成された圧力温度条件を使用して大陸地殻の進化を理解するための研究指導を行う。 （110 植田 勇人） 沈み込みに関連した、地層や岩石の形成プロセスや地史の復元に関する研究指導を行う。 （145 椎野 勇太） 進化古生物学を研究課題とし、腕足動物、三葉虫、放散虫などの無脊椎動物化石を題材とした研究指導を行う。 （157 高清水 康博） 堆積地質学を研究課題とし、現世・古津波堆積物、洪水堆積物、堆積相解析、古環境復元、および堆積組織学等に関する研究指導を行う。 （161 高橋 俊郎） 島弧マグマの成因と組成進化過程の解明を課題研究とし、火成岩について地質学的・岩石学的・地球化学的手法による研究指導を行う。 （185 葉田野 希） 地質学・堆積学・堆積岩岩石学を研究課題とし、日本と東アジアの新生界を対象とした地球表層環境の変動に関する研究指導を行う。 （219 小林 健太） 脆性断層・活断層・地震断層の構造地質学、断層岩の構造岩石学を主な研究手法とし、変動帯における地質構造の発達過程や、地震テクトニクスに関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究IV-E（地質学）		課題解決のための計画性・自発性を涵養し、情報収集から解決に至るプロセスを実践し、表現・発信する能力を身に付ける科目である。修士課程（2年2学期）において、必要な研究指導を受け、研究活動を行う。地質学に関する研究テーマについて、問題点の抽出、研究方法・計画の立案、データの取得、データの総合解釈、成果全体の提示・説明、という一連の流れにおいて、取得したデータに基づいた総合解釈と成果全体の提示・説明を実践する。このような研究の実践を通じ、理学的考究における普遍的に必要な能力を培うとともに、創造的な成果を生み出す。 （23 栗原 敏之） 地質学・古生物学を研究課題とし、日本と東アジアの中・古生界を対象とした地質形成史と微化石層序に関する研究指導を行う。 （27 小西 博巳） 微生物が関与する鉱物などナノ鉱物、鉱物結晶中の微細構造について研究課題として、主に透過電子顕微鏡法、電子線、X線回折による鉱物キャラクタリゼーションの方法とその結果に基づき鉱物現象を理解する方法について研究指導を行う。 （46 高澤 栄一） マントル岩石学を研究課題とし、オフィオライトや造山帯レルゾライトに産する超苦鉄質岩の化学組成と岩石学的特徴に基づき、上部マントルにおける火成および変成史を解説することを目標とする研究指導を行う。 （77 MADHUSOODHAN SATISH KUMAR） Topic-1 Isotope geochemistry My attempt here is to relate the processes of isotope exchange in natural systems and compare it with experiments. To understand the link between Earth's interior and surface processes that controlled the chemical evolution of Earth, and to model the material circulation, especially in the early stages of Earth, during which the Earth was "hot" and "dynamic". Topic-2 Metamorphic petrology Using metamorphic rocks from orogenic belts from Antarctica, India and Sri Lanka, we try to understand the evolution of continental crust using mineral chemistry and pressure temperature conditions in which they were formed. 同位体地球化学および変成岩岩石学を研究課題とする。地球内部と表面のプロセス間のつながりを理解し、地球における物質循環をモデル化する研究指導、ならびに、変成岩を使用して、鉱物の化学組成とそれらが形成された圧力温度条件を使用して大陸地殻の進化を理解するための研究指導を行う。 （110 植田 勇人） 沈み込みに関連した、地層や岩石の形成プロセスや地史の復元に関する研究指導を行う。 （145 椎野 勇太） 進化古生物学を研究課題とし、腕足動物、三葉虫、放散虫などの無脊椎動物化石を題材とした研究指導を行う。 （157 高清水 康博） 堆積地質学を研究課題とし、現世・古津波堆積物、洪水堆積物、堆積相解析、古環境復元、および堆積組織学等に関する研究指導を行う。 （161 高橋 俊郎） 島弧マグマの成因と組成進化過程の解明を課題研究とし、火成岩について地質学的・岩石学的・地球化学的手法による研究指導を行う。 （185 葉田野 希） 地質学・堆積学・堆積岩岩石学を研究課題とし、日本と東アジアの新生界を対象とした地球表層環境の変動に関する研究指導を行う。 （219 小林 健太） 脆性断層・活断層・地震断層の構造地質学、断層岩の構造岩石学を主な研究手法とし、変動帯における地質構造の発達過程や、地震テクトニクスに関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅰ-E（自然 災害科学）		研究指導委員会のもとで、自然災害科学に関わる諸問題について特定の課題を設定し、予備的な実験・調査や文献調査等を行い、修士論文のテーマ設定に向けた議論を行う。本科目は、研究指導委員会（特に主指導教員）との綿密な打合せに基づき、柔軟かつ適切な計画を設定して行う。本科目は、自身の興味、当該分野の研究の動向、研究の新規性、想定される研究成果、研究期間や研究設備等を踏まえた実現可能性等に基づいて、修士論文の研究テーマを決めることを目標とする。 （11 ト部 厚志） 地震によるさまざまな災害現象を研究課題とし、発生メカニズムの解明、発生予測、防止・軽減対策等に関する研究指導を行う。 （16 片岡 香子） 火山の噴火現象および噴火後の火山土砂輸送現象とその災害の防止・軽減・予測を研究課題とし、火山現象の履歴復元と発生機構の解明および災害評価に関する研究指導を行う。 （18 河島 克久） 雪氷学・雪氷防災学に関わる諸問題を研究課題とし、温暖化進行時の降雪・積雪変動や、極端な大雪・融雪に起因する雪氷災害の予測と対策に関する研究指導を行う。 （179 西井 稜子） 山地斜面の地形変化を研究課題とし、山地斜面の地形変化や山地災害に関する研究指導を行う。 （177 新屋 啓文） 地球物理学および雪氷学を研究課題とし、吹雪や雪崩など雪氷現象の観測・実験・理論に関する研究指導を行う。 （211 安田 浩保） 水害ゼロかつ生物多様性を最大とする河川を研究課題とし、河川の物理機構とそれに基づく河道の制御法に関する研究指導を行う。 （215 渡部 直喜） 斜面上の土砂の移動によって発生する災害を研究課題とし、地形・地質学、応用地球化学、水理・水文学、土質力学の手法を用いて、災害の発生要因、発生メカニズム、危険度予測に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅱ-E（自然 災害科学）		研究指導委員会のもとで、決定した修士論文のテーマについて研究計画（研究背景、研究目的、研究方法、想定される成果、研究スケジュール等）を立案し、研究指導委員会（特に主指導教員）との十分な議論によってこの段階での研究計画を作成する。研究計画作成後は着実に研究を進める。本科目は、研究指導委員会（特に主指導教員）との綿密な打合せに基づき、柔軟かつ適切な計画を設定して行う。本科目は、研究期間全体を見据えた検討や議論に基づいて、適切な研究計画を立案・作成する能力を養うことを目標とする。 （11 ト部 厚志） 地震によるさまざまな災害現象を研究課題とし、発生メカニズムの解明、発生予測、防止・軽減対策等に関する研究指導を行う。 （16 片岡 香子） 火山の噴火現象および噴火後の火山土砂輸送現象とその災害の防止・軽減・予測を研究課題とし、火山現象の履歴復元と発生機構の解明および災害評価に関する研究指導を行う。 （18 河島 克久） 雪氷学・雪氷防災学に関わる諸問題を研究課題とし、温暖化進行時の降雪・積雪変動や、極端な大雪・融雪に起因する雪氷災害の予測と対策に関する研究指導を行う。 （179 西井 稜子） 山地斜面の地形変化を研究課題とし、山地斜面の地形変化や山地災害に関する研究指導を行う。 （177 新屋 啓文） 地球物理学および雪氷学を研究課題とし、吹雪や雪崩など雪氷現象の観測・実験・理論に関する研究指導を行う。 （211 安田 浩保） 水害ゼロかつ生物多様性を最大とする河川を研究課題とし、河川の物理機構とそれに基づく河道の制御法に関する研究指導を行う。 （215 渡部 直喜） 斜面上の土砂の移動によって発生する災害を研究課題とし、地形・地質学、応用地球化学、水理・水文学、土質力学の手法を用いて、災害の発生要因、発生メカニズム、危険度予測に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅲ-E（自然 災害科学）		決定した修士論文の研究計画（研究背景、研究目的、研究方法、想定される成果、研究スケジュール等）に基づいて研究を進める。定期的に研究の進捗状況や得られた成果を研究指導委員会に報告し、議論を行う。進捗が芳しくない場合や新たなアイデア・着想が得られた場合などには、研究指導委員会と議論しながら研究計画の見直しやブラッシュアップを図る。本科目は、研究指導委員会（特に主指導教員）との綿密な打合せに基づき、柔軟かつ適切な計画を設定して行う。本科目は、研究の進捗状況に応じて柔軟かつ適切に研究計画を調整しながら、着実に研究を進めることを目標とする。 （11 ト部 厚志） 地震によるさまざまな災害現象を研究課題とし、発生メカニズムの解明、発生予測、防止・軽減対策等に関する研究指導を行う。 （16 片岡 香子） 火山の噴火現象および噴火後の火山土砂輸送現象とその災害の防止・軽減・予測を研究課題とし、火山現象の履歴復元と発生機構の解明および災害評価に関する研究指導を行う。 （18 河島 克久） 雪氷学・雪氷防災学に関わる諸問題を研究課題とし、温暖化進行時の降雪・積雪変動や、極端な大雪・融雪に起因する雪氷災害の予測と対策に関する研究指導を行う。 （179 西井 稜子） 山地斜面の地形変化を研究課題とし、山地斜面の地形変化や山地災害に関する研究指導を行う。 （177 新屋 啓文） 地球物理学および雪氷学を研究課題とし、吹雪や雪崩など雪氷現象の観測・実験・理論に関する研究指導を行う。 （211 安田 浩保） 水害ゼロかつ生物多様性を最大とする河川を研究課題とし、河川の物理機構とそれに基づく河道の制御法に関する研究指導を行う。 （215 渡部 直喜） 斜面上の土砂の移動によって発生する災害を研究課題とし、地形・地質学、応用地球化学、水理・水文学、土質力学の手法を用いて、災害の発生要因、発生メカニズム、危険度予測に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅳ-E（自然 災害科学）		実施してきた修士研究の内容や成果に基づき、修士論文全体の構成を十分検討したうえで修士論文を執筆する。また、修士論文の発表資料（スライド）を作成し、修士論文発表会において発表と質疑応答を行う。本科目は、研究指導委員会（特に主指導教員）との綿密な打合せに基づき、柔軟かつ適切な計画を設定して行う。本科目は、論理的思考によって修士論文の執筆と発表資料（スライド）を作成し、その発表と質疑応答を適切に行うことを目標とする。 （11 ト部 厚志） 地震によるさまざまな災害現象を研究課題とし、発生メカニズムの解明、発生予測、防止・軽減対策等に関する研究指導を行う。 （16 片岡 香子） 火山の噴火現象および噴火後の火山土砂輸送現象とその災害の防止・軽減・予測を研究課題とし、火山現象の履歴復元と発生機構の解明および災害評価に関する研究指導を行う。 （18 河島 克久） 雪氷学・雪氷防災学に関わる諸問題を研究課題とし、温暖化進行時の降雪・積雪変動や、極端な大雪・融雪に起因する雪氷災害の予測と対策に関する研究指導を行う。 （179 西井 稜子） 山地斜面の地形変化を研究課題とし、山地斜面の地形変化や山地災害に関する研究指導を行う。 （177 新屋 啓文） 地球物理学および雪氷学を研究課題とし、吹雪や雪崩など雪氷現象の観測・実験・理論に関する研究指導を行う。 （211 安田 浩保） 水害ゼロかつ生物多様性を最大とする河川を研究課題とし、河川の物理機構とそれに基づく河道の制御法に関する研究指導を行う。 （215 渡部 直喜） 斜面上の土砂の移動によって発生する災害を研究課題とし、地形・地質学、応用地球化学、水理・水文学、土質力学の手法を用いて、災害の発生要因、発生メカニズム、危険度予測に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅰ-F（映像資源科学）		映像資源科学に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第1学期に開講される課題研究Ⅰでは、研究指導委員会の指導と助言を受けながら研究課題を設定し、準備的な研究を開始して、課題解決のために必要な知識範囲を確認し、設定課題とその研究方法の妥当性を検討し、必要となる資料収集やフィールドワークなどの準備をすることで、学位取得までの2年間の研究計画を立てることを目的とする。 （82 村松 正吾） 映像資源科学分野における画像情報処理に関する問題を研究課題とし、学生の関心にあわせて、広く、情報学、映像、メディアなどの分析に関する研究指導を行う。 （202 三俣 哲） 映像資源科学分野におけるナノテク・材料に関する問題を研究課題とする。学生の関心にあわせて、広く、材料科学、映像、メディアなどの分析に関する研究指導を行う。 （194 棒田 恵） 映像資源科学分野における建築計画・建築デザインに関する問題を研究課題とする。学生の関心にあわせて、広く、建築学、映像、メディアなどの分析に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅱ-F（映像資源科学）		映像資源科学に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。1年次第2学期に開講される課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで立案した計画に従って実際に研究を開始し、各自の課題にしたがって、先行研究の調査、資料収集、事例研究、フィールドワーク、理論的検討などを指導教員の指導のもとでおこなって、翌年度のはじめに予定されている研究中間発表の準備をすすめる。 （82 村松 正吾） 映像資源科学分野における画像情報処理に関する問題を研究課題とし、学生の関心にあわせて、広く、情報学、映像、メディアなどの分析に関する研究指導を行う。 （202 三俣 哲） 映像資源科学分野におけるナノテク・材料に関する問題を研究課題とする。学生の関心にあわせて、広く、材料科学、映像、メディアなどの分析に関する研究指導を行う。 （194 棒田 恵） 映像資源科学分野における建築計画・建築デザインに関する問題を研究課題とする。学生の関心にあわせて、広く、建築学、映像、メディアなどの分析に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅲ-F（映像資源科学）		映像資源科学に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第1学期に開講される課題研究Ⅲでは、課題研究Ⅱでおこなった研究成果をまとめ、映像資源科学領域と関連の深い教員が複数参加する中間発表会で報告することによって、研究の進捗状況と取得予定学位の専門分野の妥当性に関する確認をうけ、あわせて、他分野・学際的な視点から自らの研究を再検討する。 （82 村松 正吾） 映像資源科学分野における画像情報処理に関する問題を研究課題とし、学生の関心にあわせて、広く、情報学、映像、メディアなどの分析に関する研究指導を行う。 （202 三俣 哲） 映像資源科学分野におけるナノテク・材料に関する問題を研究課題とする。学生の関心にあわせて、広く、材料科学、映像、メディアなどの分析に関する研究指導を行う。 （194 棒田 恵） 映像資源科学分野における建築計画・建築デザインに関する問題を研究課題とする。学生の関心にあわせて、広く、建築学、映像、メディアなどの分析に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅳ-F（映像資源科学）		映像資源科学に関わる領域において自ら課題を設定し、主指導教員の指導を受けながら研究を進めて、最終的に修士論文を完成させるための授業である。2年次第2学期に開講される課題研究Ⅳでは、課題研究Ⅲで中間的な評価を受け、必要な微調整をおこなった研究を最後まで進め、修士論文を完成させる。修士論文完成後はただちに成果発表の準備にとりかかり、修士論文発表会において、2年間の研究成果を発表し、学際的な「総合知」の視点から、自らの研究の意義を再検討する。 （82 村松 正吾） 映像資源科学分野における画像情報処理に関する問題を研究課題とし、学生の関心にあわせて、広く、情報学、映像、メディアなどの分析に関する研究指導を行う。 （202 三俣 哲） 映像資源科学分野におけるナノテク・材料に関する問題を研究課題とする。学生の関心にあわせて、広く、材料科学、映像、メディアなどの分析に関する研究指導を行う。 （194 棒田 恵） 映像資源科学分野における建築計画・建築デザインに関する問題を研究課題とする。学生の関心にあわせて、広く、建築学、映像、メディアなどの分析に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅰ-G（日本酒学・農学）		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。そこで、本講義の科目の概要は、日本酒学に関する各自の専門分野の研究について、各教員の指導の下、修士論文を作成するため、研究の目的や概要を明らかにし、研究遂行のために必要な実験方法の検討およびその妥当性について議論し、進めて行く。 （12 大竹 憲邦） 土壌肥科学を研究課題とし、特に酒造高適米について植物栄養学の観点から研究指導を行う。 （34 佐藤 努） 日本酒などに含まれる天然有機化合物の化学構造、生合成、生理活性に関する研究指導を行う。 （36 城 斗志夫） 日本酒などの発酵食品のおいしさと機能性を研究課題とし、おいしさと機能性に関与する成分に関する研究指導を行う。 （60 西川 周一） 細胞生物学を研究課題とし、植物配偶体や出芽酵母の細胞内構造の動態と機能解析に関する研究指導を行う。 （65 平田 大） 文理融合型の「日本酒学」的視点に立脚し、アルコール発酵に関わる醸造微生物を研究課題とし、酵母を用いた健康長寿・日本酒醸造に関する研究指導を行う。 （68 藤村 忍） 食品の機能性を研究課題とし、食品成分、テクスチャー等の理化学的手法、また官能評価手法等により、主に二次機能の評価及び品質制御に関する研究指導を行う。 （152 杉本 華幸） 微生物タンパク質機能や安定性に関する研究指導を行う。また、代謝熱を指標とした微生物活性の新規評価方法の開発を研究課題として、各種炭素源資化活性等の定量評価と比較解析に関する研究指導を行う。 （153 鈴木 一輝） 主に土壌微生物学や微生物生態学を研究課題とし、酒米を念頭に置いた土壌および植物－微生物共生系や発酵過程における微生物の生態や機能に関する研究指導を行う。 （173 中井 博之） ヒトの健康保持増進に有用な新規糖質の創生を研究課題とし、発酵技術を駆使した新規糖質の製造方法や機能性評価に関する研究指導を行う。 （181 西田 郁久） 酵母を用いた生体物質の機能性・日本酒醸造・健康長寿を研究課題とし、酵母遺伝学・細胞生物学に関する研究指導を行う。 （188 原 崇） 食品成分の体調節機能の解明を研究課題とし、機能性成分の探索および生理活性評価に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅰ-G（日本酒学・農学）		（207 宮本 託志） 植物の栄養生理と細胞壁の形成を研究課題とし、それらと関連する作物の肥培管理と利用特性に関する研究指導を行う。また、酒米の品質が日本酒醸造に及ぼす影響についての研究指導を含む。 （209 元永 佳孝） 日本酒およびその原料・醸造過程での醪などを研究対象とし、光センシング技術・画像処理技術を用いた品質評価・管理に関する研究指導を行う。 （227 伊藤 亮司） 食品産業論および農業市場論を専門分野とした食料・農産物市場の経済構造に関する実証的・動態研究をライフワークとし、我が国内外における農産物流通に関する経済主体の市場行動・市場構造ならびに市場政策に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅱ-G（日本酒学・農学）		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。そこで、本講義の科目の概要は、課題研究Ⅰの進捗を踏まえ、日本酒学に関する各自の専門分野の研究について、各教員の指導の下、修士論文を作成するため、研究の目的や概要を明らかにし、研究遂行のために必要な実験方法の検討およびその妥当性について議論し、進めて行く。 （12 大竹 憲邦） 土壌肥料学を研究課題とし、特に酒造高適米について植物栄養学の観点から研究指導を行う。 （34 佐藤 努） 日本酒などに含まれる天然有機化合物の化学構造、生合成、生理活性に関する研究指導を行う。 （36 城 斗志夫） 日本酒などの発酵食品のおいしさと機能性を研究課題とし、おいしさと機能性に関する成分に関する研究指導を行う。 （60 西川 周一） 細胞生物学を研究課題とし、植物配偶体や出芽酵母の細胞内構造の動態と機能解析に関する研究指導を行う。 （65 平田 大） 文理融合型の「日本酒学」的視点に立脚し、アルコール発酵に関わる醸造微生物を研究課題とし、酵母を用いた健康長寿・日本酒醸造に関する研究指導を行う。 （68 藤村 忍） 食品の機能性を研究課題とし、食品成分、テクスチャー等の理化学的手法、また官能評価手法等により、主に二次機能の評価及び品質制御に関する研究指導を行う。 （152 杉本 華幸） 微生物タンパク質機能や安定性に関する研究指導を行う。また、代謝熱を指標とした微生物活性の新規評価方法の開発を研究課題として、各種炭素源資化活性等の定量評価と比較解析に関する研究指導を行う。 （153 鈴木 一輝） 主に土壌微生物学や微生物生態学を研究課題とし、酒米を念頭に置いた土壌および植物－微生物共生系や発酵過程における微生物の生態や機能に関する研究指導を行う。 （173 中井 博之） ヒトの健康保持増進に有用な新規糖質の創生を研究課題とし、発酵技術を駆使した新規糖質の製造方法や機能性評価に関する研究指導を行う。 （181 西田 郁久） 酵母を用いた生体物質の機能性・日本酒醸造・健康長寿を研究課題とし、酵母遺伝学・細胞生物学に関する研究指導を行う。 （188 原 崇） 食品成分の体調節機能の解明を研究課題とし、機能性成分の探索および生理活性評価に関する研究指導を行う。 （207 宮本 託志） 植物の栄養生理と細胞壁の形成を研究課題とし、それらと関連する作物の肥培管理と利用特性に関する研究指導を行う。また、酒米の品質が日本酒醸造に及ぼす影響についての研究指導を含む。 （209 元永 佳孝） 日本酒およびその原料・醸造過程での醪などを研究対象とし、光センシング技術・画像処理技術を用いた品質評価・管理に関する研究指導を行う。 （227 伊藤 亮司） 食品産業論および農業市場論を専門分野とした食料・農産物市場の経済構造に関する実証的・動態研究をライフワークとし、我が国内外における農産物流通に関する経済主体の市場行動・市場構造ならびに市場政策に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅲ-G（日本酒学・農学）		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。そこで、本科目の概要は、課題研究IIの進捗を踏まえ、日本酒学に関する各自の専門分野の研究について、各教員の指導の下、修士論文を作成するため、研究の目的や概要を明らかにし、研究遂行のために必要な実験方法の検討およびその妥当性について議論し、進 （12 大竹 憲邦） 土壌肥料学を研究課題とし、特に酒造高適米について植物栄養学の観点から研究指導を行う。 （34 佐藤 努） 日本酒などに含まれる天然有機化合物の化学構造、生合成、生理活性に関する研究指導を行う。 （36 城 斗志夫） 日本酒などの発酵食品のおいしさと機能性を研究課題とし、おいしさと機能性に関与する成分に関する研究指導を行う。 （60 西川 周一） 細胞生物学を研究課題とし、植物配偶体や出芽酵母の細胞内構造の動態と機能解析に関する研究指導を行う。 （65 平田 大） 文理融合型の「日本酒学」的視点に立脚し、アルコール発酵に関わる醸造微生物を研究課題とし、酵母を用いた健康長寿・日本酒醸造に関する研究指導を行う。 （68 藤村 忍） 食品の機能性を研究課題とし、食品成分、テクスチャー等の理化学的手法、また官能評価手法等により、主に二次機能の評価及び品質制御に関する研究指導を行う。 （152 杉本 華幸） 微生物タンパク質機能や安定性に関する研究指導を行う。また、代謝熱を指標とした微生物活性の新規評価方法の開発を研究課題として、各種炭素源資化活性等の定量評価と比較解析に関する研究指導を行う。 （153 鈴木 一輝） 主に土壌微生物学や微生物生態学を研究課題とし、酒米を念頭に置いた土壌および植物－微生物共生系や発酵過程における微生物の生態や機能に関する研究指導を行う。 （173 中井 博之） ヒトの健康保持増進に有用な新規糖質の創生を研究課題とし、発酵技術を駆使した新規糖質の製造方法や機能性評価に関する研究指導を行う。 （181 西田 郁久） 酵母を用いた生体物質の機能性・日本酒醸造・健康長寿を研究課題とし、酵母遺伝学・細胞生物学に関する研究指導を行う。 （188 原 崇） 食品成分の体調調節機能の解明を研究課題とし、機能性成分の探索および生理活性評価に関する研究指導を行う。 （207 宮本 託志） 植物の栄養生理と細胞壁の形成を研究課題とし、それらに関連する作物の肥培管理と利用特性に関する研究指導を行う。また、酒米の品質が日本酒醸造に及ぼす影響についての研究指導を含む。 （209 元永 佳孝） 日本酒およびその原料・醸造過程での醪などを研究対象とし、光センシング技術・画像処理技術を用いた品質評価・管理に関する研究指導を行う。 （227 伊藤 亮司） 食品産業論および農業市場論を専門分野とした食料・農産物市場の経済構造に関する実証的・動態研究をライフワークとし、我が国内外における農産物流通に関する経済主体の市場行動・市場構造ならびに市場政策に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅳ-G（日本 酒学・農学）		日本酒学プログラムでは、自らの専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰しながら全体を見渡し、社会課題の解決や新たな価値を創出するイノベーションを起こしうる人材を養成する目的を持っている。そこで、本科目の概要は、課題研究Ⅲの進捗を踏まえ、日本酒学に関する各自の専門分野の研究について、各教員の指導の下、修士論文を作成するため、研究の目的や概要を明らかにし、研究遂行のために必要な実験方法の検討およびその妥当性について議論し、進 （12 大竹 憲邦） 土壌肥料学を研究課題とし、特に酒造高適米について植物栄養学の観点から研究指導を行う。 （34 佐藤 努） 日本酒などに含まれる天然有機化合物の化学構造、生合成、生理活性に関する研究指導を行う。 （36 城 斗志夫） 日本酒などの発酵食品のおいしさと機能性を研究課題とし、おいしさと機能性に関与する成分に関する研究指導を行う。 （60 西川 周一） 細胞生物学を研究課題とし、植物配偶体や出芽酵母の細胞内構造の動態と機能解析に関する研究指導を行う。 （65 平田 大） 文理融合型の「日本酒学」的視点に立脚し、アルコール発酵に関わる醸造微生物を研究課題とし、酵母を用いた健康長寿・日本酒醸造に関する研究指導を行う。 （68 藤村 忍） 食品の機能性を研究課題とし、食品成分、テクスチャー等の理化学的手法、また官能評価手法等により、主に二次機能の評価及び品質制御に関する研究指導を行う。 （152 杉本 華幸） 微生物タンパク質機能や安定性に関する研究指導を行う。また、代謝熱を指標とした微生物活性の新規評価方法の開発を研究課題として、各種炭素源質化活性等の定量評価と比較解析に関する研究指導を行う。 （153 鈴木 一輝） 主に土壌微生物学や微生物生態学を研究課題とし、酒米を念頭に置いた土壌および植物－微生物共生系や発酵過程における微生物の生態や機能に関する研究指導を行う。 （173 中井 博之） ヒトの健康保持増進に有用な新規糖質の創生を研究課題とし、発酵技術を駆使した新規糖質の製造方法や機能性評価に関する研究指導を行う。 （181 西田 郁久） 酵母を用いた生体物質の機能性・日本酒醸造・健康長寿を研究課題とし、酵母遺伝学・細胞生物学に関する研究指導を行う。 （188 原 崇） 食品成分の体調節機能の解明を研究課題とし、機能性成分の探索および生理活性評価に関する研究指導を行う。 （207 宮本 託志） 植物の栄養生理と細胞壁の形成を研究課題とし、それらと関連する作物の肥培管理と利用特性に関する研究指導を行う。また、酒米の品質が日本酒醸造に及ぼす影響についての研究指導を含む。 （209 元永 佳孝） 日本酒およびその原料・醸造過程での醗などを研究対象とし、光センシング技術・画像処理技術を用いた品質評価・管理に関する研究指導を行う。 （227 伊藤 亮司） 食品産業論および農業市場論を専門分野とした食料・農産物市場の経済構造に関する実証的・動態研究をライフワークとし、我が国内外における農産物流通に関する経済主体の市場行動・市場構造ならびに市場政策に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅰ-H（情報 社会デザイン科学）		修士課程において、修士学位取得のための研究を行う。具体的には、研究テーマの発掘、設定、関連文献調査などを通して、学術的意義、もしくは社会的意義を有する研究を主体的に遂行する。また、修士論文や外部発表（または論文投稿）および様々なプロジェクトにむけて研究の成果を論文や資料としてまとめる方法や、中間発表や外部発表、修士論文発表審査にむけて発表の手法を実践的に学ぶことを目的とした科目である。課題研究Ⅰ-Hでは、情報社会デザイン科学に関わる分野における課題を理解し、その課題解決に向け、研究計画の立案を行うこと、および研究遂行のための実行方法の検討および妥当性についての議論を行う。 （1 青戸 等人） 計算モデルを用いたプログラム理論を研究課題とし、書き換えシステム、定理自動証明、ソフトウェア基礎に関する研究指導を行う。 （4 阿部 貴志） 生命情報学において大量ゲノム情報からの効率的な知識発見を研究課題とし、機械学習、ビッグデータ処理技術を駆使した解析手法の開発とその応用に関する研究指導を行う。 （15 尾田 雅文） 社会システム工学に関わる実社会における経営的・技術的課題の解決を研究課題とし、研究方法の確立、研究計画の立案、論文主題提示の方法、論文構成の仕方、発表方法に関する研究指導を行う。 （22 熊野 英和） 文理融合視点で課題発見し、広くデジタル関連技術を用いた課題解決や社会デザインに向けた社会実装に関する研究指導を行う。 （35 佐藤 亮一） 電磁界散乱回折基礎理論を基に、波動情報工学、マイクロ波リモートセンシングに関する研究指導を行う。 （53 中野 敬介） 移動体ネットワークにおける制御・設計・応用を研究課題とし、遅延耐性ネットワーク（DTN）において用いられるエビデミック通信や情報フローティング等を考え、エビデミック通信のネットワーク制御、情報フローティングの災害時応用等に関する研究指導を行う。 （55 永幡 幸生） 確率過程の情報工学分野への応用を研究課題とし、例えば、社会問題に対応した確率過程に関する特性量の理論的計算及び、計算機を用いた近似計算に関する研究指導を行う。 （86 山崎 達也） ICTシステムの構築を研究課題とし、データ分析、画像処理、マルチメディア通信、人工知能に関する研究指導を行う。 （91 山田 寛喜） 電波に関する信号・情報処理を研究課題とし、主にレーダおよびマイクロ波リモートセンシングに関わるイメージング、データ解析に関する研究指導を行う。 （97 飯田 佑輔） 天文情報学を研究課題とし、宇宙天気予報/太陽物理学や関連する統計科学手法開発に関する研究指導を行う。 （99 石井 望） アンテナや電磁環境を研究課題とし、水中電磁波応用に関する研究指導を行う。 （106 今村 孝） 1）人の移動手段を対象とした支援技術の提案・構築を研究課題とし、主に利用者の運動やそれに伴う自然エネルギーを活用して外部動力に依存しない支援システム、移動に伴う運動量・感覚量の計測とその制御応用、VR/AR技術やシミュレーションによる仮想化技術を用いた移動支援情報の提示などに関する研究指導を行う。 2）機構設計・計測/制御・情報技術を核とし、医歯学・保健学、教育学、人文社会学などの他分野の課題解決や新技術創出に向けた分野融合を研究課題とし、定性情報の定量化による動作・技能の計測、可視化、仮想化、推定技術に関する研究指導を行う。 （111 上田 和孝） 工学教育、国際教育、連携教育、課題解決型学習、防災・復興、地域開発、国際協力、NP0・ファンダレイジングを研究課題とし、産学連携によるグローバル課題解決学習や、学生および企業人材・技術者のグローバルコンピテンシー育成、中等教育における防災および国際理解をテーマにした探究学習、国際協力NGOのファンダレイジングに関する研究指導を行う。 （112 上野 雄大） プログラミングおよびソフトウェア構成の理論と実践を研究課題とし、プログラミング言語の基礎理論・実装技術およびシステムソフトウェアに関する研究指導を行う。 （132 管野 政明） システム制御工学を研究課題とし、最適化手法・代数的手法を用いた制御しやすさの特徴付けに関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅰ-H（情報社会デザイン科学）		（136 小浦方 格） イノベーションを通じた地域社会・地域産業振興を研究課題とし、エンジニアリングの観点からイノベーション創出のボトルネックの同定とその克服に関する研究指導を行う。 （140 齋藤 裕） データ科学における機械学習による言語モデルの説明可能性を研究課題とし、学習済モデルを用いたシステム実装における多目的評価（性能、コスト、顧客満足度等）について研究指導を行う。 （143 酒匂 宏樹） 数学特に関数解析学の知識を用いて、情報工学をはじめとする様々な分野の研究課題に取り組む。科学技術の数学的な基礎づけについての研究指導を行う。 （160 高橋 剛） 平面代数曲線のガロア点と準ガロア点を研究課題として、具体的な平面代数曲線に対して、コンピュータを使ってガロア点や準ガロア点の分布を求める問題に関する研究指導を行う。 （171 東瀬 朗） 産業安全分野における安全性・組織信頼性向上と組織課題の可視化を目指した各種手法に関する研究を研究課題とし、安全工学・社会システム工学・データサイエンス分野を活用した研究に関する研究指導を行う。 （180 西海 望） 動物の行動に関するバイオメトリクスを研究課題とし、ヒトから虫まで多様な動物の合理的意思決定、動物の認知や運動パフォーマンスに関する理解及びその社会応用、そして動物を対象とした仮想現実技術開発に関する研究指導を行う。 （205 宮北 和之） 様々な形態のネットワークおよびセキュリティに関する理論・評価・最適化を研究課題とし、ドローン間通信のための仮想道路ネットワーク、電気自動車の充電ネットワーク等に関する研究指導を行う。 （218 金子 岳史） 太陽・恒星フレアのシミュレーションによる再現手法の確立と事前予測への応用を研究課題とし、数値シミュレーション手法の高精度化・高速化、もしくはシミュレーションビッグデータ解析に関する研究指導を行う。 （233 高下 大貴） ケモインフォマティクス分野における化学データの統計解析や、創薬・材料開発への応用を目的とした機械学習モデルの開発を研究課題とし、数理統計的な理論に基づいた手法の構築方法や化合物データの解析方法に関する研究指導を行う。 （245 萩原 威志） ソフトウェア工学や情報システムを研究課題とし、計算機ソフトウェアや情報システムの構築に関する研究指導を行う。 （253 YU JUN） 進化計算、ファジィシステム、ニューラルネットワークの3つの技術を中心とした計算知能に関する理論・応用を研究課題とし、より実応用に耐える知的技術の確立に関する研究指導を行う。	
課題研究	課題研究Ⅱ-H（情報社会デザイン科学）		修士課程において、修士学位取得のための研究を行う。具体的には、研究テーマの発掘、設定、関連文献調査などを通して、学術的意義、もしくは社会的意義を有する研究研究を主体的に遂行する。また、修士論文や外部発表（または論文投稿）および様々なプロジェクトにむけて研究の成果を論文や資料としてまとめる方法や、中間発表や外部発表、修士論文発表審査にむけて発表の手法を実践的に学ぶことを目的とした科目である。課題研究Ⅱ-Hでは、情報社会デザイン科学に関わる分野における課題を深く理解し、その課題解決に向け、研究計画の立案を的確に行うこと、および研究遂行のための実行方法の検討および妥当性さらには研究方法の変更や見直しについての議論を行う。 （1 青戸 等人） 計算モデルを用いたプログラム理論を研究課題とし、書き換えシステム、定理自動証明、ソフトウェア基礎に関する研究指導を行う。 （4 阿部 貴志） 生命情報学において大量ゲノム情報からの効率的な知識発見を研究課題とし、機械学習、ビッグデータ処理技術を駆使した解析手法の開発とその応用に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅱ-H（情報 社会デザイン科学）		（15 尾田 雅文） 社会システム工学に関わる実社会における経営的・技術的課題の解決を研究課題とし、研究方法の確立、研究計画の立案、論文主題提示の方法、論文構成の仕方、発表方法に関する研究指導を行う。 （22 熊野 英和） 文理融合視点で課題発見し、広くデジタル関連技術を用いた課題解決や社会デザインに向けた社会実装に関する研究指導を行う。 （35 佐藤 亮一） 電磁界散乱回折基礎理論を基に、波動情報工学、マイクロ波リモートセンシングに関する研究指導を行う。 （53 中野 敬介） 移動体ネットワークにおける制御・設計・応用を研究課題とし、遅延耐性ネットワーク（DTN）において用いられるエビデミック通信や情報フローティング等を考え、エビデミック通信のネットワーク制御、情報フローティングの災害時応用等に関する研究指導を行う。 （55 永幡 幸生） 確率過程の情報工学分野への応用を研究課題とし、例えば、社会問題に対応した確率過程に関する特性量の理論的計算及び、計算機を用いた近似計算に関する研究指導を行う。 （86 山崎 達也） ICTシステムの構築を研究課題とし、データ分析、画像処理、マルチメディア通信、人工知能に関する研究指導を行う。 （91 山田 寛喜） 電波に関する信号・情報処理を研究課題とし、主にレーダおよびマイクロ波リモートセンシングに関わるイメージング、データ解析に関する研究指導を行う。 （97 飯田 佑輔） 天文情報学を研究課題とし、宇宙天気予報/太陽物理学や関連する統計科学手法開発に関する研究指導を行う。 （99 石井 望） アンテナや電磁環境を研究課題とし、水中電磁波応用に関する研究指導を行う。 （106 今村 孝） 1）人の移動手段を対象とした支援技術の提案・構築を研究課題とし、主に利用者の運動やそれに伴う自然エネルギーを活用して外部動力に依存しない支援システム、移動に伴う運動量・感覚量の計測とその制御応用、VR/AR技術やシミュレーションによる仮想化技術を用いた移動支援情報の提示などに関する研究指導を行う。 2）機構設計・計測/制御・情報技術を核とし、医歯学・保健学、教育学、人文社会科学などの他分野の課題解決や新技術創出に向けた分野融合を研究課題とし、定性情報の定量化による動作・技能の計測、可視化、仮想化、推定技術に関する研究指導を行う。 （111 上田 和孝） 工学教育、国際教育、連携教育、課題解決型学習、防災・復興、地域開発、国際協力、NP0・ファンドレイジングを研究課題とし、産学連携によるグローバル課題解決学習や、学生および企業人材・技術者のグローバルコンピテンシー育成、中等教育における防災および国際理解をテーマにした探究学習、国際協力NGOのファンドレイジングに関する研究指導を行う。 （112 上野 雄大） プログラミングおよびソフトウェア構成の理論と実践を研究課題とし、プログラミング言語の基礎理論・実装技術およびシステムソフトウェアに関する研究指導を行う。 （132 管野 政明） システム制御工学を研究課題とし、最適化手法・代数的手法を用いた制御しやすさの特徴付けに関する研究指導を行う。 （136 小浦方 格） イノベーションを通じた地域社会・地域産業振興を研究課題とし、エンジニアリングの観点からイノベーション創出のボトルネックの同定とその克服に関する研究指導を行う。 （140 齋藤 裕） データ科学における機械学習による言語モデルの説明可能性を研究課題とし、学習済モデルを用いたシステム実装における多目的評価（性能、コスト、顧客満足度等）について研究指導を行う。 （143 酒匂 宏樹） 数学特に関数解析学の知識を用いて、情報工学をはじめとする様々な分野の研究課題に取り組む。科学技術の数学的な基礎づけについての研究指導を行う。 （160 高橋 剛） 平面代数曲線のガロア点と準ガロア点を研究課題として、具体的な平面代数曲線に対して、コンピュータを使ってガロア点や準ガロア点の分布を求める問題に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅱ-H（情報 社会デザイン科学）		（171 東瀬 朗） 産業安全分野における安全性・組織信頼性向上と組織課題の可視化を目指した各種手法に関する研究を研究課題とし、安全工学・社会システム工学・データサイエンス分野を活用した研究に関する研究指導を行う。 （180 西海 望） 動物の行動に関するバイオメティクスを研究課題とし、ヒトから虫まで多様な動物の合理的意思決定、動物の認知や運動パフォーマンスに関する理解及びその社会応用、そして動物を対象とした仮想現実技術開発に関する研究指導を行う。 （205 宮北 和之） 様々な形態のネットワークおよびセキュリティに関する理論・評価・最適化を研究課題とし、ドローン間通信のための仮想道路ネットワーク、電気自動車の充電ネットワーク等に関する研究指導を行う。 （218 金子 岳史） 太陽・恒星フレアのシミュレーションによる再現手法の確立と事前予測への応用を研究課題とし、数値シミュレーション手法の高精度化・高速化、もしくはシミュレーションビッグデータ解析に関する研究指導を行う。 （233 高下 大貴） ケモインフォマティクス分野における化学データの統計解析や、創薬・材料開発への応用を目的とした機械学習モデルの開発を研究課題とし、数値統計的な理論に基づいた手法の構築方法や化合物データの解析方法に関する研究指導を行う。 （245 萩原 威志） ソフトウェア工学や情報システムを研究課題とし、計算機ソフトウェアや情報システムの構築に関する研究指導を行う。 （253 YU JUN） 進化計算、ファジィシステム、ニューラルネットワークの3つの技術を中心とした計算知能に関する理論・応用を研究課題とし、より実応用に耐える知的技術の確立に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅲ-H（情報 社会デザイン科学）		修士課程において、修士学位取得のための研究を行う。具体的には、研究テーマの発掘、設定、関連文献調査などを通して、学術的意義、もしくは社会的意義を有する研究研究を主体的に遂行する。また、修士論文や外部発表（または論文投稿）および様々なプロジェクトにむけて研究の成果を論文や資料としてまとめる方法や、中間発表や外部発表、修士論文発表審査にむけて発表の手法を実践的に学ぶことを目的とした科目である。課題研究Ⅲ-Hでは、情報社会デザイン科学に関わる分野における課題を深く理解し、その課題解決に向け、関係論文から自身の研究の世界的な位置付けを明らかにし、実験方法の妥当性を的確に示す能力を涵養する。 （1 青戸 等人） 計算モデルを用いたプログラム理論を研究課題とし、書き換えシステム、定理自動証明、ソフトウェア基礎に関する研究指導を行う。 （4 阿部 貴志） 生命情報学において大量ゲノム情報からの効率的な知識発見を研究課題とし、機械学習、ビッグデータ処理技術を駆使した解析手法の開発とその応用に関する研究指導を行う。 （15 尾田 雅文） 社会システム工学に関わる実社会における経営的・技術的課題の解決を研究課題とし、研究方法の確立、研究計画の立案、論文主題提示の方法、論文構成の仕方、発表方法に関する研究指導を行う。 （22 熊野 英和） 文理融合視点で課題発見し、広くデジタル関連技術を用いた課題解決や社会デザインに向けた社会実装に関する研究指導を行う。 （35 佐藤 亮一） 電磁界散乱回折基礎理論を基に、波動情報工学、マイクロ波リモートセンシングに関する研究指導を行う。 （53 中野 敬介） 移動体ネットワークにおける制御・設計・応用を研究課題とし、遅延耐性ネットワーク（DTN）において用いられるエビデミック通信や情報フローティング等を考え、エビデミック通信のネットワーク制御、情報フローティングの災害時応用等に関する研究指導を行う。 （55 永幡 幸生） 確率過程の情報工学分野への応用を研究課題とし、例えば、社会問題に対応した確率過程に関する特性量の理論的計算及び、計算機を用いた近似計算に関する研究指導を行う。 （86 山崎 達也） ICTシステムの構築を研究課題とし、データ分析、画像処理、マルチメディア通信、人工知能に関する研究指導を行う。 （91 山田 寛喜） 電波に関する信号・情報処理を研究課題とし、主にレーダおよびマイクロ波リモートセンシングに関わるイメージング、データ解析に関する研究指導を行う。 （97 飯田 佑輔） 天文情報学を研究課題とし、宇宙天気予報/太陽物理学や関連する統計科学手法開発に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅲ-H（情報 社会デザイン科学）		（99 石井 望） アンテナや電磁環境を研究課題とし、水中電磁波応用に関する研究指導を行う。 （106 今村 孝） 1）人の移動手段を対象とした支援技術の提案・構築を研究課題とし、主に利用者の運動やそれに伴う自然エネルギーを活用して外部動力に依存しない支援システム、移動に伴う運動量・感覚量の計測とその制御応用、VR/AR技術やシミュレーションによる仮想化技術を用いた移動支援情報の提示などに関する研究指導を行う。 2）機構設計・計測／制御・情報技術を核とし、医歯学・保健学、教育学、人文社会科学などの他分野の課題解決や新技術創出に向けた分野融合を研究課題とし、定性情報の定量化による動作・技能の計測、可視化、仮想化、推定技術に関する研究指導を行う。 （111 上田 和孝） 工学教育、国際教育、連携教育、課題解決型学習、防災・復興、地域開発、国際協力、NP0・ファンドレイジングを研究課題とし、産学連携によるグローバル課題解決学習や、学生および企業人材・技術者のグローバルコンピテンシー育成、中等教育における防災および国際理解をテーマにした探究学習、国際協力NGOのファンドレイジングに関する研究指導を行う。 （112 上野 雄大） プログラミングおよびソフトウェア構成の理論と実践を研究課題とし、プログラミング言語の基礎理論・実装技術およびシステムソフトウェアに関する研究指導を行う。 （132 管野 政明） システム制御工学を研究課題とし、最適化手法・代数的手法を用いた制御しやすさの特徴付けに関する研究指導を行う。 （136 小浦方 格） イノベーションを通じた地域社会・地域産業振興を研究課題とし、エンジニアリングの観点からイノベーション創出のボトルネックの同定とその克服に関する研究指導を行う。 （140 齋藤 裕） データ科学における機械学習による言語モデルの説明可能性を研究課題とし、学習済モデルを用いたシステム実装における多目的評価（性能、コスト、顧客満足度等）について研究指導を行う。 （143 酒匂 宏樹） 数学特に関数解析学の知識を用いて、情報工学をはじめとする様々な分野の研究課題に取り組む。科学技術の数学的な基礎づけについての研究指導を行う。 （160 高橋 剛） 平面代数曲線のガロア点と準ガロア点を研究課題として、具体的な平面代数曲線に対して、コンピュータを使ってガロア点や準ガロア点の分布を求める問題に関する研究指導を行う。 （171 東瀬 朗） 産業安全分野における安全性・組織信頼性向上と組織課題の可視化を目指した各種手法に関する研究を研究課題とし、安全工学・社会システム工学・データサイエンス分野を活用した研究に関する研究指導を行う。 （180 西海 望） 動物の行動に関するバイオミメティクスを研究課題とし、ヒトから虫まで多様な動物の合理的意思決定、動物の認知や運動パフォーマンスに関する理解及びその社会応用、そして動物を対象とした仮想現実技術開発に関する研究指導を行う。 （205 宮北 和之） 様々な形態のネットワークおよびセキュリティに関する理論・評価・最適化を研究課題とし、ドローン間通信のための仮想道路ネットワーク、電気自動車の充電ネットワーク等に関する研究指導を行う。 （218 金子 岳史） 太陽・恒星フレアのシミュレーションによる再現手法の確立と事前予測への応用を研究課題とし、数値シミュレーション手法の高精度化・高速化、もしくはシミュレーションビッグデータ解析に関する研究指導を行う。 （233 高下 大貴） ケモインフォマティクス分野における化学データの統計解析や、創薬・材料開発への応用を目的とした機械学習モデルの開発を研究課題とし、数理統計的な理論に基づいた手法の構築方法や化合物データの解析方法に関する研究指導を行う。 （245 萩原 威志） ソフトウェア工学や情報システムを研究課題とし、計算機ソフトウェアや情報システムの構築に関する研究指導を行う。 （253 YU JUN） 進化計算、ファジィシステム、ニューラルネットワークの3つの技術を中心とした計算知能に関する理論・応用を研究課題とし、より実応用に耐える知的技術の確立に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅳ-H（情報 社会デザイン科学）		修士課程において、修士学位取得のための研究を行う。具体的には、研究テーマの発掘、設定、関連文献調査などを通して、学術的意義、もしくは社会的意義を有する研究研究を主体的に遂行する。また、修士論文や外部発表（または論文投稿）および様々なプロジェクトにむけて研究の成果を論文や資料としてまとめる方法や、中間発表や外部発表、修士論文発表審査にむけて発表の手法を実践的に学ぶことを目的とした科目である。課題研究Ⅳ-Hでは、情報社会デザイン科学に関わる分野における課題を深く理解し、その課題解決に向け、関係論文から自身の研究の位置付けを明らかにし、実験方法の妥当性を示すとともに、さらに得られた研究の結果についての確に考察し一連の研究成果を取り纏める。 （1 青戸 等人） 計算モデルを用いたプログラム理論を研究課題とし、書き換えシステム、定理自動証明、ソフトウェア基礎に関する研究指導を行う。 （4 阿部 貴志） 生命情報学において大量ゲノム情報からの効率的な知識発見を研究課題とし、機械学習、ビッグデータ処理技術を駆使した解析手法の開発とその応用に関する研究指導を行う。 （15 尾田 雅文） 社会システム工学に関わる実社会における経営的・技術的課題の解決を研究課題とし、研究方法の確立、研究計画の立案、論文主題提示の方法、論文構成の仕方、発表方法に関する研究指導を行う。 （22 熊野 英和） 文理融合視点で課題発見し、広くデジタル関連技術を用いた課題解決や社会デザインに向けた社会実装に関する研究指導を行う。 （35 佐藤 亮一） 電磁界散乱回折基礎理論を基に、波動情報工学、マイクロ波リモートセンシングに関する研究指導を行う。 （53 中野 敬介） 移動体ネットワークにおける制御・設計・応用を研究課題とし、遅延耐性ネットワーク（DTN）において用いられるエビデミック通信や情報フローティング等を考え、エビデミック通信のネットワーク制御、情報フローティングの災害時応用等に関する研究指導を行う。 （55 永幡 幸生） 確率過程の情報工学分野への応用を研究課題とし、例えば、社会問題に対応した確率過程に関する特性量の理論的計算及び、計算機を用いた近似計算に関する研究指導を行う。 （86 山崎 達也） ICTシステムの構築を研究課題とし、データ分析、画像処理、マルチメディア通信、人工知能に関する研究指導を行う。 （91 山田 寛喜） 電波に関する信号・情報処理を研究課題とし、主にレーダおよびマイクロ波リモートセンシングに関わるイメージング、データ解析に関する研究指導を行う。 （97 飯田 佑輔） 天文情報学を研究課題とし、宇宙天気予報/太陽物理学や関連する統計科学手法開発に関する研究指導を行う。 （99 石井 望） アンテナや電磁環境を研究課題とし、水中電磁波応用に関する研究指導を行う。 （106 今村 孝） 1）人の移動手段を対象とした支援技術の提案・構築を研究課題とし、主に利用者の運動やそれに伴う自然エネルギーを活用して外部動力に依存しない支援システム、移動に伴う運動量・感覚量の計測とその制御応用、VR/AR技術やシミュレーションによる仮想化技術を用いた移動支援情報の提示などに関する研究指導を行う。 2）機構設計・計測/制御・情報技術を核とし、医歯学・保健学、教育学、人文社会科学などの他分野の課題解決や新技術創出に向けた分野融合を研究課題とし、定性情報の定量化による動作・技能の計測、可視化、仮想化、推定技術に関する研究指導を行う。 （111 上田 和孝） 工学教育、国際教育、連携教育、課題解決型学習、防災・復興、地域開発、国際協力、NP0・ファンドレイジングを研究課題とし、産学連携によるグローバル課題解決学習や、学生および企業人材・技術者のグローバルコンピテンシー育成、中等教育における防災および国際理解をテーマにした探究学習、国際協力NGOのファンドレイジングに関する研究指導を行う。 （112 上野 雄大） プログラミングおよびソフトウェア構成の理論と実践を研究課題とし、プログラミング言語の基礎理論・実装技術およびシステムソフトウェアに関する研究指導を行う。 （132 管野 政明） システム制御工学を研究課題とし、最適化手法・代数的手法を用いた制御しやすさの特徴付けに関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅳ-H（情報社会デザイン科学）		（136 小浦方 格） イノベーションを通じた地域社会・地域産業振興を研究課題とし、エンジニアリングの観点からイノベーション創出のボトルネックの同定とその克服に関する研究指導を行う。 （140 齋藤 裕） データ科学における機械学習による言語モデルの説明可能性を研究課題とし、学習済モデルを用いたシステム実装における多目的評価（性能、コスト、顧客満足度等）について研究指導を行う。 （143 酒匂 宏樹） 数学特に関数解析学の知識を用いて、情報工学をはじめとする様々な分野の研究課題に取り組む。科学技術の数学的な基礎づけについての研究指導を行う。 （160 高橋 剛） 平面代数曲線のガロア点と準ガロア点を研究課題として、具体的な平面代数曲線に対して、コンピュータを使ってガロア点や準ガロア点の分布を求める問題に関する研究指導を行う。 （171 東瀬 朗） 産業安全分野における安全性・組織信頼性向上と組織課題の可視化を目指した各種手法に関する研究を研究課題とし、安全工学・社会システム工学・データサイエンス分野を活用した研究に関する研究指導を行う。 （180 西海 望） 動物の行動に関するバイオメティクスを研究課題とし、ヒトから虫まで多様な動物の合理的意思決定、動物の認知や運動パフォーマンスに関する理解及びその社会応用、そして動物を対象とした仮想現実技術開発に関する研究指導を行う。 （205 宮北 和之） 様々な形態のネットワークおよびセキュリティに関する理論・評価・最適化を研究課題とし、ドローン間通信のための仮想道路ネットワーク、電気自動車の充電ネットワーク等に関する研究指導を行う。 （218 金子 岳史） 太陽・恒星フレアのシミュレーションによる再現手法の確立と事前予測への応用を研究課題とし、数値シミュレーション手法の高精度化・高速化、もしくはシミュレーションビッグデータ解析に関する研究指導を行う。 （233 高下 大貴） ケモインフォマティクス分野における化学データの統計解析や、創薬・材料開発への応用を目的とした機械学習モデルの開発を研究課題とし、数理統計的な理論に基づいた手法の構築方法や化合物データの解析方法に関する研究指導を行う。 （245 萩原 威志） ソフトウェア工学や情報システムを研究課題とし、計算機ソフトウェアや情報システムの構築に関する研究指導を行う。 （253 YU JUN） 進化計算、ファジィシステム、ニューラルネットワークの3つの技術を中心とした計算知能に関する理論・応用を研究課題とし、より実応用に耐える知的技術の確立に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅰ-J（カーボンニュートラル融合科学）		本科目では、カーボンニュートラル科学の最先端の内容に関わる研究を行う。研究を通じて、カーボンニュートラル科学の知識を利用し応用する能力を身に付ける。基礎理論などを理解し、解決できることを到達目標とする。 （23 栗原 敏之） 地質学・古生物学を研究課題とし、新潟県内における新生代の石油根源岩を対象とした形成史と微化石層序に関する研究指導を行う。 （26 兒玉 竜也） 太陽熱化学を研究課題とし、集光太陽熱の化学燃料への転換に関する研究指導を行う。 （37 新保 一成） 電気電子材料を研究課題とし、特に有機電子デバイスの作製と特性評価に関する研究指導を行う。 （43 摂待 力生） 強相関電子系物質の新物質探索を研究課題とし、結晶育成法や物性実験に関する研究指導を行う。 （63 馬場 暁） 有機エレクトロニクスを研究課題とし、エネルギーハーベスティングデバイスに関する研究指導を行う。 （67 福井 聡） 将来の炭素中立に資する、コンパクト・高効率・低環境負荷の超伝導機器の実現に向けた研究を行う。 （71 本田 明治） 大気の大気現象のメカニズムの解明を研究課題とし、大気大循環、極端気象、大気-雪氷-海洋相互作用、地球温暖化に関する研究指導を行う。 （73 増田 淳） 太陽電池・太陽光発電を研究課題とし、太陽電池の信頼性向上・屋外評価等に関する研究指導を行う。 （76 松原 幸治） 熱工学を研究課題とし、反応性固体-気体系熱流動の基礎研究とそのプラントシステムへの応用に関する研究指導を行う。 （83 八木 政行） 人工光合成システムの構築を研究課題として、材料開発および機能解析に関する研究指導を行う。 （122 大村 彩子） 高圧力を用いた実験研究（輸送特性・結晶構造解析）による高圧固体物性を研究課題として、主に超伝導物性に関する圧力効果や圧力誘起による相転移の実験研究および論文執筆に関する研究指導をおこなう。 （134 郷右近 展之） 時間とともに変動する再生可能エネルギー発電システムと蓄エネルギー技術、再生可能エネルギーをエネルギー源とするCO2フリー水素製造を研究課題とし、太陽熱発電システムと高密度蓄熱技術、および熱化学プロセスによるCO2フリー水素および合成ガス製造に関する研究指導を行う。 （137 後藤 和泰） エネルギー変換デバイスを研究課題とし、太陽電池や摩擦発電などの高性能化に関する研究指導を行う。 （142 櫻井 篤） サーマルフォトリクスを研究課題とし、光エネルギー制御技術や熱光起電力発電、放射冷却デバイスに関する研究指導を行う。 （149 城内 紗千子） 再生可能エネルギーを研究課題とし、次世代太陽電池およびリサイクル太陽電池に関する研究指導を行う。 （150 菅原 晃） 主に、風力・太陽光等の再生可能エネルギーにおける諸問題や未解決課題を研究テーマとし、実験やシミュレーションを通し課題の探求と解決手法について研究指導を行う。 （169 坪ノ内 優太） 光-物質変換システムの構築を研究課題とし、新規分子性材料の開発に関する研究指導を行う。 （193 BELLAN SELVAN） 太陽熱エネルギーの利用を研究課題とし、太陽熱エネルギー貯蔵、太陽熱化学プロセス、太陽燃料、流体の流れ、熱および物質移動、多相流、流動床、熱プラズマ、プラズマアーク、計算流体力学、数値モデリングについて研究指導を行う。 （212 山縣 貴幸） 機械システムにおける流れ関連現象の可視化、計測、制御を研究課題とし、流れ加速型腐食による配管減肉、風車ブレードエロージョン、歳差回転流れによる混合に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅱ-J（カーボンニュートラル融合科学）		本科目では、カーボンニュートラル科学の最先端の内容に関わる研究を行う。研究を通じて、課題発見・解決能力を身に付ける。課題を発見し、解決することを到達目標とする。 （23 栗原 敏之） 地質学・古生物学を研究課題とし、新潟県内における新生代の石油根拠岩を対象とした形成史と微化石層序に関する研究指導を行う。 （26 兒玉 竜也） 太陽熱化学を研究課題とし、集光太陽熱の化学燃料への転換に関する研究指導を行う。 （37 新保 一成） 電気電子材料を研究課題とし、特に有機電子デバイスの作製と特性評価に関する研究指導を行う （43 摂待 力生） 強相関電子系物質の新物質探索を研究課題とし、結晶育成法や物性実験に関する研究指導を行う （63 馬場 暁） 有機エレクトロニクスを研究課題とし、エナジーハーベスティングデバイスに関する研究指導を行う。 （67 福井 聡） 将来の炭素中立に資する、コンパクト・高効率・低環境負荷の超伝導機器の実現に向けた研究を行う。 （71 本田 明治） 大気の大気現象のメカニズムの解明を研究課題とし、大気大循環、極端気象、大気－雪氷－海洋相互作用、地球温暖化に関する研究指導を行う。 （73 増田 淳） 太陽電池・太陽光発電を研究課題とし、太陽電池の信頼性向上・屋外評価等に関する研究指導を行う。 （76 松原 幸治） 熱工学を研究課題とし、反応性固体－気体系熱流動の基礎研究とそのプラントシステムへの応用に関する研究指導を行う。 （83 八木 政行） 人工光合成システムの構築を研究課題として、材料開発および機能解析に関する研究指導を行う。 （122 大村 彩子） 高圧力を用いた実験研究（輸送特性・結晶構造解析）による高圧固体物性を研究課題として、主に超伝導物性に関する圧力効果や圧力誘起による相転移の実験研究および論文執筆に関する研究指導をおこなう。 （134 郷右近 展之） 時間とともに変動する再生可能エネルギー発電システムと蓄エネルギー技術、再生可能エネルギーをエネルギー源とするCO2フリー水素製造を研究課題とし、太陽熱発電システムと高密度蓄熱技術、および熱化学プロセスによるCO2フリー水素および合成ガス製造に関する研究指導を行う。 （137 後藤 和泰） エネルギー変換デバイスを研究課題とし、太陽電池や摩擦発電などの高性能化に関する研究指導を行う。 （142 櫻井 篤） サーマルフォトリクスを研究課題とし、光エネルギー制御技術や熱光起電力発電、放射冷却デバイスに関する研究指導を行う。 （149 城内 紗千子） 再生可能エネルギーを研究課題とし、次世代太陽電池およびリサイクル太陽電池に関する研究指導を行う。 （150 菅原 晃） 主に、風力・太陽光等の再生可能エネルギーにおける諸問題や未解決課題を研究テーマとし、実験やシミュレーションを通し課題の探求と解決手法について研究指導を行う。 （169 坪ノ内 優太） 光-物質変換システムの構築を研究課題とし、新規分子性材料の開発に関する研究指導を行う。 （193 BELLAN SELVAN） 太陽熱エネルギーの利用を研究課題とし、太陽熱エネルギー貯蔵、太陽熱化学プロセス、太陽燃料、流体の流れ、熱および物質移動、多相流、流動床、熱プラズマ、プラズマアーク、計算流体力学、数値モデリングについて研究指導を行う。 （212 山縣 貴幸） 機械システムにおける流れ関連現象の可視化、計測、制御を研究課題とし、流れ加速型腐食による配管減肉、風車ブレードエロージョン、歳差回転流れによる混合に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅲ-J（カーボンニュートラル融合科学）		本科目では、カーボンニュートラル科学の最先端の内容に関わる研究を行う。研究を通じて、プレゼンテーション能力を身に付ける。研究内容を他者と討論するなどコミュニケーションできることを到達目標とする。 （23 栗原 敏之） 地質学・古生物学を研究課題とし、新潟県内における新生代の石油根拠岩を対象とした形成史と微化石層序に関する研究指導を行う。 （26 兒玉 竜也） 太陽熱化学を研究課題とし、集光太陽熱の化学燃料への転換に関する研究指導を行う。 （37 新保 一成） 電気電子材料を研究課題とし、特に有機電子デバイスの作製と特性評価に関する研究指導を行う （43 摂待 力生） 強相関電子系物質の新物質探索を研究課題とし、結晶育成法や物性実験に関する研究指導を行う （63 馬場 暁） 有機エレクトロニクスを研究課題とし、エネルギーハーベスティングデバイスに関する研究指導を行う。 （67 福井 聡） 将来の炭素中立に資する、コンパクト・高効率・低環境負荷の超伝導機器の実現に向けた研究を行う。 （71 本田 明治） 大気の大気現象のメカニズムの解明を研究課題とし、大気大循環、極端気象、大気-雪氷-海洋相互作用、地球温暖化に関する研究指導を行う。 （73 増田 淳） 太陽電池・太陽光発電を研究課題とし、太陽電池の信頼性向上・屋外評価等に関する研究指導を行う。 （76 松原 幸治） 熱工学を研究課題とし、反応性固体-気体系熱流動の基礎研究とそのプラントシステムへの応用に関する研究指導を行う。 （83 八木 政行） 人工光合成システムの構築を研究課題として、材料開発および機能解析に関する研究指導を行う。 （122 大村 彩子） 高圧力を用いた実験研究（輸送特性・結晶構造解析）による高压固体物性を研究課題として、主に超伝導物性に関する圧力効果や圧力誘起による相転移の実験研究および論文執筆に関する研究指導をおこなう。 （134 郷右近 展之） 時間とともに変動する再生可能エネルギー発電システムと蓄エネルギー技術、再生可能エネルギーをエネルギー源とするCO2フリー水素製造を研究課題とし、太陽熱発電システムと高密度蓄熱技術、および熱化学プロセスによるCO2フリー水素および合成ガス製造に関する研究指導を行う。 （137 後藤 和泰） エネルギー変換デバイスを研究課題とし、太陽電池や摩擦発電などの高性能化に関する研究指導を行う。 （142 櫻井 篤） サーマルフォトリクスを研究課題とし、光エネルギー制御技術や熱光起電力発電、放射冷却デバイスに関する研究指導を行う。 （149 城内 紗千子） 再生可能エネルギーを研究課題とし、次世代太陽電池およびリサイクル太陽電池に関する研究指導を行う。 （150 菅原 晃） 主に、風力・太陽光等の再生可能エネルギーにおける諸問題や未解決課題を研究テーマとし、実験やシミュレーションを通し課題の探求と解決手法について研究指導を行う。 （169 坪ノ内 優太） 光-物質変換システムの構築を研究課題とし、新規分子性材料の開発に関する研究指導を行う。 （193 BELLAN SELVAN） 太陽熱エネルギーの利用を研究課題とし、太陽熱エネルギー貯蔵、太陽熱化学プロセス、太陽燃料、流体の流れ、熱および物質移動、多相流、流動床、熱プラズマ、プラズマアーク、計算流体力学、数値モデリングについて研究指導を行う。 （212 山縣 貴幸） 機械システムにおける流れ関連現象の可視化、計測、制御を研究課題とし、流れ加速型腐食による配管減肉、風車ブレードエロージョン、歳差回転流れによる混合に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅳ-J（カーボンニュートラル融合科学）		本科目では、カーボンニュートラル科学の最先端の内容に関わる研究を行う。研究を通じて、定められた期間で報告する能力などを身に付ける。定められた期間内に成果をレポートとしてまとめることを到達目標とする。 (23 栗原 敏之) 地質学・古生物学を研究課題とし、新潟県内における新生代の石油根拠岩を対象とした形成史と微化石層序に関する研究指導を行う。 (26 兒玉 竜也) 太陽熱化学を研究課題とし、集光太陽熱の化学燃料への転換に関する研究指導を行う。 (37 新保 一成) 電気電子材料を研究課題とし、特に有機電子デバイスの作製と特性評価に関する研究指導を行う (43 摂待 力生) 強相関電子系物質の新物質探索を研究課題とし、結晶育成法や物性実験に関する研究指導を行う (63 馬場 暁) 有機エレクトロニクスを研究課題とし、エナジーハーベスティングデバイスに関する研究指導を行う。 (67 福井 聡) 将来の炭素中立に資する、コンパクト・高効率・低環境負荷の超伝導機器の実現に向けた研究を行う。 (71 本田 明治) 大気の大気現象のメカニズムの解明を研究課題とし、大気大循環、極端気象、大気－雪氷－海洋相互作用、地球温暖化に関する研究指導を行う。 (73 増田 淳) 太陽電池・太陽光発電を研究課題とし、太陽電池の信頼性向上・屋外評価等に関する研究指導を行う。 (76 松原 幸治) 熱工学を研究課題とし、反応性固体－気体系熱流動の基礎研究とそのプラントシステムへの応用に関する研究指導を行う。 (83 八木 政行) 人工光合成システムの構築を研究課題として、材料開発および機能解析に関する研究指導を行う。 (122 大村 彩子) 高圧力を用いた実験研究（輸送特性・結晶構造解析）による高圧固体物性を研究課題として、主に超伝導物性に関する圧力効果や圧力誘起による相転移の実験研究および論文執筆に関する研究指導をおこなう。 (134 郷右近 展之) 時間とともに変動する再生可能エネルギー発電システムと蓄エネルギー技術、再生可能エネルギーをエネルギー源とするCO2フリー水素製造を研究課題とし、太陽熱発電システムと高密度蓄熱技術、および熱化学プロセスによるCO2フリー水素および合成ガス製造に関する研究指導を行う。 (137 後藤 和泰) エネルギー変換デバイスを研究課題とし、太陽電池や摩擦発電などの高性能化に関する研究指導を行う。 (142 櫻井 篤) サーマルフォトリクスを研究課題とし、光エネルギー制御技術や熱光起電力発電、放射冷却デバイスに関する研究指導を行う。 (149 城内 紗千子) 再生可能エネルギーを研究課題とし、次世代太陽電池およびリサイクル太陽電池に関する研究指導を行う。 (150 菅原 晃) 主に、風力・太陽光等の再生可能エネルギーにおける諸問題や未解決課題を研究テーマとし、実験やシミュレーションを通し課題の探求と解決手法について研究指導を行う。 (169 坪ノ内 優太) 光-物質変換システムの構築を研究課題とし、新規分子性材料の開発に関する研究指導を行う。 (193 BELLAN SELVAN) 太陽熱エネルギーの利用を研究課題とし、太陽熱エネルギー貯蔵、太陽熱化学プロセス、太陽燃料、流体の流れ、熱および物質移動、多相流、流動床、熱プラズマ、プラズマアーク、計算流体力学、数値モデリングについて研究指導を行う。 (212 山縣 貴幸) 機械システムにおける流れ関連現象の可視化、計測、制御を研究課題とし、流れ加速型腐食による配管減肉、風車ブレードエロージョン、歳差回転流れによる混合に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅰ-K （フィールド科学・理）		修士論文の内容にかかわる国内外の先行研究を文献等を用いて調べる。また、学会等にも参加し、分野の動向を探る。これにより、修士論文で取り組む分野の課題や研究手法、研究分野の最新の知見や動向を把握する。これにより、フィールドサイエンティストとして必要な分野背景知識の取得および課題を認識・設定できる能力を養う。 （5 安東 宏徳） 海洋動物の環境適応機構を研究課題として、魚類を中心に生殖や成長の調節に関する研究指導を行う。 （11 卜部 厚志） 地震によるさまざまな災害現象を研究課題とし、防止・軽減対策等に関する研究指導を行う。 （18 河島 克久） 雪氷学・雪氷防災学に関わる諸問題を研究課題とし、大雪による車両滞留、雪氷・火山複合災害、雪崩・雪泥流、融雪災害などの予測と対策に関する研究指導を行う。 （20 北村 繁） 火山地形学や火山灰編年学を研究課題とし、火山噴火史・地形発達史やそれを基盤とした火山防災やハザードマップ、火山灰の対比・編年に基づく古環境変遷や地考古学、あるいは、火山灰に着目した考古遺物の分析に関する研究を行う。 （21 工藤 起来） 昆虫類の生態や行動を研究課題とし、社会性昆虫の進化生態学に関する研究指導を行う。 （23 栗原 敏之） 地質学・古生物学を研究課題とし、日本と東アジアの中・古生界を対象とした地質形成史と微化石層序に関する研究指導を行う。 （75 松岡 史郎） 天然水中に存在する超微量金属オキソ酸の動態を研究課題とし、これら金属オキソ酸の選択的検出法の確立と、確立した分析法の実試料への適用、さらにサンプリング法に関する研究指導を行う。また、実試料分析に適用した結果から、天然水中における金属オキソ酸の動態を明らかにするための研究指導を行う。 （80 宮崎 勝己） 無脊椎動物学を研究課題とし、主に海産無脊椎動物の系統分類・系統進化・生活史・比較形態に関する研究指導を行う。 （58 奈良間 千之） 山地環境動態・山地災害を研究課題とし、氷河変動、氷河湖・氷河崩落災害、山岳永久凍土などの周氷河環境、斜面崩壊に関する研究指導をおこなう。 （71 本田 明治） 大気の一諸現象のメカニズムの解明を研究課題とし、大気大循環、極端気象、大気－雪氷－海洋相互作用、地球温暖化に関する研究指導を行う。 （179 西井 稜子） 地形変化を研究課題とし、地形プロセスに関する研究指導を行う。 （101 石崎 智美） 植物の生活史と被食防衛戦略を研究課題とし、植食者に対する防衛戦略の生態と進化および植物の生活史との関わりに関する研究指導を行う。 （145 椎野 勇太） 個生態学を研究課題とし、腕足動物、節足動物、棘皮動物、放散虫などの無脊椎動物を題材とした研究指導を行う。 （146 志賀 隆） 維管束植物を主とした植物系統分類学、植物生態学、保全生物学等に関する学術課題について取り上げ、野外調査や室内実験を通してデータを得て、その課題の解明に取り組む。 （183 野口 里奈） 太陽系にあまねく存在する火山を研究対象とし、メカニズム解明のためのデータ解析および論理構築に関する研究指導を行う。 （184 則末 和宏） 専門領域：海洋地球化学、大気水圏科学、分析化学、環境動態学で、現代のグローバル海洋物質循環解明を柱に、海洋における微量元素・同位体の生物地球化学サイクルおよび関連する最先端分析手法開発を研究課題とし、その中で、地殻由来微量元素や人為起源微量元素・同位体の環境への影響評価とその海洋地球化学サイクル、海洋生態系における生元素フラクショネーション機構解明とその意義、海洋資源に関わる希少元素の海洋内循環・海底マンガン団塊への異常濃縮機構に関する海洋内プロセス理解や自然科学的アプローチに基づく海産生物の産地推定解明 （211 安田 浩保） 水害ゼロかつ生物多様性を最大とする河川を研究課題とし、河川の物理機構とそれに基づく河道の制御法に関する研究指導を行う。 （215 渡部 直喜） 斜面災害に起因する社会及び環境への影響を研究課題とし、地形・地質学、水文学、土質力学のみならず、空間情報解析・統計解析の手法も加えて、災害のリスク評価、防・減災対策に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅰ-K （フィールド科学・理）		(229 大森 紹仁) 海産無脊椎動物の系統分類学・生態学を研究課題とし、主に棘皮動物を用いて、分類再検討と系統地理、地域生物相と生殖生態などに関する研究指導を行う。 (239 高橋 直也) 大気海洋相互作用論に基づいた気象、海洋、気候システムに関する諸現象のメカニズムを研究テーマとし、理論的思考、プログラミングなどの計算機技術、口頭発表や論文作成などの発信力に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅱ-K （フィールド科学・理）		課題研究Ⅰ-K（フィールド科学・理）から見出した課題を解決するために、どのような調査・実験が必要なのか検討し、現実的な実施方法・計画を立案する。また、学会等にも参加し、最適な調査・実験方法の情報収集・検討を行う。これにより、フィールドサイエンティストとして必要な研究計画を立案できる能力を養う。 (5 安東 宏徳) 海洋動物の環境適応機構を研究課題として、魚類を中心に生殖や成長の調節に関する研究指導を行う。 (11 卜部 厚志) 地震によるさまざまな災害現象を研究課題とし、防止・軽減対策等に関する研究指導を行う。 (18 河島 克久) 雪氷学・雪氷防災学に関わる諸問題を研究課題とし、大雪による車両滞留、雪氷・火山複合災害、雪崩・雪泥流、融雪災害などの予測と対策に関する研究指導を行う。 (20 北村 繁) 火山地形学や火山灰編年学を研究課題とし、火山噴火史・地形発達史やそれを基盤とした火山防災やハザードマップ、火山灰の対比・編年に基づく古環境変遷や地考古学、あるいは、火山灰に着目した考古遺物の分析に関する研究を行う。 (21 工藤 起来) 昆虫類の生態や行動を研究課題とし、社会性昆虫の進化生態学に関する研究指導を行う。 (23 栗原 敏之) 地質学・古生物学を研究課題とし、日本と東アジアの中・古生界を対象とした地質形成史と微化石層序に関する研究指導を行う。 (75 松岡 史郎) 天然水中に存在する超微量金属オキソ酸の動態を研究課題とし、これら金属オキソ酸の選択的検出法の確立と、確立した分析法の実試料への適用、さらにサンプリング法に関する研究指導を行う。また、実試料分析に適用した結果から、天然水中における金属オキソ酸の動態を明らかにするための研究指導を行う。 (80 宮崎 勝己) 無脊椎動物学を研究課題とし、主に海産無脊椎動物の系統分類・系統進化・生活史・比較形態に関する研究指導を行う。 (58 奈良間 千之) 山地環境動態・山地災害を研究課題とし、氷河変動、氷河湖・氷河崩落災害、山岳永久凍土などの周氷河環境、斜面崩壊に関する研究指導をおこなう。 (71 本田 明治) 大気の一諸現象のメカニズムの解明を研究課題とし、大気大循環、極端気象、大気－雪氷－海洋相互作用、地球温暖化に関する研究指導を行う。 (179 西井 稜子) 地形変化を研究課題とし、地形プロセスに関する研究指導を行う。 (101 石崎 智美) 植物の生活史と被食防衛戦略を研究課題とし、植食者に対する防衛戦略の生態と進化および植物の生活史との関わりに関する研究指導を行う。 (145 椎野 勇太) 個生態学を研究課題とし、腕足動物、節足動物、棘皮動物、放散虫などの無脊椎動物を題材とした研究指導を行う。 (146 志賀 隆) 維管束植物を主とした植物系統分類学、植物生態学、保全生物学等に関する学術課題について取り上げ、野外調査や室内実験を通してデータを得て、その課題の解明に取り組む。 (183 野口 里奈) 太陽系にあまねく存在する火山を研究対象とし、メカニズム解明のためのデータ解析および論理構築に関する研究指導を行う。 (184 則末 和宏) 専門領域：海洋地球化学、大気水圏科学、分析化学、環境動態学で、現代のグローバル海洋物質循環解明を柱に、海洋における微量元素・同位体の生物地球化学サイクルおよび関連する最先端分析手法開発を研究課題とし、その中で、地殻由来微量元素や人為起源微量元素・同位体の環境への影響評価とその海洋地球化学サイクル、海洋生態系における生元素フラクショネーション機構解明とその意義、海洋資源に関わる希少元素の海洋内循環・海底マンガング塊への異常濃縮機構に関する海洋内プロセス理解や自然科学的アプローチに基づく海産生物の産地推定解明	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅱ-K （フィールド科学・理）		(211 安田 浩保) 水害ゼロかつ生物多様性を最大とする河川を研究課題とし、河川の物理機構とそれに基づく河道の制御法に関する研究指導を行う。 (215 渡部 直喜) 斜面災害に起因する社会及び環境への影響を研究課題とし、地形・地質学、水文学、土質力学のみならず、空間情報解析・統計解析の手法も加えて、災害のリスク評価、防・減災対策に関する研究指導を行う。 (229 大森 紹仁) 海産無脊椎動物の系統分類学・生態学を研究課題とし、主に棘皮動物を用いて、分類再検討と系統地理、地域生物相と生殖生態などに関する研究指導を行う。 (239 高橋 直也) 大気海洋相互作用論に基づいた気象、海洋、気候システムに関する諸現象のメカニズムを研究テーマとし、理論的思考、プログラミングなどの計算機技術、口頭発表や論文作成などの発信力に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅲ-K （フィールド科学・理）		課題研究Ⅱ-K（フィールド科学・理）で検討した課題を解決するための調査や実験を実施し、得られたデータの分析と考察を行う。また、フィールド科学演習や学会発表等を通して自身のデータを他者と共有・議論する。これにより、フィールドサイエンティストとして必要なデータ解析能力および議論できる能力を養う。 (5 安東 宏徳) 海洋動物の環境適応機構を研究課題として、魚類を中心に生殖や成長の調節に関する研究指導を行う。 (11 ト部 厚志) 地震によるさまざまな災害現象を研究課題とし、防止・軽減対策等に関する研究指導を行う。 (18 河島 克久) 雪氷学・雪氷防災学に関わる諸問題を研究課題とし、大雪による車両滞留、雪氷・火山複合災害、雪崩・雪泥流、融雪災害などの予測と対策に関する研究指導を行う。 (20 北村 繁) 火山地形学や火山灰編年学を研究課題とし、火山噴火史・地形発達史やそれを基盤とした火山防災やハザードマップ、火山灰の対比・編年に基づく古環境変遷や地考古学、あるいは、火山灰に着目した考古遺物の分析に関する研究を行う。 (21 工藤 起来) 昆虫類の生態や行動を研究課題とし、社会性昆虫の進化生態学に関する研究指導を行う。 (23 栗原 敏之) 地質学・古生物学を研究課題とし、日本と東アジアの中・古生界を対象とした地質形成史と微化石層序に関する研究指導を行う。 (75 松岡 史郎) 天然水中に存在する超微量金属オキソ酸の動態を研究課題とし、これら金属オキソ酸の選択的検出法の確立と、確立した分析法の実試料への適用、さらにサンプリング法に関する研究指導を行う。また、実試料分析に適用した結果から、天然水中における金属オキソ酸の動態を明らかにするための研究指導を行う。 (80 宮崎 勝己) 無脊椎動物学を研究課題とし、主に海産無脊椎動物の系統分類・系統進化・生活史・比較形態に関する研究指導を行う。 (58 奈良間 千之) 山地環境動態・山地災害を研究課題とし、氷河変動、氷河湖・氷河崩落災害、山岳永久凍土などの周氷河環境、斜面崩壊に関する研究指導をおこなう。 (71 本田 明治) 大気の諸現象のメカニズムの解明を研究課題とし、大気大循環、極端気象、大気－雪氷－海洋相互作用、地球温暖化に関する研究指導を行う。 (179 西井 稜子) 地形変化を研究課題とし、地形プロセスに関する研究指導を行う。 (101 石崎 智美) 植物の生活史と被食防衛戦略を研究課題とし、植食者に対する防衛戦略の生態と進化および植物の生活史との関わりに関する研究指導を行う。 (145 椎野 勇太) 個生態学を研究課題とし、腕足動物、節足動物、棘皮動物、放散虫などの無脊椎動物を題材とした研究指導を行う。 (146 志賀 隆) 維管束植物を主とした植物系統分類学、植物生態学、保全生物学等に関する学術課題について取り上げ、野外調査や室内実験を通してデータを得て、その課題の解明に取り組む。 (183 野口 里奈) 太陽系にあまねく存在する火山を研究対象とし、メカニズム解明のためのデータ解析および論理構築に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅲ-K （フィールド科学・理）		（184 則末 和宏） 専門領域：海洋地球化学、大気水圏科学、分析化学、環境動態学で、現代のグローバル海洋物質循環解明を柱に、海洋における微量元素・同位体の生物地球化学サイクルおよび関連する最先端分析手法開発を研究課題とし、その中で、地殻由来微量元素や人為起源微量元素・同位体の環境への影響評価とその海洋地球化学サイクル、海洋生態系における生元素フラクショネーション機構解明とその意義、海洋資源に関わる希少元素の海洋内循環・海底マンガング塊への異常濃縮機構に関する海洋内プロセス理解や自然科学的アプローチに基づく海産生物の産地推定解明 （211 安田 浩保） 水害ゼロかつ生物多様性を最大とする河川を研究課題とし、河川の物理機構とそれに基づく河道の制御法に関する研究指導を行う。 （215 渡部 直喜） 斜面災害に起因する社会及び環境への影響を研究課題とし、地形・地質学、水文学、土質力学のみならず、空間情報解析・統計解析の手法も加えて、災害のリスク評価、防・減災対策に関する研究指導を行う。 （229 大森 紹仁） 海産無脊椎動物の系統分類学・生態学を研究課題とし、主に棘皮動物を用いて、分類再検討と系統地理、地域生物相と生殖生態などに関する研究指導を行う。 （239 高橋 直也） 大気海洋相互作用論に基づいた気象、海洋、気候システムに関する諸現象のメカニズムを研究テーマとし、理論的思考、プログラミングなどの計算機技術、口頭発表や論文作成などの発信力に関する研究指導を行う。	
	課題研究Ⅳ-K （フィールド科学・理）		課題研究Ⅲ-K（フィールド科学・理）によって得られたデータの分析と考察を行い、フィールド科学演習での議論を踏まえて研究成果を論文にまとめる。また、学会等にも参加し、研究成果を発表する。これにより、フィールドサイエンティストとして必要な研究成果創出能力を養う。 （5 安東 宏徳） 海洋動物の環境適応機構を研究課題として、魚類を中心に生殖や成長の調節に関する研究指導を行う。 （11 ト部 厚志） 地震によるさまざまな災害現象を研究課題とし、防止・軽減対策等に関する研究指導を行う。 （18 河島 克久） 雪氷学・雪氷防災学に関わる諸問題を研究課題とし、大雪による車両滞留、雪氷・火山複合災害、雪崩・雪泥流、融雪災害などの予測と対策に関する研究指導を行う。 （20 北村 繁） 火山地形学や火山灰編年学を研究課題とし、火山噴火史・地形発達史やそれを基盤とした火山防災やハザードマップ、火山灰の対比・編年に基づく古環境変遷や地考古学、あるいは、火山灰に着目した考古遺物の分析に関する研究を行う。 （21 工藤 起来） 昆虫類の生態や行動を研究課題とし、社会性昆虫の進化生態学に関する研究指導を行う。 （23 栗原 敏之） 地質学・古生物学を研究課題とし、日本と東アジアの中・古生界を対象とした地質形成史と微化石層序に関する研究指導を行う。 （75 松岡 史郎） 天然水中に存在する超微量金属オキソ酸の動態を研究課題とし、これら金属オキソ酸の選択的検出法の確立と、確立した分析法の実試料への適用、さらにサンプリング法に関する研究指導を行う。また、実試料分析に適用した結果から、天然水中における金属オキソ酸の動態を明らかにするための研究指導を行う。 （80 宮崎 勝己） 無脊椎動物学を研究課題とし、主に海産無脊椎動物の系統分類・系統進化・生活史・比較形態に関する研究指導を行う。 （58 奈良間 千之） 山地環境動態・山地災害を研究課題とし、氷河変動、氷河湖・氷河崩落災害、山岳永久凍土などの周氷河環境、斜面崩壊に関する研究指導をおこなう。 （71 本田 明治） 大気の諸現象のメカニズムの解明を研究課題とし、大気大循環、極端気象、大気－雪氷－海洋相互作用、地球温暖化に関する研究指導を行う。 （179 西井 稜子） 地形変化を研究課題とし、地形プロセスに関する研究指導を行う。 （101 石崎 智美） 植物の生活史と被食防衛戦略を研究課題とし、植食者に対する防衛戦略の生態と進化および植物の生活史との関わりに関する研究指導を行う。 （145 椎野 勇太） 個生態学を研究課題とし、腕足動物、節足動物、棘皮動物、放散虫などの無脊椎動物を題材とした研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅳ-K （フィールド科学・ 理）		（146 志賀 隆） 維管束植物を主とした植物系統分類学、植物生態学、保全生物学等に関する学術課題について取り上げ、野外調査や室内実験を通してデータを得て、その課題の解明に取り組む。 （183 野口 里奈） 太陽系にあまねく存在する火山を研究対象とし、メカニズム解明のためのデータ解析および論理構築に関する研究指導を行う。 （184 則末 和宏） 専門領域：海洋地球化学、大気水圏科学、分析化学、環境動態学で、現代のグローバル海洋物質循環解明を柱に、海洋における微量元素・同位体の生物地球化学サイクルおよび関連する最先端分析手法開発を研究課題とし、その中で、地殻由来微量元素や人為起源微量元素・同位体の環境への影響評価とその海洋地球化学サイクル、海洋生態系における生元素フラクショネーション機構解明とその意義、海洋資源に関わる希少元素の海洋内循環・海底マンガング塊への異常濃縮機構に関する海洋内プロセス理解や自然科学的アプローチに基づく海産生物の産地推定解明 （211 安田 浩保） 水害ゼロかつ生物多様性を最大とする河川を研究課題とし、河川の物理機構とそれに基づく河道の制御法に関する研究指導を行う。 （215 渡部 直喜） 斜面災害に起因する社会及び環境への影響を研究課題とし、地形・地質学、水文学、土質力学のみならず、空間情報解析・統計解析の手法も加えて、災害のリスク評価、防・減災対策に関する研究指導を行う。 （229 大森 紹仁） 海産無脊椎動物の系統分類学・生態学を研究課題とし、主に棘皮動物を用いて、分類再検討と系統地理、地域生物相と生殖生態などに関する研究指導を行う。 （239 高橋 直也） 大気海洋相互作用論に基づいた気象、海洋、気候システムに関する諸現象のメカニズムを研究テーマとし、理論的思考、プログラミングなどの計算機技術、口頭発表や論文作成などの発信力に関する研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅰ-K （フィールド科学・農）		修士論文の内容にかかわる国内外の先行研究を文献等を用いて調べる。また、学会等にも参加し、分野の動向を探る。これにより、修士論文で取り組む分野の課題や研究手法、研究分野の最新の知見や動向を把握する。これにより、フィールドサイエンティストとして必要な分野背景知識の取得および課題を認識・設定できる能力を養う。 （28 権田 豊） 山地における土砂災害を研究課題とし、土砂災害の発生メカニズムの解明や土砂災害の発生予測技術の開発に関する研究指導を行う。 （42 関島 恒夫） 生態系管理学および保全生態学を研究課題とし、トキの野生復帰を促進するための生息地管理に関する研究や、再生可能エネルギーと生物多様性保全の両立を推進する仕組みづくりに関する研究指導を行う。 （52 豊田 光世） 自然共生社会の実現に向けた参加と共創のしくみづくりを研究課題とし、具体的な事例にもとづく質的調査・哲学的考察の研究指導を行う。 （92 吉川 夏樹） 水理学・水文学を研究課題とし、近年の気候変動に伴う水害リスクへの対応としての流域治水施策の効果検証や新たな取組みに関する研究指導を行う。 （158 高津 邦夫） 専門領域は動物生態学で、「生物・非生物学的な環境との相互作用のなかで生物の個体数や特徴がどのように形作られるか」という研究テーマに両生類幼生や水生昆虫を用いた室内・屋外操作実験を用いて取り組んでいる。 （96 阿部 晴恵） 島嶼生態学を研究課題とし、島嶼地域における生物の進化や適応に関する研究指導を行う。 （109 WHITAKER ANDREW） 森林水文学を研究課題とし、水循環、水資源、積雪の役割、河川災害、森林管理に関する研究指導を行う。 （197 本間 航介） 森林生態学、生理生態学、保全生態学を研究課題とし、高ストレス高攪乱環境下での森林群集の維持機構、長期大規模環境動態研究（LEER）、フィールド操作実験などに関する研究指導を行う。 （81 村上 拓彦） 自然環境分野における地理空間情報の高度利用を研究課題とし、リモートセンシング、地理情報システム（GIS）に関する研究指導を行う。 （210 森口 喜成） 森林遺伝育種学を専門領域とし、主に当該分野に関する研究指導を行う。 （238 柴田 嶺） 森林生態学を研究課題とし、樹木の天然更新機構や森林管理への応用に関する研究指導を行う。 （242 永野 博彦） 「気候変動」や「温暖化」が地球規模の環境課題となって久しい今日この頃。その原因物質とされる「温室効果ガス」や密接に関連する「炭素・窒素・栄養塩」の環境中での動態がどうなっていて、今後どうなるか？を明らかにすることは地球環境の将来予測高度化に不可欠であり、この背景に即した高度な研究指導を実施している。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅱ-K （フィールド科学・農）		課題研究Ⅰ-K（フィールド科学・農）から見出した課題を解決するために、どのような調査・実験が必要なのか検討し、現実的な実施方法・計画を立案する。また、学会等にも参加し、最適な調査・実験方法の情報収集・検討を行う。これにより、フィールドサイエンティストとして必要な研究計画を立案できる能力を養う。 （28 権田 豊） 山地における土砂災害を研究課題とし、土砂災害の発生メカニズムの解明や土砂災害の発生予測技術の開発に関する研究指導を行う。 （42 関島 恒夫） 生態系管理学および保全生態学を研究課題とし、トキの野生復帰を促進するための生息地管理に関する研究や、再生可能エネルギーと生物多様性保全の両立を推進する仕組みづくりに関する研究指導を行う。 （52 豊田 光世） 自然共生社会の実現に向けた参加と共創のしくみづくりを研究課題とし、具体的な事例にもとづく質的調査・哲学的考察の研究指導を行う。 （92 吉川 夏樹） 水理学・水文学を研究課題とし、近年の気候変動に伴う水害リスクへの対応としての流域治水施策の効果検証や新たな取組みに関する研究指導を行う。 （158 高津 邦夫） 専門領域は動物生態学で、「生物・非生物学的な環境との相互作用のなかで生物の個体数や特徴がどのように形作られるか」という研究テーマに両生類幼生や水生昆虫を用いた室内・屋外操作実験を用いて取り組んでいる。 （96 阿部 晴恵） 島嶼生態学を研究課題とし、島嶼地域における生物の進化や適応に関する研究指導を行う。 （109 WHITAKER ANDREW） 森林水文学を研究課題とし、水循環、水資源、積雪の役割、河川災害、森林管理に関する研究指導を行う。 （197 本間 航介） 森林生態学、生理生態学、保全生態学を研究課題とし、高ストレス高攪乱環境下での森林群集の維持機構、長期大規模環境動態研究（LEER）、フィールド操作実験などに関する研究指導を行う。 （81 村上 拓彦） 自然環境分野における地理空間情報の高度利用を研究課題とし、リモートセンシング、地理情報システム（GIS）に関する研究指導を行う。 （210 森口 喜成） 森林遺伝育種学を専門領域とし、主に当該分野に関する研究指導を行う。 （238 柴田 嶺） 森林生態学を研究課題とし、樹木の天然更新機構や森林管理への応用に関する研究指導を行う。 （242 永野 博彦） 「気候変動」や「温暖化」が地球規模の環境課題となって久しい今日この頃。その原因物質とされる「温室効果ガス」や密接に関連する「炭素・窒素・栄養塩」の環境中での動態がどうなっていて、今後どうなるか？を明らかにすることは地球環境の将来予測高度化に不可欠であり、この背景に即した高度な研究指導を実施している。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
課 題 研 究	課題研究Ⅲ-K （フィールド科学・ 農）		課題研究 II-K（フィールド科学・農）で検討した課題を解決するための調査や実験を実施し、得られたデータの分析と考察を行う。また、フィールド科学演習や学会発表等を通して自身のデータを他者と共有・議論する。これにより、フィールドサイエンティストとして必要なデータ解析能力および議論できる能力を養う。 （28 権田 豊） 山地における土砂災害を研究課題とし、土砂災害の発生メカニズムの解明や土砂災害の発生予測技術の開発に関する研究指導を行う。 （42 関島 恒夫） 生態系管理学および保全生態学を研究課題とし、トキの野生復帰を促進するための生息地管理に関する研究や、再生可能エネルギーと生物多様性保全の両立を推進する仕組みづくりに関する研究指導を行う。 （52 豊田 光世） 自然共生社会の実現に向けた参加と共創のしくみづくりを研究課題とし、具体的な事例にもとづく質的調査・哲学的考察の研究指導を行う。 （92 吉川 夏樹） 水理学・水文学を研究課題とし、近年の気候変動に伴う水害リスクへの対応としての流域治水施策の効果検証や新たな取組みに関する研究指導を行う。 （158 高津 邦夫） 専門領域は動物生態学で、「生物・非生物学的な環境との相互作用のなかで生物の個体数や特徴がどのように形作られるか」という研究テーマに両生類幼生や水生昆虫を用いた室内・屋外操作実験を用いて取り組んでいる。 （96 阿部 晴恵） 島嶼生態学を研究課題とし、島嶼地域における生物の進化や適応に関する研究指導を行う。 （109 WHITAKER ANDREW） 森林水文学を研究課題とし、水循環、水資源、積雪の役割、河川災害、森林管理に関する研究指導を行う。 （197 本間 航介） 森林生態学、生理生態学、保全生態学を研究課題とし、高ストレス高攪乱環境下での森林群集の維持機構、長期大規模環境動態研究（LEER）、フィールド操作実験などに関する研究指導を行う。 （81 村上 拓彦） 自然環境分野における地理空間情報の高度利用を研究課題とし、リモートセンシング、地理情報システム（GIS）に関する研究指導を行う。 （210 森口 喜成） 森林遺伝育種学を専門領域とし、主に当該分野に関する研究指導を行う。 （238 柴田 嶺） 森林生態学を研究課題とし、樹木の天然更新機構や森林管理への応用に関する研究指導を行う。 （242 永野 博彦） 「気候変動」や「温暖化」が地球規模の環境課題となって久しい今日の頃。その原因物質とされる「温室効果ガス」や密接に関連する「炭素・窒素・栄養塩」の環境中での動態がどうなっていて、今後どうなるか？を明らかにすることは地球環境の将来予測高度化に不可欠であり、この背景に即した高度な研究指導を実施している。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅳ-K （フィールド科学・農）		課題研究Ⅲ-K（フィールド科学・農）によって得られたデータの分析と考察を行い、フィールド科学演習での議論を踏まえて研究成果を論文にまとめる。また、学会等にも参加し、研究成果を発表する。これにより、フィールドサイエンティストとして必要な研究成果創出能力を養う。 （28 権田 豊） 山地における土砂災害を研究課題とし、土砂災害の発生メカニズムの解明や土砂災害の発生予測技術の開発に関する研究指導を行う。 （42 関島 恒夫） 生態系管理学および保全生態学を研究課題とし、トキの野生復帰を促進するための生息地管理に関する研究や、再生可能エネルギーと生物多様性保全の両立を推進する仕組みづくりに関する研究指導を行う。 （52 豊田 光世） 自然共生社会の実現に向けた参加と共創のしくみづくりを研究課題とし、具体的な事例にもとづく質的調査・哲学的考察の研究指導を行う。 （92 吉川 夏樹） 水理学・水文学を研究課題とし、近年の気候変動に伴う水害リスクへの対応としての流域治水施策の効果検証や新たな取組みに関する研究指導を行う。 （158 高津 邦夫） 専門領域は動物生態学で、「生物・非生物学的な環境との相互作用のなかで生物の個体数や特徴がどのように形作られるか」という研究テーマに両生類幼生や水生昆虫を用いた室内・屋外操作実験を用いて取り組んでいる。 （96 阿部 晴恵） 島嶼生態学を研究課題とし、島嶼地域における生物の進化や適応に関する研究指導を行う。 （109 WHITAKER ANDREW） 森林水文学を研究課題とし、水循環、水資源、積雪の役割、河川災害、森林管理に関する研究指導を行う。 （197 本間 航介） 森林生態学、生理生態学、保全生態学を研究課題とし、高ストレス高攪乱環境下での森林群集の維持機構、長期大規模環境動態研究（LEER）、フィールド操作実験などに関する研究指導を行う。 （81 村上 拓彦） 自然環境分野における地理空間情報の高度利用を研究課題とし、リモートセンシング、地理情報システム（GIS）に関する研究指導を行う。 （210 森口 喜成） 森林遺伝育種学を専門領域とし、主に当該分野に関する研究指導を行う。 （238 柴田 嶺） 森林生態学を研究課題とし、樹木の天然更新機構や森林管理への応用に関する研究指導を行う。 （242 永野 博彦） 「気候変動」や「温暖化」が地球規模の環境課題となつて久しい今日この頃。その原因物質とされる「温室効果ガス」や密接に関連する「炭素・窒素・栄養塩」の環境中での動態がどうなっていて、今後どうなるか？を明らかにすることは地球環境の将来予測高度化に不可欠であり、この背景に即した高度な研究指導を実施している。	
	課題研究Ⅰ-L（ひと脳・健康科学）		主指導教員及び副指導教員とともに研究課題を設定のうえ、研究計画を立案し、研究活動の基盤を築く科目である。この科目では、研究テーマに基づく実験・調査・分析を実施し、その過程で得られたデータを評価・解釈する力を養う。また、研究の進捗を定期的に報告し、指導教員とのディスカッションを通じて課題の克服や研究の方向性を明確にする。さらに、研究成果を効果的に発表するスキルや論文執筆の基礎も学び、次の研究段階に進むための土台を形成する（1年次前期）。 （45 田井中 一貴） 脳構造解析またはニューロモデレーションに関する研究の指導を行う。 （104 伊藤 浩介） 脳機能解析に関する研究の指導を行う。 （208 村上 佳裕） 臨床脳神経病態に関する研究の指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課題研究	課題研究Ⅱ-L（ひと脳・健康科学）		主指導教員及び副指導教員とともに研究課題を設定のうえ、研究計画を立案し、研究活動の基盤を築く科目である。この科目では、研究テーマに基づく実験・調査・分析を実施し、その過程で得られたデータを評価・解釈する力を養う。また、研究の進捗を定期的に報告し、指導教員とのディスカッションを通じて課題の克服や研究の方向性を明確にする。さらに、研究成果を効果的に発表するスキルや論文執筆の基礎も学び、次の研究段階に進むための土台を形成する（1年次後期）。 （45 田井中 一貴） 脳構造解析またはニューロモデュレーションに関する研究の指導を行う。 （104 伊藤 浩介） 脳機能解析に関する研究の指導を行う。 （208 村上 佳裕） 臨床脳神経病態に関する研究の指導を行う。	
	課題研究Ⅲ-L（ひと脳・健康科学）		主指導教員及び副指導教員とともに研究課題を設定のうえ、研究計画を立案し、研究活動の基盤を築く科目である。この科目では、研究テーマに基づく実験・調査・分析を実施し、その過程で得られたデータを評価・解釈する力を養う。また、研究の進捗を定期的に報告し、指導教員とのディスカッションを通じて課題の克服や研究の方向性を明確にする。さらに、研究成果を効果的に発表するスキルや論文執筆の基礎も学び、次の研究段階に進むための土台を形成する（2年次前期）。 （45 田井中 一貴） 脳構造解析またはニューロモデュレーションに関する研究の指導を行う。 （104 伊藤 浩介） 脳機能解析に関する研究の指導を行う。 （208 村上 佳裕） 臨床脳神経病態に関する研究の指導を行う。	
	課題研究Ⅳ-L（ひと脳・健康科学）		主指導教員及び副指導教員とともに研究課題を再確認し、これまでの研究活動を総括するとともに、研究成果の取りまとめを行う科目である。この科目では、研究テーマに基づく実験・調査・分析で得られたデータを整理・評価し、その結果を論理的に解釈する力を養う。研究の進捗や成果を指導教員に定期的に報告し、フィードバックを基に課題を克服しながら最終的な結論を導き出す。また、研究成果を発表形式にまとめるためのスキルや論文執筆の実践を通じて、学術的なアウトプットを完成させる。これにより、研究の総括を行い、次のキャリアや学問的挑戦へ進むための基盤を確立する（2年次後期）。 （45 田井中 一貴） 脳構造解析またはニューロモデュレーションに関する研究の指導を行う。 （104 伊藤 浩介） 脳機能解析に関する研究の指導を行う。 （208 村上 佳裕） 臨床脳神経病態に関する研究の指導を行う。	
特別履修コース科目	農と食のスペシャリスト			
	実践型食づくりプロジェクト（日本酒）		新潟県は日本有数の酒処として知られており、酒蔵元数が全国1位となっている。酒造会社と農学部附属フィールド科学教育研究センター新通ステーション等の協力の下、日本酒の原料である酒米の栽培や生産から酒造りまでの工程を実習・学習する。これらを通じ、農と食の分野を一連の流れとして捉え、問題点を考えながら総合的に理解する。酒米の栽培と生産、酒造り、商品開発や流通販売について学習し、関係者と議論を重ねて日本酒の全般について理解する。また、酒米の栽培から酒造りまでを一貫して体験することにより、食づくりにおける実学を修得する。	
	実践型食づくりプロジェクト（ライス）		この授業は「農と食のスペシャリスト養成プログラム」の実践型食づくりプロジェクト科目の1つとして開講されている授業である。新潟県は全国で生産される米菓の6割を生産する米菓王国である。米菓企業や農学部新通農場等の協力の下、米菓の原料生産から加工、商品開発までを実習・学習する。これらを通じ、農と食の分野を一連の流れとして捉え、問題点を総合的に理解する。この授業では、発表、実習、見学等を不定期に15回程度行う予定である。	
	実践型食づくりプロジェクト（バイオテク）		農産物の生産、加工にはさまざまなバイオテクノロジー技術が用いられており、その研究は日本をはじめ世界中で精力的に行われている。本プロジェクトでは、新潟県で利用されているバイオテクノロジー技術を実体験し、農産物の生産・管理・保存で重要な役割をはたしているバイオテクノロジーの技術を実践的に学習する。また、農産物の開発から販売戦略まで、どのようなプロセスを経て行われるのかを、先端バイオ研究の観点から理解する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別履修コース科目群	農と食のスペシャリスト	実践型食づくりプロジェクト（いもジェンヌ）	本科目では、新潟市西区の砂丘地で栽培されるブランドさつまいも「いもジェンヌ」を対象として、農作物の栽培から販売までのプロセスを学習することを目的とした実習・演習を行う。さつまいもの品種、栽培方法、生産管理、商品等を知り、いもジェンヌの特徴を理解する。いもジェンヌの栽培からいもジェンヌを使った商品の開発・販売までを一貫して学習・体験することにより、食づくりにおける実学を修得するとともに、地域農産物のブランディングについて学ぶ。	
		企画実践型インターンシップ	企画実践型インターンシップは、食づくり実践型農と食のスペシャリスト養成プログラムを選択した大学院生を対象とする。市場および消費者の状況を深く理解した上で、問題意識を育むインターンシップをおこなう。すなわち、インターンシップ先に対しての提案と討論による双方向型プロセスを通じ、安全・安心な食づくりの観点での課題解決型インターンシップを行う。インターンシップ先に対しての提案と討論による双方向型プロセスを通じ、安全・安心な食づくりの観点から種々の問題解決を図ることのできる職業倫理を備えた人材育成を図る。この実施により、1) インターンシップ先についての事前調査をおこないインターンシップ計画を立案する。2) インターンシップ期間の活動を通じ地域や国内外の農と食に関する課題や問題点を考える。3) インターンシップでの体験と自ら着目した課題や問題点に対する解決に向けた取り組み能力の涵養を図る。	
		食づくり国際インターンシップ	食づくり国際インターンシップは食づくり実践型農と食のスペシャリスト養成プログラムを選択した大学院生を対象とした科目である。海外の協定大学や日本企業の海外工場等でのインターンシップをおこない、国外の農と食の現状と問題点を認識させるとともに、課題研究を行い、協定校の教員・学生に対し自身の研究について英語で発表する。これにより、英語でのプレゼンや討論できるコミュニケーション能力の向上を図るほか、国外での食産業の実態を自らの目で見て国際的視点から農と食の問題を考えられる人材育成をねらう。また1) インターンシップ先についての事前調査をおこない、インターンシップ計画を立案。2) プレゼンをおこなうための事前準備と、インターンシップ期間の英語でのプレゼンと討論をおこなう。3) 英語でのインターンシップ先とのコミュニケーションを図る。4) インターンシップでの体験や実験を通じ、国際的視点から農と食の問題を考えさせる。	講義22時間 演習8時間
		英語論文作成・発表演習	日本の科学研究者にとって、国際的な学術交流に参加するためには、効果的で正確な英語を使って、論文あるいは口頭の研究発表ができることが必要となる。本講義では、そのための知識と実践的なスキルを身につける方法、「特定の目的のための英語」の技術を対面の演習形式で学ぶ。授業の各回は、1) 各回のテーマに関する英語での講義、2) 課題・宿題、3) 教科書を読む課題の3つの要素で構成される。加えて、自分の研究についての口頭発表とその文章の作成をおこなう。	
		先端農業技術論	主な作物（イネ類、ムギ類、マメ類など）の特性、国内外での用途や需給、栽培課程ならびに生育環境、遺伝的背景や遺伝的構造について説明できるようになり、さらにそれらに関する先端農業技術のDX（デジタルトランスフォーメーション）化について理解できるようになるため、農業を支える農作物の各特性、国内外での用途や需給、栽培課程、遺伝的背景や遺伝的構造での最近のトピックスや課題・問題点を解説し、議論を深めていく。また、それらに関する先端農業技術のDX（デジタルトランスフォーメーション）化について紹介する。 （オムニバス方式／全16回） （327 石丸 努／8回） 最近の水稲などの作物栽培の問題点・その対策について （340 北野 雅治／8回） 農業DX（デジタルトランスフォーメーション）について	オムニバス方式
		地域食品産業論	地域食品産業論は、講義形式で、大学院「農と食のスペシャリスト養成プログラム」の指定科目であり、このプログラム受講者を優先して行う。食品産業等のビジネスを考えるに際して、マーケティングについての知識・理解が求められている。そこで本科目では、マーケティングについての概念や主要ツール、戦略的なマーケティング、消費者行動等について、具体的な事例を用いながら解説する。今日、フードシステムで重要な地位を占めている食品産業・企業を対象として、そのマーケティングや競争戦略についての知識・理解を深めることを狙いとする。さらには、企業によるマーケティング行動の対象となる、消費者の行動についても理解することを、本講義のねらいとする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別履修コース科目群	グローバル農力（短期）		本学および海外にある本学の連携大学のもとで実施される短期派遣および短期受入に相当する科目である。ただし、各種の事情により学生の海外派遣・受入ができない場合は、オンラインによる交流等で代替する可能性がある。他国の経験・知恵を尊重し、それらを先端技術と共に有効に活用して課題を解決できる人材の養成すること、および学生の出身国、ひいては世界の農食発展、防災・復興に貢献し、経済発展に資するグローバル人材の養成を目的とする。	
	グローバル農力国際キャリア実習（中期）		グローバル農力養成プログラムのもとで実施される中期派遣および受入期間中に行われるキャリア教育科目である。次のような人材の養成を目的とする。(1) 他国の経験・知恵を尊重し、それらを先端技術と共に有効に活用して課題を解決できる人材の養成 (2) 自国、ひいては世界の農食発展、防災・復興に貢献し、経済発展に資するグローバル人材の養成。原則として前年度成績GPA2.5以上の学生が登録できる。本科目は英語でのコミュニケーション能力が求められる。	
	グローバル農力国際特別研究（中期）		グローバル農力養成プログラムのもとで実施される中期派遣および受入である。派遣の場合の渡航先や現地指導教員のあつせんは、参加者の希望をベースに原則として指導教員が行う。受入についてはGlobal Age 2025統括センターで差配する。渡航期間中はそれぞれの専門性に即した課題解決を目指すこととし、修士論文作成につなげる。次のような人材の養成を目的とする。(1) 他国の経験・知恵を尊重し、それらを先端技術と共に有効に活用して課題を解決できる人材の養成 (2) 自国や世界の農食発展、防災・復興に貢献し、経済発展に資するグローバル人材の養成	
	グローバル農力国際キャリア実習（長期）		グローバル農力養成プログラムのもとで実施される長期派遣・受入期間中に行われるキャリア教育科目である。次のような人材の養成を目的とする。(1) 他国の経験・知恵を尊重し、それらを先端技術と共に有効に活用して課題を解決できる人材の養成 (2) 自国、ひいては世界の農食発展、防災・復興に貢献し、経済発展に資するグローバル人材の養成。本科目は英語でのコミュニケーション能力が求められる。また、派遣及び受入期間中に、自国以外で行われるキャリア研修に参加する必要がある。	
	グローバル農力国際特別研究（長期）		グローバル農力養成プログラムのもとで実施される長期派遣および受入である。派遣の場合の渡航先や現地指導教員のあつせんは、参加者の希望をベースに原則として指導教員が行う。渡航期間中はそれぞれの専門性に即した課題解決を目指すこととし、修士論文作成につなげる。次のような人材の養成を目的とする。(1) 他国の経験・知恵を尊重し、それらを先端技術と共に有効に活用して課題を解決できる人材の養成 (2) 自国や世界の農食発展、防災・復興に貢献し、経済発展に資するグローバル人材の養成	
	グローバル・ドミトリ		国際的な観点から、科学技術の歴史と発展などを織り交ぜながら、先端的な最新技術やSDGsを踏まえた将来への展望などを工学の様々な分野の専門家を講師として英語で概説する。当該学術における考え方やアプローチの仕方についての基礎知識を身につけ、自身の専門と比較することができること、また、工学に対する広い視野を持ち、技術者としての基礎的素養を身につけ、科学技術に期待される役割について考えることができることを目指す。授業回数は計7.5回、1単位科目として設計する。 （オムニバス方式／全7.5回） （63 馬場 暁・76 松原 幸治・176 中村 亮太・149 城内 紗千子／1～3回）（共同） 機械科学、社会基盤、電気情報工学に関するトピックを扱う。 （253 YU JUN・134 郷右近 展之・170 寺口 昌宏・49 田中 孝明・14 岡崎 篤行／4～6回）（共同） 情報工学、素材生産科学、機能材料科学、建築学に関するトピックを扱う。 （63 馬場 暁・317 村山 敏夫・171 東瀬 朗・15 尾田 雅文／7～8回）（共同） 人間支援科学、社会システム工学に関するトピックを扱う。	オムニバス方式 共同（一部）
	先端的国際工学事情		先端的な科学技術の分野から国際的で多様な話題を取り上げ、受講者の主体的な参加による討論を取り入れた英語によるアクティブ・ラーニング型授業を行う。国際社会における多様な課題や価値観、SDGs達成のための科学技術イノベーションの役割について理解し、国際的視野や学際的視野をもって、自身と国際社会との関係や自身の将来のキャリア目標を考えられるようになることを目指す。授業回数は計8回、1単位科目として設計する。本講義は、実務家教員により、講義形式で行うが、パソコンを用いたオンライン調査やグループワーク、グループプレゼンテーションといったワークショップを第4回から第7回授業で取り入れる。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別履修コース科目群	先端的国际工学特論 I		This course deals with global warming and the effects of climate change such as temperature rise, heavy downpours/ floods, rising sea levels, hurricanes, etc., and promising renewable energy technologies to mitigate the carbon dioxide (CO2) emissions and climate change, as advanced knowledge on science and technology. Specifically, this course covers ways to reduce global warming to below 2°C, challenges in renewable energy technologies to achieve this long-term goal, resource potential, global and regional status of markets, and industrial development of the various renewable energy technologies. The classes are conducted in lecture format, including workshops and discussions in English. この授業では、地球温暖化や気候変動の影響（気温上昇、大雨・洪水、海面上昇、ハリケーンなど）と、それらを緩和するための有望な再生可能エネルギー技術について学び、科学技術における知識を提供する。具体的には、温暖化を2度未満に抑える方法、長期的な目標を達成するための再生可能エネルギー技術の課題、資源の可能性、世界および地域の市場の状況、そしてさまざまな再生可能エネルギー技術の産業開発について扱う。授業は講義形式で行われ、ワークショップやディスカッションも英語で行われる。	
	先端的国际工学特論 II		This course deals with solar thermal energy conversion and storage applications to generate renewable electricity generation and clean fuel production to reduce the reliance of fossil fuels and carbon dioxide (CO2) emissions as advanced knowledge on science and technology. Specifically, this course covers solar energy characteristics, radiation and electromagnetic wave propagation, multi-mode heat transfer, different types of thermal energy storage systems (sensible-latent-thermochemical heat storage), two-step water splitting cycles to produce hydrogen. This course will be conducted in face-to-face lecture format and active learning method, including workshops and discussions in English. この授業では、化石燃料への依存と二酸化炭素（CO2）排出の削減を目的とした、再生可能な電力生成及びクリーン燃料の生産のための太陽熱エネルギーの変換及び蓄積技術について学び、科学技術における知識を提供する。具体的には、太陽エネルギーの特性、放射線および電磁波の伝播、複数の熱伝達モード、さまざまなタイプの熱エネルギー貯蔵システム（顕熱・潜熱・化学蓄熱）、水の二段階分解サイクルによる水素の生成方法について取り扱う。授業は対面形式の講義とアクティブ・ラーニングの方法で行われ、ワークショップやディスカッションも英語で行われる。	
	先端的国际技術協力		途上国における地球規模課題、特に持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けた課題に着目し、課題解決の実践に関する講義を通じて、科学技術に関する先進的な知識をグローバルに活用する能力を養う。国際協力機構（JICA）の協力を得て、全編英語による授業を提供する。グローバル課題とその課題への技術適応に関する実務についてリアリティをもって学習することで、国際的な視野を育み、将来のグローバルキャリアへの気づきを得ることを目指す。授業回数は計8回、1単位科目として設計する。本講義は、実務家教員により、講義形式で行うが、各授業回において全体討論やグループ討論、ペアワークなどの時間も取り入れたアクティブ・ラーニング型授業とする。	
	実践的PBLファシリテーション工学演習		課題解決型（PBL）学習活動を円滑・効果的に進めるためのファシリテーションに実践的に取り組む演習を行う。主に工学力教育センターの国際教育部門が研究プロジェクト部門や開発プロジェクト部門等と共に理工系学生に対して提供するPBL学習活動（例えば、スマートドミトリー、ものづくり教育、留学交流G-DORM事業等での学生の英語による活動）においてファシリテーションに取り組む演習形式とする。学習活動およびその活動参加者の活性化と協働化を促進させるプロセスを経験することで、理工系分野において国際的なリーダーとして持つべきファシリテーション能力の修得を目指す。授業回数は計15回相当とし、2単位科目として設計する。複数のPBL学習活動テーマを組み合わせて15回として実施する場合もある。本講義は、実務家教員により、主に英語を用いて行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別履修コース科目群	グ ロ ー バ ル ・ ド ミ ト リ ー	先端的国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップ S	日本国内の企業等で、企業活動及び科学技術の実態に関する知識をグループワークによる融合的視点で体験して、企業活動及び科学技術と国際社会との接点の理解に、先端的な専門知識を基礎として取組む。国際的視野をもって産業や社会の実課題の解決に科学技術・知識を実践的に適用する力を養うことを目的とし、企業の実態と技術に関する知識体験学習による現場技術研修型のインターンシップとして約10日間実習を行う。内容は、ガイダンス、受入企業や関連業種について事前調査を行う事前学習、課題解決型のインターンシップ及び成果発表、学びや今後のキャリアビジョンの整理を行う事後学習からなり、グループワークで活動することにより、国際協調性、英語討論能力、リーダーシップ等を身に着ける。	
		先端的国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップ A	日本国内の企業等で、企業活動及び科学技術の実態に関する知識をグループワークによる融合的視点で体験して、企業活動の国際的役割の課題発見・分析・解決に、先端的な専門知識を基礎として取組む。国際的視野をもって産業や社会の実課題の解決に科学技術・知識を実践的に活用する力を養うことを目的とし、企業の実態と技術に関する知識体験学習による現場技術研修型のインターンシップとして約1か月間実習を行う。内容は、ガイダンス、受入企業や関連業種について事前調査を行う事前学習、課題解決型のインターンシップ及び成果発表、学びや今後のキャリアビジョンの整理を行う事後学習からなり、グループワークで活動することにより、国際協調性、英語討論能力、リーダーシップ等を身に着ける。	
		先端的国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップ B	日本国内の企業等で、企業活動及び科学技術の実態に関する知識をグループワークによる融合的視点で体験して、企業活動の国際展開のための課題発見・分析・解決に、先端的な専門知識を応用して取組む。国際的視野をもって産業や社会の実課題の解決に科学技術・知識を実践的に応用する力を養うことを目的とし、企業の実態と技術に関する知識体験学習による現場技術研修型のインターンシップとして約2ヶ月間実習を行う。内容は、ガイダンス、受入企業や関連業種について事前調査を行う事前学習、課題解決型のインターンシップ及び成果発表、学びや今後のキャリアビジョンの整理を行う事後学習からなり、グループワークで活動することにより、国際協調性、英語討論能力、リーダーシップ等を身に着ける。	
		先端的国際マーケット・グループワーク・インターンシップ S	日本国内の企業等で、企業活動及び科学技術が目指す市場や社会の特性・動向をグループワークによる融合的視点で調査して、企業活動及び科学技術と国際社会との接点の理解に、先端的な専門知識を基礎として取組む。国際的視野をもって産業や社会の実課題の解決に科学技術・知識を実践的に適用する力を養うことを目的とし、企業が目指す市場・社会の特性と動向の調査学習による現地市場調査型のインターンシップとして約10日間実習を行う。内容は、ガイダンス、受入企業や関連業種について事前調査を行う事前学習、課題解決型のインターンシップ及び成果発表、学びや今後のキャリアビジョンの整理を行う事後学習からなり、グループワークで活動することにより、国際協調性、英語討論能力、リーダーシップ等を身に着ける。	
		先端的国際マーケット・グループワーク・インターンシップ A	日本国内の企業等で、企業活動及び科学技術が目指す市場や社会の特性・動向をグループワークによる融合的視点で調査して、企業活動の国際的役割の課題発見・分析・解決に、先端的な専門知識を活用して取組む。国際的視野をもって産業や社会の実課題の解決に科学技術・知識を実践的に活用する力を養うことを目的とし、企業が目指す市場・社会の特性と動向の調査学習による現地市場調査型のインターンシップとして約1か月間実習を行う。内容は、ガイダンス、受入企業や関連業種について事前調査を行う事前学習、課題解決型のインターンシップ及び成果発表、学びや今後のキャリアビジョンの整理を行う事後学習からなり、グループワークで活動することにより、国際協調性、英語討論能力、リーダーシップ等を身に着ける。	
		先端的国際マーケット・グループワーク・インターンシップ B	日本国内の企業等で、企業活動及び科学技術が目指す市場や社会の特性・動向をグループワークによる融合的視点で調査して、企業活動の国際展開のための課題発見・分析・解決に、先端的な専門知識を応用して取組む。国際的視野をもって産業や社会の実課題の解決に科学技術・知識を実践的に応用する力を養うことを目的とし、企業が目指す市場・社会の特性と動向の調査学習による現地市場調査型のインターンシップとして約2ヶ月間実習を行う。内容は、ガイダンス、受入企業や関連業種について事前調査を行う事前学習、課題解決型のインターンシップ及び成果発表、学びや今後のキャリアビジョンの整理を行う事後学習からなり、グループワークで活動することにより、国際協調性、英語討論能力、リーダーシップ等を身に着ける。	
		先端的国際リサーチ・インターンシップ	本科目では、日本国内の研究機関及び企業等で、研究・開発活動を実践的に体験学習すると共に、その背景となる国による文化の違いについても体験学習することによって、科学技術の実践的な知識を国際的な視点で修得して、先端的な科学技術と国際社会との接点の理解に取組み、実践的な社会連携力を有する高度国際理工系人材を育成する。文化の違いを理解しながら他者と連携して、国際的視野をもって研究・開発や社会の実課題の解決に科学技術・知識を実践的に応用する力を身に着ける。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別履修コース科目群	理工系グローバルミトリー特別研究A		本科目では、約2ヶ月の研究活動を原則英語で行う。自身の研究内容に関わる諸問題について特定の課題を設け、その課題の解決について科学的手法を用いて自ら研究し、得られた研究の結果について考察する。設定した課題に対する研究活動を通し、基礎理論・技術を理解して適用する能力、課題発見・解決能力、英語でのプレゼンテーション能力、定められた期間で報告する能力など、理工系分野において研究能力をグローバル環境で適用する力を身に付けることを目指す。	
	理工系グローバルミトリー特別研究B		本科目では、半年程度の研究活動を原則英語で行う。自身の研究内容に関わる諸問題について特定の課題を設け、その課題の解決について科学的手法を用いて自ら研究し、得られた研究の結果について考察する。設定した課題に対する研究活動を通し、基礎理論・技術を理解して活用する能力、課題発見・解決能力、英語でのプレゼンテーション能力、定められた期間で報告する能力など、理工系分野において研究能力をグローバル環境で活用する力を身に付けることを目指す。	
	理工系グローバルミトリー特別研究C		本科目では、1年程度の研究活動を原則英語で行う。自身の研究内容に関わる諸問題について特定の課題を設け、その課題の解決について科学的手法を用いて自ら研究し、得られた研究の結果について考察する。設定した課題に対する研究活動を通し、基礎理論・技術を理解して応用する能力、課題発見・解決能力、英語でのプレゼンテーション能力、定められた期間で報告する能力など、理工系分野において研究能力をグローバル環境で応用する力を身に付けることを目指す。	
	理工系グローバルミトリー・セミナーA		本科目では、特別研究で設定した課題について、半年程度、国内外における関連分野の研究調査を実施して内容の理解と要約の説明及びディスカッションを行う。特別研究に関する基礎的な専門知識の習得とともに、関連分野の知見や視点を加えた総合的・学際的な分析能力を修得する。課題設定能力、課題解決能力、科学的表現能力といった、研究遂行に要する能力をグローバル環境で適用できることを目指す。なお、本科目は、原則英語で行う。	
	理工系グローバルミトリー・セミナーB		本科目では、特別研究で設定した課題について、1年程度、国内外における関連分野の研究調査を実施して内容の理解と要約の説明及びディスカッションを行う。特別研究に関する応用的な専門知識の習得とともに、関連分野の高度な知見や視点を加えた総合的・学際的な分析能力を修得する。課題設定能力、課題解決能力、科学的表現能力といった、研究遂行に要する能力をグローバル環境で活用できることを目指す。なお、本科目は、原則英語で行う。	
	理工系グローバルミトリー発表演習・発表		本科目では、理工系分野における研究課題に取り組み、英語を用いてプレゼンテーション形式での報告および質疑応答を行う。理工系分野の研究課題について、研究背景を把握し、研究の進捗状況を自己評価するとともに、今後の研究計画に役立てる。英語による研究発表・質疑応答を通じて、グローバル環境下における研究遂行能力、国際的な研究倫理、グローバルに対応できるプレゼンテーション能力、国際コミュニケーション能力の習得を目指す。	
グローバルフィールド科学人材育成	地球環境科学特論		地球環境は、水や空気といった地球表層の現象と、地下で起こる地球内部の動態が組み合わさり、長い時間をかけて変動してきた。この科目では、地球環境がどのように成立しているのかを中心に、社会との関わりも含め、オムニバス形式で初心者にもわかるよう平易に紹介する。英語によるオンライン授業である。大学の世界展開力強化事業「インド太平洋地域の「仮想フィールド」を活用したハイブリッド型フィールド科学人材育成プログラム」に参加しているインド・スリランカ・オーストラリアの協定校および新潟大学の教員が分担して講義する。	
	地球環境フィールド科学演習		英語によるグループワーク主体のオンラインおよび対面による実習・演習科目で、通算10～14日間程度の集中講義として実施する。大学の世界展開力強化事業「インド太平洋地域の「仮想フィールド」を活用したハイブリッド型フィールド科学人材育成プログラム」に参加しているインド・スリランカ・オーストラリアの協定校および新潟大学の学生が参加する。対面授業に先立って、オンラインで海外・新潟大双方の参加学生によるグループワーク主体の授業を行い、対面授業でとりくむ主要な課題の準備段階の知識を学習する（数コマ程度）。対面授業では、1～2日間のフィールドワーク（野外地質観察）を中心に、課題解決をめざし、一連の計画・観察・考察・表現に取り組む。	
	海外フィールド体験実習		大学の世界展開力強化事業「インド太平洋地域の「仮想フィールド」を活用したハイブリッド型フィールド科学人材育成プログラム」に参加しているインド・スリランカ・オーストラリアの協定校における、フィールド実習の科目である。各国の急速な資源開発やそれに伴う環境汚染に対して、先端的なフィールド調査技術を体験する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（総合学術研究科 自然科学専攻）				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
特別履修 コース科目群	グローバルフィールド科学人材育成	フィールド産業インターンシップ	環境問題に関連する企業訪問を行い、社会的要請へのフィールド科学の対応に関する理解を深めるとともに、技術者が社会に負う責任について触れる。英語による対面授業である。大学の世界展開力強化事業「インド太平洋地域の「仮想フィールド」を活用したハイブリッド型フィールド科学人材育成プログラム」に参加しているインド・スリランカ・オーストラリアの協定校の学生および新潟大学生が受講する。	
		海外フィールド科学実習A	大学の世界展開力強化事業「インド太平洋地域の「仮想フィールド」を活用したハイブリッド型フィールド科学人材育成プログラム」に参加しているインド・スリランカ・オーストラリアの協定校における、研究を指向した実践的調査・化学分析・解析学習の科目である。各学生の研究課題を独自に取り上げ、野外での観察・室内分析・データ解析などを通じて研究課題解決能力を身につける。同事業の「中期プログラム」の参加学生が履修する科目である。インド・スリランカ・オーストラリアの協定校において実践的調査・分析・解析学習を行い、成果をまとめる。	
		海外フィールド科学実習B	大学の世界展開力強化事業「インド太平洋地域の「仮想フィールド」を活用したハイブリッド型フィールド科学人材育成プログラム」に参加しているインド・スリランカ・オーストラリアの協定校における、研究を指向した実践的調査・化学分析・解析学習の科目である。この授業では各学生の研究課題を独自に取り上げ、野外での観察・室内分析・データ解析などを通じて研究課題解決能力を身につける。同事業の「長期プログラム」の参加学生が履修する科目である。インド・スリランカ・オーストラリアの協定校において実践的調査・分析・解析学習を行い、成果をまとめ、国内外の専門学会で発表ができるように指導する。	